山形県埋蔵文化財センター調査報告書第93集

三　条　遺　跡

第2・3次発掘調査報告書

本文・挿図　編

2001

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

三条遺跡

第2・3次発掘調査報告書

本文・挿図　編

平成13年10月

財団法人　山形県埋蔵文化財センター

序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、三条遺跡の調査成果をまとめたものです。

三条遺跡は、山形県のほぼ中央部に位置する寒河江市にあります。当地は、山形県の母なる川最上川と、庄内と内陸地方を結ぶ最短ルート六十里越街道が交差するところです。以前から、人々の動きの盛んな地域であったことが伺われます。

この度東北横断自動車道酒田線（寒河江～西川)の建設工事に伴ない、工事に先だって三条遺跡の発掘調査を実施しました。

調査では、縄文・弥生・奈良・平安時代、鎌倉～江戸時代の人々の生活の跡を確認することができました。奈良・平安時代には、河川に囲まれて集落が営まれ、水田で稲作が行なわれていたことがわかりました。水田には足跡が残され、河川からは、土器に墨で文字が書かれた墨書土器が多量に出土しました。当地域の歴史を解明することのできる、多くの情報を得ることができました。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先の足跡を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちの重要な責務と考えます。その意味で、本書が文化財保護活動の啓発・普及、学術研究、教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査においてご協力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

平成13年10月

財団法人　山形県埋蔵文化財センター
理事長　　木　村　　宰

例　言

1　本書は、東北横断自動車道酒田線(寒河江～西川間)建設工事に係る「三条遺跡」の発掘調査報告書である。

2　調査は日本道路公団仙台建設局(現東北支社)の委託により、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。

3　調査要項は下記の通りである。

遺　跡　名	三条遺跡　　遺跡番号　山形県遺跡番号423	
所　在　地	山形県寒河江市大字寒河江字三条	
調査主体	財団法人山形県埋蔵文化財センター	
受託期間	平成７年４月１日～平成14年３月31日	
現地調査	平成７年５月８日～平成７年11月30日(第２次調査)	
調査担当者	調査第二課長	佐藤　庄一
	調査研究員	阿部　明彦
	調査研究員	水戸　弘美
	嘱託職員	川田　嘉信
現地調査	平成８年４月24日～平成８年11月29日	
	平成９年1月16日～平成９年２月５日(第３次調査)	
調査担当者	調査第一課長	佐藤　庄一
	主任調査研究員	阿部　明彦
	調査研究員	水戸　弘美
	調査研究員	佐竹　桂一
	調査研究員	植松　暁彦
	嘱託職員	川田　嘉信
	嘱託職員	長瀬えみ子
整理担当者	調査第一課長	佐藤　庄一　(平成7～10年度)
	主任調査研究員	佐藤　正俊　(平成9～12年度　現調査第三課長)
	主任調査研究員	阿部　明彦　(平成7・8年度)
	主任調査研究員	齊藤　主税　(平成11・12年度)
	調査研究員	髙桑　弘美　(平成7～12年度)
	調査研究員	佐竹　桂一　(平成8年度)
	調査研究員	植松　暁彦　(平成8年度)
	嘱託職員	川田　嘉信　(平成7・8年度)
	嘱託職員	長瀬えみ子　(平成8・9年度)

4　発掘調査及び本書を作成するにあたり、日本道路公団東北支社山形工事事務所、山形県寒河江建設事務所、西村山教育事務所、寒河江市、寒河江市教育委員会、東北芸術工科大学保存科学研究室等関係機関からご協力いただいた。また、次の各氏からご指導を賜った。ここに記して感謝申し上げる。

阿子島功氏・飯村均氏・猪狩忠雄氏・井口喜春氏・井上喜久男氏・大橋康二氏・大庭康時氏・小野正敏氏・川崎利夫氏・河内浩一氏・汐見一夫氏・関根達人氏・高橋博志氏・武田昭子氏・田中則和氏・鶴巻康志氏・平川南氏・藤澤良祐氏・北條亮文氏・北條亮一氏・松井敏也氏・松浦正昭氏・三上喜孝氏・水澤幸一氏・村木志伸氏・八重樫忠郎氏・吉田生哉氏

5　本書の作成は、髙桑弘美・佐竹桂一・植松暁彦・川田嘉信・長瀬えみ子が当たり、本文執筆は髙桑弘美が担当した。編集は、須賀井新人・松田道雄が担当し、全体については佐藤正俊が監修した。

6　委託業務は下記の通りである。

遺構の写真測量・実測については、株式会社シン技術コンサルに委託した。

資料の理化学分析については、株式会社パリノ・サーヴェイ、株式会社パレオ・ラボに委託した。

7　出土遺物、調査記録類については、財団法人山形県埋蔵文化財センターが一括保管している。

凡　例

1　本書で使用した遺構･遺物の分類記号は次の通りである。

ＳＴ	竪穴建物	ＳＢ	掘立柱建物	ＳＥ	井戸	ＳＫ	土坑
ＳＰ	柱穴	ＳＤ	溝	ＳＧ	河川	ＳＸ	性格不明遺構
ＥＫ	遺構内土坑	ＥＰ	遺構内柱穴	ＥＤ	遺構内溝	ＥＬ	カマド
Ｐ	土器	Ｓ	礫	Ｗ	木		
ＲＰ	登録土器・土製品	ＲＱ	登録石器・石製品	ＲＸ	登録その他		
ＲＷ	登録木製品	ＲＭ	登録金属製品				

2　遺構番号は、現地調査段階での番号をそのまま報告書の番号として踏襲した。

3　報告書執筆基準は下記の通りである。

(1)遺跡概要図・遺構配置図・遺構実測図中の方位は座標北を示している。

(2)グリッドの南北軸は、国土座標平面直角座標系第Ｘ系: ｘ軸を示している。

(3)遺構実測図は、1/50・1/100他の縮図で採録し、各々スケールを付した。なお、土層断面図中の●・▲・■は遺物の出土地点を表す。

(4)遺構挿図中のアミは、特に指示しないものについては下記のとおりである。

遺構実測図		焼土		掘り方覆土		柱穴のアタリ覆土	
遺物実測図		墨		タール		黒色汚れ	
		煤		その他付着物		漆	
		磨滅		火たすき			
		須恵器		黒色処理（黒色土器）			

(5)遺物実測図・拓影図は、同じスケールで採録し、スケール及び縮尺値を示した。拓本は原則的に断面図の右側に内面、左側に外面を配置したが、擂鉢は例外である。

(6)本分中の遺物番号は、遺物実測図・遺物観察表・図版とも共通のものとした。図版等の○－△は、挿図第○図△番を指す。図版中、遺物番号の無いものは、出土地点を示す。

(7)遺物実測図中、遺物番号の下位に遺構からの出土位置を明示した。Ｆは遺構覆土内出土、Ｙは遺構底面出土を示す。遺物観察表中の出土位置についても同様である。別遺構と接合した場合は、接合した遺構・地点名を（　）で示している。

(8)墨書・刻書土器の実測は、墨書・刻書を土器の一情報として扱い行っている。よって、実測図中の墨書・刻書はその天地を示していない。墨書・刻書の解読は、遺物実測図中の遺物番号・出土位置下位および表８に「　」で示す。「　」は文字の完結を示すものではない。また墨書の天地は挿図第414～426図に示す。

(9)遺物観察表寸法の(　　)内数値は、図上復元による推定値、または残存値を示している。なお、必要に応じて表ごとに、別途凡例を示している。

(10)遺物図版は、原則的に実測図に合わせた縮尺であるが、大型・金属・木製品に例外がある。

(11)土層断面図・遺物観察表の色調の記載は、1987年農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」に拠った

目　次

Ⅰ　調査の経緯
　1　調査に至る経過……1
　2　調査の概要……1
Ⅱ　遺跡の環境
　1　地理的環境……3
　2　歴史的環境……3
Ⅲ　検出された遺構
　1　遺構の分布……9
　2　遺構……10
Ⅳ　出土した遺物
　1　縄文・弥生・古墳時代……182
　2　奈良・平安時代……183
　3　中世……402
　4　近世……445
Ⅴ　まとめ
　1　各時代の様相……446
　2　遺跡の変遷……450
報告書抄録……452

挿　図

第1図　遺跡位置図 …… 5
第2図　第1次調査概要図 …… 6
第3図　第2・3次調査概要図 …… 6
第4図　微地形区分図 …… 7
第5図　三条遺跡周辺の地籍図 …… 8
第6図　B～G・K調査区
下面遺構配置図 …… 17
第7図　遺構実測図SX156・163 …… 19
第8図　遺構実測図SX150・152・154
・159・160・162・1114 …… 20
第9図　B～G・K調査区
上面遺構全体図 …… 21
第10図　遺構実測図ST1 …… 23
第11図　遺構実測図ST1・2 …… 24
第12図　遺構実測図ST2 …… 25
第13図　遺構実測図ST3 …… 26
第14図　遺構実測図ST4・42、SD181、
SP194 …… 27
第15図　遺構実測図ST5・43 …… 28
第16図　遺構実測図ST27・264 …… 29
第17図　遺構実測図ST27 …… 30
第18図　遺構実測図ST31・38 …… 31
第19図　遺構実測図ST76・SK90 …… 32
第20図　遺構実測図ST78 …… 33
第21図　遺構実測図ST101・110、
SK115・1227 …… 34
第22図　遺構実測図ST77 …… 35
第23図　遺構実測図ST77 …… 36
第24図　遺構実測図ST364 …… 37
第25図　遺構実測図ST365 …… 38
第26図　遺構実測図ST365 …… 39
第27図　遺構実測図
ST366・367・369・463 …… 40
第28図　遺構実測図ST368 …… 41
第29図　遺構実測図ST560 …… 42
第30図　遺構実測図ST560 …… 43
第31図　遺構実測図ST582 …… 44
第32図　遺構実測図ST582 …… 45
第33図　遺構実測図
ST565・585・671、SD566 …… 46
第34図　遺構実測図ST568・626 …… 47
第35図　遺構実測図ST627 …… 48
第36図　遺構実測図
ST644・SK583 …… 49
第37図　遺構実測図ST645 …… 50
第38図　遺構実測図
ST750・SD628 …… 51
第39図　遺構実測図ST825・856 …… 52
第40図　遺構実測図
SB1124・1144、SA1143 …… 53
第41図　遺構実測図
SB1125・1141・1142 …… 54
第42図　遺構実測図SB1126 …… 55
第43図　遺構実測図
SB1127・1128・1129 …… 56
第44図　遺構実測図
SB1127・1128・1129・1150 …… 57
第45図　遺構実測図SB1145
・1146、SK382 …… 58
第46図　遺構実測図SB1148 …… 59
第47図　遺構実測図
SB1151・1160 …… 60
第48図　遺構実測図
SB1152・1154 …… 61
第49図　遺構実測図
SB1163・1164 …… 62
第50図　遺構実測図SB1155・1156
・1163・1164 …… 63

第51図　遺構実測図SB1162 …… 64
第52図　遺構実測図ST584・SB1165
・SK593 …… 66
第53図　遺構実測図SD616・SE72 …… 68
第54図　遺構実測図SD566 …… 69
第55図　遺構実測図SD37・69・87、
SK28～30他 …… 70
第56図　遺構実測図SD83、SK40
・41・107・619・721 …… 71
第57図　遺構実測図SD441～443
・448～450・652～654 …… 72
第58図　遺構実測図SD427・429・455、
SK370・454 …… 73
第59図　遺構実測図SE23 …… 74
第60図　遺構実測図SE715 …… 75
第61図　遺構実測図近世水田 …… 76
第62図　遺構実測図
奈良・平安時代水田 …… 77
第63図　遺構実測図SG134・323 …… 79
第64図　遺構実測図SG134・323 …… 80
第65図　SG134・323遺物分布図 …… 81
第66図　グリッド遺物分布図・
遺構実測図SG134 …… 82
第67図　遺構実測図SG134 …… 83
第68図　遺構実測図SG134 …… 84
第69図　遺構実測図SG134 …… 85
第70図　遺構実測図SG134 …… 86
第71図　遺構実測図SG323 …… 87
第72図　遺構実測図SG323 …… 88
第73図　遺構実測図SG323 …… 89
第74図　遺構実測図SG323 …… 90
第75図　遺構実測図SG323 …… 91
第76図　遺物分布図SG134・323
墨書土器「奉」「夲」・「仆」…… 92
第77図　遺物分布図SG134・323
墨書土器「山田」・「田」 …… 93
第78図　遺物分布図SG134・323
墨書土器「子」 …… 94
第79図　遺物分布図SG134・323
墨書土器「荒」 …… 95
第80図　遺物分布図SG134・323
墨書土器「井」 …… 96
第81図　遺物分布図SG134・323
刻書土器 …… 97
第82図　遺物分布図
SG134転用硯 …… 98
第83図　遺物分布図
SG323転用硯 …… 99
第84図　遺物分布図
SG134灯明具 ……100
第85図　遺物分布図
SG323灯明具 ……101
第86図　遺物分布図
SG134木製品 ……102
第87図　遺物分布図
SG323木製品 ……103
第88図　H調査区遺構全体図 ……109
第89図　遺構実測図
ST1657・2620a～c ……111
第90図　遺構実測図
ST2273・2274、SD2574……112
第91図　遺構実測図　113
ST2273・2274、SD2574 ……114
第92図　遺構実測図ST2575a・b ……115
第93図　遺構実測図ST2575a・b ……
第94図　遺構実測図ST2575a・b ……116
第95図　遺構実測図
ST3785・3980、SK5221 ……117
第96図　遺構実測図
ST3942・4027 ……118
第97図　遺構実測図ST1558・1566、
SD1554・1555・2008 ……119

第98図　遺構実測図
ST8042・SB1249 ……121
第99図　遺構実測図
ST1561・8516、SD1562 ……122
第100図　遺構実測図ST1920・2573、
SK1919・2552 ……123
第101図　遺構実測図ST3562 ……124
第102図　遺構実測図
ST9371・9372 ……125
第103図　遺構実測図
ST9013、SB1214・1215 ……126
第104図　遺構実測図
SB5285・5286 ……127
第105図　遺構実測図
SB5287・5289・5290 ……128
第106図　遺構実測図
SB5288・5291・5292 ……129
第107図　遺構実測図
SB5293・SA5293 ……130
第108図　遺構実測図
SB5294・5296、SA5295 ……131
第109図　遺構実測図SB6229 ……132
第110図　遺構実測図
SB6230・6231 ……133
第111図　遺構実測図SB6232 ……134
第112図　遺構実測図SB6233 ……135
第113図　遺構実測図
SB1194・6234・6235 ……136
第114図　遺構実測図SB9151 ……137
第115図　遺構実測図
SB9139・9150 ……138
第116図　遺構実測図SB9360 ……139
第117図　遺構実測図
SB1180・9361・9362 ……140
第118図　遺構実測図
SB9363・9364 ……141
第119図　遺構実測図
SB9365・9366 ……142
第120図　遺構実測図
SB9367・9368 ……143
第121図　遺構実測図
SB1185・1186、SA1184 ……144
第122図　遺構実測図
SB1185・1186・1189・1191
～1193、SA1184・1187
・1188・1190 ……145
第123図　遺構実測図
SB1189・1191～1193、
SA1187・1188・1190 ……146
第124図　遺構実測図SA5297 ……147
第125図　遺構実測図
SB1181～1183 ……148
第126図　遺構実測図SK1510・1529・1534
・1539・1540・8190他 ……149
第127図　遺構実測図SK1505・8005・8027、
SD1511・8113・1536 ……151
第128図　遺構実測図SK1505・8008・8009
・8014、SD8012 ……152
第129図　遺構実測図
SD8001～8003・8025 ……153
第130図　遺構実測図
SK3548・3596・3635・3945
・6030・6033他 ……154
第131図　遺構実測図
SK8041・SD2127 ……155
第132図　遺構実測図SE2146 ……156
第133図　遺構実測図SD1560 ……157
第134図　遺構実測図
SD4078・8151 ……158
第135図　遺構実測図
SD4078・8151 ……159

第136図　遺構実測図
H調査区(市道部分)……160
第137図　遺構実測図
H調査区(市道部分)……161
第138図　I調査区遺構配置図……163
第139図　I調査区土層断面図……164
第140図　遺構実測図SG3001F1・2層面
(墨書土器・木製品)……165
第141図　遺構実測図SG3001F1・2層面
(転用硯・灯明具)……167
第142図　遺構実測図
SG3001F5・7層面……169
第143図　遺構実測図I調査区SK……171
第144図　遺構実測図J調査区
下面土層断面図……171
第145図　遺構実測図J調査区
下面平面図……173
第146図　J調査区上面遺構配置図……174
第147図　J調査区基本層序……175
第148図　遺構実測図SB3077・5282、
SA5283・5284、
SD3144・3062……176
第149図　遺構実測図SB3077・5282、
SD3144・3062……177
第150図　遺構実測図
SE3076・3110……178
第151図　遺物実測図(1)……187
第152図　遺物実測図(2)……188
第153図　遺物実測図(3)……189
第154図　遺物実測図(4)……190
第155図　遺物実測図(5)……191
第156図　遺物実測図(6)……192
第157図　遺物実測図(7)……193
第158図　遺物実測図(8)……194
第159図　遺物実測図(9)……195
第160図　遺物実測図(10)……196
第161図　遺物実測図(11)……197
第162図　遺物実測図(12)……198
第163図　遺物実測図(13)……199
第164図　遺物実測図(14)……200
第165図　遺物実測図(15)……201
第166図　遺物実測図(16)……202
第167図　遺物実測図(17)……203
第168図　遺物実測図(18)……204
第169図　遺物実測図(19)……205
第170図　遺物実測図(20)……206
第171図　遺物実測図(21)……207
第172図　遺物実測図(22)……208
第173図　遺物実測図(23)……209
第174図　遺物実測図(24)……210
第175図　遺物実測図(25)……211
第176図　遺物実測図(26)……212
第177図　遺物実測図(27)……213
第178図　遺物実測図(28)……214
第179図　遺物実測図(29)……215
第180図　遺物実測図(30)……216
第181図　遺物実測図(31)……217
第151図　遺物実測図(1)……187
第152図　遺物実測図(2)……188
第153図　遺物実測図(3)……189
第154図　遺物実測図(4)……190
第155図　遺物実測図(5)……191
第156図　遺物実測図(6)……192
第157図　遺物実測図(7)……193
第158図　遺物実測図(8)……194
第159図　遺物実測図(9)……195
第160図　遺物実測図(10)……196
第161図　遺物実測図(11)……197
第162図　遺物実測図(12)……198
第163図　遺物実測図(13)……199
第164図　遺物実測図(14)……200
第165図　遺物実測図(15)……201

第166図　遺物実測図(16) ……202
第167図　遺物実測図(17) ……203
第168図　遺物実測図(18) ……204
第169図　遺物実測図(19) ……205
第170図　遺物実測図(20) ……206
第171図　遺物実測図(21) ……207
第172図　遺物実測図(22) ……208
第173図　遺物実測図(23) ……209
第174図　遺物実測図(24) ……210
第175図　遺物実測図(25) ……211
第176図　遺物実測図(26) ……212
第177図　遺物実測図(27) ……213
第178図　遺物実測図(28) ……214
第179図　遺物実測図(29) ……215
第180図　遺物実測図(30) ……216
第181図　遺物実測図(31) ……217
第182図　遺物実測図(32) ……218
第183図　遺物実測図(33) ……219
第184図　遺物実測図(34) ……220
第185図　遺物実測図(35) ……221
第186図　遺物実測図(36) ……222
第187図　遺物実測図(37) ……223
第188図　遺物実測図(38) ……224
第189図　遺物実測図(39) ……225
第190図　遺物実測図(40) ……226
第191図　遺物実測図(41) ……227
第192図　遺物実測図(42) ……228
第193図　遺物実測図(43) ……229
第194図　遺物実測図(44) ……230
第195図　遺物実測図(45) ……231
第196図　遺物実測図(46) ……232
第197図　遺物実測図(47) ……233
第198図　遺物実測図(48) ……234
第199図　遺物実測図(49) ……235
第200図　遺物実測図(50) ……236
第201図　遺物実測図(51) ……237
第202図　遺物実測図(52) ……238
第203図　遺物実測図(53) ……239
第204図　遺物実測図(54) ……240
第205図　遺物実測図(55) ……241
第206図　遺物実測図(56) ……242
第207図　遺物実測図(57) ……243
第208図　遺物実測図(58) ……244
第209図　遺物実測図(59) ……245
第210図　遺物実測図(60) ……246
第211図　遺物実測図(61) ……247
第212図　遺物実測図(62) ……248
第213図　遺物実測図(63) ……249
第214図　遺物実測図(64) ……250
第215図　遺物実測図(65) ……251
第216図　遺物実測図(66) ……252
第217図　遺物実測図(67) ……253
第218図　遺物実測図(68) ……254
第219図　遺物実測図(69) ……255
第220図　遺物実測図(70) ……256
第221図　遺物実測図(71) ……257
第222図　遺物実測図(72) ……258
第223図　遺物実測図(73) ……259
第224図　遺物実測図(74) ……260
第225図　遺物実測図(75) ……261
第226図　遺物実測図(76) ……262
第227図　遺物実測図(77) ……263
第228図　遺物実測図(78) ……264
第229図　遺物実測図(79) ……265
第230図　遺物実測図(80) ……266
第231図　遺物実測図(81) ……267
第232図　遺物実測図(82) ……268
第233図　遺物実測図(83) ……269
第234図　遺物実測図(84) ……270
第235図　遺物実測図(85) ……271
第236図　遺物実測図(86) ……272
第237図　遺物実測図(87) ……273

第238図　遺物実測図(88) ……274
第239図　遺物実測図(89) ……275
第240図　遺物実測図(90) ……276
第241図　遺物実測図(91) ……277
第242図　遺物実測図(92) ……278
第243図　遺物実測図(93) ……279
第244図　遺物実測図(94) ……280
第245図　遺物実測図(95) ……281
第246図　遺物実測図(96) ……282
第247図　遺物実測図(97) ……283
第248図　遺物実測図(98 ……284
第249図　遺物実測図(99) ……285
第250図　遺物実測図(100)……286
第251図　遺物実測図(101)……287
第252図　遺物実測図(102)……288
第253図　遺物実測図(103)……289
第254図　遺物実測図(104)……290
第255図　遺物実測図(105)……291
第256図　遺物実測図(106)……292
第257図　遺物実測図(107)……293
第258図　遺物実測図(108)……294
第259図　遺物実測図(109)……295
第260図　遺物実測図(110)……296
第261図　遺物実測図(111)……297
第262図　遺物実測図(112)……298
第263図　遺物実測図(113)……299
第264図　遺物実測図(114)……300
第265図　遺物実測図(115)……301
第266図　遺物実測図(116)……302
第267図　遺物実測図(117)……303
第268図　遺物実測図(118)……304
第269図　遺物実測図(119)……305
第270図　遺物実測図(120)……306
第271図　遺物実測図(121)……307
第272図　遺物実測図(122)……308
第273図　遺物実測図(123)……309
第274図　遺物実測図(124)……310
第275図　遺物実測図(125)……311
第276図　遺物実測図(126)……312
第277図　遺物実測図(127)……313
第278図　遺物実測図(128)……314
第279図　遺物実測図(129)……315
第280図　遺物実測図(130)……316
第281図　遺物実測図(131)……317
第282図　遺物実測図(132)……318
第283図　遺物実測図(133)……319
第284図　遺物実測図(134)……320
第285図　遺物実測図(135)……321
第286図　遺物実測図(136)……322
第287図　遺物実測図(137)……323
第288図　遺物実測図(138)……324
第289図　遺物実測図(139)……325
第290図　遺物実測図(140)……326
第291図　遺物実測図(141)……327
第292図　遺物実測図(142)……328
第293図　遺物実測図(143)……329
第294図　遺物実測図(144)……330
第295図　遺物実測図(145)……331
第296図　遺物実測図(146)……332
第297図　遺物実測図(147)……333
第298図　遺物実測図(148)……334
第299図　遺物実測図(149)……335
第300図　遺物実測図(150)……336
第301図　遺物実測図(151)……337
第302図　遺物実測図(152)……338
第303図　遺物実測図(153)……339
第304図　遺物実測図(154)……340
第305図　遺物実測図(155)……341
第306図　遺物実測図(156)……342
第307図　遺物実測図(157)……343
第308図　遺物実測図(158)……344
第309図　遺物実測図(159)……345

第310図　遺物実測図(160)……346
第311図　遺物実測図(161)……347
第312図　遺物実測図(162)……348
第313図　遺物実測図(163)……349
第314図　遺物実測図(164)……350
第315図　遺物実測図(165)……351
第316図　遺物実測図(166)……352
第317図　遺物実測図(167)……353
第318図　遺物実測図(168)……354
第319図　遺物実測図(169)……355
第320図　遺物実測図(170)……356
第321図　遺物実測図(171)……357
第322図　遺物実測図(172)……358
第323図　遺物実測図(173)……359
第324図　遺物実測図(174)……360
第325図　遺物実測図(175)……361
第326図　遺物実測図(176)……362
第327図　遺物実測図(177)……363
第328図　遺物実測図(178)……364
第329図　遺物実測図(179)……365
第330図　遺物実測図(180)……366
第331図　遺物実測図(181)……367
第332図　遺物実測図(182)……368
第333図　遺物実測図(183)……369
第334図　遺物実測図(184)……370
第335図　遺物実測図(185)……371
第336図　遺物実測図(186)……372
第337図　遺物実測図(187)……373
第338図　遺物実測図(188)……374
第339図　遺物実測図(189)……375
第340図　遺物実測図(190)……376
第341図　遺物実測図(191)……377
第342図　遺物実測図(192)……378
第343図　遺物実測図(193)……379
第344図　遺物実測図(194)……380
第345図　遺物実測図(195)……381
第346図　遺物実測図(196)……382
第347図　遺物実測図(197)……383
第348図　遺物実測図(198)……384
第349図　遺物実測図(199)……385
第350図　遺物実測図(200)……386
第351図　遺物実測図(201)……387
第352図　遺物実測図(202)……388
第353図　遺物実測図(203)……389
第354図　遺物実測図(204)……390
第355図　遺物実測図(205)……391
第356図　遺構概要図
縄文・弥生・奈良・平安時代……395
第357図　遺構概要図中世・近世……397
第358図　奈良・平安時代
遺構変遷図……399
第359図　奈良・平安時代の区画……400
第360図　地形図……401
第361図　竪穴建物集成図……403
第362図　竪穴建物方位分布図……404
第363図　掘立柱建物方位分布図……405
第364図　須恵器分類図(1)……406
第365図　須恵器分類図(2)
土師器分類図(1)……407
第366図　土師器分類図(2)……408
第367図　土師器分類図(3)……409
第368図　竪穴建物遺物集成図……410
第369図　遺物分布図墨書土器……412
第370図　墨書土器模式図
・転用硯分類図……413
第371図　墨書集成図(1)……414
第372図　墨書集成図(2)……415
第373図　墨書集成図(3)……416
第374図　墨書集成図(4)……417
第375図　墨書集成図(5)……418
第376図　墨書集成図(6)……419
第377図　墨書集成図(7)……420

第378図　墨書集成図(8) ……421
第379図　墨書集成図(9) ……422
第380図　墨書集成図(10) ……423
第381図　墨書集成図(11) ……424
第382図　墨書集成図(12)
刻書集成図(1) ……425
第383図　刻書集成図(2) ……426
第384図　遺物分布図かわらけ
・輸入磁器・瀬戸美濃 ……427
第385図　遺物分布図
須恵器系・瓷器系陶器……428
第386図　遺物分布図
近世陶磁器・砥石・硯……429
第387図　遺物分布図
金属製品・鉄滓・羽口……430
第388図　B・C・E・G・H・K調査区
遺構配置図割付図 ……431
第389図　B・C・E・G・H・K調査区
遺構配置図(1) ……432
第390図　B・C・E・G・H・K調査区
遺構配置図(2) ……433
第391図　B・C・E・G・H・K調査区
遺構配置図(3) ……434
第392図　B・C・E・G・H・K調査区
遺構配置図(4) ……435
第393図　B・C・E・G・H・K調査区
遺構配置図(5) ……436
第394図　B・C・E・G・H・K調査区
遺構配置図(6) ……437
第395図　B・C・E・G・H・K調査区
遺構配置図(7) ……438
第396図　B・C・E・G・H・K調査区
遺構配置図(8) ……439
第397図　B・C・E・G・H・K調査区
遺構配置図(9) ……440
第398図　B・C・E・G・H・K調査区
遺構配置図(10) ……441
第399図　B・C・E・G・H・K調査区
遺構配置図(11) ……442
第400図　B・C・E・G・H・K調査区
遺構配置図(12) ……443
第401図　B・C・E・G・H・K調査区
遺構配置図(13) ……444

Ⅰ 調査の経緯

1 調査に至る経過

三条遺跡は、山形県教育委員会が昭和49年に実施した埋蔵文化財包蔵地調査において、弥生時代中期（桜井式期）の遺跡として、東西20m×南北20mの範囲で登録さた（山形県教育委員会1974）。昭和56年には、東北電力鉄塔建替工事に伴い分布調査が実施され、8ケ所の試掘が行われた。調査の結果、平安時代と中世の土器破片が出土したが、遺構は検出されなかった（山形県教育委員会1981）。

三条遺跡を含む寒河江市の南西部分に、東北横断自動車道酒田線（寒河江～西川間）の建設工事が策定され、それを受けて平成6年度に県教育委員会が分布調査を実施した。その結果、三条遺跡では2枚の文化層が確認され、遺跡範囲は320,000㎡と考えられた（山形県教育委員会1995）。上層は奈良・平安時代の遺構と遺物、下層は古墳時代の遺物が確認された。その結果をもとに、県教育委員会と日本道路公団による調整を経て、財団法人山形県埋蔵文化財センターが日本道路公団から委託を受けて、平成6年度より調査が行われた。平成6年度の第1次調査（予備調査）では、幅約1mの試掘溝65ケ所の調査を行った。調査面積は、1,200㎡である。新たに縄文時代の遺構面の存在が確認され、奈良・平安時代の遺構密度が高いことが判明した（財団法人山形県埋蔵文化財センター1995）。そのデータに基づき、第2・3次調査が計画された。

第2・3次の発掘調査に至るまでの協議等は、以下の通りである。

	【第2次調査】	【第3次調査】
◆日本道路公団東北支社長より県埋蔵文化財センター理事長あてに、東北横断自動車道酒田線建設工事の実施に伴う地区内の埋蔵文化財発掘調査の依頼	平成6年12月22日	平成8年1月11日
◆県埋蔵文化財センター理事長より日本道路公団東北社長あてに、発掘調査を実施すること及び経費見積りの回答	平成7年2月10日	平成8年2月9日
◆日本道路公団東北支社と県埋蔵文化財センターとで「埋蔵物発掘調査業務の委託契約」を締結	平成7年4月1日	平成8年4月1日

2 調査の概要

(1)現地調査

現地での調査は、平成7年度に第2次調査、平成8年度に第3次調査を行った。

調査区は、A～K調査区に細分して設定した（第3図）。A調査区は2次調査時の調査事務所部分であるが、精査を行う際にH調査区に含めて同時に行ったため抹消した。

第２次調査の開始にあたり、国土座標をもとに５×５mを単位とするグリッドを設定した。国土座標平面直角座標系第X系:X＝－181,900.00、Y=－48,600.00を50－50Gとし、東西軸(X軸)は西から東へ、南北軸(Y軸)は南から北に、アラビア数字による番号を割り当てた。

遺構・遺物の登録は、２次調査の遺構・遺物登録番号の後に３次調査で検出された遺構・遺物を登録した。

調査は、重機による表土除去・面整理・遺構プラン検出・遺構精査・記録という工程で進めた。第２次調査は、道路建設工事の工程に合わせ、遺構のプラン検出まで行う地区（10,200㎡)と遺構精査・記録まで行う地区(15,100㎡)に分けて実施した。B・D・F・G調査区の上・下面、C調査区の上面の遺構精査まで終了し、E・H～J調査区については、遺構プラン検出を行った。

第３次調査は、第２次調査で遺構検出まで終了した地区と未調査地区の17,300㎡(H調査区市道部分400㎡を含む)について実施した。調査は、２～３班体制で行った。

調査の成果がまとまった時点で、現地に於いて調査説明会を開催した。第２次調査では、B～F調査区上面の調査がほぼ終了した平成７年８月３日、２次調査の成果がまとまった平成７年11月９日、３次調査では、E・I・J・K調査区上面の調査終了時の平成８年８月１日、奈良・平安時代の調査が終了した平成８年10月17日、H調査区市道部分の調査が終了した平成９年２月４日に説明会を行った。計５回の説明会を開催し、地元の方々をはじめ多くの参加をいただいた。

（２)整理作業

整理作業は、平成７年度現地調査終了～平成12年度の間、遺物の整理と記録類の整理に分けて進めた。

遺物の整理は、洗浄・ネーミング・復元・遺物抽出・実測・トレース・写真撮影・出土点数集計・収納の順に行った。洗浄に際し、サンプリング土壌のフローテーションを実施した（付編64頁参照)。ネーミングは、２次調査「三条　出土位置」、３次調査「三条Ⅲ　出土位置」で行い、出土位置は現場で付したものそのまま採録している。遺物には、整理中に実測番号と報告書掲載番号が追加してネーミングした。遺物の抽出は、遺構ごとに行った。墨書土器は、文字または筆の運びを確認できるものとし、墨の付着があるものについては、転用硯として分類した。木製品・石製品は、加工の確認できるもの、金属製品は遺存状態が良く形状の把握が可能なものとして再登録し、抽出した。抽出した遺物について、実測を行った。容器類は原則として、1/2以上遺在するものは、完形実測を行い、1/2未満のものは、反転実測を行った。実測した遺物については、金属製品・木製品の一部を除いて報告書に掲載している。収納は、報告書掲載遺物は挿図ごとに、その他の遺物は遺構ごとに行った。

記録類の整理は、写真整理・図面登録・遺構の抽出・トレースの順に進めた。図面は、調査区ごとに登録し、各時代の建物を中心に抽出した。現地で確認できた建物については、報告書にすべて掲載したが、再考の余地を残す。報告書掲載は、市道の東側B～G・K調査区とH調査区、I調査区、J調査区の４区画にに分けて、検出面が２面あるB～G・K調査区とJ調査区についてはさらに上層と下層とした。

報告書版組作業と並行して、本文執筆を行った。平成13年度に、本報告書を刊行した。

II 遺跡の環境

1 地理的環境

三条遺跡は、山形県のほぼ中央に位置する寒河江市に所在する。寒河江市は山形盆地の西縁にあり、西方に月山、葉山をはじめ、美しく連なる山々を、南方には奥羽山系の蔵王を遠くに臨むことができる。源を吾妻山地とする最上川は、山形県を縦走しながら北流し、大江町左沢でU字形に大きく流れを変え、さらに寒河江市街地を取り囲むように南から北に蛇行している。朝日山地を源とする寒河江川は、寒河江市北縁で扇状地を形成しながら東流し、寒河江市と天童市の境界部分で最上川と合流している。最上川と寒河江川によってもたらされた、水利良く肥沃な土地に、寒河江市は立地している。

三条遺跡は、寒河江市南西部に位置する高瀬山の、緩やかな東斜面に広がる。高瀬山は、標高122mを測る小丘陵で、旧石器時代〜江戸時代の複合遺跡である。南側は最上川に接し、東側の急斜面は活断層地形と言われている(阿子島1994、第４図)。高瀬山東斜面から左沢線にむかってのびる三条遺跡は、種々の地形を有している。西から高瀬山東側断層崖、地塁状の段丘面、断層崖下の低い段丘面、寒河江方面からの細い旧河道、一段上がって広い微高地(砂礫堆)、東に広がる微高地、最上川旧河道起源の後背湿地となっている（阿子島他1997)。これらの地盤条件に基づいて、各時代の土地利用は行われており、それぞれの地区に重複して遺構が検出されている。調査前の地目は、水田・畑・果樹園・雑木林等多様である。

三条遺跡の標高は、93〜99mを測り、高瀬山断層崖の比高差は10mを超える。

2 歴史的環境

寒河江川流域・最上川中流域にあたるこの地域は、石器の材料となる良質の頁岩の産地として知られている。三条遺跡の北西、約5.5kmに位置する富山遺跡では、石器集中地点が検出され、旧石器時代の石器製作跡であることが推定されている。さらに、後期旧石器時代の遺跡として著明な金谷原遺跡は、三条遺跡の北西、約４kmに位置する。近年、石刃の石器製作跡とみられるブロックの調査が行われている。高瀬山遺跡では、東側段丘崖に近い１区と６区で後期旧石器時代の石器が出土し、高瀬山とその周辺の中位段丘面の形成年代の上限が、基盤岩上の礫層堆積は４〜６万年前、その上面の粘土層堆積は２〜５万年前とされた(齊藤1999)。

高瀬山遺跡では、縄文時代前期に属する環状集落の一部が確認された。高瀬山の西縁に大型建物が放射状に配置されている。また、三条遺跡の北側に隣接する石田遺跡は、縄文時代後期中葉・晩期、弥生時代前期の遺跡である。特に晩期は豊富な遺物が出土しており、拠点集落の可能性が高い。高瀬山遺跡の西側、最上川に近接する低地で晩期の水場遺構が検出されている。周辺に居住域が確認されていないことから、石田遺跡の出先的な施設であったことが想定されている(小林他2000)。三条遺跡は、石田遺跡の南縁辺に当たるとみられる。

三条遺跡西側の高瀬山東端に立つと、山形盆地を一望することができる。古墳時代には、この

地に古墳が造営されている。マウンドが現存するのは、県指定史跡円墳の高瀬山古墳１基のみであるが、発掘調査の結果、方形周溝墓10基・円墳４基以上が確認された。高瀬山西側最上川沿いの微高地では、古墳時代前期の集落の調査が行われた。三条遺跡周辺は、最上川をルートとして、古墳時代の早い時期から古墳文化が伝播してきた地域であることが考えられている（阿部他1995)。

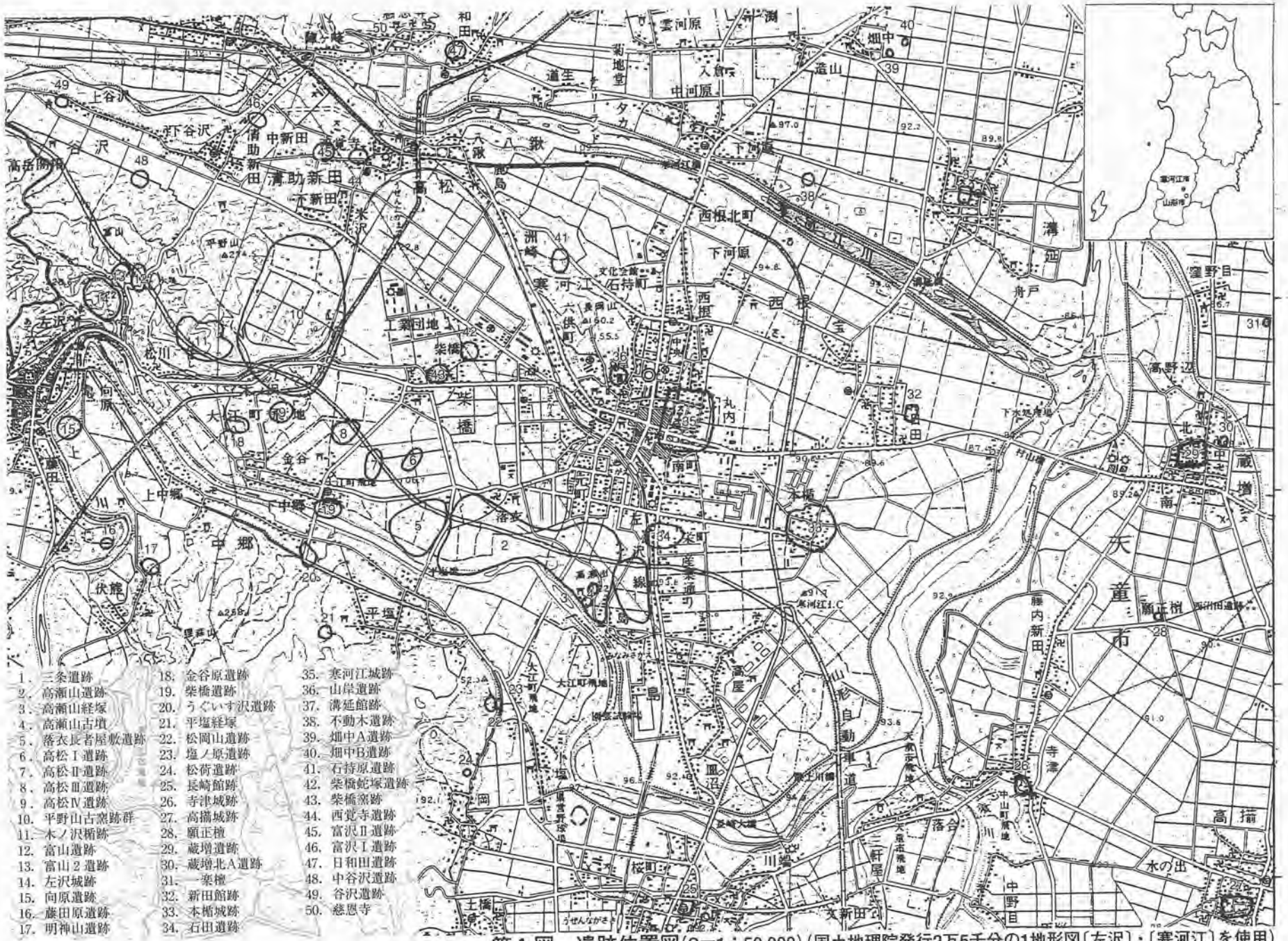
『続日本紀』によれば、和銅元年(708年)に出羽郡が建置され、和銅五年(712)に出羽国が成立している。和銅五年十月一日の条には「陸奥国最上置賜二郡を割きて出羽国に隷せしむ」とある。陸奥国最上郡は、現在の村山地方と最上地方を合わせた地域と考えられ、寒河江市を含む現在の西村山地方が、最上郡域のほぼ中心に位置していたと想定されている(北畠1994・佐藤1997他)。近年の調査で明らかにされた、高瀬山遺跡を中心とする奈良・平安時代の集落および生産遺跡の在り方は、まさにその状況を語る資料に成り得る。

蝦夷の乱とされる元慶の乱後、『日本三大実録』によれば最上郡が北半の村山郡と南半の最上郡に分割される。三条遺跡周辺は村山郡の南辺部分に当たるとみられる。寒河江市北側に「長岡山」の地名が残ることから、寒河江市域は、村山郡長岡郷の中に含まれると考えられている（佐藤1997)。

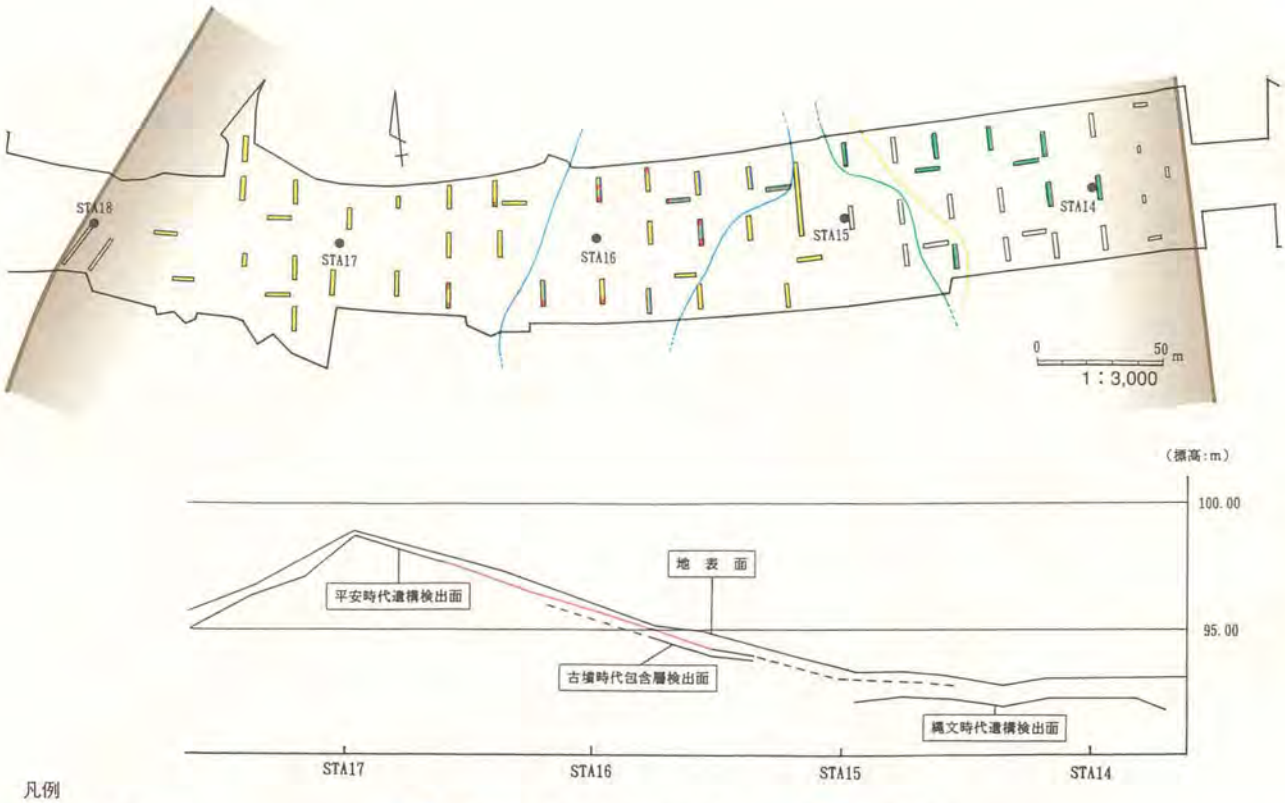
「三条」の地名から、三条遺跡東側に条里制遺構の存在が推定され、島・高屋・本楯に囲まれた水田について、60間四方の方形碁盤目状の条里制推定図が提示されている(大宮1994)。さらに、条里制遺構は荒蕪地・河川・集落・水田・畑地を含んだ形で理解する必要性があるとの考え方に立ち、三条遺跡東側水田から高瀬山遺跡、落衣長者屋敷遺跡までの範囲についても条里地割が施行されたとの想定がなされている（山口1999)。三条遺跡北西約４kmの位置に、奈良・平安時代の一大窯業地帯である平野山窯跡がある。居住域である集落遺跡、水田・窯業などの生産遺跡、さらに最上川の水運等々、古代最上郡を凝縮して復元することが可能な情報が蓄積してきている地域と言える。

三条遺跡周辺は、11世紀に入り寒河江荘と呼ばれる荘園になる。寒河江荘は、藤原頼通の所領とされ、その成立は、寛徳２年(1045)以前とされる(北畠1994)。摂政藤原忠実の日記『殿暦』に、天仁２・３年（1109・1110)の頃、当地が忠実の所領であったことが書かれている。国府や国衙とのつながりを断ち、摂関家に拠り所を求めて当地の安定を図りはじめていたのではないかと考えられている(北村1999)。荘域は、寒河江市・河北町・西川町・大江町・朝日町の４町域を包含するとみられる。五摂家分立後は、近衛家領荘園として存続し、鎌倉円覚寺文書から、室町時代初期まで荘園として機能していたことが理解される。

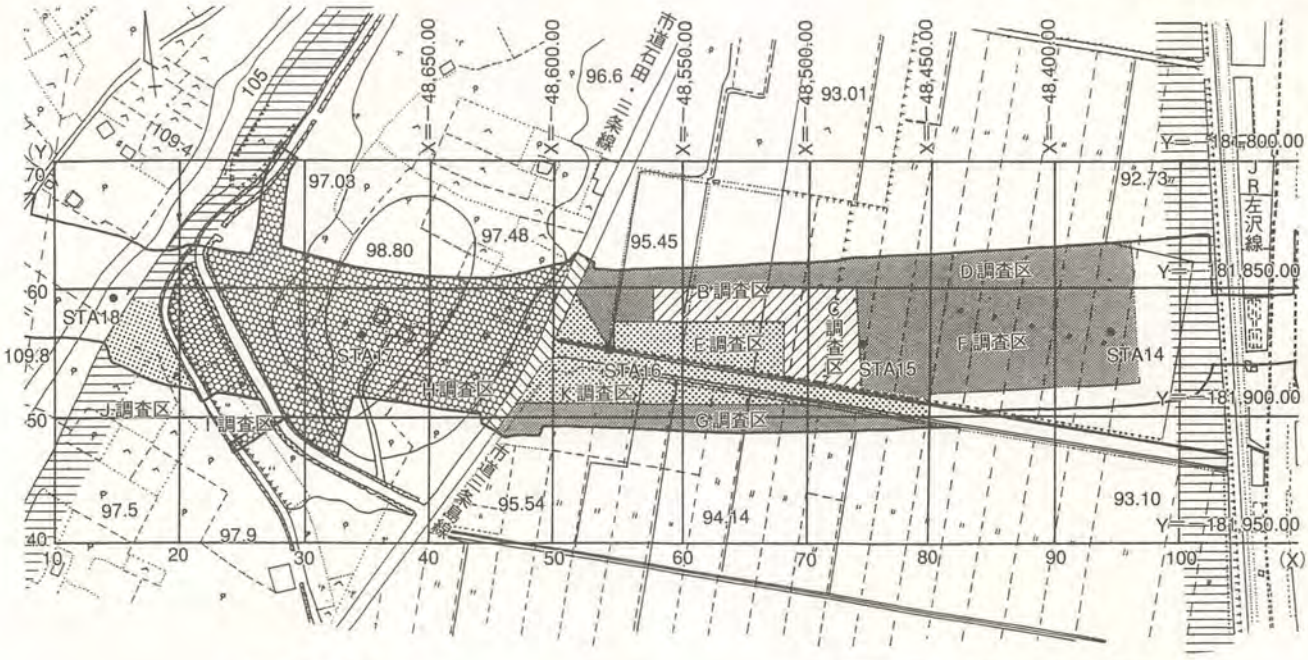
文治五年(1190)の奥州合戦後、大江廣元が寒河江荘の地頭職を拝領した。廣元は鎌倉を離れることなく、広元の目代として多田仁綱が入部した。仁綱は、入部すると本楯に居構えたと言われている(北畠1994)。本楯館跡は２重の堀が巡り、主郭は一辺が200mを測る(宇井他1994)。主郭の堀の一部が調査されており、堀の深さが150cmを越え、土橋のような構造が確認されている(寒河江市教育委員会1994・1998)。しかし、現段階では鎌倉期まで遡ることのできる資料は得られていない。大江廣元の嫡男親廣は、承久の乱の際に京都守護を務め院側に身を置き、寒河江荘に落ち延



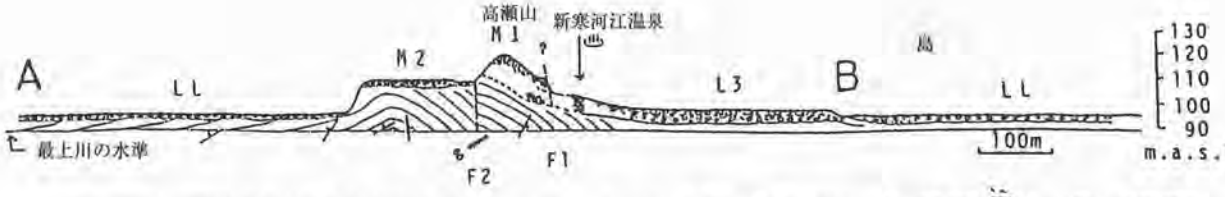
第１図　遺跡位置図(S=1：50,000)（国土地理院発行2万5千分の1地形図〔左沢〕・〔寒河江〕を使用）

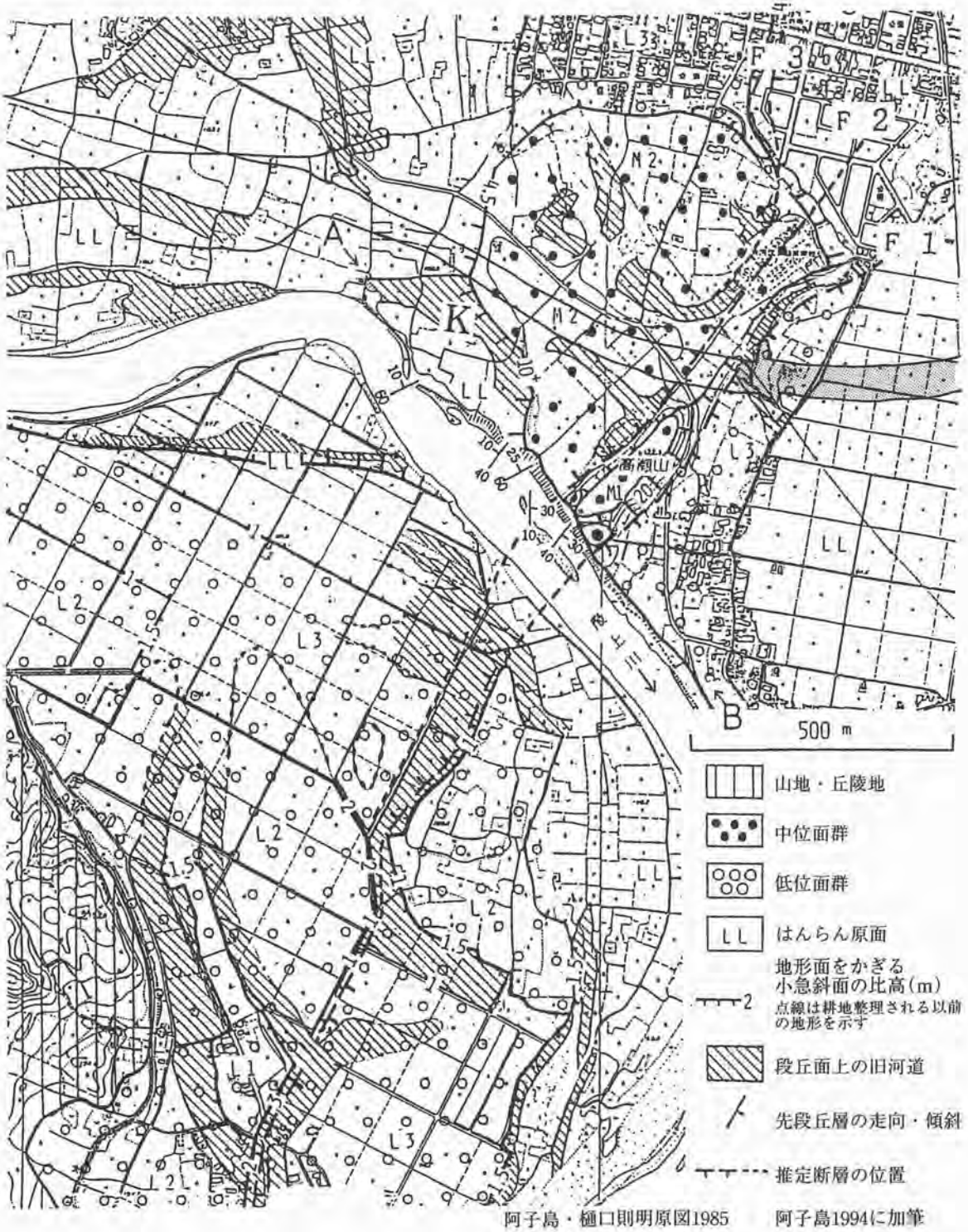


第２図　第１次調査概要図



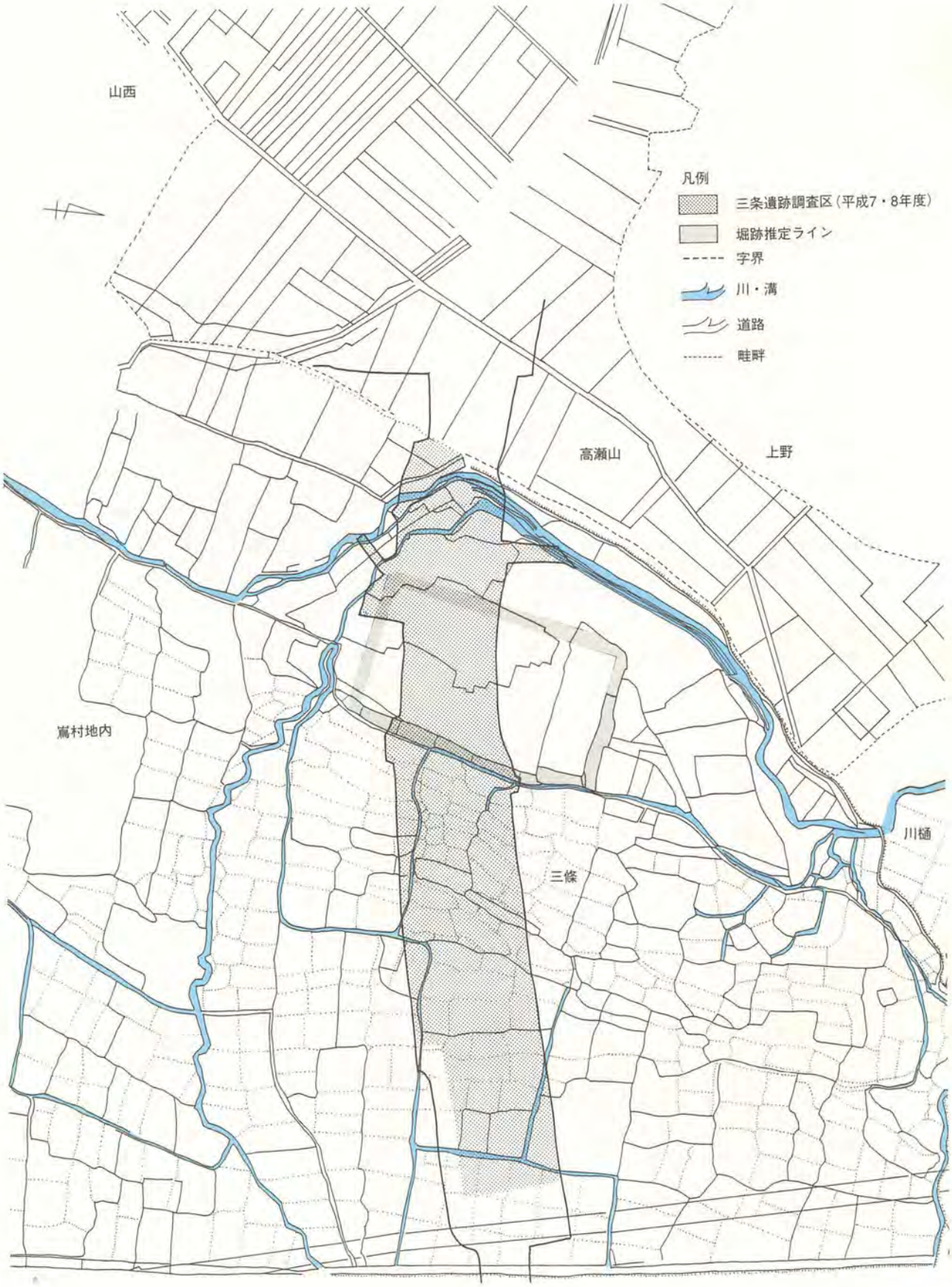
第３図　第２・３次調査概要図(S=1：3,000)





阿子島・樋口則明原図1985　　阿子島1994に加筆

第4図　微地形区分図(S=1：12,000)



第５図　三条遺跡周辺の地籍図　明治21年（1：3,000）

びたとされる。寒河江市の中心に位置する寒河江城は、その親廣が最初に屋形として営んだとされる。その後、8代大江時氏により、三重の堀を巡らした連郭式の平城として整備された（阿部他1988)。源頼朝の側近、大江廣元が地頭を任命されてから、約400年の長期に渡り、大江氏はこの地と統治し続けた。戦国に入り、最上義光の勢力が強まり、大江氏は天正12年(1584)18代大江高基で滅亡した。その後、当地は、最上氏の支配下となる。

江戸時代に入り、最上川水運が活況を呈してくる。高瀬山遺跡西に接する落衣長者屋敷遺跡の最上川沿いは、牛前河岸と呼ばれ、荷の積み下しが行われていたところである。また、六十里街道の渡河地点でもあったといわれ、陸路と水路の交差点であった。出羽三山行者がここで渡り、西方に向ったとされる（誉田他1981)。落衣長者屋敷遺跡の高速道路建設に伴う今回の調査区では遺構・遺物共に希薄であったが、「寒河江千軒・落衣千軒」の伝承が遺跡周辺に残り、栄えた様子が伺える。

古刹慈恩寺は、三条遺跡の北方約5.5kmに位置する。神亀元年（724)行基が開山し、天平18年(746)聖武天皇勅願により、婆羅門僧正が開基したといわれる。天仁元年（1108)鳥羽上皇の勅願によって再興される。鎌倉期に入り、大江廣元が寒河江荘地頭に補されてからは、大江氏の庇護を受ける。密教寺院の色を濃くしながら大江氏保護のもと維持されている。その後近世になり、最上氏が三重塔や弥勒堂の建立等を行い、最上氏改易までの間、慈恩寺の繁栄を支えた。重要文化財に指定されている平安時代後期の仏像や、再建された本堂は、慈恩寺が常に当地域において、信仰の対象に止まらない重要な位置を占めていたことを物語っている。

今回、東北自動車道建設工事に伴い、高瀬山を東から西に跨ぎ、寒河江市南辺を取り巻くように、大きいなトレンチを入れたような発掘調査が行われた。その結果、各時代の空間的な理解を可能とする多くの考古資料が得られている。旧石器時代から近世、さらに現代に至るまでの一地域における通史を構築できる資料が揃いつつある。

Ⅲ 検出された遺構

1 遺構の分布

三条遺跡は、西から高瀬山東側断層崖、地塁状の段丘面、断層崖下の低い段丘面、寒河江方面からの細い旧河道、一段上がって広い微高地(砂礫堆)、東に広がる微高地、最上川旧河道起源の後背湿地となっている。各時代の遺構は、複雑な地形に密接に関わり分布している。

第1次調査の結果、遺構検出面は、砂礫堆の微高地部分標高98.75mから、後背湿地部分91.80mを測る(第2図)。砂礫堆東の微高地とさらに東の後背湿地では、2枚の遺構検出面が確認された。3次調査で、断層崖下の低い段丘面にも下面があることが分かった。下面は、縄文時代時代前期・晩期～弥生時代の遺構・遺物が分布する。上面には、微高地ほぼ全面に奈良・平安時代～近世の遺構が分布する。明治21年の地籍図によれば、砂礫堆の微高地部分は畑地、その周辺は水田として利用されている(第5図)。奈良・平安時代の居住域は明治期の畑地で、水田はほぼ同じ地域

で営まれていたことが分かる。昭和56年に行われた分布調査では、今回の調査区の南側水田部分の調査が行われているが遺構は検出されていない。今回確認されている地形と遺構の関係は、三条遺跡全域に対応すると推定される。

2 遺構

検出された遺構は、竪穴建物・掘立柱建物・井戸・溝・土坑・柱穴・水田・河川・地震痕（噴砂）等である。遺構の個別の記述は観察表に譲り、以下、調査区ごとに概要を述べる。調査区中央の市道を挟んで東側のB～G・K調査区、西側のH調査区、道路・水路を挟んで更に西側のI調査区、高瀬山遺跡に接するJ調査区の４地区にまとめて記述を行う。遺構は、全て地面に残された痕跡であるとの理解から、本報告書では遺構名に跡を付さずに表記する。

(１)B～G・K調査区

調査区全体で遺構検出面は２面ある。下面では縄文時代晩期～弥生時代、上面では奈良・平安時代、中世・近世の遺構が確認された。SG134・323を挟んで調査区東半は後背湿地、調査区西半は微高地である。

基本層序

B～G・K調査区の基本層序は、次の通りである(第６図)。

Ⅰa　10YR3/3暗褐色シルト
Ⅰb　7.5Y4/4暗オリーブ色粘土
Ⅱ　10YR2/2黒褐色粘土
Ⅲ　2.5Y6/4にぶい黄色粘土
Ⅳ　7.5Y6/1灰色粘土
Ⅴ　2.5Y6/4にぶい黄色砂質粘土
Ⅵ　10YR6/1褐灰色粘土
Ⅶ　2.5Y6/1褐灰色粘土
Ⅷ　2.5Y4/1黄灰色粘土
Ⅸ　5BG6/1青灰色細砂

Ⅰ層は耕作土・盛土、Ⅱ～Ⅳ層は安定した堆積土である。Ⅱ層下面が巻き込むように堆積し安定しない。Ⅱ層下位は、砂層が間層に入ると細分可能となり、古代の水田の検出を行うことができた。Ⅱ層は旧水田耕作土と考えられる。Ⅲ層は、Ⅱ層の基盤層である。やや黒色のかかったⅣ層は、分布調査で遺物が出土した古墳時代の包含層に対応する可能性がある。今回の調査では古墳時代の遺構は確認されていない。Ⅴ層はⅣ層の基盤層、Ⅵ層は縄文時代包含層、Ⅶ層はⅥ層の基盤層である。縄文時代の遺構検出は、Ⅶ層上面で行った。

調査区西側の微高地になると基本層序は、次の通りになる(第55図)。

Ⅰ　10YR3/2黒褐色粘土質シルト
Ⅰc　10YR4/２灰黄褐色粘土質シルト
Ⅱ　2.5YR3/1黒褐色粘土
Ⅲ　2.5YR5/3黄褐色粘土
Ⅳ・Ⅵ　10YR3/2黒褐色砂質シルト
Ⅴ　対応する層なし
Ⅶ　2.5YR5/3砂質シルト

Ⅰ層は耕作土・盛土、Ⅱ～Ⅳ層は安定した堆積土である。奈良・平安時代の遺構の検出面は、Ⅲ層上面である。Ⅱ層とⅢ層の分層面が渦巻き状に巻き込んでおり明確な分層ができない。Ⅳ層は東側Ⅳ・Ⅵ層に対応する。後背湿地から微高地に地形が移項する部分で東側ⅣとⅥ層の間層Ⅴ層が消滅する。下面の検出は、Ⅶ層上面で行なった。

縄文時代晩期～弥生時代

調査区のほぼ全域、下面で検出された。性格不明遺構とピットがある。

SX156は、半楕円形を呈する。明瞭な掘り込みは確認できないが、床面と理解可能な平坦面が検出され、縄文土器深鉢(152－8)が正位で出土した。SX163は、楕円形を呈し、緩やかな壁と平坦な床面が検出された。床面から縄文土器深鉢(152－5)が出土した。SX156とSX163は共に、深さ約10cmのピットが検出されているが、柱痕跡は確認されていない。

この他、不整形をした遺構が多数検出されている。SX154・162・1114等は、中央に落ち込みあり、植物の生育痕跡の可能性が高い。ピットは、直系10～50cmで、深さ5～20cmである。覆土は、黒褐色シルト～粘土の一層で、しまりがほとんどない。

調査区東半では、SX150周辺76～79－54～56G、SX156周辺78～82－58～62G、SX163周辺88～94－58～62G等、遺構のまとまりが認められる。Ⅶ層上面で遺構を検出したが、遺構が集中する範囲は、Ⅶ層が砂質になる範囲と一致する。調査区西半では、Ⅶ層が砂質シルトで安定し、ほぼ全域に遺構が確認されている。

奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺構は、調査区上面、Ⅲ層上面で検出し、竪穴建物・掘立柱建物・井戸・溝・土坑・水田・河川がある。調査区中央では南から北に流れる河川が検出された。河川を挟んで調査区西半では、ほぼ全域で建物を中心とした遺構、東半の一部で水田が検出された。

【竪穴建物】

竪穴建物は、36棟検出された。36棟中、9棟は一部未検出である。基本構造は、方形の平面形で、掘り込んだものである。カマド・柱穴・周溝などの遺構が附随している。

平面形は、正方形または長方形を呈する。長方形でも、長軸と短軸の差はあまりない。長軸と短軸の比は、正方形に近い1.1未満がST1・4・78等10棟、1.1～1.2がST2・3・77等7棟、1.25を超えるのは、ST364とST565の2棟のみである。ST365やST565・568・645等一辺に膨らみや凹みが認められるものも有るが、ほとんどが整った方形を呈する。

規模は、最小ST42の5.64㎡からST356の最大35.53㎡の格差で、約3畳～約20畳の広さである。10㎡未満は6棟、10㎡以上から20㎡未満は10棟、20㎡以上から30㎡未満は6棟、30㎡を超えるのは1棟のみである。

カマドは、全体的に遺存状態が悪い。36棟中、カマドおよびカマドの位置を検出したのは、20棟22基であるが、袖と煙道を確認できたのはST1・27・76・77・627の5棟5基のみである。ST27・365では各々2基のカマドを検出した。カマドの位置は、22基中、南壁にあるものは12基、東壁7基、北壁2基、西壁1基である。南東壁に集中する。壁一辺の中央に構築されているものは、ST365・560の2基のみで、右袖が壁寄りに位置するものは、13基ある。カマドに向かって左手側にスペースを保つ傾向にある。後述する貯蔵穴の位置とも関連性があり、建物内部の動線を考える上では重要な視点である。

カマドは、調査時に煙道の張り出しおよび焼土や炭化物の広がりで、その位置を確認できたが、

構造について把握できる遺構は少ない。ST27東側カマド（EL71）は構造をよく示す。左袖の芯材には礫、右袖の芯材は土師器甕１個体を倒立で入れ込み、焚口上部に土師器甕４個体を横位で重ね口縁部を左袖側に向け入れている。土師器甕は内外面ともに煤が付着しており、煮炊具として使用した後にカマド芯材に転用していることが分かる。ST27と重複するST264でも、土師器甕３個体が口縁部を西方に向け重なり横位で検出された。ST27構築時に、ST264のカマドは破壊されたと観察されるが、ST264カマドもST27東側カマドと同様な構造をしていた可能性が高い。ST27西側カマド（EL70)では、焼土や炭化物の広がりがなく、袖も遺存しないことから、ST27東側カマド(EL71)以前に使用されていたとみられる。煙道の一部がトンネル状に遺存しており、粘土の貼り付け等は行なわれていないが、内部が被熱した状況が観察できた。一方、ST1・76・77・627のカマドでは、袖の芯材は確認されず、粘土の貼り付けによって袖を造り出す構造を持つ。

貯蔵穴は、16棟で検出され、建物の規模に関係なくみられる。平面形は円形～楕円形で、長軸30～100cm、短軸20～50cmである。建物の中央に位置するもの、壁際に位置するものがあるが、カマドに近接するものが多い。また、９棟の建物で、カマドの左側に貯蔵穴が位置する。貯蔵穴の使用方法を理解する資料は得られていないが、ST27貯蔵穴２基で、覆土上面に黒褐色粘土が、約５cmの厚さで水平堆積している。福島県三春町深作A遺跡では９世紀代の竪穴住居において貯蔵穴の木製蓋が報告され、土坑に残存する脂肪の分析が行なわれている(三春町教育委員会1995)。ST27貯蔵穴の堆積状況は、蓋の存在が推定できる。

柱穴が確認できたのは、ST364・365の2棟のみで、ST560・582は柱穴が伴う可能性がある。4棟ともに25㎡を超える大型の建物で、4本の主柱穴が推定される。

周溝が確認できたのは、13棟である。その中で、カマド部分を除きほぼ全周しているのは、ST１・27・364・365・560・585・627の７棟である。この中に、柱穴が検出されている4棟が含まれ、構造の上で柱穴との関連性が考えられる。

貼床は、ほとんどの竪穴建物で確認することができる。掘り方はには、ST１・２・627のようにほぼ全面を掘り込むもの、ST645のように中央を残し周縁部を掘り込むもの、ST77のように不規則に掘り込むもの等がある。掘り方の面は凸凹である。掘り込んだ部分に粘土質シルト～粘土を埋め込み、床面を構築している。ST560・627等から分かるようにカマド・貯蔵穴・柱穴・周溝等は、貼床後に掘り込んで構築している。

建物の壁の遺存はST38の67cmが最も深い。上部の削平が行われているため、壁や出入り口等の構造は不明である。ST365では、南壁東寄りに粘土の張り出しが検出された。厚さは、７cmあり、やや硬くしまっていることから出入り口施設の可能性が考えられる。また、ST27・365・627では壁沿いに黒色粘土が堆積し、壁構造との関連が考えられる。

覆土は、人為堆積がほとんどである。自然堆積を明瞭に確認できる建物はない。ST１・２のように、埋め戻された後、土器が多量に廃棄され、廃棄穴として利用されていたことが分かる。

建物長軸の方位は、真北から東に８～30度傾く一群(A群)、東に36～４５度傾く一群(B群)、東に60～70度傾く一群(C群)がある(第362図)。さらに各群からほぼ90度西に傾く一群がある。

各々西に傾く一群は、A'群・B'群・C'群とするが、AとA'群は建物の軸線としては同一であると判断される。AおよびA'群が多数を占め、建物の規模は10㎡に満たないものから30㎡を超える大型のものがある。

【掘立柱建物】

遺物の出土機会に恵まれることが少なく、時期の特定ができない遺構である。柱穴から中世・近世の遺物が出土したもの、時期の特定できる遺構と覆土の共通がみられるものについては、その時期当て、それ意外については基本的に奈良・平安時代の掘立柱建物として扱った。B～G・K調査区の掘立柱建物は、全棟奈良・平安時代とみられ、23棟を数える。束柱を持つ総柱建物とこれを持たないものがある。

総柱建物は5棟、1本のみ束柱のあるものが1棟(SB1148)ある。総柱建物は4×2間(SB1126)、3×2間(SB1125・1164)、変則的な2間×2間(SB1146・1152)がある。面積は7～19.8㎡である。柱間寸法は、0.9・1.0・1.1・1.2・1.3・1.4・1.5・1.6・1.7・1.8・1.9・2.0・2.1・2.2・2.4・2.7・2.8・3.3・4.7mがある。

束柱の無い建物は17棟検出された。5間×3間、3×3間、3×1間、2間×2間、2間×1間、1×1間がある。面積は、3.6～78.0㎡である。柱間寸法は、0.5・0.9・1.0・1.1・1.2・1.3・1.4・1.5・1.6・1.7・1.8・1.9・2.0・2.1・2.2・2.3・2.4・2.5・2.6・2.8・2.9・3.4mがある。SB1124は、西面でSA1143と重複する。プラン検出時、柱抜き取り痕跡を想定したが、新しい柱穴に柱痕跡を確認したため、柱穴の重複と判断した。大型掘立柱建物SB1162は、竪穴建物ST560・582・584より新しい。南面は2間、北面は3間、東西面は5間である。南面柱穴から約20cm離れてSD777があり、溝からさらに1m南に4間(長さ4m)の柱穴列がある。SB1162の柱穴は、平面形が円形または隅丸方形を呈し、長軸(径)0.76～1.28m、短軸0.48～0.92m、深さ0.32～0.84mを測る。南面柱穴の規模が他面に比べ大きく、平面形がより方形に近似する。南面を強く意識したつくりが伺える。南西隅のSP630に接するSP629は、規模や平面形覆土がSP630に類似することから、SB1162に伴う可能性が高い。また、浅く不整形のSK590・637は、柱穴との重複が不明瞭であり、建物構築時の痕跡と考えられる。

建物長軸の方位は、竪穴建物同様3群に分類することができる。真北から東に15～31度傾く一群(A群)、東に43～53度傾く一群(B群)、東に75度傾く一群(C群)がある(第363図)。さらにA群・B群からほぼ90度西に傾く一群がある。C群からほぼ90度西に傾く建物は無い。A群・B群の西に傾く一群は、竪穴建物同様にA'群・B'群とするが、AとA'群は建物の軸線としては同一であると判断される。AおよびA'群が多数を占める。群ごとの建物規模の偏りは認められず、A・B群に各々10㎡以上、20㎡以上の建物がある。大型建物SB1162はA群に属する。

建物の重複は、SB1127→1128→1129、SB1142→1141→1125の最大3回である。総柱建物SB1127～1129は、ST27・SE23と隣接する。ST27もST264と重複がみられる。竪穴建物・掘柱建物・井戸がセットとなり、比較的長期的に使用された空間と理解される。

SB1125は３間×２間の総柱建物であるが、４間×２間の総柱建物建物SB1126と長軸の方位がほぼ等しい。SB1125とSB1126に挟まれるように３×３間のSB1124が位置し、その南方に大型建物SB1162がある。この4棟は、同時期に存在したとみられる。その前段階として、SB1124と重複するSB1144、SB1125と重複するSB1141がセットになると考えられる。

【井戸】

井戸は２基検出されている。

SE23は底面に井戸部材の一部が井桁状に遺存しており、横板井桁組の構造が推定される。井桁内部に５～20cm大の礫が堆積する。掘り方は、径295cm、深さ208cmを測り、平面形は、円形を呈する。覆土は粘土質シルトを主体とし、壁崩落等の自然堆積後に人為的な埋め戻しがみられる。遺物が覆土１・２層に多量に含まれる。遺物は、須恵器無台坏の墨書土器「夲」１点他、供膳具・貯蔵具・煮炊具が出土している。井戸の機能を終えた後に廃棄されたものとみられる。

SE715は底面に刳り貫きの加工材が遺存しており、丸太刳り貫き材を水溜とする構造である。掘り方は、径約190cm、深さ170cmを測り、平面形は、ほぼ円形を呈する。遺構確認面から約120cmの深さに褐色砂の堆積があり、当時の堆水面はこの位置とみられる。覆土はシルト質粘土を主体とし、人為的な埋め戻し→壁崩落等の自然堆積→人為的な埋め戻しの順に堆積が観察される。遺物は、上位の覆土１・２層から須恵器坏・甕が出土している。井戸の機能を終えた後埋め戻され、遺物が廃棄されたものとみられる。

SE23・715、さらに後述する中世のSE72は、標高約95.00mに位置する。奈良・平安時代～中世は、井戸を構築するのに適した位置が、標高約95.00m前後の範囲であったことが分かる。また、SE23・715は、SD616から北西に約3m離れて位置する共通性を持つ。

【土坑】

土坑は、以下の内容で分類を行う。各土坑については観察表に譲る。

	基本平面形	規模cm	深さcm	壁面	その他
a類	楕円形	100～350	30～70	やや急	建物と重複または近接
b類	長楕円形	100未満	20未満	緩	
c	その他	a・b類に分類できないもの			

a類には、SK30・62・90・115・500・619等がある。竪穴建物との重複が認められるものは、土坑a類が竪穴建物より新しい傾向にある。SK115は、ST101・110埋没後に構築されており、建物跡を意識した土坑である。SK62・90等は、建物の壁面に接して構築されており、明確な新旧関係を観察することはできない。建物と同時に機能していたことも考えられる。SK30・619等は、竪穴建物や掘立建物に近接し、１m以内に位置する。a類の覆土は１～3層の堆積で、複数回の埋め戻しが想定される。遺物は、破片が多く器種に特徴等を見い出すことはできない。人為的堆積は確認されるが遺物量が少なく、用途は不明である。

b類には、SK620・754・780・910等がある。覆土は粘質シルトを主体とした単層で、締まりがないものが多い。プラン検出時に、柱穴の可能性が想定されたが、覆土の状態が柱穴と異なる。他の

遺構と重複することはほとんどなく、単独で位置する。遺物は、少なく小破片が混入する程度である。用途は不明である。

【溝】

溝は、a～c類に分類を行う。

a類　幅100cm前後で、深さ80cm以上と深く直線的に走る。

SD616のみである。SD616は上面幅80～150cm、底面幅20～40cm、深さ80～140cmを測る。調査区南辺のG調査区は、水田による削平の為、遺構確認面が20～30cm低くいが、SD616もかなり削平を受けた状態である。壁は急に立ち上がり、底面は平坦である。断面形はU字型を呈する。覆土は、レンズ状に堆積するが、各層が厚く壁際に堆積し分層面が明瞭なことが観察され、溝上面から土を流し込む様に埋め戻したことが想定される。遺物は上位層から須恵器坏類・甕が斜位や倒位で出土する。高さ・幅共に約70cmの須恵器大甕(195－9)が破損した状態でまとまって出土した。溝埋没後に廃棄されたとみられる。

b類　幅50～100cmで直線的に走る。

SD6・19・26・37・86・87・441～443・617等多数である。深さは、50cm未満で浅い。壁は緩やかに立ち上がり、底面と壁面の境界が不明瞭である。覆土は、奈良・平安時代の遺構に特徴的にみられる黒～黒褐色の粘土～粘土質シルトが主体で、1～２層の堆積である。遺物は破片が少量出土する。

c類　幅50cm未満で直線的または蛇行して走る。

SD777・937・1252～1257等がある。

深さは、20cm未満で浅い。壁は緩やかに立ち上がり、底面と壁面の境界が不明瞭である。覆土は、b類と同様に黒～黒褐色の粘土～粘土質シルトが主体になるものと、地山と類似しやや黒色に汚れた黒褐色粘土質シルトが主体になるものがある。前者に属するSD937は、西半は直線的に走り、東半は大きく南に膨らむ。後者に属するSD777は、大型掘立柱建物SB1162の南面に位置し、建物に付属する施設とみられる。同じくSD1523～1527は長さ100cm～280cmと短く、SD間が約70cmと等間隔で位置する。SD616と軸を90°違える。

a～b類方位軸は、東に30°傾くもの、東に45°傾くもの、ほぼ真北を示すものに大きく分類することができる。また、各々と直交するものがある。東に45°傾くのは、a類のSD616、b類のSD86・87等である。b類SD26とC類SD1524～1527はこれに直交する。SD616に切られるb類のSD617は東に30°傾き、b類のSD6は西に60°傾く。SB1162に付属するSD777、調査区北西に位置するSD37も西に60°傾く。ほぼ真北を示すものには、b類のSD19・441～443等がある。遺構の重複関係から、方位軸は東に30°傾くものから東に45°傾くもへと変遷したことが分かる。ほぼ真北を示すものとの重複は確認できない。

SG134・323の河川が南半で真北に流れ、南で東に45°傾いて流れる。河川の流れと溝の方位は無関係ではなく、居住域の軸線は河川と深く関係していたことが理解される。

【水田】

SG134・323河川の東、70～77－49～53Gで検出された。プラン検出作業の際、S134・323覆土砂層が東に広がることが確認された。基本層序Ⅱ層上位は若干砂質が強く、下位は粘土質が強いが、その中位に砂層の堆積を確認した。砂層の堆積状況は安定せず、厚さも一定でないが、砂層の堆積面を追うことで、Ⅱ層上層と下層の分層が可能となった。水田は、Ⅱ層上面で検出した。水田は、SG134の覆土である砂層に覆われていることから、河川と変わらない年代観が想定される。

水田で検出されたのは、畦畔・溝・足跡である。

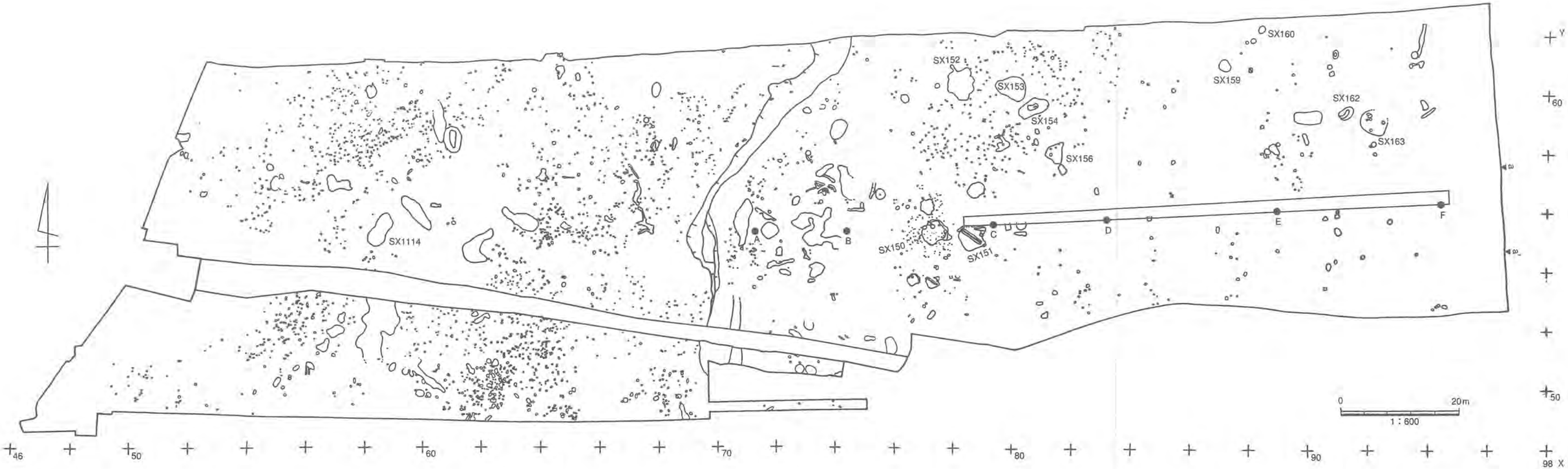
畦畔は、上面幅40～70cm、下面幅50～100cm、高さは10cmに満たない。畦畔は水田耕作土と同様の土質である。上面は平坦で、土圧で圧縮されている。南北畦畔の軸線はほぼ真北を指し、東西畦畔はほぼ90°傾く。水田は、6枚以上の区画が耕作されていたことが想定される。水田の規模は、東西面一辺7.8mと8.8m、南北面は7.3mと9m以上であることが確認された。水田面一枚は、70.2㎡・58.7㎡の面積を有す。71－50Gの畦畔には河川に向かう開口部がある。その周辺には砂層が抉ったような状態で深く堆積している。この部分は、水田の水取り入れ口とみられ、砂層は始めにここから水田に流入した後、かなりの勢いで水田を覆ったことが分かる。水田に伴う遺物は出土していない。

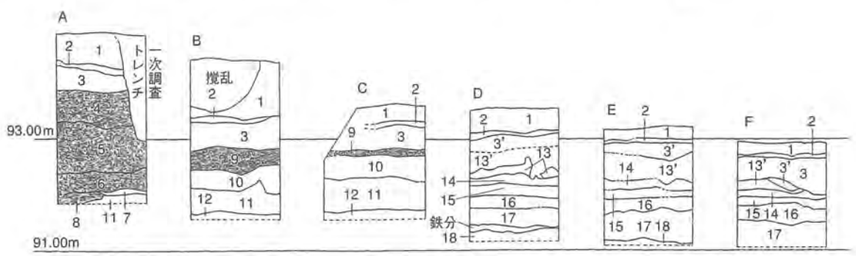
溝SD933は、幅120～170cm、深さ10cm未満である。壁は緩やかに立ち上がり、壁と底面の境界が明瞭でない。覆土は、水田面に堆積していた砂と同質である。SD933が河川に接する位置は、長さ200cm、幅100cm、深さ30cmの窪地状（SK944)になる。木の枝や小礫、土器片がまとまって出土している。

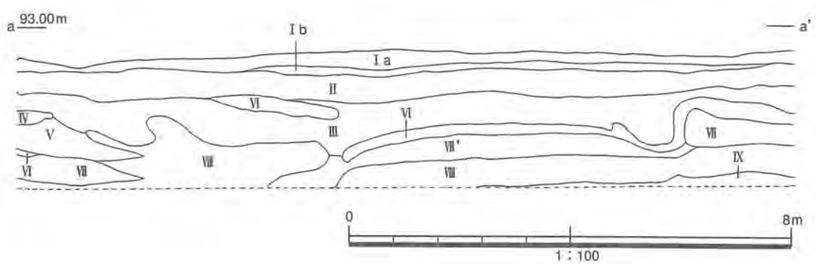
足跡は、水田耕作面・畦畔・溝で確認されている。足跡には、三日月状のものと、円形でくびれを持つものがある。2つ以上接合し、平面形が分からないものも多い。三日月状のものは、長さ22cm前後のものが多く、幅は踏み込んでいる前方が広く幅7cm前後である。踏み込みの深さは、5～10cmのものが多い。水田全面で検出されているが、71・72－50Gでは、廻るような動線が確認できる。72－52・53Gでは、30～40cmの歩幅が確認できる（第62図に点線で図示。足跡は石膏で型取り)。円形でくびれを持つものは、SD933に集中する。径10cm前後で、踏み込みは、5cm前後のものが多い。三日月状は人間、円形でくびれを持つものは、動物(牛?)の足跡である。

【河川】

SG134・323が検出された。両河川は流路がほぼ同位置69～74－49～72Gにあり、同一の河川であるが、覆土の状態から上位のSG134と下位のSG323に分けて登録した。SG134は灰黄色～灰色の細砂層、SG323は黒色～黒褐色の粘土質シルトが主体を占める。G調査区の調査時に河川をSG516と登録したが、後に覆土の観察からSG323の南部分と判断した。河川は、南半でほぼ真北に、69～71－56～57G地点から東に35～45°傾いて、南から北東に流れる。川幅は、SG134が1.3～7m、SG323が2.6～11.7m、最深はSG134が0.7m、SG323が1m以上を測る。最底面は平坦で、緩やかに立ち上がる壁面には各々凹凸があり、数度の流路変更が想定される。遺物は、須恵器・土師





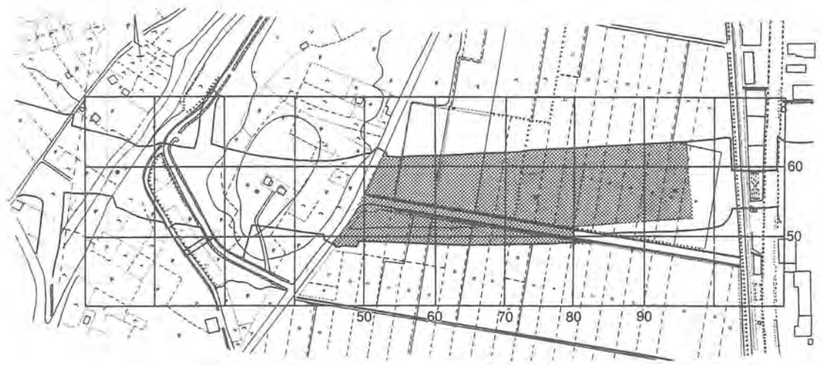


中央ベルトA～F土層注記

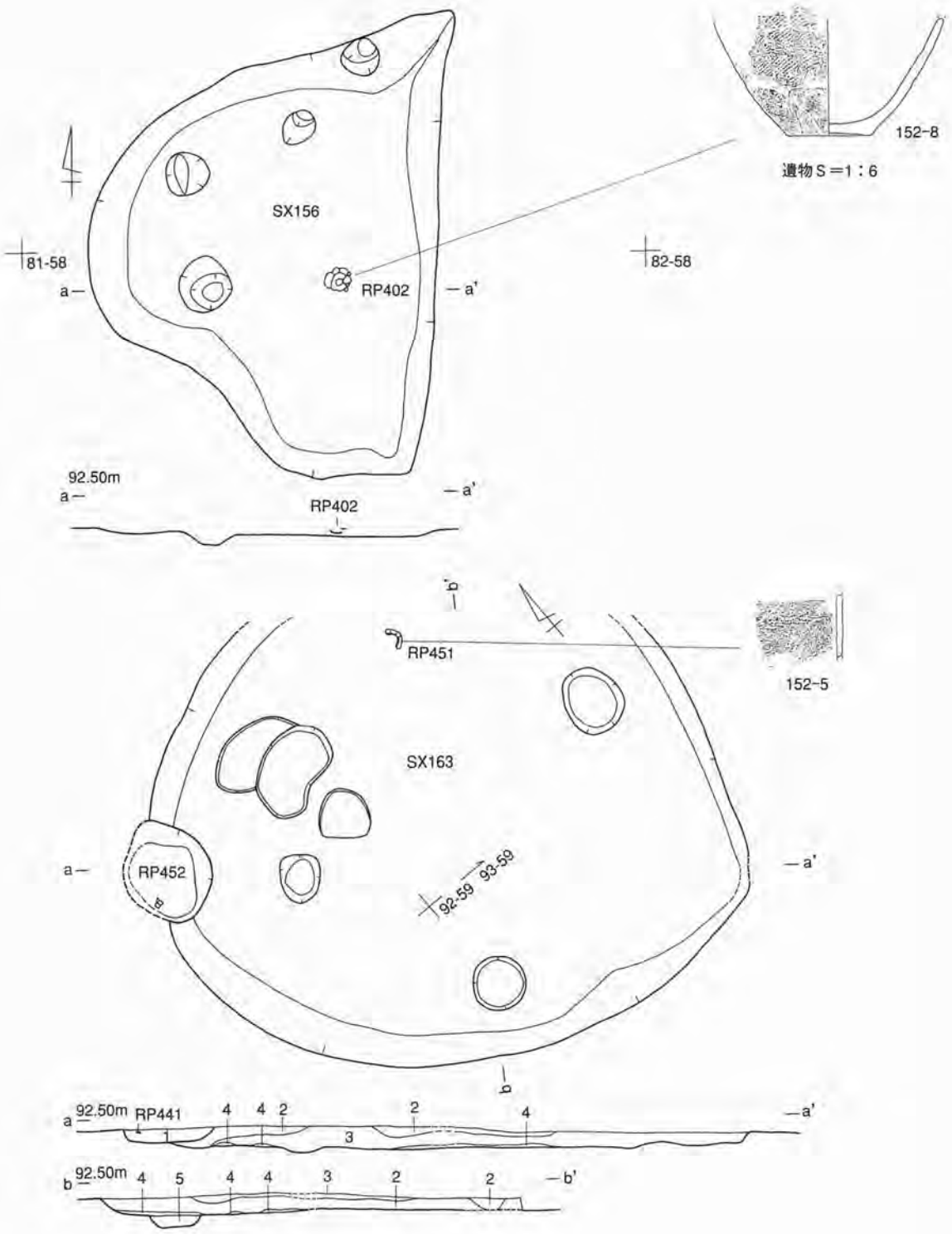
1　Ⅰa
2　Ⅰb
3　7.5Y3/2オリーブ黒色砂質シルト（砂5%・炭化粒0.5㎝大1%混入）Ⅱに対応
3'　7.5Y3/2オリーブ黒色砂質シルト（3層より砂質感が強い）Ⅱに対応
4　10YR3/2黒褐色細砂（渦巻き状に堆積）SG134・323覆土
5　10YR3/1黒褐色細砂（渦巻き状に堆積）SG134・323覆土
6　10YR3/1黒褐色細砂（10YR4/4褐色砂・10YR2/1黒色シルト混入、渦巻き状に堆積）SG134・323覆土
7　10YR3/1黒褐色粘土質シルト（均質）
8　2.5Y4/3オリーブ褐色細砂（6層が渦巻き状に5%混入）SG134・323覆土
9　10YR3/1黒褐色細砂（10YR6/4にぶい黄橙色細砂20%混入、渦巻き状に堆積）SG134・323覆土
10　10YR1.7/1黒色粘土（炭化粒0.1～0.5㎝大1%混入）旧水田？
11　10YR6/2灰黄褐色粘土（10YR5/1褐灰色粘土霜降り状1%混入）
12　10YR4/1褐灰色粘土
13　7.5YR5/1褐灰色粘土　旧水田？
13'　7.5YR5/1褐灰色粘土（3'層20%混入）
14　Ⅲ
15　Ⅳ古墳時代包含層？
16　Ⅴ
17　Ⅵ縄文時代包含層
18　Ⅶ

a-a' 土層注記

Ⅰa 10YR3/3暗褐色シルト　旧耕作土
Ⅰb 7.5Y4/4暗オリーブ色粘土（硬くしまる）床土
Ⅱ　10YR2/2黒褐色粘土（砂混入し硬くしまる、下面が安定しない）
Ⅲ　2.5Y6/4にぶい黄色粘土（硬くしまる）
Ⅳ　7.5Y6/1灰色粘土
Ⅴ　2.5Y6/4にぶい黄色砂質粘土（硬くしまる）
Ⅵ　10YR6/1褐灰色粘土（炭化物2%・砂5%混入）
Ⅶ　2.5Y6/1黄灰色粘土
Ⅶ'　ⅦにⅥ・Ⅷが斑に混入する
Ⅷ　2.5Y4/1黄灰色粘土（植物遺存体を含む、腐食土）
Ⅸ　5BG6/1青灰色細砂（均質）



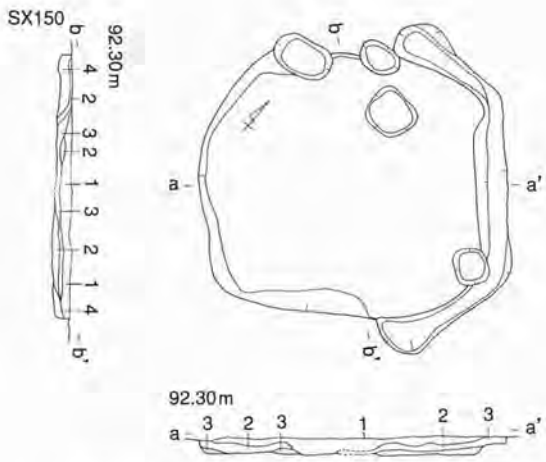
第6図　B～G・K調査区下面遺構配置図



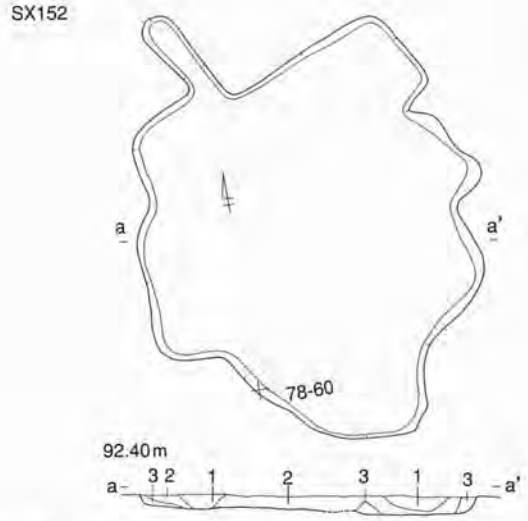
SX163土層注記
1　2.5Y3/1黒褐色シルト質粘土（炭化粒1%・鉄分混入）
2　2.5Y3/1黒褐色粘土（炭化粒10%・4層10%・鉄分混入）
3　2.5Y3/1黒褐色粘土（炭化粒1%混入）
4　2.5Y3/1黒褐色砂質粘土（3層5%混入、土器片含む）
5　4層に類似、粘性が強くボソボソする

0　2m
1：50

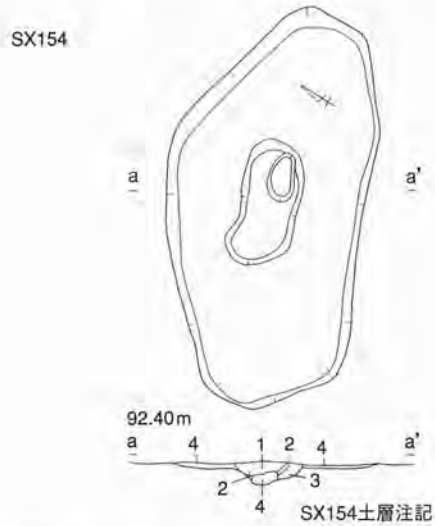
第7図　遺構実測図―SX156・163―



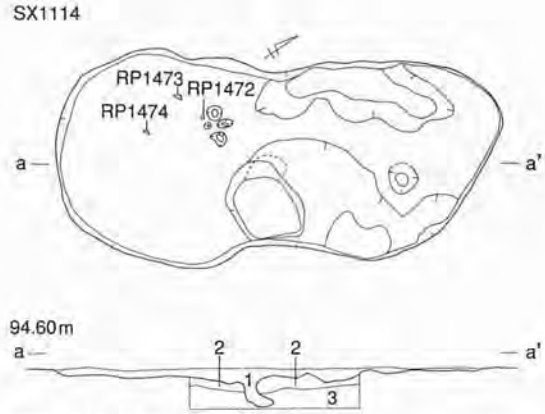
SX150土層注記
1　2.5Y3/1粘土（植物腐食土の炭化粒1%混入）
2　10YR4/1灰色粘土（3層5%混入）
3　7.5Y3/1オリーブ黒色粘土（炭化粒1%混入）
4　5Y3/1オリーブ黒色砂質粘土（炭化粒1%・砂5%混入）



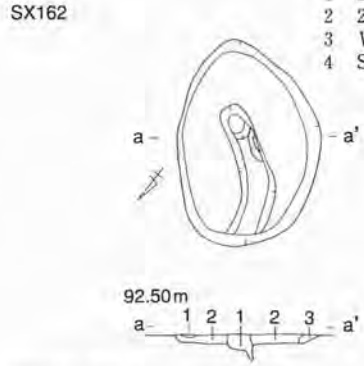
SX152土層注記
1　2.5Y3/1粘土（植物腐食土、ボソボソする、3層10%・炭化粒1%混入）
2　2.5Y3/1粘土（1層に類似、3層を混入しない）
3　5Y5/2灰オリーブ色粘土（2層5%混入）



SX154土層注記
1　2.5Y6/2灰黄色シルト質粘土
2　2.5Y5/1黄灰色粘土（炭化粒1%混入）
3　Ⅶ層に2層10%混入
4　SX162 1層に類似

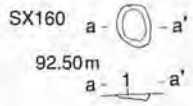


SX1114土層注記
1　10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト（2層斑に5%・炭化粒0.1～0.5cm大5%混入）
2　2.5Y5/3黄褐色粘土質シルト　基盤層
3　10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト（炭化粒0.1～0.5cm大1%混入）

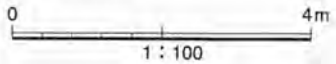


SX162土層注記
1　2.5Y3/1黒褐色シルト質粘土（木片・炭化物1%混入）
2　Ⅶ層に1層が5%混入
3　1層にⅦ層が10%混入

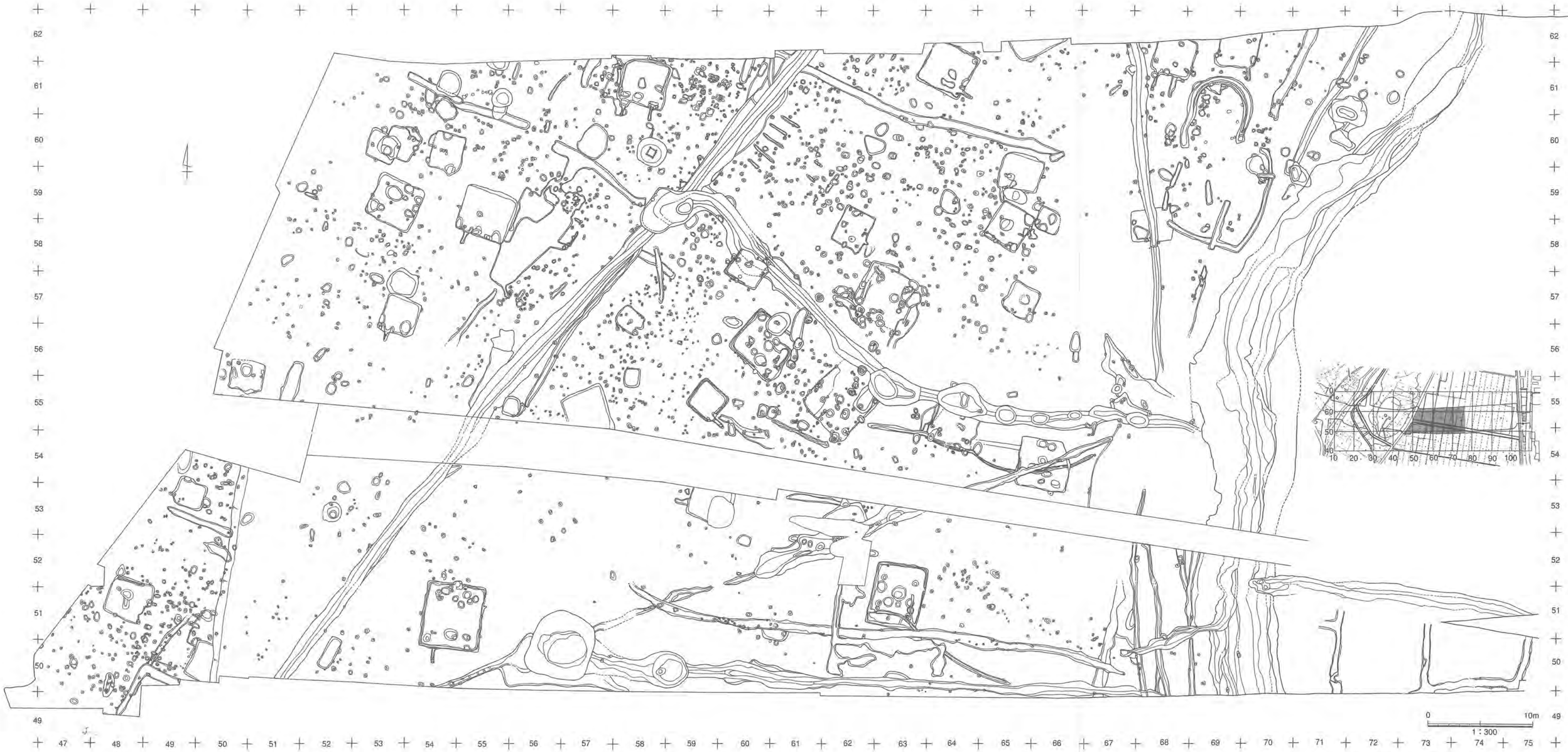
SX159土層注記
1　SX162 1層に類似
2　SX162 2層に類似
3　10YR2/1黒色粘土（1層が斑に10%混入）



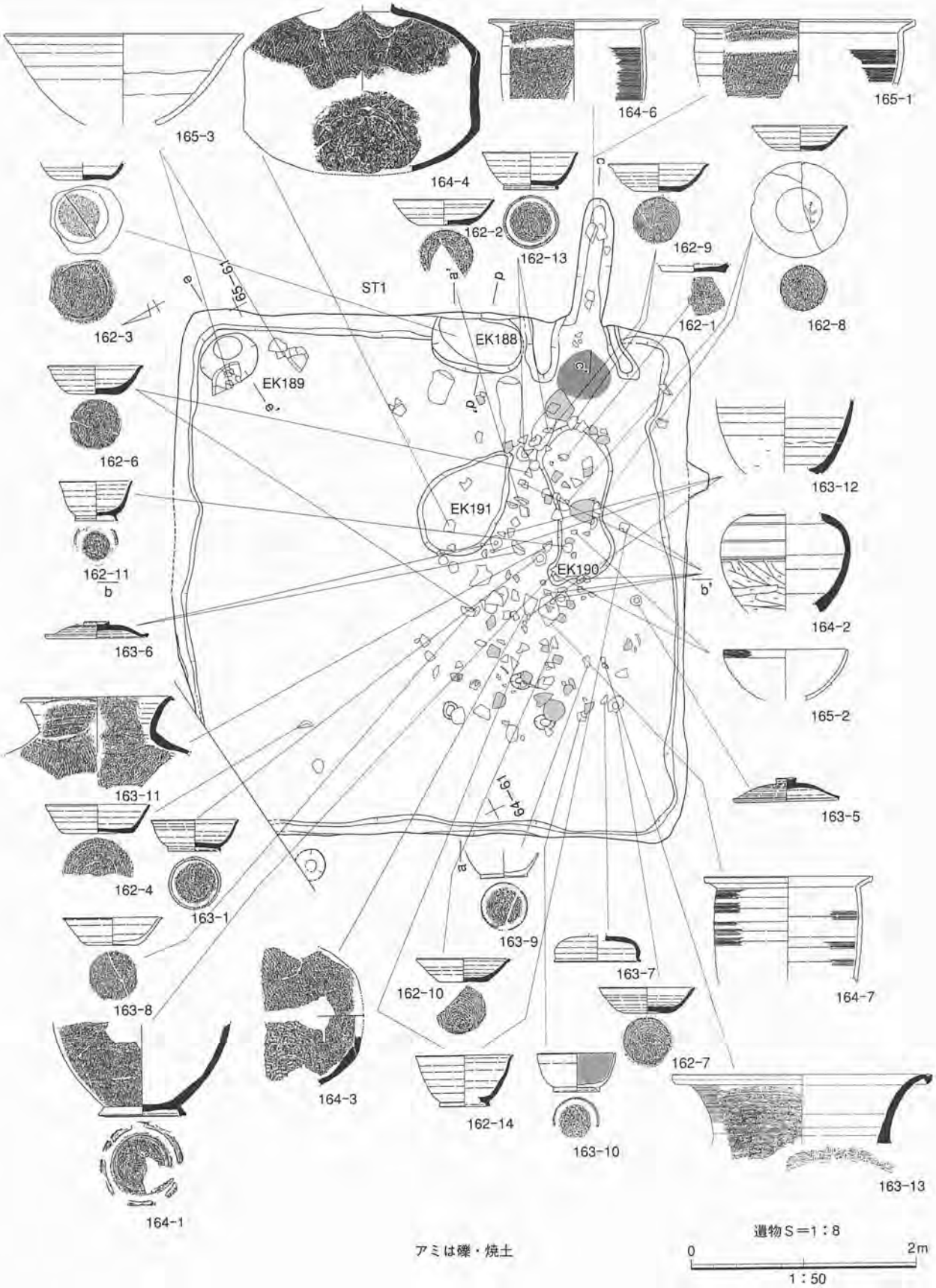
SX160土層注記
1　SX162　1層に同じ



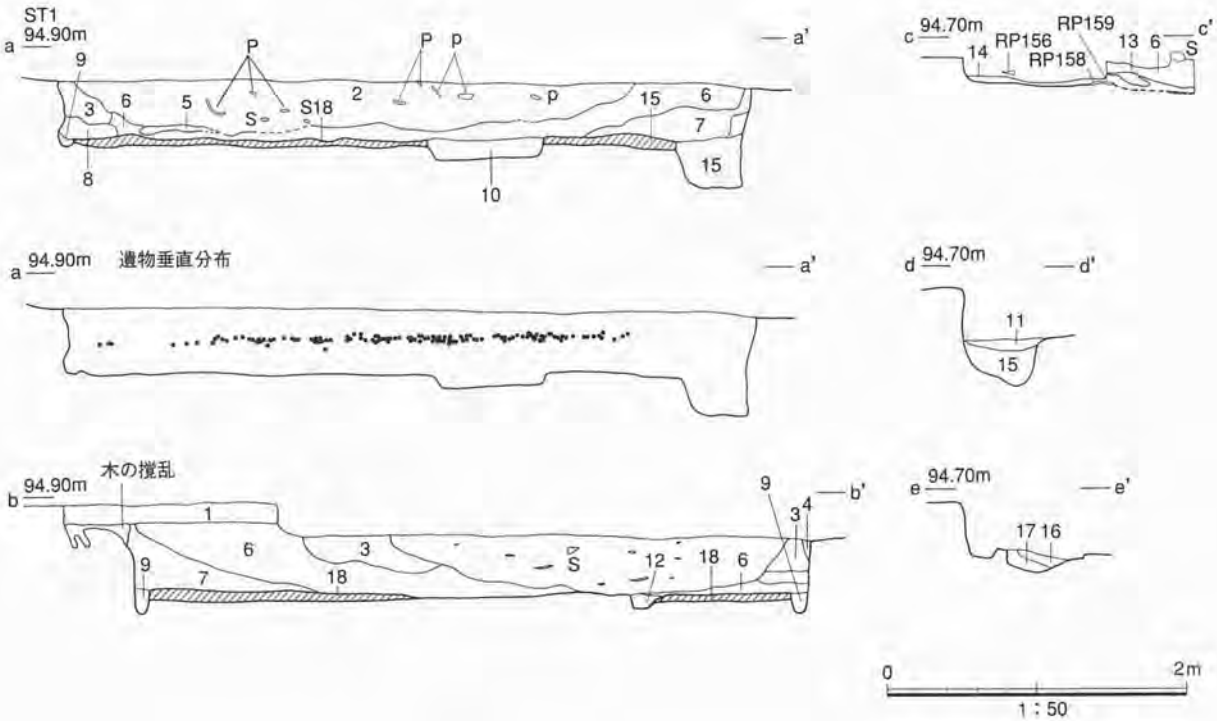
第8図　遺構実測図―SX150・152・154・159・160・162・1114―



第９図　B～G・K調査区上面遺構全体図



第10図　遺構実測図―ST1―



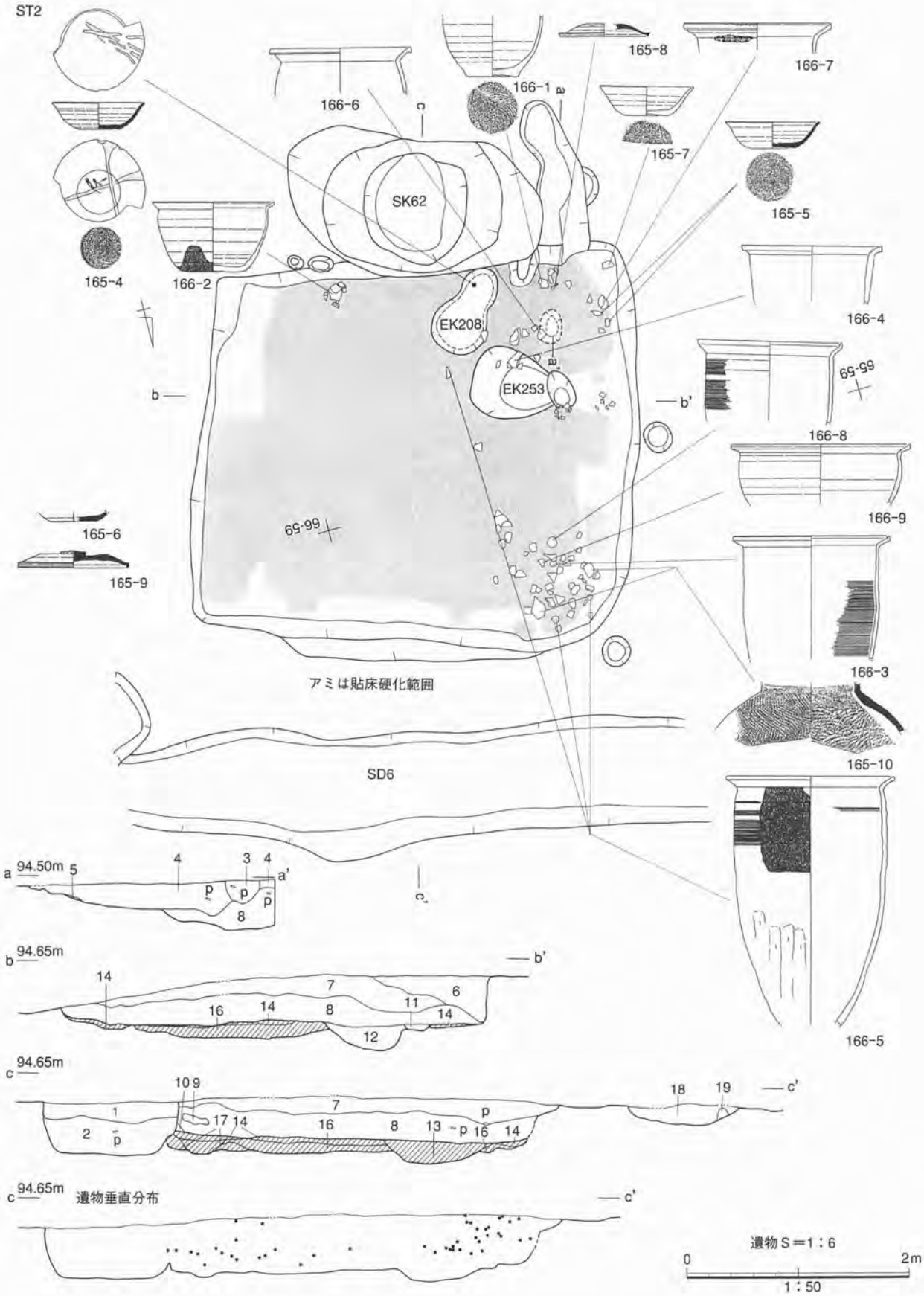
ST1土層注記

1 10YR4/1褐灰色砂質シルト（粘性あり）盛土
2 10YR3/1黒褐色粘土質シルト（土器を多量に混入）
3 10YR3/2黒褐色粘土質シルト（7層に類似均質）
4 3層に地山粒1cm大20%混入壁崩落土
5 10YR2/1黒色粘土質シルト（均質、しめりけあり）
6 10YR3/2黒褐色粘土質シルト（黄褐色粒・茶褐色粒0.5cm大各々30%混入）一括埋土と判断
7 10YR2/2黒褐色粘土質シルト（均質、しめりけあり）
8 3層に地山粒1cm大10%混入壁崩落土
9 10YR2/1黒色粘土質シルト（地山粒1cm大20%混入、しまりがない）
10 10YR2/1黒色粘土質シルト（10YR1.7/1黒色シルト粒1cm大10%・地山粒3cm大20%混入）
11 10YR2/1黒色粘土質シルト（10YR1.7/1黒色シルト粒1cm大10%・7層粒5%・地山粒1cm大5%混入、しまりがない）
12 10YR2/1黒色粘土質シルト（10YR1.7/1黒色シルト粒3cm大5%・地山粒1cm大5%混入、しまりがない）
13 地山と類似
14 10YR2/2黒褐色粘土質シルト（焼土10%混入）
15 10YR2/1黒色粘土質シルト（10YR1.7/1黒色シルト粒1cm大10%・地山粒1cm大5%混入、しまりがない）
16 10YR3/2黒褐色粘土質シルト（10YR1.7/1黒色シルト粒1cm大20%・地山粒1cm大5%混入、しまりがない）
17 10YR3/2黒褐色粘土質シルト（10YR1.7/1黒色シルト粒1cm大10%・地山粒1cm大5%混入、しまりがない）
18 10YR3/2黒褐色粘土質シルト（地山斑に50%混入）掘り方覆土

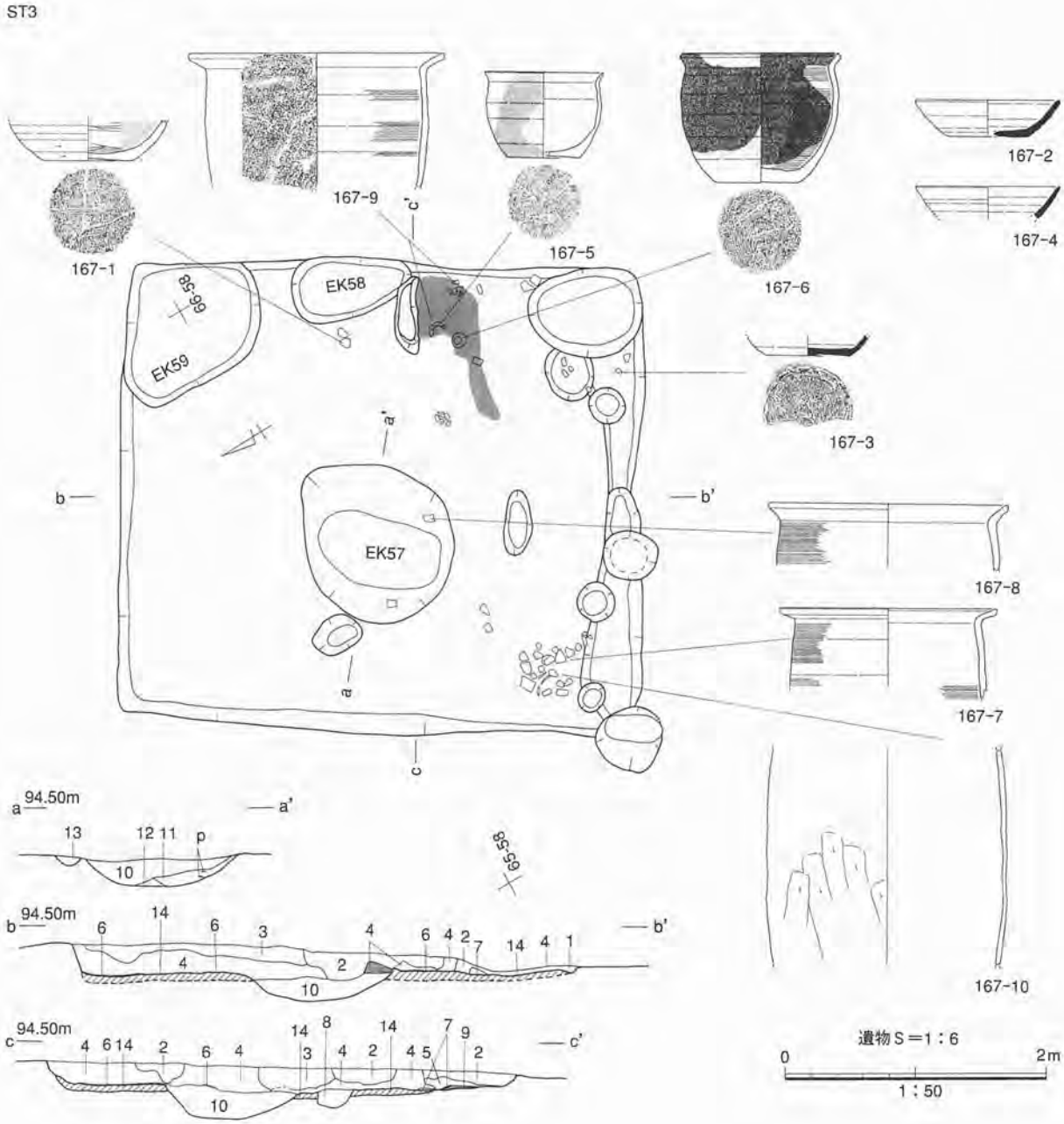
ST2土層注記

1 10YR3/2黒褐色粘質土シルト（6層とほぼ類似、黄褐色粒の大きさが0.5～1cm大と大きい）人為的埋土
2 1層と類似さらに混入物が0.5～1.5cm大と大きい人為的埋土
3 10YR3/2黒褐色粘土質シルト（黄褐色粘土ブロック混入）人為的埋土
4 10YR3/1黒褐色粘土質シルト（酸化鉄がしみこみ混入）
5 10YR2/1黒色粘土質シルト（しめりけあり）
6 10YR2/2黒褐色粘土質シルト（炭化粒・茶褐色粒0.1～0.5cm大各々10%混入、焼土粒0.5cm大5%混入、硬くしまっている）人為的埋土
7 10YR2/2黒褐色粘土質シルト（6層に焼土粒を含まない）人為的埋土
8 10YR2/2黒褐色粘土質シルト（6層と類似、6層より黄褐色粒が多い約30%混入）人為的埋土
9 10YR2/2黒褐色粘土質シルト（純粋）
10 10YR2/2黒褐色粘土質シルト（地山粒30%混入）壁崩落土
11 10YR2/2黒褐色粘土質シルト（炭化粒・茶褐色粒0.1～0.5cm大各々10%混入）
12 10YR3/1黒褐色粘土質シルト（炭化粒・茶褐色粒・10YR1.7/1黒色粘土質シルト0.1～0.5cm大10%混入）
13 10YR2/2黒褐色粘質土シルト（9層粒10%混入）
14 10YR2/2黒褐色粘質土シルト（9層帯状0.5cm大に堆積している）人為的埋土
15 10YR2/2黒褐色粘質土シルト（9層20%混入）
16 10YR2/2黒褐色粘質土シルト（9層40%混入）
17 10YR2/2黒褐色粘質土シルト（9層50%混入）
18 7.5Y2/2黒褐色シルト質粘土（地山ブロック5cm大10%混入）
19 7.5Y2/2黒褐色シルト質粘土（地山ブロック5cm大50%混入）

第11図　遺構実測図—ST1・2—



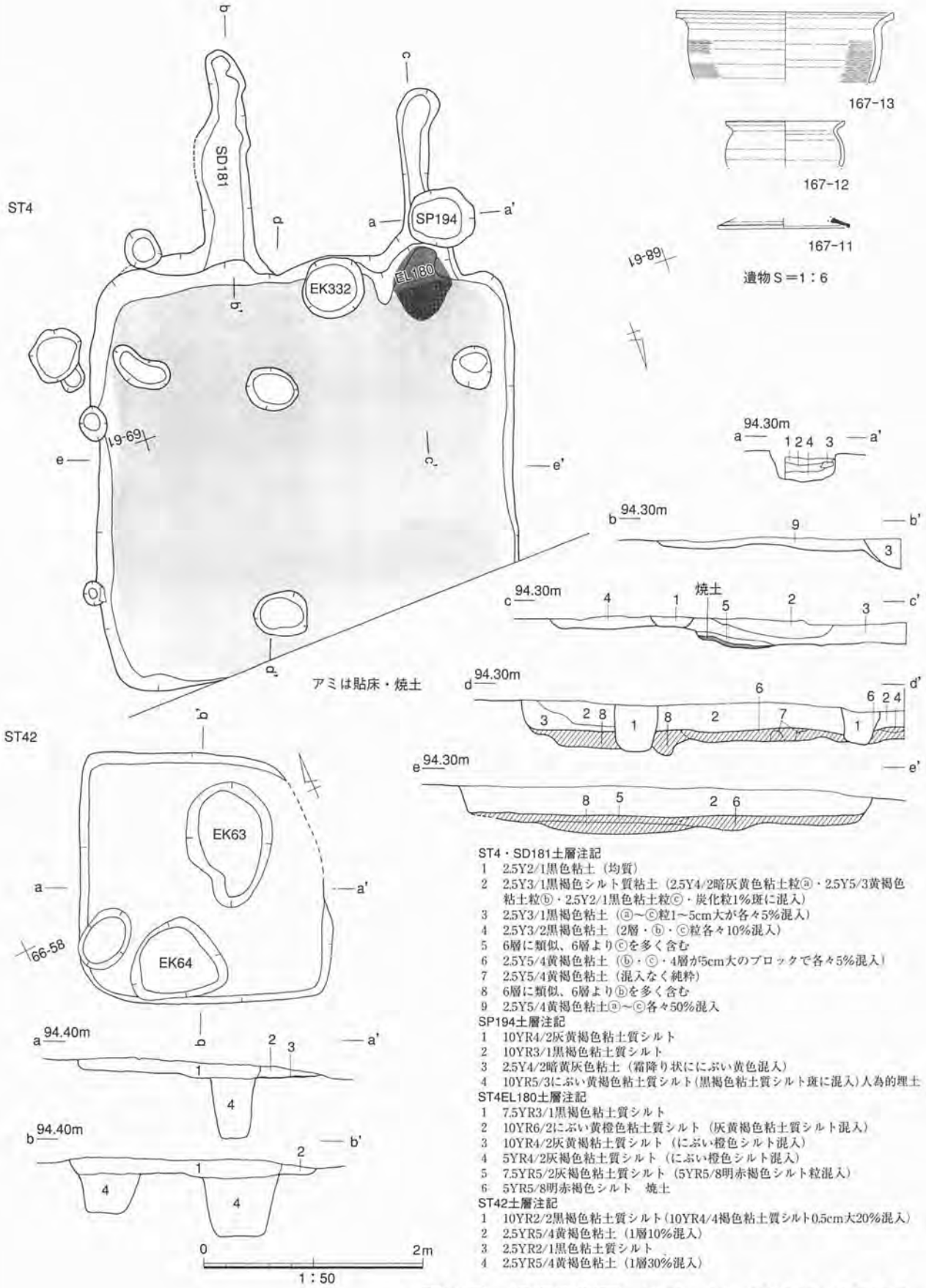
第12図　遺構実測図―ST2―



ST3土層注記

1　10YR3/2黒褐色粘土質シルト（4層に類似、黒味を帯びる）
2　10YR5/1褐灰色砂質シルト（4層30%霜降り状に混入）撹乱
3　10YR3/2黒褐色粘土質シルト（土器片・黄褐色粒・茶褐色粒・黒色粒1cm大各々10%混入、しまっている）
4　10YR3/2黒褐色粘土質シルト（土器片・黄褐色粒・茶褐色粒・黒色粒1cm大が3層より多く20%混入、しまっている）
5　2.5Y5/4黄褐色粘土（しまっている）カマドの袖を構築
6　2.5Y2/1黒色粘土（他に比べてしめりがある、水平堆積）アンペラを推定
7　2.5Y2/1黒色粘土（5層が50%混入）
8　10YR5/1褐灰色砂質シルト（4層40%混入）木の根撹乱
9　焼土
10　10YR2/1黒褐色粘土質シルト
11　10YR3/2黒褐色粘土質シルト
12　2.5Y5/4黄褐色粘土（10層が帯状に堆積）
13　2.5Y5/4黄褐色粘土（10層が斑に堆積）
14　2.5Y5/4黄褐色粘土（10YR3/2黒褐色粘土質シルト・10YR3/1黒褐色粘土質シルト斑に20%混入）

第13図　遺構実測図―ST3―



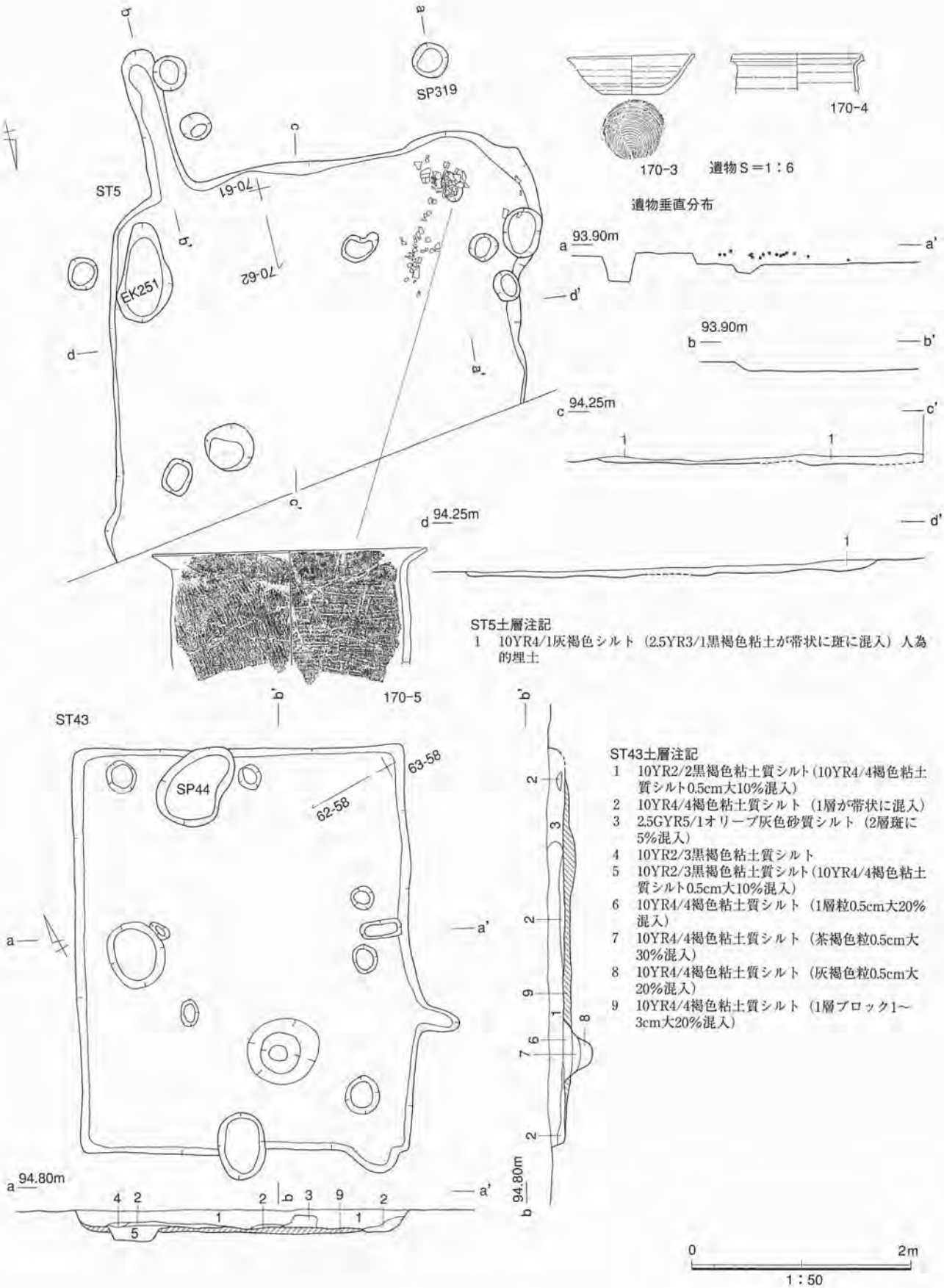
ST4・SD181土層注記
1　2.5Y2/1黒色粘土（均質）
2　2.5Y3/1黒褐色シルト質粘土（2.5Y4/2暗灰黄色粘土粒ⓐ・2.5Y5/3黄褐色粘土粒ⓑ・2.5Y2/1黒色粘土粒ⓒ・炭化粒1%斑に混入）
3　2.5Y3/1黒褐色粘土（ⓐ～ⓒ粒1～5cm大が各々5%混入）
4　2.5Y3/2黒褐色粘土（2層・ⓑ・ⓒ粒各々10%混入）
5　6層に類似、6層よりⓒを多く含む
6　2.5Y5/4黄褐色粘土（ⓑ・ⓒ・4層が5cm大のブロックで各々5%混入）
7　2.5Y5/4黄褐色粘土（混入なく純粋）
8　6層に類似、6層よりⓑを多く含む
9　2.5Y5/4黄褐色粘土ⓐ～ⓒ各々50%混入

SP194土層注記
1　10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト
2　10YR3/1黒褐色粘土質シルト
3　2.5Y4/2暗黄灰色粘土（霜降り状ににぶい黄色混入）
4　10YR5/3にぶい黄褐色粘土質シルト（黒褐色粘土質シルト斑に混入）人為的埋土

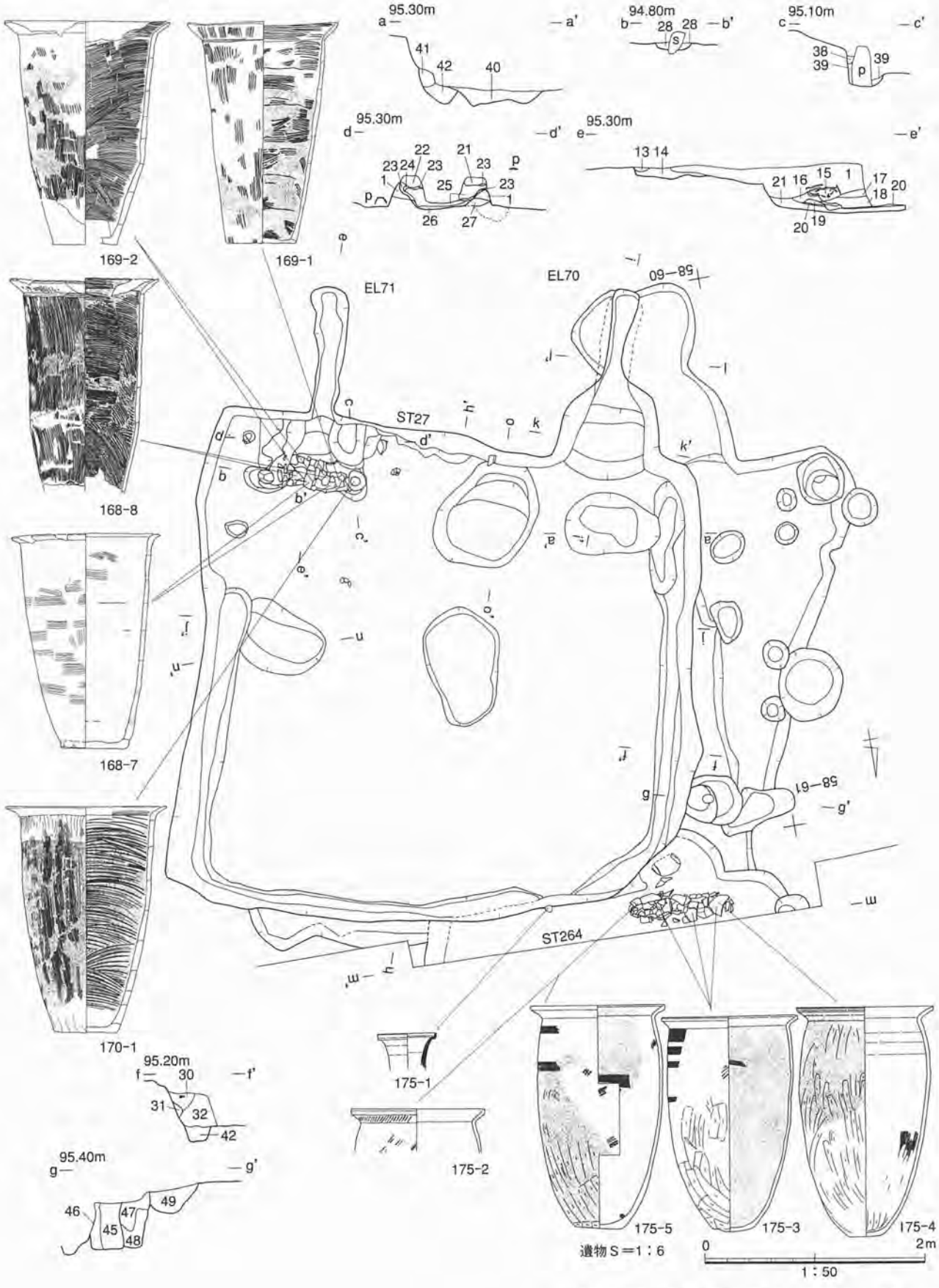
ST4EL180土層注記
1　7.5YR3/1黒褐色粘土質シルト
2　10YR6/2にぶい黄橙色粘土質シルト（灰黄褐色粘土質シルト混入）
3　10YR4/2灰黄褐粘土質シルト（にぶい橙色シルト混入）
4　5YR4/2灰褐色粘土質シルト（にぶい橙色シルト混入）
5　7.5YR5/2灰褐色粘土質シルト（5YR5/8明赤褐色シルト粒混入）
6　5YR5/8明赤褐色シルト　焼土

ST42土層注記
1　10YR2/2黒褐色粘土質シルト（10YR4/4褐色粘土質シルト0.5cm大20%混入）
2　2.5YR5/4黄褐色粘土（1層10%混入）
3　2.5YR2/1黒色粘土質シルト
4　2.5YR5/4黄褐色粘土（1層30%混入）

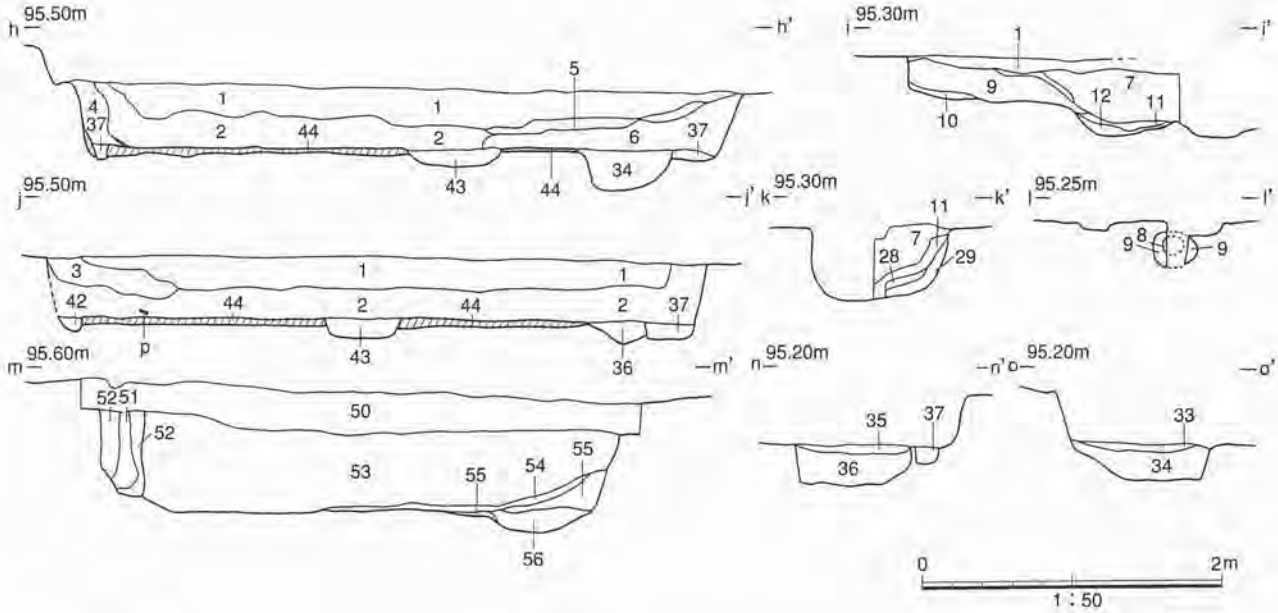
第14図　遺構実測図―ST4・42、SD181、SP194―



第15図　遺構実測図―ST5・43―



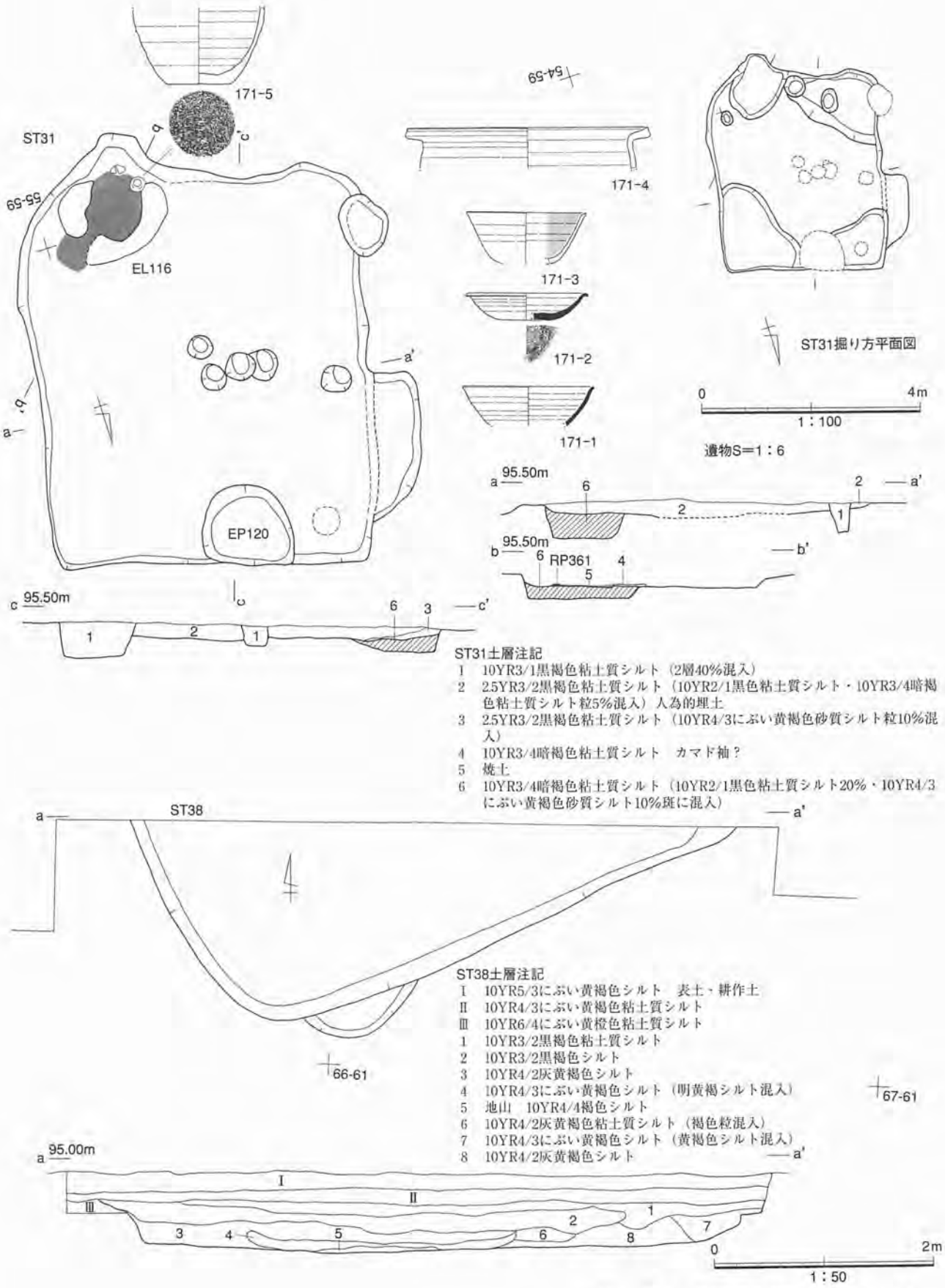
第16図　遺構実測図―ST27・264―



ST27土層注記

1 10YR3/3暗褐色粘土質シルト（黄褐色粘土粒0.5～1cm大・茶褐色粘土粒各10%混入）
2 10YR3/3暗褐色粘土質シルト（黄褐色粘土粒0.5～1cm大・茶褐色粘土粒各20%混入）
3 10YR3/3暗褐色粘土質シルト（黒褐色粘土粒2層に20%混入）
4 10YR2/1黒色シルト質粘土（ややぬめぬめする）
5 10YR3/3暗褐色粘土質シルト（黒褐色粘土粒2層に10%混入）
6 2層に黄褐色ブロック3cm大10%混入
7 10YR3/3暗褐色粘土質シルト
8 10YR3/3暗褐色粘土質シルト（黄褐色粘土粒0.5～1cm大・茶褐色粘土粒各30%混入）
9 10YR3/3暗褐色粘土質シルト（黄褐色粘土粒0.5～1cm大・茶褐色粘土粒各10%、焼土粒5%混入）
10 10YR3/3暗褐色粘土質シルト（黄褐色粘土粒0.5～1cm大・茶褐色粘土粒各10%、焼土粒10%混入）
11 10YR2/2黒褐色粘土質シルト（黄褐色粘土ブロック混入）
12 10YR2/3黒褐色粘土質シルト（黄褐色粘土ブロック・焼土粒5%混入）
13 10YR3/3暗褐色粘土質シルト（黄褐色粘土粒・茶褐色粘土粒各0.5cm大10%混入）
14 10YR3/3暗褐色粘土質シルト（黄褐色粘土粒・茶褐色粘土粒各0.5cm大20%混入）
15 2.5Y4/3オリーブ褐色粘土（16層・焼土を含む）カマド天井
16 2.5YR3/2黒褐色粘土質シルト（焼土粒1～3cm大のブロックで混入）
17 10YR2/2黒褐色粘土質シルト（焼土粒・炭化粒5%混入）
18 10YR2/2黒褐色粘土質シルト（焼土粒・炭化粒10%混入）
19 2.5Y4/3オリーブ褐色粘土（16層・焼土少量混入）
20 10YR2/2黒褐色粘土質シルト（焼土粒・炭化粒50%混入）
21 10YR2/2黒褐色粘土質シルト（焼土粒・炭化粒20%混入）
22 2.5Y5/3黄褐色粘土（2.5Y3/1黒褐色シルト0.1～0.5cm大5%・10YR5/8黄褐色シルトすじ状に混入）カマド構築土
23 7.5YR4/3褐色シルト（22層が比熱した状態、硬くしまっている）
24 7.5YR5/6明褐色シルト（焼土ブロック）
25 10YR2/2黒褐色粘土質シルト（22層と23層と24層をブロック状に含む、下位につれて炭化粒を多く含み炭化粒は0.5cm大で粘性あり）カマド内崩落土
26 10YR4/3にぶい黄褐色粘土（10YR3/1黒褐色粘土及び25層を斑に各5%混入）
27 2.5Y5/2暗黄灰色粘土　カマド構築土の一部
28 10YR3/2黒褐色シルト質粘土（10YR2/1黒色粘土5%・2.5YR4/4オリーブ褐色粘土1%・炭化粒0.5cm大1%・焼土ブロック1～3cm大混入）
29 2.5Y5/4黄褐色シルト（2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト・ブロック10%混入）
30 10YR4/2灰黄褐色シルト（にぶい黄橙粒混入）
31 10YR5/2灰黄褐色シルト（純粋）
32 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト（30層が20%粒子状に混入）
33 10YR2/2黒褐色粘土（35層類似、焼土粒・炭化粒各1%混入）
34 10YR4/3にぶい黄褐色粘土（36層に比べ10YR5/3にぶい黄褐色粘土10%混入と少ないが類似する）
35 10YR2/2黒褐色粘土（10YR5/3にぶい黄褐色粘土粒1%混入）
36 10YR4/3にぶい黄褐色粘土（10YR5/3にぶい黄褐色粘土粒30%・10YR3/2黒褐色粘土50%混入）
37 10YR2/2黒褐色粘土（10YR4/4褐色粘土・10YR3/3暗褐色粘土各10%斑に混入）
38 10YR4/4褐色粘土（39層が斑に5%混入、もこもこする）
39 10YR2/2黒褐色粘土（炭化粒・焼土粒5%混入）
40 10YR3/2黒褐色粘土（10YR3/1黒褐色粘土・10YR4/3にぶい黄褐色粘土・斑に各10%混入）
41 10YR4/3にぶい黄褐色粘土（壁際に堆積しはがれる、砂・10YR3/1黒褐色粘土を斑に各10%混入）
42 10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト（10YR3/1黒褐色粘土を斑に5%混入、41層に比べ砂質感がある）
43 10YR3/3暗褐色粘土質シルト（黄褐色粘土粒0.5～1cm大・茶褐色粘土粒各30%混入）
44 10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト（43層斑に5%混入）貼床
45 10YR4/2灰黄褐色シルト（10YR5/3にぶい黄褐色シルト粒混入）
46 10YR5/3にぶい黄褐色シルト
47 10YR4/2灰黄褐色シルト
48 10YR4/2灰黄褐色シルト縞状に・10YR5/3にぶい黄褐色シルト混入
49 10YR5/3にぶい黄褐色シルト
50 10YR3/2黒褐色シルト　耕作土
51 10YR4/2灰黄褐色シルト（10YR5/3にぶい黄褐色シルト粒・10YR2/2黒褐色粘土混入）
52 10YR2/2黒褐色粘土（10YR4/2灰黄褐色シルト・10YR2/2黒褐色粘土粒10%斑に混入）
53 10YR2/2黒褐色粘土（10YR4/4褐色粘土・10YR3/3暗褐色粘土5%斑に混入）
54 10YR2/2黒褐色粘土（10YR4/2灰黄褐色シルト・10YR2/2黒褐色粘土・10YR4/4褐色粘土10%斑に混入）
55 10YR2/2黒褐色粘土（10YR4/2灰黄褐色シルト粒・10YR4/4褐色粘土・10YR3/3暗褐色粘土5%斑に混入）
56 10YR2/2黒褐色粘土（10YR4/2灰黄褐色シルト粒20%・10YR4/4褐色粘土・10YR3/3暗褐色粘土5%斑に混入）

第17図　遺構実測図—ST27—



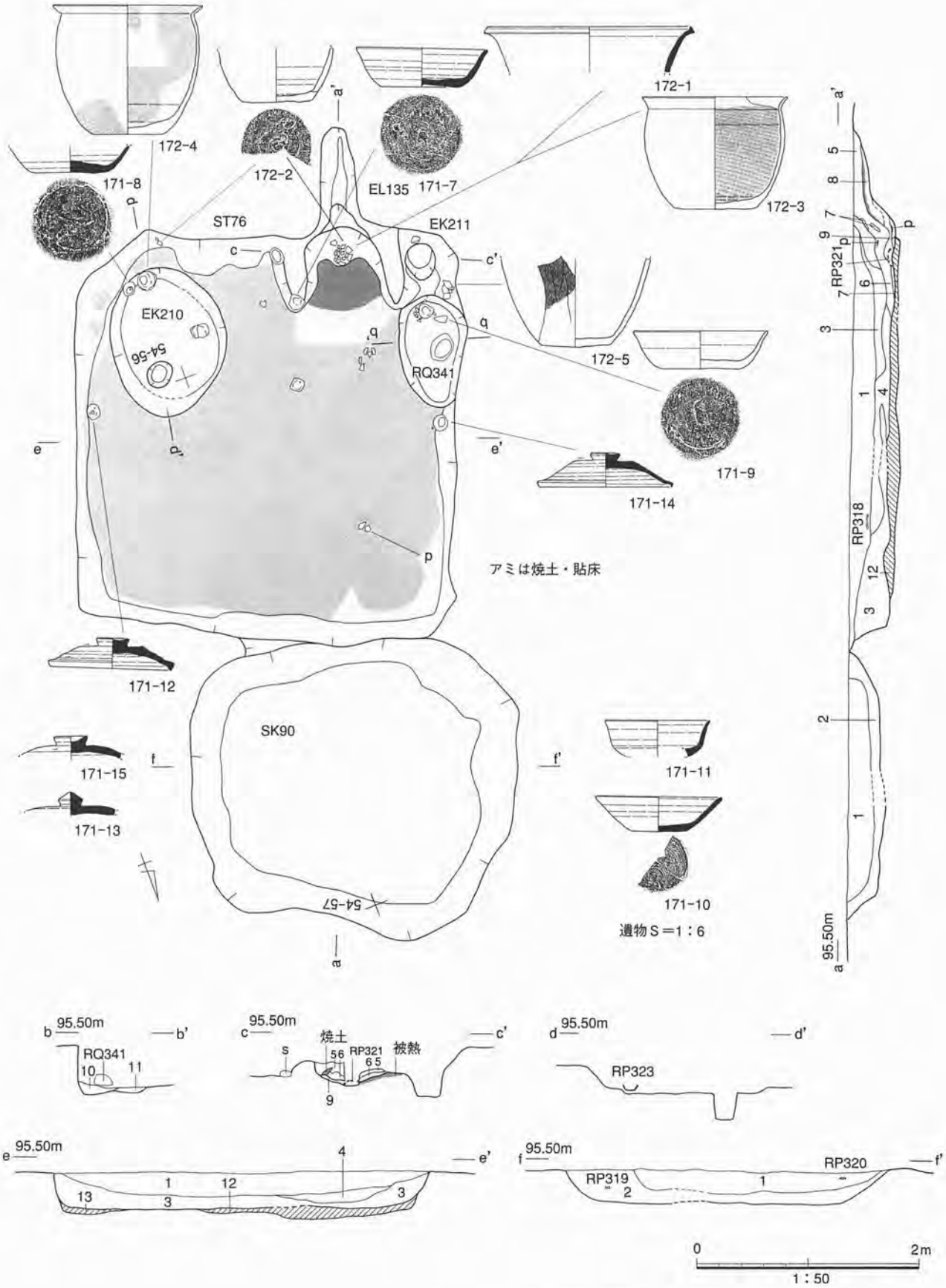
ST31土層注記

1　10YR3/1黒褐色粘土質シルト（2層40%混入）
2　2.5YR3/2黒褐色粘土質シルト（10YR2/1黒色粘土質シルト・10YR3/4暗褐色粘土質シルト粒5%混入）人為的埋土
3　2.5YR3/2黒褐色粘土質シルト（10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト粒10%混入）
4　10YR3/4暗褐色粘土質シルト　カマド袖？
5　焼土
6　10YR3/4暗褐色粘土質シルト（10YR2/1黒色粘土質シルト20%・10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト10%斑に混入）

ST38土層注記

Ⅰ　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　表土・耕作土
Ⅱ　10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト
Ⅲ　10YR6/4にぶい黄橙色粘土質シルト
1　10YR3/2黒褐色粘土質シルト
2　10YR3/2黒褐色シルト
3　10YR4/2灰黄褐色シルト
4　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（明黄褐シルト混入）
5　地山　10YR4/4褐色シルト
6　10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト（褐色粒混入）
7　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（黄褐色シルト混入）
8　10YR4/2灰黄褐色シルト

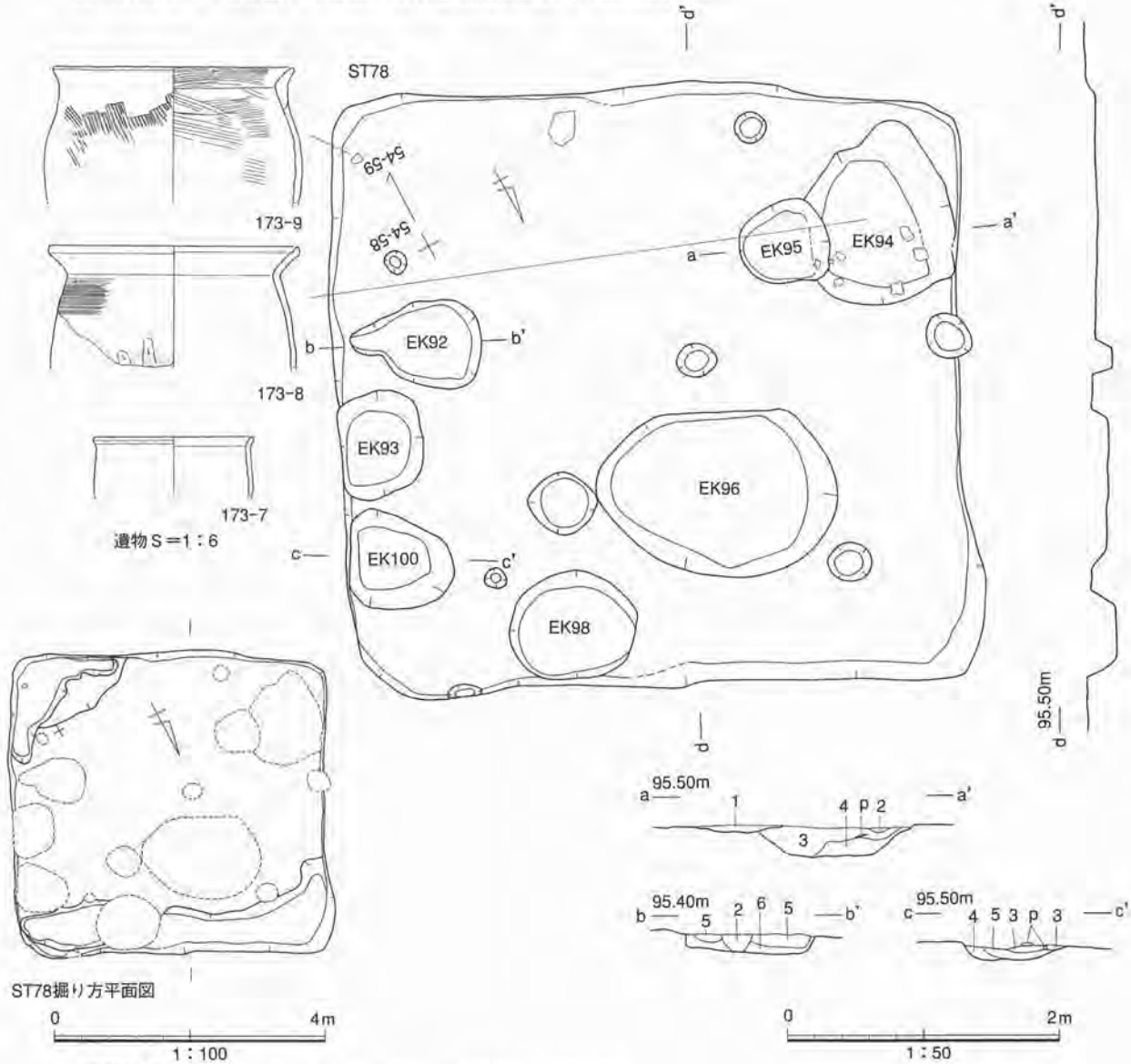
第18図　遺構実測図―ST31・38―



第19図　遺構実測図—ST76・SK90—

ST76・SK90土層注記

1　10YR2/3黒褐色粘土質シルト（炭化粒1%・10YR4/4褐色シルト粒5%・土器片3%混入）人為的埋土
2　10YR2/3黒褐色粘土質シルト（炭化粒1%・10YR4/4褐色シルト粒20%・土器片3%混入）人為的埋土
3　10YR2/2黒褐色粘土質シルト（10YR2/1黒色粘土質シルトブロック・10YR4/4褐色シルトブロック斑に10%・土器片3%混入）
4　10YR3/2黒褐色粘土質シルト（10YR2/1黒色粘土質シルト粒5%・10YR4/4褐色シルトブロック斑に10%混入）
5　10YR3/2黒褐色粘土質シルト（10YR2/1黒色粘土質シルト粒5%・10YR4/4褐色シルトブロック30%混入）カマド天井崩落土
6　10YR3/2黒褐色粘土質シルト（10YR2/1黒色粘土質シルト粒5%・10YR4/4褐色シルトブロック5%・焼土粒10%混入）
7　焼土
8　10YR4/4褐色粘土質シルト（6層・焼土粒5%混入、しまる、上面比熱痕跡あり）
9　10YR4/4褐色粘土質シルト（6層・焼土粒1%混入）
10　10YR2/2黒褐色粘土質シルト（焼土粒・炭化粒10%混入、やわらかい）
11　10YR4/3にぶい黄褐色シルト質粘土（11層斑に20%混入）
12　10YR4/3にぶい黄褐色シルト質粘土（10YR2/1黒色粘土質シルト斑に20%混入）

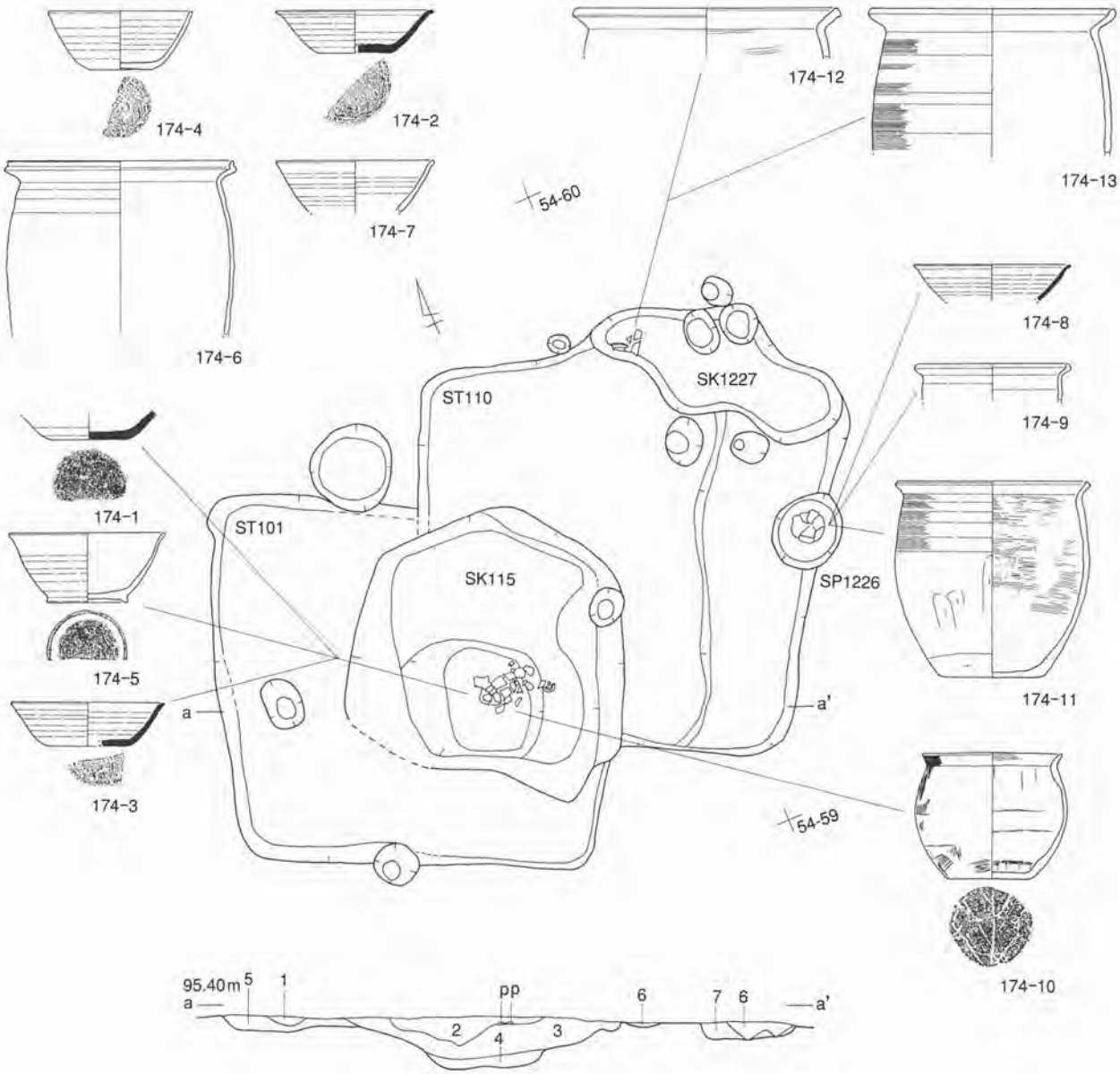


ST78掘り方平面図

ST78土層注記

1　2.5YR3/2黒褐色粘土質シルト（10YR2/1黒色粘土質シルト斑に20%・10YR3/4暗褐色粘土質シルト粒5%混入）人為的埋土
2　10YR2/1黒色粘土質シルト（2.5YR3/2黒褐色粘土質シルト10%混入）人為的埋土
3　10YR2/1黒色粘土質シルト（2.5YR3/2黒褐色粘土質シルト・10YR3/4暗褐色粘土質シルト・炭化粒5%混入）人為的埋土
4　10YR2/1黒色粘土質シルト（2.5YR3/2黒褐色粘土質シルト5%・10YR3/4暗褐色粘土質シルト10%・炭化粒・焼土粒3%混入）人為的埋土
5　10YR2/1黒色粘土質シルト（2.5YR3/2黒褐色粘土質シルト・10YR3/4暗褐色粘土質シルト・焼土粒5%混入）人為的埋土
6　10YR2/1黒色粘土質シルト（2.5YR3/2黒褐色粘土質シルト・10YR3/4暗褐色粘土質シルト10%混入）人為的埋土

第20図　遺構実測図―ST78―



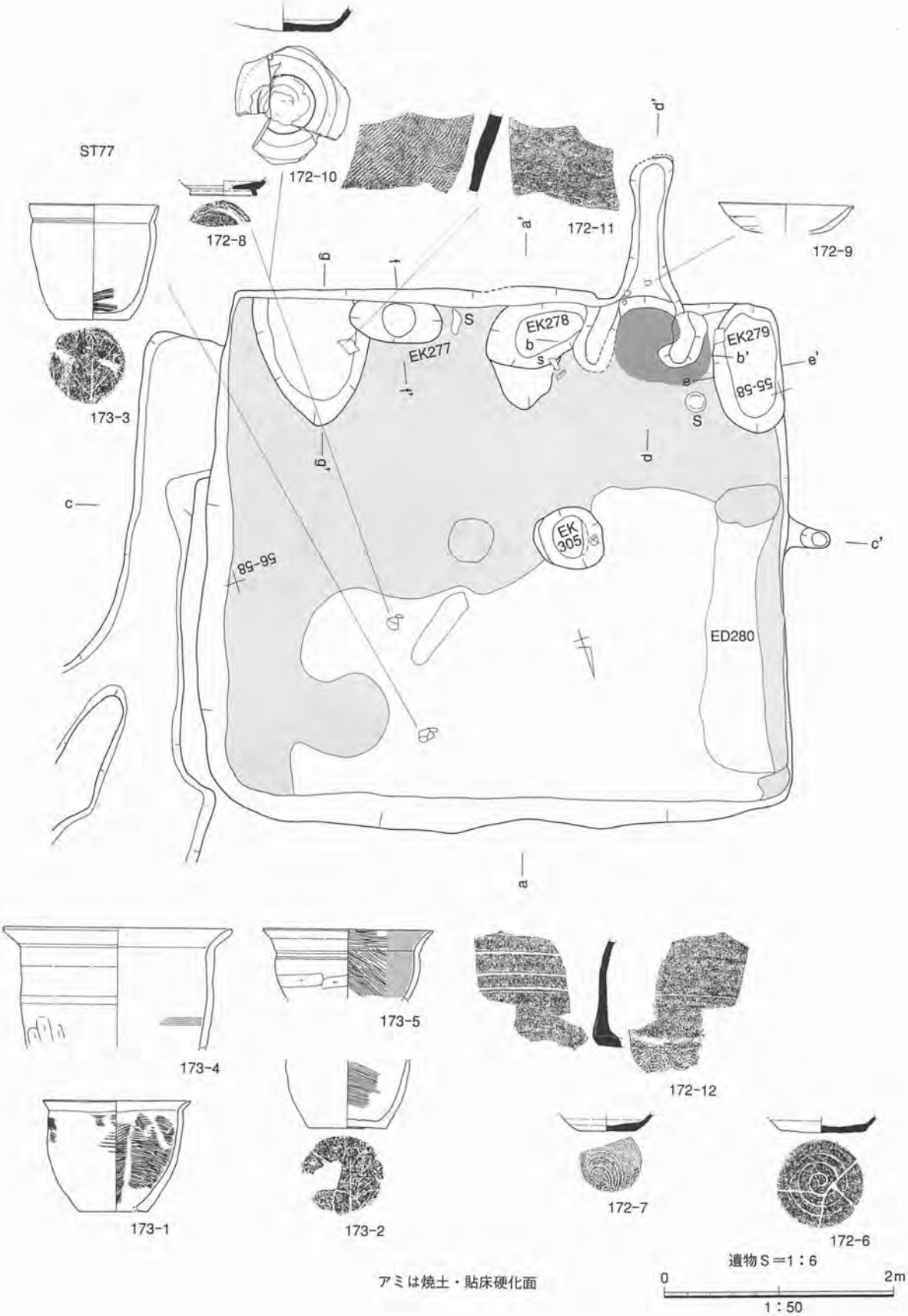
ST101・110土層注記

1　10YR2/2黒褐色粘土（10YR4/2灰黄褐色シルト粒20%・10YR4/4褐色粘土・10YR3/3暗褐色粘土斑に混入）
2　10YR2/2黒褐色粘土（10YR4/4褐色粘土質シルト粒10%混入）
3　10YR2/2黒褐色粘土（10YR4/4褐色粘土質シルト粒10%・10YR2/2黒褐色細砂20%混入）
4　10YR3/2黒褐色砂（3層10%混入）
5　10YR2/2黒褐色粘土（10YR4/4褐色粘土質シルト粒20%・10YR2/2黒褐色細砂20%混入）
6　10YR2/1黒色粘土質シルト（炭化粒5%混入）
7　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト（6層粒5%混入）

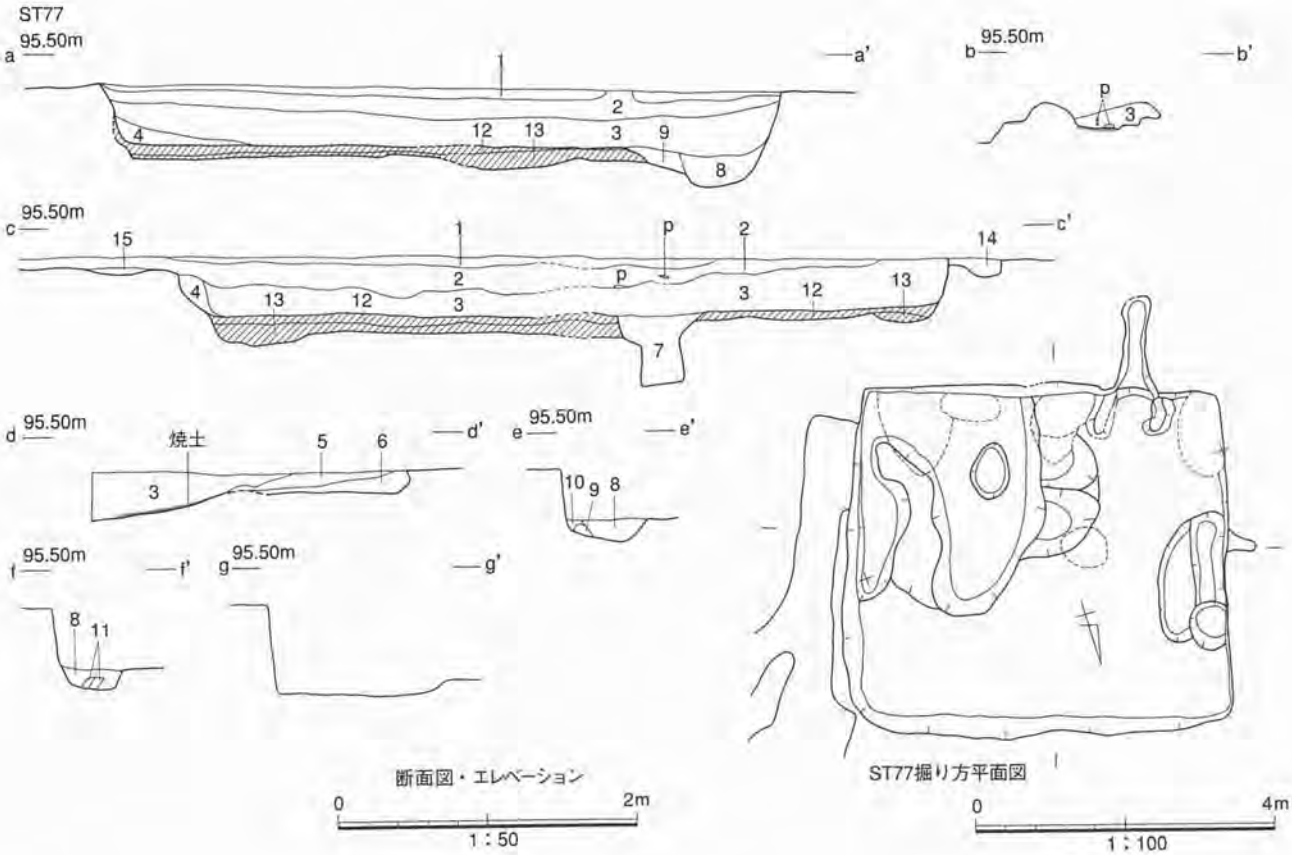
遺物S＝1：6

0　2m
1：50

第21図　遺構実測図―ST101・110、SK115・1227―



第22図　遺構実測図―ST77―



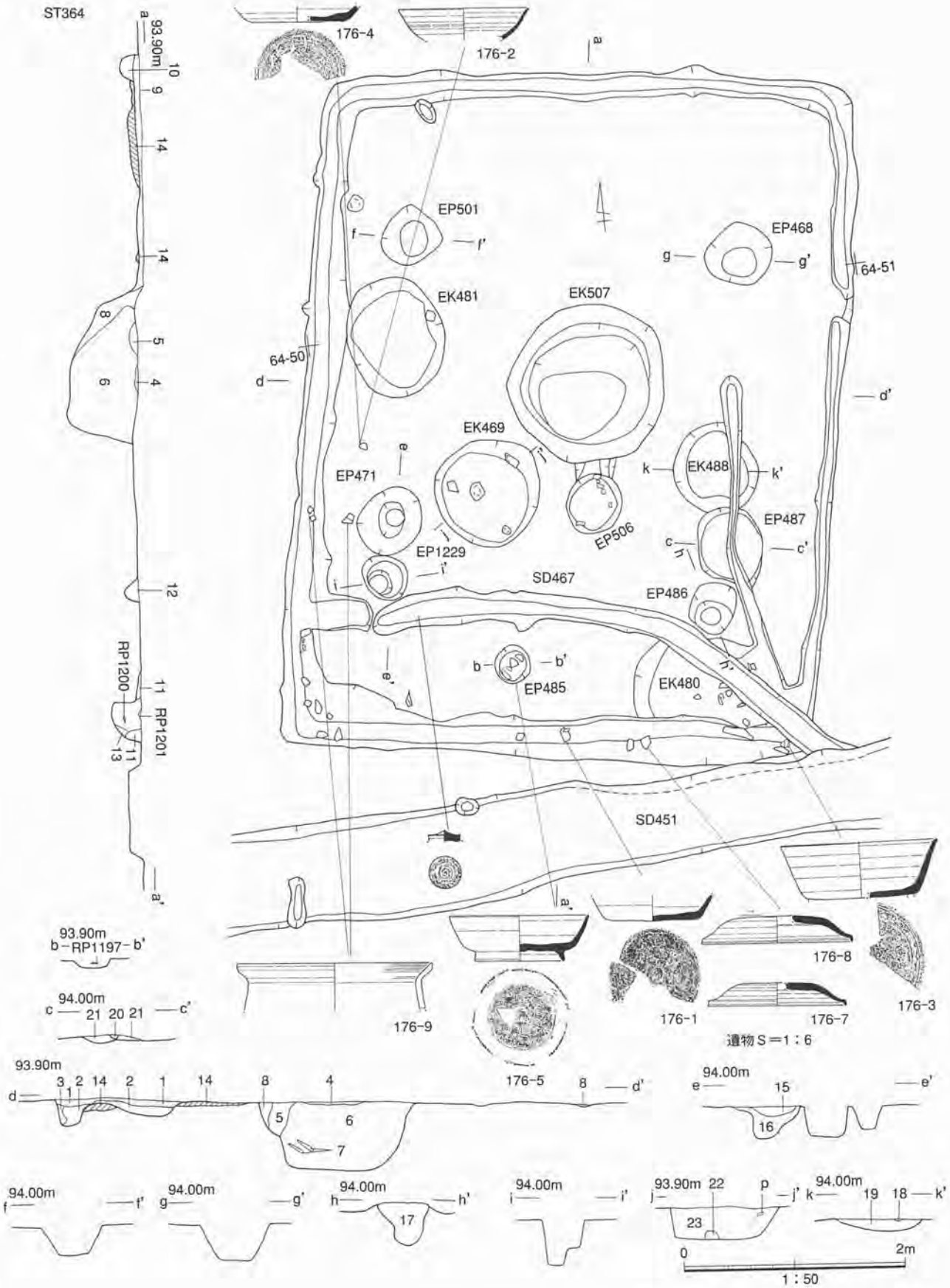
ST77土層注記

1　10YR3/2黒褐色粘土質シルト（10YR4/4黒色粘土20%混入）
2　10YR3/1黒褐色粘土質シルト（10YR3/3暗褐色シルト粒・10YR4/1粒褐灰色シルト30%・土器混入）
3　10YR3/3暗褐色粘土質シルト（10YR2/1黒色粘土・10YR3/4暗褐色粘土・10YR4/4褐色粘土5%混入）
4　10YR3/4暗褐色砂質シルト（3層5%混入）壁崩落土
5　10YR3/3暗褐色粘土質シルト（10YR2/1黒色シルト粒・焼土粒5%混入）
6　10YR3/3暗褐色粘土質シルト(10YR2/1黒色シルト粒5%・焼土粒10%混入）
7　10YR3/3暗褐色粘土質シルト（10YR4/4褐色粘土10%混入）
8　10YR3/3暗褐色粘土質シルト（10YR2/1黒色粘土・10YR4/4褐色粘土5%混入）
9　10YR3/3暗褐色粘土質シルト（10YR2/1黒色粘土5%・10YR4/4褐色粘土10%混入）
10　10YR3/3暗褐色粘土質シルト（10YR2/1黒色粘土・10YR3/4暗褐色粘土5%・10YR4/4褐色粘土10%混入）
11　焼土塊
12　10YR4/4褐色粘土質シルト（10YR2/1黒色粘土30%・10YR3/4暗褐色粘土5%混入）
13　10YR4/4褐色粘土質シルト（10YR2/1黒色粘土20%・10YR3/4暗褐色粘土5%・細砂10%混入）
14　10YR3/1黒褐色粘土質シルト
15　10YR3/1黒褐色粘土質シルト（2層40%混入）

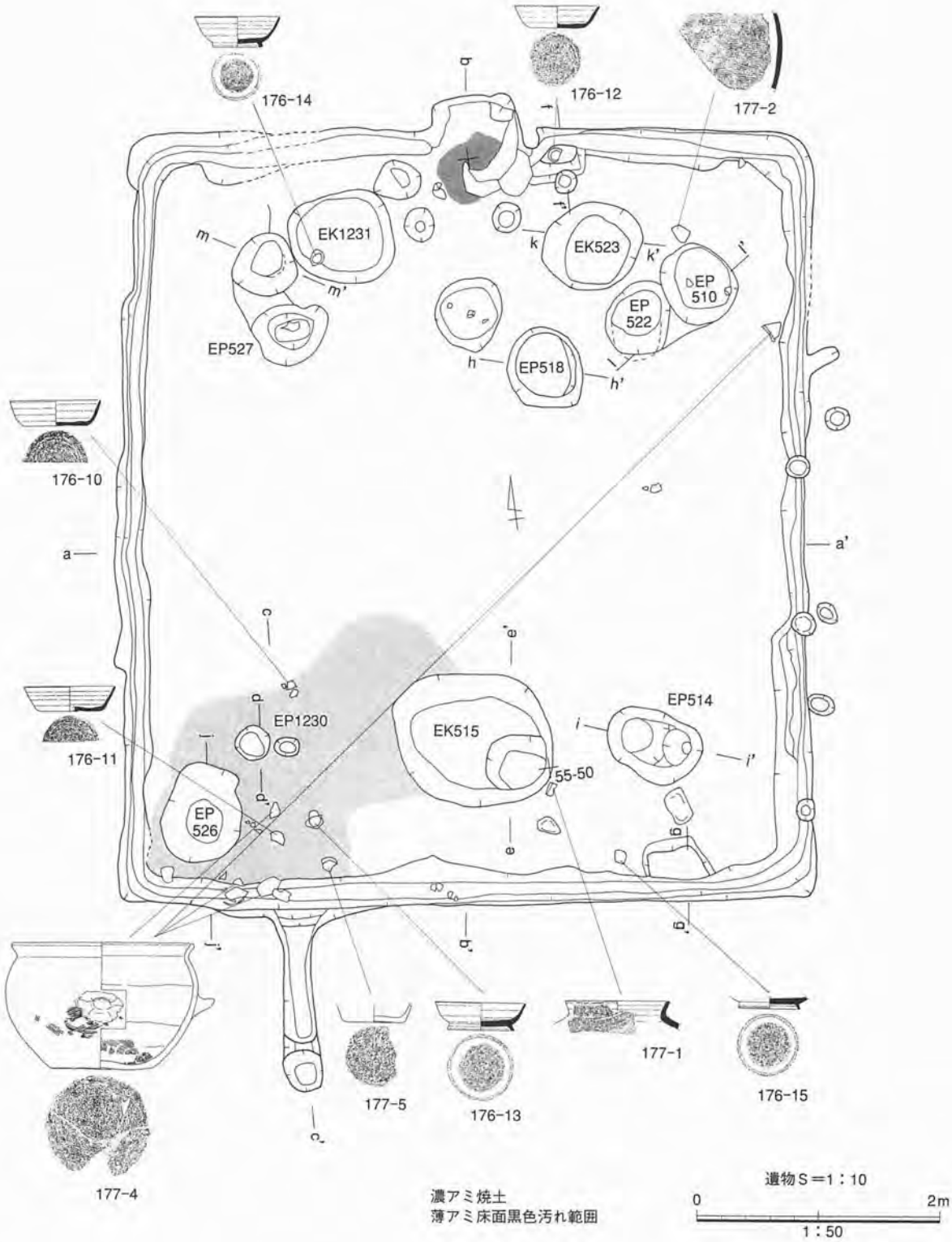
ST364土層注記

1　10YR3/1黒褐色粘土（10YR4/1褐灰色粘土・10YR5/3にぶい黄褐色粘土0.1～0.5cm大各3%混入）
2　10YR5/3にぶい黄褐色粘土（1層・10YR4/1褐灰色粘土霜降り状に5%混入）
3　10YR3/2黒褐色シルト（1層粒5%混入）
4　10YR5/4にぶい黄褐色粘土
5　10YR2/1黒色粘土質シルト（6層斑に10%混入）
6　7.5Y3/2オリーブ黒色砂質シルト（炭化粒1%混入、硬くしまる）
7　10YR5/3にぶい黄褐色粘土（1層・10YR4/1褐灰色粘土霜降り状に5%混入）
8　10YR2/2黒褐色粘土（地山斑に10%混入）
9　10YR2/1黒色粘土
10　10YR5/3にぶい黄褐色粘土（10YR2/1黒色粘土混入）
11　10YR2/1黒色粘土（10層・地山粒0.5cm大10%・炭化粒5%混入）
12　10YR2/1黒色粘土質シルト（地山1～3cm大・炭化粒5%混入）
13　地山ブロック
14　10YR2/1黒色粘土（10層・地山粒0.5cm大30%・炭化粒5%混入）貼床
15　10YR3/1黒褐色粘土（10YR4/1褐灰色粘土・10YR5/3にぶい黄褐色粘土0.1～0.5cm大各20%混入）
16　10YR3/1黒褐色粘土（10YR4/1褐灰色粘土・10YR5/3にぶい黄褐色粘土0.1～0.5cm大各10%混入）
17　7.5Y3/2オリーブ黒色砂質シルト（1層粒10%・炭化粒1%混入、硬くしまる）
18　6層に19層斑に10%混入
19　10YR2/2黒褐色粘土（地山斑に20%混入）
20　18層に類似、21層10%混入
21　10YR2/2黒褐色粘土（地山斑に20%・炭化粒5%混入）
22　白色粘土塊
23　6層に類似、22層粒1cm大5%混入

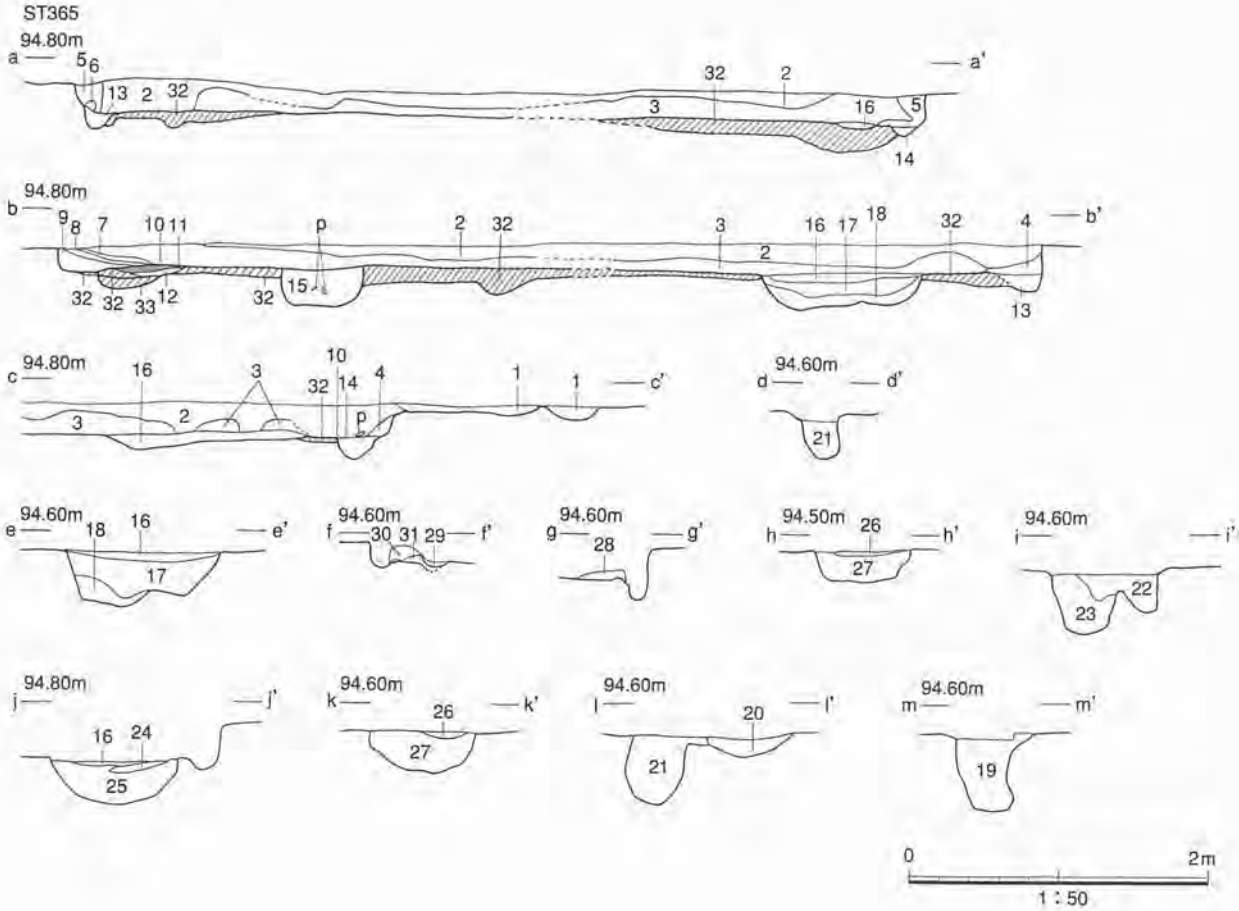
第23図　遺構実測図―ST77―



第24図　遺構実測図―ST364―



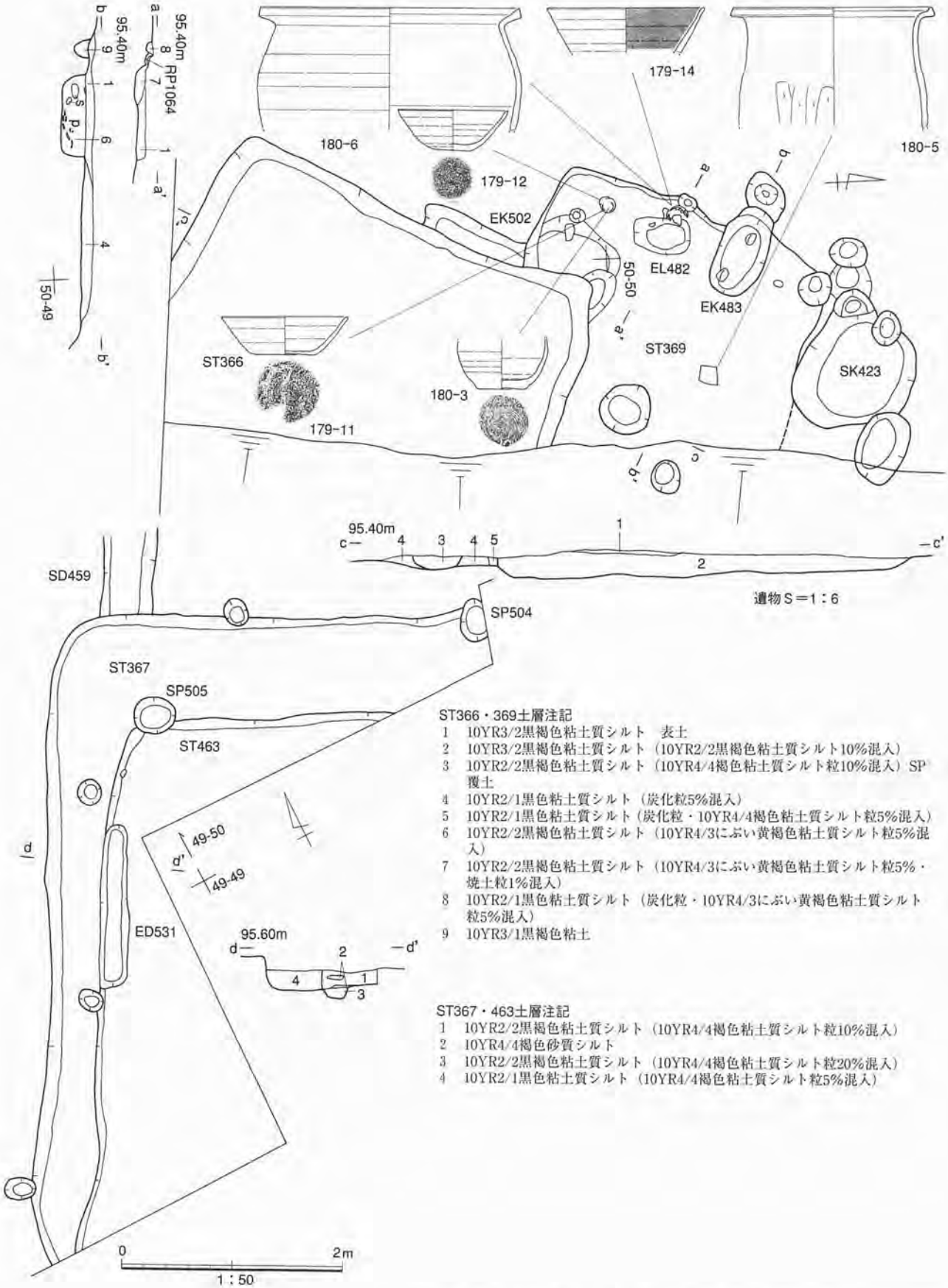
第25図　遺構実測図―ST365―



ST365土層注記

1　10YR2/2黒褐色砂質シルト（ほぼ均質）
2　10YR2/1黒色粘土（10YR4/4褐色シルト質粘土0.5～3cm大粒10%・10YR4/1褐灰色粘土粒0.5～1cm大5%混入、硬くしまりぱさぱさする、酸化鉄浸透する）
3　10YR3/1黒褐色粘土（10YR4/4褐色シルト質粘土粒0.1～1cm大10%・10YR4/1褐灰色粘土粒0.5～1cm大1%混入、2層よりも粘性強く硬くしまる）
4　地山に2層が5%斑に混入
5　地山に2層が10%斑に混入
6　10YR4/3にぶい黄褐色粘土　地山ブロック
7　3層に白色粘土混入
8　3層に焼土粒混入
9　3層に焼土粒少量混入
10　炭化粒
11　7.5YR4/6赤褐色粘土（硬く焼きしまる）
12　7.5YR4/4にぶい赤褐色粘土質シルト　被熱層
13　10YR4/3にぶい黄褐色粘土（10YR3/2黒褐色シルト・10YR4/1褐灰色粘土各1%混入）
14　10YR3/2黒褐色粘土（10YR2/1黒色粘土・炭化粒1%・10YR4/4褐色粘土5%混入）
15　10YR4/1褐灰色粘土（10YR6/4にぶい黄橙色粘土30%混入）
16　10YR2/1黒色粘土（10YR3/1黒褐色粘土5%斑に混入）
17　10YR4/2灰黄褐色粘土（16層斑に一部帯状・18層斑に5%混入）
18　2.5Y4/1黄灰色粘土（16層1%・17層5%混入）
19　10YR2/1黒色粘土（地山ブロック1～5cm大5%・10YR2/2黒褐色粘土斑に10%混入）
20　10YR2/1黒色粘土（10YR2/2黒褐色粘土・10YR4/3にぶい黄褐色粘土粒5%・焼土粒・炭化粒1%混入）
21　10YR3/1黒褐色粘土（10YR2/1黒色粘土5%・10YR4/3にぶい黄褐色粘土10%混入）
22　20層に焼土粒・炭化粒が混入しない
23　10YR3/1黒褐色粘土（10YR2/1黒色粘土10%・10YR4/3にぶい黄褐色粘土5%混入）
24　2.5YR5/2暗灰黄色粘土（16層が1%混入）
25　10YR4/2灰黄褐色粘土（16・24層がほぼ均質に1～3cm大ブロックで5%混入）
26　10YR3/2黒褐色粘土（10YR4/1褐灰色粘土10%・地山粒1%・10YR4/4褐色粘土5%混入）
27　2.5Y4/1黄灰色粘土（16層20%・地山1%混入）
28　10YR3/1黒褐色粘土（地山10%硬くしまる）
29　10YR3/2黒褐色粘土（30層1%・焼土粒10%・炭化粒5%混入）
30　2.5Y4/3オリーブ褐色粘土質シルト（硬くしまる）
31　30層に29層・焼土1%混入
32　10YR4/2灰黄褐色粘土（10YR2/1黒色粘土3%混入）貼床
33　10YR4/3にぶい黄褐色粘土（10YR2/2黒褐色粘土1%混入）貼床

第26図　遺構実測図―ST365―



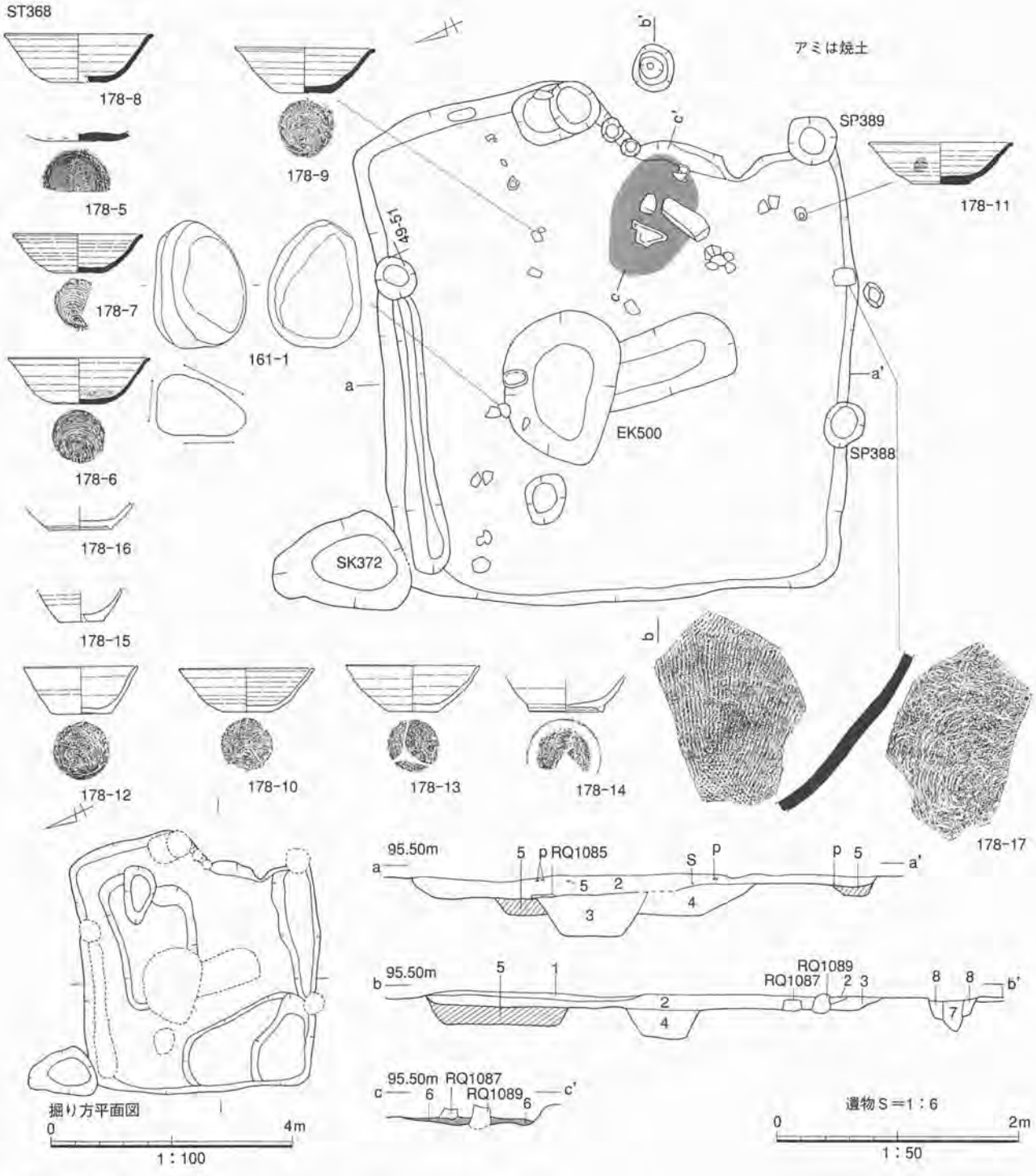
ST366・369土層注記

1　10YR3/2黒褐色粘土質シルト　表土
2　10YR3/2黒褐色粘土質シルト（10YR2/2黒褐色粘土質シルト10%混入）
3　10YR2/2黒褐色粘土質シルト（10YR4/4褐色粘土質シルト粒10%混入）SP覆土
4　10YR2/1黒色粘土質シルト（炭化粒5%混入）
5　10YR2/1黒色粘土質シルト（炭化粒・10YR4/4褐色粘土質シルト粒5%混入）
6　10YR2/2黒褐色粘土質シルト（10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト粒5%混入）
7　10YR2/2黒褐色粘土質シルト（10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト粒5%・焼土粒1%混入）
8　10YR2/1黒色粘土質シルト（炭化粒・10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト粒5%混入）
9　10YR3/1黒褐色粘土

ST367・463土層注記

1　10YR2/2黒褐色粘土質シルト（10YR4/4褐色粘土質シルト粒10%混入）
2　10YR4/4褐色砂質シルト
3　10YR2/2黒褐色粘土質シルト（10YR4/4褐色粘土質シルト粒20%混入）
4　10YR2/1黒色粘土質シルト（10YR4/4褐色粘土質シルト粒5%混入）

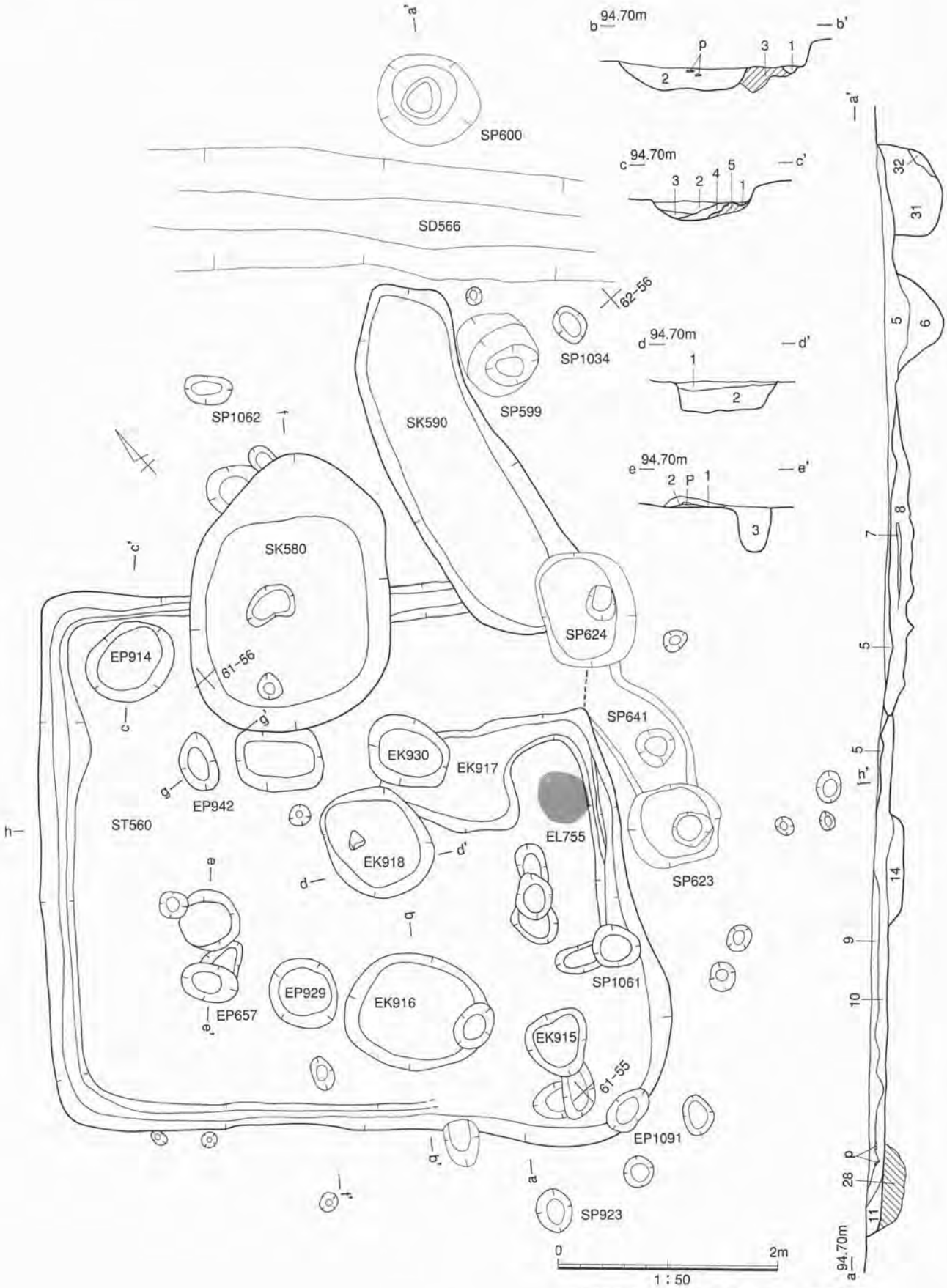
第27図　遺構実測図―ST366・369・367・463―



ST368土層注記

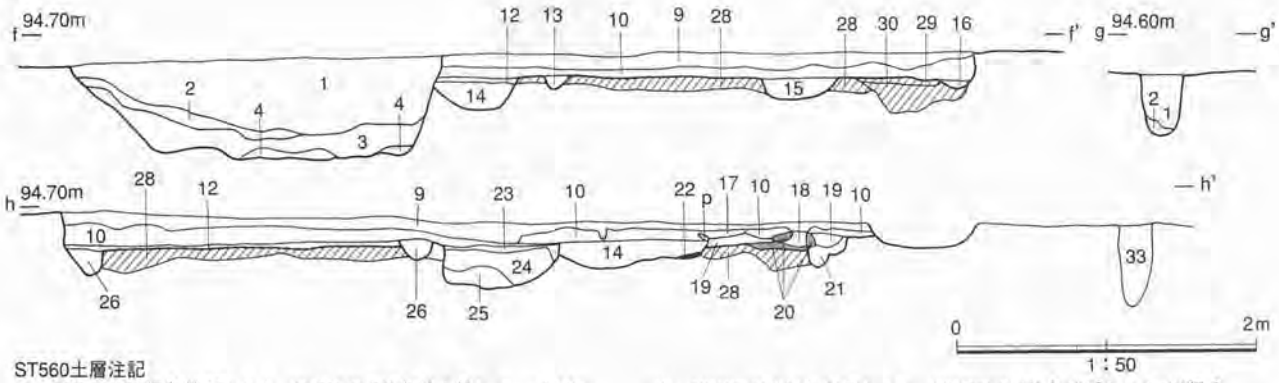
1　10YR3/2黒褐色粘土（10YR4/3にぶい黄褐色シルト・10YR4/1褐灰色シルト・10YR3/3暗褐色シルト質粘土粒0.1から1cm大各5%斑に混入）
2　10YR2/2黒褐色粘土（10YR4/3にぶい黄褐色シルト・10YR4/1褐灰色シルト・10YR3/3暗褐色シルト質粘土粒0.1から1cm大各5%斑に混入）
3　10YR2/2黒褐色粘土（10YR4/3にぶい黄褐色シルト・10YR4/1褐灰色シルト・10YR3/3暗褐色シルト質粘土粒0.1から1cm大各10%斑に混入）
4　10YR2/2黒褐色粘土（10YR4/3にぶい黄褐色シルト・10YR3/3暗褐色シルト質粘土・焼土粒0.1～1cm大各10%斑に混入）
5　10YR4/3にぶい黄褐色粘土（1・2層粒21%混入）貼床
6　焼土
7　10YR2/1黒色粘土（10YR4/4褐色シルト地山斑に1%混入）
8　10YR2/1黒色粘土（10YR4/4褐色シルト地山斑に50%混入）

第28図　遺構実測図―ST368―



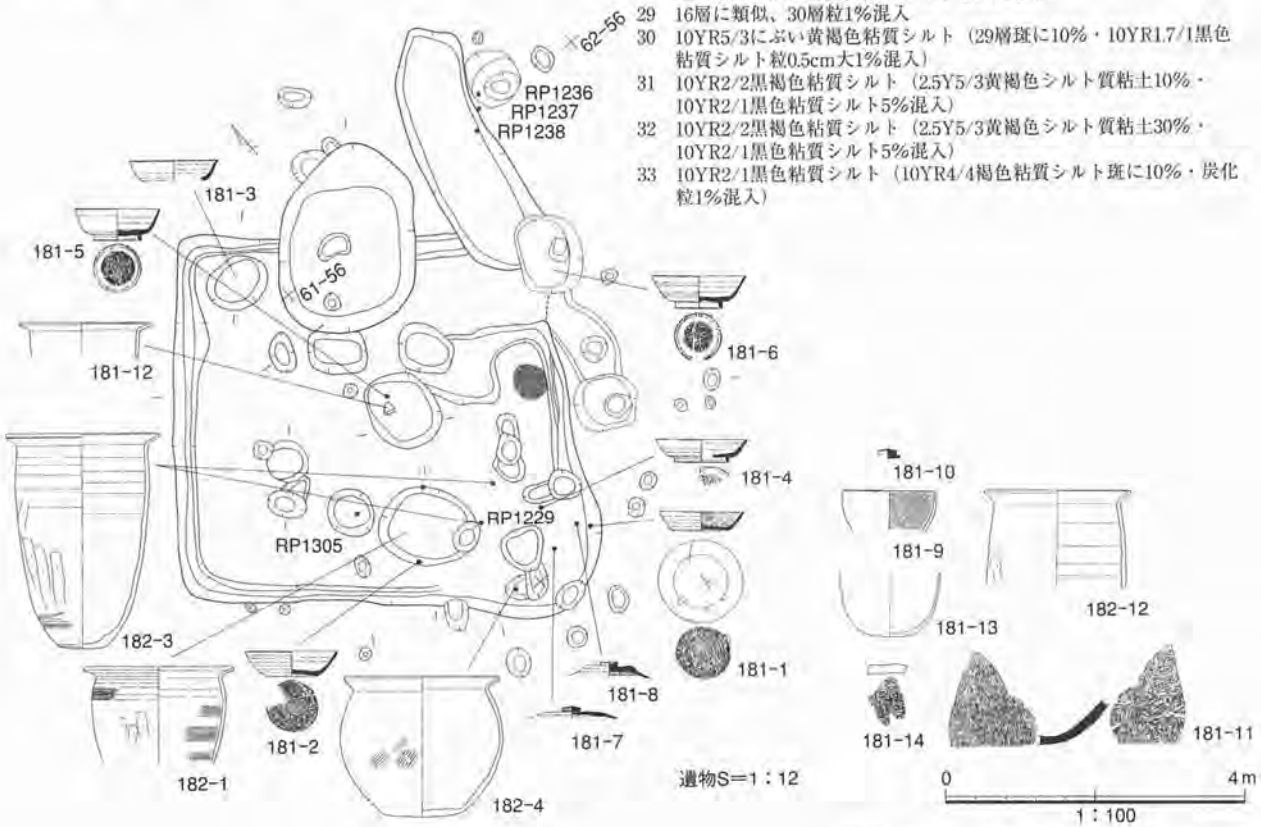
第29図　遺構実測図―ST560―

ST560

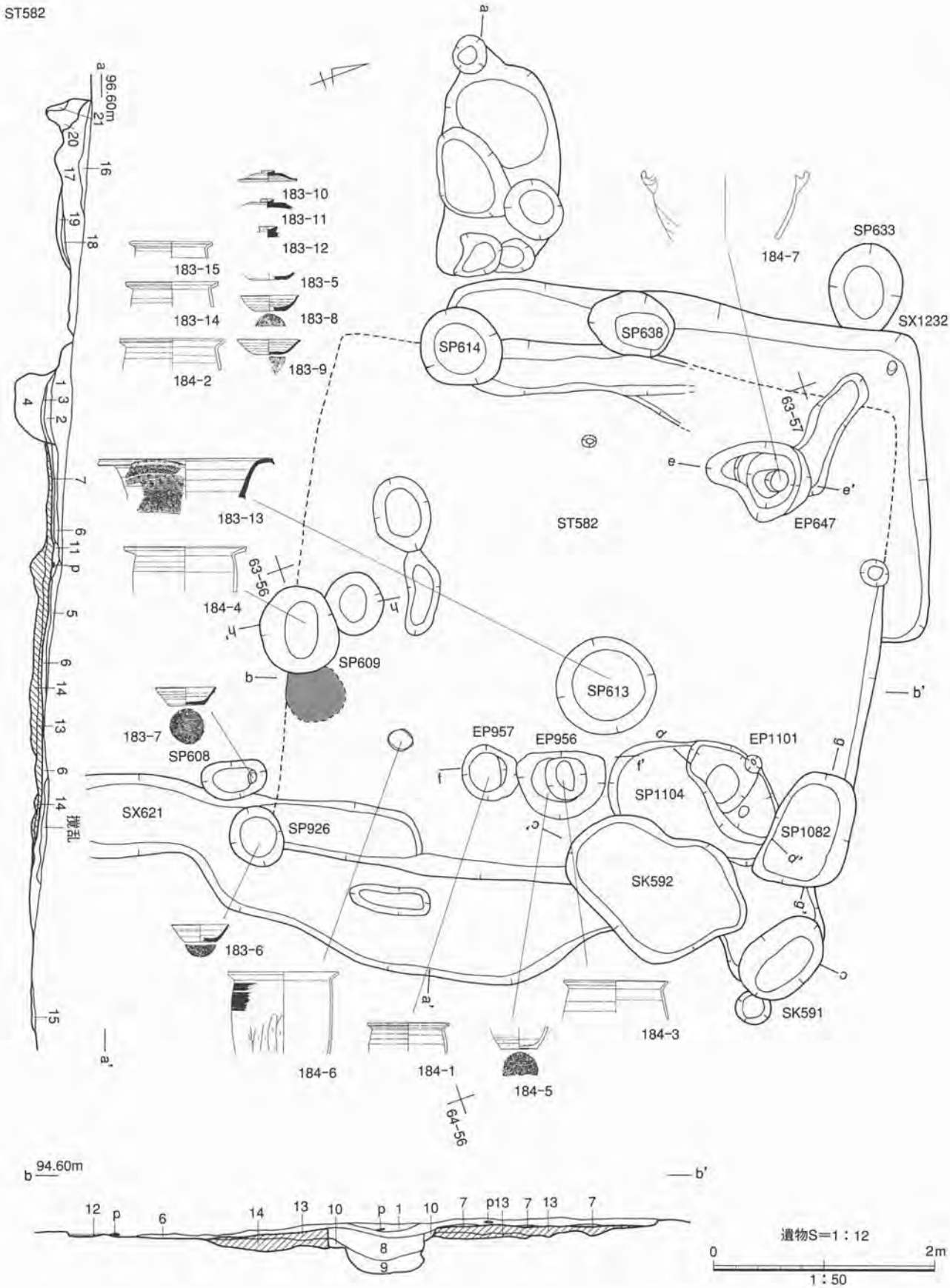


ST560土層注記

1　10YR3/2黒褐色粘質シルト（2.5Y5/3黄褐色粘土粒1～5cm大5%・炭化粒0.5cm大1%混入、硬くしまっている）　SK593に類似　埋土
2　10YR3/2黒褐色粘質シルト（2.5Y5/3黄褐色粘土ブロック10cm大40%・炭化粒1%混入、硬くしまっている）埋土
3　10YR3/1黒褐色粘質シルト（2.5Y5/3黄褐色粘土ブロック5cm大5%・炭化粒1%混入、硬くしまっている）埋土
4　2.5Y5/3黄褐色粘土（3層マーブル状に5%混入）埋土
5　10YR3/2黒褐色砂質シルト（2.5Y5/3黄褐色粘土3cm大ブロック5%混入、乾燥しやすく硬くしまっている、磨滅した土器出土）
6　10YR3/1黒褐色砂質シルト（2.5Y5/3黄褐色粘土斑5%・5層粒1%混入、下の分層面に鉄分の沈着が認められる）
7　10YR2/3黒褐色細砂（粗砂混入、水平堆積）
8　10YR2/2黒褐色砂質シルト（炭化粒0.5cm大1%・1層3%・2.5YR5/3黄褐色粘土1～3cm大ブロック5%混入、土器片混入）
9　10YR2/2黒褐色粘質シルト（2.5Y5/3黄褐色粘土粒0.1～0.5cm大・10YR4/1褐灰色粘土粒0.1～0.5cm大・炭化粒1%弱混入、硬くしまっている）
10　10YR2/2黒褐色粘質シルト（2.5Y5/3黄褐色粘土粒0.1～0.5cm大5%・10YR4/1褐灰色粘土粒0.1～0.5cm大1%・炭化粒1%混入）
11　10YR3/2黒褐色砂質シルト（2.5Y5/3黄褐色粘土粒0.1～0.5cm大・10YR4/1褐灰色粘土粒0.1～0.5cm大・炭化粒各10%混入、硬くしまっている）
12　10YR5/8黄褐色粘質シルト（10YR2/2黒褐色砂質シルト5%混入、硬くしまる）
13　黒褐色
14　10YR5/8黄褐色粘質シルト（10YR2/2黒褐色砂質シルト・10YR2/2黒褐色砂質シルト各10%斑に混入）
15　30層に類似、混入物が30層に比べ各層半分以下
16　10YR2/3黒褐色シルト（30層粒0.1cm大5%混入）周構覆土
17　10層に地山粒0.1cm大10%混入
18　7.5YR4/6褐色シルト（19層に20%混入）
19　7.5YR2/2黒褐色粘質シルト（18層粒1cm大5%・炭化粒0.5cm大3%混入、土器片混入）
20　焼土
21　24層に類似、10YR2/1黒色シルト24層に比べまとまって混入
22　炭化物帯状に混入
23　10YR2/3黒褐色シルト（炭化粒0.2cm大1%・地山3%混入）
24　10YR3/2黒褐色粘質シルト（10YR3/1黒褐色粘質シルト5%・10YR1.7/1黒色粘質シルト3%混入）
25　10YR3/2黒褐色粘質シルト（24層に比べ地山ブロック5cm大混入）
26　黒褐色シルト
27　2.5YR4/2暗灰黄色シルト（2.5Y3/2黒褐色粘質シルト5%・2.5Y5/3黄褐色シルト斑に10%混入）周構覆土
28　10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト（10YR2/2黒褐色砂質シルト・10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト各5%混入）
29　16層に類似、30層粒1%混入
30　10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト（29層斑に10%・10YR1.7/1黒色粘質シルト粒0.5cm大1%混入）
31　10YR2/2黒褐色粘質シルト（2.5Y5/3黄褐色シルト質粘土10%・10YR2/1黒色粘質シルト5%混入）
32　10YR2/2黒褐色粘質シルト（2.5Y5/3黄褐色シルト質粘土30%・10YR2/1黒色粘質シルト5%混入）
33　10YR2/1黒色粘質シルト（10YR4/4褐色粘質シルト斑に10%・炭化粒1%混入）

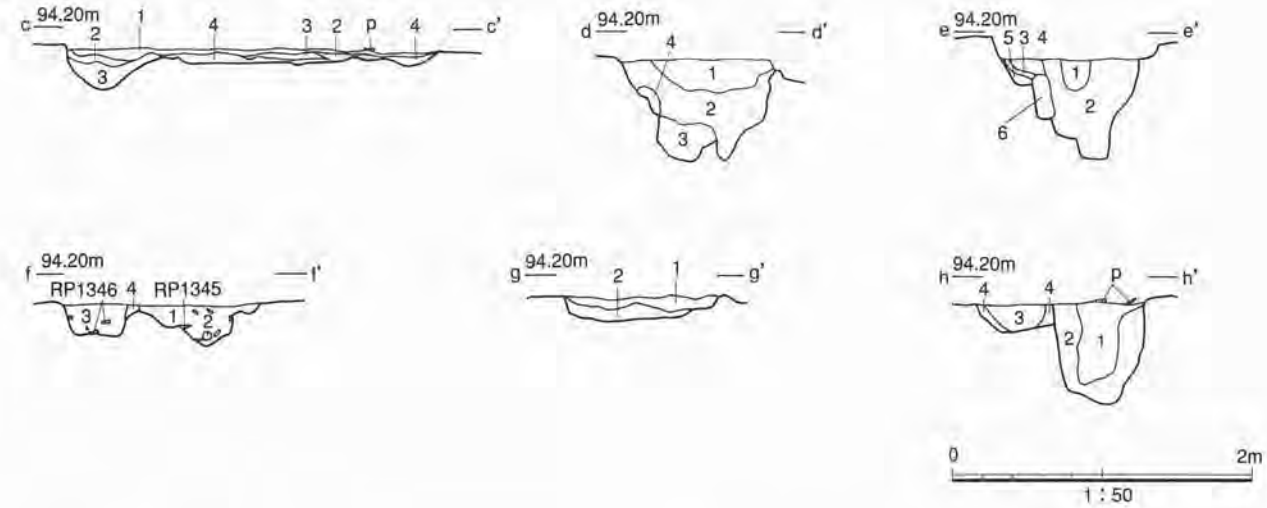


第30図　遺構実測図―ST560―



第31図　遺構実測図―ST582―

ST582



a-a' 土層注記
1 7.5YR6/1褐灰色シルト
2 7.5YR6/2灰褐色シルト
3 7.5YR5/1褐灰色シルト
4 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘質シルト（7層粒0.3～1cm大3%・16層0.5～3cm大5%・7.5YR5/8明褐色シルト粒1%混入）
5 10YR3/2黒褐色砂質シルト（土器片・炭化粒0.5cm大1%・6層1%混入、柱痕と考えたが違う）
6 2.5Y5/3黄褐色粘土（5層粒・2.5Y4/2暗黄灰色粘質シルト粒0.1～1cm大各5%混入）
7 2.5Y3/1黒褐色シルト質粘土
8 10YR3/2黒褐色シルト質粘土（6層粒5%・2.5Y4/2暗黄灰色粘質シルト粒5%・7.5YR5/8明褐色シルト粒3%・9層粒0.5～1cm大3%混入）
9 10YR1.7/1黒色粘質シルト（6層・2.5Y4/2暗黄灰色粘質シルト粒斑に各10%・7.5YR5/8明褐色シルト粒1%混入）
10 2.5Y4/2暗灰黄色粘質シルト（5層粒1%・6層粒10%混入）
11 6層・7層斑に50%混入
12 焼土
13 10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト（10YR2/2黒褐色砂質シルト5%・10YR3/1黒褐色粘質シルト10%斑に混入）
14 10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト（10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト20%・10YR2/2黒褐色砂質シルト5%混入）
15 7.5YR3/1黒褐色シルト
16 SD566 F1
17 10YR2/3黒褐色砂質シルト（18層0.1～0.5cm大5%・炭化粒3%混入）
18 2.5Y5/3黄褐色粘質シルト（17層粒5%混入）
19 10YR2/2黒褐色砂質シルト（17層粒5%・18層5%混入）
20 10YR2/1黒色粘質シルト
21 2.5Y5/4黄褐色粘土（20層3%混入）掘り方

c-c' 土層注記
1 2.5Y5/2暗灰黄色砂質シルト
2 2.5Y4/2暗灰黄色砂質シルト
3 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質シルト（炭化粒混入）
4 2.5Y6/3にぶい黄色砂質シルト

d-d' 土層注記
1 10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト（10YR3/1黒褐色粘質シルト・10YR3/3暗褐色粘質シルト粒0.1～0.5cm大各10%混入）
2 10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト（10YR3/1黒褐色粘質シルト20%・10YR3/3暗褐色粘質シルト10%・炭化粒0.5cm大5%混入）
3 10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト（10YR3/1黒褐色粘質シルト10%・10YR3/3暗褐色粘質シルト20%・炭化粒3%混入）
4 炭化粒

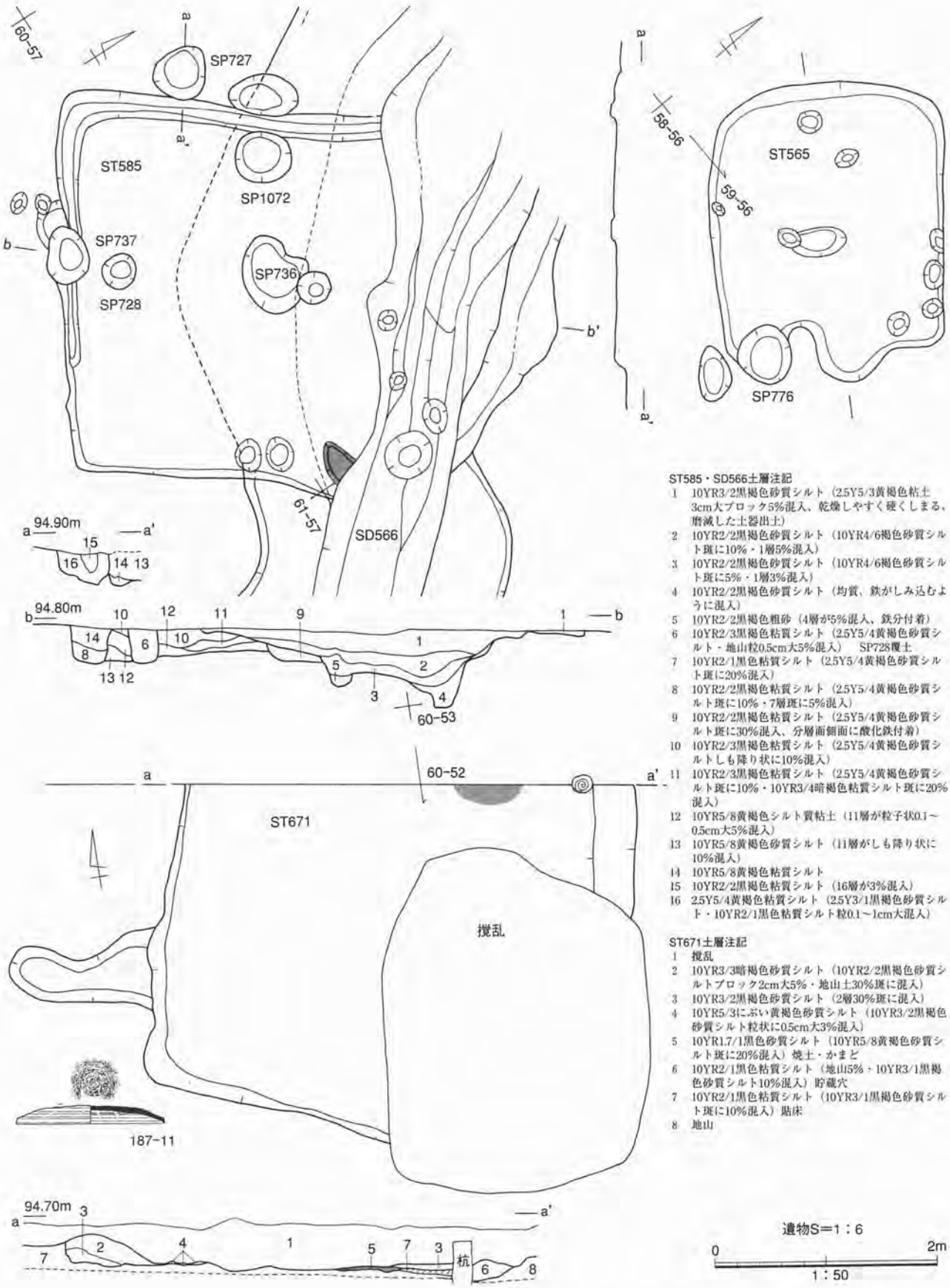
e-e' 土層注記
1 2.5Y3/1黒褐色砂質シルト（2層20%混入）
2 2.5Y5/3黄褐色粘質シルト（2.5Y4/2暗灰黄色粘質シルト20%・1層5%・2.5Y3/1黒褐色粘質シルト5%混入）
3 10YR3/1黒褐色粘質シルト（4層20%混入）
4 2.5Y3/1黒褐色粘質シルト（2.5Y5/3黄褐色粘質シルト30%・5層50%・炭化物10%混入）
5 2.5Y5/3黄褐色粘質シルト（6層5%混入）
6 10YR1.7/1黒色粘質シルト（炭化物50%混入，しめり気がある）

f-f' 土層注記
1 10YR2/1黒色粘質シルト（10YR3/2黒褐色砂質シルト・2層斑に各10%、焼土粒0.5cm大1%・炭化粒0.5～1cm大3%混入）
2 2.5Y5/3黄褐色粘質シルト（1層マーブル状に混入）
3 10YR2/3黒褐色粘質シルト（10YR2/1黒色粘質シルト斑に10%・炭化粒1cm大1%・焼土粒0.5～1cm大5%・4層粒0.1～1cm大3%混入）
4 10YR4/1褐灰色粘質シルト（3層1%・地山5%混入）

g-g' 土層注記
1 10YR2/1黒色砂質シルト（地山・10YR3/3暗褐色シルト斑に各10%混入）人為的埋土か？
2 1層に比べ地山の混入が多い

h-h' 土層注記
1 10YR2/1黒色粘質シルト（10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト・10YR3/1黒褐色粘質シルト斑に各5%混入）
2 10YR2/1黒色砂質シルト（10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト30%・1層5%斑に混入）
3 10YR2/2黒褐色粘質シルト（2.5Y5/3黄褐色粘質シルト粒0.5cm大1%混入）
4 10YR2/1黒色粘質シルト（3層・10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト・2.5Y5/3黄褐色粘質シルト粒斑に各5%混入）

第32図　遺構実測図―ST582―



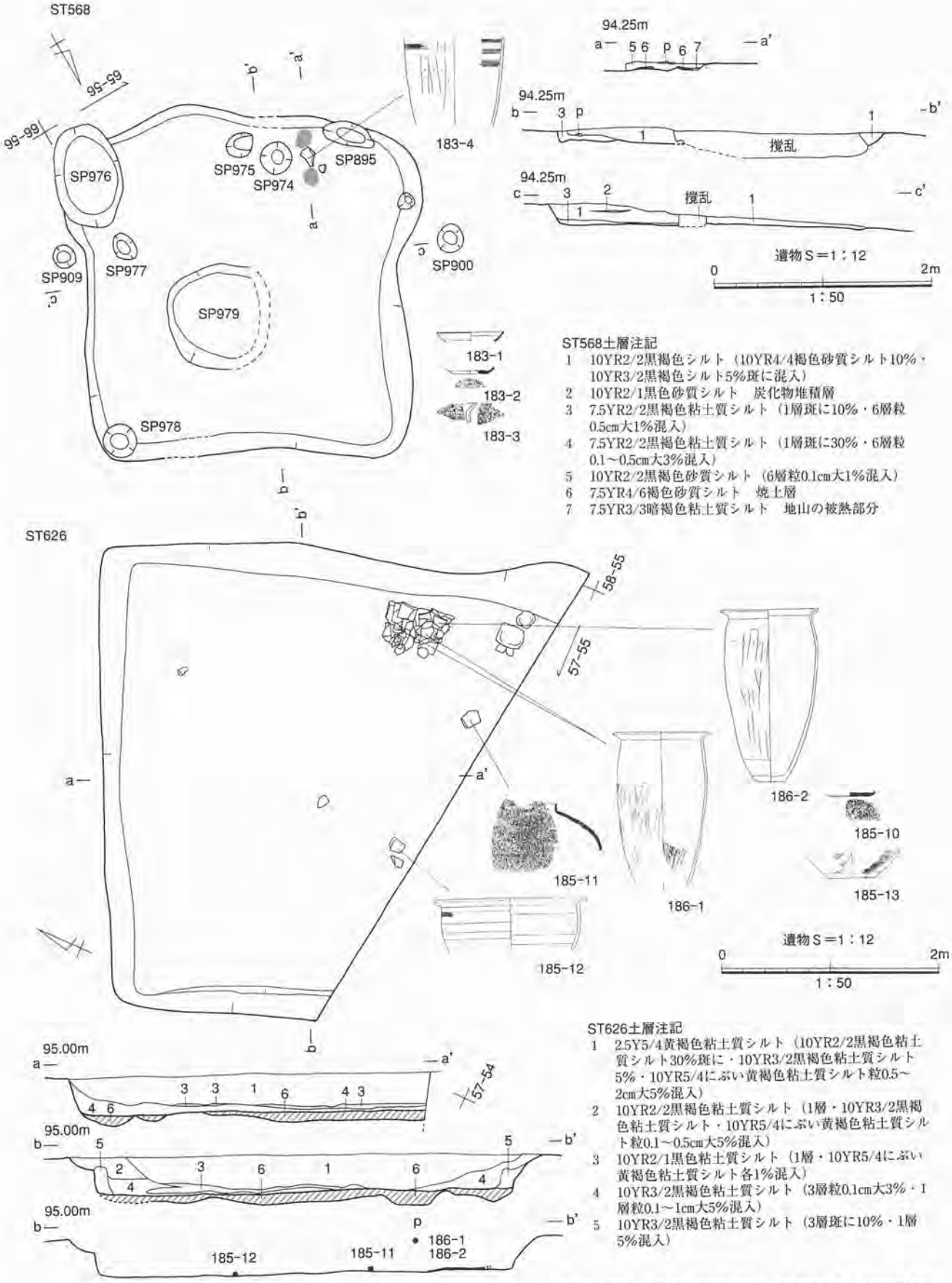
ST585・SD566土層注記

1 10YR3/2黒褐色砂質シルト（2.5Y5/3黄褐色粘土3cm大ブロック5%混入、乾燥しやすく硬くしまる、磨滅した土器出土）
2 10YR2/2黒褐色砂質シルト（10YR4/6褐色砂質シルト斑に10%・1層5%混入）
3 10YR2/2黒褐色砂質シルト（10YR4/6褐色砂質シルト斑に5%・1層3%混入）
4 10YR2/2黒褐色砂質シルト（均質、鉄がしみ込むように混入）
5 10YR2/2黒褐色粗砂（4層が5%混入、鉄分付着）
6 10YR2/3黒褐色粘質シルト（2.5Y5/4黄褐色砂質シルト・地山粒0.5cm大5%混入）　SP728覆土
7 10YR2/1黒色粘質シルト（2.5Y5/4黄褐色砂質シルト斑に20%混入）
8 10YR2/2黒褐色粘質シルト（2.5Y5/4黄褐色砂質シルト斑に10%・7層斑に5%混入）
9 10YR2/2黒褐色粘質シルト（2.5Y5/4黄褐色砂質シルト斑に30%混入、分層面側面に酸化鉄付着）
10 10YR2/3黒褐色粘質シルト（2.5Y5/4黄褐色砂質シルトしも降り状に10%混入）
11 10YR2/3黒褐色粘質シルト（2.5Y5/4黄褐色砂質シルト斑に10%・10YR3/4暗褐色粘質シルト斑に20%混入）
12 10YR5/8黄褐色シルト質粘土（11層が粒子状0.1～0.5cm大5%混入）
13 10YR5/8黄褐色砂質シルト（11層がしも降り状に10%混入）
14 10YR5/8黄褐色粘質シルト
15 10YR2/2黒褐色粘質シルト（16層が3%混入）
16 2.5Y5/4黄褐色粘質シルト（2.5Y3/1黒褐色砂質シルト・10YR2/1黒色粘質シルト粒0.1～1cm大混入）

ST671土層注記

1 搅乱
2 10YR3/3暗褐色砂質シルト（10YR2/2黒褐色砂質シルトブロック2cm大5%・地山土30%斑に混入）
3 10YR3/2黒褐色砂質シルト（2層30%斑に混入）
4 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト（10YR3/2黒褐色砂質シルト粒状に0.5cm大3%混入）
5 10YR1.7/1黒色砂質シルト（10YR5/8黄褐色砂質シルト斑に20%混入）焼土・かまど
6 10YR2/1黒色粘質シルト（地山5%・10YR3/1黒褐色砂質シルト10%混入）貯蔵穴
7 10YR2/1黒色粘質シルト（10YR3/1黒褐色砂質シルト斑に10%混入）貼床
8 地山

第33図　遺構実測図―ST565・585・671、SD566―



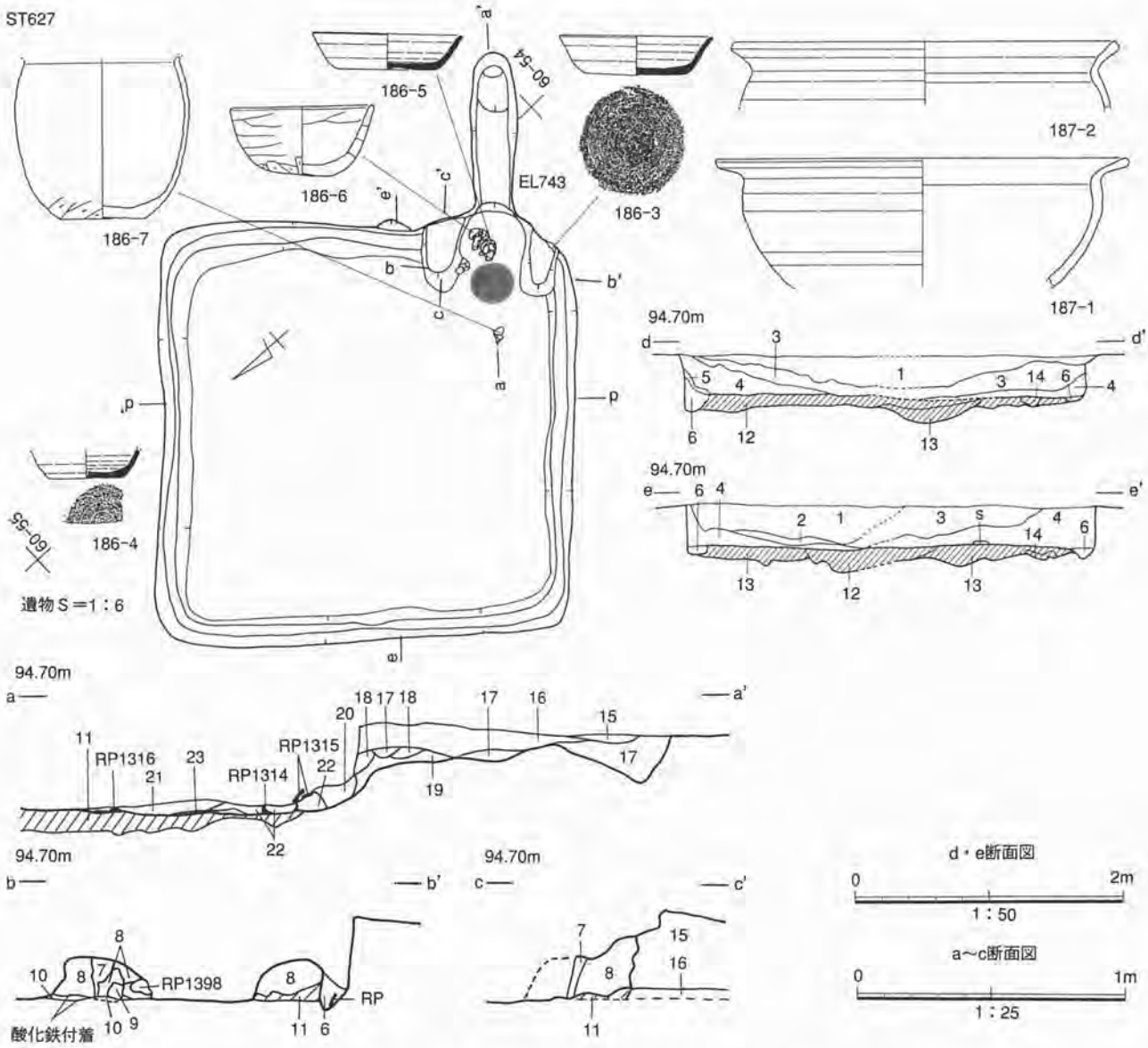
ST568土層注記

1　10YR2/2黒褐色シルト（10YR4/4褐色砂質シルト10%・10YR3/2黒褐色シルト5%斑に混入）
2　10YR2/1黒色砂質シルト　炭化物堆積層
3　7.5YR2/2黒褐色粘土質シルト（1層斑に10%・6層粒0.5cm大1%混入）
4　7.5YR2/2黒褐色粘土質シルト（1層斑に30%・6層粒0.1～0.5cm大3%混入）
5　10YR2/2黒褐色砂質シルト（6層粒0.1cm大1%混入）
6　7.5YR4/6褐色砂質シルト　焼土層
7　7.5YR3/3暗褐色粘土質シルト　地山の被熱部分

ST626土層注記

1　2.5Y5/4黄褐色粘土質シルト（10YR2/2黒褐色粘土質シルト30%斑に・10YR3/2黒褐色粘土質シルト5%・10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルト粒0.5～2cm大5%混入）
2　10YR2/2黒褐色粘土質シルト（1層・10YR3/2黒褐色粘土質シルト・10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルト粒0.1～0.5cm大5%混入）
3　10YR2/1黒色粘土質シルト（1層・10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルト各1%混入）
4　10YR3/2黒褐色粘土質シルト（3層粒0.1cm大3%・1層粒0.1～1cm大5%混入）
5　10YR3/2黒褐色粘土質シルト（3層斑に10%・1層5%混入）

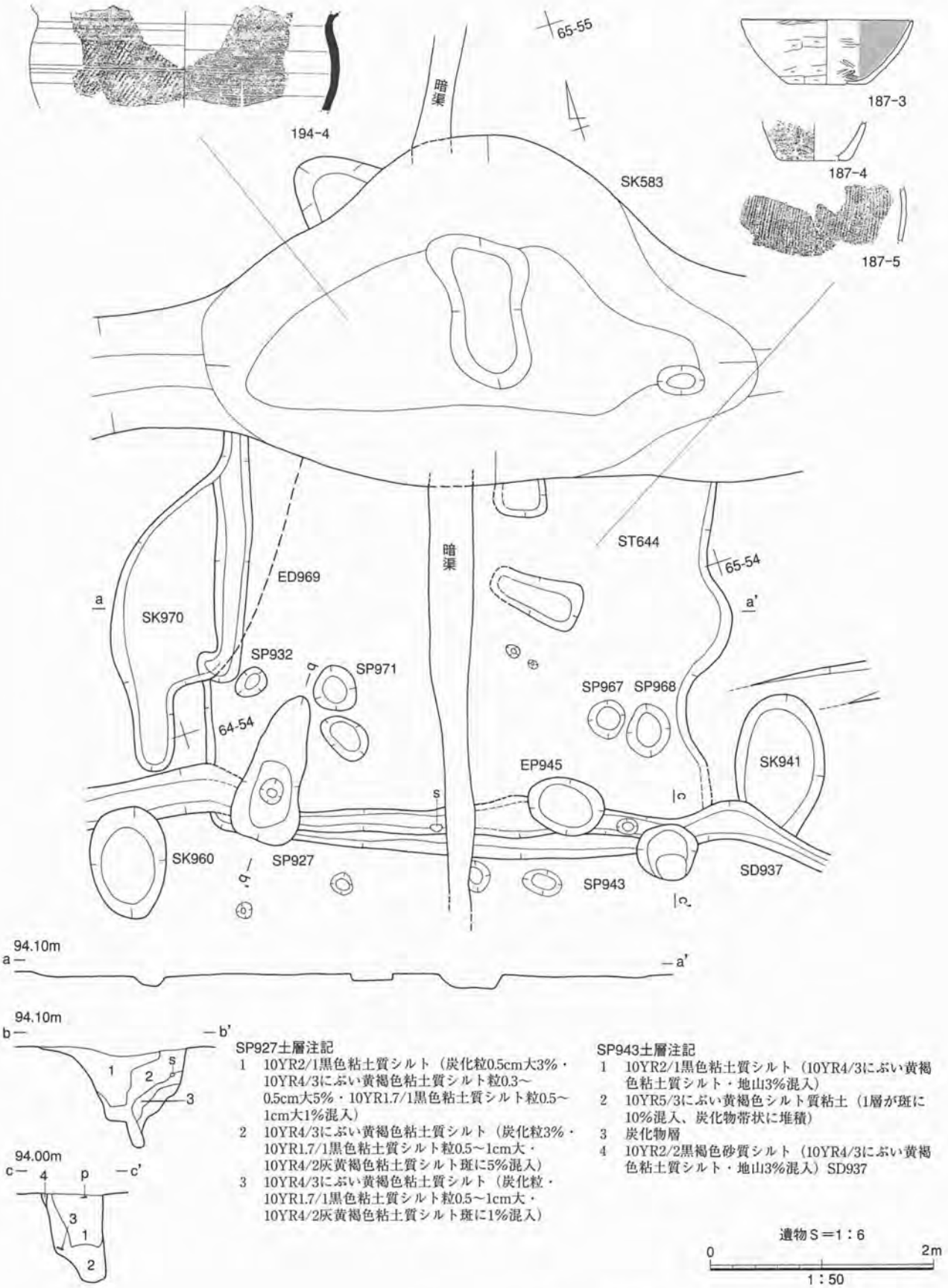
第34図　遺構実測図―ST568・ST626―



ST627土層注記

1 10YR4/4褐色粘土質シルト（10YR2/2黒褐色粘土質シルト30%・10YR3/2黒褐色粘土質シルト10%斑に混入）
2 10YR2/1黒色粘土質シルト（10YR4/4褐色粘土質シルト5%混入）
3 10YR2/1黒色粘土質シルト（10YR4/4褐色粘土質シルト・10YR2/2黒褐色粘土質シルト・10YR3/2黒褐色粘土質シルト斑に各5%混入）
4 10YR2/1黒色粘土質シルト（10YR4/4褐色粘土質シルト・10YR2/2黒褐色粘土質シルト・10YR3/2黒褐色粘土質シルト0.5～1cm大の粒子状に各10%混入）
5 10YR1.7/1黒色粘土（7.5YR4/4褐色粘土質シルト3cm大被熱ブロック5%混入）
6 10YR2/2黒褐色粘土質シルト（7.5YR4/4褐色粘土質シルト3cm大ブロック10%・10YR1.7/1黒色粘土質シルト5%混入）
7 10YR2/1黒色粘土質シルト（8層粒0.1～0.3cm大10%混入）
8 10YR5/3にぶい黄褐色粘土質シルト（7層が汚れしみ込むように1%混入）
9 10YR3/1黒褐色粘土質シルト（8層粒0.1～0.3cm大5%混入）
10 10YR3/1黒褐色粘土質シルト（10YR1.7/1黒色砂質シルト・7層斑に各5%混入）
11 10YR2/1黒色粘土質シルト（8層粒0.5cm大5%・10YR1.7/1黒色砂質シルト粒0.1～0.3cm大5%混入）
12 2.5Y5/3黄褐色粘土質シルト（10YR2/1黒色粘土質シルト粒0.1～0.5cm大5%・2.5Y6/3にぶい黄色粘土質シルト粒0.5cm大10%混入）
13 2.5Y5/3黄褐色粘土質シルト（10YR2/1黒色粘土質シルト粒0.1cm大1%・2.5Y6/3にぶい黄色粘土質シルト粒斑に10%混入）
14 2.5Y5/3黄褐色粘土質シルト（10YR3/1黒褐色粘土40%・10YR2/1黒色粘土質シルト粒0.1～0.5cm大1%・2.5Y6/3にぶい黄色粘土質シルト粒0.5cm大10%混入）
15 10YR5/3にぶい黄褐色粘土質シルト（硬くしまっている）
16 10YR2/1黒色粘土質シルト（10YR2/2黒褐色粘土質シルト粒1cm大10%・10YR4/6褐色シルト粒0.5cm大5%混入）
17 10YR2/1黒色粘土質シルト（10YR2/2黒褐色粘土質シルト斑に20%・10YR4/6褐色シルト粒0.5cm大5%混入）
18 10YR5/4にぶい黄褐色粘土質シルト（16層斑に5%混入）
19 10YR2/1黒色粘土質シルト（10YR2/2黒褐色粘土質シルト斑に5%・10YR4/6褐色シルト粒0.5cm大5%混入）
20 10YR1.7/1黒色粘土質シルト（7.5YR4/4褐色粘土質シルト塊10%・炭化粒1cm大5%混入）
21 10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト（硬くしまっている、天井の崩落土か？）
22 10YR3/2黒褐色粘土質シルト（炭化粒0.5cm大5%・21層1%混入）
23 7.5YR4/6褐色粘土質シルト

第35図　遺構実測図—ST627—



SP927土層注記

1 10YR2/1黒色粘土質シルト（炭化粒0.5cm大3%・10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト粒0.3～0.5cm大5%・10YR1.7/1黒色粘土質シルト粒0.5～1cm大1%混入）
2 10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト（炭化粒3%・10YR1.7/1黒色粘土質シルト粒0.5～1cm大・10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト斑に5%混入）
3 10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト（炭化粒・10YR1.7/1黒色粘土質シルト粒0.5～1cm大・10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト斑に1%混入）

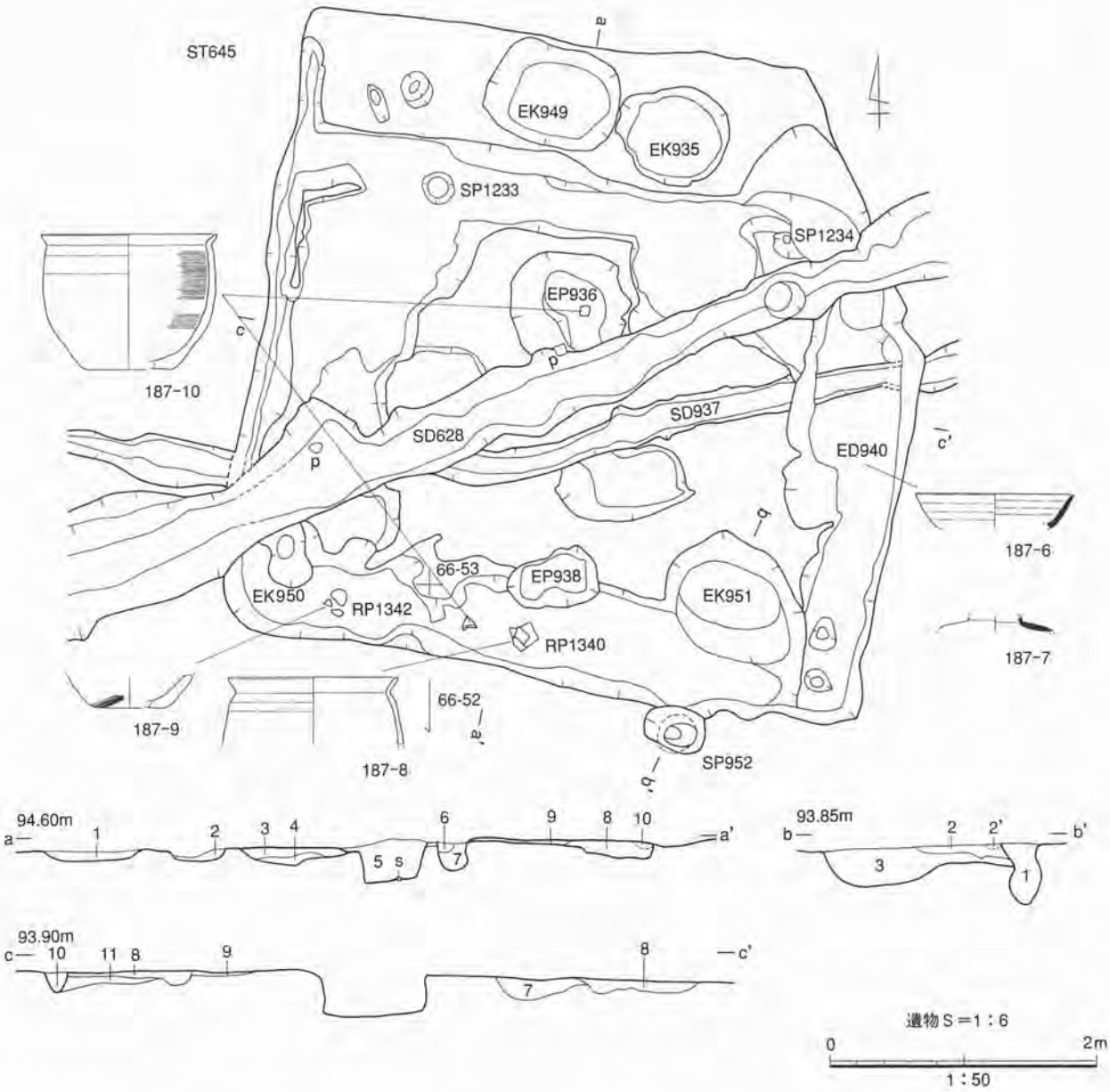
SP943土層注記

1 10YR2/1黒色粘土質シルト（10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト・地山3%混入）
2 10YR5/3にぶい黄褐色シルト質粘土（1層が斑に10%混入、炭化物帯状に堆積）
3 炭化物層
4 10YR2/2黒褐色砂質シルト（10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト・地山3%混入）SD937

遺物S＝1：6

0　2m
1：50

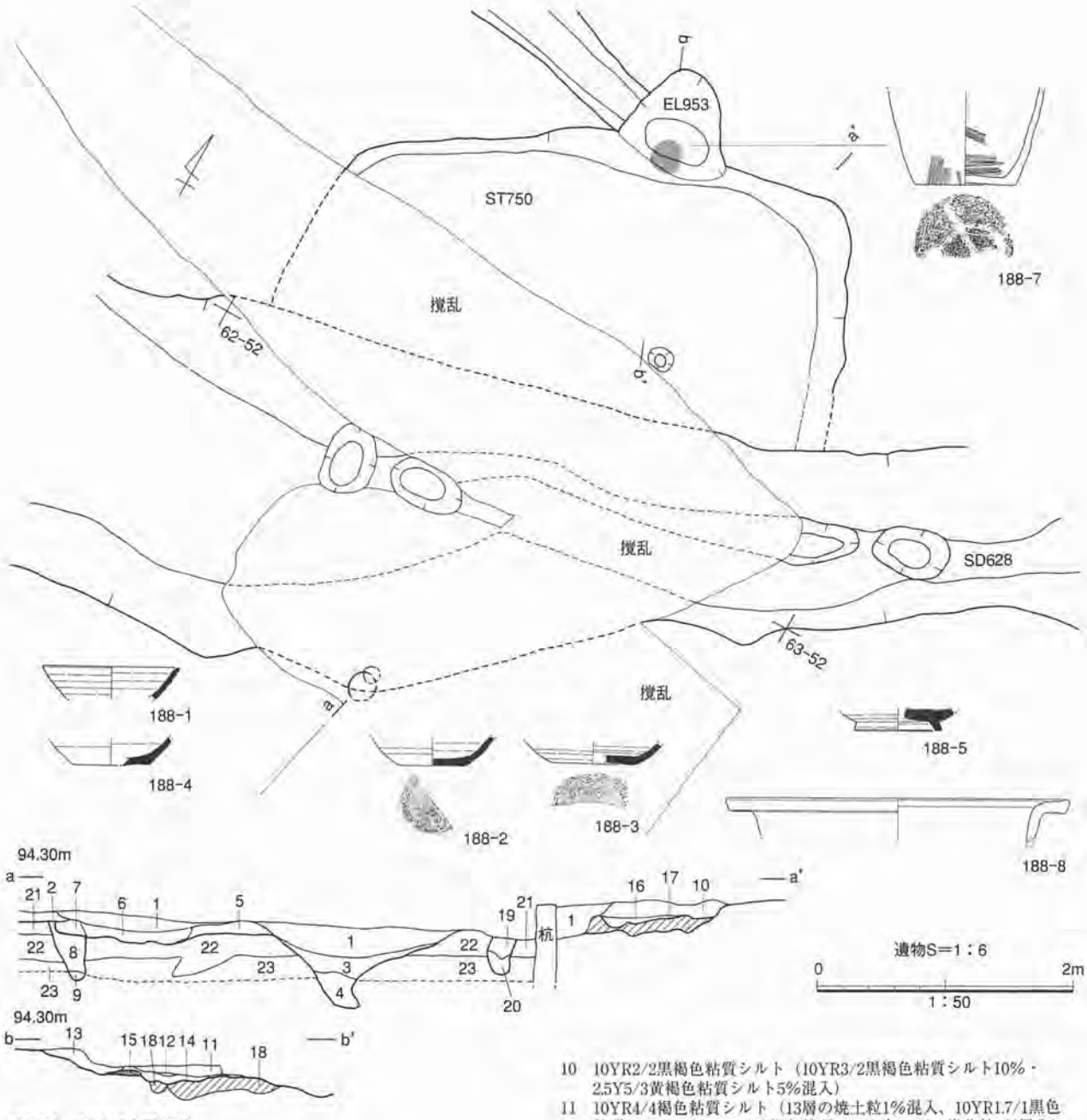
第36図　遺構実測図―ST644・SK583―



ST645土層注記

1　10YR2/2黒褐色砂質シルト（地山1%混入）
2　2.5Y3/2黒褐色砂質シルト（10YR5/6黄褐色砂5%・遺物多量に混入）
3　10YR2/2黒褐色砂質シルト（4層が3%混入）
4　2.5Y4/3オリーブ褐色砂質シルト（3層・2.5Y4/2暗黄灰色粘土質シルト斑に各5%混入）
5　10YR2/1黒色砂質シルト（地山粒1%・炭化粒0.1cm大1%混入）SD628
6　9層と類似、焼土1%混入　SD937
7　2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト（2.5Y5/3黄褐色粘土質シルト帯状に10%混入）SD937
8　10YR5/3にぶい黄褐色シルト（2.5Y3/2黒褐色砂質シルト粒0.5cm大5%混入）
9　2.5Y5/4黄褐色砂質シルト（2.5Y3/2黒褐色砂質シルト帯状に流れ込む様に10%・2.5Y3/1黒褐色砂質シルト粒0.5cm大1%混入）
10　10YR1.7/1黒色粘土質シルト（12層が霜降状に5%混入）ED
11　10YR2/1黒色シルト（12層を5%混入）
12　2.5Y5/3黄褐色シルト（2.5Y3/1黒褐色砂質シルト・2.5Y4/2暗黄灰色砂質シルト斑に各5%混入）
13　2.5Y5/3黄褐色砂質シルト（2.5Y2/1黒色砂質シルト斑に10%・炭化粒0.5cm大1%混入）
14　2.5Y6/3にぶい黄色砂質シルト（15層が帯状に20%混入）
15　10YR2/1黒色シルト（2.5Y5/3黄褐色シルト5%混入）

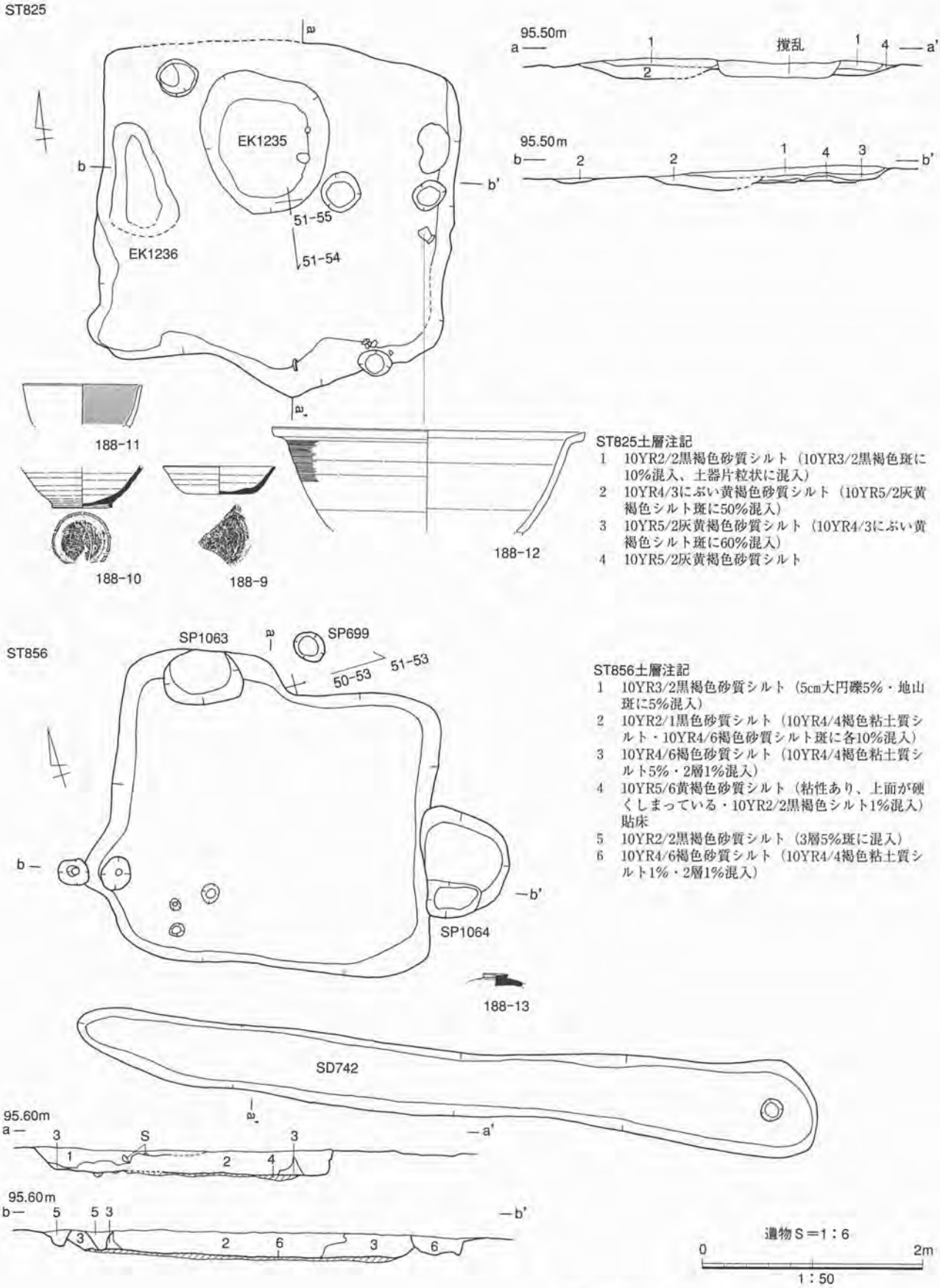
第37図　遺構実測図―ST645―



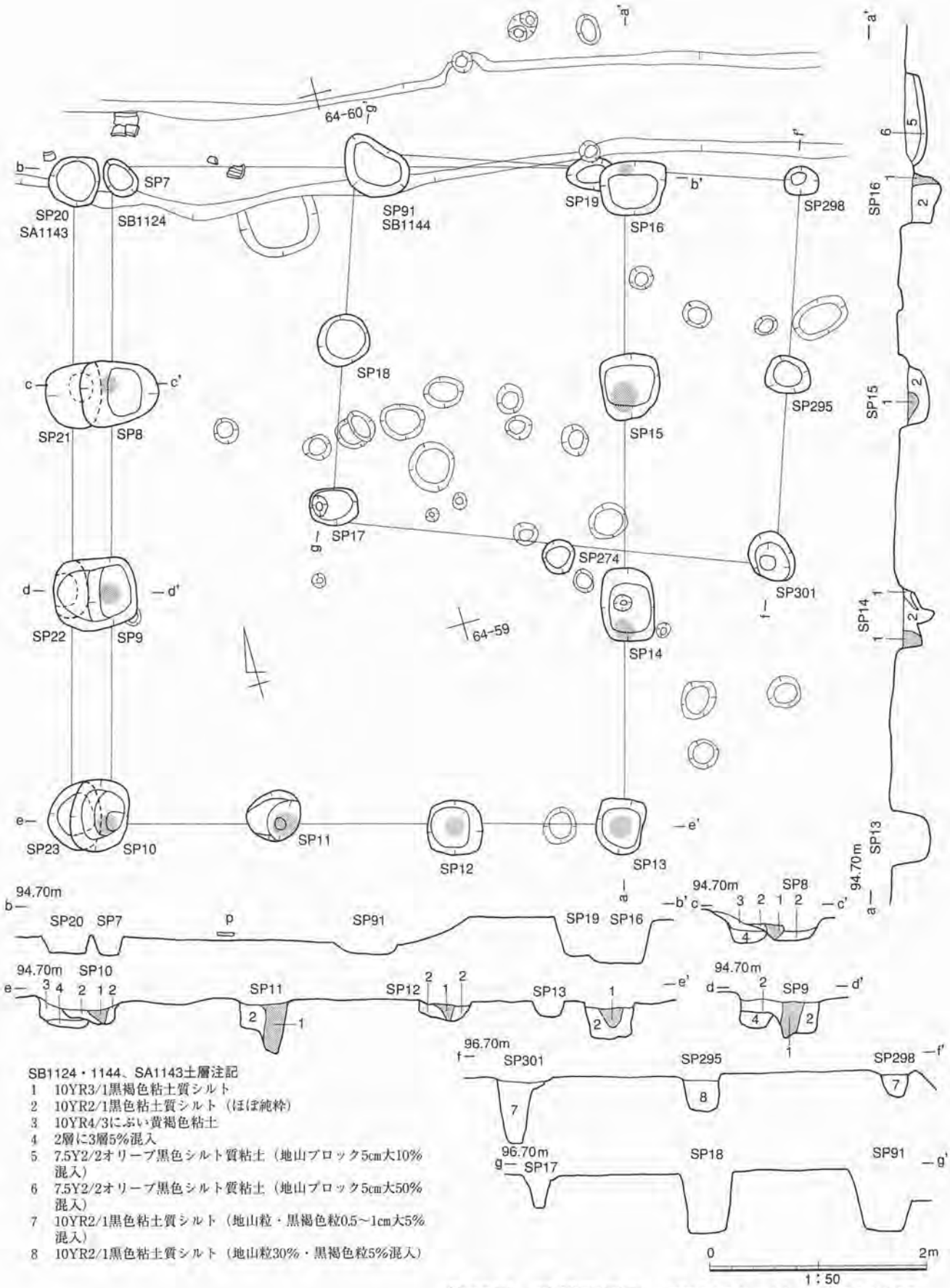
ST750・SD628土層注記

1　錯乱
2　10YR2/1黒色砂質シルト
3　2.5Y3/1黒褐色粘質シルト（2.5Y5/1黄灰色砂質シルトしみ込むように斑に10%・5Y6/1灰色砂質シルトブロック5cm大5%・4層斑に5%混入）
4　5Y3/1オリーブ黒色砂（5Y4/1灰色砂質シルト10%・3層5%・10YR5/6黄褐色砂5%マーブル状に混入）
5　10YR2/1黒色粘質シルト（2.5Y5/3黄褐色粘質シルト30%・10YR4/1褐灰色粘質シルト10%斑に混入）
6　10YR2/1黒色粘質シルト（2.5Y5/3黄褐色粘質シルト20%・10YR4/1褐灰色粘質シルト20%斑に混入）
7　10YR3/2黒褐色粘質シルト（2.5Y5/3黄褐色粘質シルト20%・10YR4/1褐灰色粘質シルト10%・5層5%混入）
8　10YR3/2黒褐色粘質シルト（2.5Y5/3黄褐色粘質シルト10%・10YR4/1褐灰色粘質シルト20%・5層に3cm大ブロック3%混入）
9　10YR2/1黒色粘質シルト（2.5Y5/3黄褐色粘質シルト5%・10YR4/1褐灰色粘質シルト5%・7層に5%帯状に堆積・炭化粒0.5cm大1%混入）
10　10YR2/2黒褐色粘質シルト（10YR3/2黒褐色粘質シルト10%・2.5Y5/3黄褐色粘質シルト5%混入）
11　10YR4/4褐色粘質シルト（13層の焼土粒1%混入、10YR1.7/1黒色粘質シルト・10YR3/3暗褐色粘質シルト各10%、炭化粒5%混入）
12　10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト（11層が斑に20%混入）
13　10YR2/2黒褐色粘質シルト（10YR2/1黒色粘質シルトがしも降り状に10%・焼土粒0.5～2cm大5%・炭化物1cm大1%混入）
14　10YR2/1黒色粘質シルト（10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト・10YR6/3にぶい黄橙色シルト各5%混入）
15　10YR5/6黄褐色シルト（硬くしまっている）被熱痕
16　10YR2/2黒褐色粘質シルト（10YR3/2黒褐色粘質シルト50%・2.5Y5/3黄褐色粘質シルト5%混入）
17　10YR3/2黒褐色シルト質粘土（10YR3/2黒褐色粘質シルト20%・10層10%・2.5Y5/3黄褐色粘質シルト1%混入）
18　10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト（14層3%・10YR6/3にぶい黄橙色シルト10%混入）
19　10YR2/1黒色粘質シルト（2.5Y5/3黄褐色粘質シルト・17層各20%混入）
20　2.5Y5/3黄褐色粘土（19層粒0.5cm大5%混入）
21　10YR3/2黒褐色砂質シルト（粘性あり、炭化粒0.3cm大1%混入）
22　2.5Y5/3黄褐色砂質シルト

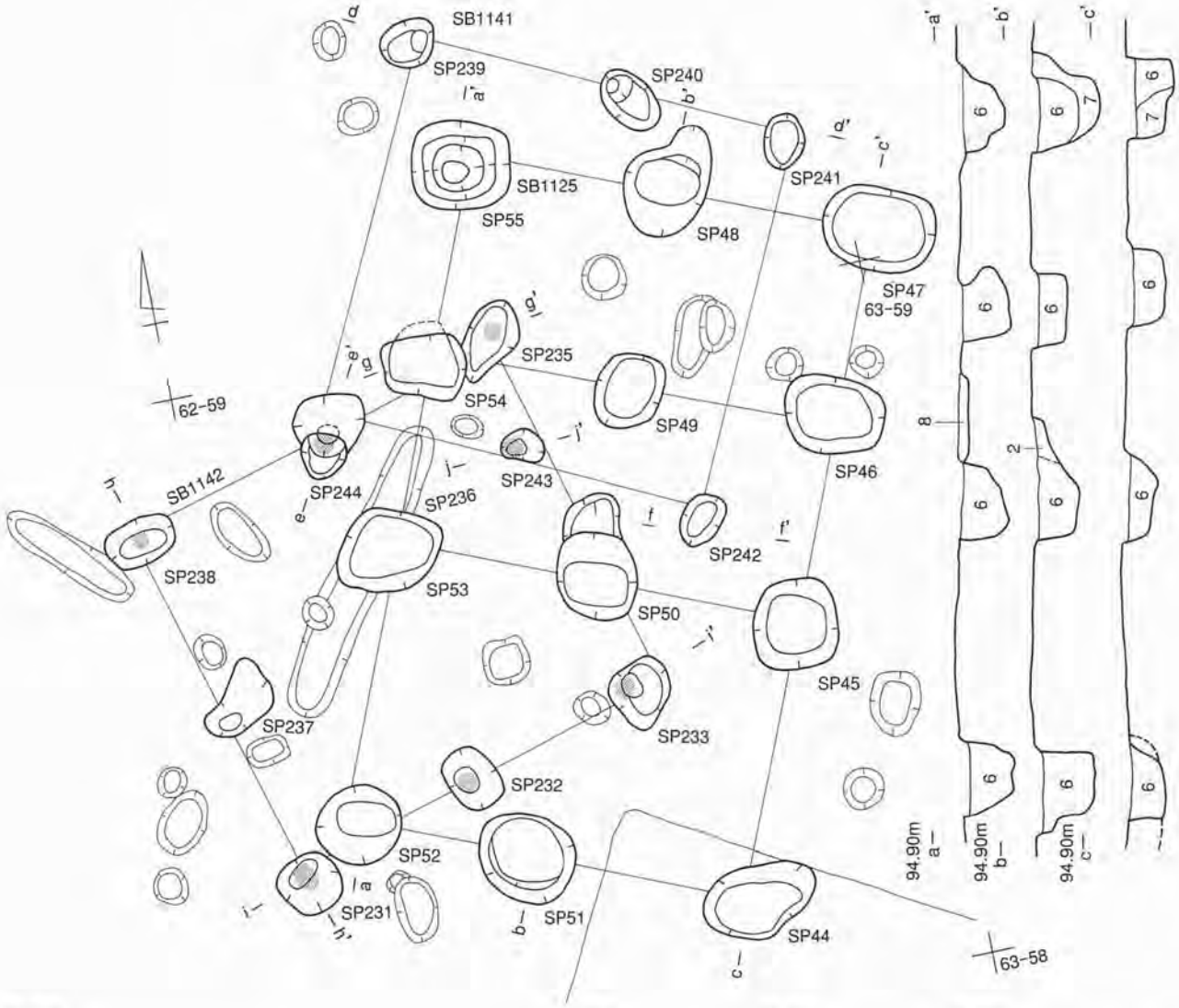
第38図　遺構実測図―ST750、SD628―

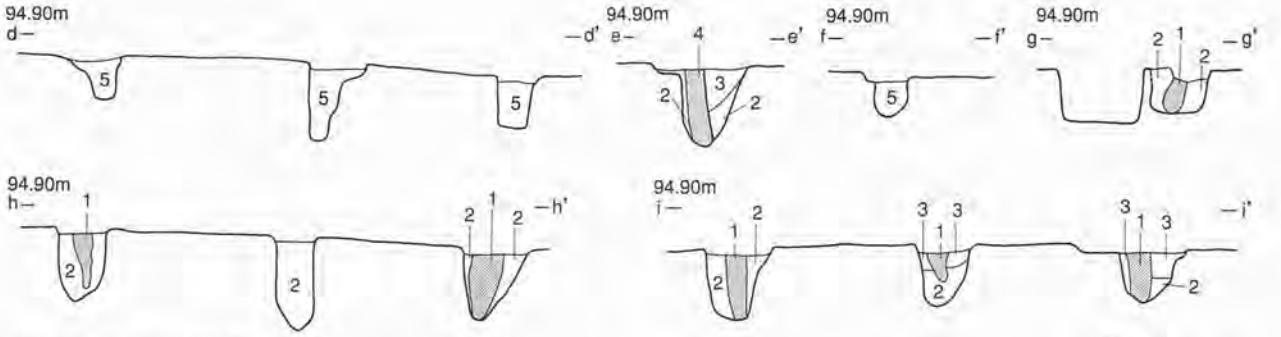


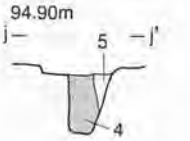
第39図　遺構実測図—ST825・856—



第40図　遺構実測図—SB1124・1144、SA1143—





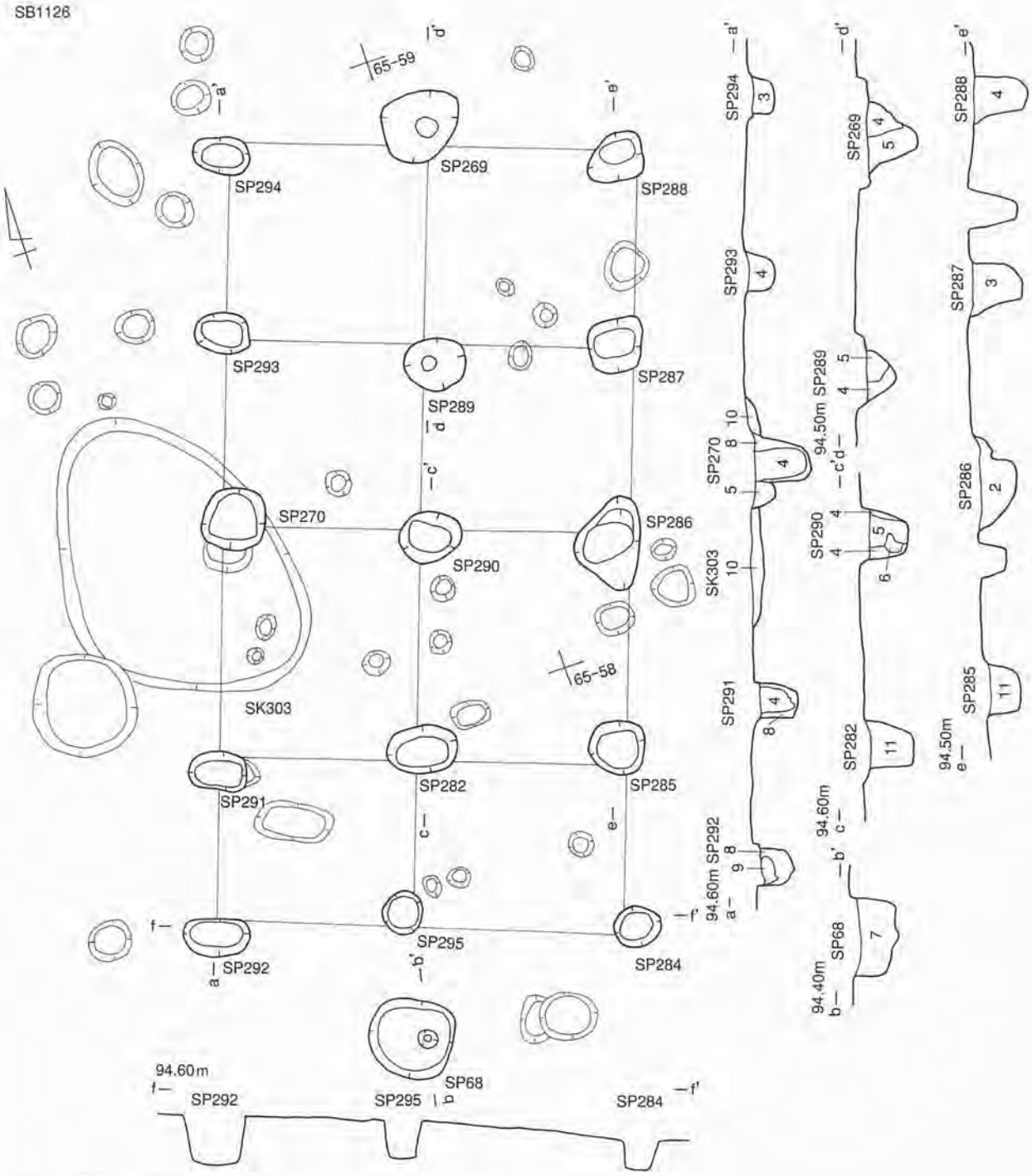


SB1125・1141・1142土層注記

1　10YR2/1黒色粘土（10YR4/4褐色砂質粘土0.5～2cm大5%・炭化粒1%混入、しまっている）
2　10YR2/2黒褐色砂質粘土（10YR4/4褐色砂質粘土1～3cm大20%・炭化粒1%混入）
3　10YR2/2黒褐色砂質粘土（10YR4/4褐色砂質粘土1～3cm大10%・炭化粒1%混入）
4　10YR2/2黒褐色砂質粘土（均質）
5　10YR1.7/1黒色粘土（10YR4/4褐色粘土0.5cm大5%混入、しまっている）
6　10YR2/1黒色粘土（10YR4/4褐色砂質粘土ブロック3cm大10%・炭化粒1%混入、しまっている）
7　10YR2/1黒色粘土（10YR4/4褐色砂質粘土ブロック5cm大30%・炭化粒1%混入、しまっている）
8　10YR2/3黒褐色粘土質シルト（10YR4/4褐色砂質粘土斑に10%混入）

0　2m
1：50

第41図　遺構実測図―SB1125・1141・1142―

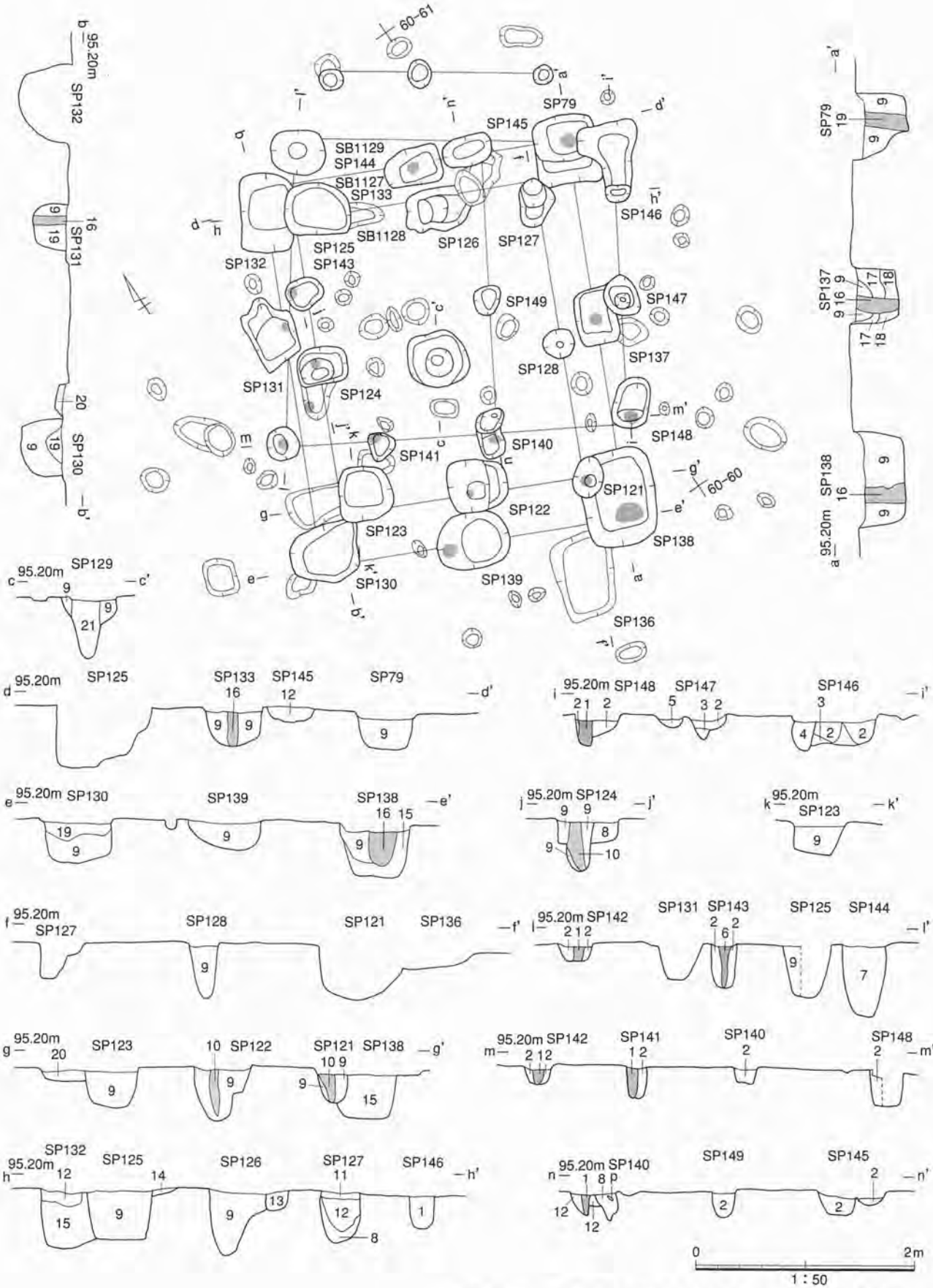


SB1126土層注記

1　10YR2/1黒色粘土（10YR3/2黒褐色砂質粘土0.5～1cm大・10YR4/3にぶい黄褐色粘土1～3cm大5%混入）
2　1層に灰色粘土質シルト縞状に混入
3　10YR2/1黒色粘土（10YR3/2黒褐色砂質粘土5cm大・10YR4/3にぶい黄褐色粘土5cm大20%混入）
4　10YR2/1黒色粘土（10YR3/2黒褐色砂質粘土1～2cm大・10YR4/3にぶい黄褐色粘土1～2cm大20%混入）
5　10YR3/2黒褐色砂質粘土（10YR2/1黒色粘土1～2cm大・10YR4/3にぶい黄褐色粘土1～2cm大20%混入）
6　10YR4/1褐灰色砂質シルト
7　10YR2/1黒色粘土（10YR3/2黒褐色砂質粘土0.5～1cm大・10YR4/3にぶい黄褐色粘土5～10cm大5%混入）
8　10YR2/1黒色粘土（10YR4/3にぶい黄褐色粘土2cm大1%混入）
9　10YR4/4褐色（10YR2/1黒色粘土縞状に混入）
10　10YR3/2黒褐色砂質シルト（しまっている）
11　10YR2/1黒色粘土（10YR3/2黒褐色砂質粘土・10YR4/3にぶい黄褐色粘土0.5～1cm大混入）
12　10YR2/1黒色粘土（10YR3/2黒褐色砂質粘土1～3cm大5%・10YR4/3にぶい黄褐色粘土30%混入）

0　2m
1：50

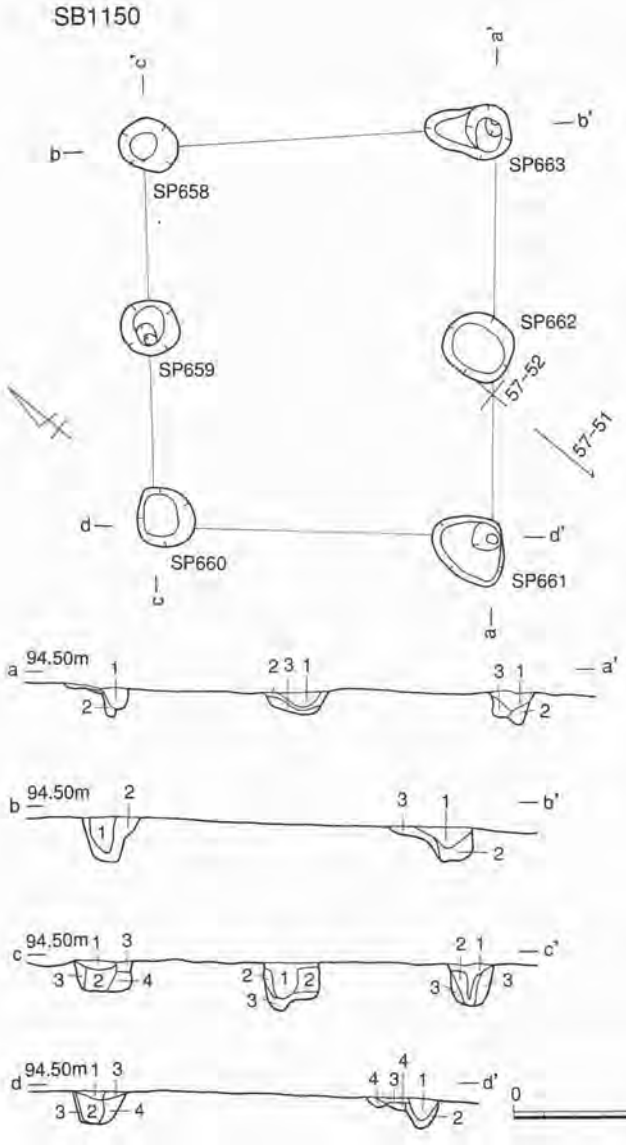
第42図　遺構実測図―SB1126―



第43図　遺構実測図―SB1127・1128・1129―

SB1127・1128・1129土層注記

1　10YR3/1黒褐色シルト質粘土（均質）
2　2.5Y4/2暗黄灰色粘土質シルト（10YR3/1黒褐色粘土・10YR4/4褐色粘土0.5～1cm大10%混入）
3　2層に類似、黒褐色粘土を多く混入
4　8層に類似、細砂混入
5　10YR3/1黒褐色粘土質シルト（10YR4/4褐色粘土ブロック1～3cm大10%混入）
6　2.5Y3/2黒褐色砂質粘土（均質）
7　10YR3/1黒褐色粘質シルト（10YR4/4褐色粘土ブロック3～5cm大50%・細砂5%混入）
8　10YR4/4褐色粘土（10YR3/1黒褐色粘質シルトブロック5cm大50%混入）
9　10YR3/1黒褐色粘質シルト（10YR4/4褐色粘土ブロック3～5cm大50%混入）
10　2.5Y3/1黒褐色砂質シルト（16層に類似）
11　10YR4/4褐色粘土（10YR3/1黒褐色粘質シルトマーブル状に10%混入）
12　10YR3/1黒褐色粘土質シルト（10YR4/4褐色粘土ブロック3～5cm大10%混入）
13　2.5Y3/1黒褐色砂質粘土（10YR3/1黒褐色粘土・10YR4/4褐色粘土0.5～3cm大5%混入）
14　10YR3/1黒褐色粘質シルト（10YR4/4褐色粘土粒20%混入）
15　10YR3/1黒褐色粘質シルト（10YR4/4褐色粘土ブロック3cm大50%混入）
16　2.5Y3/1黒褐色粘質シルト（2.5Y4/2暗黄灰色シルト粒0.5cm大5%混入）
17　10YR3/1黒褐色粘質シルト（10YR4/4褐色粘土ブロック1～3cm大50%混入）
18　10YR3/1黒褐色粘質シルト（10YR4/4褐色粘土ブロック1～3cm大30%混入）
19　10YR3/1黒褐色粘質シルト（10YR4/4褐色粘土ブロック3～5cm大30%混入）
20　10YR3/1黒褐色粘質シルト（10YR4/4褐色粘土粒0.5cm大20%混入）
21　10YR3/1黒褐色粘質シルト（10YR4/4褐色粘土粒0.5cm大50%混入）



SB1150

SP662土層注記

1　10YR3/3暗褐色粘質シルト（10YR4/2灰黄褐色シルト10%混入）
2　10YR4/2灰黄褐色粘質シルト（10YR3/3暗褐色シルト10%混入）
3　10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト

SP663土層注記

1　10YR3/3暗褐色粘質シルト（10YR5/4にぶい黄褐色シルト20%混入）
2　10YR4/2灰黄褐色粘質シルト（10YR3/3暗褐色シルト10%混入）
3　10YR4/4褐色砂質シルト

SP658土層注記

1　10YR3/3暗褐色粘質シルト（10YR3/4暗褐色粘質シルト10%混入）
2　10YR3/3暗褐色粘質シルト（10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト50%混入）
3　10YR4/4褐色砂質シルト

SP659土層注記

1　10YR4/2灰黄褐色粘質シルト（10YR3/3暗褐色粘質シルト40%混入）
2　10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト（10YR4/2灰黄褐色シルト20%混入）
3　10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト

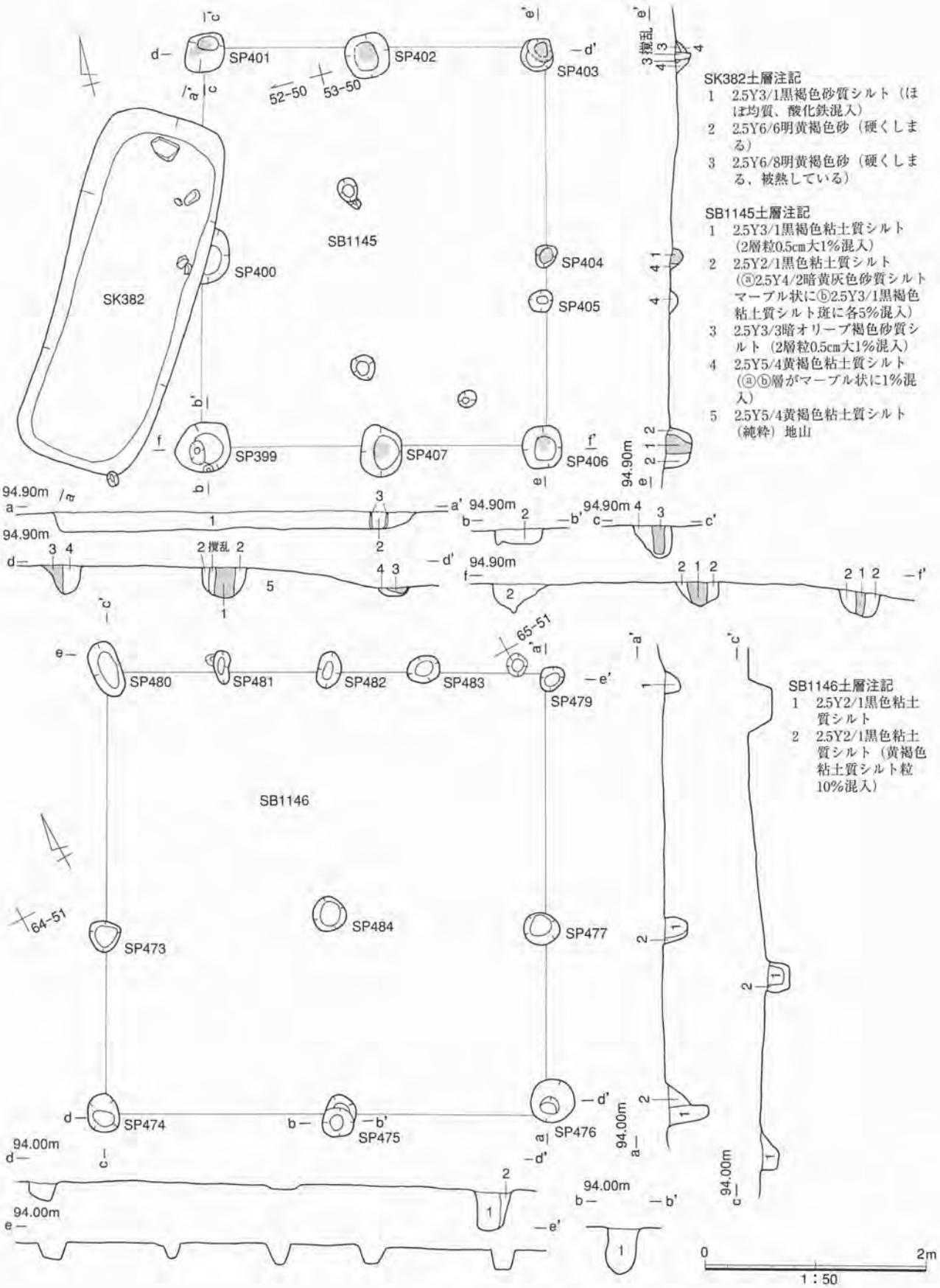
SP660土層注記

1　10YR3/3暗褐色粘質シルト
2　10YR3/2黒褐色粘質シルト
3　10YR5/3にぶい黄褐色シルト（10YR3/3暗褐色シルト斑点状に10%混入）
4　10YR5/3にぶい黄褐色シルト

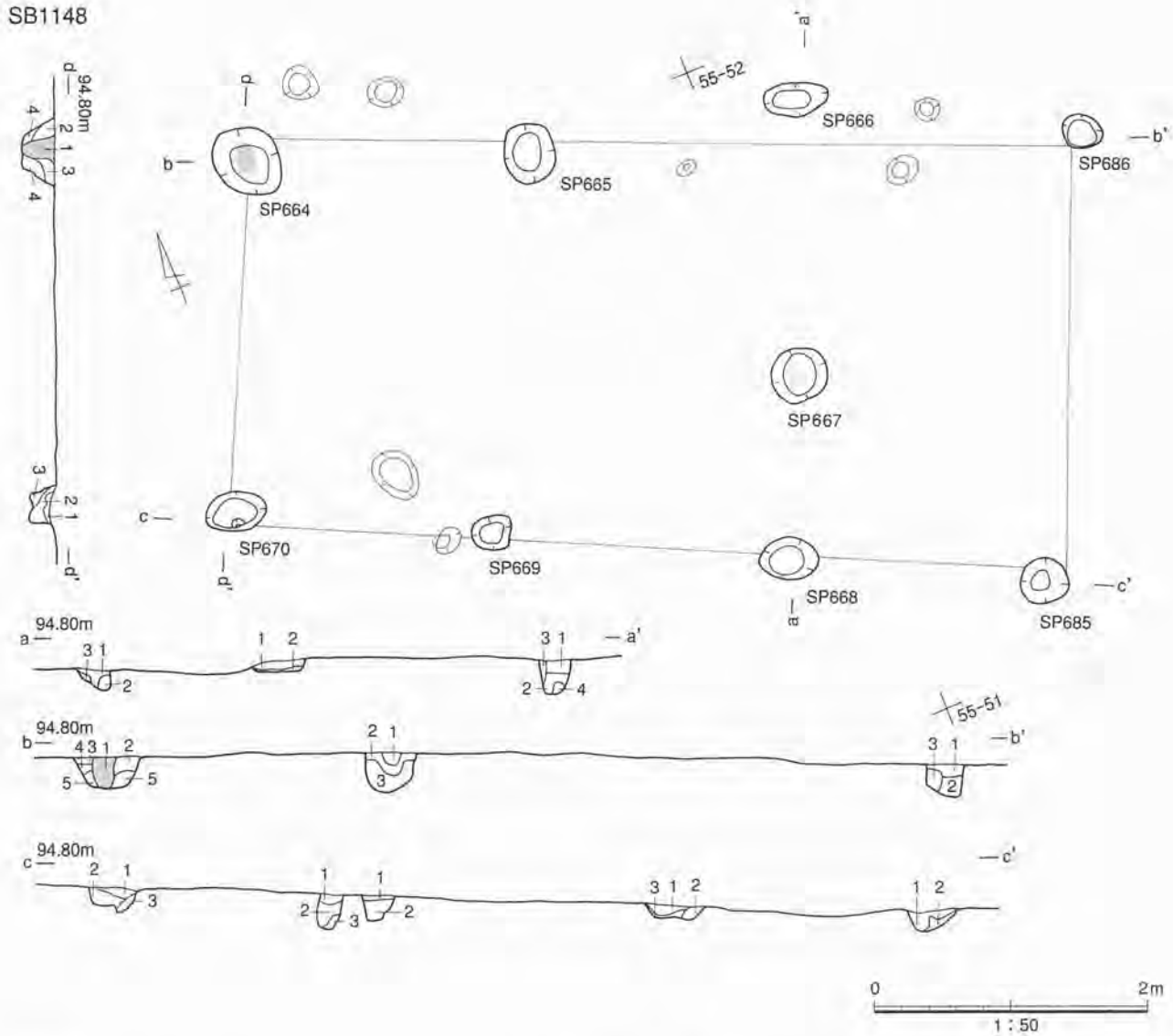
SP611土層注記

1　10YR2/2黒褐色シルト（10YR3/3暗褐色粘質シルト30%混入）
2　10YR2/2黒褐色粘質シルト（10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト30%混入）
3　10YR6/3にぶい黄橙色粘質シルト（10YR5/3にぶい黄褐色シルト10%混入）
4　10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト（10YR5/2灰黄褐色シルト10%混入）

第44図　遺構実測図―SB1127・1128・1129・1150―



第45図　遺構実測図―SB1145・1146、SK382―



SB1148

SP664土層注記
1　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（10YR4/2灰黄褐色粘質シルト斑に混入）
2　10YR5/2灰黄褐色粘質シルト（10YR4/2灰黄褐色シルト20%混入）
3　10YR5/2灰黄褐色シルト（黄褐シルト粒少々混入）
4　10YR5/2灰黄褐色シルト（10YR5/3にぶい黄褐色シルト・粘土各20%混入）
5　10YR5/2灰黄褐色シルト（10YR4/2灰黄褐色粘質シルト30%混入）

SP665土層注記
1　10YR3/2黒褐色シルト（10YR5/3にぶい黄褐色シルト10%混入）
2　10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト
3　10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト（10YR4/2灰黄褐色シルト斑に混入）

SP666土層注記
1　7.5YR3/2黒褐色粘質シルト（10YR5/2灰黄褐色シルト10%混入）
2　7.5YR4/4褐色シルト（10YR5/2灰黄褐色シルト30%混入）
3　10YR5/2灰黄褐色シルト（10YR7/2にぶい黄橙色シルト30%混入）
4　10YR5/2灰黄褐色シルト

SP667土層注記
1　10YR6/3にぶい黄橙色シルト
2　10YR6/3にぶい黄橙色シルト（10YR5/3にぶい黄褐色シルト30%混入）

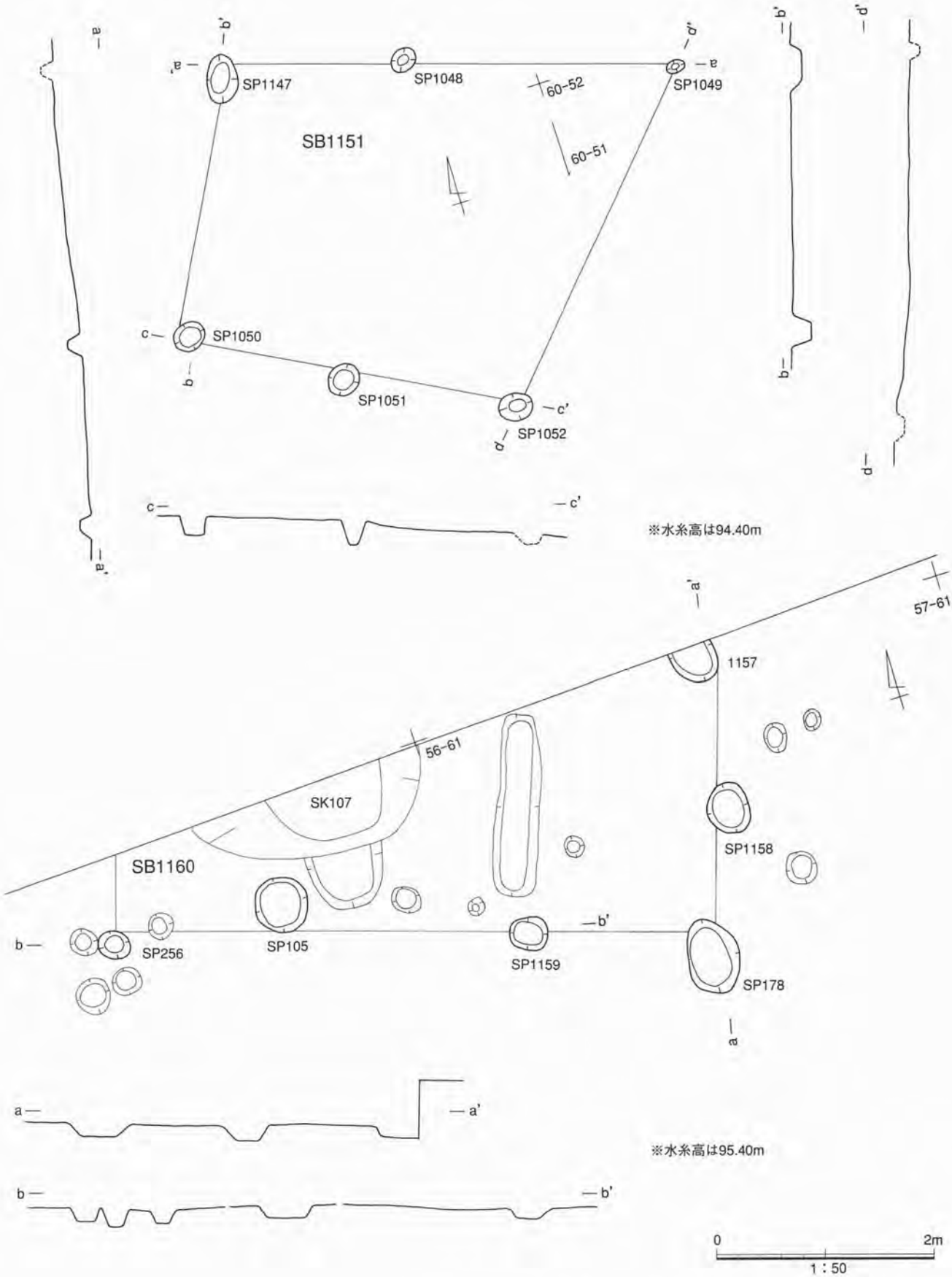
SP668土層注記
1　10YR5/3にぶい黄褐色シルト（10YR6/1褐灰色シルト20%混入）
2　10YR5/3にぶい黄褐色シルト
3　10YR6/2灰黄褐色シルト

SP670土層注記
1　10YR3/3暗褐色シルト（10YR5/3にぶい黄褐色シルト20%混入）
2　10YR4/2灰黄褐色粘質シルト（10YR4/3にぶい黄褐色シルト10%混入）
3　10YR5/4にぶい黄褐色シルト

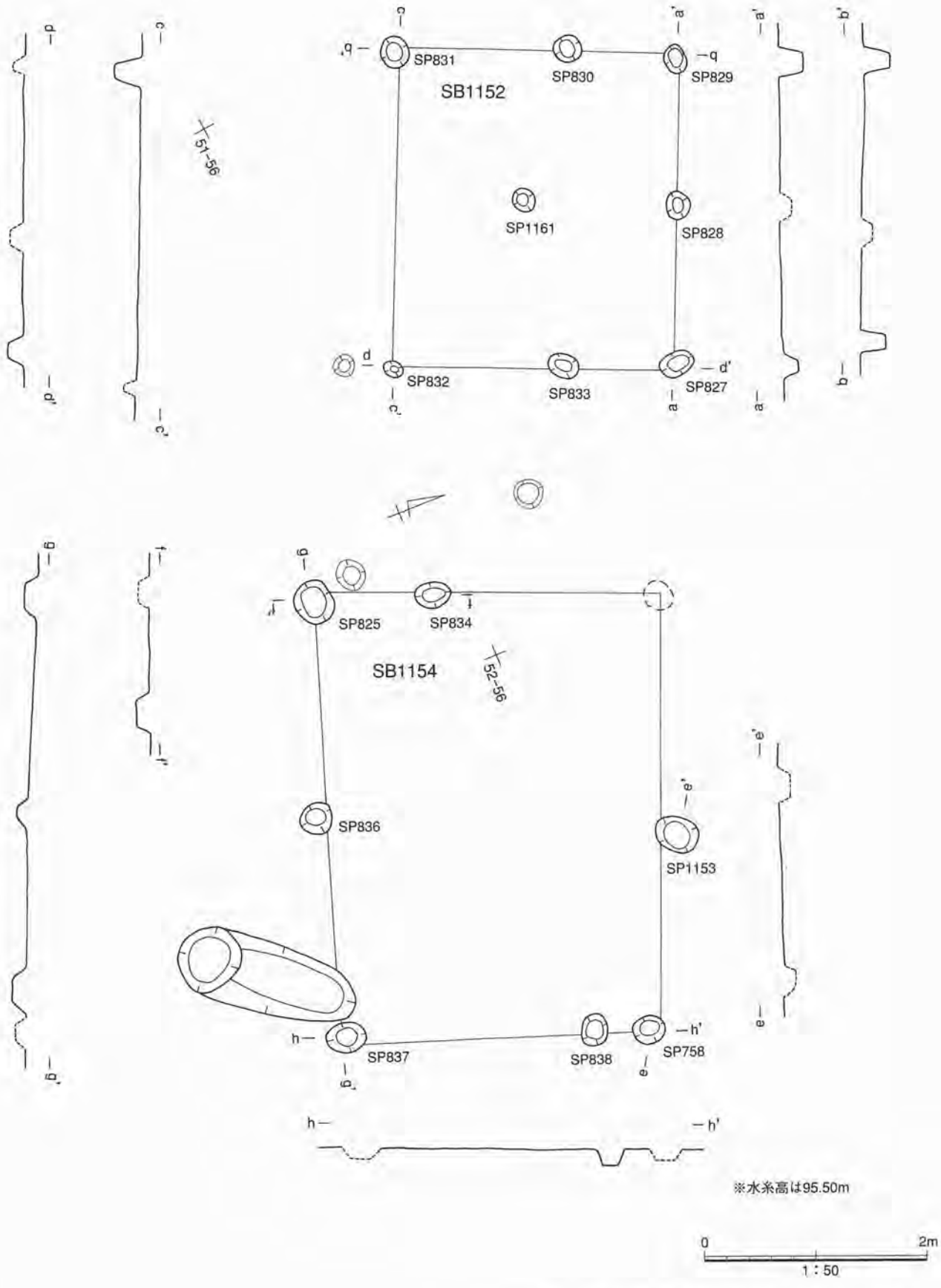
SP685土層注記
1　10YR4/2灰黄褐色粘質シルト
2　10YR5/3にぶい黄褐色シルト

SP686土層注記
1　10YR3/2黒褐色シルト（10YR5/4にぶい黄褐色シルト20%混入）
2　10YR5/2灰黄褐色シルト（10YR5/4にぶい黄褐色シルト10%混入）
3　10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト

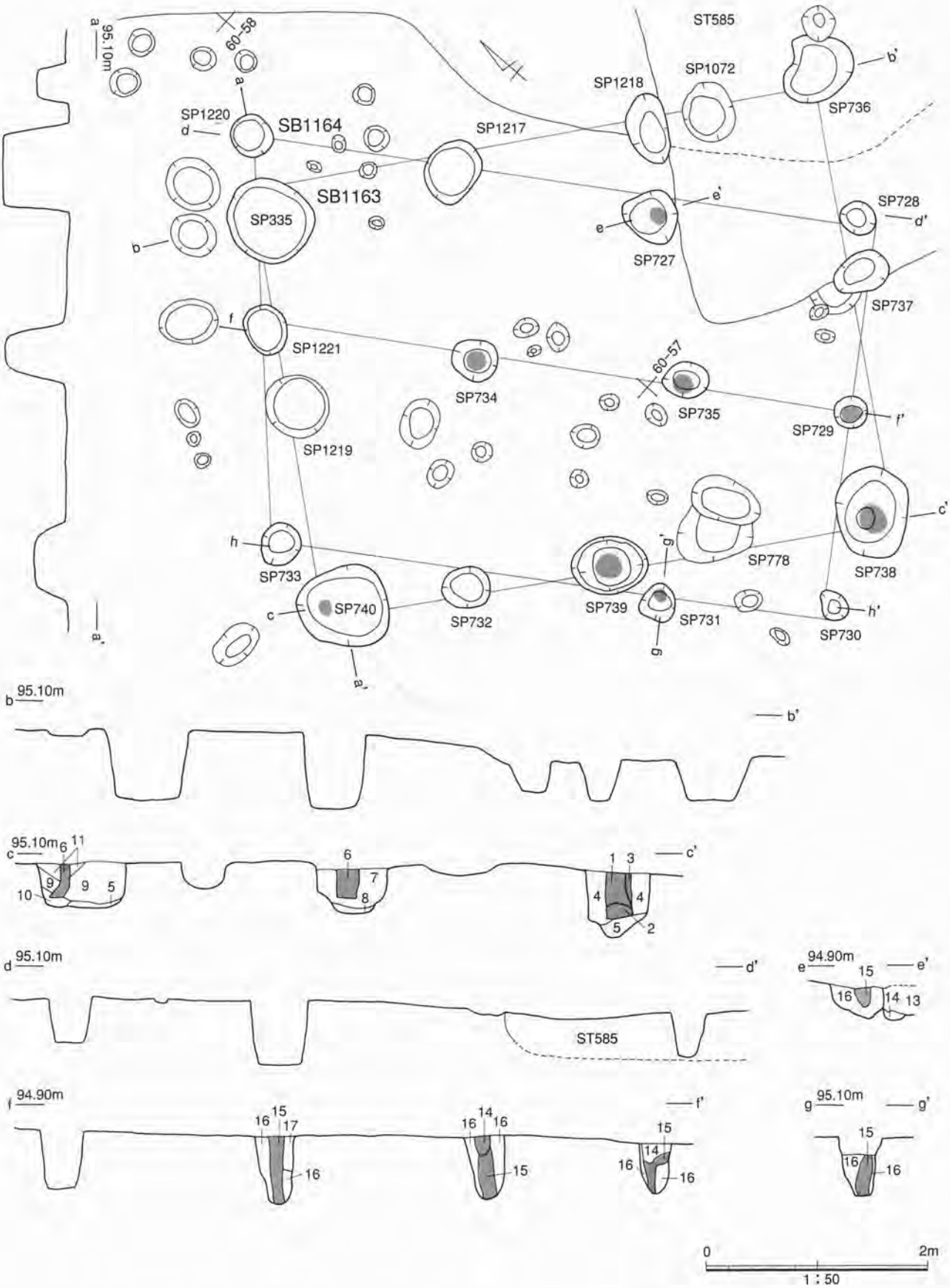
第46図　遺構実測図―SB1148―



第47図　遺構実測図―SB1151・1160―

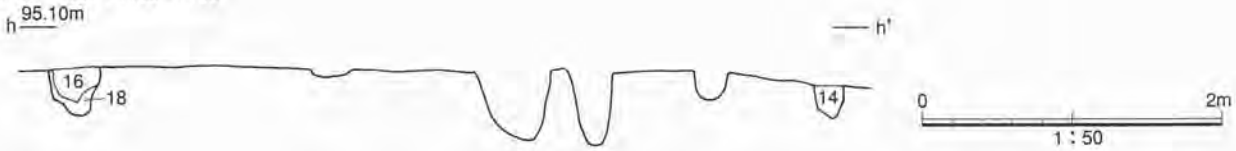


第48図　遺構実測図―SB1152・1154―



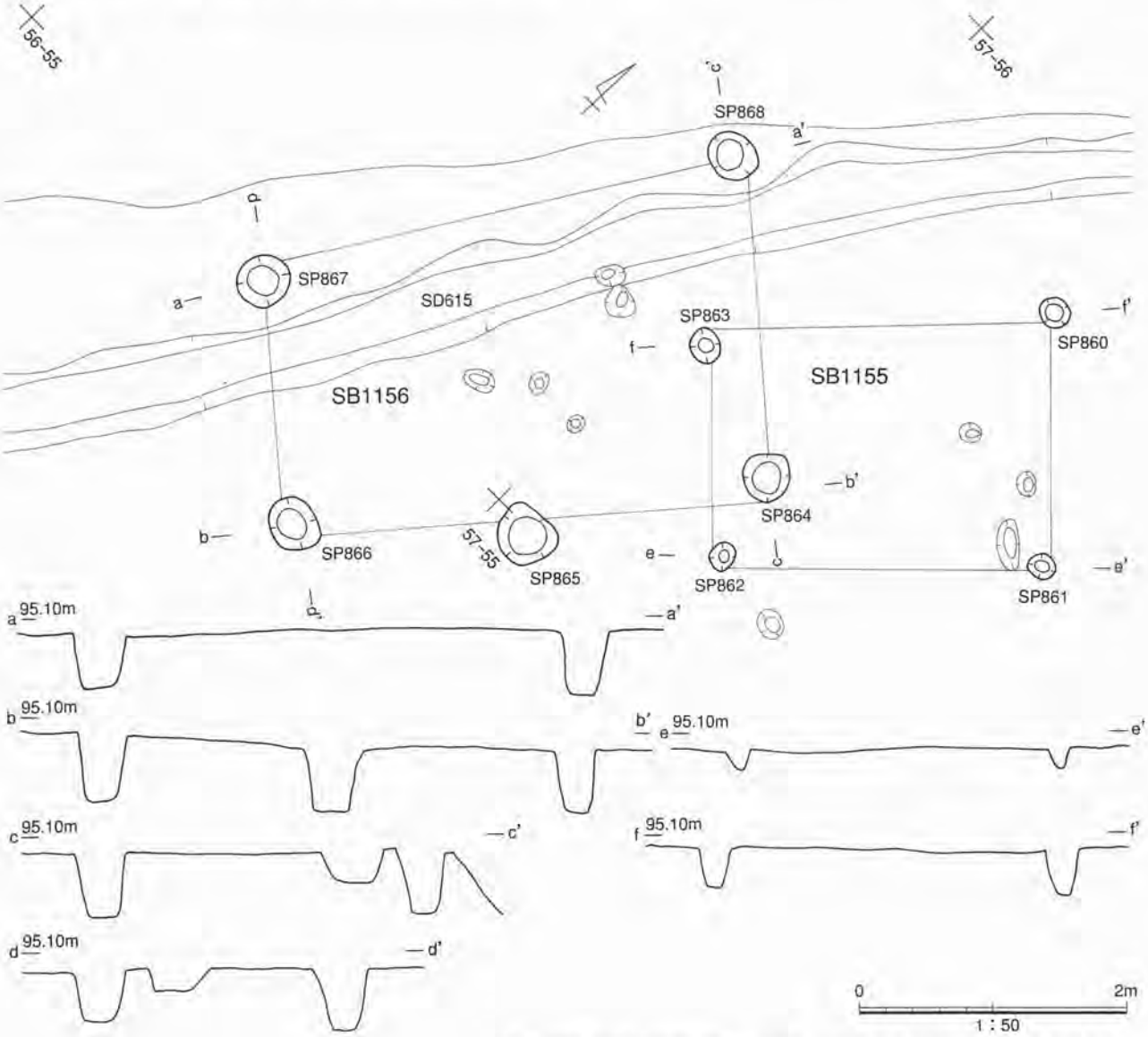
第49図　遺構実測図―SB1163・1164―

SB1163・1164・1155・1156

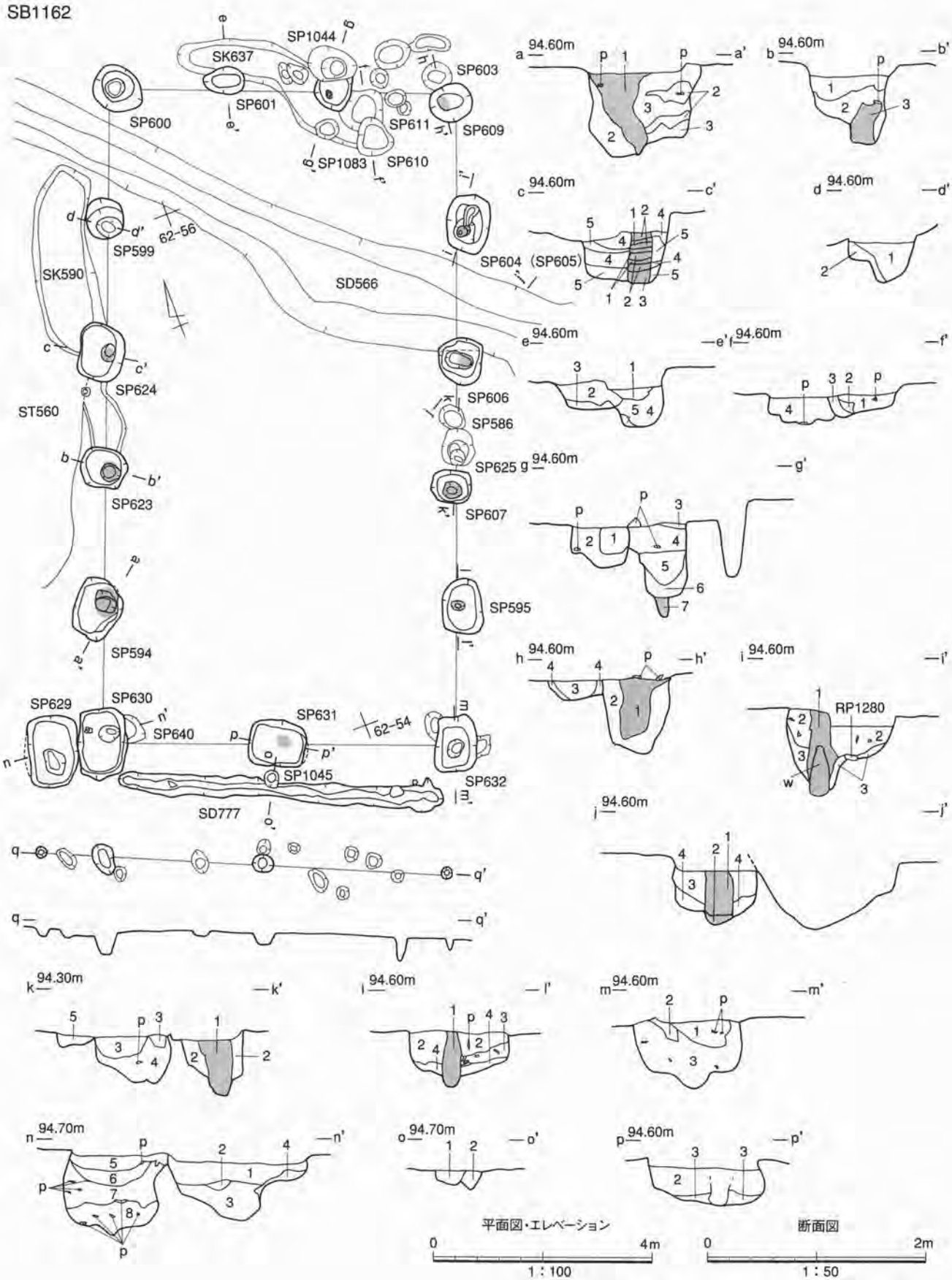


SB1163、1164

1　10YR2/2黒褐色砂質シルト（炭化粒0.3cm大1%混入）
2　10YR2/2黒褐色砂質シルト（炭化粒0.5cm大3%混入）
3　10YR3/3暗褐色砂質シルト（2層斑に5%混入）
4　10YR2/2黒褐色砂質シルト（2.5Y5/4黄褐色砂質シルト粒地山0.3～0.5cm大20%・1層斑に5%混入）
5　2.5Y2/1黒色シルト質粘土（10YR4/2灰黄褐色シルト質粘土斑に30%・4層5%混入）
6　10YR2/2黒褐色粘質シルト（2.5Y5/4黄褐色砂質シルト粒地山0.3～0.5cm大5%混入）
7　10YR2/2黒褐色粘質シルト（2.5Y5/4黄褐色砂質シルト粒地山0.3～0.5cm大10%・1層5%斑に混入）
8　5層に類似（炭化粒0.1cm大3%混入、酸化鉄多量に付着）
9　2.5Y5/4黄褐色粘質シルト（8層ブロック0.5～3cm大5%・2.5Y3/2黒褐色粘質シルト斑に5%混入）
10　10YR2/1黒色粘土（6層斑に40%混入）
11　10YR4/4褐色粘質シルト（6層しみ込むように10%混入）
12　10YR2/2黒褐色粘質シルト（13層3%混入）
13　2.5Y5/4黄褐色粘質シルト（2.5Y3/1黒褐色砂質シルト・10YR2/1黒色粘質シルト粒0.1～1cm大混入）
14　6層に類似（2.5Y5/4黄褐色砂質シルト粒地山0.3～0.5cm大斑に5%混入）
15　6層に類似（2.5Y5/4黄褐色砂質シルト粒地山0.3～0.5cm大斑に10%混入）
16　6層に類似（2.5Y5/4黄褐色砂質シルト粒地山0.3～0.5cm大斑に20%混入）
17　6層に類似（2.5Y5/4黄褐色砂質シルト粒地山0.3～0.5cm大斑に30%混入）



第50図　遺構実測図―SB1155・1156・1163・1164―



第51図　遺構実測図―SB1162―

SB1162土層注記

SP594土層注記　a-a'

1　10YR2/1黒色粘質シルト（2.5Y6/4にぶい黄色粘質シルト・2.5Y3/1黒褐色粘質シルト1～5cm大各10%混入、土器片混入、炭化粒0.5cm大1%混入）
2　10YR1.7/1黒色粘質シルト（2.5Y6/4にぶい黄色粘質シルト50%・2.5Y3/1黒褐色粘質シルト5%混入）
3　2.5Y5/3黄褐色粘質シルト（2.5Y6/4にぶい黄色粘質シルト斑に10%・2.5Y3/1黒褐色粘質シルト縞状に5%混入）
※　掘り方埋土はSP624に類似

SP623土層注記　b-b'

1　10YR2/2黒褐色粘質シルト（10YR5/3にぶい黄褐色シルト質粘土10%・10YR2/1黒色粘質シルト5%斑に混入）
2　10YR2/1黒色粘質シルト（1層10%・10YR5/3にぶい黄褐色シルト質粘土20%斑に混入）
3　10YR3/2黒褐色砂質シルト（1・2層各3%・10YR5/3にぶい黄褐色シルト質粘土5%斑に混入）

SP624土層注記　c-c'

1　2.5Y2/1黒色シルト質粘土
2　10YR3/2黒褐色砂質シルト（2.5Y2/1黒色シルト質粘土斑に5%混入）
3　2.5Y2/1黒色シルト質粘土（4層粒0.1cm大5%混入）
4　2.5Y6/3にぶい黄色粘土（砂5%混入）
5　2.5Y2/1黒色粘土（4層斑に5%混入）

SP599土層注記　d-d'

1　10YR2/1黒色粘質シルト（10YR5/2灰黄褐色粘質シルト・10YR3/2黒褐色粘質シルト各5%斑に混入）
2　10YR2/1黒色粘質シルト（10YR5/2灰黄褐色粘質シルト30%・10YR3/2黒褐色粘質シルト10%斑に混入）

SP601・SK637土層注記　e-e'

1　10YR2/3黒褐色砂質シルト（2.5Y5/3黄褐色砂質シルト粒0.1～0.5cm大10%・炭化粒0.1cm大5%混入）
2　10YR2/3黒褐色砂質シルト（2.5Y5/3黄褐色砂質シルト粒0.1～1cm大帯状に10%混入）
3　2.5Y3/1黒褐色砂質シルト（2.5Y5/3黄褐色砂質シルト粒0.1～1cm大1%混入）
4　2.5Y3/1黒褐色砂質シルト（2.5Y5/3黄褐色砂質シルト粒ブロック5cm大1%混入）
5　2.5Y5/3黄褐色シルト質粘土（3層斑に5%混入）

SP602・1044土層注記　f-f'

1　2.5Y3/1黒褐色砂質シルト（炭化粒0.1～1cm大1%・10YR3/1黒褐色砂質シルト斑に3%混入、粘性あり）
2　10YR3/1黒褐色砂質シルト（炭化物0.5～1cm大5%・10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト0.5～1cm大5%・2.5Y3/1黒褐色砂質シルト斑に10%混入）
3　2.5Y6/3にぶい黄色粘土（砂5%混入）
4　2.5Y2/1黒色粘土（3層斑に5%混入）
5　2.5Y2/1黒色シルト質粘土（3層粒0.1cm大5%混入）
6　10YR3/2黒褐色砂質シルト（1層斑に5%混入）

SP610・611土層注記　g-g'

1　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（10YR5/3にぶい黄褐色シルト斑に20%・7.5YR5/6明褐色シルト・焼土粒0.5～1cm大5%・炭化粒1cm大3%混入）
2　10YR3/3暗褐色シルト（10YR5/3にぶい黄褐色シルト斑に20%・7.5YR5/6明褐色シルト・焼土粒0.5～1cm大5%・炭化粒1cm大3%混入）
3　2.5Y4/2暗黄灰色シルト（10YR4/3にぶい黄褐色シルト1%・炭化粒0.2cm大3%・焼土粒0.3cm大1%混入）
4　10YR3/3暗褐色シルト

SP603・609土層注記　h-h'

1　10YR2/1黒色粘質シルト（10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト・10YR3/1黒褐色粘質シルト各5%斑に混入）
2　10YR2/1黒色粘質シルト（10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト30%・10YR2/1黒色粘質シルト5%斑に混入）
3　10YR2/2黒褐色粘質シルト（2.5Y5/3黄褐色粘質シルト粒0.5cm大1%混入）
4　10YR3/1黒褐色粘質シルト（3層・10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト・2.5Y5/3黄褐色粘質シルト粒0.5cm大各5%斑に混入）

SP604・605土層注記　i-i'

1　2.5Y3/1黒褐色粘質シルト（分層面に炭化物付着）
2　10YR2/2黒褐色粘質シルト（2.5Y5/3黄褐色粘質シルト10%・1層・10YR2/1黒色粘質シルトブロック5～10cm大20%混入）
3　10YR2/2黒褐色粘質シルト（2.5Y5/3黄褐色粘質シルト30%・1層・10YR2/1黒色粘質シルトブロック5～10cm大10%混入、2層に比べ粘性が強い）

SP606土層注記　j-j'

1　10YR2/2黒褐色シルト（10YR5/3にぶい黄褐色シルト粒0.5cm大・10YR1.7/1黒色シルト斑に5%混入）
2　2.5Y3/1黒褐色粘質シルト（2.5Y4/2暗黄灰色粘質シルト斑に5%・炭化粒1cm大3%混入）
3　10YR2/1黒色砂質シルト（10YR3/1黒褐色砂質シルト10%・10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト5%混入）
4　10YR2/1黒色砂質シルト（10YR3/1黒褐色砂質シルト10%・10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト20%混入）

SP625・586・607土層注記　k-k'

1　10YR2/1黒色粘質シルト（10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト・10YR3/1黒褐色粘質シルト各5%斑に混入）
2　10YR2/1黒色粘質シルト（10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト30%・1層5%斑に混入）
3　10YR2/2黒褐色粘質シルト（2.5Y5/3黄褐色粘質シルト粒0.5cm大1%混入）
4　10YR3/1黒褐色粘質シルト（3層・10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト・2.5Y5/3黄褐色粘質シルト粒0.5cm大各5%斑に混入）
5　10YR3/2黒褐色砂質シルト（炭化粒0.2cm大1%・3層5%・2.5Y5/3黄褐色粘質シルト粒0.5cm大1%斑に混入）
※　SP623野掘り方埋土と類似、アタリは明瞭でなく斑で埋め戻し様である

SP595土層注記　l-l'

1　2.5Y3/2黒褐色砂質シルト（炭化粒0.2cm大1%混入、粘性あり）
2　10YR2/2黒褐色砂質シルト（10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルト帯状に流れ込むように20%混入）
3　10YR3/1黒褐色砂質シルト（2層5%・10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルト粒1cm大5%混入）
4　10YR2/1黒色粘質シルト（3層5%混入）
※　1層のアタリがSP631のアタリと類似

SP632土層注記　m-m'

1　10YR2/2黒褐色シルト（2層5%・2.5Y5/3黄褐色シルト粒0.5～1cm大5%・炭化粒0.5cm大3%混入）
2　10YR2/1黒色シルト（2層5%・2.5Y5/3黄褐色シルト粒0.5～1cm大5%・炭化粒0.5cm大3%混入）
3　10YR2/2黒褐色シルト（2.5Y5/3黄褐色シルト粒0.5～1cm大斑に30%・炭化粒0.5cm大1%混入）
4　10YR2/1黒色粘質シルト（3層5%混入）
※　SP631よりも掘り方埋土ブロックが細かい、アタリは泡在認められず

SP629・630土層注記　n-n'

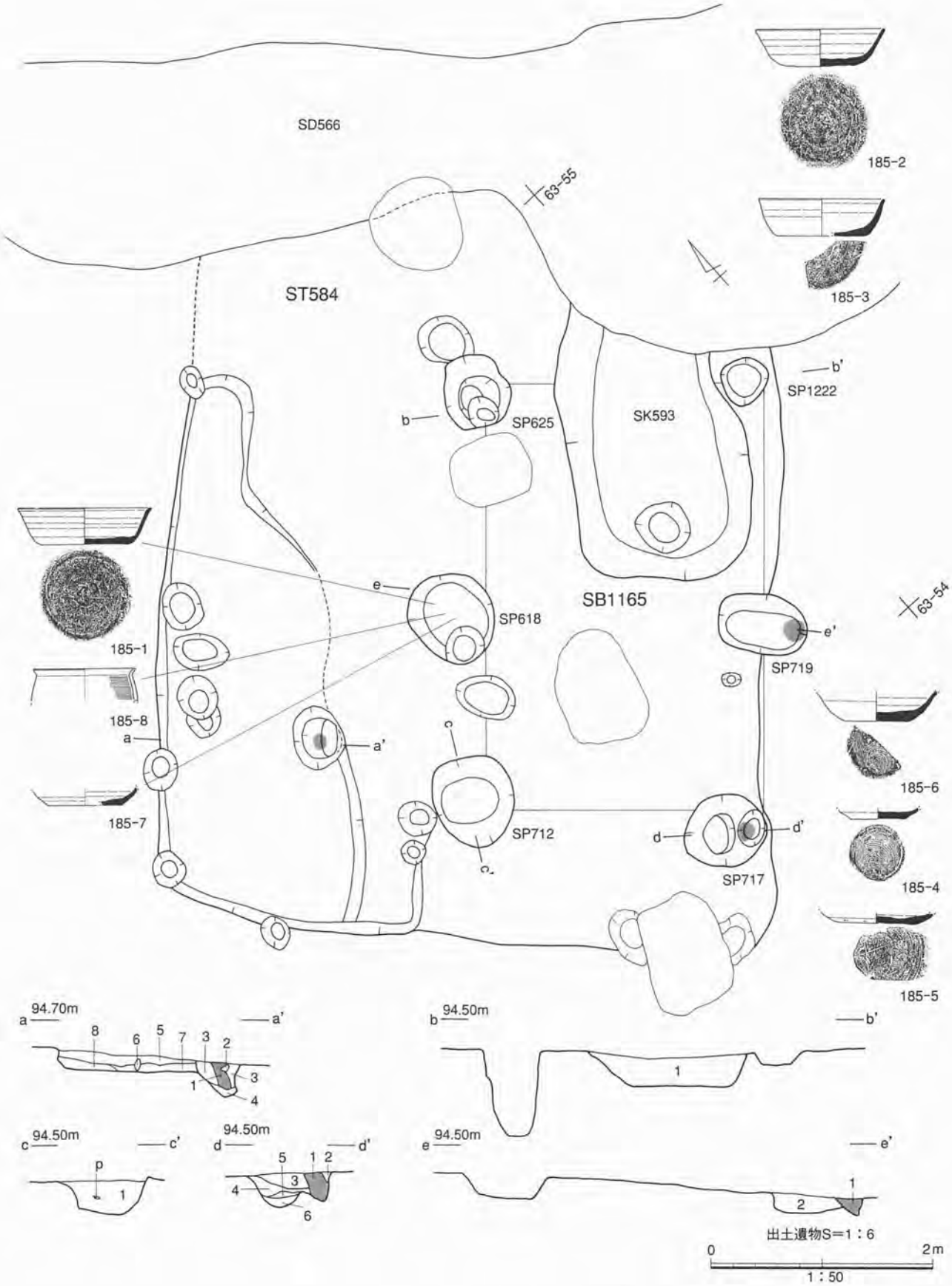
1　10YR2/1黒色粘質シルト（10YR3/2黒褐色粘質シルト粒3cm大・2層ブロック3～5cm大10%混入）
2　2.5Y5/3黄褐色シルト質粘土（2.5Y4/2暗黄灰色シルト質粘土斑に10%混入）
3　1層に類似（1層に比べ2層ブロックが20%混入）
4　2層に1層が10%混入
※　SP630はSP624の掘り方覆土に類似、明瞭な柱痕は認められない
5　2.5Y3/1黒褐色砂質シルト（SD566F1に類似、土器片混入、粘性あり）
6　10YR3/2黒褐色粘質シルト（7層5%・2.5Y5/3黄褐色シルト質粘土3%斑に混入）
7　10YR3/1黒褐色粘質シルト（2.5Y5/3黄褐色シルト質粘土粒0.5～2cm大1%・8層粒0.5cm大1%・10YR5/8黄褐色シルト質粘土粒0.5cm大混入、土器片混入）
8　10YR1.7/1黒色粘土（2.5Y5/3黄褐色シルト質粘土斑に5%・炭化粒0.5cm大1%混入）
※　他に類似が認められない、7層上面に礫2個確認その下位に柱痕上の落ち込みが認められる

SP777・1045土層注記　o-o'

1　2.5Y3/2黒褐色砂質シルト（地山粒霜降状に10%混入）
2　10YR2/3黒褐色砂質シルト（上位は地山粒が帯状に10%・下位は斑に5%混入、地山との分層面に酸化鉄が付着）

SP631土層注記　p-p'

1　10YR2/2黒褐色砂質シルト（2.5Y5/2暗灰黄色シルト斑に5%混入、粘性あり）
2　2.5Y2/1黒色砂質シルト（2.5Y5/2暗灰黄色シルト・3層斑に各5%混入、粘性あり）
3　10YR5/4にぶい黄褐色シルト（10YR4/2灰黄褐色砂質シルト・2層各5%斑に混入）
※　SP624と掘り方覆土が類似



第52図　遺構平面図―ST584、SB1165、SK593―

ST584・SB1165土層注記
1　2.5Y3/1黒褐色砂質シルト（3層斑に3%混入）
2　1層に類似（純粋）
3　1層に類似（7層斑に20%混入）
4　7層に類似（7層に比べ粘性が強い、1層が帯状に堆積し中央が落ち込む）
5　10YR2/1黒色シルト（7層5%・10YR1.7/1黒色砂質シルト10%斑に混入）
6　10YR2/3黒褐色砂質シルト（5・7層粒子状に0.3cm大3%混入）
7　2.5Y4/3オリーブ褐色シルト（5層斑に5%混入）
8　7層に類似（5層ブロック2cm大10%混入）

SK539土層注記
1　10YR3/2黒褐色粘質シルト（10YR4/2灰黄褐色砂質シルト10%混入、硬くしまっている）

SP717土層注記
1　10YR2/1黒色粘質シルト（3層1%混入）
2　10YR2/2黒褐色砂質シルト（3層5%混入）
3　10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト（10YR2/1黒色粘質シルト10%・褐色粒0.5cm大5%・7.5YR5/6明褐色シルト0.5cm大10%・7.5YR3/2黒褐色シルト斑に10%混入）
4　7.5YR3/2黒褐色砂質シルト（褐色粒1%・7.5YR5/6明褐色シルト粒10%混入）
5　7.5YR3/3暗褐色砂質シルト（4・6層3%斑に混入）
6　10YR4/4褐色砂質シルト（5層1%混入）
※　焼土・炭化粒を含み掘り方埋土はST582の埋土と考えられる

SP719土層注記
1　10YR2/1黒色粘質シルト
2　10YR2/1黒色粘質シルト（褐色粒・褐色シルト多量に含む）

SP712土層注記
1　10YR2/3黒褐色粘質シルト（炭化粒0.3cm大1%・2.5Y5/3黄褐色砂質シルト粒0.1～0.3cm大5%混入）

SD616
a-a' 土層注記
1　耕作土
2　10YR3/2黒褐色シルト　SP覆土
3　10YR2/2黒褐色粘質シルト（ほぼ分層不可）　自然埋土
4　10YR3/2黒褐色粘質シルト（ほぼ分層不可）　自然埋土
5　崩落土が6層に混入
6　10YR3/2黒褐色シルト（地山粒が斑に20%混入）　埋土
7　10YR3/2黒褐色シルト（地山粒が斑に50%混入、しまりがない）埋土
8　10YR3/2黒褐色シルト　SD6覆土

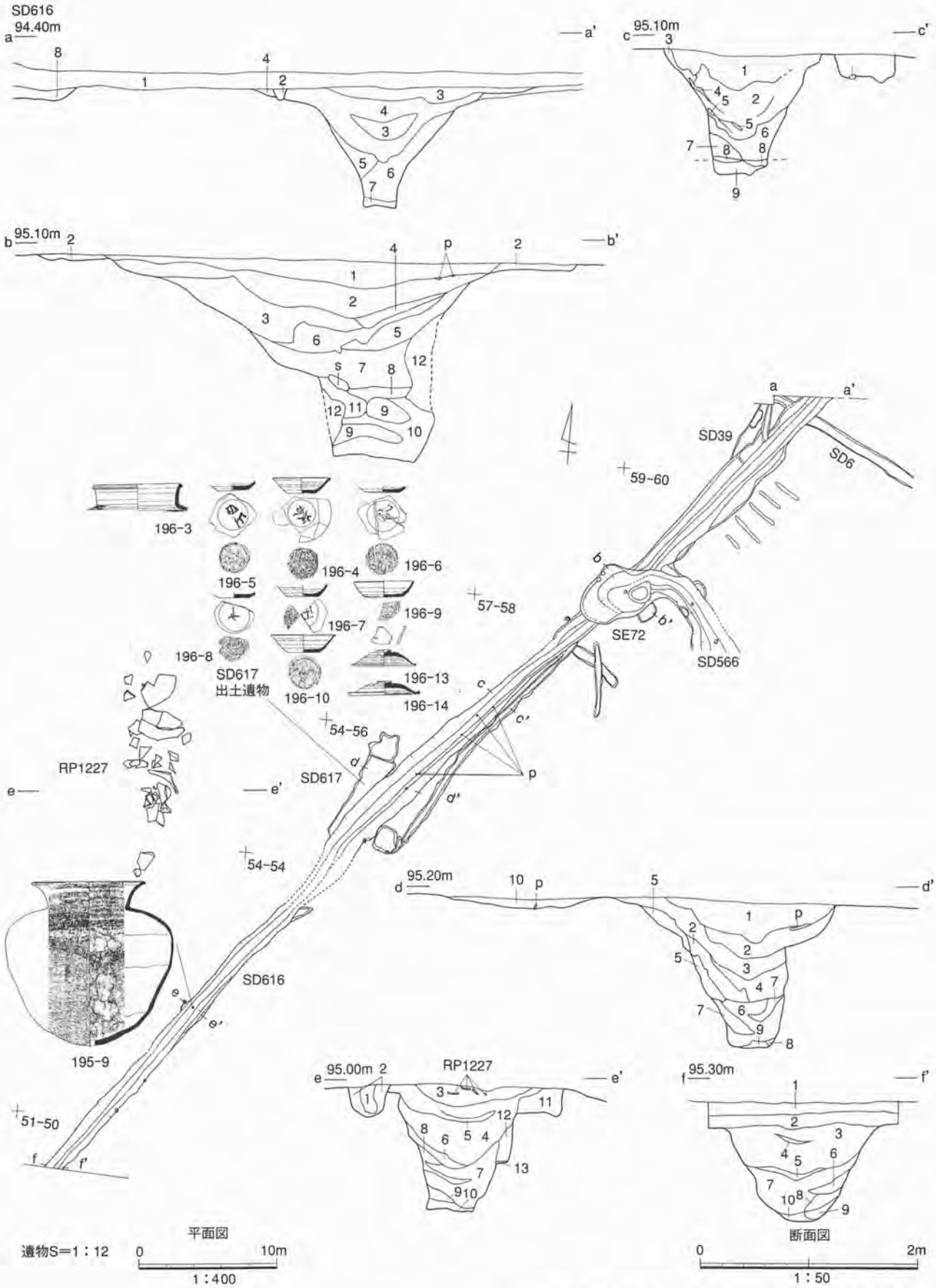
b-b' 土層注記
1　10YR3/2黒褐色シルト（土師器粒混入、硬くしまっている）
2　1層に類似（10YR2/2黒褐色粒5%混入）
3　10YR3/1黒褐色シルト（2・4・5層粒1cm大10%混入、硬くしまっている）
4　10YR4/3にぶい黄褐色粘土（5層をブロック状に20%混入）
5　10YR4/1褐灰色砂質シルト（4層をブロック状に5%混入）
6　10YR3/1黒褐色砂質シルト（2.5Y6/3にぶい黄色粘土ブロック5cm大5%混入）
7　2.5Y4/1黄灰色細砂（7層を10%混入）
8　2.5Y4/2暗灰黄色細砂（4層粘土ブロック・2.5Y3/2黒褐色砂各10%混入）
9　2.5Y3/1黒褐色粘土（均質）
10　4層粘土に8・9層が斑に各20%混入
11　2.5Y4/3オリーブ褐色粘土
12　崩落土

c-c' 土層注記
1　10YR2/1黒色粘質シルト（2層が汚れるように斑に5%混入）
2　10YR3/1黒褐色砂質シルト（粘性あり、10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト粒0.1～0.5cm大がしも降り状に混入）　地山
3　10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト（1層がしみ込むように5%混入）
4　10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト（流れ込み層）
5　10YR1.7/1黒色粘土（炭化粒0.5cm大1%混入）
6　10YR2/2黒褐色砂質シルト（2層に地山10%、5層に1%混入）
7　10YR2/2黒褐色砂質シルト（地山斑に50%混入）
8　10YR2/2黒褐色砂質シルト（10YR2/1黒色粘土斑に30%、9層を10%混入）
9　10YR2/3黒褐色砂（10YR2/1黒色粘土斑に20%、地山斑に5%混入）
10　10YR3/2黒褐色シルト　SD615覆土

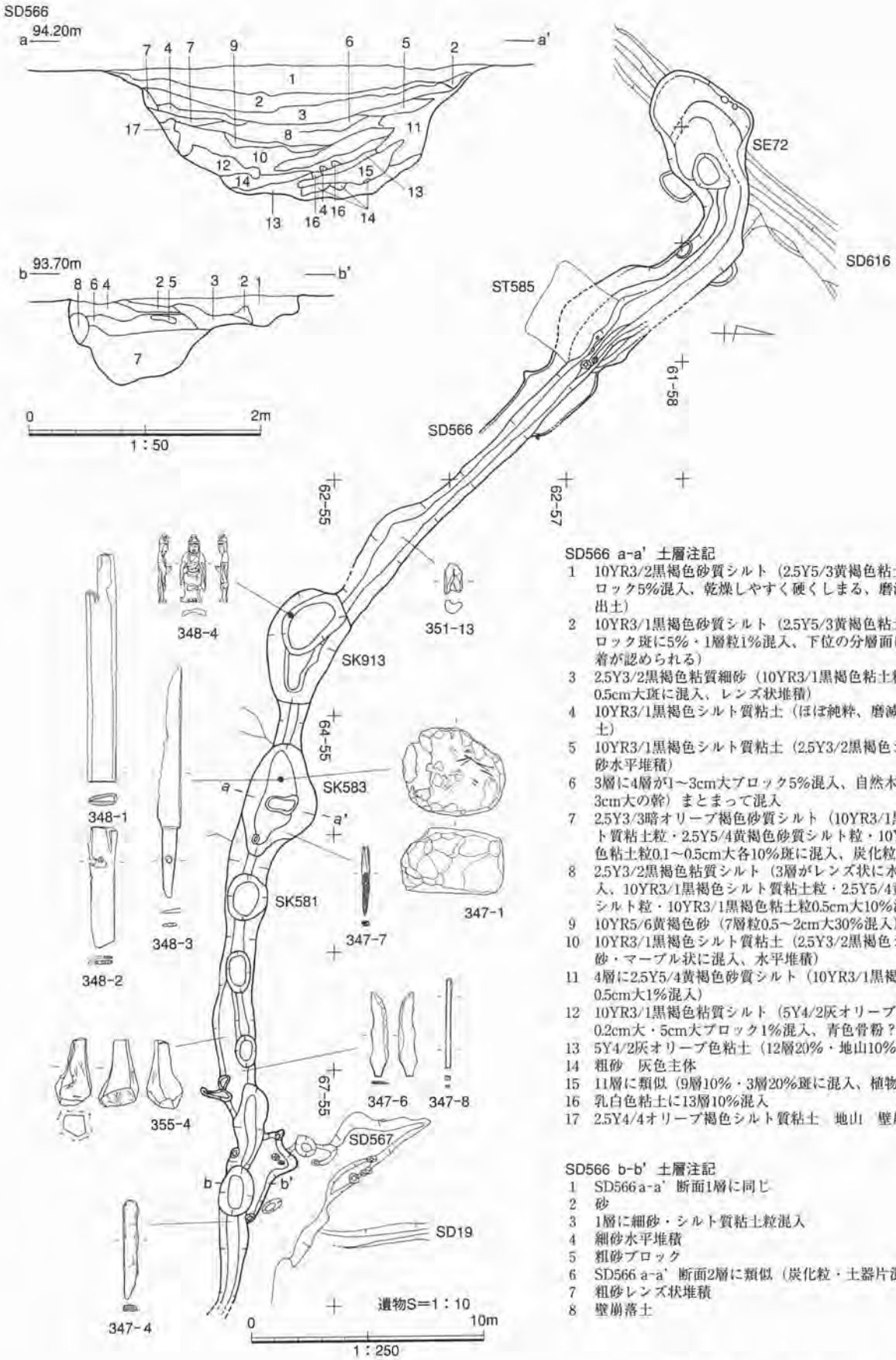
d-d' 土層注記
1　10YR2/1黒色粘質シルト（2層が汚れるように斑に5%混入）
2　10YR3/1黒褐色粘質シルト（10YR1.7/1黒色粘土帯状に20%・地山0.5～3cm大5%混入）
3　10YR3/1黒褐色砂質シルト（粘性あり、10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト粒0.1～0.5cm大がしも降り状に混入）
4　10YR3/1黒褐色粘質シルト（地山粒・10YR2/2黒褐色砂質シルト粒0.3cm大各20%混入）
5　10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト（1層がしみ込むように5%混入）
6　10YR2/2黒褐色砂質シルト（3層に地山10%・10YR1.7/1黒色粘土1%混入）
7　10YR2/2黒褐色砂質シルト（地山が斑に50%混入）
8　10YR2/3黒褐色砂（10YR2/1黒色粘土斑に20%、地山斑に5%混入）
9　10YR2/3黒褐色砂（10YR2/1黒色粘土斑に5%、地山斑に40%混入）
10　10YR3/1黒褐色砂質シルト（炭化粒1%混入）

e-e' 土層注記
1　10YR3/2黒褐色砂質シルト（粘性あり、炭化粒0.5cm大1%・10YR3/3暗褐色砂質シルト10%混入）
2　10YR3/3暗褐色砂質シルト（粘性あり、10YR4/4褐色砂質シルト斑に10%混入）
3　10YR2/1黒色粘質シルト（10YR3/1黒褐色粘質シルト4層にしま状に10%混入）
4　10YR2/2黒褐色粘質シルト（10YR3/3暗褐色粘質シルト・10YR4/4褐色粘質シルト斑に各20%混入）
5　10YR2/2黒褐色粘質シルト（10YR3/3暗褐色粘質シルト・10YR4/4褐色粘質シルト斑に各5%混入）
6　10YR3/4暗褐色砂質シルト（粘性あり、4層斑に50%混入）
7　10YR2/2黒褐色砂質シルト（粘性あり、6・8層各10cm大ブロック斑に10%混入）
8　10YR4/4褐色砂質シルト（粘性あり、7層5%混入）
9　10YR4/4褐色砂質シルト（粘性あり、10層5%混入）
10　10YR4/6褐色細砂（10YR2/2黒褐色粘質シルトしま状に5%混入）
11　10YR3/2黒褐色シルト質粘土（8層粒0.1cm大30%混入、硬くしまっている）
12　10YR4/4褐色シルト質粘土（4層粒0.1cm大5%混入）
13　10YR3/4暗褐色粘土（炭化粒1%混入）

f-f' 土層注記
1　10YR4/2灰黄褐色シルト（耕土）
2　10YR4/2灰黄褐色シルト（黄褐色シルト混じり）
3　10YR3/2黒褐色シルト
4　10YR4/2灰黄褐色シルト
5　10YR3/3暗褐色シルト
6　10YR4/3にぶい黄褐色シルト
7　10YR4/2灰黄褐色シルト
8　10YR4/2灰黄褐色シルト
9　10YR4/2灰黄褐色シルト（粘質）
10　10YR5/2灰黄褐色シルト



第53図　遺構実測図—SD616・SE72—



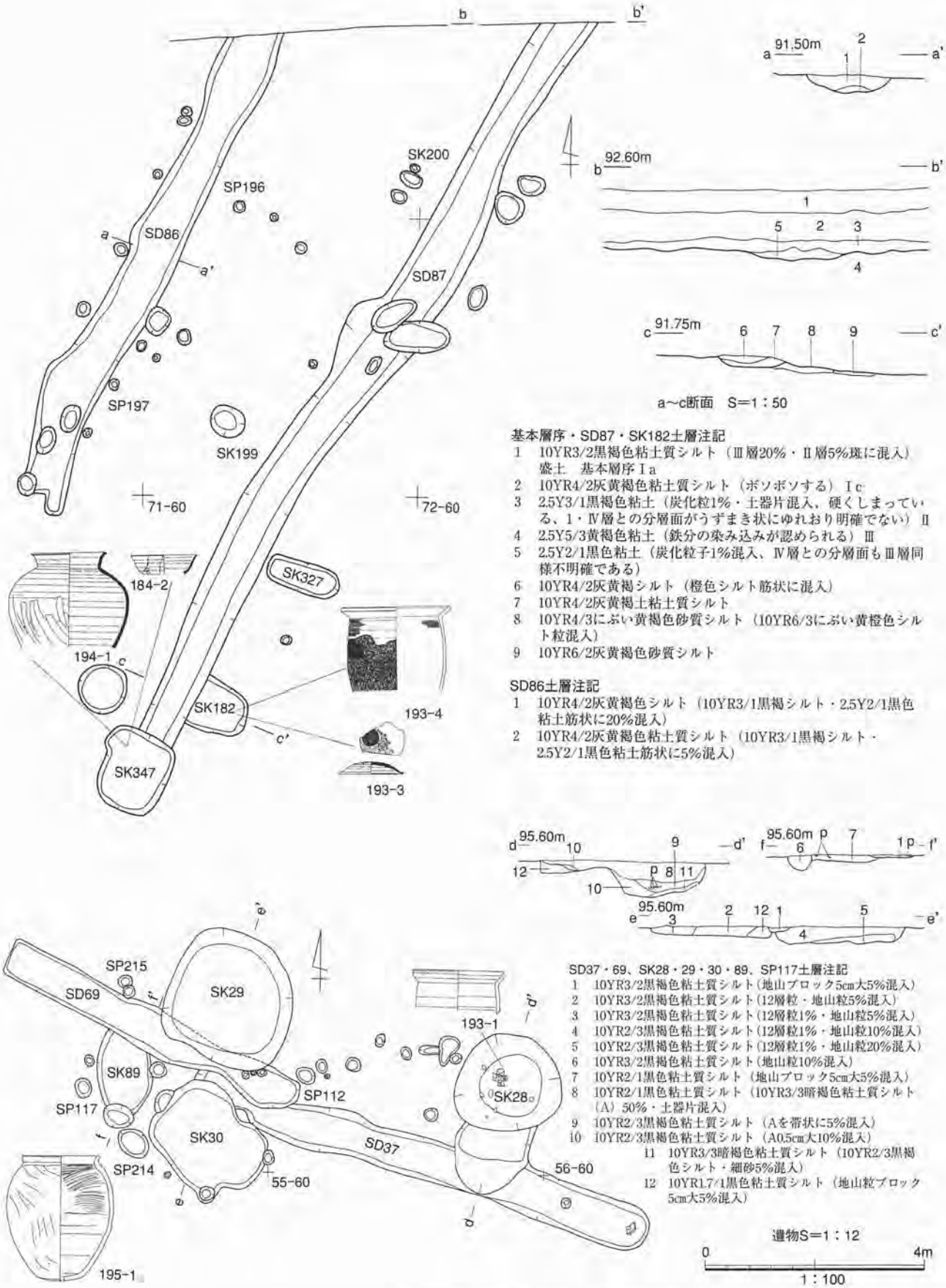
SD566 a-a' 土層注記

1 10YR3/2黒褐色砂質シルト（2.5Y5/3黄褐色粘土3cm大ブロック5%混入、乾燥しやすく硬くしまる、磨滅した土器出土）
2 10YR3/1黒褐色砂質シルト（2.5Y5/3黄褐色粘土3cm大ブロック斑に5%・1層粒1%混入、下位の分層面に鉄分の沈着が認められる）
3 2.5Y3/2黒褐色粘質細砂（10YR3/1黒褐色粘土粒0.1～0.5cm大斑に混入、レンズ状堆積）
4 10YR3/1黒褐色シルト質粘土（ほぼ純粋、磨滅した土器出土）
5 10YR3/1黒褐色シルト質粘土（2.5Y3/2黒褐色シルト・細砂水平堆積）
6 3層に4層が1～3cm大ブロック5%混入、自然木（径1～3cm大の幹）まとまって混入
7 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質シルト（10YR3/1黒褐色シルト質粘土粒・2.5Y5/4黄褐色砂質シルト粒・10YR3/1黒褐色粘土粒0.1～0.5cm大各10%斑に混入、炭化粒5%混入）
8 2.5Y3/2黒褐色粘質シルト（3層がレンズ状に水平堆積で混入、10YR3/1黒褐色シルト質粘土粒・2.5Y5/4黄褐色砂質シルト粒・10YR3/1黒褐色粘土粒0.5cm大10%混入）
9 10YR5/6黄褐色砂（7層粒0.5～2cm大30%混入）
10 10YR3/1黒褐色シルト質粘土（2.5Y3/2黒褐色シルト・細砂・マーブル状に混入、水平堆積）
11 4層に2.5Y5/4黄褐色砂質シルト（10YR3/1黒褐色粘土粒各0.5cm大1%混入）
12 10YR3/1黒褐色粘質シルト（5Y4/2灰オリーブ色粘土0.2cm大・5cm大ブロック1%混入、青色骨粉？1%混入）
13 5Y4/2灰オリーブ色粘土（12層20%・地山10%斑に混入）
14 粗砂　灰色主体
15 11層に類似（9層10%・3層20%斑に混入、植物遺存体混入）
16 乳白色粘土に13層10%混入
17 2.5Y4/4オリーブ褐色シルト質粘土　地山　壁崩落

SD566 b-b' 土層注記

1 SD566 a-a' 断面1層に同じ
2 砂
3 1層に細砂・シルト質粘土粒混入
4 細砂水平堆積
5 粗砂ブロック
6 SD566 a-a' 断面2層に類似（炭化粒・土器片混入）
7 粗砂レンズ状堆積
8 壁崩落土

第54図　遺構実測図―SD566―



基本層序・SD87・SK182土層注記

1　10YR3/2黒褐色粘土質シルト（Ⅲ層20%・Ⅱ層5%斑に混入）盛土　基本層序Ⅰa
2　10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト（ボソボソする）Ⅰc
3　2.5Y3/1黒褐色粘土（炭化粒1%・土器片混入、硬くしまっている、1・Ⅳ層との分層面がうずまき状にゆれおり明確でない）Ⅱ
4　2.5Y5/3黄褐色粘土（鉄分の染み込みが認められる）Ⅲ
5　2.5Y2/1黒色粘土（炭化粒子1%混入、Ⅳ層との分層面もⅢ層同様不明確である）
6　10YR4/2灰黄褐シルト（橙色シルト筋状に混入）
7　10YR4/2灰黄褐土粘土質シルト
8　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト（10YR6/3にぶい黄橙色シルト粒混入）
9　10YR6/2灰黄褐色砂質シルト

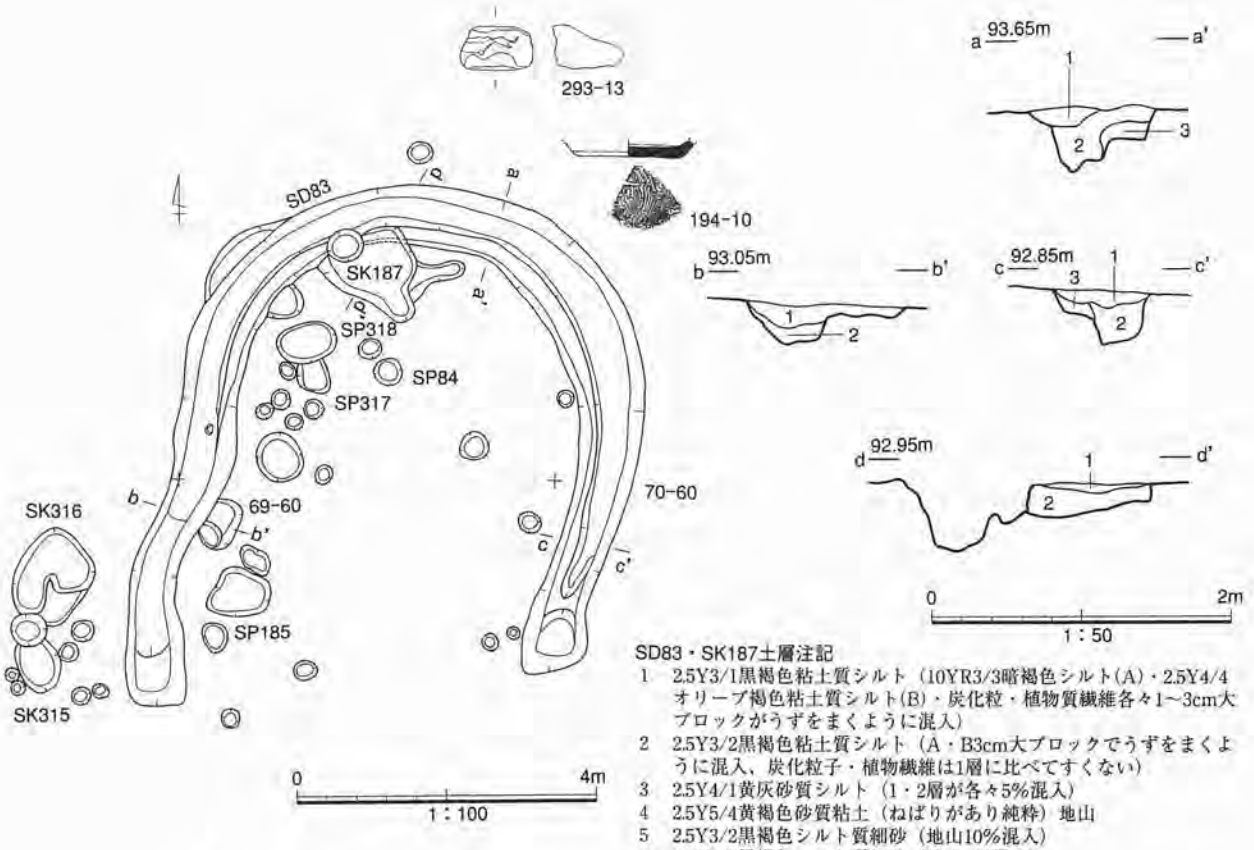
SD86土層注記

1　10YR4/2灰黄褐色シルト（10YR3/1黒褐シルト・2.5Y2/1黒色粘土筋状に20%混入）
2　10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト（10YR3/1黒褐シルト・2.5Y2/1黒色粘土筋状に5%混入）

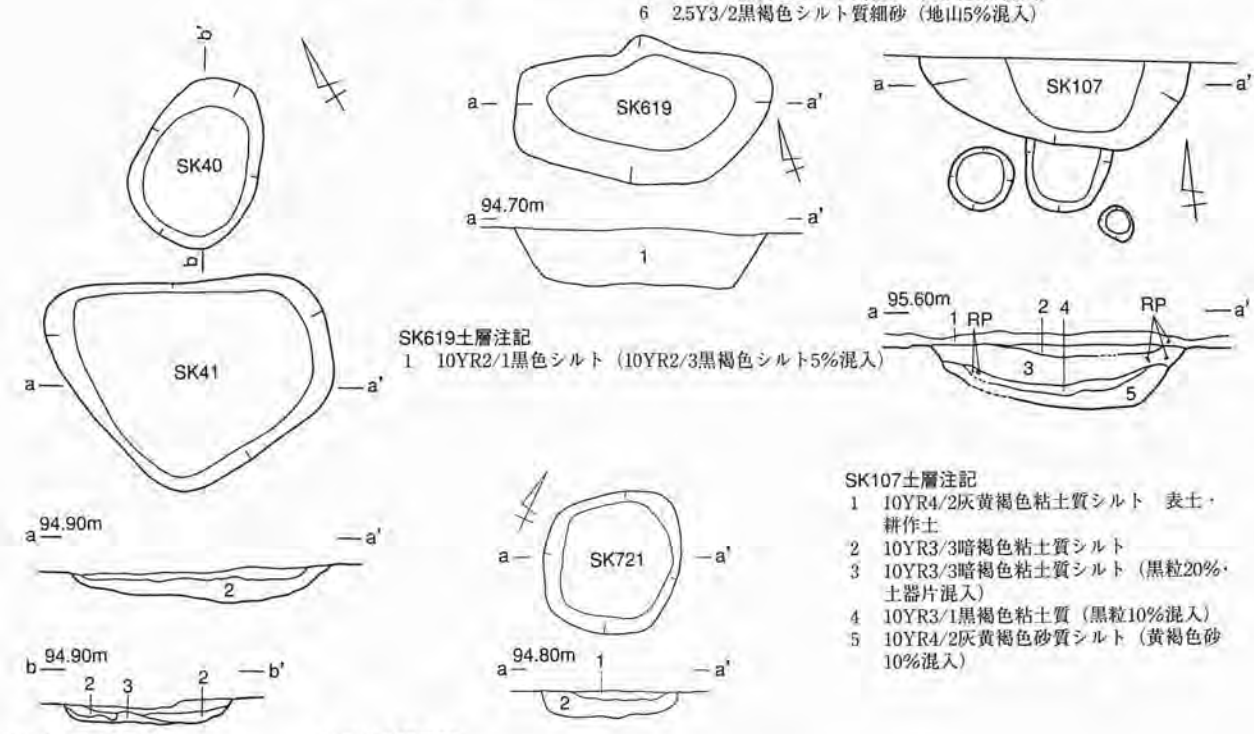
SD37・69、SK28・29・30・89、SP117土層注記

1　10YR3/2黒褐色粘土質シルト（地山ブロック5cm大5%混入）
2　10YR3/2黒褐色粘土質シルト（12層粒・地山粒5%混入）
3　10YR3/2黒褐色粘土質シルト（12層粒1%・地山粒5%混入）
4　10YR2/3黒褐色粘土質シルト（12層粒1%・地山粒10%混入）
5　10YR2/3黒褐色粘土質シルト（12層粒1%・地山粒20%混入）
6　10YR3/2黒褐色粘土質シルト（地山粒10%混入）
7　10YR2/1黒色粘土質シルト（地山ブロック5cm大5%混入）
8　10YR2/1黒色粘土質シルト（10YR3/3暗褐色粘土質シルト（A）50%・土器片混入）
9　10YR2/3黒褐色粘土質シルト（Aを帯状に5%混入）
10　10YR2/3黒褐色粘土質シルト（A0.5cm大10%混入）
11　10YR3/3暗褐色粘土質シルト（10YR2/3黒褐色シルト・細砂5%混入）
12　10YR1.7/1黒色粘土質シルト（地山粒ブロック5cm大5%混入）

第55図　遺構実測図—SD37・69・87、SK28～30他—



SD83・SK187土層注記
1　2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト（10YR3/3暗褐色シルト(A)・2.5Y4/4オリーブ褐色粘土質シルト(B)・炭化粒・植物質繊維各々1～3cm大ブロックがうずをまくように混入）
2　2.5Y3/2黒褐色粘土質シルト（A・B3cm大ブロックでうずをまくように混入、炭化粒子・植物繊維は1層に比べてすくない）
3　2.5Y4/1黄灰砂質シルト（1・2層が各々5%混入）
4　2.5Y5/4黄褐色砂質粘土（ねばりがあり純粋）地山
5　2.5Y3/2黒褐色シルト質細砂（地山10%混入）
6　2.5Y3/2黒褐色シルト質細砂（地山5%混入）



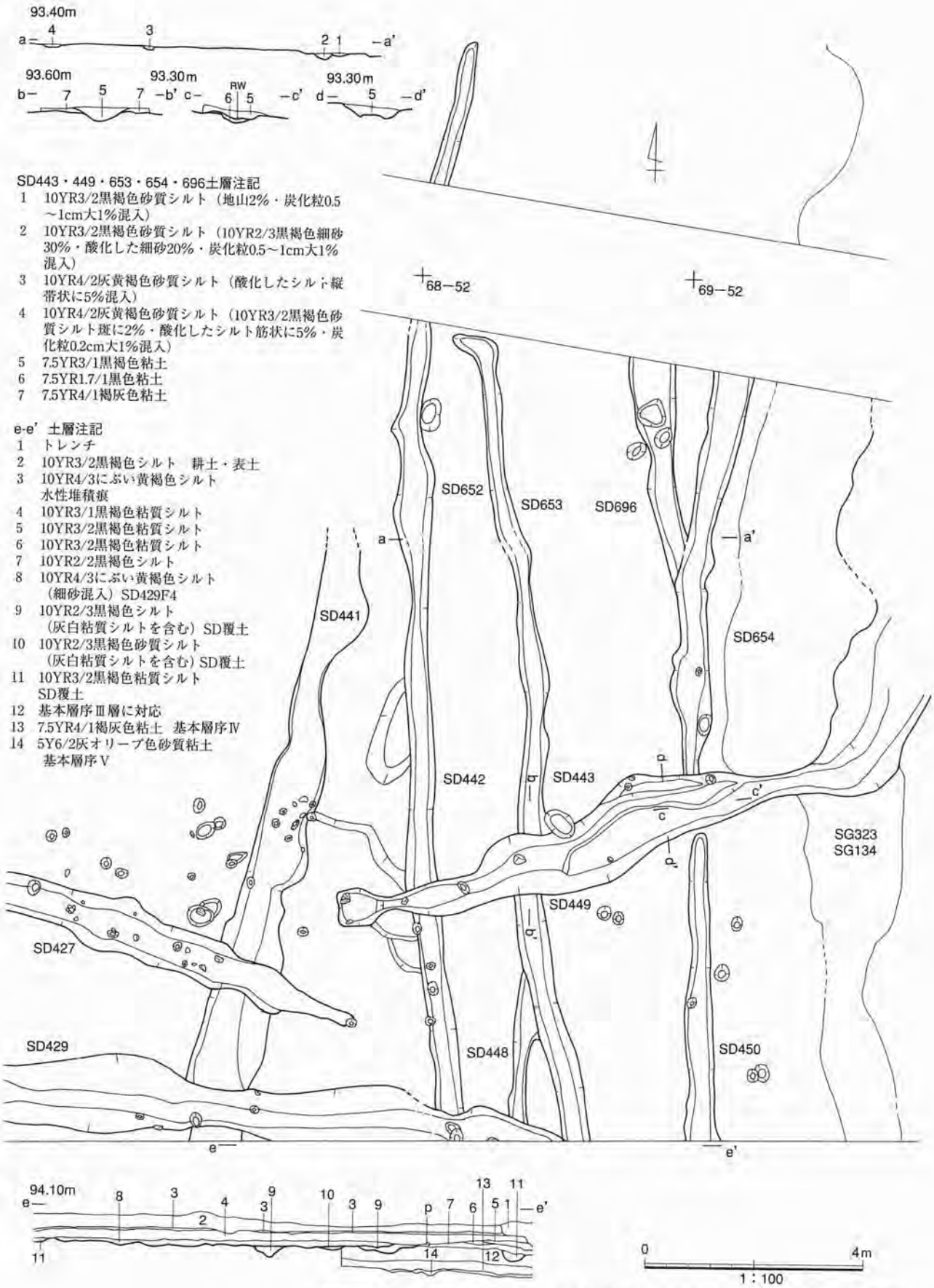
SK619土層注記
1　10YR2/1黒色シルト（10YR2/3黒褐色シルト5%混入）

SK107土層注記
1　10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト　表土・耕作土
2　10YR3/3暗褐色粘土質シルト
3　10YR3/3暗褐色粘土質シルト（黒粒20%・土器片混入）
4　10YR3/1黒褐色粘土質（黒粒10%混入）
5　10YR4/2灰黄褐色砂質シルト（黄褐色砂10%混入）

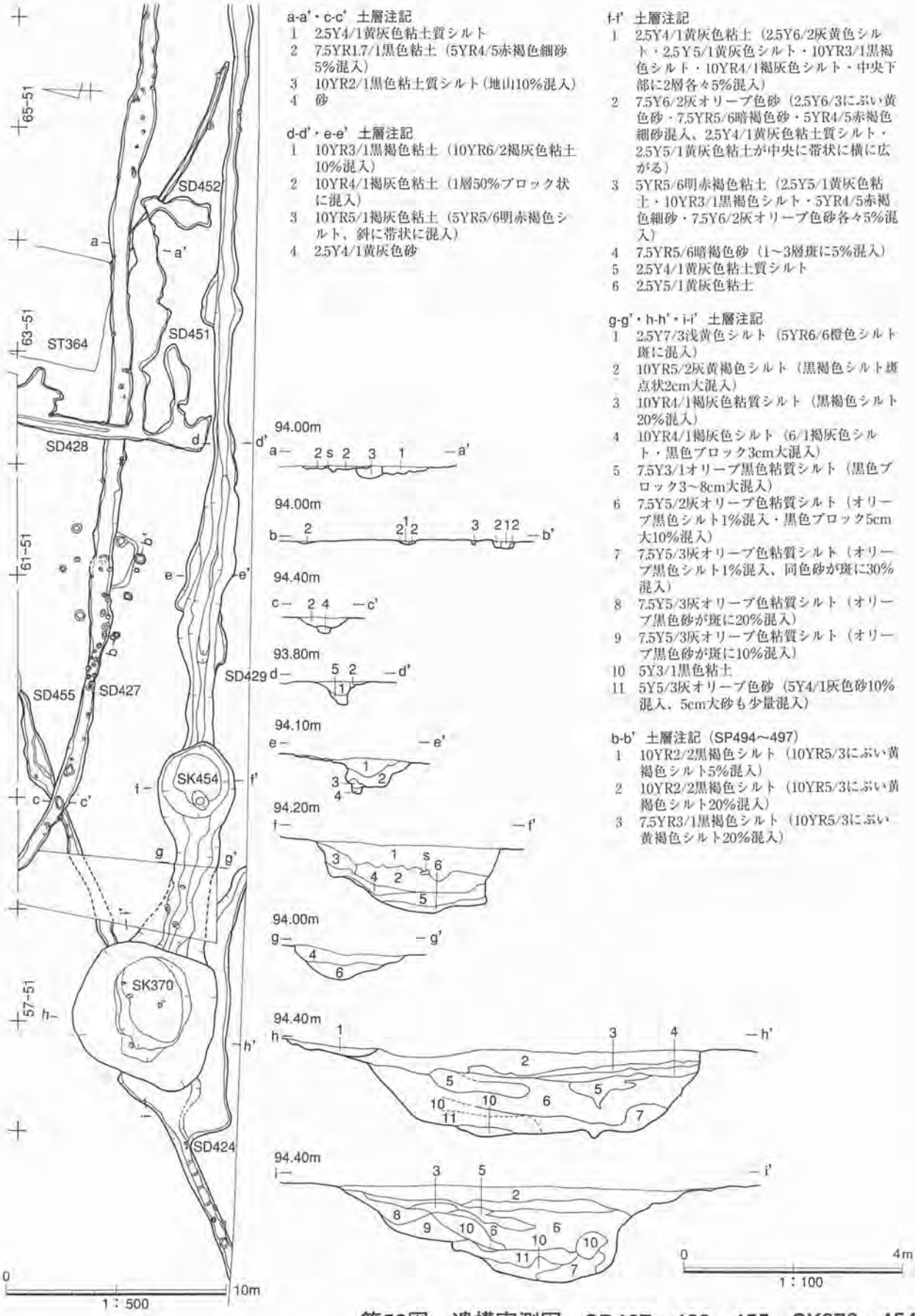
SK40・41土層注記
1　10YR2/1黒色粘土質シルト（3層・地山粒10%混入）
2　10YR2/1黒色粘土質シルト（3層・地山粒20%混入）
3　10YR3/1黒褐色粘土質シルト（1層・地山粒5%混入）

SK721土層注記
1　10YR2/1黒色シルト（2層が5%混入）
2　10YR2/3黒褐色シルト（2.5Y4/4オリーブ褐色砂質シルト粒0.5～3cm大5%・炭化粒0.3cm大1%混入）

第56図　遺構実測図—SD83、SK40・41・107・619・721—



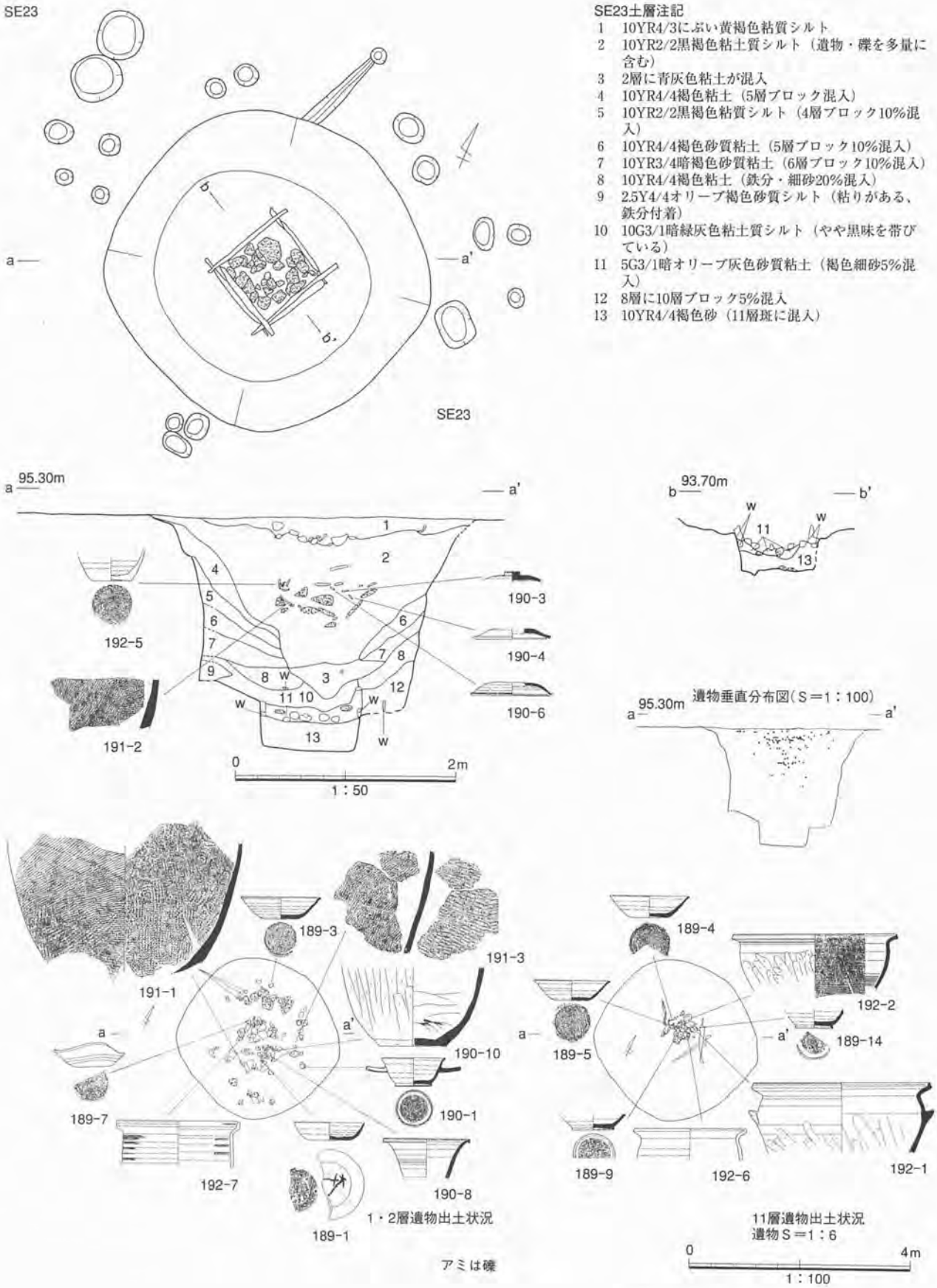
第57図 遺構実測図—SD441～443・448～450・652～654—



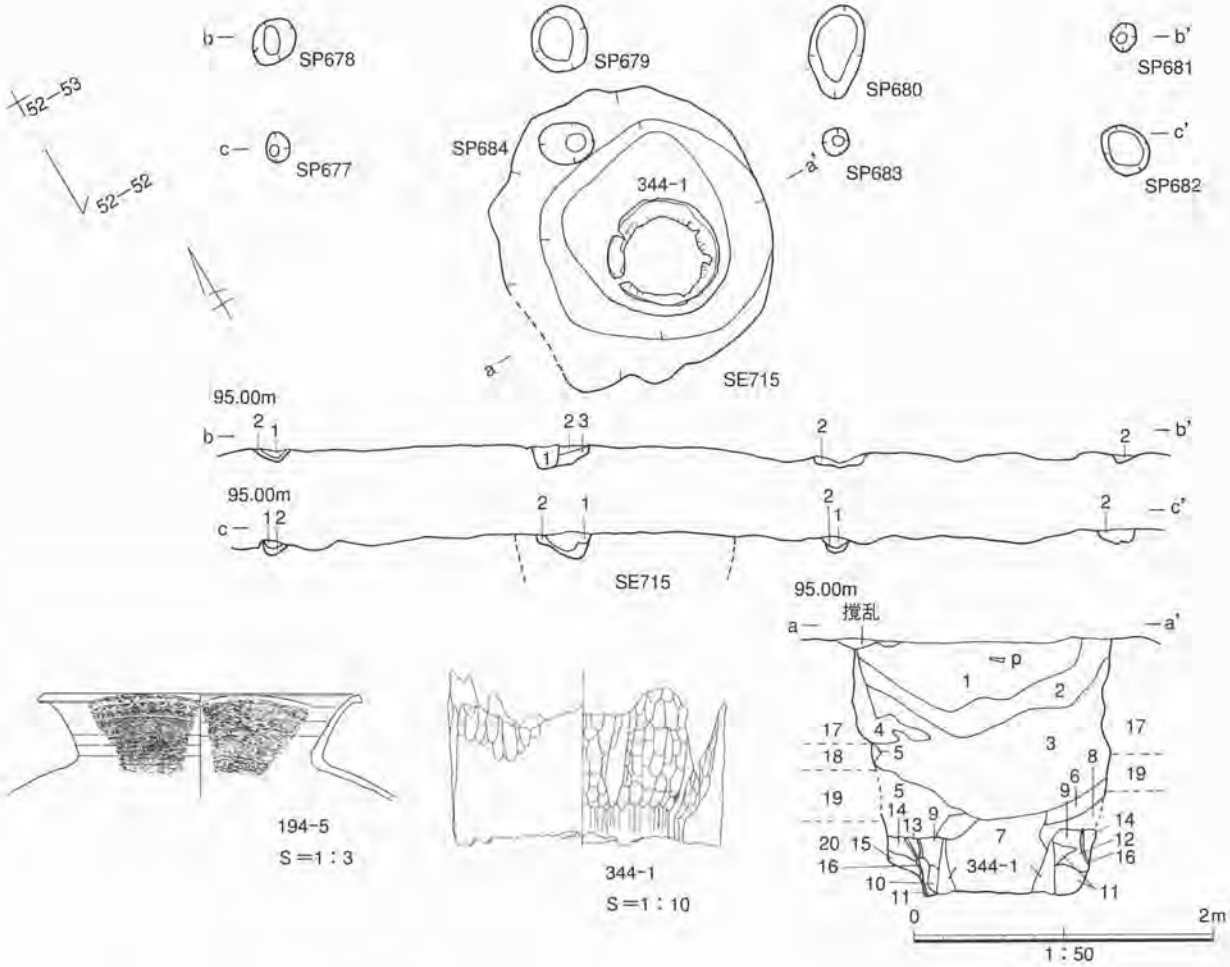
第58図　遺構実測図―SD427・429・455、SK370・454―

SE23土層注記

1　10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト
2　10YR2/2黒褐色粘土質シルト（遺物・礫を多量に含む）
3　2層に青灰色粘土が混入
4　10YR4/4褐色粘土（5層ブロック混入）
5　10YR2/2黒褐色粘質シルト（4層ブロック10%混入）
6　10YR4/4褐色砂質粘土（5層ブロック10%混入）
7　10YR3/4暗褐色砂質粘土（6層ブロック10%混入）
8　10YR4/4褐色粘土（鉄分・細砂20%混入）
9　2.5Y4/4オリーブ褐色砂質シルト（粘りがある、鉄分付着）
10　10G3/1暗緑灰色粘土質シルト（やや黒味を帯びている）
11　5G3/1暗オリーブ灰色砂質粘土（褐色細砂5%混入）
12　8層に10層ブロック5%混入
13　10YR4/4褐色砂（11層斑に混入）



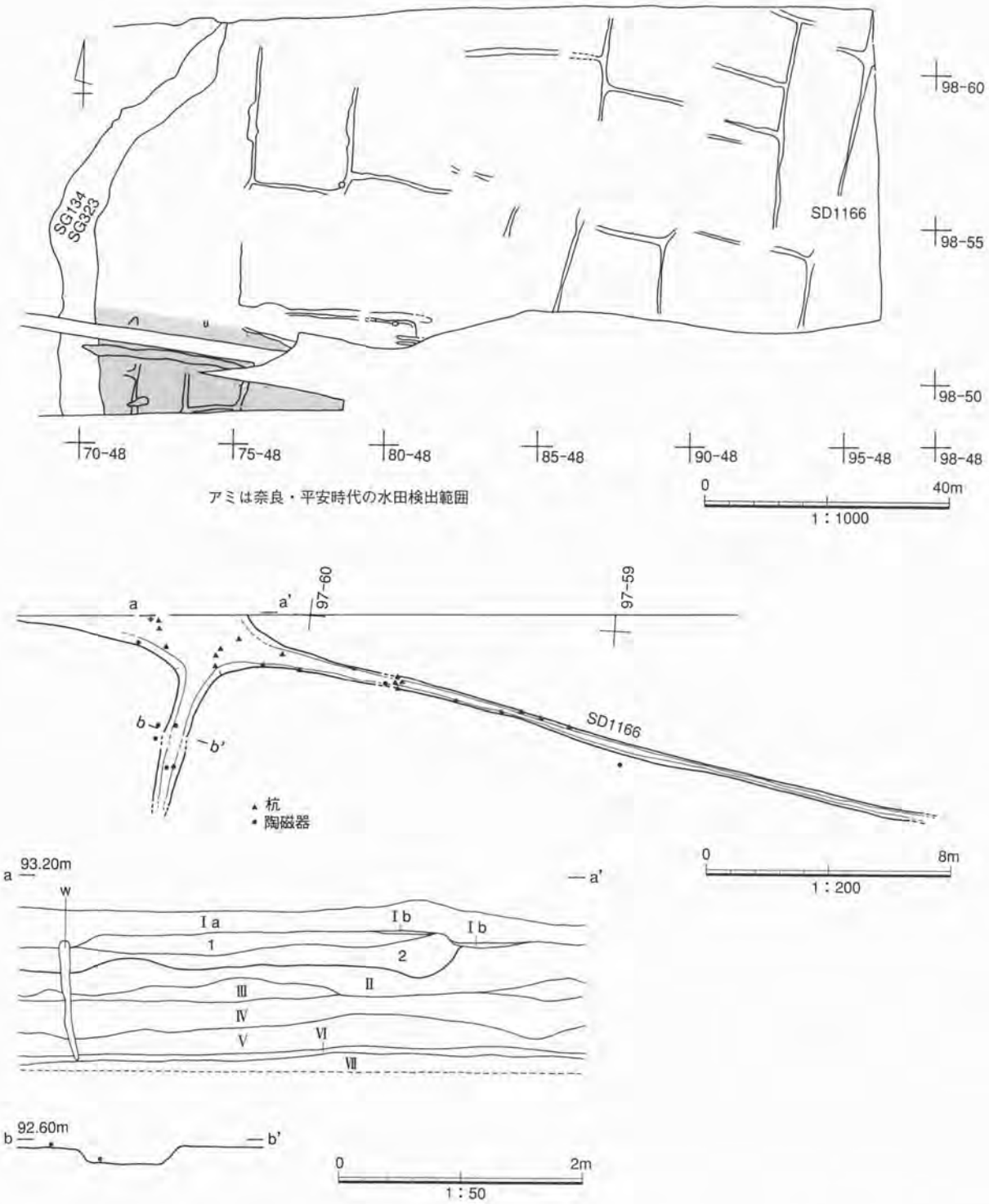
第59図　遺構実測図―SE23―



SE715土層注記

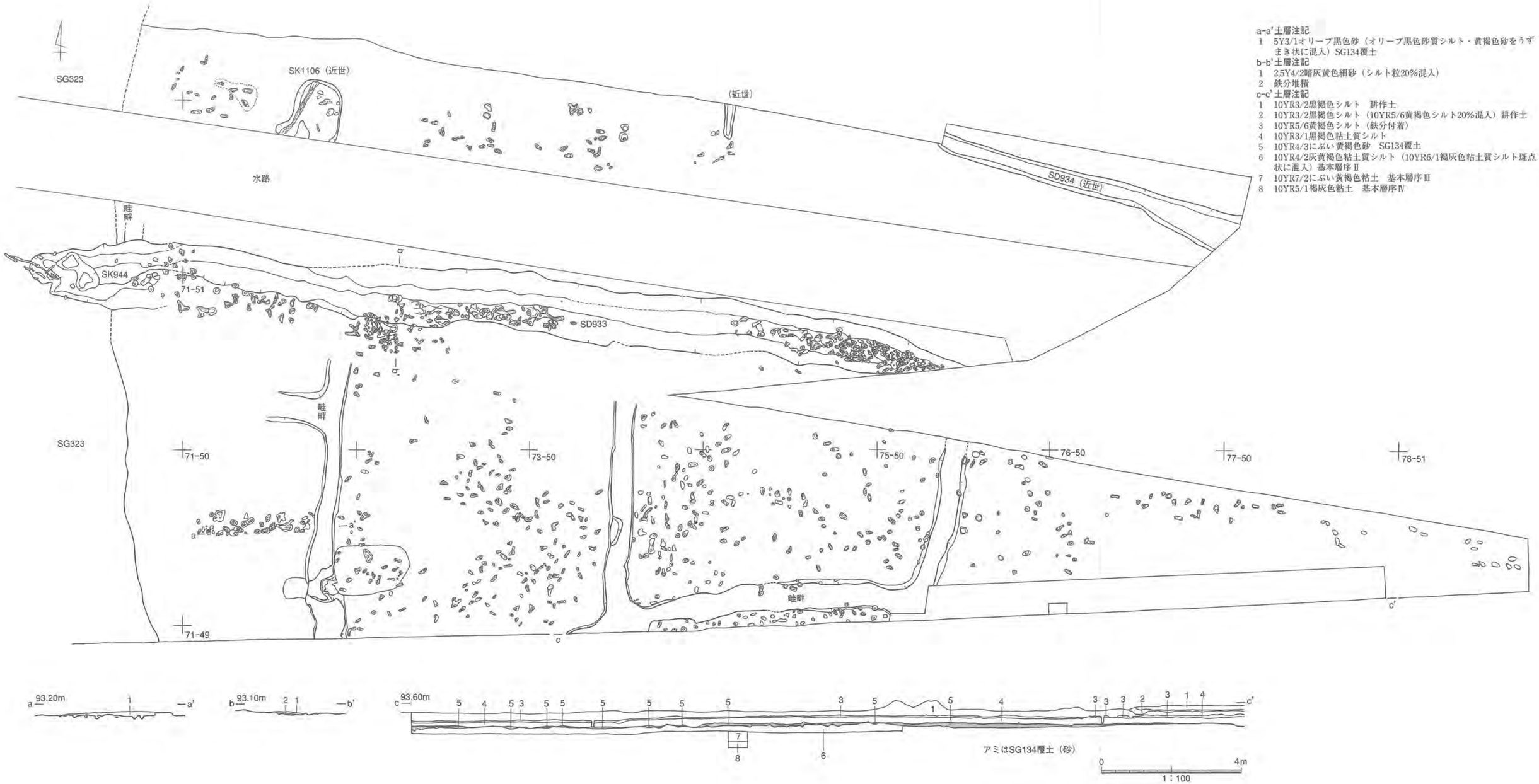
1　10YR2/2黒褐色シルト質粘土（10YR4/3にぶい黄褐色シルト質粘土粒0.1～0.5cm大1%・10YR3/1黒褐色シルト質粘土斑に5%混入）
2　10YR2/2黒褐色シルト質粘土（10YR4/3にぶい黄褐色シルト質粘土粒0.1～0.5cm大10%・10YR3/1黒褐色シルト質粘土斑に5%混入）
3　10YR2/2黒褐色シルト質粘土（10YR4/3にぶい黄褐色シルト質粘土ブロック10cm大20%・10YR3/1黒褐色シルト質粘土斑に5%混入）埋め戻し状
4　10YR4/3にぶい黄褐色シルト質粘土（1層がスシ状に5%混入）
5　7.5YR3/1黒褐色粘土（3層が斑に5%混入）
6　10YR5/6黄褐色粘土（10YR4/4褐色砂10%・3層に5%斑に混入）
7　10YR2/1黒色粘土（10YR1.7/1黒色粘土斑に5%・炭化粒0.5cm大1%混入）
8　10YR5/3にぶい黄褐色粘土（7層に1%斑に混入）
9　10YR2/1黒色粘土（10YR4/3にぶい黄褐色シルト質砂斑に5%・炭化粒0.5cm大1%混入）
10　10YR2/1黒色粘土（10YR4/3にぶい黄褐色シルト質砂5%・10YR4/4褐色砂斑に10%・炭化粒0.5cm大1%混入）
11　10YR2/1黒色粘土（10YR4/3にぶい黄褐色シルト質砂5%・10YR4/4褐色粘土・砂斑に10%・炭化粒0.5cm大1%混入）
12　10YR5/6黄褐色粘土（10YR4/4褐色砂20%・10YR2/1黒色粘土斑に10%混入）
13　10YR5/6黄褐色粘土（10YR4/4褐色砂10%・10YR2/1黒色粘土斑に10%混入）
14　10YR5/6黄褐色粘土（10YR4/4褐色砂10%・10YR2/1黒色粘土斑に1%混入）
15　10YR5/6黄褐色砂（10YR4/4褐色砂10%・10YR2/1黒色粘土斑に1%混入）
16　酸化鉄付着
17　粘土
18　砂
19　細砂
20　砂

第60図　遺構実測図―SE715―



基本層序・SD1166土層注記
Ⅰ～Ⅶは第7図a-a'土層注記に同じ
1　10YR4/1褐灰色砂質粘土（炭化粒1%・褐色細砂10%混入、磁器出土）
2　10YR4/2灰黄褐色粘質細砂（炭化粒1%・褐色砂30%・礫5cm大混入、磁器出土）

第61図　遺構実測図―近世水田―



a-a'土層注記
1　5Y3/1オリーブ黒色砂（オリーブ黒色砂質シルト・黄褐色砂をうずまき状に混入）SG134覆土

b-b'土層注記
1　2.5Y4/2暗灰黄色細砂（シルト粒20%混入）
2　鉄分堆積

c-c'土層注記
1　10YR3/2黒褐色シルト　耕作土
2　10YR3/2黒褐色シルト（10YR5/6黄褐色シルト20%混入）耕作土
3　10YR5/6黄褐色シルト（鉄分付着）
4　10YR3/1黒褐色粘土質シルト
5　10YR4/3にぶい黄褐色砂　SG134覆土
6　10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト（10YR6/1褐灰色粘土質シルト斑点状に混入）基本層序Ⅱ
7　10YR7/2にぶい黄褐色粘土　基本層序Ⅲ
8　10YR5/1褐灰色粘土　基本層序Ⅳ

第62図　遺構実測図―奈良・平安時代水田―

a-a'・b-b'・c-c' 土層注記

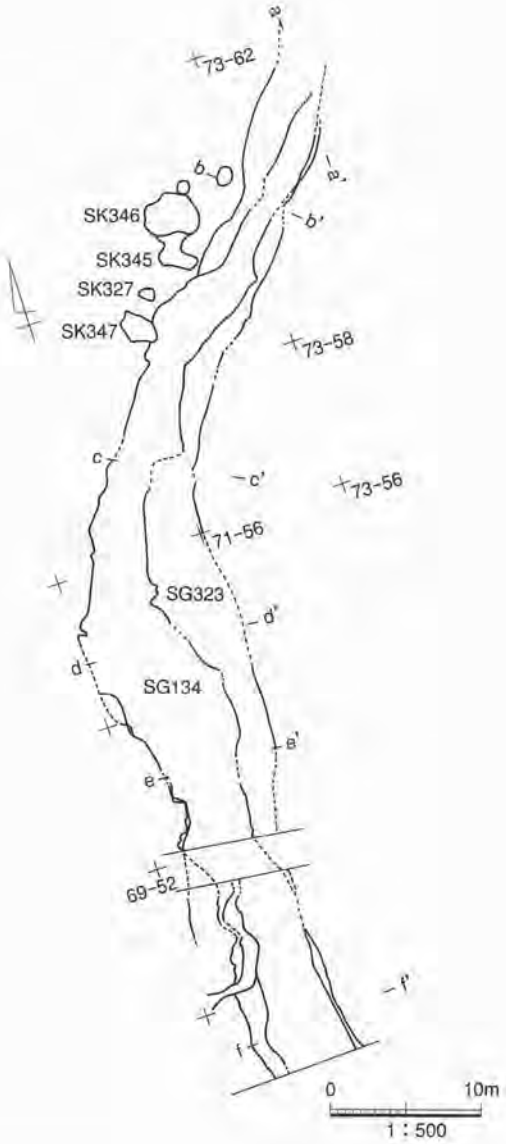
1　7.5Y4/1灰色細砂（7.5Y4/2灰オリーブ色砂うねりながら混入）SG134覆土
1'　5Y4/2灰オリーブ色砂
2　2.5Y2/1黒色粘土（硬くしまる）奈良時代包含層？
2'　2層に3層砂が5%混入
3　2.5Y3/1黒褐色シルト（2.5Y3/2黒褐色砂・2.5Y5/3黄褐色砂渦巻き状に20%混入）SG323覆土F1
4　2.5Y2/1黒色粘土質シルト（10Y4/1灰色シルト・7.5GY4/1暗緑灰色砂各10%渦巻き状に混入）SG323覆土F2
5　2.5Y4/1黄灰色粘土（炭化粒が1%混入）古墳時代包含層？
6　2.5Y5/2暗灰黄色粘土
7　7.5YR4/1褐灰色粘土（炭化粒0.3cm大1%混入）縄文時代包含層？
8　5Y5/2灰オリーブ色砂質粘土
9　2.5Y5/2暗灰黄色粘土
10　5Y5/2オリーブ色シルト質細砂（鉄分混入）
11　10BG5/1青灰色粘土

d-d' 土層注記

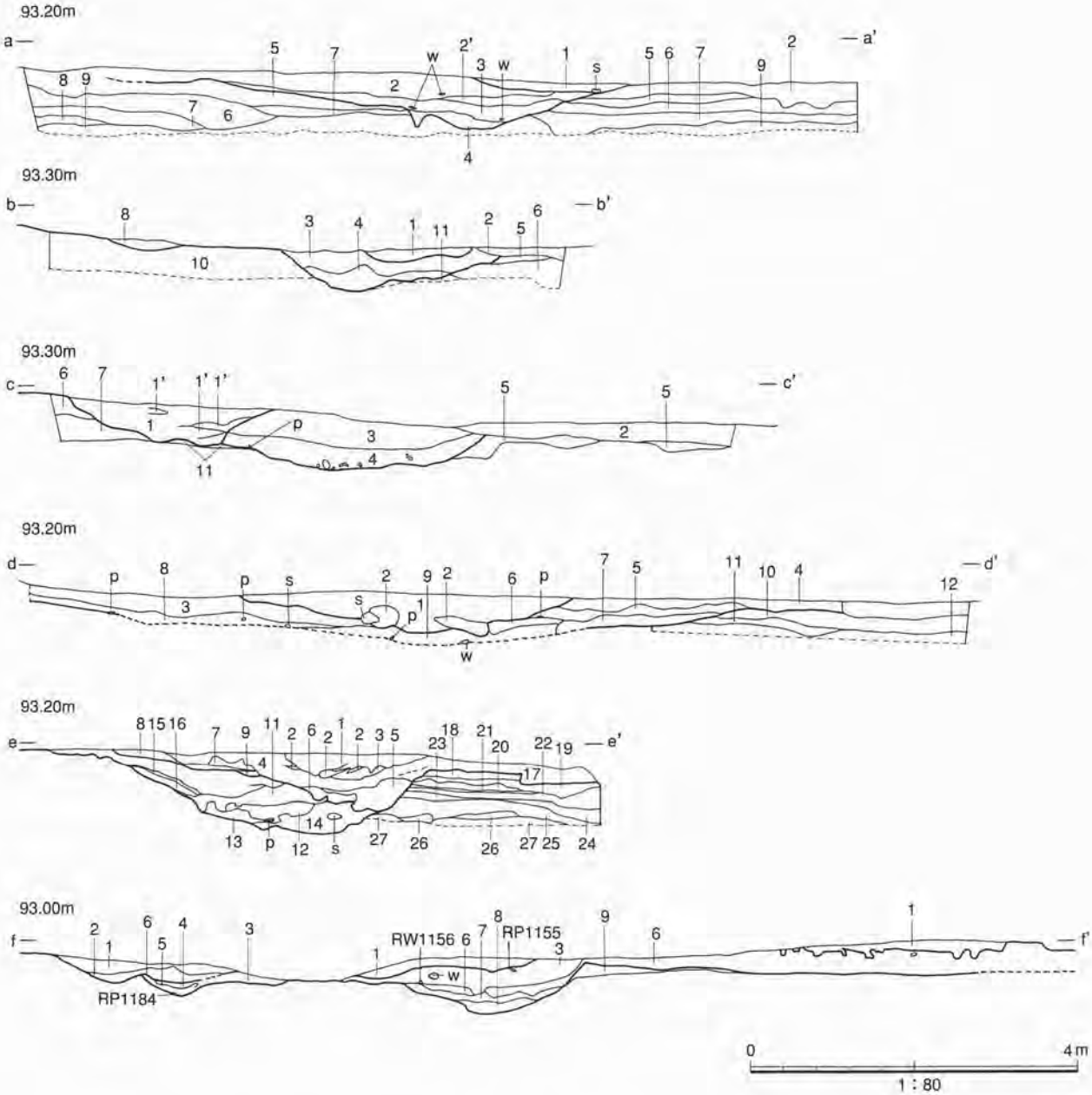
1　7.5Y4/1灰色細砂（7.5Y4/2灰オリーブ色砂うねりながら混入）SG134覆土
2　砂
3　2.5Y3/1黒褐色シルト質細砂（SG134が含む砂を10%ゆるやかにまき込むように堆積、炭化粒0.5cm大5%・植物片を混入）
4　2.5Y3/1黒褐色シルト（2.5Y3/2黒褐色砂・2.5Y5/3黄褐色砂渦巻き状に20%混入）SG323覆土F1
5　2.5Y3/1黒褐色シルト（2.5Y3/2黒褐色砂・2.5Y5/3黄褐色砂が静かに堆積し各5%混入）SG323覆土F1
6　2.5Y2/1黒色粘土質シルト（2.5Y3/1黒褐色砂・2.5Y5/3黄褐色砂約1%混入）SG323覆土F1
7　6層に2.5Y4/4オリーブ褐色砂が渦巻き状に30%混入　SG323覆土F1
8　5Y4/1灰色砂質シルト（5Y5/2灰オリーブ色砂質シルト5%・5Y4/1灰色細砂10%・2.5Y2/2暗灰黄色砂5%斑にうずまき状に混入）SG323覆土F1
9　7層に10Y4/1灰色砂・7.5GY4/1暗緑灰色砂が各10%渦巻き状に混入　SG323覆土F2
10　14層に10GY5/1明緑灰色細砂10%・5Y5/2灰オリーブ色細砂5%帯状に混入
11　9層に5Y5/2灰オリーブ色細砂が帯状に50%混入
12　白色粘土

e-e' 土層注記

1　10YR4/4褐色砂　SG134覆土
2　粗砂のまとまり　SG134覆土
3　砂・2.5Y3/2黒褐色砂質シルトとの交互堆積　河中央（深い所）に向って水平堆積　SG134覆土
4　2.5Y3/2黒褐色シルト質細砂（2.5Y4/2暗灰黄色シルト質細砂が不規則にうずまき状に20%混入）SG134覆土
5　2.5Y3/2黒褐色シルト質細砂（2.5Y4/2暗灰黄色シルト質細砂40%・7.5Y3/10オリーブ黒色シルト質細砂10%が不規則にうずまき状に混入）SG134覆土
6　7.5Y3/10オリーブ黒色シルト質細砂　SG134覆土
7　2.5Y4/2暗灰黄色シルト質細砂　SG134覆土
8　2.5Y4/2暗灰黄色シルト質細砂に2.5Y3/2黒褐色シルト質細砂が帯状に堆積　SG134覆土
9　2.5Y3/2黒褐色シルト質細砂　SG134覆土
10　2.5Y3/1黒褐色シルト質細砂（ⓐ2.5Y4/2暗灰黄色細砂・ⓑ2.5Y5/1黄灰色シルト質細砂が帯状に10%堆積）SG323覆土
11　2.5Y2/1黒色シルト質細砂（10層20%、ⓐ・ⓑ層霜降り状に各10%混入）SG323覆土
12　2.5Y4/3オリーブ褐色砂（11層が帯状に堆積）SG323覆土
13　2.5GY2/1黒色細砂（粘性あり、12層5%・14層20%斑に混入）SG323覆土
14　N2/黒色粘土質シルト（13層20%・同色細砂10%・褐色砂1%混入、植物遺存体混入）SG323覆土
15　2.5Y3/2黒褐色シルト質粘土細砂（均質）SG323覆土
16　2.5Y2/1黒色粘土質シルト（15層5%混入）SG323覆土
17　2.5Y4/2暗灰黄色細砂（10層に混入物類似）
18　20層に類似
19　10YR1.7/1黒色粘土（炭化粒0.5cm大・層中心部に50%集中）
20　10YR2/1黒色粘土（炭化粒0.1～0.5cm大3%混入）
21　10YR4/2灰黄褐色粘土（炭化粒0.1～0.5cm大1%、10YR3/2黒褐色粘土斑に5%混入）
22　10YR2/1黒色粘土（10YR3/1黒褐色粘土質シルトしみ込むように20%混入）
23　10YR5/2灰黄褐色粘土（22層20%斑に混入）
24　10YR5/2灰黄褐色粘土（20層5%斑に混入）
25　10YR2/2黒褐色粘土（23層しみ込むように10%混入）
26　2.5Y5/2暗灰黄色粘土（不規則なまとまりで10YR4/2灰黄褐色粘土50%混入）
27　2.5Y5/2暗灰黄色粘土（10GY5/1緑灰色粘土50%混入）



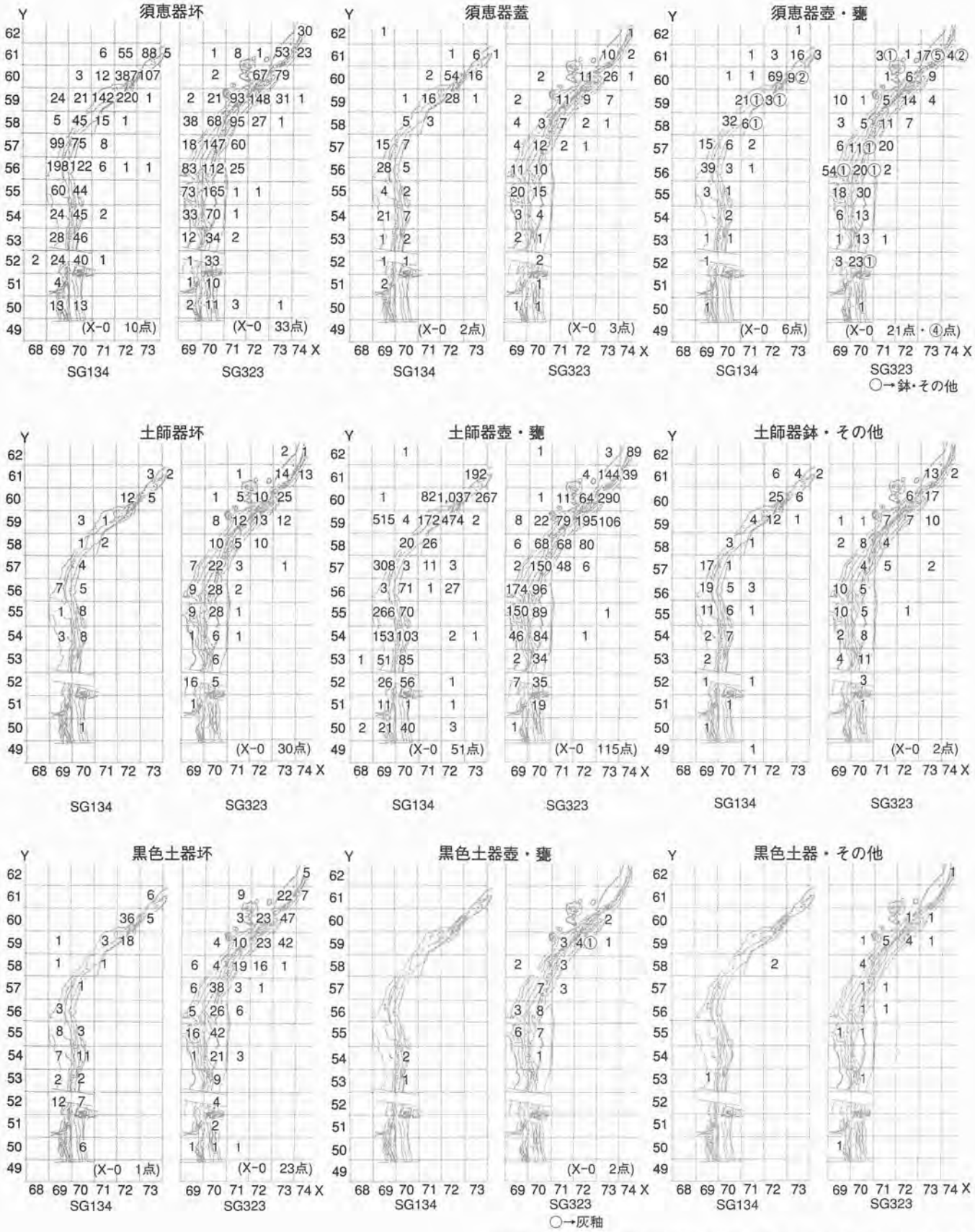
第63図　遺構実測図―SG134・323―



f-f' 土層注記

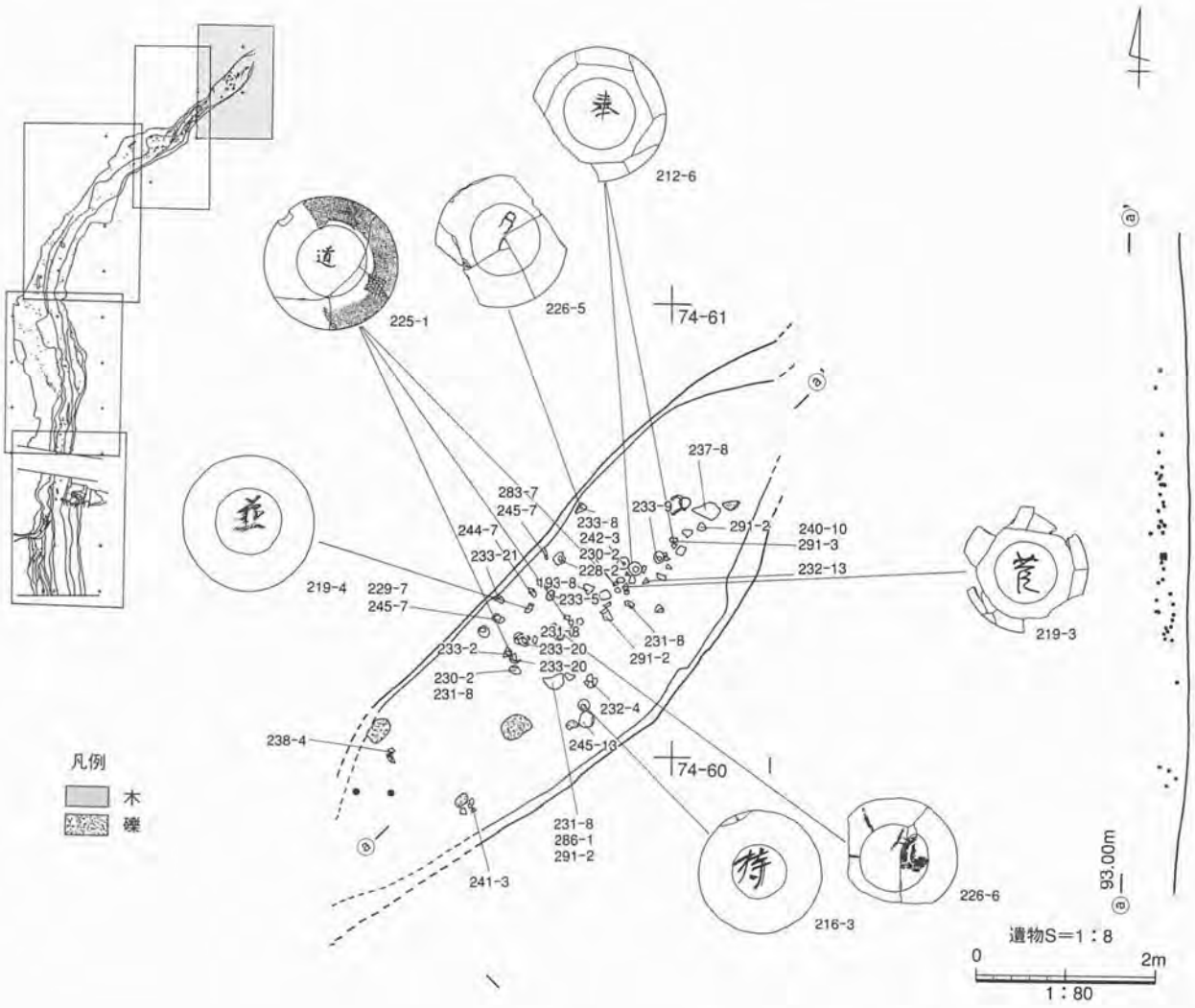
1 5Y3/1オリーブ黒色砂（3層5%・2層10%うずまき状に混入）SG134覆土
2 2.5Y5/6黄褐色砂（2.5Y4/2暗黄色砂5%・2.5Y4/1黄灰色砂5%・2.5Y3/1黒褐色粘土質シルト2%斑に混入）SG134覆土
3 10YR3/1オリーブ黒色砂質シルト（3・6層を斑に各5%・植物遺存体を3%混入、粘性あり）
4 2.5Y4/2暗灰黄色砂（1・2層に比べ粒子細かくほぼ均質）
5 10YR2/1黒色シルト粒（植物遺存体堆積部分）
6 5Y4/1灰色細砂（4層とほぼ同じ粒子の大きさ、7層を斑に5%混入）
7 10YR2/1砂質シルト（植物遺存体を10%混入）
8 7層類似（5GY5/1オリーブ灰色砂質粘土30%斑に混入）
9 2.5Y4/1黄灰色粘土

第64図　遺構実測図—SG134・323—

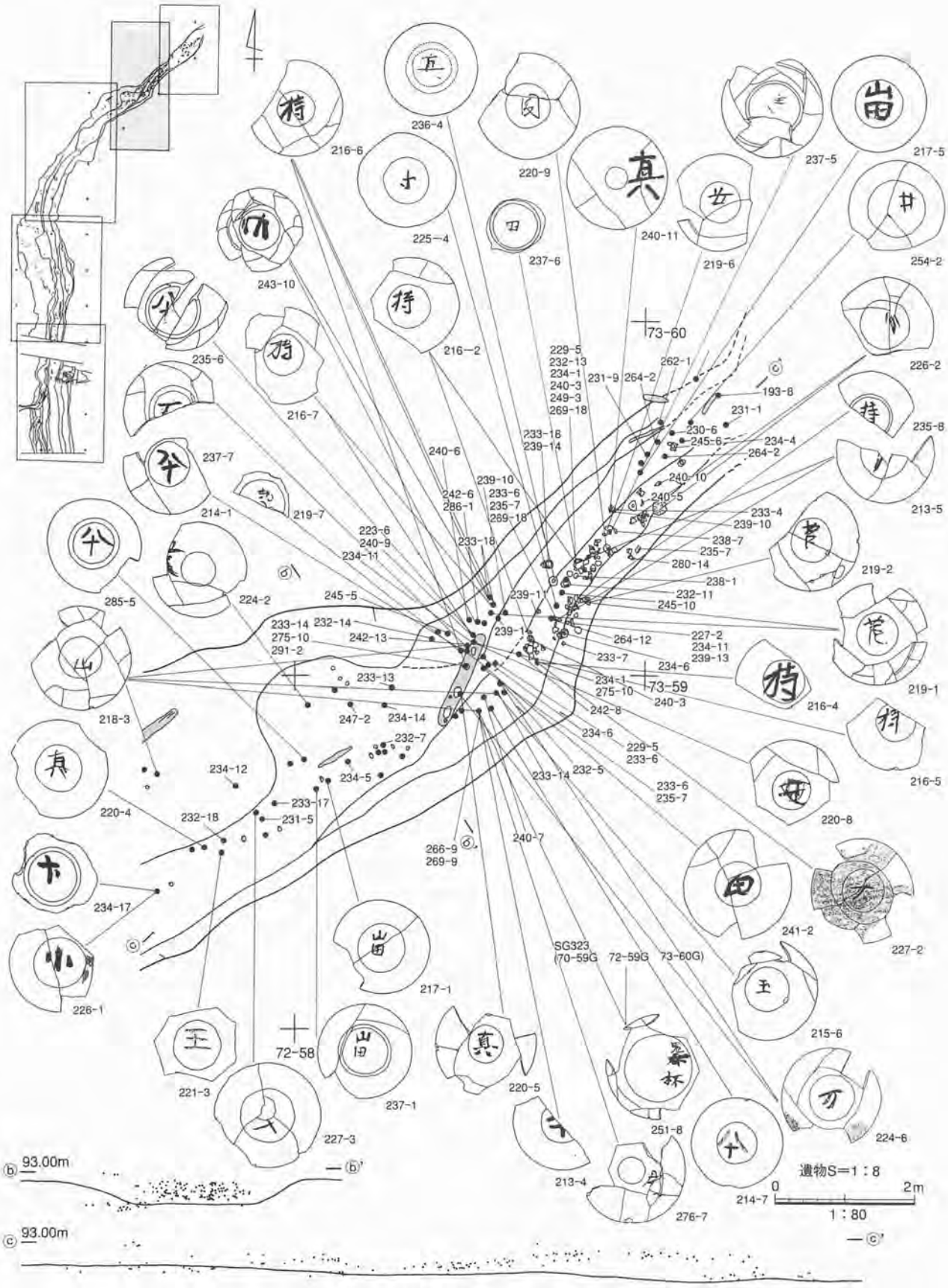


第65図　SG134・323遺物分布図（S=1：1,200）

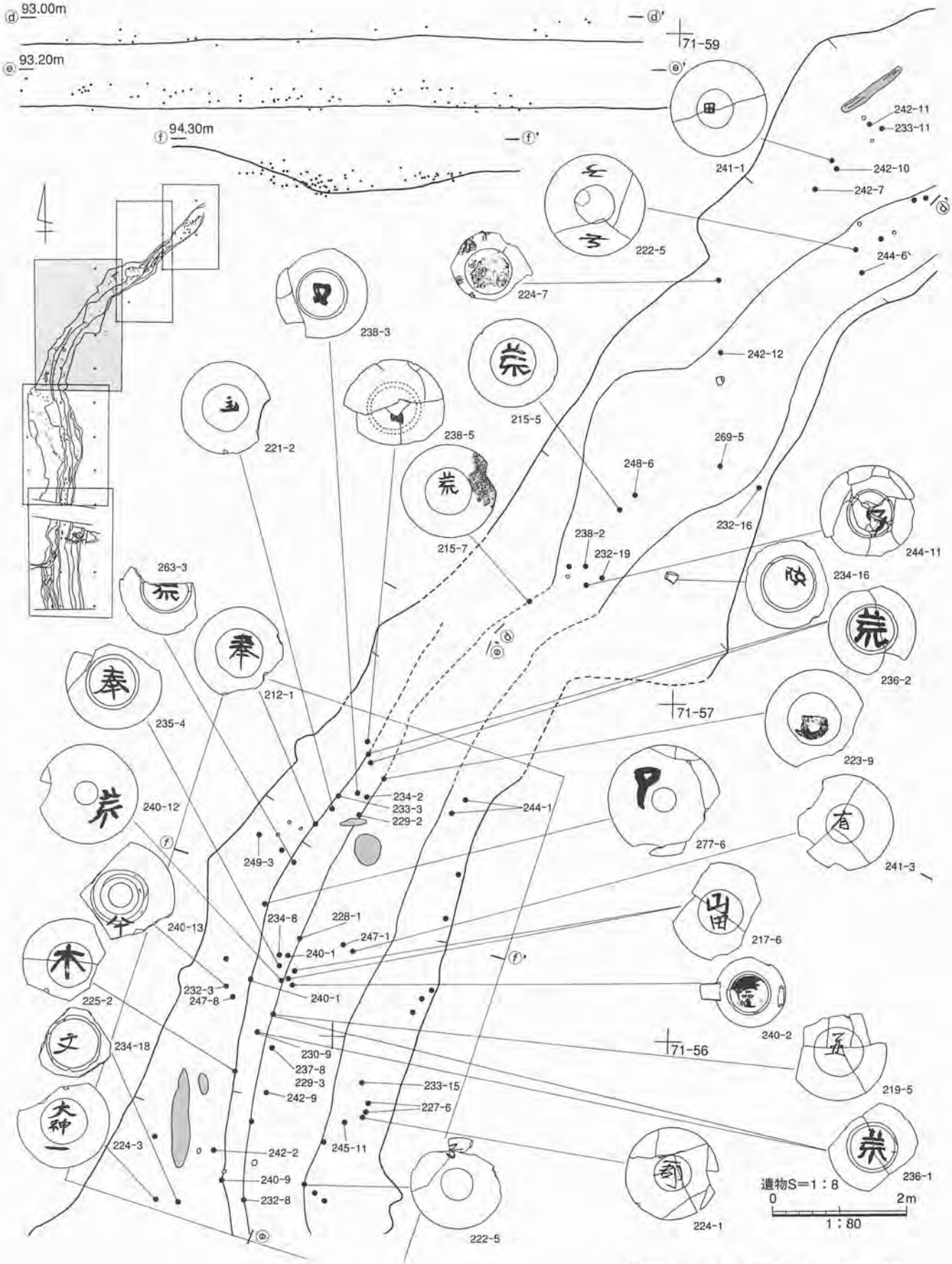
グリッド遺物分布図(S=1：1200)



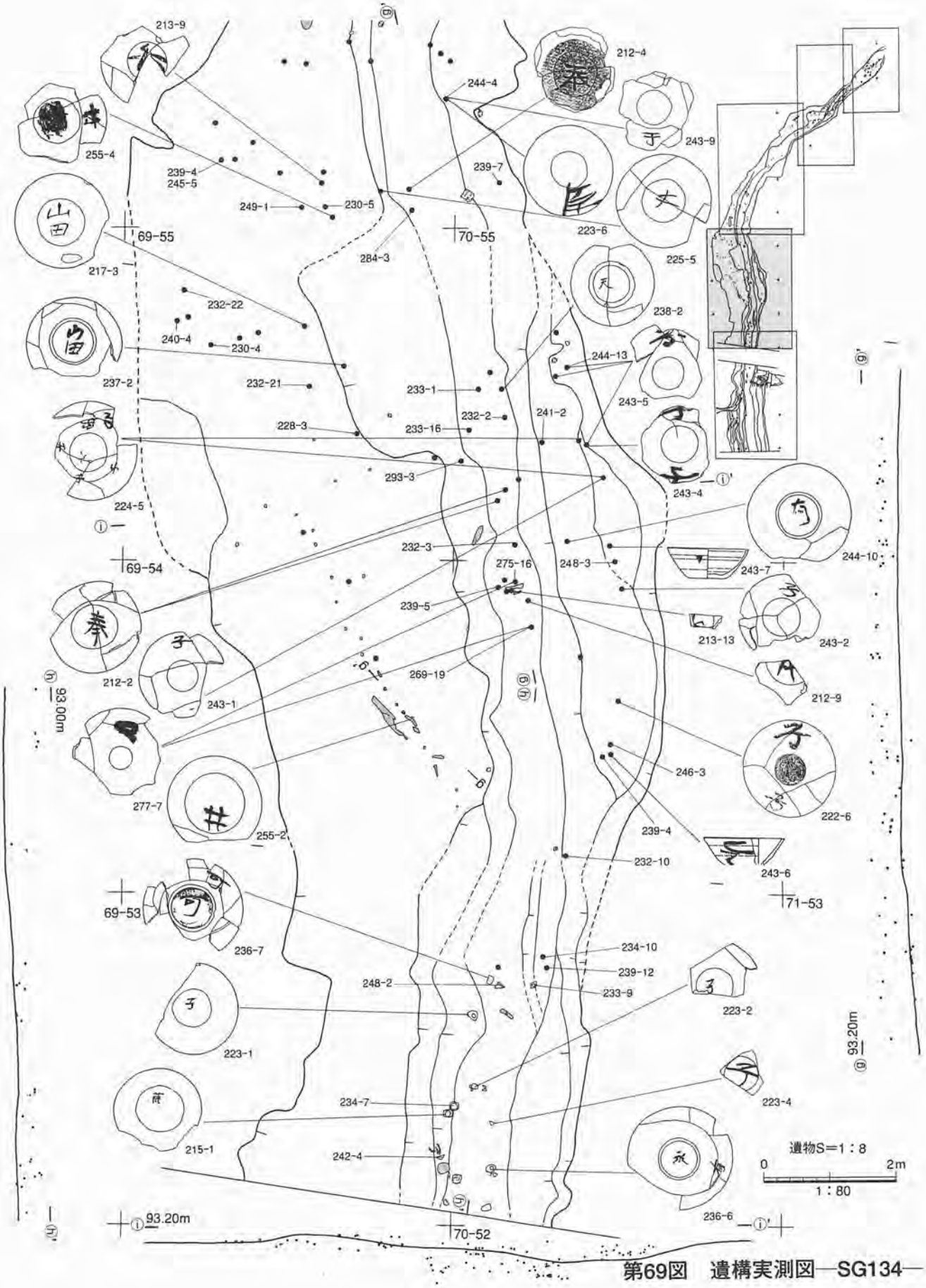
第66図　グリッド遺物分布図・遺構実測図—SG134—



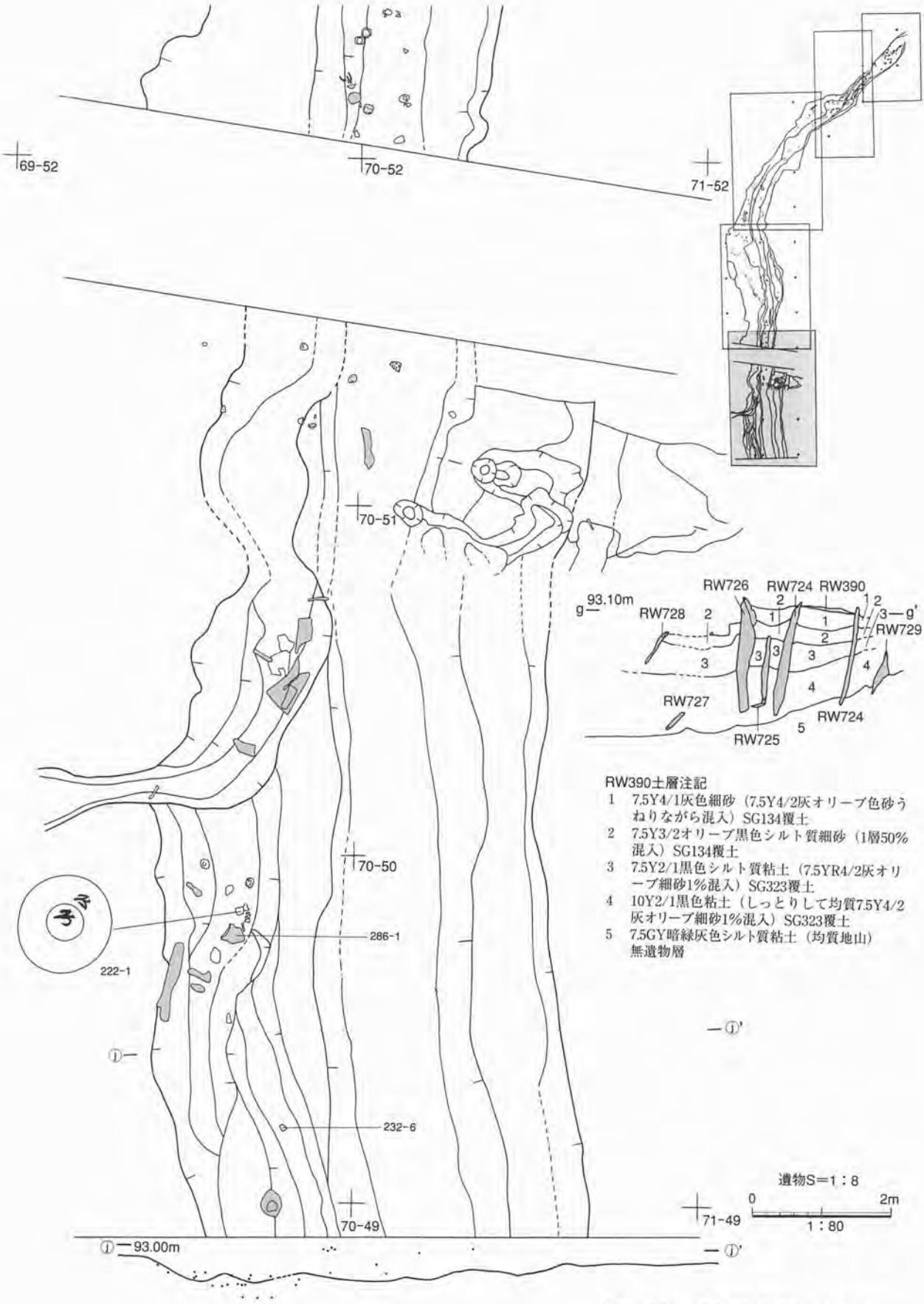
第67図　遺構実測図―SG134―



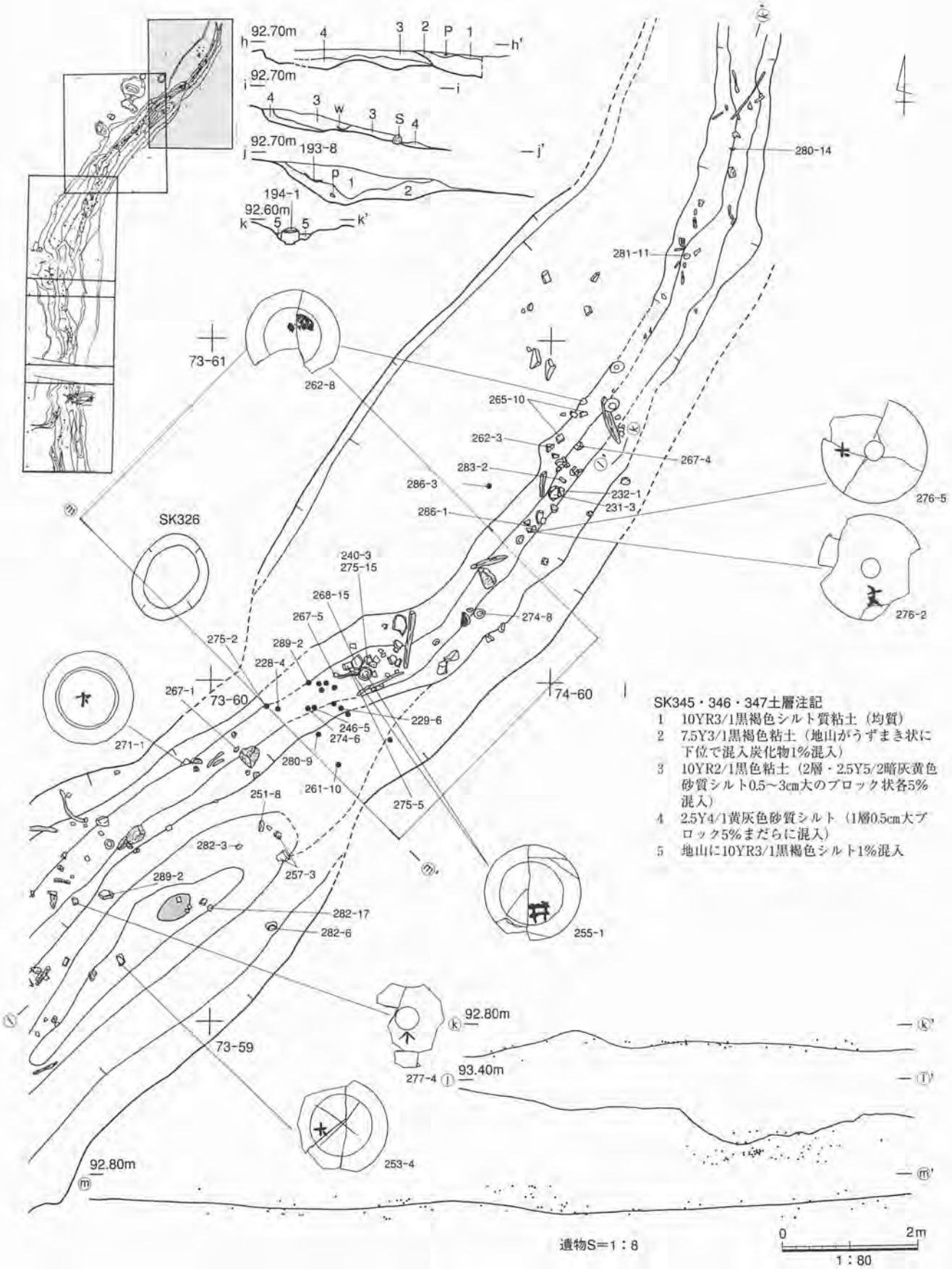
第68図　遺構実測図—SG134—



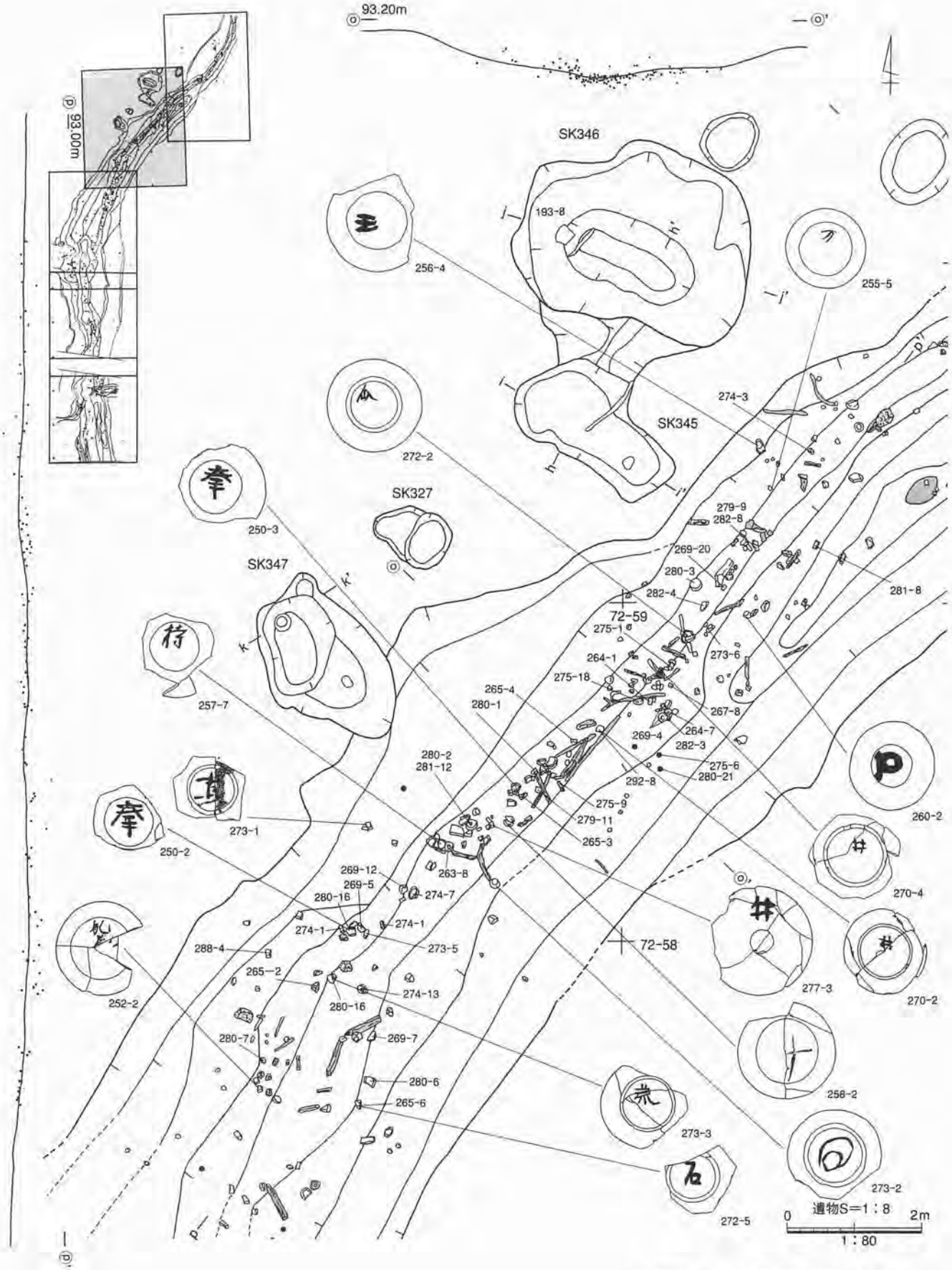
第69図　遺構実測図—SG134—



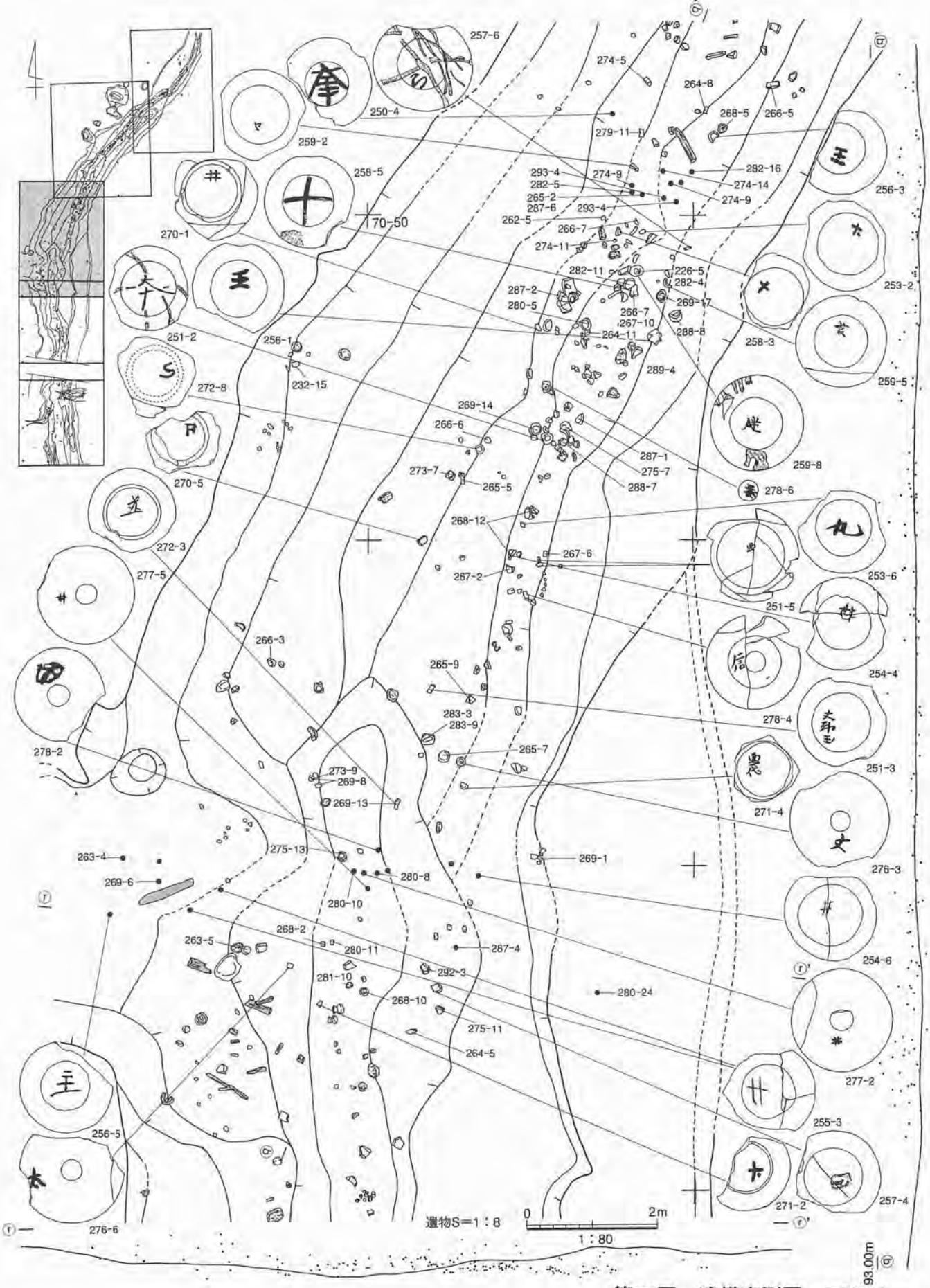
第70図　遺構実測図—SG134—



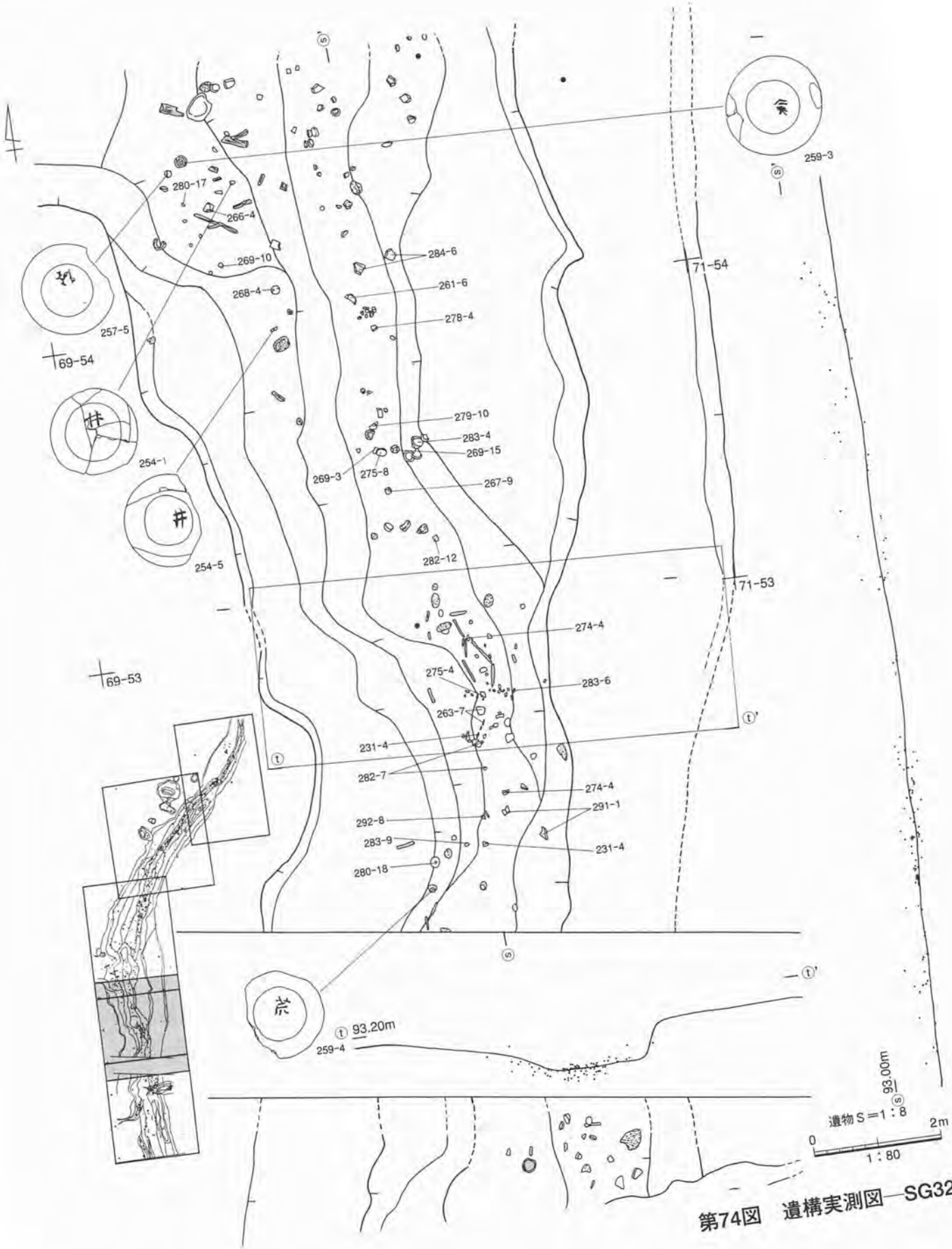
第71図　遺構実測図—SG323—



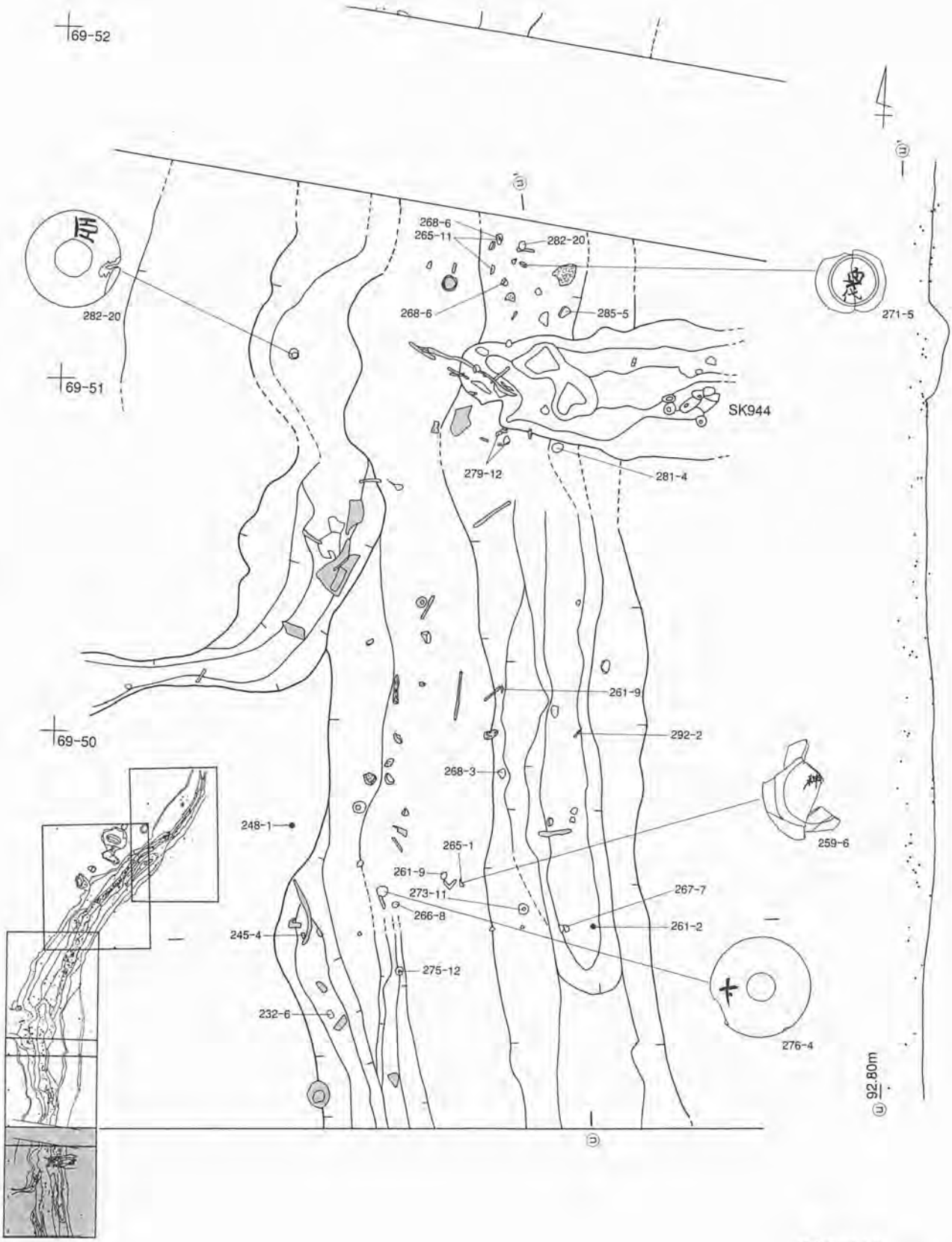
第72図　遺構実測図―SG323―



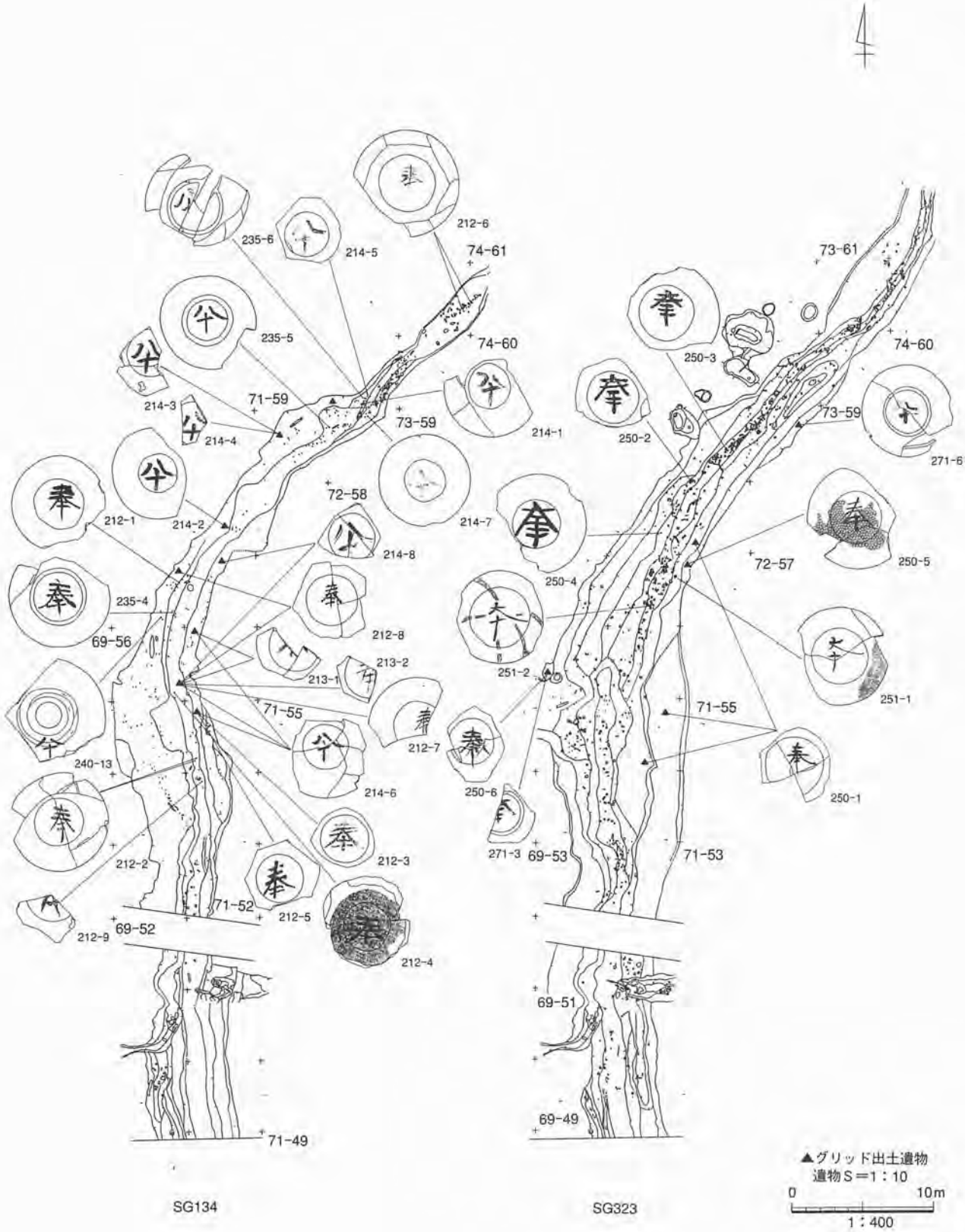
第73図　遺構実測図—SG323—



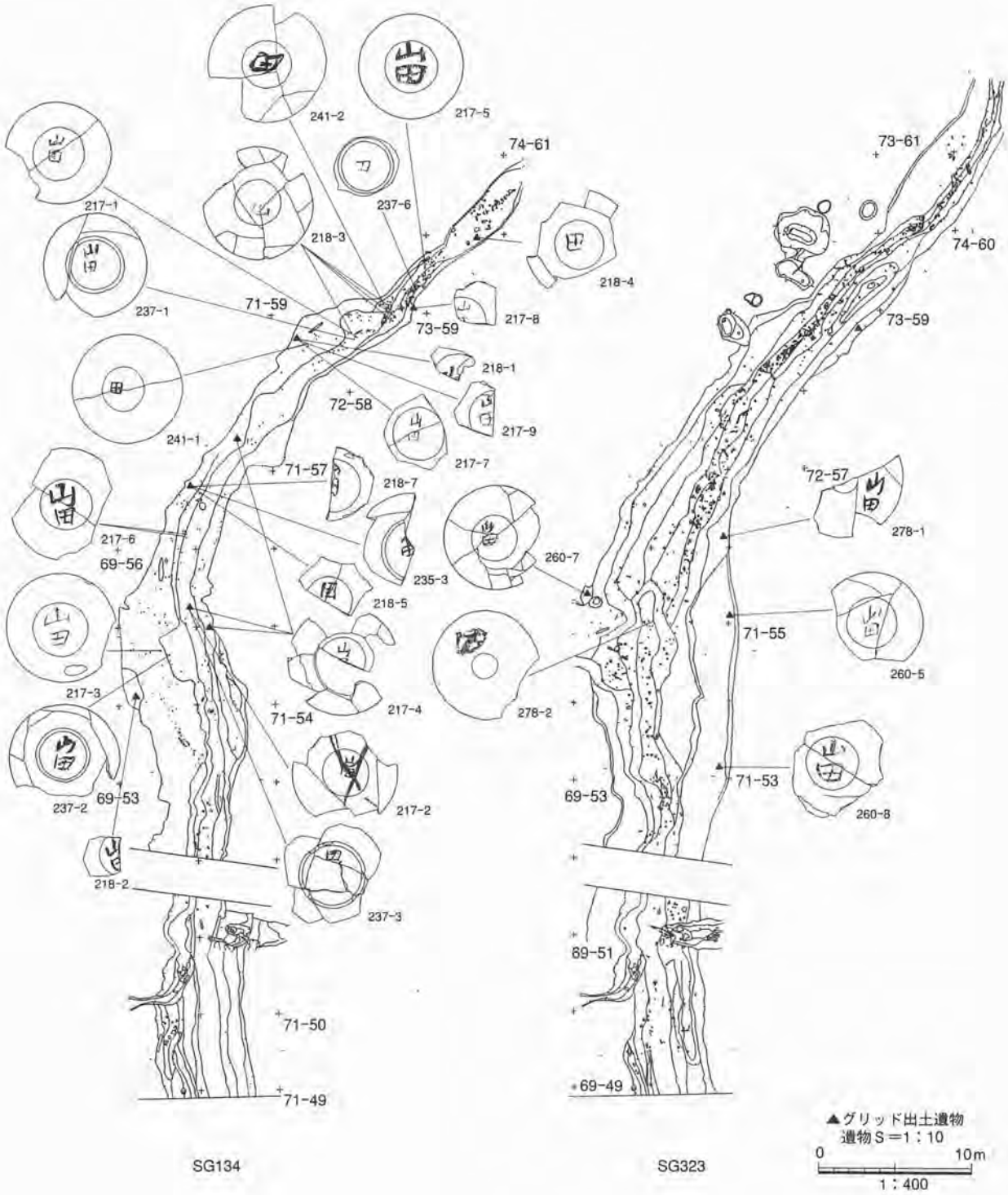
第74図　遺構実測図—SG323



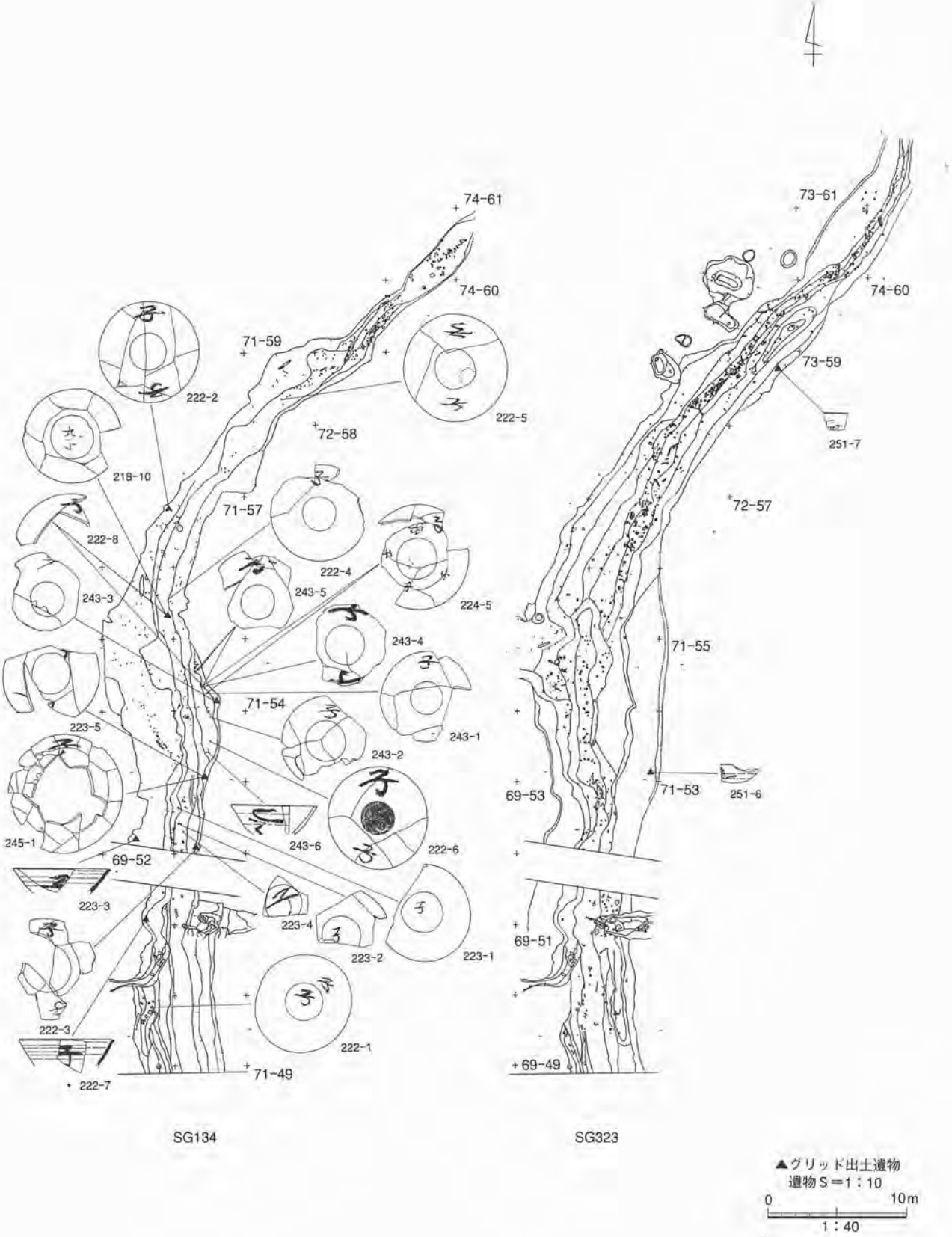
第75図　遺構実測図—SG323—



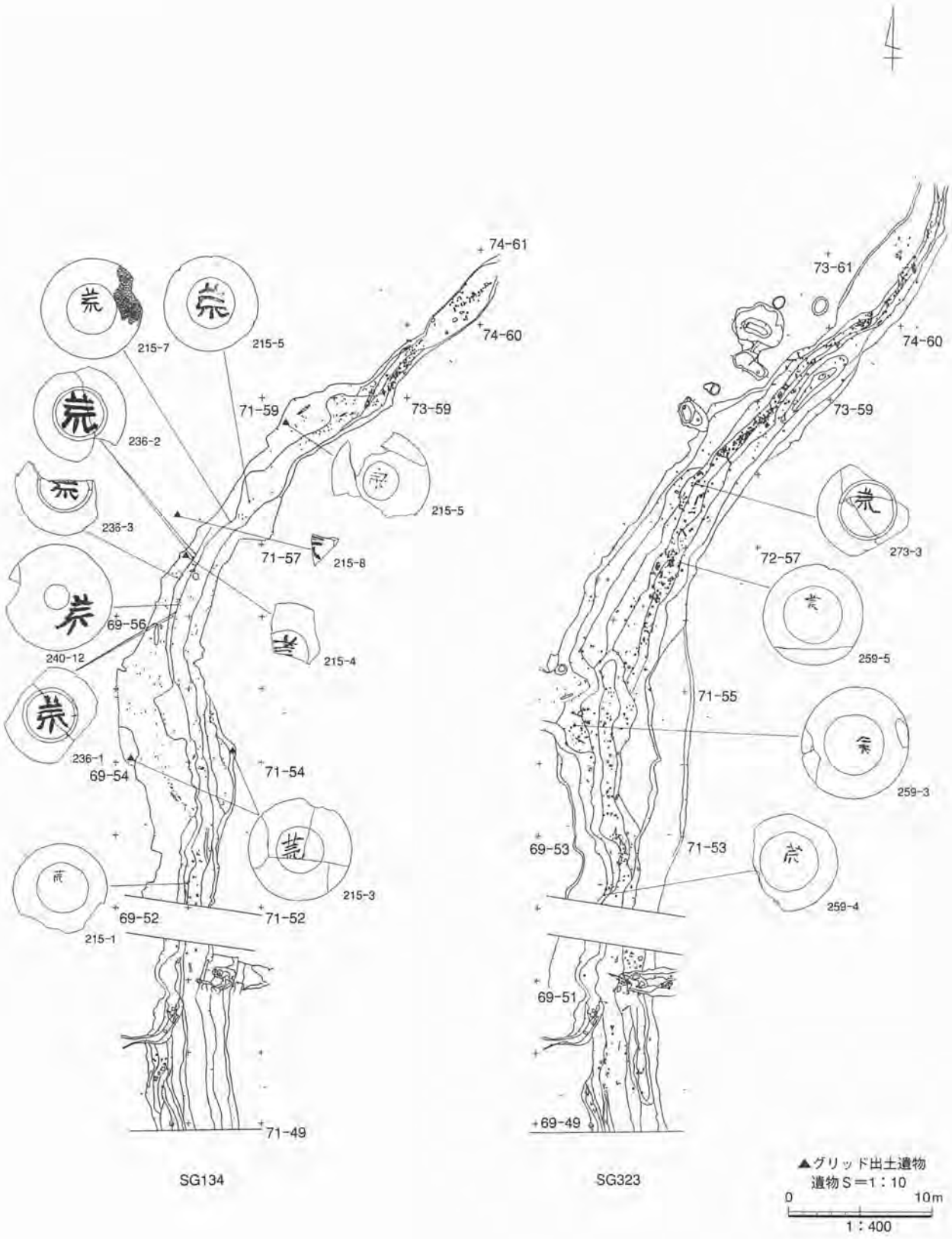
第76図　遺物分布図—SG134・323墨書土器「奉」・「夲」・「尒」—



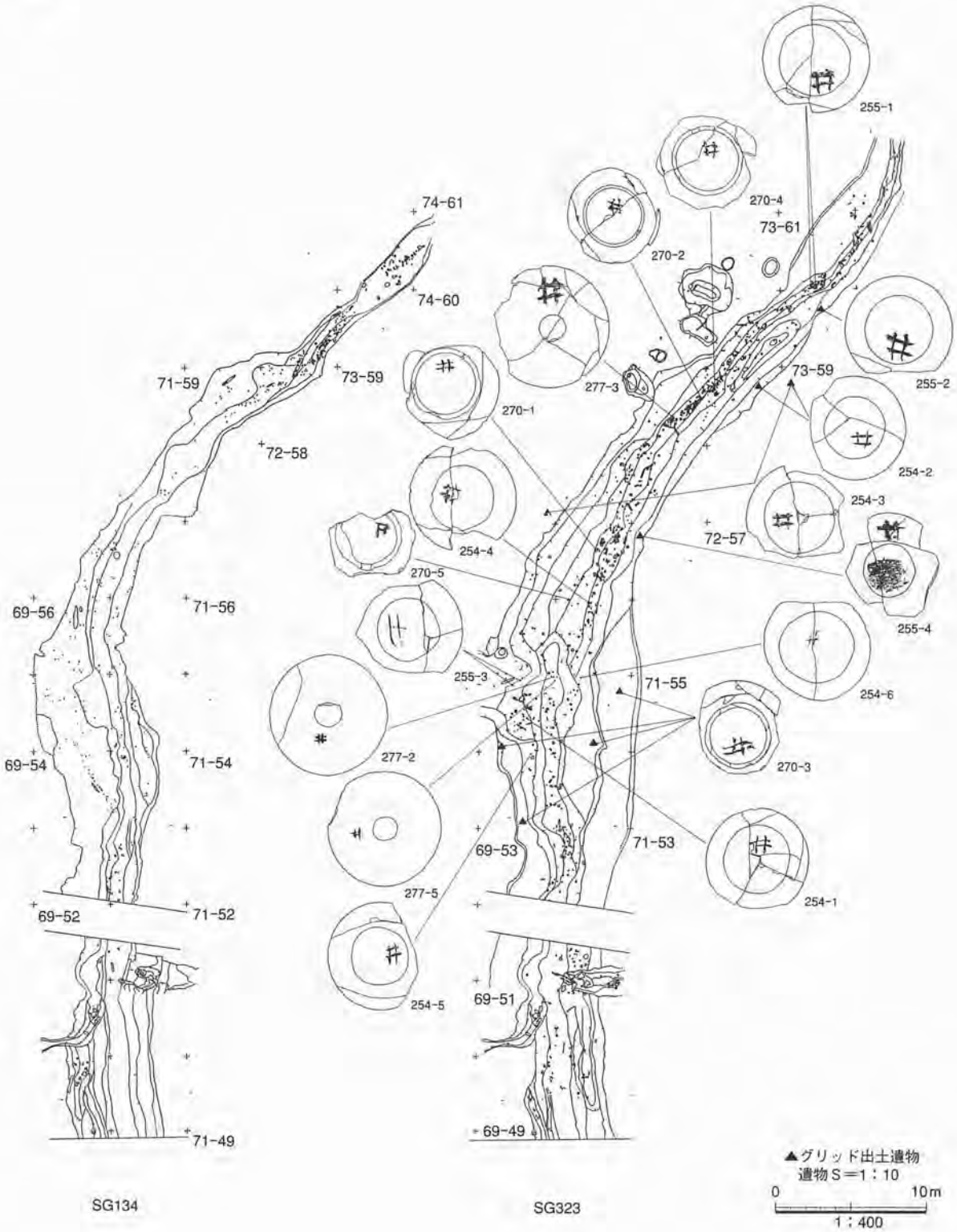
第77図　遺物分布図—SG134・323墨書土器「山田」・「田」—



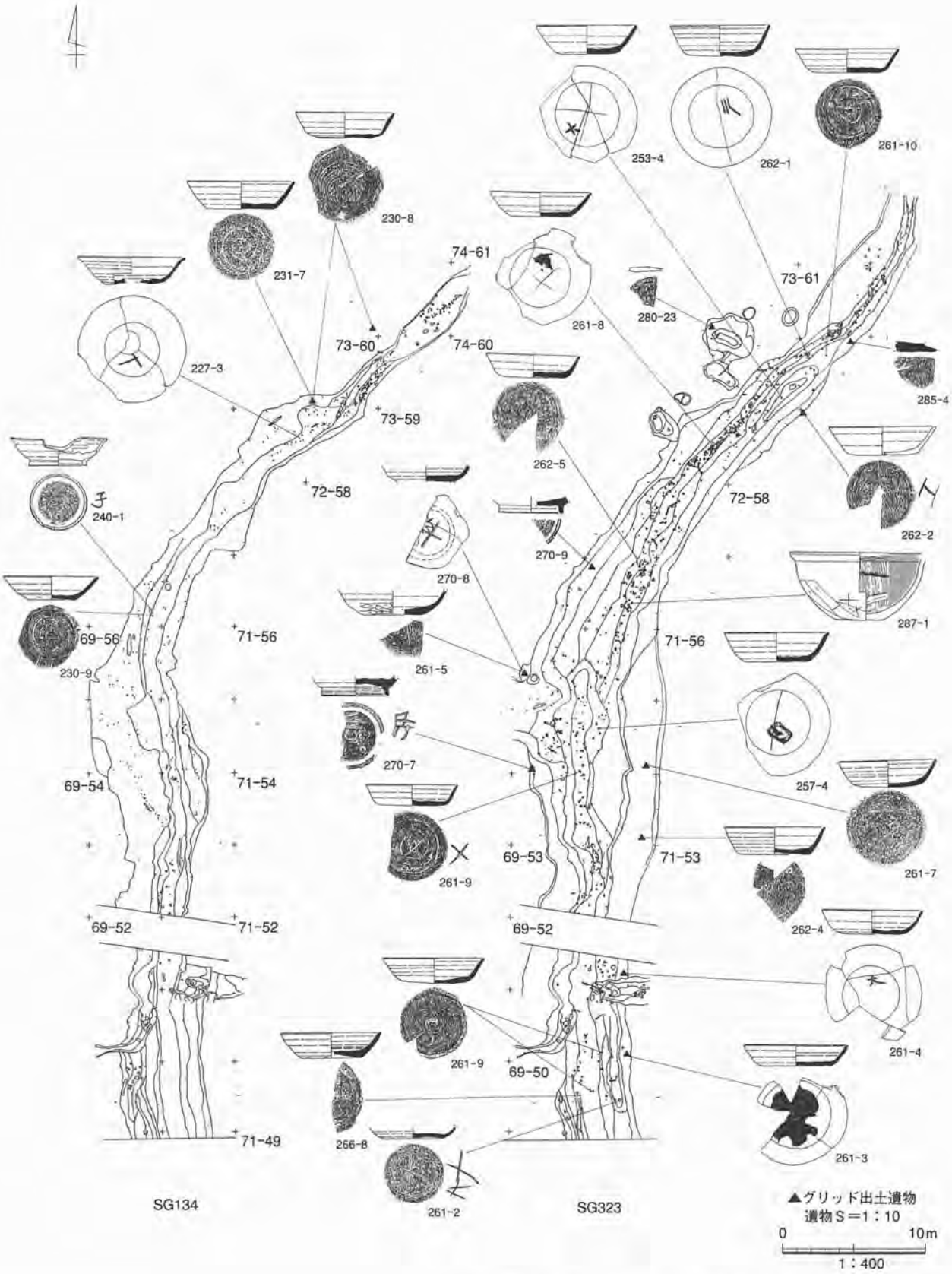
第78図　遺物分布図―SG134・323墨書土器「子」―



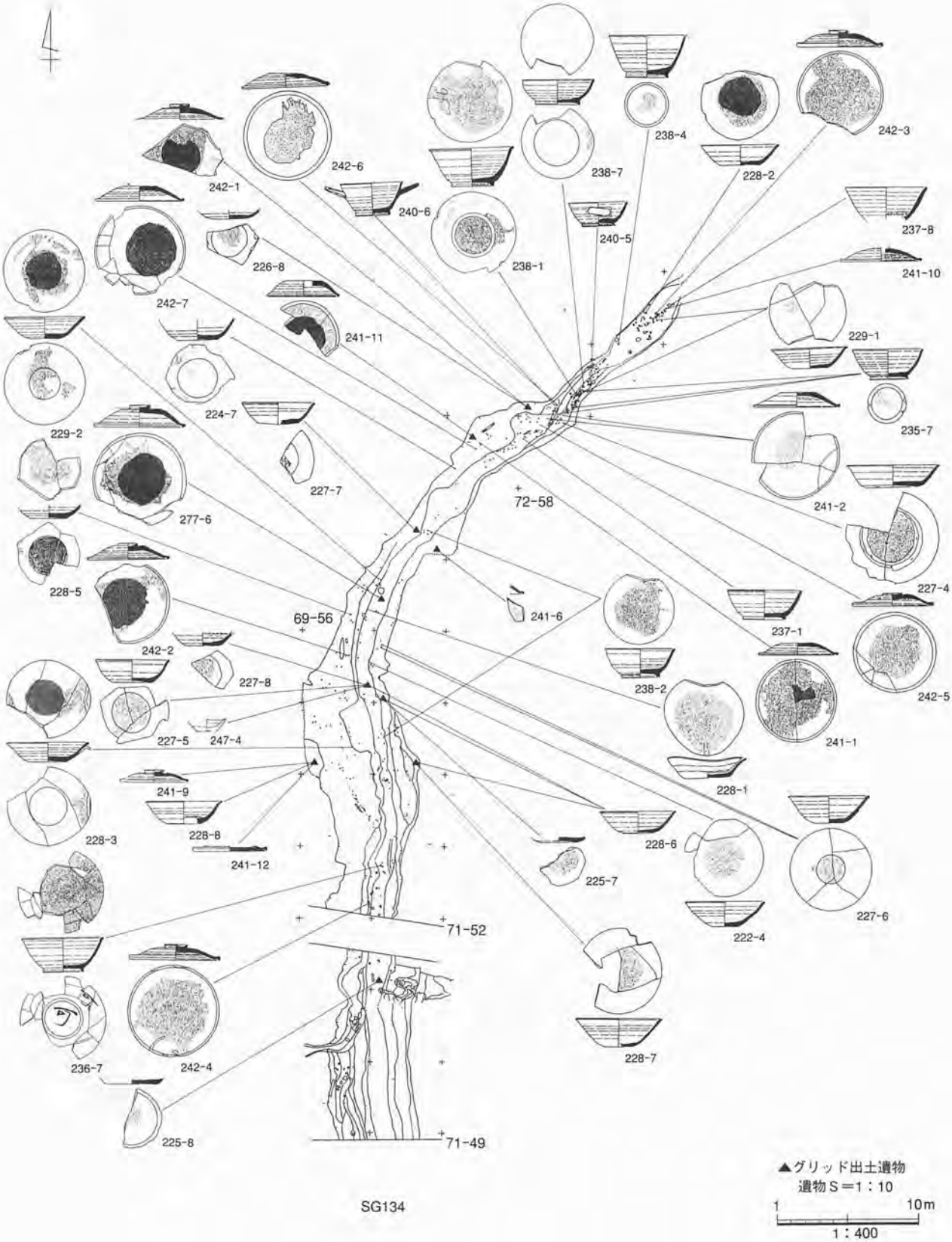
第79図　遺物分布図―SG134・323墨書土器「荒」―



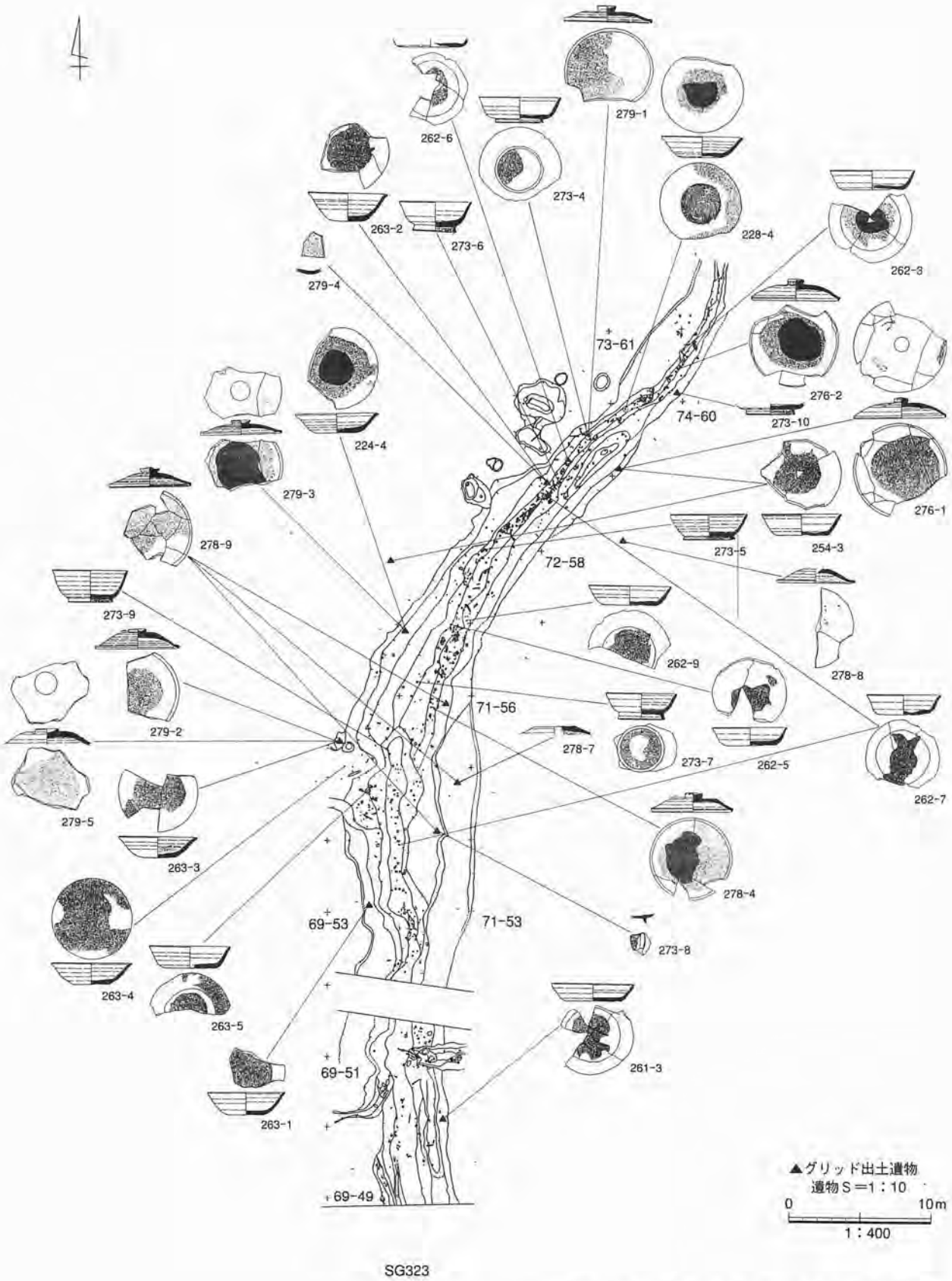
第80図　遺物分布図―SG134・323墨書土器「＃」―



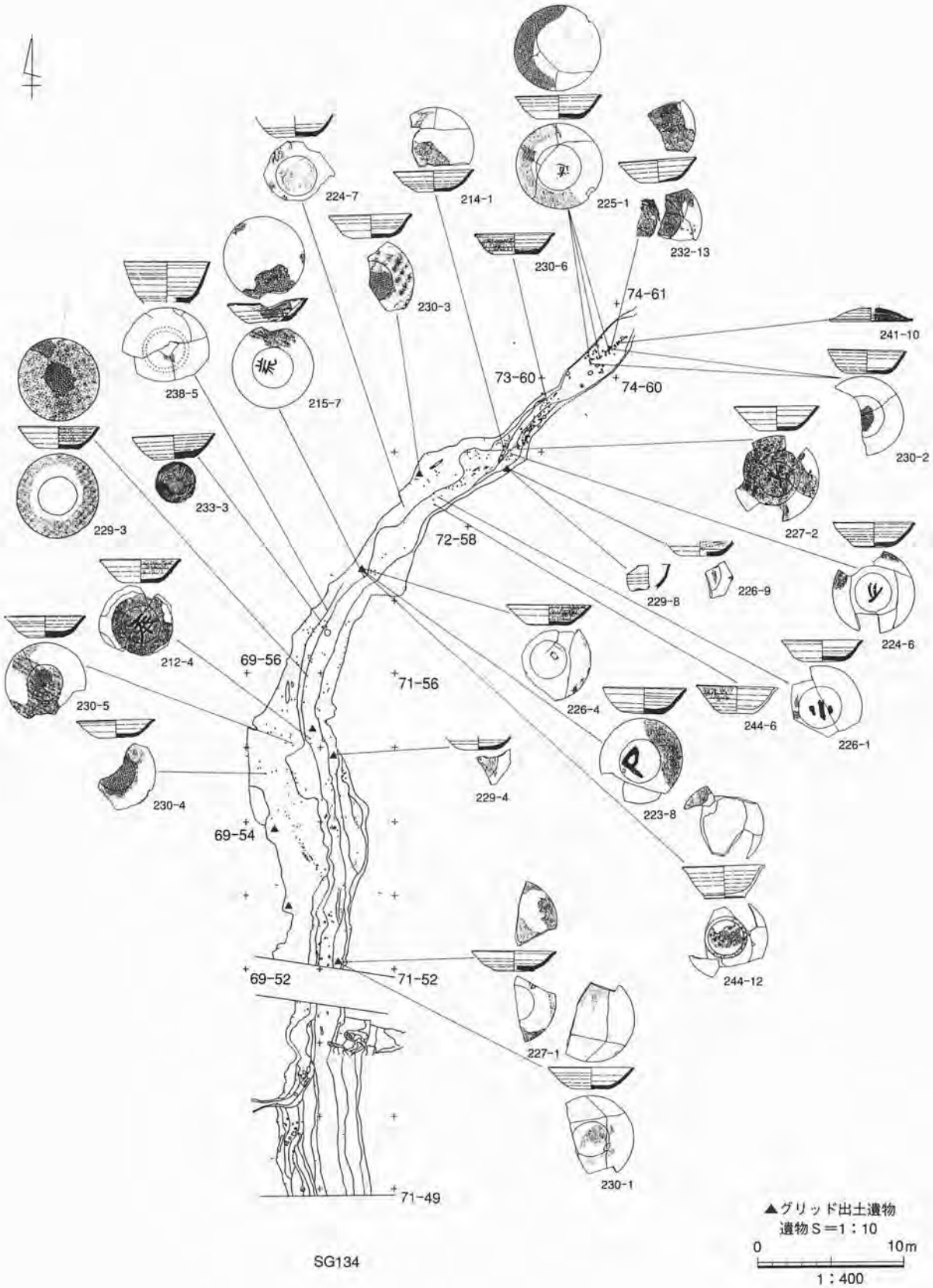
第81図　遺物分布図―SG134・323刻書土器―



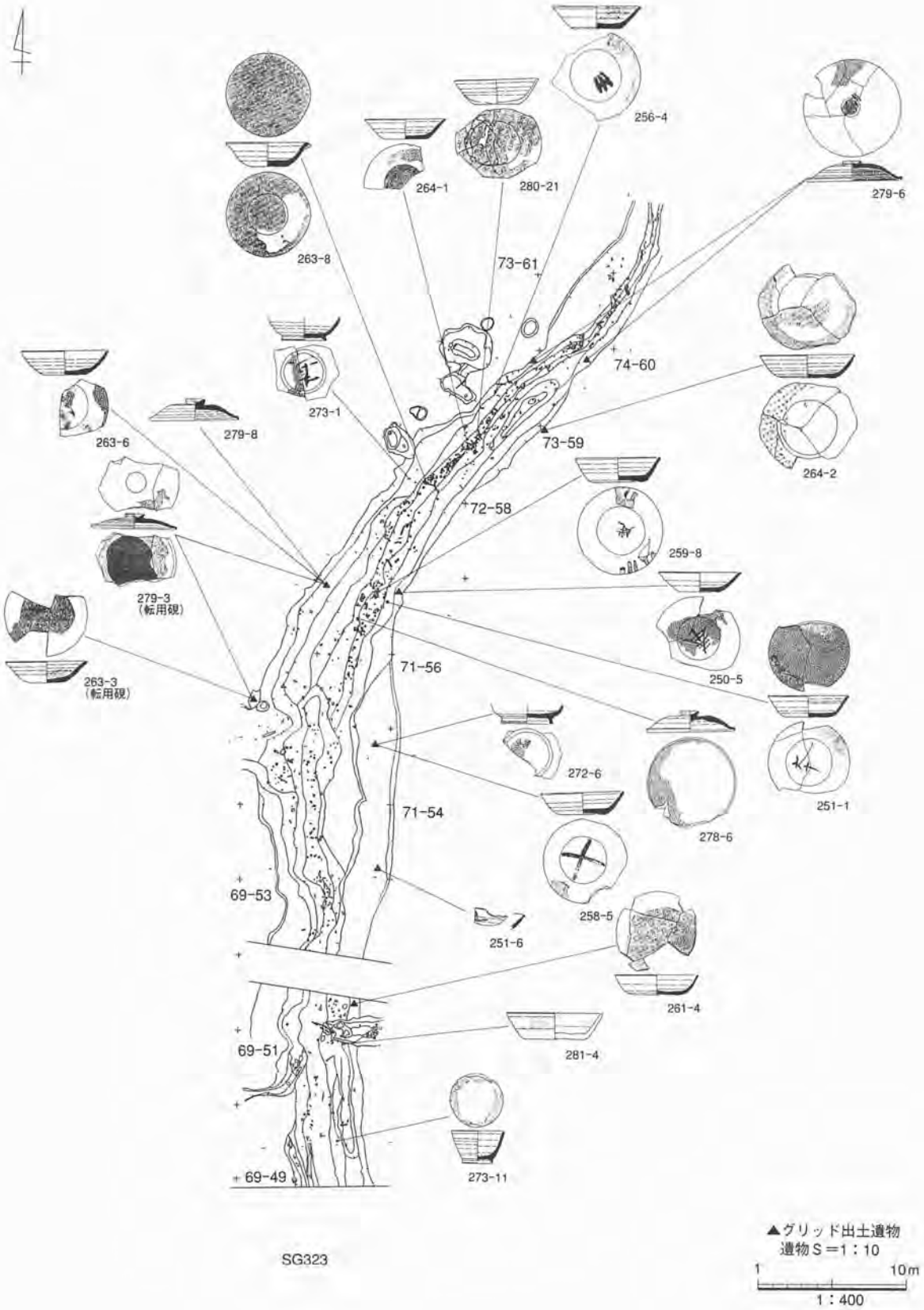
第82図　遺物分布図―SG134転用硯―



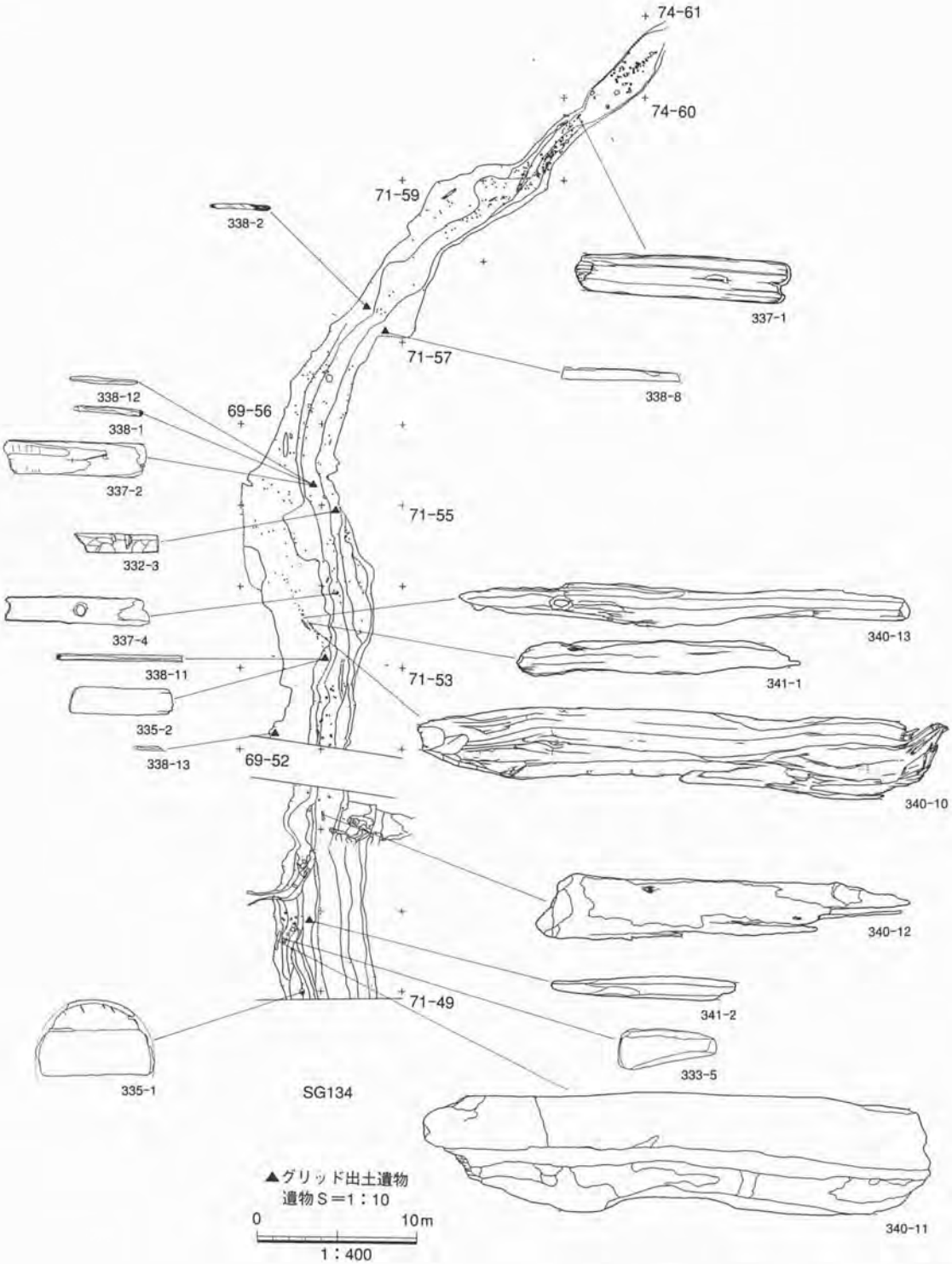
第83図　遺物分布図―SG323転用硯―



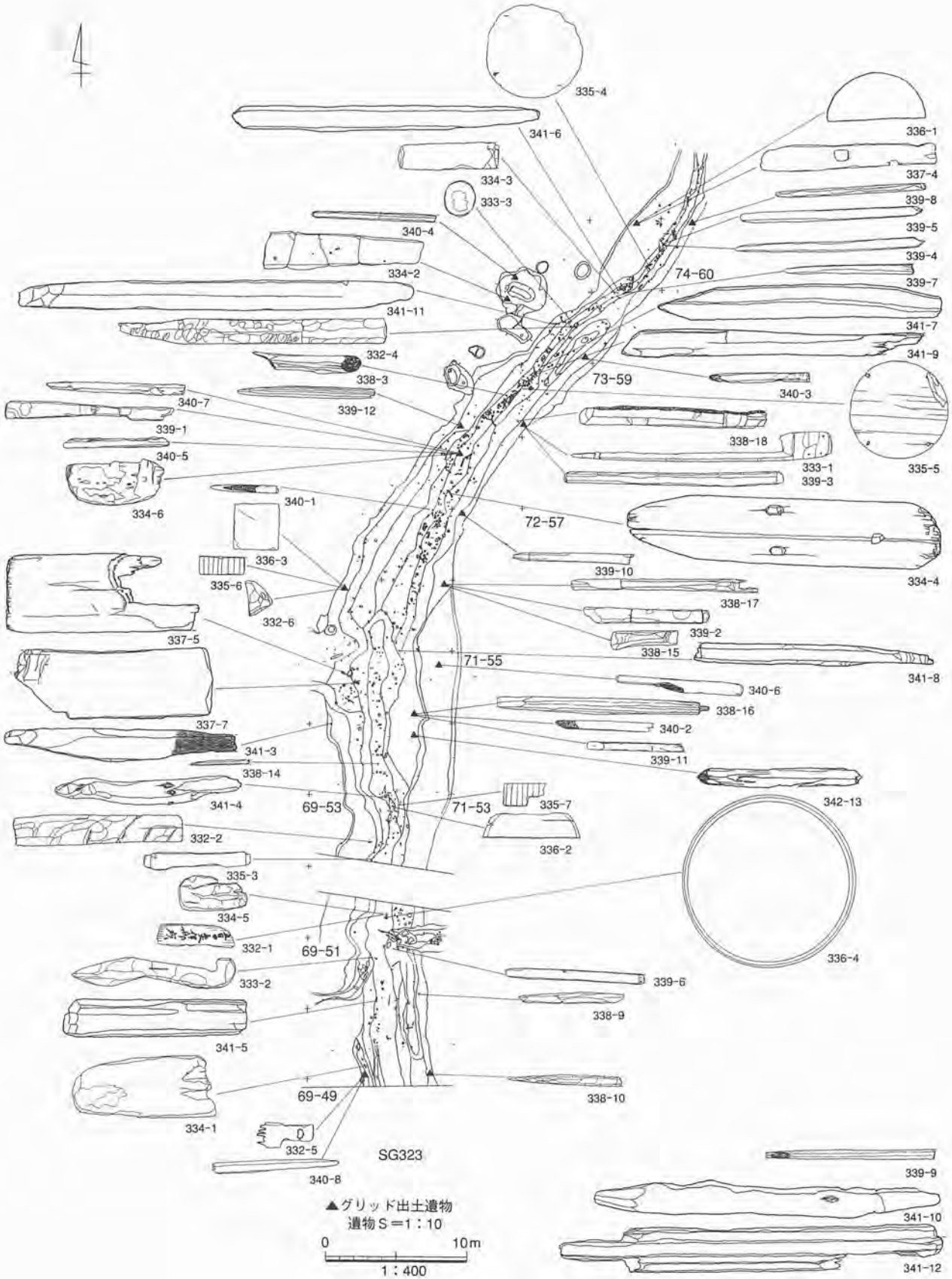
第84図　遺物分布図―SG134灯明具―



第85図　遺物分布図―SG323灯明具―



第86図　遺物分布図―SG134木製品―



第87図　遺物分布図―SG323木製品―

器・木製品が多量に出土している。これらの遺物の中には、多量の墨書土器が含まれる。遺物の垂直分布をみると、覆土の上位から下位の全体から出土し、土器は倒立や横位の出土状況を示す。覆土の状態からSG323は、緩やかであるが常時流水があり、SG134はかなりの勢いの短期的な流水とみられる。また、水田を覆う砂がSG134の覆土と一致する。SG134は洪水のような現象で埋没したものと考えられる。SG134の氾濫が、水田と足跡の検出を可能にしている。

中世

竪穴建物１棟・井戸１基・溝３条・土坑2基が検出された。遺構検出面は、奈良・平安時代の遺構検出面と同じⅢ層上面である。遺構の密度は、H調査区に比べ希薄である。

【竪穴建物】

ST856は、調査区西隅に位置する。北側に方形の張り出し、東側に半楕円形の張り出しを持つ。東側の張り出しは出入り口と考えられる。南側に東西軸をほぼ同じにするSD742がある。ST856から、珠洲と瓷器系陶器甕が出土しており、中世の建物と判断される。

【井戸】

SE72 は、調査区のほぼ中央、SD566の先端に位置する。平面形は、長軸2.5m、短軸1.5m、深さ1.8mを測る。壁面は急な立ち上がりで、底面は平坦である。底面から木材小片が出土したが、井戸施設は確認されていない。標高95mに位置すること、掘り方が砂層まで彫り貫いていること等、奈良・平安時代のSE23・715と類似し井戸と考えられる。SD566との切り合いが不明瞭であり、同時期に機能した可能性がある。SE72覆土10層から白磁皿が出土しており中世の井戸と考えられる。

【溝】

西から東に流れるSD566とSD429、ST856と並んで位置するSD742がある。SD566と429は、西端が標高約95mに位置する。西端には、SE72・SK370が各々重複する。覆土は、細砂～粗砂が互層に堆積する。溝は、抉られた状態で、1mを超える土坑状の落ち込みを形成している。土坑状の落ち込みは、調査時SKとして登録しているが、覆土が溝と共通するため、溝の流水によって抉られたものと判断した。SD566から、かわらけ・鞘付刀子・仏像・木製品・砥石等が出土した。SD429からは、磨滅した土師器・須恵器・かわらけ(320－22)が出土した。中世以降の溝と考えられる。

【土坑】

SD429西端に位置するSK370とSB1145と重複するSK382がある。SK370は、平面形楕円形で、長軸6.6m、短軸5.9m、深さ1.57mを測る大型の土坑である。東・南・北壁は急な立ち上がりであるが、西壁は緩やかな階段状になる。底面は平坦である。覆土は、しまりが無く、ブロック状の混入があり、人為的に埋め戻されているとみられる。溝の先端に位置することや、標高95m付近に位置すること、堆水層まで掘抜いていること等、SE72との共通点も多く、井戸の可能性が考えられたが、規模の大きさや階段状の壁面から貯蔵穴等、井戸とは異なる機能が想定される。遺物は、磨滅した土師器・須恵器が出土しているが、重複関係から中世の溝であるSD429と同時期かそれ以降の時期が考えられる。SK382は、平面形が長方形で、長軸3.28m、短軸1.23m、深さ0.24mを測る。壁面は急な立ち上がりで、底面は平坦である。白磁碗(329－1)が出土しており、中世の土坑と考えられる。

近世

溝8条・土坑１基・水田が検出された。遺構検出面は、奈良・平安時代の遺構検出面と同じⅢ層上面である。H調査区に比べ希薄である。

【溝】

調査区南縁部に集中する。SD427・425・449は幅１m前後で、壁面が緩やかに立ち上がり、底面に円形の凸凹がある。各溝ともに、底面に粗砂が堆積する。SD428は、SD427と直交し、不整形に広がる。深さは、５cm以下で浅い。重複関係は、SD455→427・449→428である。SD429上面に、SD427と同様の粗砂の堆積が部分的に認められることから、SD429は近世以降も遺存していたことが分かる。

SD934・1166は、近世の水田検出地区に位置する。幅0.3～1.5m、深さ0.15cmである。壁は緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。覆土は砂で流水痕がみられる。SD1166には、径５～15cm、長さ50cm前後の杭が10本以上打ち込まれていた。近世陶磁器がまとまって出土し、水田の畦畔と方位軸が共通であることから、水田に伴う溝と考えられる。

【土坑】

SK1106は、水田検出地区に位置する。平面形は不整形で、自然木を半裁しU字型に刳り貫いた材(342－8)を西壁に立て付け、杭５本(342－3～7)が打ち込まれていた。覆土は、砂層で自然木と近世磁器が出土した。

【水田】

水田はⅡ層上面で検出された。Ⅱ層と類似する黒褐色粘土に鉄分が付着した層を識別することにより、水田の畦畔を検出することができた。水田を検出した範囲は、74～96－51～63Gである。N－5～10°－Eである。畦畔間の距離は、東西10.5・12・15・23・30・39m、南北7・10.5・20.5mを確認することができる。

(２)H調査区

調査区全体で遺構検出面は１面のみである。調査は工事工程に合わせ、SD4078以西部分、Y軸60G以北部分、B～G・K調査区との境界にある市道部分、その他のH調査区部分に細分して行った。奈良・平安時代、中世・近世の遺構が確認された。標高は、調査区中央部分が98.80mと高く、東西端が約96.50mを測る。比高差２mを超える起伏に富む調査区である。地形は、西から旧河道脇の微高地、一段上がって広い微高地(砂礫堆)、東に広がる微高地となる。

基本層序

H調査区の北辺中央部分の基本層序は、次の通りである（第133～135図)。ローマ数字はB～G・K調査区との対応関係を示す。

Ⅰ	10YR4/4褐色シルト	Ⅲa	10Y5/4にぶい黄褐色シルト
Ⅰb	7.5Y4/4暗オリーブ色粘土	Ⅲb	10Y5/6黄褐色シルト
Ⅱ	対応する層なし	Ⅳ	砂礫層

Ⅰ層は耕作土・盛土、Ⅲ・Ⅳ層は安定した堆積土である。奈良・平安時代および中世・近世の遺構

の検出面は、Ⅲ層上面である。調査区中央32～36－51～61Gでは、Ⅲ層が堆積せずⅣ層が遺構確認面となる。調査区東端市道部分では、旧水田の耕作土とみられるⅡa～d層が確認できる（第136図)。調査区東端は、砂礫堆の微高地縁辺部に当たり、Ⅲ層が粘土、Ⅳ層が細砂～粗砂となる。Ⅴ層に対応する層は確認できない。また、調査区西端ではⅢ層が黒褐色砂質シルト、南端では黄褐色砂質シルトとして堆積する。調査区西端と南端はⅠ層が厚く堆積する。

奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺構は、竪穴建物・掘立柱建物・溝・土坑・柱穴等である。各遺構の内容は、B～G・K調査区とほぼ同一であるが、中世・近世の遺構との重複が激しく、遺存状態は悪い。奈良・平安時代の遺構は、黒色の強い黒褐色シルトが覆土に含まれ、覆土全体が硬く締まる。

【竪穴建物】

竪穴建物は17棟検出された。17棟中、7棟は一部未検出である。B～G・K調査区の竪穴建物と構造・付属施設は同一である。

平面形は、正方形または長方形を呈する。長軸と短軸の比を計測できるのは11棟ある。内訳は、正方形に近い1.1未満がST1561・2527a・3785の3棟、1.1～1.2がST2527b・3942の2棟、1.25～1.5がST2273・2620a・bの3棟、1.6を超えるのがST1657・2274・2575の3棟である。B～G・K調査区に比べまとまりはみられず、長方形を呈するものが多い。

規模は、最小ST1657の8.86㎡からST2575bの最大48.06㎡の格差で、約5畳～約29畳の広さである。面積を計測できる10棟中、10㎡未満3棟、10㎡以上から20㎡未満4棟、20㎡以上から30㎡未満は1棟、30㎡を超えるのは2棟である。

カマドは、B～G・K調査区同様遺存状態が悪い。17棟中、カマドおよびカマドの位置を確認したのは9棟であるが、袖と煙道を検出したのは、ST2575a・2274・3942・4027の4棟のみである。カマドの位置は、9棟中、南壁にあるものは5基、東壁4基で、南東壁に集中する。壁一辺の中央に構築されているものは、ST2620の1基のみで、右袖壁寄りに位置するものは5基ある。各カマドでは、袖の芯材は確認されず、粘土の貼り付けによって袖を造り出す構造を持つ。

貯蔵穴は、ST2620・3980の2棟で検出された。平面形は楕円形で、長軸100cm前後、短軸80cmである。カマドの左側に貯蔵穴が位置する傾向は、B～G・K調査区と同じである。

柱穴が確認できたのは、ST8042の1棟のみである。

周溝が確認できたのは、ST2575a・8042・8516の3棟である。カマド部分を除きほぼ全周するものとみられる。

貼床は、ほとんどの竪穴建物で確認することができる。掘り方には、ST8042・2273のようにほぼ全面を掘り込むもの、ST3942のように中央を残し周縁部を掘り込むものがある。掘り方の面は凸凹である。ST8042では、掘り方の鋤痕跡が確認され、壁に沿った建物構築時の動線を理解することができる。鋤痕跡から鋤先端の幅は、10cm前後と推定される。掘り込んだ部分に粘土質シルト～粘土を埋め込み、床面を構築している。

建物の壁の遺存はST8042の60cmがもっとも深い。上部の削平が行われているため、壁や出入り口等の構造は不明である。

覆土は、Ⅰ～２層の堆積で人為埋土がほとんどである。自然堆積を明瞭に確認できる建物はない。ST2273・1158は、10～20cmの浅い覆土に多量の土器が含まれる。この土器群は、竪穴建物埋め戻し時の資料と理解される。

建物長軸の方位は、B～G・K調査区とほぼ同じ数値で３群に分類できるが、真北から東に振れるのはA群のみで、B・Cは認められない。壁の遺存状況と関係するが、建物の長軸が、A群では東に、B・C群では西に傾いている。起伏のある地形に規制されてのことと推定される。AおよびA'群が多数を占め、建物の規模は10㎡に満たないものから４０㎡を超える大型のものがある。

重複は、ST2620a～cの３時期が最も多い。

【掘立柱建物】

掘立柱建物は12棟検出された。束柱を持つ総柱建物とこれを持たないものがある。中世・近世の遺物を含むもの、中世の竪穴建物の覆土（やや灰色を帯びた黒褐色砂質シルト～細砂、以後中近世覆土と呼ぶ)を含むものは、当時期から除き、残りを奈良・平安時代と判断した。重複が激しく再考の余地を残す。

総柱建物は5棟である。総柱建物は、3×2間（SB5286)、変則的な2間×2間（SB1249・285・5289・5290)がある。面積は6.1～20.0㎡である。柱間寸法は、1.0・1.1・1.2・1.3・1.4・1.5・1.6・1.7・1.8・2.0・2.3・2.4mがある。

束柱の無い建物は7棟検出された。5間×3間(SB1194・6232)、3×3間(SB6231)、3×2間以上(SB6235)、2間×2間(SB1214)、2間×1間(SB1215)がある。面積は、3.6～78.0㎡である。柱間寸法は、1.2・1.3・1.4・1.5・1.6・1.7・1.8・1.9・2.0・2.1・2.2・2.3・2.4・2.5・2.8・2.9mがある。SB6235南東部分が調査外のため詳細は不明であるが、西面に廂が付く建物である。SB1194・6232は、B～G・K調査区の大型掘立柱建物SB1162に次いで大型の建物である。大型建物の柱穴は、隅丸方形の特徴を持つ。

建物の分布は、SB1194のある31－52G周辺、SB6232のある41－５2G周辺、SB5286のある30－57G周辺に掘立柱建物と竪穴建物の集中が認められる。

建物は、SB5289と5290、SB1214と1215等近接して位置するものがあるが、同位置での重複は認められない。また、SB1194とST8042、SB6232とST1273等、掘立柱建物と竪穴建物が長軸方位をほぼ同じくして隣接するものがある。

建物長軸の方位は、他建物同様３群に分類することができる。CおよびC'群が多数を占める。A・A'群のなかでも、N－8°～23°－E・N－75°－Wに収まる。群ごとの建物規模の偏りは認められない。大型建物SB1194はC群、SB6232はA群に属する。

【土坑】

土坑は、時期を特定できるものが少ない。B～G・K調査区同様a・b・Cに分類することができる。

a類には、SK1553・1604・3928・3911等がある。竪穴建物との重複が認められるものは、土坑a類が竪穴建物より新しく、掘立柱建物よりは古い傾向にある。

b類には、SK3261・3268等がある。覆土は粘質シルトを主体とした単層で、締まりがないものが多い。プラン検出時に、柱穴の可能性が想定されたが、覆土の状態が柱穴と異なる。他の遺構と重複することはほとんどなく、単独で位置する。遺物は、少なく小破片が混入する程度である。用途は不明である。

【溝】

奈良・平安時代の溝と確認できた溝は、SD1554とそれに直交すると推定されるSD1605である。B～G・K調査区分類のb類に属する。中世の溝SD1555に切られる。方位軸は東に45°傾き、SD616と等しい傾きを示す。SD1554とSD616の間は、45mを測る。

中世

中世の遺構は、竪穴建物・掘立柱建物・溝・土坑・井戸・柱穴等である。当調査区の中世・近世の遺構覆土には、やや灰色を帯びた黒褐色砂質シルト～細砂(中近世覆土)が含まれ、奈良・平安時代の遺構に比べ締まりがない。中世の遺物が出土した遺構および中近世覆土が含まれる遺構について奈良・平安時代と識別し、近世の遺物が出土するものについては、近世の時期を当て、それ以外について中世の遺構と判断した。

【竪穴建物】

竪穴建物は6棟検出された。ST9371はSD9370より新しいことから、近世の可能性がある。

平面形は、正方形または長方形を呈する。ST1920・ST3562は南面に出入り口とみられる張り出しを持つ。

長軸と短軸の比を計測できるのは４棟ある。内訳は、正方形に近い1.1未満がST3562、1.1～1.2がST1920・9372の2棟、1.65がST2573である。

規模は、最小ST3562の8.86㎡からST1920の最大25.41㎡の格差で、約5畳～約15畳の広さである。奈良・平安時代の竪穴建物と規模の違いは認められない。

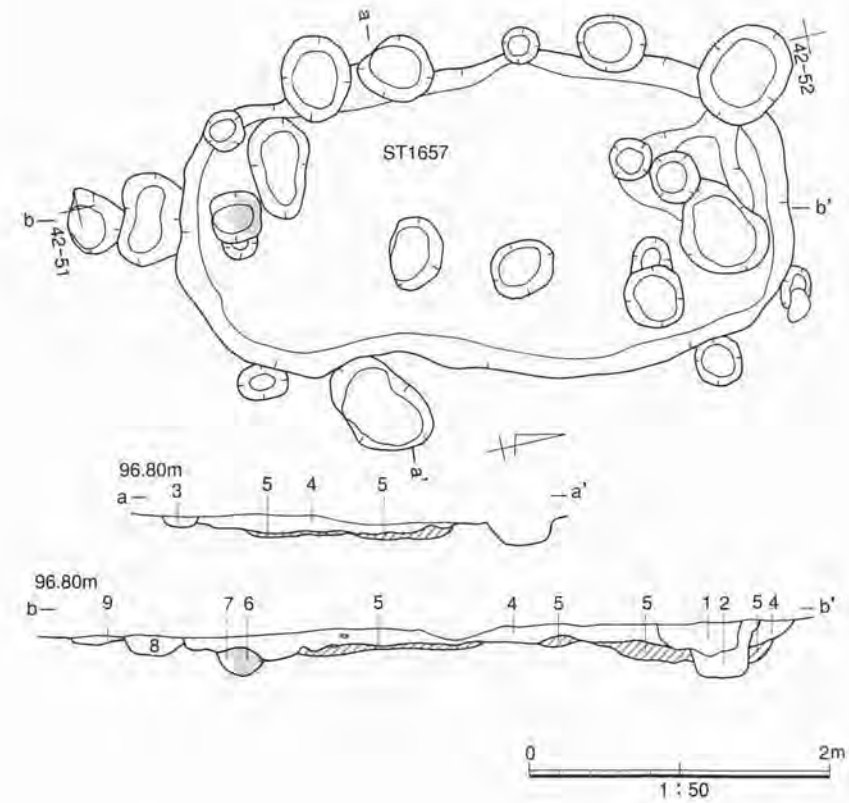
カマド・貯蔵穴・周溝等の施設は認められず、張り出し状の出入り口がある。ST9371は深さ８０cm遺存するが、他の５棟は20cm前後と浅い。壁は、ST9371が急に、他の５棟は緩やかに立ち上がる。床面は平坦で、ST1920とST3562は貼床がある。柱穴が確認できたのは、ST1920とST9013の2棟のみである。2棟とも6本の主柱穴である。

覆土は、１～２層の堆積で人為埋土がほとんどである。自然堆積を明瞭に確認できる建物はない。ST1920は、20cmの浅い覆土に多量の遺物が含まれる。この土器群は、竪穴建物埋め戻し時の資料と理解される。

建物長軸の方位は、建物長軸方位のA群の中でも、N－22～34°－Eに６棟が収まる。建物長軸方位から、中世の竪穴建物と同じ傾きを示すST1561も中世の可能性が残る。

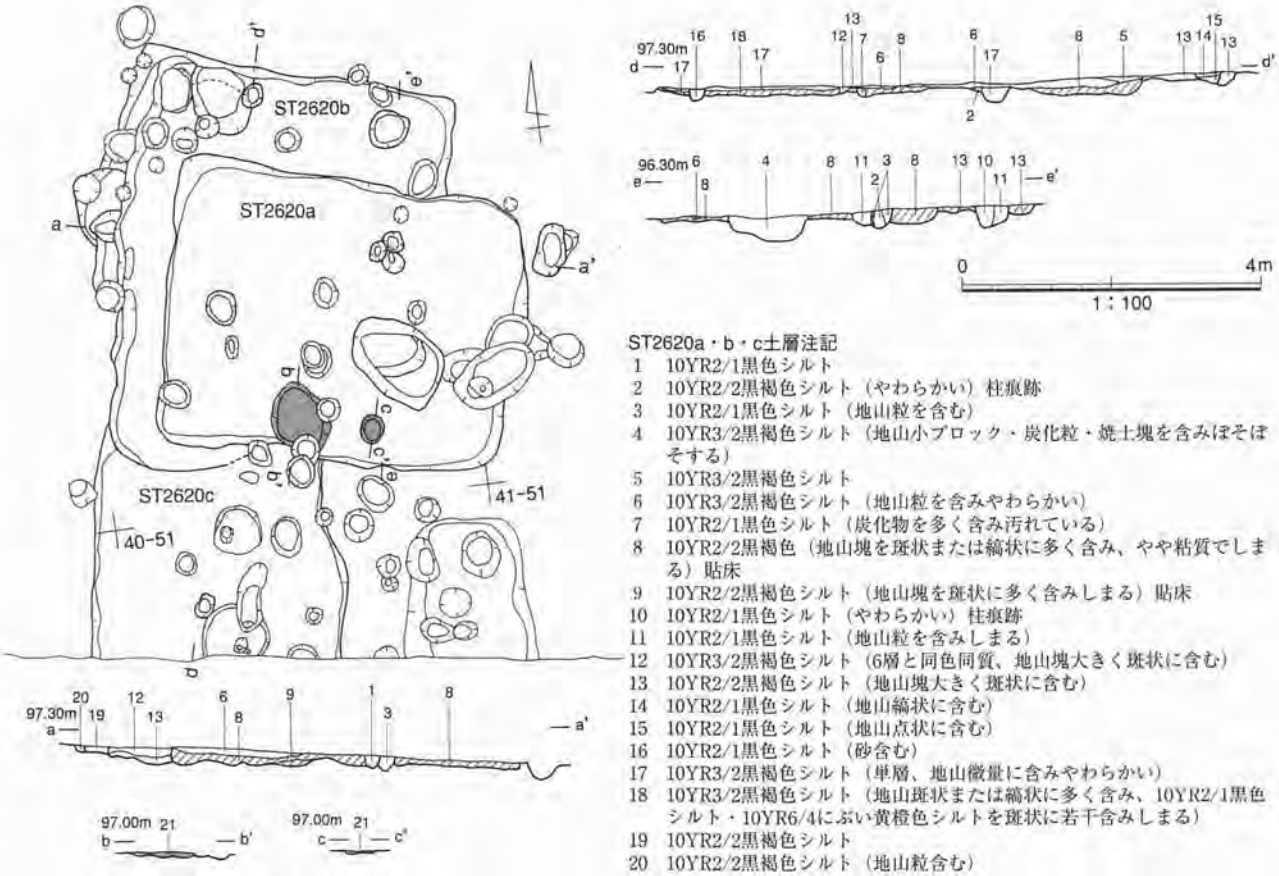
重複は、ST1920→ST2573の２時期のみである。

第88図　H調査区遺構全体図



ST1657土層注記

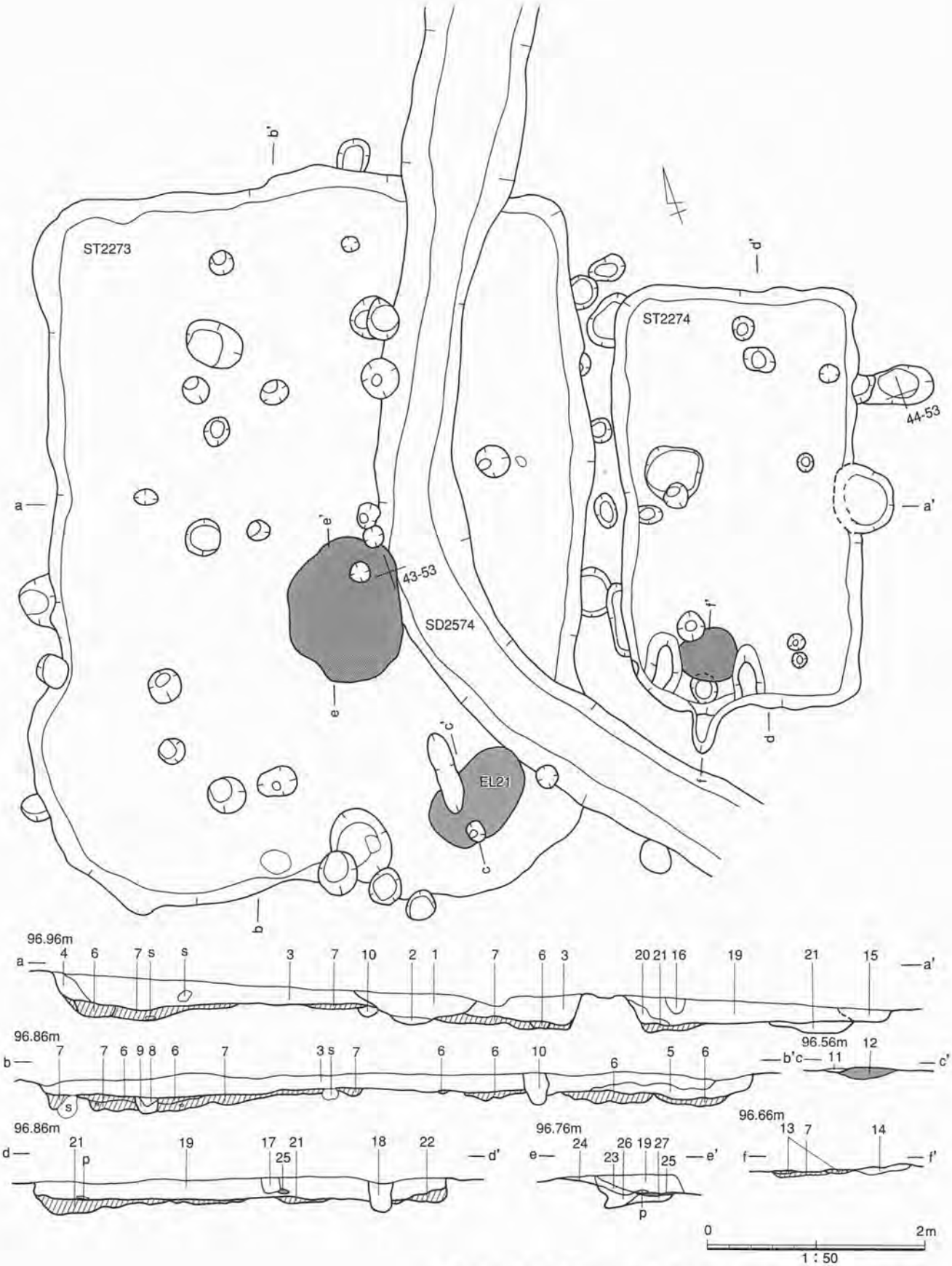
1　10YR6/6明黄褐色シルト　撹乱層
2　10YR3/2黒褐色シルト（地山粒を含みややしまる）
3　10YR3/2黒褐色シルト（地山を斑に多く含む）
4　10YR3/2黒褐色シルト（単層、ST2273と同質、地山粒・炭化粒を多く含みしまる）
5　10YR4/2灰黄褐色シルト（4層を微量に縞状に含み、地山粒を点状または斑に含みしまる）貼床
6　10YR3/2黒褐色シルト（単層、地山粒を若干含む）柱痕跡
7　10YR4/2灰黄褐色シルト（地山粒を斑に含む）埋土
8　10YR3/2黒褐色シルト（地山含む）
9　10YR2/2黒褐色シルト（地山含む）



ST2620a・b・c土層注記

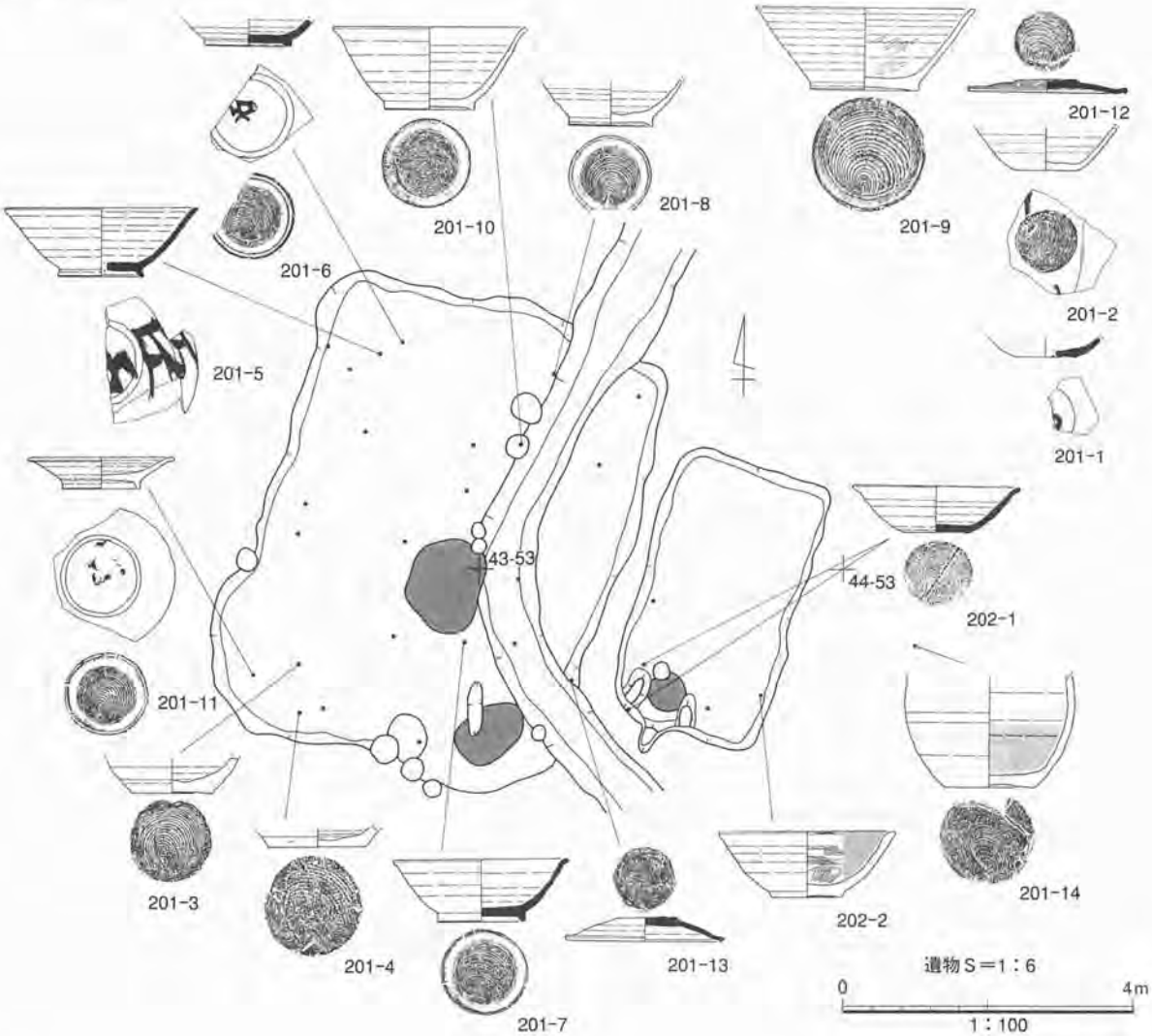
1　10YR2/1黒色シルト
2　10YR2/2黒褐色シルト（やわらかい）柱痕跡
3　10YR2/1黒色シルト（地山粒を含む）
4　10YR3/2黒褐色シルト（地山小ブロック・炭化粒・焼土塊を含みぼそぼそする）
5　10YR3/2黒褐色シルト
6　10YR3/2黒褐色シルト（地山粒を含みやわらかい）
7　10YR2/1黒色シルト（炭化物を多く含み汚れている）
8　10YR2/2黒褐色（地山塊を斑状または縞状に多く含み、やや粘質でしまる）貼床
9　10YR2/2黒褐色シルト（地山塊を斑状に多く含みしまる）貼床
10　10YR2/1黒色シルト（やわらかい）柱痕跡
11　10YR2/1黒色シルト（地山粒を含みしまる）
12　10YR3/2黒褐色シルト（6層と同色同質、地山塊大きく斑状に含む）
13　10YR2/2黒褐色シルト（地山塊大きく斑状に含む）
14　10YR2/1黒色シルト（地山縞状に含む）
15　10YR2/1黒色シルト（地山点状に含む）
16　10YR2/1黒色シルト（砂含む）
17　10YR3/2黒褐色シルト（単層、地山微量に含みやわらかい）
18　10YR3/2黒褐色シルト（地山斑状または縞状に多く含み、10YR2/1黒色シルト・10YR6/4にぶい黄橙色シルトを斑状に若干含みしまる）
19　10YR2/2黒褐色シルト
20　10YR2/2黒褐色シルト（地山粒含む）
21　焼土

第89図　遺構実測図―ST1657・2620a～c―



第90図　遺構実測図―ST2273・2274、SD2574―

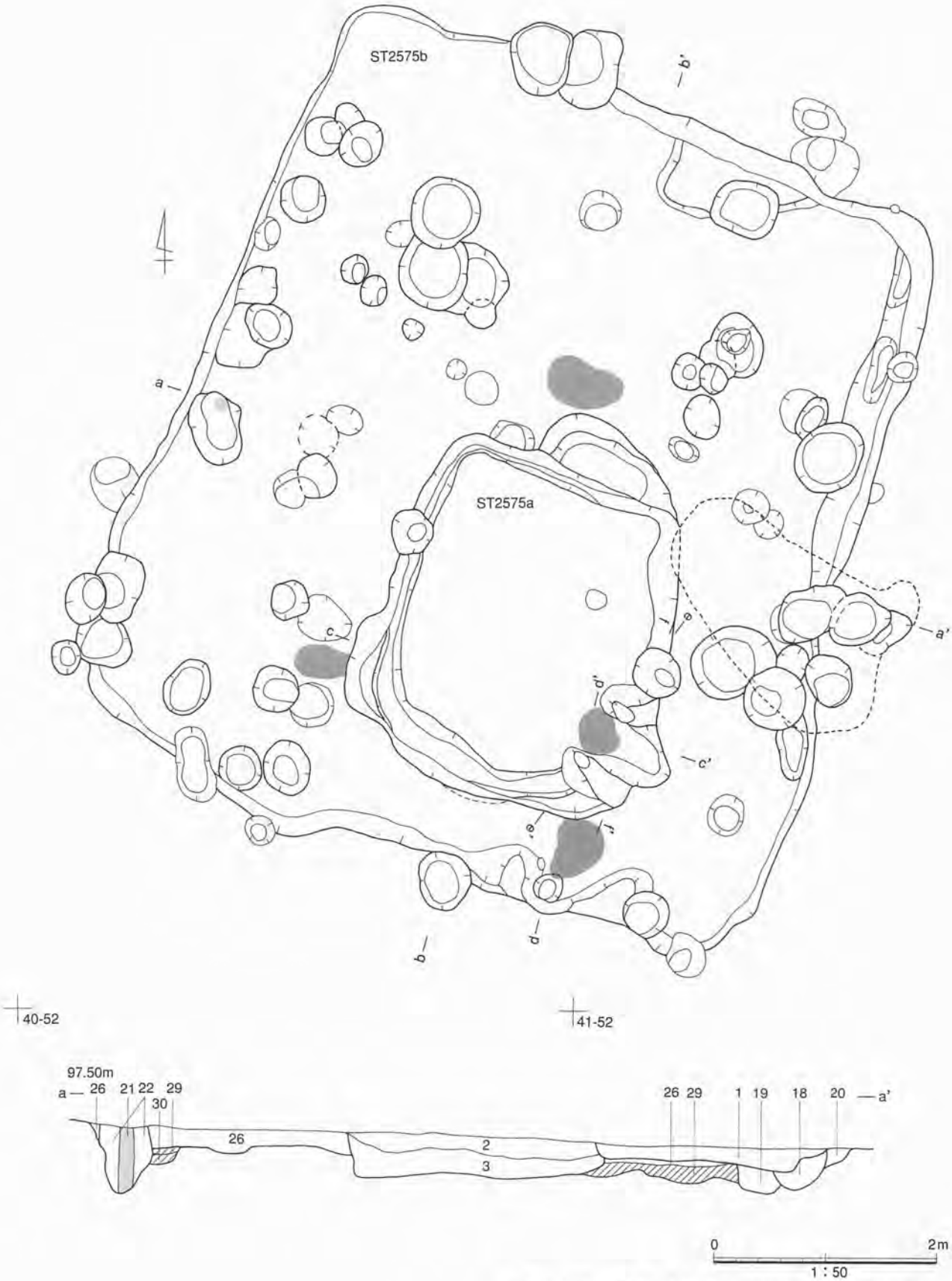
ST2273・2274、SD2574



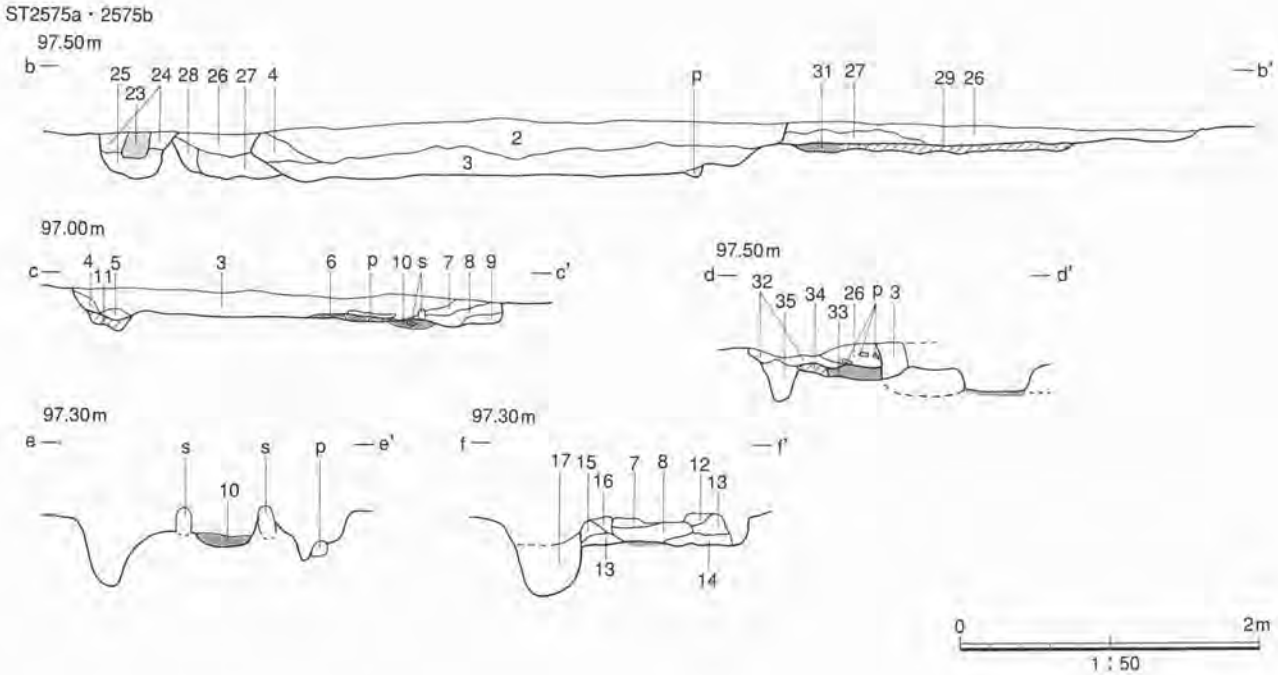
ST2273・2274、SD2574土層注記

1　10YR3/3暗褐色細砂（地山が縞状またはレンズ状に含む、炭化粒・河原石を含む）
2　1層と10YR4/4褐色微砂（地山）混合土
3　10YR3/2黒褐色シルト（地山粒を多く含みしまる）
4　10YR3/2黒褐色シルト（単層、炭化粒・焼土粒を微量に含みしまる）
5　10YR2/2黒褐色シルト（地山をブロックまたは斑に多く含み4層を含む、やや粘質）
6　10YR4/4褐色シルト（7層と同質、4層と地山の互層）貼床
7　10YR4/4褐色シルト（4層と同色同質シルトを斑または縞状に含み非常に硬くしまる）貼床
8　10YR3/2黒褐色（地山粒含む）柱痕跡
9　10YR4/4褐色シルト（地山を斑に多く含む）
10　10YR4/4褐色シルト（地山を多く含む）
11　10YR3/2黒褐色シルト（地山粒を多く含みしまる）
12　10YR3/2黒褐色シルト（被熱している）貼床
13　10YR3/2黒褐色シルト（被熱している）貼床
14　5YR5/6明赤褐色シルト（被熱している）地山
15　10YR3/4暗褐色細砂（単層）中世
16　10YR3/2黒褐色シルト（炭化物を多く含む）
17　10YR3/2黒褐色シルト（地山粒・焼土粒を含む）
18　10YR3/4暗褐色細砂（単層）中世
19　10YR3/2黒褐色シルト（4層に類似、単層）
20　10YR3/2黒褐色シルト（19層と類似、地山粒を多く含む）
21　10YR4/4褐色シルト（6層と類似、10YR2/2黒褐色シルトを斑に含み硬くしまる）貼床
22　10YR4/4褐色シルト（単層、19層を含みしまる）貼床
23　10YR3/3暗褐色シルト（地山粒を多く含みしまる）
24　10YR3/2黒褐色シルト（単層、炭化粒・焼土粒を微量に含みしまる）
25　焼土
26　5YR5/6明赤褐色シルト（被熱し、24層含む）
27　5YR5/6明赤褐色シルト（被熱し、しまる）

第91図　遺構実測図―ST2273・2274、SD2574―



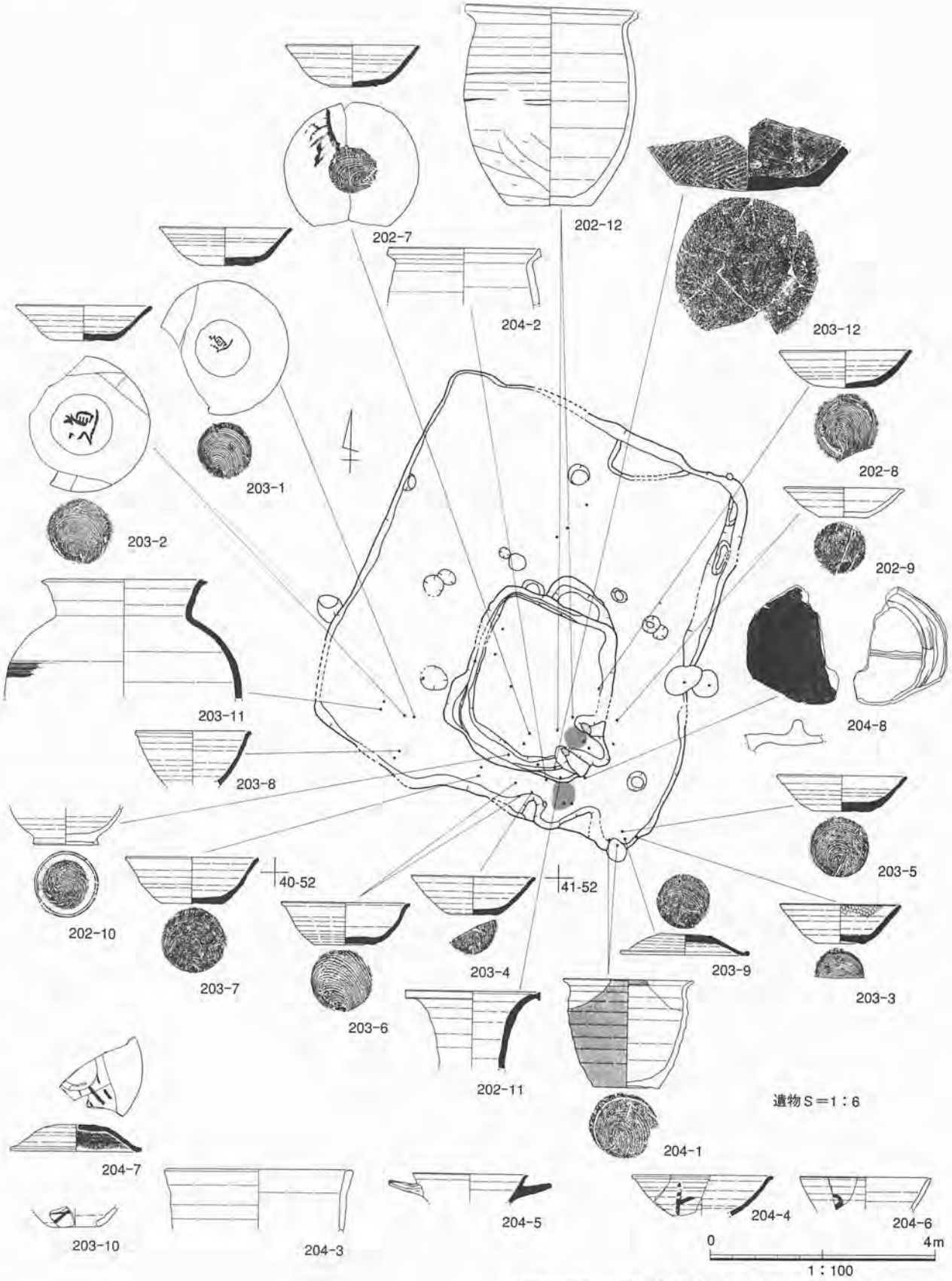
第92図　遺構実測図―ST2575a・2575b―



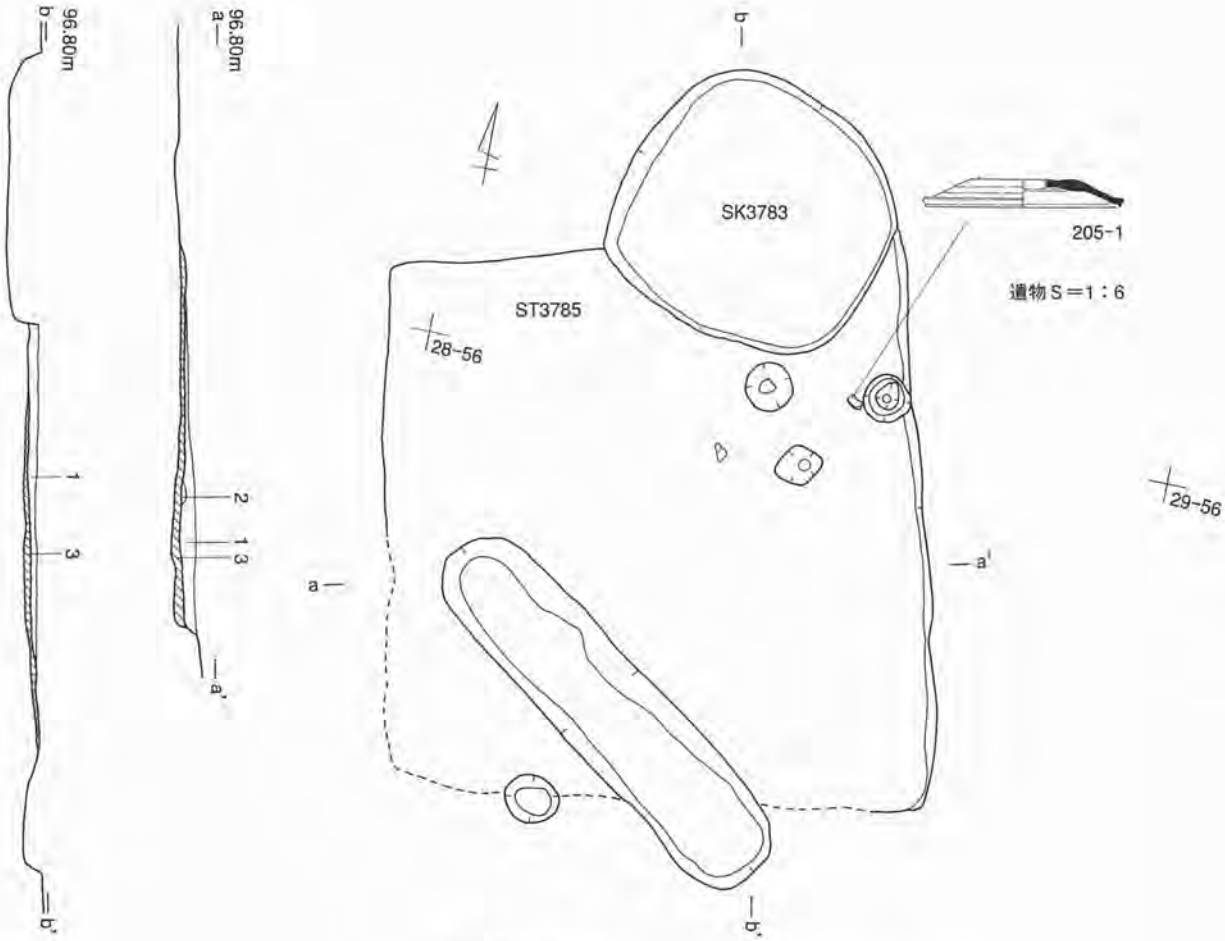
ST2575a・2575b土層注記

1　10YR4/2灰黄褐色砂　中世土坑覆土
2　10YR3/3暗褐色シルト（地山塊・粒を多く、炭化粒・細砂を含み硬くしまる）
3　10YR3/3暗褐色シルト（単層、混入物少なくしまる）
4　2層と地山の混合土（地山を斑に多く含み、炭化粒を含みしまる）
5　10YR3/3暗褐色シルト（地山塊粒・砂を含みやわらかい）ST2575a周溝覆土
6　10YR1.7/1黒色シルト（炭化層、炭化物を縞状に多く含む）
7　10YR3/3暗褐色シルト（3層に類似、地山を小ブロックで含む、3層より地山を多く含む）EL崩落土
8　10YR2/2黒褐色シルト（地山・焼土を塊・粒で多く含む）EL崩落土
9　10YR3/3暗褐色シルト（地山・焼土を塊・粒で多く含む）EL崩落土
10　10YR3/4暗褐色シルト（地山が焼けている）
11　3層と地山の混合土（砂微量、地山を斑に塊で含みしまる）貼床
12　10YR5/6黄褐色シルト（13層と同質、焼けている）EL袖
13　10YR6/6明黄褐色シルト（地山粘土で汚れている）EL袖
14　10YR3/3暗褐色シルト（地山粒を多く含む）EL袖
15　10YR3/3暗褐色シルト（15層と同質、焼けている）EL袖
16　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（15層と同質、焼けている）EL袖
17　10YR2/2黒褐色シルト（地山微量含む、単層）柱穴覆土
18　10YR2/3黒褐色（地山を霜降り状に含みしまる）柱穴覆土
19　10YR3/3暗褐色シルト（単層）柱穴覆土
20　10YR3/3暗褐色シルト（地山を点状に含む）柱穴覆土
21　10YR3/3暗褐色シルト（単層、砂・礫を含みぼそぼそする）柱痕跡
22　10YR2/2黒褐色シルト（地山を縞状または粒で多く含みぼそぼそする）柱穴覆土　埋土
23　10YR2/2黒褐色シルト（地山粒含む）柱痕跡
24　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（炭化粒・焼土塊を含む）柱穴覆土
25　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（地山を斑に含む）柱穴覆土
26　10YR2/2黒褐色シルト（単層、炭化粒・焼土粒を微量含みやわらかい）
27　10YR2/2黒褐色シルト（26層と同質、炭化粒・焼土塊・地山を斑点状または縞状に含みやわらかい）
28　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（28層と同質、焼土・炭化粒を含まず，地山粒を含みしまる）
29　10YR3/1黒褐色シルトと地山混合土（地山を斑または縞状に含み、砂を微量含みしまる）貼床
30　10YR3/2黒褐色シルト（地山粒を点状に含みしまる）貼床
31　5YR5/4にぶい赤褐色シルト（地山が焼けている）
32　10YR2/2黒褐色シルト（焼土粒・地山粒微量、炭化粒多量含む）EL崩落土
33　5YR6/6橙色シルト（汚れた地山で焼けている）
34　5YR5/4にぶい赤褐色シルト（焼土塊・地山塊・炭化粒を含み硬い）焼けた貼床
35　10YR2/2黒褐色シルト（上面に地山粒・焼土粒を多く含む）

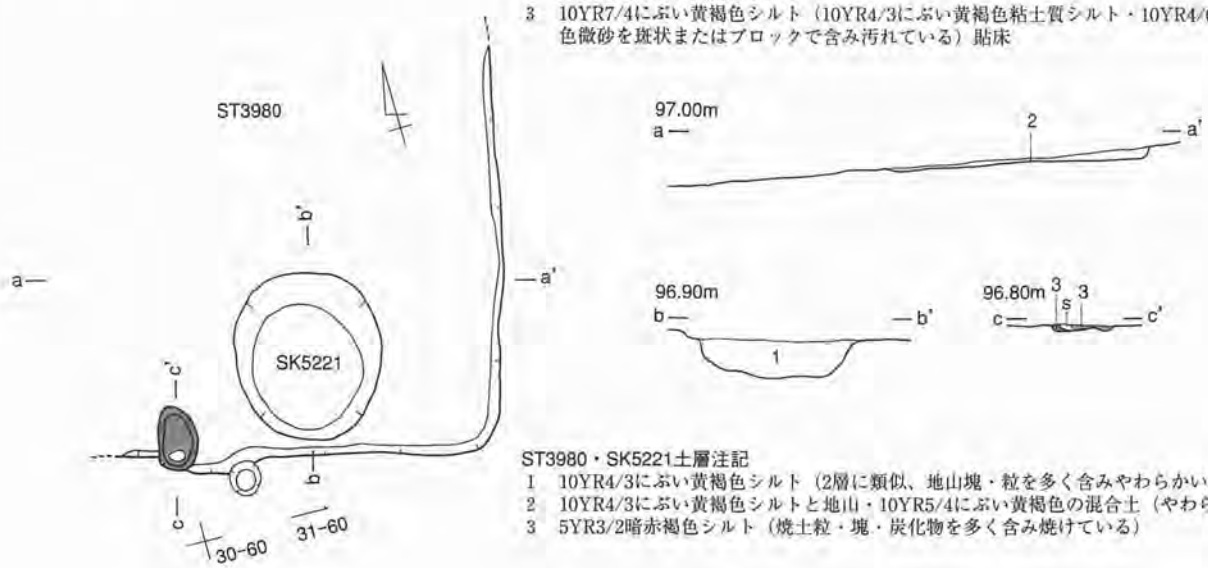
第93図　遺構実測図—ST2575a・2575b—



第94図　遺構実測図―ST2575a・2575b―



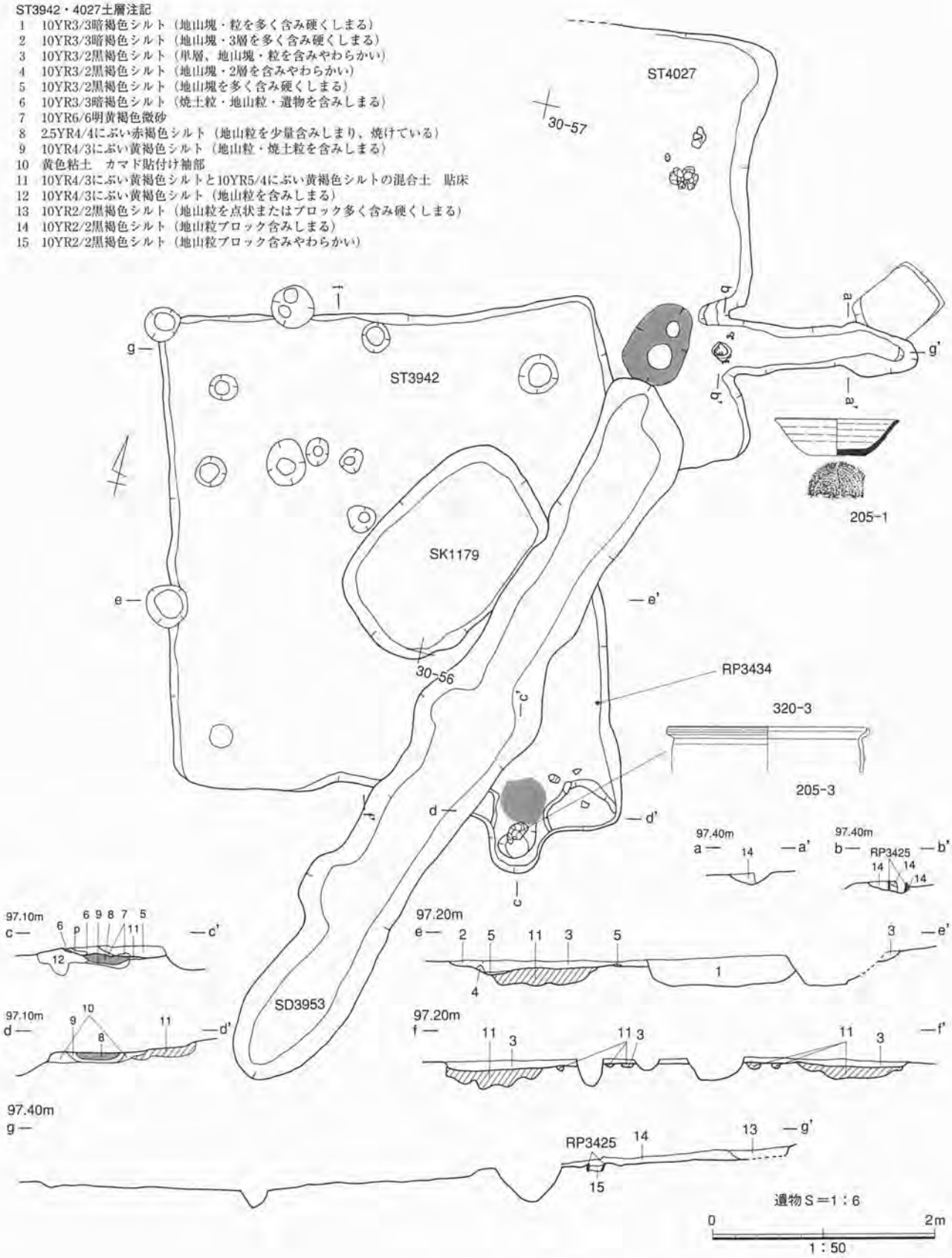
ST3785土層注記
1　10YR3/3暗褐色シルト（地山塊・粒を多く含み硬くしまる）
2　10YR7/4にぶい黄褐色シルト
3　10YR7/4にぶい黄褐色シルト（10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト・10YR4/6褐色微砂を斑状またはブロックで含み汚れている）貼床



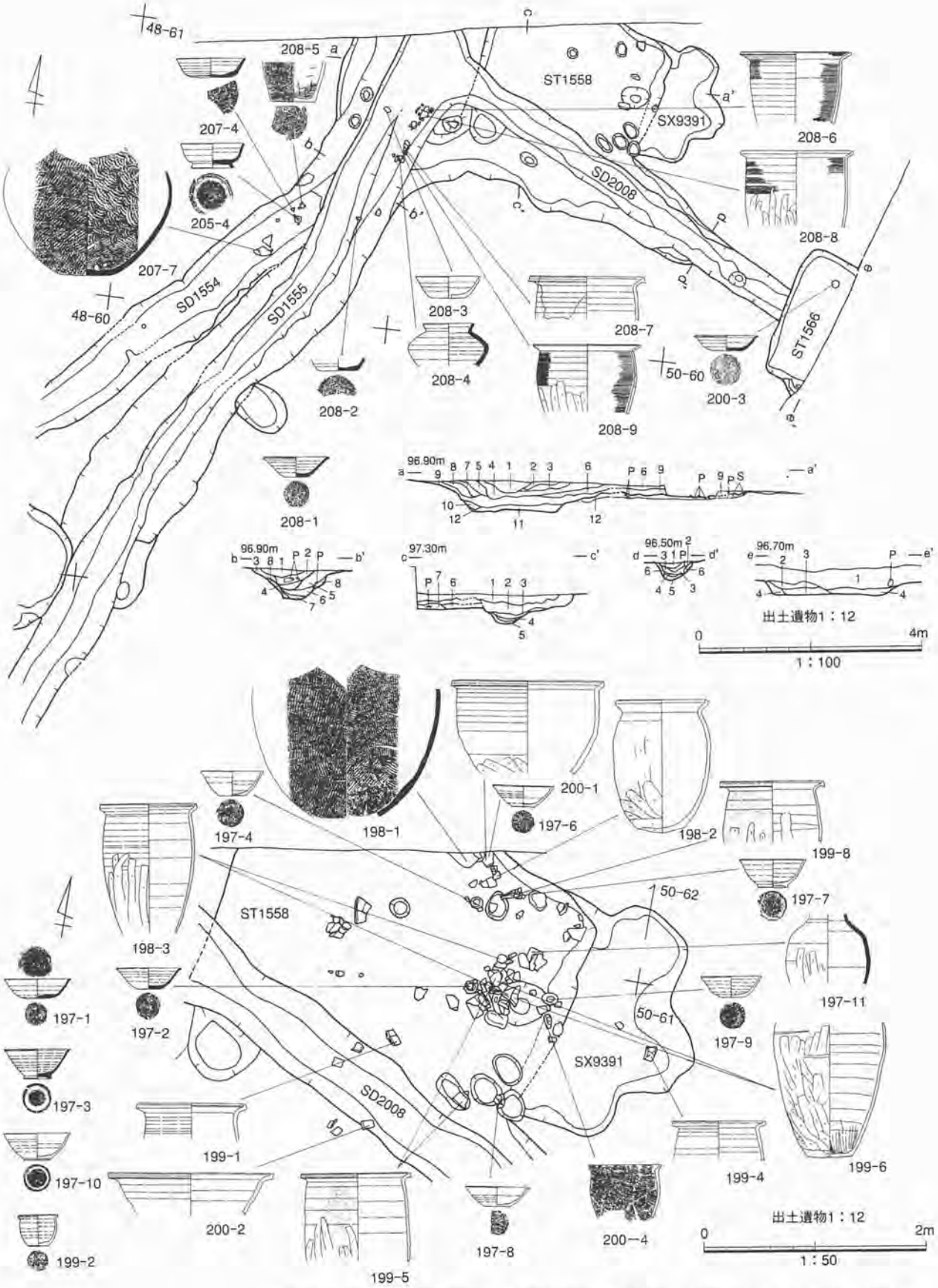
ST3980・SK5221土層注記
1　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（2層に類似、地山塊・粒を多く含みやわらかい）
2　10YR4/3にぶい黄褐色シルトと地山・10YR5/4にぶい黄褐色の混合土（やわらかい）
3　5YR3/2暗赤褐色シルト（焼土粒・塊・炭化物を多く含み焼けている）

第95図　遺構実測図―ST3785・3980、SK5221―

ST3942・4027土層注記
1　10YR3/3暗褐色シルト（地山塊・粒を多く含み硬くしまる）
2　10YR3/3暗褐色シルト（地山塊・3層を多く含み硬くしまる）
3　10YR3/2黒褐色シルト（単層、地山塊・粒を含みやわらかい）
4　10YR3/2黒褐色シルト（地山塊・2層を含みやわらかい）
5　10YR3/2黒褐色シルト（地山塊を多く含み硬くしまる）
6　10YR3/3暗褐色シルト（焼土粒・地山粒・遺物を含みしまる）
7　10YR6/6明黄褐色微砂
8　2.5YR4/4にぶい赤褐色シルト（地山粒を少量含みしまり、焼けている）
9　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（地山粒・焼土粒を含みしまる）
10　黄色粘土　カマド貼付け袖部
11　10YR4/3にぶい黄褐色シルトと10YR5/4にぶい黄褐色シルトの混合土　貼床
12　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（地山粒を含みしまる）
13　10YR2/2黒褐色シルト（地山粒を点状またはブロック多く含み硬くしまる）
14　10YR2/2黒褐色シルト（地山粒ブロック含みしまる）
15　10YR2/2黒褐色シルト（地山粒ブロック含みやわらかい）



第96図　遺構実測図―ST3942・4027―



第97図　遺構実測図—ST1558・1566、SD1554・1555・2008—

ST1558・1556、SD1554・1555他　土層注記

a-a' 土層注記

1　10YR3/3暗褐色シルト（一部砂質が強い、黄褐色シルトわずかに含み遺物混入）
2　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト（わずかに土器片混入）
3　10YR3/4暗褐色砂質シルト（黄褐色砂質シルト同割合いで混入、遺物混入）
4　10YR3/2黒褐色シルト（黄褐色砂質シルト・黒色炭化物・遺物片全体的に混入）
5　10YR3/3暗褐色砂質シルト（黄褐色砂質シルト斑状に全体的に混入）
6　10YR3/4暗褐色シルト（にぶい黄褐色砂質シルトをやや含み遺物混入）
7　10YR3/4暗褐色シルト（黄褐色砂質シルトを小ブロックでわずかに混入）
8　10YR3/3暗褐色シルト（黄褐色砂質シルト斑状に含み遺物混入）
9　7.5YR4/3褐色砂質シルト（ブロック状に砂質が強い、遺物・炭化物を多く混入）
10　7.5YR4/3褐色粘質シルト（下部でグライ化、地山崩落による黄褐色シルトを小ブロックで混入）
11　7.5YR4/2灰褐色粘質シルト（全体的にグライ化、遺物混入）
12　10YR4/4褐色砂質シルト（明黄褐色シルトが斑状に混入し地山崩落土）

d-d' 土層注記

1　10YR3/3暗褐色シルト（やや砂質を帯び遺物混入）
2　10YR3/4暗褐色シルト（1層より砂質を帯び遺物混入）
3　10YR3/4暗褐色シルト（斑状にグライ化）
4　10YR3/2黒褐色シルト（黒色シルト斑状に混入、一部グライ化）
5　10YR3/4暗褐色粘質シルト（明黄褐色シルト粒状に混入、斑状にグライ化）
6　10YR3/3暗褐色シルト（黄褐色シルトが斑状に混入し地山崩落土）

b-b' 土層注記

1　10YR3/2黒褐色砂質シルト（明黄褐色シルト粒状にわずかに混入）
2　10YR3/3暗褐色シルト（明黄褐色シルト粒状にわずかに混入、遺物・中～大型の礫やや混入）
3　10YR3/2黒褐色シルト（明黄褐色シルトが斑状に混入し地山崩落土）
4　10YR2/2黒褐色シルト（明黄褐色シルトがブロック状にやや混入）SD1554の形成最下層
5　10YR3/2黒褐色シルト（上部で明黄褐色微砂やや混入、斜面際で遺物・黒色炭化物混入）
6　10YR2/2黒褐色粘質シルト（明黄褐色微砂やや混入、下部斑状にグライ化）
7　7.5YR3/1黒褐色粘質シルト（斑状にグライ化、一部スコリア）
8　10YR3/2黒褐色粘質シルト（灰黄褐色シルトを多く含み地山崩落土を混入、下部斑状にグライ化）

c-c' 土層注記

1　b-b' の6層
2　b-b' の9層
3　10YR3/3暗褐色砂質シルト（黄褐色シルトわずかに粒状に混入、ややグライ化）
4　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト（全体的にグライ化、粘性が強い）
5　10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルト（ややグライ化、砂質が強い）
6　b-b' の12層
7　6層に類似、砂質シルトを多く混入

ST1566 e-e' 土層注記

1　表土・耕作土
2　10YR3/3暗褐色砂質シルト
3　10YR3/2黒褐色粘質シルト（灰黄褐色シルトを多く含み地山崩落
4　土を混入、下部斑状にグライ化）

ST8042　g-g' 土層注記

1　7.5YR3/3暗褐色シルト
2　7.5YR2/3極暗褐色シルト（7.5YR6/4にぶい橙色シルト3cm大斑に混入）
3　7.5YR3/3暗褐色シルト（にぶい赤褐色シルト斑に混入）
4　にぶい黄褐色シルト（10YR6/4にぶい黄橙色シルト板状に20cm右端にのびている）
5　10YR6/3にぶい黄橙色シルト（10YR4/3にぶい黄褐色シルト斑に30%混入）
6　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（10YR4/2灰黄褐色シルト斑に20%混入）
7　10YR3/3暗褐色シルト（10YR4/3にぶい黄褐色シルト50%混入）

ST8042 EL8120　f-f' 土層注記

1　2.5Y4/4オリーブ褐色粘質シルト
2　2.5Y3/2黒褐色シルト
3　2.5Y4/3オリーブ褐色粘質シルト　天井崩落土
4　5層に3・6層各20%混入
5　7.5YR5/6明褐色シルト（固くしまっている、焼土塊）
6　10YR3/4暗褐色シルト（5層に10%混入）
7　還元状に固くしまる
8　5層に類似（固くしまっている、被熱面が一部黄色に固まる）
9　2.5Y5/4黄褐色粘質シルト（かまどのそで部分）
10　焼土
11　貼床

ED8139土層注記

1　10YR3/3暗褐色シルト（10YR4/4褐色シルト斑に20%混入）

SP8060土層注記

1　10YR2/2黒褐色砂質シルト
2　10YR2/1黒色シルト（黄褐色シルト斑に10%混入）
3　10YR2/1黒色シルト（2層に5%混入）

SP8143土層注記

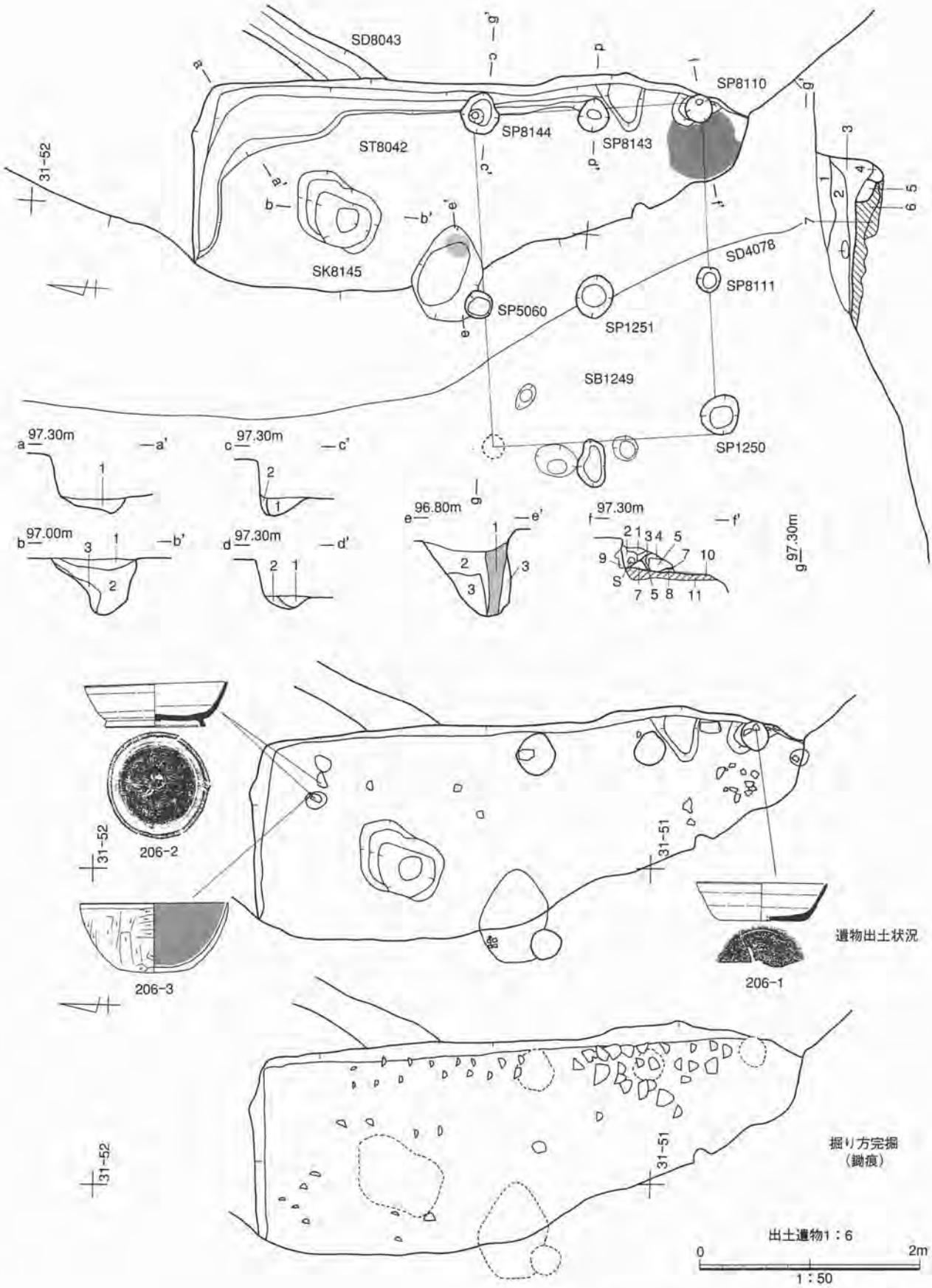
1　10YR3/3暗褐色シルト（10YR5/3にぶい黄褐色シルト20%・10YR5/2灰黄褐色シルト10%斑に混入）
2　10YR3/3暗褐色シルト（10YR4/4褐色シルト斑に20%混入）

SP8144土層注記

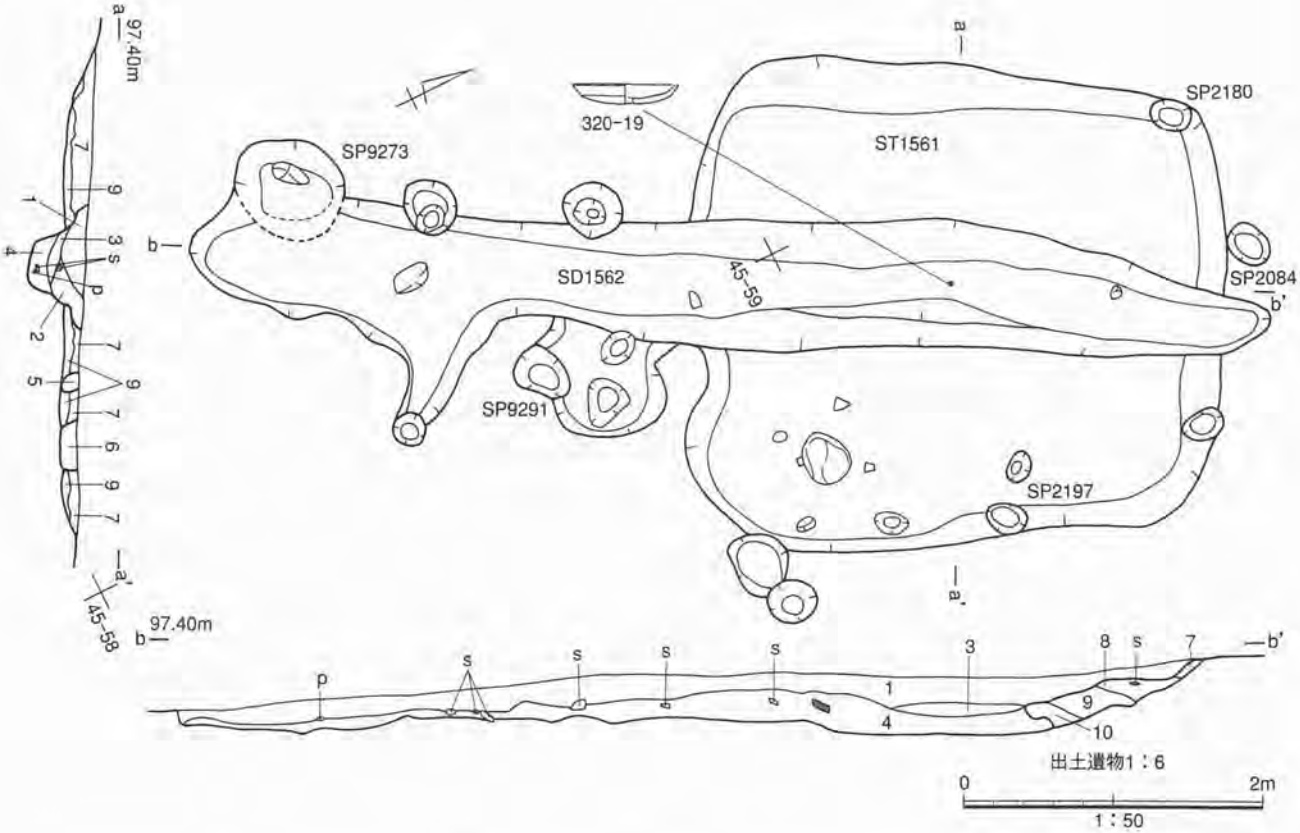
1　10YR3/3暗褐色シルト（10YR4/4褐色シルト斑に10%混入）
2　10YR3/3暗褐色シルト（10YR4/4褐色シルト斑に20%混入）

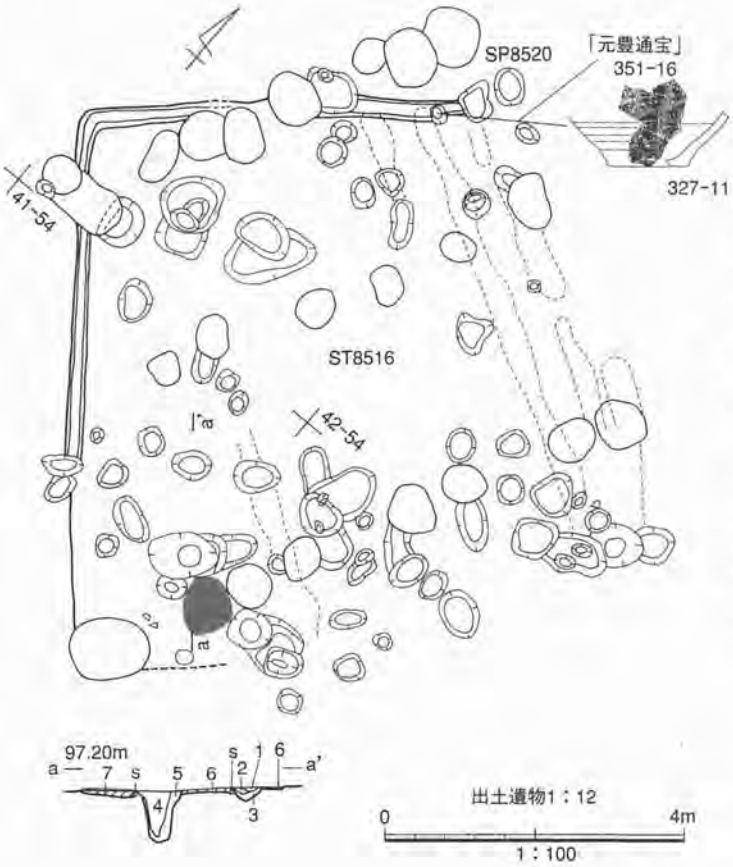
SP8145土層注記

1　10YR3/2黒褐色シルト
2　10YR4/2灰黄褐色シルト（10YR5/4にぶい黄褐色シルト10%混入）
3　10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルト



第98図　遺構実測図—ST8042・SB1249—





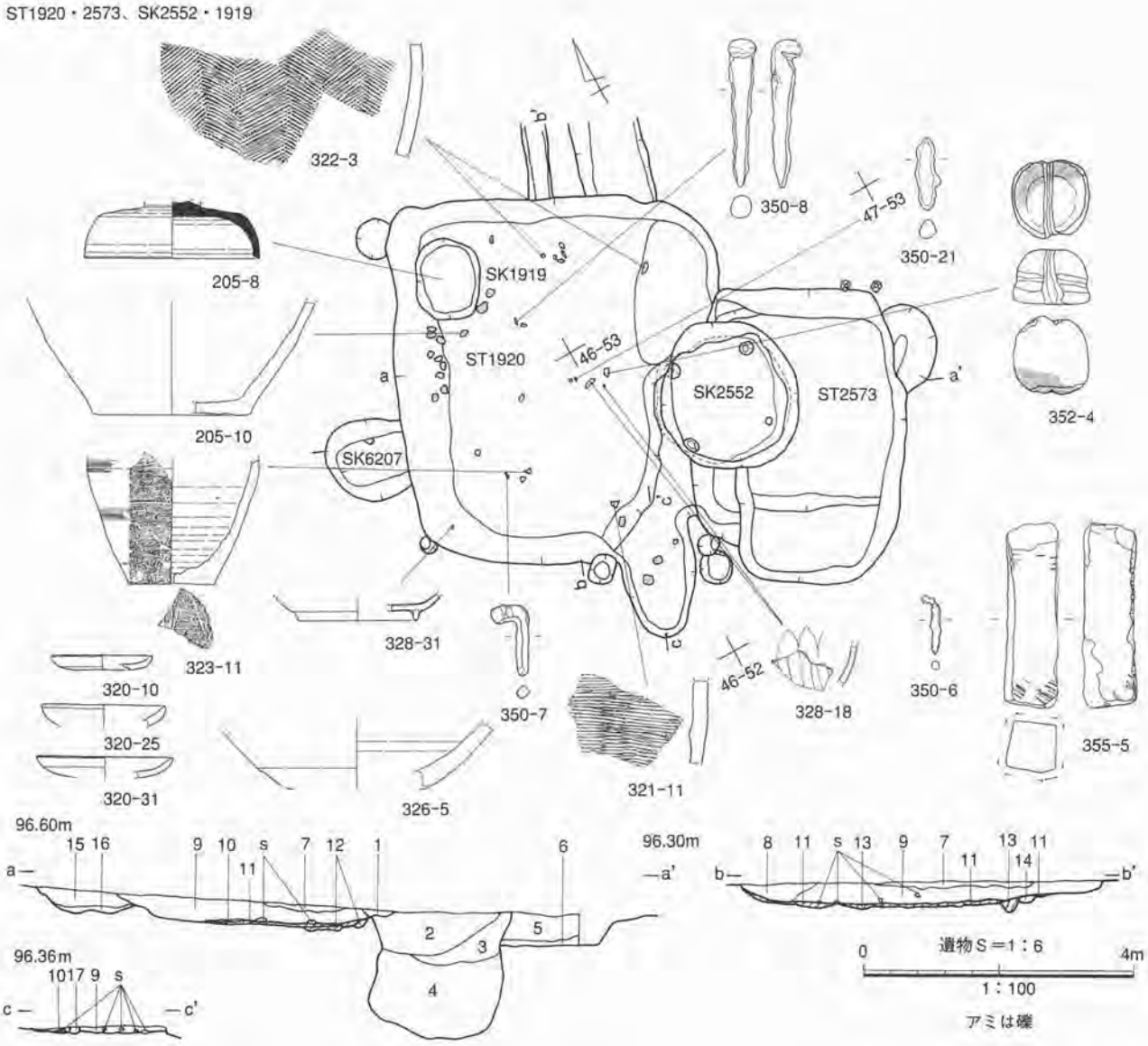
ST1561・SD1562土層注記

1　10YR3/2黒褐色シルト（砂粒3cm大・小石2cm大斑に混入）
2　10YR4/2灰黄褐色シルト（10YR5/2灰黄褐色シルト斑に20%混入）
3　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト（礫0.2～0.3cm大・小石2cm大混入）
4　10YR4/2灰黄褐色シルト（土器片・小石3cm大混入）
5　10YR4/2灰黄褐色シルト（小石2～3cm大斑に混入）
6　10YR3/2黒褐色シルト
7　10YR5/2灰黄褐色シルト（10YR4/2灰黄褐色シルト斑に50%混入）
8　10YR3/2黒褐色シルト（小石混入）
9　10YR5/2灰黄褐色シルト（小石3cm大混入）
10　10YR4/2灰黄褐色シルト

ST8516土層注記

1　10YR2/2黒褐色粘質シルト（しっとりしている、黒褐色砂5%混入）
2　10YR5/6黄褐色砂質シルト（粘性あり、細砂3%混入）
3　10YR3/3暗褐色砂質シルト（粘性あり、10YR5/6黄褐色粘質シルト地山20%混入）
4　10YR3/3暗褐色砂質シルト（ほぼ均質）
5　10YR3/3暗褐色砂質シルト（もろい、地山30%混入）
6　10YR2/1黒色粘質シルト（地山20%・炭化粒0.1cm大1%混入）貼床
7　10YR2/1黒色粘質シルト（6層に類似、やや赤味を帯びる、7.5YR4/4褐色シルト粒0.3cm大1%・炭化粒0.1cm大1%混入）貼床・被熱痕あり

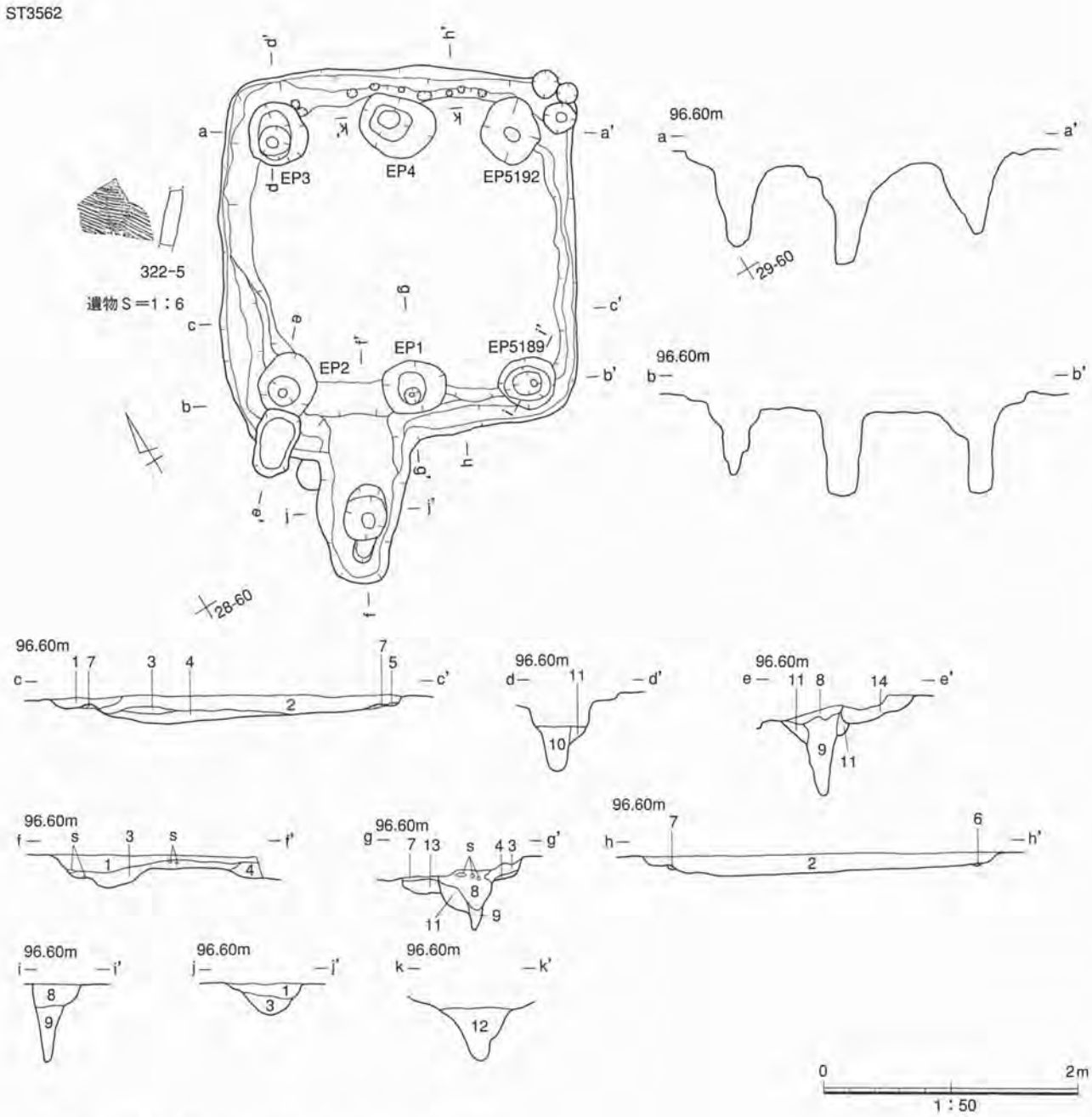
第99図　遺構実測図―ST1561・8516、SD1562―



ST1920・2573、SK2552・1919土層注記

1　10YR3/3暗褐色シルト（地山を斑に炭化粒を若干含む）SD2553覆土
2　10YR3/3暗褐色シルト（地山を斑に含み、河原石を含みしまる）
3　10YR5/6黄褐色細砂（2層・小礫を若干含みやわらかい）
4　10YR3/2黒褐色シルト（2層と同質、3層をブロックまたは斑に含み、河原石を含みしまる）
5　10YR3/4暗褐色シルト（10YR8/6黄橙色シルト砂・地山を斑に含み、硬くしまる）貼床状
6　10YR3/4暗褐色粘土質シルト（単層、微砂を含みやわらかい）
7　2層と10YR3/4暗褐色細砂の混合土（しまる）
8　10YR2/2黒褐色シルト（2層と同質、地山塊を斑状に多く含みしまる）
9　10YR2/2黒褐色シルト（単層純粋層、砂を全体に含み、遺物を多く含みしまる）
10　10YR3/3暗褐色シルト（一部床面直上に炭化物を多く含む）
11　10YR6/4にぶい黄橙色シルト（9層を縞上・点状に含みしまる）貼床
12　10YR6/6明黄褐色シルト（11層と同質、11層より9層が少なく色調明るい、全体に汚れている）貼床
13　10YR6/4にぶい黄橙色（9層を塊・粒で多く含み汚れている）貼床状
14　10YR4/2灰黄褐色シルト（地山が汚れていて硬い）風倒木痕跡
15　10YR2/2黒褐色シルト（地山粒を点状に含みしまる）SK6207F1
16　10YR4/3にぶい黄褐色（汚れていてしまる）SK6207F2
17　10YR3/3暗褐色シルト（地山を斑に含み、砂を含みしまる）
18　10YR3/4暗褐色シルト（中世の砂を斑状に多く、9層と地山塊を斑に含みややしまる）

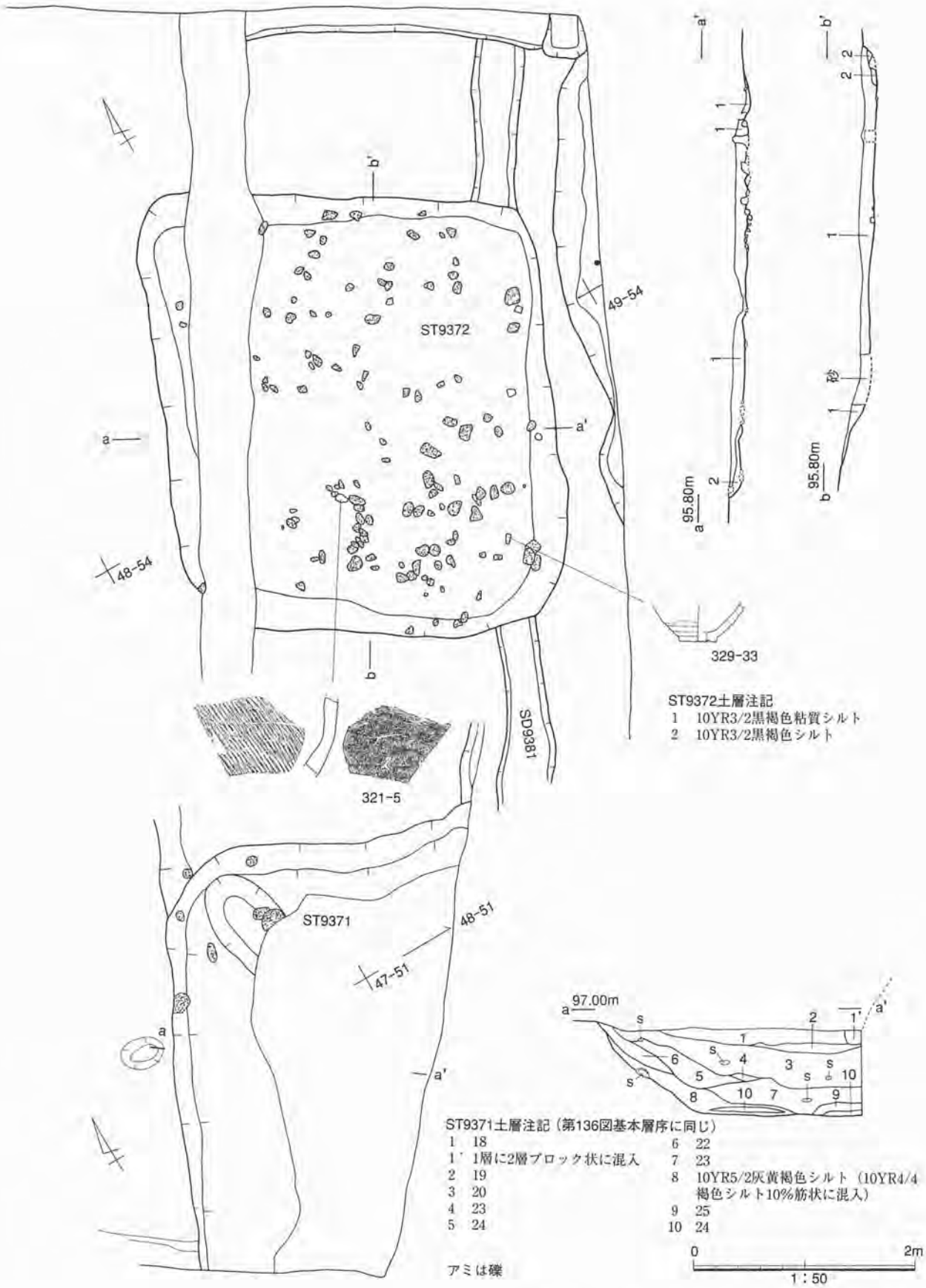
第100図　遺構実測図―ST1920・2573、SK2552・1919―



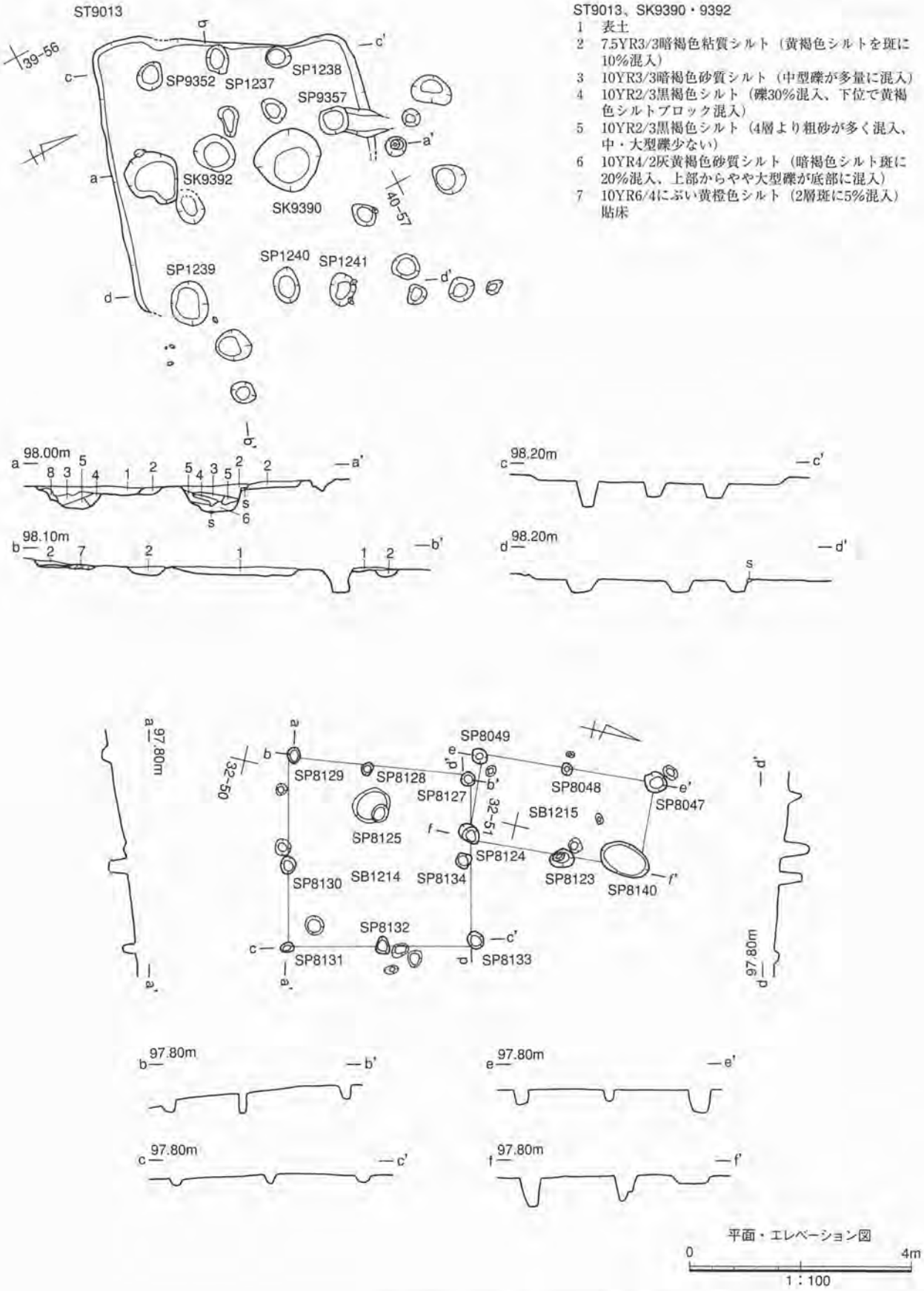
ST3562土層注記

1　10YR2/1黒色粘土質シルト（地山斑に多く含みしまる）
2　10YR2/1黒色粘土質シルト（地山塊・粒微量含みしまる）
3　10YR2/1黒色粘土質シルト（地山粒微量含みしまる）
4　10YR2/3黒褐色微砂（やや粘質、炭化粒を微量含みしまる）
5　10YR2/3粘土質シルト（粘質で単層、地山粒を微量に含む）溝覆土
6　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（単層、ぼそぼそしてやわらかい）柱穴覆土
7　10YR5/3にぶい黄褐色シルト（2層を縞状に含み汚れている）
8　10YR3/1黒褐色シルト（地山塊・粒多く含み、12層を塊で含み粘質で硬くしまる）
9　10YR4/1褐灰色シルト（8層・地山を含みしまる）
10　10YR2/2黒褐色シルト（単層）
11　10YR2/2黒褐色シルト（7層を多く含みやわらかい）
12　10YR3/2黒褐色砂（8層を多く、地山を微量含み硬くしまる）

第101図　遺構実測図―ST3562―



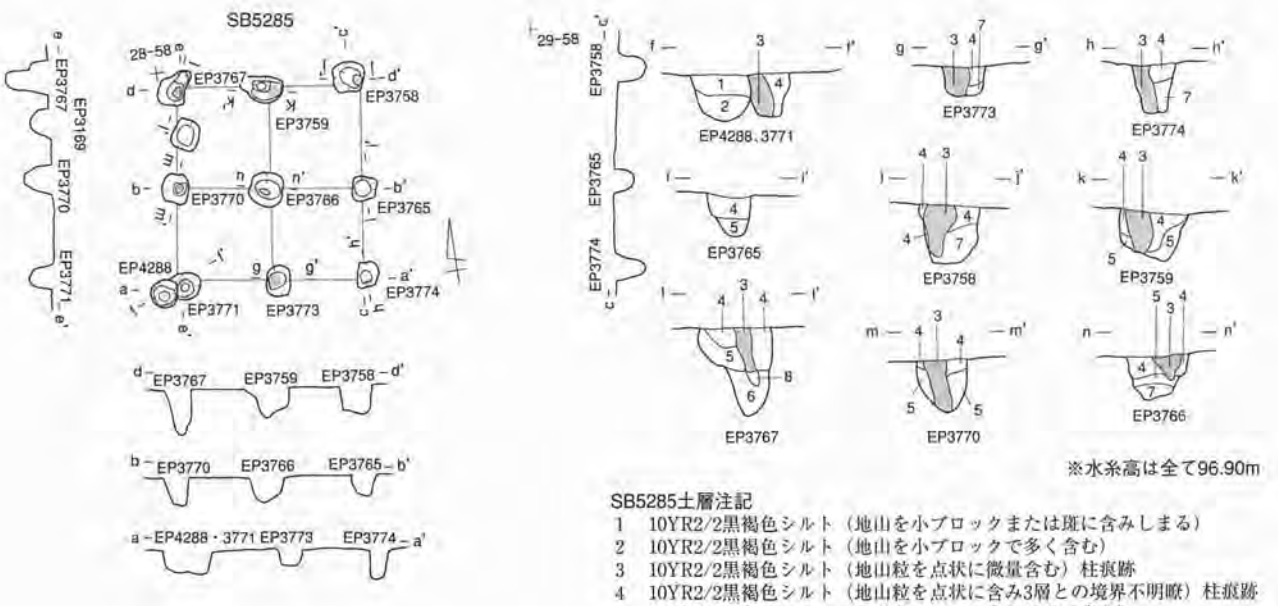
第102図　遺構実測図—ST9371・9372—



ST9013、SK9390・9392

1　表土
2　7.5YR3/3暗褐色粘質シルト（黄褐色シルトを斑に10%混入）
3　10YR3/3暗褐色砂質シルト（中型礫が多量に混入）
4　10YR2/3黒褐色シルト（礫30%混入、下位で黄褐色シルトブロック混入）
5　10YR2/3黒褐色シルト（4層より粗砂が多く混入、中・大型礫少ない）
6　10YR4/2灰黄褐色砂質シルト（暗褐色シルト斑に20%混入、上部からやや大型礫が底部に混入）
7　10YR6/4にぶい黄橙色シルト（2層斑に5%混入）
貼床

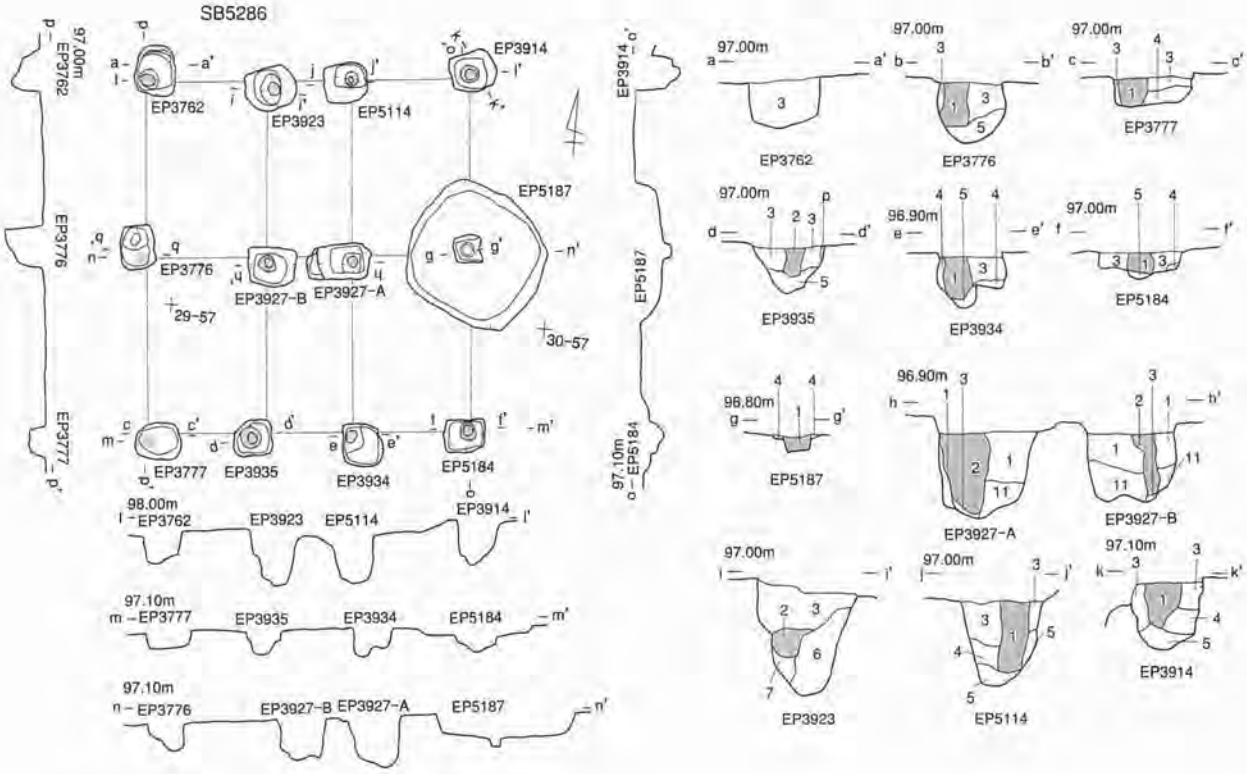
第103図　遺構実測図―ST9013、SB1214・1215―



※水糸高は全て96.90m

SB5285土層注記

1　10YR2/2黒褐色シルト（地山を小ブロックまたは斑に含みしまる）
2　10YR2/2黒褐色シルト（地山を小ブロックで多く含む）
3　10YR2/2黒褐色シルト（地山粒を点状に微量含む）柱痕跡
4　10YR2/2黒褐色シルト（地山粒を点状に含み3層との境界不明瞭）柱痕跡
5　10YR2/2黒褐色シルト（地山をブロックまたは斑に含む）
6　10YR2/2黒褐色シルト（地山粒を点状に微量含み粘質でしまる）
7　10YR3/3暗褐色シルト（3層を斑点状に含みやわらかい）
8　10YR2/2黒褐色シルト（硬くしまる）



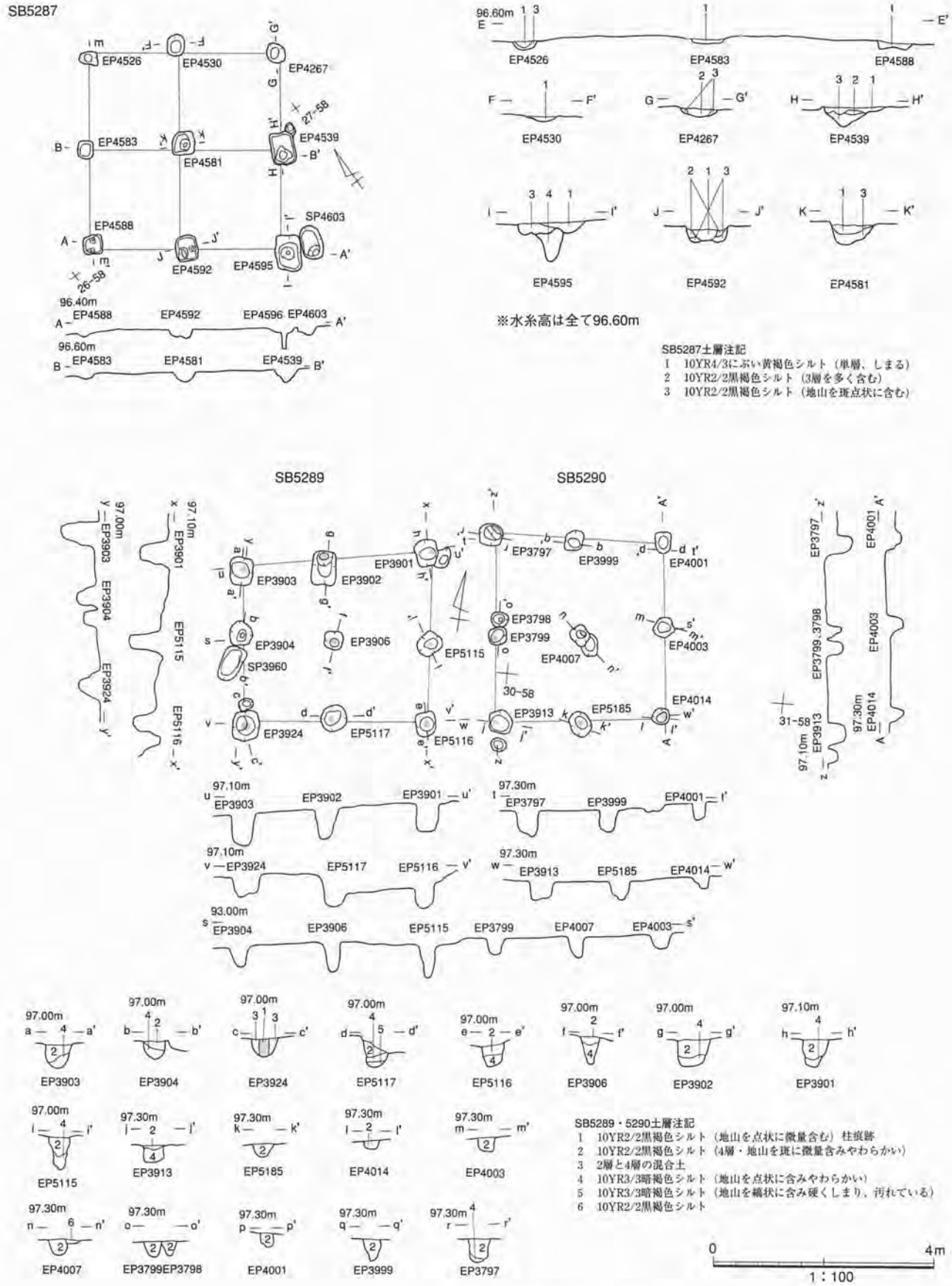
SB5286土層注記

1　10YR2/2黒褐色シルト（地山を点状に含む）柱痕跡
2　10YR2/2黒褐色シルト（単層）柱痕跡
3　10YR2/2黒褐色シルト（1層と同質、地山を大ブロックまたは斑に含む）
4　10YR3/3暗褐色シルト（地山を大ブロックに含む）
5　10YR2/2黒褐色シルト（地山を薄く縞状に含みしまる）
6　10YR2/2黒褐色シルト（2層と同質、1層斑状・礫を含む）
7　10YR2/2黒褐色シルト（2層と同質、礫を含む）

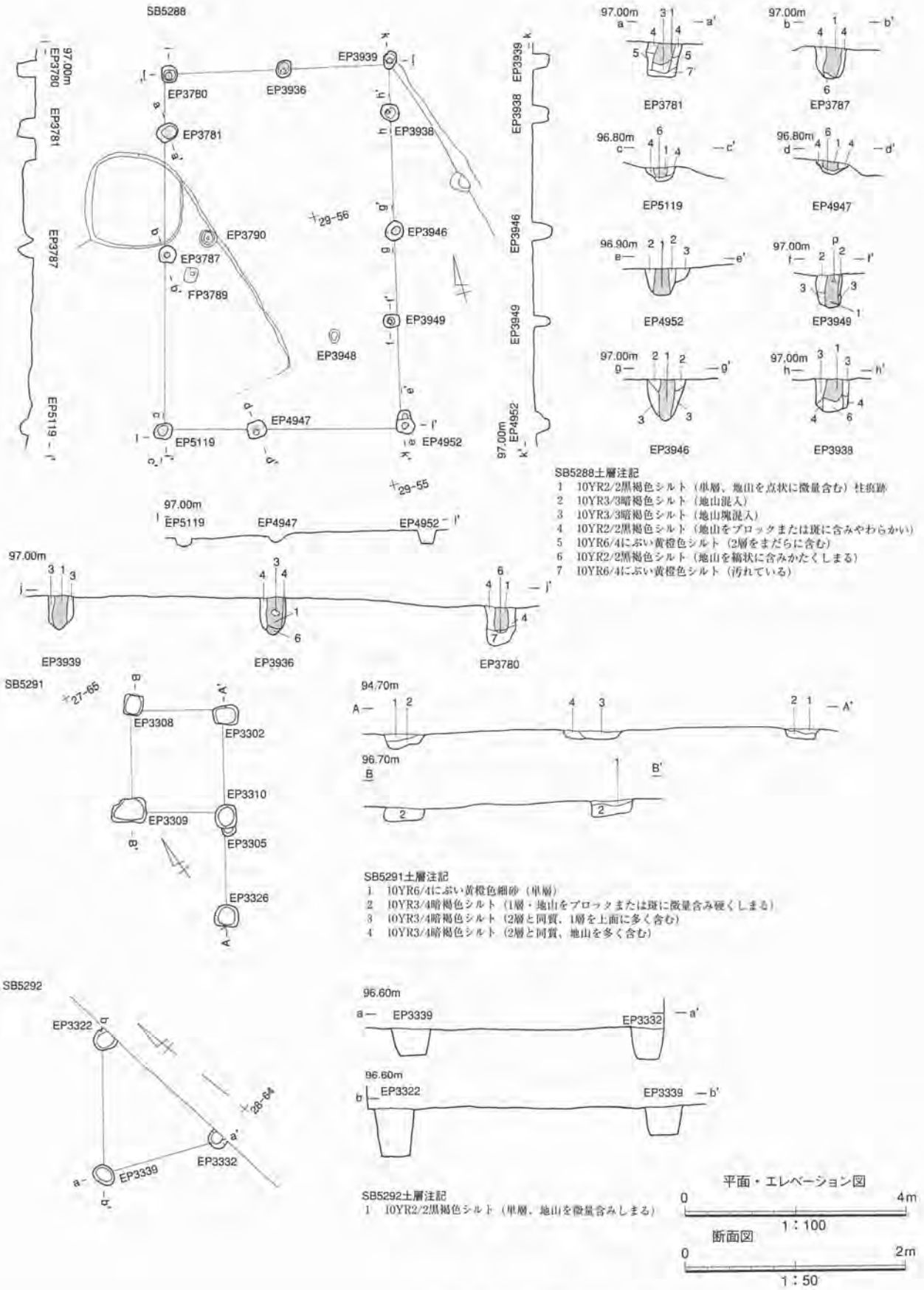
平面・エレベーション図　0　4m　1：100

断面図　0　2m　1：50

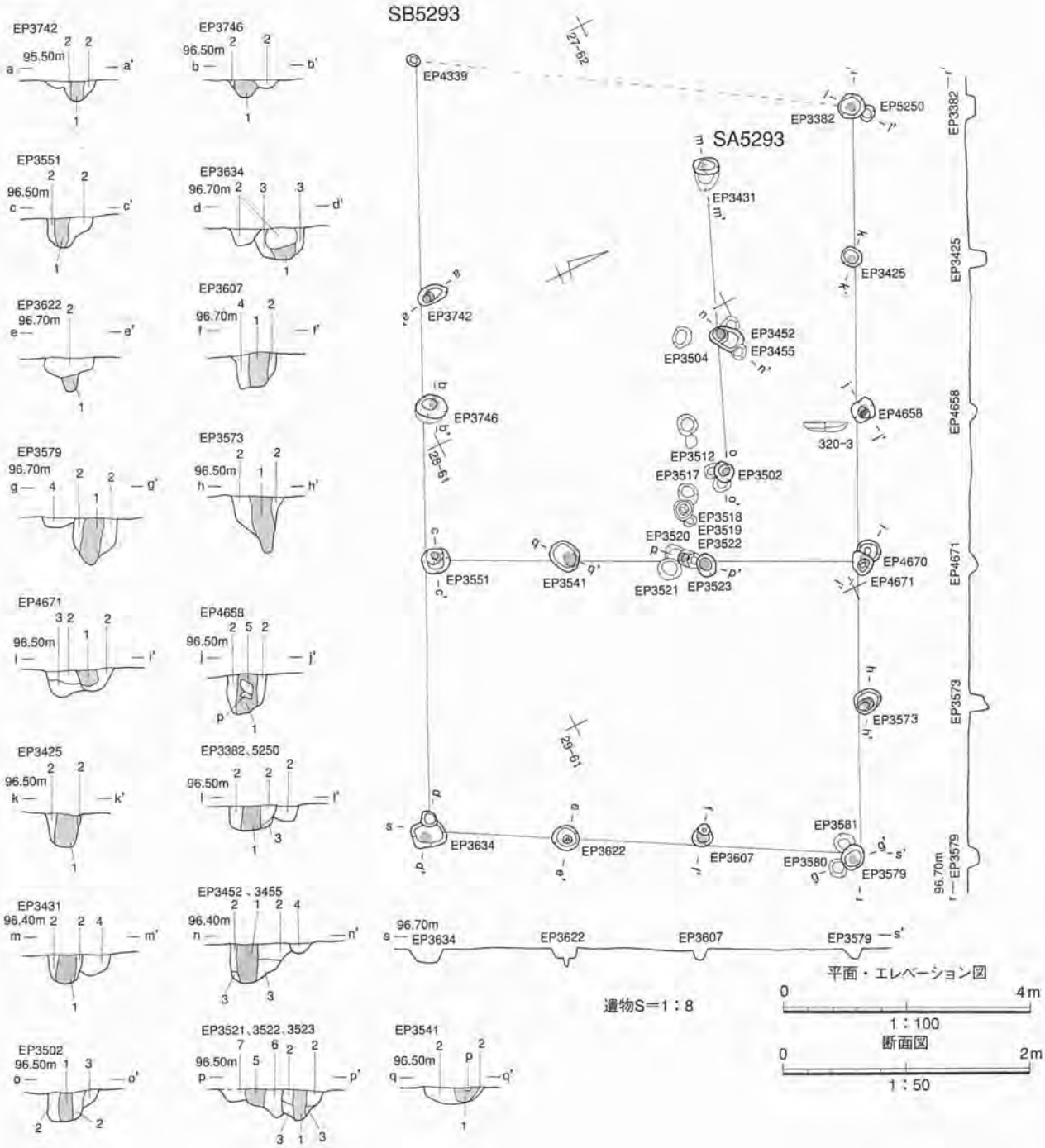
第104図　遺構実測図―SB5285・5286―



第105図　遺構実測図—SB5287・5289・5290—



第106図　遺構実測図—SB5288・5291・5292—



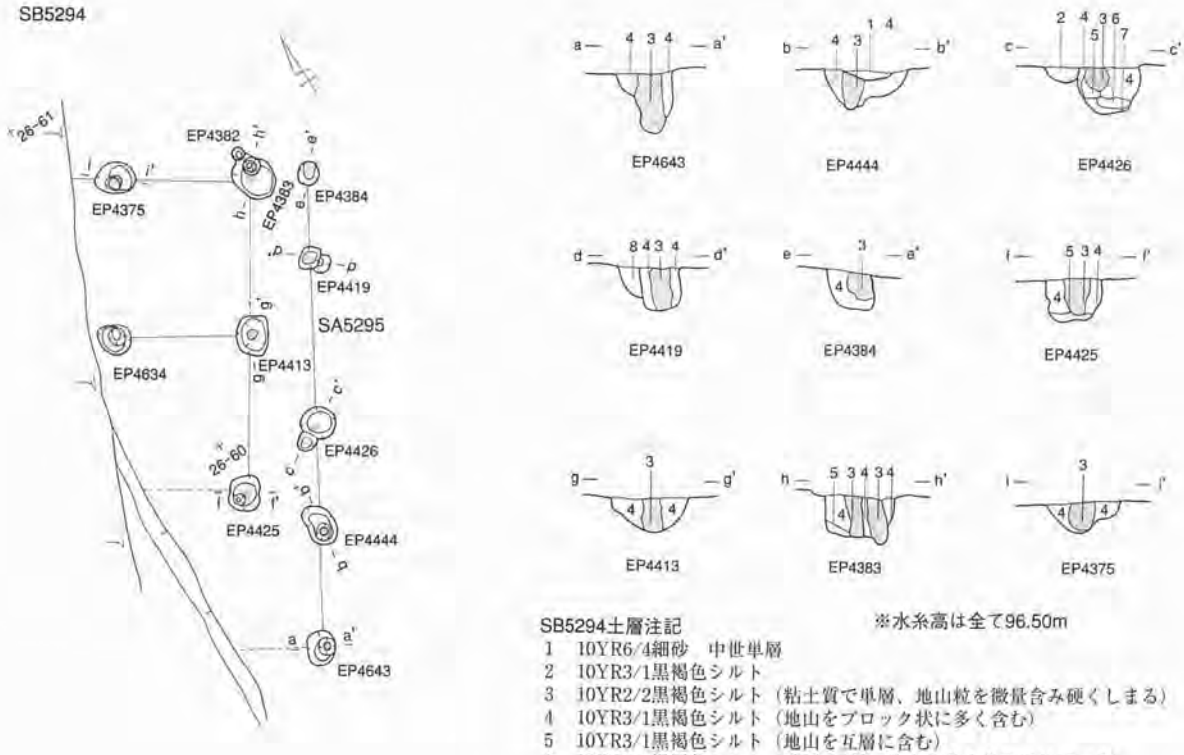
SB5293土層注記

1　10YR4/3にぶい黄褐色細砂（地山粒を含む）柱痕跡
2　10YR2/2黒褐色シルト（地山塊・ブロック斑または縞状に含み硬くしまる）
3　10YR2/2黒褐色シルト（汚れている）
4　10YR2/2黒褐色シルト
5　10YR2/1黒色シルト　柱痕跡
6　10YR2/2黒褐色シルト　埋土
7　10YR2/1黒色シルト（単層）

SA5293土層注記

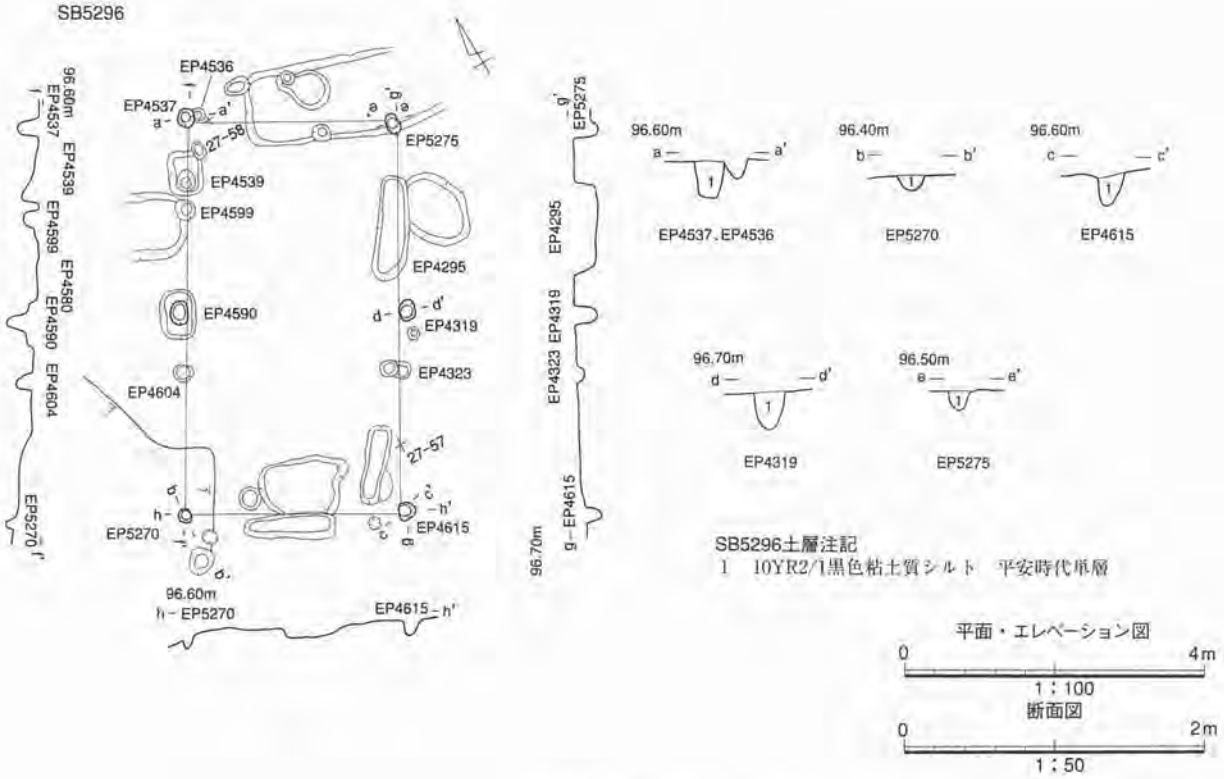
1　10YR2/1黒色粘土質シルト（黒粘土単層、硬くしまる）柱痕跡
2　10YR2/2黒褐色シルト（地山塊・ブロック斑または縞状に含み硬くしまる）
3　10YR2/2黒褐色シルト（汚れている）
4　砂

第107図　遺構実測図―SB5293・SA5293―

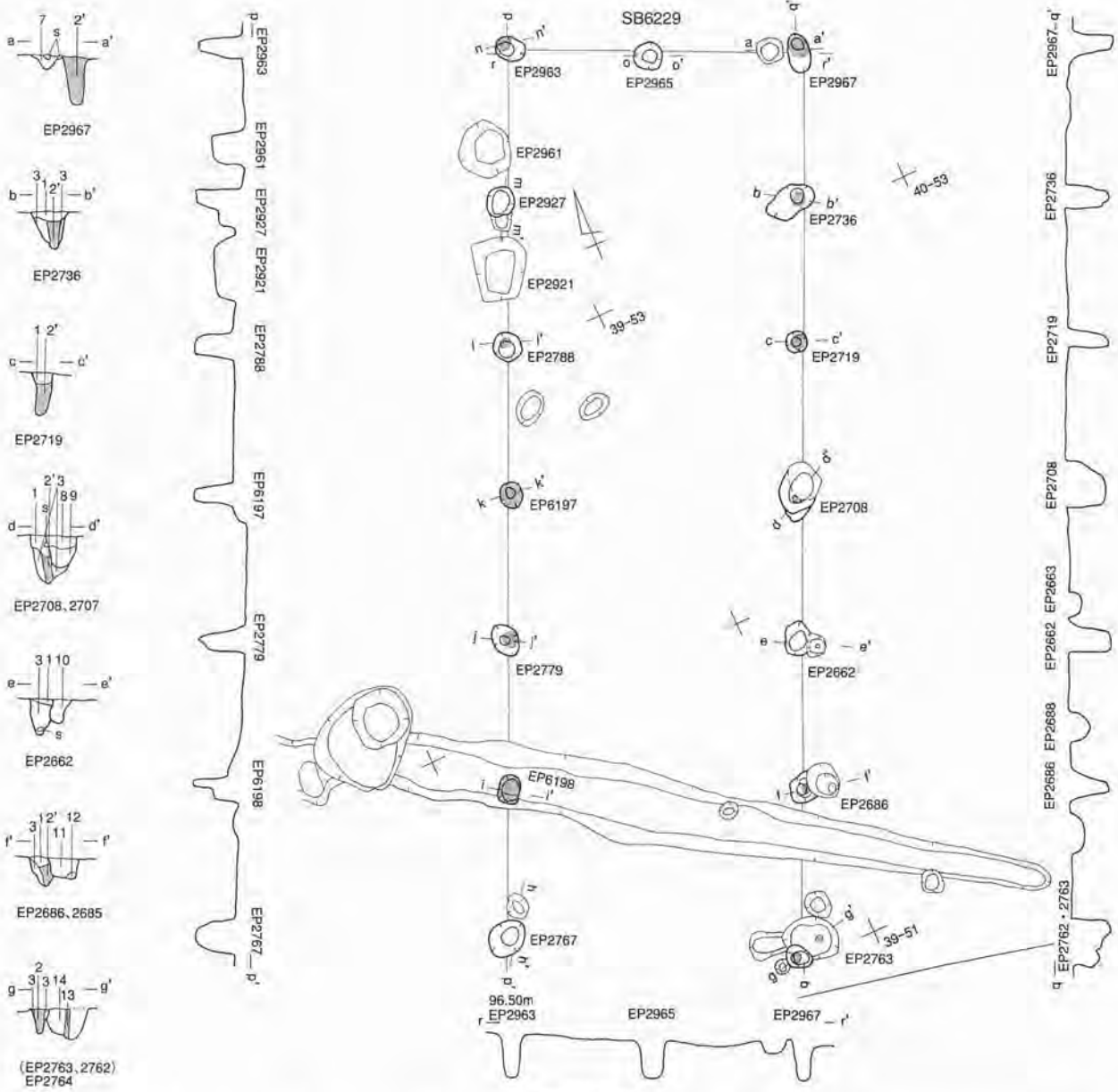


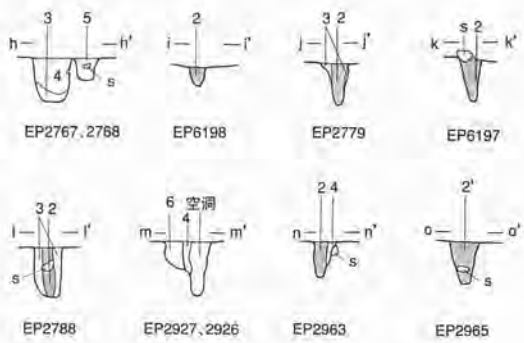
SB5294土層注記　　※水糸高は全て96.50m

1　10YR6/4細砂　中世単層
2　10YR3/1黒褐色シルト
3　10YR2/2黒褐色シルト（粘土質で単層、地山粒を微量含み硬くしまる）
4　10YR3/1黒褐色シルト（地山をブロック状に多く含む）
5　10YR3/1黒褐色シルト（地山を互層に含む）
6　10YR4/1褐灰色シルト（4層と同質、地山を多く含み汚れている）
7　10YR4/1褐灰色シルト（6層より地山の混入が少なく汚れている）
8　10YR2/2黒褐色シルト



第108図　遺構実測図―SB5294・5296、SA5295―





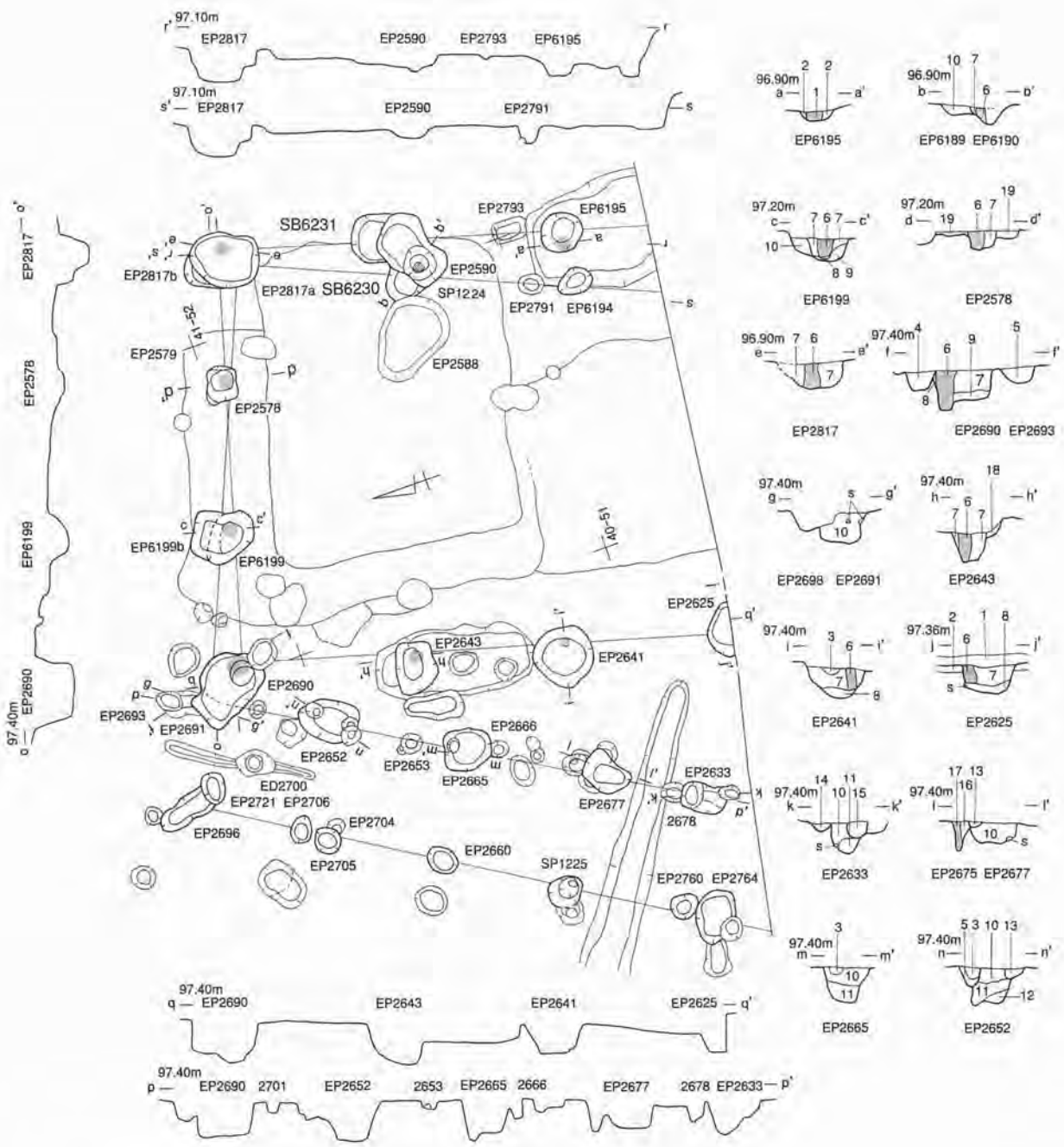
※水糸高は全て97.50m

SB6229土層注記

1　10YR3/3暗褐色シルト（炭化物を多く含む）
2　10YR3/3暗褐色微砂（地山粒・炭化粒微量含みやわらかい）柱痕跡
2'　10YR3/3暗褐色微砂（2層と同質、炭化物を多く地山粒を若干含み、やわらかい）柱痕跡
3　10YR4/3にぶい黄褐色細砂（地山塊を斑状に含み、汚れていてやわらかい）
4　10YR3/3暗褐色細砂（小礫を含みぼそぼそする）
5　10YR3/3暗褐色シルト（地山を斑に含む）
6　10YR4/3にぶい黄褐色細砂
7　10YR4/3にぶい黄褐色細砂（小礫含む）
8　10YR3/2黒褐色微砂（単層、地山粒微量に含む）
9　10YR3/3暗褐色細砂（汚れていてやわらかい）
10　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（単層）
11　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（地山縞状または塊で含み、上層に炭化層あり）
12　10YR3/3暗褐色シルト（単層）
13　10YR3/3暗褐色シルト（地山を点状に微量、砂少量含む）柱痕跡
14　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（地山斑に多く含み、砂少量含む）

0　4m
1：100

第109図　遺構実測図—SB6229—

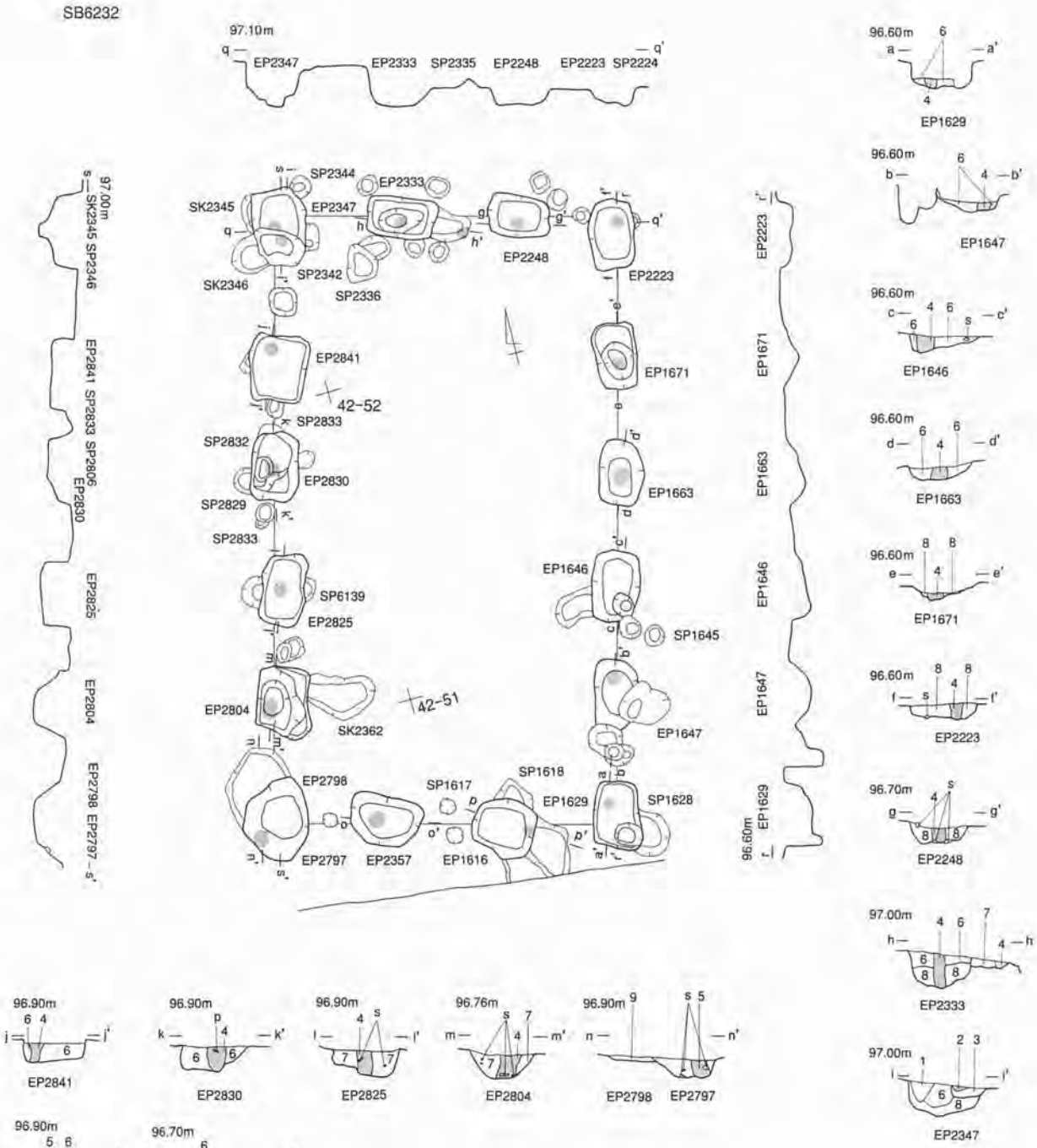


SB6230・6231土層注記

1 10YR3/3暗褐色シルト　耕作土
2 10YR6/6明黄褐色シルト　地山
3 10YR3/3暗褐色シルト（地山粒を多量に含む）
4 10YR3/3暗褐色シルト（地山粒を含む）
5 10YR3/3暗褐色シルト（地山粒・砂を含む）
6 10YR3/2黒褐色シルト（単層，地山粒・焼土粒を微量含む）柱痕跡
7 10YR3/3暗褐色シルト（砂・礫を含み、地山粒を微量含む）
8 10YR3/3暗褐色シルト（地山を縞状に含む、押し土）
9 10YR3/3暗褐色シルト（やや粘質、礫・地山塊を含む）
10 10YR3/3暗褐色シルト（地山を斑状に多く含む）
11 10YR3/3暗褐色シルト（10層より混入物少ない）
12 10YR3/2黒褐色細砂（汚れてぼそぼそする）
13 10YR3/2黒褐色シルト
14 10YR3/2黒褐色シルト（地山斑に含む）
15 10YR3/2黒褐色シルト（地山含む）
16 10YR3/2黒褐色シルト（地山・砂斑に含む）
17 10YR3/2黒褐色シルト（砂斑に含みやわらかい）
18 10YR3/2黒褐色シルト（地山粒含む）
19 10YR3/2黒褐色シルト（地山含みしまる）

0　4m
1：100

第110図　遺構実測図—SB6230・6231—

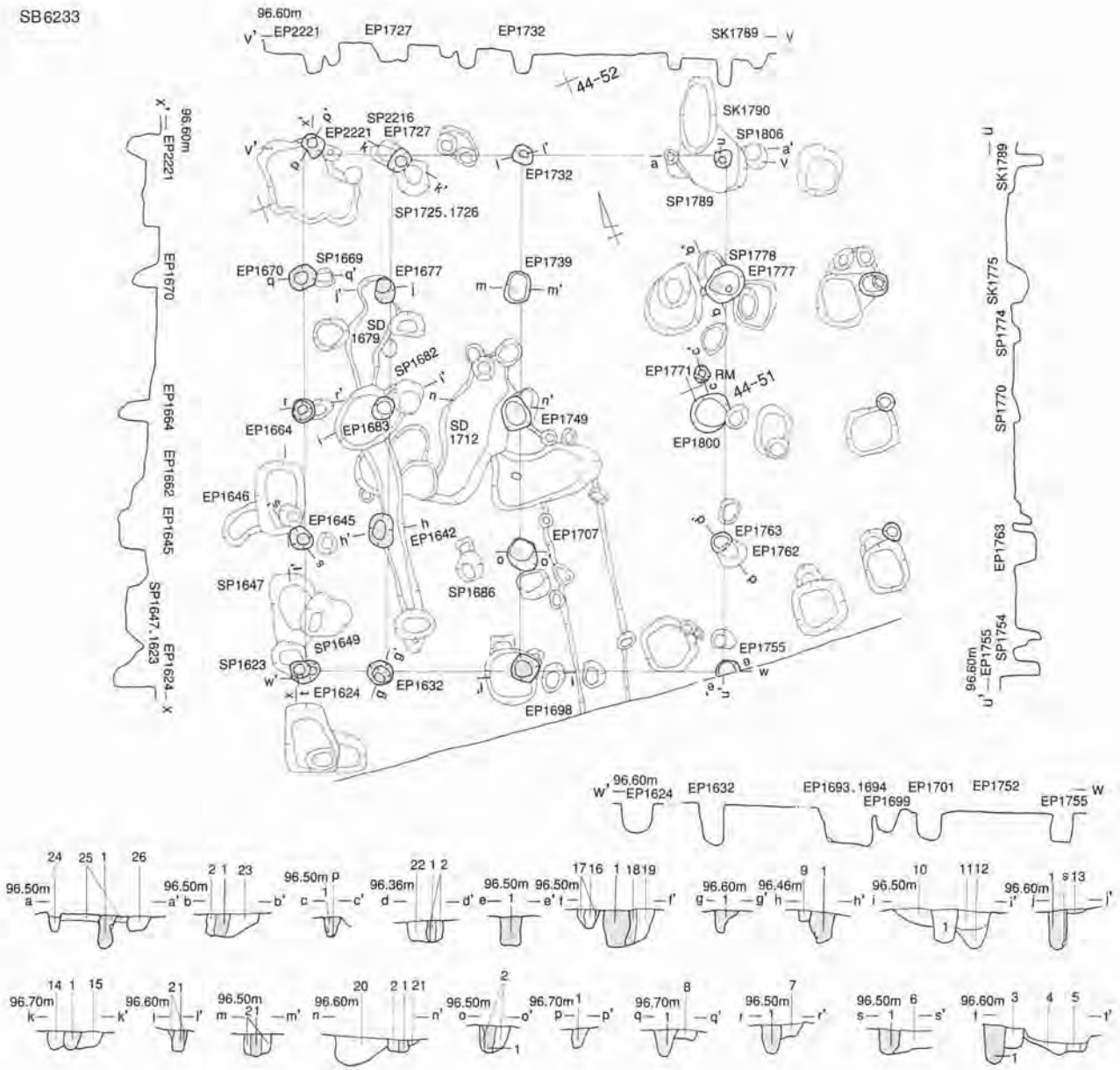


SB6232土層注記

1　10YR3/3暗褐色シルト（地山塊を若干含む）SK2345
2　10YR3/3暗褐色シルト（単層）SP2340柱痕跡
3　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（地山を縞状または粒で多く含む）SP2340
4　10YR2/2黒褐色粘土質シルト（単層、地山塊を微量含みしまる）柱痕跡
5　10YR2/2黒褐色粘土質シルト（地山塊を微量、粗砂・礫を含み、ぼろぼろする）柱痕跡
6　10YR3/3暗褐色シルト（地山を斑状または縞状に多く含みしまる）
7　10YR3/3暗褐色シルト（粗砂・礫を多く含み、地山塊を少量含む）
8　10YR4/3にぶい黄褐色微砂（細砂を含み、地山塊を斑状または縞状に多く含む）
9　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（6層と地山の混合土）

0　4m
1：100

第111図　遺構実測図―SB6232―

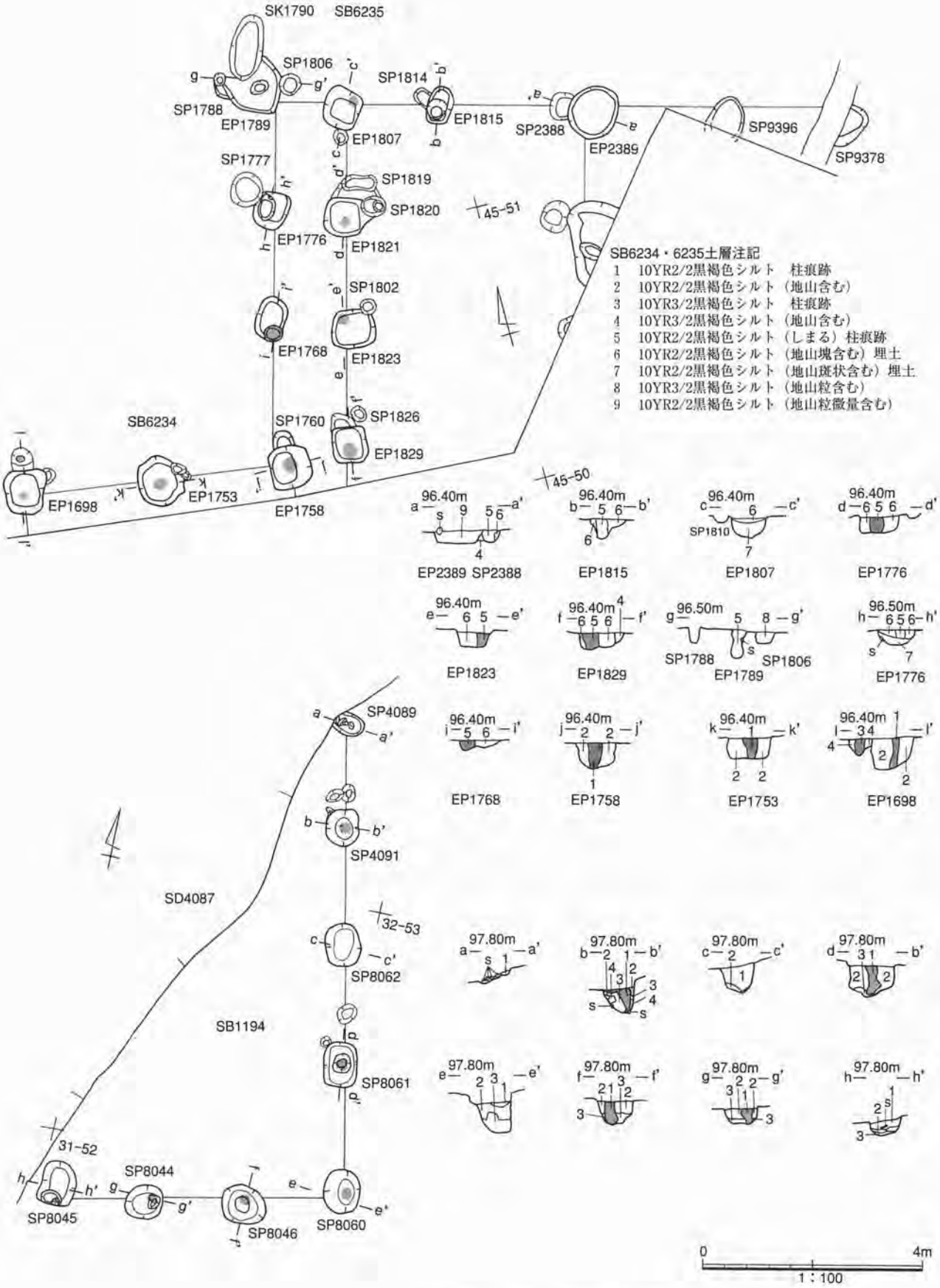


SB6233土層注記

1　10YR2/2黒褐色シルト（単層、炭化粒・地山粒・塊を微量に含む、ほそほそしてやわらかい）
1'　10YR2/2黒褐色シルト（1層と同質、砂を多く含む）
2　10Y3/2オリーブ黒色シルト（地山粒を微量に含む）埋土
3　10YR3/2黒褐色シルト（地山を斑または縞状に多く含む）
4　10YR3/3暗褐色シルト（地山を斑状または縞状に多く含みしまる）
5　10YR2/2黒褐色粘土質シルト（単層、地山塊を微量含みしまる）柱痕跡
6　10YR3/3暗褐色シルト（地山を斑状または縞状に多く含みしまる）
7　10YR2/2黒褐色シルト
8　10YR3/2黒褐色シルト（地山を多く含む）
9　10YR2/2黒褐色シルト（地山粒を微量に含む）
10　10YR4/1褐灰色粘土質シルト（単層、地山粒を微量に含む）
11　10YR3/2黒褐色シルト（地山粒を含む）
12　10YR3/2黒褐色シルト（砂を多く含む）
13　10YR2/2黒褐色シルト（地山粒含む）
14　10YR3/2黒褐色シルト（地山塊多い）
15　10YR3/2黒褐色シルト（地山塊含む）
16　10YR3/2黒褐色シルト（砂を含む）
17　10YR2/2黒褐色シルト（地山含む）
18　10YR3/2黒褐色シルト（地山塊含みしまる）
19　10YR3/2黒褐色シルト（地山塊含みやわらかい）
20　10YR2/2黒褐色シルト（地山粒微量含む）
21　10YR2/2黒褐色シルト（地山粒微量含む）
22　10YR2/2黒褐色シルト（地山塊微量含む）
23　10YR3/2黒褐色シルト（地山をブロックまたは縞状に多く含む）
24　10YR3/2黒褐色シルト
25　10YR3/2黒褐色シルト（地山粒多く含む）
26　10YR2/2黒褐色シルト（地山斑に含みしまる）

0　4m
1：100

第112図　遺構実測図—SB6233—



第113図　遺構実測図—SB1194・6234・6235—

掘立柱建物

SP4091土層注記

1　10YR3/3暗褐色シルト（10YR4/3にぶい黄褐色シルト粒斑に10%混入）
2　10YR3/2黒褐色シルト（10YR5/4にぶい黄褐色シルト粒斑に10%混入）
3　10YR3/3暗褐色シルト（10YR4/4褐色シルト粒斑に10%混入）
4　10YR3/4暗褐色シルト

SP4089土層注記

1　10YR3/2黒褐色シルト（10YR4/2灰黄褐色シルト2%混入）

SP8062土層注記

1　10YR3/2黒褐色シルト（砂質シルト塊3cm大30%混入）
2　10YR5/3にぶい黄褐色シルト（10YR3/2黒褐色シルト斑に10%混入）

SP8061土層注記

1　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（下位に砂塊4cm大混入）
2　10YR3/2黒褐色シルト（砂塊3cm大混入）
3　10YR2/2黒褐色シルト

SP8060土層注記

1　10YR4/2灰黄褐色シルト（10YR4/4褐色砂質シルト5%混入）
2　10YR4/2灰黄褐色シルト（10YR4/4褐色シルト斑に40%混入）
3　10YR2/3黒褐色シルト

SP8046土層注記

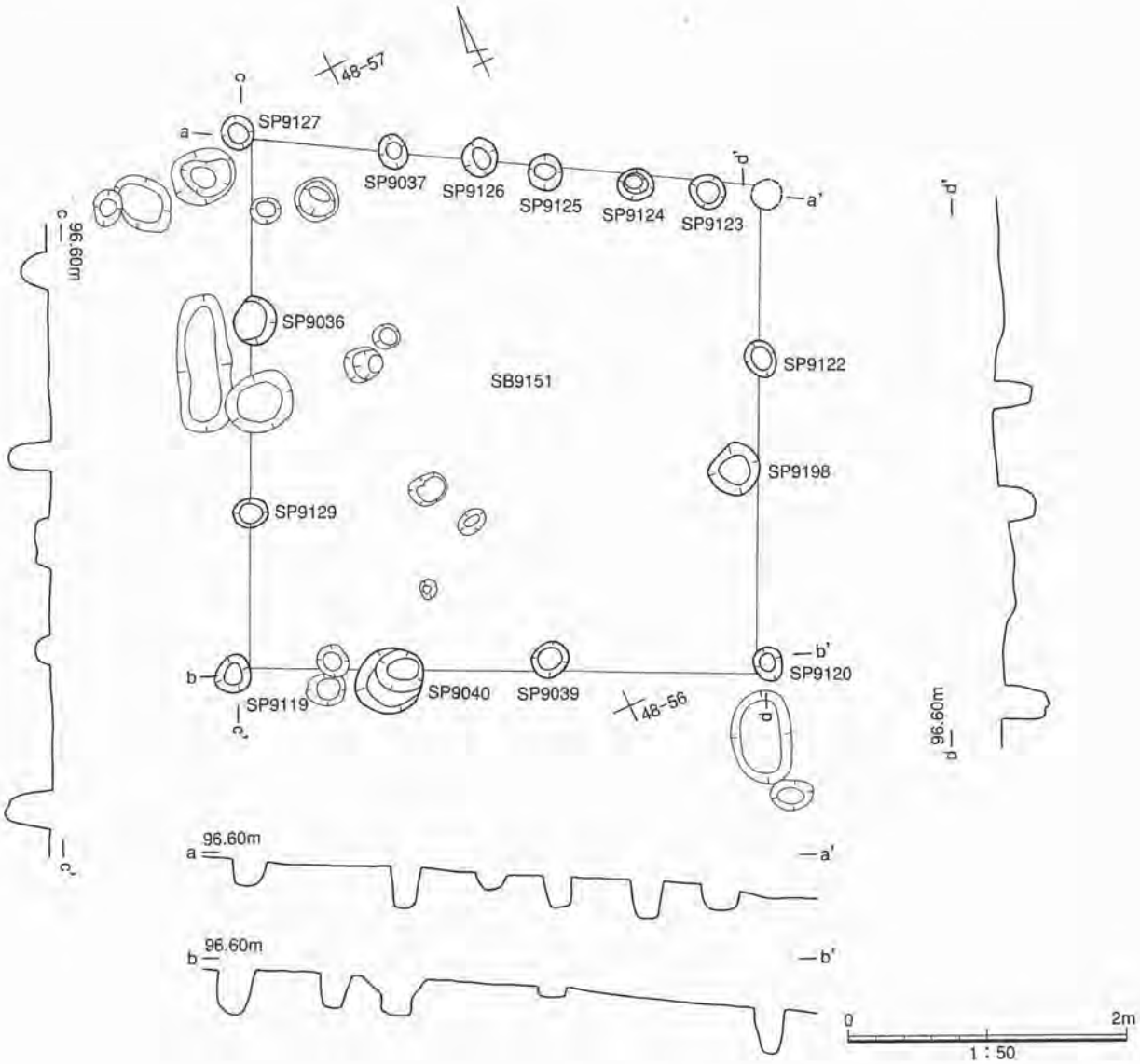
1　10YR6/2灰黄褐色シルト
2　10YR5/6黄褐色シルト（10YR5/2灰黄褐色シルト50%混入）
3　10YR5/3にぶい黄褐色シルト（10YR5/2灰黄褐色シルト斑に30%混入）

SP8044土層注記

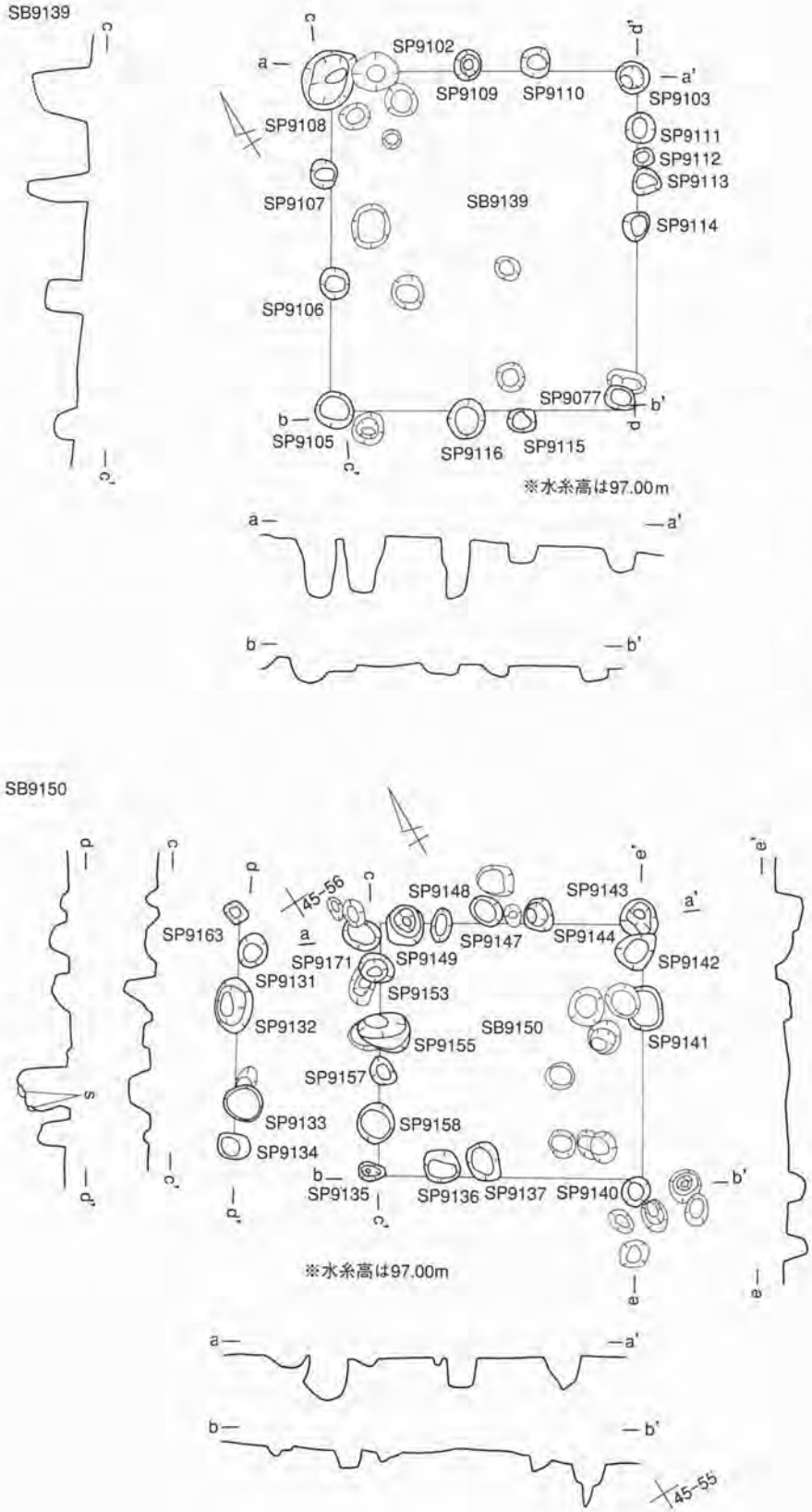
1　10YR5/2灰黄褐色シルト（10YR6/3にぶい黄橙色シルト斑に混入）
2　10YR3/2黒褐色シルト（10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト2cm大混入）
3　10YR4/2灰黄褐色砂質シルト

SP8045土層注記

1　10YR3/3暗褐色シルト（10YR5/3にぶい黄褐色シルト斑に10%混入）
2　10YR5/3にぶい黄褐色シルト（10YR4/3にぶい黄褐色シルト斑に5%混入）
3　10YR4/2灰黄褐色砂質シルト



第114図　遺構実測図―SB9151―



SB9139土層注記

SP9107

1　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（地山シルト斑状に混入）

SP9116

1　10YR2/2黒褐色砂質シルト（しまっている）

地山

10YR6/4にぶい黄橙色砂質シルト（10YR4/4褐色砂質シルト斑状10%混入、一部酸化している）

SB9150土層注記

SP9158

1　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト（地山斑状に10%混入）

SP9137

1　10YR3/2暗褐色砂質シルト（地山斑状に10%混入）

SP9136

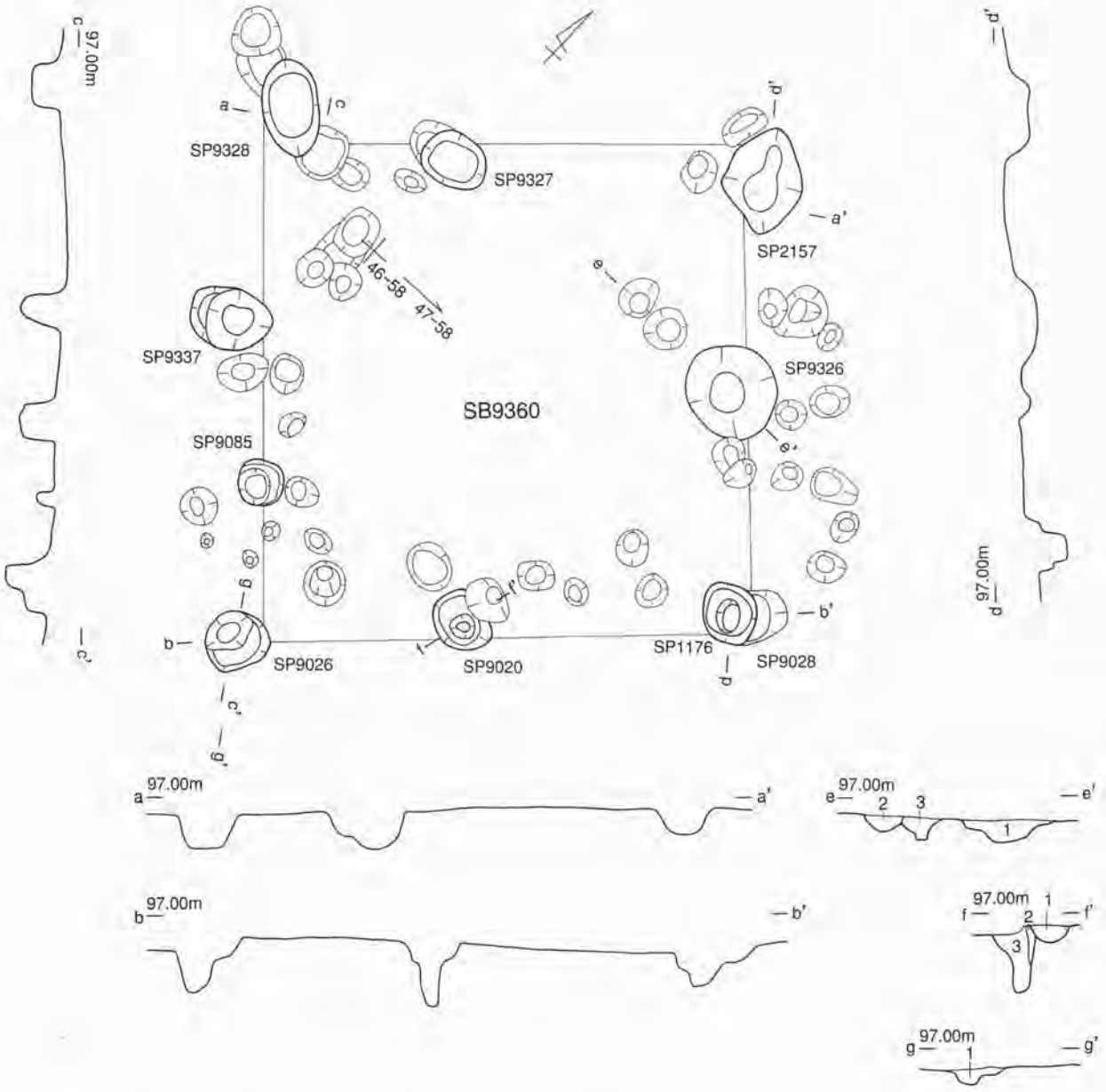
1　10YR2/2黒褐色砂質シルト（しまっている）

2　地山10YR6/4にぶい黄橙色砂質シルト（10YR4/4褐色砂質シルト斑状に10%混入、一部酸化している）

0　2m

1：50

第115図　遺構実測図—SB9139・9150—



SB9360土層注記

SP9328	10YR3/2黒褐色砂質シルト（地山シルト粒2%混入）
SP9025	10YR3/2黒褐色砂質シルト（地山シルト粒10%混入）
SP9026 g-g'	10YR3/2黒褐色砂質シルト（地山シルト粒5%混入）
SP9028	10YR2/2黒褐色砂質シルト（地山シルト斑に20%混入）
SP9326	10YR3/3黒褐色砂質シルト（地山シルトブロック5cm大10%混入）
SP2157	10YR2/3黒褐色砂質シルト（地山シルト粒5%混入）
SP9327	10YR2/3黒褐色砂質シルト（地山シルト斑に40%混入）地山土、10YR6/4にぶい黄橙色砂質シルト（10YR4/4褐色砂質シルト斑に10%混入、一部酸化している）

SP9020 f-f'

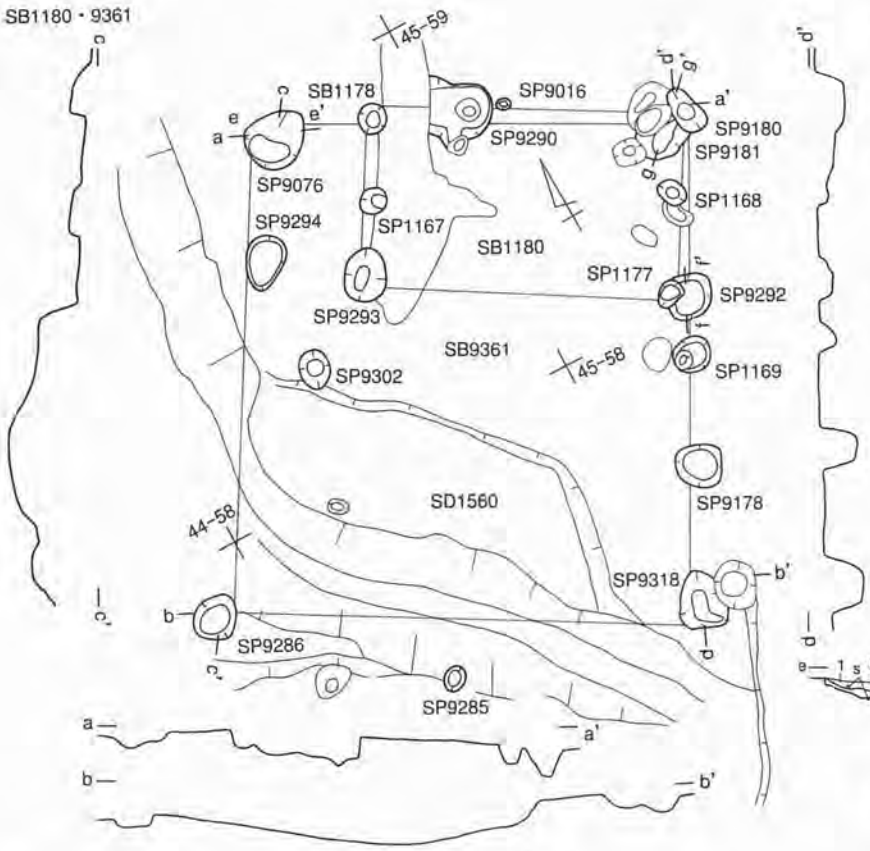
1 10YR3/2黒褐色シルト（黄褐色シルト斑状に50%・遺物片混入）
2 10YR2/3黒褐色シルト（黄褐色シルト下位に30%混入）
3 10YR3/2黒褐色粘質土（黄褐色シルト斑状に10%混入）

SP9326 e-e'

1 10YR3/3暗褐色シルト（黄褐色シルトブロック中央に斑状に40%混入）
2 10YR3/2黒褐色シルト（上位に黄褐色シルトブロック10%混入）
3 10YR3/3暗褐色シルト（上位に黒褐色シルトブロック20%混入）

0 2m
1：50

第116図　遺構実測図―SB9360―



SP9361土層注記

SP9076　e-e'

1　10YR2/3黒褐色シルト（黄褐色シルト斑に50%混入）

2　10YR2/3黒褐色シルト（黄褐色シルト粒状に5%混入）

SP9292　f-f'

1　10YR3/3暗褐色シルト（黒褐色シルト・黄褐色シルトをミンチ状に30%混入）

2　10YR3/3暗褐色シルト（1層より全体が斑状化）

SP9180・9181　g-g'

1　10YR2/3黒褐色シルト（黄褐色シルト及び浅黄橙色シルト小ブロック30%混入）

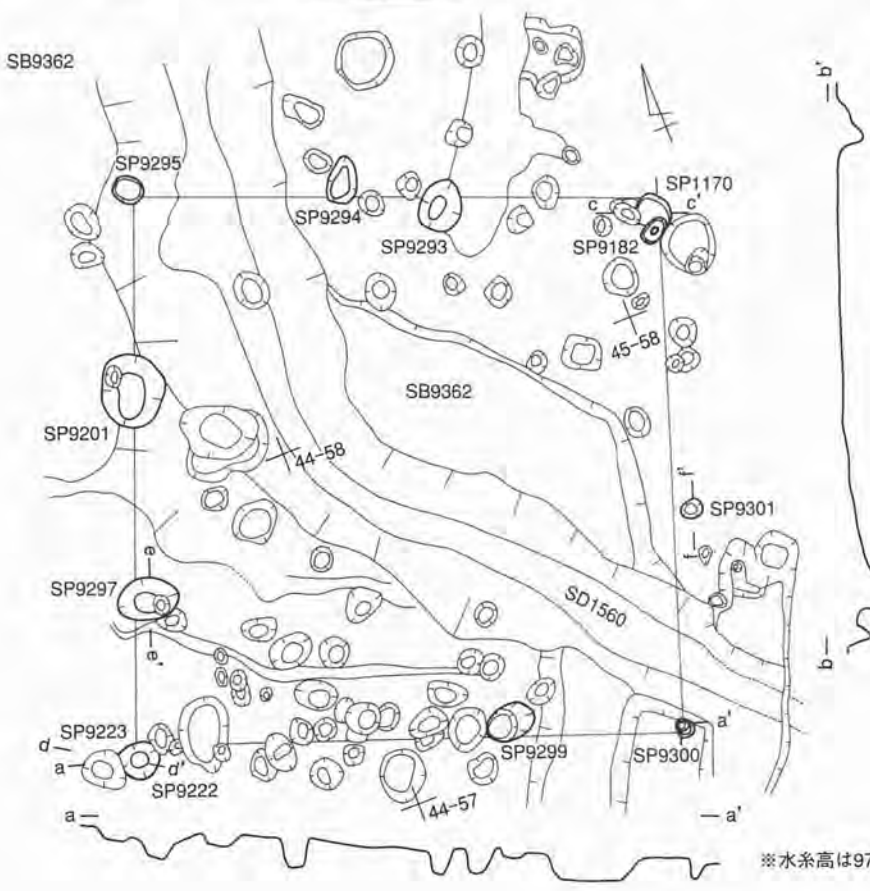
2　10YR2/3黒褐色シルト（1層よりも浅黄橙色シルト約50%混入）

3　10YR2/2黒褐色シルト（浅黄橙色シルト小斑状に10%混入）柱痕？

4　10YR2/3黒褐色シルト（黄褐色シルト・浅黄橙色シルト小ブロック30%混入、SP9181よりやや黒）

5　10YR2/3黒褐色シルト

※水糸高は97.20m



SB9362土層注記

SP9182　c-c'

1　10YR4/6褐色シルト（浅黄橙色シルト20%・小～中礫混入）

2　10YR3/4暗褐色シルト（下位で浅黄橙色シルト・黄褐色シルト30%ミンチ状に混入）

SP9222・9223　d-d'

1　10YR3/4暗褐色シルト（黄褐色シルト小斑状に40%混入）

2　10YR3/4暗褐色シルト（黄褐色シルト小斑状に20%混入）

3　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（黄褐色シルト斑状に10%混入）

4　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（下位でブロック状に黄褐色シルト20%混入）

5　10YR3/4暗褐色砂質シルト（砂質強まり、中砂混入）

SP9297　e-e'

1　10YR3/4暗褐色砂質シルト（にぶい黄褐色中砂斑状に30%混入）

2　10YR3/3暗褐色砂質シルト（にぶい黄褐色中砂横帯状に50%混入）

3　10YR2/3黒褐色シルト（上位でにぶい黄褐色中砂ブロック混入）柱痕

SP9301　f-f'

1　10YR3/2黒褐色シルト（褐色シルト小ブロックで40%混入）

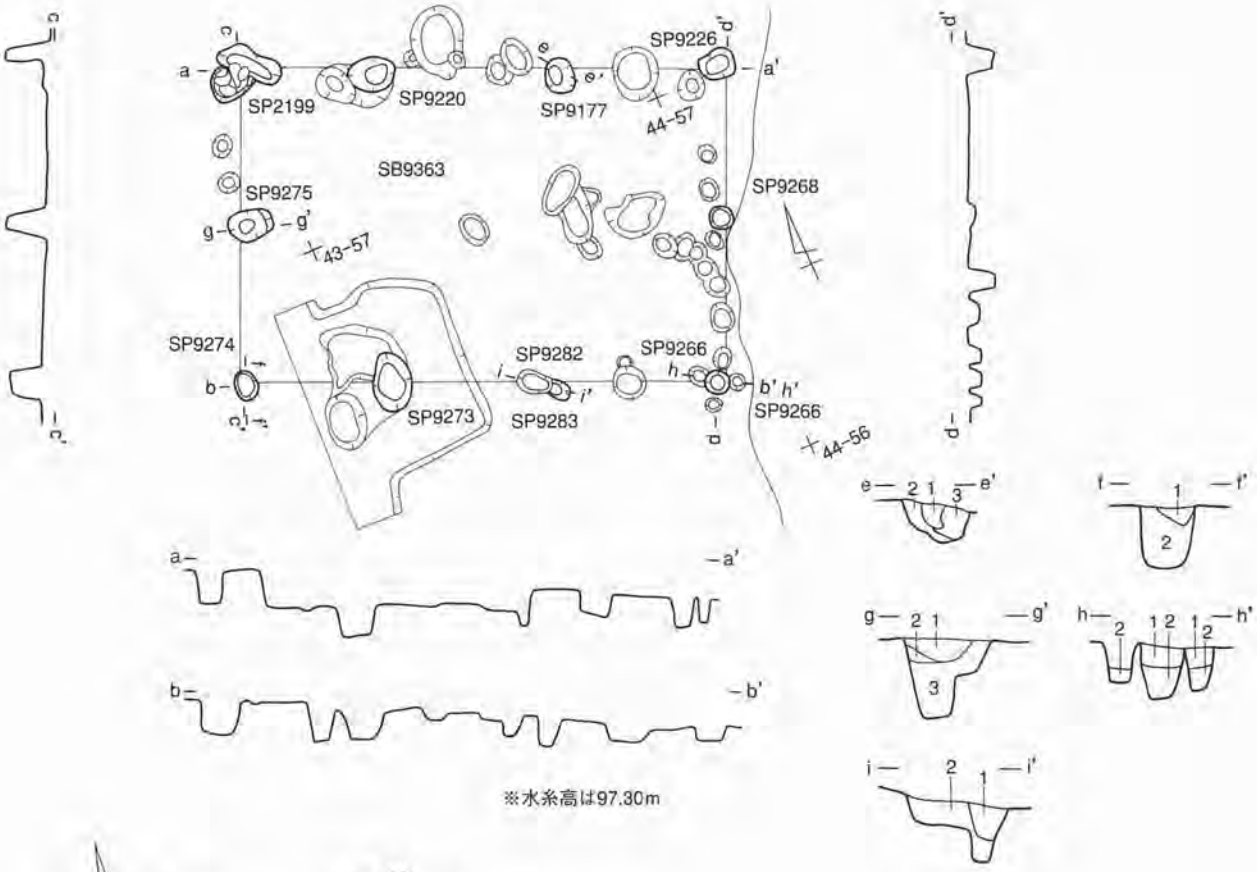
2　10YR2/3黒褐色シルト（混入ほとんどないが、上位で褐色シルトを小ブロックで5%混入）

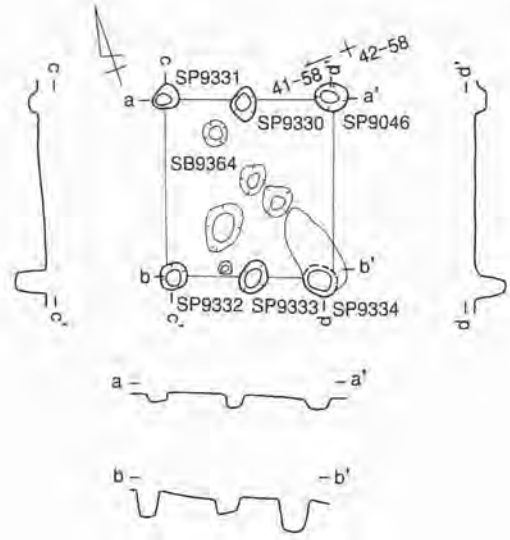
※水糸高は97.30m

0　4m

1：100

第117図　遺構実測図―SB1180・9361・9362―





SB9364土層注記

SP9177　e-e'
1　10YR3/2黒褐色シルト（黄褐色シルト10%混入、遺物片あり）
2　10YR3/2黒褐色シルト（褐色シルトをブロック状に50%混入）
3　10YR4/4褐色シルト（上位で遺物・黒褐色シルトを10%混入）

SP9274　f-f'
1　10YR4/4褐色シルト（下位に黒褐色シルト30%混入）
2　10YR3/3暗褐色シルト（やや小礫、下位で砂質を帯びる）

SP9275　g-g'
1　10YR2/3黒褐色シルト（微少～小型礫やや混入）
2　10YR3/2黒褐色シルト（10YR5/4にぶい黄褐色砂を多く混入）
3　10YR3/2黒褐色シルト

SP9265・9266　h-h'
1　10YR3/3暗褐色シルト（褐色シルト・微礫を斑状に混入）
2　10YR4/4褐色シルト（混入なし）

SP9282・9283　i-i'
1　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（地山斑に10%混入）
2　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（あたりあり、10YR3/3砂質シルト混入）

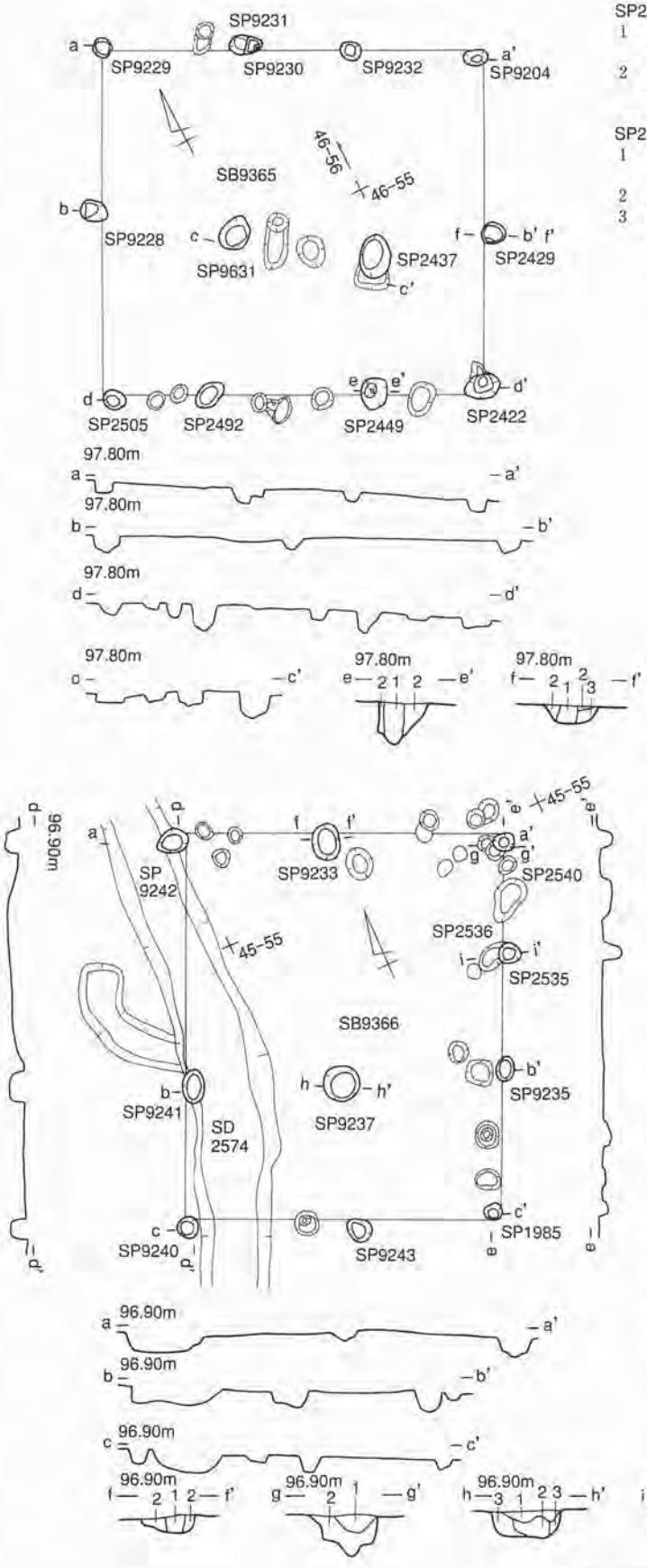
SP9322
10YR4/3にぶい黄褐色シルトに地山土20%

地山
10YR4/4褐色シルトに粗砂50%、礫（5cm以下）10%混入

断面図
0　2m
1：50

平面・エレベーション図
0　4m
1：100

第118図　遺構実測図―SB9363・9364―



SP2449　e-e'
1　10YR3/3暗褐色シルト（褐色シルトを全体に斑状に50%程度混入）
2　10YR3/2黒褐色シルト（わずかに褐色シルトを小粒子で混入。炭化物混入）

SP2429　f-f'
1　10YR3/4暗褐色粘質シルト（黒色シルトを小ブロックでわずかに混入）
2　10YR4/4褐色シルト（横帯状に黒色シルトを30%混入）
3　10YR2/1黒色シルト（褐色シルトを小斑状に全体混入）
柱痕？

SP9233　f-f'
1　10YR3/2黒褐色シルト（明黄褐色シルトを40%斑状に混入）
2　10YR2/3黒褐色シルト（明黄褐色シルトを中粒子で20%混入）

SP2540　g-g'
1　10YR3/2黒褐色シルト（わずかに褐色シルトをブロック状に10%混入）
2　10YR2/2黒褐色シルト（わずかに褐色シルトを粒状に混入）

SP9237　h-h'
1　10YR3/3暗褐色シルト（砂質を帯び、褐色シルトを斑状に40%混入）
2　10YR4/4褐色シルト（暗褐色シルトを粒状に全体に40%混入）
3　10YR3/2黒褐色シルト（褐色シルトを中ブロックで40%混入）

SP2535・2536
1　10YR3/3暗褐色シルト（褐色シルトを中ブロックで60%混入）
2　10YR2/2黒褐色シルト（褐色シルトを粒状に全体に混入、中ブロックもあり）
3　10YR3/4暗褐色シルト（褐色シルトを粒状に全体に70%混入、下位が強い）

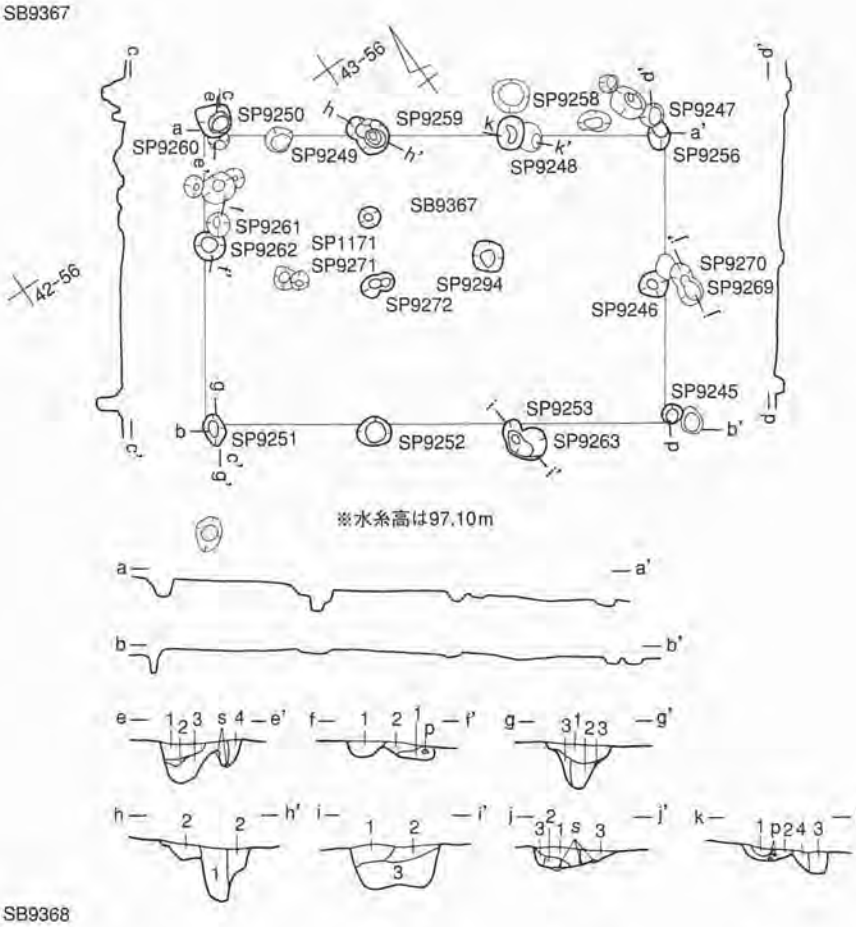
SP1985
10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト（地山土斑状に混入）

地山土
10YR6/4にぶい黄橙色砂質シルト（10YR4/4褐色砂質シルトを斑状に10%混入、一部酸化している）

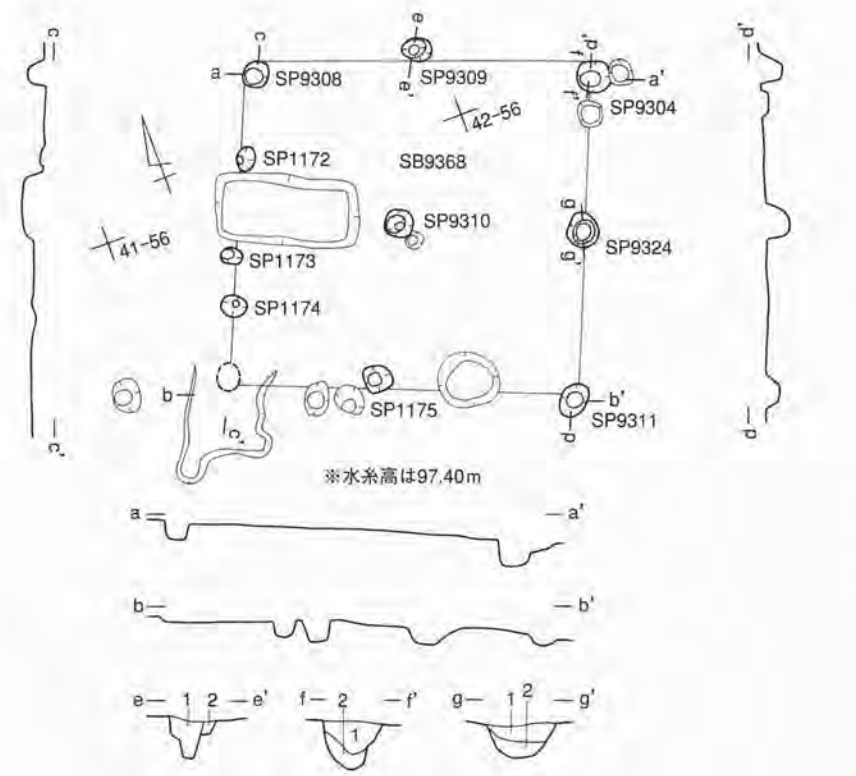
断面図
0　2m
1：50
平面・エレベーション図
0　4m
1：100

第119図　遺構実測図―SB9365・9366―

SB9367



SB9368



SB9367土層注記

SP9250・9260　e-e'
1　10YR2/2黒褐色シルト（しまりあり、黄褐色シルトをブロック状に混入）
2　10YR4/3にぶい黄褐色中砂
3　10YR2/2黒褐色シルト（しまりなし）
4　10YR2/2黒褐色シルト（砂質を帯びる）

SP9261・9262　f-f'
1　10YR3/1黒褐色シルト（やや粒状に酸化，赤みを帯びる、黄褐色シルト10%混入）
2　10YR2/2黒褐色シルト（しまりあり，黄褐色シルトをブロック状に混入）

SP9251　g-g'
1　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（暗褐色シルトを小斑状に70%混入）
2　10YR3/3暗褐色シルト（褐色シルトを粒状に5%混入、やや粘性あり、小礫混入）柱痕か？
3　10YR3/3暗褐色シルト

SP9249・9259　h-h'
1　10YR4/4褐色シルト（粒状に黒褐色シルトを30%混入）
2　10YR2/2黒褐色シルト（斑状に褐色シルトを20%混入）

SP9253・9263　i-i'
1　10YR4/4褐色シルト（黒褐色シルトを小ブロックで30%混入）
2　10YR3/3暗褐色シルト（黄褐色シルトをわずかに小ブロックで10%混入）
3　10YR3/4暗褐色中砂（わずかに粘性あり）

SP9269・9270　j-j'
1　10YR3/2黒褐色シルト（黄褐色シルトを40%斑状に混入）
2　10YR3/2黒褐色シルト（黄褐色シルトを60%斑状に混入）
3　10YR2/2黒褐色シルト（わずかに黄褐色シルトを斑状に混入）

SP9248・9258　k-k'
1　10YR3/3暗褐色シルト（混じりなし）
2　10YR5/4にぶい黄褐色シルト（暗褐色シルトを10%混入）
3　10YR3/2黒褐色砂質シルト（黒褐色シルトを中ブロックで30%混入）
4　10YR3/3暗褐色シルト（わずかに褐色シルトを粒状に5%混入）

SB9368土層注記

SP9245
10YR4/4褐色砂質シルト（10YR3/3暗褐色砂質シルトが斑状に30%混入）

SP9247
10YR3/2黒褐色砂質シルト（10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルト地山が粒状に10%混入）

SP9271
10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト（地山が斑に5%混入、砂質感強い）

SP9252
10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト（地山が斑に30%混入、砂質感強い）

SP9309　e-e'
1　10YR4/4褐色シルト（明黄褐色シルトを斑状に30%混入）
2　10YR2/3黒褐色シルト（黄褐色シルトを小粒状に10%混入）

SP9304　f-f'
1　10YR3/3暗褐色シルト（わずかに粗砂混入、浅黄橙色シルト・黄褐色シルトを10%ずつ小斑状に混入）
2　10YR3/4暗褐色砂質シルト（1より砂質強まる、混入ほとんどなし）

SP9324　g-g'
1　10YR3/3暗褐色シルト（褐色シルト20%・黄褐色シルト10%・下位を中心に斑状に混入）
2　10YR5/4にぶい黄褐色粗砂（上位に中型礫混入）地山？

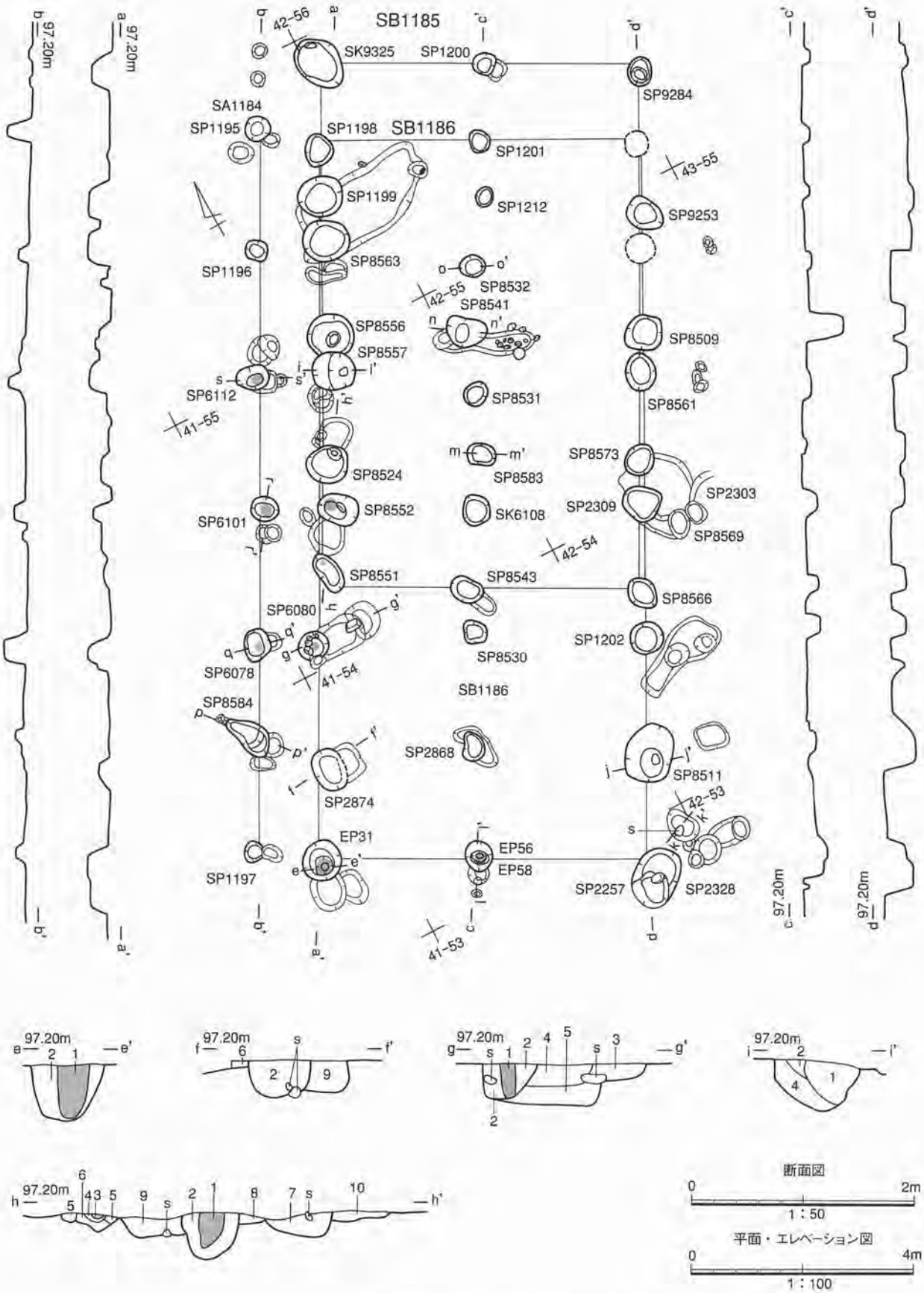
SP9308
10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト（地山斑状・炭化物少量混入）

地山
10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルト（10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト粒20%混入）

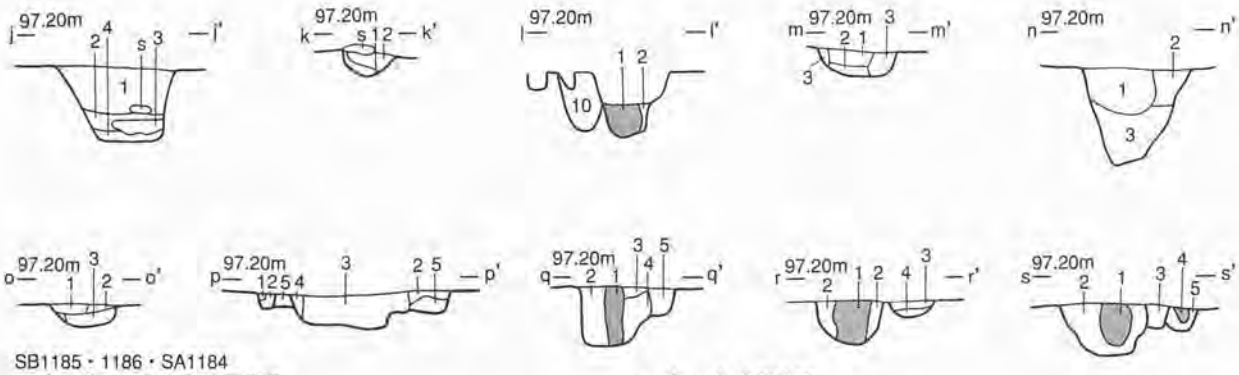
断面図
0　2m
1：50

平面・エレベーション図
0　4m
1：100

第120図　遺構実測図—SB9367・9368—



第121図　遺構実測図―SB1185・1186、SA1184―



SB1185・1186・SA1184

e-e'・f-f'・h-h'・l-l' 土層注記

1 10YR3/3暗褐色シルト質細砂（炭化粒0.3cm大3%・2層5%混入）
2 10YR3/4暗褐色粘質シルト（暗褐色砂・地山10YR5/6黄褐色粘質シルト斑に各20%混入）
3 10YR2/1黒色砂質シルト
4 10YR4/4褐色粘質シルト（3・5・6層各5%混入）
5 10YR2/2黒褐色砂質シルト（4層5%混入）
6 10YR3/3暗褐色砂質シルト（5層5%混入）
7 10YR2/3黒褐色砂質シルト（地山粒0.3～3cm大3%・炭化粒0.3cm大1%混入）
8 10YR2/2黒褐色シルト（地山斑に10%混入）
9 10YR2/1黒色砂質シルト（黒色砂20%・炭化粒0.1～0.5cm大3%混入）
10 10YR3/4暗褐色砂質シルト（地山粒0.5～1cm大10%混入、やや赤みを帯び土器片露出）

g-g' 土層注記

1 10YR3/2黒褐色シルト（円礫・10YR5/3にぶい黄褐色シルト30%斑に混入）
2 10YR3/2黒褐色シルト（10YR5/3にぶい黄褐色シルト50%混入）
3 10YR3/2黒褐色シルト（10YR4/4褐色シルト2%斑に混入）
4 10YR3/2黒褐色シルト（10YR5/3にぶい黄褐色シルト混入）
5 10YR2/2黒褐色砂質シルト（円礫1cm大多量混入）

i-i'・j-j' 土層注記

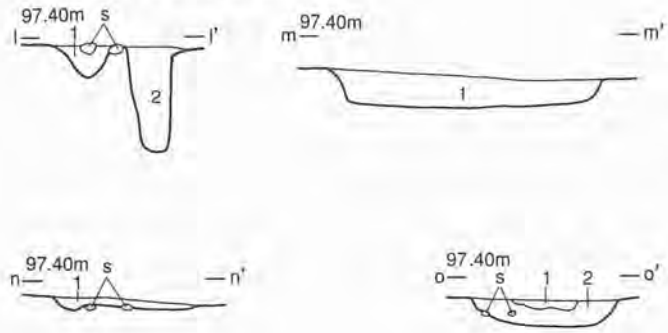
1 10YR3/2黒褐色シルト（10YR5/4にぶい黄褐色シルト30%混入、礫上部に点在）
2 10YR5/4にぶい黄褐色シルト（10YR3/2黒褐色シルト帯状の堆積）
3 10YR3/2黒褐色シルト（10YR5/4にぶい黄褐色シルト50%斑に混入）
4 10YR4/2灰黄褐色砂質シルト

k-k' 土層注記

1 10YR3/3暗褐色砂質シルト
2 10YR3/3暗褐色砂質シルト（地山粒20%混入）

m-m'・n-n' 土層注記

1 黒色シルト（地山粒20%混入）
2 黒色シルト（地山粒40%混入）
3 黒色砂質シルト（地山粒50%混入）



o-o'・r-r' 土層注記

1 10YR4/2灰黄褐色シルト（10YR5/3にぶい黄褐色シルト20%斑に混入）
2 10YR5/3にぶい黄褐色シルト（円礫1cm大・10YR4/2灰黄褐色シルト50%斑に混入）
3 10YR3/1黒褐色シルト（10YR5/2灰黄褐色シルト30%混入）
4 10YR5/2灰黄褐色シルト（10YR3/2黒褐色シルト10%斑に混入）

l-l' 土層注記

1 10YR3/2黒褐色砂質シルト　中世覆土
2 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト（1層5%斑に混入、しまっている）
3 10YR3/2黒褐色砂質シルト（1層5%・地山10%混入）
4 10YR2/3黒褐色砂質シルト（地山10%混入）
5 10YR2/3黒褐色砂質シルト（地山20%混入）

p-p' 土層注記

1 10YR3/2黒褐色砂質シルト
2 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト（10YR3/2黒褐色砂質シルト40%斑に混入）
3 10YR3/2黒褐色砂質シルト（10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト2%斑に混入）
4 10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト（10YR3/2黒褐色砂質シルト20%斑に混入）
5 10YR3/2黒褐色砂質シルト（10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト10%斑に混入）

s-s' 土層注記

1 10YR2/3黒褐色砂質シルト（2層20%混入，もろい）
2 10YR3/3暗褐色シルト（地山10YR4/3にぶい黄褐色細砂20%・10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト粒0.3cm大10%混入）
3 1層に類似（2層3%混入）
4 1層に類似（2層5%混入）
5 2層に類似（地山10YR4/3にぶい黄褐色細砂10%・10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルト粒0.3cm大20%混入）

第123図土層注記

SP2971（l-l'）土層注記

1 10YR3/3暗褐色微砂（地山粒・炭化粒若干混入）
1' 10YR3/3暗褐色微砂（1層に類似、炭化物多く混入）

SK8539（m-m'）土層注記

1 10YR3/3暗褐色シルト（円礫1cm大混入）

SK8538（n-n'）土層注記

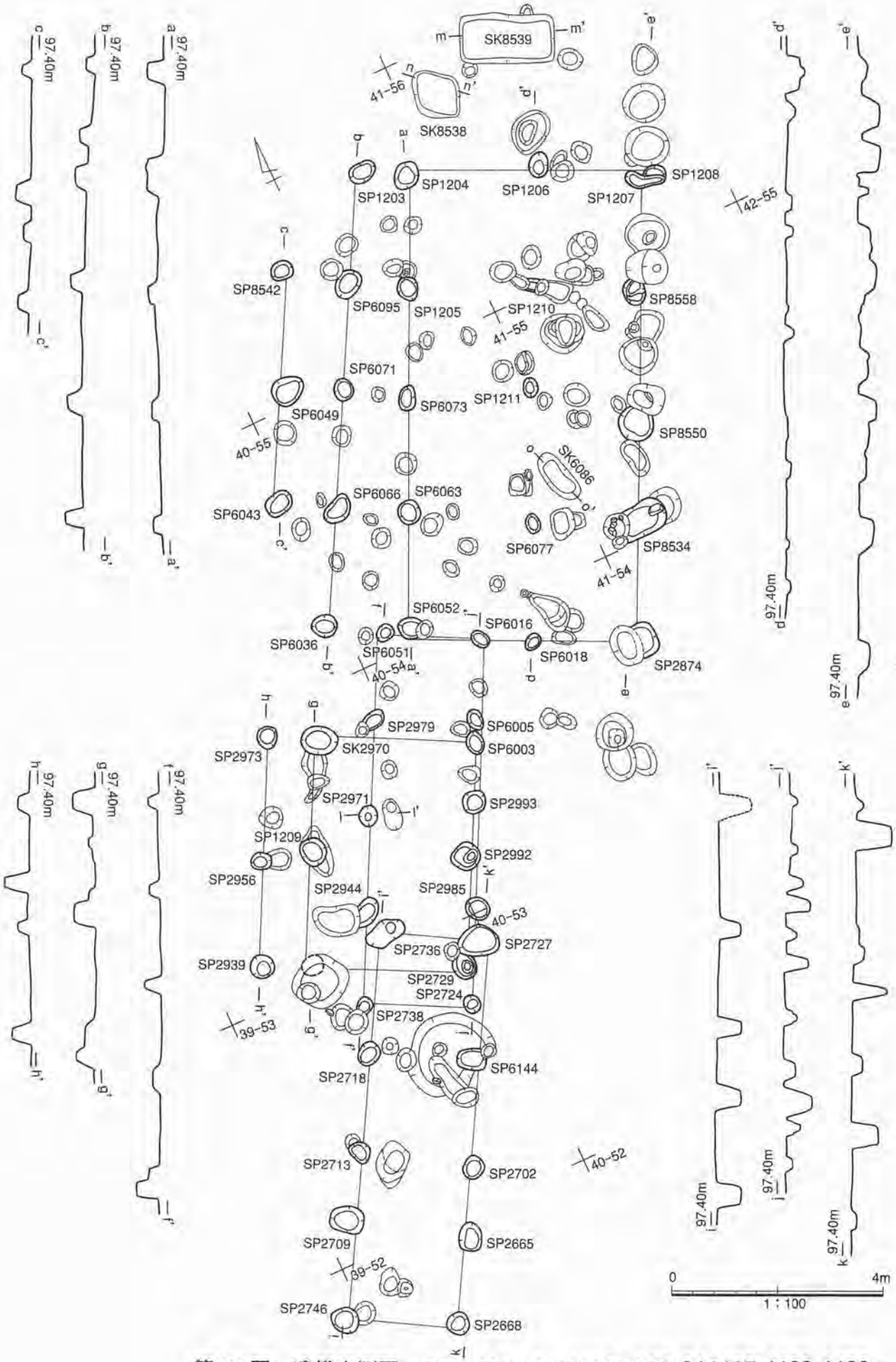
1 10YR4/2灰黄褐色シルト（10YR5/3にぶい黄褐色シルト下位に斑に混入、円礫5cm大敷きつまっている）

SK6086（o-o'）土層注記

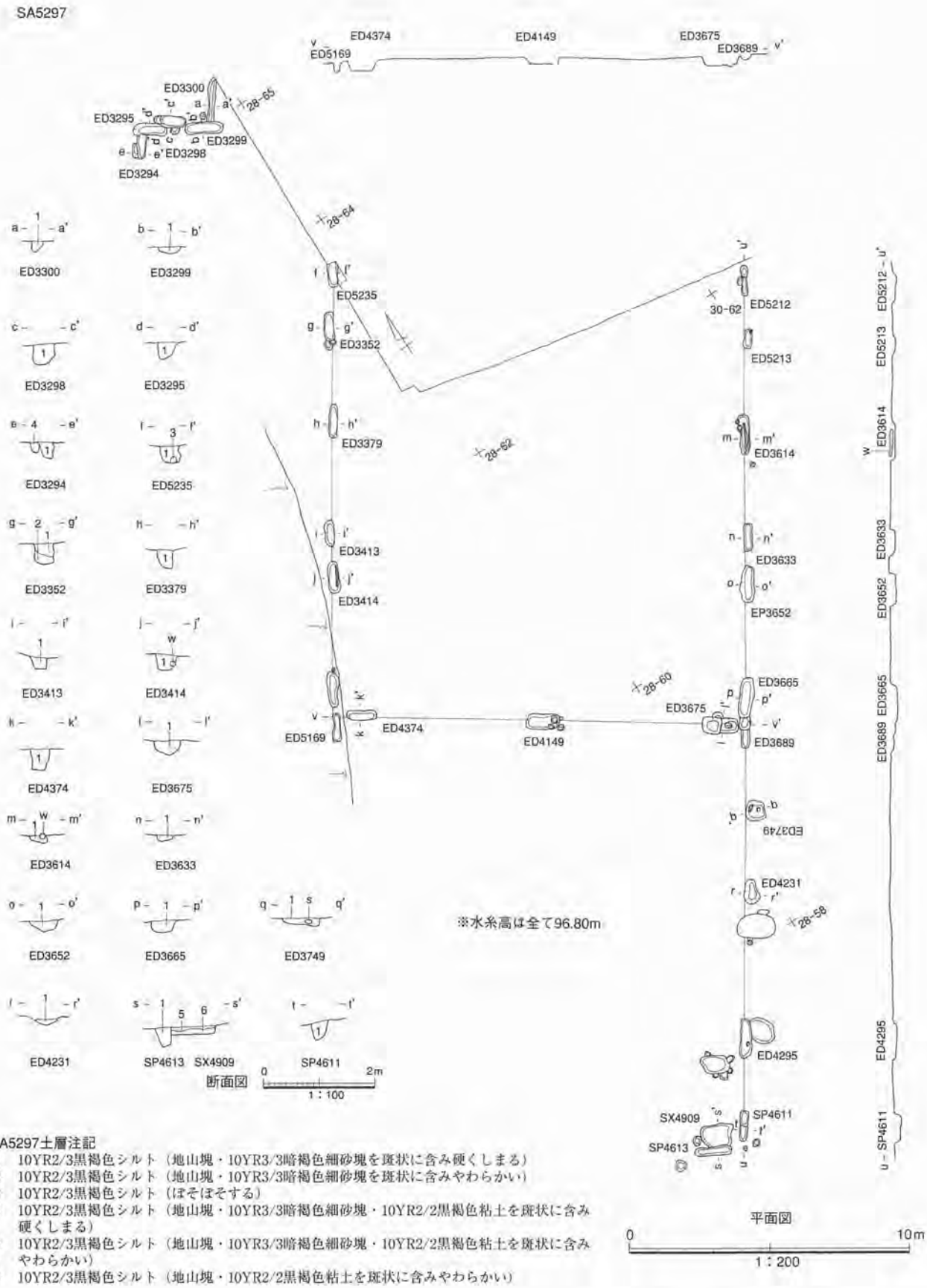
1 10YR2/2黒褐色砂質シルト（10YR4/4褐色粘質シルト粒0.5cm大5%混入）
2 10YR3/3暗褐色シルト（10YR4/4褐色粘質シルト粒0.5cm大1%・1層5%混入）

0　2m
1：50

第122図　遺構実測図—SB1185・1186・1189・1191・1192・1193、SA1184・1187・1188・1190—



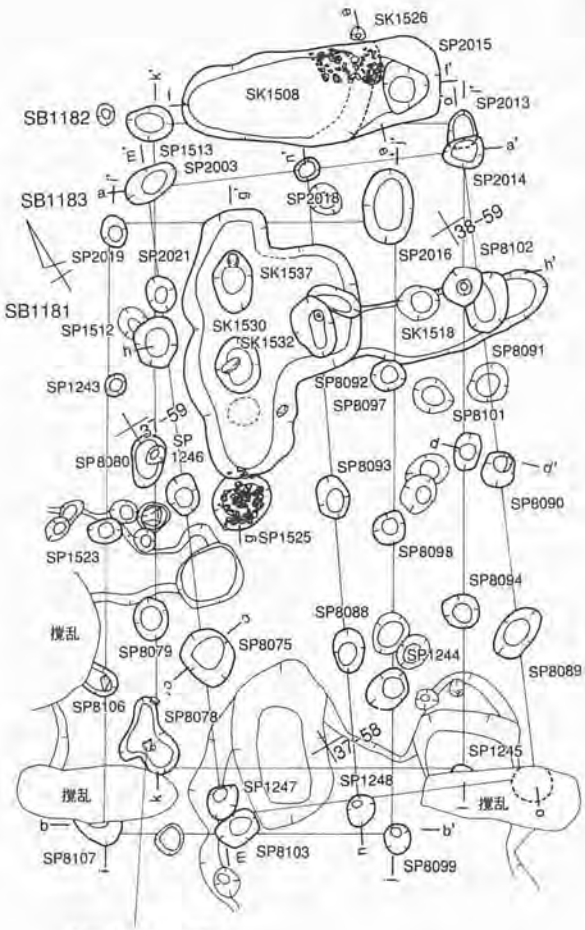
第123図　遺構実測図―SB1189・1191・1192・1193、SA1187・1188・1190―

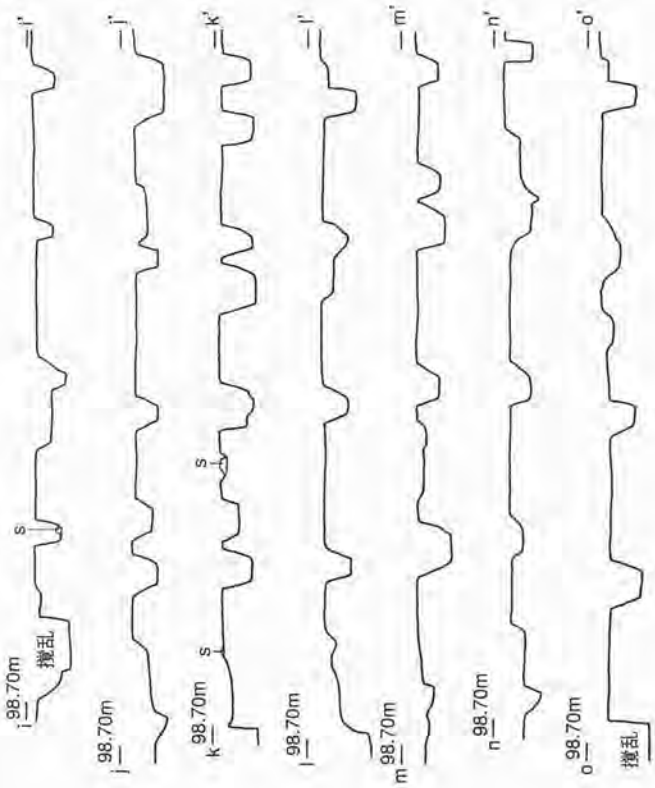


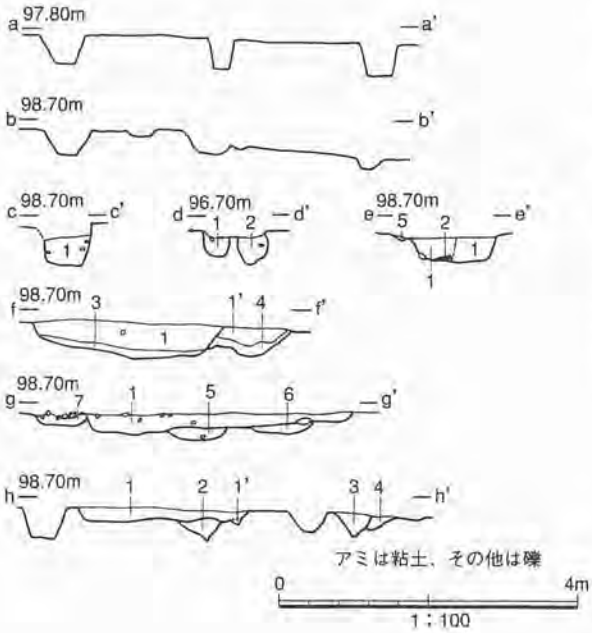
SA5297土層注記

1　10YR2/3黒褐色シルト（地山塊・10YR3/3暗褐色細砂塊を斑状に含み硬くしまる）
2　10YR2/3黒褐色シルト（地山塊・10YR3/3暗褐色細砂塊を斑状に含みやわらかい）
3　10YR2/3黒褐色シルト（ぼそぼそする）
4　10YR2/3黒褐色シルト（地山塊・10YR3/3暗褐色細砂塊・10YR2/2黒褐色粘土を斑状に含み硬くしまる）
5　10YR2/3黒褐色シルト（地山塊・10YR3/3暗褐色細砂塊・10YR2/2黒褐色粘土を斑状に含みやわらかい）
6　10YR2/3黒褐色シルト（地山塊・10YR2/2黒褐色粘土を斑状に含みやわらかい）

第124図　遺構実測図―SA5297―

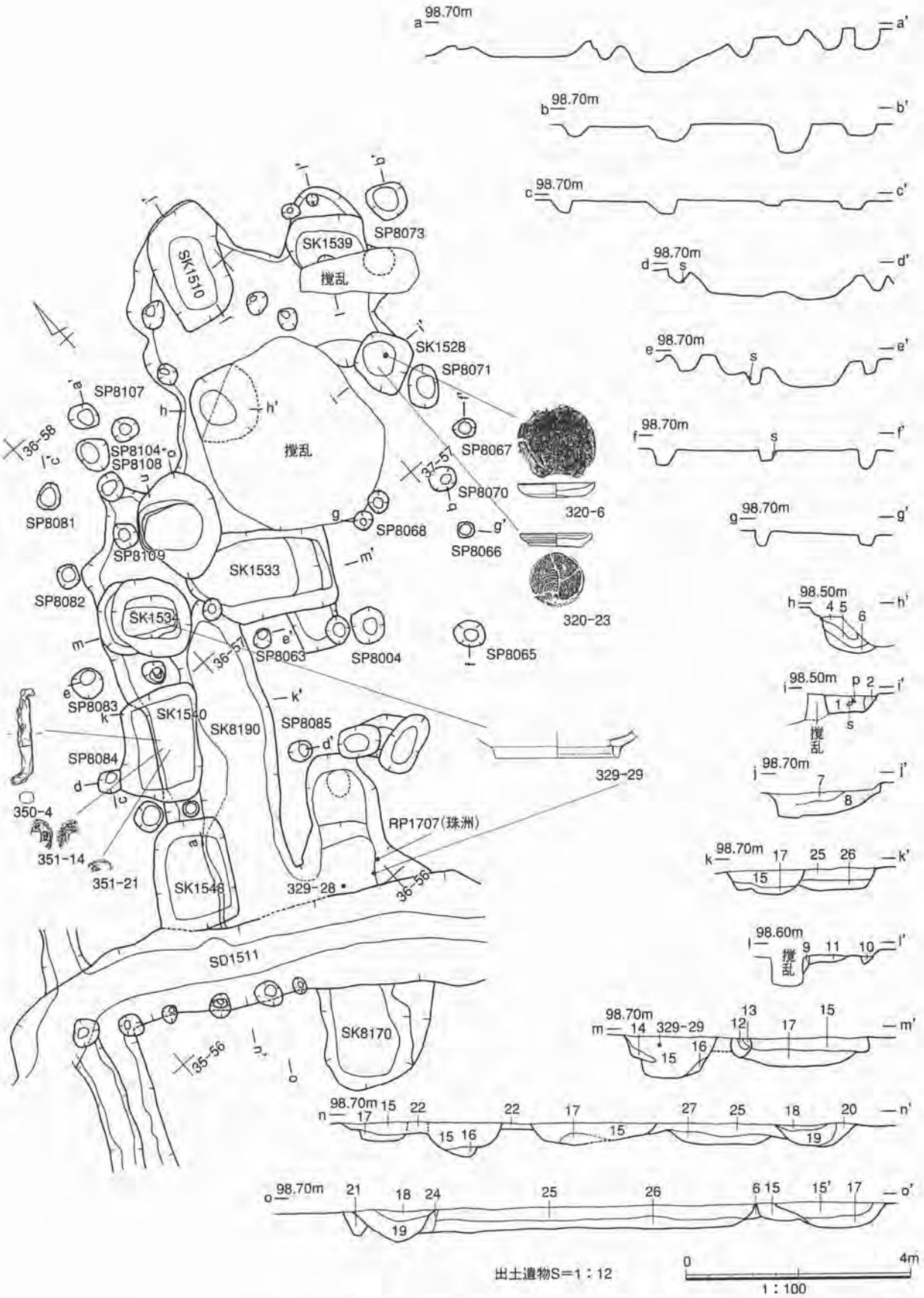






SB1181・1182・1183
SP8075（c-c'）土層注記
1　10YR3/2黒褐色シルト（下位に円礫混入）
SP8090・8101（d-d'）土層注記
1　10YR4/2灰黄褐色シルト（円礫1～4cm大混入）
2　2.5Y6/2灰黄色砂（円礫1～3cm大多量混入）
SK1508（f-f'・e-e'）土層注記
1　2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質シルト（10YR5/6黄褐色シルト斑に5%・炭化粒1%・円礫1～5cm大1%混入）
1'　2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質シルト（4層10%・炭化粒1%・円礫1～5cm大1%混入）
2　粘土
3　2.5Y4/3オリーブ褐色砂質シルト（10YR5/6黄褐色シルト斑に5%・炭化粒1%・円礫1～5cm大1%混入）
4　10YR2/3黒褐色砂質シルト（炭化粒1%・円礫1～5cm大1%混入）
5　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト（円礫0.5～2cm大10%混入）
SK1518・1530（g-g'・h-h'）土層注記
1　2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質シルト（10YR5/6黄褐色シルト斑に5%・炭化粒1%・円礫1～5cm大1%混入）
1'　1層より黒味を帯びる
2　礫0.2～5cm大（10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト10%混入）
3　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト（円礫2～3cm大混入）
4　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト（円礫3～5cm大多量混入）
5　10YR3/2黒褐色砂質シルト
6　10YR3/3暗褐色砂質シルト
7　10YR4/2灰黄褐色砂質シルト

第125図　遺構実測図—SB1181・1182・1183—



第126図　遺構実測図—SK1510・1529・1539・1534・1540・8190他—

第126図注記

SK1510・1528・1529・1539・1534・1540・8190他土層注記

1　2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質シルト（3層5%・円礫2cm大1%・炭化粒0.1～0.5cm大1%混入）
2　2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂質シルト（3層30%・円礫2cm大1%・炭化粒0.1～0.5cm大1%混入）
3　10YR5/6黄褐色シルト質砂（円礫1～5cm大5%混入）
4　SK1528・1層に類似
5　4層に加え2.5Y4/4オリーブ褐色砂10%混入
6　2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂（地山5%混入）
7　10YR4/4褐色円礫5～10cm大（10YR4/4褐色砂質シルト10%混入）
8　10YR4/4褐色円礫5～10cm大（10YR4/4褐色砂質シルト50%混入）
9　10層に類似、11層5%混入
10　10YR3/3暗褐色シルト質細砂（2.5Y5/4黄褐色砂5%・炭化粒0.1cm大1%混入）
11　2.5Y4/3オリーブ褐色砂（炭化粒1cm大1%・地山5%・円礫1～5cm大3%混入）
12　10YR3/2黒褐色シルト質砂（炭化粒0.5cm大・円礫3cm大3%混入）柱穴
13　10YR3/3暗褐色シルト質砂（14層に類似、12層5%混入）柱穴
14　10YR3/3暗褐色シルト質砂（炭化粒0.5cm大1%・円礫3cm大5%混入）
15　10YR3/4暗褐色シルト質砂（炭化粒0.5cm大1%・円礫3cm大3%混入）
15'　15層より黒味を帯びる
16　10YR5/2灰黄褐色砂（円礫2～4cm大多数混入）
17　10YR3/3暗褐色シルト質砂（14層に類似、14層に比べ円礫10%混入）
18　10YR6/2灰黄褐色円礫3～7cm大（砂混入）
19　10YR3/3暗褐色砂（円礫3～7cm大10%混入）
20　19層に地山シルト粒混入
21　10YR2/3黒褐色砂質シルト（細砂・礫混入）
22　円礫が23層より多い
23　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト
24　10YR4/4褐色シルト質細砂（円礫3～5cm大30%混入）基盤層
25　10YR5/3にぶい黄褐色砂（円礫2～4cm大50%混入）
26　10YR5/3にぶい黄褐色砂（円礫3～6cm大多数混入）
27　26層よりやや黒味を帯びる

第127・128図注記

SK1505（e-e'）土層注記

1　10YR6/2灰黄褐色砂質シルト（円礫10cm大混入）
2　10YR6/2灰黄褐色砂質シルト（円礫2～3cm大混入）
3　10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルト（円礫5～8cm大混入）
4　10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルト（礫0.5～1cm大混入）
5　10YR6/2灰黄褐色砂質シルト（円礫1～4cm大混入）
6　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト（円礫2～4cm大混入）
7　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト（円礫2～4cm大混入）
8　10YR3/3暗褐色砂質シルト（粘性あり、有機質含む）

SK8005（c-c'）土層注記

1　10YR6/3にぶい黄橙色シルト（10YR5/4にぶい黄褐色シルト斑に30%・上位に円礫10～15cm大混入）
2　10YR4/4褐色シルト（10YR6/4にぶい黄橙色シルト斑に20%・円礫6cm大混入）
3　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト（円礫4cm大混入）
3'　3層より砂質が強い
4　10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルト（円礫8cm大混入）
5　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト（礫混入、表面は円礫が敷き詰まった層）
6　10YR6/4にぶい黄橙色シルト（表面は円礫5cm大が敷き詰まった層）地山

SP8030（f-f'）土層注記

1　10YR3/3暗褐色シルト

SP8034（h-h'）土層注記

1　10YR3/4暗褐色シルト

SK8027（d-d'）土層注記

1　10YR3/4暗褐色シルト

SD1511（m-m'）土層注記

1　10YR6/2灰黄褐色円礫3～7cm大（砂混入）
2　10YR3/3暗褐色砂（円礫3～7cm大10%混入）
3　10YR3/3暗褐色シルト質砂（14層に類似、12層5%混入）柱穴
4　10YR5/2灰黄褐色シルト質細砂（炭化粒3%混入）
5　10YR4/4褐色シルト質細砂（円礫3～5cm大30%混入）基盤層
6　10YR5/2灰黄褐色シルト質細砂（炭化粒3%・7層粒10%混入）
7　10YR5/3にぶい黄褐色砂（円礫2～4cm大50%混入）
8　10YR5/3にぶい黄褐色砂（円礫3～6cm大多数混入）
9　26層よりやや黒味を帯びる
10　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト（円礫3cm大多量・10YR6/4にぶい黄橙色シルト斑に少量混入）

SD8113（l-l'）土層注記

1　10YR5/2灰黄褐色シルト（円礫4cm大多量混入）
2　10YR5/2灰黄褐色砂質シルト（円礫多量混入）
3　10YR5/2灰黄褐色砂質シルト（円礫多量混入）
4　10YR5/2灰黄褐色シルト（円礫1cm大混入）
5　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト（円礫1～3cm大混入）

SD8113（i-i'）土層注記

1　10YR5/2灰黄褐色砂質シルト（円礫多量混入）
2　10YR4/2灰黄褐色砂質シルト（円礫多量混入）
3　10YR5/2灰黄褐色砂質シルト（円礫多量混入）
4　10YR5/2灰黄褐色砂質シルト（円礫1～4cm大混入）
5　10YR2/2黒褐色シルト（円礫2～6cm大混入）
6　10YR6/2灰黄褐色砂（円礫3cm大混入）

SD1536（g-g'）土層注記

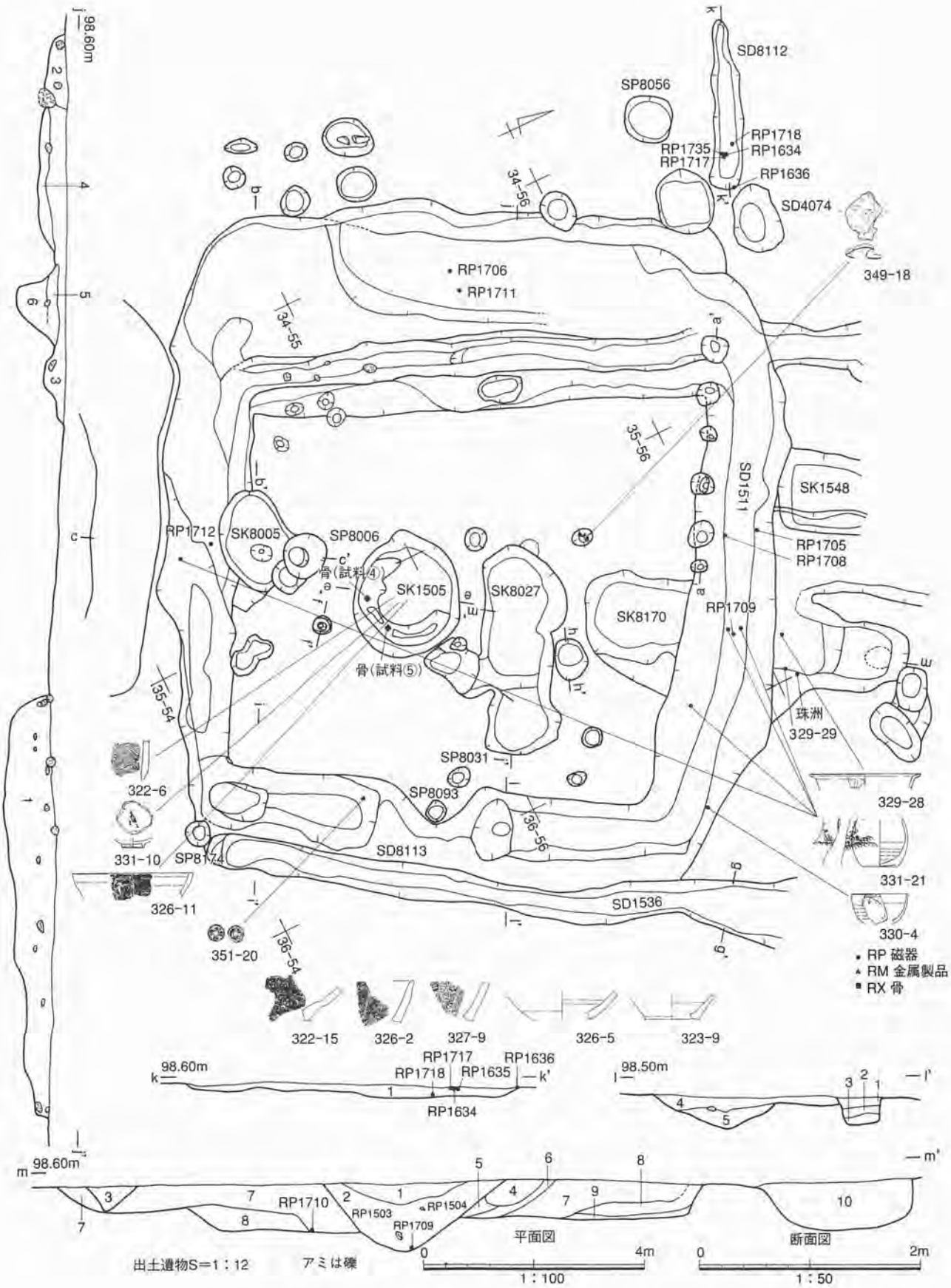
1　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト（礫40%混入）
2　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト（円礫1～2cm大50%混入）
3　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト（円礫2～3cm大多量混入）

SD8113（b-b'）土層注記

1　10YR2/2黒褐色砂質シルト（10YR3/4暗褐色粘質シルトブロック・円礫3～5cm大5%混入）
2　10YR3/4暗褐色砂質シルト（円礫3～5cm大5%混入、濁りなし）
3　10YR5/3にぶい黄褐色砂（礫3cm大・砂・粘質シルト混入）

SD8113（j-j'）土層注記

1　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト（円礫3cm大多量・10YR6/4にぶい黄橙色シルト斑に少量混入）
2　10YR2/1黒色砂（黒色シルト10%・円礫3～5cm大20%混入）溝
3　10YR2/2黒褐色砂質シルト（10YR3/4暗褐色粘質シルト斑に5%・10YR4/4褐色シルト10%混入）
4　10YR3/4暗褐色砂質シルト（円礫3～5cm大5%混入、濁りなし）
5　10YR2/2黒褐色砂質シルト（10YR2/1黒色砂質シルト3%混入）
6　10YR2/2黒褐色砂質シルト（10YR3/4暗褐色粘質シルトブロック・円礫3～5cm大5%混入）



第127図　遺構実測図—SK1505・8005・8027、SD1511・8113・1536—

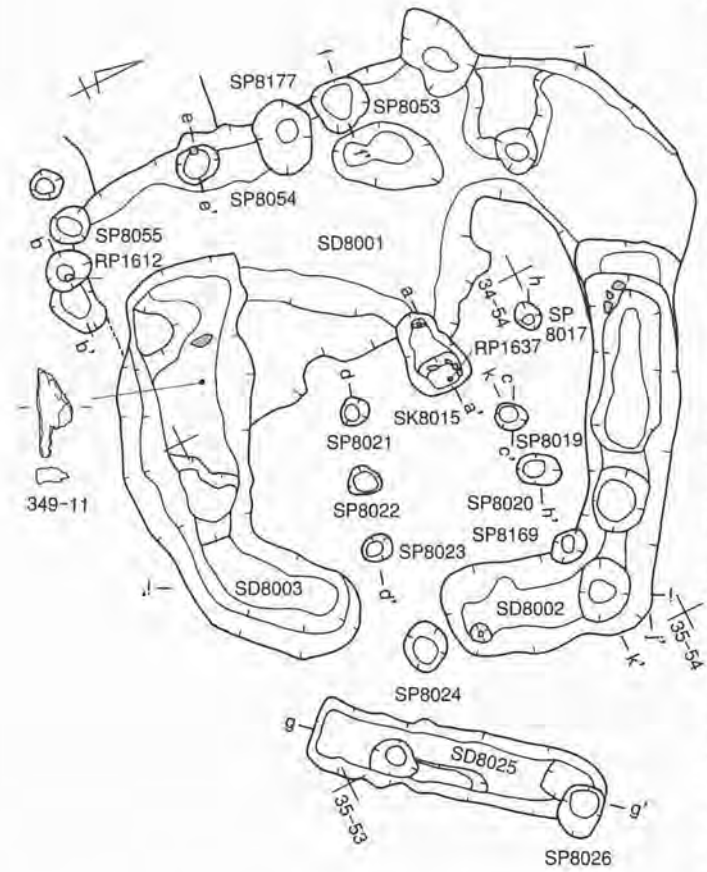
SK8009（c-c'）土層注記
1　7.5YR4/2灰褐色シルト
2　2.5Y8/4淡黄色シルト
3　10YR8/3浅黄橙色シルト（底位に行くにしたがいにぶい黄褐色シルトに変わる）
4　10YR8/3浅黄橙色シルト

SK8008（d-d'）土層注記
1　10YR5/2灰黄褐色シルト（10YR7/4にぶい黄橙色シルト粒2～3cm大斑状に混入）
2　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト（円礫5～8cm大堆積状に混入）
3　10YR5/2灰黄褐色シルト（礫・円礫10～15cm大混入）
4　10YR4/3にぶい黄橙色砂質シルト（円礫2～3cm大混入）
5　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（円礫2～3cm大混入）
6　10YR4/2灰黄褐色砂質シルト（礫・円礫2～15cm大混入）

SD8012（b-b'）土層注記
1　10YR6/3にぶい黄橙色シルト（砂・円礫・礫混入）
2　10YR4/4褐色砂質シルト（円礫3cm大混入）
3　10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルト（円礫3cm大混入）

SK8014（a-a'）土層注記
1　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト（円礫2～3cm大混入）
2　10YR3/2黒褐色砂質シルト（円礫3～5cm大混入）
3　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト（円礫3～5cm大堆積状に混入）
4　10YR3/3暗褐色砂質シルト（円礫3～5cm大堆積状に混入）
5　10YR3/3暗褐色砂質シルト（円礫1～2cm大斑に混入）
6　7.5YR5/3にぶい褐色砂質シルト（円礫2～4cm大混入）
7　7.5YR8/2灰白色砂質シルト（円礫4～6cm大堆積）

第128図　遺構実測図―SK1505・8009・8008・8014他、SD8012―



SK8015（a-a'）土層注記
1　7.5YR3/2黒褐色シルト（円礫2～3cm大混入）
2　10YR7/6明黄褐色シルト（円礫5～8cm大混入）
3　10YR5/3にぶい黄褐色シルト（円礫1～5cm大混入）

SD8025（b-b'）土層注記
1　10YR2/2黒褐色シルト（礫4cm大混入）
2　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト（礫4cm大・1層20%混入）
3　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト（礫4cm大・7.5YR3/2黒褐色シルト10%混入）
4　10YR3/3暗褐色砂質シルト

SD8001～8003（c-c'・d-d'）土層注記
1　10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルト（円礫3cm大混入）
2　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト（礫混入、表面は円礫が敷き詰まった層）
3　10YR6/4にぶい黄橙色シルト（表面は円礫5cm大が敷き詰まった層）地山
4　10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルト（円礫8cm大混入）

SP8005（e-e'）土層注記
1　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト（礫・円礫2～4cm大混入）
2　10YR6/2灰黄褐色砂質シルト（礫2～3cm大堆積）

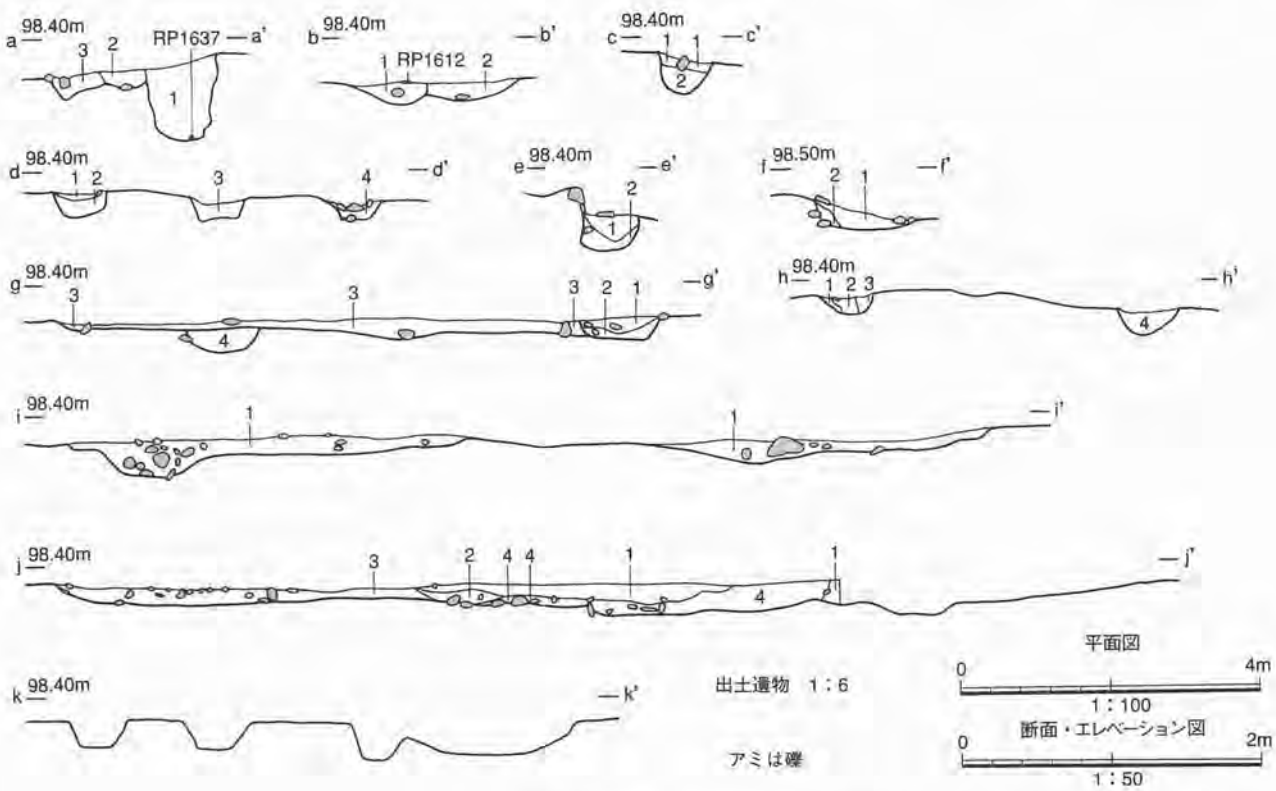
SP8054（f-f'）土層注記
1　7.5YR5/2灰褐色砂質シルト（円礫3～4cm大混入）
2　7.5YR6/2灰褐色砂質シルト（円礫2～3cm大堆積）

SP8053（g-g'）土層注記
1　7.5YR5/1褐灰色砂質シルト（円礫3～4cm大混入）
2　10YR6/2灰黄褐色砂質シルト（円礫2～20cm大堆積）

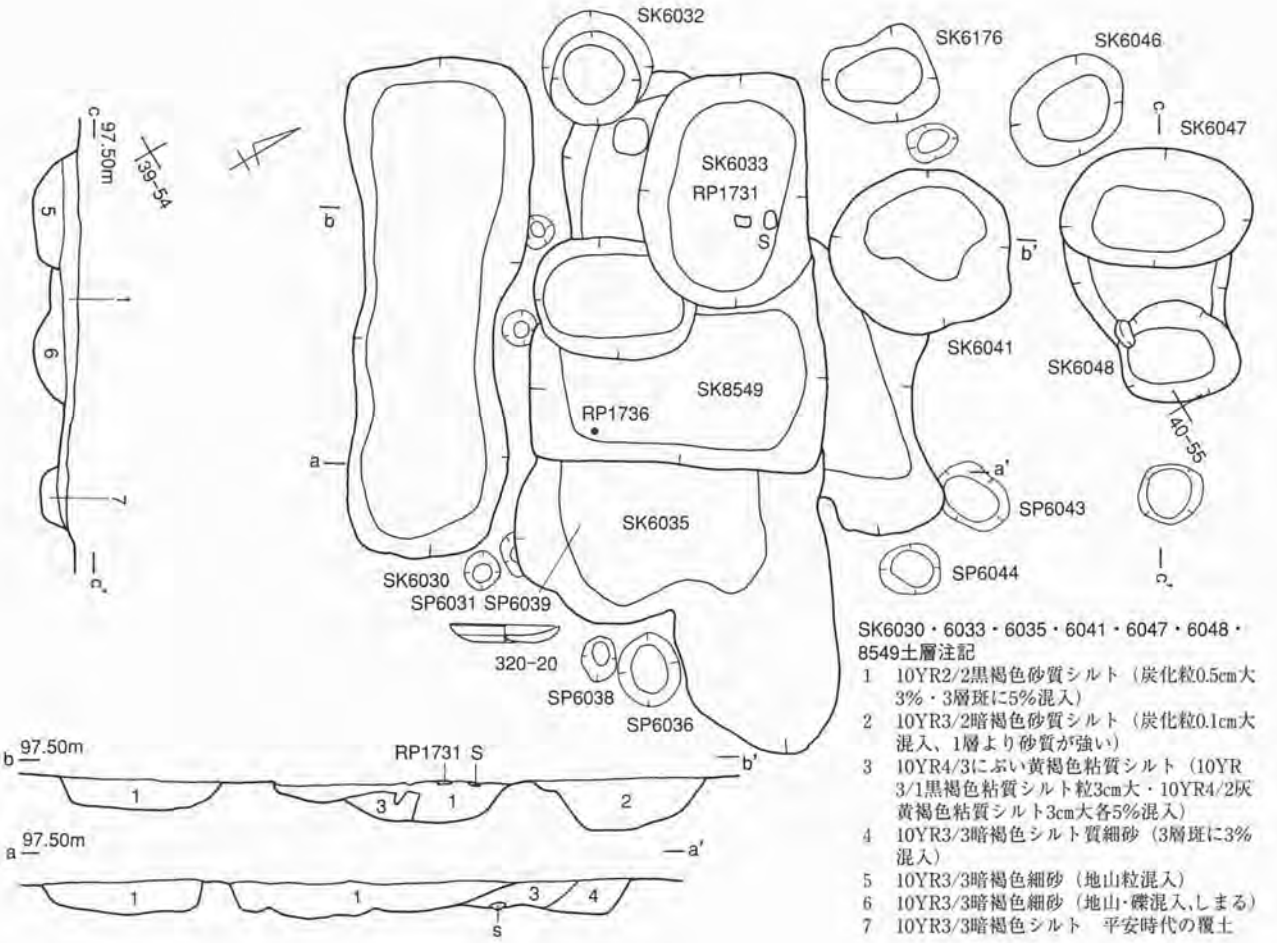
SP8019（h-h'）土層注記
1　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト（円礫2～10cm大混入）
2　10YR4/2灰黄褐色砂質シルト（円礫2～5cm大混入）

SP8017・8020（i-i'）土層注記
1　10YR7/2にぶい黄橙色シルト
2　10YR5/4にぶい黄褐色シルト（円礫3cm大混入）
3　10YR6/3にぶい黄橙色シルト（円礫1cm大混入）
4　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト（上・底位に円礫混入）

SP8021～8023（j-j'）土層注記
1　10YR5/2灰黄褐色砂質シルト（円礫3cm大混入）
2　10YR7/2にぶい黄橙色砂質シルト（礫・円礫4cm大混入）
3　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト（円礫1～5cm大混入）
4　円礫3～8cm大堆積

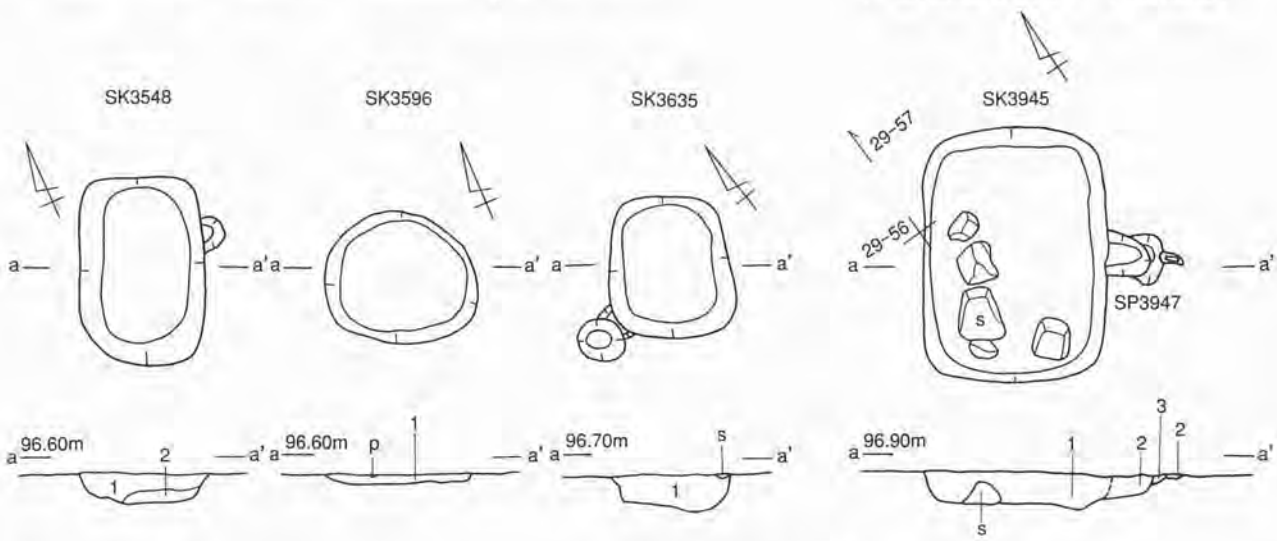


第129図　遺構実測図—SD8001・8002・8003・8025—



SK6030・6033・6035・6041・6047・6048・8549土層注記

1　10YR2/2黒褐色砂質シルト（炭化粒0.5cm大3%・3層斑に5%混入）
2　10YR3/2暗褐色砂質シルト（炭化粒0.1cm大混入、1層より砂質が強い）
3　10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト（10YR3/1黒褐色粘質シルト粒3cm大・10YR4/2灰黄褐色粘質シルト3cm大各5%混入）
4　10YR3/3暗褐色シルト質細砂（3層斑に3%混入）
5　10YR3/3暗褐色細砂（地山粒混入）
6　10YR3/3暗褐色細砂（地山・礫混入、しまる）
7　10YR3/3暗褐色シルト　平安時代の覆土



SK3548・3635土層注記

1　10YR3/2黒褐色シルト（地山ブロック・炭化粒混入、硬くしまる）
2　10YR3/2暗褐色シルト（地山ブロック混入、硬くしまる）

SK3596土層注記

1　10YR2/2黒褐色シルト（地山粒・遺物混入、しまる）

SK3945・3947土層注記

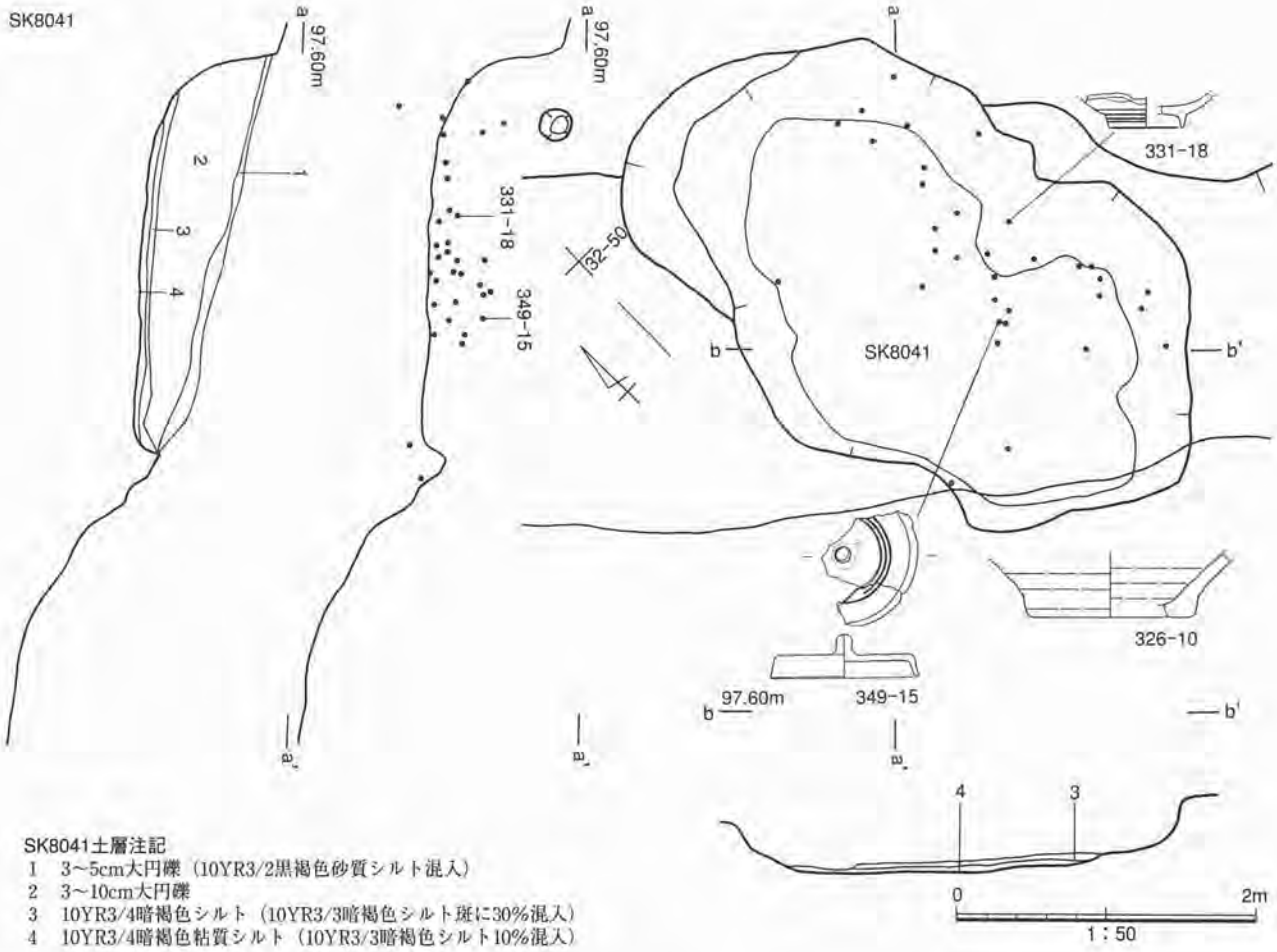
1　10YR2/1黒色シルト（10YR1.7/1黒色シルト・10YR5/4にぶい黄褐色シルト粒0.5～1cm大各10%、炭化粒0.5cm大5%混入）
2　1層に類似、1層より黄褐色シルト粒少ない
3　10YR2/1黒色シルト（純粋）

遺物S＝1：6

0　2m
1：50

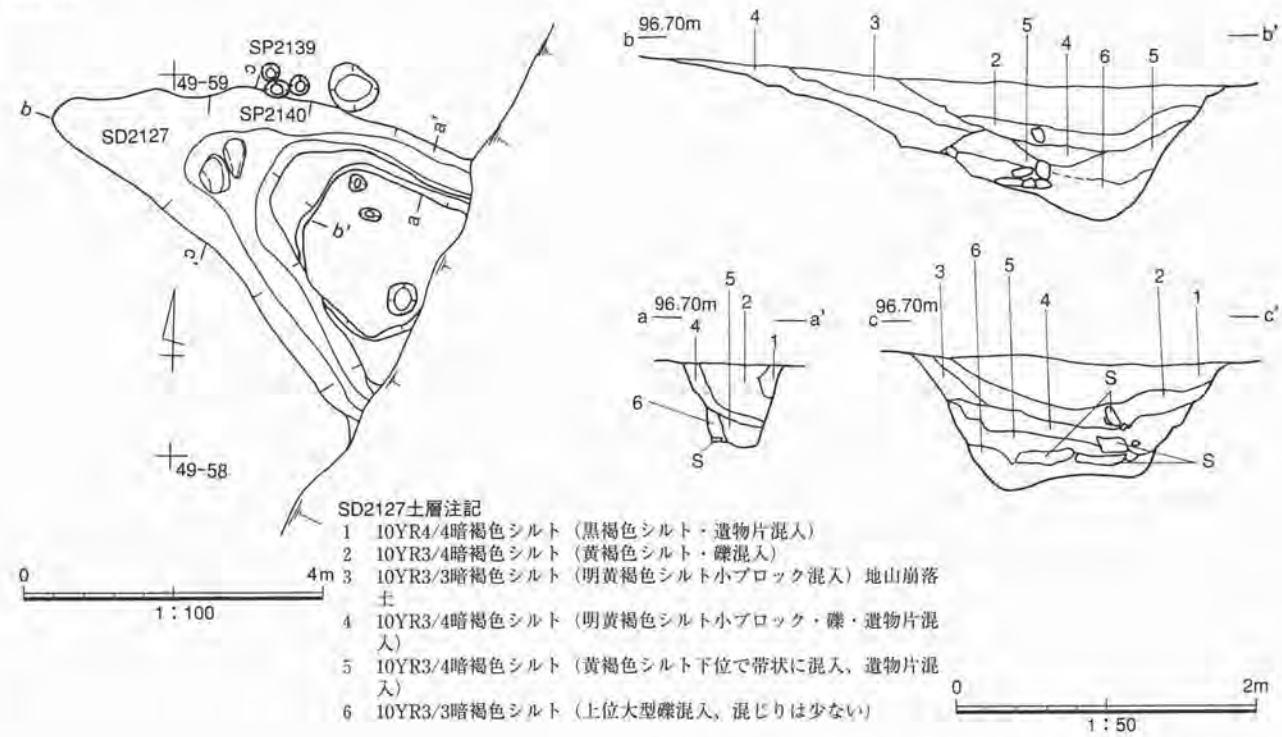
第130図　遺構実測図—SK3548・3596・3635・3945・6030・6033他—

SK8041



SK8041土層注記
1　3～5cm大円礫（10YR3/2黒褐色砂質シルト混入）
2　3～10cm大円礫
3　10YR3/4暗褐色シルト（10YR3/3暗褐色シルト斑に30%混入）
4　10YR3/4暗褐色粘質シルト（10YR3/3暗褐色シルト10%混入）

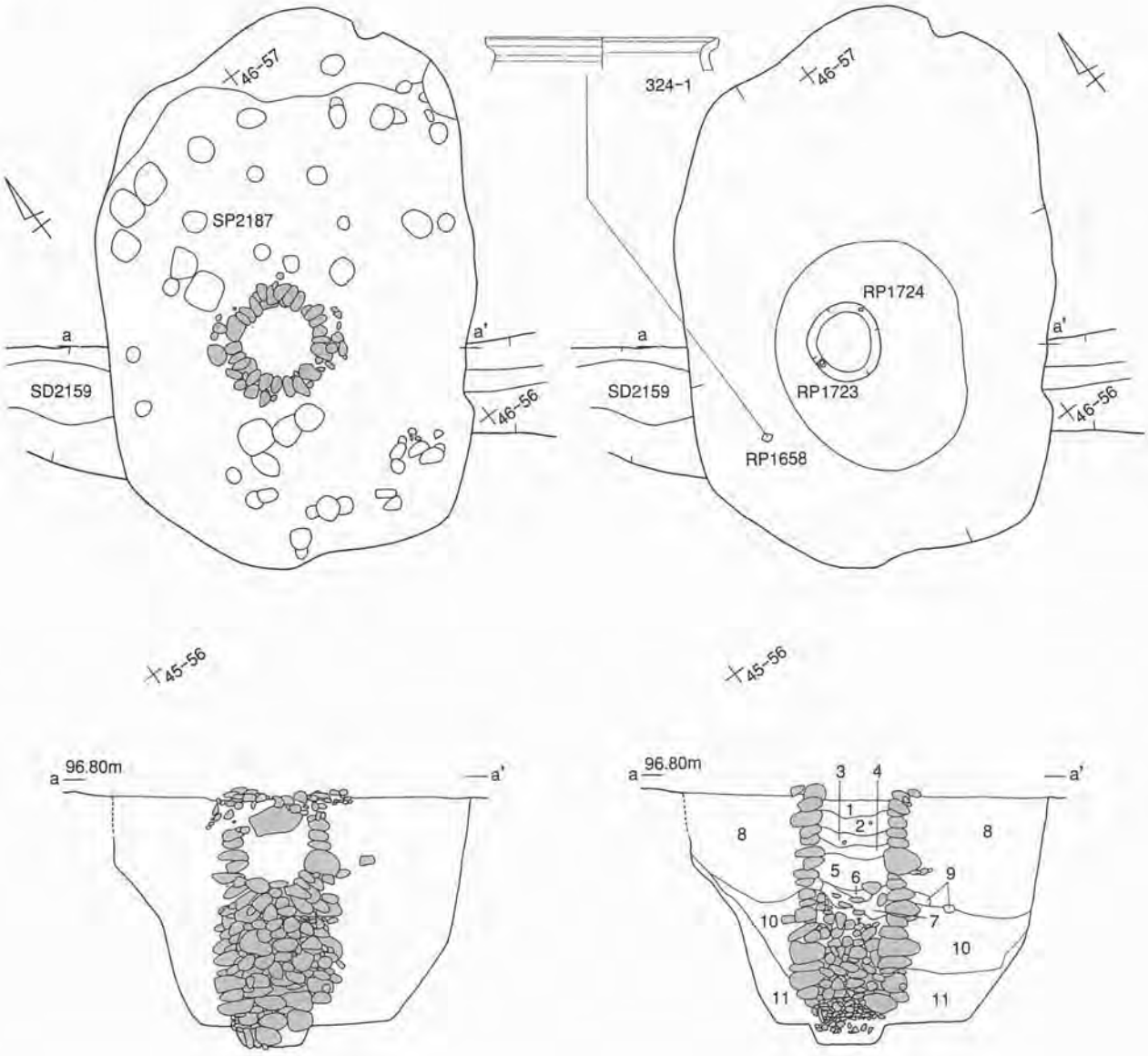
SD2127



SD2127土層注記
1　10YR4/4暗褐色シルト（黒褐色シルト・遺物片混入）
2　10YR3/4暗褐色シルト（黄褐色シルト・礫混入）
3　10YR3/3暗褐色シルト（明黄褐色シルト小ブロック混入）地山崩落土
4　10YR3/4暗褐色シルト（明黄褐色シルト小ブロック・礫・遺物片混入）
5　10YR3/4暗褐色シルト（黄褐色シルト下位で帯状に混入、遺物片混入）
6　10YR3/3暗褐色シルト（上位大型礫混入、混じりは少ない）

第131図　遺構実測図―SK8041・SD2127―

SE2146



SE2146土層注記

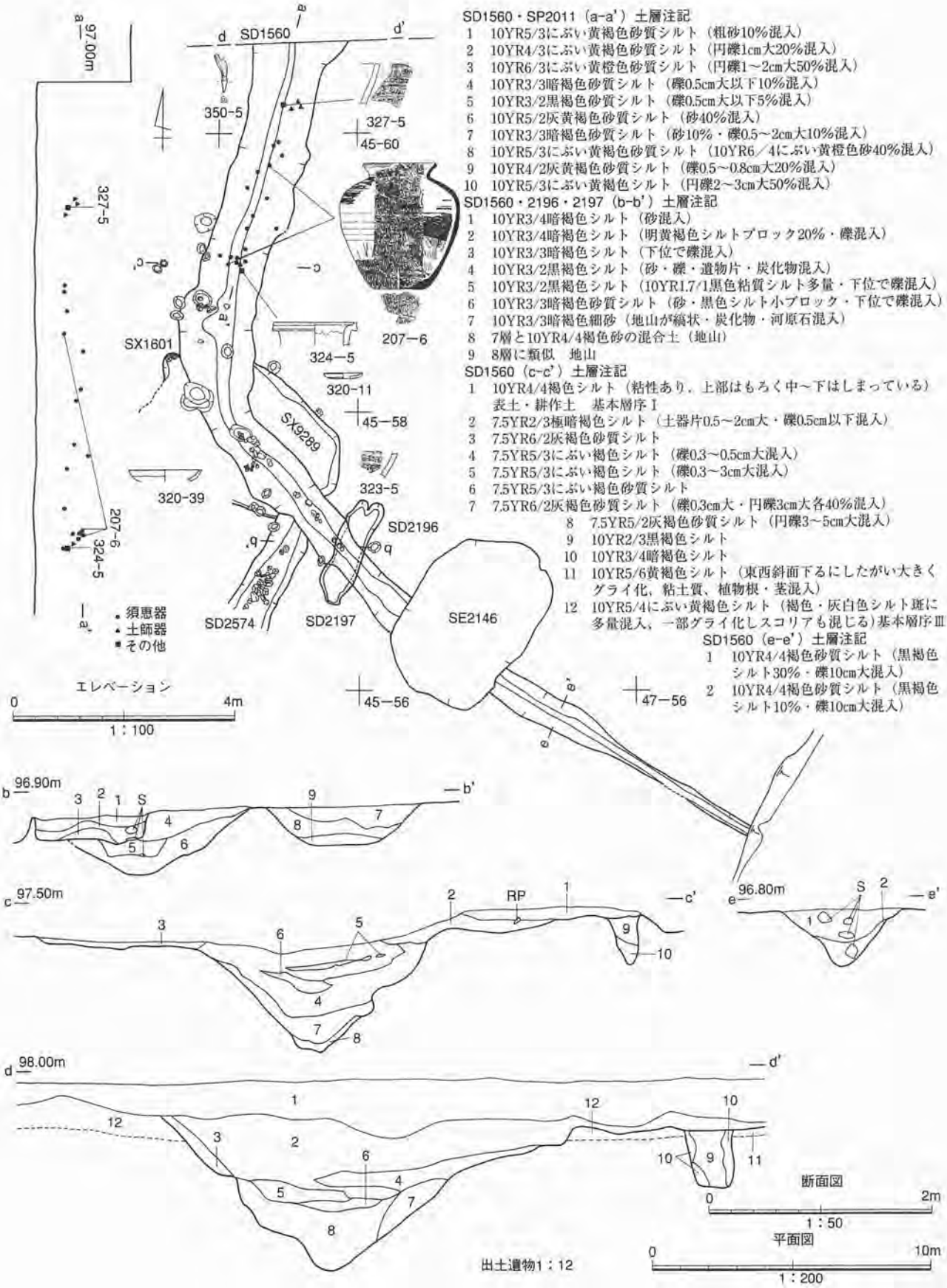
1　10YR2/2黒褐色粘質シルト（わずかに灰白色粘土を粒状に混入）
2　10YR3/2暗褐色粘質シルト（小礫混入、上部横帯ブロックで酸化した灰黄褐色粘土混入）
3　10YR2/3暗褐色シルト（小礫混入、やや砂質を帯びわずかに黄褐色シルトを粒状に混入）
4　10YR3/3暗褐色シルト（黄褐色シルト斑に50%混入）
5　10YR2/3黒褐色シルト（黄褐色・にぶい黄橙色シルトを粒状に混入、炭化粒混入）
6　10YR3/3暗褐色砂質シルト（黄褐色シルト粒状に混入）
7　7.5YR2/3極暗褐色砂質シルト（礫混入、シルトの砂質が強い）
8　10YR3/2黒褐色砂質シルト（大型礫によって形成、土・礫を同時に埋設）
9　10YR4/6褐色粘質シルト
10　10YR3/3暗褐色粘質シルト（褐色粘質シルト中ブロックで斑に5%混入、上部ほど砂混入激しい）
11　10YR4/4褐色砂（わずかに暗褐色粘土質シルトを中ブロックで混入、小型礫わずかに混入）
12　10YR4/4褐色微砂（11層よりきめが細かい、混入物ほとんどなし）

遺物S＝1：12

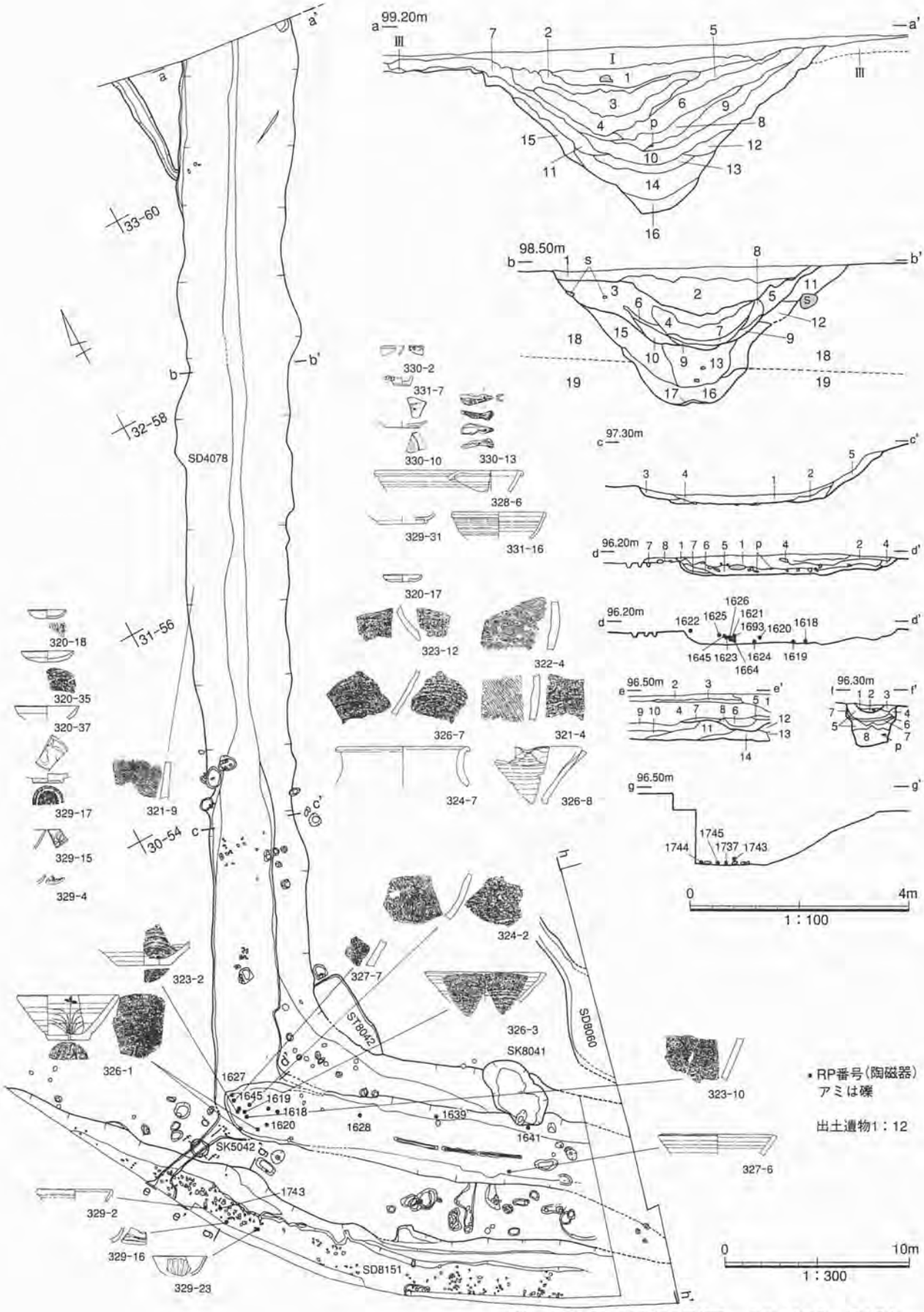
アミは礫

0　5m
1：80

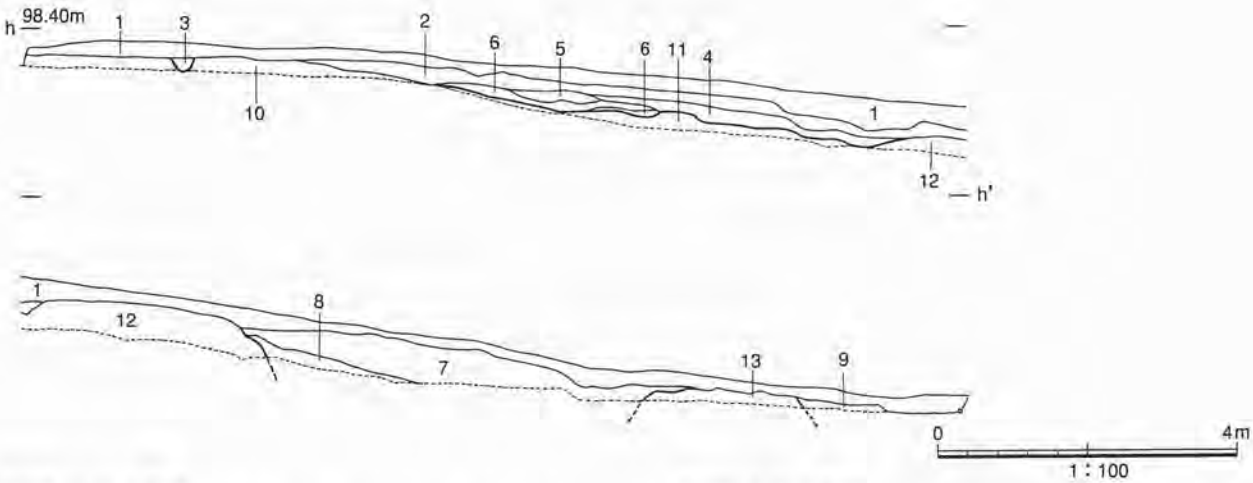
第132図　遺構実測図―SE2146―



第133図　遺構実測図―SD1560―



第134図　遺構実測図—SD4078・8151—



SD4078（a-a'）土層注記
1　10YR4/4褐色シルト（やや粘性あり、上部はもろく中～下はしまっている）表土・耕作土
Ⅲ　10YR5/6黄褐色シルト（東西斜面下るにしたがい大きくグライ化、粘土質、植物根混入）
1　10YR6/4にぶい黄橙色砂（ややしまる、2.5Y7/4浅黄色シルトブロック・礫混入）
2　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト（ややしまる、浅黄色シルト・礫・スコリア混入）
3　10YR5/3にぶい黄褐色粗砂（しまりなし、礫多量混入）
4　10YR4/2灰黄褐色砂質シルト（しまる、立上がりでグライ化、黒色炭化物・植物根・灰白色シルト斑に混入）
5　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト（硬くしまる、浅黄色シルト小ブロック・礫混入）
6　2.5Y6/4にぶい黄色砂（しまりがなくもろく崩れやすい、多量礫中に大型礫わずかに混入）
7　10YR7/1灰白色砂質シルト（ややしまる、立上がりでグライ化、礫・石英・スコリア混入）
8　10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト（やや粘性あり、ややしまる、黒褐色シルト・にぶい黄橙色シルト・礫・スコリア混入）
9　2.5Y6/4にぶい黄色砂(しまりがなくもろく崩れやすい、多量礫・植物根混入)
10　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト（しまる、礫・粗砂混入）
11　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト（やや粘性あり、ややしまる、立上がりでグライ化、礫・石英・スコリア混入）
12　10YR4/4褐色粘質シルト（粘性あり、あまりしまりなし、礫・粗砂混入）
13　10YR3/3暗褐色粘質シルト（粘性あり、ややしまる、礫混入）
14　10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト（やや粘性あり、ややしまる、礫・粗砂混入）
15　10YR5/1褐灰色粘質シルト（粘性あり、ややしまる、立上がりでグライ化、礫・スコリア混入）
16　10YR3/4暗褐色粗砂（しまりなし、礫多量混入、最も礫の規模大）

SD4078（b-b'）土層注記
1　10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルト（中央部10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト40%・有機質土・円礫1～4cm大混入）
2　10YR6/2灰黄褐色砂質シルト（円礫上位1cm大・下位10cm大堆積状に混入）自然堆積
3　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト（円礫2cm大混入）
4　10YR6/2灰黄褐色砂質シルト（10層10%混入、円礫多量混入中大きいもので20cm大）
5　10YR6/2灰黄褐色砂質シルト（上位円礫1cm大・下位多量砂混入）
6　10YR6/3にぶい黄橙色シルト（10YR6/2灰黄褐色シルト斑に50%・円礫混入）
7　7.5YR3/3暗褐色砂質シルト（円礫1cm大混入）
8　4層に類似（10層30%混入）
9　10YR3/4暗褐色砂（暗褐色シルト10%混入、黒味を帯びしっとりとした層、かわきおそい）
10　2.5Y5/4黄褐色シルト質細砂（やや粘性あり、硬くしまる、円礫0.5～5cm大5%混入）
11　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト（円礫1cm大混入）
12　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト
13　10YR2/3黒褐色砂質シルト（円礫1～5cm大堆積）
14　10YR5/2灰黄褐色砂質シルト（円礫2cm大混入）
15　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト（円礫1～10cm大混入）
16　10YR3/2黒褐色砂質シルト（粘性あり、円礫1～5cm大10%・地山10%斑に混入）
17　鉄分
18　2.5Y4/3オリーブ褐色砂（一部黒味を帯びる、植物根・円礫1～10cm大20%混入）
19　2.5Y4/3オリーブ褐色砂（鉄分付着、円礫1～5cm大10%混入）

SD4078（c-c'）土層注記
1　10YR2/2黒褐色粘質シルト（円礫2cm大混入）
2　10YR4/2灰黄褐色シルト（10YR6/3にぶい黄橙色シルト斑に50%混入）
3　10YR2/2黒褐色シルト（10YR5/3にぶい黄褐色シルト斑に20%混入）
4　10YR6/3にぶい黄橙色シルト（10YR7/1灰白色シルト30%・10YR4/1褐灰色シルト塊混入）
5　10YR6/4にぶい黄橙色シルト（10YR5/2灰黄褐色シルト50%混入）

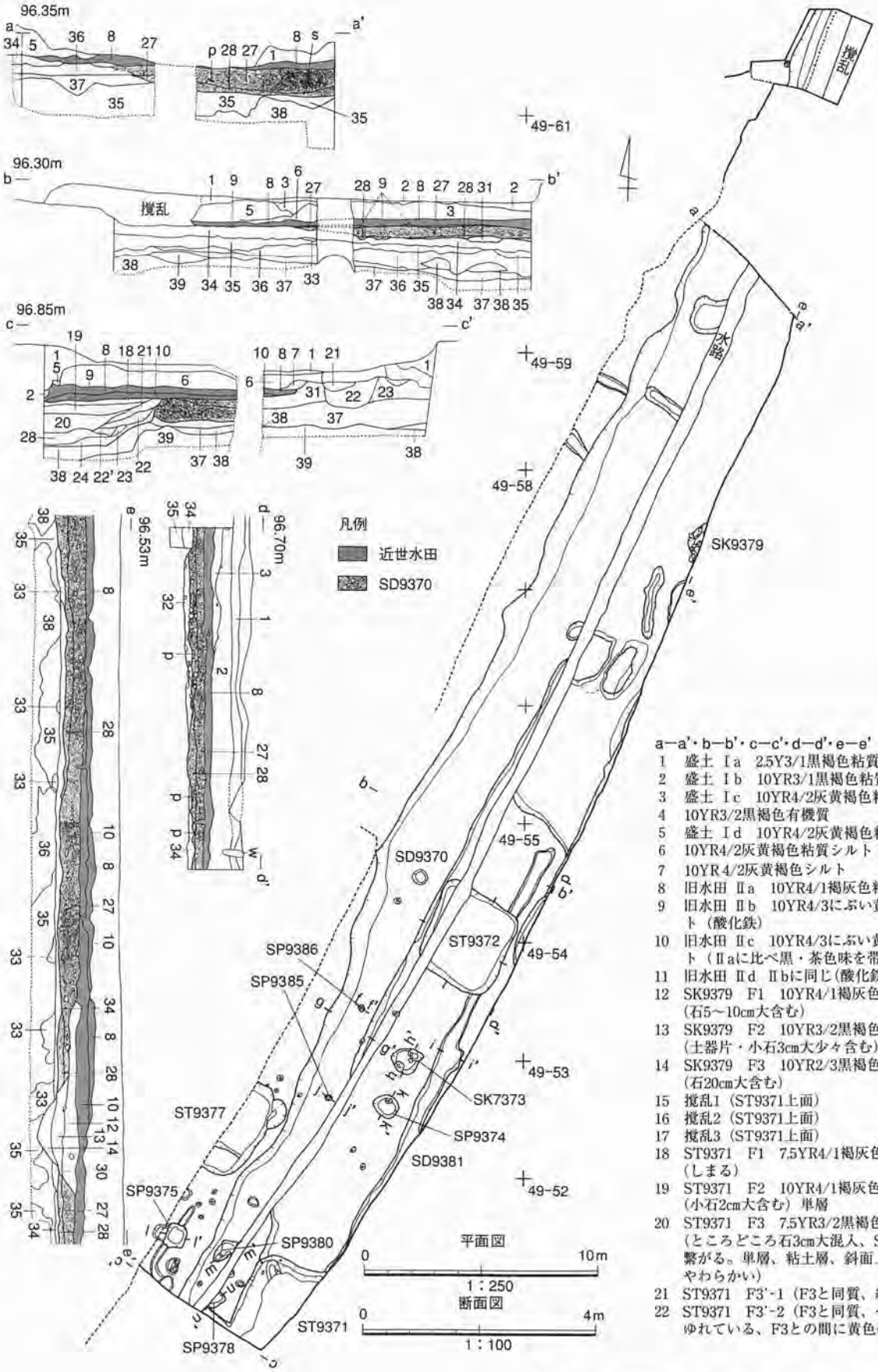
SD4078（d-d'）土層注記
1　10YR5/4にぶい黄褐色シルト（礫0.3～0.5cm大混入）中世細砂層
2　10YR4/4褐色シルト（10YR7/3にぶい黄橙色シルト斑に40%混入）
3　10YR7/3にぶい黄橙色シルト（10YR6/2灰黄褐色シルト塊40%混入）
4　10YR5/4にぶい黄褐色シルト（10YR6/4にぶい黄橙色シルト斑に混入）
5　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト（円礫4～5cm大混入、3層に類似し2層・にぶい黄橙色シルト10%混入）
6　2.5Y6/4にぶい黄色粘質シルト（2.5Y4/4オリーブ褐色シルト斑に30%混入）
7　2.5Y4/4オリーブ褐色粘質シルト（2.5Y7/4浅黄色シルト・2.5Y4/4オリーブ褐色シルト混入）
8　10YR6/3にぶい黄橙色シルト（1層に類似、円礫混入）
9　8層に類似（8層より黒味を帯びる）

基本層序（h-h'）土層注記
1　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　表土・耕作土
2　10YR6/4にぶい黄橙色砂質シルト（円礫2～5cm大混入）盛土
3　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（円礫2cm大混入）
4　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト（円礫3～7cm大混入）SD890
5　10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト（円礫2cm大混入）SD8010
6　10YR7/4にぶい黄橙色砂質シルト（円礫板状に多量混入）SD8010
7　10YR5/3にぶい黄褐色シルト（円礫2～5cm大混入）SD4078
8　10YR4/2灰黄褐色シルト（円礫3cm大混入）SD4078
9　10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルト（円礫3cm大混入）SD8151
10　10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルト（円礫1～4cm大多量混入）
11　10YR4/6褐色砂質シルト（円礫3cm大10%混入）盛土
12　10YR6/3にぶい黄橙色砂質シルト（円礫2～8cm大堆積状に混入、平板型の石が多い）
13　10YR6/6明黄褐色粘質シルト

SD8151・5042（e-e'）土層注記
1　表土
2　10YR7/4にぶい黄橙色粘質シルト　表土
3　10YR5/2灰黄褐色シルト（10YR7/4にぶい黄橙色シルト10%混入）
4　10YR5/3にぶい黄褐色シルト（円礫1cm大混入）
5　10YR5/3にぶい黄褐色シルト
6　10YR5/3にぶい黄褐色シルト（10YR6/3にぶい黄橙色シルト斑に30%混入）
7　10YR5/3にぶい黄褐色シルト（10YR6/3にぶい黄橙色シルト斑に20%混入）
8　10YR5/3にぶい黄褐色シルト（10YR6/3にぶい黄橙色シルト塊5%混入）
9　10YR5/2灰黄褐色シルト（10YR6/2灰黄褐色シルト斑に5%混入）
10　10YR5/2灰黄褐色シルト
11　10YR5/3にぶい黄褐色シルト（10YR6/3にぶい黄橙色シルト斑に40%混入）
12　10YR5/2灰黄褐色シルト（10YR6/3にぶい黄橙色シルト斑に40%混入）
13　10YR6/3にぶい黄橙色シルト（10YR5/2灰黄褐色シルト塊10%混入）
14　10YR5/2灰黄褐色シルト（10YR6/3にぶい黄橙色シルト塊30%混入）

SD8154・SK5042（f-f'）土層注記
1　10YR6/2灰黄褐色シルト（10YR5/2灰黄褐色シルト・10YR7/3にぶい黄橙色シルト各5%斑に混入）SD8154
2　10YR4/2灰黄褐色砂質シルト（円礫3cm大・その他の円礫多量混入）SD8154
3　10YR4/4褐色粘質シルト（10YR3/1黒褐色砂質シルト帯状に20%混入）
4　10YR4/4褐色砂質シルト　純粋
5　2.5Y7/3浅黄色粘質シルト（2.5Y5/1黄灰色シルト・10YR6/4にぶい黄橙色シルト各20%斑に混入）
6　5層・10YR3/2黒褐色砂質シルト30%混入
7　5層・10YR3/2黒褐色砂質シルト20%・10YR3/1黒褐色砂質シルト20%混入
8　7層に類似（ブロック状に各層混入）

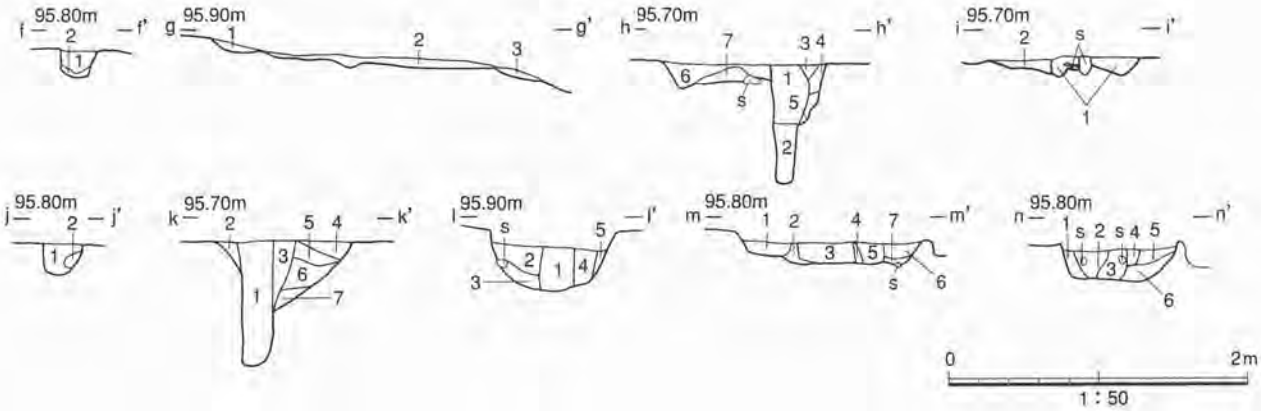
第135図　遺構実測図—SD4078・8151—



a—a'・b—b'・c—c'・d—d'・e—e'　土層注記

1　盛土 Ⅰa　2.5Y3/1黒褐色粘質シルト
2　盛土 Ⅰb　10YR3/1黒褐色粘質シルト
3　盛土 Ⅰc　10YR4/2灰黄褐色粘質シルト
4　10YR3/2黒褐色有機質
5　盛土 Ⅰd　10YR4/2灰黄褐色粘質シルト
6　10YR4/2灰黄褐色粘質シルトⅠdに同じ、
7　10YR 4/2灰黄褐色シルト
8　旧水田 Ⅱa　10YR4/1褐灰色粘質シルト
9　旧水田 Ⅱb　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト（酸化鉄）
10　旧水田 Ⅱc　10YR4/3にぶい黄褐色粘質シルト（Ⅱaに比べ黒・茶色味を帯びる）
11　旧水田 Ⅱd　Ⅱbに同じ(酸化鉄)
12　SK9379　F1　10YR4/1褐灰色粘質シルト（石5～10cm大含む）
13　SK9379　F2　10YR3/2黒褐色粘質シルト（土器片・小石3cm大少々含む）
14　SK9379　F3　10YR2/3黒褐色粘質シルト（石20cm大含む）
15　撹乱1（ST9371上面）
16　撹乱2（ST9371上面）
17　撹乱3（ST9371上面）
18　ST9371　F1　7.5YR4/1褐灰色粘質シルト（しまる）
19　ST9371　F2　10YR4/1褐灰色粘質シルト（小石2cm大含む）単層
20　ST9371　F3　7.5YR3/2黒褐色粘質シルト（ところどころ石3cm大混入、SD9370　F1と繋がる。単層、粘土層、斜面上方が砂化、やわらかい）
21　ST9371　F3'-1（F3と同質、細砂を混入）
22　ST9371　F3'-2（F3と同質、やや粗砂を巻きゆれている、F3との間に黄色砂を薄く挟む）

第136図　遺構実測図—H調査区(市道部分)—



22' 7.5YR3/1黒褐色粘土質シルト（7.5YR4/2灰褐色シルト・7.5YR5/1褐灰色砂質シルト混入）
23 ST9371 F4 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト（小石1cm大混入）単層
24 ST9371 F5 7.5YR3/1黒褐色粘質シルト（単層、グライ化粘土層、F3との間に酸化鉄を縞レンズ状に含む）
25 ST9371 F6 7.5YR3/1黒褐色粘質シルト（黄色地山土を縞状又はまだらに含み、底面に行くにしたがって粒状になる。底面に横長レンズ状に酸化鉄塊層を縞状に含む）
26 ST9371 F6' F6と同質（地山土を斑状。酸化鉄塊層を縞状に含む）
27 SD9370 F1 7.5YR3/1黒褐色粘質シルト（単層。泥炭質で遺物を含む。しまる）
28 SD9370 F2 7.5YR3/1（F1と同質。三角自然堆積。F1との間に遺物を多く含み、砂を縞状又は斑に含む。しまる）
29 SD9370 F2' 7.5YR褐灰砂質シルト（ところどころに7.5YR4/3褐色砂質シルト粒を含む。強いグライ化。遺物少ない）第5トレンチ南面断面図参照
30 SP9389（註記なし）
31 SD9381 10YR3/2黒褐色粘質シルト(下部に10YR2/1黒色粘質シルトの斑少々あり）中央トレンチ南北断面図参照
32 SX9387 10YR4/1褐灰色砂質シルト、小石（2～4cm）90%、10YR3/1黒褐色砂質シルト10%混入
33 地山 粘土(漸移層)10YR4/1褐灰色砂質シルト80%、2.5Y6/2灰黄色粘質シルト70%混入
34 地山 粘土 2.5Y7/3浅黄色粘質シルト90%、10YR5/6黄褐色粘質シルト筋状ににじむように混入
35 地山 礫層 7.5YR4/3灰褐色砂・砂利層
36 地山 酸化土 7.5YR4/4褐色砂質シルト20%、7.5Y5/2灰褐色砂質シルト20%、7.5YR3/1黒褐色砂質シルト60%、横筋状に混入
37 地山 微砂 10YR5/3にぶい黄褐色砂質シルト
38 地山 粗砂 2.5Y5/3黄褐色砂質シルト
39 地山 粗砂 38層より粗い
※34：基本層序Ⅲ
33・35～39：基本層序Ⅳ

f-f' 土層注記
1 10YR3/1黒褐色シルト
2 10YR3/1黒褐色シルト（10YR4/2灰黄褐色シルト斑に混入）

g-g' 土層注記
1 10YR6/4にぶい黄橙色シルト（10YR5/2灰黄褐色シルト斑に10%混入）
2 10YR4/2灰黄褐色粘質シルト（10YR6/2灰黄褐色シルト2%混入）地山
3 10YR5/2灰黄褐色粘質シルト（10YR6/2灰黄褐色シルト斑に20%混入）

h-h' 土層注記
1 7.5YR3/1黒褐色シルト
2 7.5YR3/2黒褐色砂質シルト
3 7.5YR4/1褐灰色シルト（7.5YR6/1褐灰色シルト斑に40%混入）
4 10YR5/2灰黄褐色シルト（7.5YR4/4褐色シルト筋状に混入）
5 7.5YR3/2黒褐色砂質シルト
6 7.5YR4/1褐灰色シルト（7.5YR5/2灰褐色シルト粒状に混入）
7 10YR6/2灰黄褐色粘質シルト

i-i' 土層注記
1 10YR4/1褐灰色シルト
2 10YR4/2灰黄褐色シルト（10YR5/2灰黄褐色シルト斑に5%混入）

j-j' 土層注記
1 10YR3/1黒褐色シルト（10YR5/3にぶい黄褐色シルト斑に10%混入）
2 10YR5/1褐灰色シルト（10YR5/3にぶい黄褐色シルト斑に混入）

k-k' 土層注記
1 7.5YR4/1褐灰色砂質シルト（小石0.5～1cm大混入、下位にいくにしたがい砂利）
2 10YR4/2灰黄褐色砂質シルト（小石1cm大混入）
3 10YR4/2灰黄褐色砂質シルト（小石0.5～1cm大混入）
4 7.5YR4/1褐灰色シルト
5 7.5YR4/2灰褐色砂質シルト（小石1cm大混入）
6 10YR5/2灰黄褐色砂質シルト（小石0.5cm大混入）
7 10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト（7.5YR4/2灰褐色シルト筋状に10%混入）

l-l' 土層注記
1 10YR3/2黒褐色シルト（10YR5/2灰黄褐色シルト10%・下部に小石1cm大混入）
2 10YR3/2黒褐色シルト（10YR5/2灰黄褐色砂質シルト塊状に20%混入）
3 10YR4/2灰黄褐色砂質シルト（10YR4/2灰黄褐色シルト10%・10YR5/3にぶい黄褐色シルト斑に40%混入）
4 10YR3/2黒褐色シルト（10YR5/3にぶい黄褐色シルト10%・下部に小石1cm大混入）
5 10YR3/2黒褐色シルト（10YR5/3にぶい黄褐色シルト斑に40%混入）

m-m' 土層注記
1 10YR4/1褐灰色粘質シルト（10YR3/1黒褐色粘質シルト粒状に20%・10YR6/3にぶい黄橙色斑に少々混入）
2 10YR4/2灰黄褐色シルト（10YR6/3にぶい黄橙色シルト斑に10%混入）
3 10YR4/1褐灰色粘質シルト（10YR7/3にぶい黄橙色シルト20%斑に混入）
4 10YR4/1褐灰色シルト
5 10YR3/2黒褐色シルト（10YR6/3にぶい黄橙色シルト粒状に20%混入）
6 10YR4/1褐灰色粘質シルト（10YR6/3にぶい黄橙色シルト斑に20%混入）
7 10YR6/3にぶい黄橙色シルト（10YR4/1褐灰色シルト斑に20%混入）

n-n' 土層注記
1 10YR3/2黒褐色シルト（10YR6/3にぶい黄橙色シルト斑に10%・小石1cm大混入）
2 10YR3/2黒褐色シルト（10YR6/3にぶい黄橙色シルト斑に50%混入）
3 10YR3/2黒褐色シルト（10YR6/3にぶい黄橙色シルト・小石1cm大混入）
4 10YR3/2黒褐色シルト
5 10YR3/2黒褐色シルト（10YR3/1黒褐色シルト・10YR5/3にぶい黄褐色シルト粒状に混入）
6 10YR6/3にぶい黄橙色シルト（10YR4/2灰黄褐色シルト斑に20%混入）

第137図　遺構実測図―H調査区(市道部分)―

【掘立柱建物】

掘立柱建物は32棟検出された。束柱を持つ総柱建物とこれを持たないものがある。

総柱建物は9棟である。総柱建物は6×2間(SB1186)、4×2間(SB1183・1185・1189・6233)、3×2間(SB9365・9367)、2間×2間(SB5287)、変則的な2×2間(SB9368)がある。面積は12.1～87.2㎡である。柱間寸法は、1.6・1.7・1.8・1.9・2.0・2.1・2.2・2.3・2.4・2.5・2.8・2.9・3.0・3.1・3.2mがある。

束柱の無い建物は23棟検出された。6×2間(SB6229)、5×3間(SB5293・6232)、4×3間以上(SB6230)4×2間(SB1181・5288)、4×1間(SB1182・1192・1193)、不規則な3×3間(SB9131・9151)、3×2間以上(SB9360・9363)、2間×2間(SB1180・9150)、2×1間(SB1191・5291・5296・9364・9366)がある。面積は、3.6～84.0㎡である。柱間寸法は、0.6・0.7・0.8・0.9・1.0・1.1・1.2・1.3・1.4・1.5・1.6・1.7・1.8・1.9・2.0・2.1・2.2・2.3・2.4・2.5・2.6・2.7・2.8・2.9・3.0・3.1・3.6・3.7・3.8・4.0・4.2・4.5・4.8・4.9・6.5がある。SB1186・1189等、建物に廂または縁、塀が伴うものがある。柱の並びが建物と一致しないものについては、柱穴列(SA)として登録している。

建物の分布は、ST3562のある25～27－57～63G周辺、SB1181のある36－59G周辺、H調査区西半38～45－55～57Gに集中がある。建物は、SB1181～1183、SB1189・1185・1186の3時期の重複がある。SB1181～1183がほぼ同じ位置で建て替えられていることから、他の遺構についても同様の変遷が考えられる。

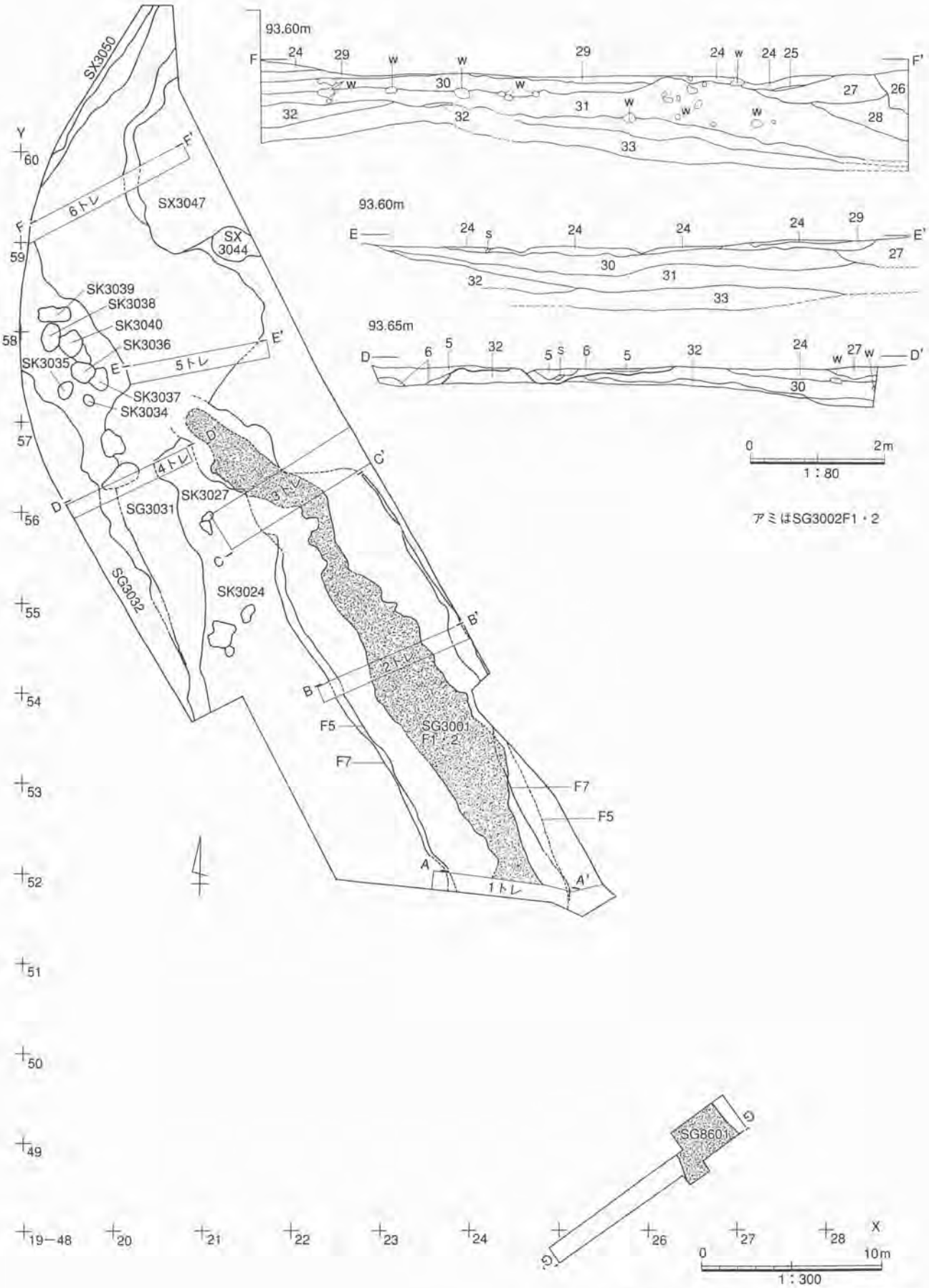
建物長軸の方位は、A・A'群およびC・C'群があり、A・A'群が多数を占める。N－17°～35°－E・N－43°～71°－Wに収まる。群ごとの建物規模の偏りは認められない。

SA5297は、長さ0.5～2mの溝状遺構が連なり、区画施設となる。ED3633とED3652、ED3413とED3414等、2基がセットになるものもある。ED3614には、直径10cmの丸太が遺存する。南西部分が削平を受け、北面が調査区外で全容は不明だが、SP4611・4613が、南東コーナーとを形成しており、南北15.5m、東西15.0m、面積23.25㎡の区画が読み取れる。また、27－65・66Gに、SA5297と同様の溝状遺構が検出されており、軸線もほぼ一致することから、区画施設の一部とみられる。溝状遺構による区画は、3区画以上あることが分かる。25～28－59～62Gの区画内には、ST3562・SB5213が位置する。

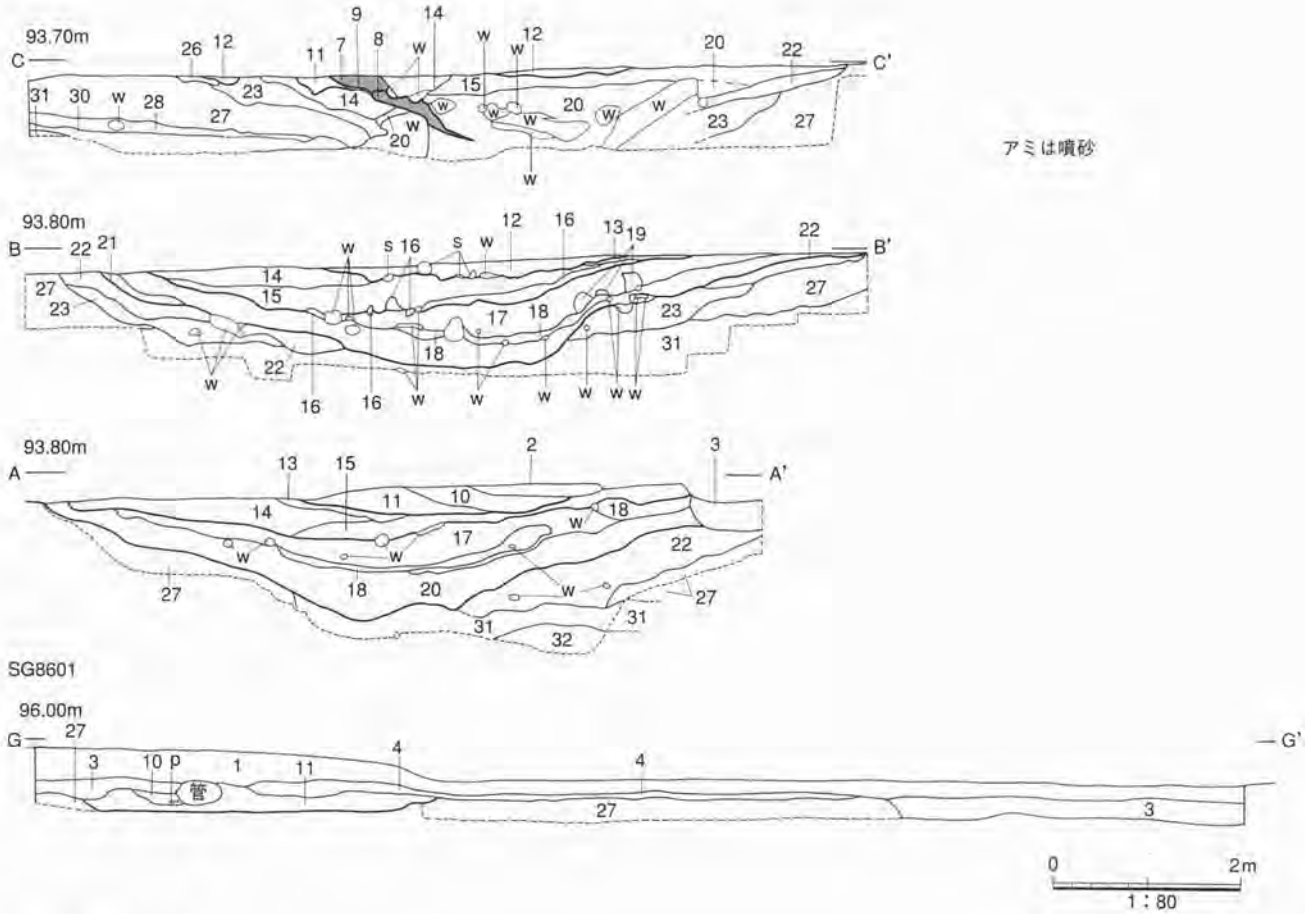
【溝】

幅3m以上で断面がV字状またはU字状になるものと、幅3m未満で断面U字状になるものに大別することができる。奈良・平安時代の溝と識別するため、前者をd類、後者をe類と呼び、上記分類に入れることができないものをf類としてまとめる。

d類は、SD1560・4078・8151がある。SD1560は、43・44－59～61Gで、N－15°－Eに傾き、44－58Gで大きく南東に向きを変える。44～47－55～58G部分（登録SD2159)は、幅2m未満深さ50cm前後となり、e類に含まれる。SD4078は、29～34－50～62GではN－25°－Eに傾き、29～31－51Gで大きく南東に向きを変える。31－55Gから以南は、底面が平坦で幅広になる。



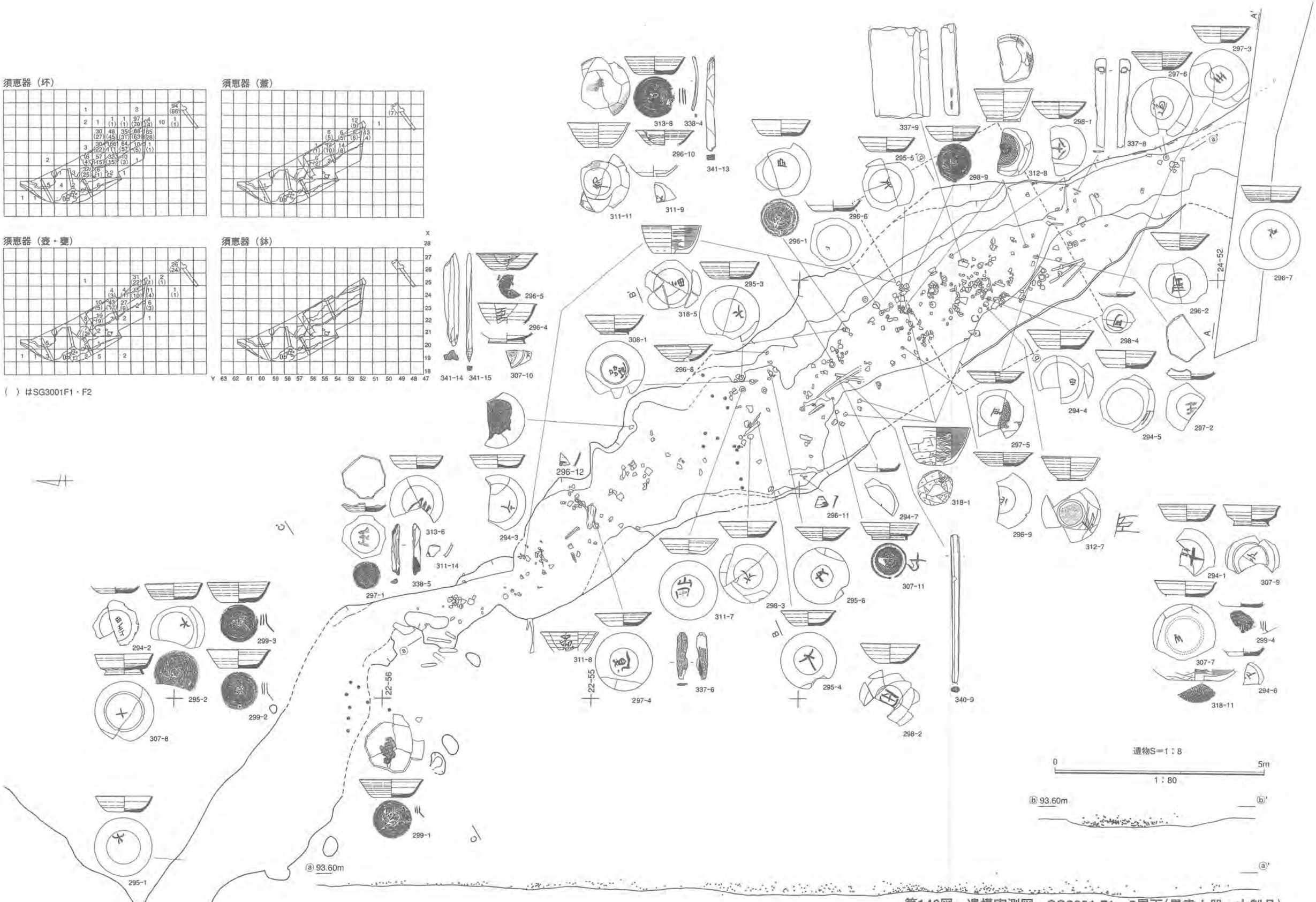
第138図　Ⅰ調査区遺構配置図



Ⅰ調査区土層注記

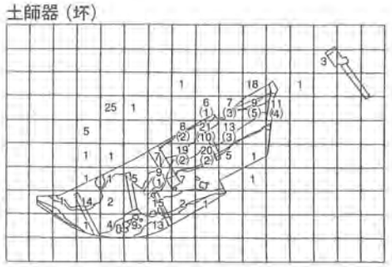
1	10YR3/3暗褐色シルト	表土
2	盛土	
3	水路撹乱	
4	10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト	旧表土
5	2～10cmの礫層	SG3032F1
6	砂層	SG3032F2
7	10YR2/3黒褐色微砂	吹き出し
8	10YR2/3黒褐色微砂	吹き出し
9	10YR1.7/1黒色粘土質シルト	吹き出し
10	10YR2/3黒褐色シルト質微砂（土器片・砂を含み硬くしまる）	SG3001F1
11	10YR4/2灰黄褐色シルト質粗砂・10YR1.7/1黒色粘土質シルトの互層（7層との分層面に土器・炭化物を多く含む）	SG3001F2
12	上位7層下位8層堆積	SG3001F1・2
13	10YR5/2灰黄褐色粘土質シルト（粘性強く安定）	SG3001F3
14	10YR5/2灰黄褐色粘土質シルト（炭化物・砂を含み汚れている）	SG3001F4
15	10YR2/3黒褐色粘土質シルト（炭化物・自然木を多く含み、粘性が強い）	SG3001F5
16	10YR5/1灰色シルト質砂（15層と17層の間に層又はブロックを含む）	SG3001F5a
17	10YR2/1黒色粘土質シルト（粘性強く自然木を多く含み倒壊様　泥炭層）	SG3001F6
18	10YR6/1灰色シルト質細砂（10YR2/1黒色粘土質シルトを斑に含む）	SG3001F6a
19	17層に18層が巻き込むように堆積	
20	10YR3/3暗褐色シルト質細砂（炭化粒・自然木・粘質土を若干含み汚れている）	SG3001F7
21	10YR5/2灰黄褐色シルト質微砂（地山様で粒子細かく汚れている）	SG3001F7a
22	10YR4/1灰色シルト質細砂（炭化粒を含み汚れている）	SG3001F8
23	10YR5/1灰色シルト質砂（粘質土を縞状又は斑に含み汚れている、砂層で粘性である）	SG3001F9
24	10YR3/3暗褐色シルト（腐植物を多く含みやわらかく、基本的に同一、薄く堆積）	基盤層Ⅰa
25	10YR3/3暗褐色砂質シルト	基盤層Ⅰa'
26	10YR5/3にぶい黄褐色シルト質粗砂	平安基盤層Ⅰc'
27	10YR5/3にぶい黄褐色シルト質細砂（純枠層、下位に腐植物を多く含む）	平安基盤層Ⅰc
28	10YR5/3にぶい黄褐色シルト質細砂（腐植物を多く含む）	平安基盤層Ⅰc"
29	10YR5/2灰黄褐色粘土質シルト（粘性が強く異臭がする、微砂・炭化粒を含みしまる）	基盤層Ⅰb
30	10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト（炭化粒・腐植物を多く含みやわらかく粘質）	基盤層Ⅱ（SG3031覆土）
31	7.5Y3/2オリーブ黒色シルト質微砂（流木を多く含み炭化粒を含みややしまる）	基盤層Ⅲ（SG3031覆土）
32	10YR5/1褐灰色シルト質細砂（純枠層、同色粘土ブロックを微量に含みやわらかい）	基盤層Ⅳ
33	10YR4/1褐灰色粘土質シルト（グライ化する泥炭層、細流木・炭化粒を含みやわらかい）	基盤層Ⅴ

第139図　Ⅰ調査区土層断面図

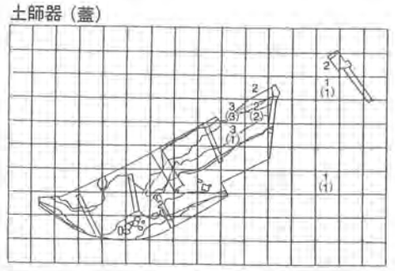


第140図　遺構実測図―SG3001 F1・2層面(墨書土器・木製品)―

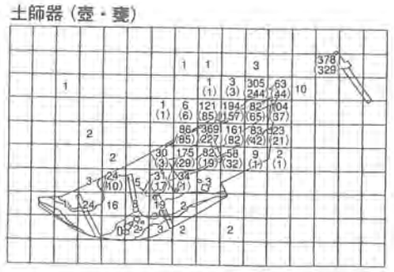
土師器（坏）



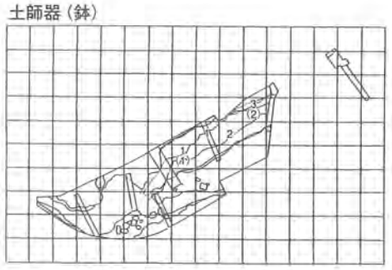
土師器（蓋）



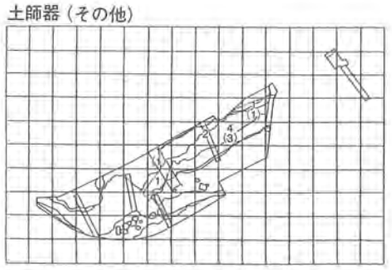
土師器（壺・甕）



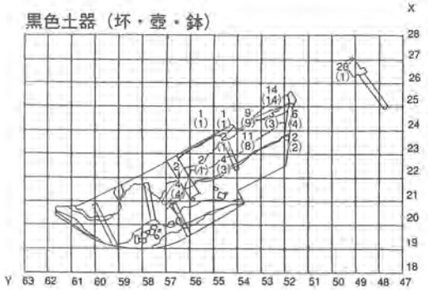
土師器（鉢）



土師器（その他）

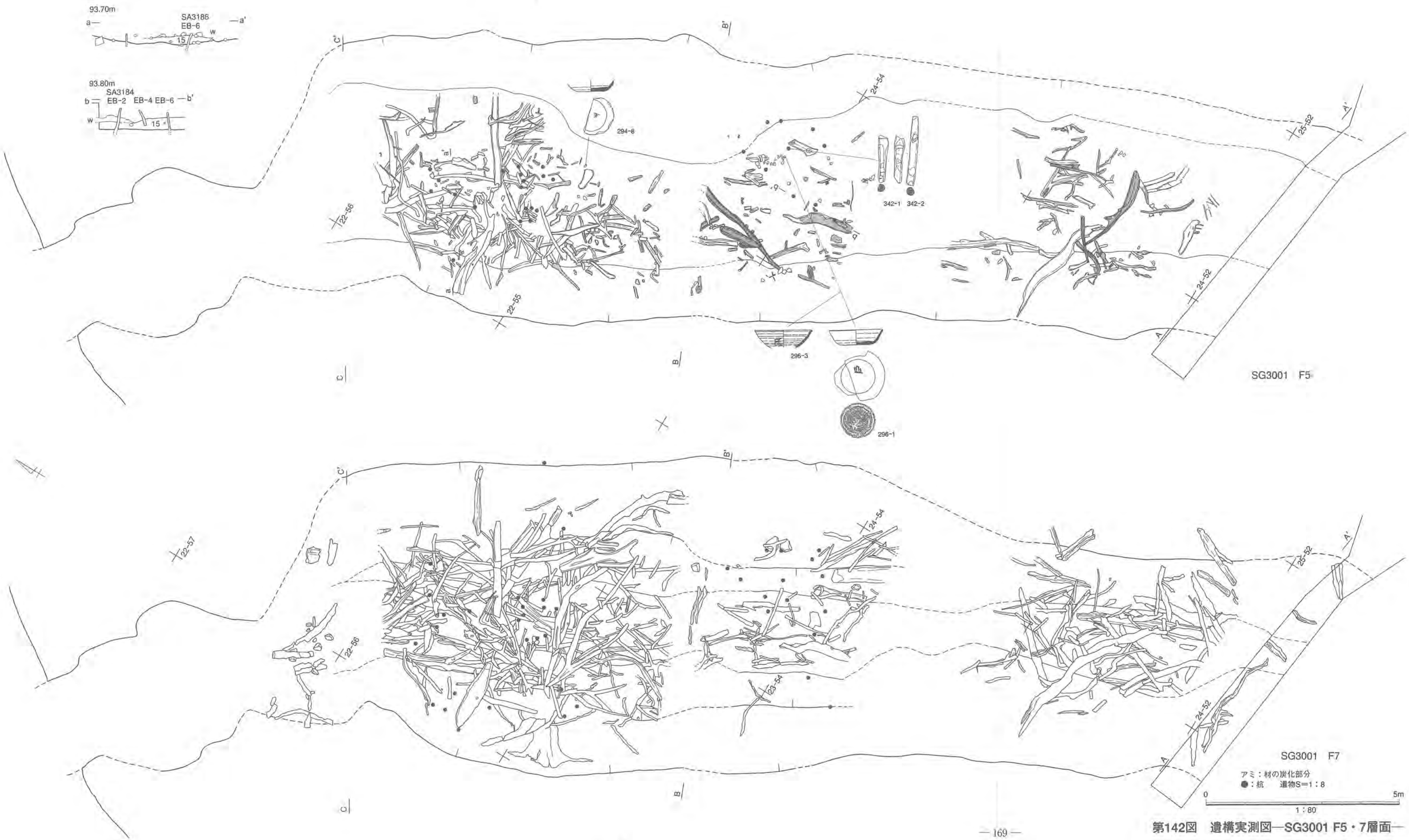


黒色土器（坏・壺・鉢）

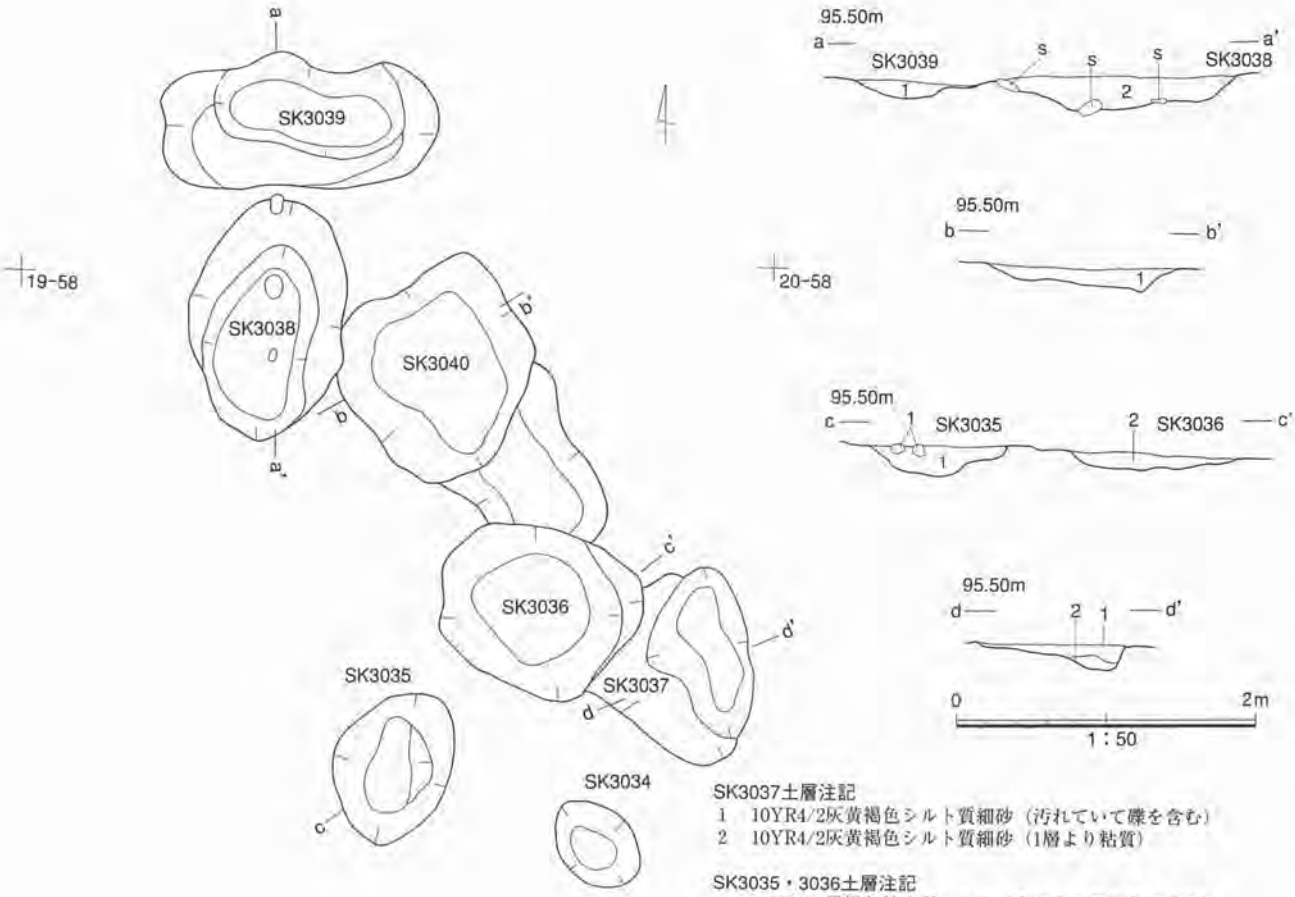


（ ）はSG3001F1・F2

第141図　遺構実測図―SG3001 F1・2層面(転用硯・灯明具)―



第142図　遺構実測図—SG3001 F5・7層面—



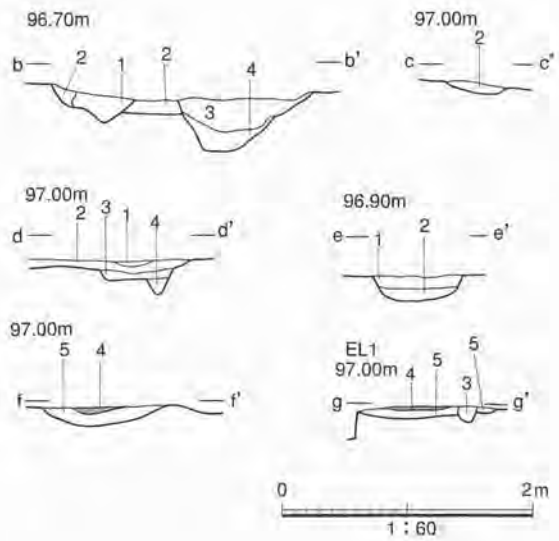
SK3037土層注記
1　10YR4/2灰黄褐色シルト質細砂（汚れていて礫を含む）
2　10YR4/2灰黄褐色シルト質細砂（1層より粘質）

SK3035・3036土層注記
1　10YR3/1黒褐色粘土質シルト（礫を含み腐植物を含む）
2　2.5YR5/3黄褐色粘土質シルト（粗砂、礫砂，撹乱様）

SK3040土層注記
1　2.5Y6/2灰赤色粘土質シルト（粘土質シルト砂層の混合土汚れている）

SK3038・3039土層注記
1　10YR3/2黒褐色粘土質シルト
2　10YR3/2黒褐色粘土質シルト（1層より粘質）

第143図　遺構実測図―Ⅰ調査区SK―



SK3230・3239・SP3231土層注記
1　10YR3/2黒褐色シルト質微砂（縄文土器・須恵器・炭化粒を含み硬くしまる）
2　10YR4/6褐色シルト質微砂（酸化鉄分多く含む、10YR2/3黒褐色粘土質シルトを含み硬くしまる）
3　10YR3/3暗褐色シルト質微砂（地山粒塊を多く含み硬くしまる）
4　10YR3/3暗褐色シルト質微砂（地山粒塊を多く含み硬くしまる）

SD4700・SK4726土層注記
1　10YR3/2黒褐色細砂
2　10YR3/3暗褐色シルト（地山土を斑に含む）
3　10YR3/3暗褐色細砂
4　10YR3/2黒褐色シルト

ST4541EK1・EL1・EL2土層注記
1　10YR5/4にぶい黄褐色シルト（炭化物混入）
2　10YR4/3にぶい黄褐色シルト（炭化物混入）
3　10YR3/2黒褐色シルト
4　5YR5/6明赤褐色シルト（微砂を少量含む）焼土
5　5YR2/2黒褐色微砂（焼けて黒色化、炭化粒を含みしまる）

第144図　遺構実測図―Ｊ調査区下面土層断面図―

底面の状況は、SD9370と類似する。上面は削平されているが、本来の地形も、31－55G部分から極端に低くなり、それに伴い溝の掘り方もこの地点を境界に変わったものと考えられる。また、31－55G以北の断面観察によると、覆土は2時期に分けることができる。第134図a－a'断面ではF1～4と5～16、b－b'断面ではF1～10と11～17に分かれる。上位の最下層に当たるa－a'断面のF4、b－b'断面のF10は、黒色を帯びる堆積層で、他層とは明らかに異なる。一定の堆積期間があったものと理解される。29～31－51Gのコーナーには、径10～20cm大の円礫が遺物と共に集中して検出された。そのコーナーから、SD8151側南西に幅50cm、深さ15cmの溝が伸びる。SD8151は調査区南壁に当たり、北壁のみの検出であるが、幅は３m以上と推定される。北壁は緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。底面に径10～20cm大の円礫と遺物が集中する。

e類はSD1555・2574・4096等である。掘り方・規模は、奈良・平安時代のb類に類似するが、SD1555・2574は緩やかに蛇行する特徴を持つ。

【井戸】

礫組のSE2146が検出された。掘り方は、長軸6.40m、短軸2.40m、深さ2.80mを測り、平面形は楕円形を呈する。礫組の井戸側は、外形1.20m、内径0.8mで、断面形は円筒形を呈する。下半は20cm前後、上半は10cm前後の扁平な礫が、合わせて19段以上積まれている。掘り方上面で、円形の土色変化を検出したが、明確な掘り方は無く、井戸に伴う柱穴は確認できない。井戸掘り方底面から須恵器・土師器、掘り方８層から中世陶器(324－1)が出土している。

【土坑】

土坑は、奈良・平安時代の分類a～c類に以下の内容を加えて分類を行う。各土坑については観察表に譲る。

	基本平面形	規模cm	深さcm	壁面	その他
d類	楕円形	100未満	30～50	やや急	集中地区あり
e類	方形	80～350	50未満	急	集中地区あり
f類	上記の分類に入らないもの				

d類にはSK1528・1529・3596・6041等がある。覆土は１～２層で人為的埋土である。

e類にはSK1540・1548・1919・3548・3945・6030・6035等がある。覆土は１～２層で人為的埋土である。28～30－56～58G、38・37－57～59G、39・40－55Gの３ケ所に集中する地区が認められる。d類の周辺にはc類の集中も認められる。SK1919から、ウマの骨(四肢骨片)が出土した。

SK2552は、f類に分類される。ST1920→ST2573→SK2552の重複関係がみられる。径２m、深さ1.9m、平面形円形、断面形筒形を呈する。壁は急な立ち上がりで、一部オーバーハングする。底面は平坦で、径0.2m以下、深さ0.15m以下の柱穴が４基検出された。覆土は、人為的埋土である。

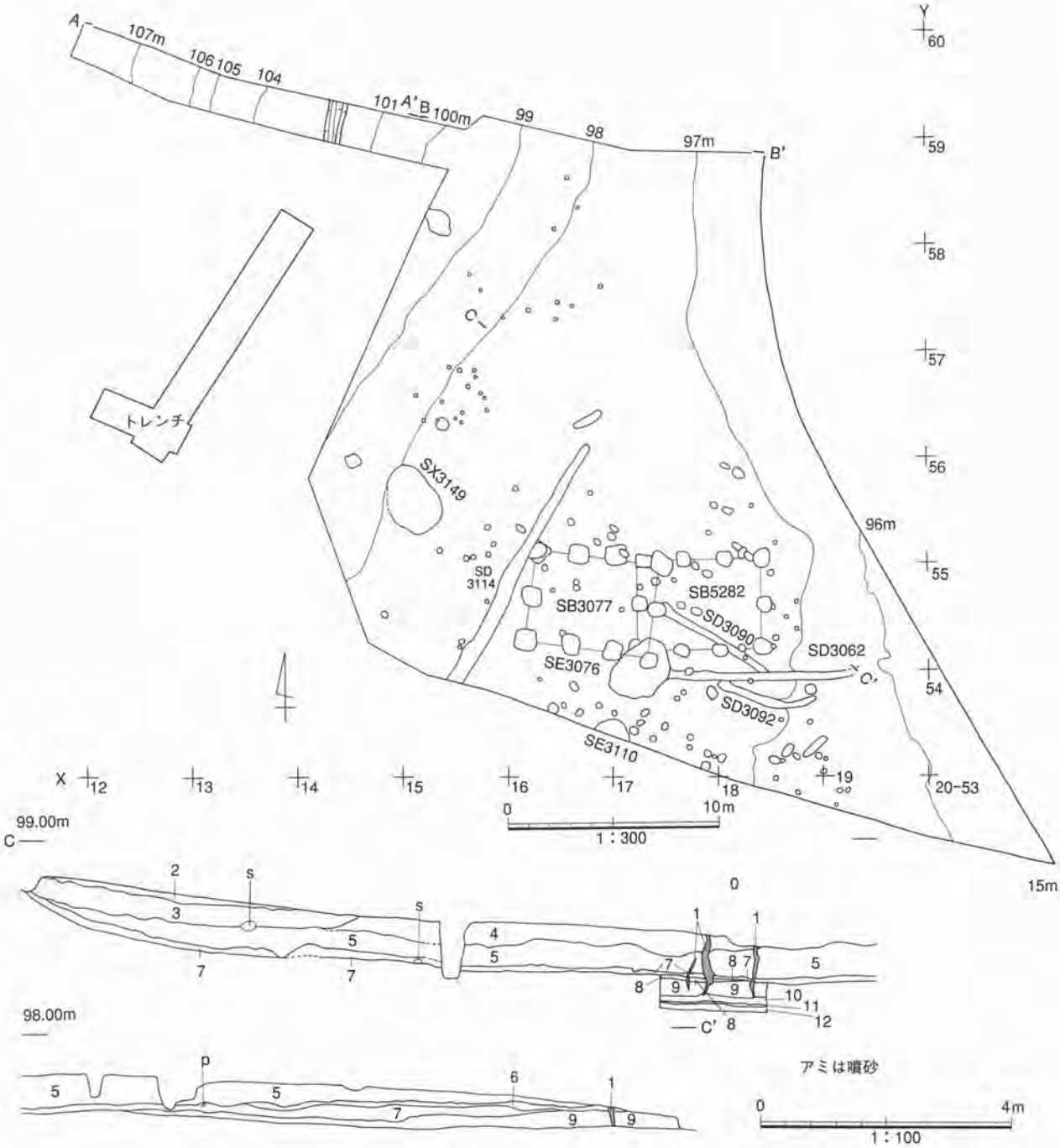
近世

近世の遺構は、溝・土坑・柱穴等である。

ST4541土層注記

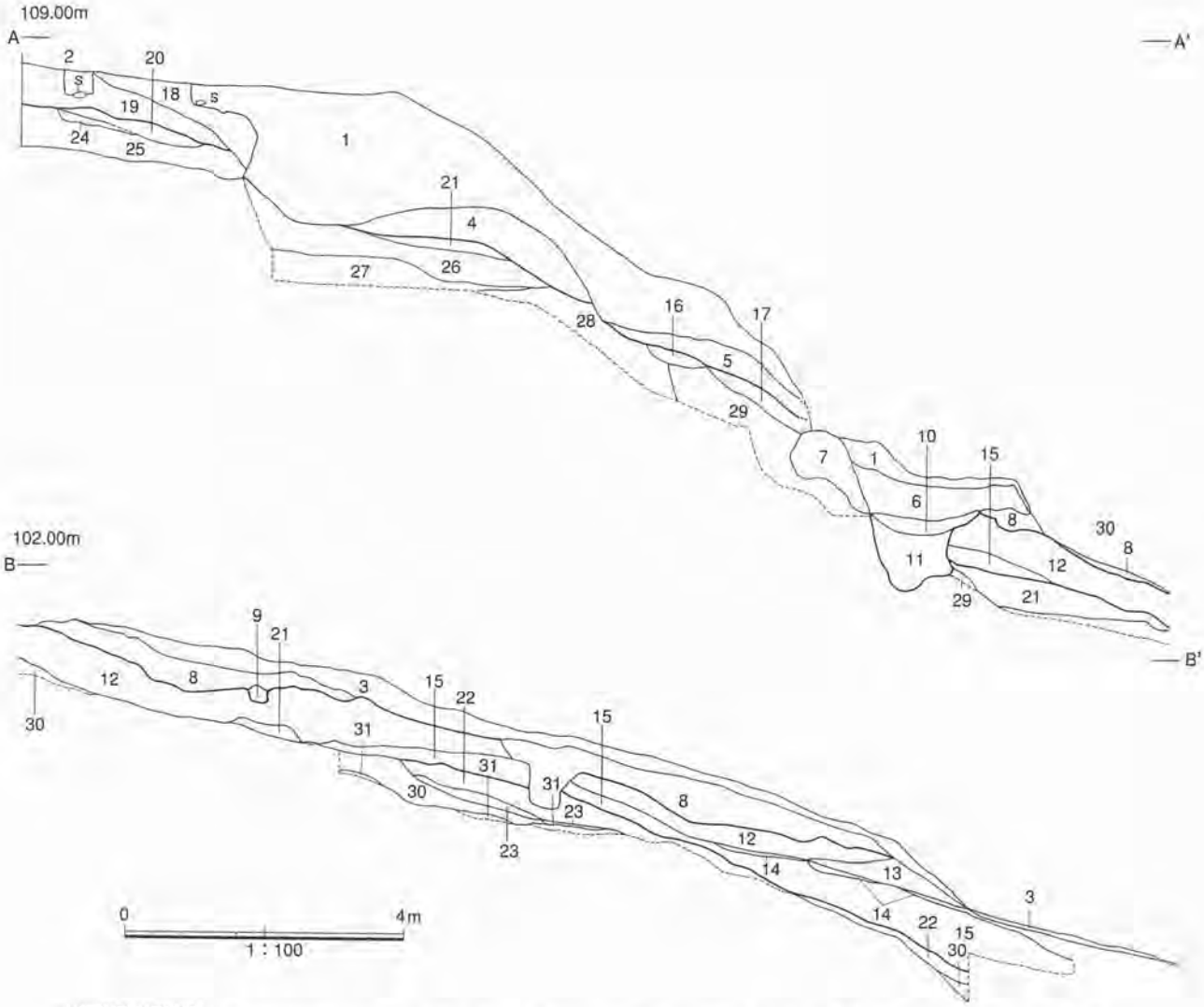
1	10YR4/6褐色砂質シルト	噴砂	7	10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルト	ST4541F
2	10YR5/4にぶい黄褐色砂質シルト（炭化物混入）	ST4541F	8	10YR4/6褐色砂質シルト（炭化物・縄文土器混入）	SK4711F
3	10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト（炭化物混入）	EL3F2	9	7.5YR4/6褐色砂	基盤層
4	5YR2/2黒褐色微砂（焼けて黒色化、炭化粒混入、しまる）	EL1F2	10	10YR5/8黄褐砂	基盤層
5	10YR4/6褐色細砂（炭化物混入）	EP4F	11	10YR4/4褐色砂	基盤層
6	10YR4/6褐色細砂	SP4904F	12	10YR4/6褐色砂	基盤層

第145図　遺構実測図―Ｊ調査区下面平面図―



J調査区土層注記
1　10YR4/6褐色砂質シルト　噴砂
2　10YR2/2黒褐色シルト（粗砂礫層）
3　10YR2/1黒色シルト　斜面の堆積土
4　10YR2/1黒色シルト（5層混入）斜面の堆積土
5　10YR6/6明黄色シルト　崩落堆積土（平安時代形成）
6　10YR3/2黒褐色シルト質微砂（5層混入、炭化粒を微量に含み硬くしまる）
7　10YR3/2黒褐色シルト質微砂（炭化粒を微量に含み硬くしまる）縄文時代包含層
8　7.5YR4/6褐色砂
9　10YR5/8黄褐色砂
10　10YR5/6黄褐色砂
11　10YR4/4褐色砂
12　10YR4/6褐色砂

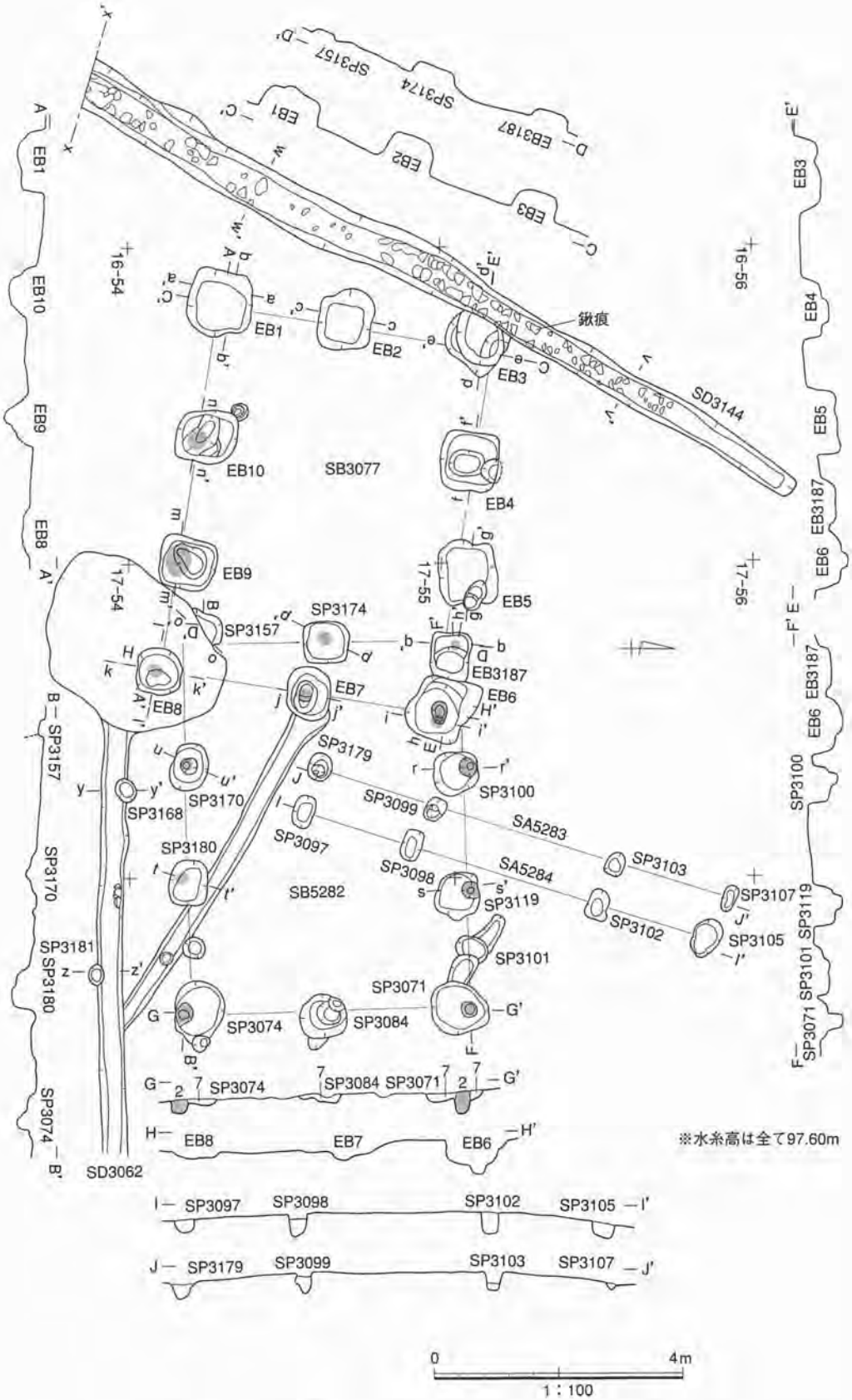
第146図　J調査区上面遺構配置図



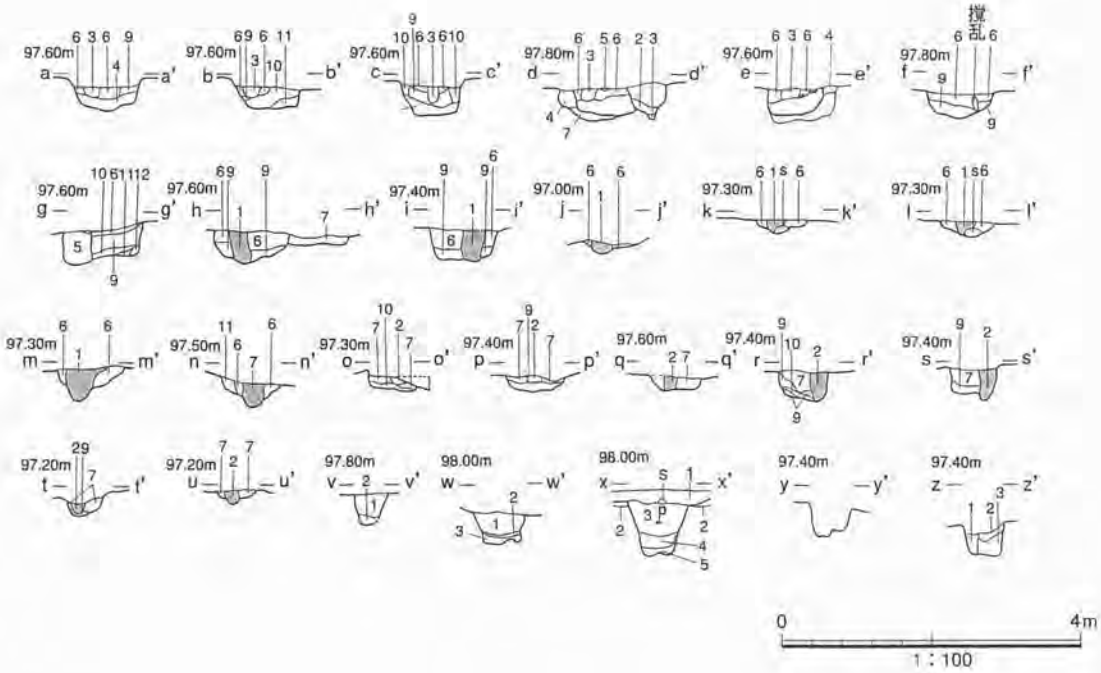
J調査区土層注記

1　10YR2/2黒褐色砂質シルト（4・18層10%斑に混入、土止め電柱丸太有り）盛土
2　10YR2/2黒褐色砂質シルト　予備調査トレンチ
3　10YR3/3暗褐色砂質シルト（円礫0.5～3cm大5%混入）表土
4　10YR3/3暗褐色砂質シルト（10YR3/4暗褐色シルト質細砂が東上位に流れ込み様に混入、木の根混入）崩落土
5　10YR3/3暗褐色砂質シルト（0.1～0.5cm大28層粒10%混入）崩落土
6　10YR3/3暗褐色砂質シルト（10層粒斑に5%・0.5～10cm大円礫10%混入）崩落土
7　2.5Y6/6明黄褐色岩（やわらかい塊）崩落土
8　10YR3/4暗褐色砂質シルト（6層に類似、6層に比べやや茶色味を帯びる）崩落土
9　21層に22層10%混入　落ち込み
10　2.5Y5/6オリーブ褐色粘土質砂（1～10cm大29層の塊5%混入）SD覆土
11　10YR2/3黒褐色砂質シルト（10層斑に0.5～3cm大円礫5%混入）SD覆土
12　10YR1.7/1黒色砂質シルト（10YR3/2黒褐色シルト質細砂10%・0.5～5cm大円礫5%混入）旧表土（平安時代）
13　23層に22層30%混入　崩落土
14　10YR3/4暗褐色粘土質シルト（12層10%混入）基盤漸移層
15　10YR4/4褐色シルト質細砂（0.5～5cm大円礫1%混入）崩落土（平安時代遺構検出面）
16　10YR3/4暗褐色砂質シルト（0.1～0.5cm大28層粒20%混入）旧表土
17　10YR3/4暗褐色砂質シルト（0.5～10cm大28層粒5%混入）旧表土
18　10YR3/4暗褐色砂質シルト（10YR2/2黒褐色砂質シルト斑に20%・10YR4/6褐色砂質シルト・同色細砂10%混入）古墳周溝埋土？
19　10YR3/4暗褐色シルト質細砂（10YR2/2黒褐色砂質シルト1cm大粒1%混入）古墳盛土？
20　10YR2/3黒褐色砂質シルト（一部細砂、砂混入）旧表土（古墳時代）
21　10YR4/3暗褐色シルト質細砂（3cm大円礫1%混入）旧表土（古墳～縄文時代）
22　10YR2/2黒褐色砂質シルト（15層が下位につれ斑に混入）旧表土（古墳～縄文時代）
23　10YR2/3黒褐色砂質シルト（22層10%混入、粘性あり）旧表土
24　10YR3/4暗褐色シルト質細砂（20層上位に約5%混入）基盤層
25　10YR4/6褐色砂質シルト（0.5～5cm大円礫20%混入）基盤層
26　2.5Y4/3（オリーブ褐色砂質シルト・円礫・0.5～10cm大平坦な礫40%混入）基盤層
27　2.5Y5/3黄褐色砂質シルト（10YR2/2黒褐色砂質シルト5%・0.5～5cm大円礫10%混入）基盤層（高瀬段丘礫層）
28　2.5Y7/6明黄褐色砂質シルト（2.5Y3/2黒褐色砂質シルト・2.5Y6/8明黄褐色砂質シルト斑に各10%混入）基盤層（第3紀凝灰岩）
29　2.5Y7/6明黄褐色砂質シルト（凝灰岩質28層に比べ風化しているように思われる）基盤層（段丘基層）
30　2.5Y4/4オリーブ褐色砂質シルト（粘性あり）基盤層
31　カク礫凝灰岩　基盤層

第147図　J調査区基本層序



第148図　遺構実測図―SB3077・5282、SA5283・5284、SD3144・3062―



SP3097土層注記
10YR3/3暗褐色シルト（地山土を含む）

SP3098土層注記
10YR3/3暗褐色シルト（地山土を含む）

SP3102土層注記
10YR3/2黒褐色シルト（地山土を斑に含む）

SP3105土層注記
10YR2/2黒褐色シルト（地山土を多く含む）

SP3179土層注記
10YR4/4褐色シルトと10YR2/3黒褐色シルトの混合土
（地山土塊を多く含み硬くしまる）

SP3099土層注記
10YR3/1黒褐色シルト（地山土を若干含む）

SP3103土層注記
10YR3/2黒褐色シルト

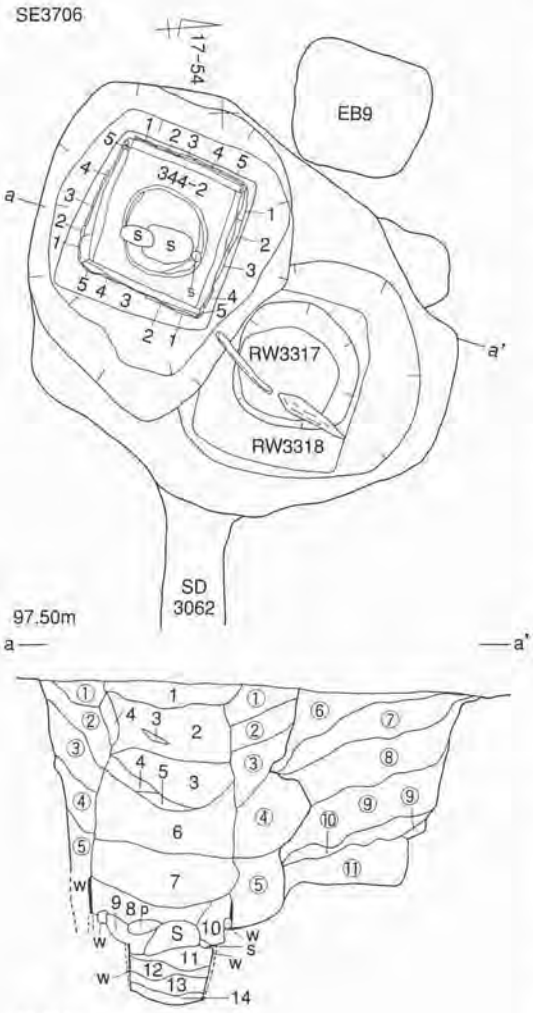
SP3106土層注記
10YR2/2黒褐色シルト（地山土を多く含む）

SB3077土層注記
1　10YR2/2黒色シルト（単層，やわらかい）柱痕
2　10YR2/2黒色シルトと10YR5/4にぶい黄褐色シルト（地山土）の混合土（地山を縞状またはブロックで含み，4層をブロックで含む）柱痕
3　10YR2/2黒色シルト（地山粒を若干含みやわらかい）F1
4　10YR3/2黒褐色シルト（地山をブロックで含む）F1
5　10YR2/2黒色シルト（地山粒を含みやわらかい）F1
6　10YR3/2黒褐色粘土質シルト（地山を斑に含み，しまる）F2
7　10YR3/2黒褐色粘土質シルト（地山をブロックまたは斑に多く含む）F2
8　10YR3/2黒褐色粘土質シルト　一括理土F2
9　10YR2/2黒色粘土質シルト（10層をブロックで含む）F3
10　10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト（単層）F4
11　10YR3/2黒褐色粘土質シルト（地山土を多く含み，下層に特に多い）F5
12　10YR3/2黒褐色粘土質シルト（単層）

SP3181・SD3062土層注記
1　10YR3/3暗褐色シルト（地山土を含む）
2　10YR3/2黒褐色シルト（地山土を斑に含む）
3　10YR2/2黒褐色シルト（地山土を多く含む）

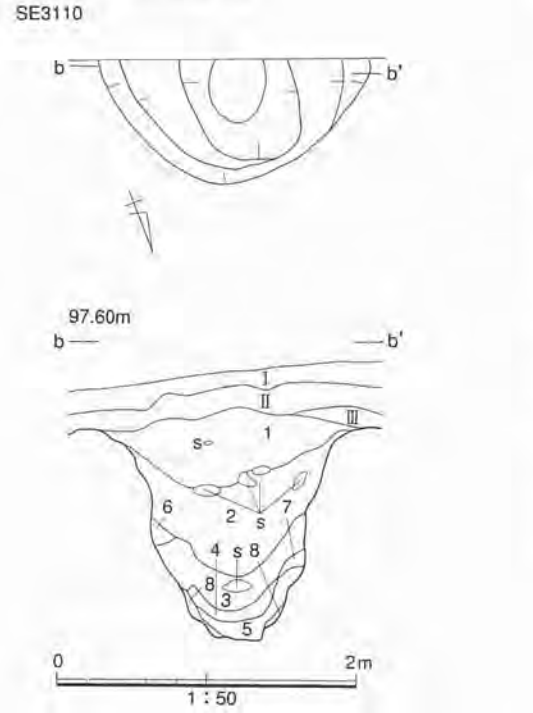
SD3144土層注記
1　10YR3/2黒褐色シルト　耕作土
2　10YR3/2黒褐色シルト（小礫を多く含む）床土
3　10YR2/2黒褐色粘質シルト（土器・地山粒を含む，硬い）
4　10YR2/2黒褐色粘質シルト（地山塊を多く含む）
5　10YR2/3黒褐色粘質シルト（汚れている，粘質，やわらかい）鍬痕

第149図　遺構実測図―SB3077・5282、SD3144・3062―



SE3076土層注記

1　10YR2/3黒褐色粘土質シルト（地山粒を若干含み硬くしまる）
2　10YR3/3暗褐色シルト質微砂（地山細砂をレンズ状に又は小ブロックで多く含み炭化粒を含む、ややしまる）人為的埋土
3　10YR3/4暗褐色粘土質シルト（地山土粘土をブロック又は粒状に若干含み粘質、しまる）人為的埋土
4　10YR2/3黒褐色粘土質シルト（地山土を小ブロック又は縞状に含む、しまる）崩落土
5　10YR2/2黒褐色粘土質シルト（粘質で微砂を多く含み地山土をブロックで含む、やわらかい）
6　10YR2/3黒褐色粘土質シルト（地山粒・大礫5個混入、花コウ岩・凝灰岩他炭化粒を全体に微量に含みしまる）
7　10YR2/1黒色粘土質シルト（地山粒・10YR5/3にぶい黄褐色粘土質シルト粒を多く含みやわらかい）
8　10YR2/1黒色粘土質シルト（10YR5/3にぶい黄褐色粘土質シルトをブロックで含みやわらかい）
9　10YR2/2黒褐色粘土質シルト（10YR5/3にぶい黄褐色粘土質シルトをブロックで若干含み単一層）9層と10層の分層面に砂層あり
10　10YR2/1黒色粘土質シルト（地山粒・炭化粒を微量に含みやわらかい）
11　10YR2/2黒褐色粘土質シルト（9と同質で角礫を含む）
12　2.5Y6/4にぶい黄色シルト質細砂（粘土を縞状に含みやわらかい）
13　7.5Y5/1灰色シルト質細砂（同色粘土をブロックで含みやわらかい）
14　2.5Y5/6黄褐色シルト質細砂（汚れている、若干粘質土を縞状に含みはがれる、しまる、グライ化する）
①　10YR2/3黒褐色粘土質シルト（地山粒を含み非常に硬くしまる）
②　10YR2/3黒褐色粘土質シルト（地山ブロックを多く含み土器片を含む、硬くしまる）
③　10YR2/3黒褐色粘土質シルト（地山ブロックを若干含み炭化粒を含む、しまる）
④　10YR5/4にぶい黄褐色シルト質細砂（細砂に10YR2/3黒褐色粘土質シルト〈①～③〉をブロック又は縞状に含む、しまる、⑤の粘土を小ブロックで若干含む）地山砂
⑤　10YR5/2灰黄褐色シルト質微砂（10YR4/2粘土をブロックで含みやわらかい）地山砂
⑥　10YR5/4にぶい黄褐色シルト（地山土）と10YR2/3黒褐色粘土質シルトの混合土（①を小ブロック又はまだらに含み硬くしまる）
⑦　10YR5/4にぶい黄褐色シルト質細砂（⑧を若干まだらに含みしまる）
⑧　10YR2/3黒褐色粘土質シルト（地山粘土を塊又は小ブロックで含みしまる）
⑨　10YR5/3にぶい黄褐色シルト質細砂（塊で④を含みやわらかい）
⑩　10YR2/1黒色粘土質シルト（木片を含み粘質、単層でやわらかい、地山微砂を塊レンズ状に含みやわらかい、旧井戸枠部）
⑪　10YR2/1黒色粘土質シルト（粘質で地山微砂を塊レンズ状に含みやわらかい、旧井戸枠部）
※1～14層井戸覆土、①～⑪井戸掘り方覆土
材は左壁8層上位、右壁7層中位より残存



SE3110土層注記

Ⅰ　10YR3/2黒褐色耕作土
Ⅱ　10YR3/2黒褐色耕作土（小礫を多く含む）
Ⅲ　10YR3/2黒褐色粘土質シルト（小礫を若干含み、硬くしまる）
1　10YR3/2黒褐色シルト（単層、一括埋土、自然礫を含む、地山粒、炭化粒を含み硬くしまる）
2　10YR3/2黒褐色シルト（1と同質、地山小ブロックを若干含む、自然礫を含む、硬くしまる）
3　10YR3/2黒褐色シルト（地山土を斑に多く含みしまる）
4　10YR2/1黒色粘質シルト（単層、地山微砂をブロックで若干含む、やわらかい）
5　10YR2/2黒褐色シルト（地山粘土をブロック又は斑に含む、4層を縞状に含む）
6　10YR6/4にぶい黄橙色微砂と2の混合土（斑に2層を含む）
7　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　崩落土
8　10YR5/2灰黄褐色細砂（4層を縞状に含む）
※1・2層は人為的埋土

第150図　遺構実測図―SE3076・3110―

【溝】

中世の溝と同様の分類が可能である。近世の遺物が出土したもの、またその遺構と重複するものを抽出した。

d類とする溝は、SD4078上位層、SD8151上位層、SD9370である。SD4078は、先述のとおり、覆土が２時期に分かれ、その上位層にのみ近世の遺物が含まれている。SD8151は、底面に礫が多数出土したが、礫に混じる遺物は、中世とみられるもののみで、人為的埋土の覆土に近世の遺物が混入する。SD9370は、西壁のみの検出で、東壁は調査区外となる。近世以降の水田および道路工事等により削平を受けており、詳細は不明である。南壁面および平面での観察からST9372→SD9370→ST9371となる。ST9372とSD9370の遺存状態は、悪く掘り方が浅いが、ST9371は、深さ80cm遺存する。

e類には、SD1536・2200・1573・1562等がある。SD1536と2200は、深さ７mで、約30mにわたって検出されている。N－33°－E傾く。ほぼ同じ傾きを示すものにSD1573・1562、それとほぼ直交するのが、SD3751である。

f類は、多様である。SD1511は、土坑２基を取り囲むように、南北約10m、東西約12mの方形をなす。東面は、SD1536と重複をもち、SD1511→SD1536である。東面ほぼ中央の西壁が凹状を呈し溝幅が狭くなっているのに対し、西壁は、溝上面幅４mと広くなる。北西コーナーでは、柱穴が、６基連なる。溝内には、平面形楕円形で浅いSK8027と円柱状に深く掘り込むSK1505がある。

SD1511を切る遺構に、SD8001がある。東側に約１mの開口部を持ち、ロの字型に廻る。東西・南北面各々８mを測る。南面と北面は、一段低くなる。南面の深い部分をSD8003、北面をSD8002として登録した。覆土は５cm前後の円礫が多量に含まれる。SD8001～8003のほぼ中央にSK8015、やや東寄りに柱穴８基が位置する。東側開口部の前面にSD8025がある。SD8025は、SD1536の延長線上にある。SD1536はSD1511と重複し、SD1511より新しいことから、SD8025もSD1511より新しいと推定される。

SD8001から切られる遺構に、SD8012がある。東側に約６mの開口部を持ち、コの字型に廻る。東西６m、南北面11mを測る。基本的な構造は、SD8001に類似する。南面と北面は、一段低くなる。南面の深い部分をSD8013、北面をSD8004として登録した。SD8013から瓷器系陶器甕(323－7)が出土した。覆土は、SD8001同様円礫が多い。ほぼ中央にSK8009が位置する。SK8009は、SD8011の延長とみられる溝に切られる。また、SD8013は、SD8010に切られる。SD8010は、北に伸びSD1511に切られる。これら、溝の重複関係から、SD8012→SD1511→SD8001と理解される。

【土坑】

SK8041・1505がある。SK8041は、斜面に構築され、５cmの円礫が多量に堆積する。礫と混在して中世～近世の遺物が出土した。覆土中位層から、金属製の経筒蓋(349－15)が出土した。その状況から礫埋設(廃棄?)のために構築されたものとみられ、SK8041周辺に、経塚があった可能性が考えられる。土地整備の際、経塚が削平され、経筒や礫等が廃棄されたと推定される。SK1505は、SD1511のほぼ中央に位置する。断面形円筒形を呈する。SK1505から骨が出土し、人骨と動物

骨の分析結果が出ている。SD1511の中心的な遺構と考えられる。SD8001の中心SK8015、SD8012の中心SK8009からは、近世の遺物は、出土していない。

【柱穴】

多数検出されている(表3)。しかし、近世の建物と認定できるまでは至っていない。

【水田】

H調査区市道部分の調査の際、東壁断面で水田とみられる土層を確認した。ほぼ市道と重なる状態で1段下がり削平されており、安定した水平堆積を示す。X軸46グリット以東は、水田として利用された時期があったことが推定される。平面的な検出は行っていない。

(3) I 調査区

調査区全体で遺構検出面は1面のみである。寒河江方面からの細い旧河道にあたり、標高93.50m前後と低い。縄文時代から近現代までの河川、中世の土坑が検出された。

基本層序

I 調査区の基本層序は、次の通りである(第138・139図)。

表土・耕作土　地目水田
旧表土　10YR4/2灰黄褐色粘土質シルト
基盤層Ⅰa　10YR3/3暗褐色砂質シルト～シルト
基盤層Ⅰc　10Y5/3にぶい黄褐色シルト質細砂
基盤層Ⅳ　10Y5/・褐灰色シルト質細砂
基盤層Ⅴ　10YR4/1褐灰色粘土質シルト

表土・旧表土は、20～30cmの堆積である。基盤層ⅠcとⅣの間に基盤層とみられる安定層が確認されるが、SG3001覆土に組み込まれる堆積状況を示す。基盤層が砂質であり、I調査区全体が、河川となった時期もあったものと推定される。基盤層Ⅰaを掘り込む状態で、遺構が検出された。SG3001と重複する河川としてSG3071・3032があるが、トレンチ調査では、遺物は出土していない。重複関係は、SG3071→3001→3032である。

縄文時代～奈良・平安時代

SG3001が検出された。SG3001の覆土は、1～7層に分層される。さらに、遺物のまとまり、間層の状況から、F1・2、F5～7河川面が確認できる。川幅は、F1・2で約4m、F5～7で約8m、長さ30mに亘って検出した。

F5～7では、木材とクルミ・トチ等の堅果類が多量に出土した。木材に規則性は認められないが、木材を止めるように打ち込まれた杭が検出された。杭上部は、F5上面で確認できる。F5上面では、須恵器・土師器の混入が認められるが、F7層では認められない。

F1・2は、微砂～粗砂が20cm前後に浅く堆積し、須恵器・土師器・木製品等の多量の遺物が含まれる(第140・141図)。墨書土器、転用硯、タール付着や黒色汚れ等の使用痕のある土器が、SG3001F1・2ほぼ全域から出土する。東西岸片方への集中はない。F1・2については、南東の水路調査部分で検出されたSG8602まで伸びることが確認された。SG8602でも、同様の遺物の出土状況を示す。

第3トレンチ断面(C－C'断面)で噴砂を検出した。噴砂はSG3001F1・2を切る。

中世以降

SG3001は埋没し、安定した基盤層に土坑が検出された。SK3033～3037・3040等である。平面形楕円形で、掘り方は30cm前後と浅い。土坑周辺から青磁が出土している。

I 調査区の東・西側は、水路が整備されているが、SG3001埋没後も、河川は流路を変えながらI 調査区周辺を北から南に流れていたものとみられる。

(4) J 調査区

I 調査区西側で、高瀬山遺跡に接し、高瀬山東側断層崖、地塁状の段丘面、断層崖下の低い段丘面にあたる。標高は、西側の断層崖上面で約109m、東端では97mを測る。遺構検出面は２面で、上面で奈良・平安時代～中世、下面で縄文時代の遺構が検出された。

基本層序

J 調査区の平坦面での基本層序は次の通りである(第146～150図)。

表土・耕作土	地目果樹畑・荒地
中世・平安時代基盤層	10YR6/6明黄色シルト
縄文時代包含層	10YR3/2黒褐色シルト質微砂
縄文時代基盤層	7.5YR4/6褐色砂

各層の間に西側斜面からの崩落土(黒色シルト)が入り込んでいる。西側斜面は、高瀬段丘礫層を基盤層に、表土の崩落を繰り返した斜面堆積を示す。各時代の遺構は、各基盤層上面で検出された。I 調査区の河川を挟んだ西側にも、各時代の生活の場が広がっていたことが分かる。

縄文時代

竪穴建物・溝・土坑・柱穴が検出された。

ST4541は、床面の一部、焼土3基、柱穴を検出した。北側の床面の遺存状態から、径6m前後の円形の竪穴建物を推定することができる。焼土は、長さ1m前後の小判型で、地床炉とみられる。地床炉と柱穴の重複関係が認められることから、建物の重複が想定されるが、明確な掘り込み等は、確認できなかった。ST4541に切られる状態でSK4711がある。SK4711床面から、深鉢(151－1)が出土した。SD4700が、ST4541、SK4711の西側を囲むように位置する。

奈良・平安時代

掘立柱建物・柱列・溝・井戸が検出された。

掘立柱建物は、3×２間でほぼ同規模のSB3077とSB5282がある。柱穴平面は隅丸方形で大きく、柱痕跡が残る。J 調査区の２棟の建物方位軸は、H調査区以東とは異なり、大きく西に傾き、D'群と分類した(第363図)。建物は、東西の傾斜に合わせた状態で建てられており、地形に規制されてのことと考えられる。井戸SE3076は、縦板横桟隅柱の構造で、水溜に曲物を用いている。井戸部材が遺存する北隣に、SE3076井戸枠とほぼ同規模の井戸部材を抜き取った痕跡が確認され、重複が認められる。溝は、４条検出された。掘立柱建物とほぼ軸線が等しいSD3062、約45°東に傾くSD3114とそれに直交するSD3090・3092である。SD3144に類似した軸線で柱列SA5283・5284がある。

SD3144は、掘り方の鋤痕が底面に残る。H調査区ST8042で確認された鋤痕に類似する。

中世以降

井戸・土坑が検出された。SE3110は、SE3076の堆水層まで届いており井戸と考えられる。かわらけ(320－16)が出土したことから、中世の所産と判断した。20－53Gに土坑SK3228・3230・3239が検出された。東側は、削平を受け不明である。

西側斜面14－59・60Gに、幅0.5m、深さ1m、断面形U字形の溝が検出された。平安時代上面から掘り込まれているが、遺物は確認されず時期は不明である。

噴砂

4条の噴砂を検出した。噴砂は、縄文時代包含層を切り、SE3110に切られる。また、I調査区では、噴砂がSG3001F1・2を切ることも確認している。I・J調査区の噴砂が同一の地震に由来すると仮定すれば、9世紀末以降、13世紀以前の間に地震の時期は限定される。

Ⅳ 出土した遺物

今回の調査では、縄文時代・弥生時代・古墳時代・奈良時代・平安時代・中世・近世の遺物が出土した。出土箱数は、整理箱346箱を数え、整理作業終了時には384箱に収納した。

遺物には、土器・土製品・陶器・磁器・木製品・金属製品・石器・石製品・自然遺物等がある。以下各時代ごとに概要を記し、各遺物についての詳細は観察表に譲る。

1 縄文・弥生・古墳時代

縄文土器・弥生土器・土師器・石器・自然遺物が出土した。

(1)分布

B～G・K調査区およびJ調査区下面、SG134・323・3001の河川、SD616等の溝からまとまって出土した。縄文土器前期は、J調査区下面ST4541・SK4711およびその周辺から出土した。縄文晩期～弥生前期は、B～G・K調査区下面および各河川から出土した。古墳時代の土師器は、河川から出土した。河川・溝出土資料は、流れ込みと理解される。

(2)土器

土器は、粘土に埋没していたため、遺存状態が悪い。縄文土器は浅鉢・深鉢・壺・甕、弥生土器は壺・甕がある。文様・器形の分かるものは、少ない。

J調査区SK4545から出土した深鉢（151－1)は、狭い文様帯を沈線で区画し、山形および渦巻文がみられる。I調査区とJ調査区の境界部分から、貼付文のある深鉢（151－2)が出土している。これらは、J調査区の遺構の年代を特定できる資料である。

I調査区SK3037出土深鉢は、撚糸文が施されている。151－1・2に比べ、胎土が密で重量感がある。

深鉢の口縁部の遺存する資料で、薄いつくりの一群がある(151－14)。口縁部直下まで施文されている。また、口縁部が屈曲する一群がある(152－3)。文様の分かる資料としては、154－2は、シダ縄文が施される。底部が無文の大型の土器になる。152－8は綾絡文、152－9はレンズ状の二重文、

152－12は、櫛歯状文が各々入る。底部の遺存する資料では、体部下半に沈線の区画から削り出すつくりがある(152－4)。底部に網代痕のあるもの(151－13・153－1・153－2)、底部に笹葉の木葉痕のあるもの(152－12)がある。

土師器は、鉢・甕がある。甕153－6は、口縁部を肥厚させ、複合口縁状のつくりである。

(3)石器

石鏃・尖頭器・石篦・石匙・石錐・掻器・削器・石核・剥片・石斧・石剣・磨石・凹石・石皿・砥石等が出土した。

石鏃は、基部側に丸みのある抉り込みが入り左右対象となるもの(154－1)、基部に茎を持つ有茎鏃(154－2・3・5)、有茎鏃の未成品とみられるもの(154－4)、両側にノッチの入るアメリカ型石鏃といわれるもの(154－6)がある。

尖頭器は、基部欠損した154－7の1点のみである。

石篦は、撥形で両側縁に加工をもつもの(154－11・12)、一側縁に加工をもつもの(154－9・13)がある。154－10は、未製品とみられる。

石匙は、つまみを上方にしたとき、側縁が刃部となる縦型で、幅広の形態がある(154－14・16・19)。刃部が、つまみの反対側につく、横型は154－18で、154－15・17は未成品とみられる。

石錐は、長い錐部を持ち平面形が左右対象にならないもの(154－20)、素材の剥片の一端を加工して錐部をつくり出したもの(154－22)がある。154－21は未製品とみられる。

石斧は、磨製石斧(158－5～9)がある。

この他頁岩を素材とするものには、両面加工で両側縁全体に加工がみられる削器(155－4・5・9・10等)、片面加工で急角度の調整加工が行われている掻器(155－7・8等)、加工痕跡のある剥片(155－2・3・6、156－6等)、石核(156－3・157－9・159－1)、接合資料(159－2、160－1・2)がある。

礫石器には、表面に磨痕を持つ磨石(161－1～3・9・10)、敲打による凹を持つ凹石(161－4～9)、大型で扁平な礫で磨痕をもち器状に加工された石皿(161－11)がある。

(4)自然遺物

植物遺体として、多量の堅果類が出土している(表14)。まとまった出土量を示すSG3001F7は、出土土器から縄文時代晩期以降とみられる。クルミ・トチは実の入った状態で、手は加えられていない。

2 奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺物には、土器・土製品・金属製品・木製品・石製品・自然遺物がある。

(1) 土器の分類

奈良・平安時代の土器は、約114300点出土した(表15)。

土器は、須恵器・土師器・灰釉陶器がある。土師器は製作技法により、ロクロを使うものと使わないものがある。さらに、土師器の中で、内面または内外面に黒色処理を施したものがある。黒色処

理された土師器は、黒色土器と呼称し分類を行う。土器の器種には、坏類の食膳具(供膳具)、鉢・甕等の煮炊具、壺・甕等の貯蔵具がある。以下、種別ごとに器種の分類（第364～367図)を行い、出土した土器についてまとめる。

須恵器

【無台坏】坏類のなかで高台を持たないものである。器高（身の深さ)によりAとBに分類することができる。

無台坏A　出土量が最も多く、食膳具の主体をなす器種である。寸法と器形により、Ⅰ～Ⅲに分類することができる。無台坏AⅠは、口径15cm前後、底径が10cm以上の大型のものである。口径に対して底径が大きく、箱型を呈す。無台坏AⅡは、口径14cm前後、底径９cm前後で、無台坏AⅠより小型で、底径が小さく逆台形を呈する。無台坏AⅢは口径が14cm前後で、底径が6cmのものである。底部の切り離しは、無台坏AⅠに静止糸切り(a)、回転ヘラ切り(b)、回転糸切り(c)がある。無台坏AⅡには、静止糸切りはみられず、回転ヘラ切り、回転糸切りのみである。無台坏AⅢは、回転糸切りのみとなる。器厚は無台坏AⅠが最も厚く、ⅡからⅢへと薄くなる。Ⅰ～Ⅲの中でも、底部切り離し回転ヘラ切りに比べ回転糸切りの坏が薄い。回転糸切りの目は、無台坏AⅠcは荒く、無台坏AⅢcは細かい。底径が、小型化すると回転糸切りの目は細かくなる。

無台坏B　深みのある大型のものである。寸法は、口径16.5cm、底径9cm、器高9cmを測り、底部の切り離しは回転ヘラ切りで、底部が厚く作られている。出土点数は3点のみで特殊な器種である。

【有台坏】高台を持つ坏である。坏部が無台坏とほぼ同じ寸法・形態を示す有台坏Aと、身が深く有台坏特有の造りを呈する有台坏Bに分類することができる。

有台坏A　寸法と器形により無台坏同様にⅠ～Ⅲに分類することができる。有台坏AⅠは大型で箱型、有台坏AⅡは底径がやや小さく逆台形を呈するもの、有台坏AⅢは、底径が小さく体部が開くような形態のものである。有台坏には底部切り離しの静止糸切りはない。回転ヘラ切り(b)は、有台坏AⅠ～Ⅲにみられる。回転糸切り(c)は、有台坏AⅡにみられるが有台坏AⅠ・Ⅲにはみられない。

有台坏B　寸法により大型Ⅰ、中型Ⅱ、小型Ⅲに分けることができる。BⅠは、口径15cm以上、器高が7cm以上である。BⅡは、口径11～15cmで、器高は６cm前後である。BⅢは、口径11cm未満で、器高は５cm前後である。BⅠ～Ⅲには、回転ヘラ切りと回転糸切りの両方がみられる。

【双耳坏】有台坏に一対の扁平な把手が付くものである。寸法から大型Ⅰと小型Ⅱに分類することができる。Ⅰは、体部上半に凸部を有する。１点のみの出土である。鉢の可能性が残る。Ⅱは、坏部の寸法が有台坏BⅢに類似する。把手部分は、丁寧にケズリ調整がおこなわれている。

【高坏】坏に脚が付くものである。285－3のⅠ点が出土した。脚部のみで坏部が不明である。

【稜椀】有台坏で体部に稜を持つ。底部の切り離しは回転ヘラ切りのみである。有台坏BⅡと寸法が似る。出土点数は少ない。

【皿】有台で、器高が4cm以下で低い。焼成不良品を含め4点のみの出土である。食膳具としては、出土点数が少ない。

【蓋】有台坏A・Bにともなうとみられる蓋A、蓋Aと形態が類似しつまみの付かないものを蓋B、坏類にともなわないものを蓋Cと分類する。

蓋A　径14cm前後、器高は４cm未満である。つまみは、宝珠形のもの(a)、ボタン状のもの(b)、リング状のもの(c)がある。

蓋B　器高の高いⅠと低いⅡに分類することができる。蓋BⅠは、器高2.5cm以上で身が深いため、無台坏の可能性が残るが、蓋に似る口縁部のつくりから蓋として扱っている。出土点数は少ない。蓋BⅡは、器高2.5cm以下と低く浅いつくりである。体部ロクロナデの凹凸が明瞭で、外面に回転糸切り痕を残す。蓋Bは転用硯に用いられる確率が高い。

蓋C　壺蓋になるもの、用途不明のものとする。小型の319－16は、平野山窯跡群第12地点遺跡で蓋F－11に分類したものに類似する。

【壺】頸部の短い壺A(短頸壺)、長い壺B(長頸壺)、小型壺類のCに分類する。

壺A　頸部が直立するもので大型のものをⅠ、小型のものをⅡに分類する。頸部が直立するものは、蓋がともなう。高台は確認できない。Ⅰには口径が大きく、頸部が短く外反し、平底のものがある。器高は25cm～35cmで、甕資料の中では、完形遺存率が高い。

壺B　寸法によりⅠとⅡに分類する。破片資料のみで、全体の形態が分かる資料が無い。壺BⅠは、高台が付くとみられる。広口のもの（190－8・202－11等)も含める。頸部にリングを付す資料(314－2)がみられる。壺BⅡは、器高20cm前後のの広口壺と推定され、壺Gと呼ばれるものである。194－8の１点のみの出土である。

壺C　短頸壺、長頸壺、広口壺等多様であるが、容量に差はないとみられる。無台と有台がある。

【甕】多様である。破片資料が多く、全体の形態が分かる資料は少ない。寸法と形態からA～Cに分類する。

甕A　口径50cmを超える大型のもので195－9・315－1の２点出土している。頸部に櫛描文が入る。195－9は体部下半に同心円状に割れる叩打痕が認められ、打ち壊したことが理解される。

甕B　口径35～50cmで、底部は叩き出して丸みをもつものである。破片数は多いが、10個体以内に収まるとみられる。194－5等である。

甕C　口径が15～25cmのものとする。体部が丸みをもつもの(314－3)と長胴のもの(315－2)がある。両者とも容量は変わらないとみられる。体部上半からタタキがはいる。

【鉢】形態と寸法からA・Bに分類する。土師器鉢に類似する。

鉢A　把手が付くもので、土師器鉢Aに類似する。

鉢B　土師器鉢Bに類似する。寸法から大型Ⅰ、中型Ⅱ、小型Ⅲに分類する。

【こね鉢】こね鉢とみられる底部、1点(211－6)の出土である。

【横瓶】全体の形態が分かる資料はない。破片資料から、叩き出しと閉塞痕が確認できる。

体部全体に丸みを帯びるもの(286－3)と平坦面をつくり出すもの(164－4)がある。

土師器

【無台坏】坏類で高台をもたないものである。ロクロ使用か否かでAとBに分類する。

無台坏A　ロクロ土師器の無台坏である。須恵器無台坏に形態は類似する。須恵器無台坏同様、口径・底径が大きく箱型を呈するものをⅠ、底径が小さく、逆台形を呈するものをⅡ、さらに底径が

小さくなるものをⅢとする。Ⅰの回転ヘラ切りをⅠb (281－2)とする。Ⅰの回転糸切りは、確認できない。Ⅱの回転ヘラ切りをⅡb(171－9)、Ⅱの回転糸切りをⅡc(163－8)とする。Ⅲの回転糸切りをⅢc(197－6・243－8)とする。Ⅲの回転ヘラ切りは確認できない。

無台坏B　ロクロを使用しない非ロクロ土師器の無台坏である。浅いタイプをⅠ(172－9)、深いタイプをⅡ(186－6)とする。

無台坏c　ロクロを使用しない非ロクロで本来黒色処理される器形のもの(285－5・6等)とする。

【有台坏】坏類で有台のもので、須恵器有台坏同様にAとBに分類する。

有台坏A　須恵器有台坏Aと同様に、無台坏に台を付したものである。無台坏分類で箱型を呈するⅠで、底部切り離しが回転ヘラ切りのⅠbのみである(319－21)。

有台坏B　坏部が深くなるタイプである。寸法から大Ⅰ・中Ⅱに分けられる。Ⅰは、底部切り離しが回転糸切りのみで、201－9・10、313－1がある。Ⅱは、回転ヘラ切りⅡb(174－5)、回転糸切りⅢc(197－9)がある。

【Ⅲ】須恵器のⅢと寸法、調整は同じである。須恵器の焼成不良とみられるが、消費地遺跡での出土例のため、あえて土師器と分類した。須恵器の焼成不良が一定量流通するとみられる。
201－11・313－10がある。

【高坏】体部に段を持ち、口縁部が強く引き出されるもので、脚が付くとみられる(280－24)。

【蓋】204－8の1点のみの出土である。外面に煤が付着しており、煮炊具の蓋とみられる。

【鉢】　口径が大きく、器高が30cm以下のものとした。煤付着の使用痕跡が多く、鍋と呼称される場合もあるが、鉢・甕と寸法や形態で類似するものがあるため、鉢として分類した後に改めて識別を図りたい。

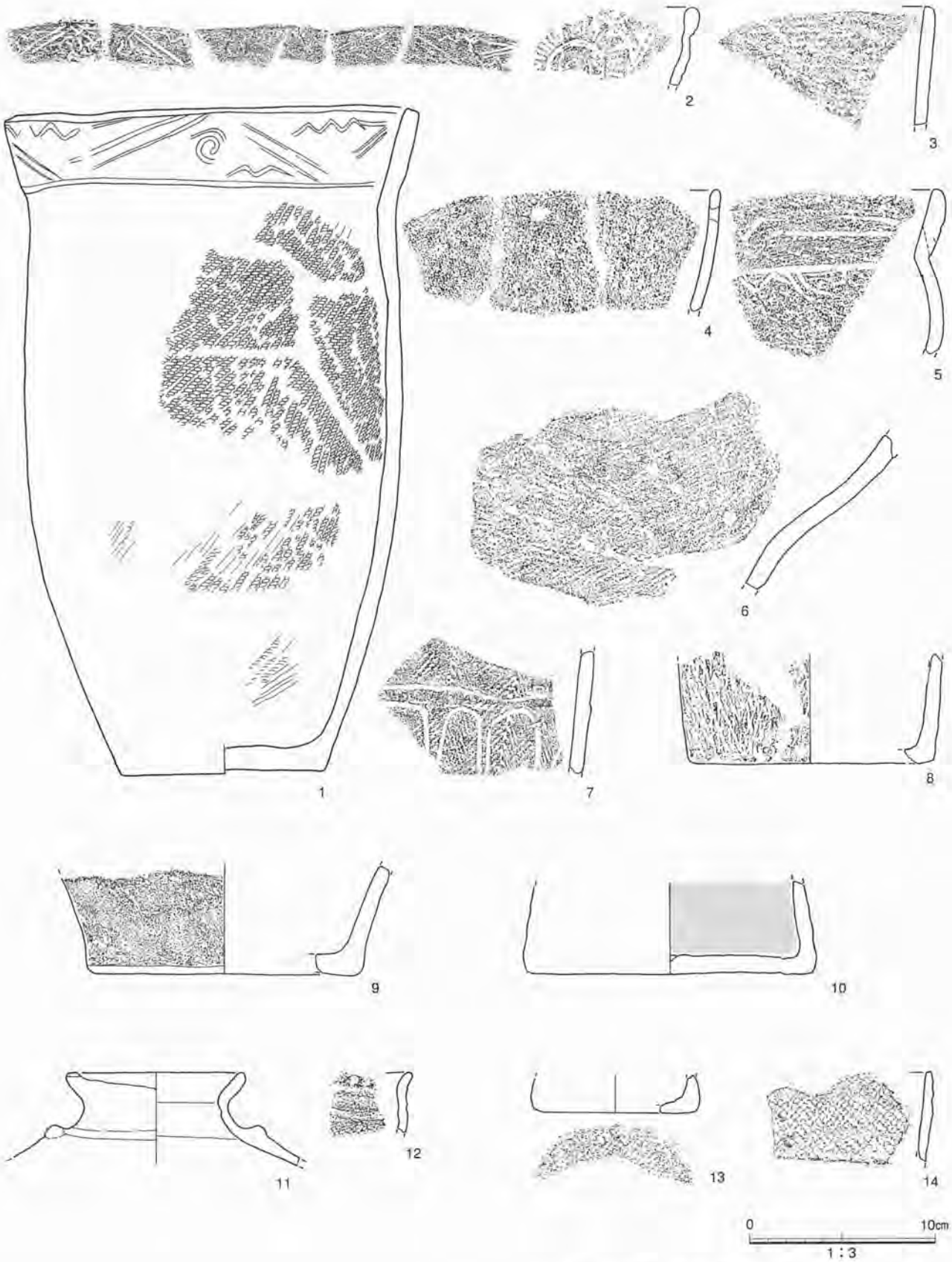
鉢A　鉢B・Cに把手の付くタイプである(177－4・292－8・313－7)。ロクロ土師器で、カキメ・ハケメ・ケズリ等の調整がみられる。平底になる。煤付着等の使用痕は意外に少ない。小型は認められない。

鉢B　ロクロ土師器で、ロクロナデ・カキメ・ケズリ調整がみられる。長胴甕Bの成形技法および口縁部の形態が類似する。寸法から、大型のⅠ (291－2・171－6)、中型のⅡ (248－6)、小型のⅢ (166－3)に分類することができる。

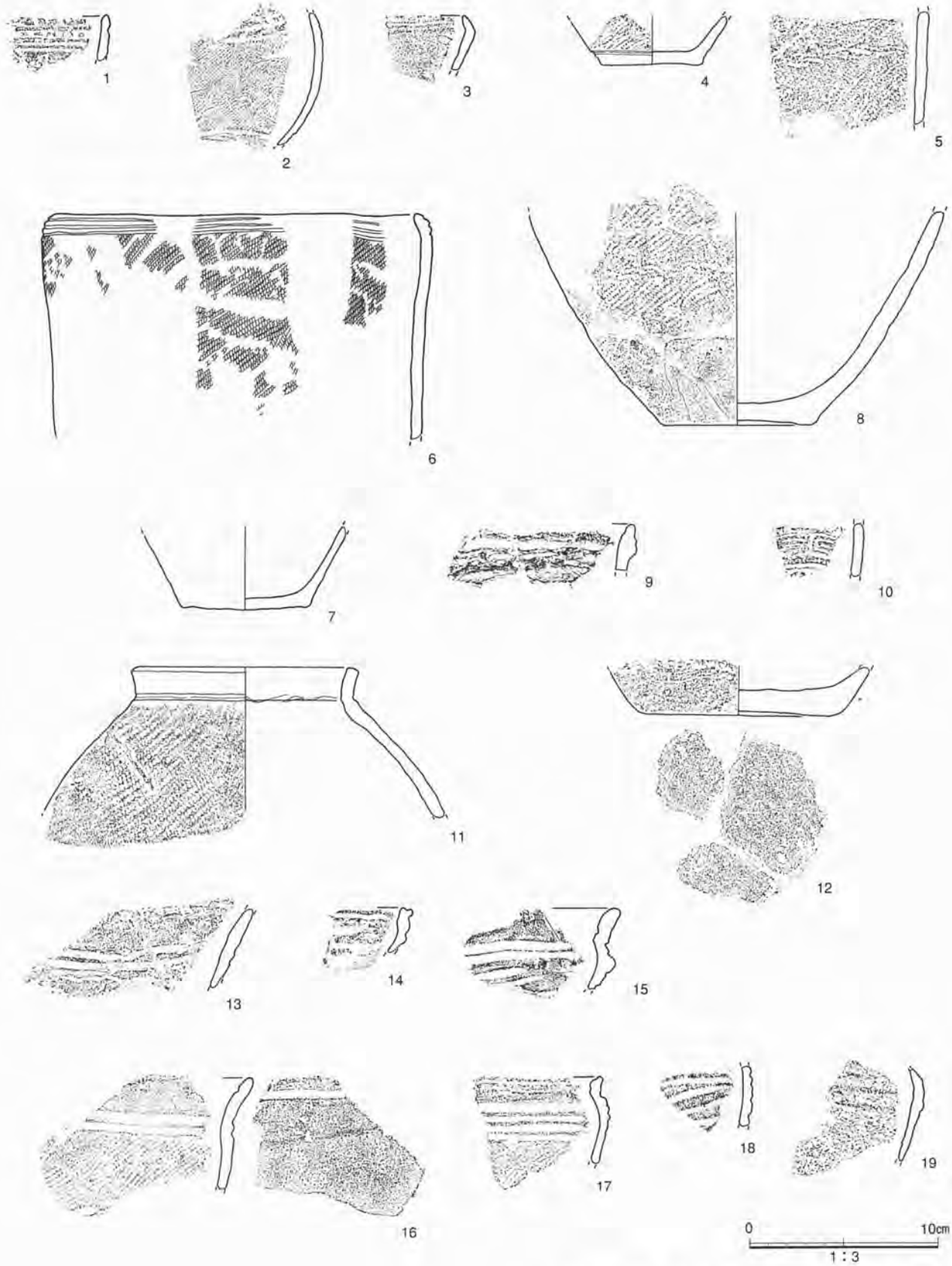
鉢C　頸部の括れが強く入るタイプで、短胴甕と非常に類似する。口径や器高が鉢Bと類似するものがあり(248－6と182－4)、鉢Bの頸部形態の1つと考えて分類を試みた。大型Ⅰ(182－4)、中型Ⅱ (172－4)、小型Ⅲ (173－1)に分類できる。中型Ⅱは、小型の寸法に近いが、口径15cm前後、底径7.5cm前後が一定量みられるため分けてⅡを設定した。

鉢D　体部・口縁部が直線的に開くものである。寸法の違いからⅠ～Ⅲに分類したが、各々系譜は違うものとみられる。Ⅲは、無台坏の身が深くなるタイプで碗と呼称されることが多いが、鉢BⅢに寸法・胎土が類似し、煤付着があるため鉢に分類した。一定量みられる。

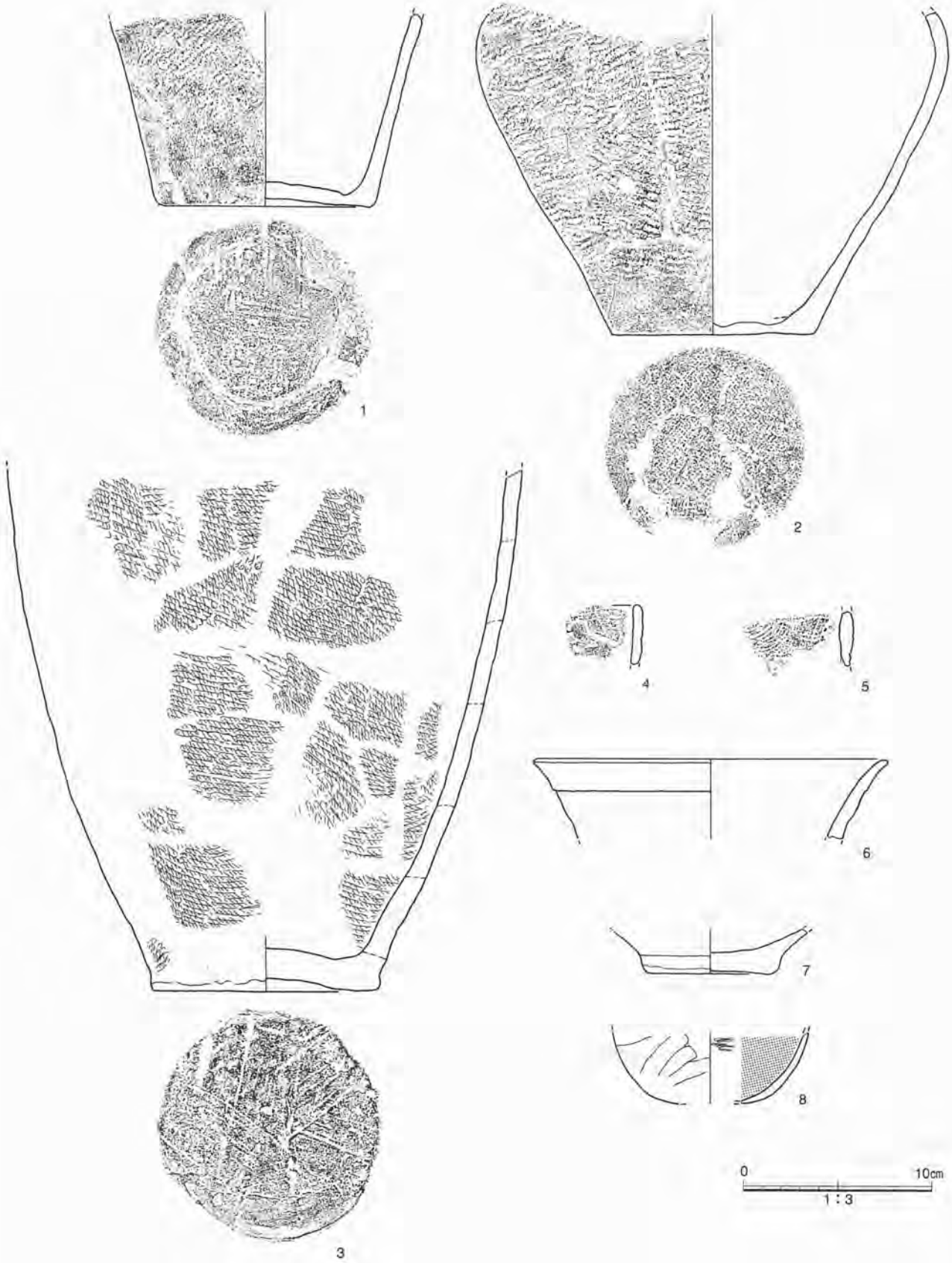
【甕】非ロクロの甕A、ロクロ平底の甕B、ロクロ丸底風の甕C、その他の甕Dに分類する。また、寸法から長胴甕Ⅰ、短胴甕Ⅱ、小型甕Ⅲに分類する。



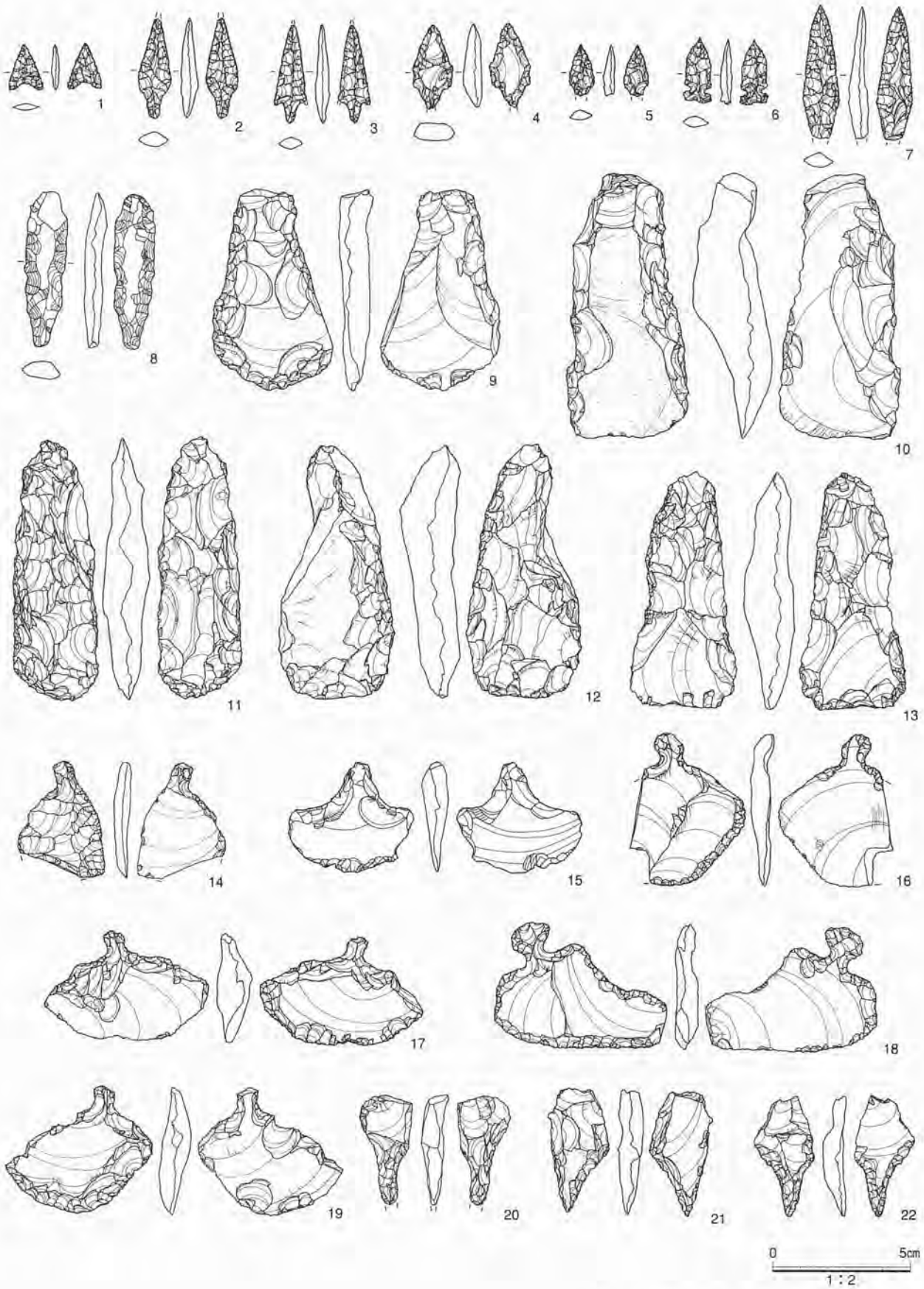
第151図　遺物実測図(1)―縄文土器―



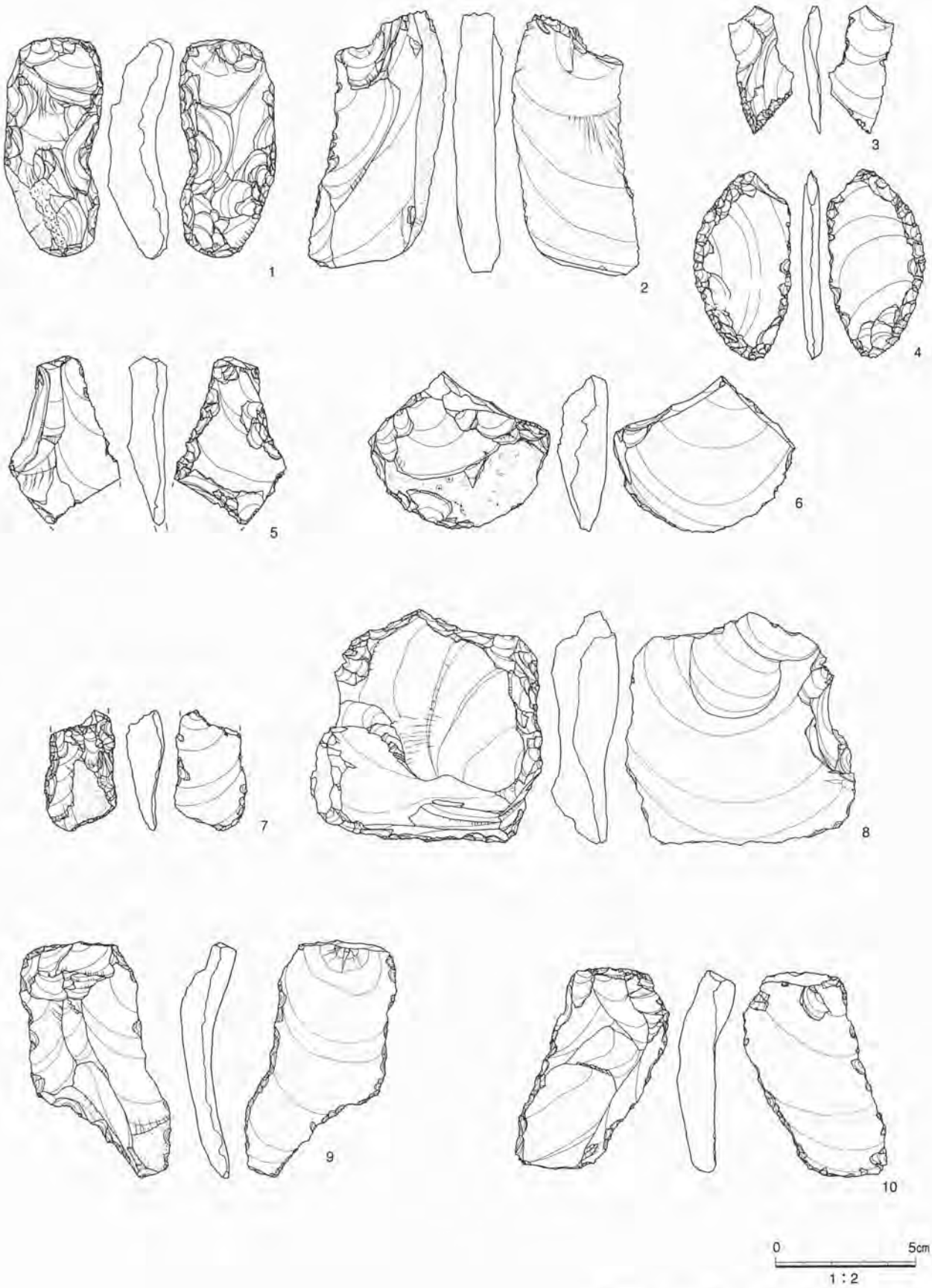
第152図　遺物実測図(2)―縄文土器―



第153図　遺物実測図(3)―弥生土器・土師器―

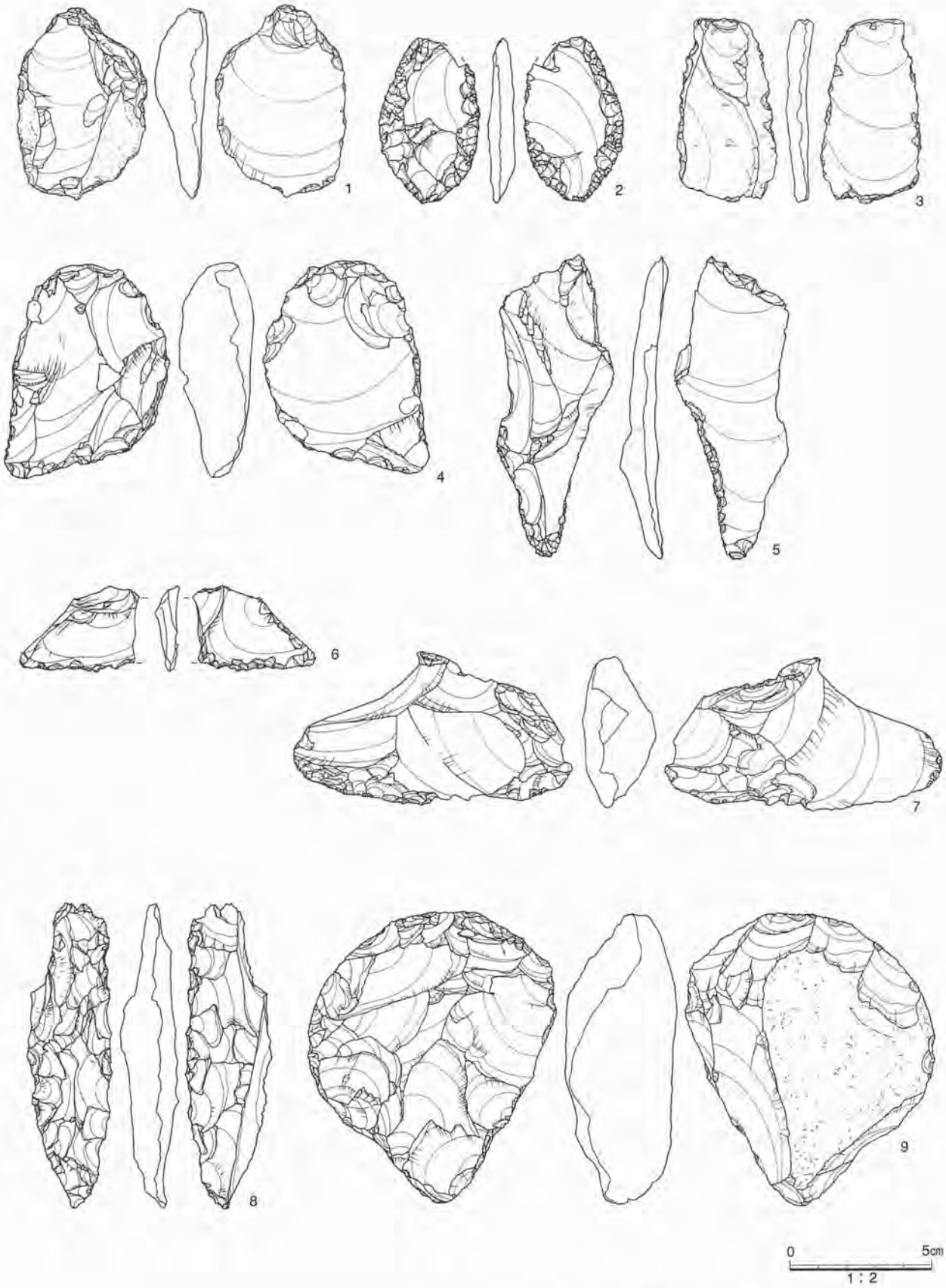


第154図　遺物実測図(4)―石器―

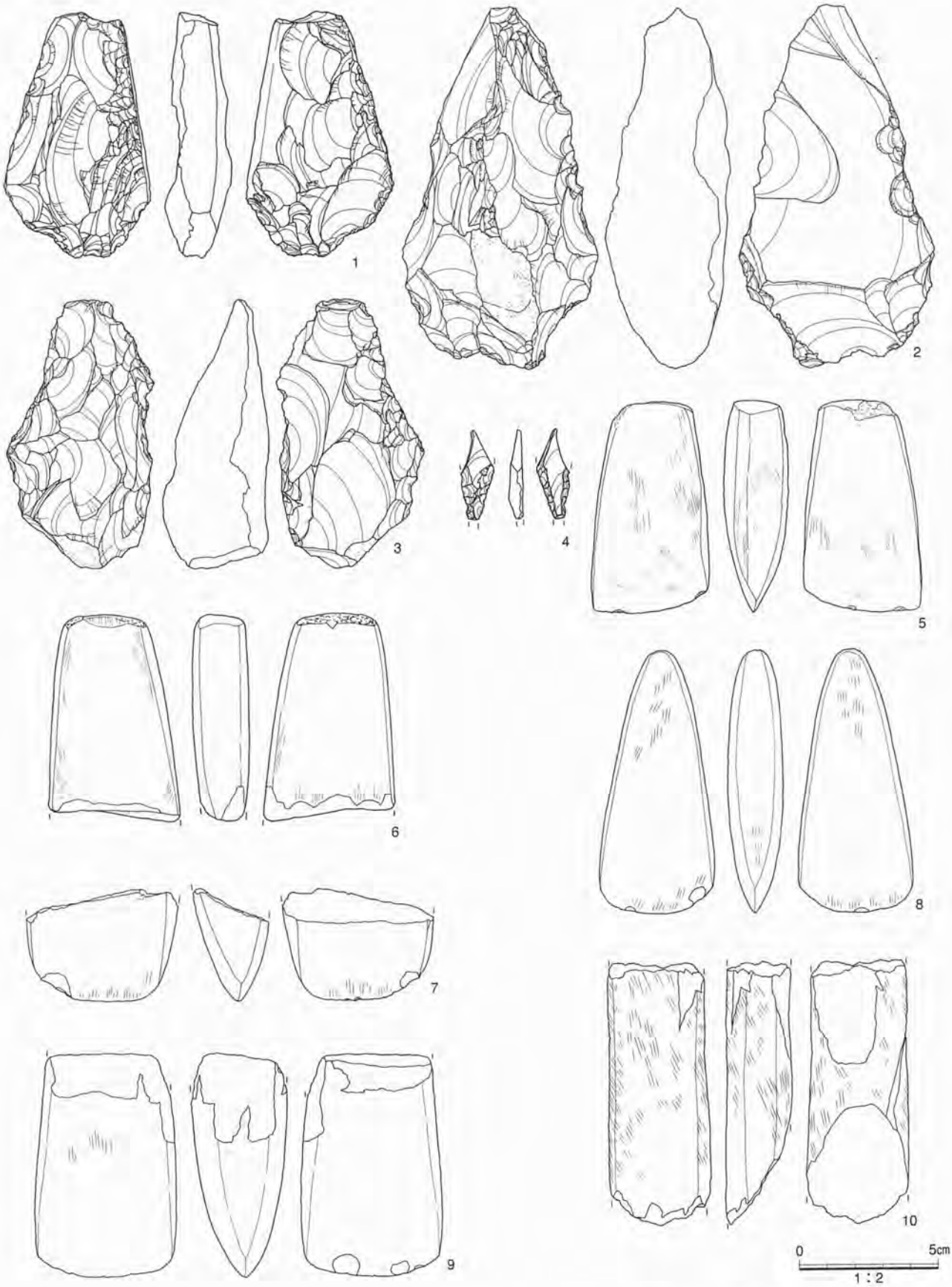


第155図　遺物実測図(5)―石器―

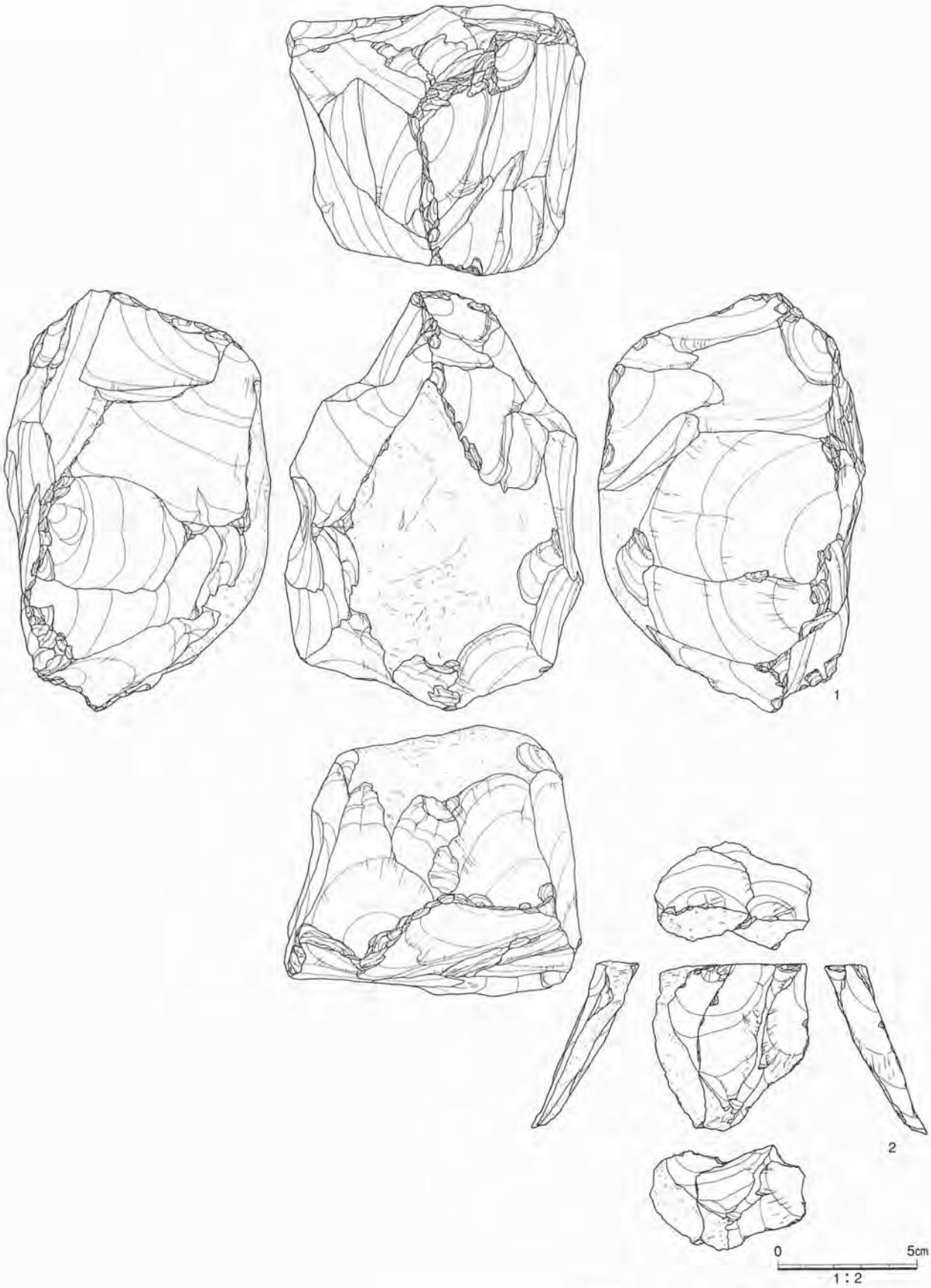
第156図　遺物実測図(6)―石器―



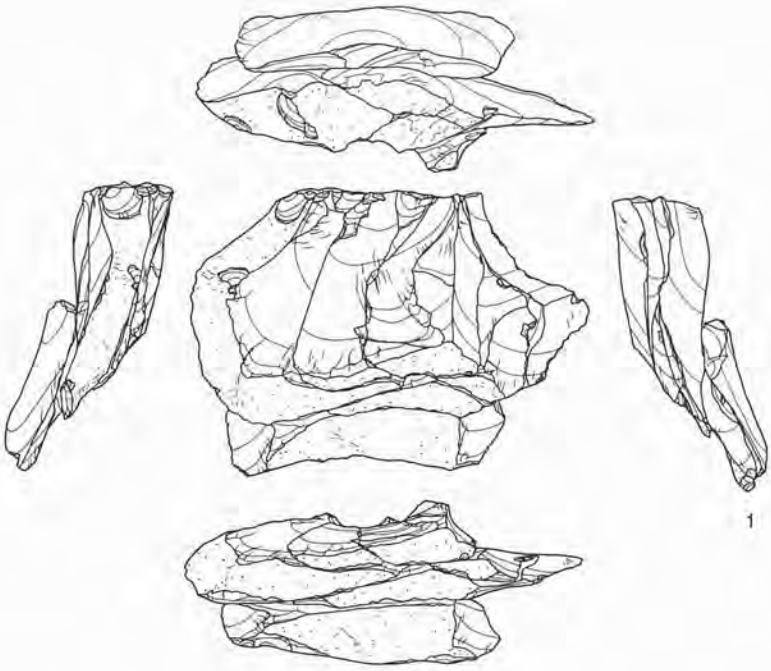
第157図　遺物実測図(7)―石器―

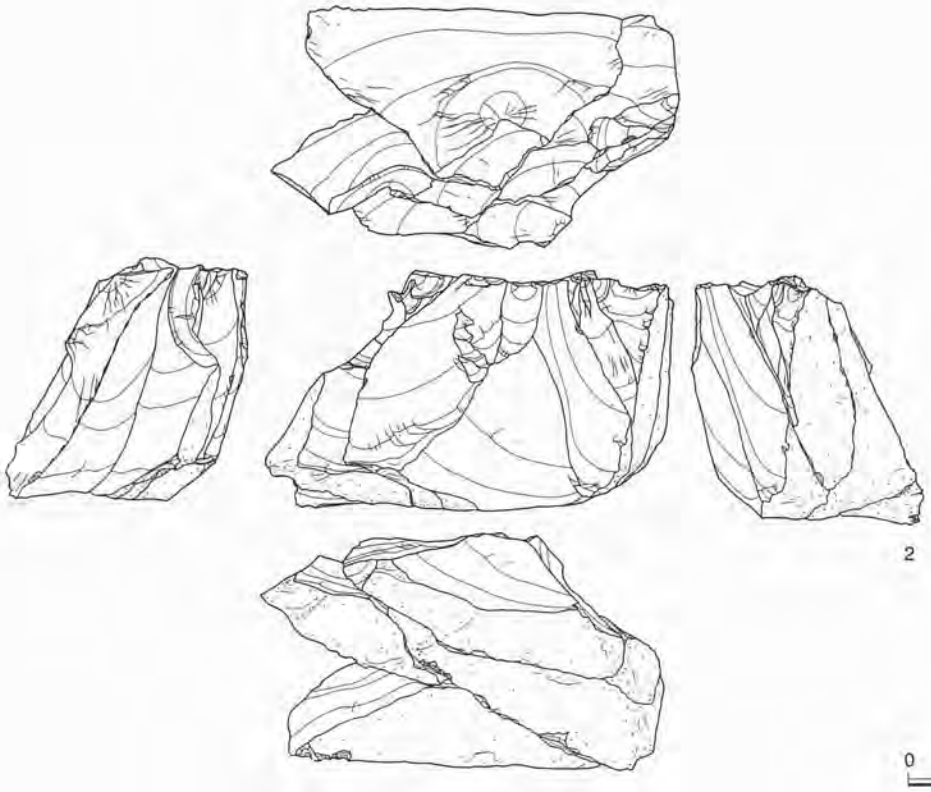


第158図　遺物実測図(8)―石器―



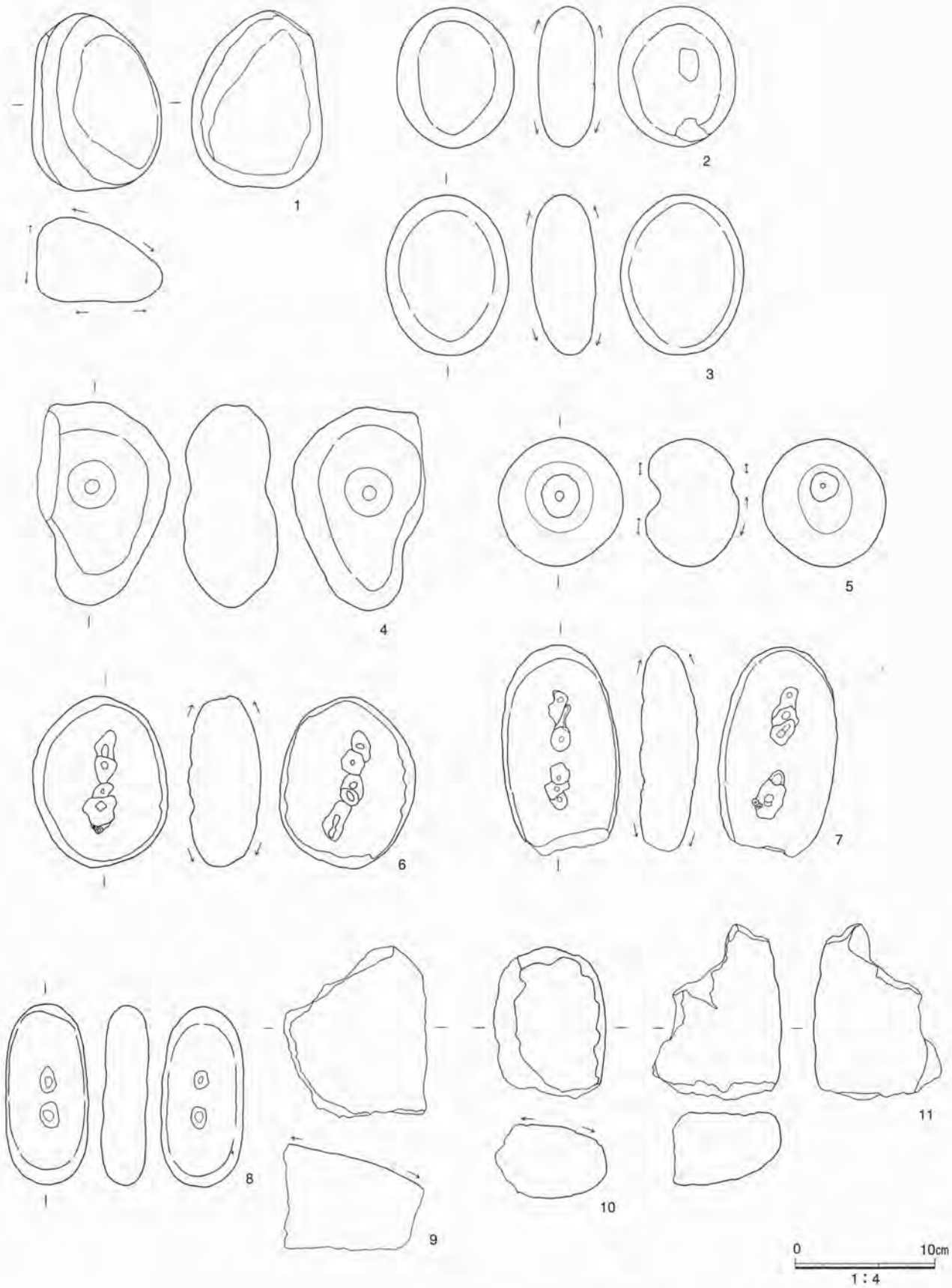
第159図　遺物実測図(9)―石器―



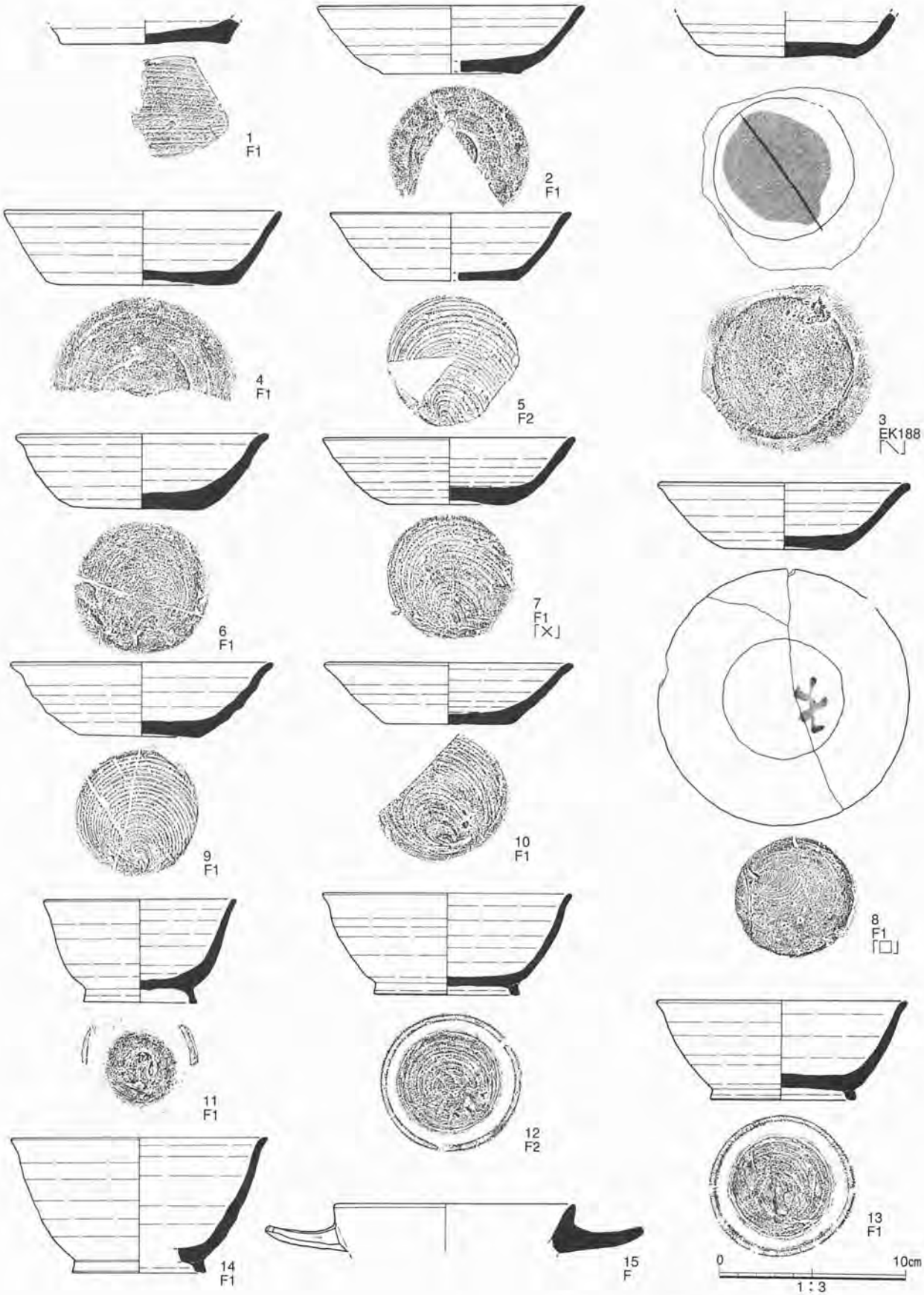


0 5cm
1：2

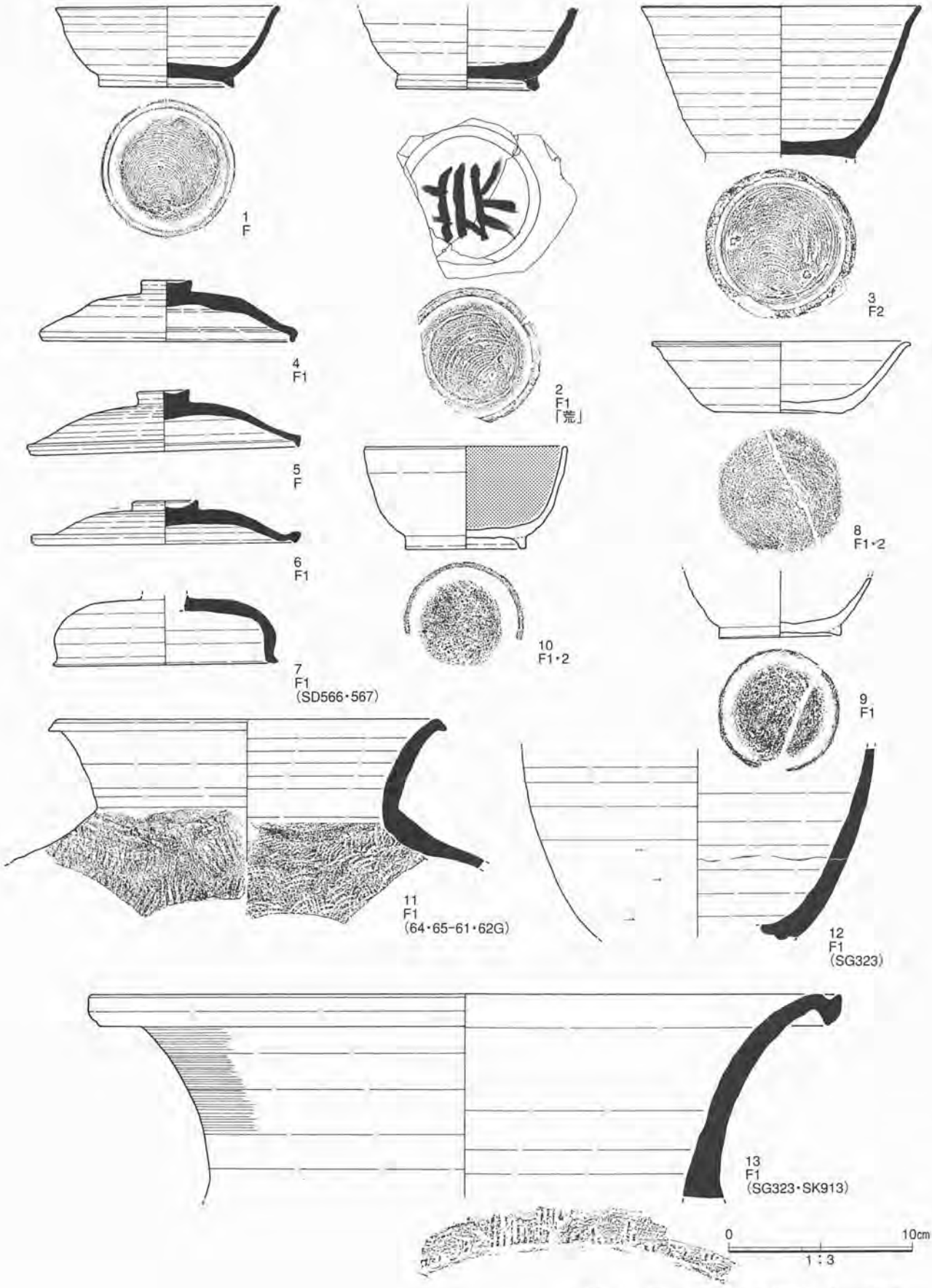
第160図　遺物実測図(10)―石器―



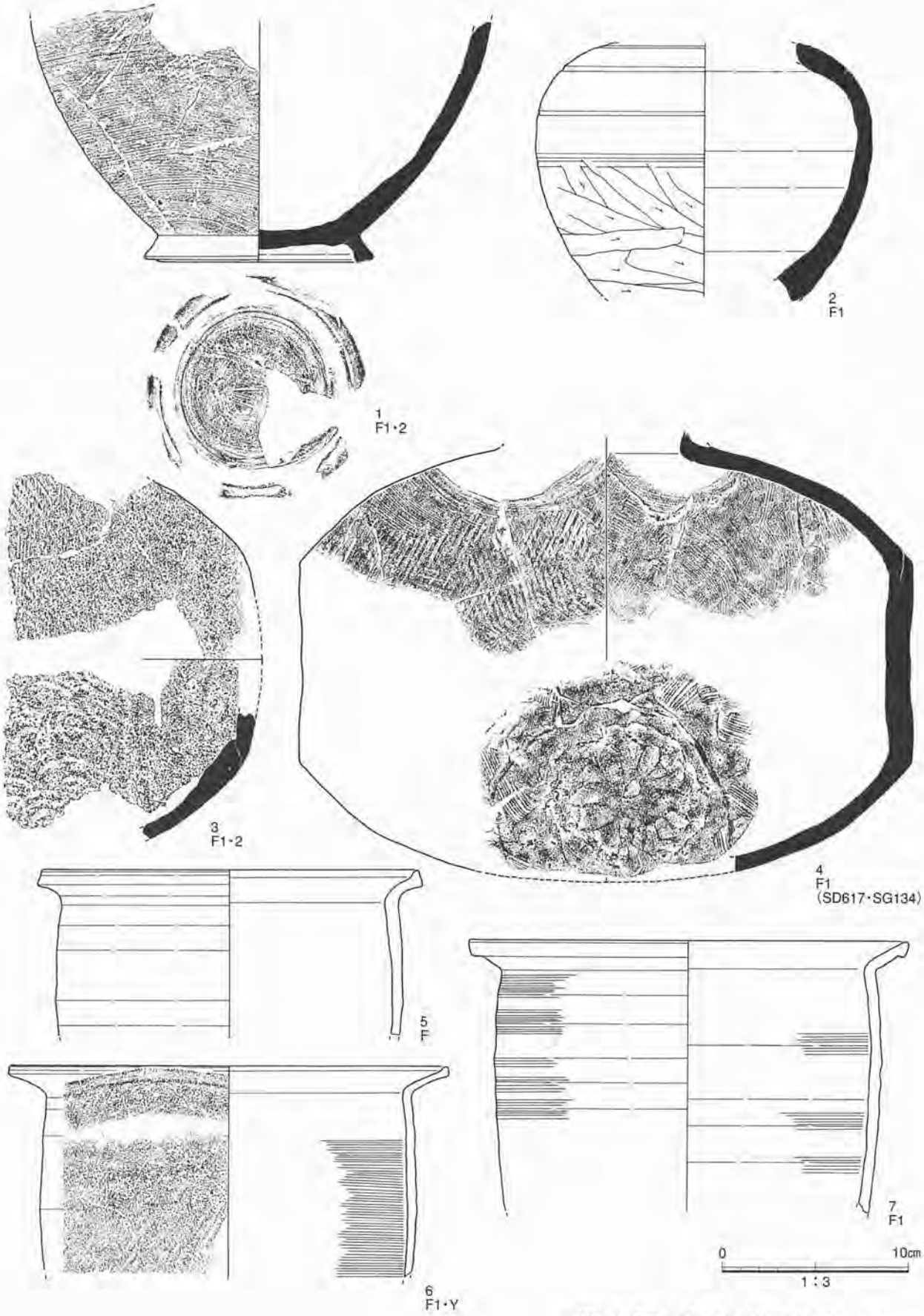
第161図　遺物実測図(11)―石器―



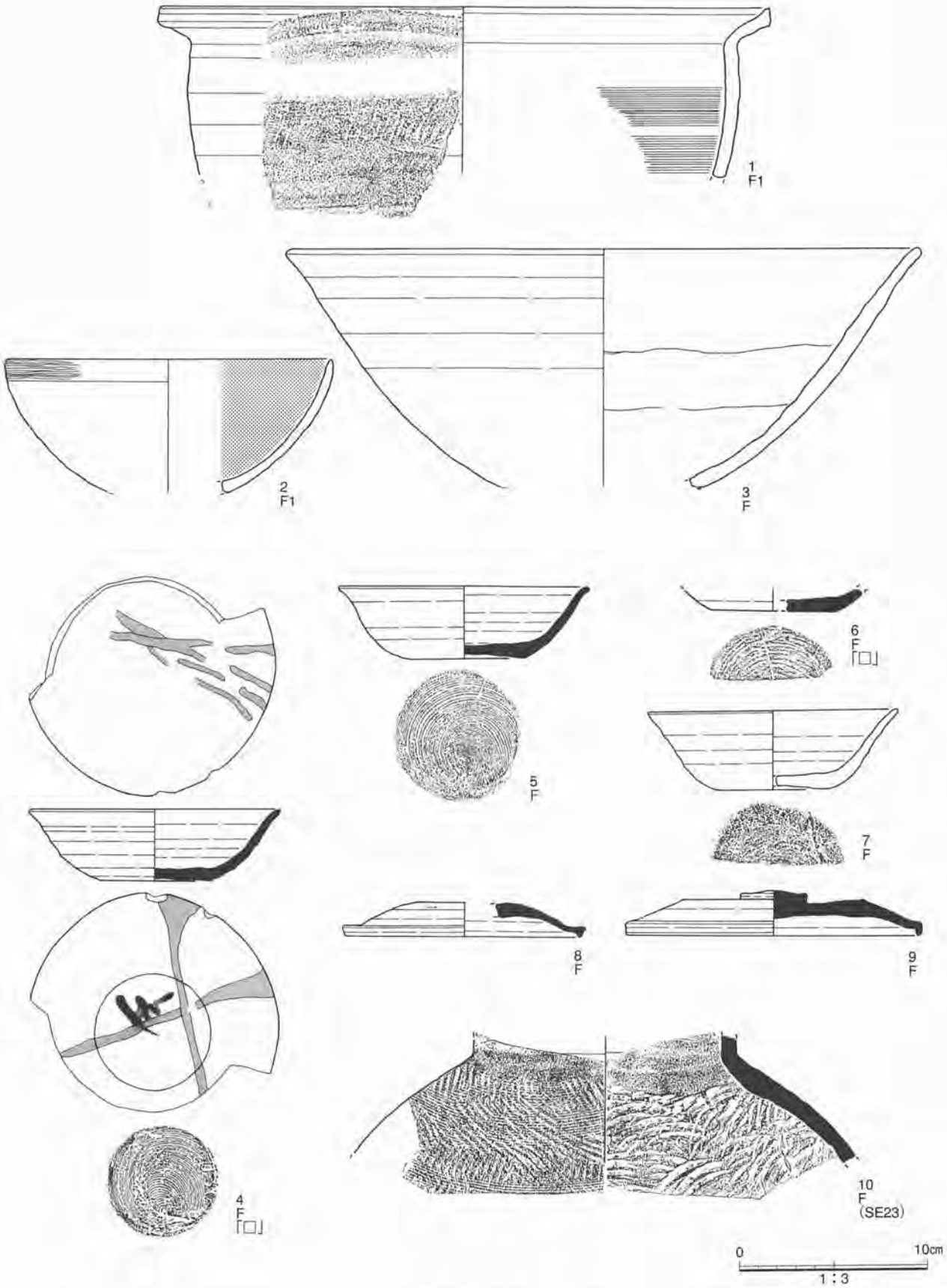
第162図　遺物実測図(12)—ST1—



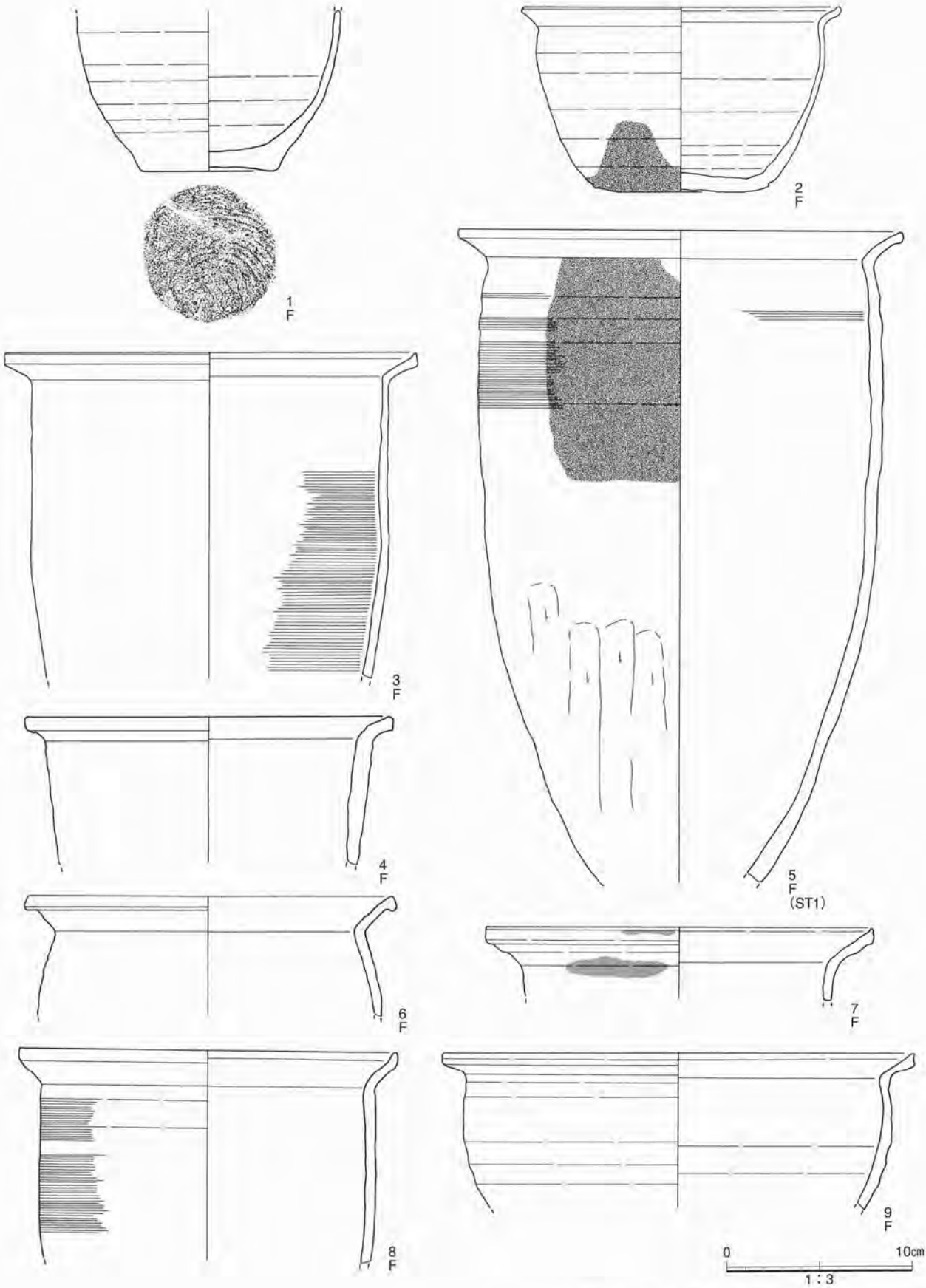
第163図　遺物実測図(13)—ST1—



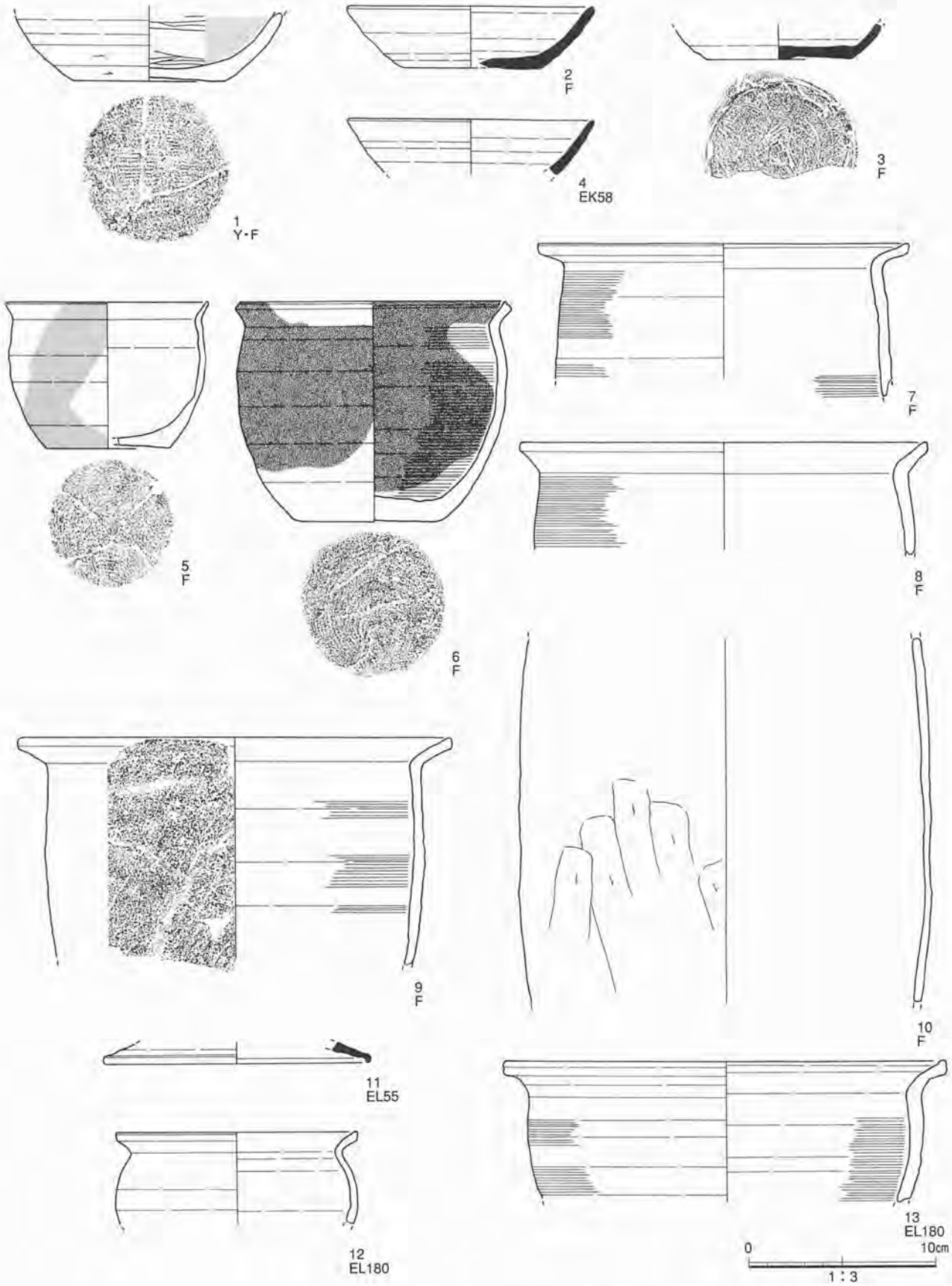
第164図　遺物実測図(14)—ST1—



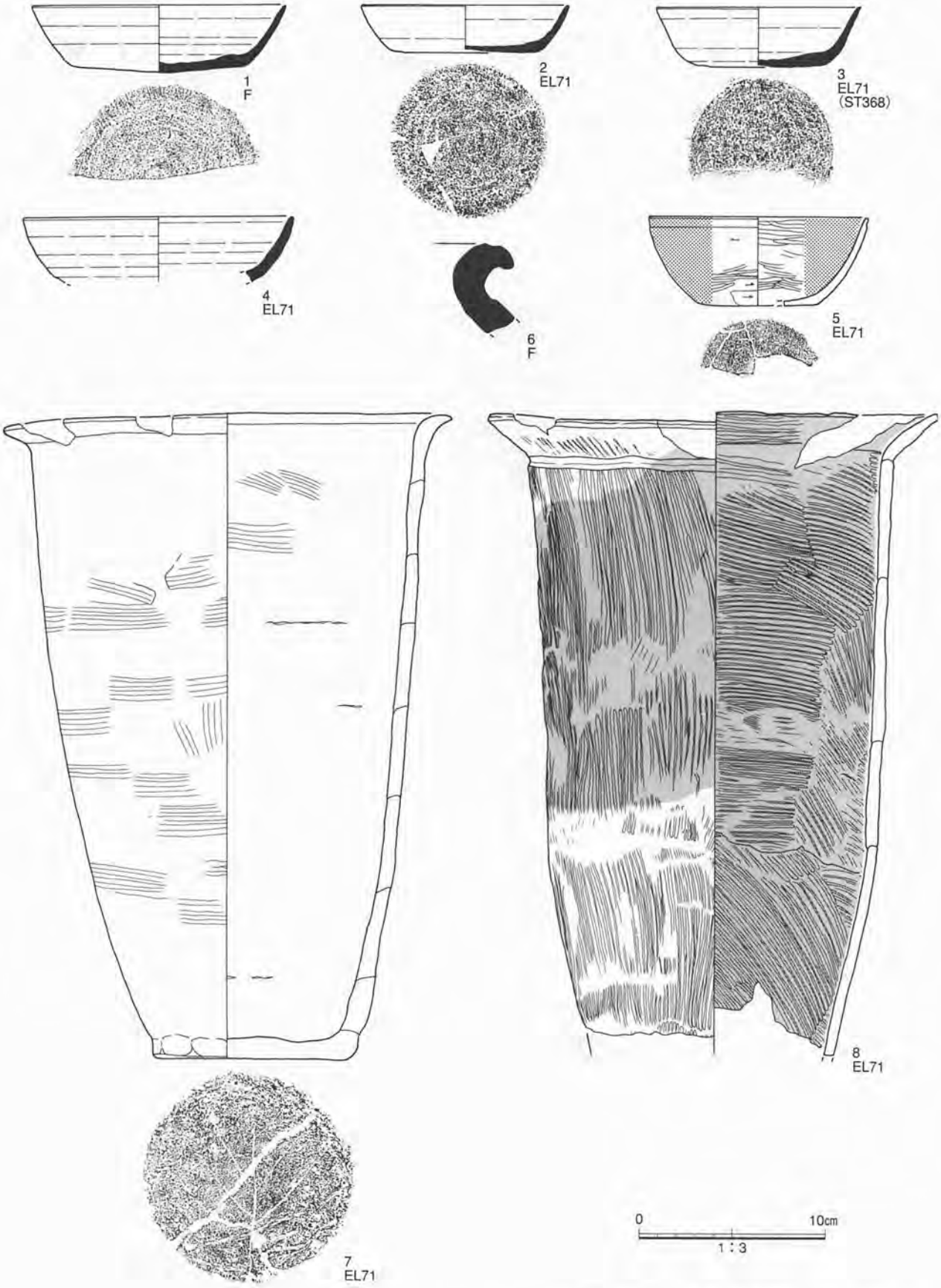
第165図　遺物実測図(15)—ST1・2—1~3：ST1、4~10：ST2



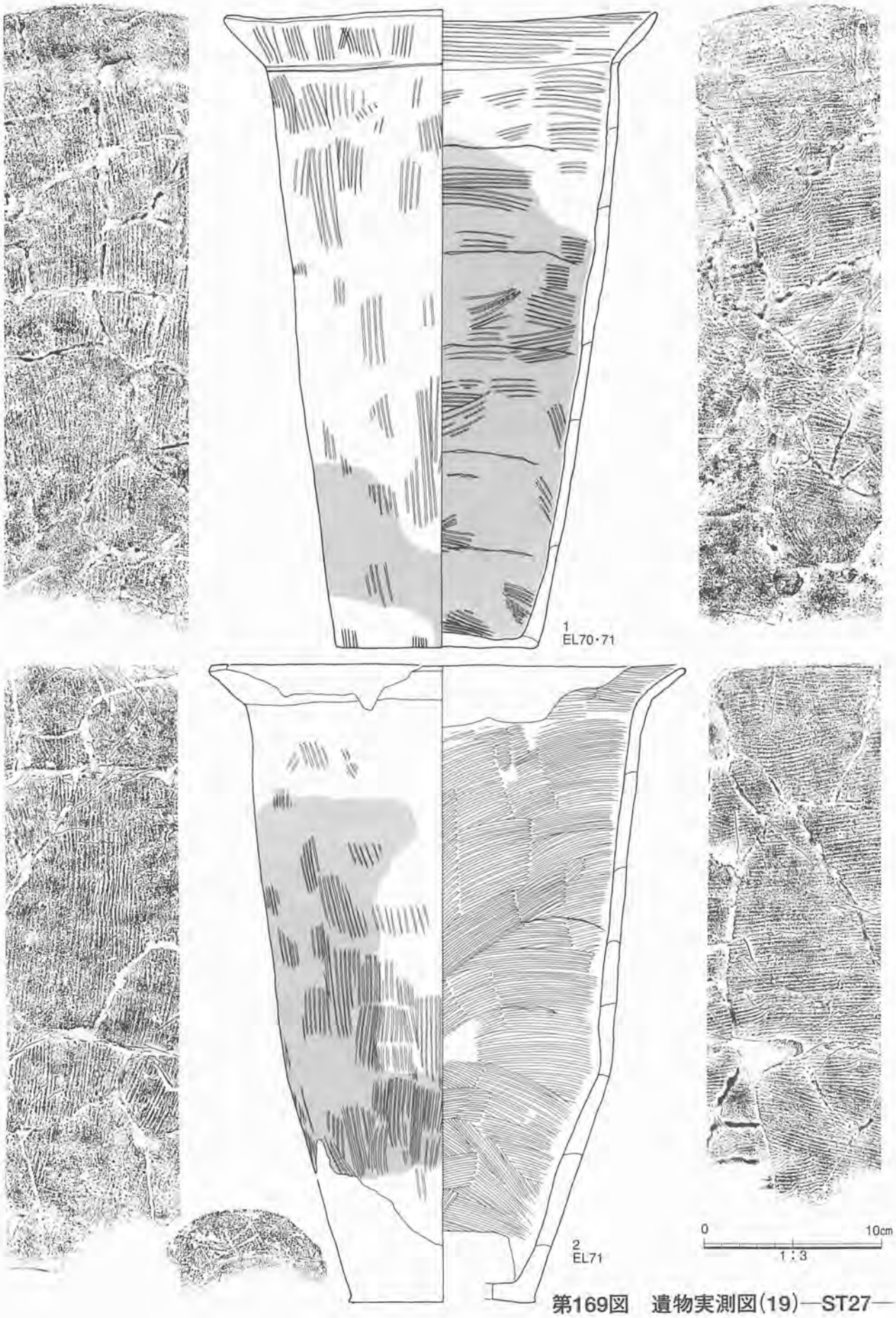
第166図　遺物実測図(16)―ST2―



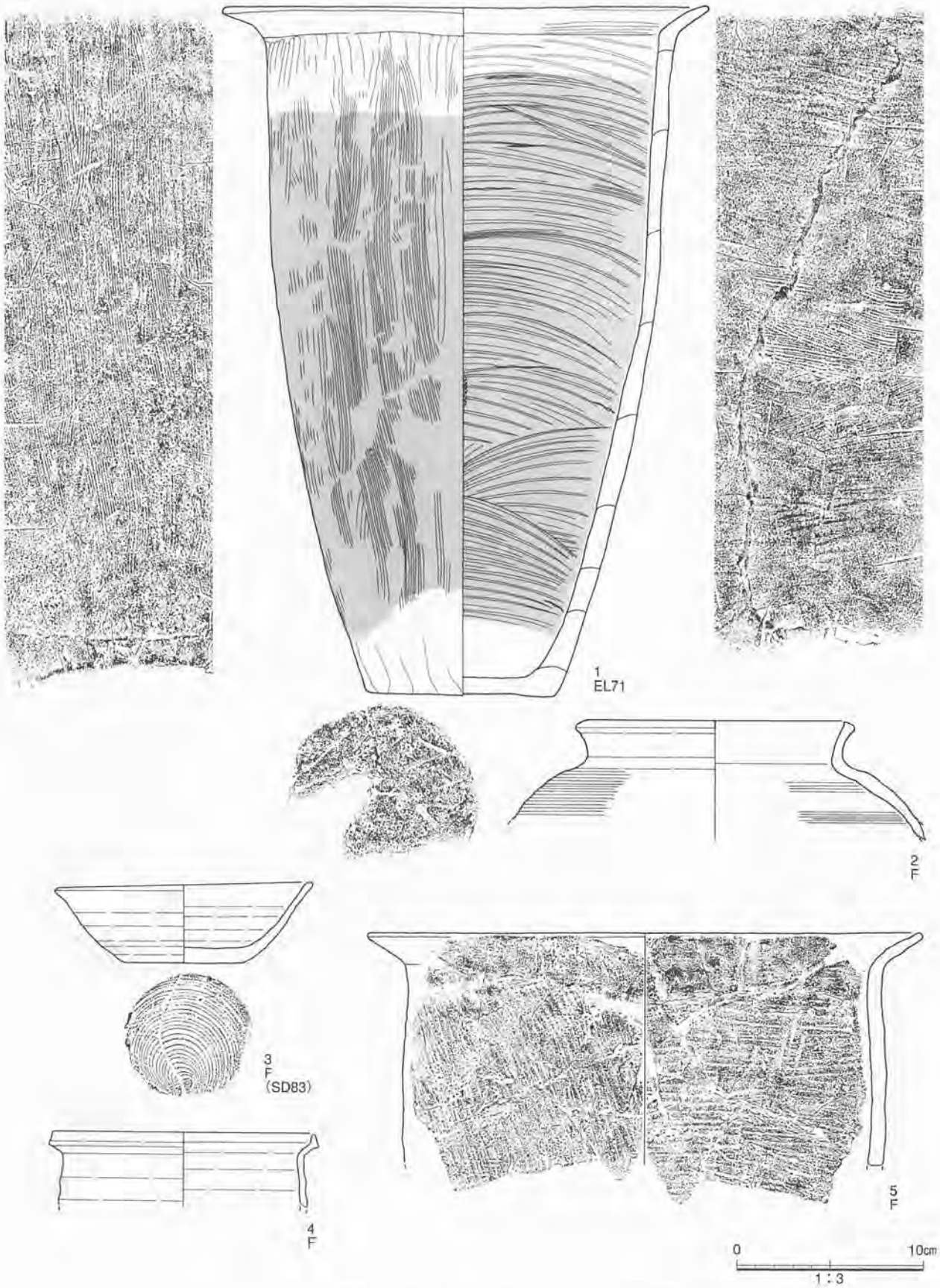
第167図　遺物実測図(17)—ST3・4—1～10：ST3、11～13：ST4



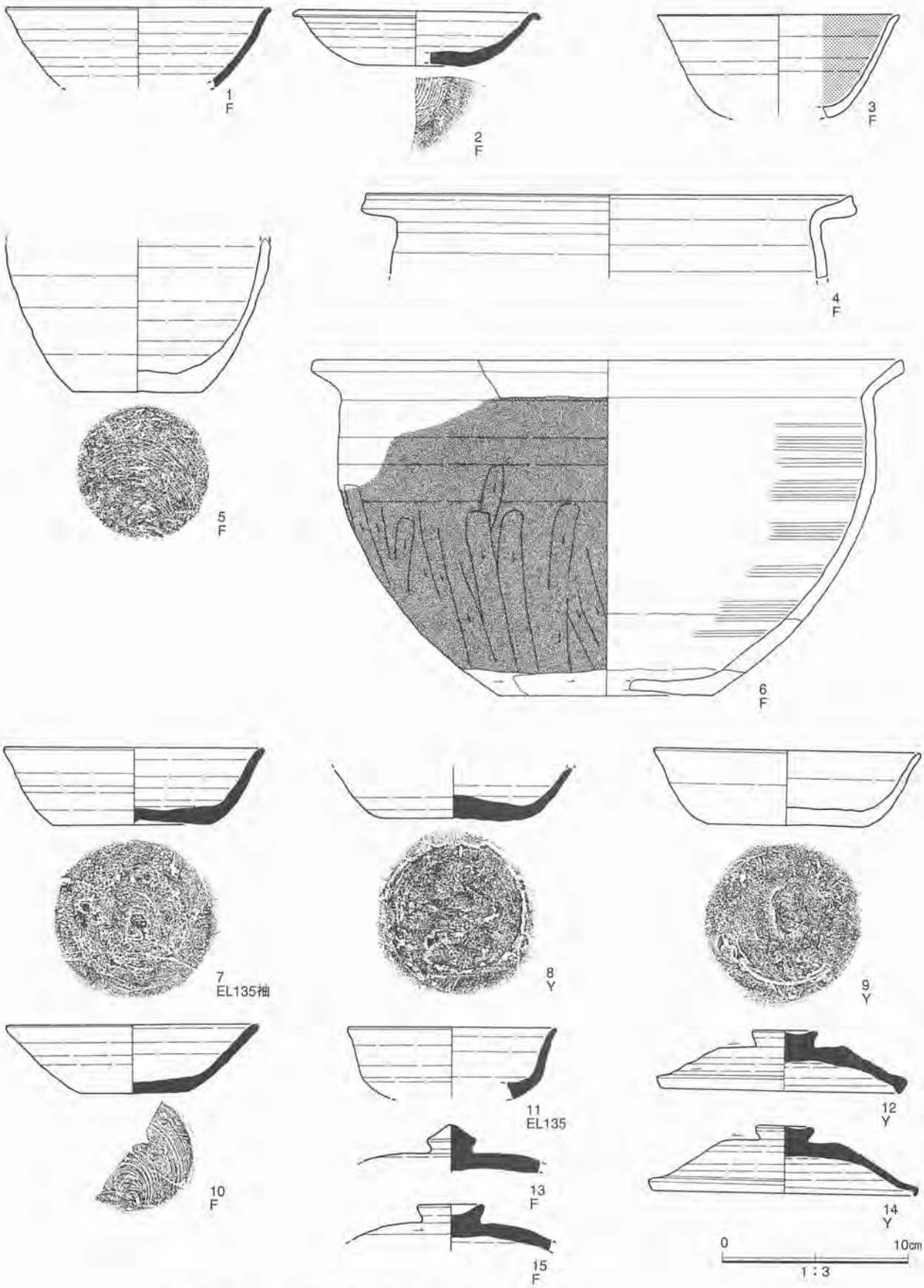
第168図　遺物実測図(18)—ST27—



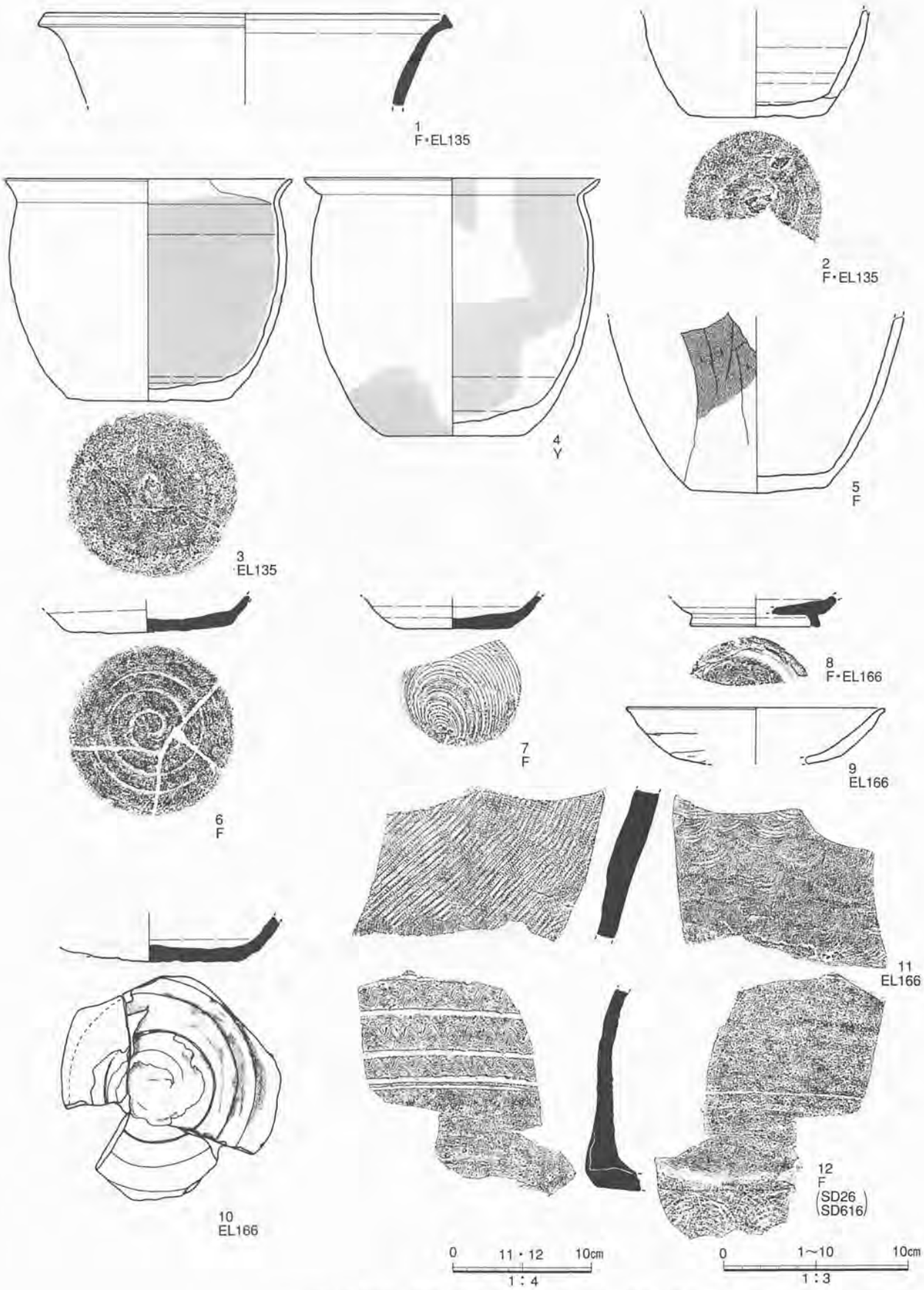
第169図　遺物実測図(19)—ST27—



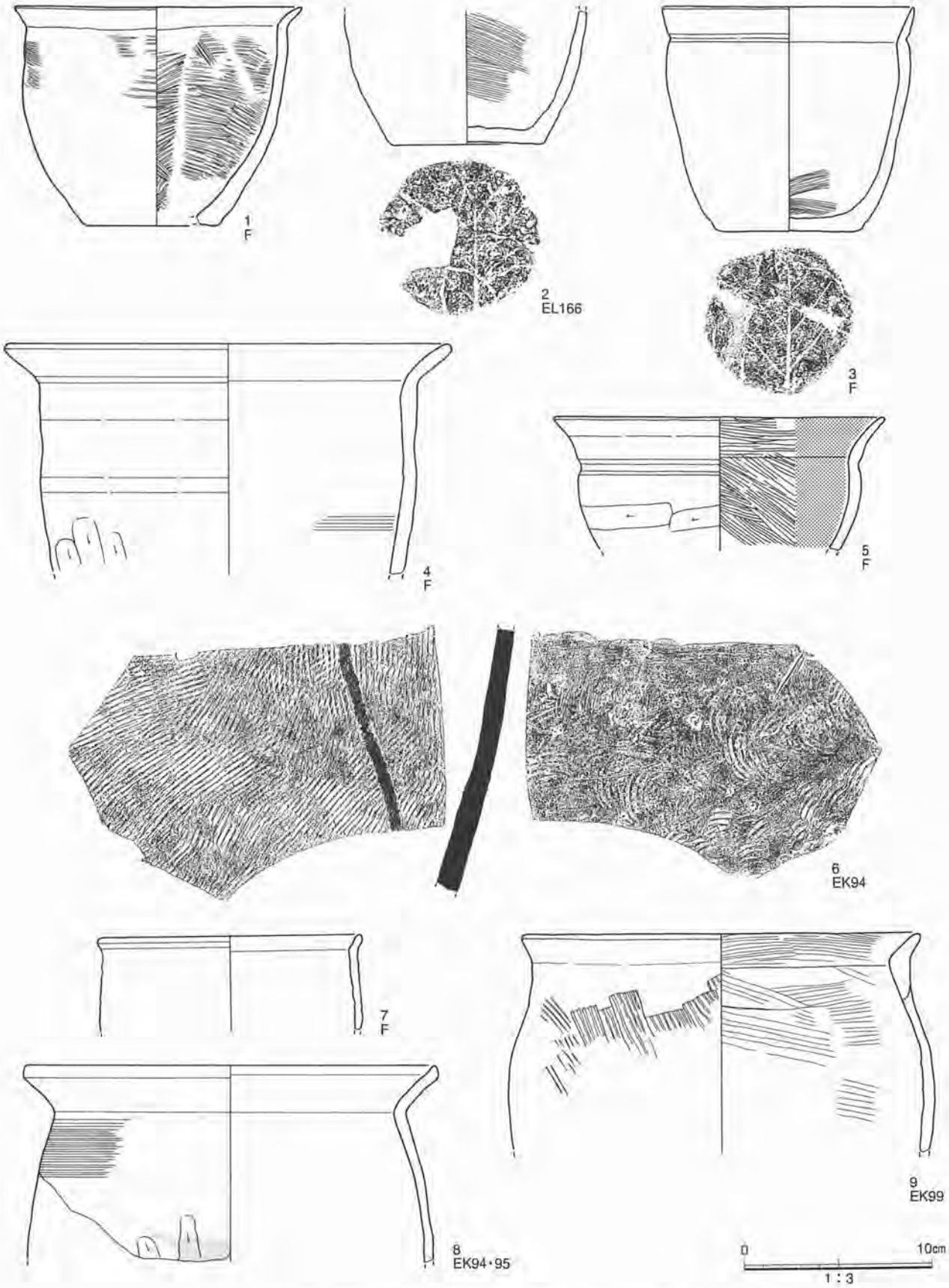
第170図　遺物実測図(20)—ST5・27—1・2：ST27、3～5：ST5



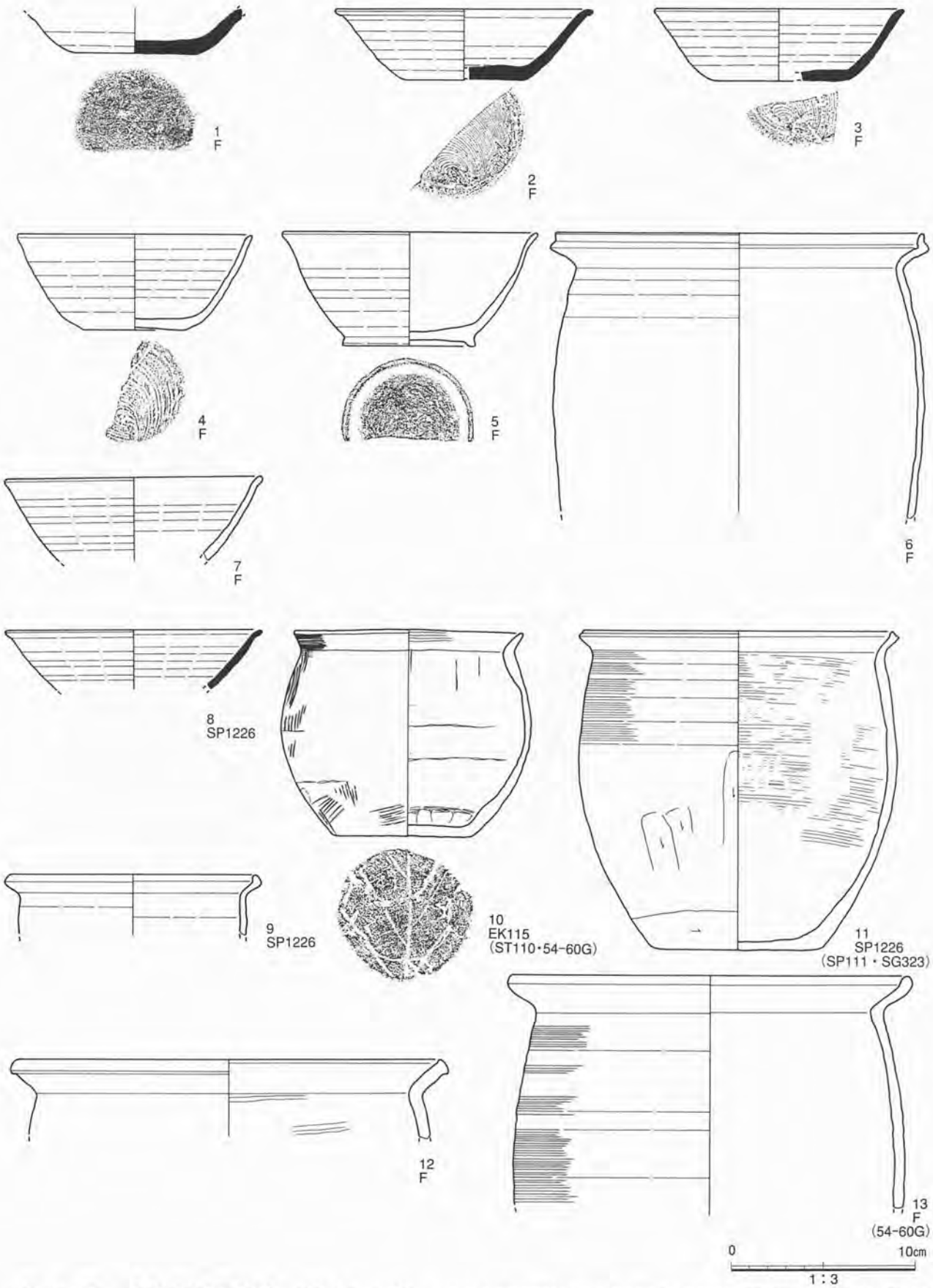
第171図　遺物実測図(21)—ST31・64・76—1～5：ST31、6：ST42、7～15：ST76



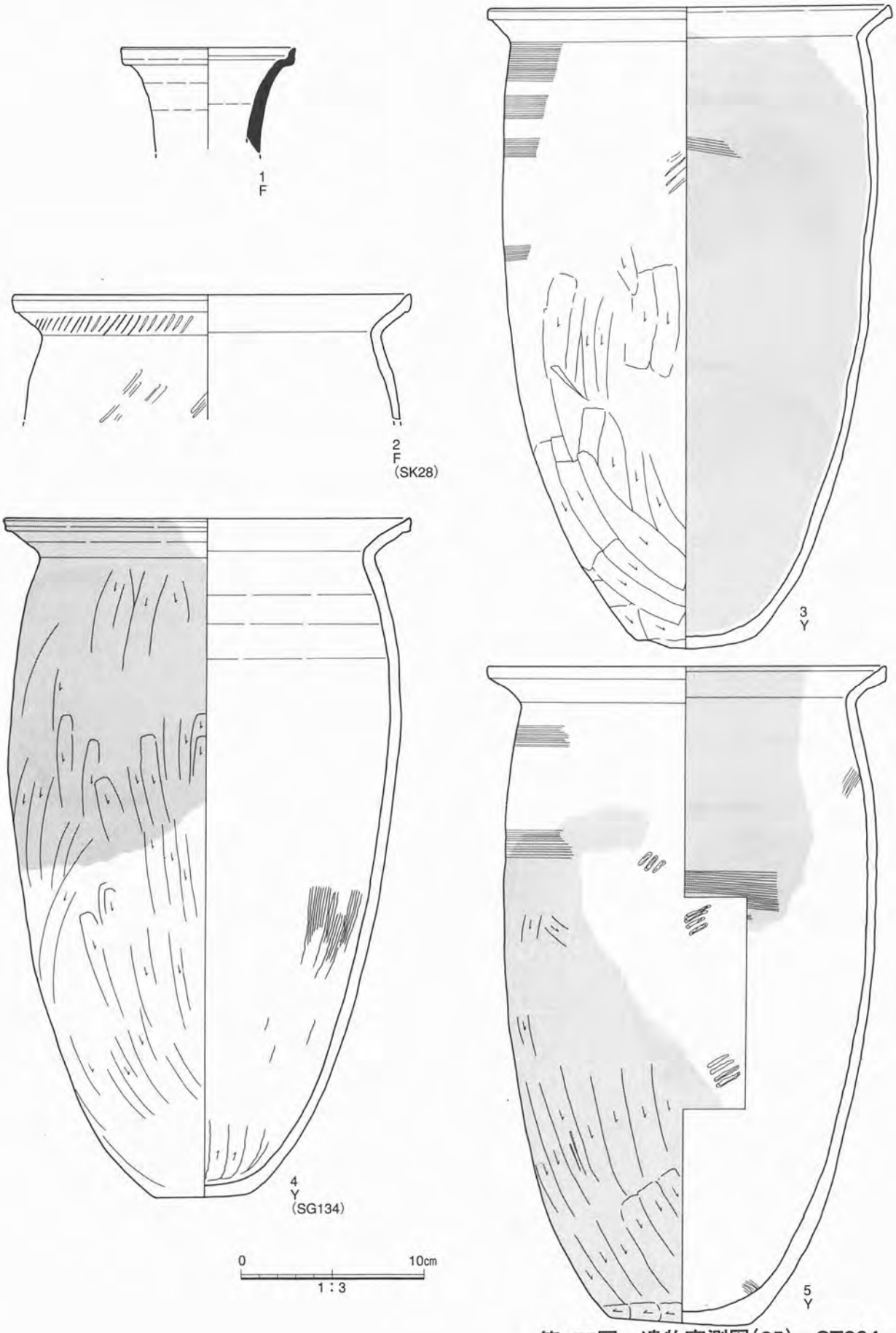
第172図　遺物実測図(22)—ST76・77—1～5：ST76、6～12：ST77



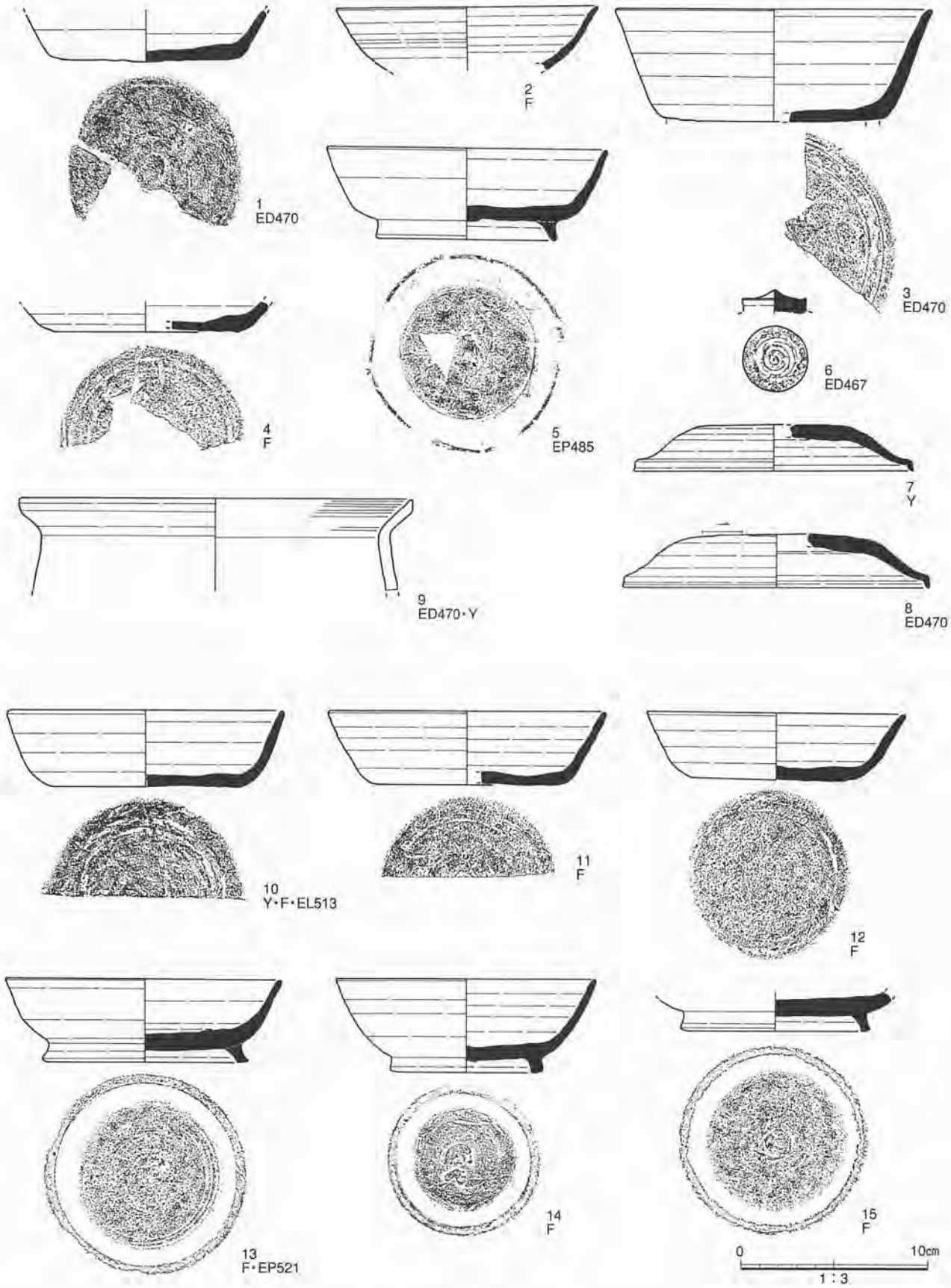
第173図　遺物実測図(23)—ST77・78—1～5：ST77、6～9：ST78



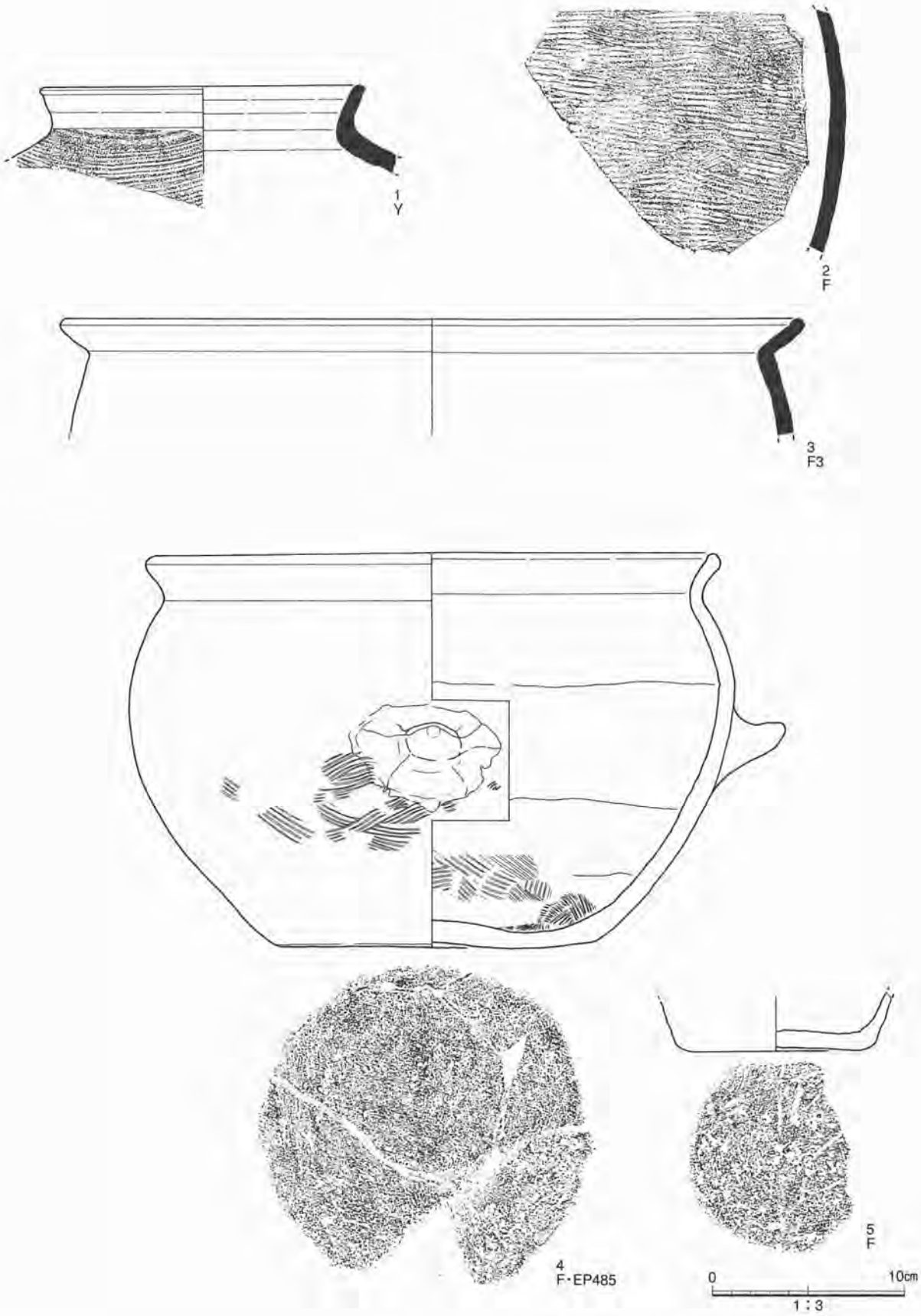
第174図　遺物実測図(24)—ST101・110—1・3・5・7・10:SK115、2・4・6:ST101、8・9・11:SP1226、10・12・13:ST110



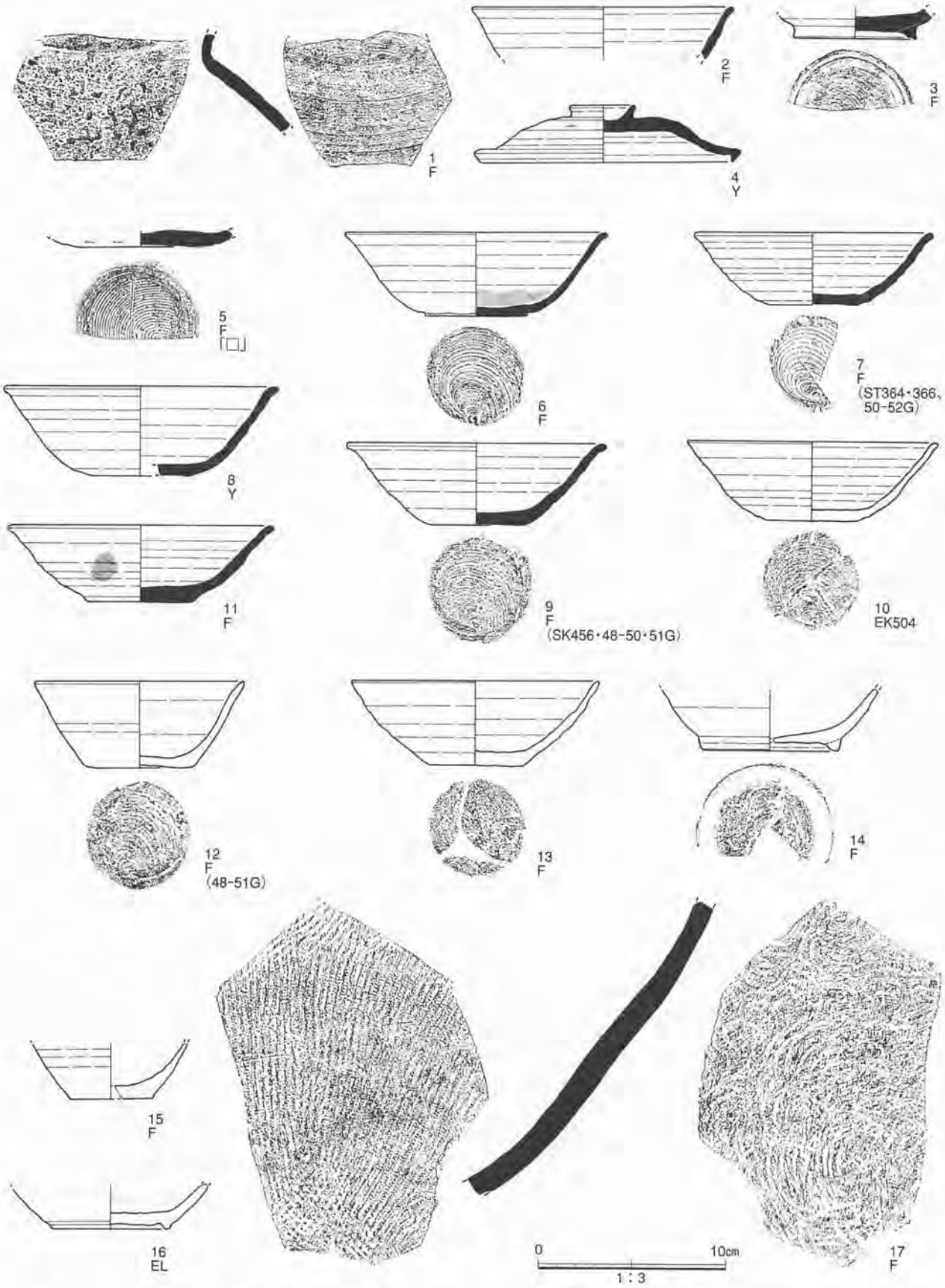
第175図　遺物実測図(25)―ST264―



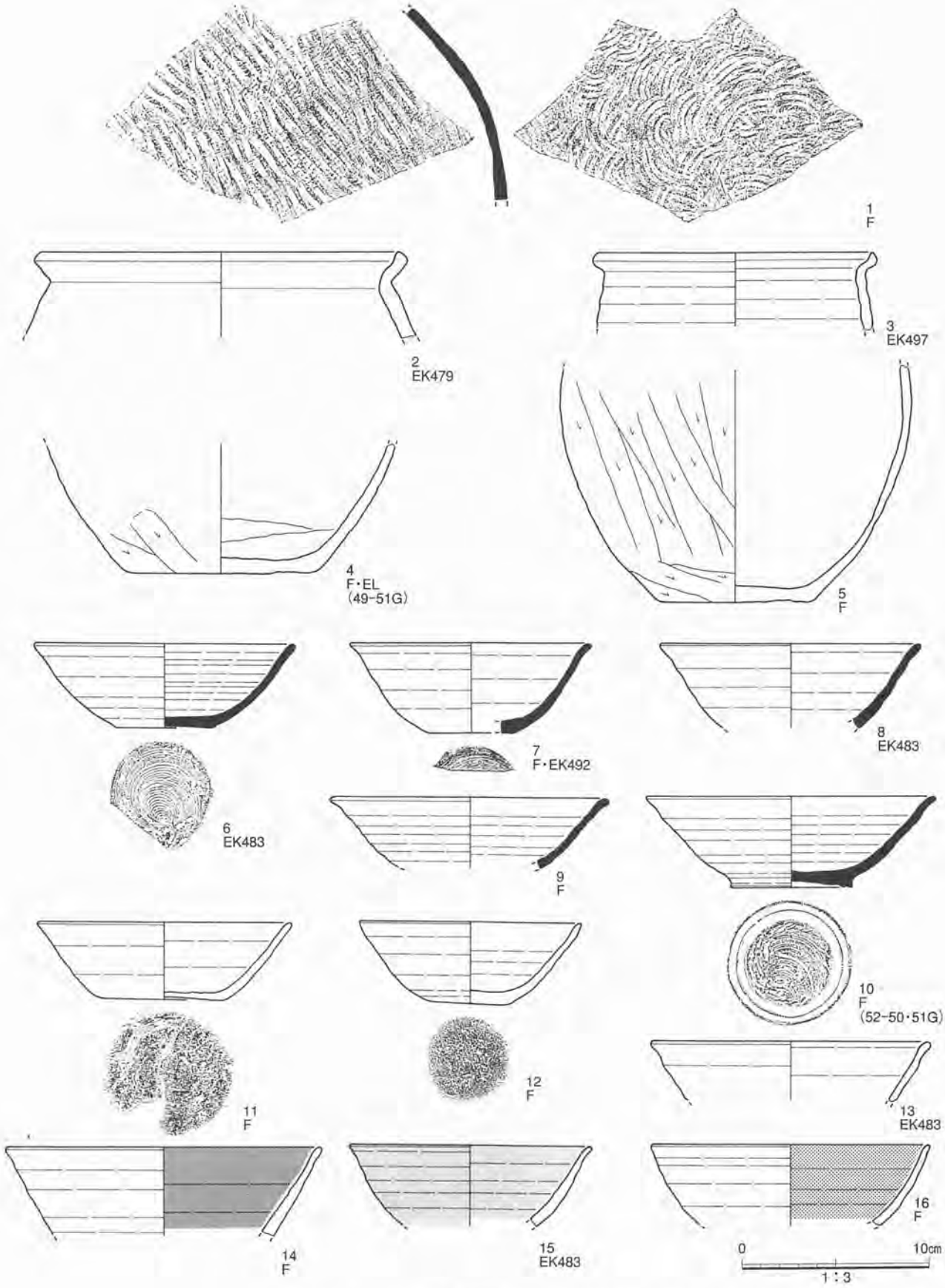
第176図　遺物実測図(26)—ST364・365—1～9：ST364、10～15：ST365



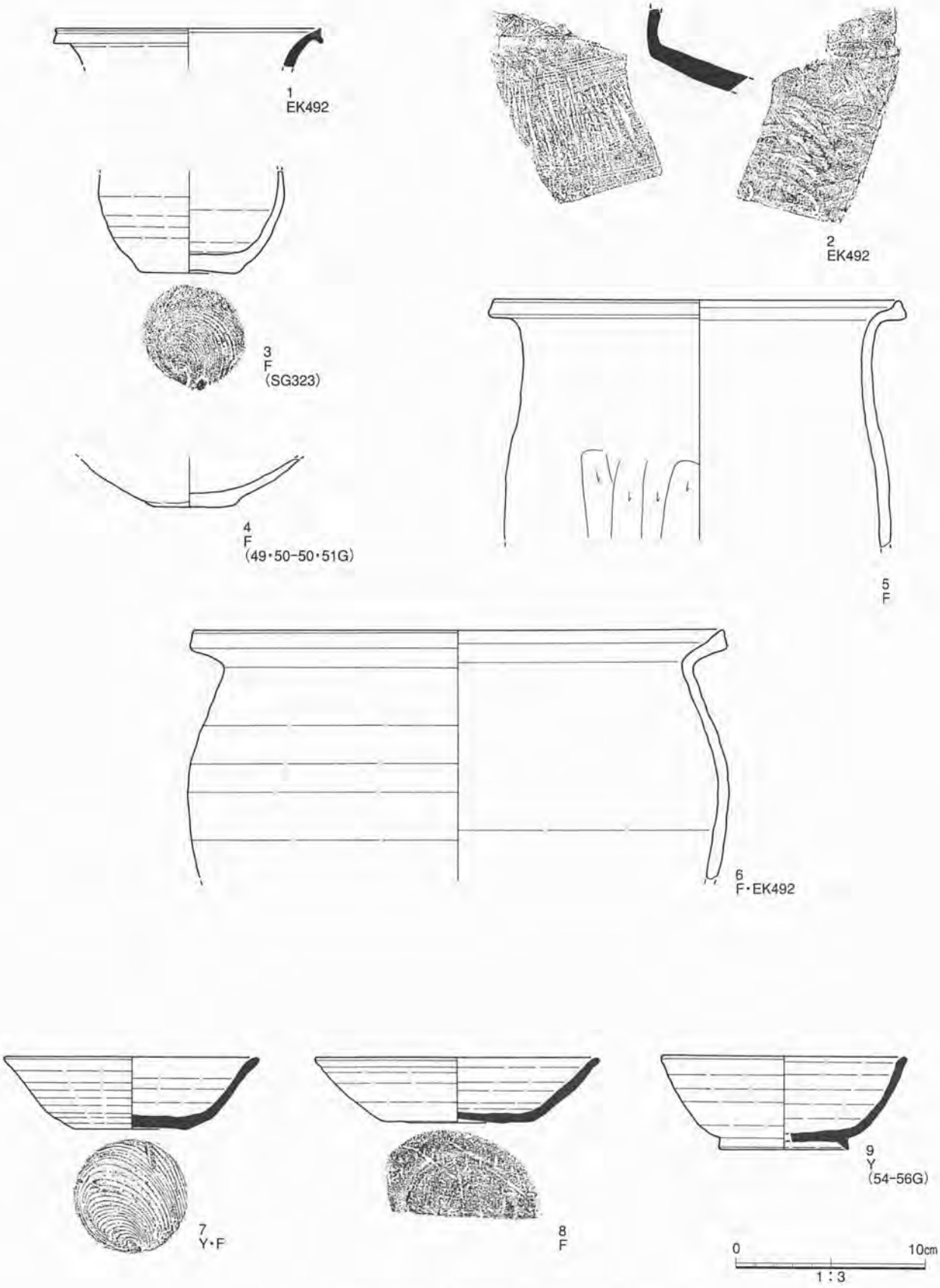
第177図　遺物実測図(27)—ST365—



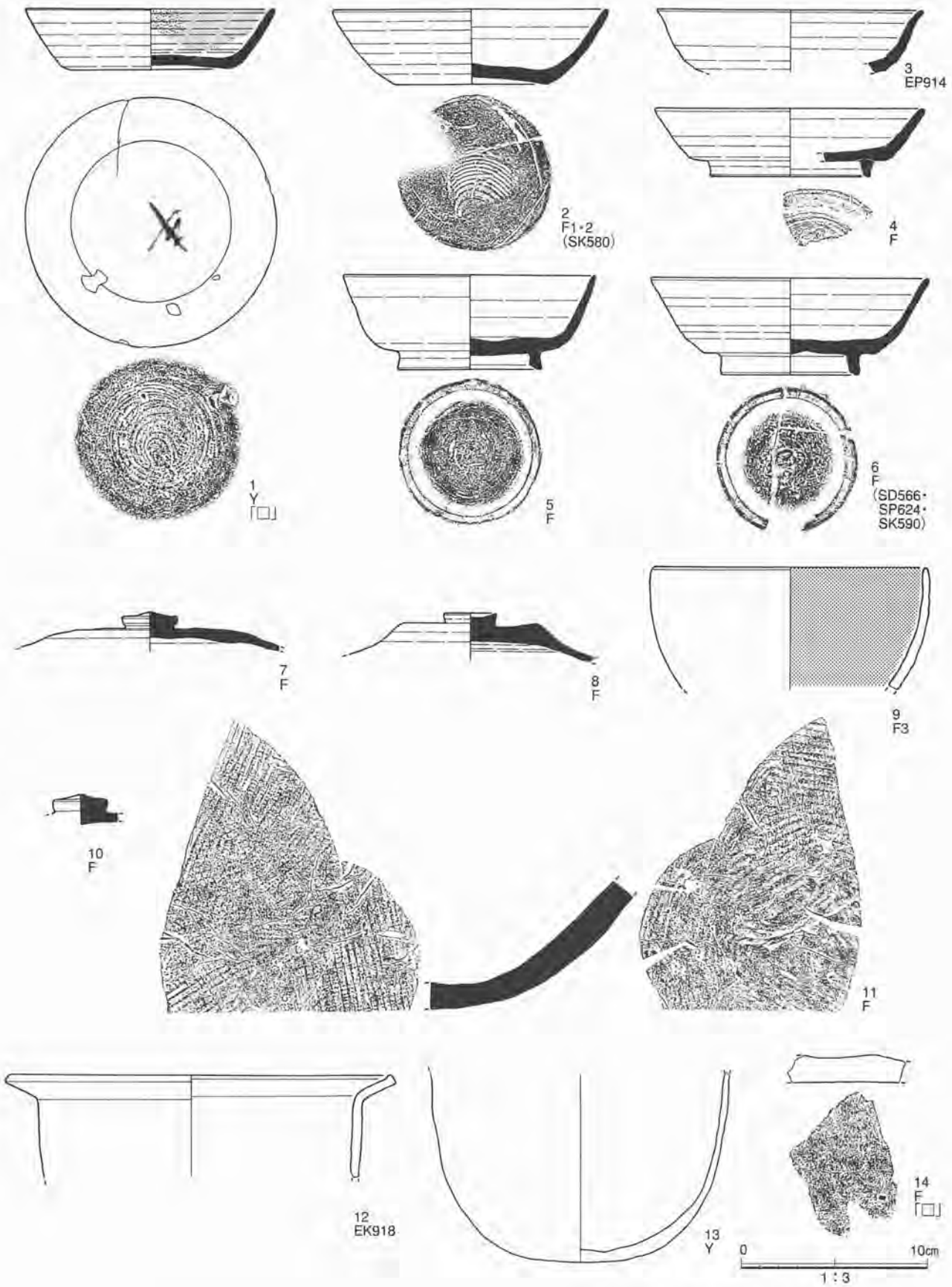
第178図　遺物実測図(28)—ST366・367・368—1：ST366、2～4：ST367、5～17：ST368



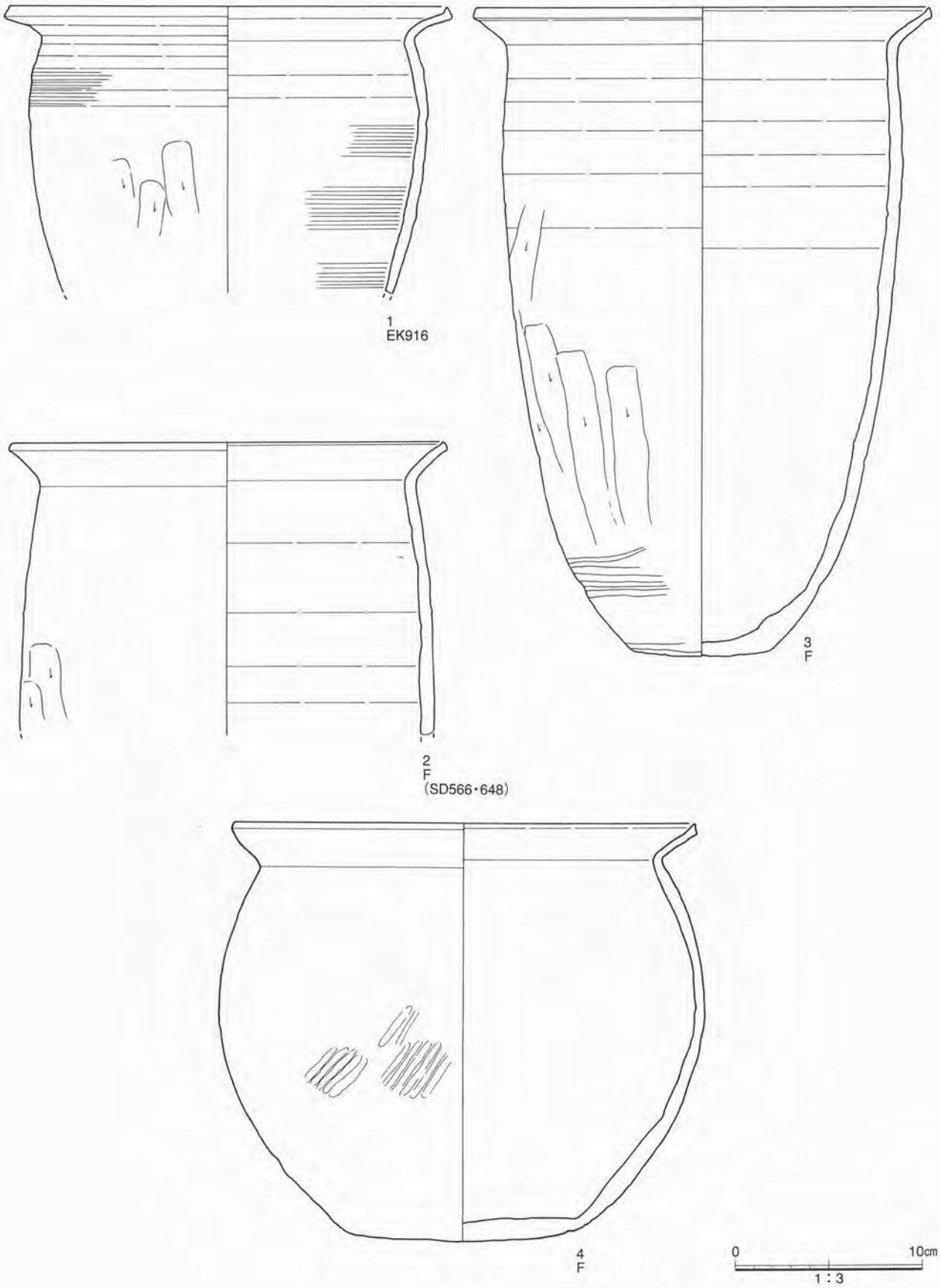
第179図　遺物実測図(29)—ST368・369—1～5：ST368、6～16：ST369



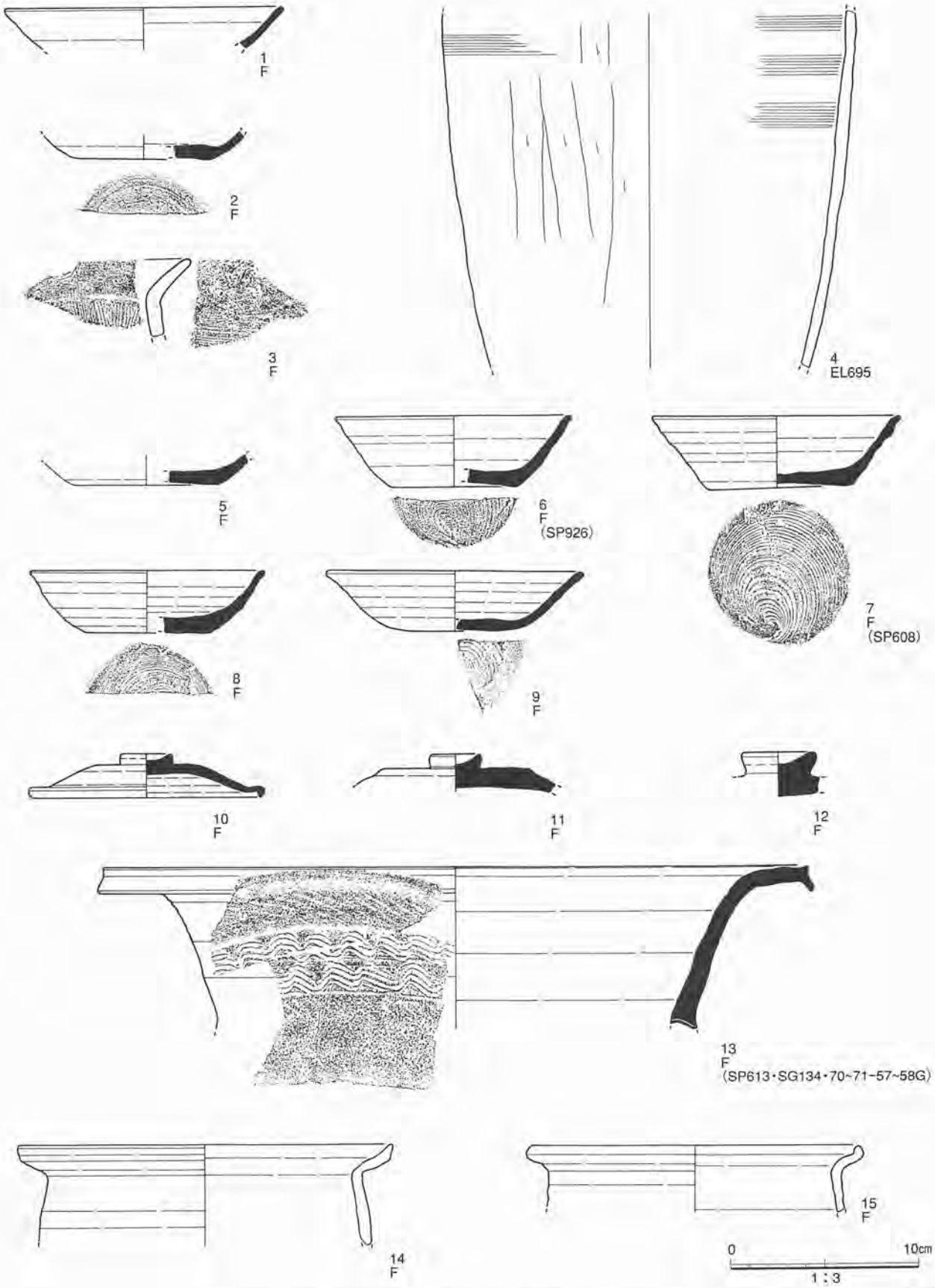
第180図　遺物実測図(30)—ST369・463—1～6：ST369、7～9：ST463



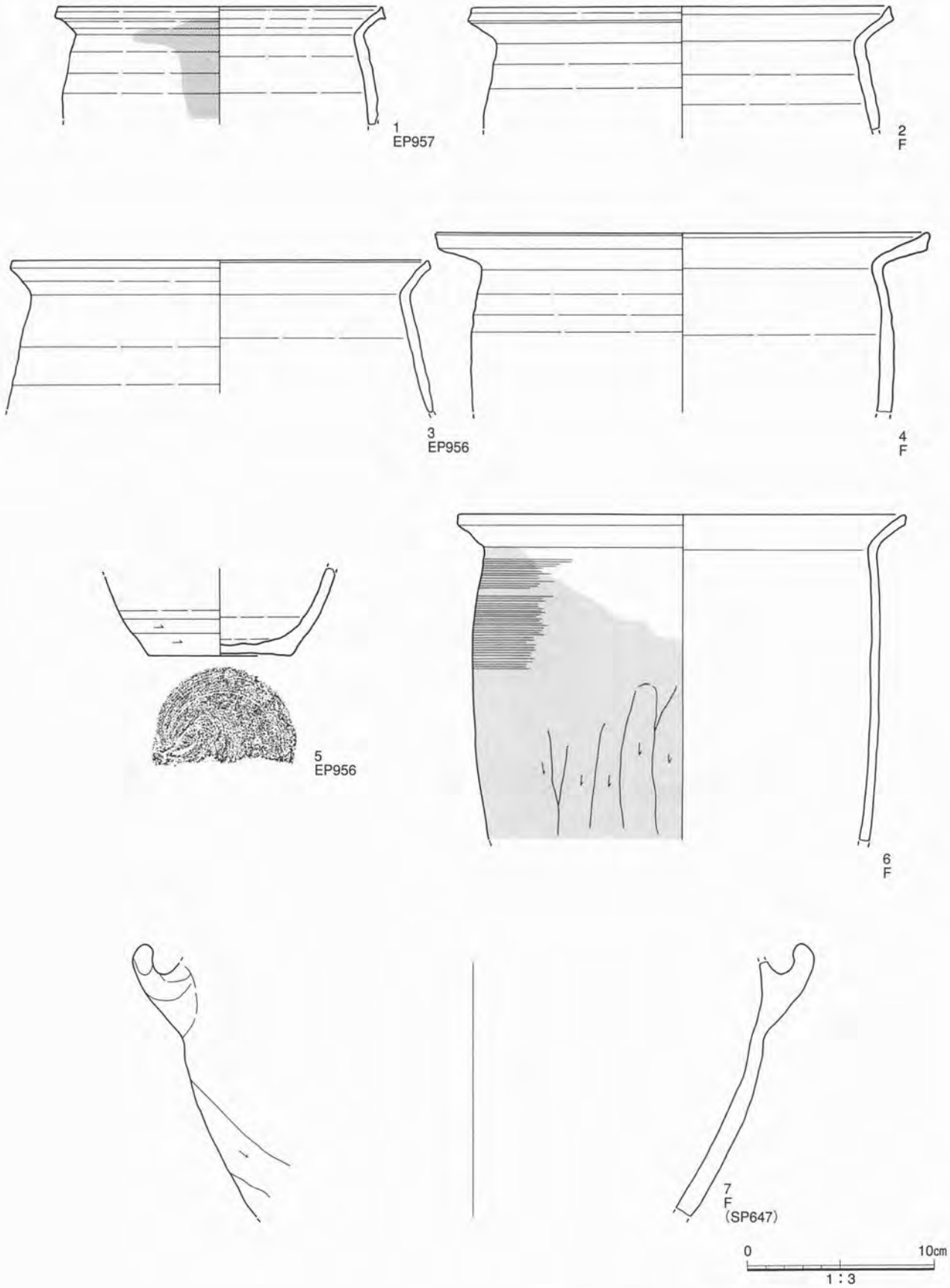
第181図　遺物実測図(31)—ST560—



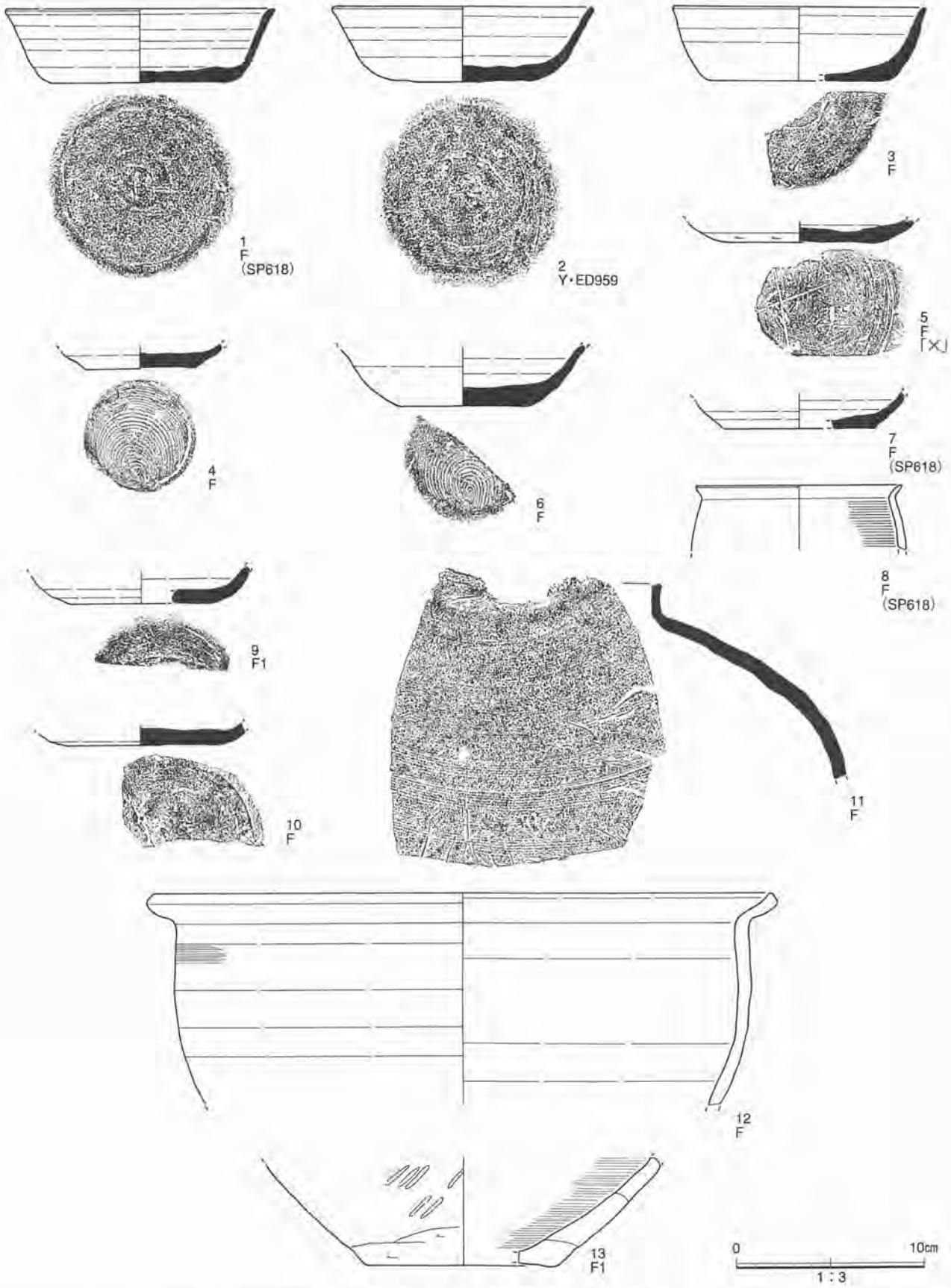
第182図　遺物実測図(32)—ST560—



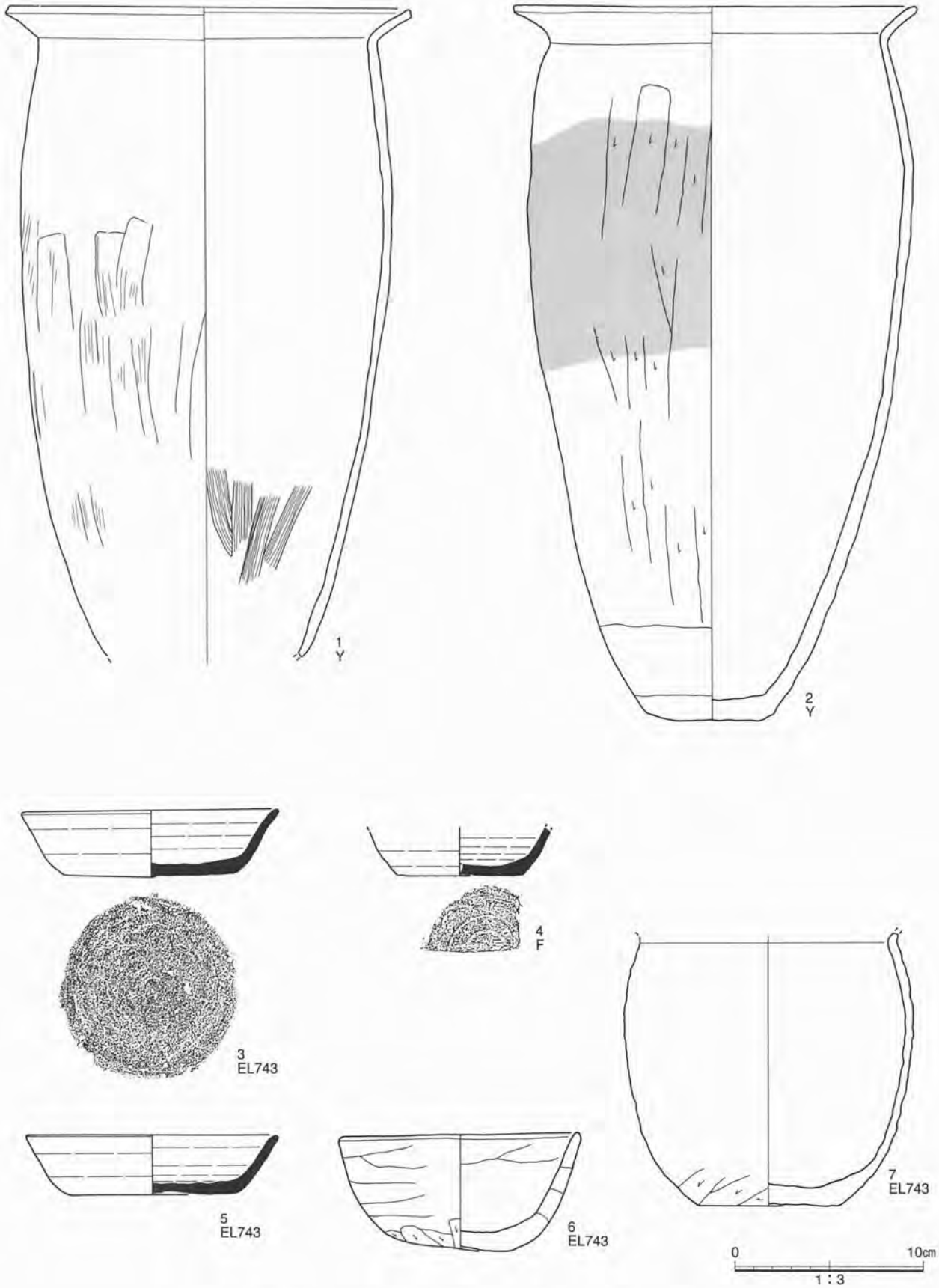
第183図　遺物実測図(33)—ST568・582—1~4：ST568、5~15：ST582



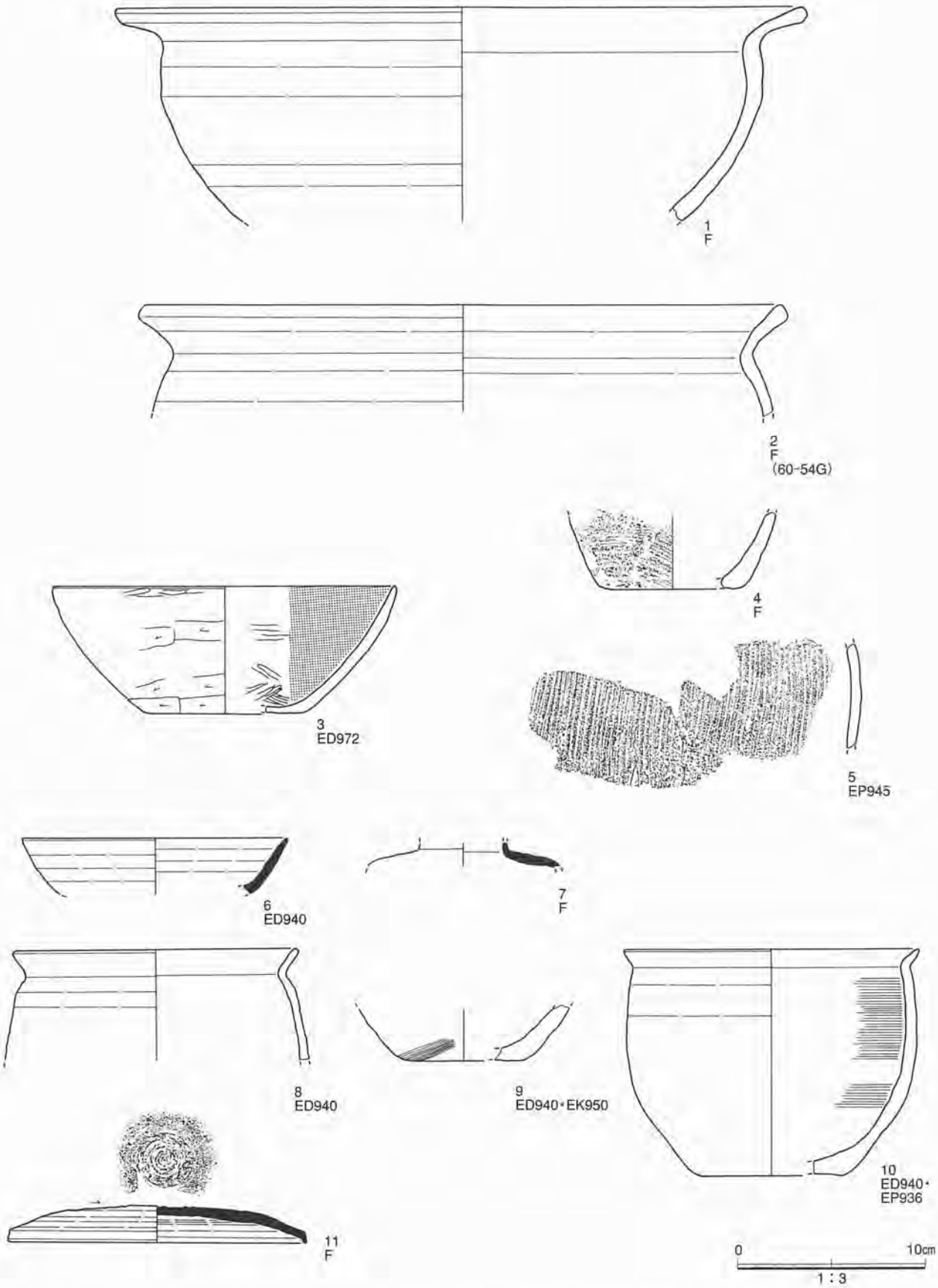
第184図　遺物実測図(34)—ST582—



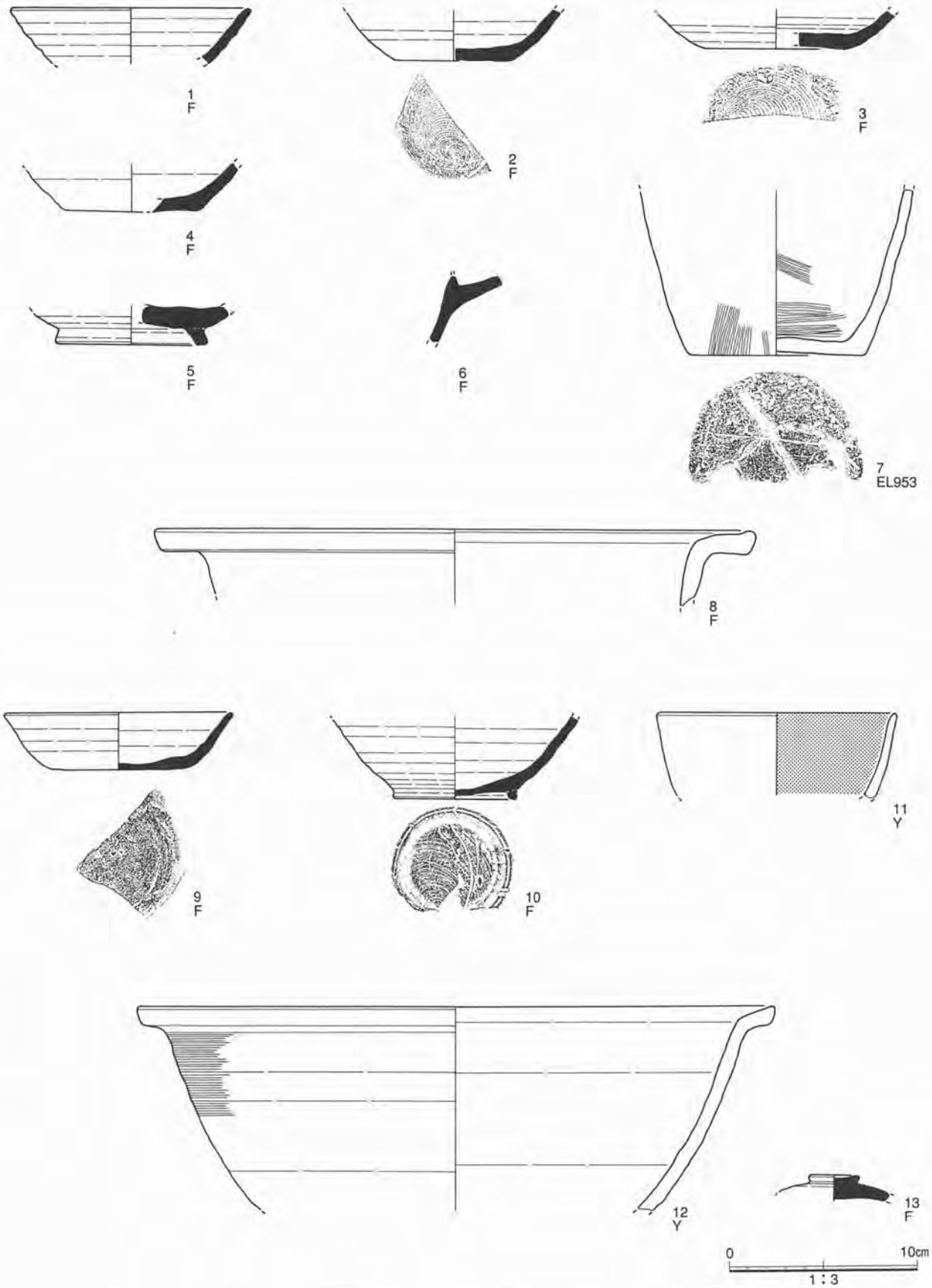
第185図　遺物実測図(35)―ST584・625・626―1～7：ST584、8：ST625、9～13：ST626



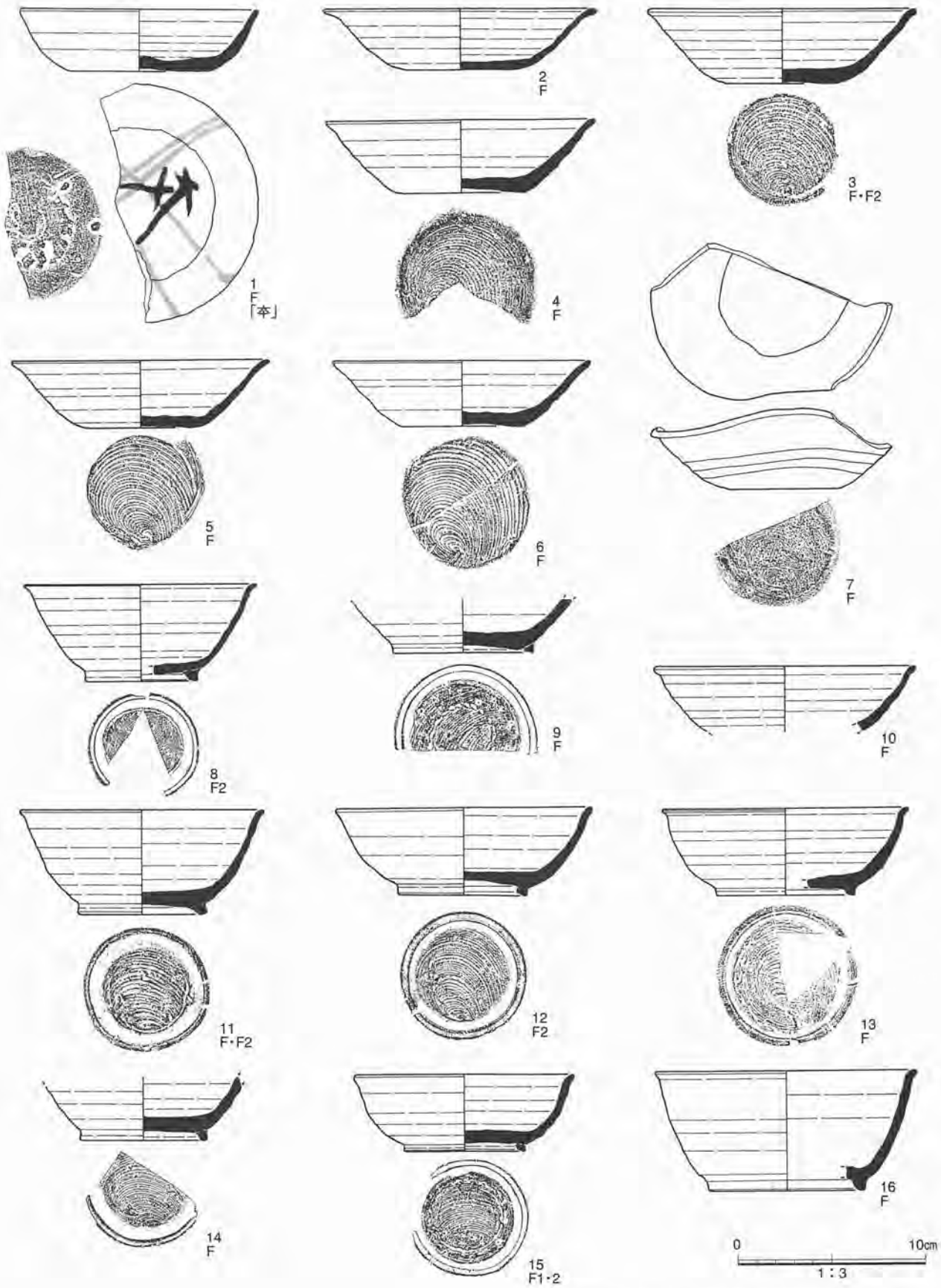
第186図　遺物実測図(36)—ST626・627—1・2：ST626、3～7：ST627



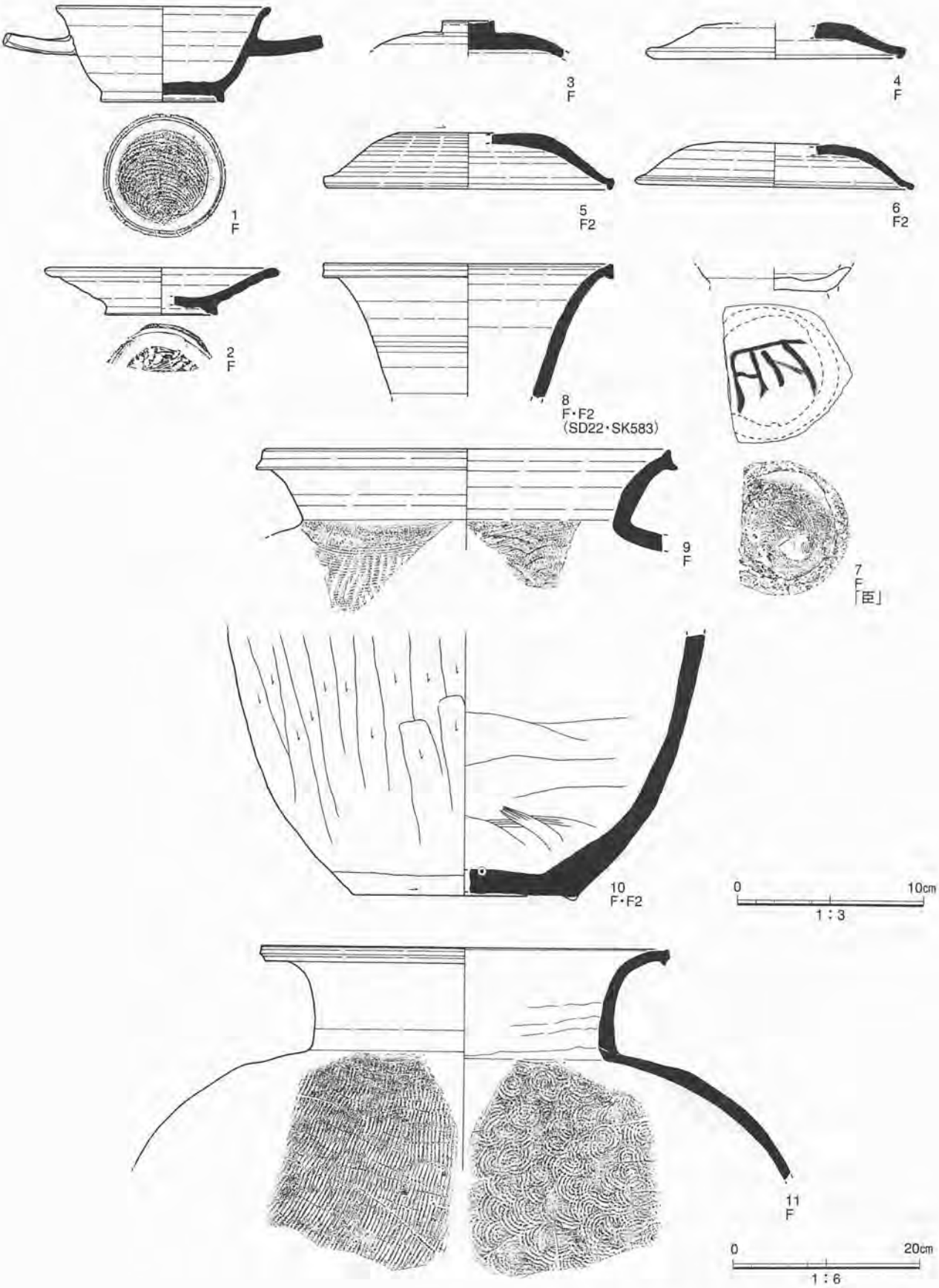
第187図　遺物実測図(37)—ST627・644・645・671—1・2：ST627、3～5：ST644、6～10：ST645、11：ST671



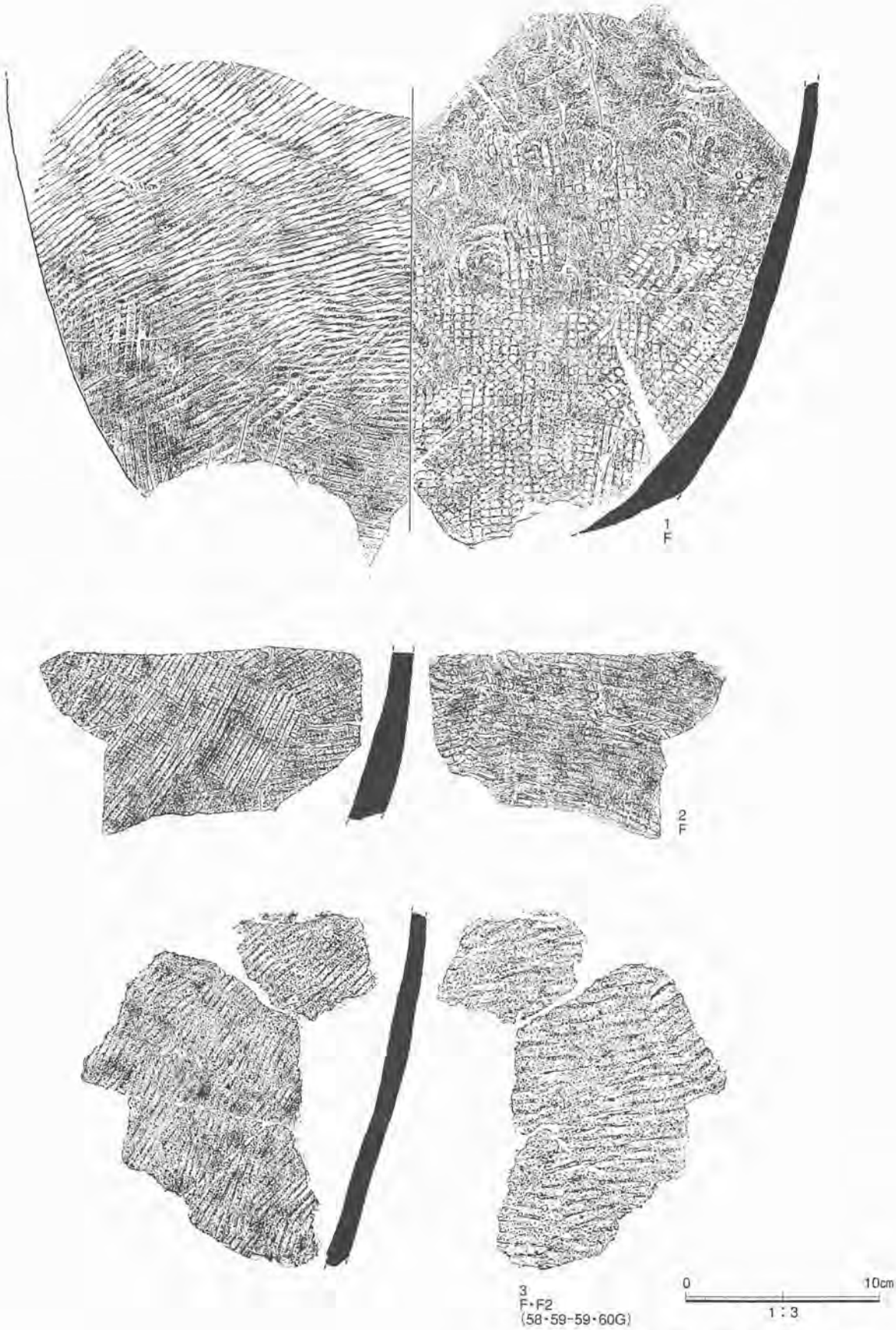
第188図　遺物実測図(38)—ST750・825・856—1～8：ST750、9～12：ST825、13：ST856



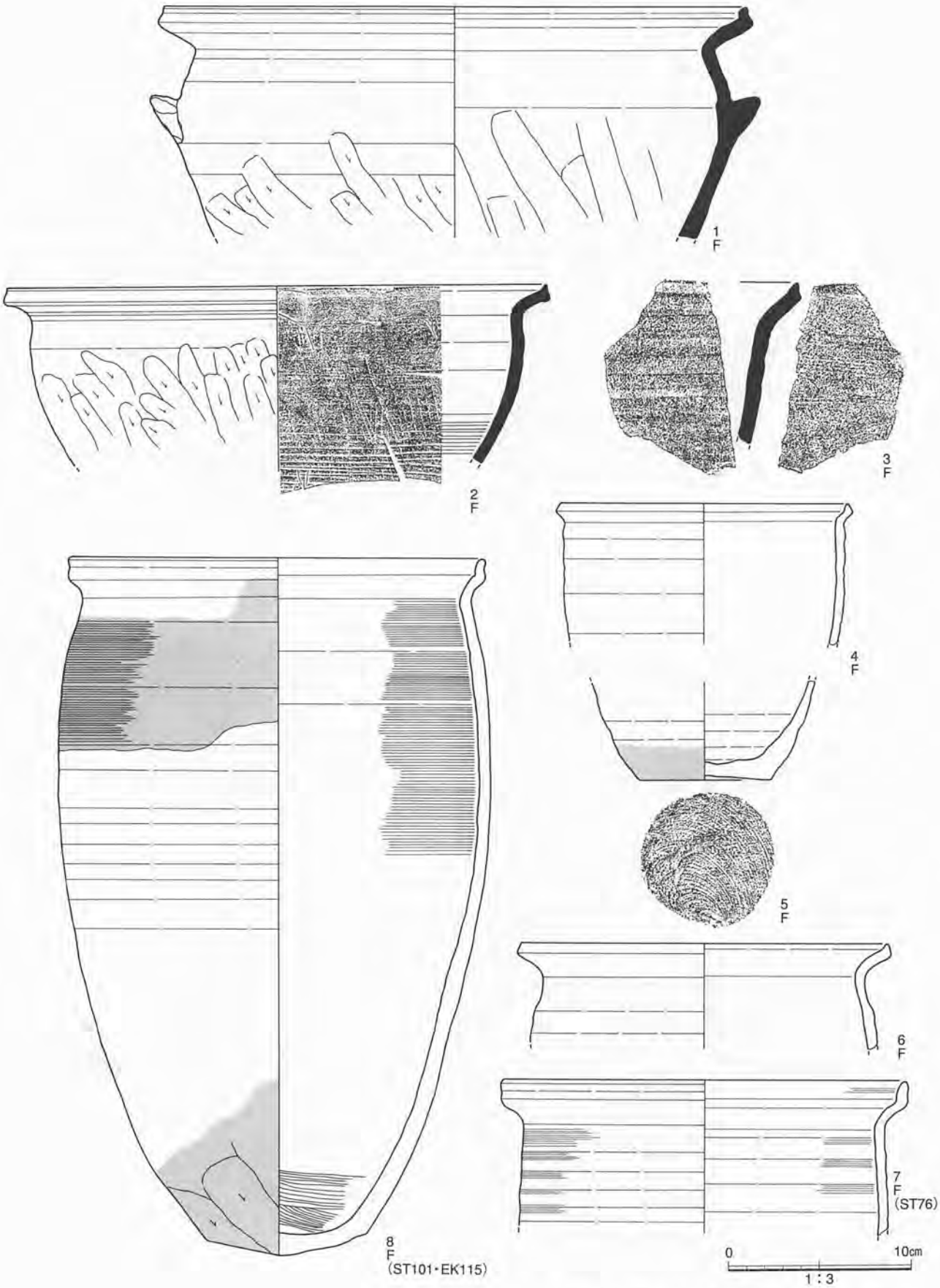
第189図　遺物実測図(39)―SE23―



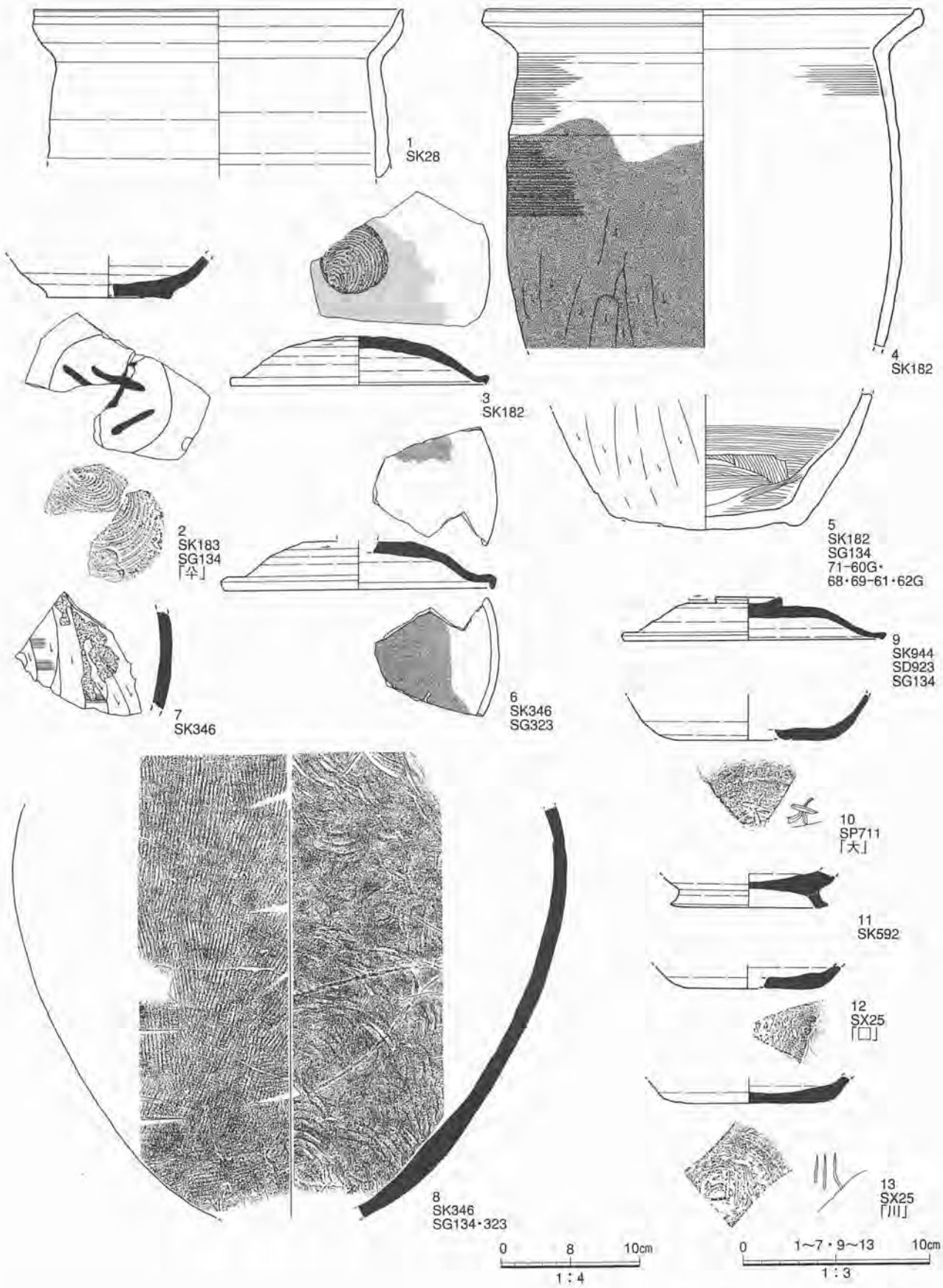
第190図　遺物実測図(40)—SE23—



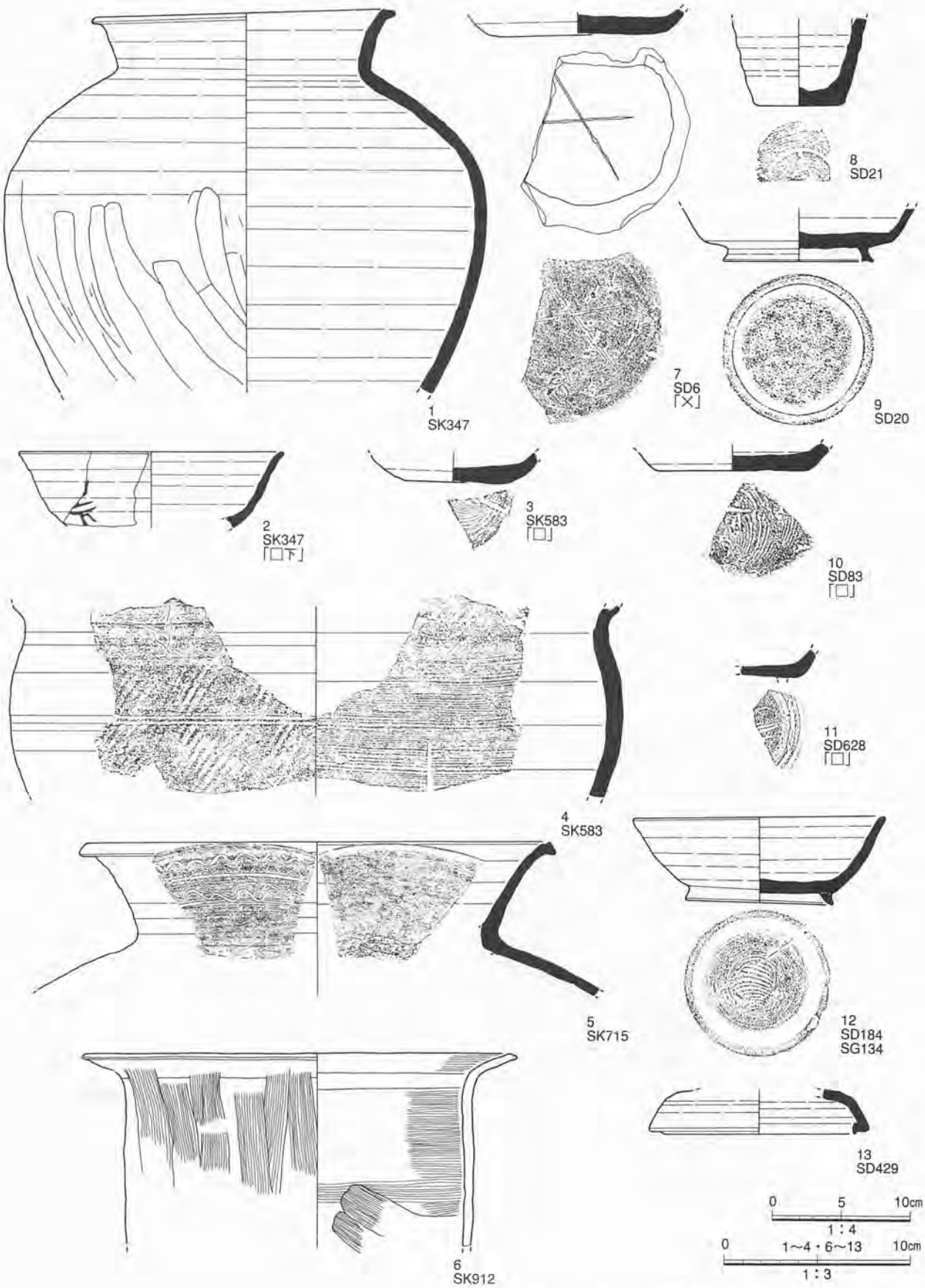
第191図　遺物実測図(41)―SE23―



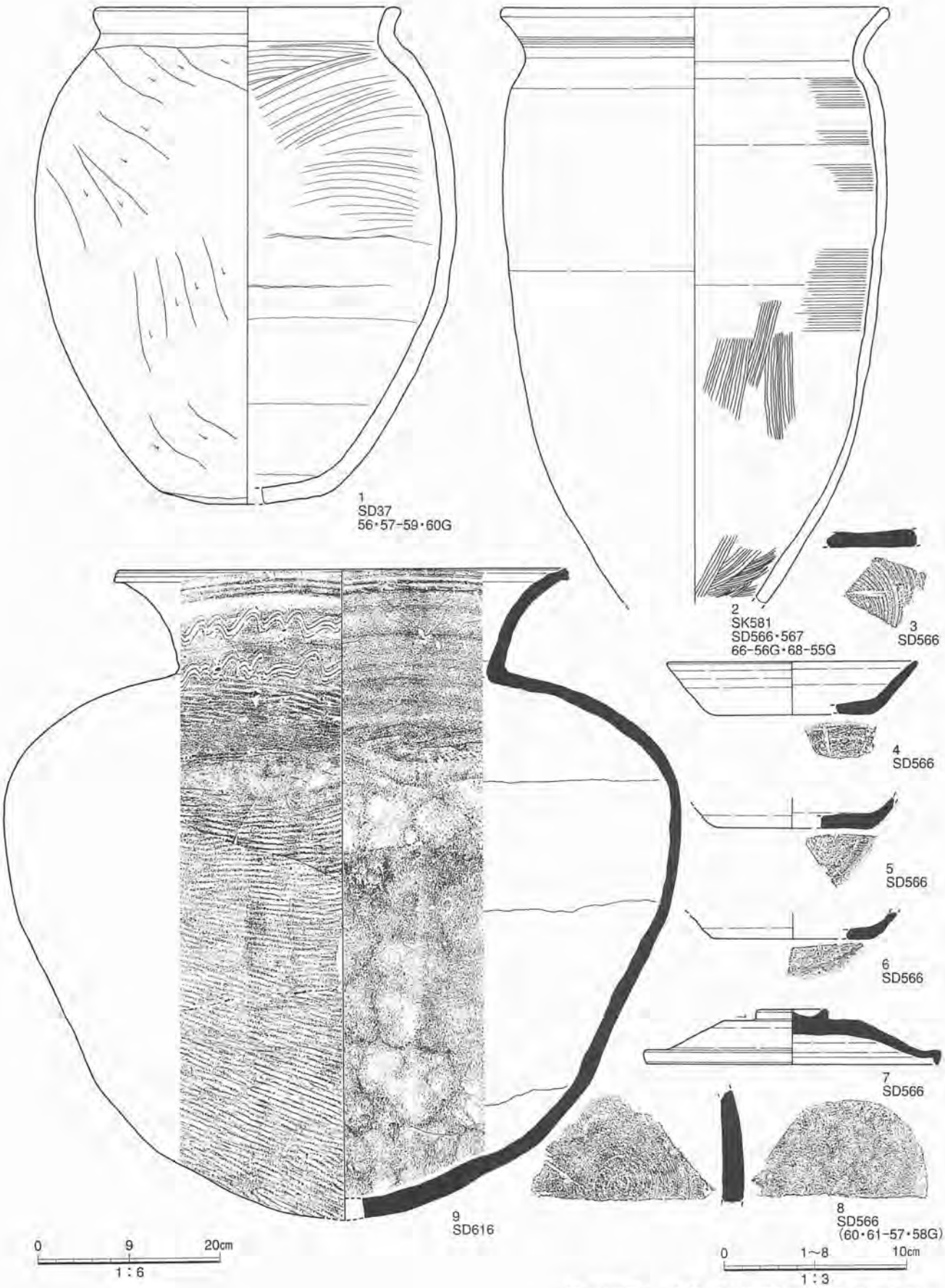
第192図　遺物実測図(42)―SE23―



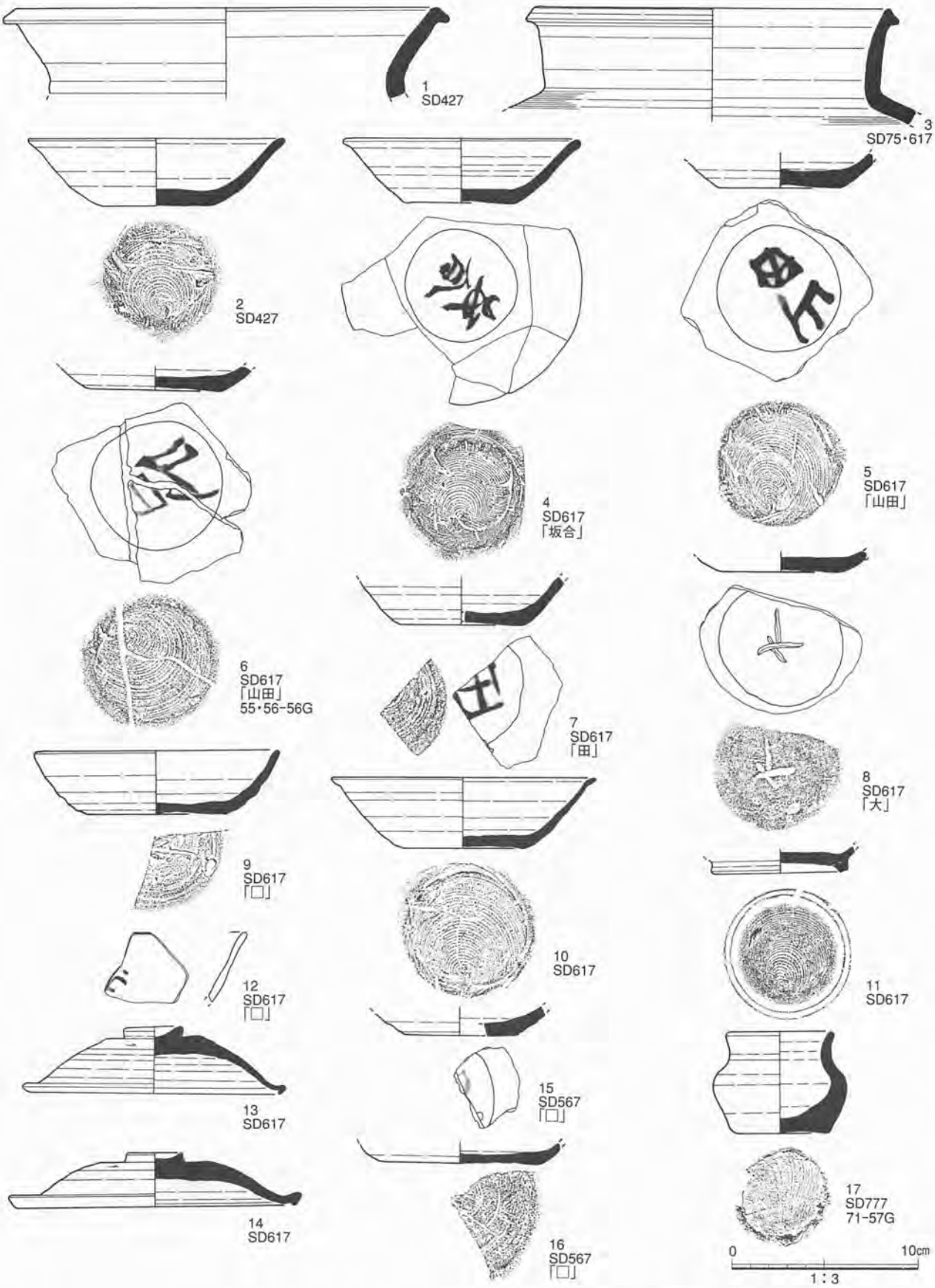
第193図　遺物実測図(43)—SK・SP他—



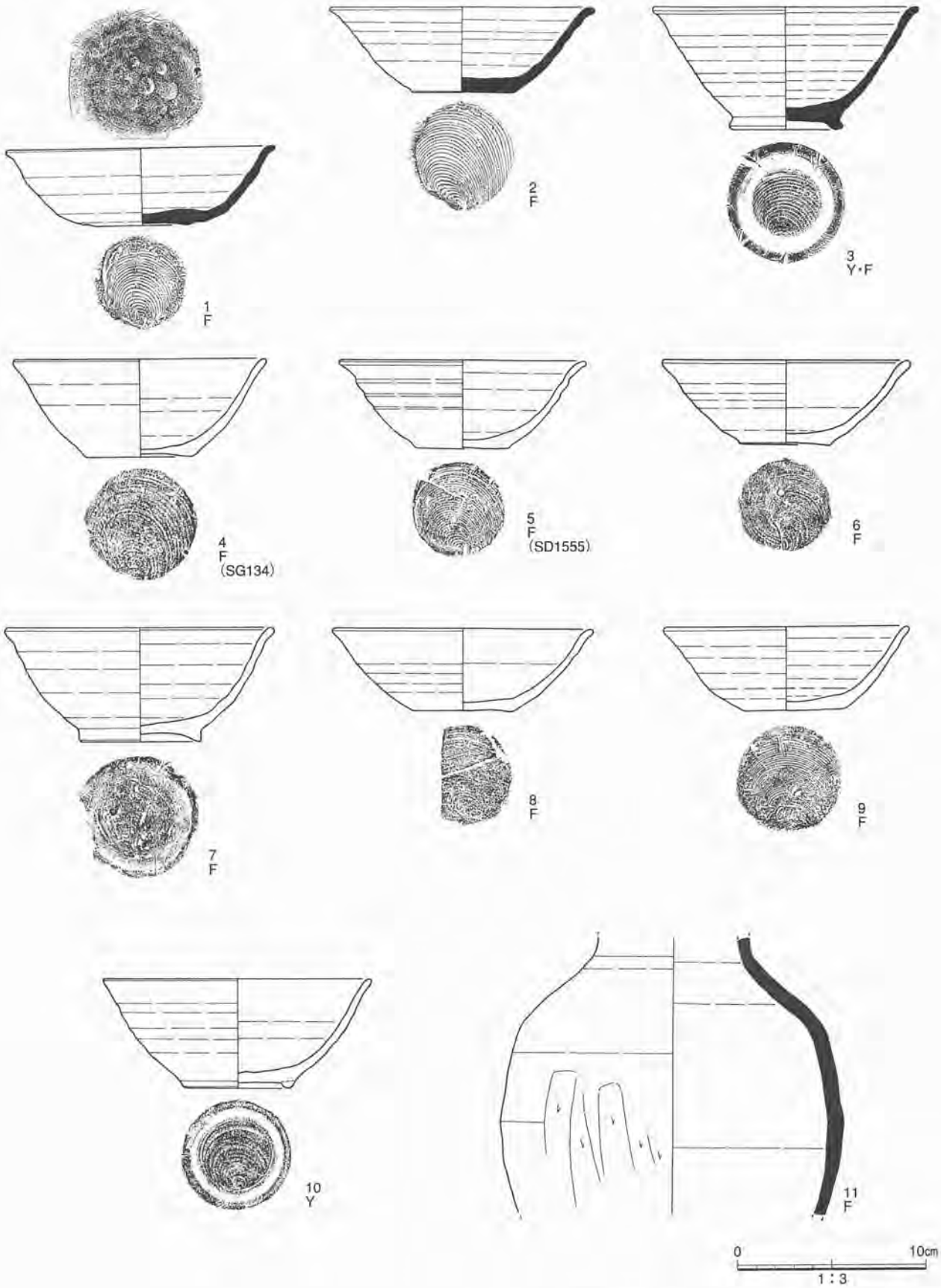
第194図　遺物実測図(44)—SK・SD—



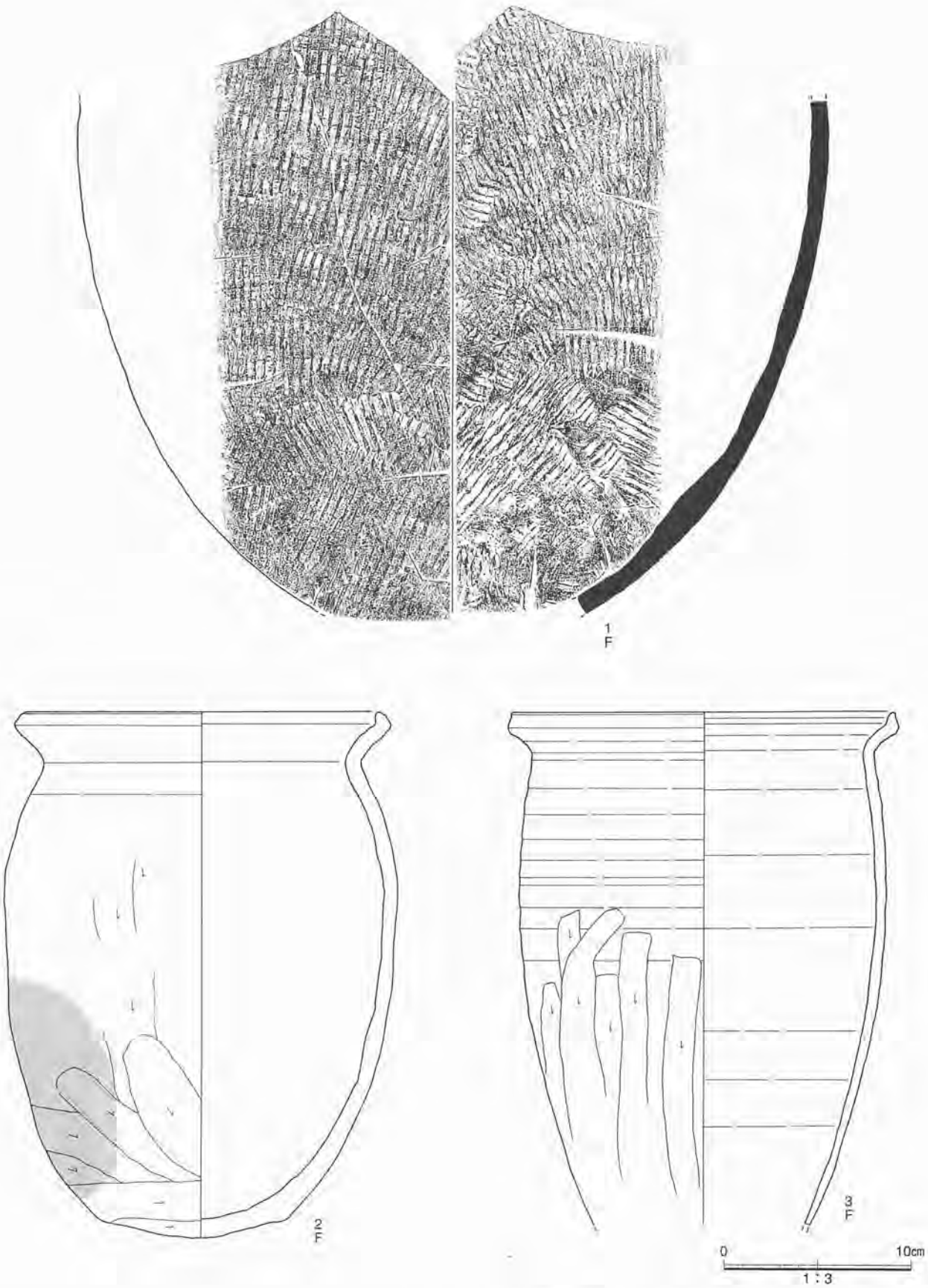
第195図　遺物実測図(45)―SK・SD―



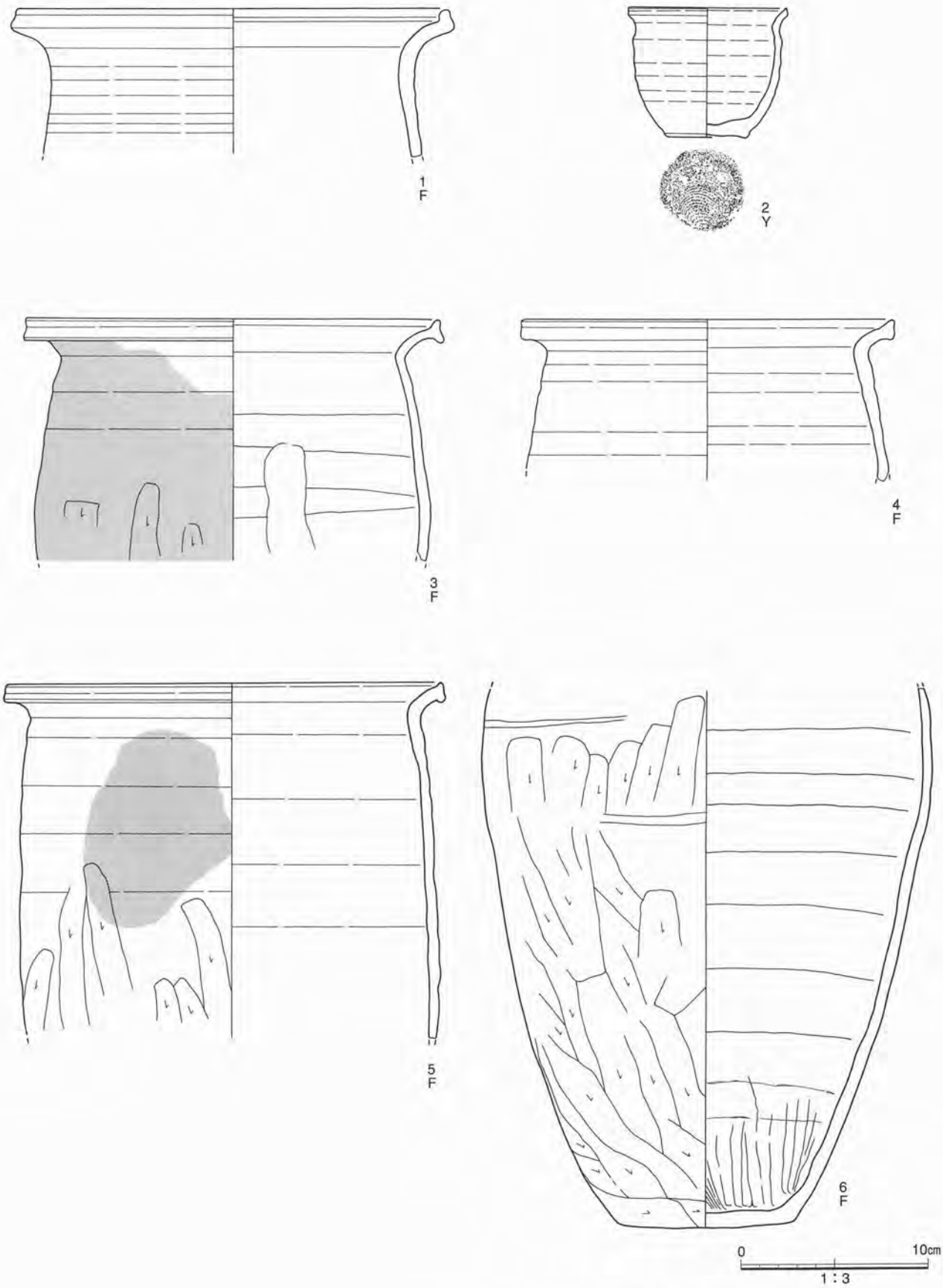
第196図　遺物実測図(46)—SD—



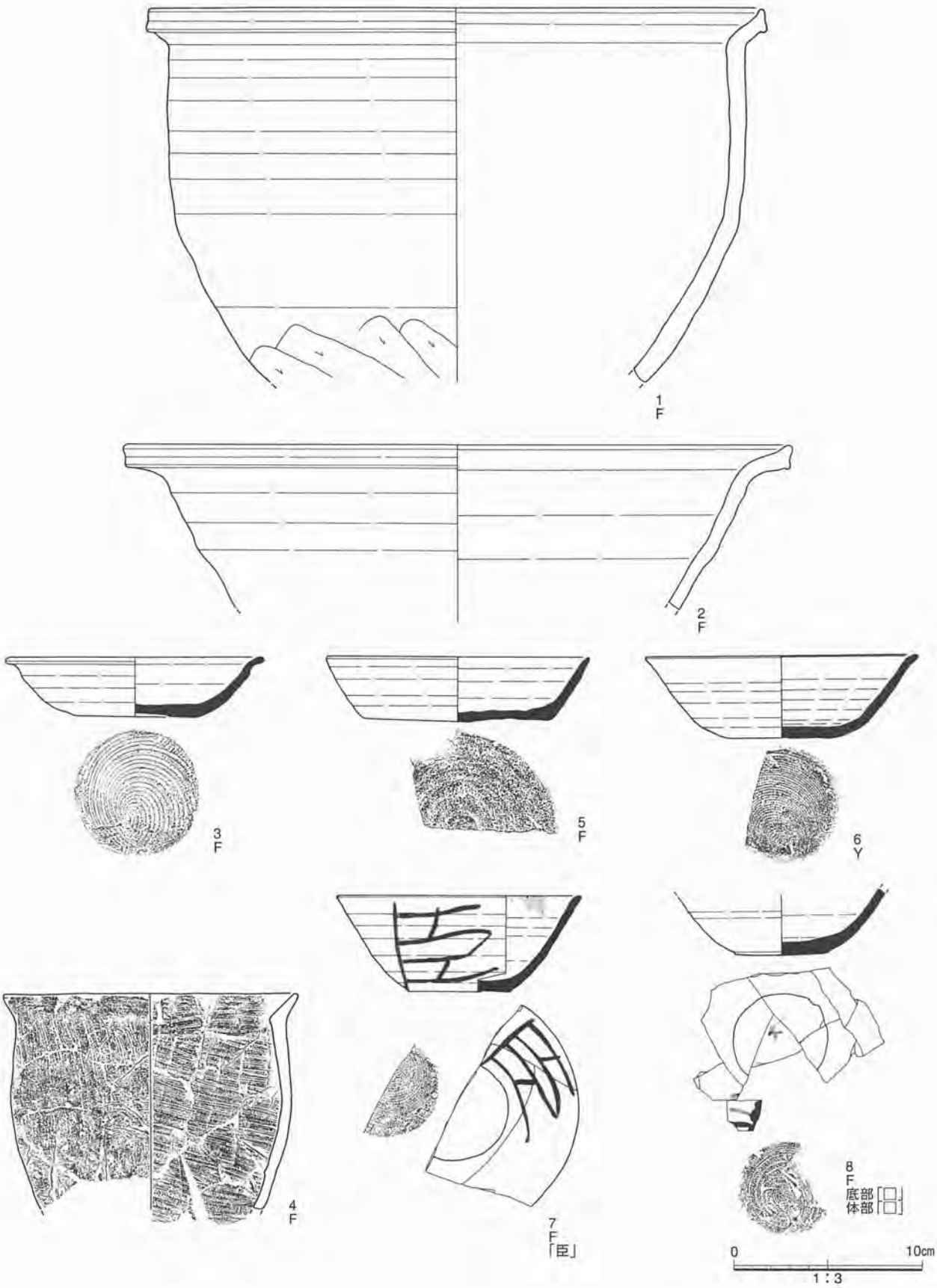
第197図　遺物実測図(47)―ST1558―



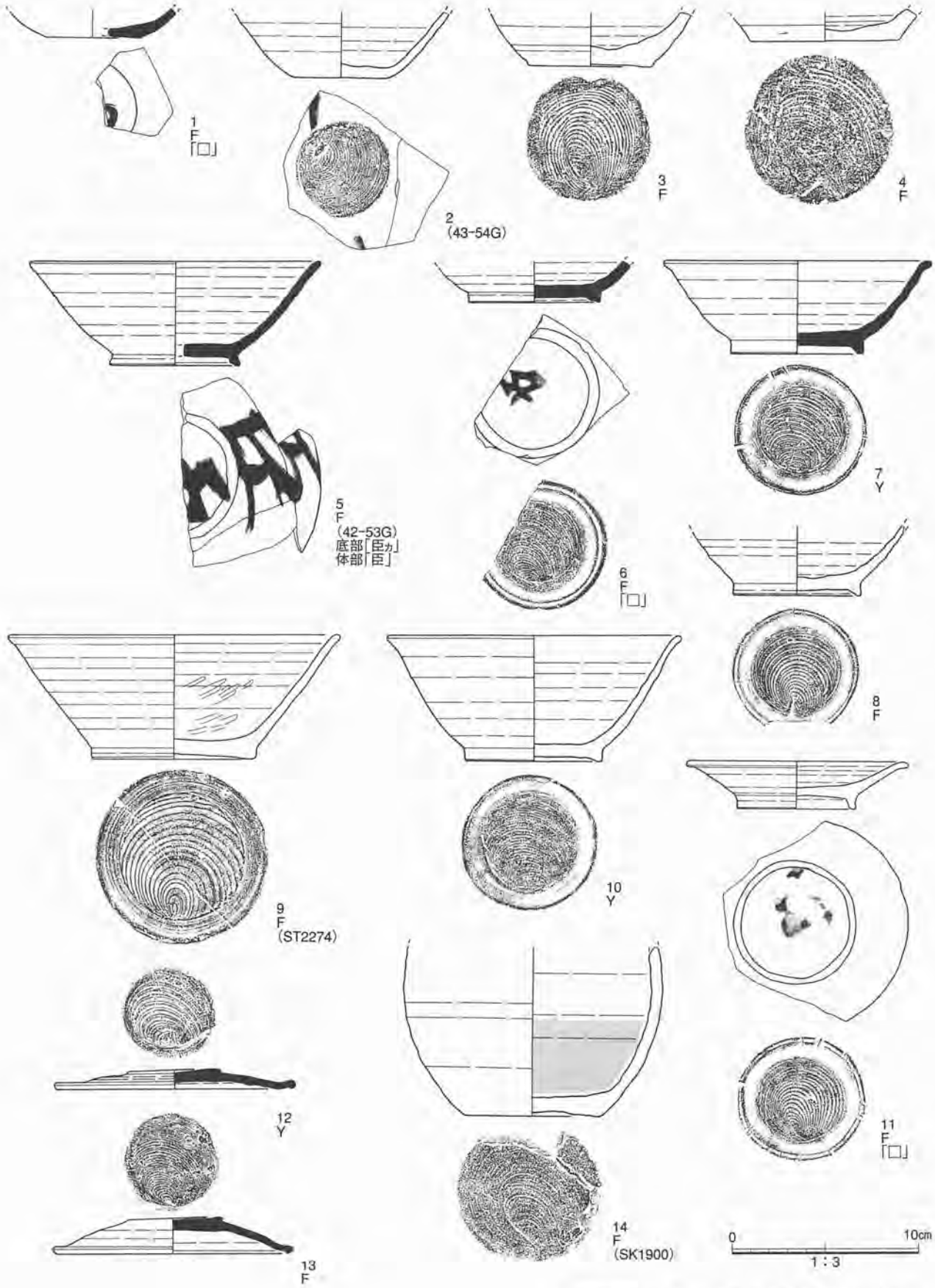
第198図　遺物実測図(48)―ST1558―



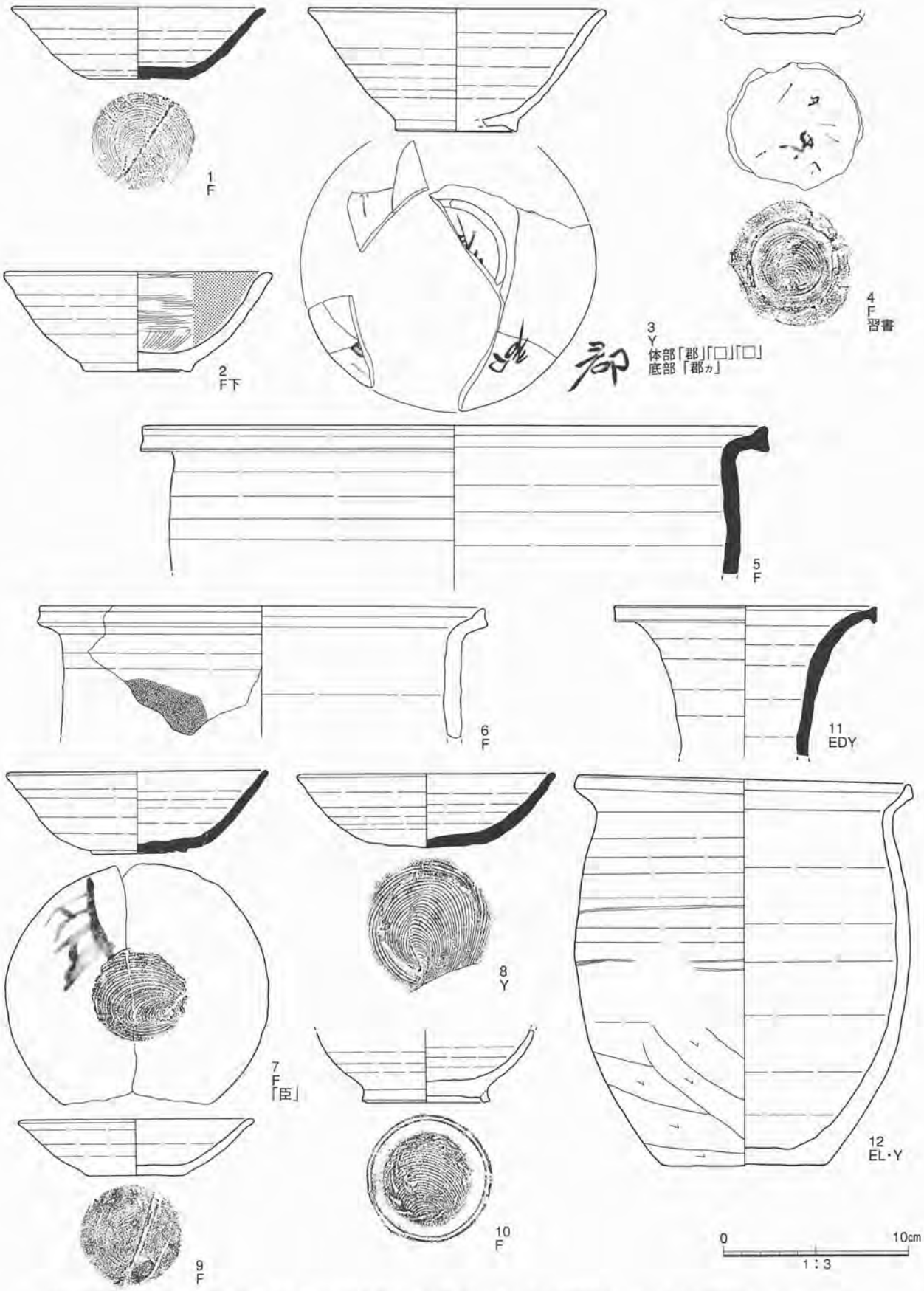
第199図　遺物実測図(49)―ST1558―



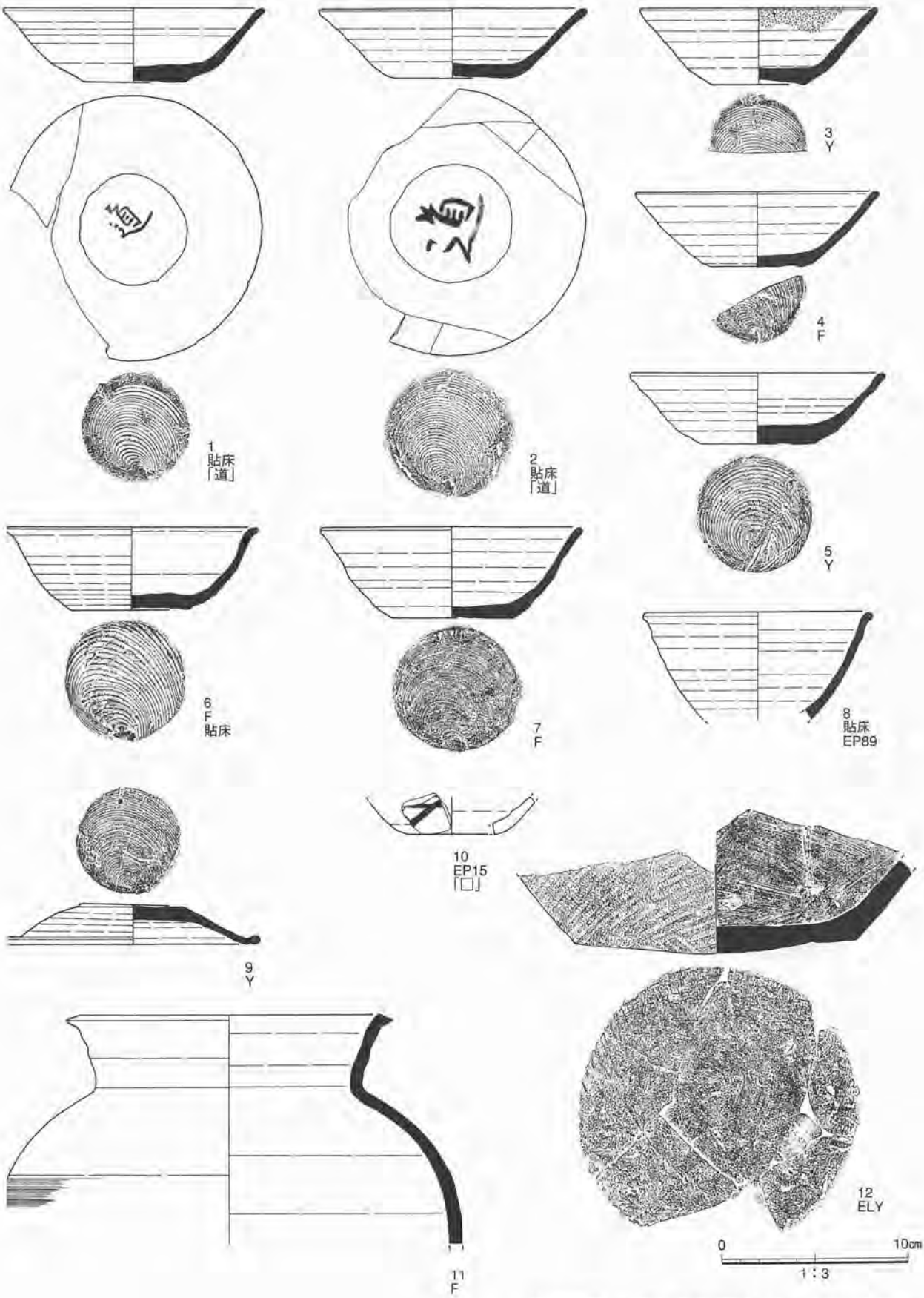
第200図　遺物実測図(50)―ST1558・1566・2273―1・2・4：ST1558、3：ST1556、5～8：ST2273



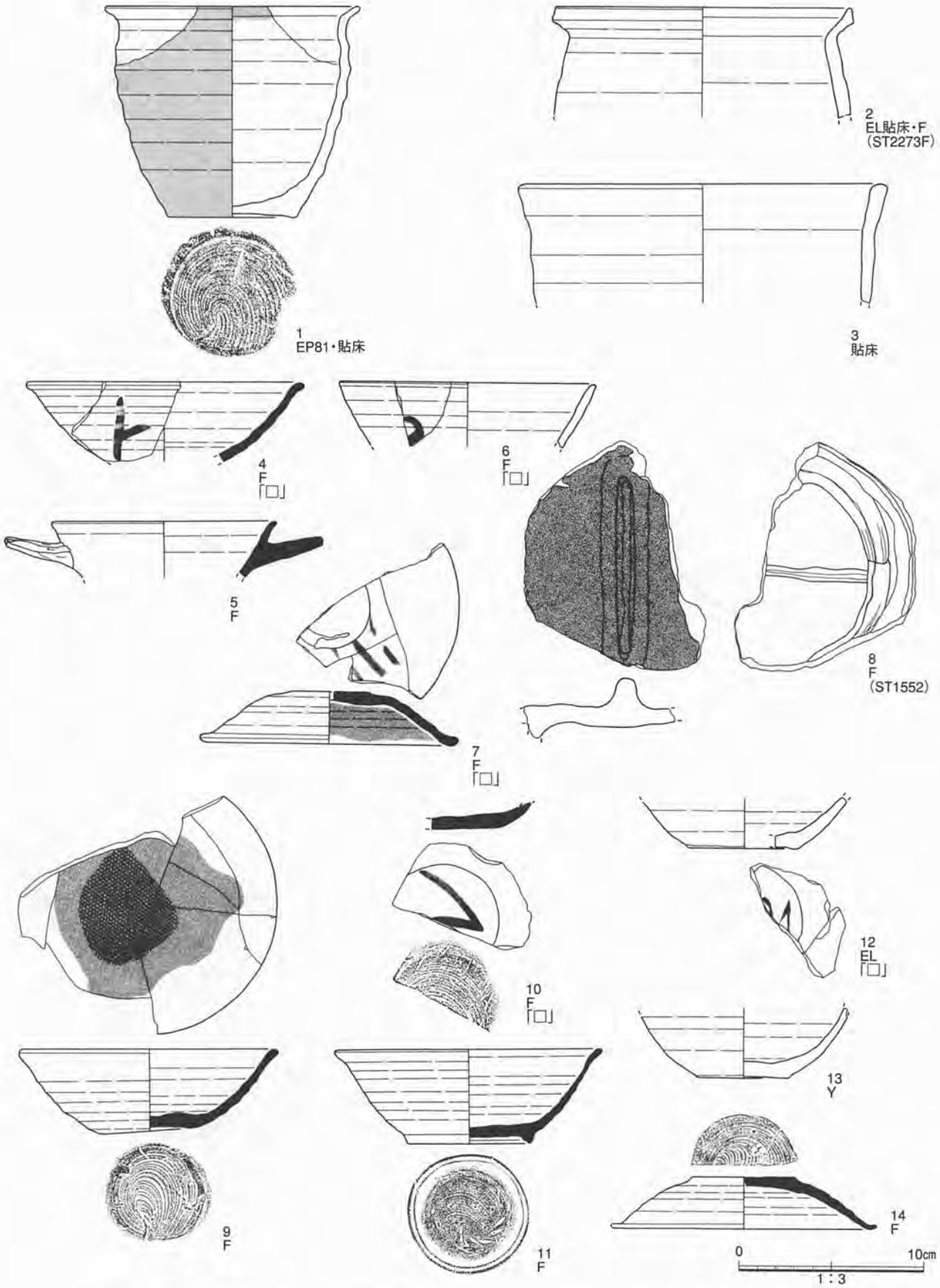
第201図　遺物実測図(51)―ST2273―



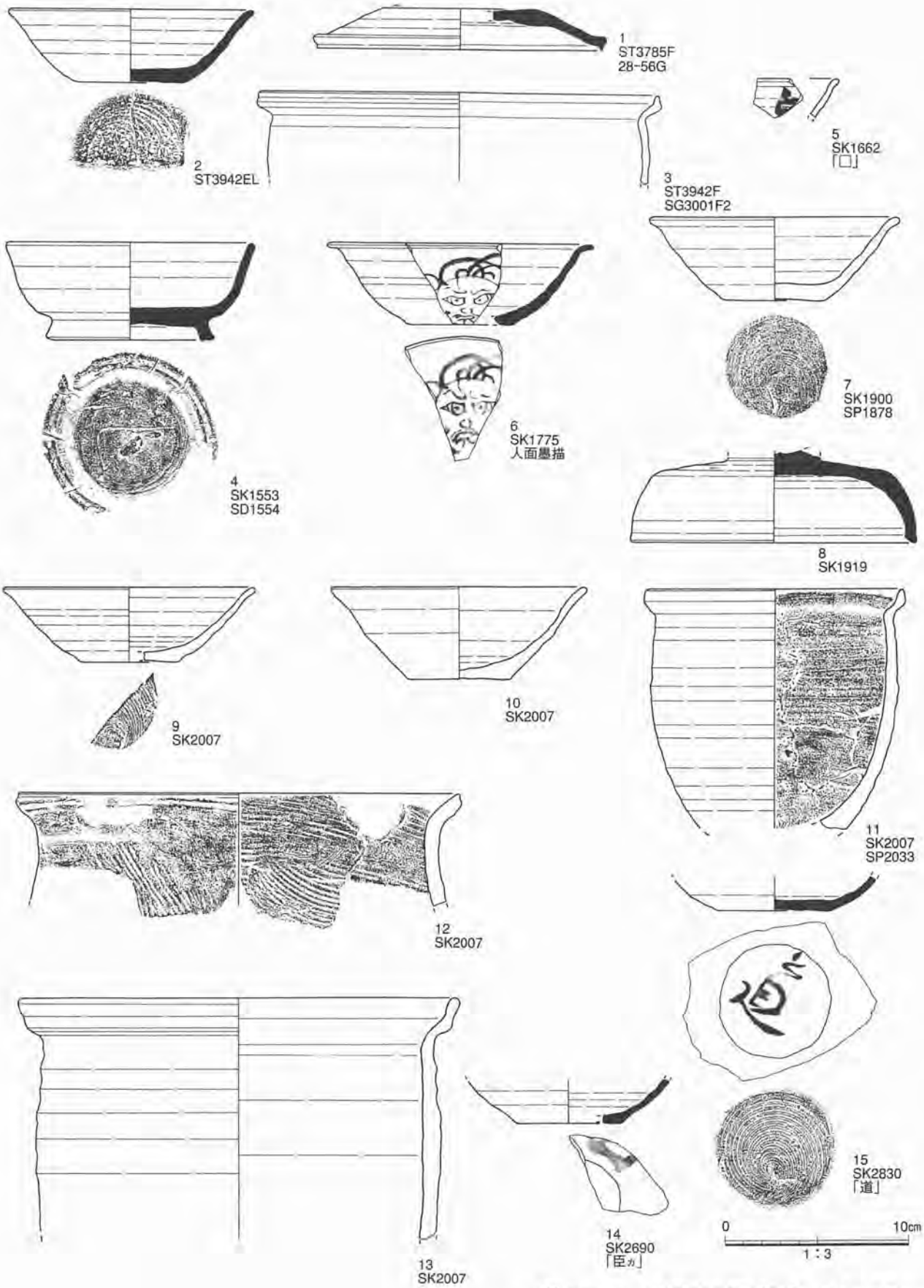
第202図　遺物実測図(52)—ST2274・2575—1・2：ST2274、3～6：ST2575、7～12：ST22575a



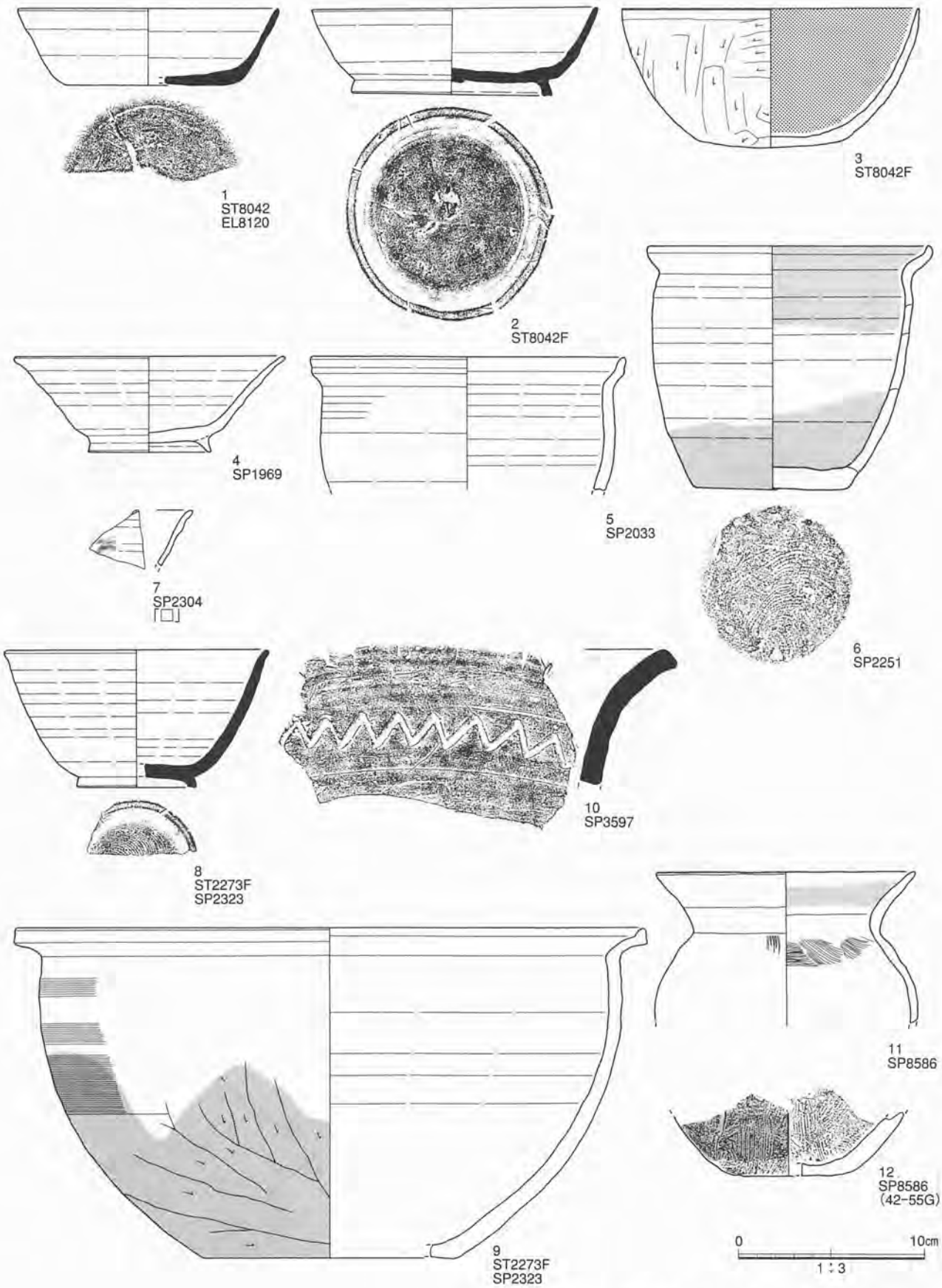
第203図　遺物実測図(53)―ST2575b―



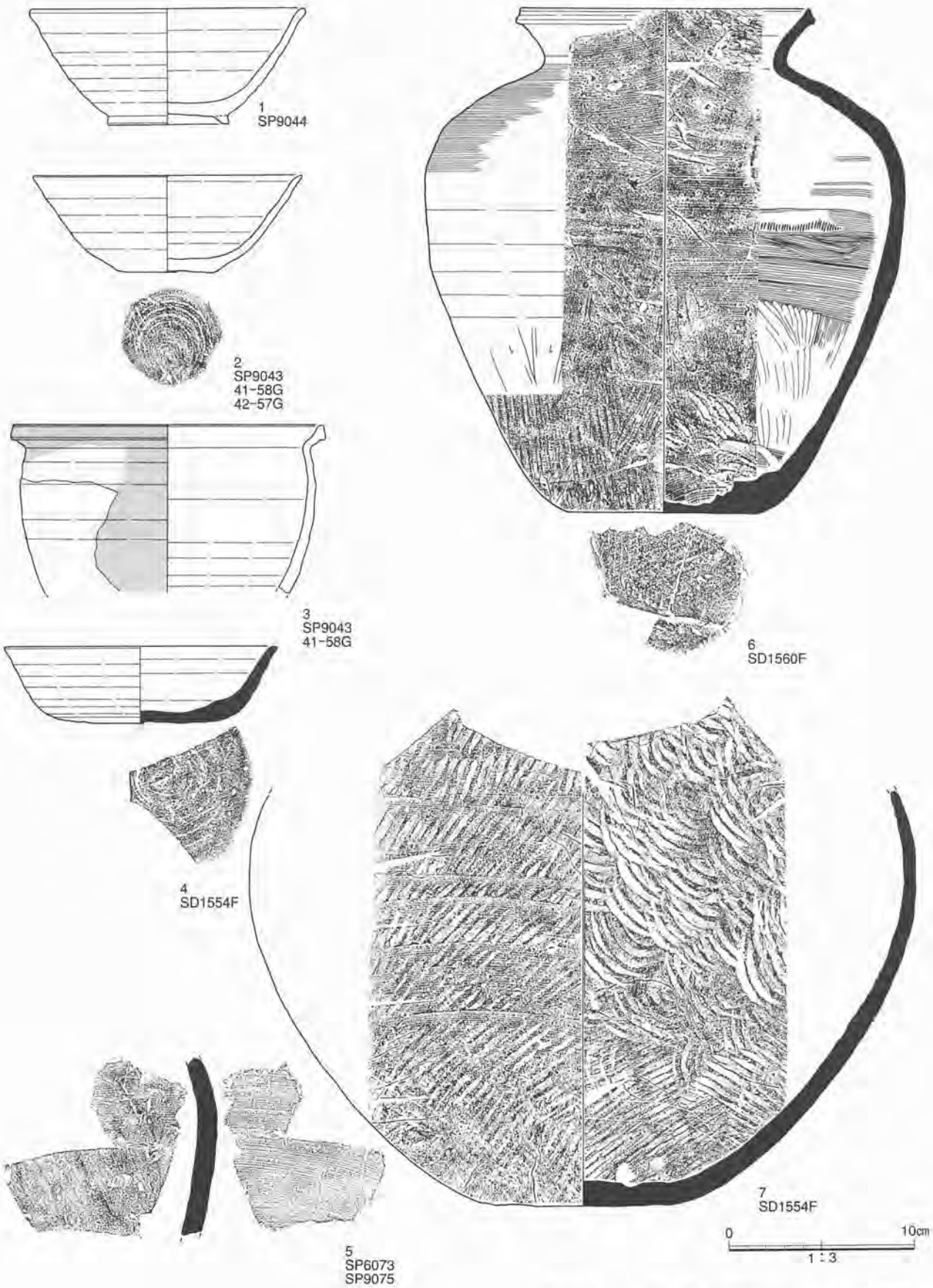
第204図　遺物実測図(54)—ST2575・2620—1～3：ST2575b、4～8：ST2575、9～14：ST2620



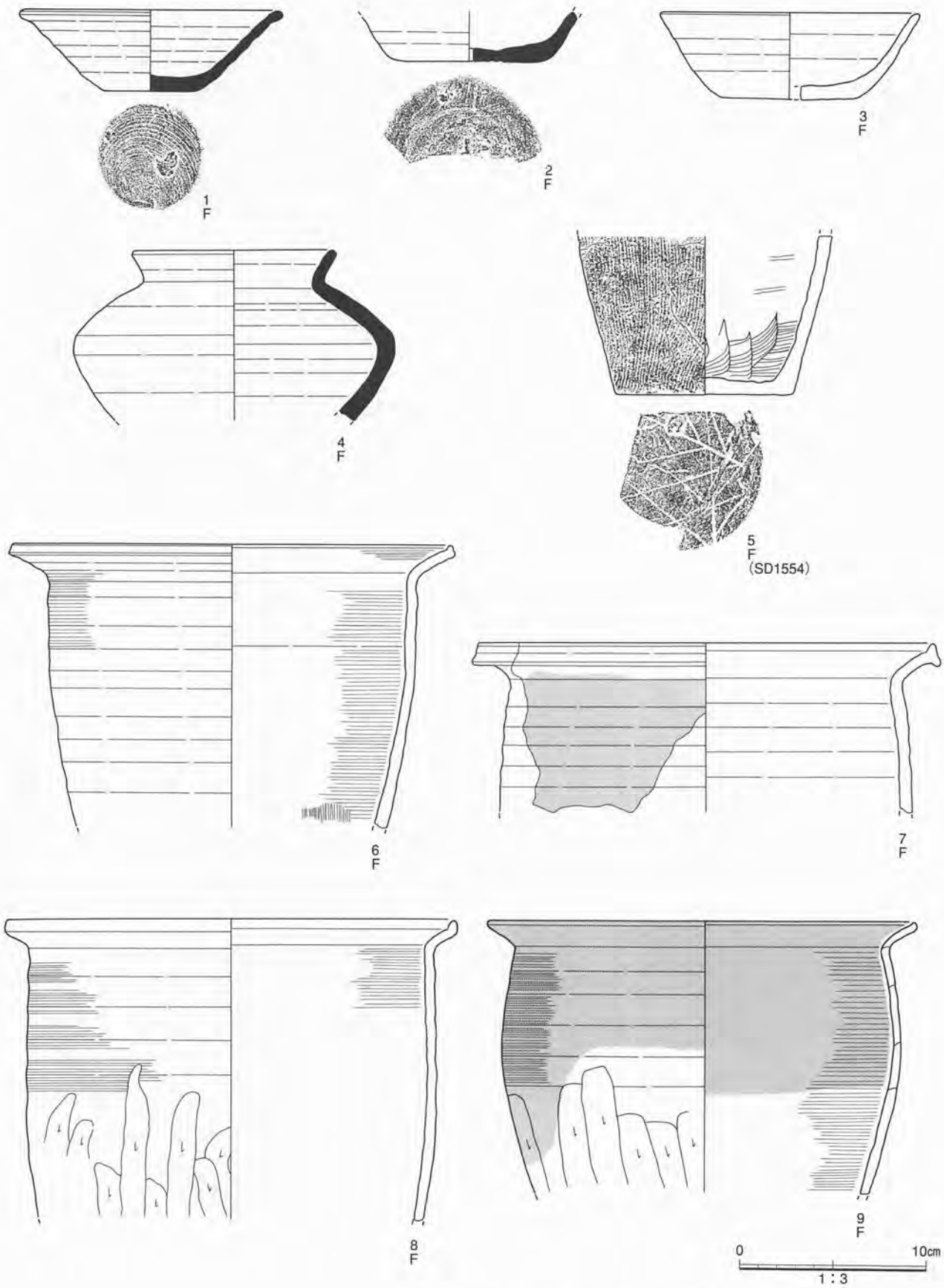
第205図　遺物実測図(55)—ST・SK—



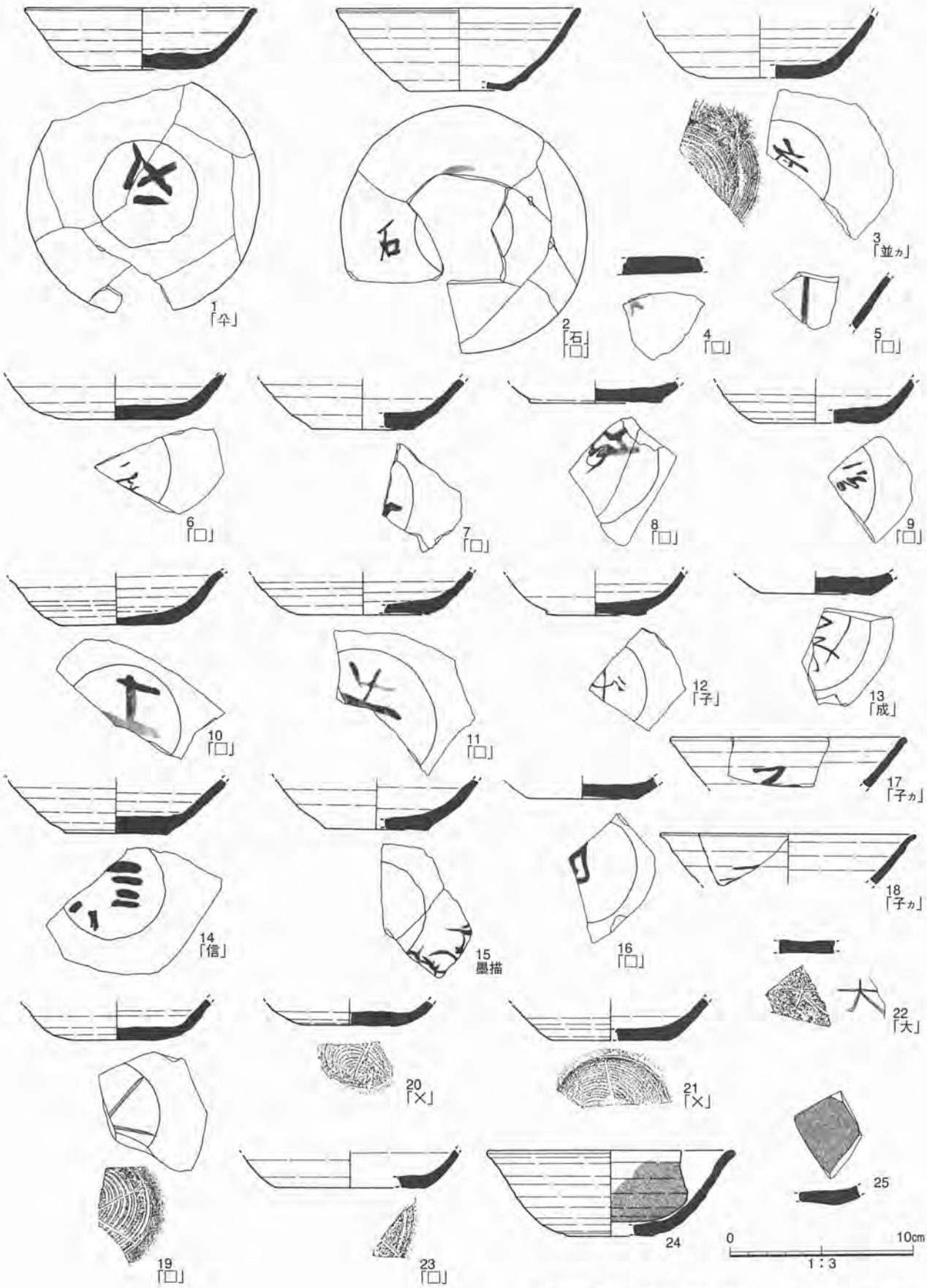
第206図　遺物実測図(56)—ST・SK・SP—



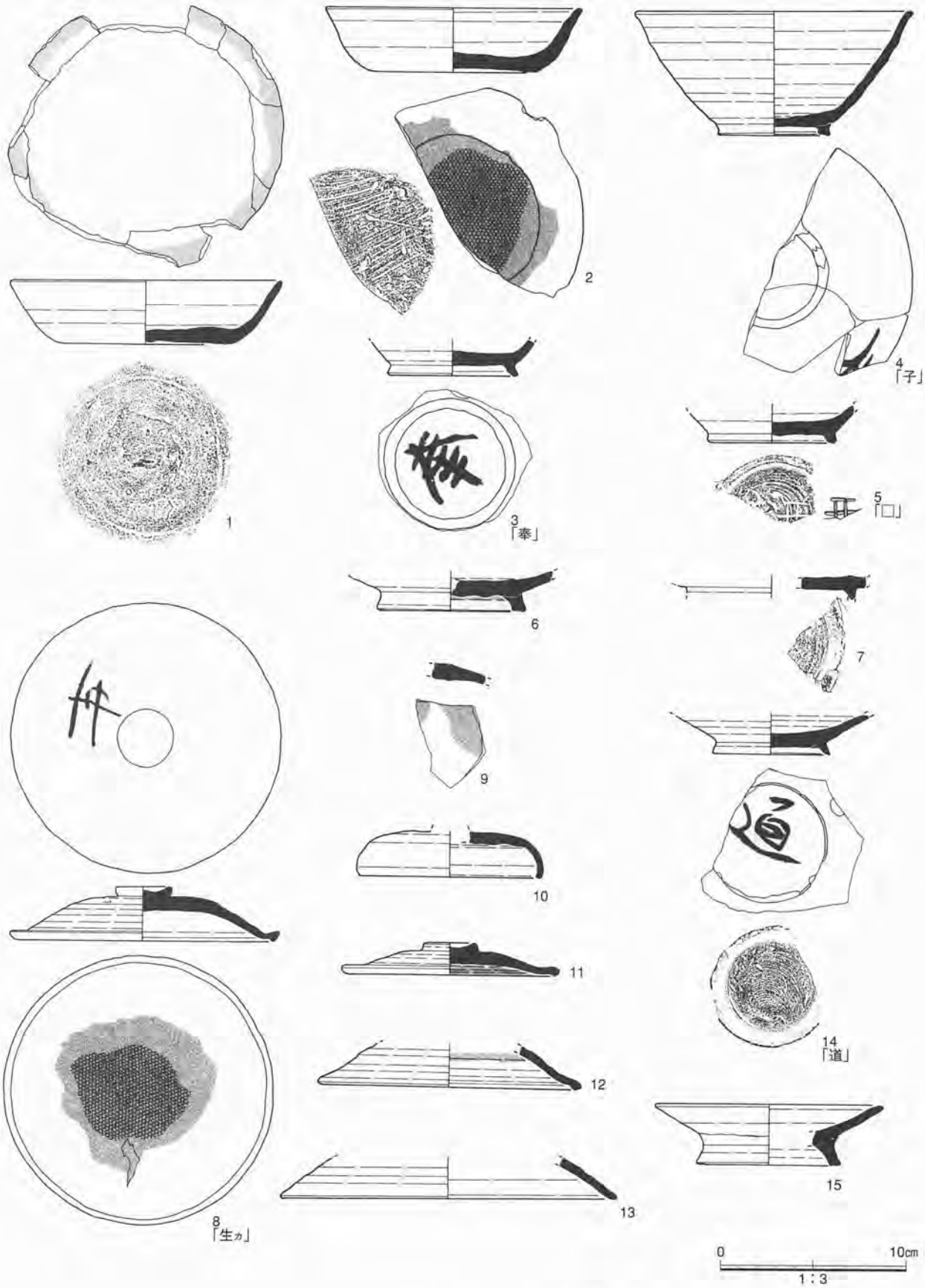
第207図　遺物実測図(57)—SP・SD—



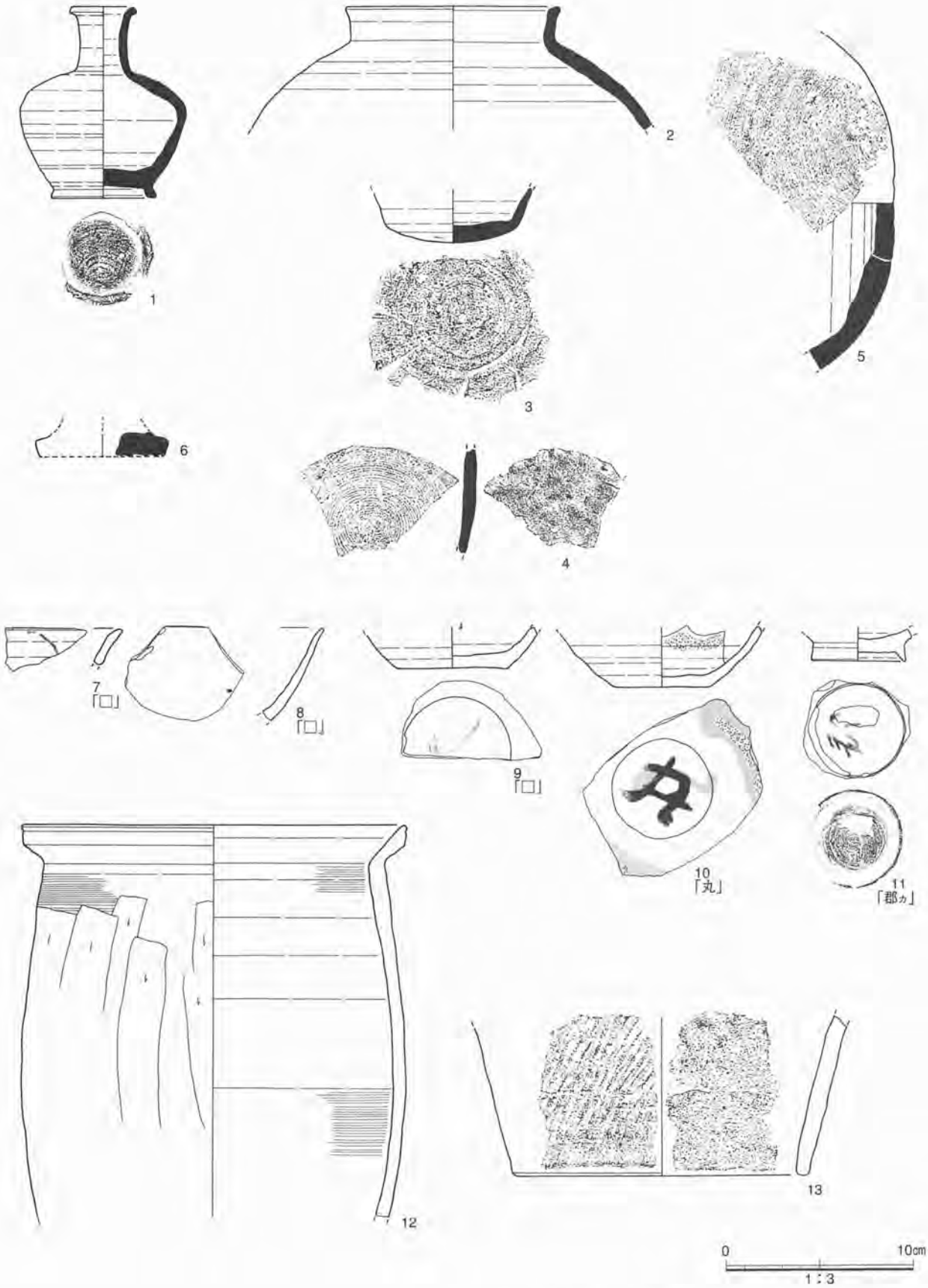
第208図　遺物実測図(58)―SD1555―



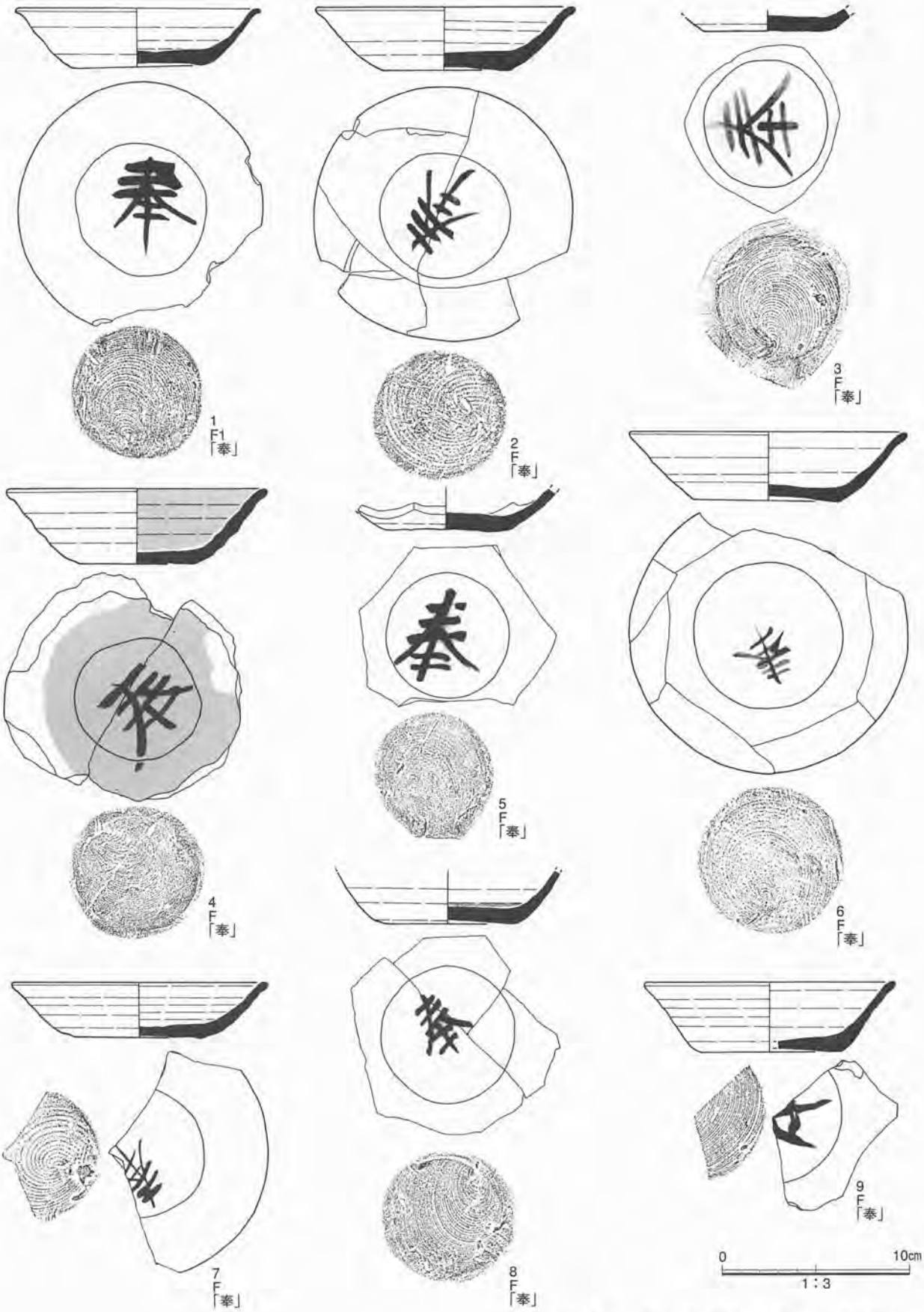
第209図　遺物実測図(59)―グリット―



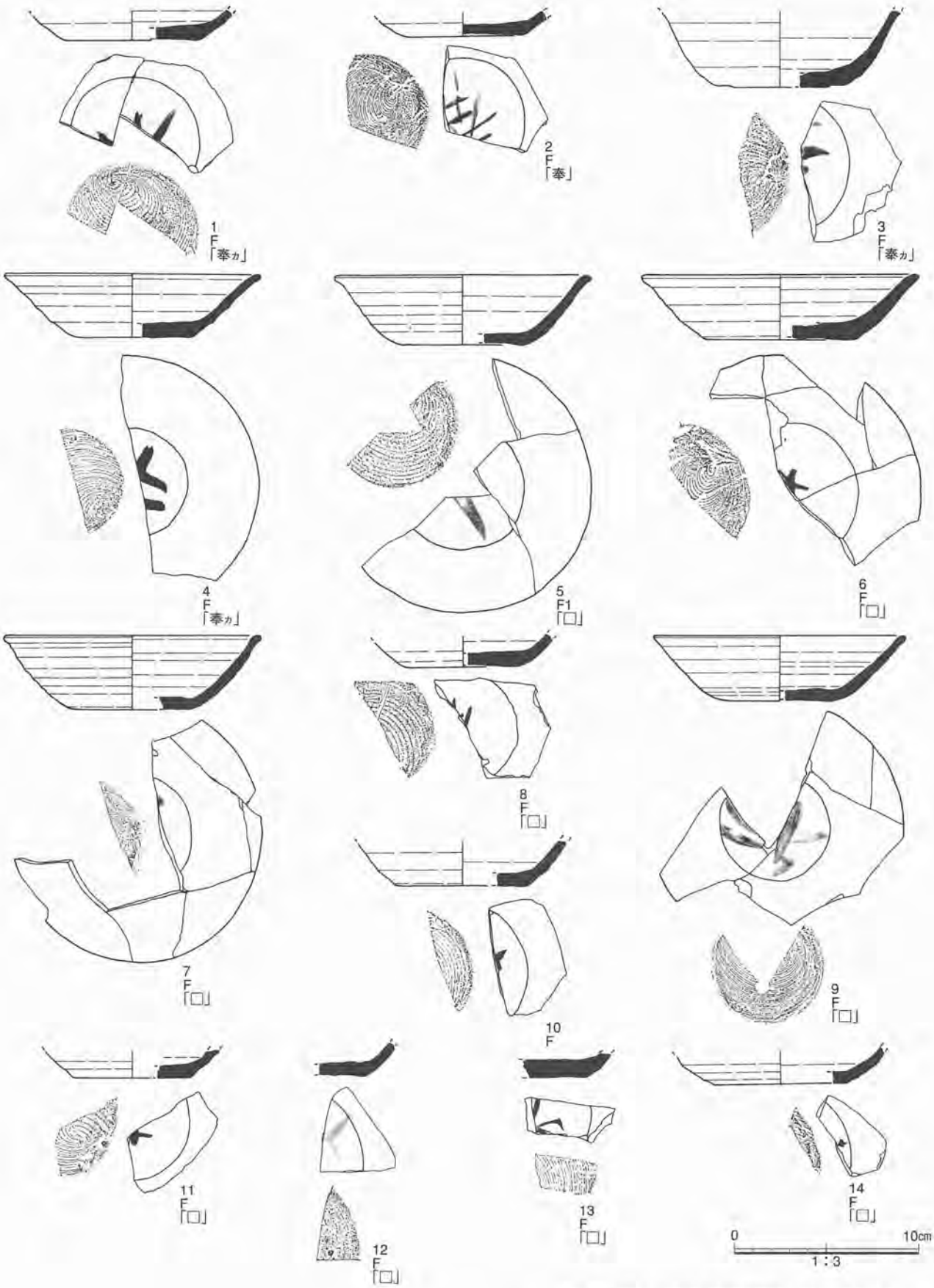
第210図　遺物実測図(60)―グリット―



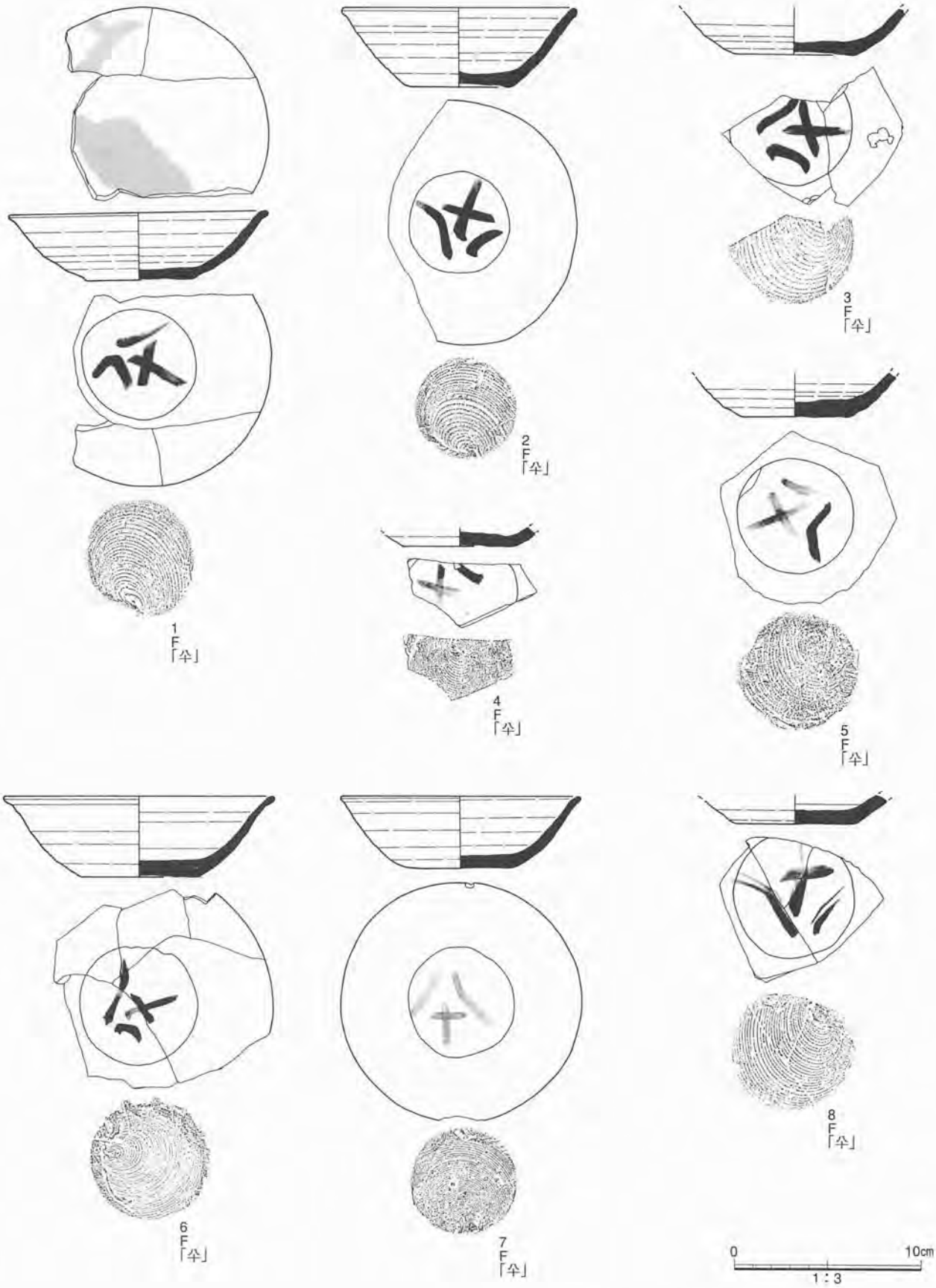
第211図　遺物実測図(61)―グリット―



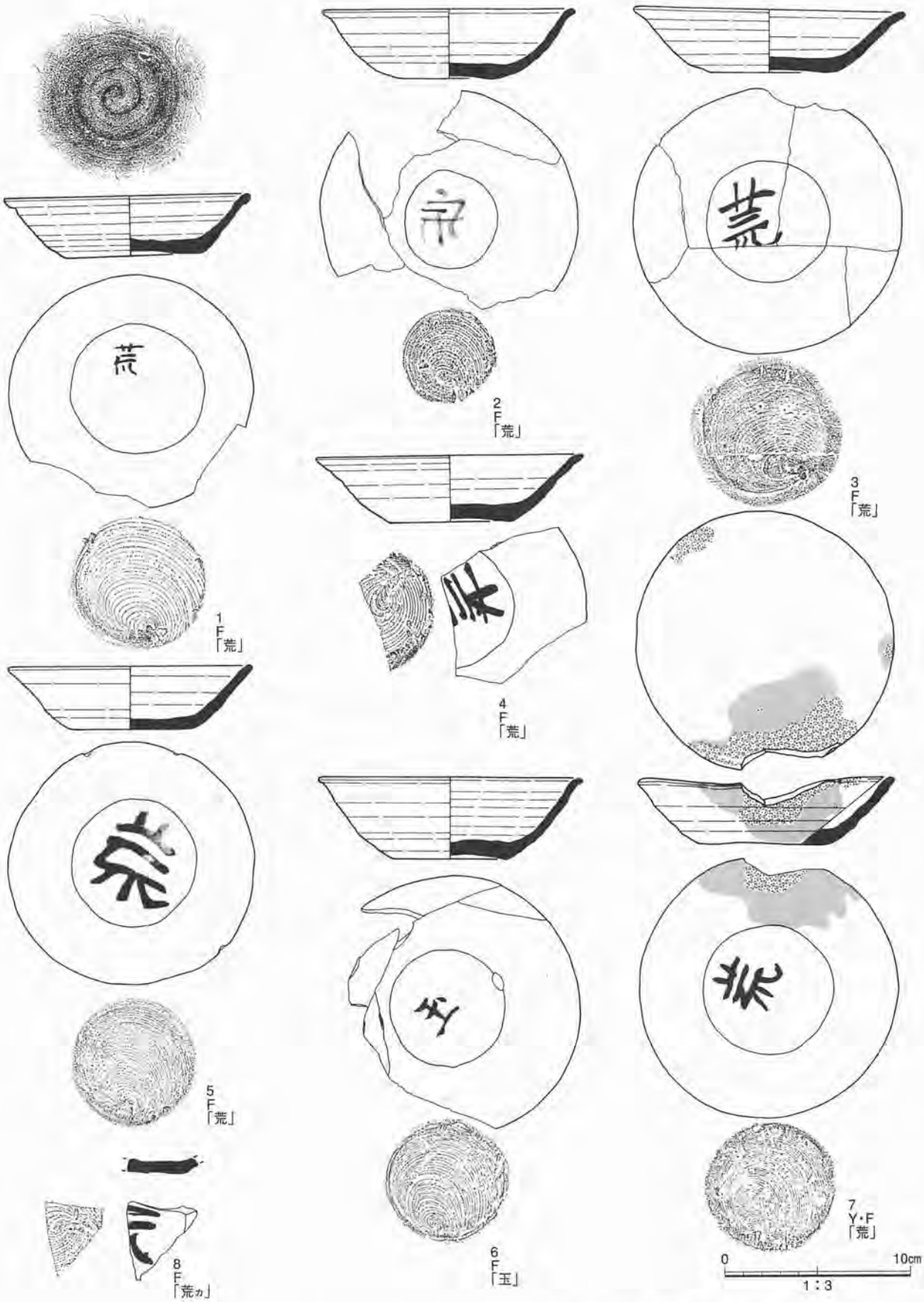
第212図　遺物実測図(62)―SG134―



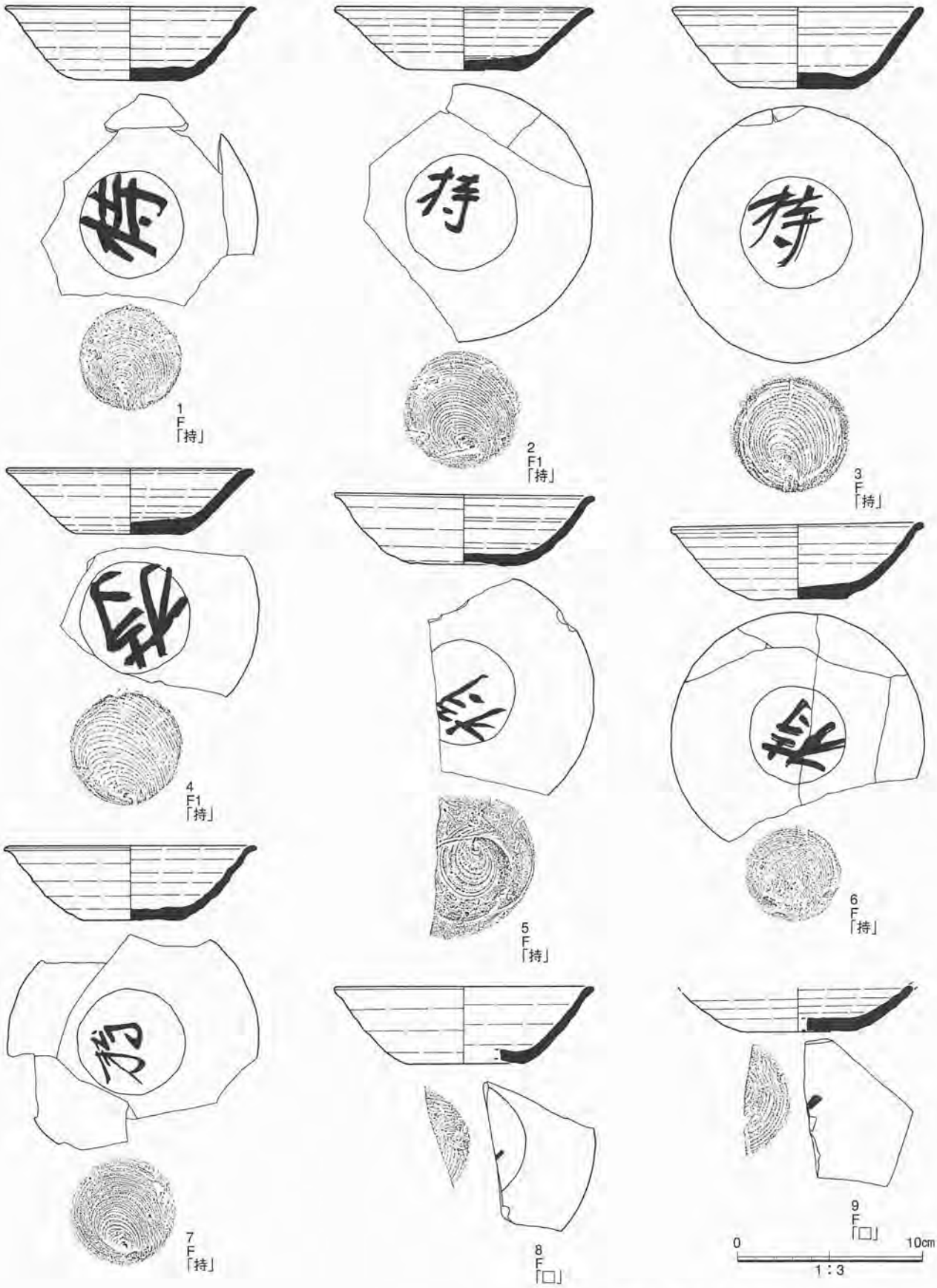
第213図　遺物実測図(63)—SG134—



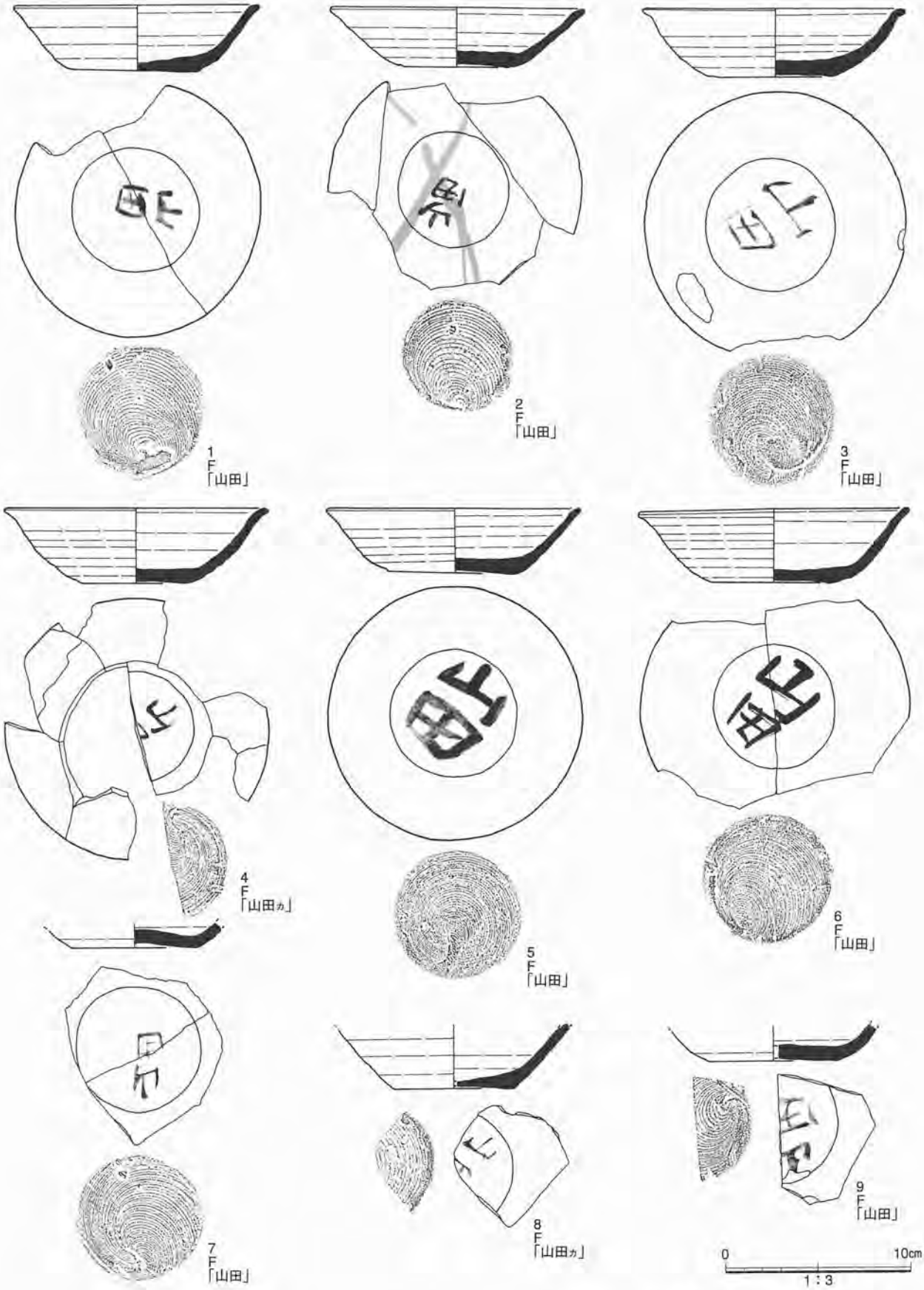
第214図　遺物実測図(64)―SG134―



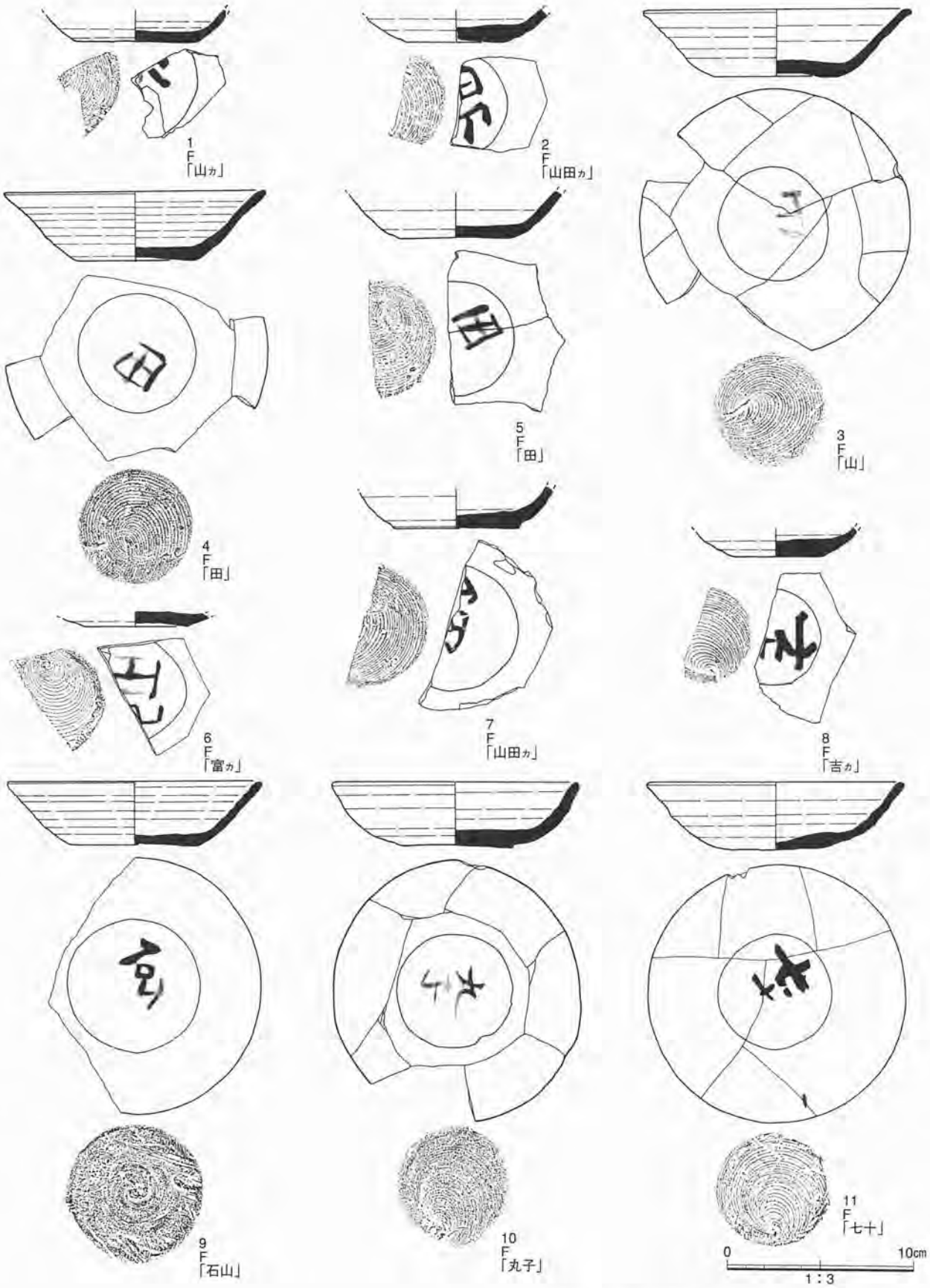
第215図　遺物実測図(65)—SG134—



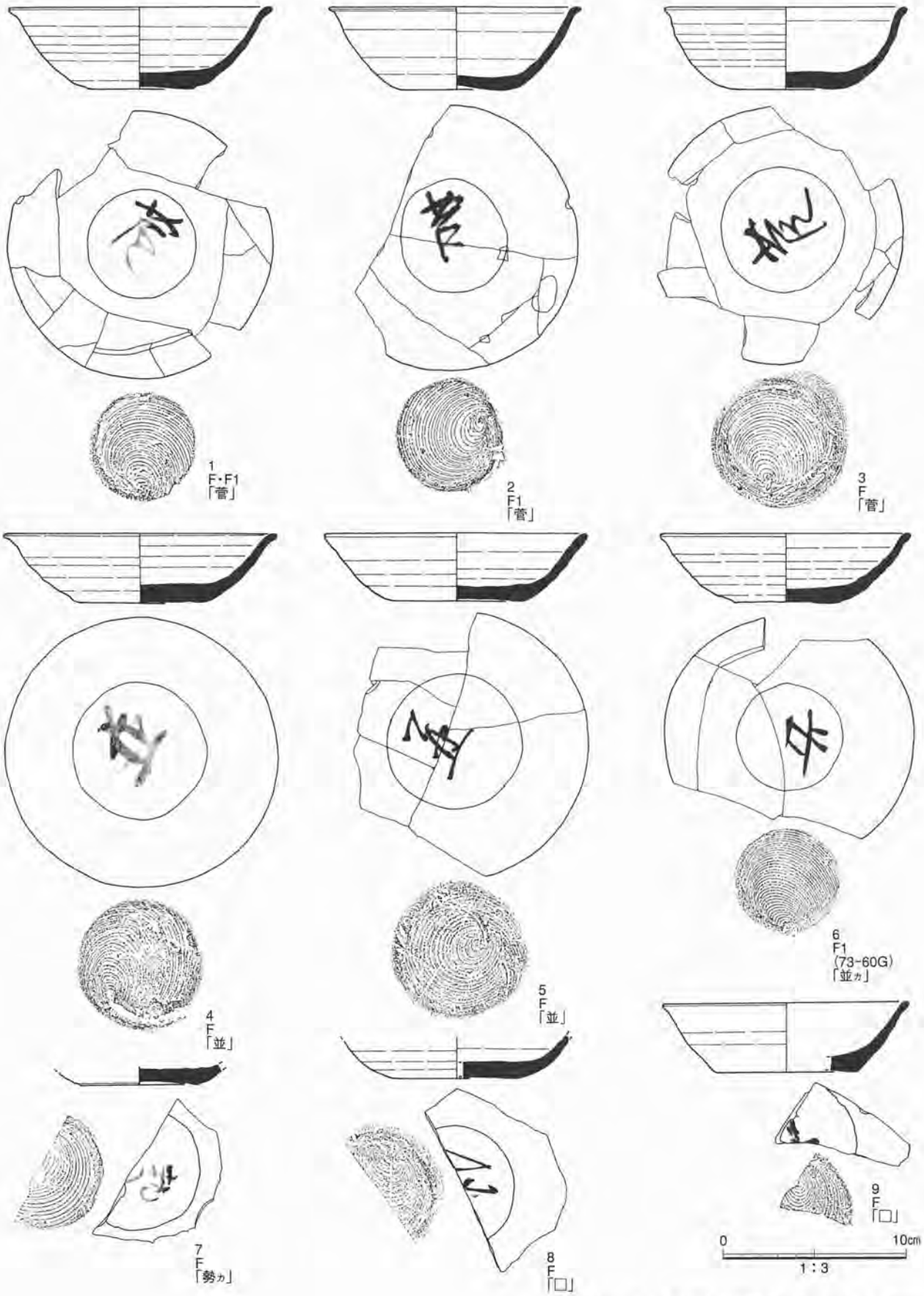
第216図　遺物実測図(66)―SG134―



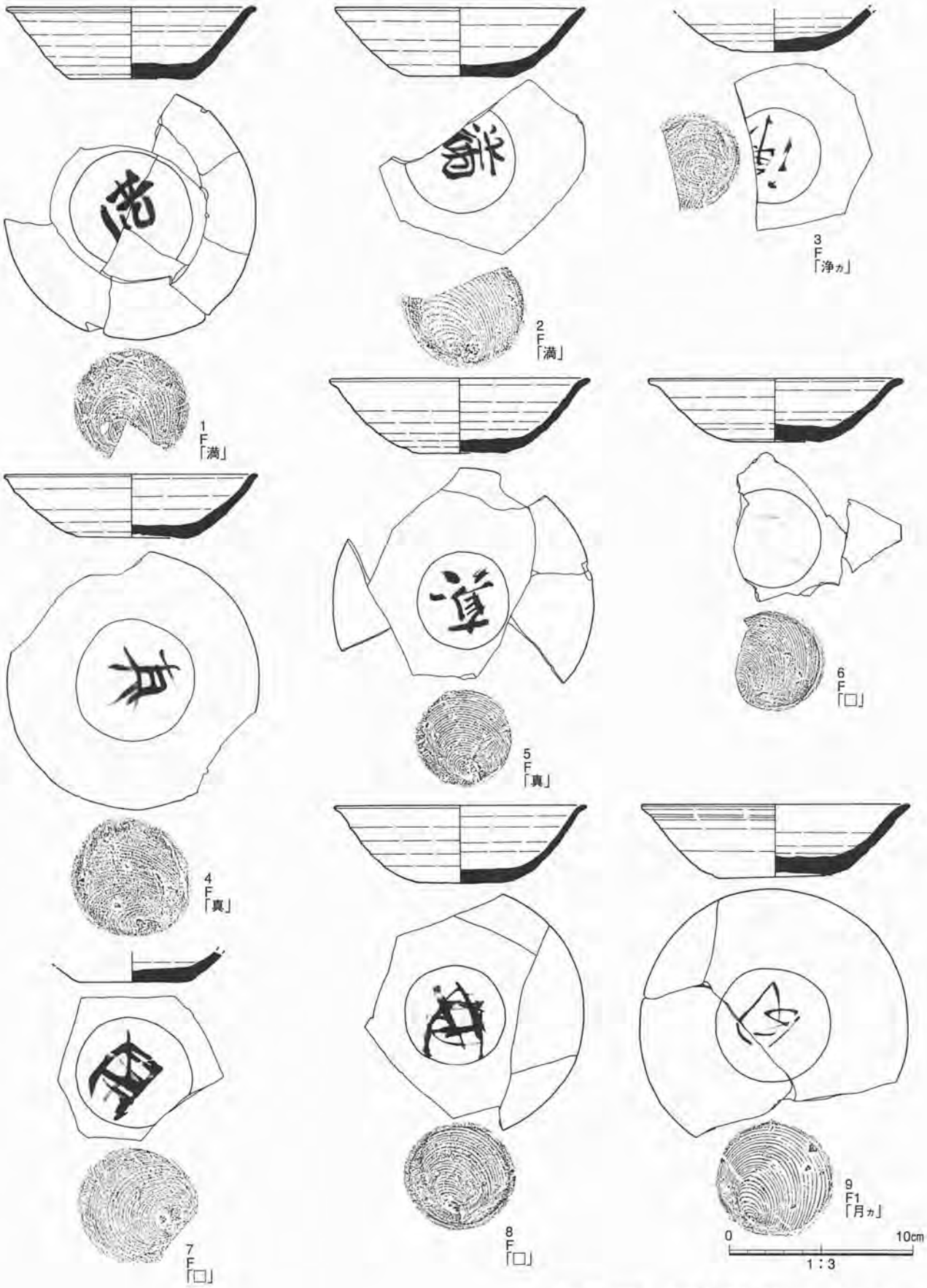
第217図　遺物実測図(67)―SG134―



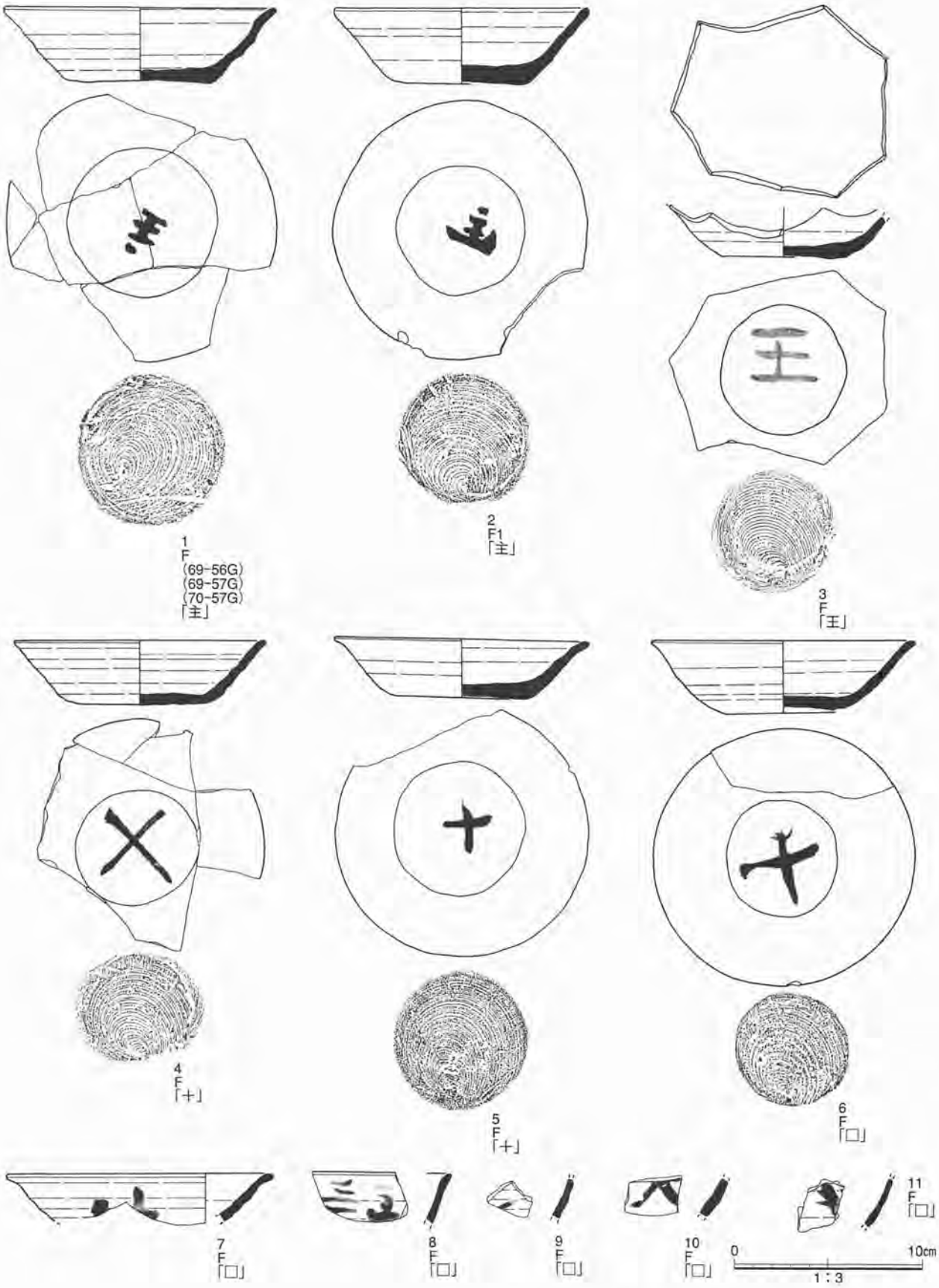
第218図　遺物実測図(68)―SG134―



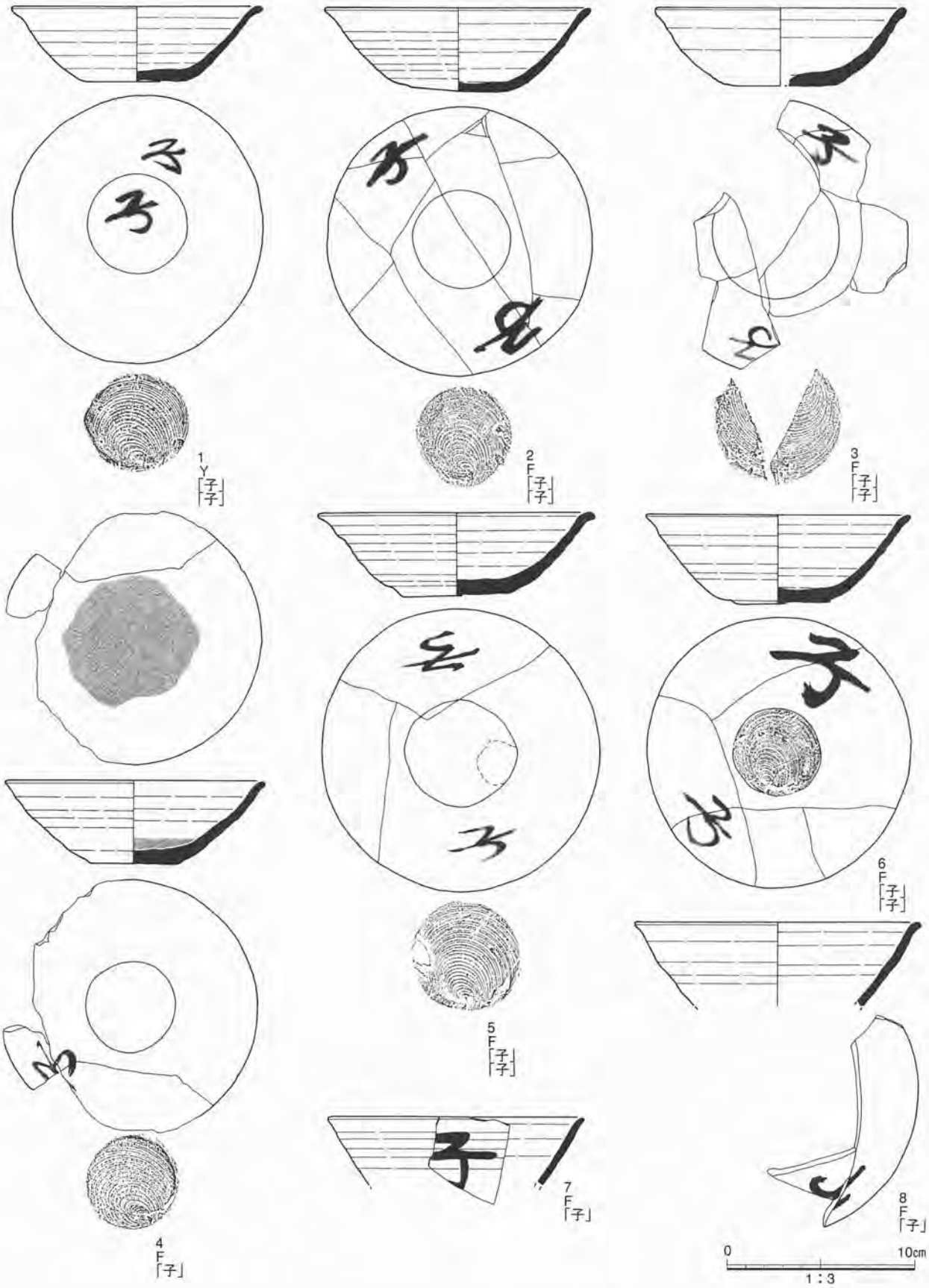
第219図　遺物実測図(69)―SG134―



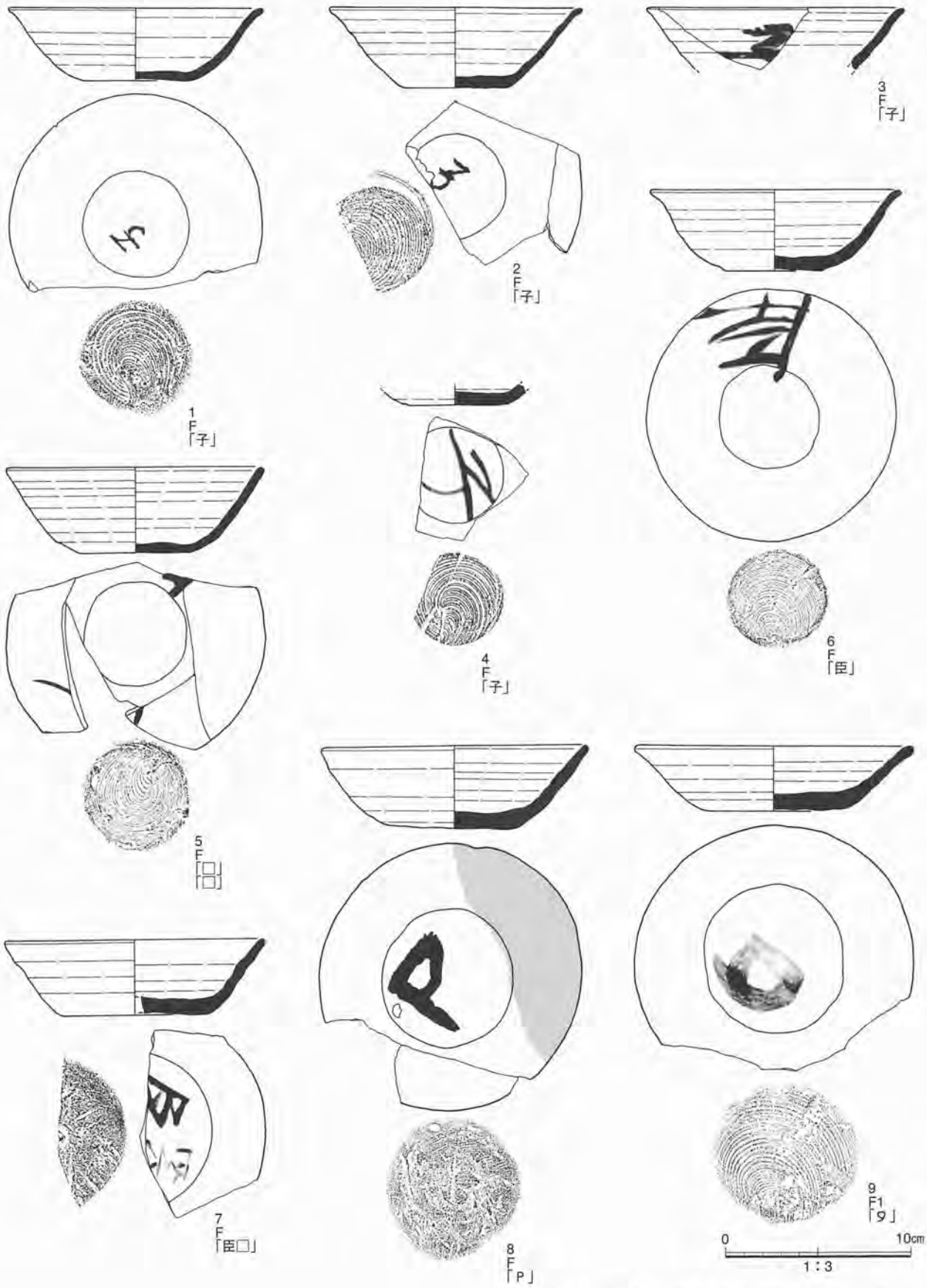
第220図　遺物実測図(70)―SG134―



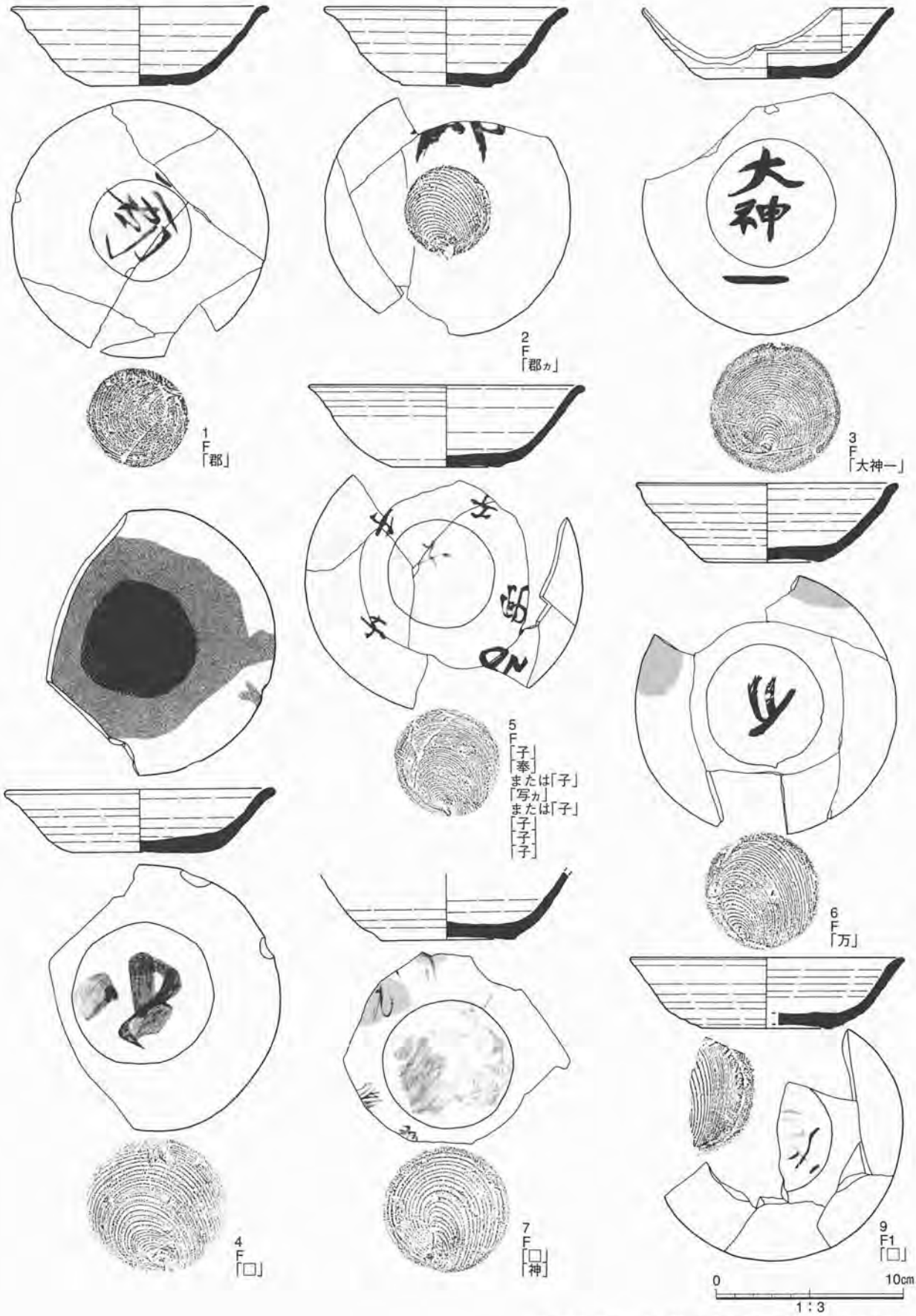
第221図　遺物実測図(71)—SG134—



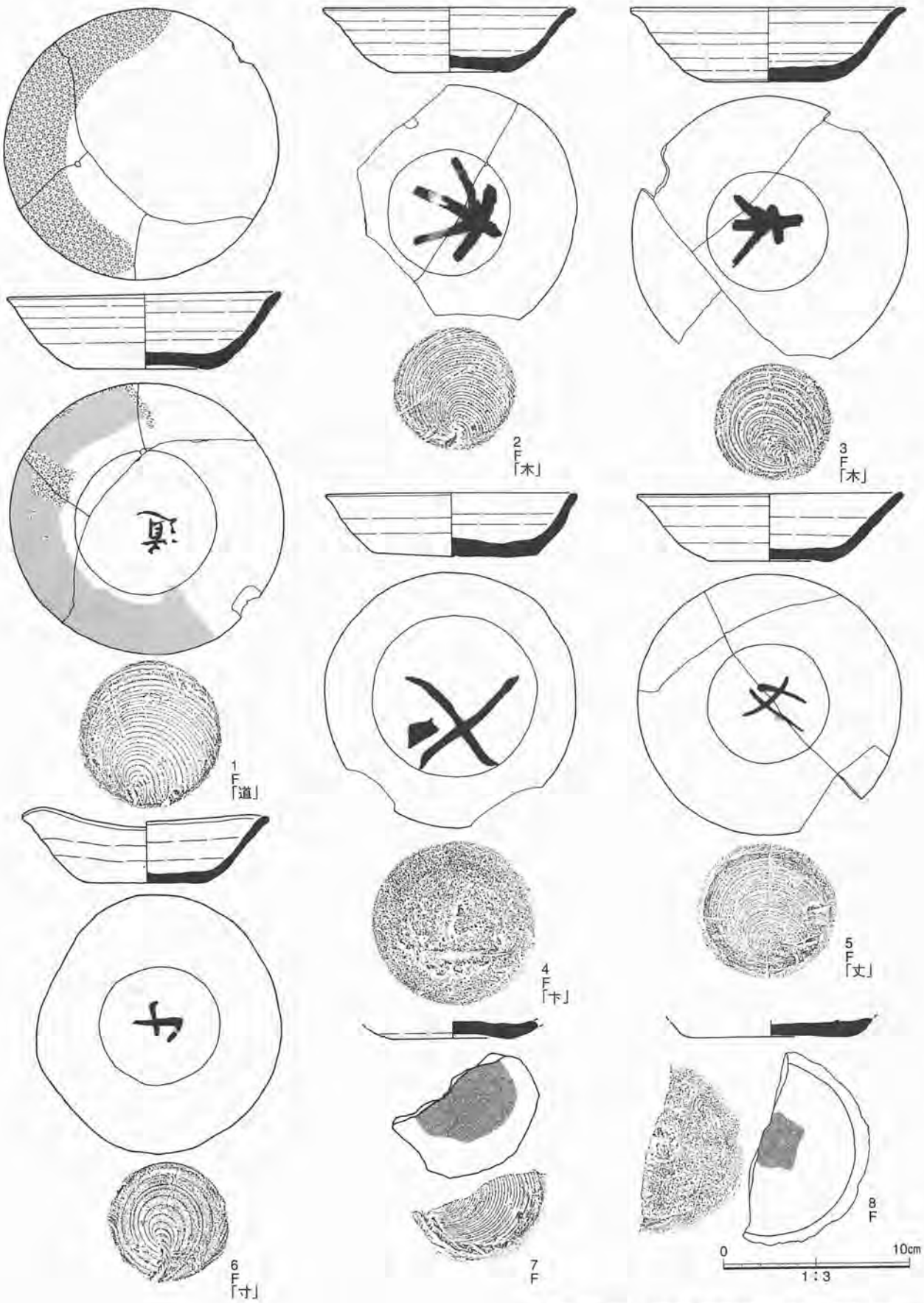
第222図　遺物実測図(72)―SG134―



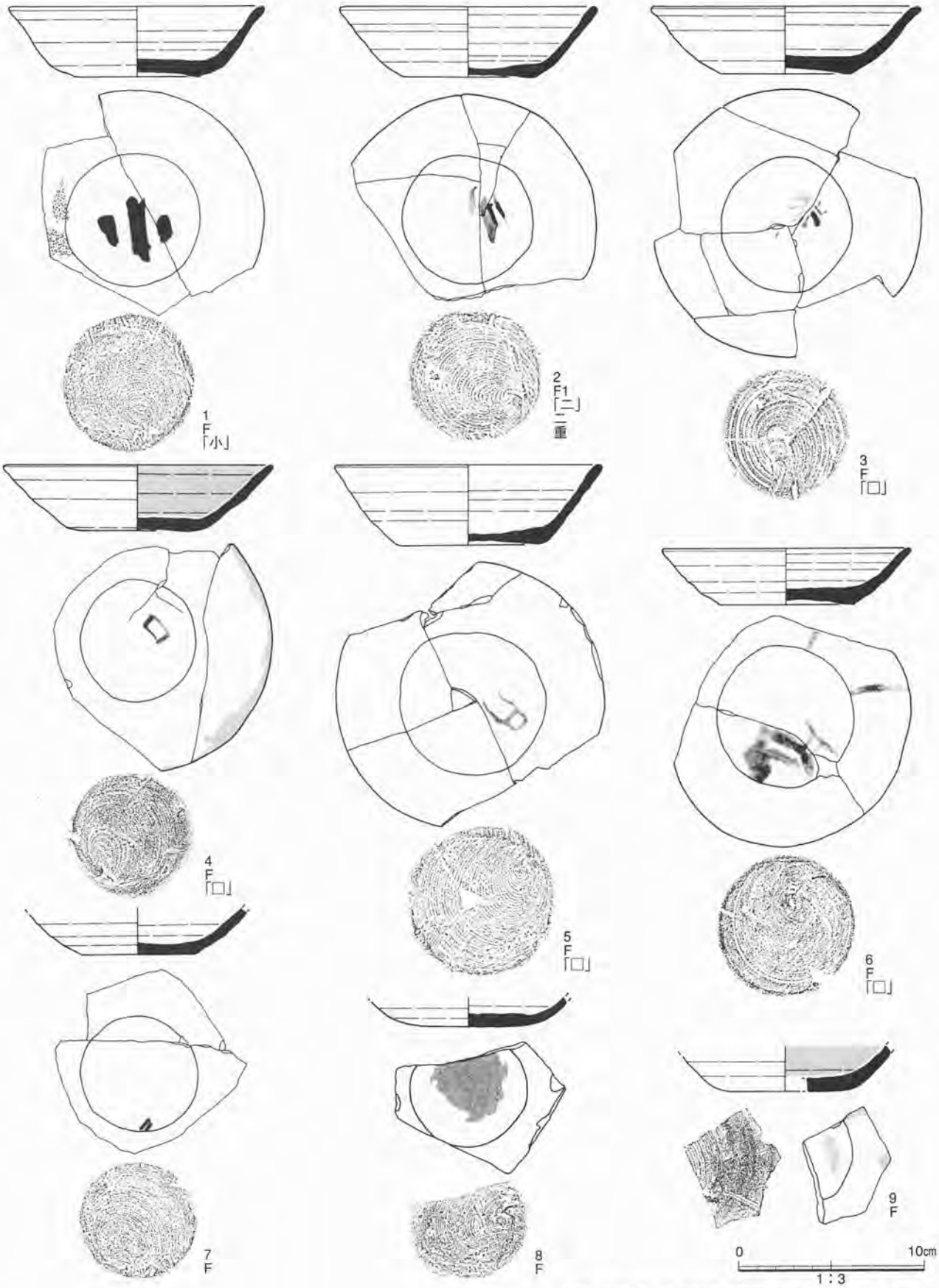
第223図　遺物実測図(73)―SG134―



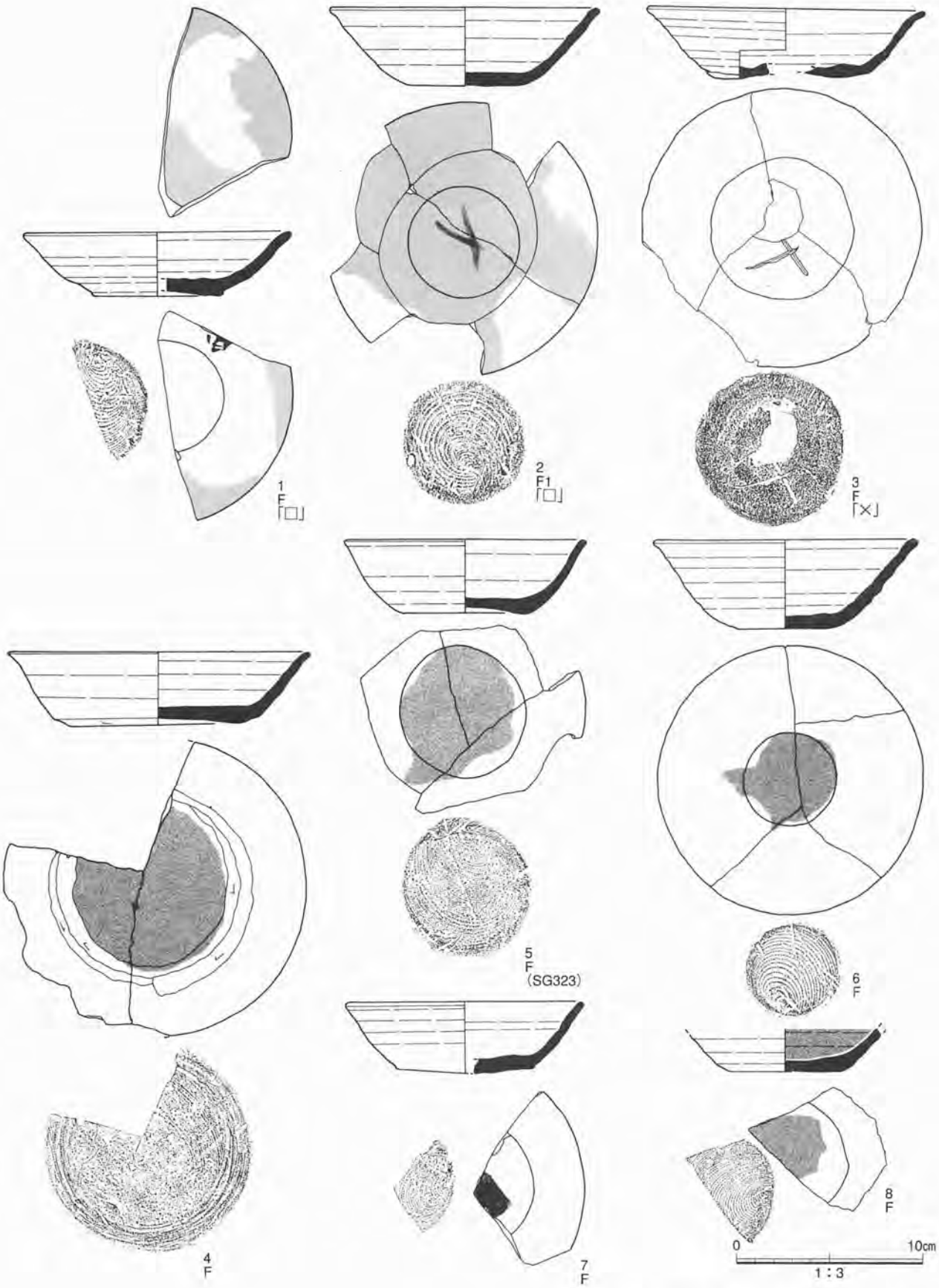
第224図　遺物実測図(74)―SG134―



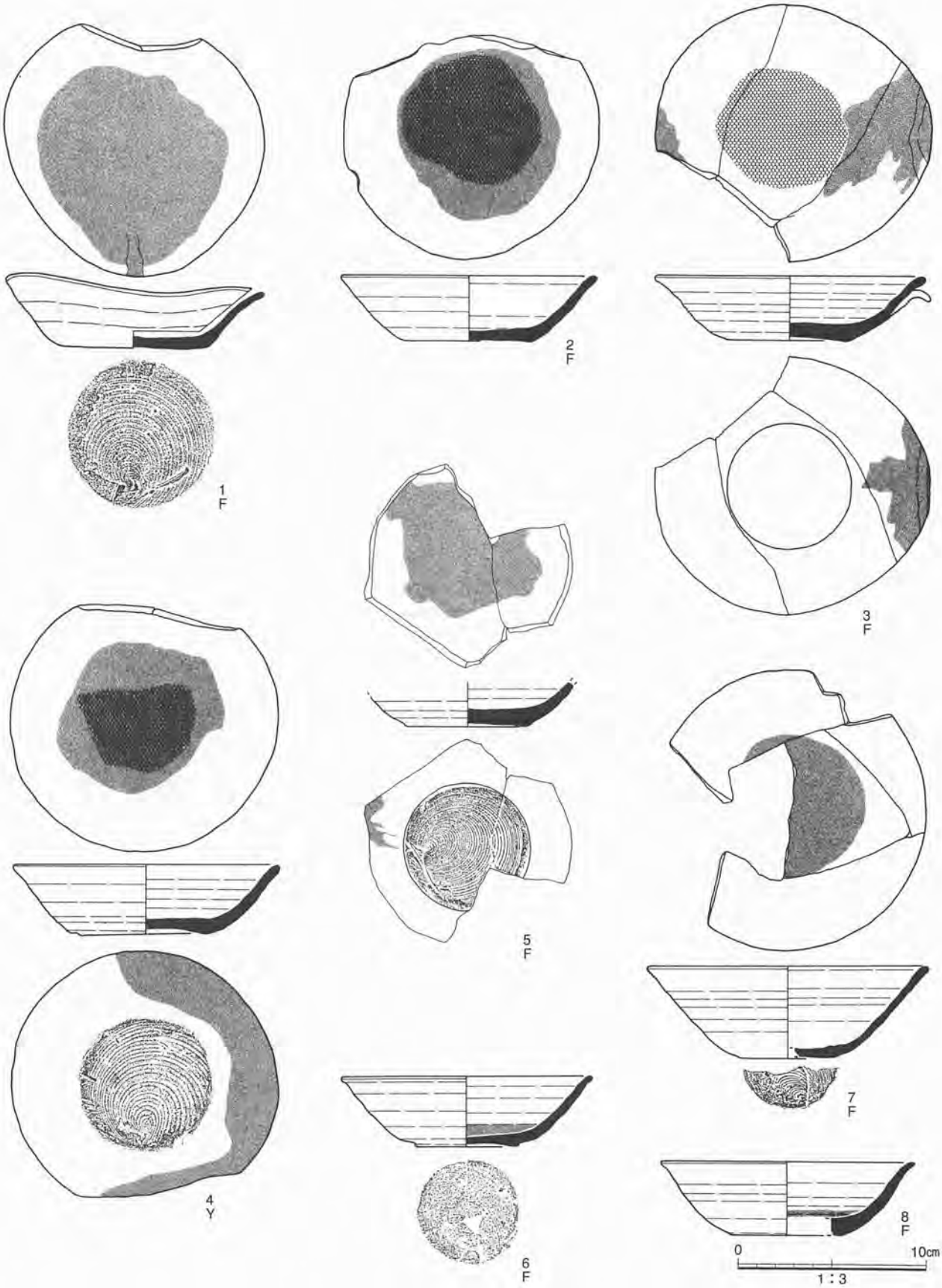
第225図　遺物実測図(75)—SG134—



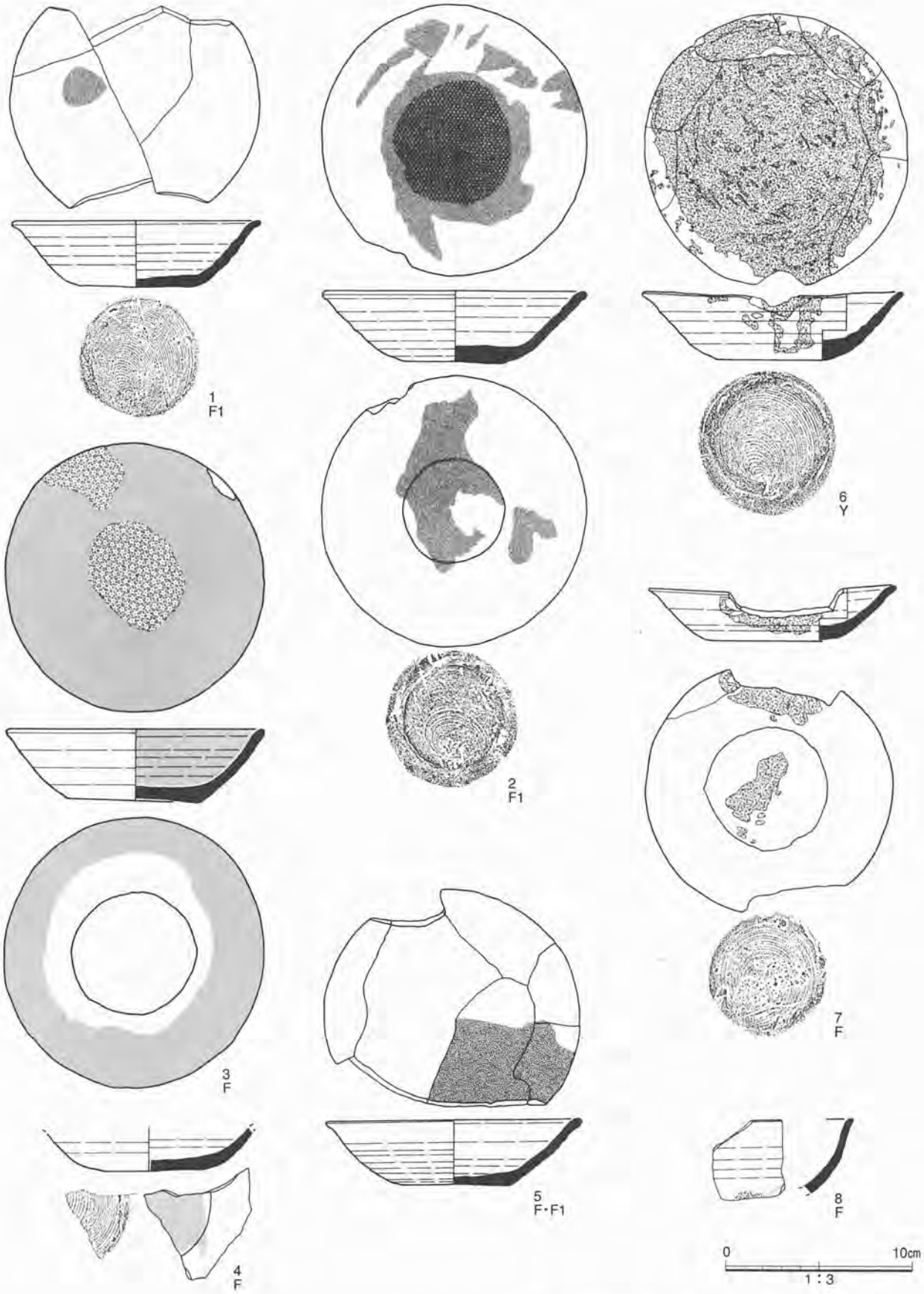
第226図　遺物実測図(76)―SG134―



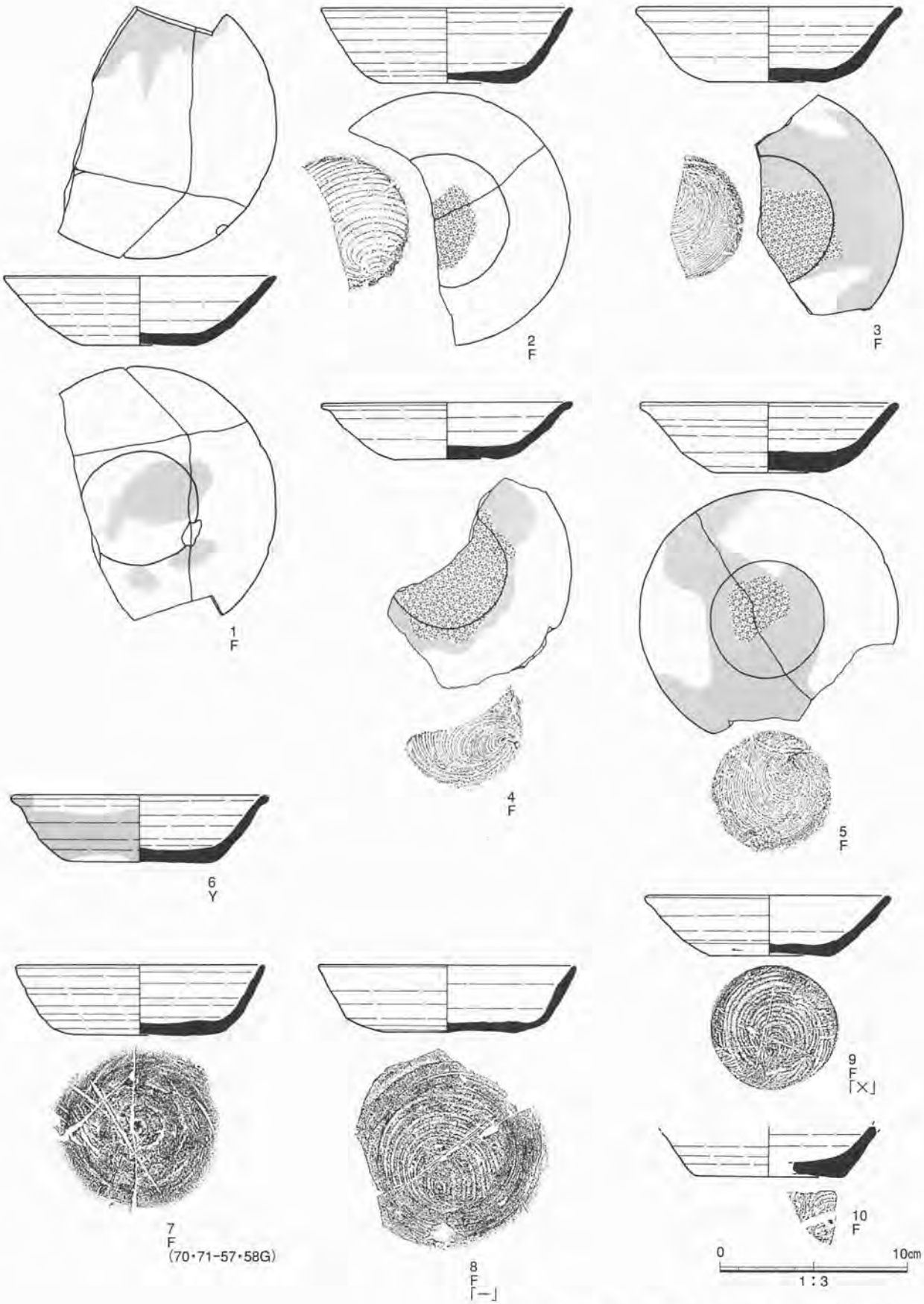
第227図　遺物実測図(77)―SG134―



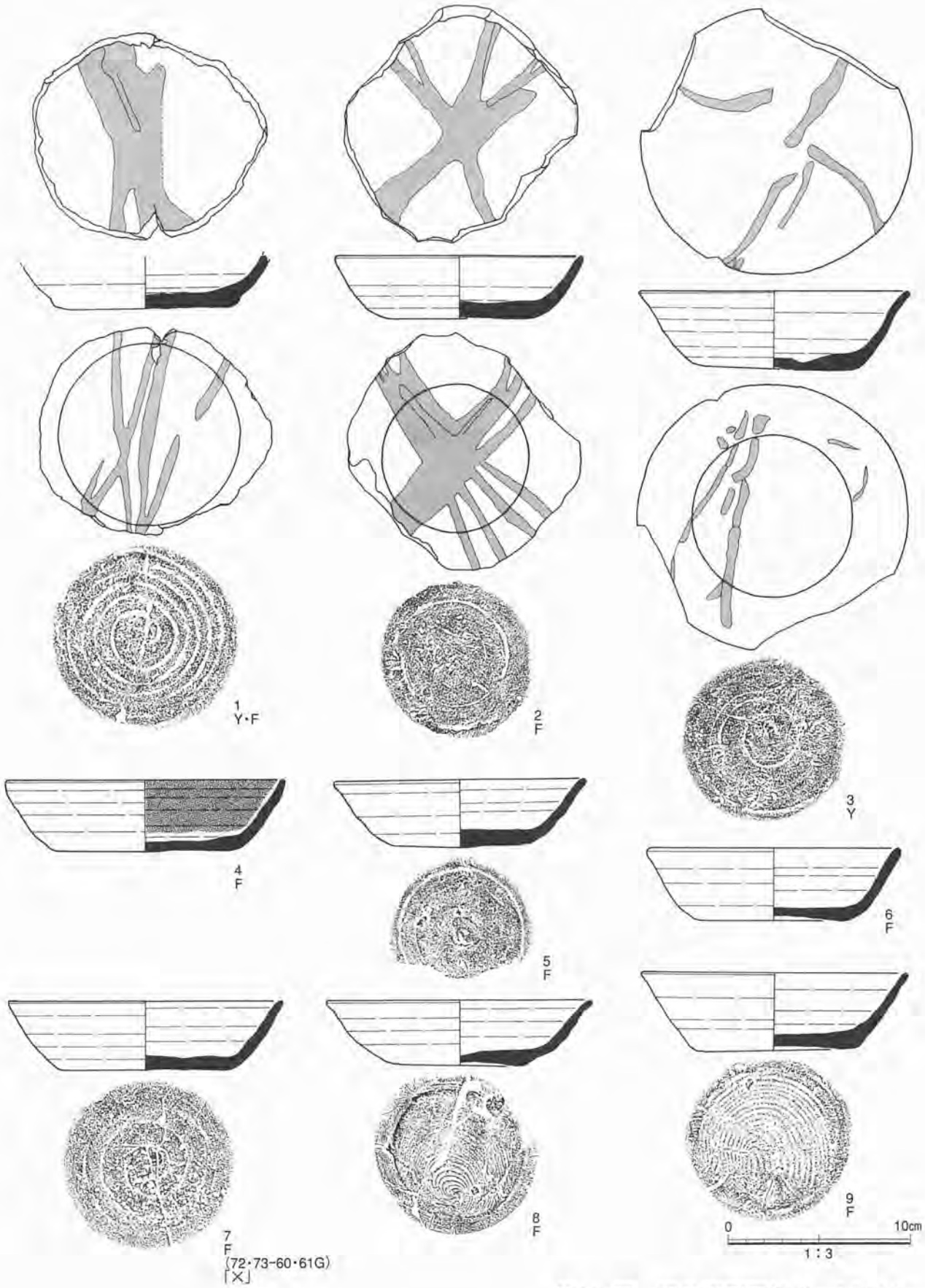
第228図　遺物実測図(78)―SG134―



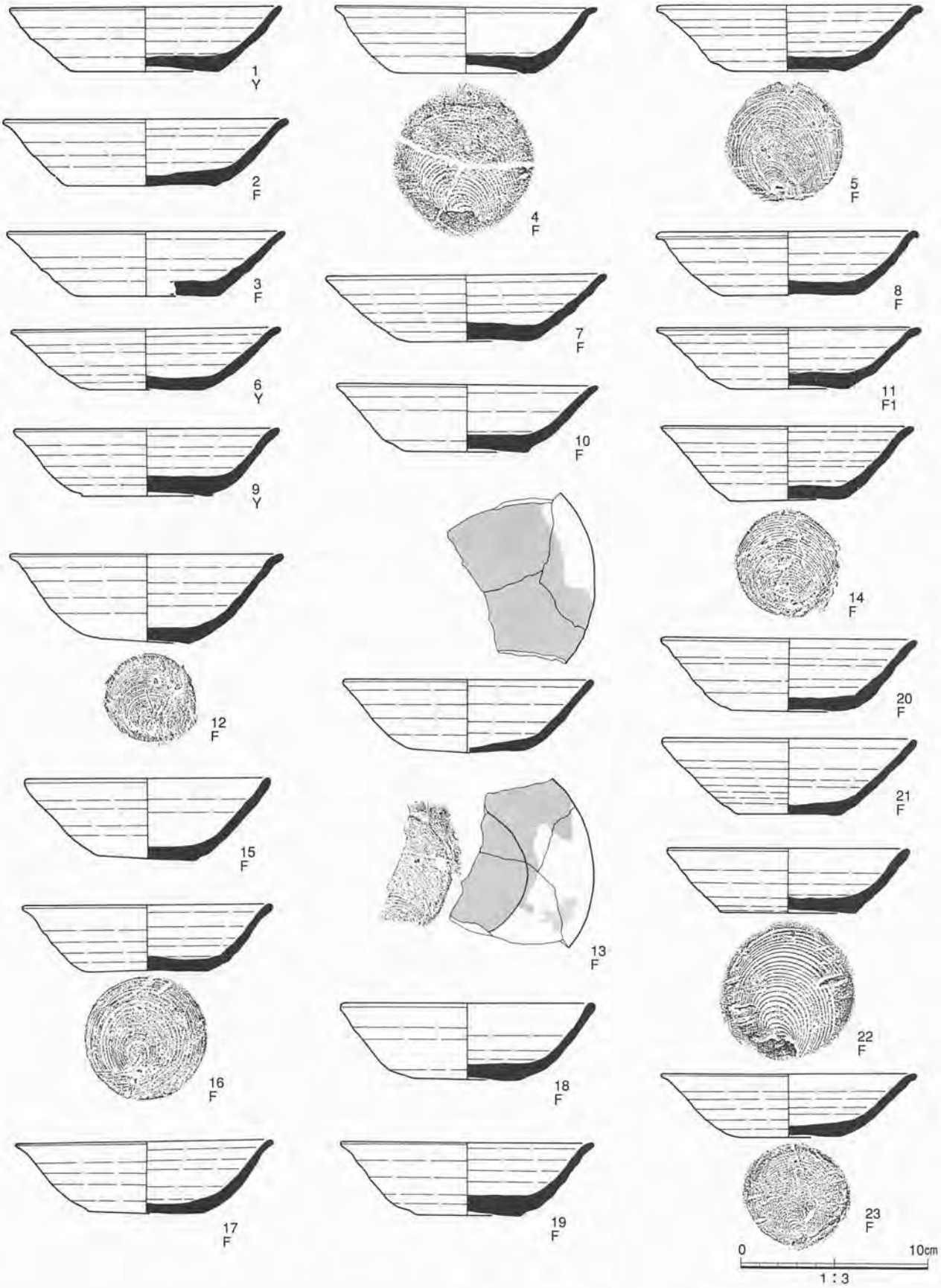
第229図　遺物実測図(79)—SG134—



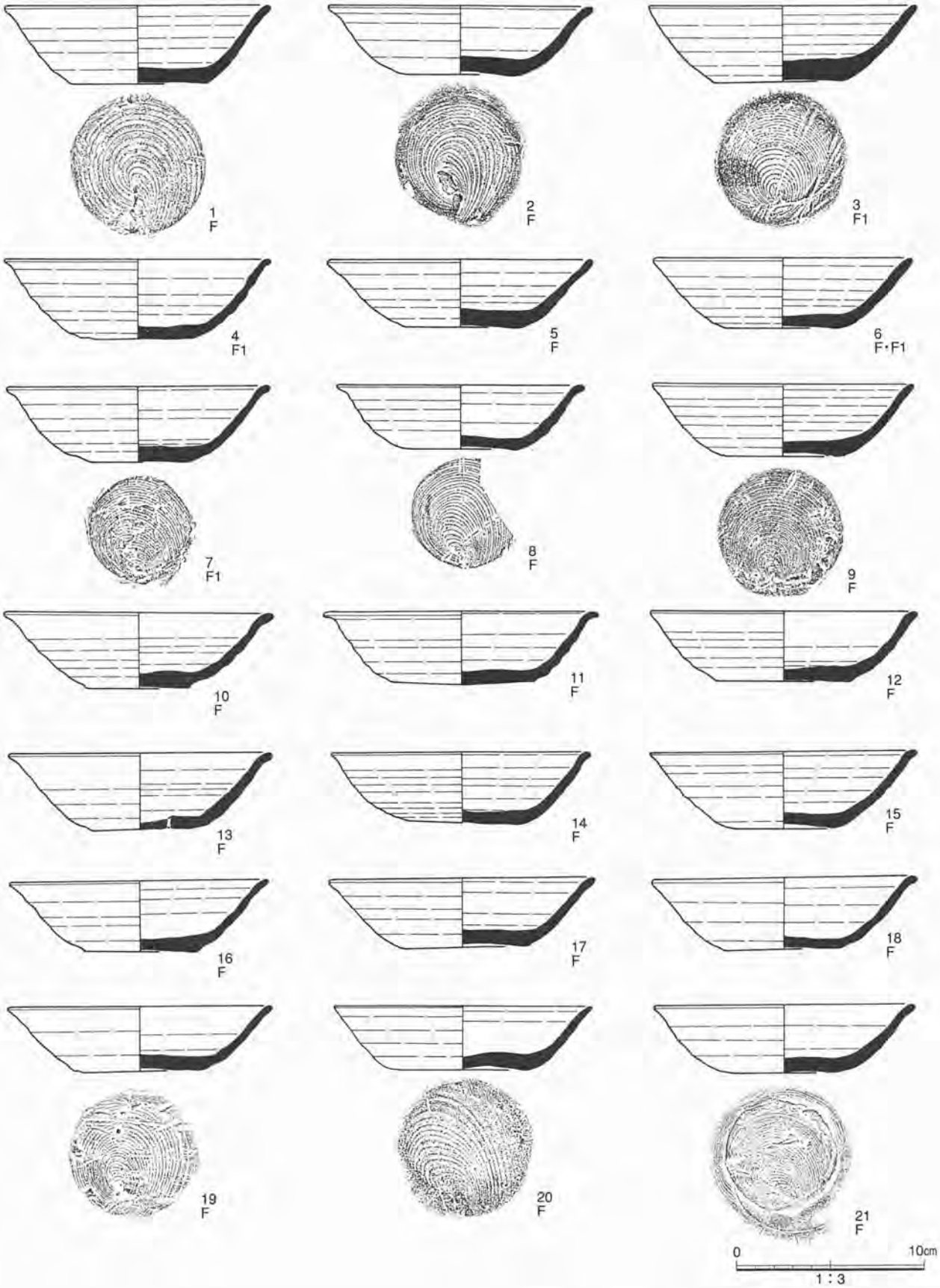
第230図　遺物実測図(80)―SG134―



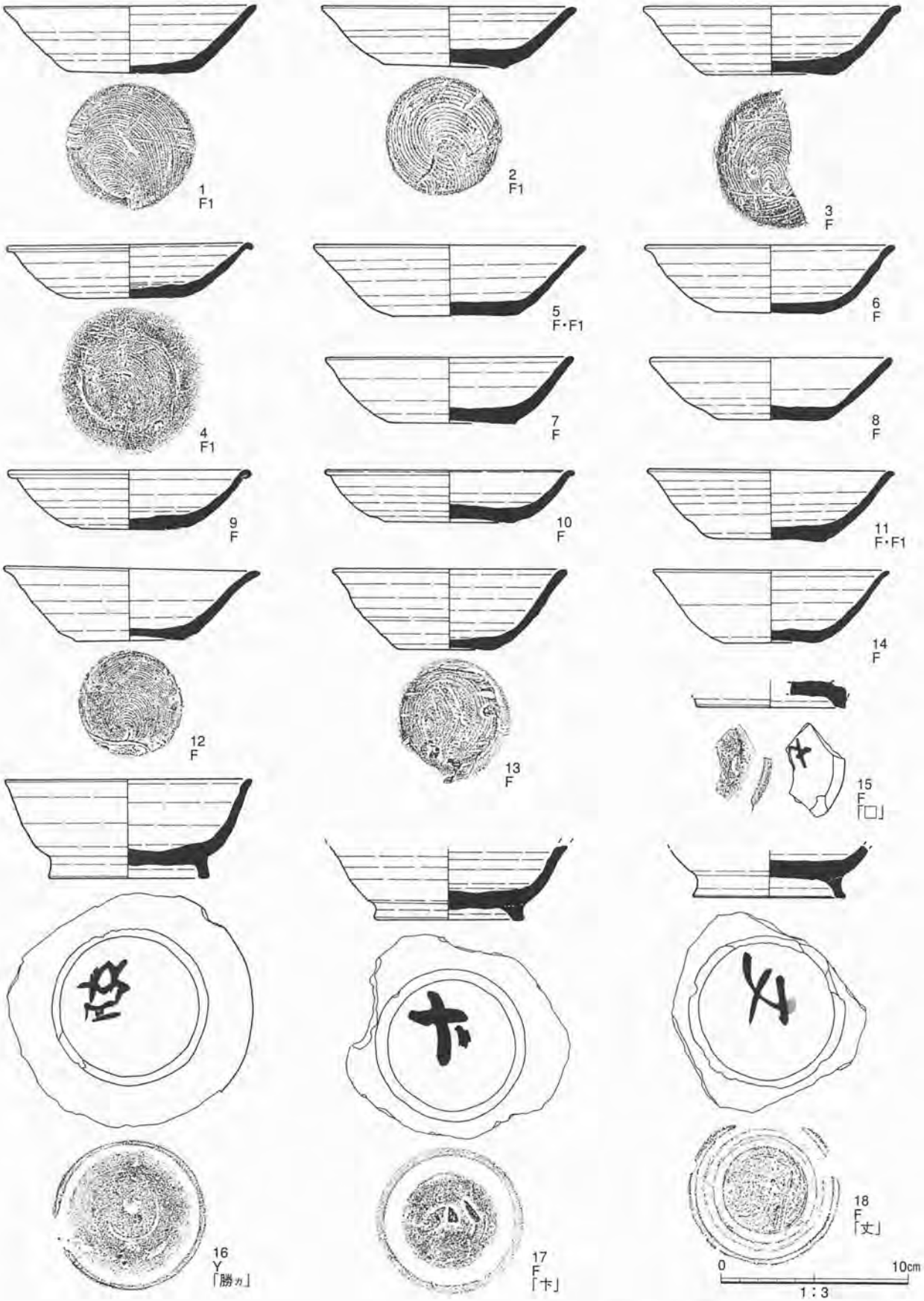
第231図　遺物実測図(81)—SG134—



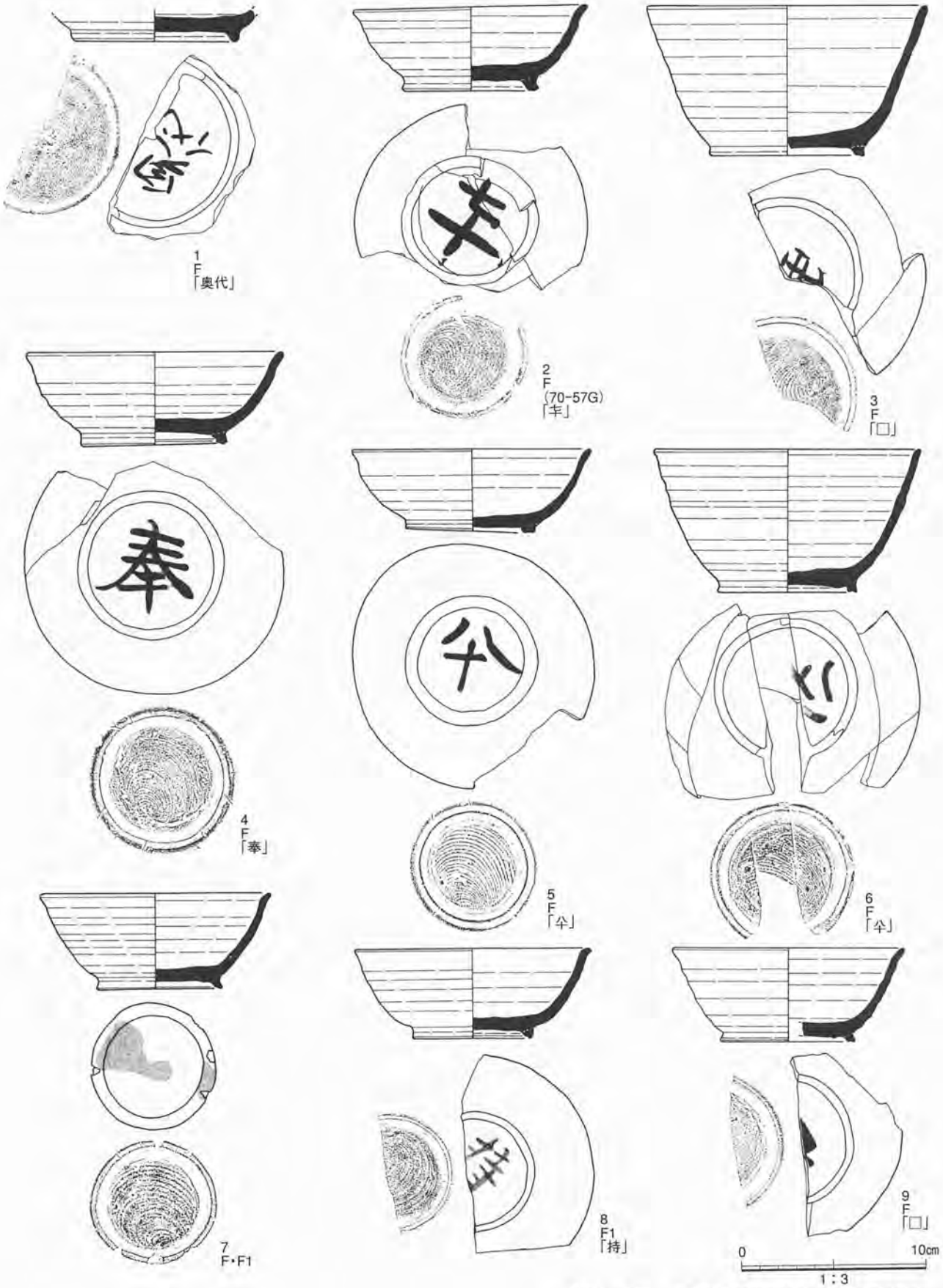
第232図　遺物実測図(82)―SG134―



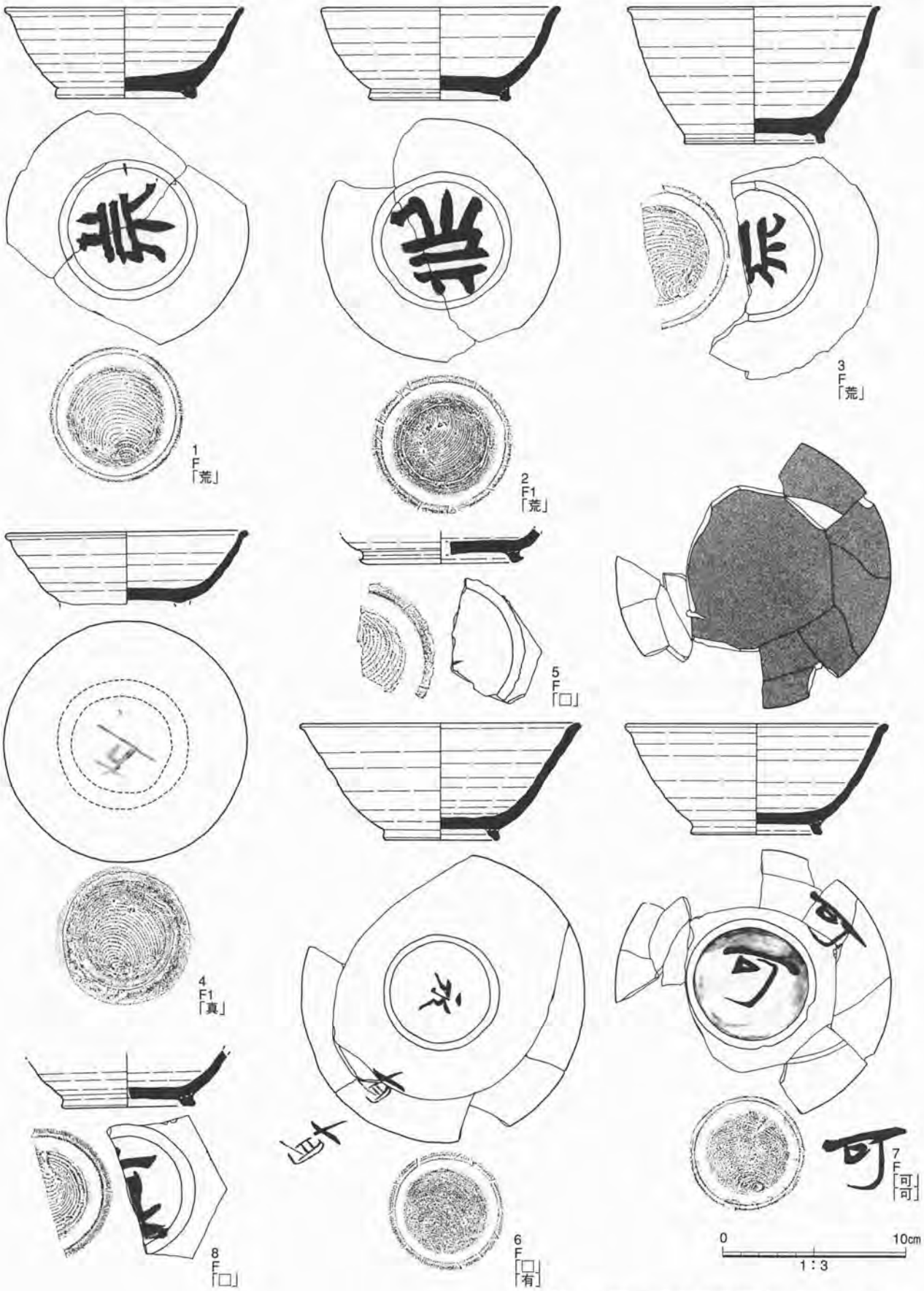
第233図　遺物実測図(83)—SG134—



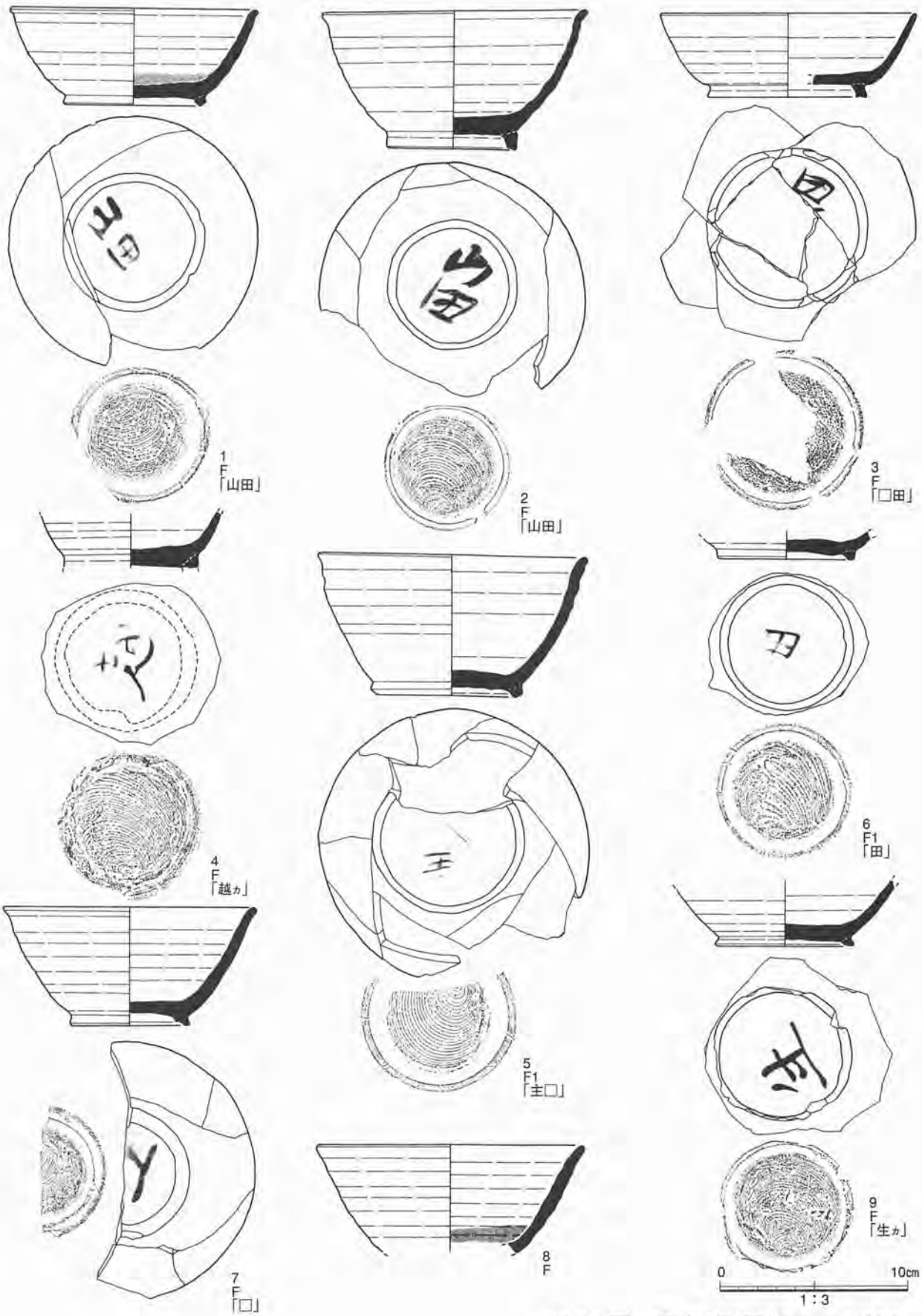
第234図　遺物実測図(84)—SG134—



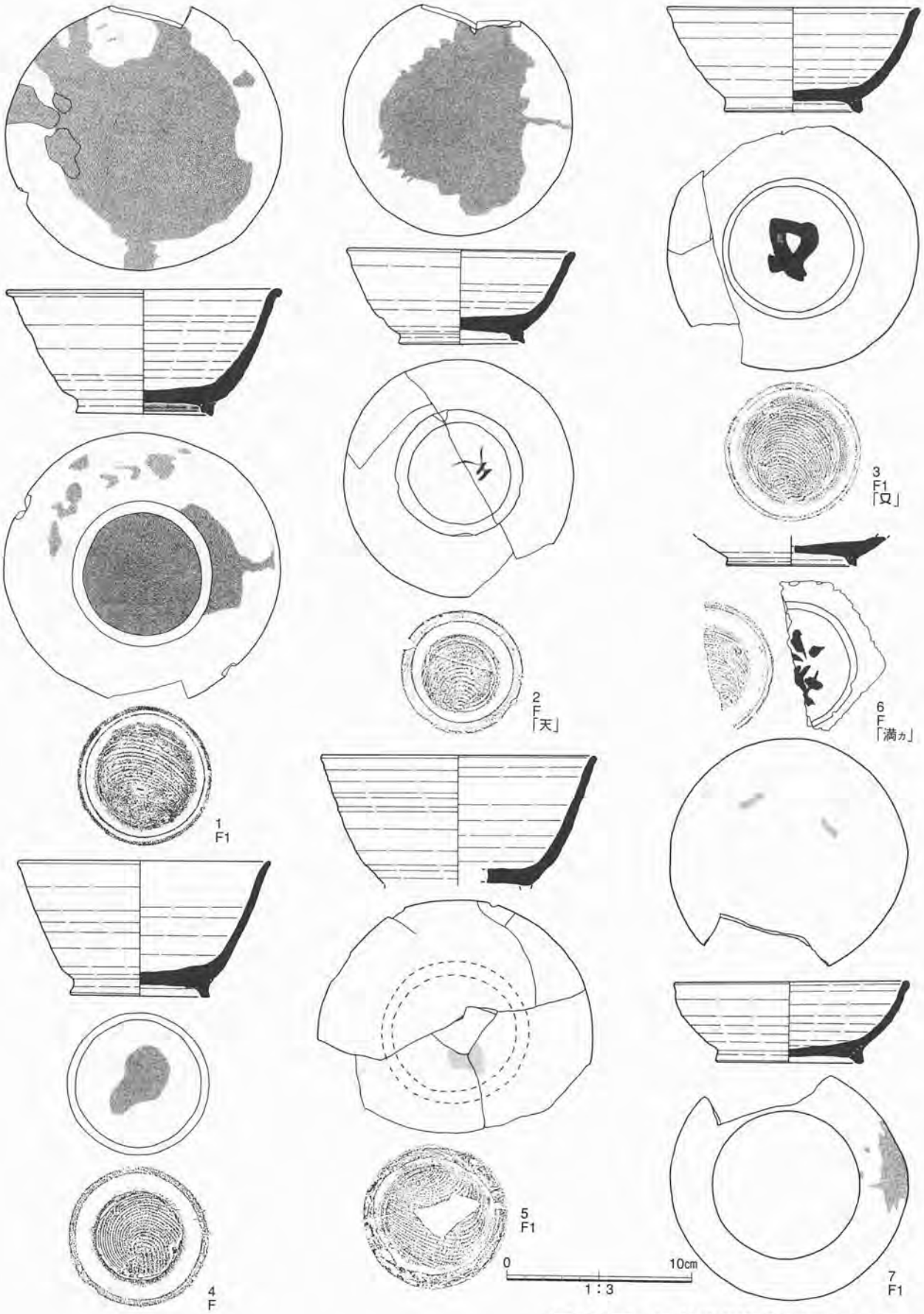
第235図　遺物実測図(85)―SG134―



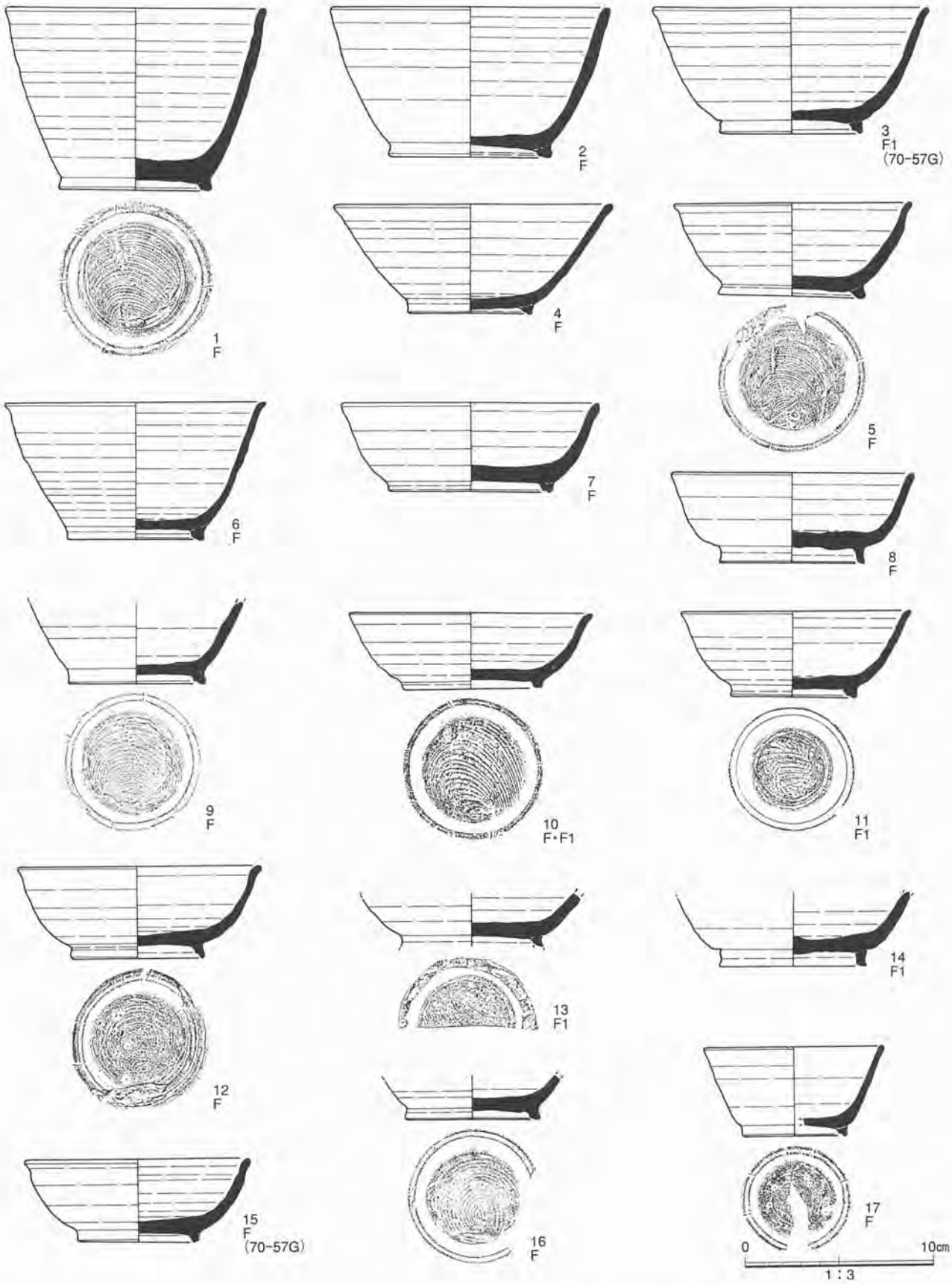
第236図　遺物実測図(86)―SG134―



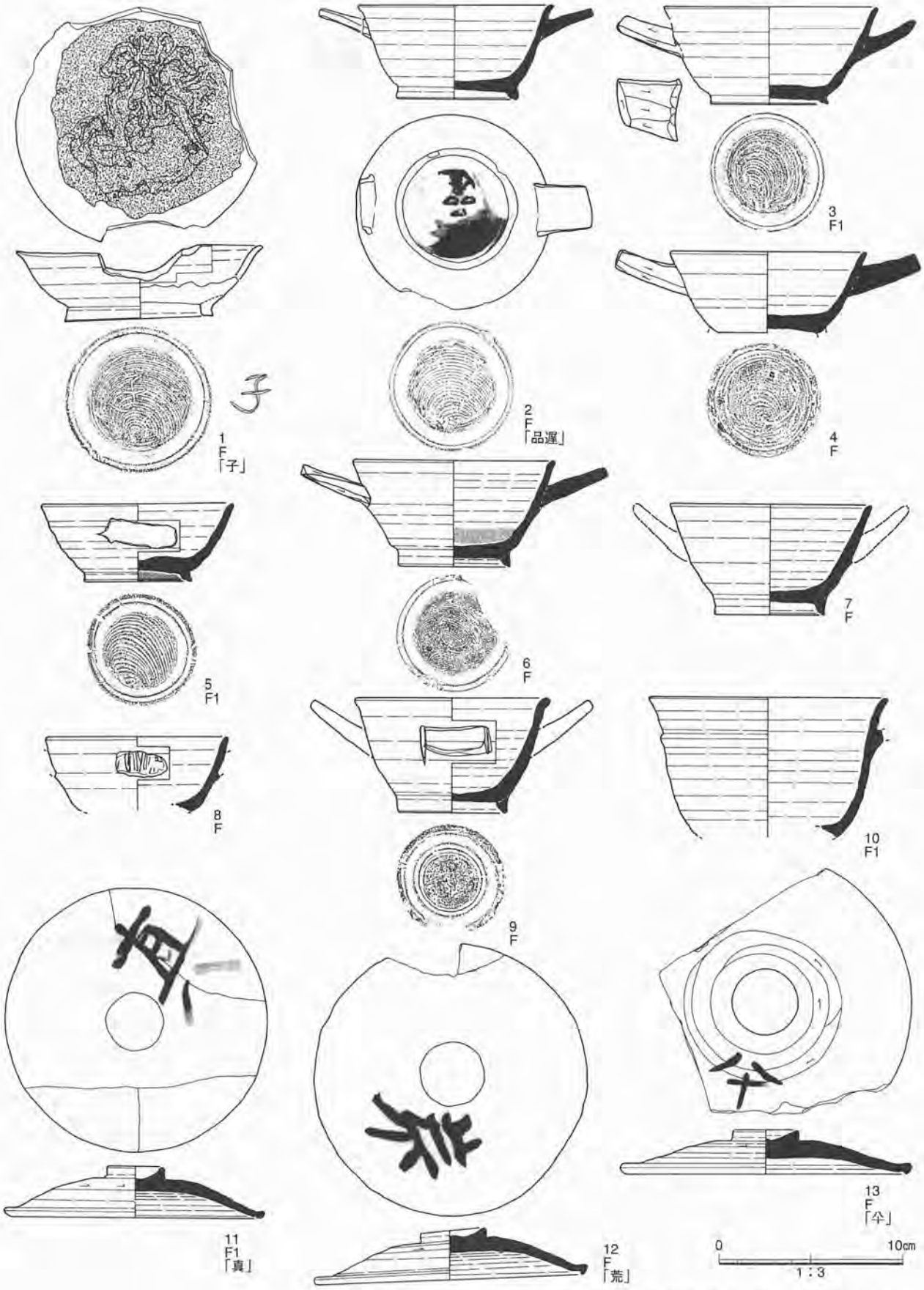
第237図　遺物実測図(87)―SG134―



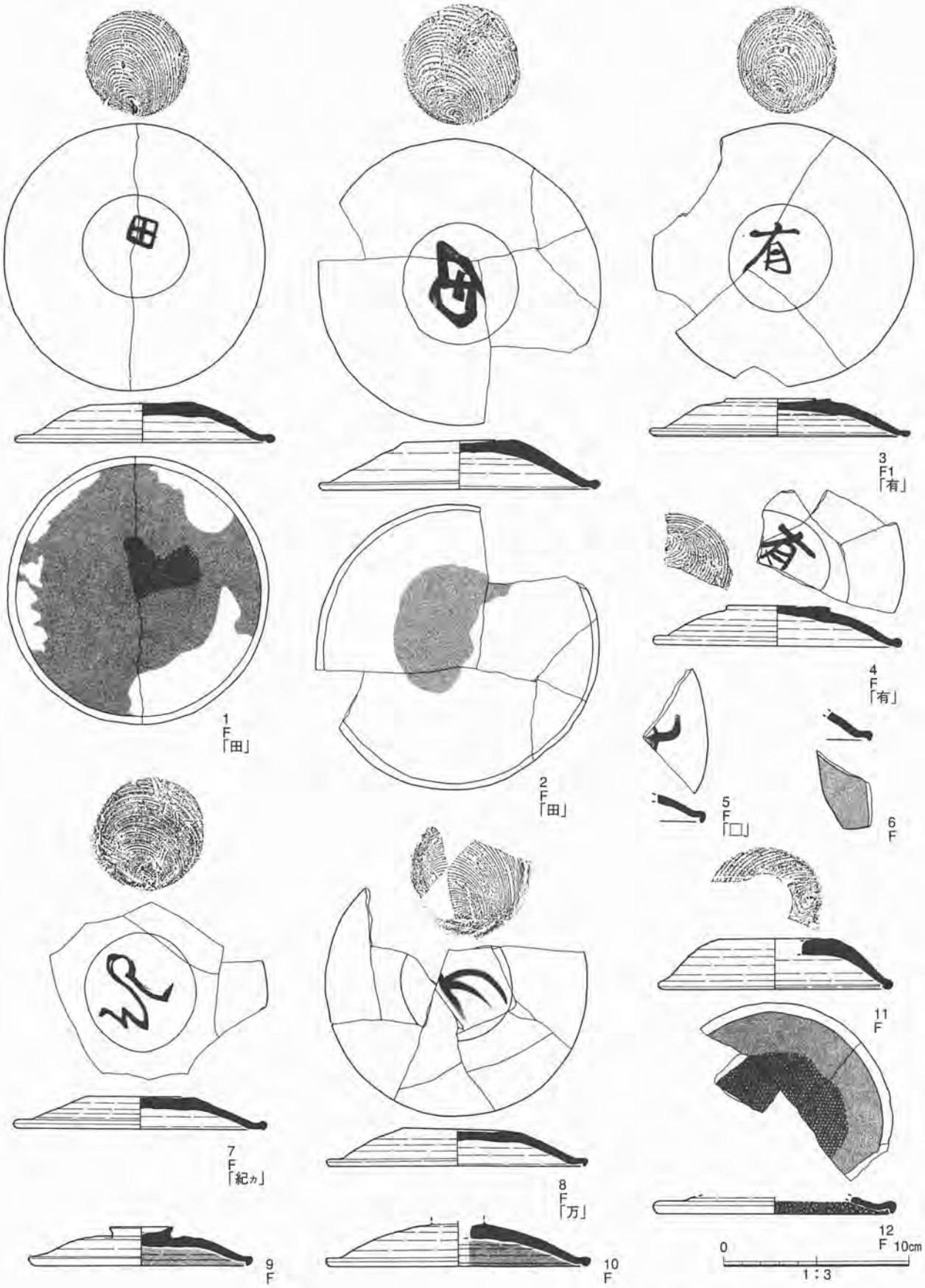
第238図　遺物実測図(88)―SG134―



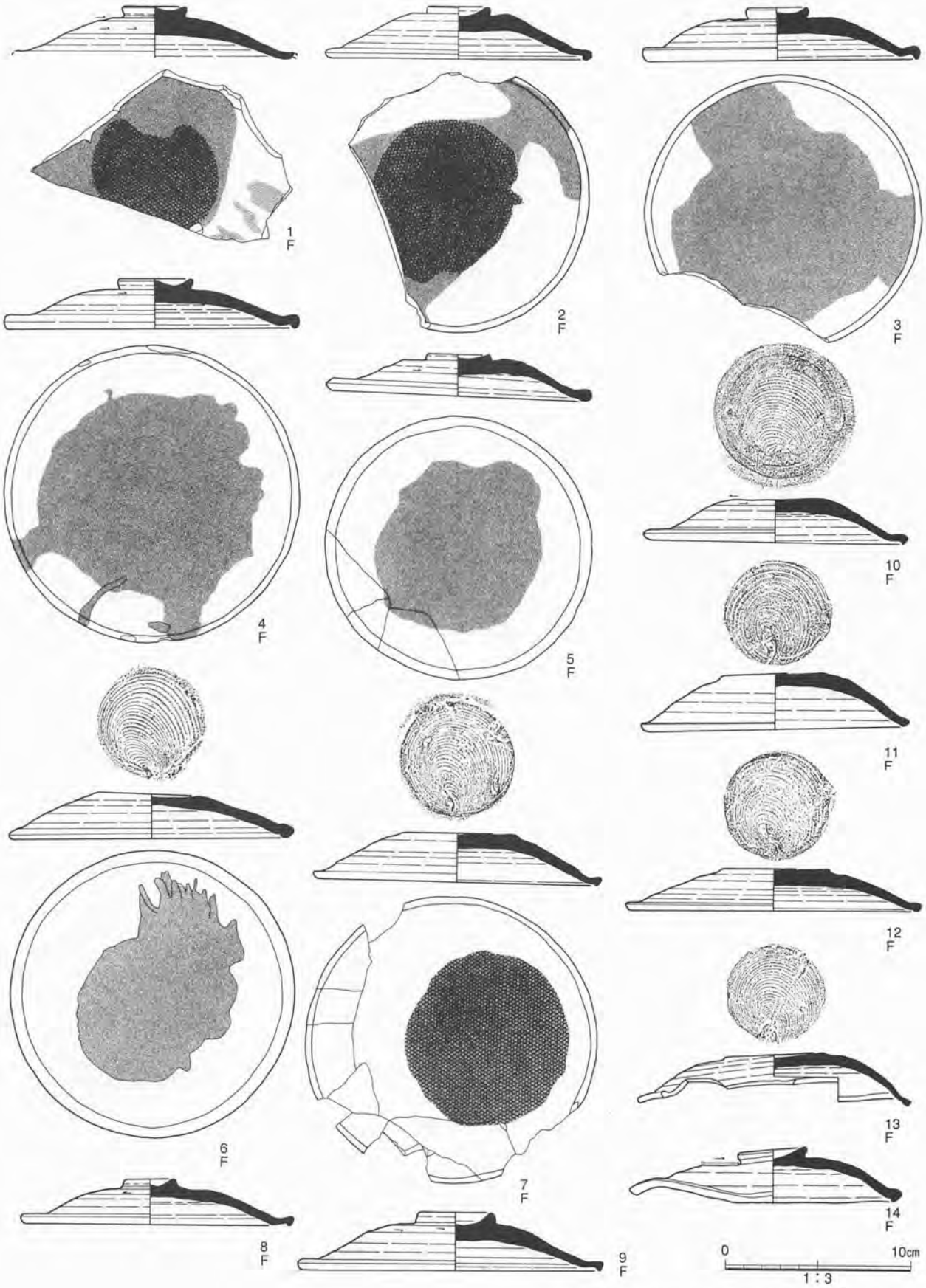
第239図　遺物実測図(89)―SG134―



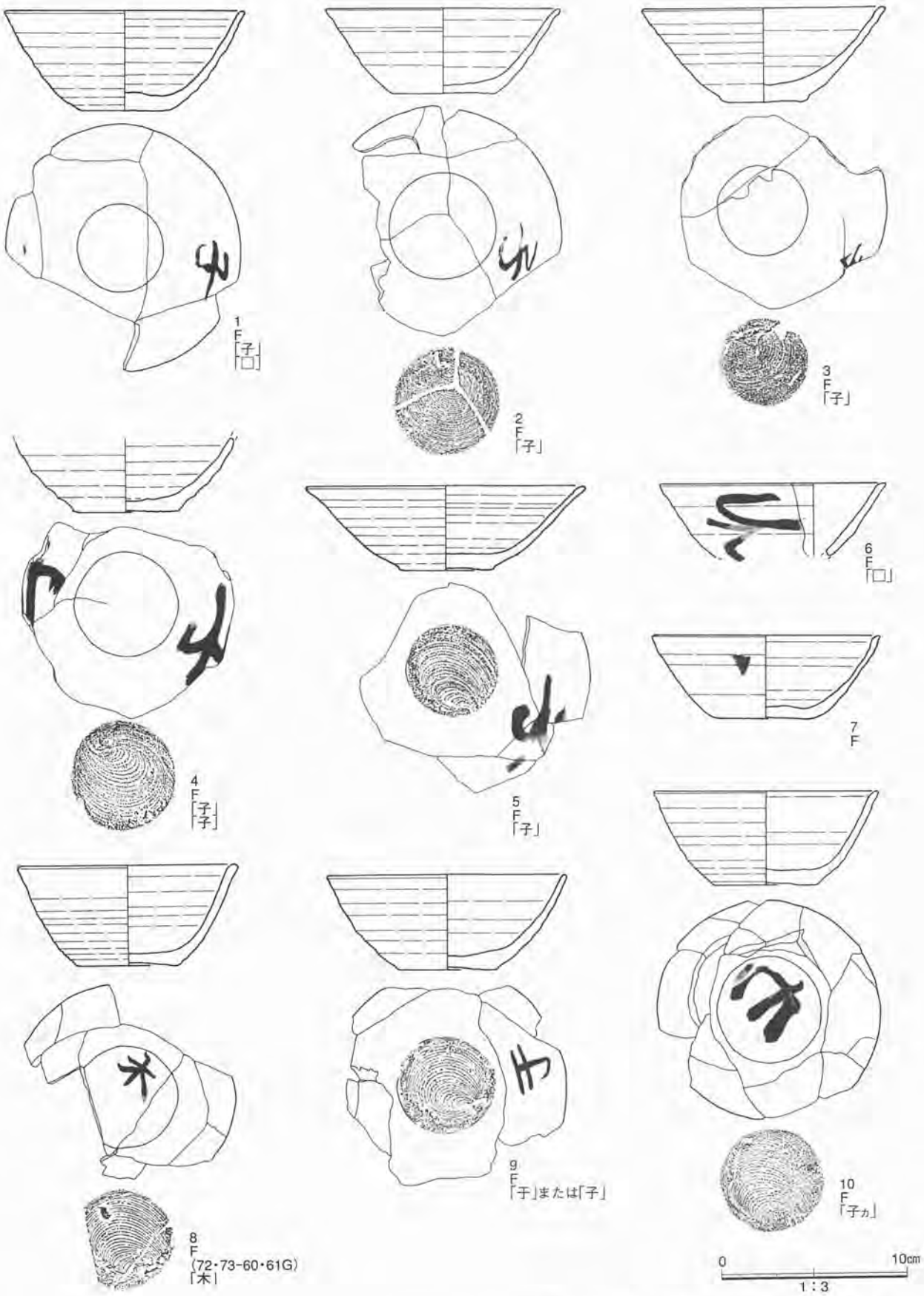
第240図　遺物実測図(90)—SG134—



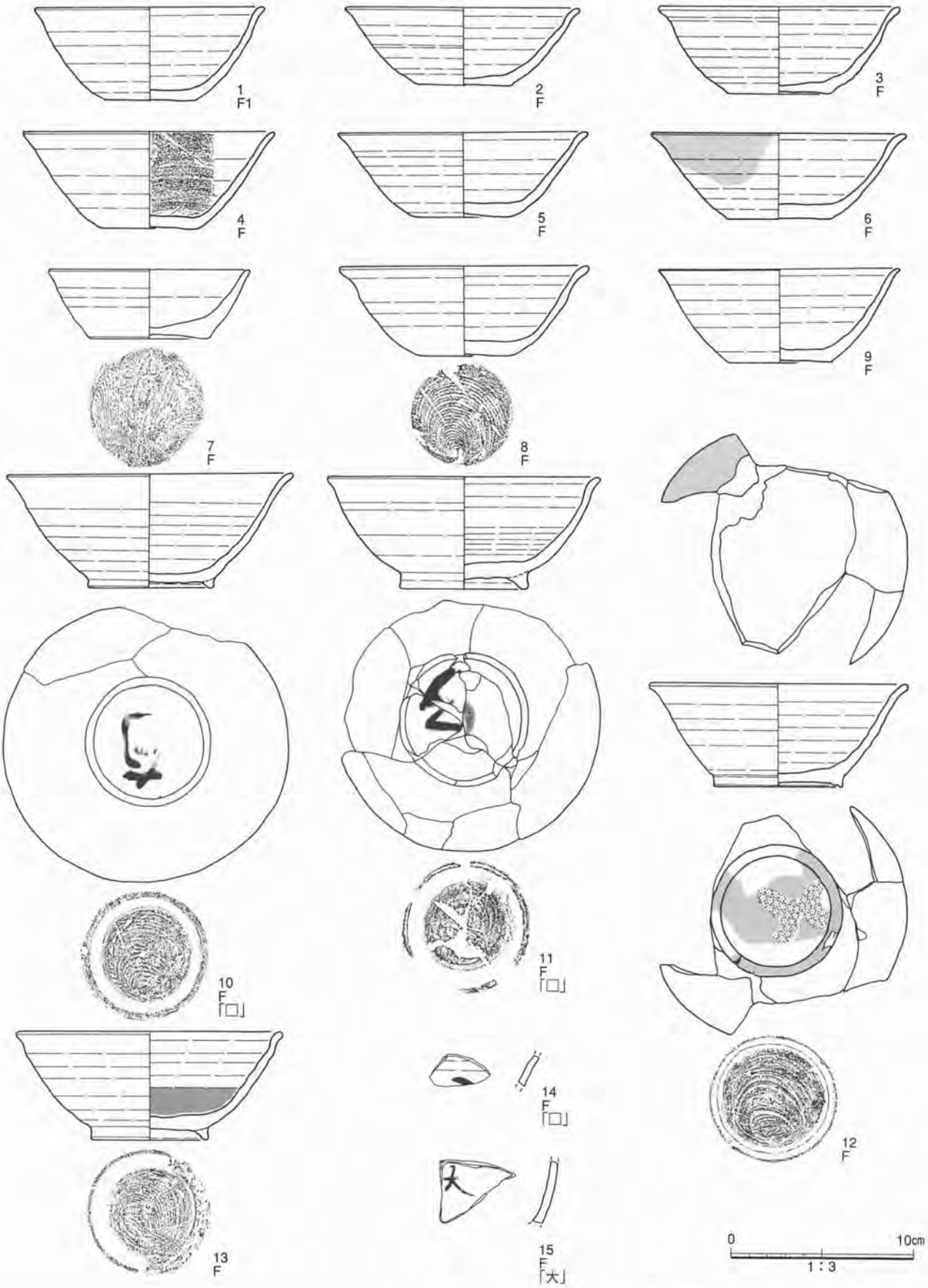
第241図　遺物実測図(91)―SG134―



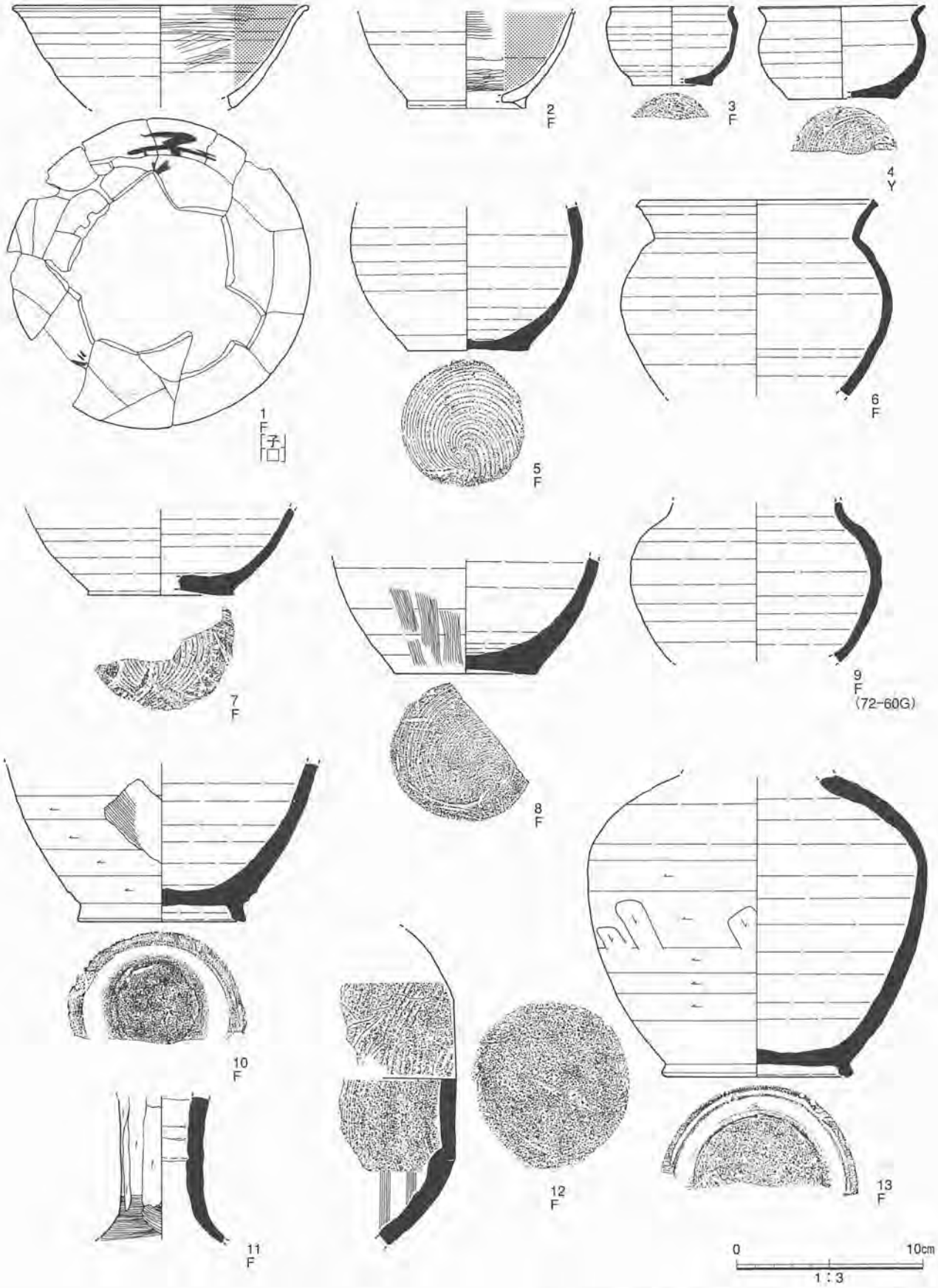
第242図　遺物実測図(92)―SG134―



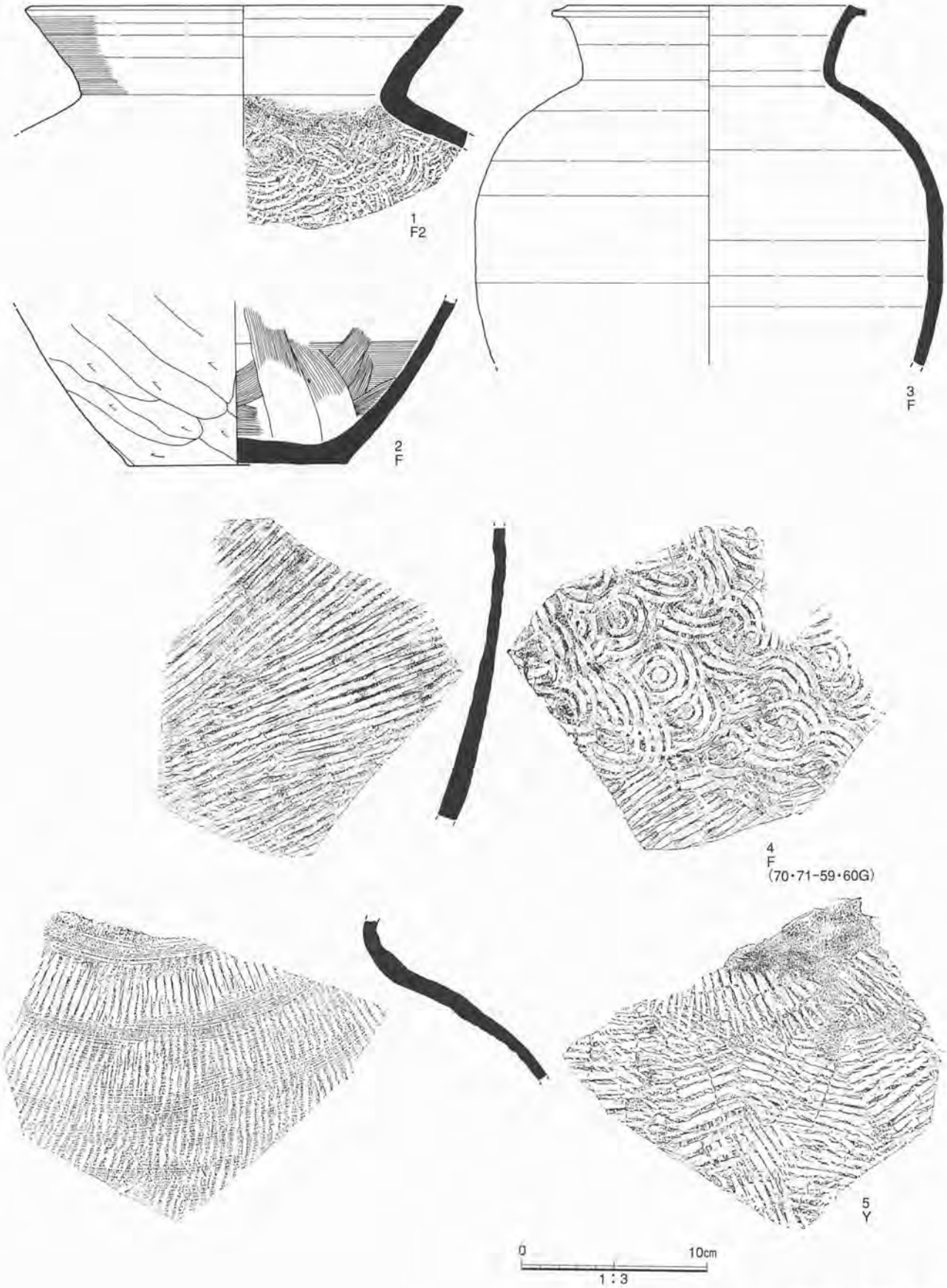
第243図　遺物実測図(93)―SG134―



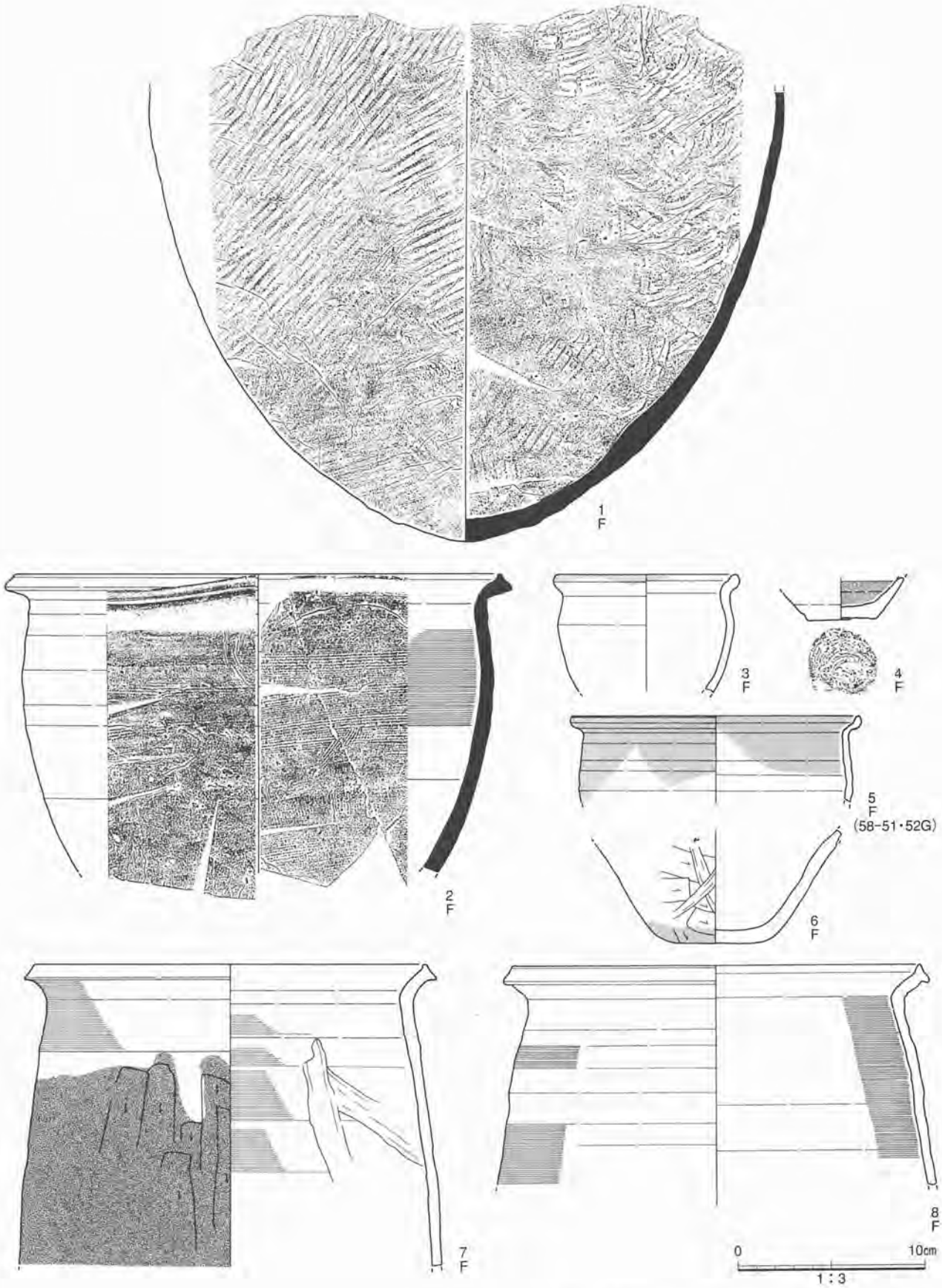
第244図　遺物実測図(94)―SG134―



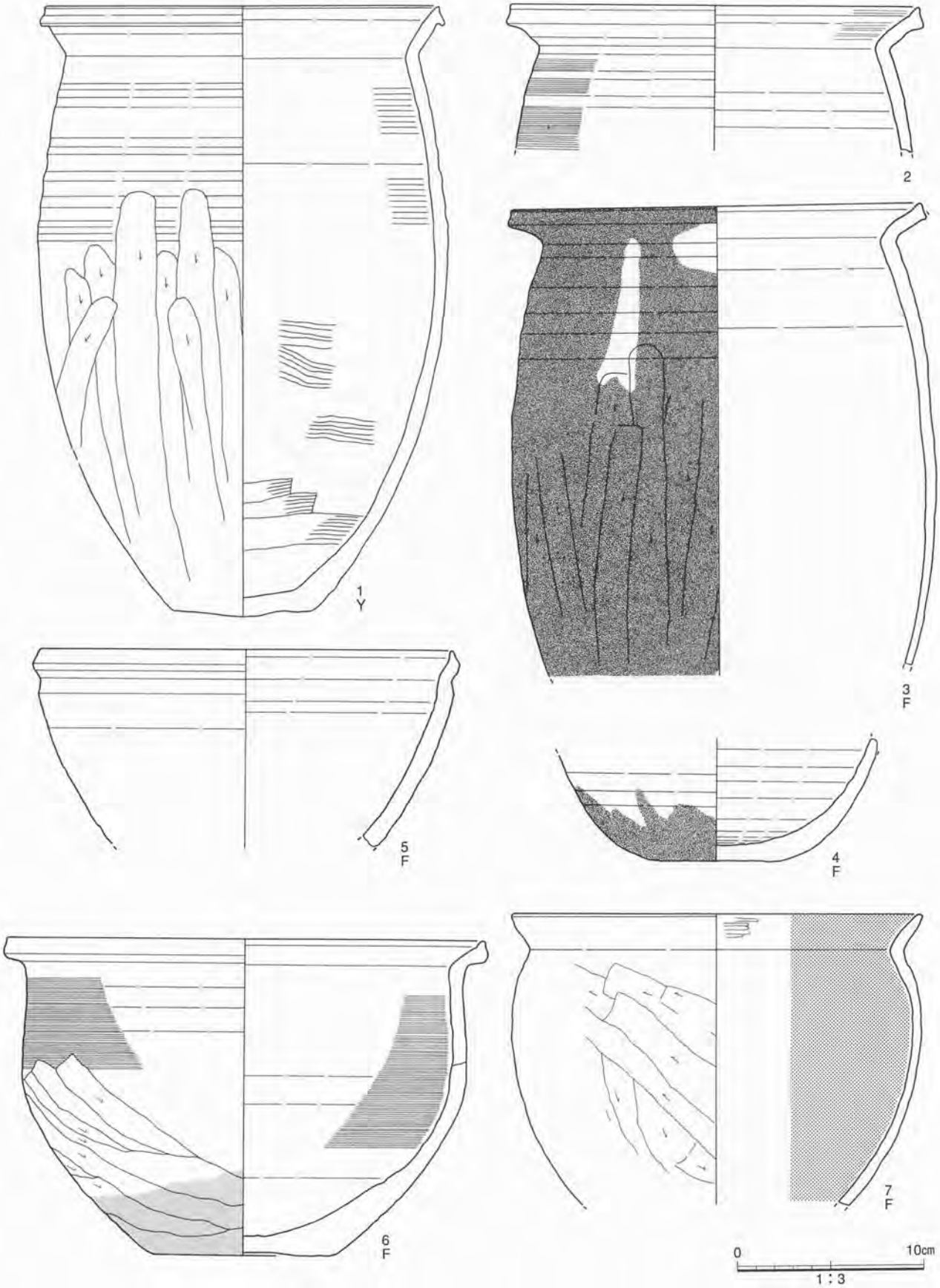
第245図　遺物実測図(95)―SG134―



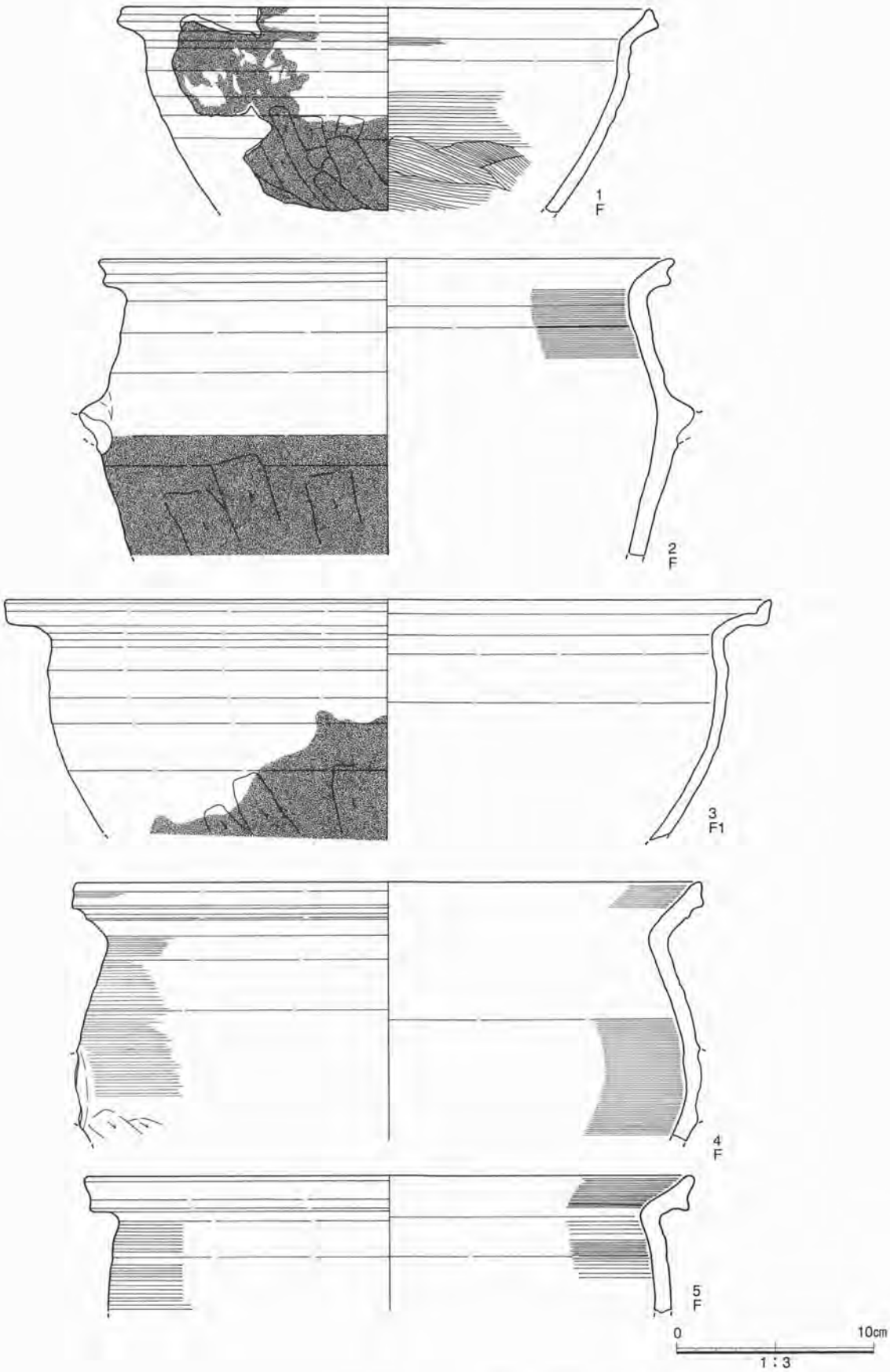
第246図　遺物実測図(96)―SG134―



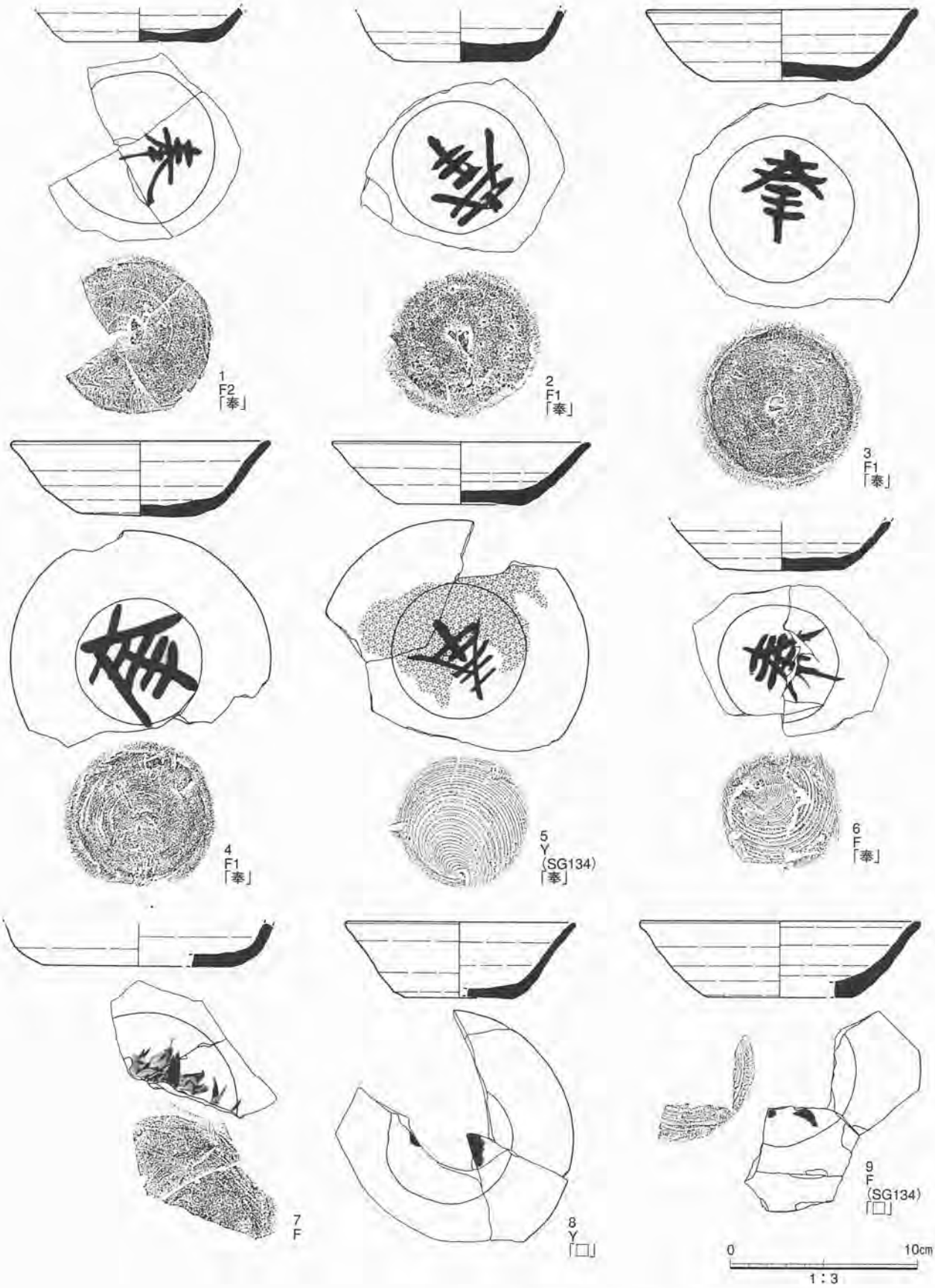
第247図　遺物実測図(97)—SG134—



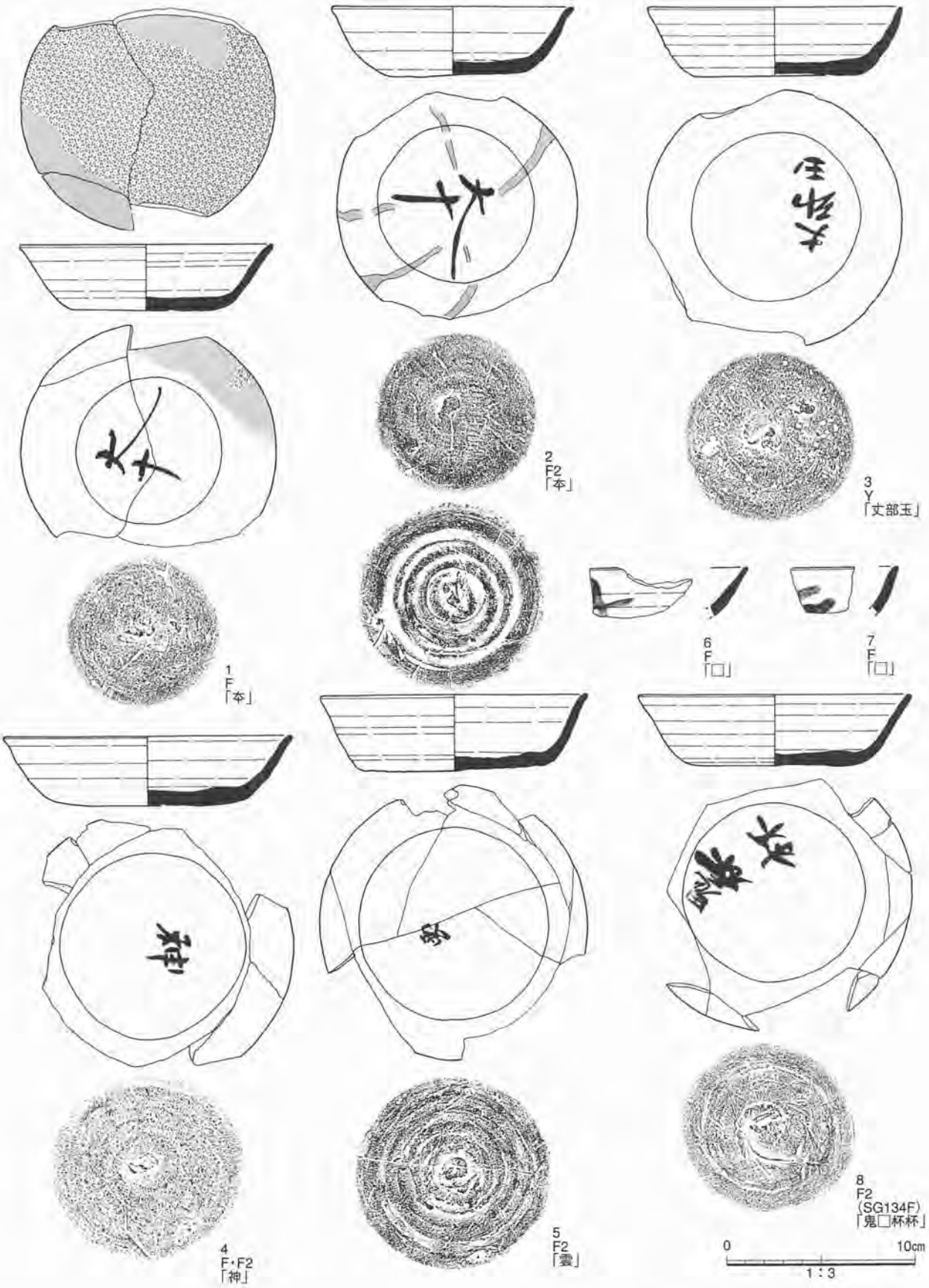
第248図　遺物実測図(98)―SG134―



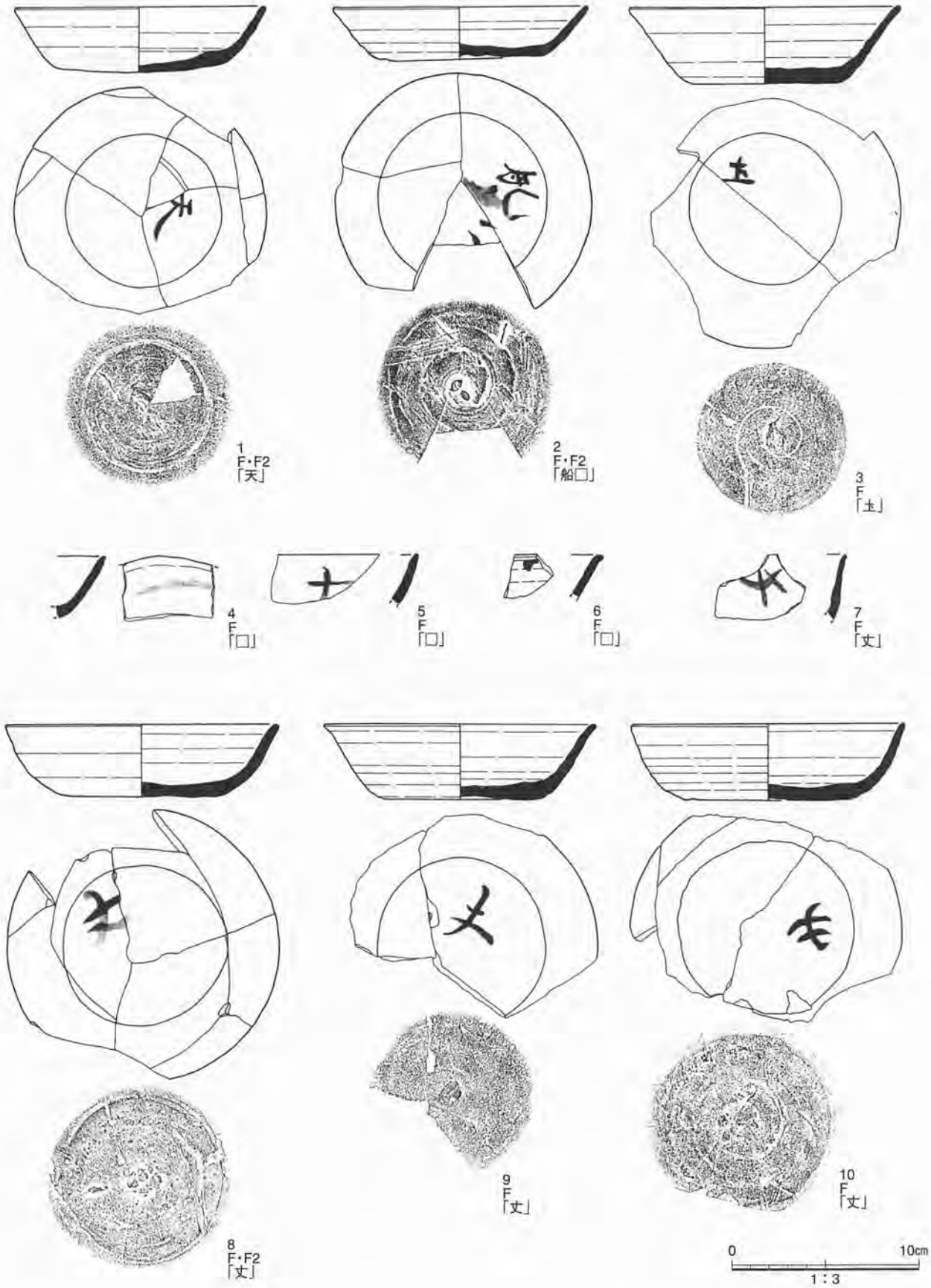
第249図　遺物実測図(99)—SG134—



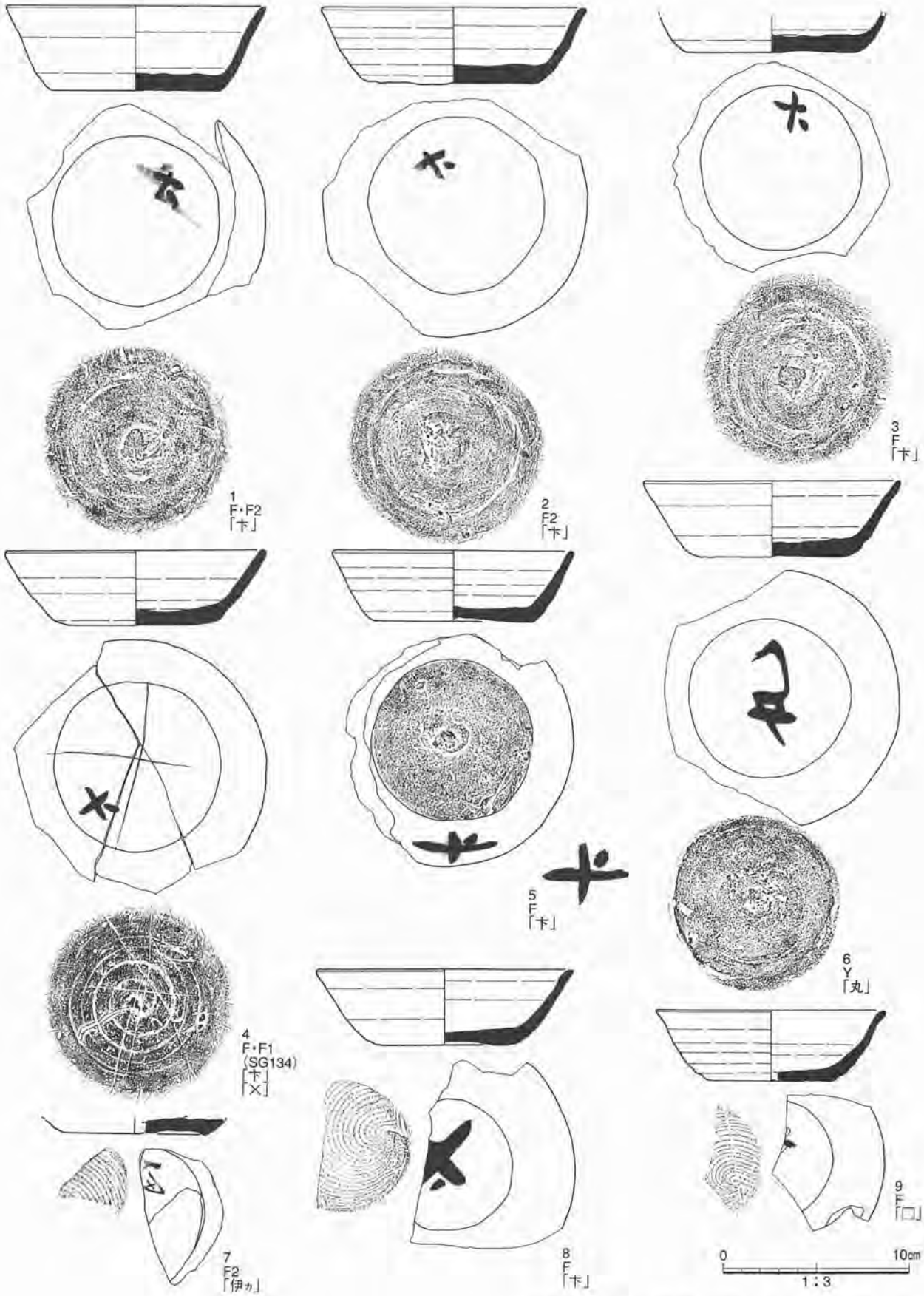
第250図　遺物実測図(100)—SG323—



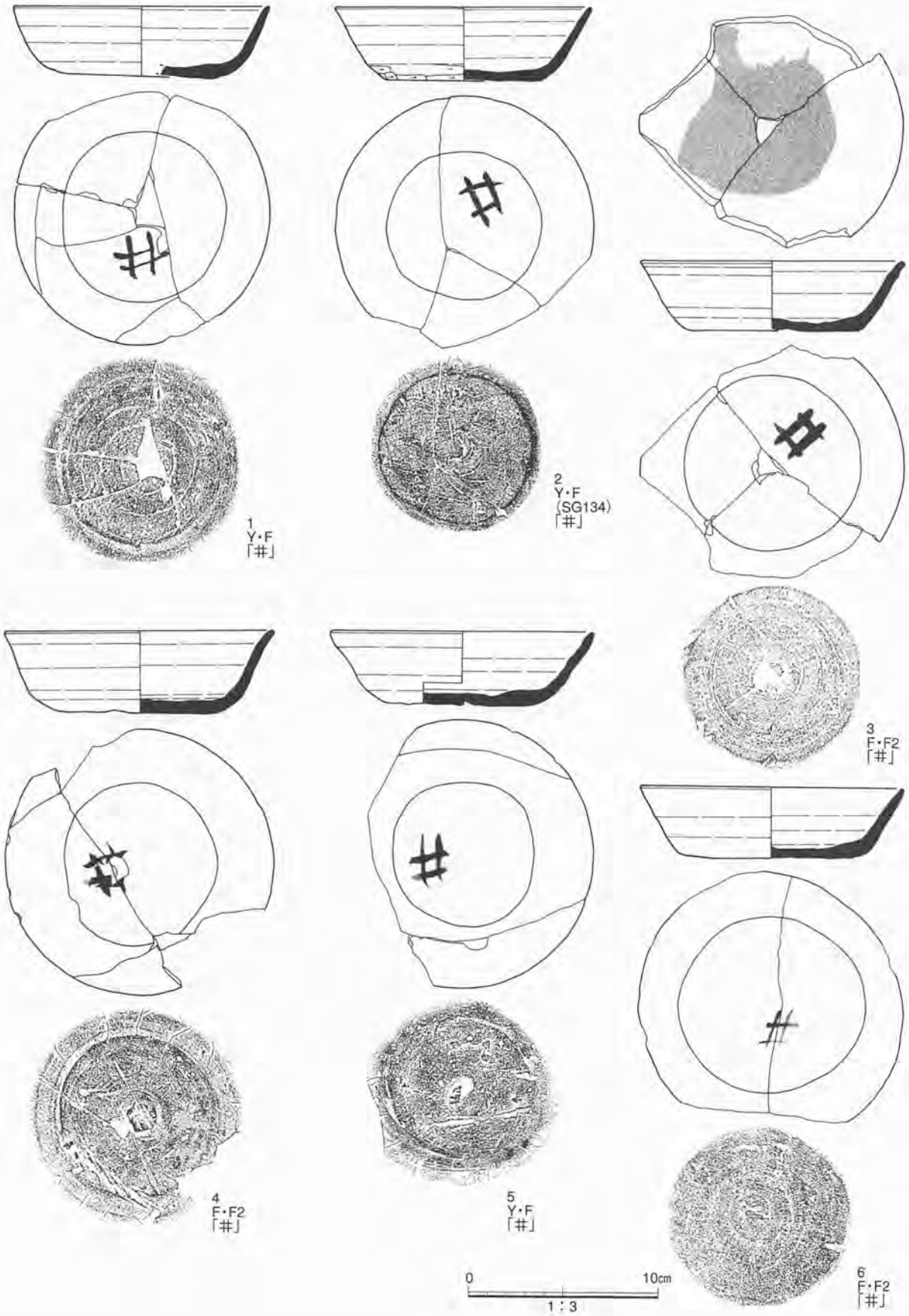
第251図　遺物実測図(101)—SG323—



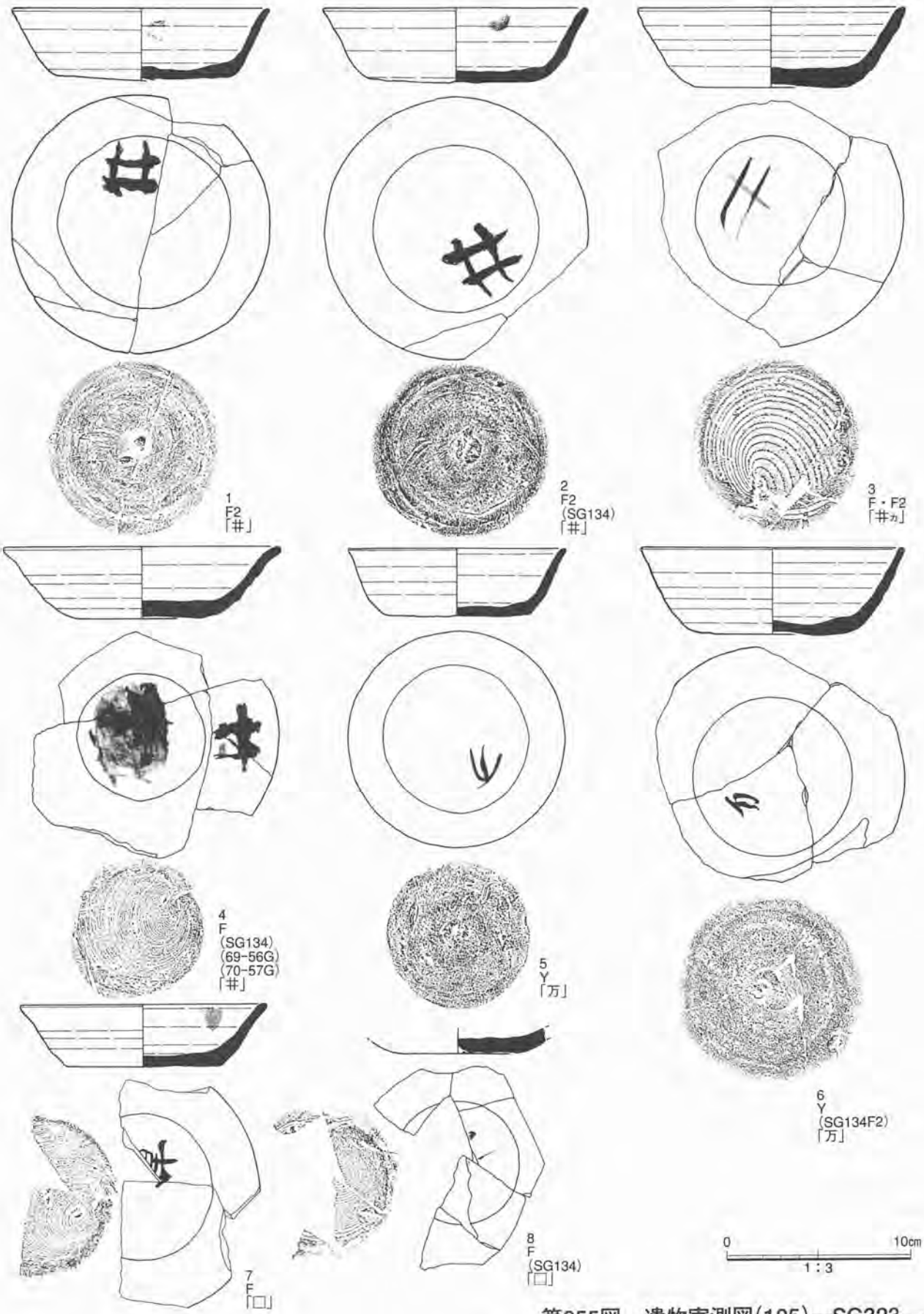
第252図　遺物実測図(102)―SG323―



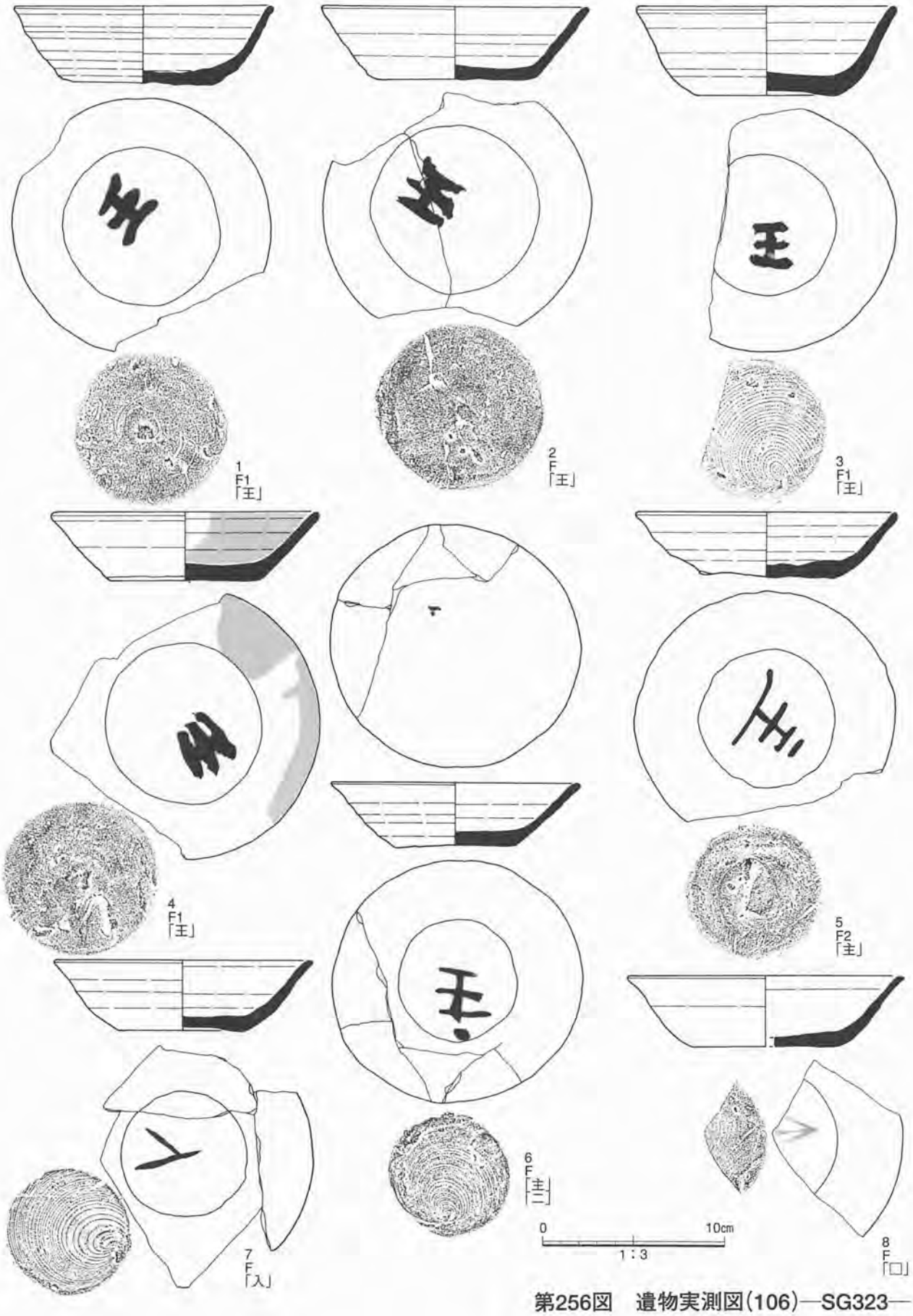
第253図　遺物実測図(103)―SG323―



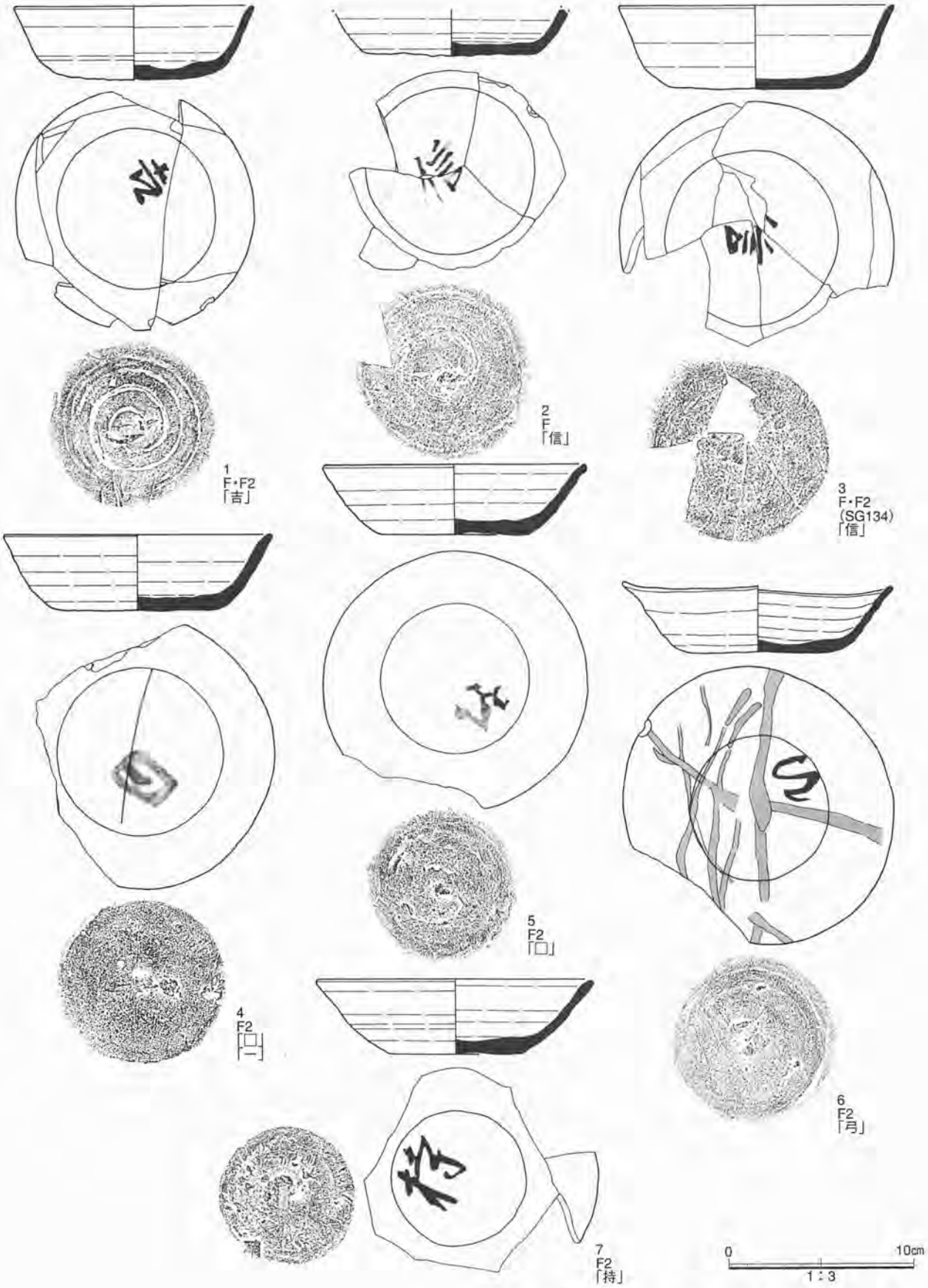
第254図　遺物実測図(104)―SG323―



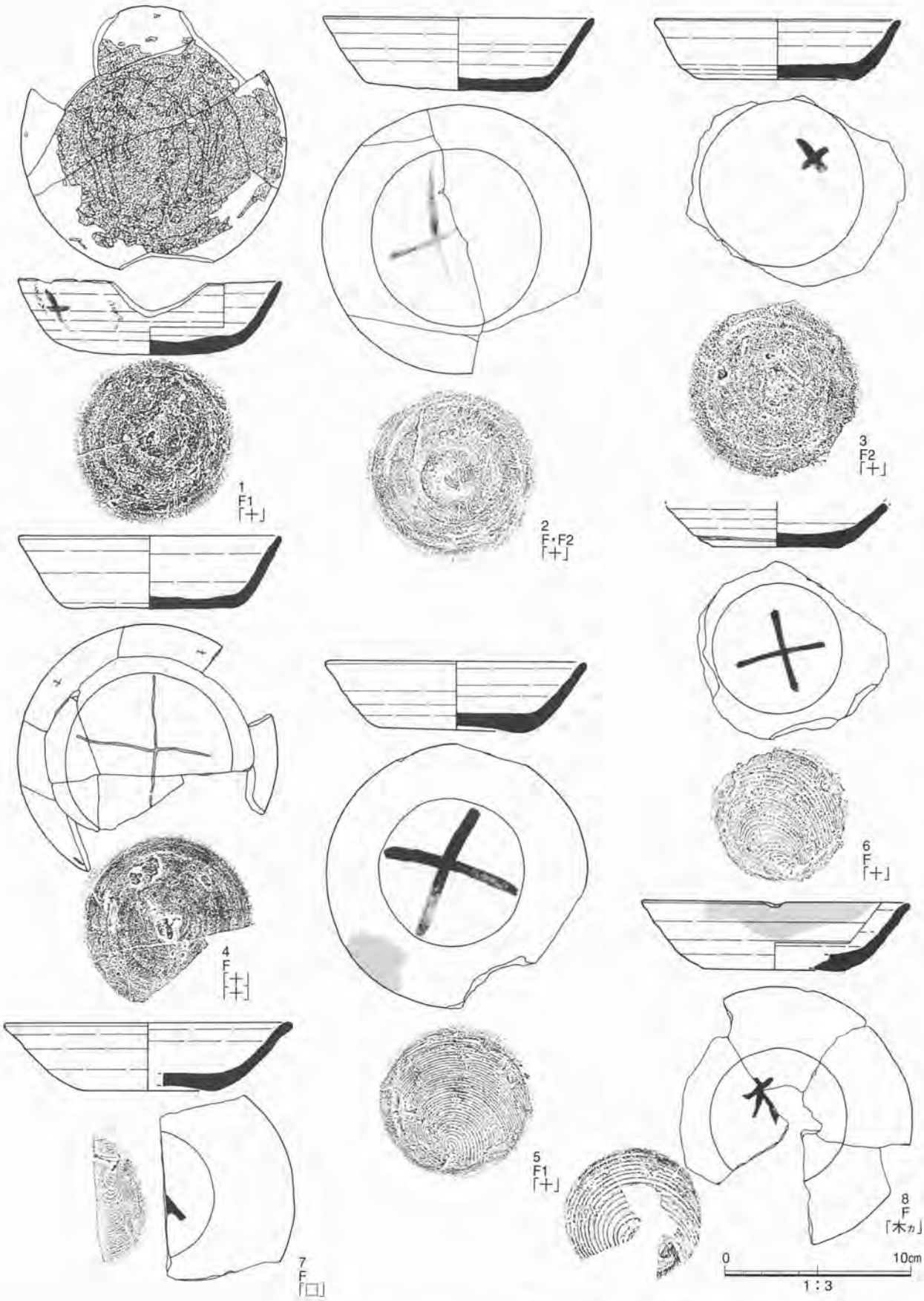
第255図　遺物実測図(105)—SG323—



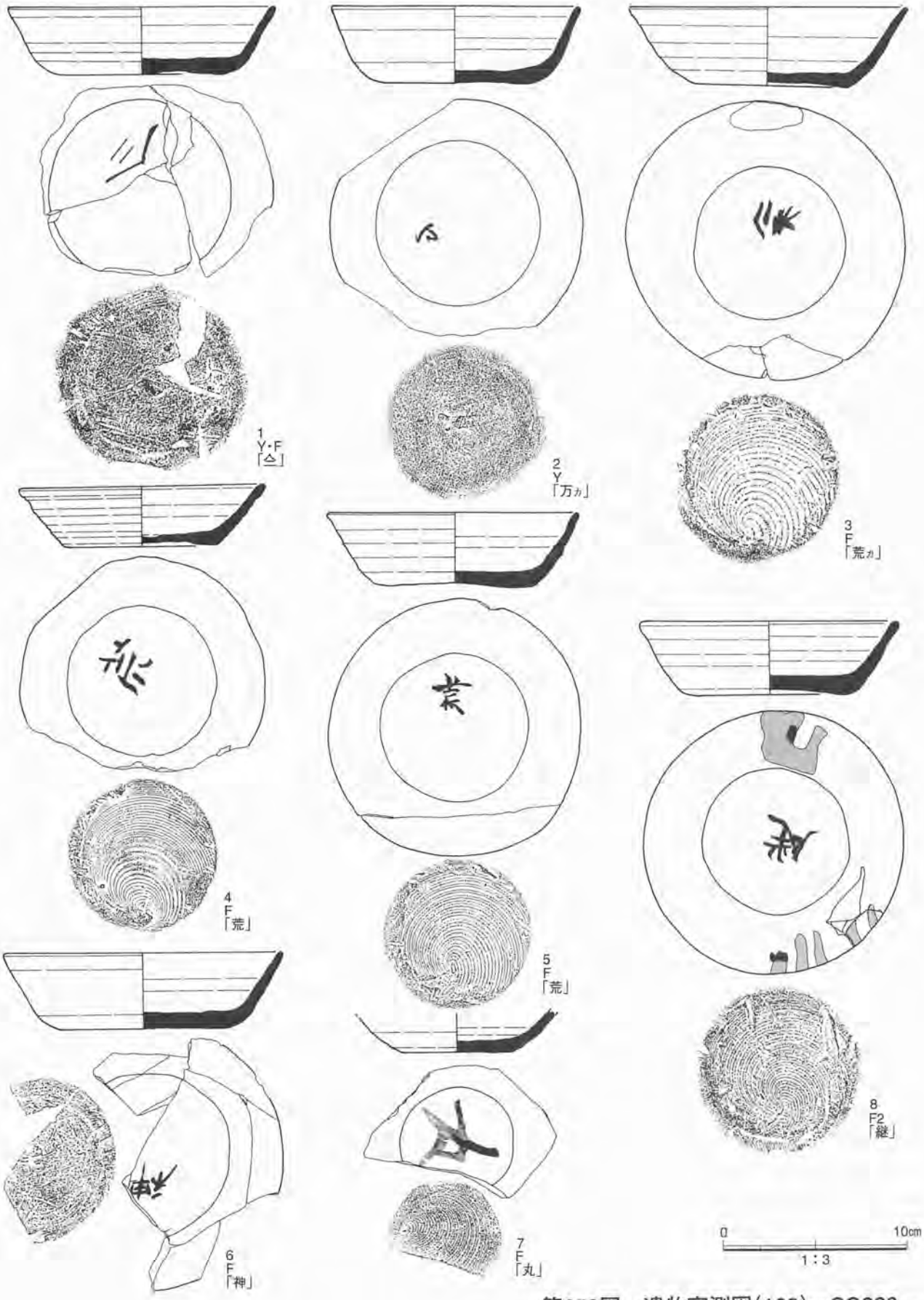
第256図　遺物実測図(106)―SG323―



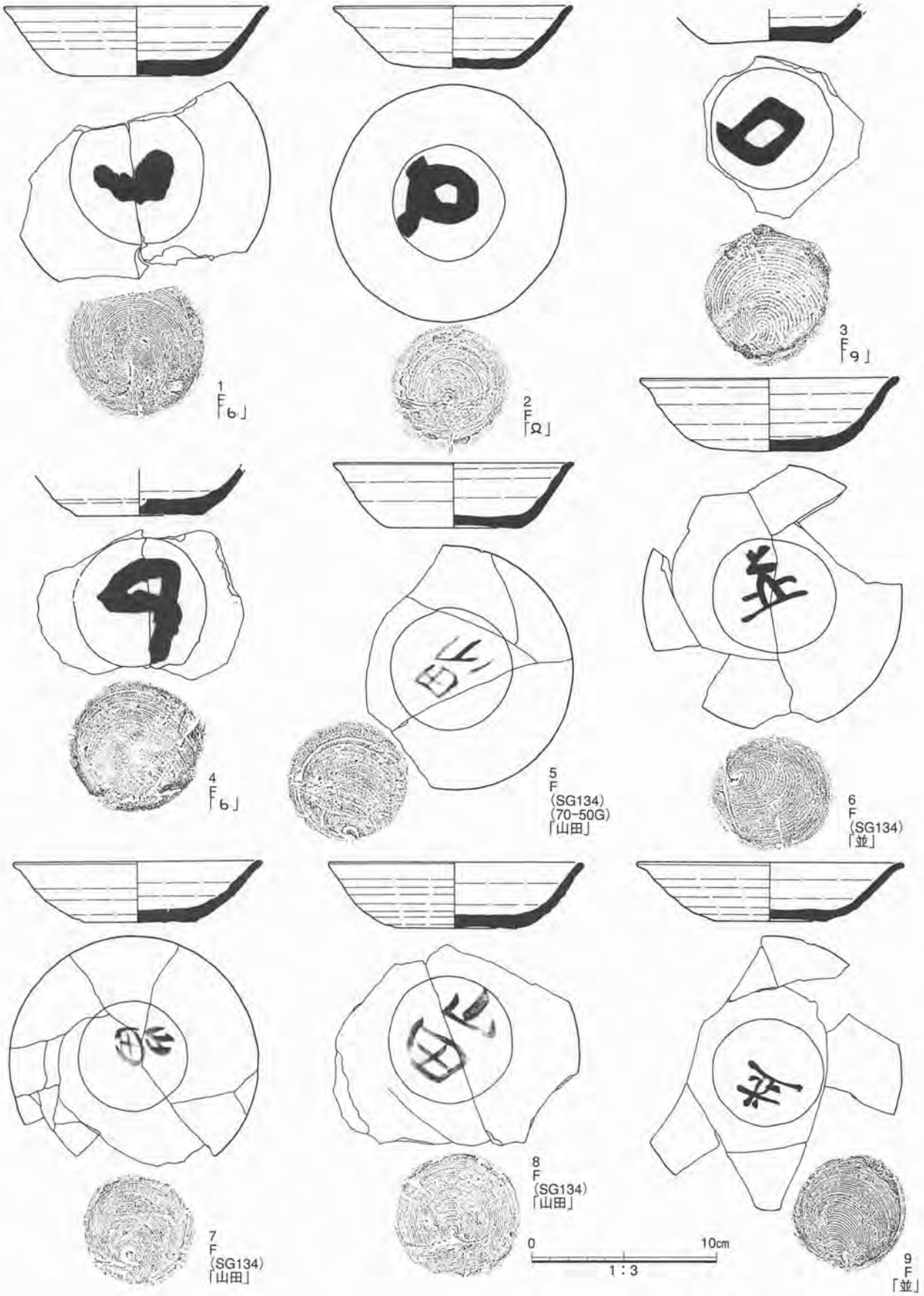
第257図　遺物実測図(107)―SG323―



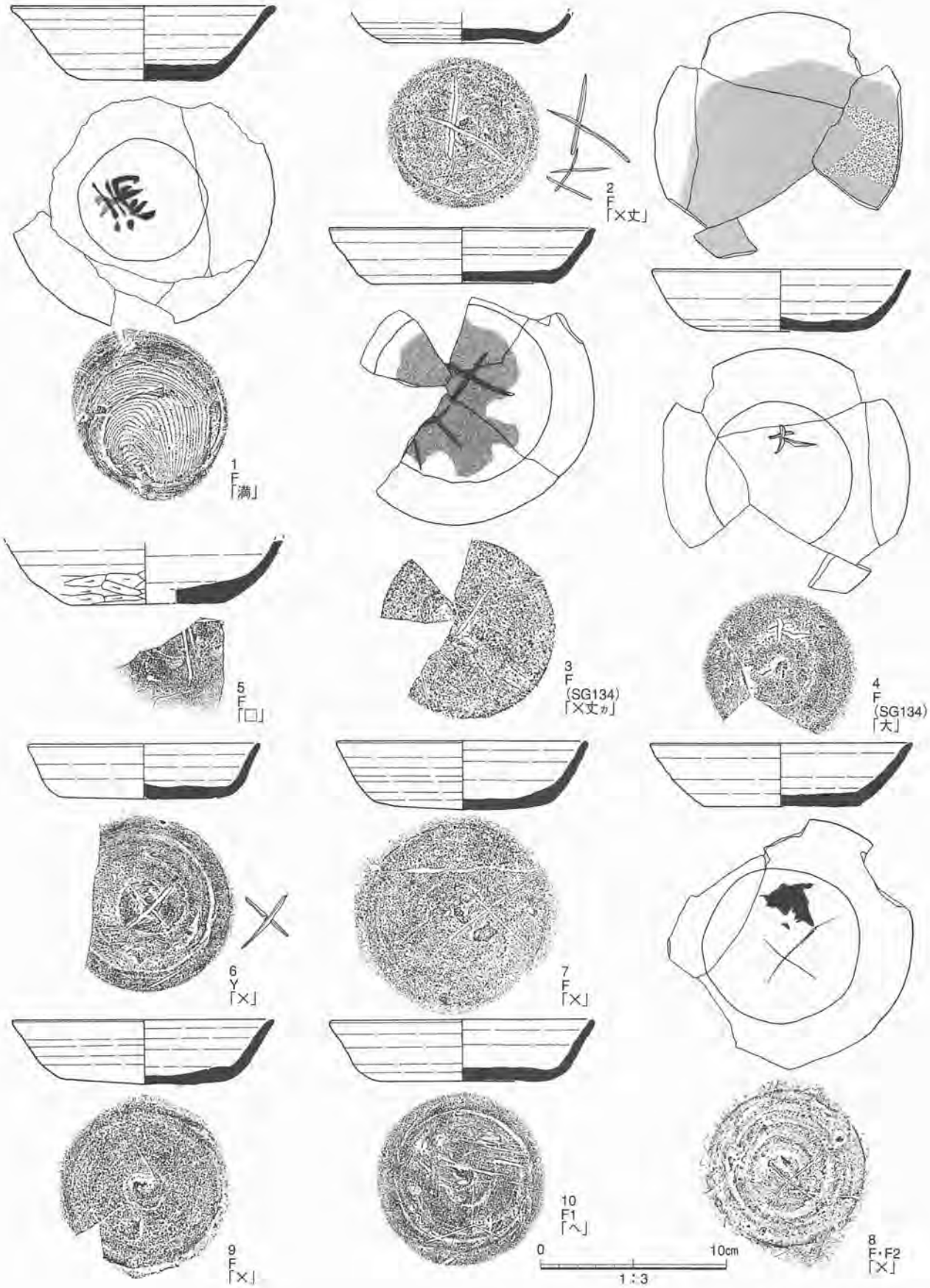
第258図　遺物実測図(108)―SG323―



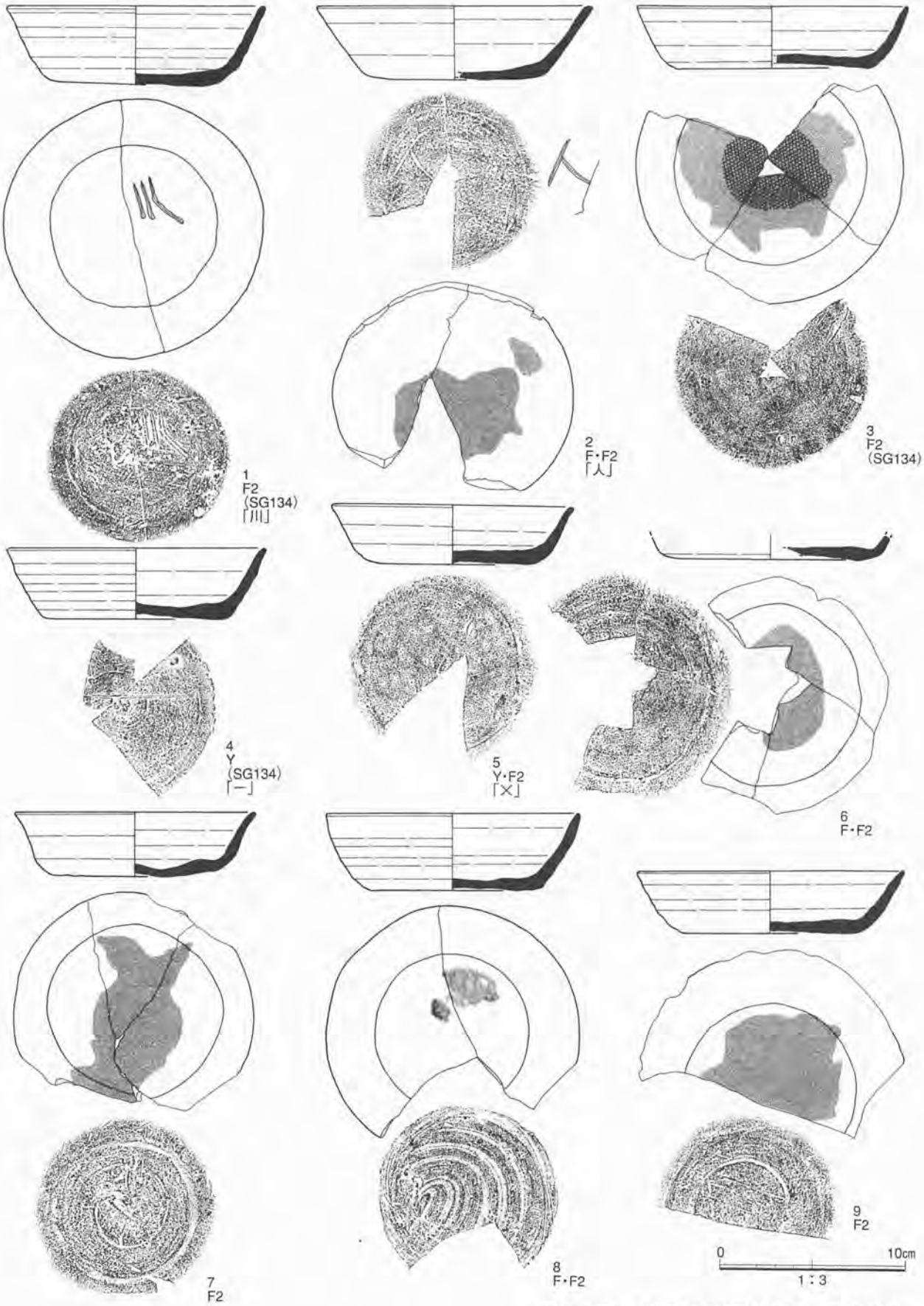
第259図　遺物実測図(109)―SG323―



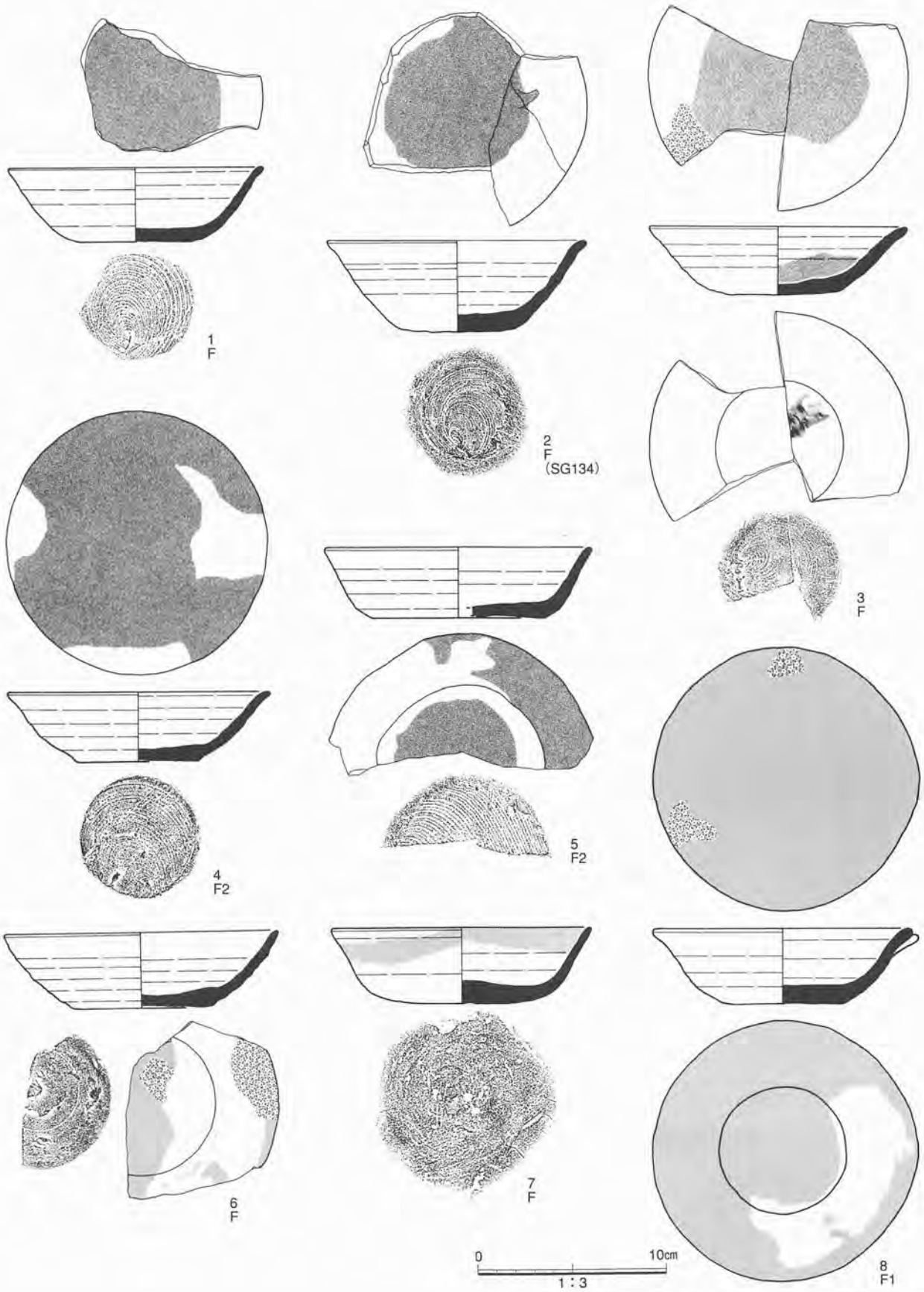
第260図　遺物実測図(110)―SG323―



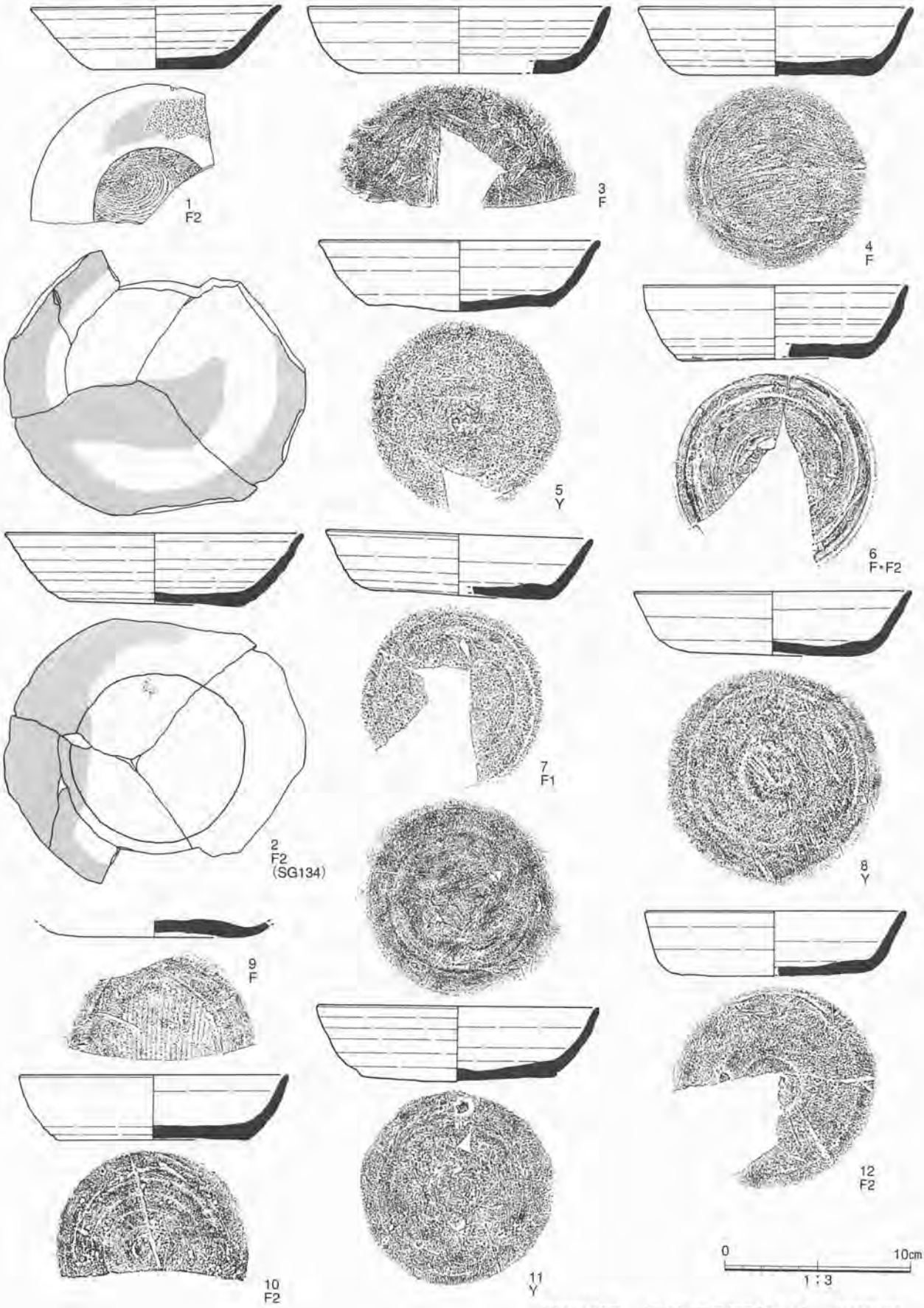
第261図　遺物実測図(111)―SG323―



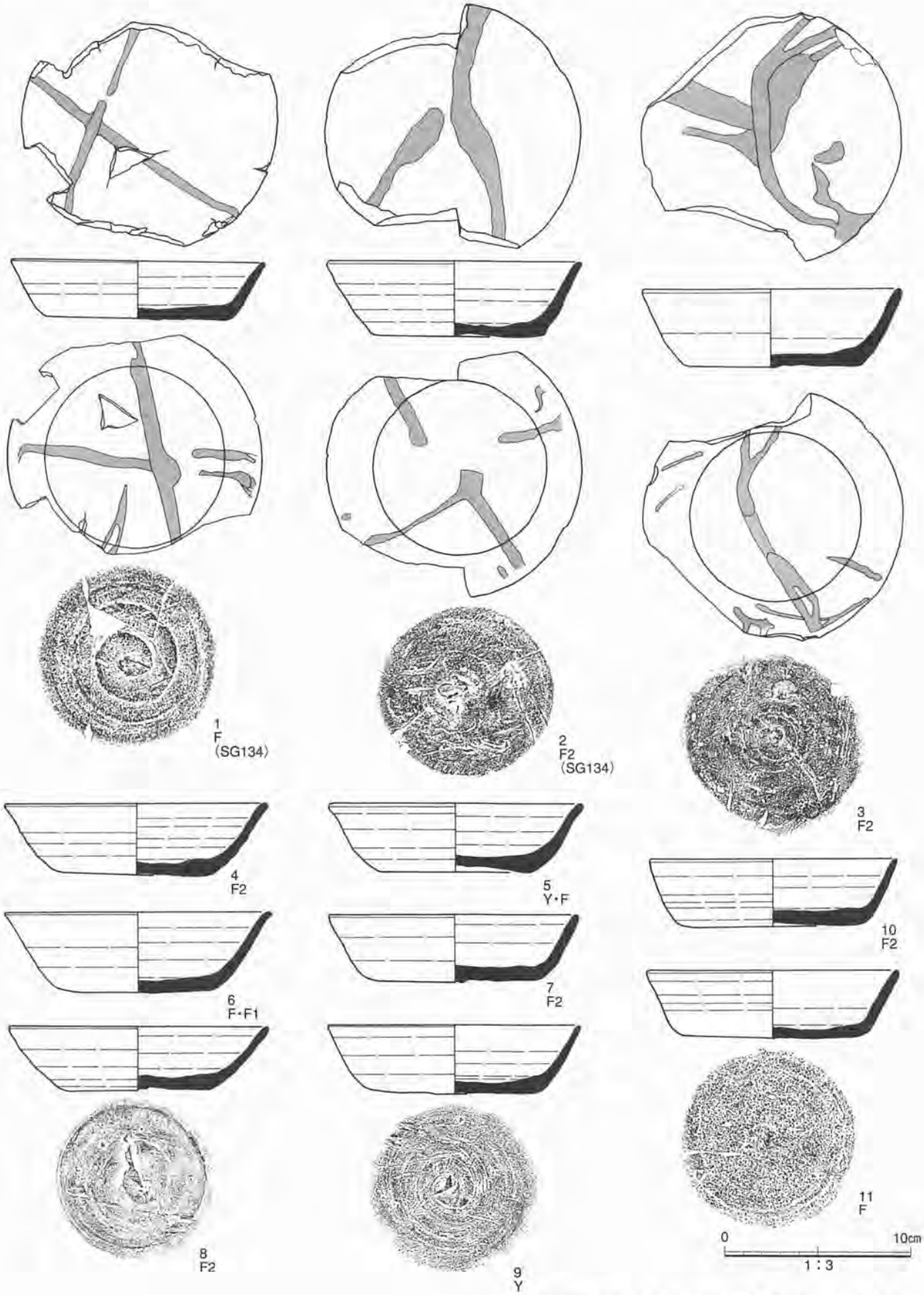
第262図　遺物実測図(112)―SG323―



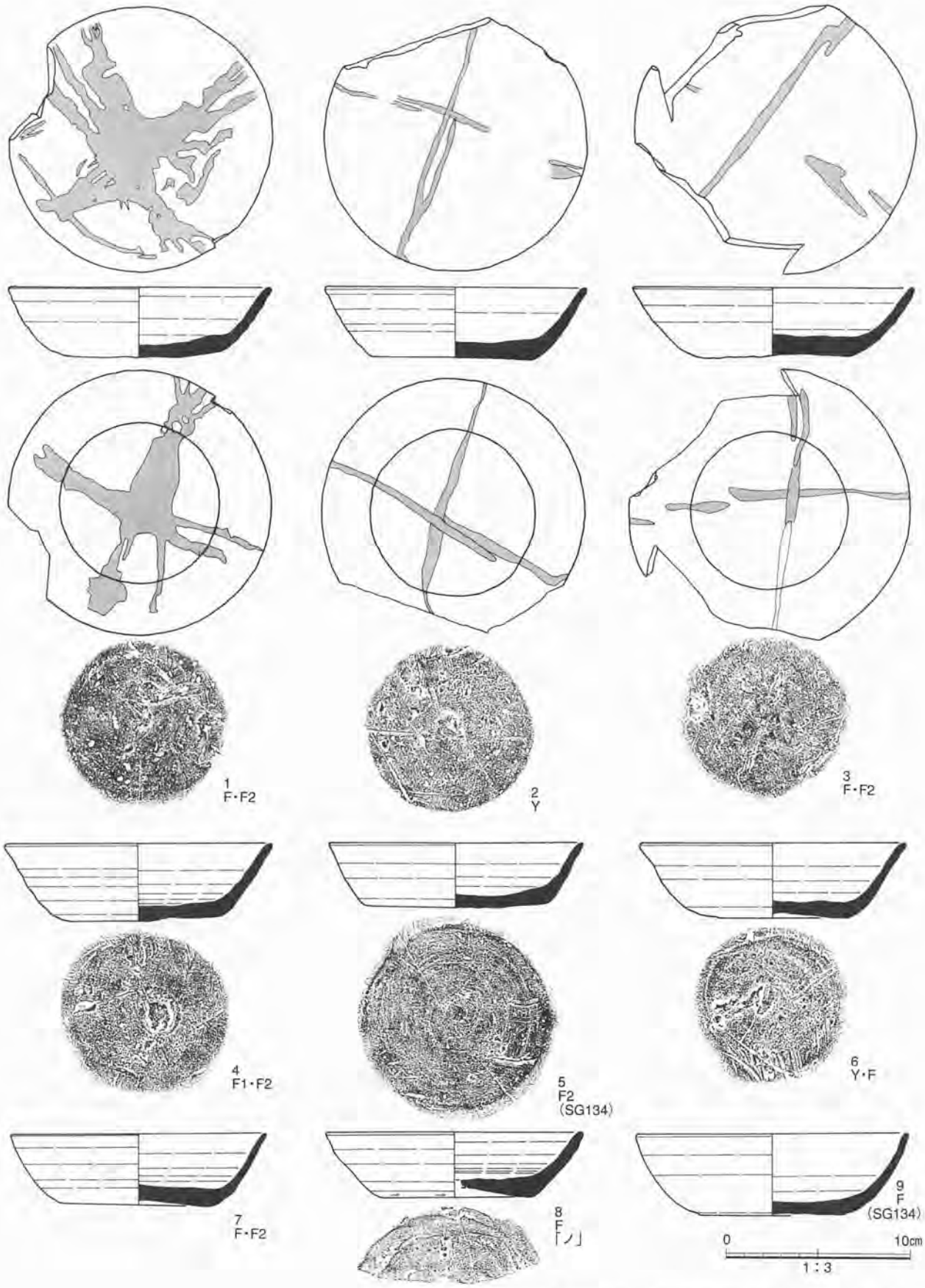
第263図　遺物実測図(113)―SG323―



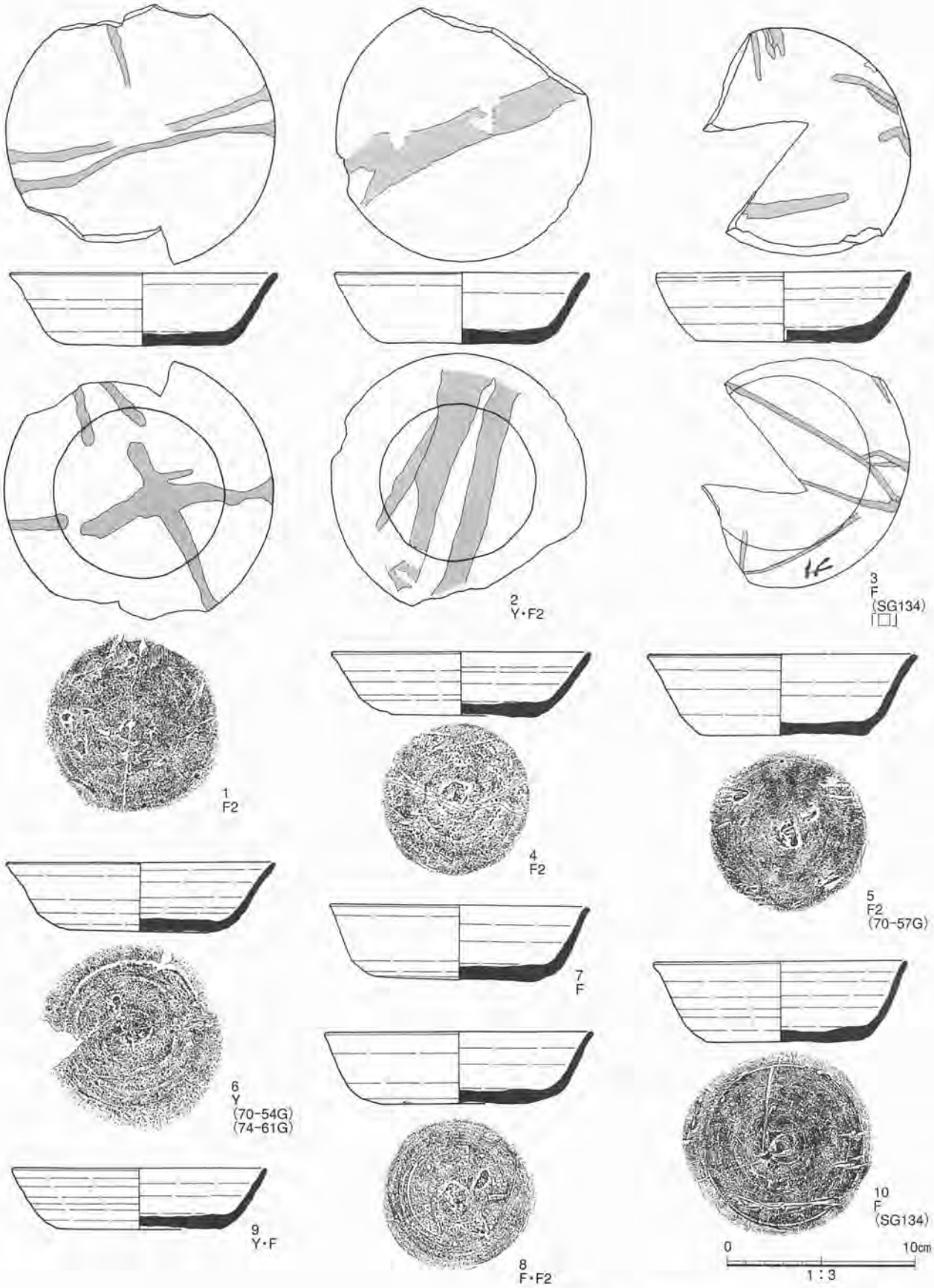
第264図　遺物実測図(114)―SG323―



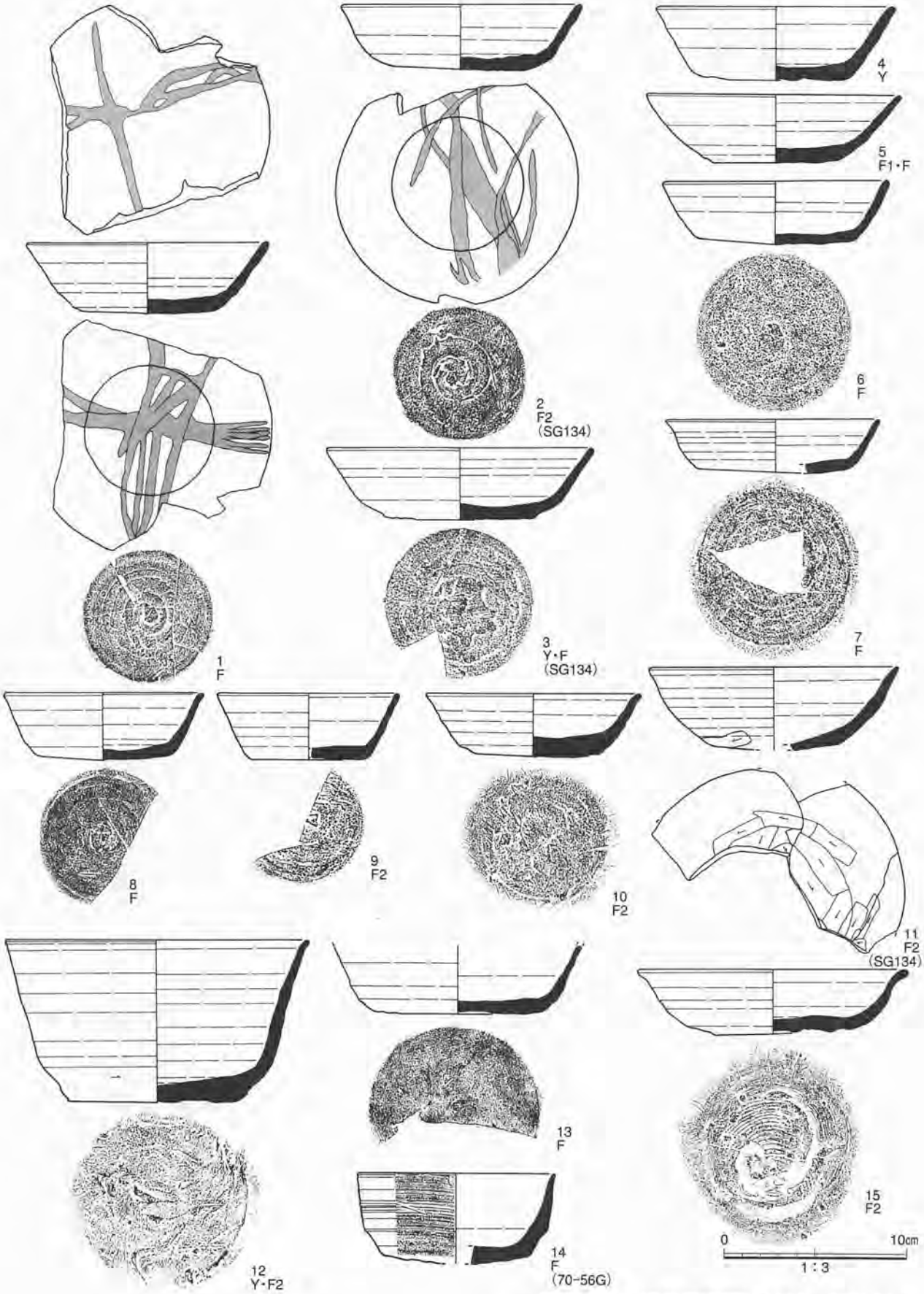
第265図　遺物実測図(115)―SG323―



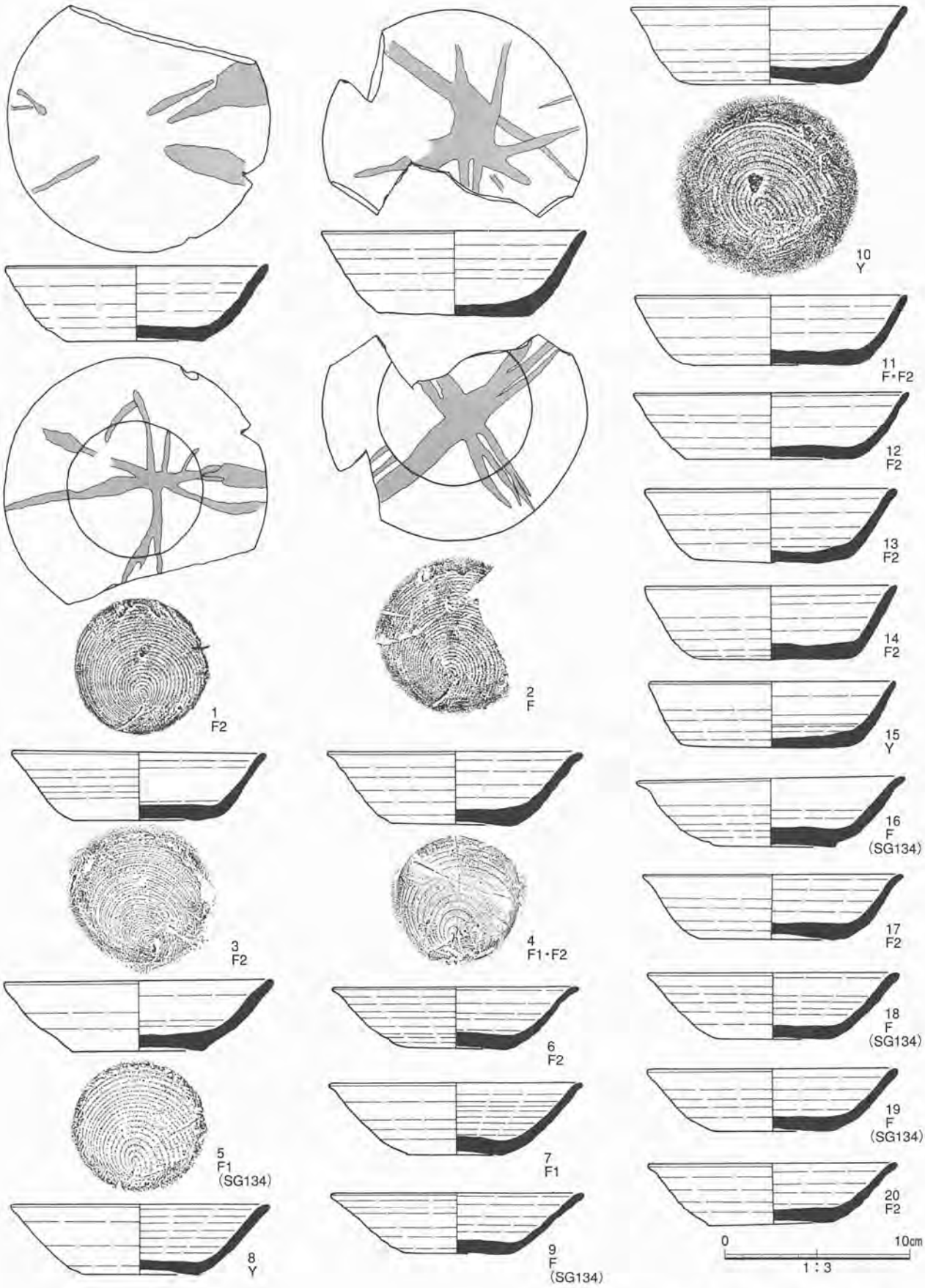
第266図　遺物実測図(116)―SG323―



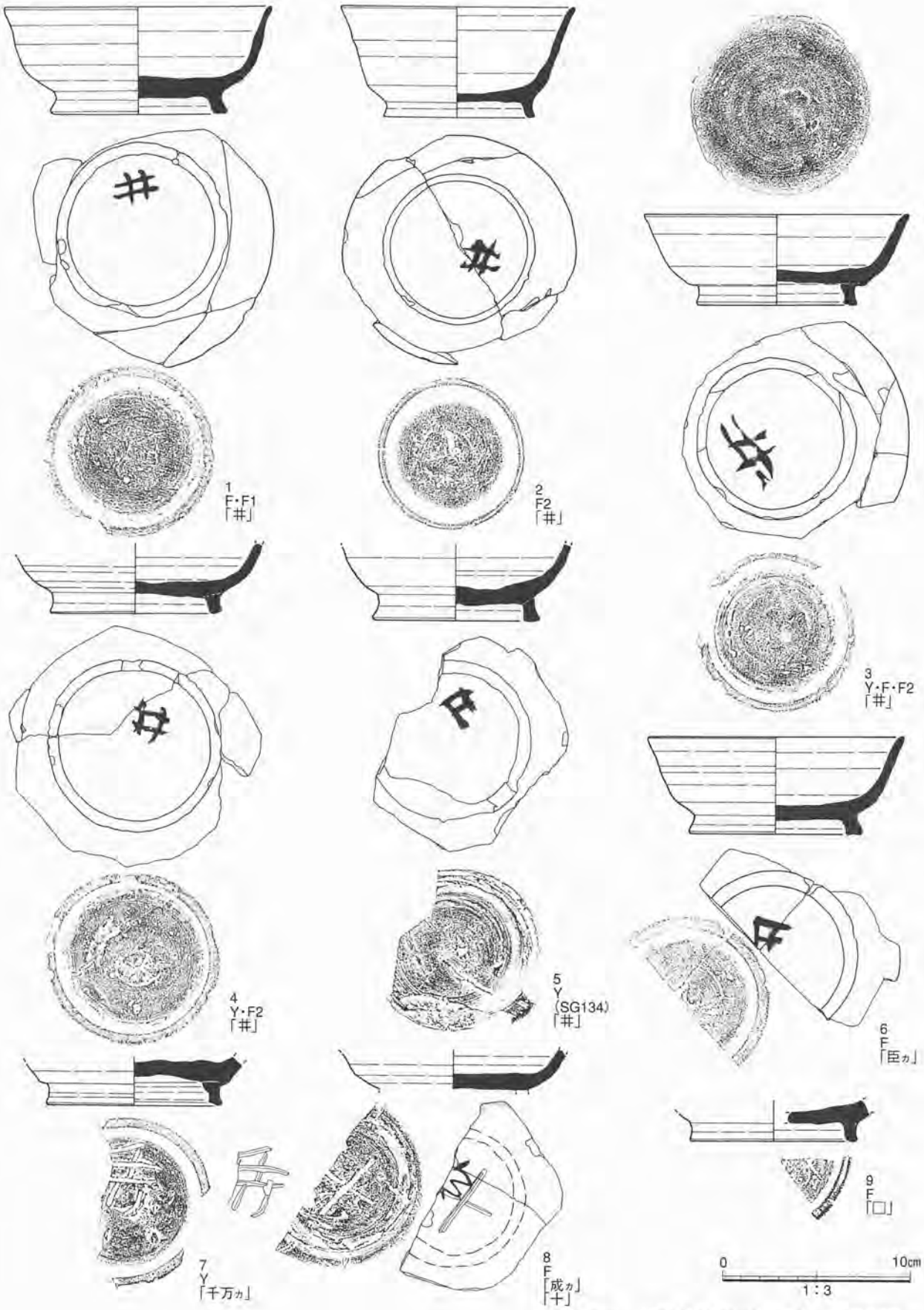
第267図　遺物実測図(117)―SG323―



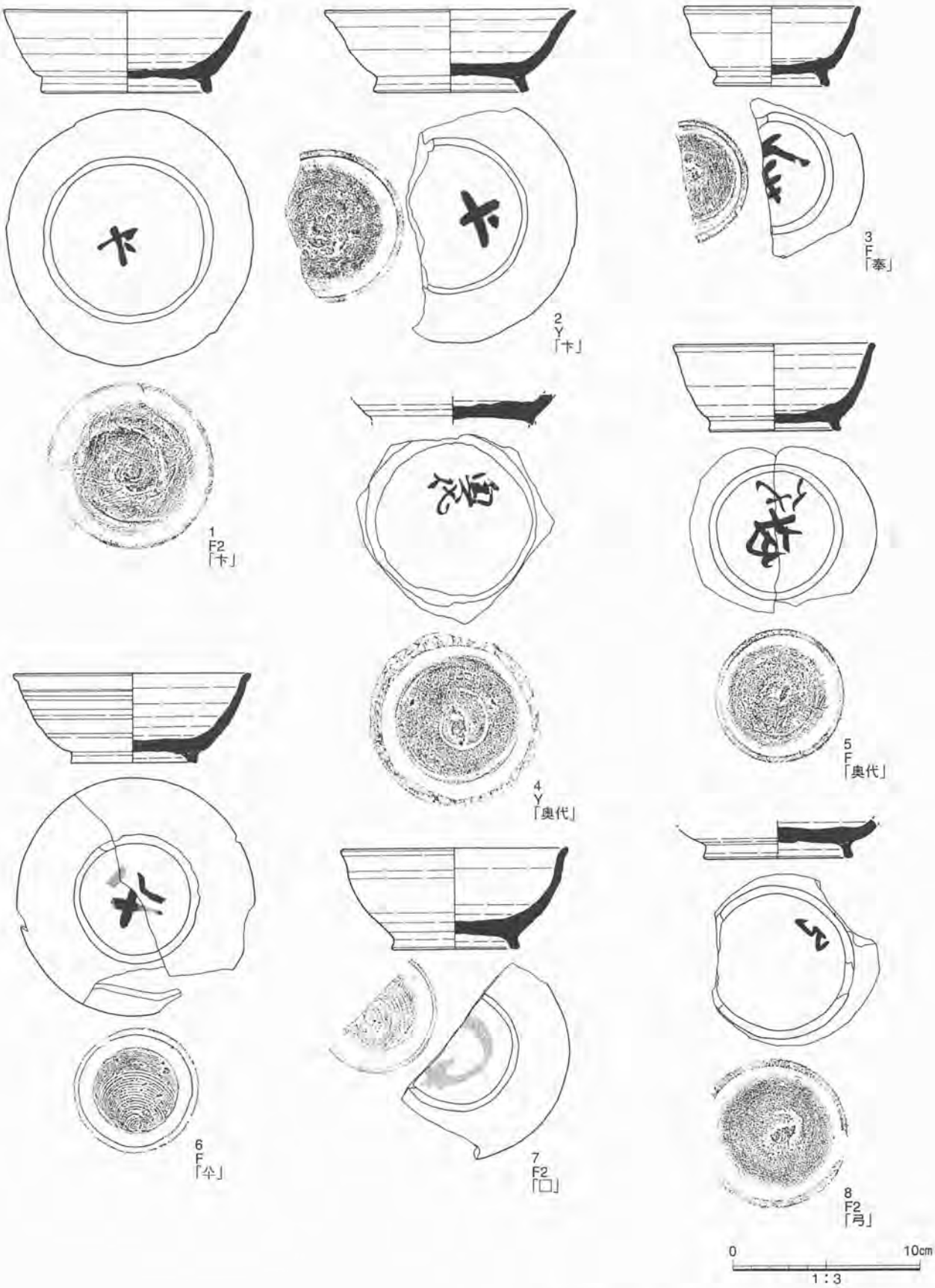
第268図　遺物実測図(118)—SG323—



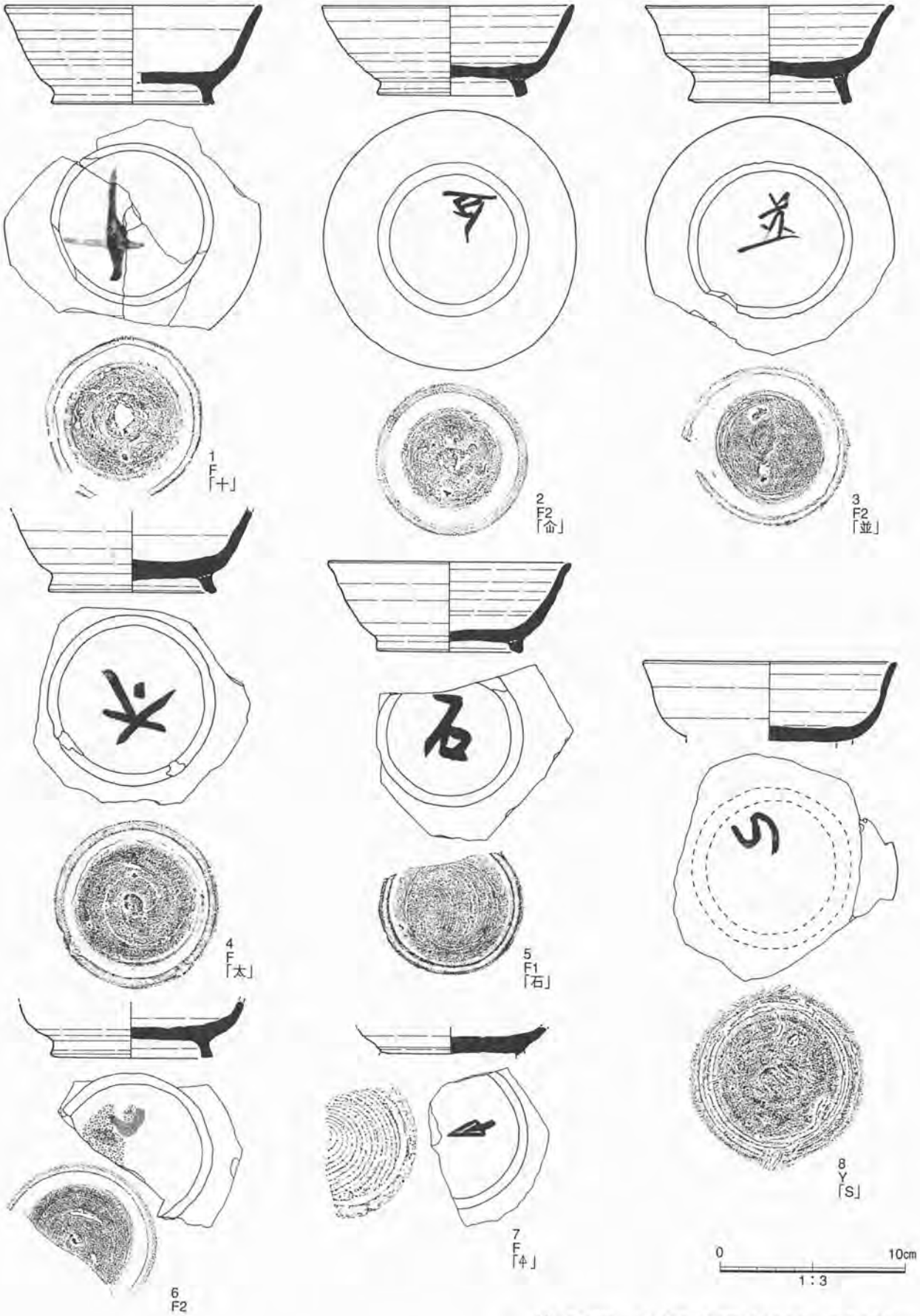
第269図　遺物実測図(119)—SG323—



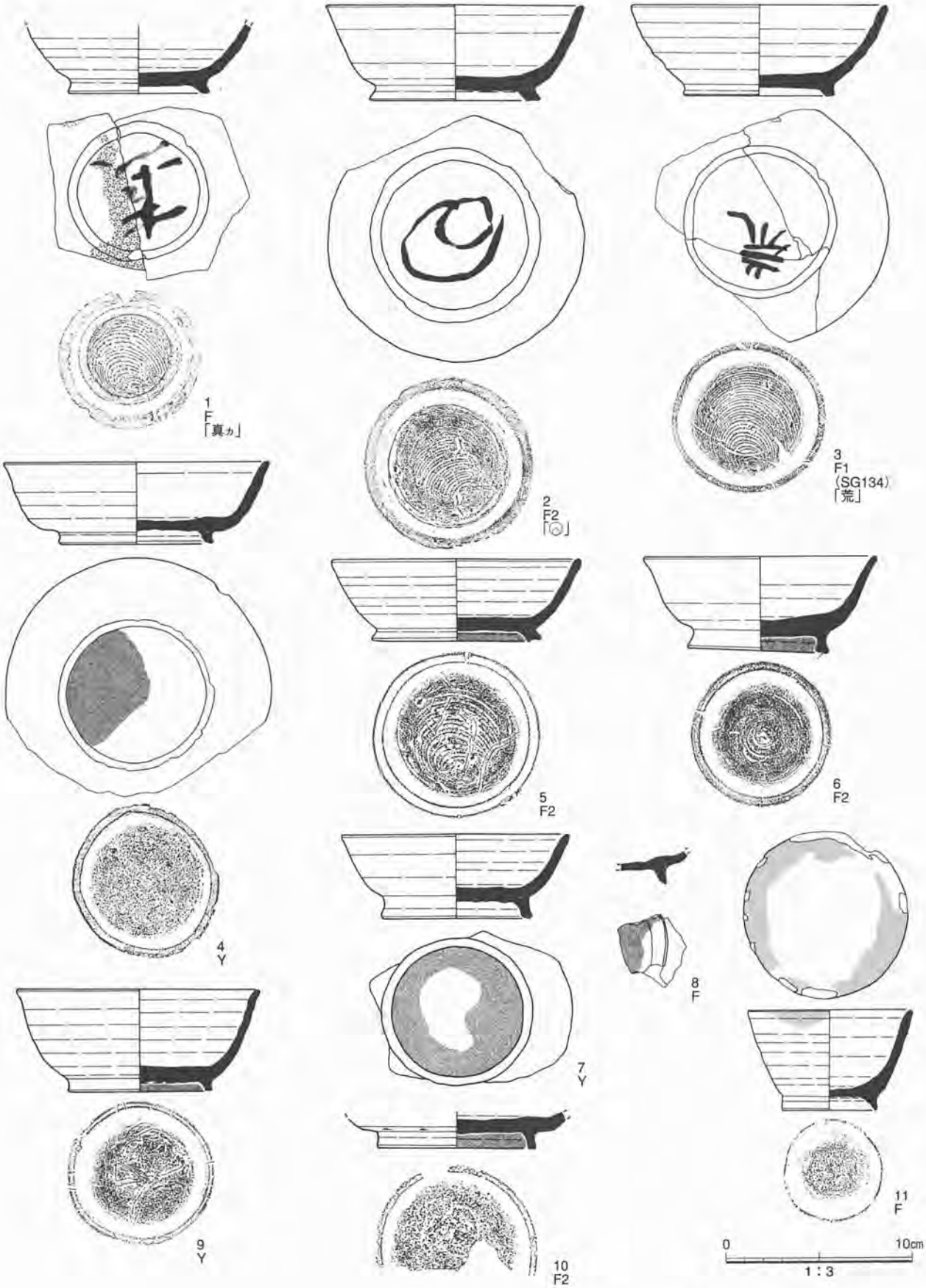
第270図　遺物実測図(120)—SG323—



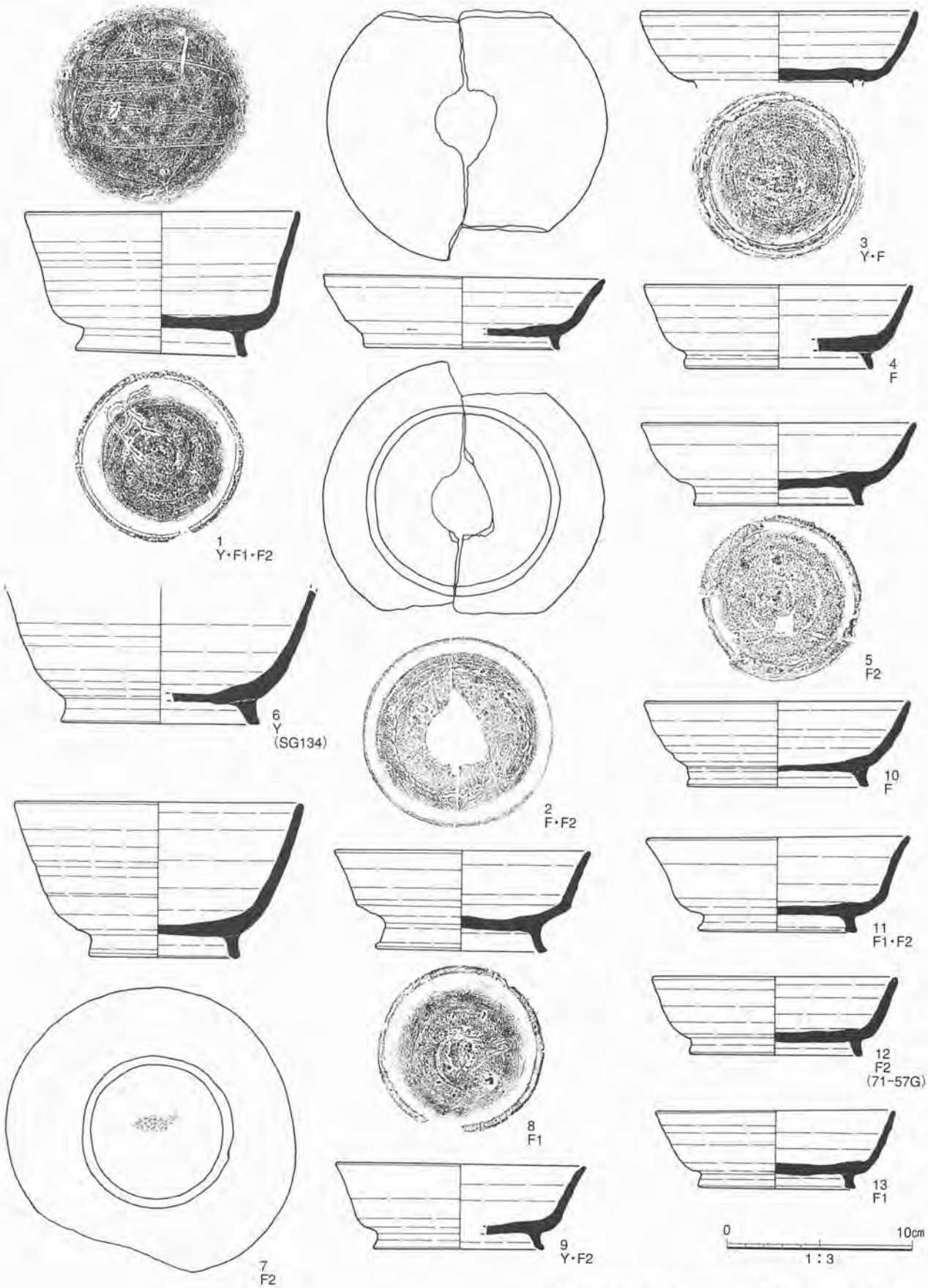
第271図　遺物実測図(121)—SG323—



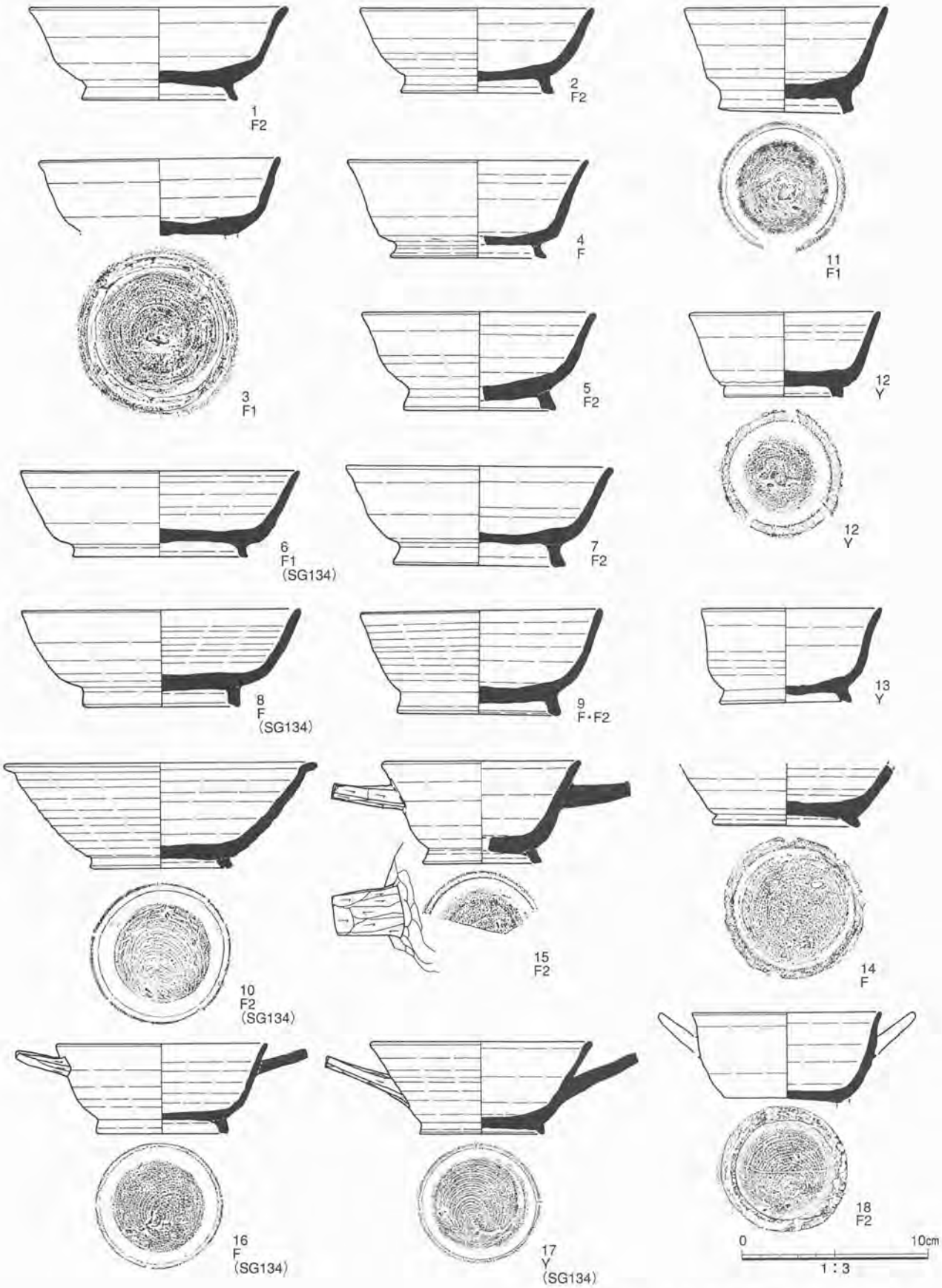
第272図　遺物実測図(122)―SG323―



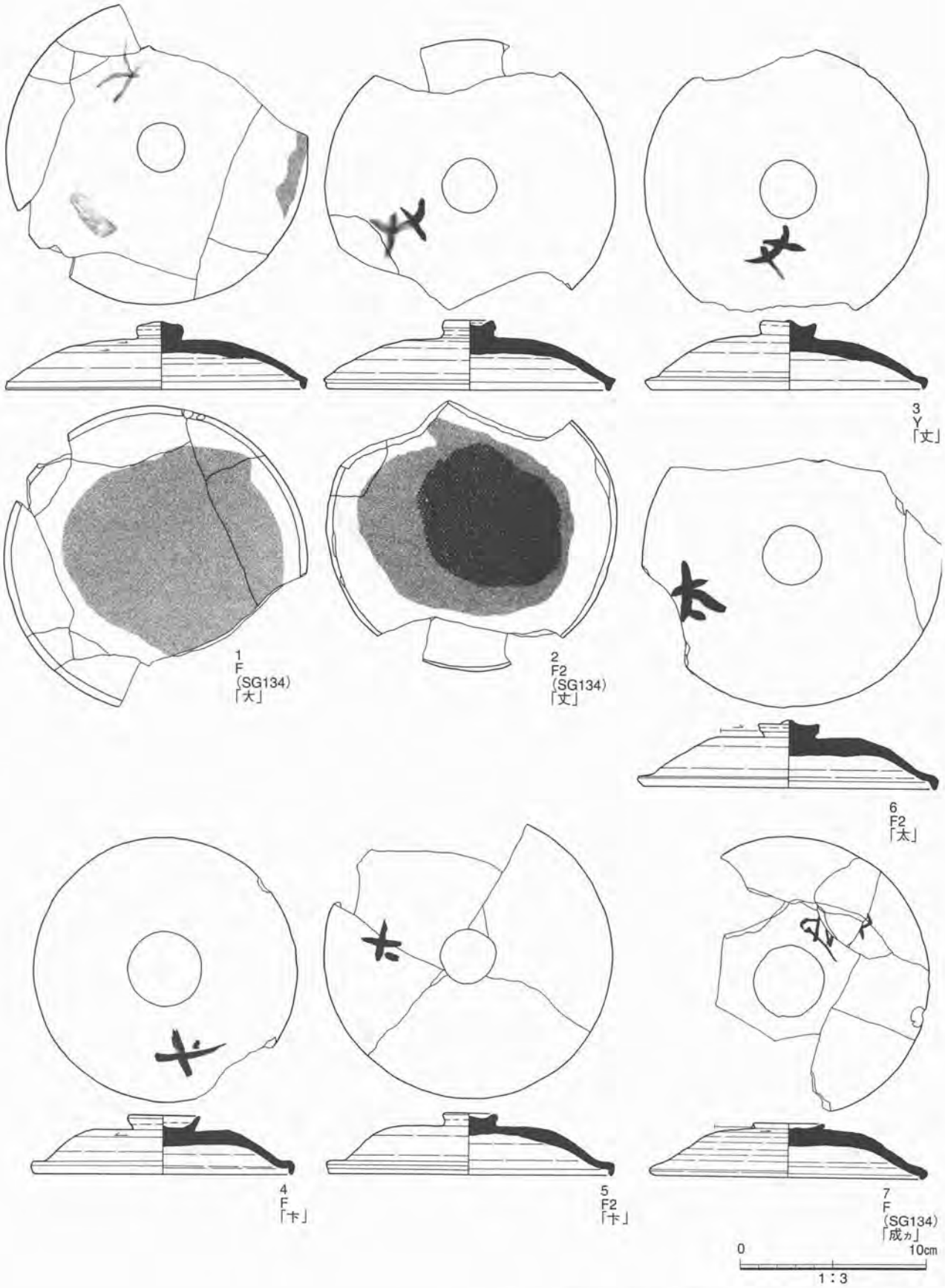
第273図　遺物実測図(123)—SG323—



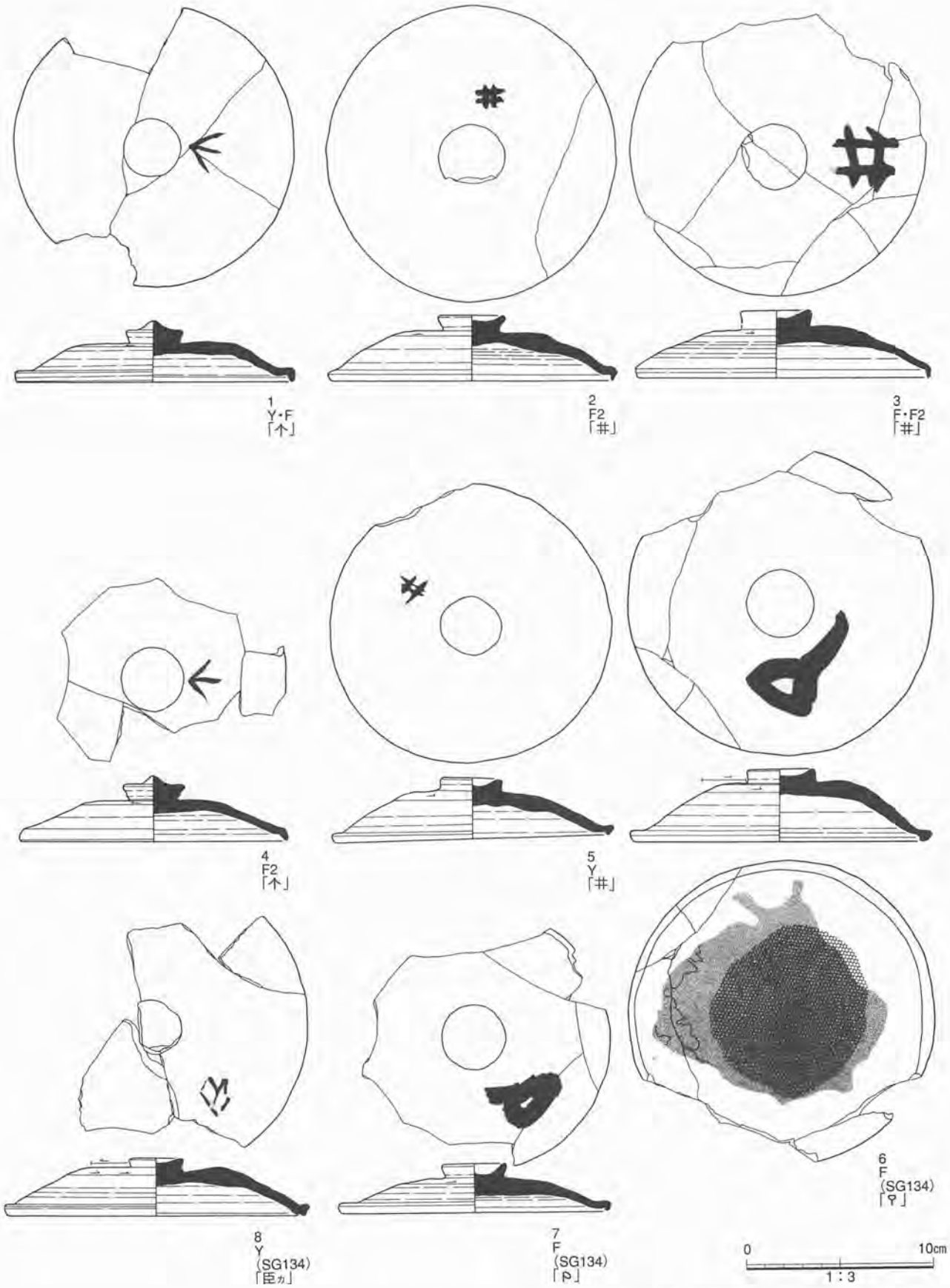
第274図　遺物実測図(124)―SG323―



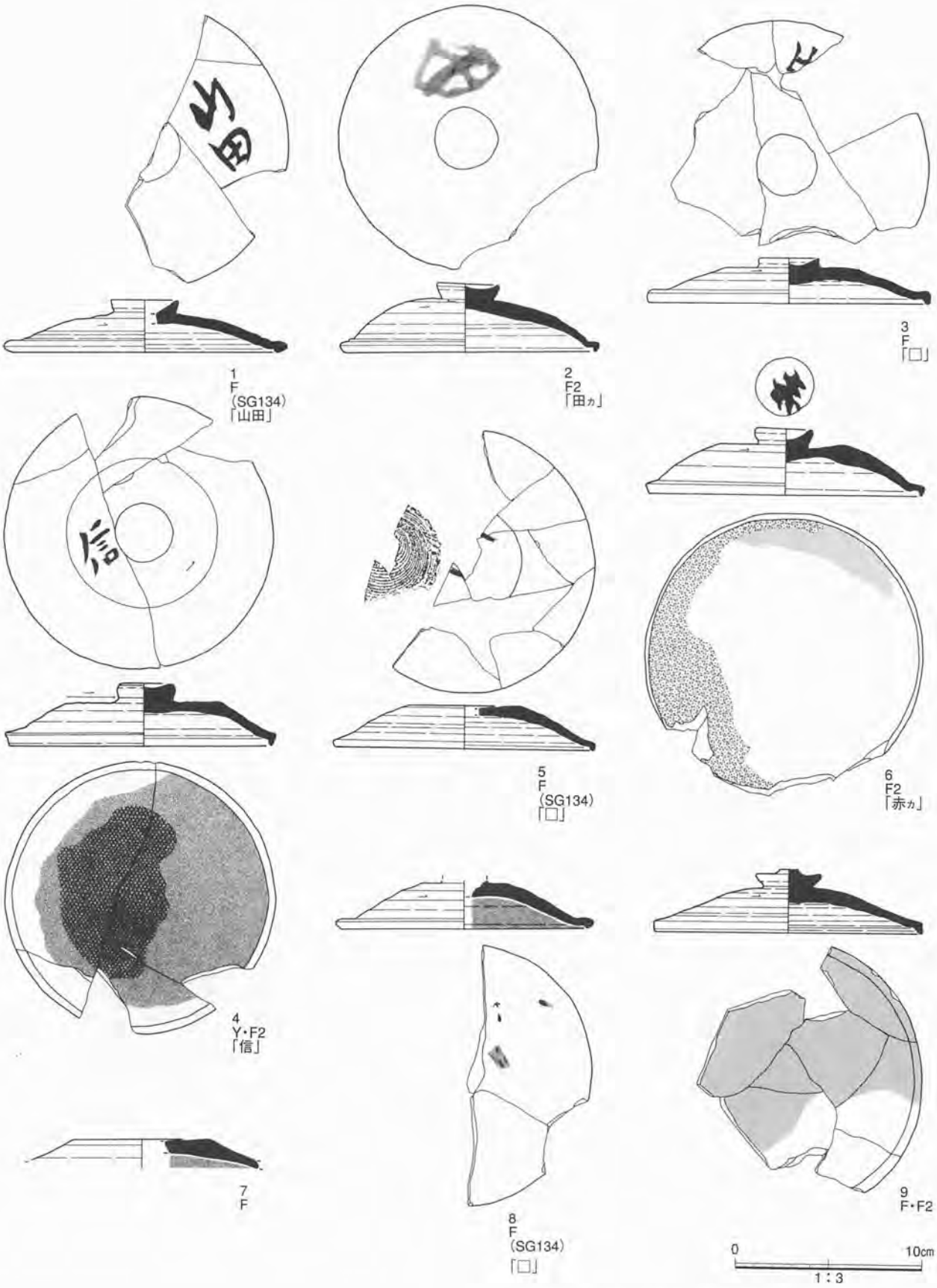
第275図　遺物実測図(125)—SG323—



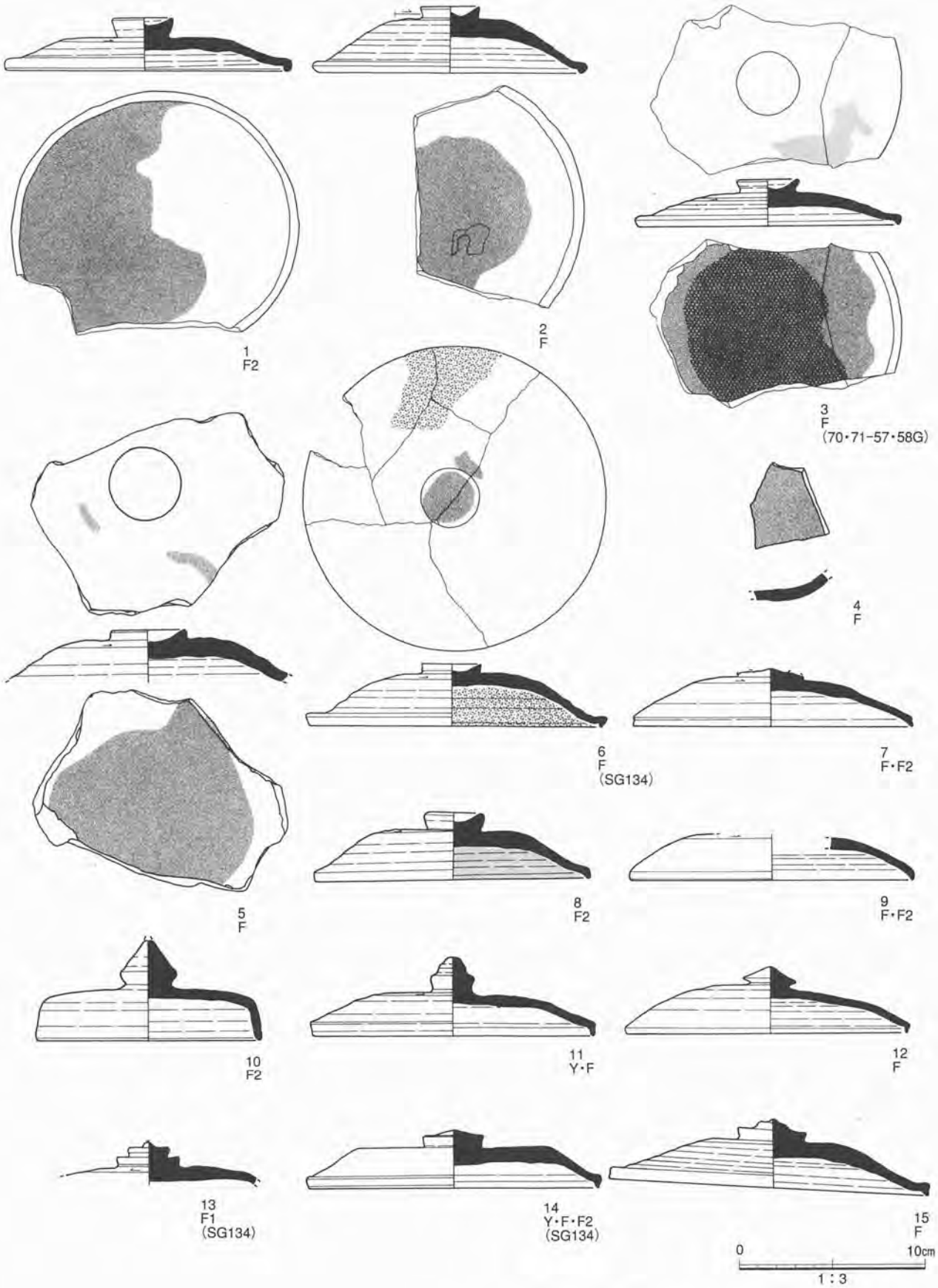
第276図　遺物実測図(126)―SG323―



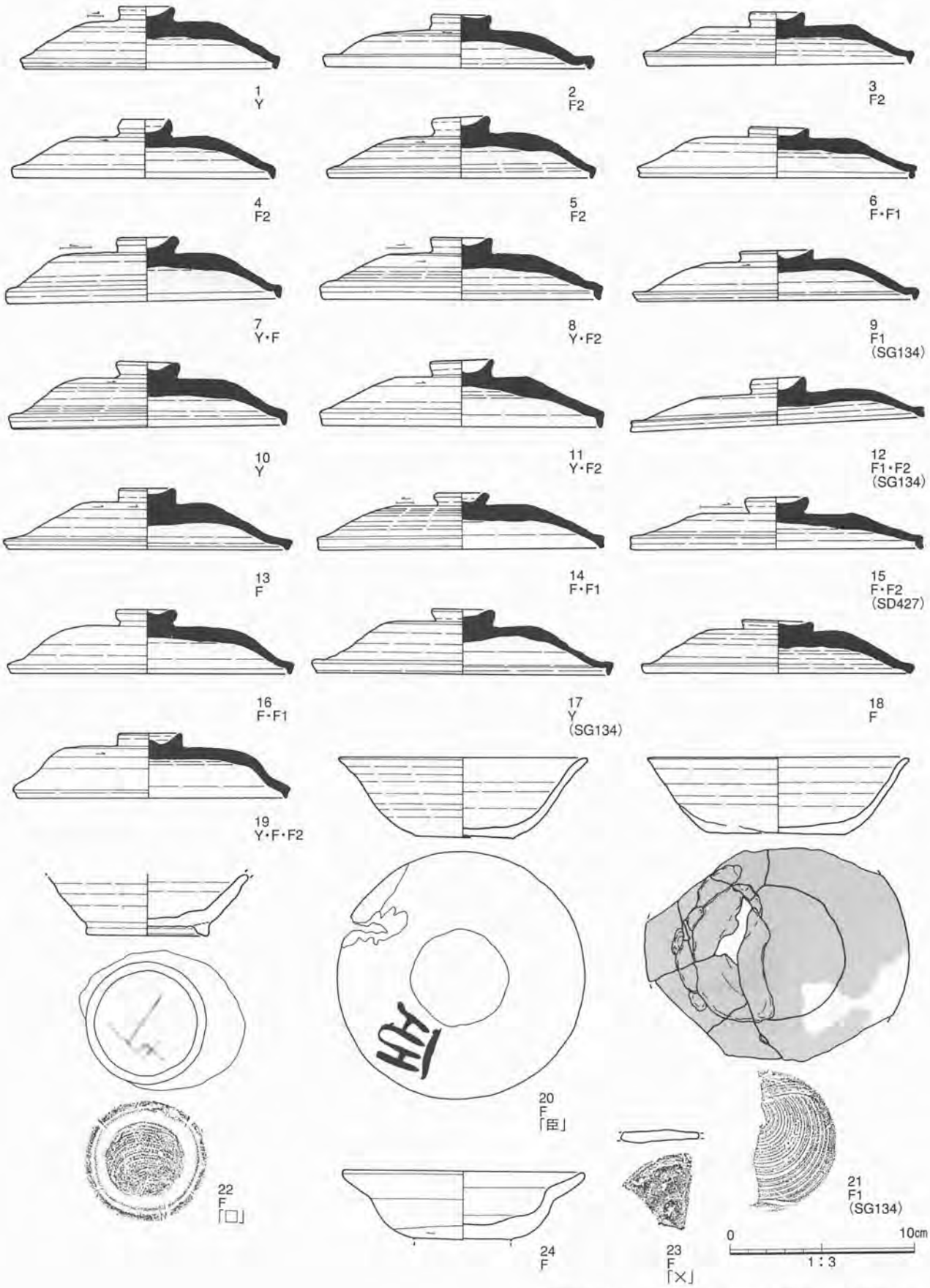
第277図　遺物実測図(127)—SG323—



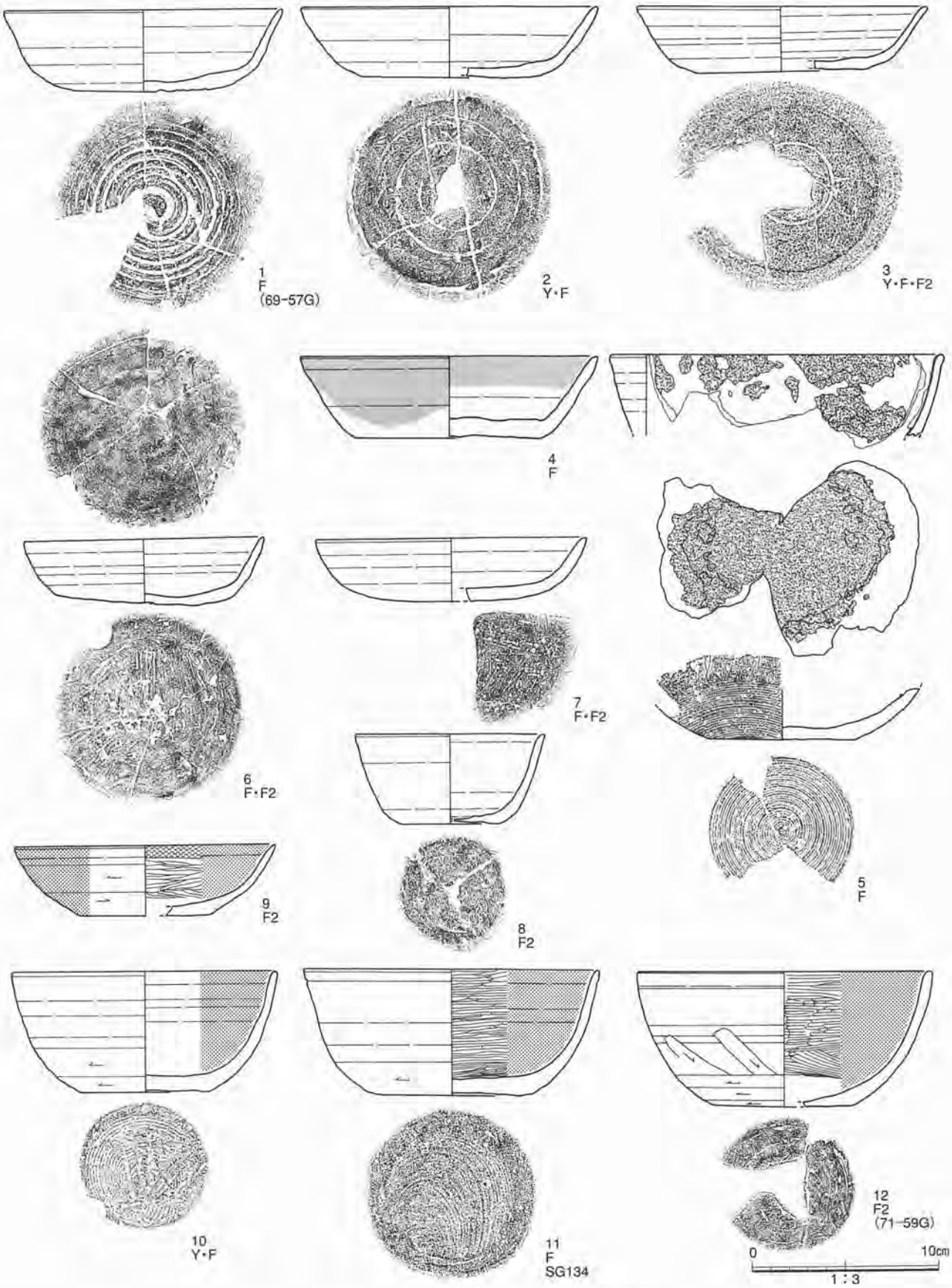
第278図　遺物実測図(128)—SG323—



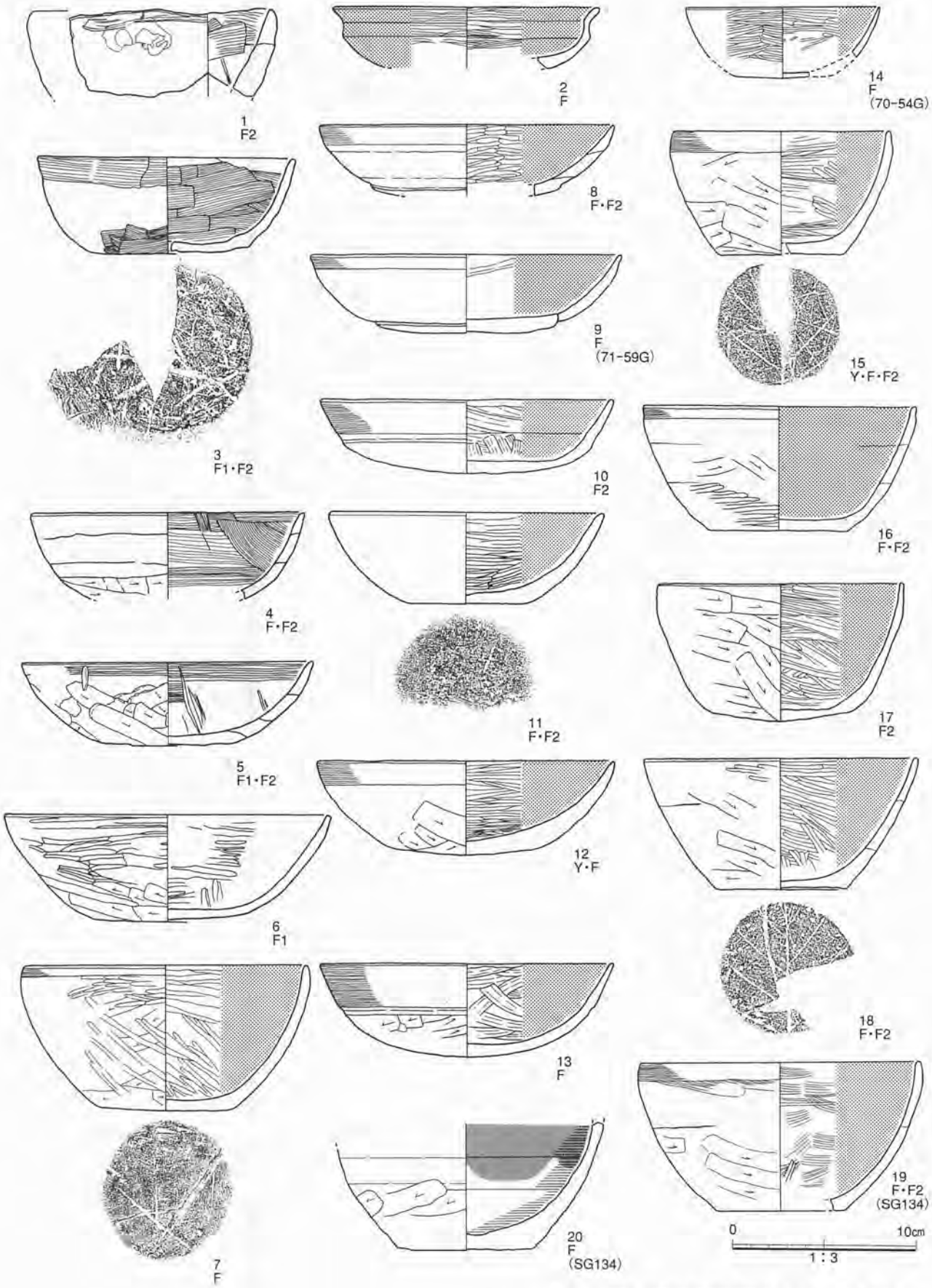
第279図　遺物実測図(129)—SG323—



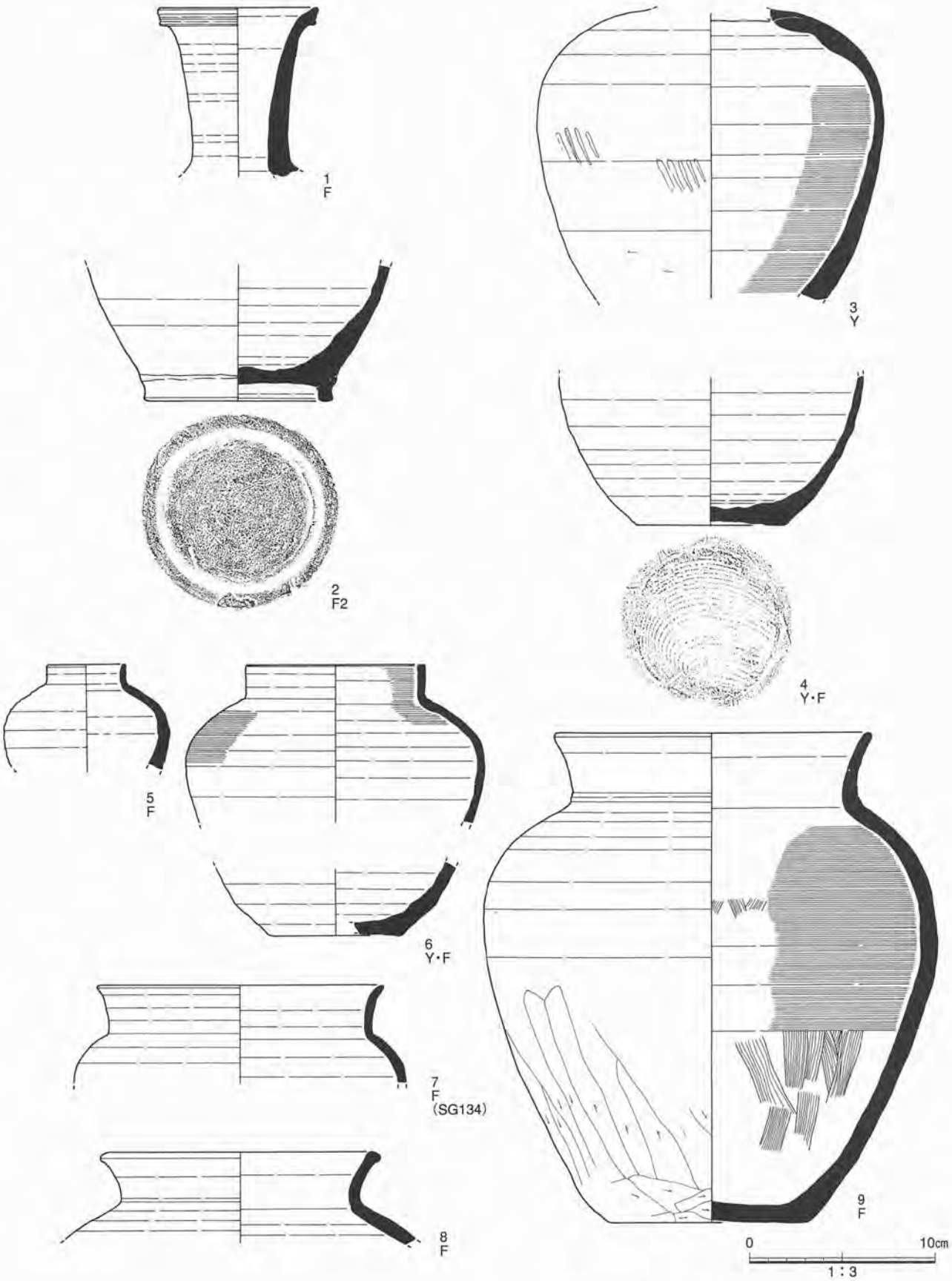
第280図　遺物実測図(130)—SG323—



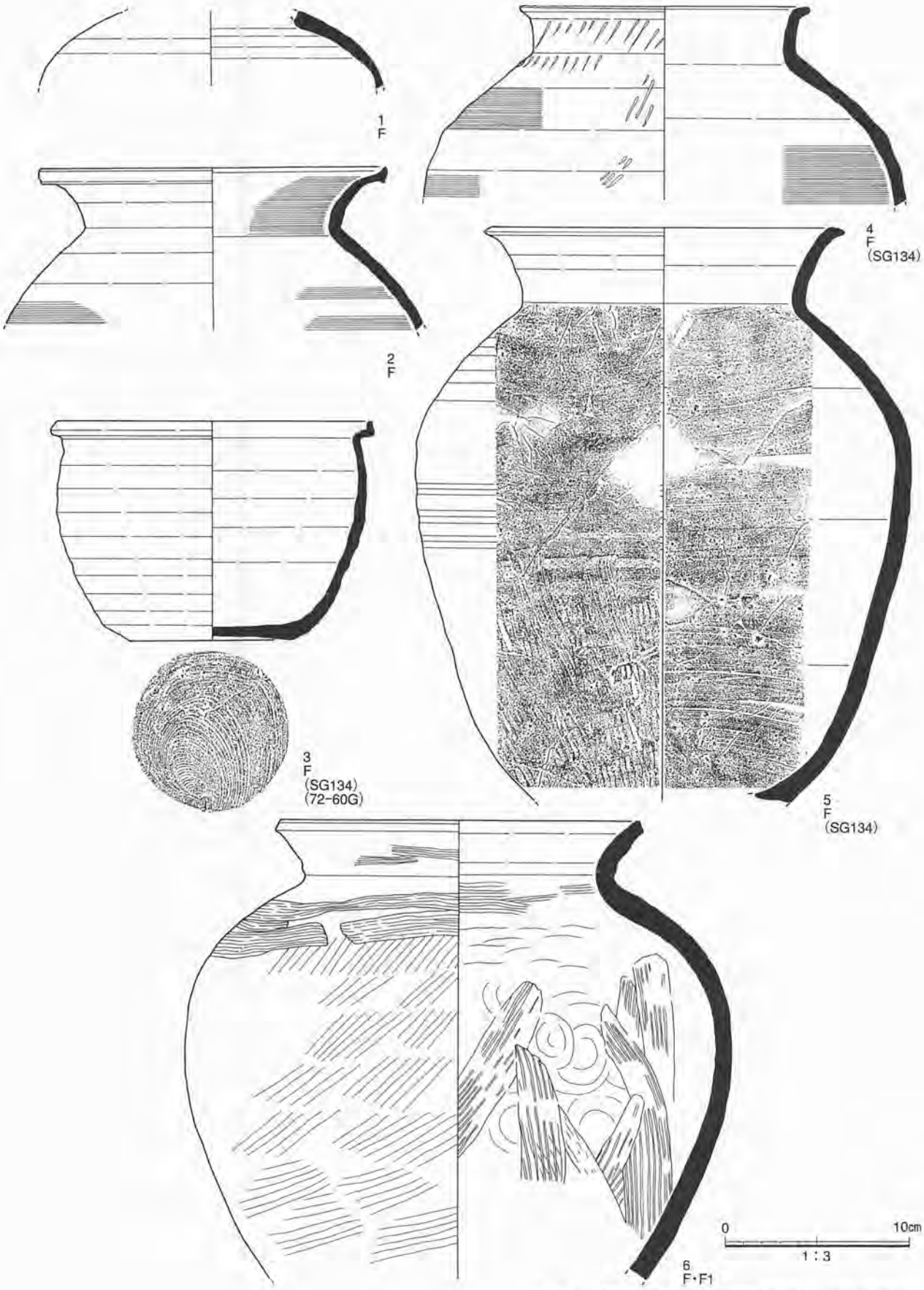
第281図　遺物実測図(131)―SG323―



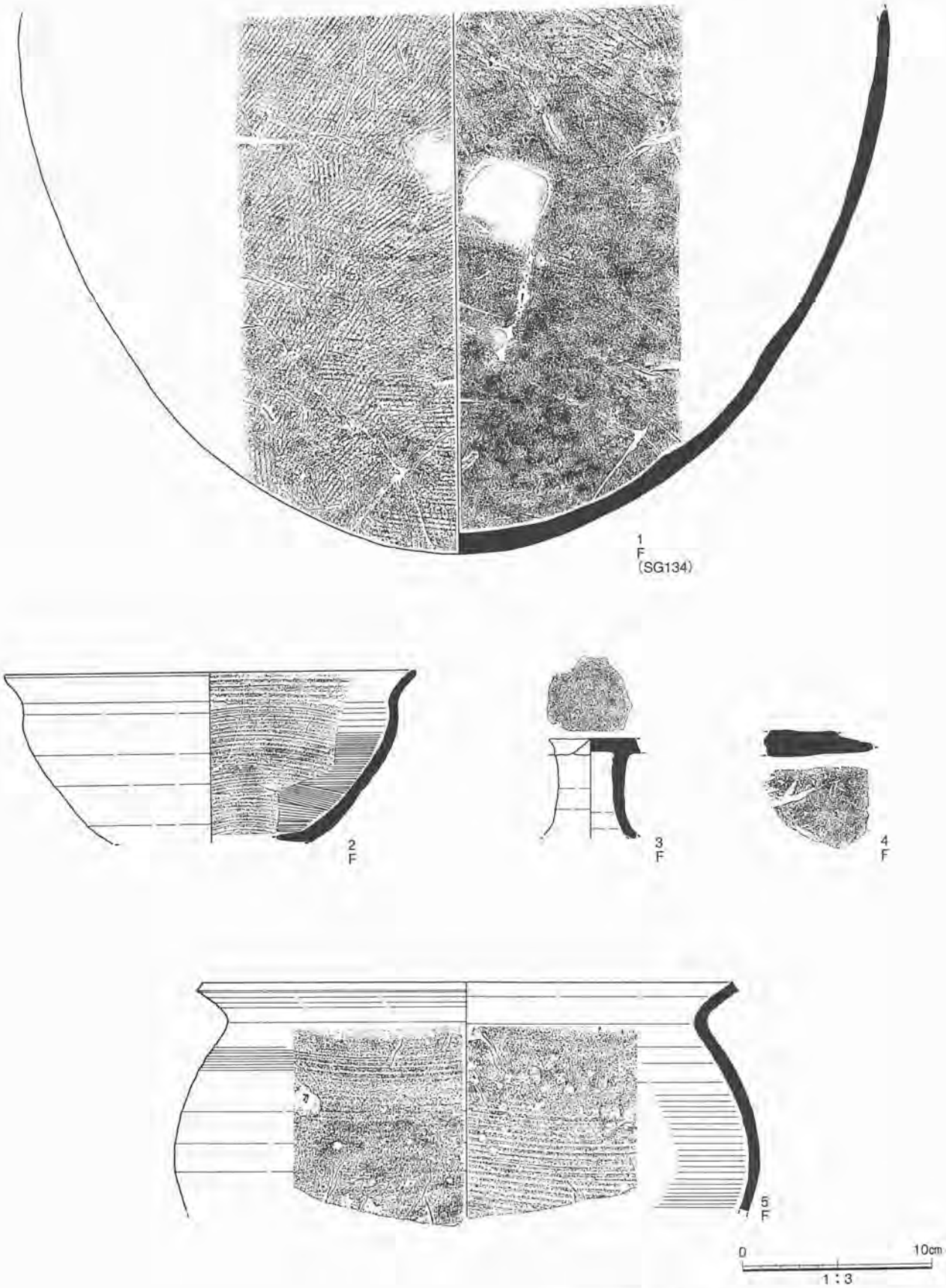
第282図　遺物実測図(132)—SG323—



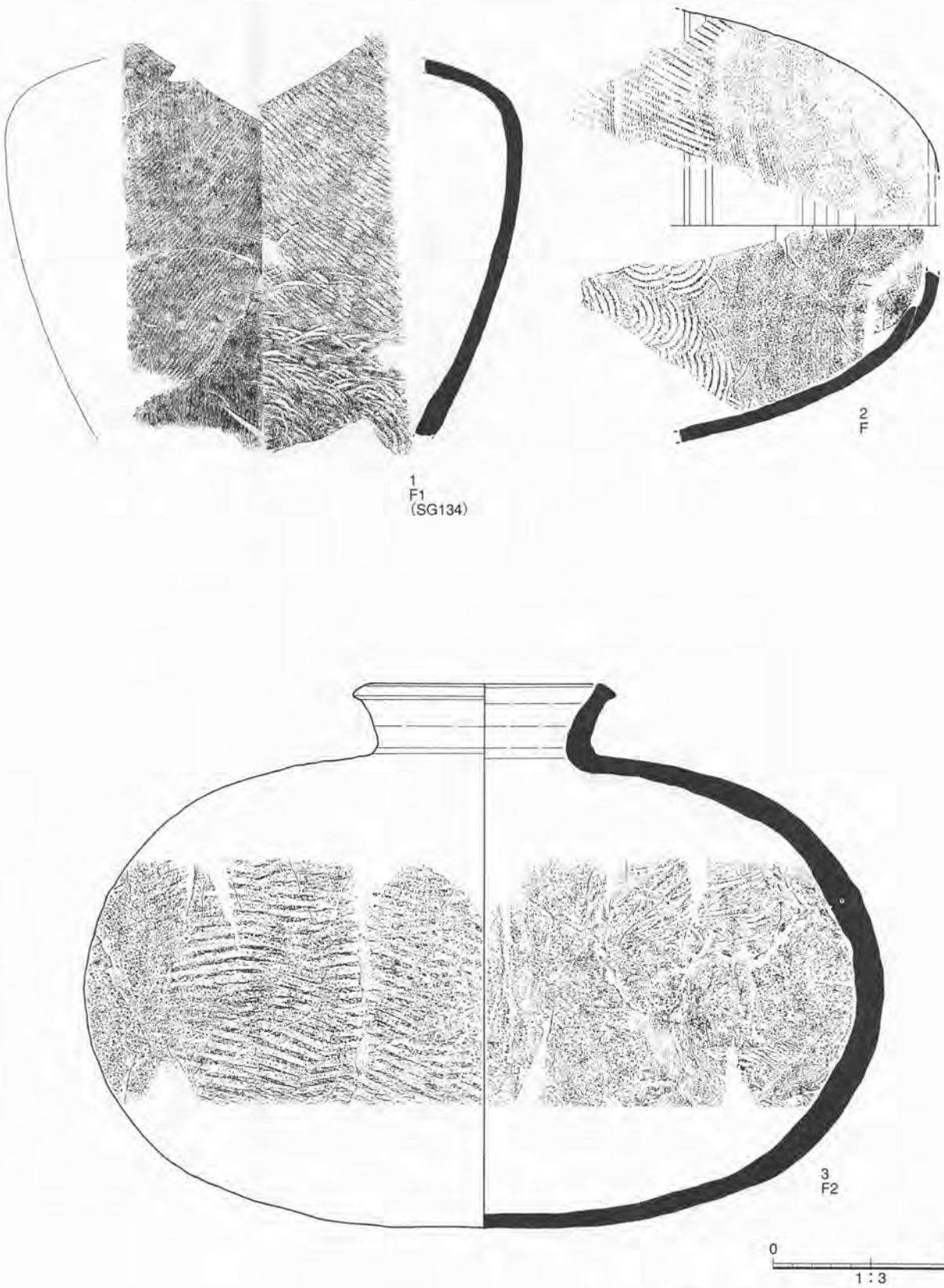
第283図　遺物実測図(133)—SG323—



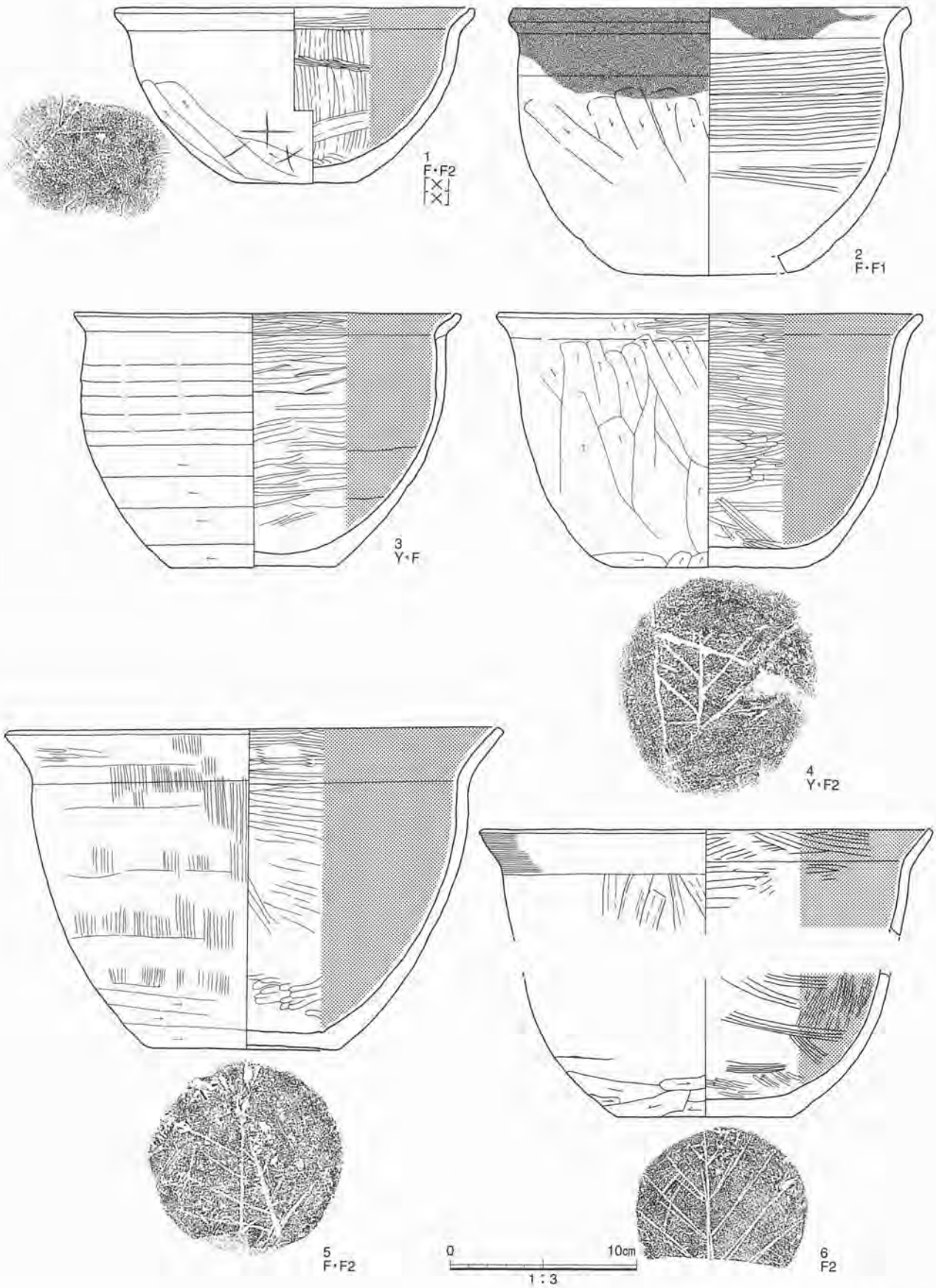
第284図　遺物実測図(134)—SG323—



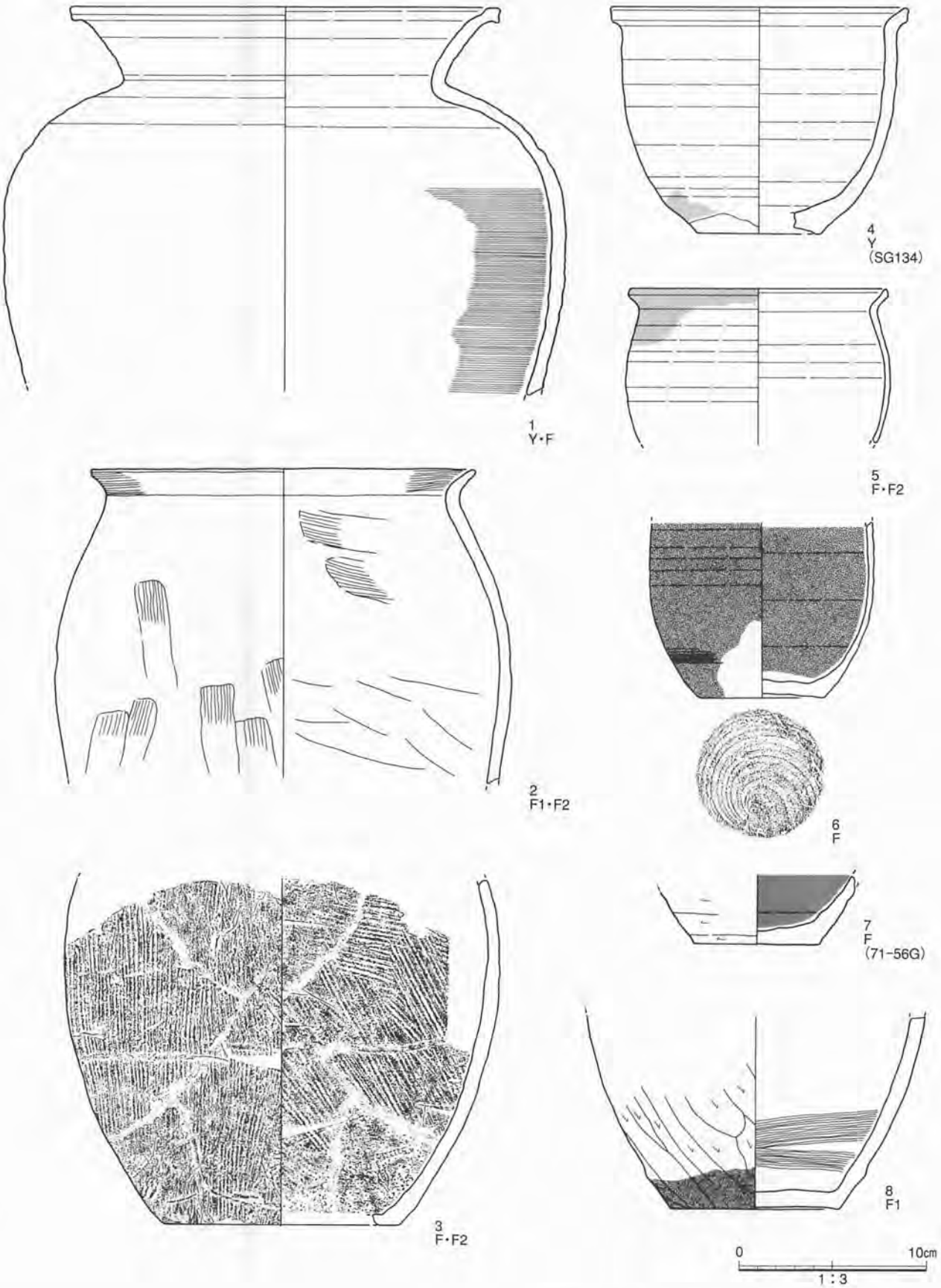
第285図　遺物実測図(135)―SG323―



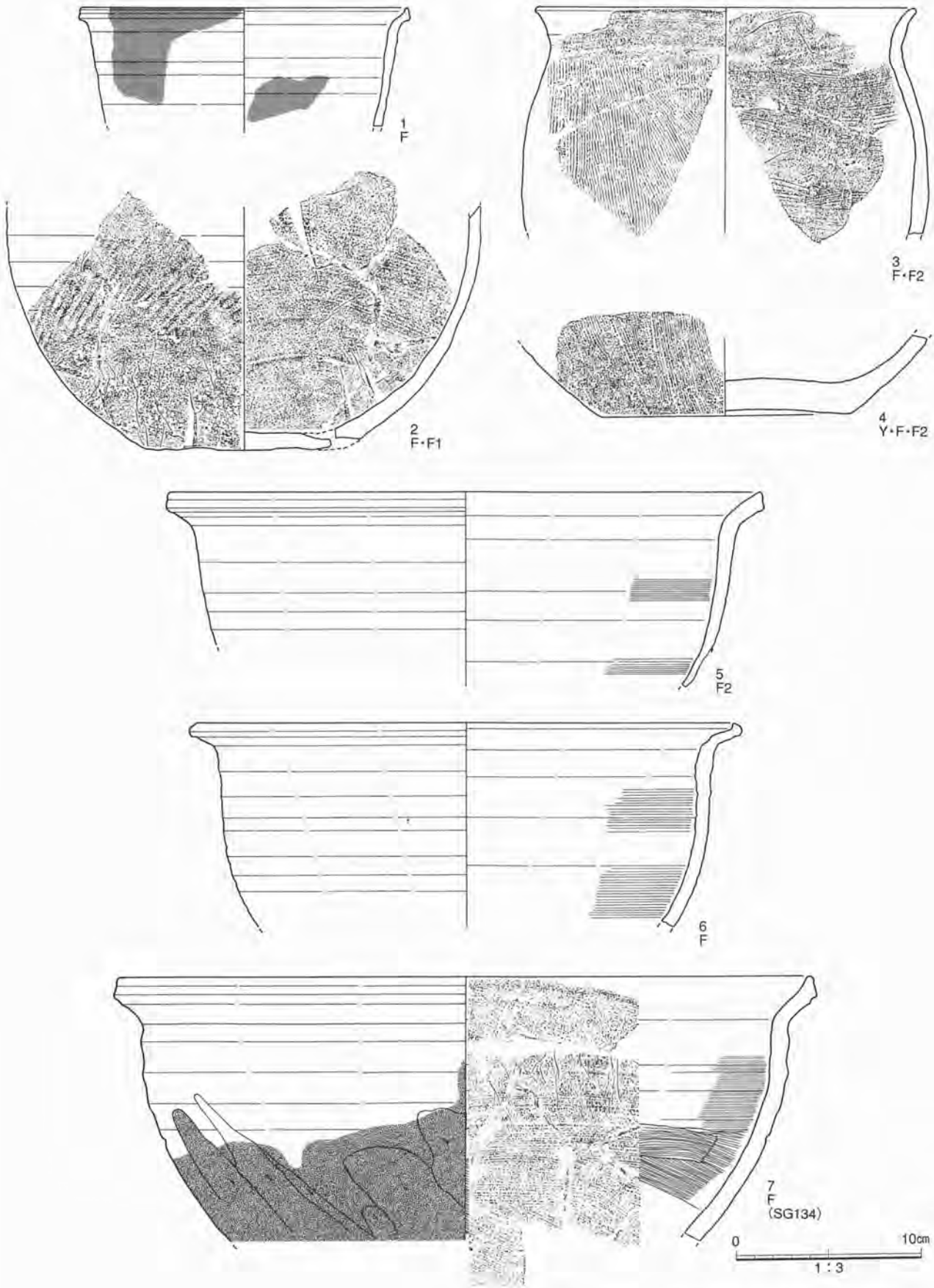
第286図　遺物実測図(136)―SG323―



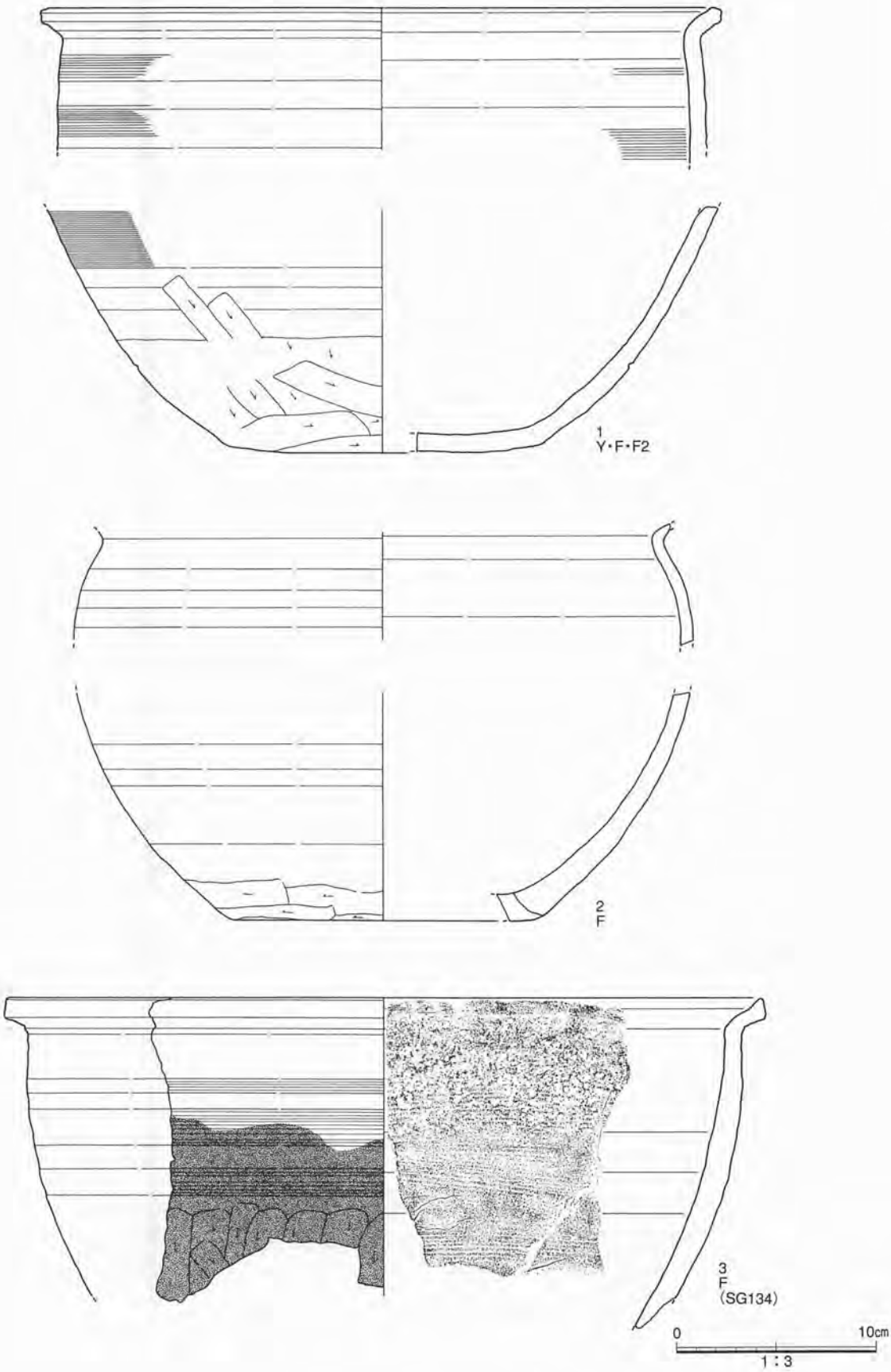
第287図　遺物実測図(137)—SG323—



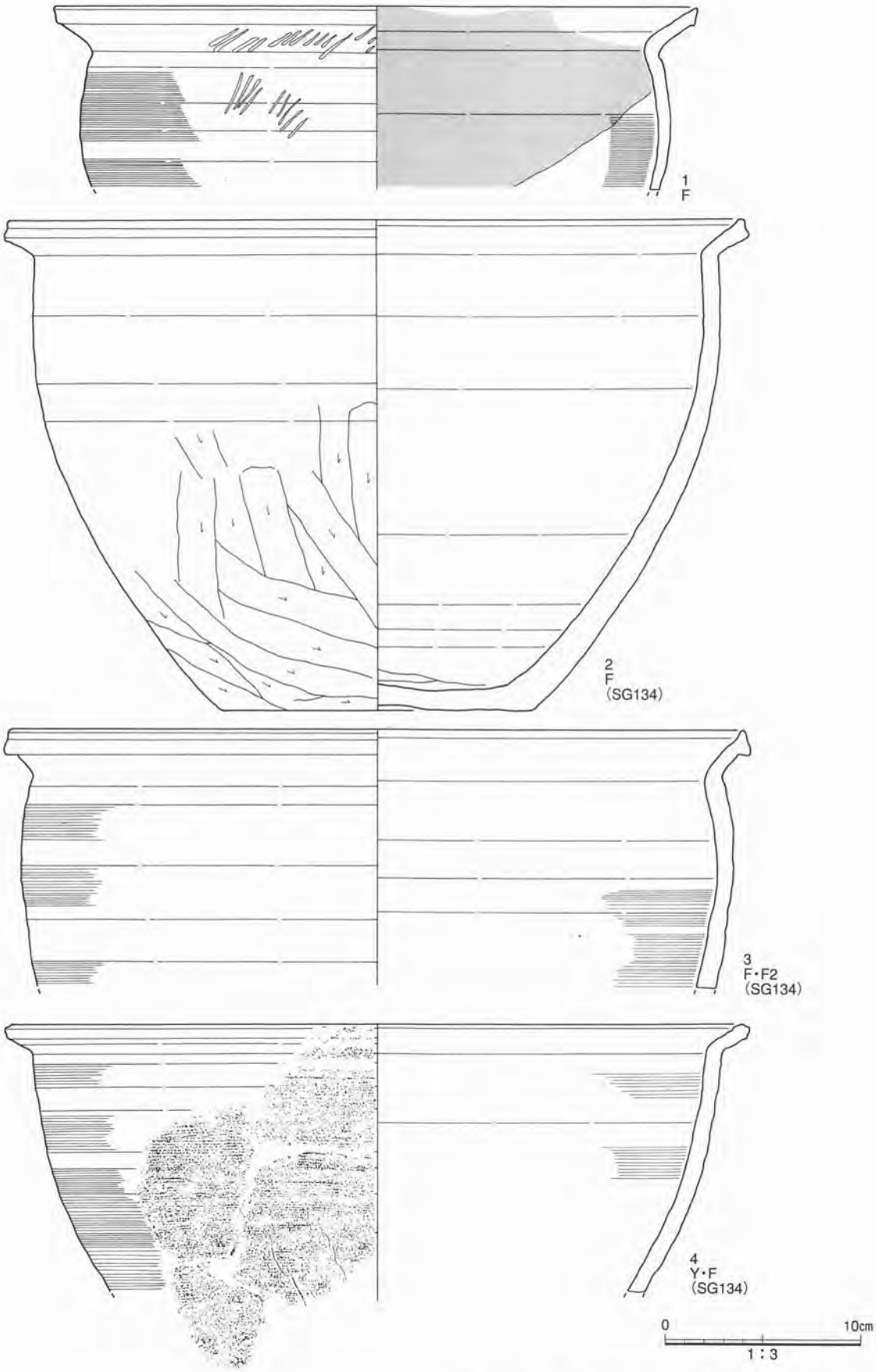
第288図　遺物実測図(138)―SG323―



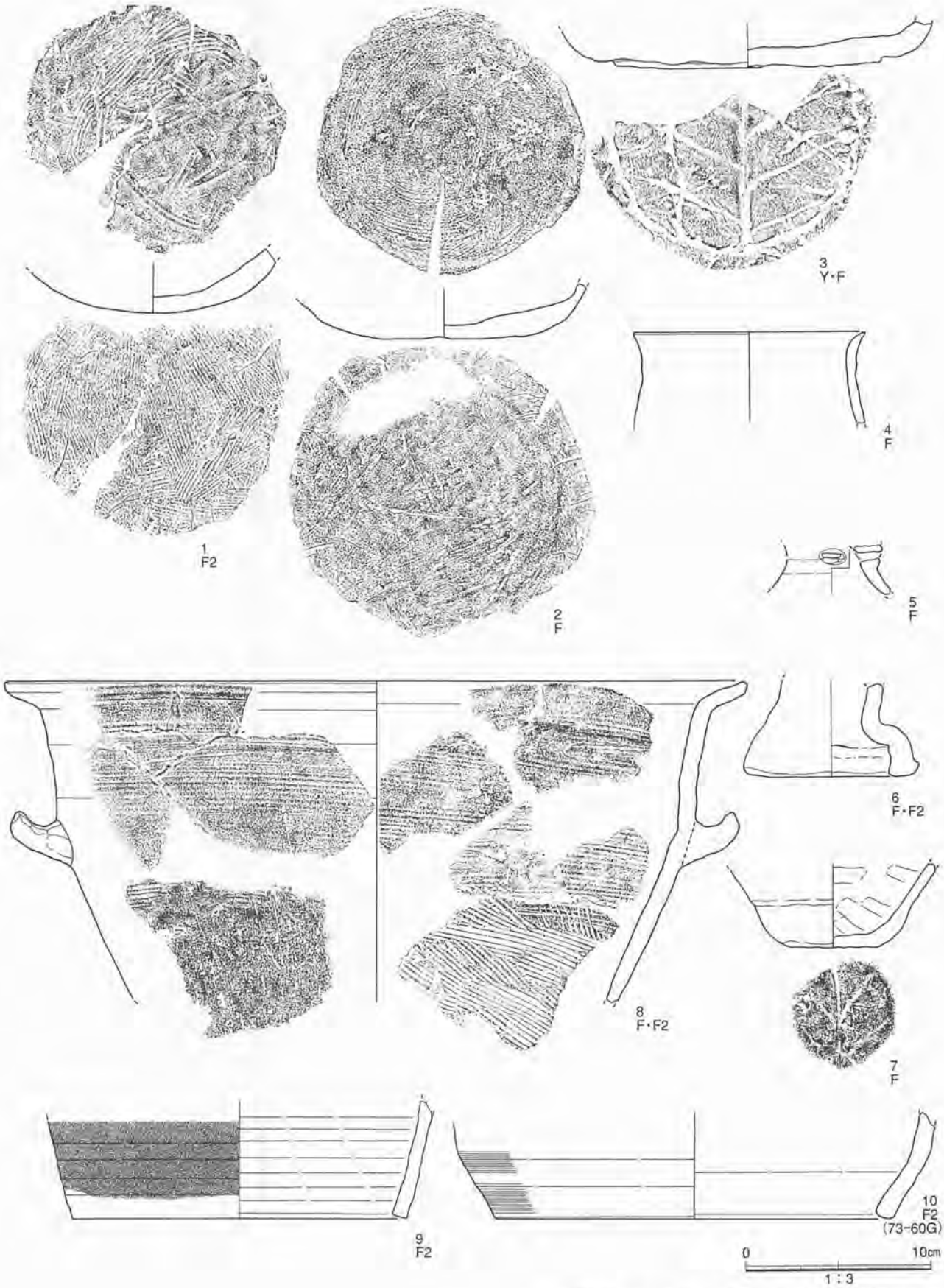
第289図　遺物実測図(139)—SG323—



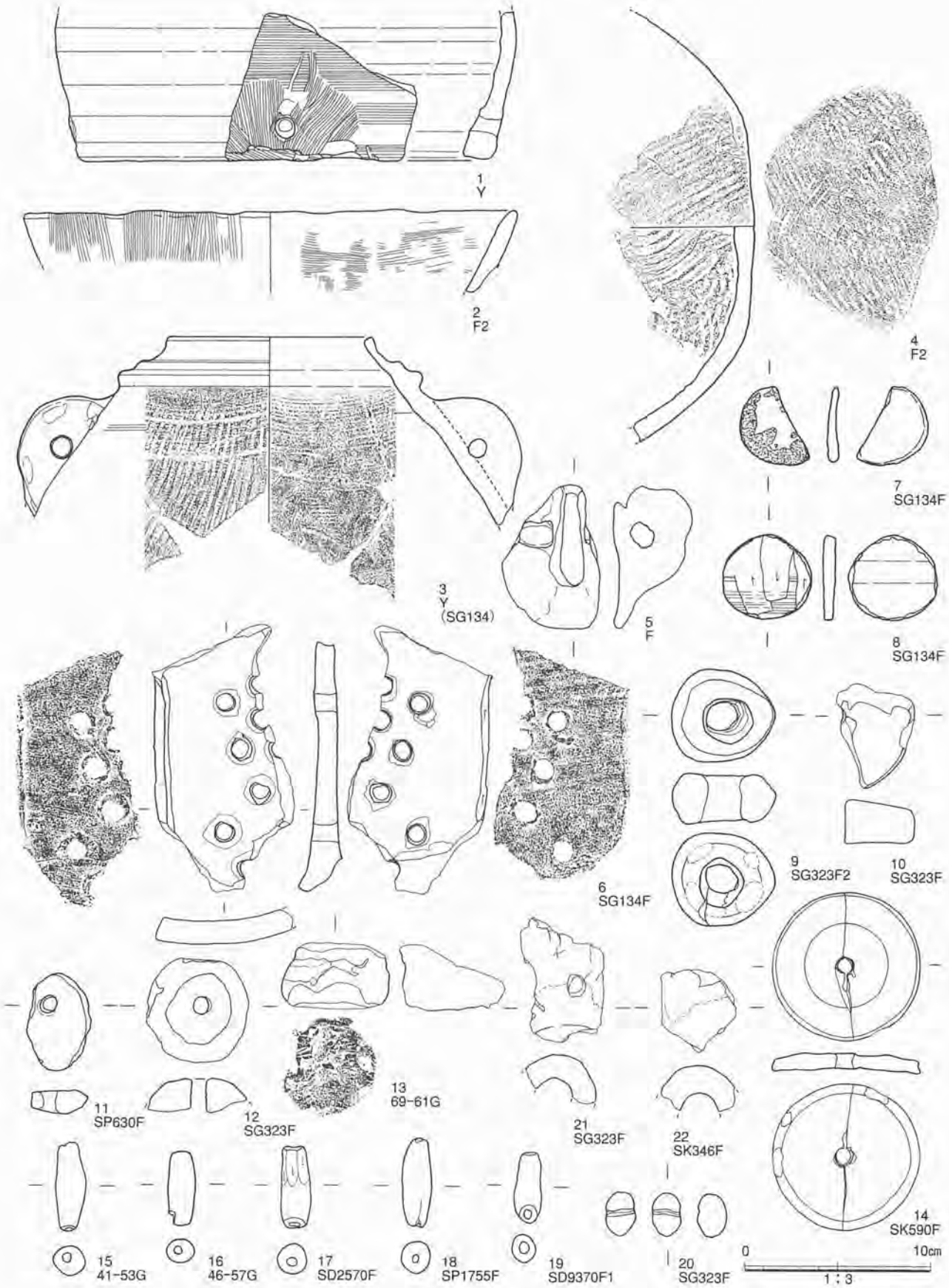
第290図　遺物実測図(140)―SG323―



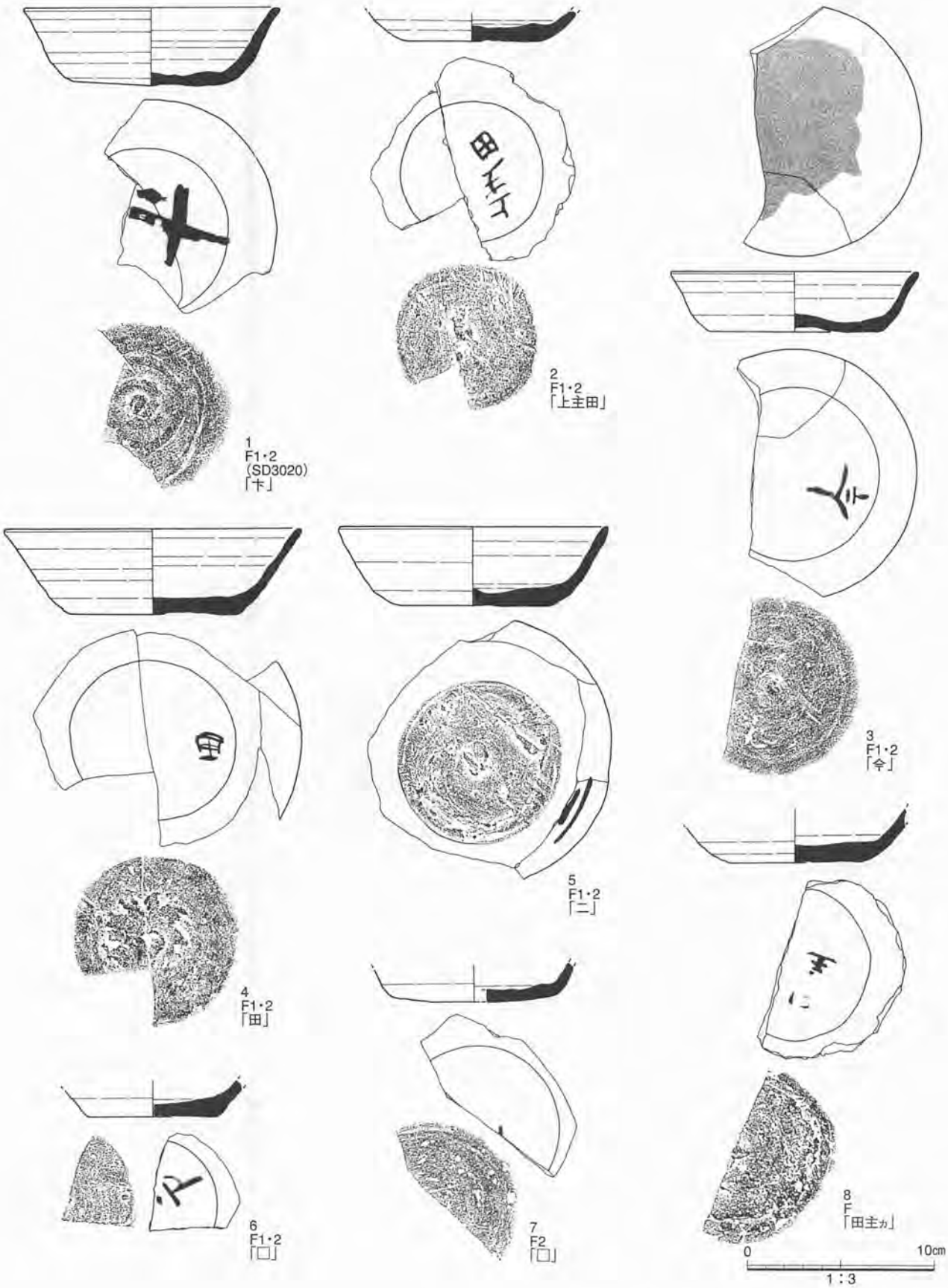
第291図　遺物実測図(141)―SG323―



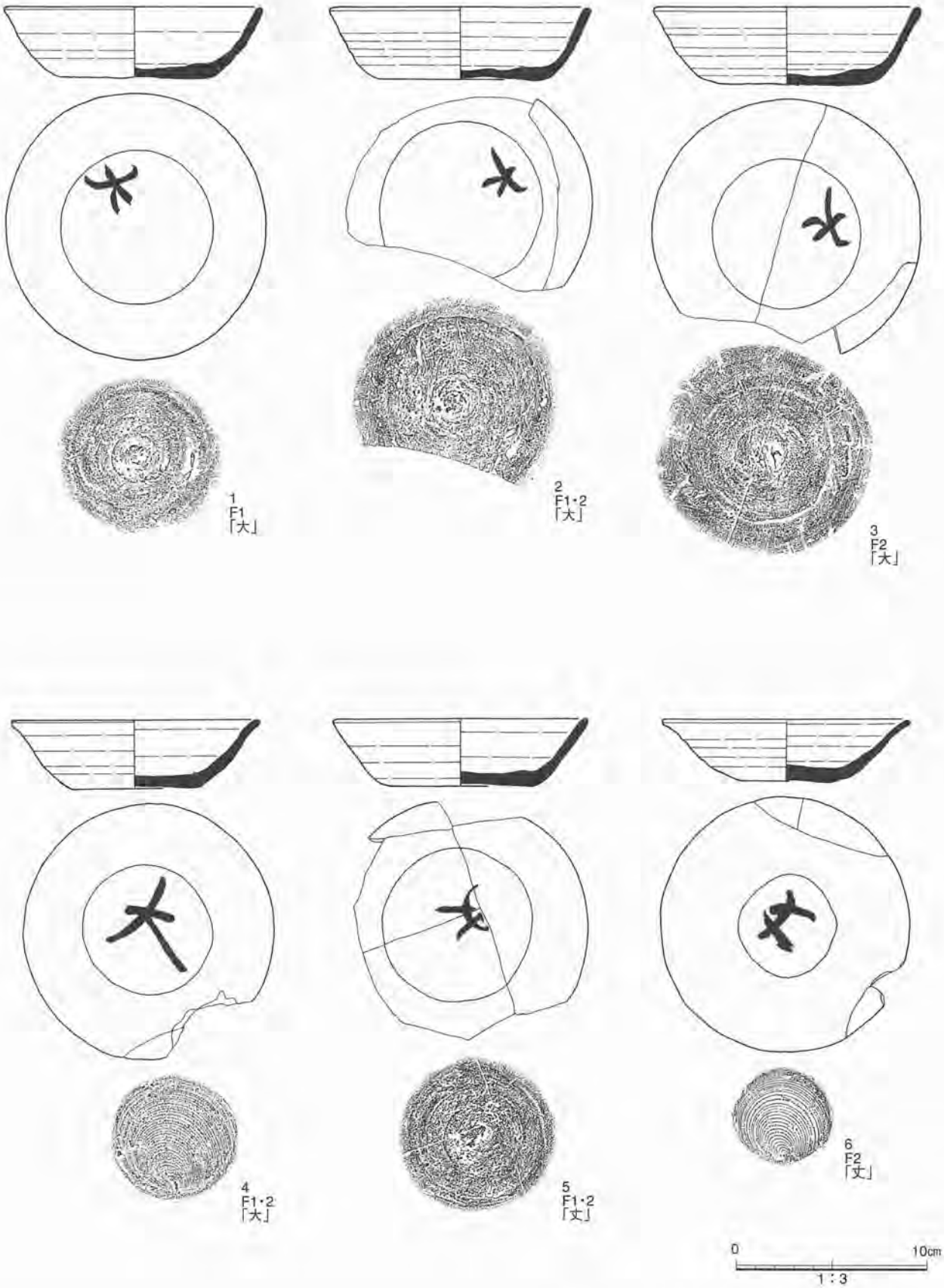
第292図　遺物実測図(142)―SG323―



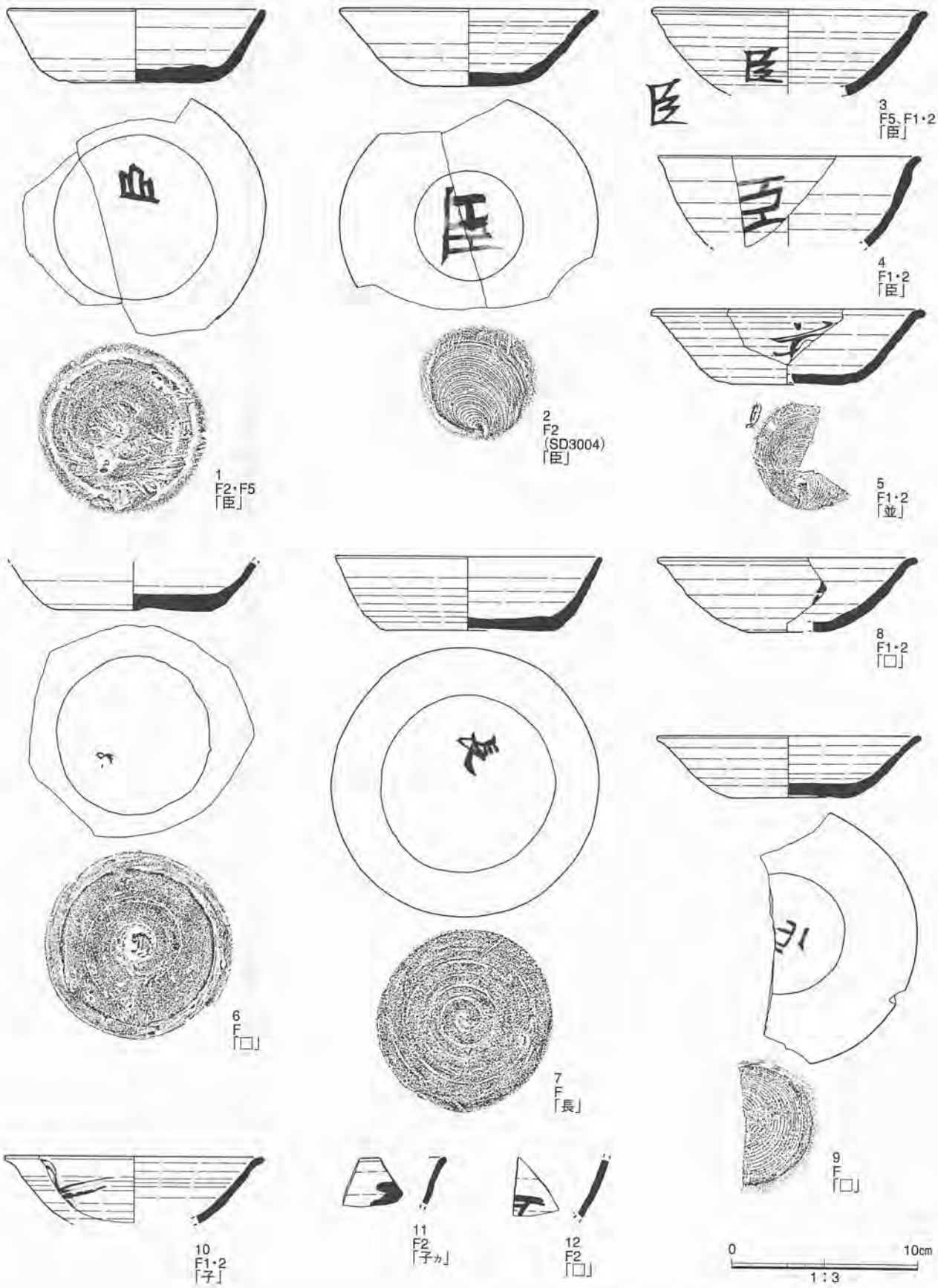
第293図　遺物実測図(143)―SG323・土製品―



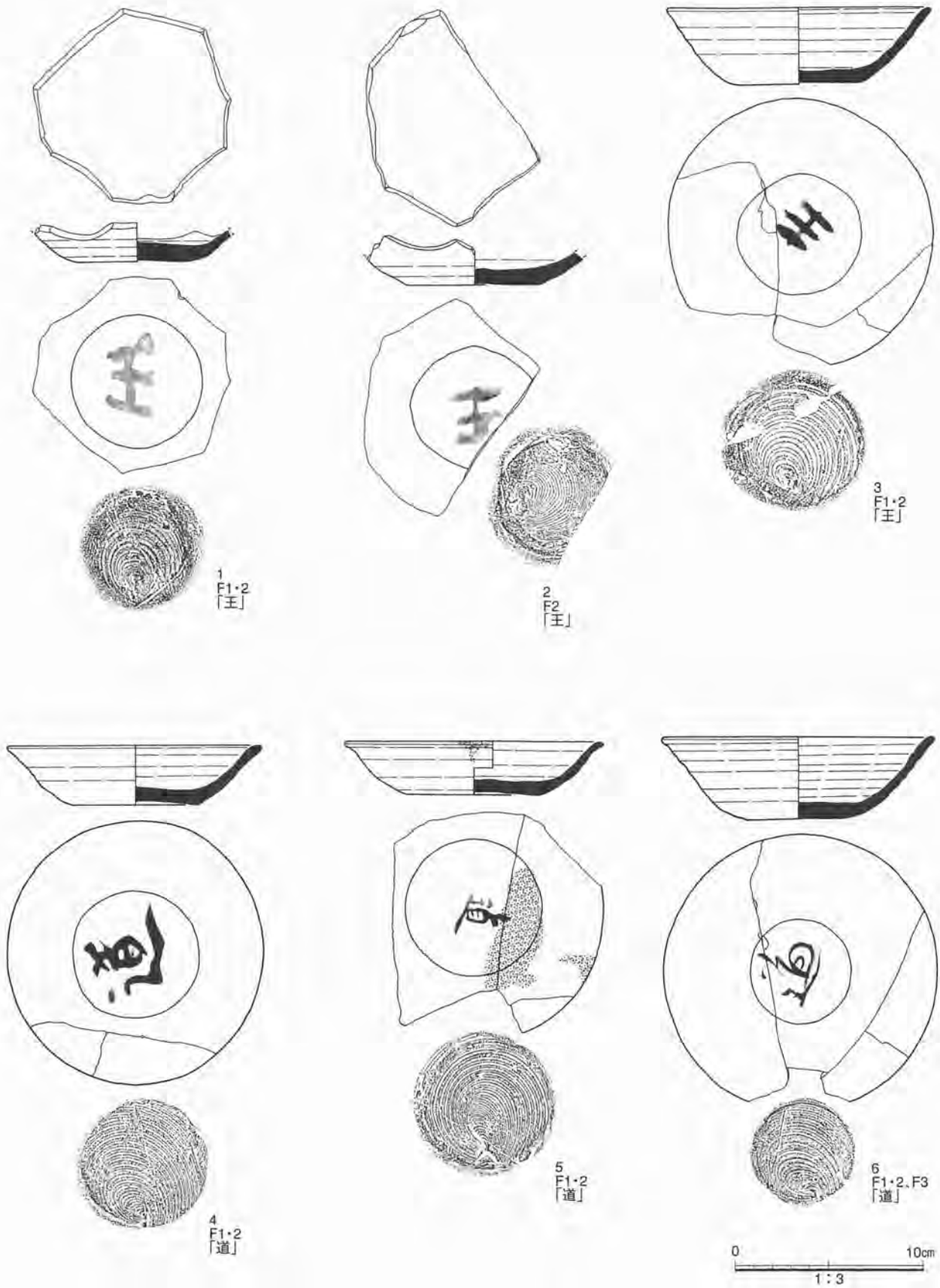
第294図　遺物実測図(144)—SG3001—



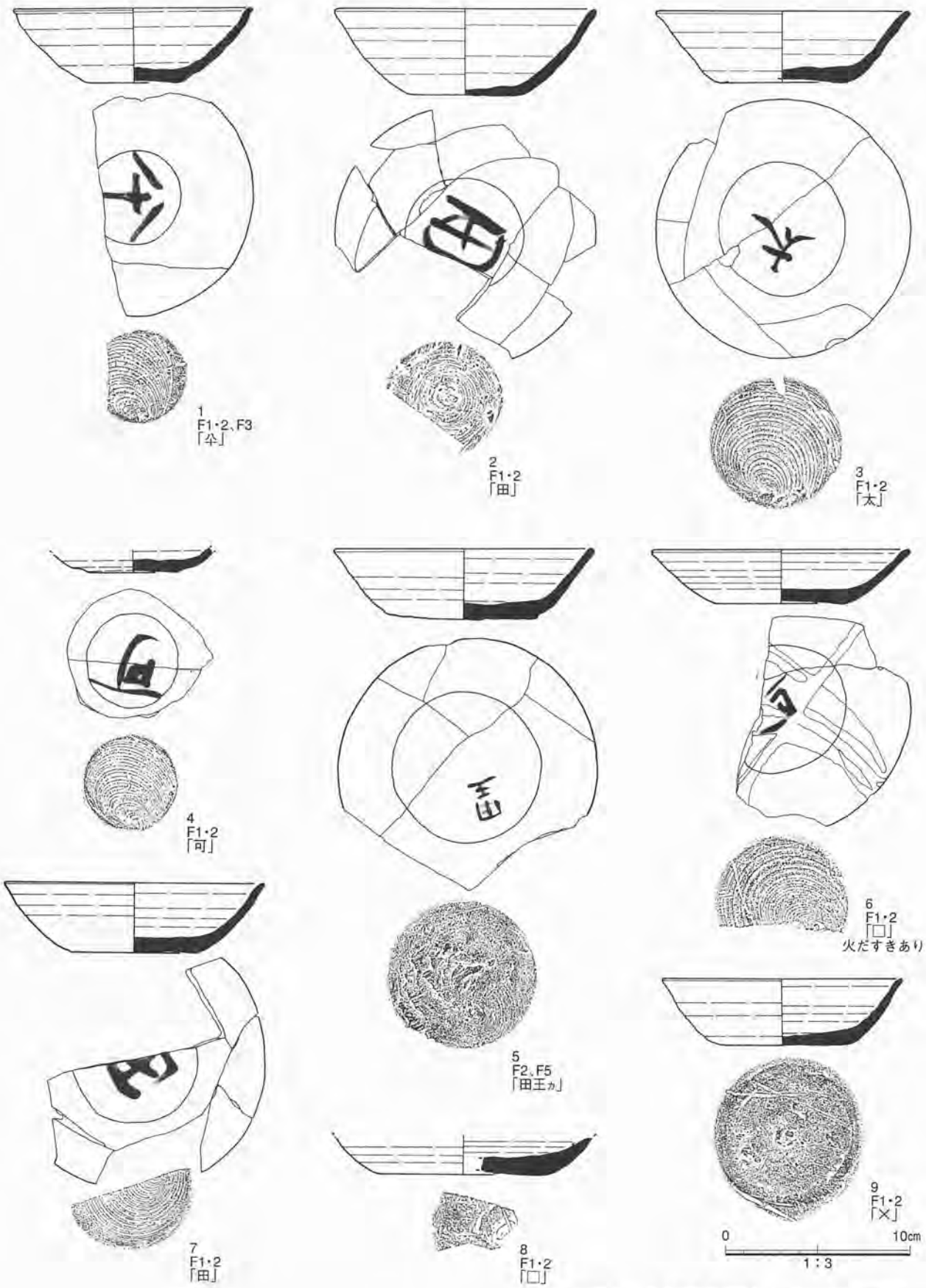
第295図　遺物実測図(145)―SG3001―



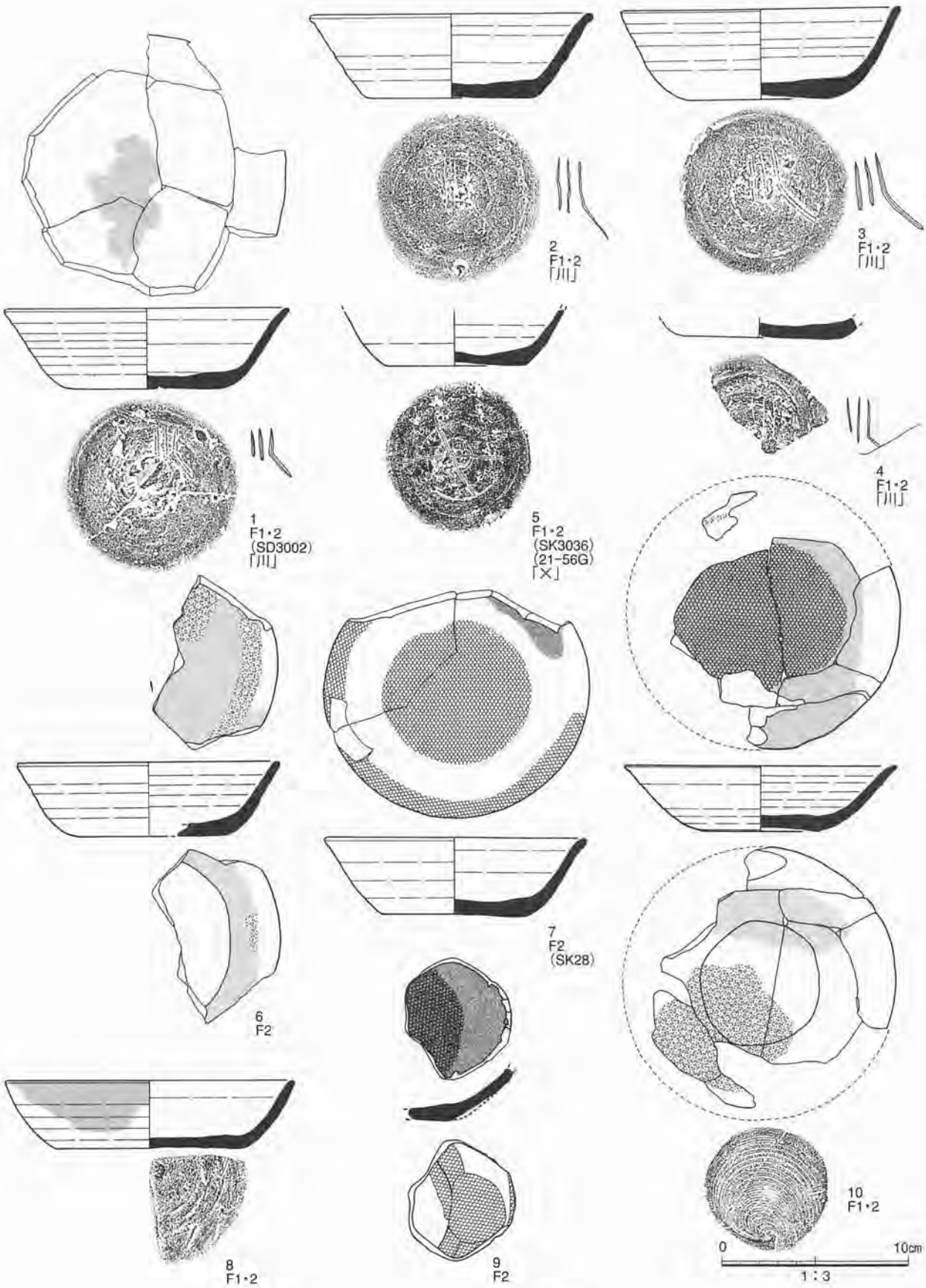
第296図　遺物実測図(146)―SG3001―



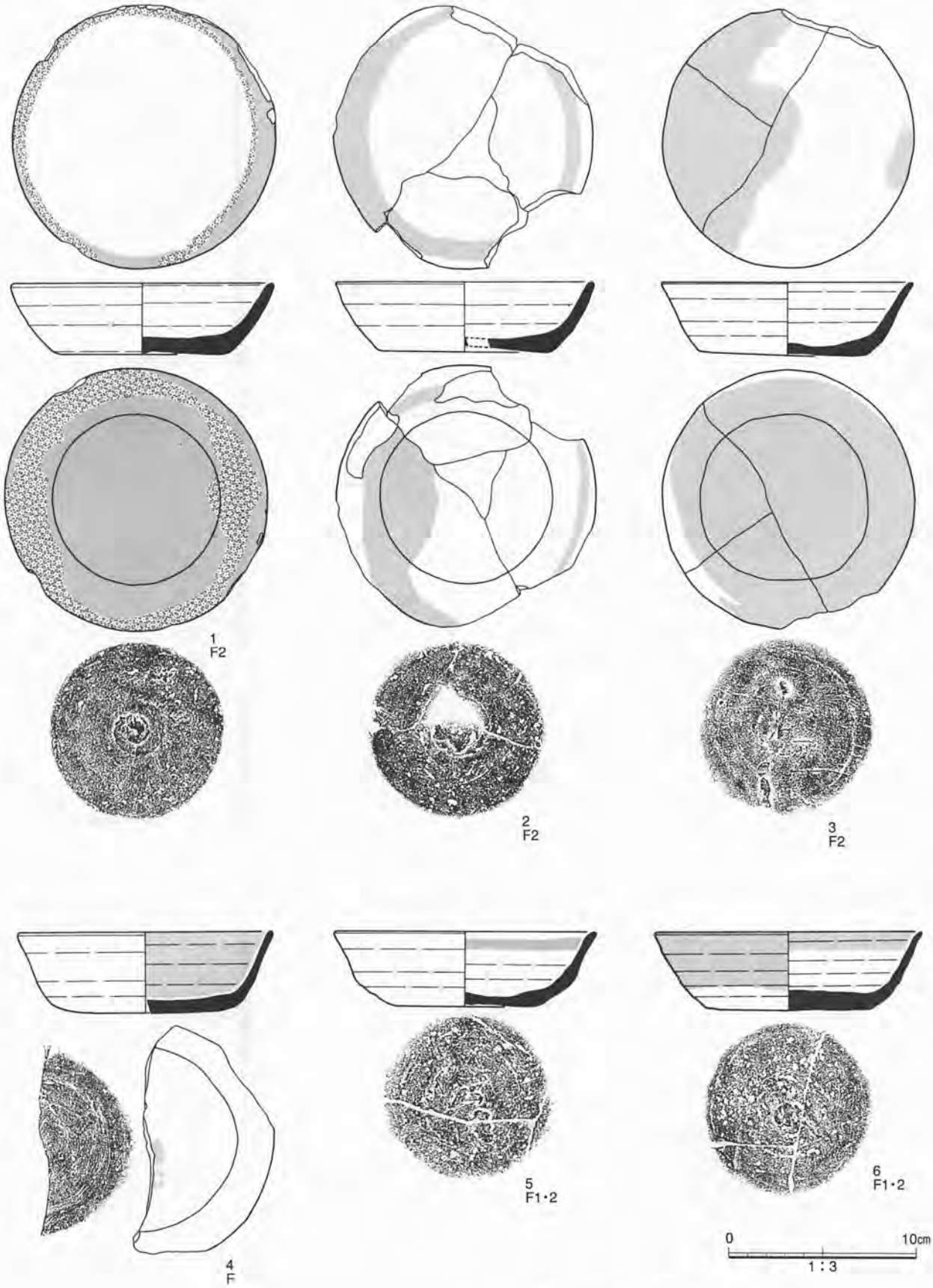
第297図　遺物実測図(147)―SG3001―



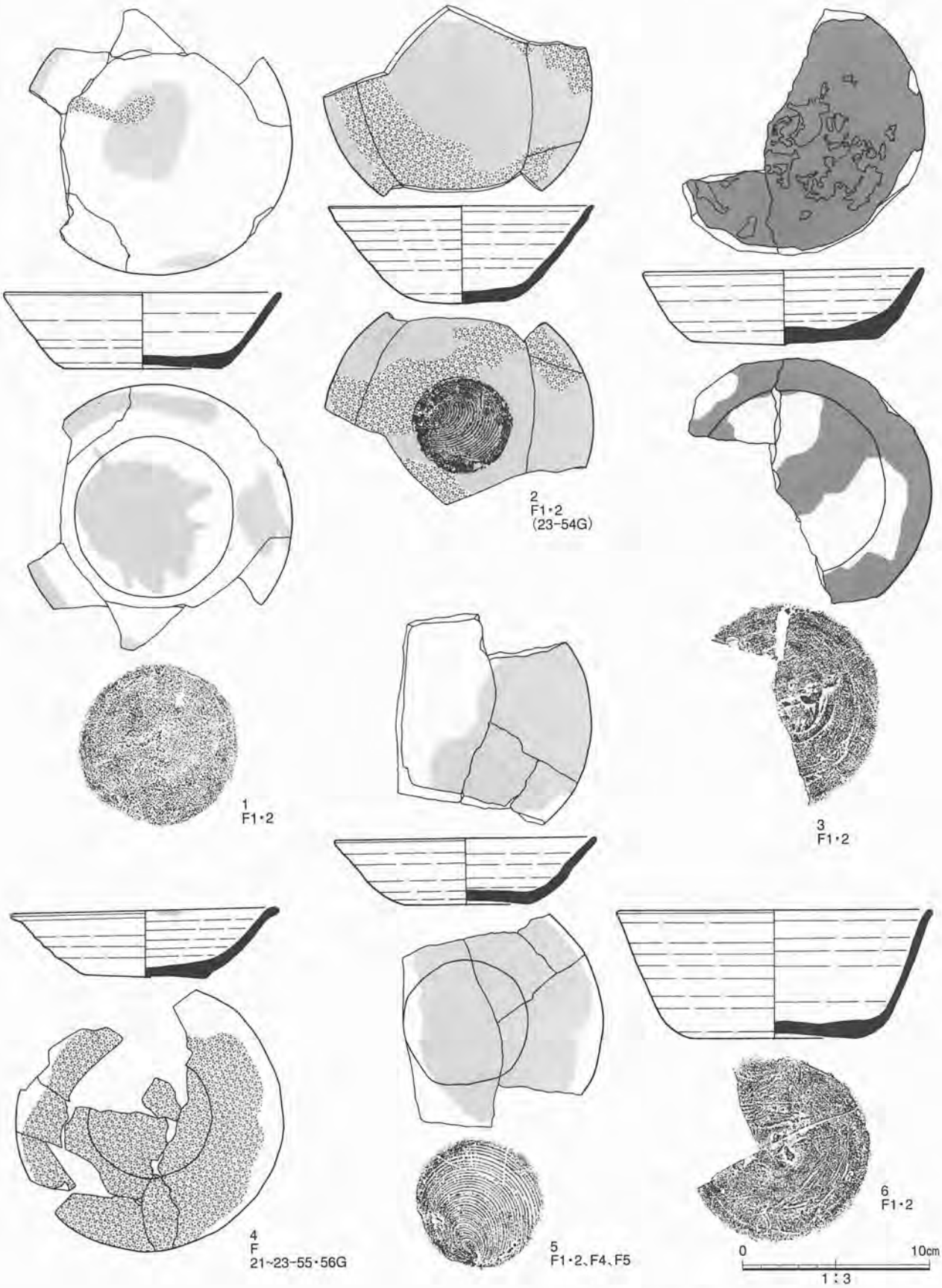
第298図　遺物実測図(148)―SG3001―



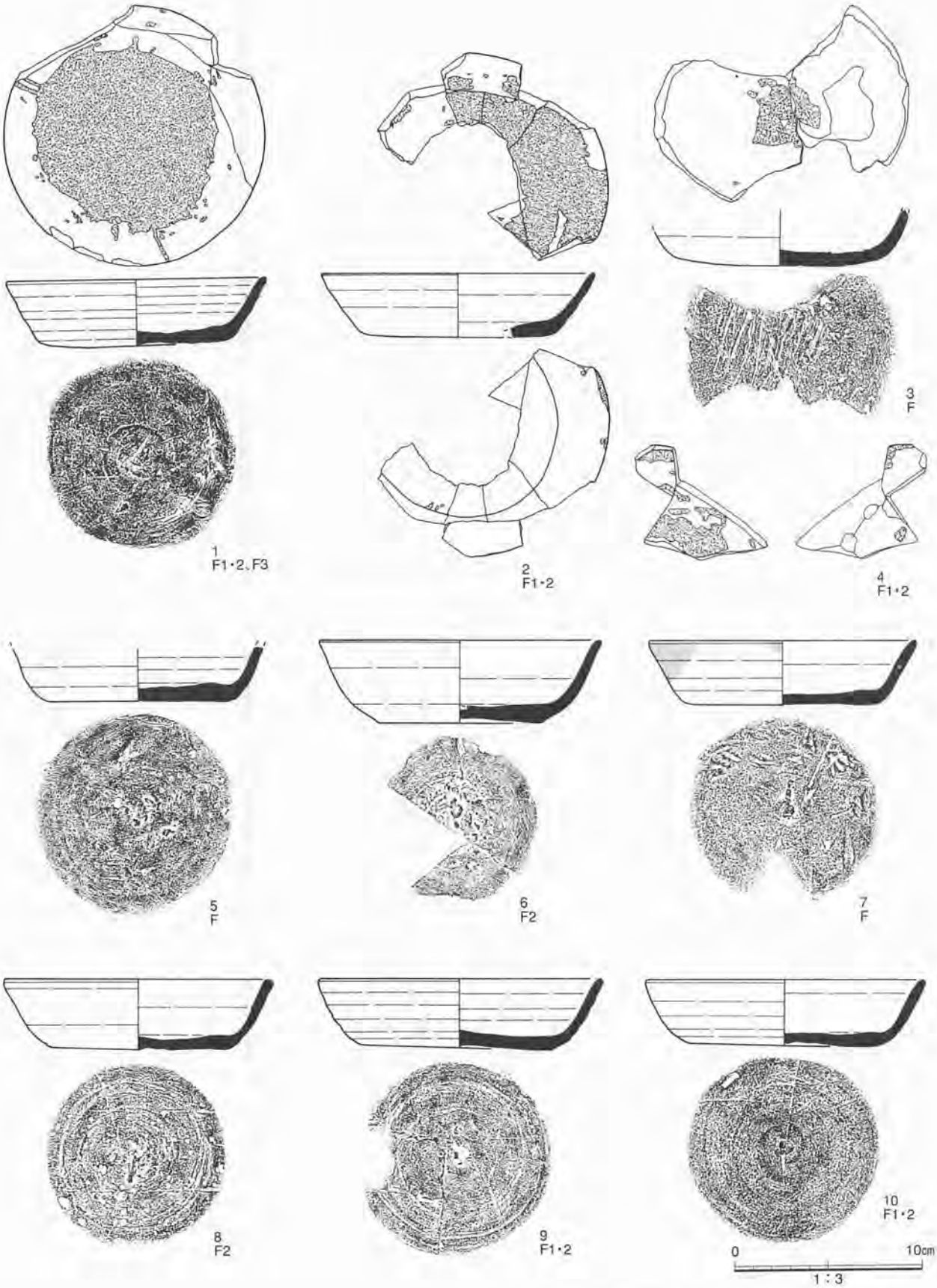
第299図　遺物実測図(149)―SG3001―



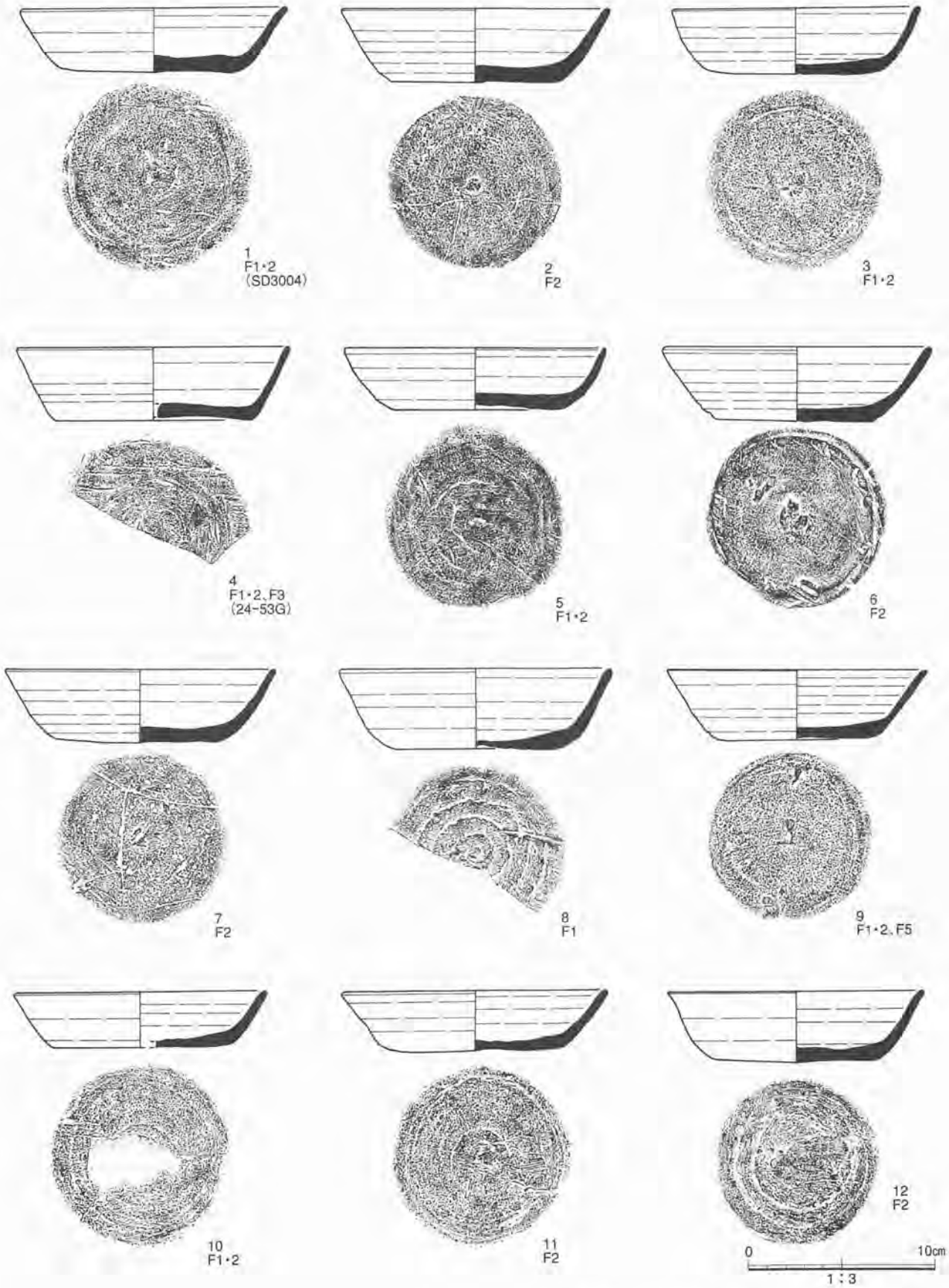
第300図　遺物実測図(150)―SG3001―



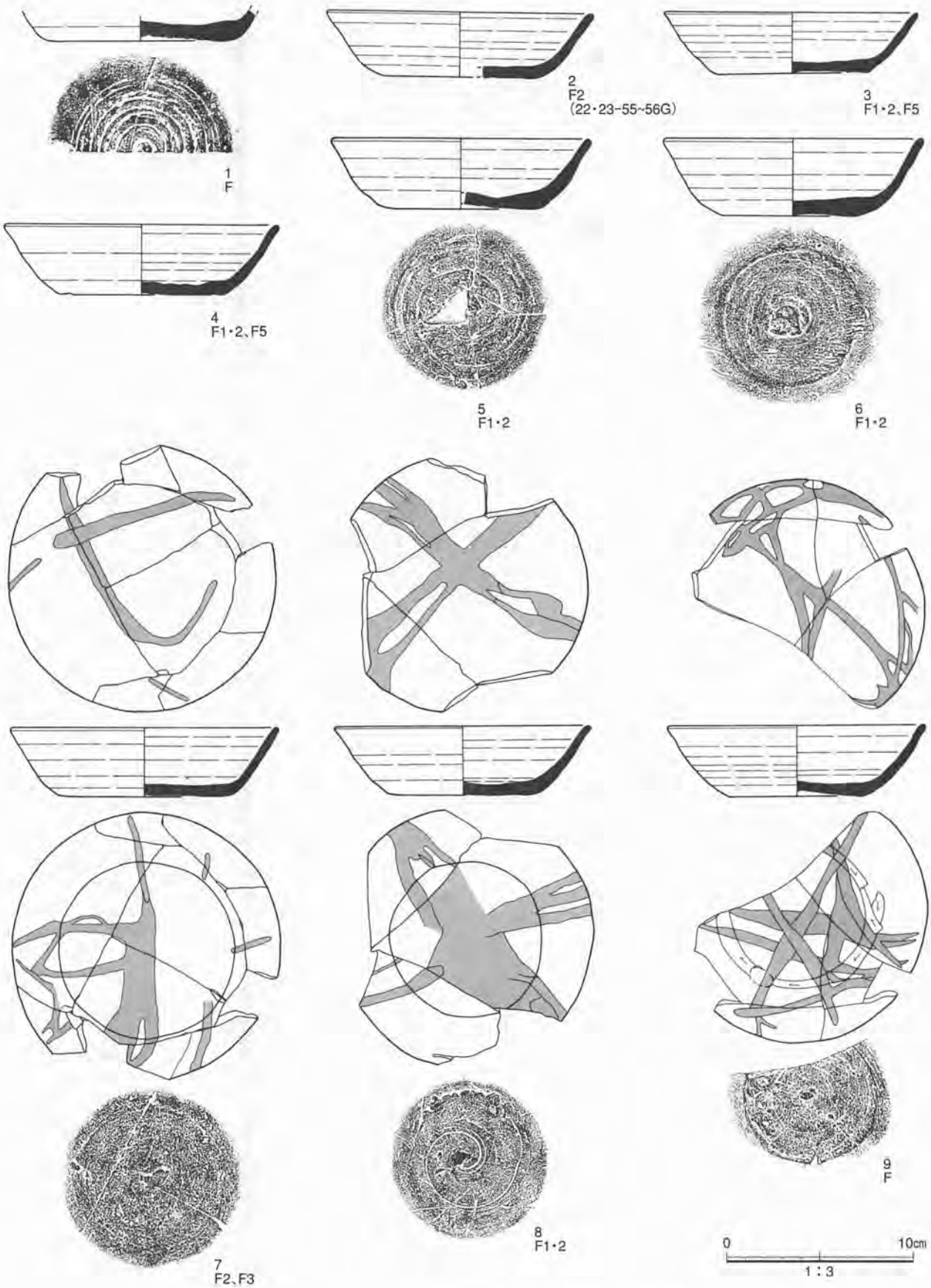
第301図　遺物実測図(151)—SG3001—



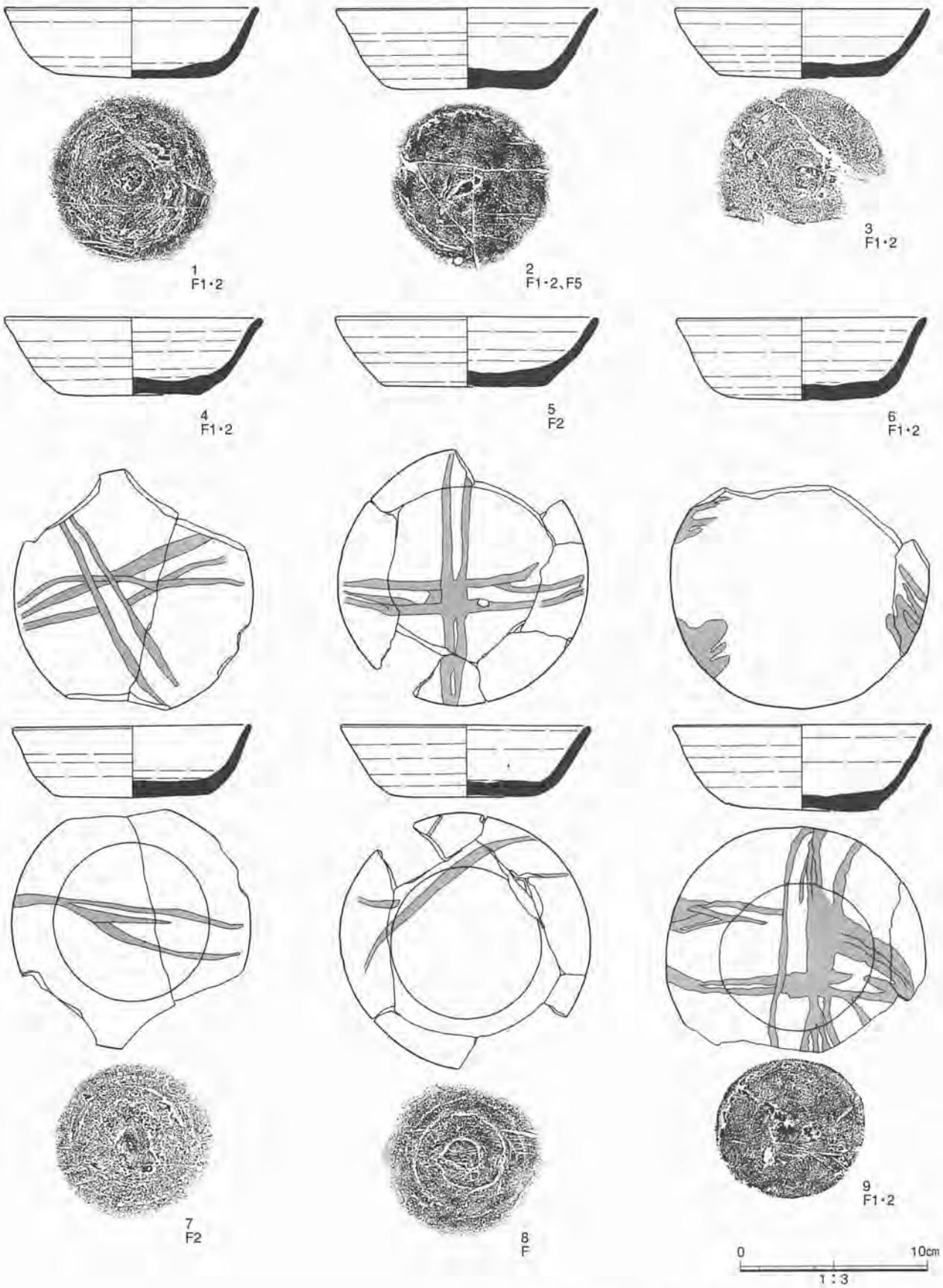
第302図　遺物実測図(152)—SG3001—



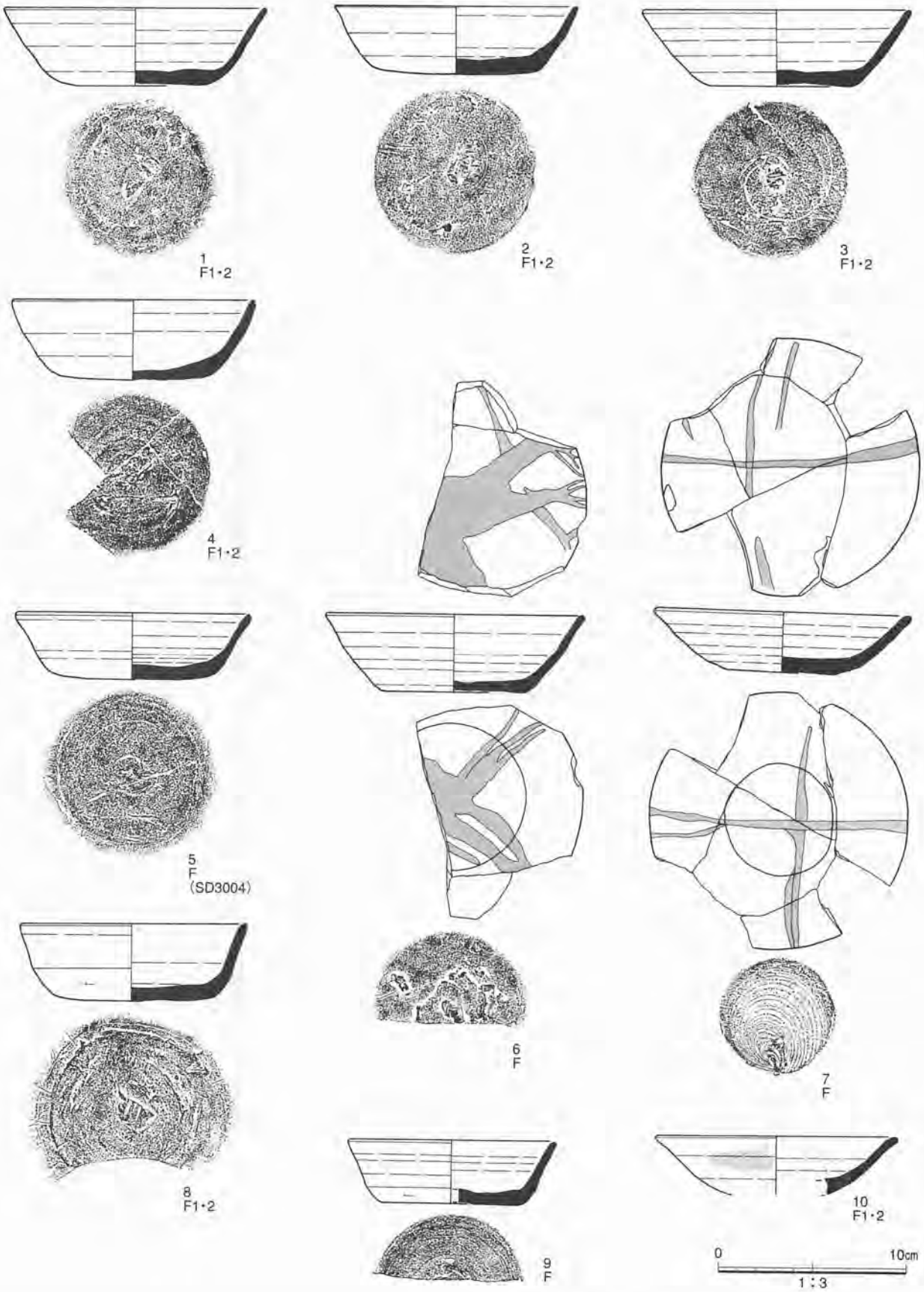
第303図　遺物実測図(153)―SG3001―



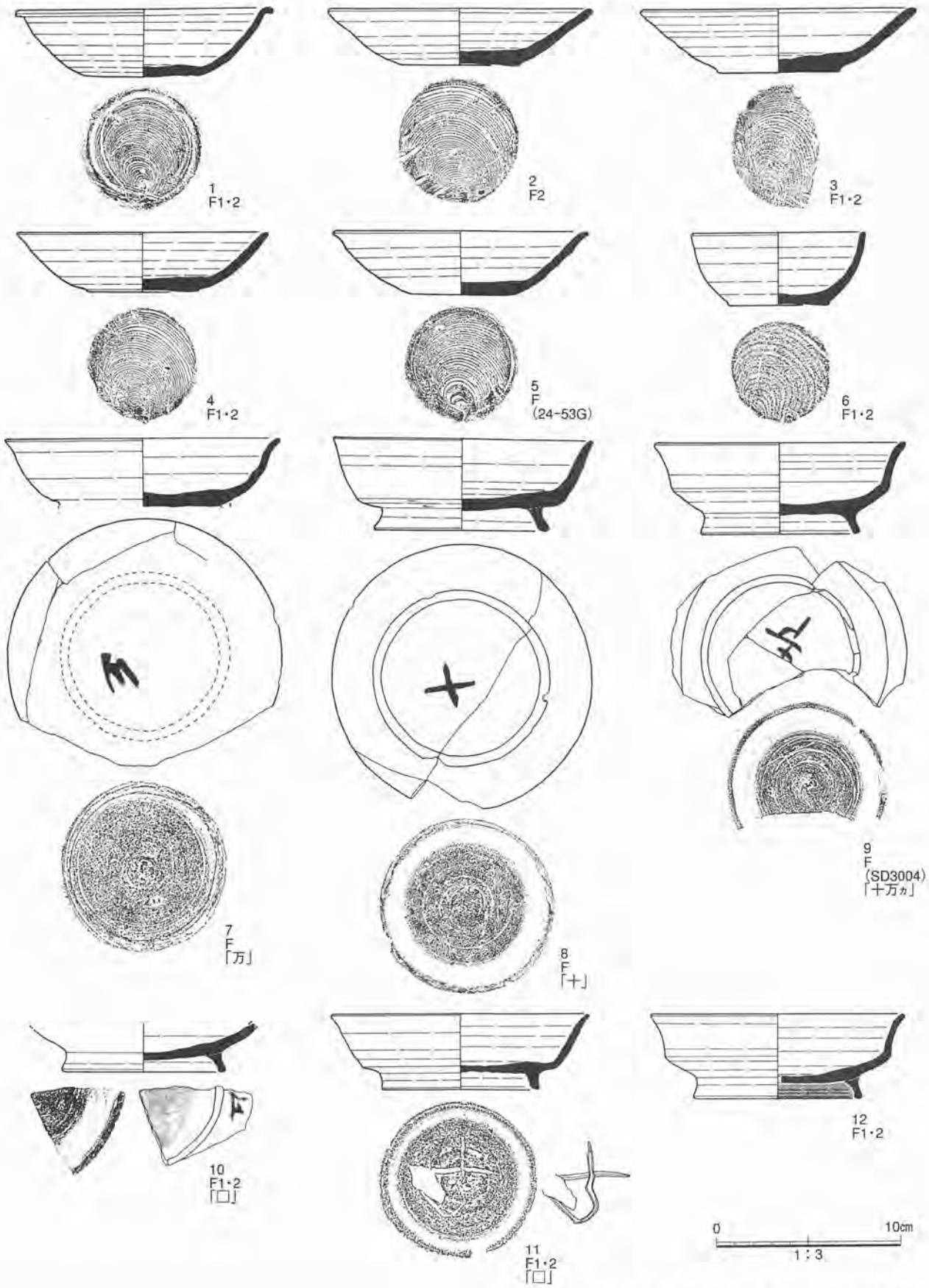
第304図　遺物実測図(154)—SG3001—



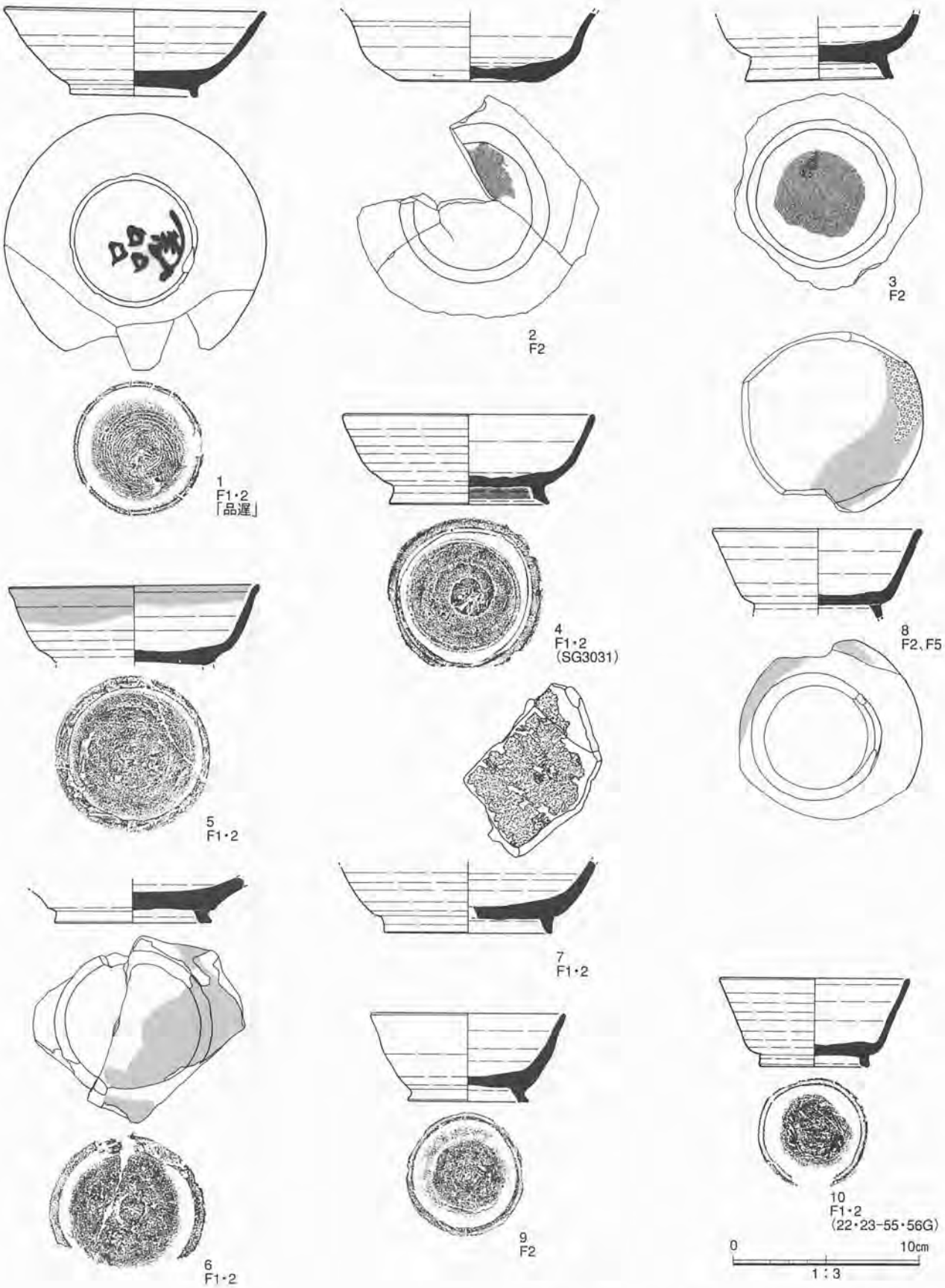
第305図　遺物実測図(155)―SG3001―



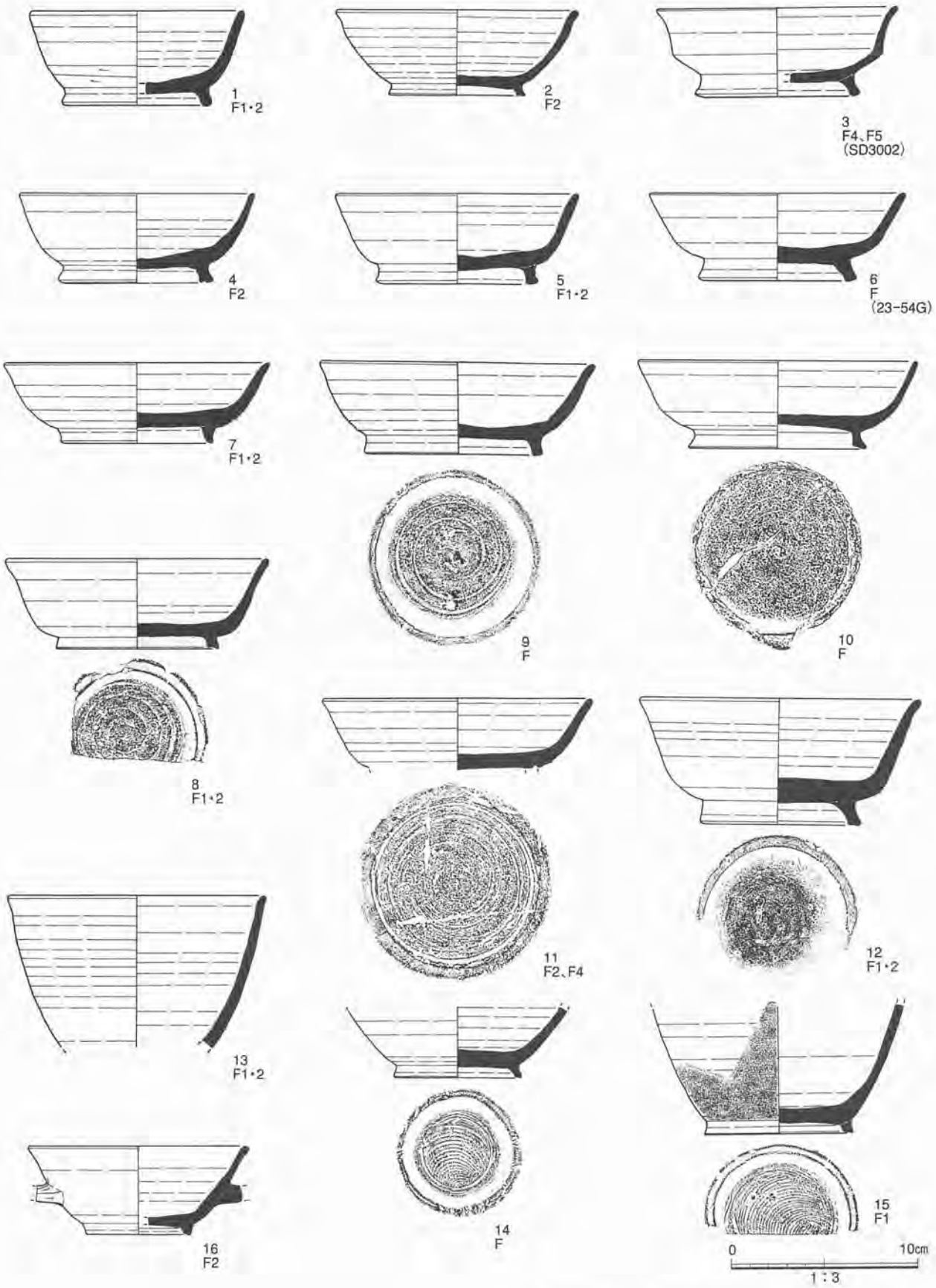
第306図　遺物実測図(156)—SG3001—



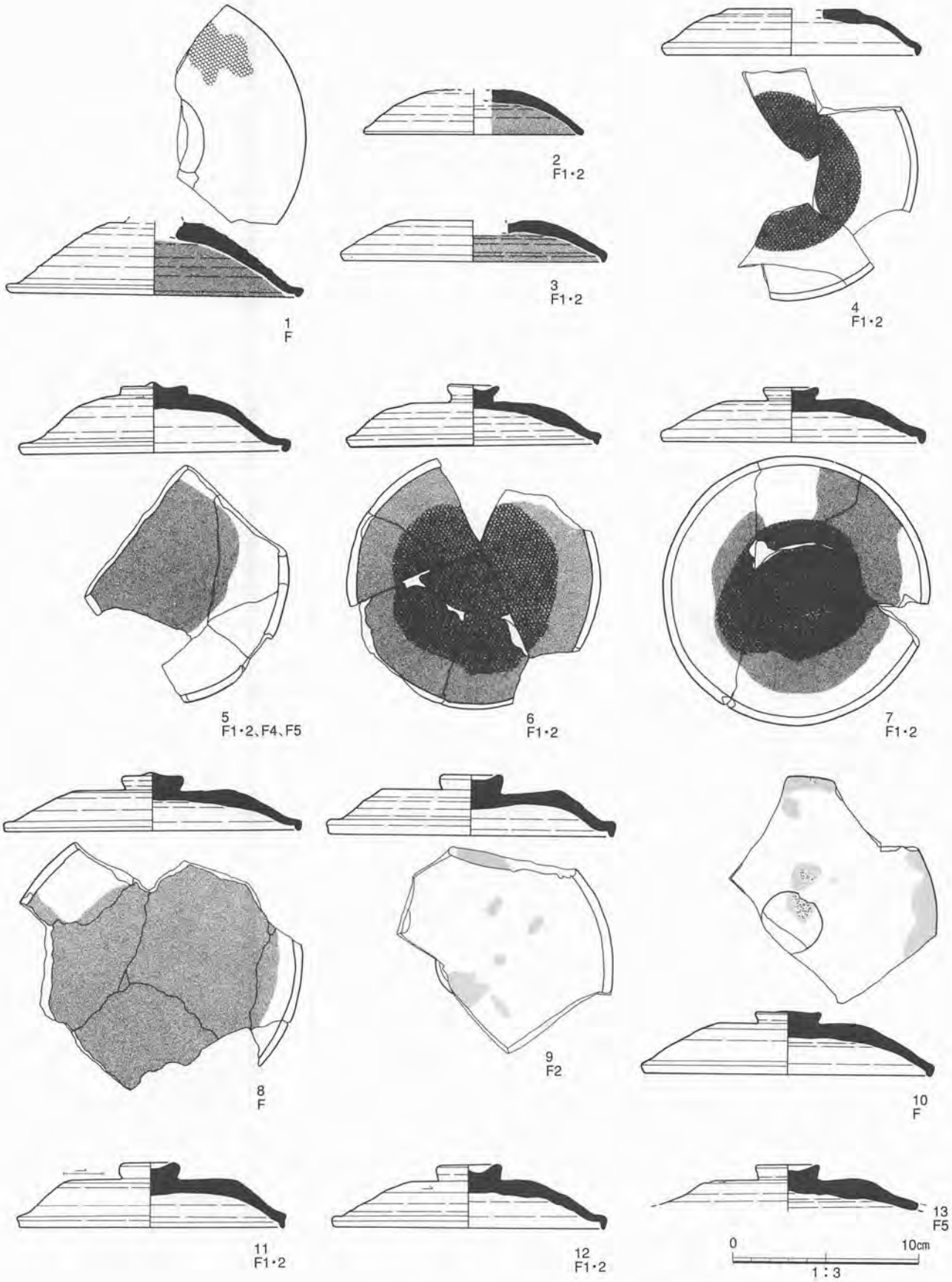
第307図　遺物実測図(157)―SG3001―



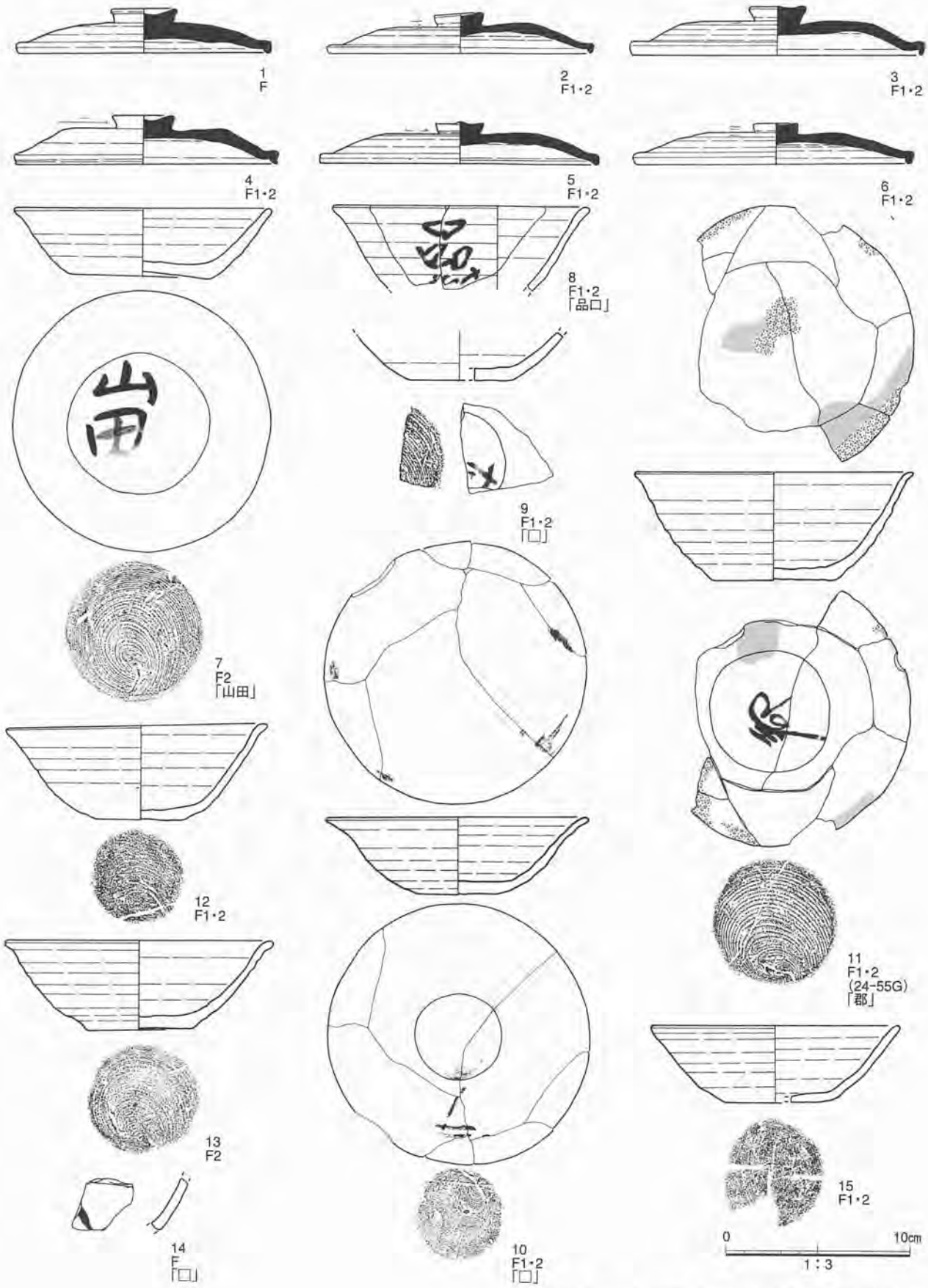
第308図　遺物実測図(158)―SG3001―



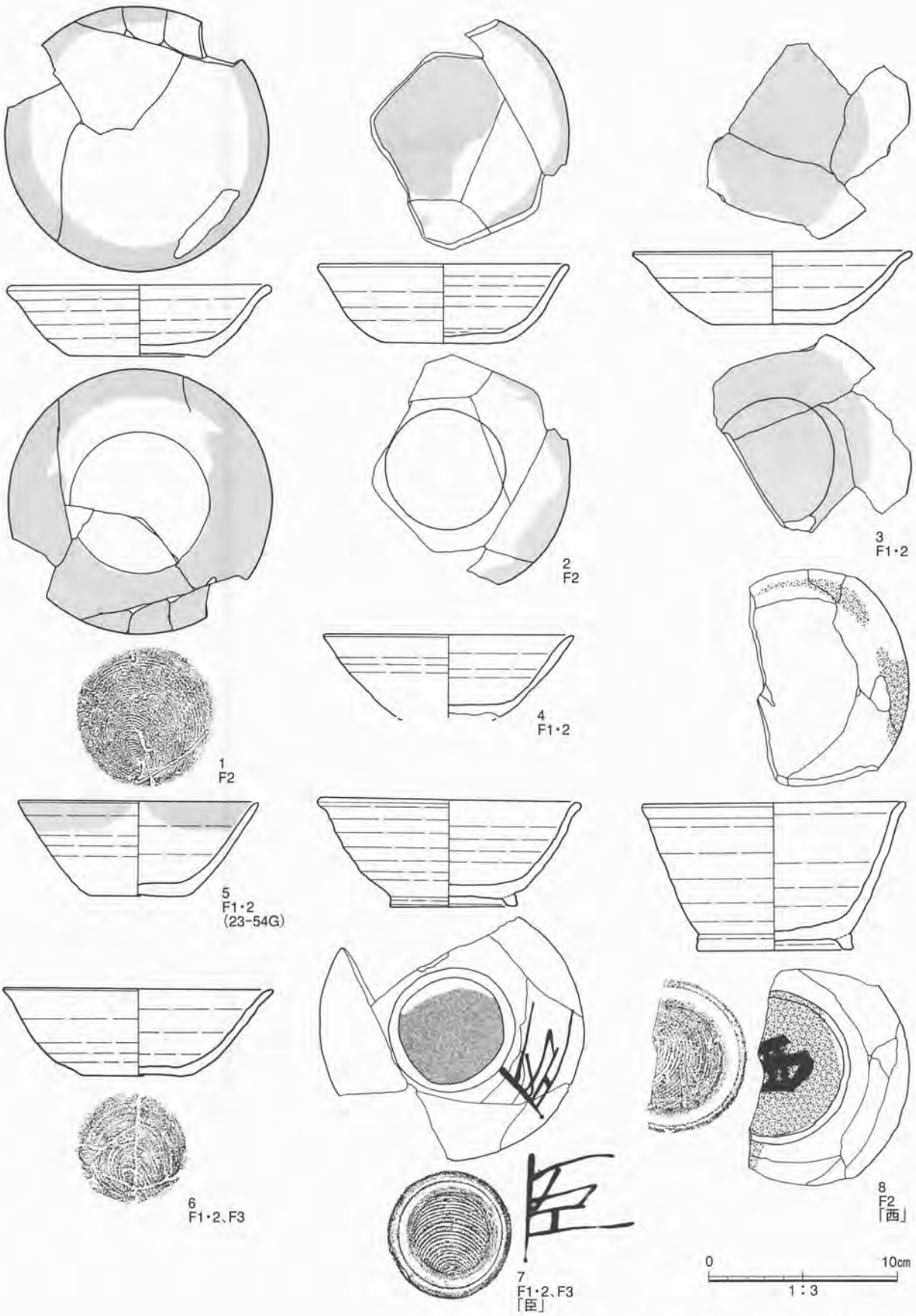
第309図　遺物実測図(159)―SG3001―



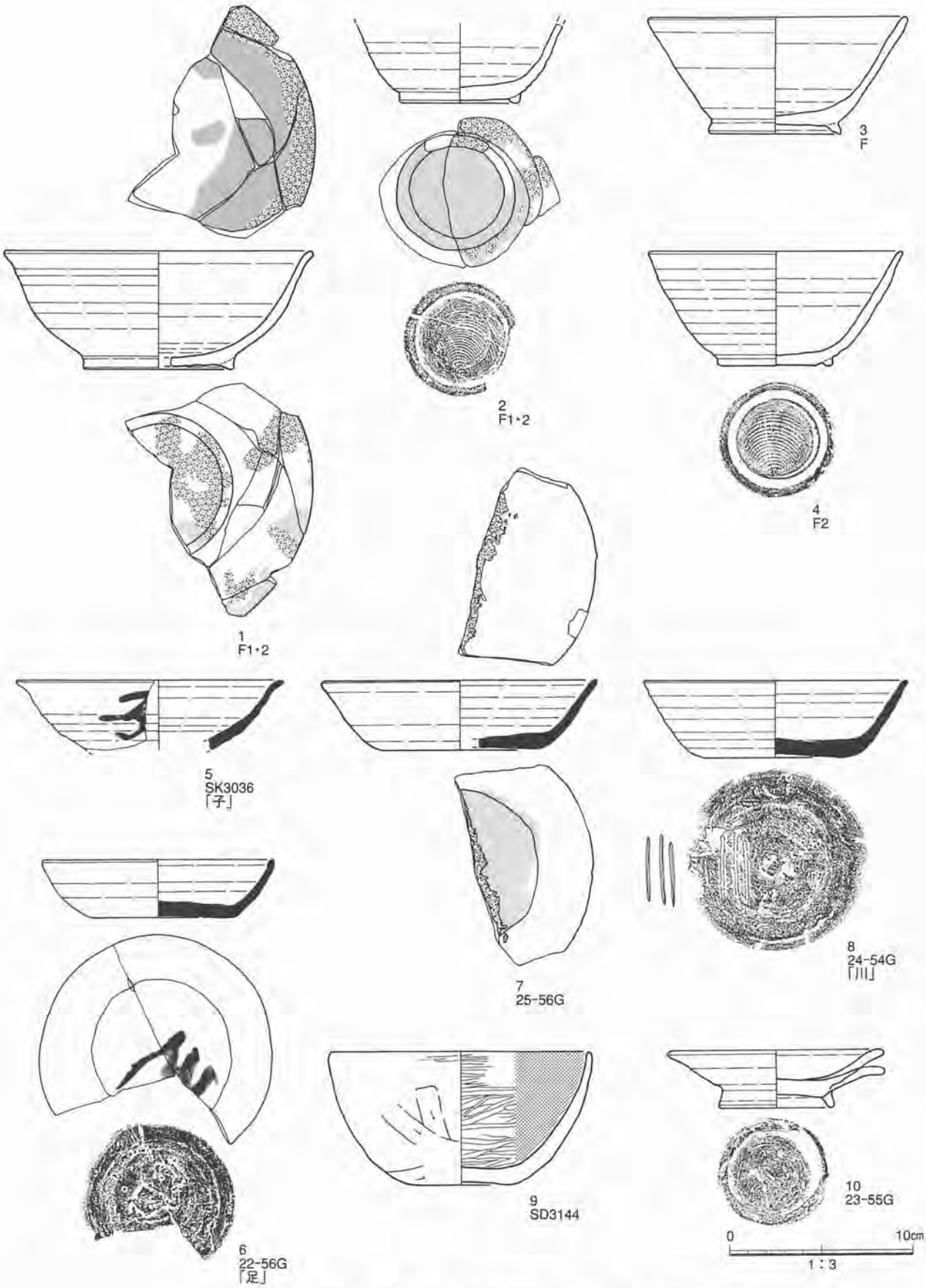
第310図　遺物実測図(160)―SG3001―



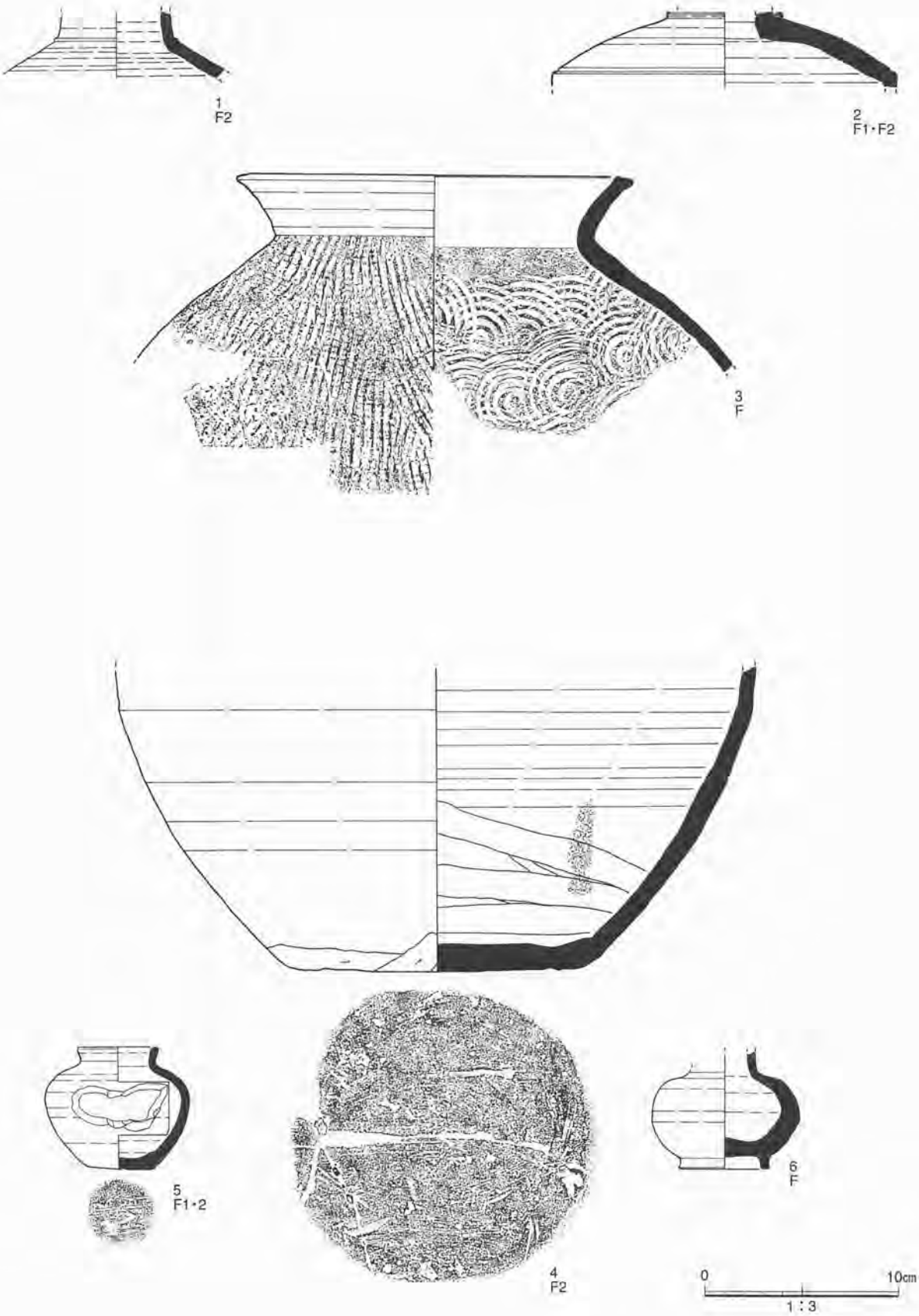
第311図　遺物実測図(161)—SG3001—



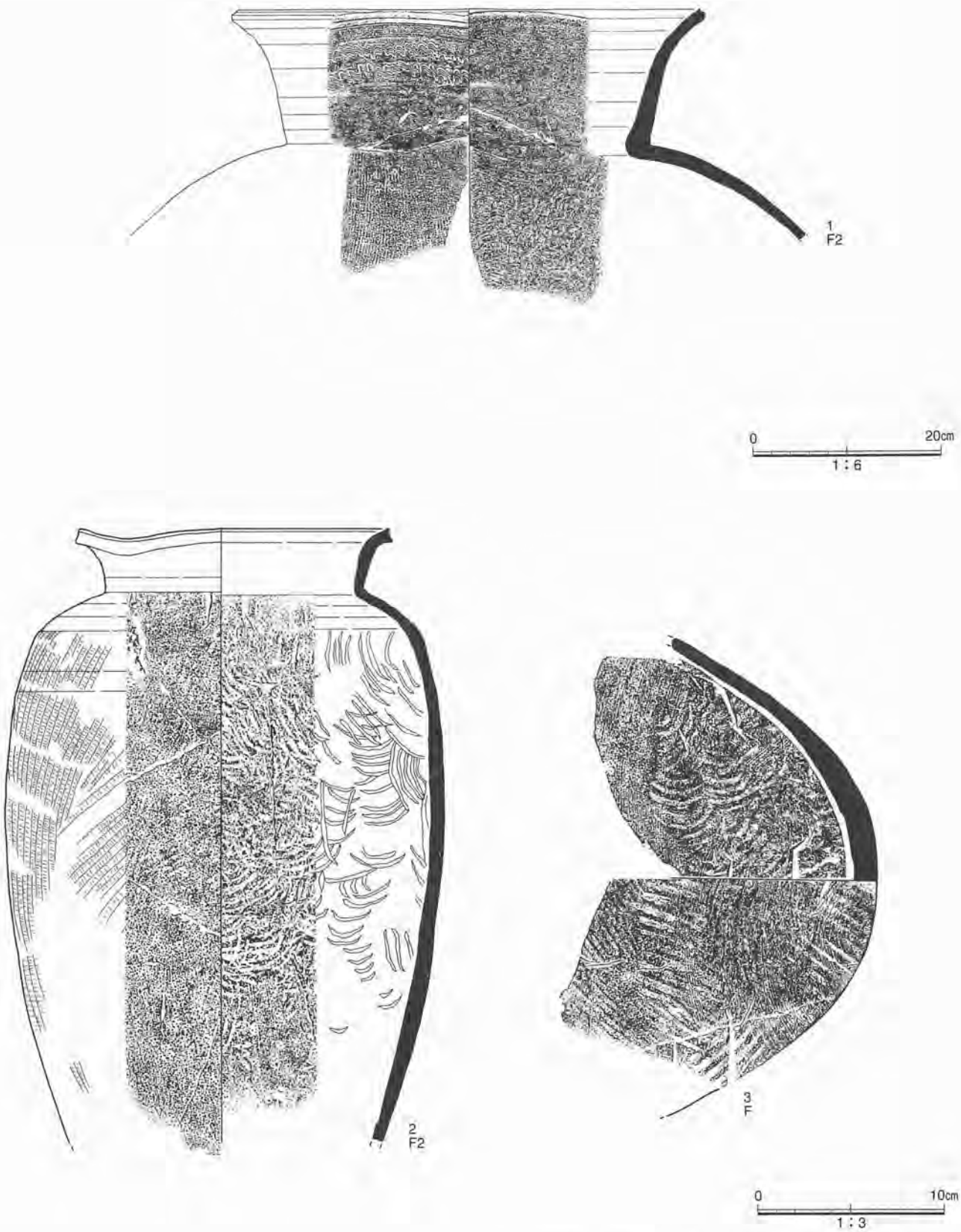
第312図　遺物実測図(162)—SG3001—



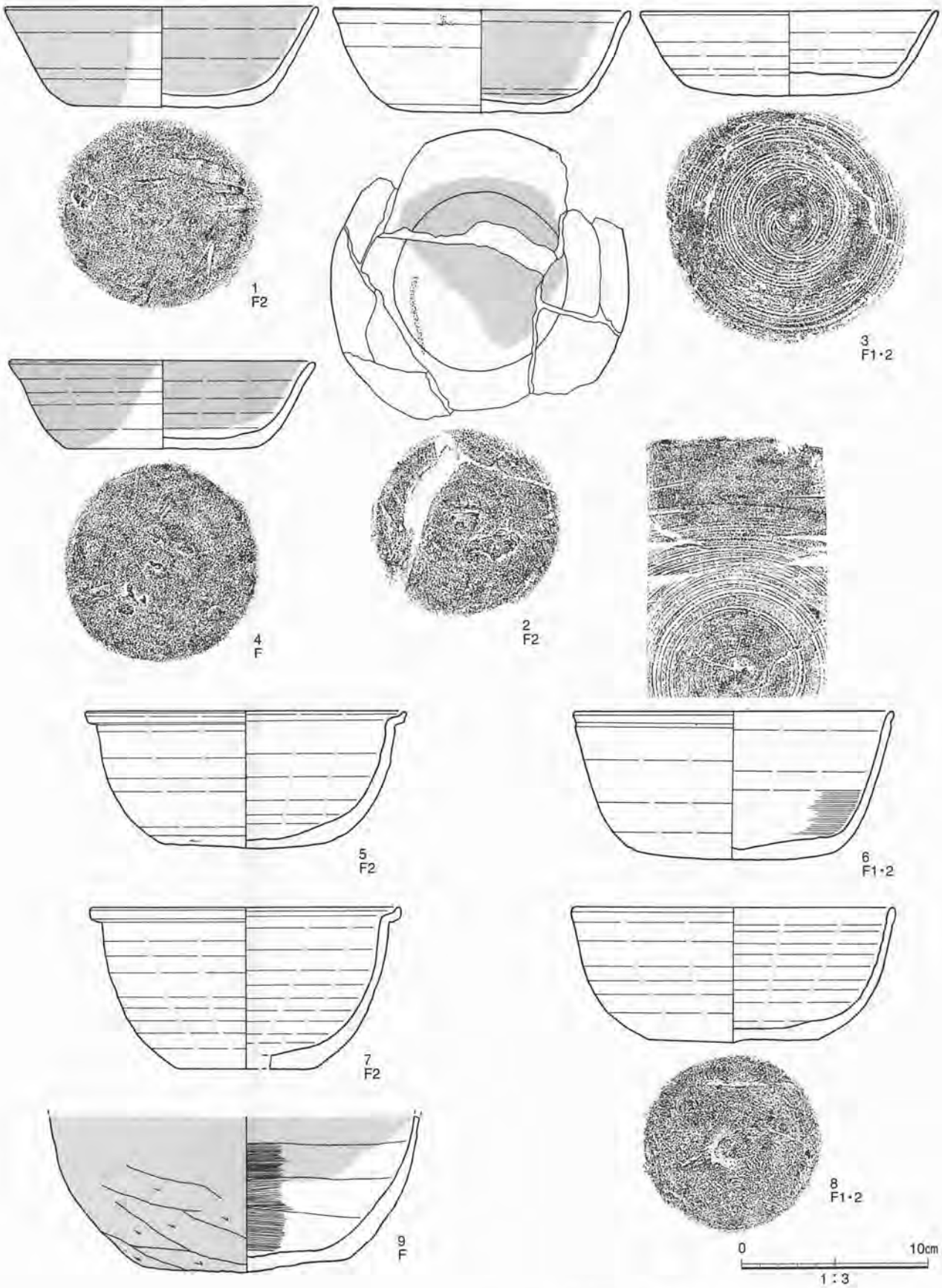
第313図　遺物実測図(163)—SG3001・SK・SD・グリッド—



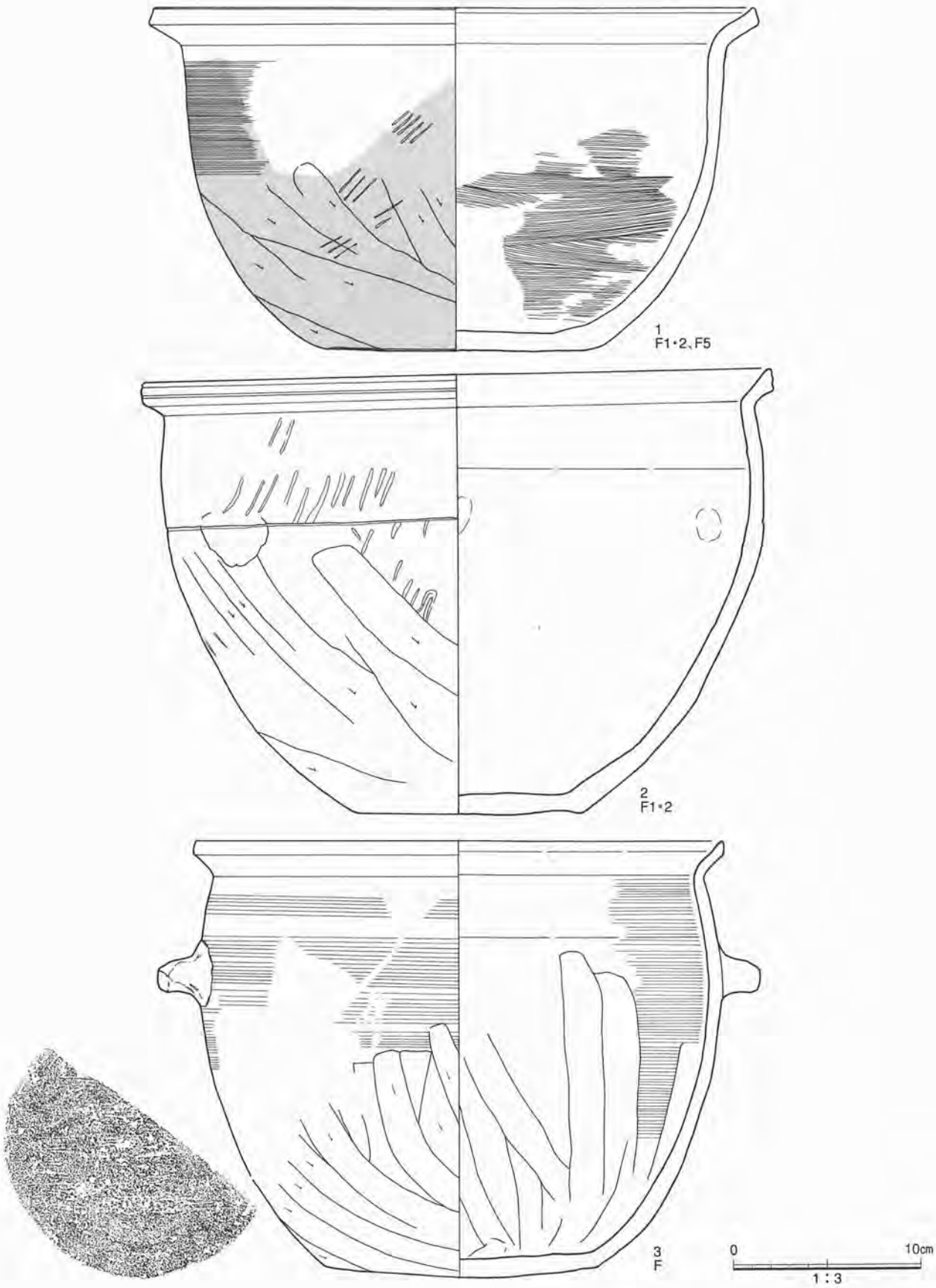
第314図　遺物実測図(164)―SG3001―



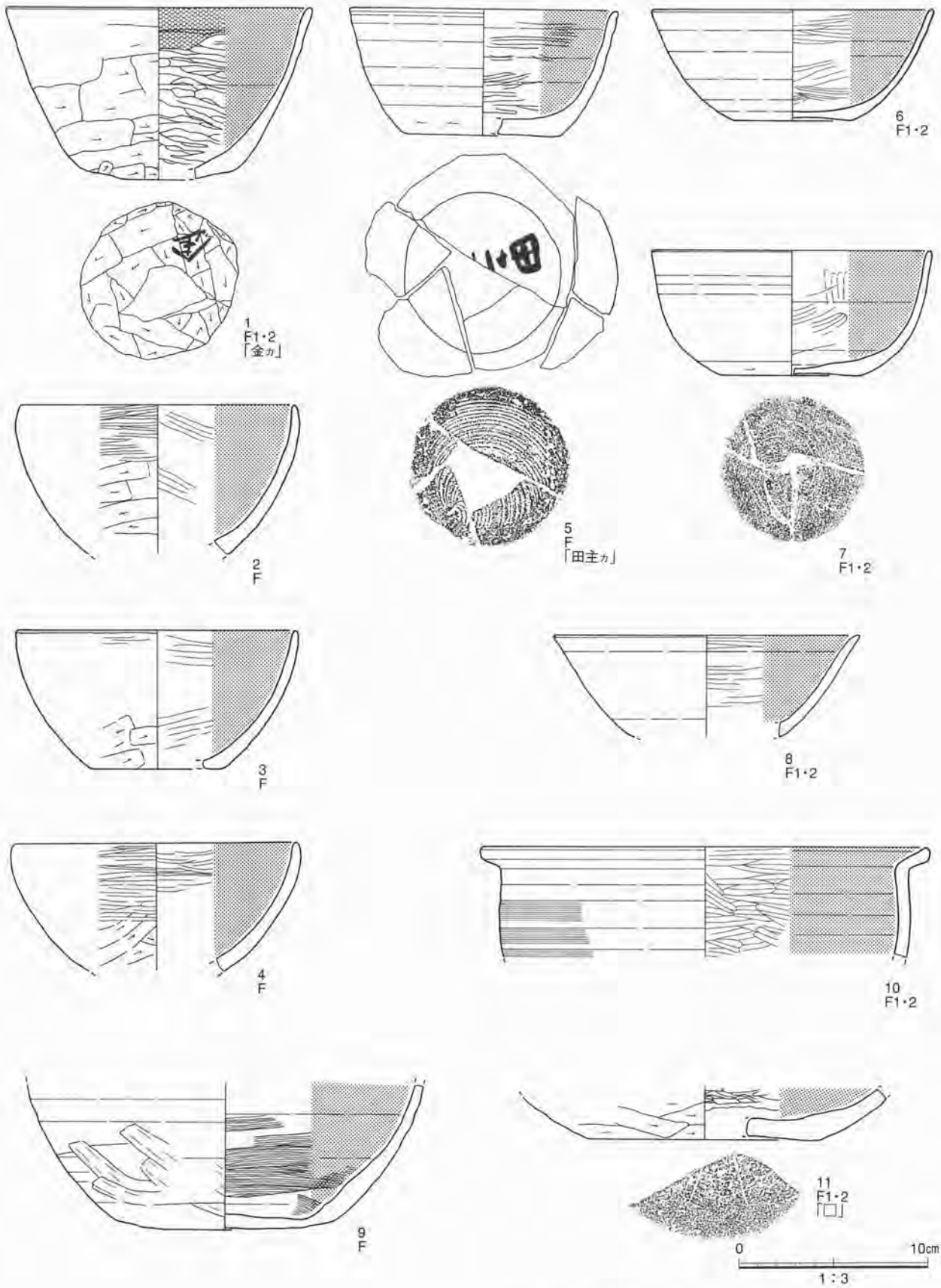
第315図　遺物実測図(165)―SG3001―



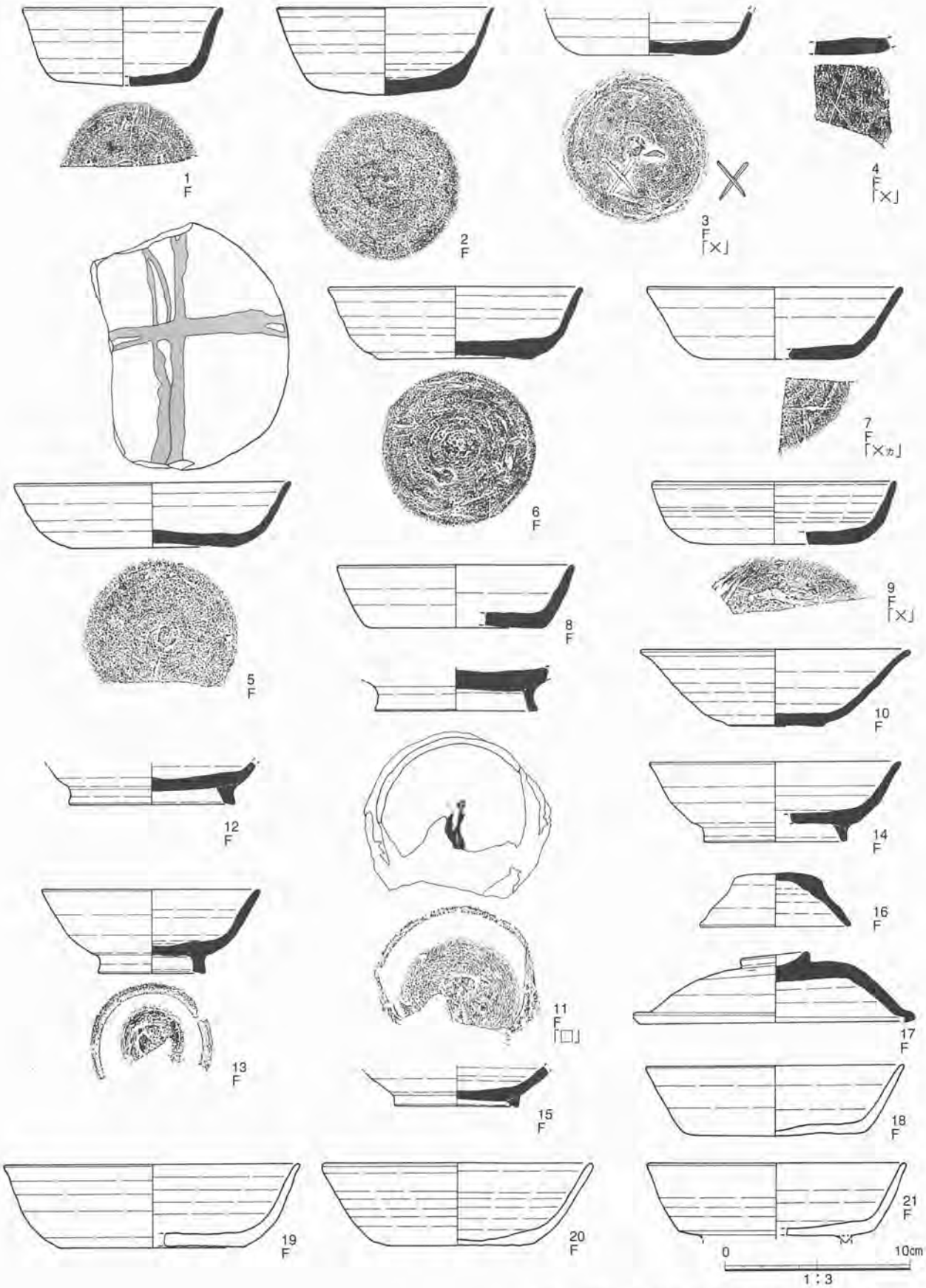
第316図　遺物実測図(166)―SG3001―



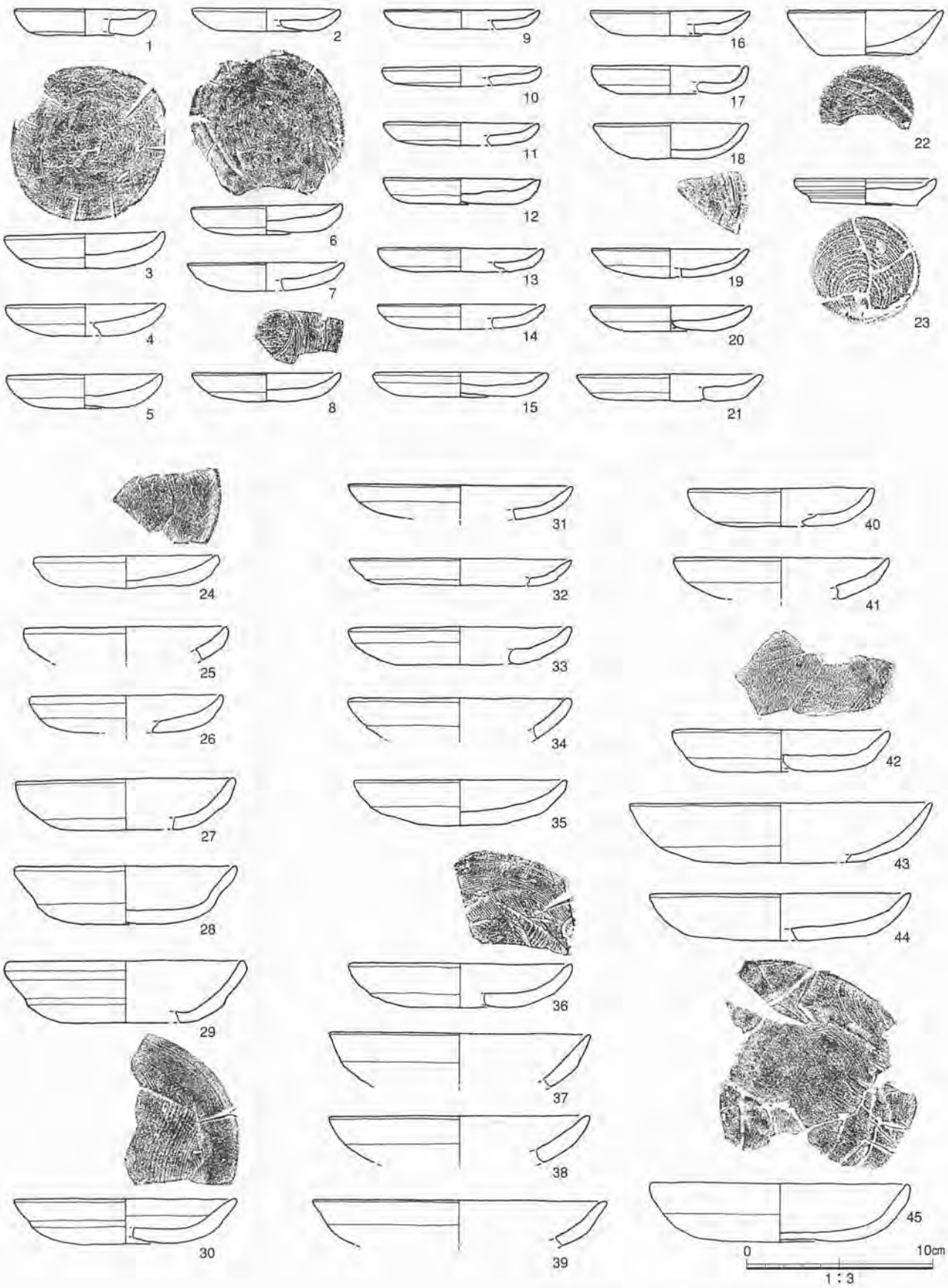
第317図　遺物実測図(167)―SG3001―



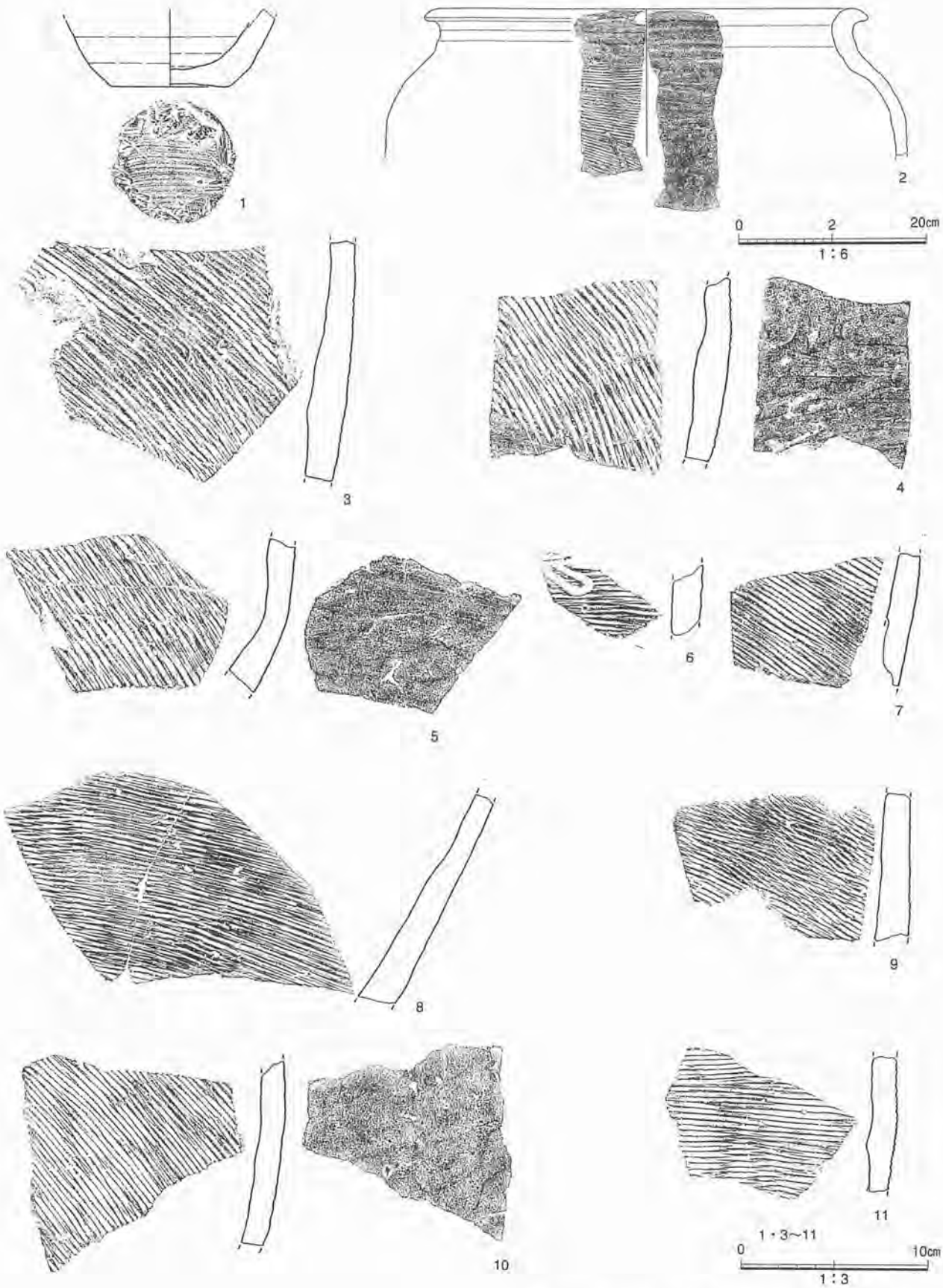
第318図　遺物実測図(168)—SG3001—



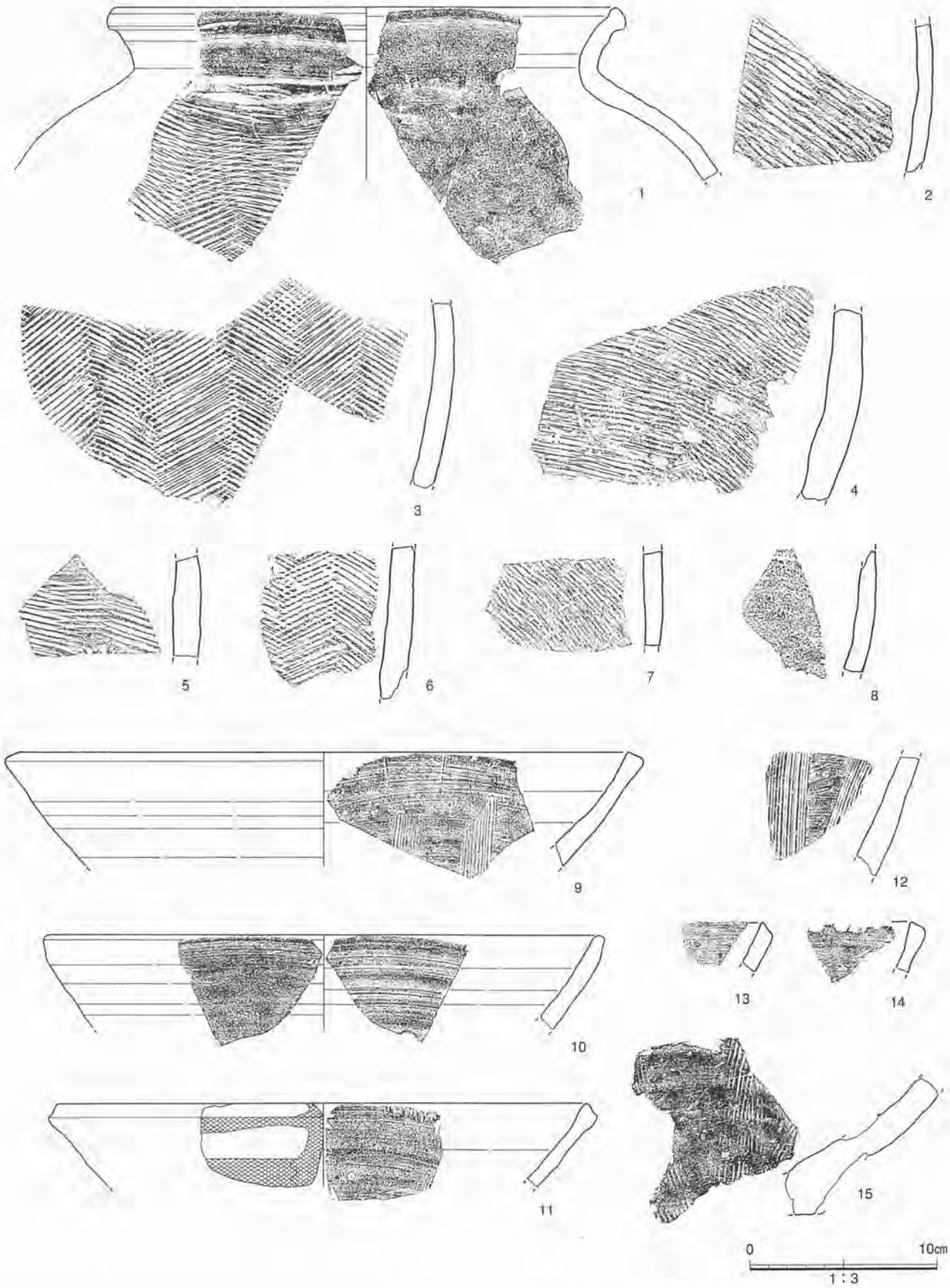
第319図　遺物実測図(169)―SG8602―



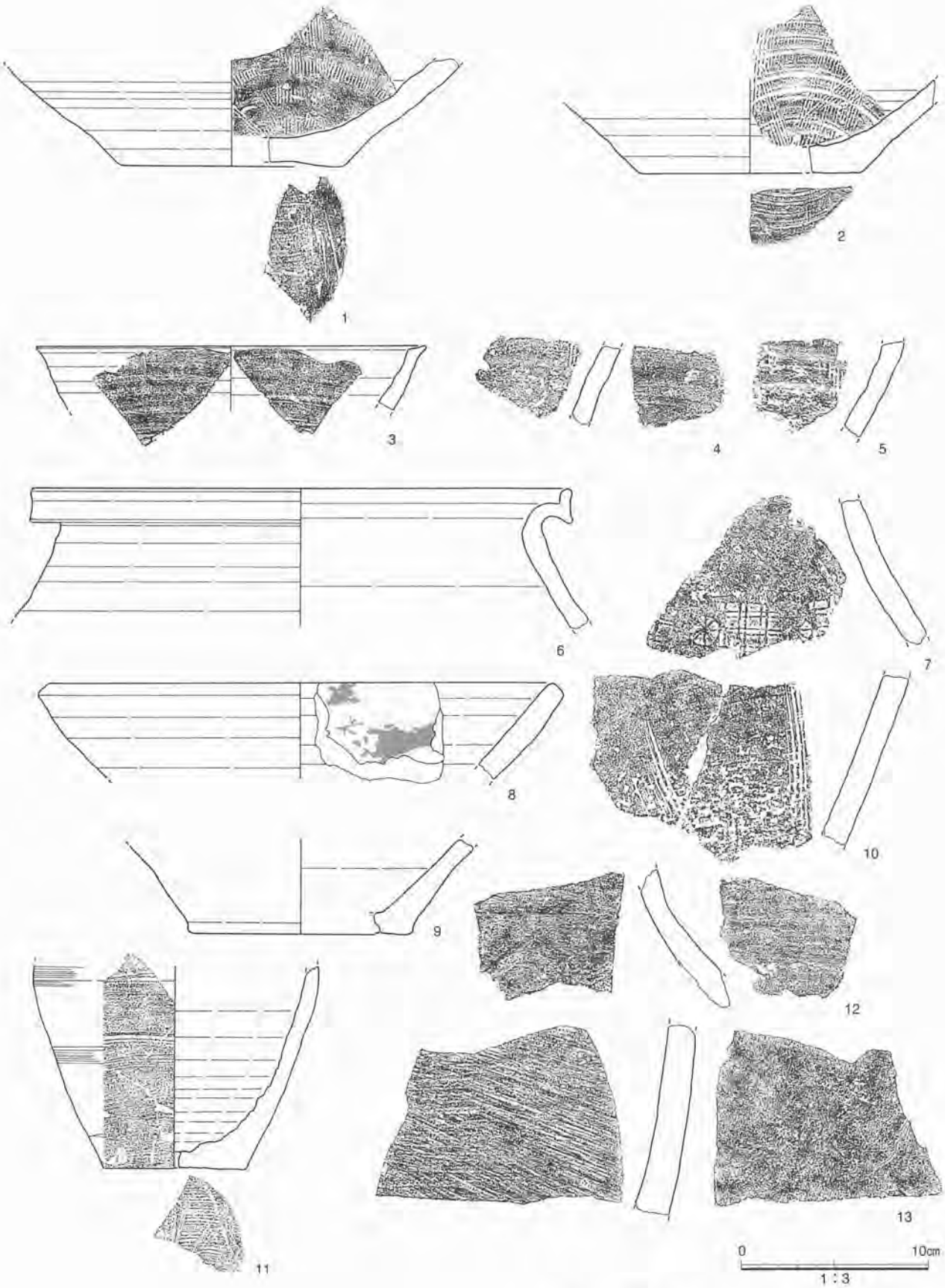
第320図　遺物実測図(170)―かわらけ―



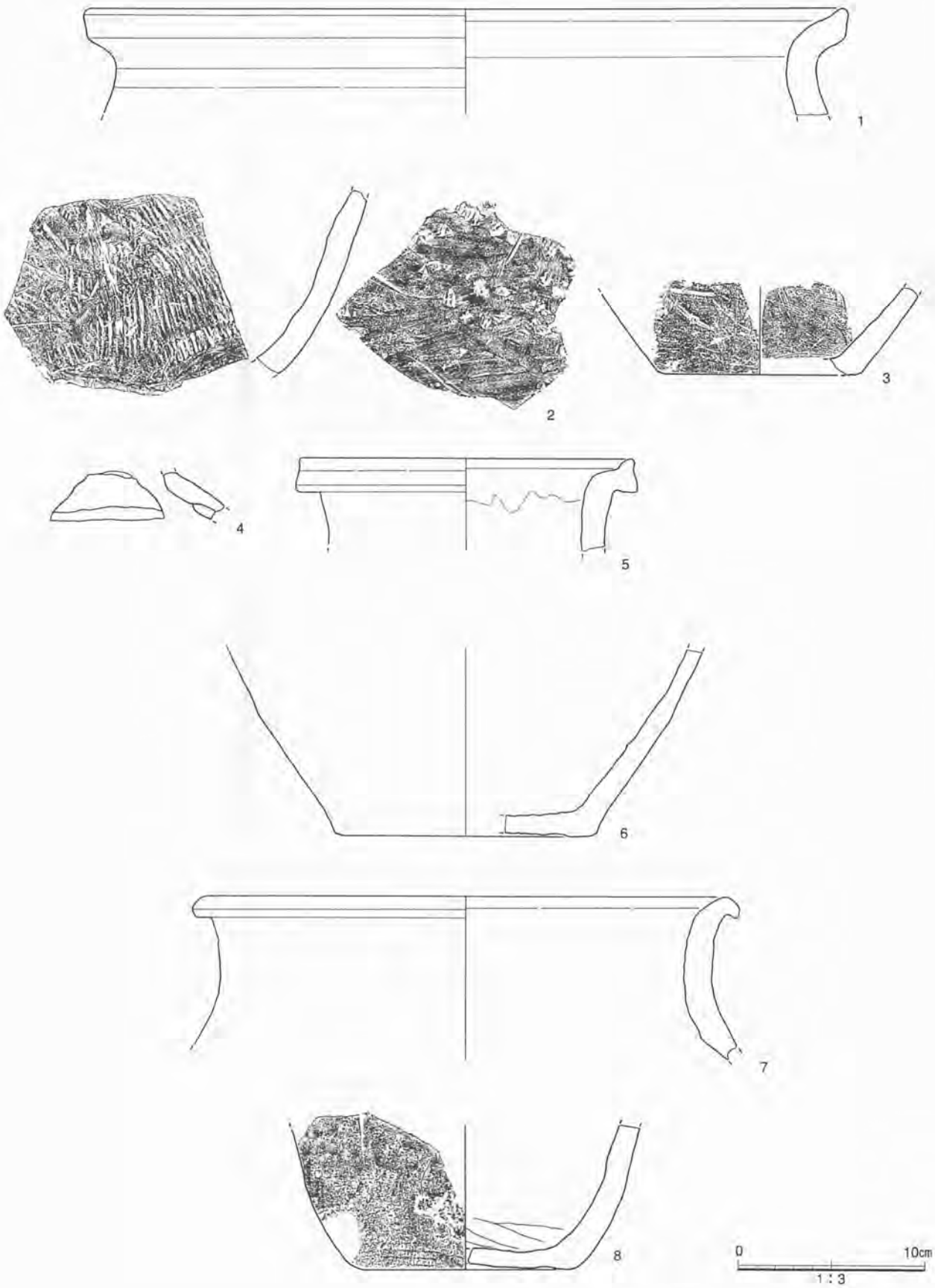
第321図　遺物実測図(171)―中世陶器―



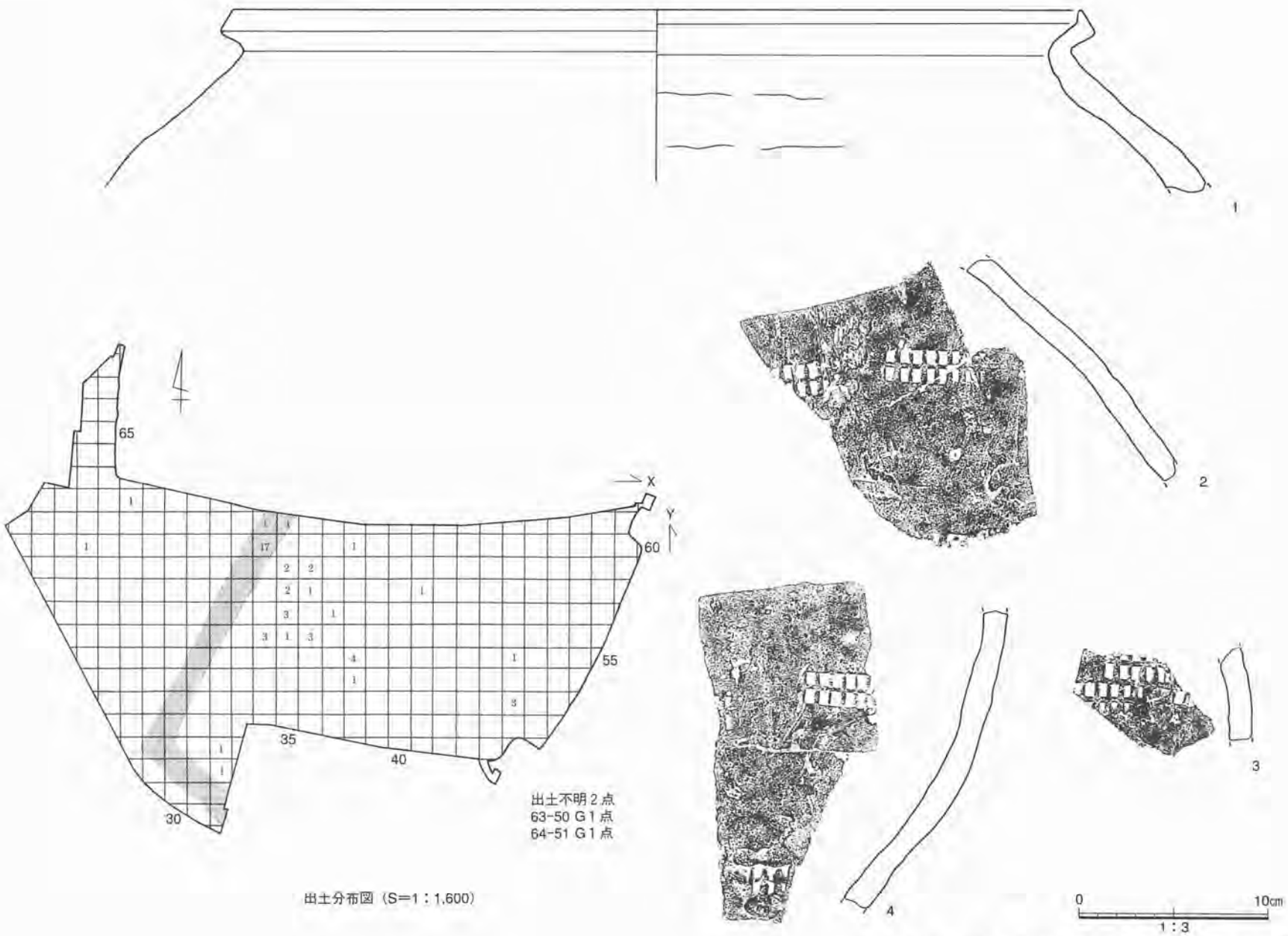
第322図　遺物実測図(172)―中世陶器―



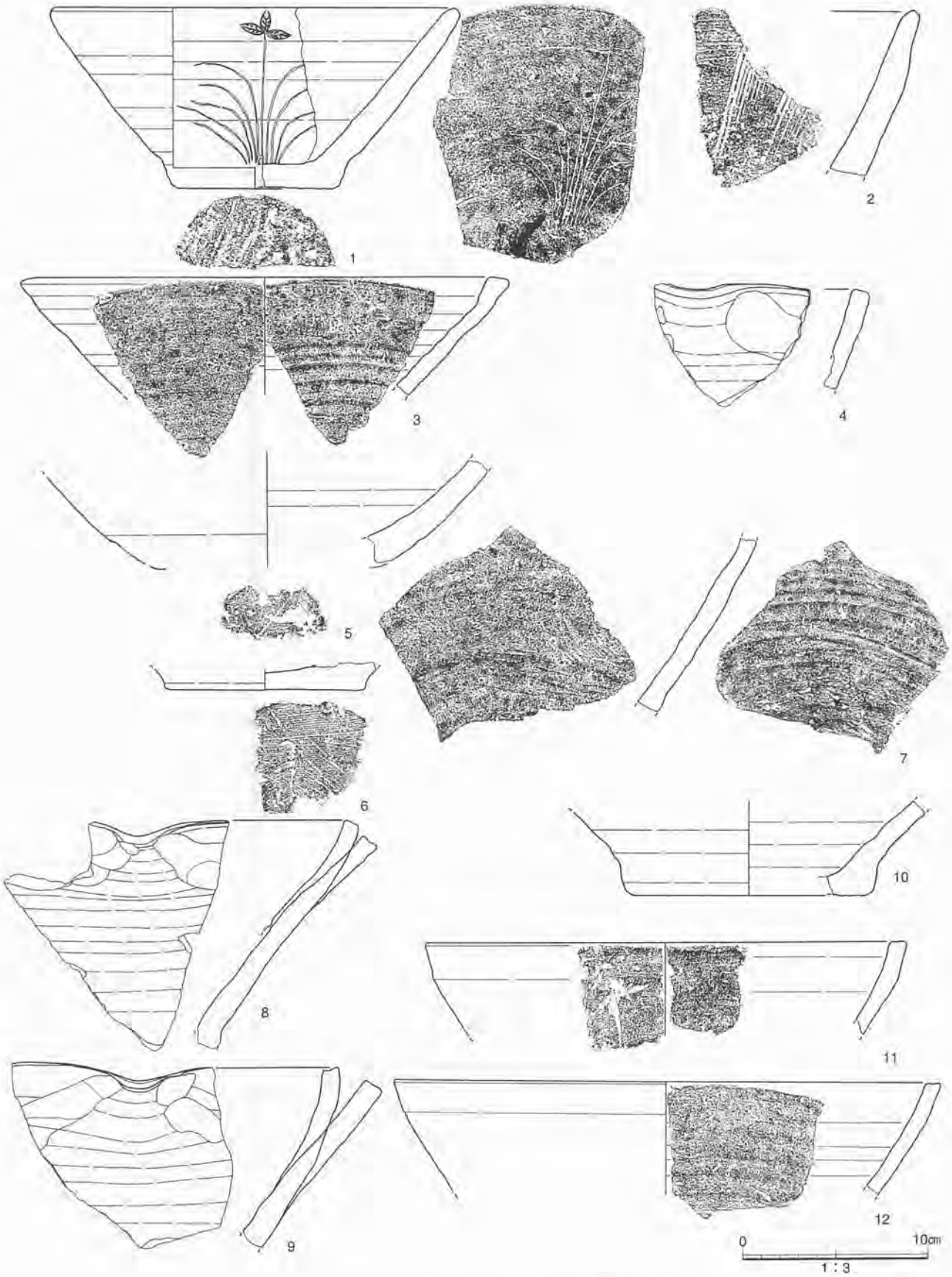
第323図　遺物実測図(173)―中世陶器―



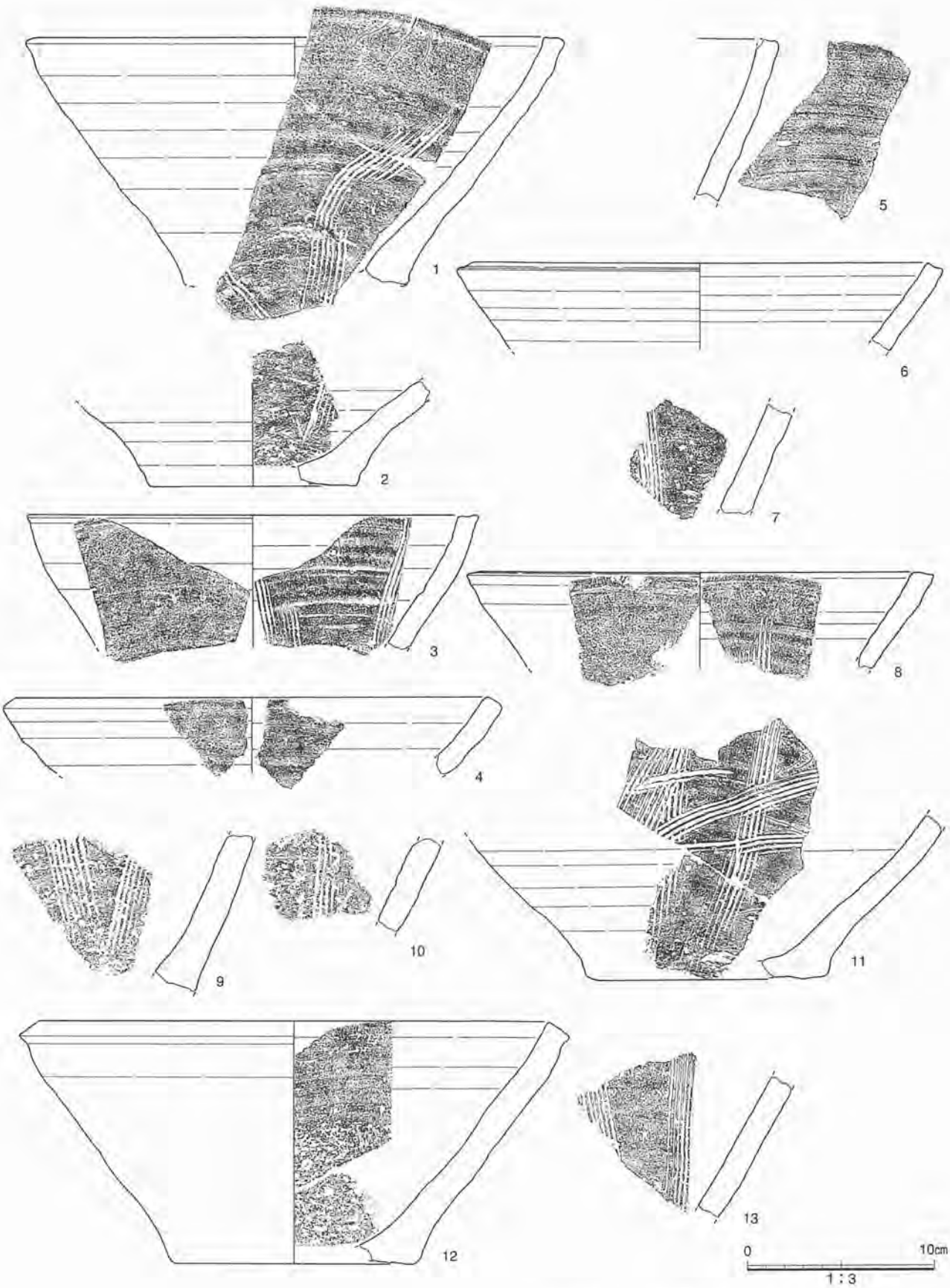
第324図　遺物実測図(174)―中世陶器―



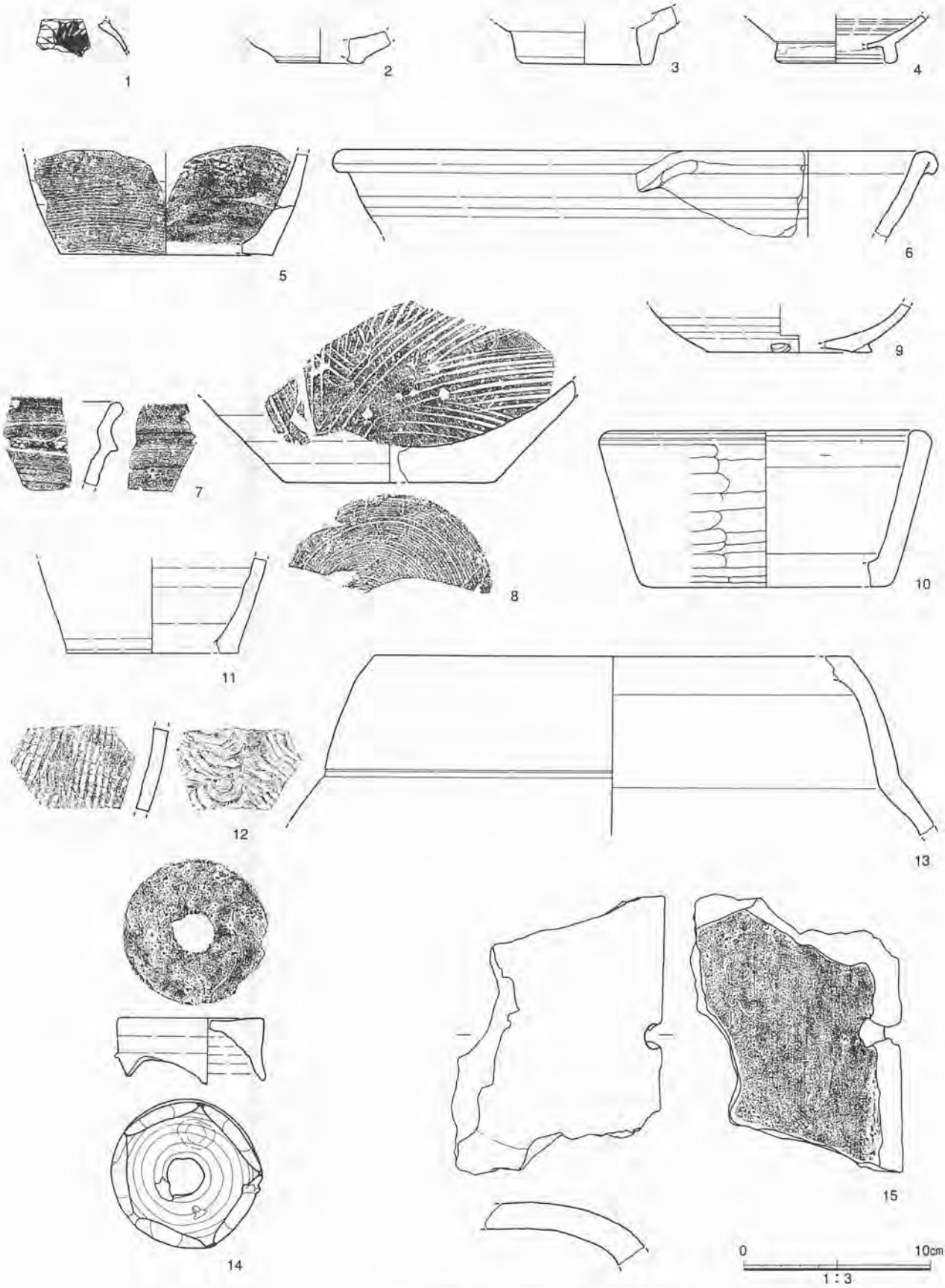
第325図　遺物実測図(175)―中世陶器―



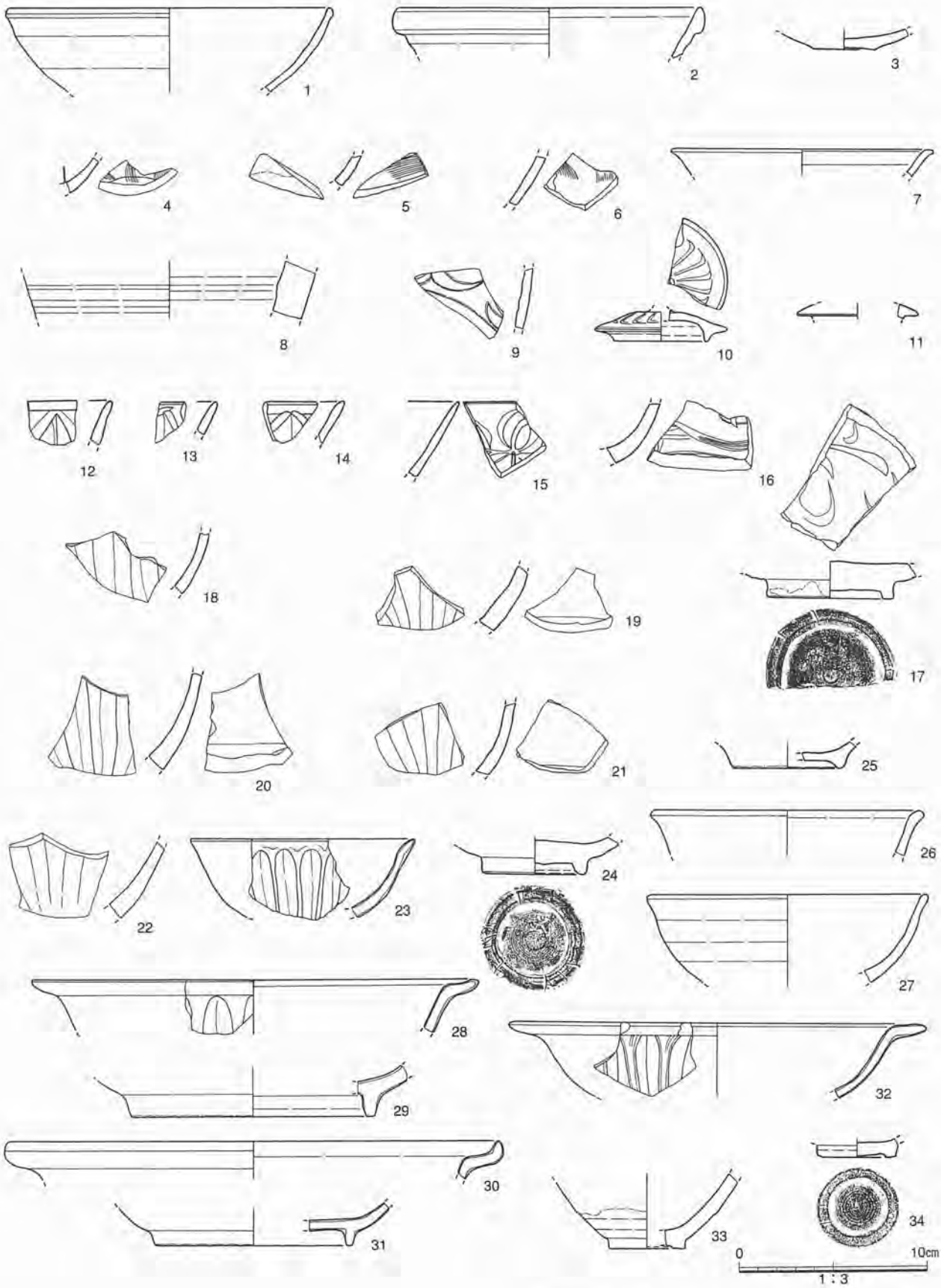
第326図　遺物実測図(176)―中世陶器―



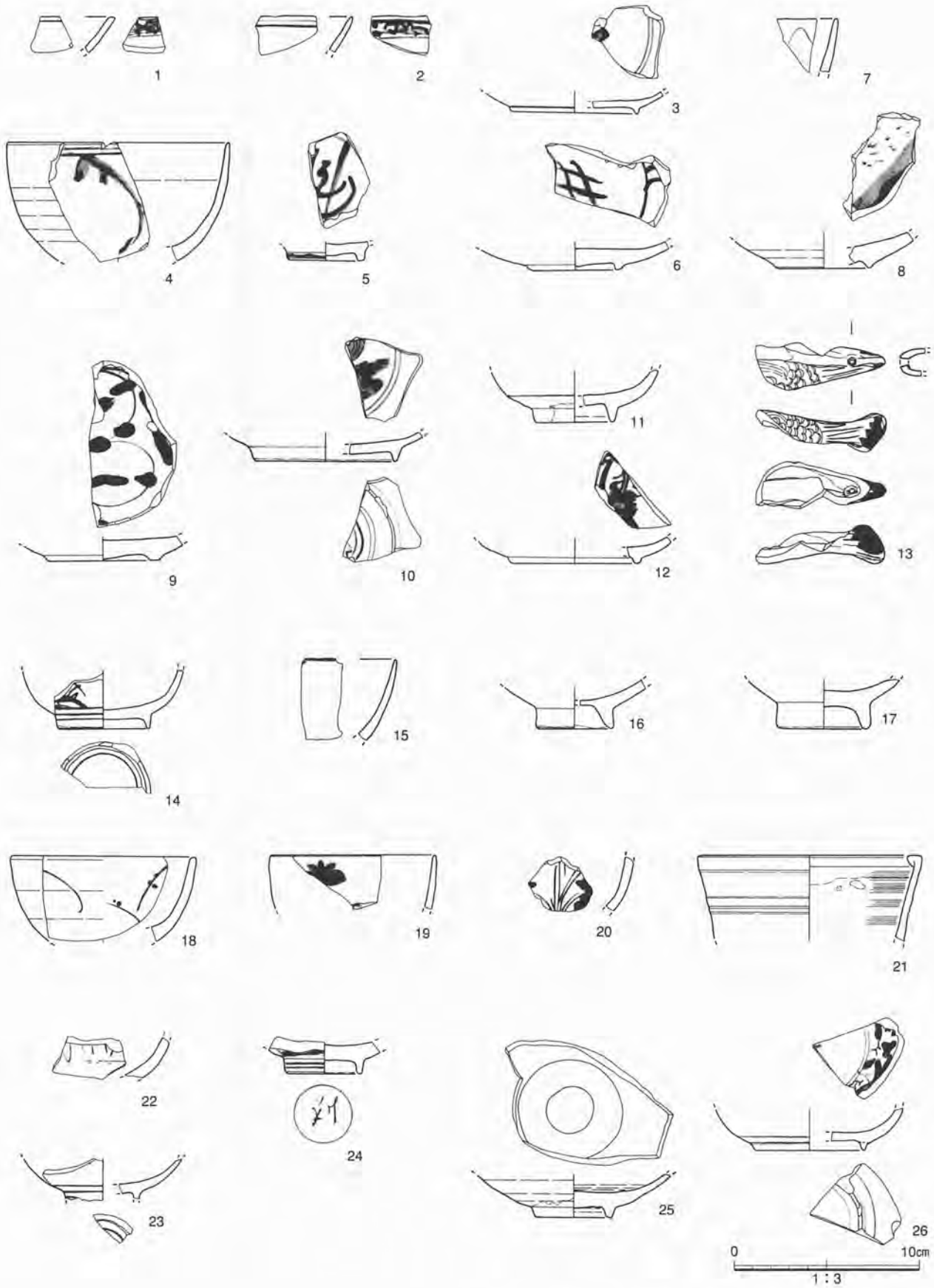
第327図　遺物実測図(177)―中世陶器―



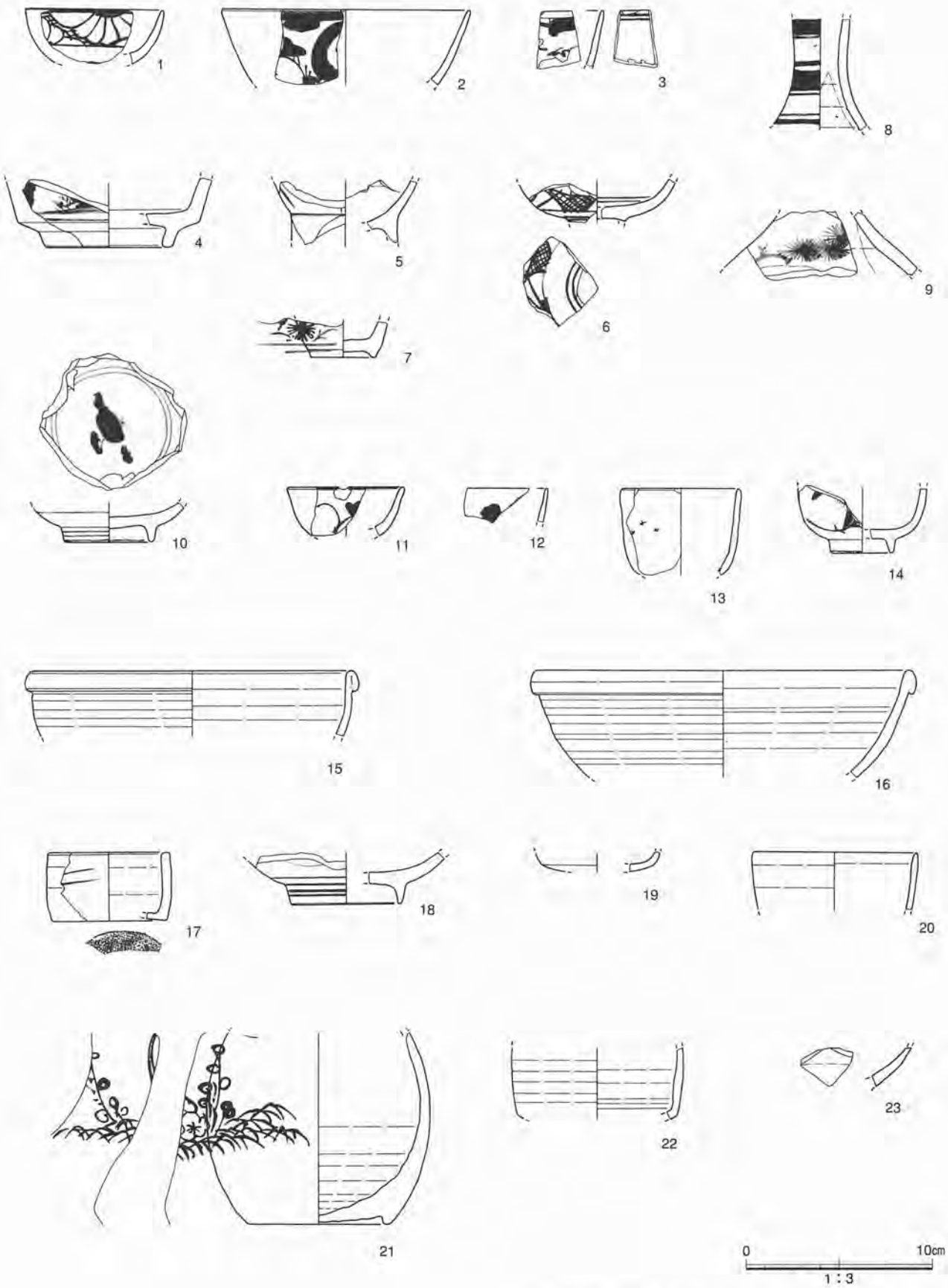
第328図　遺物実測図(178)―近世陶器・その他―



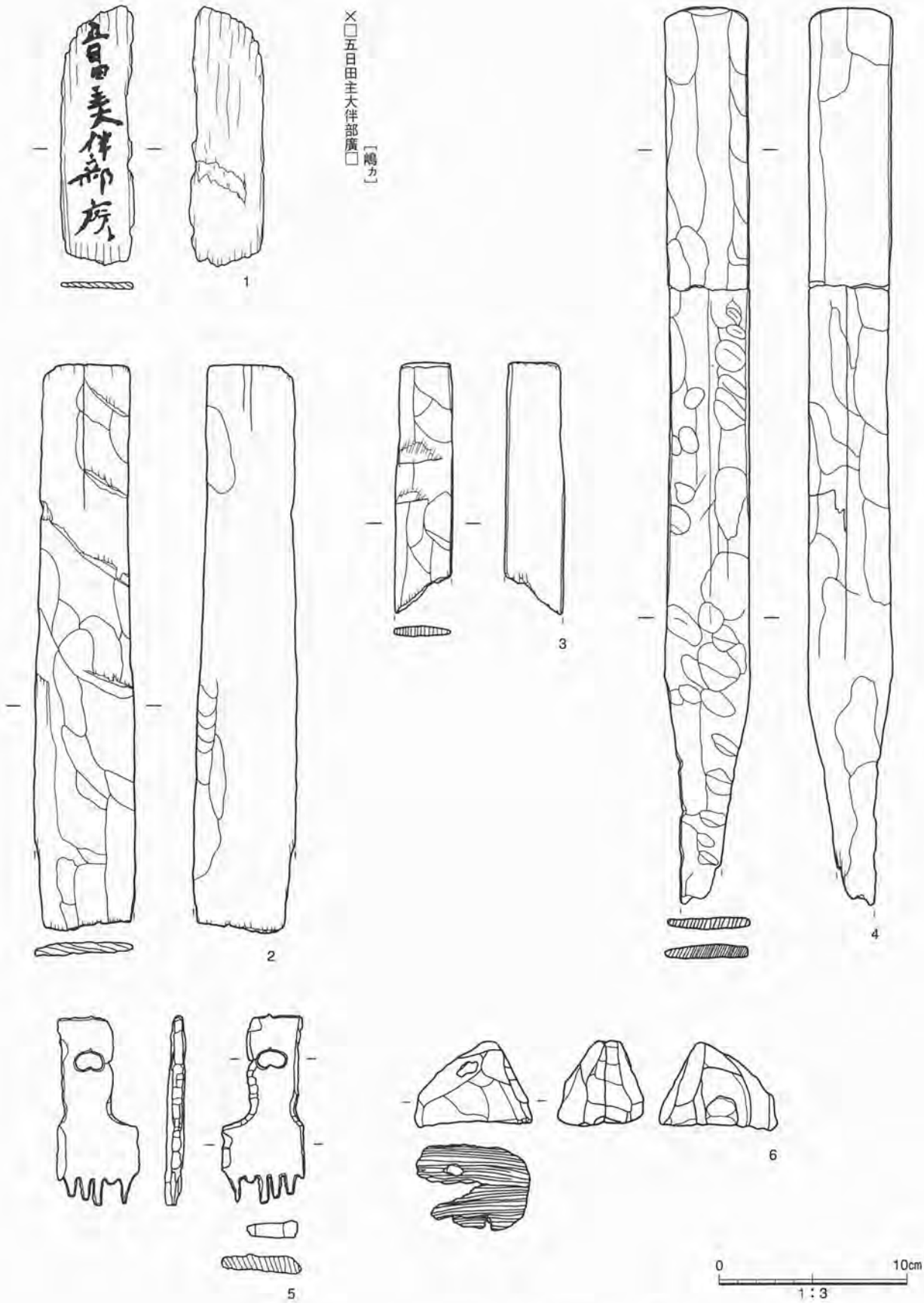
第329図　遺物実測図(179)―中世磁器―



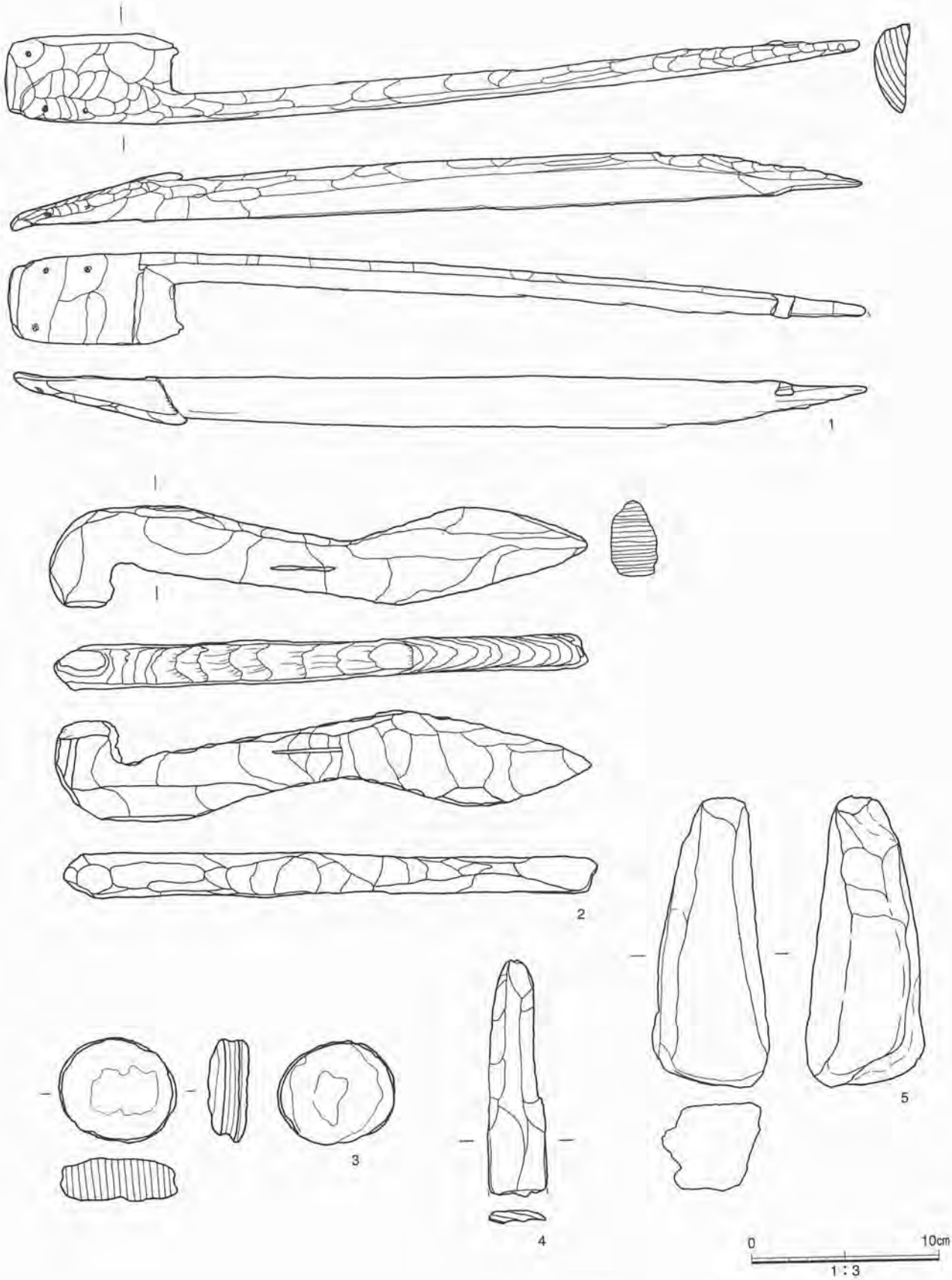
第330図　遺物実測図(180)―近世磁器―



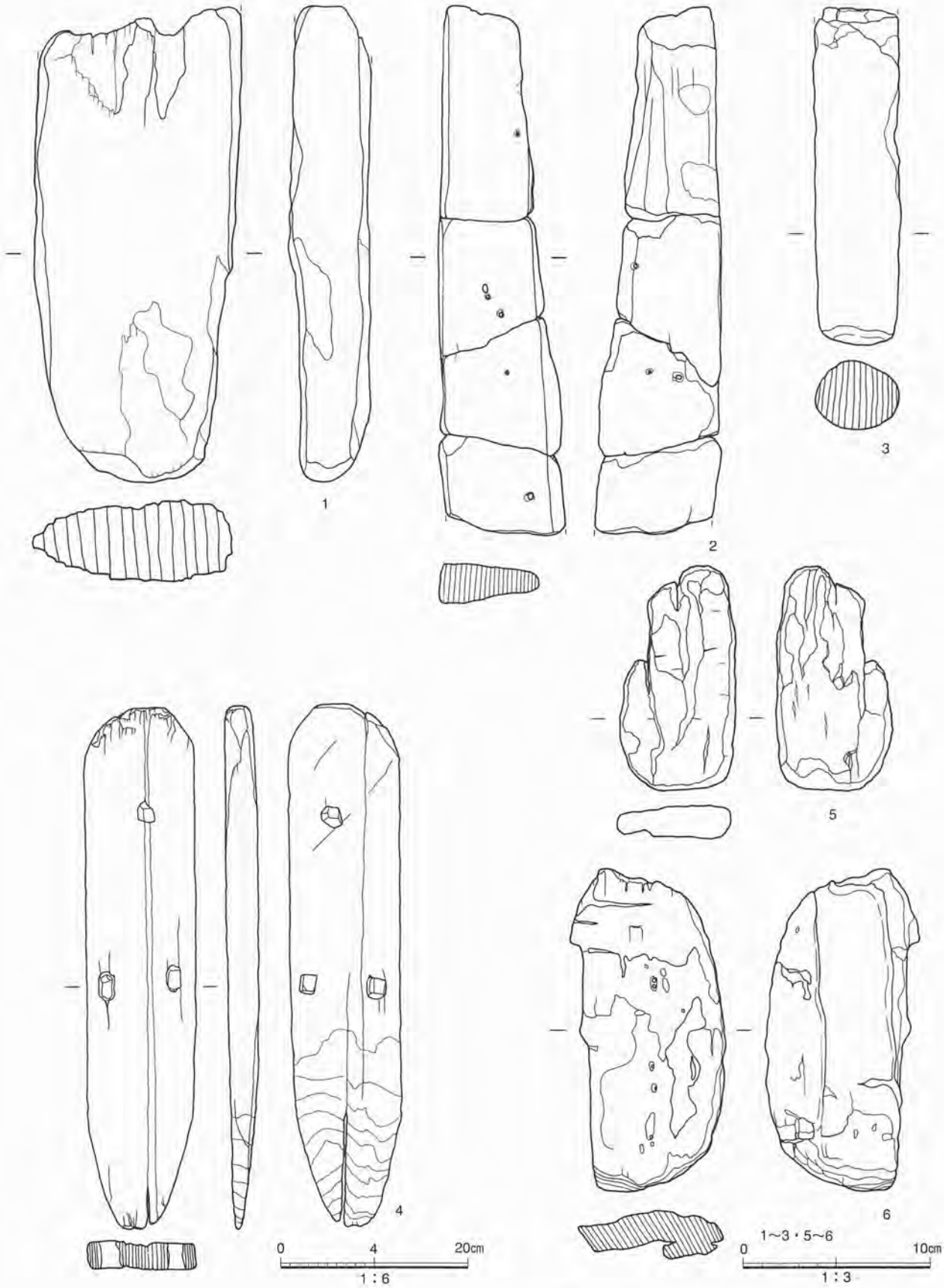
第331図　遺物実測図(181)―近世磁器―



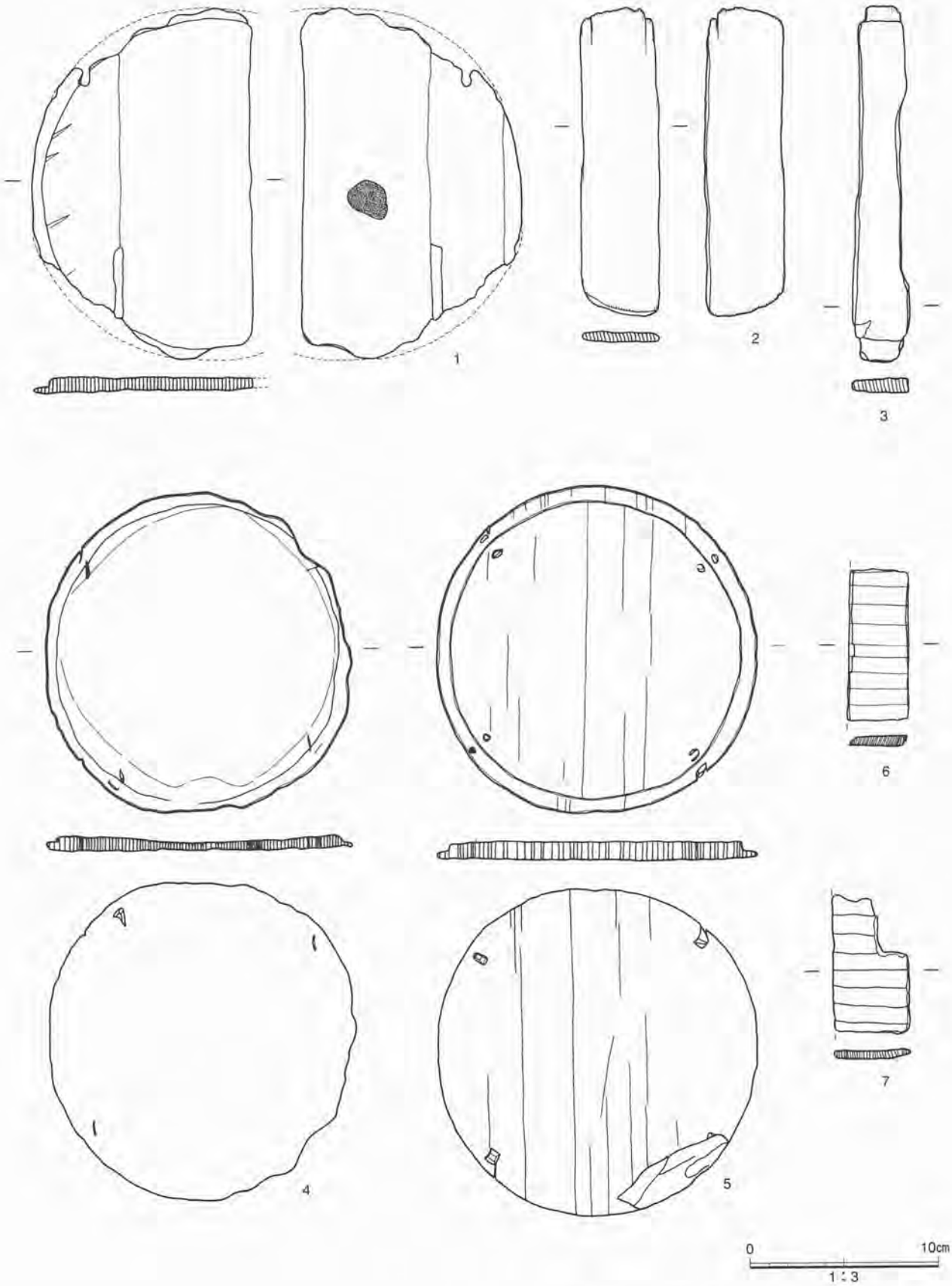
第332図　遺物実測図(182)―木製品―



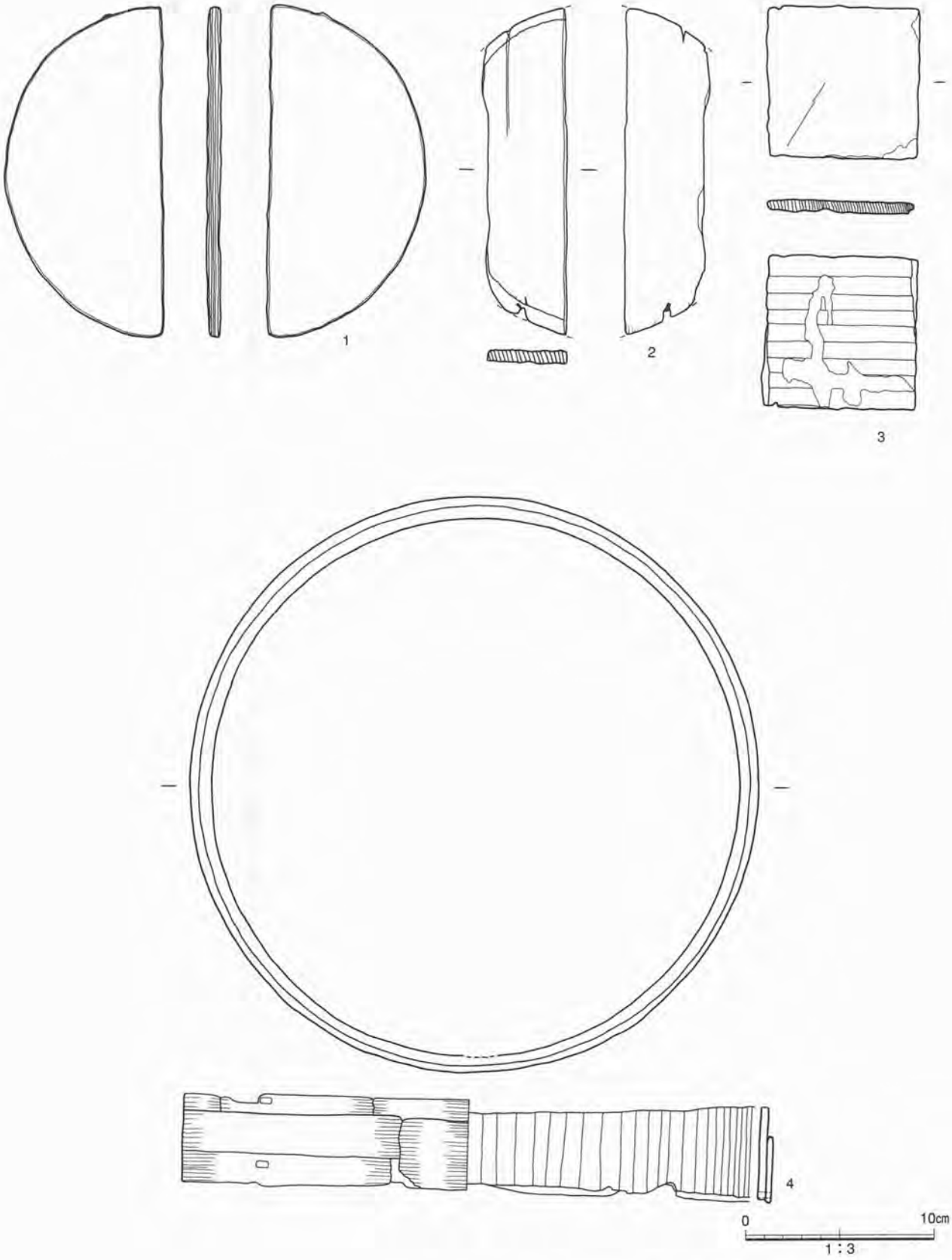
第333図　遺物実測図(183)―木製品―



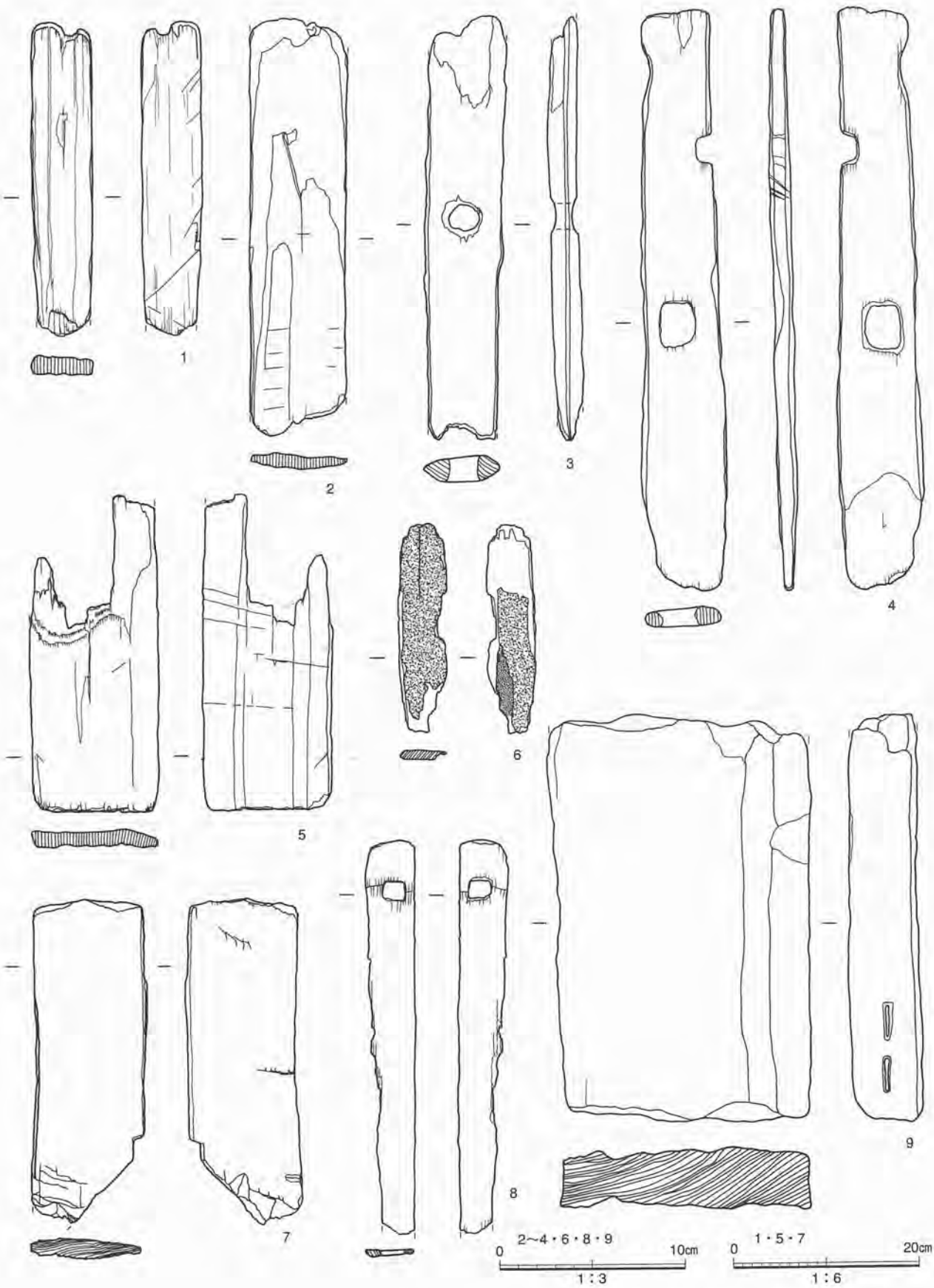
第334図　遺物実測図(184)―木製品―



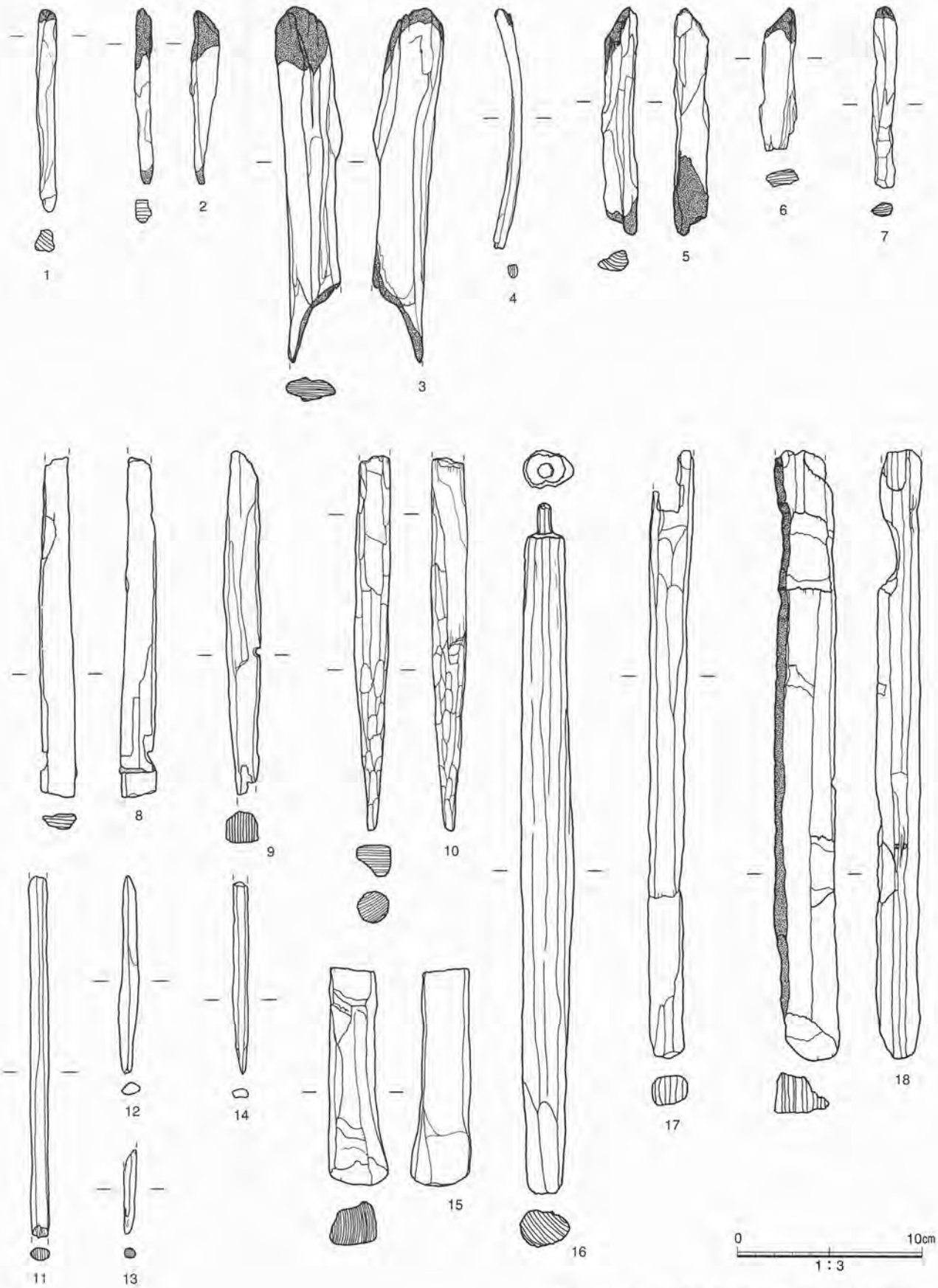
第335図　遺物実測図(185)―木製品―



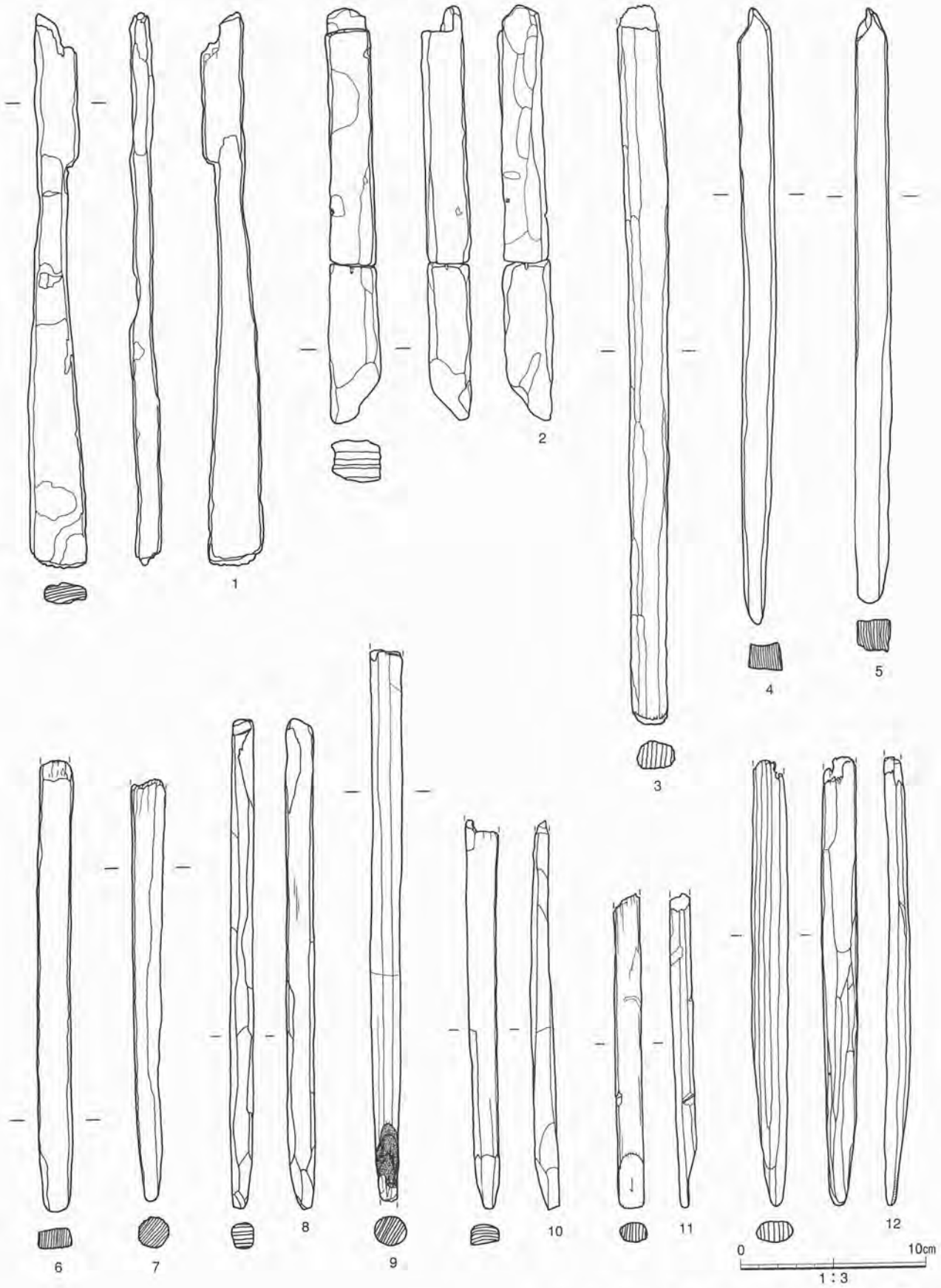
第336図　遺物実測図(186)―木製品―



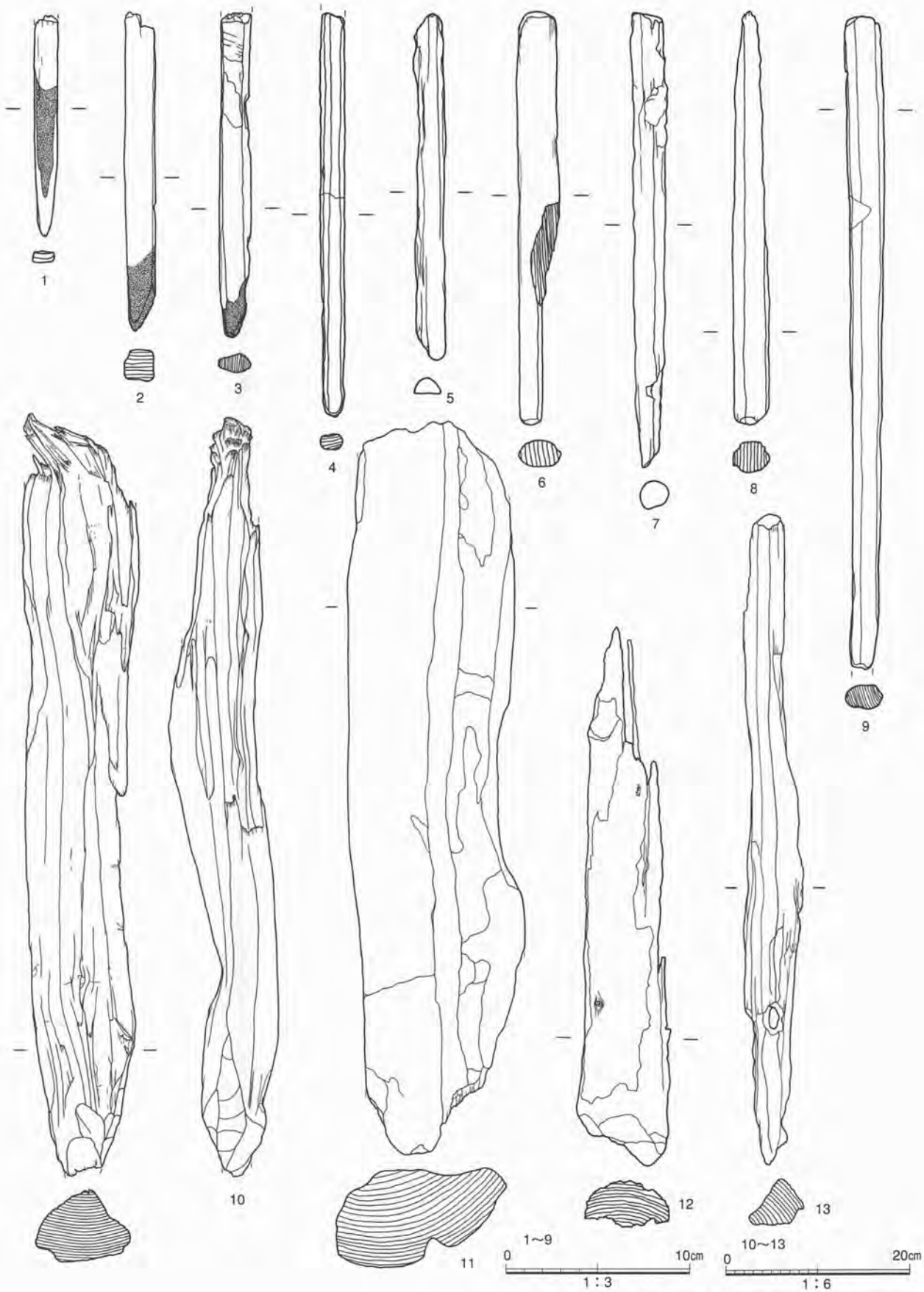
第337図　遺物実測図(187)―木製品―



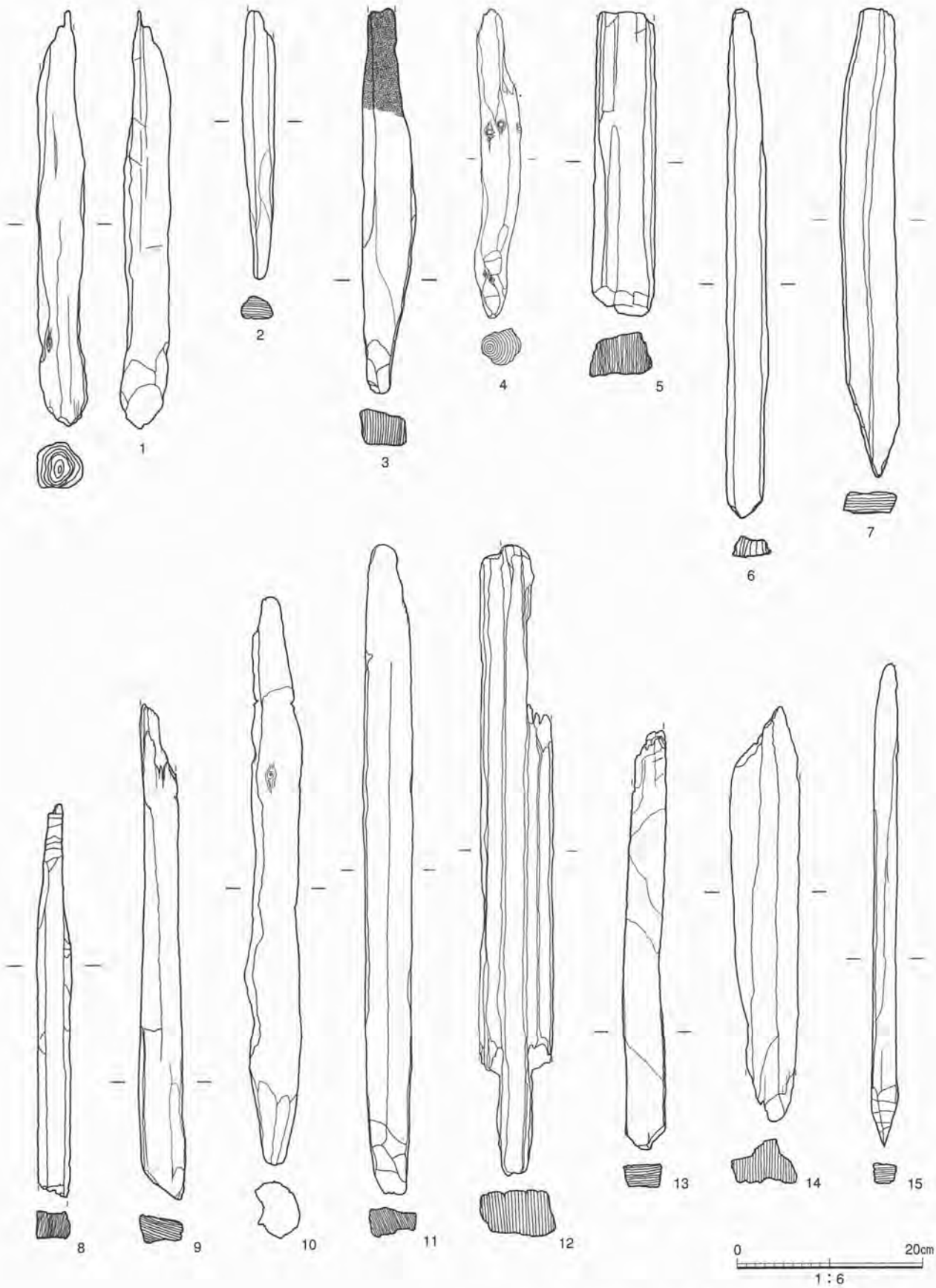
第338図　遺物実測図(188)―木製品―



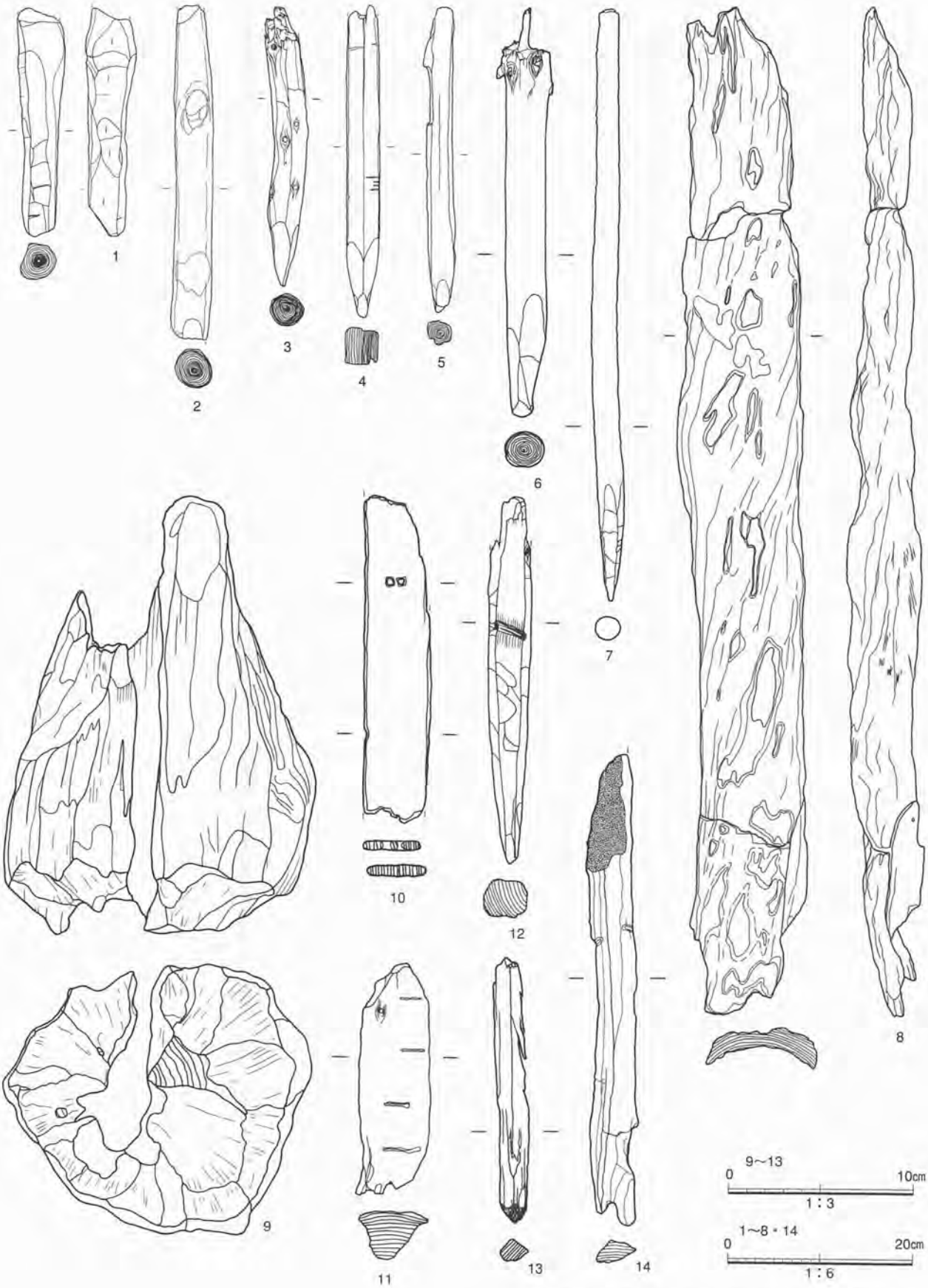
第339図　遺物実測図(189)―木製品―



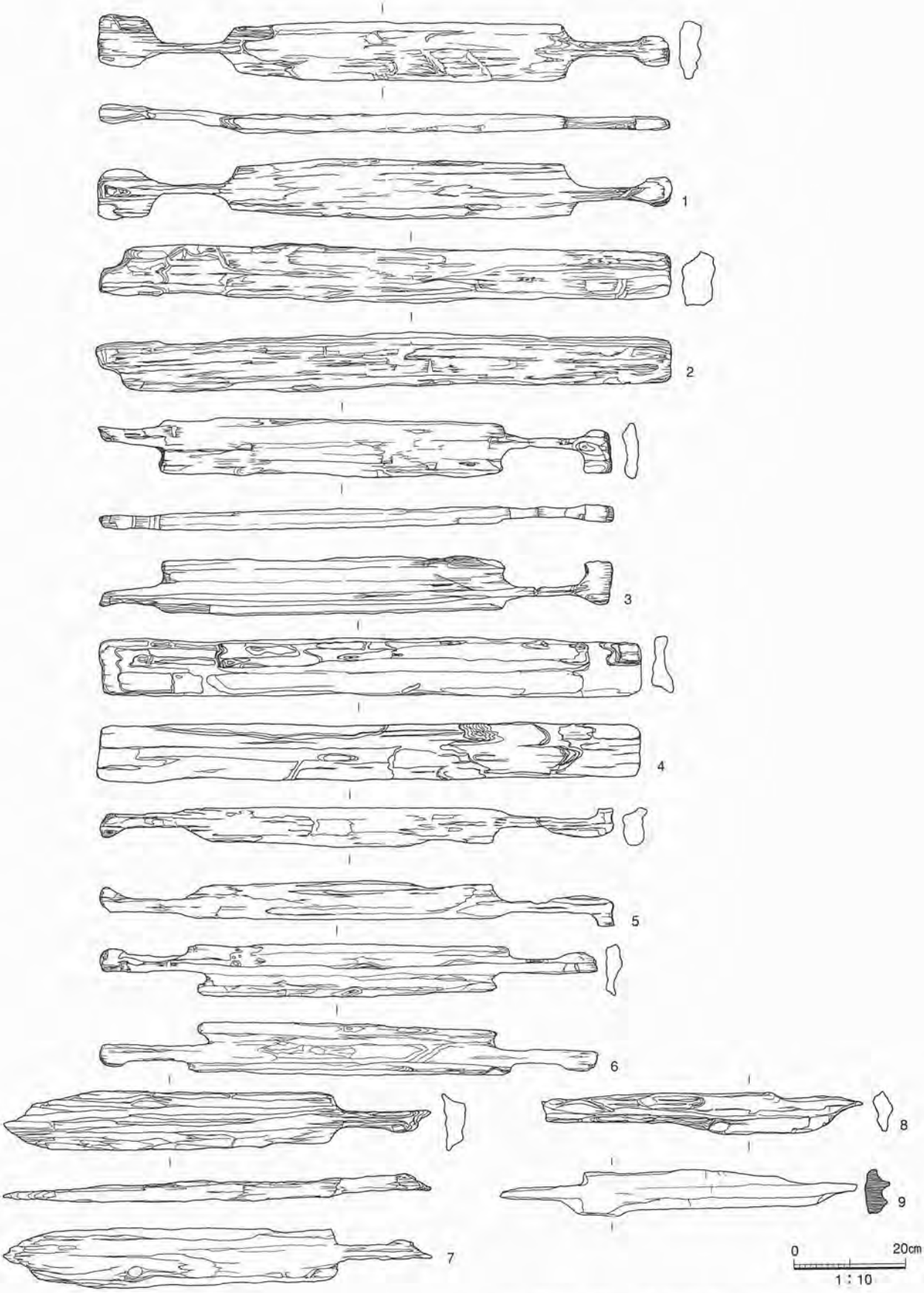
第340図　遺物実測図(190)―木製品―



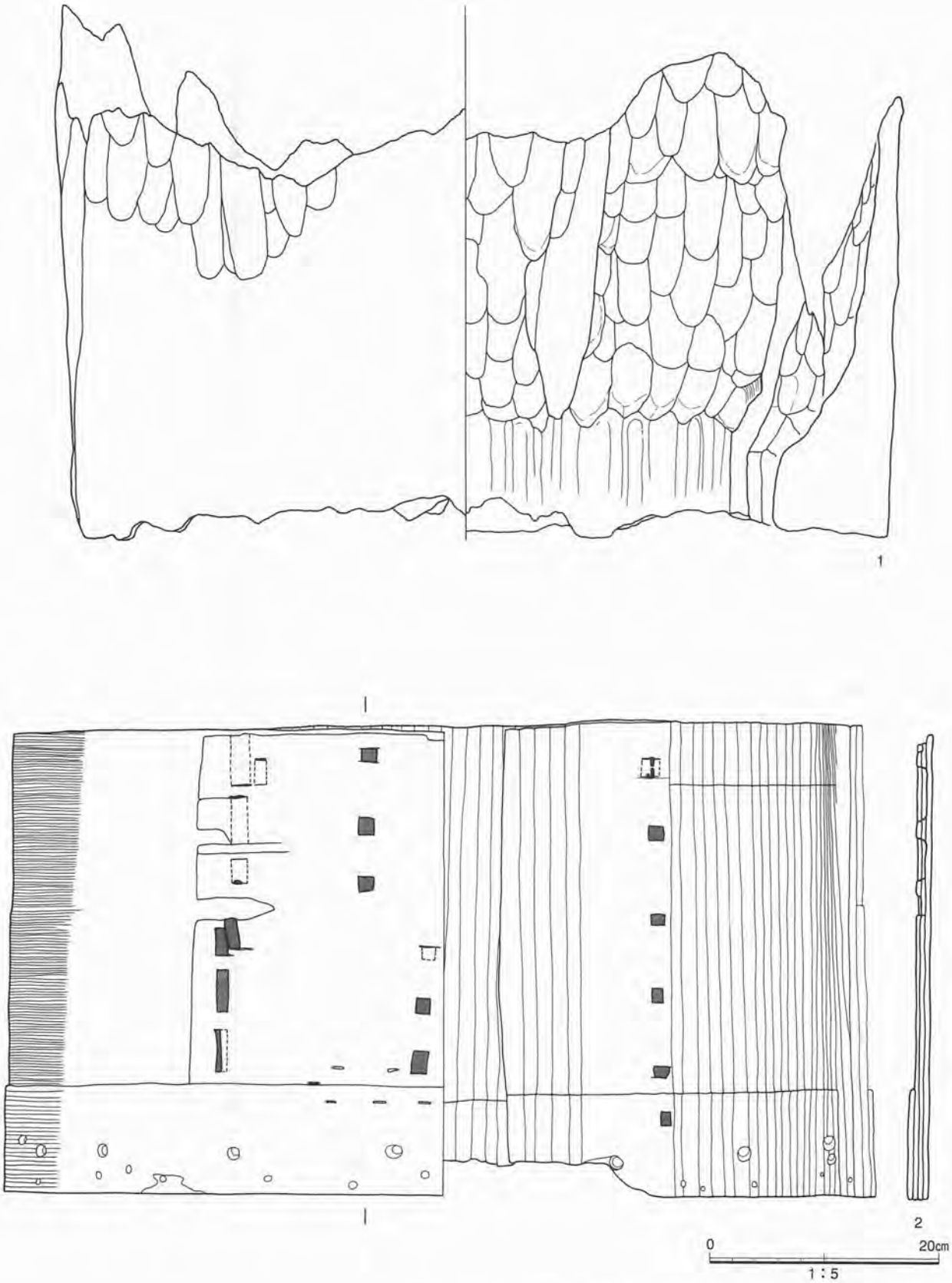
第341図　遺物実測図(191)―木製品―



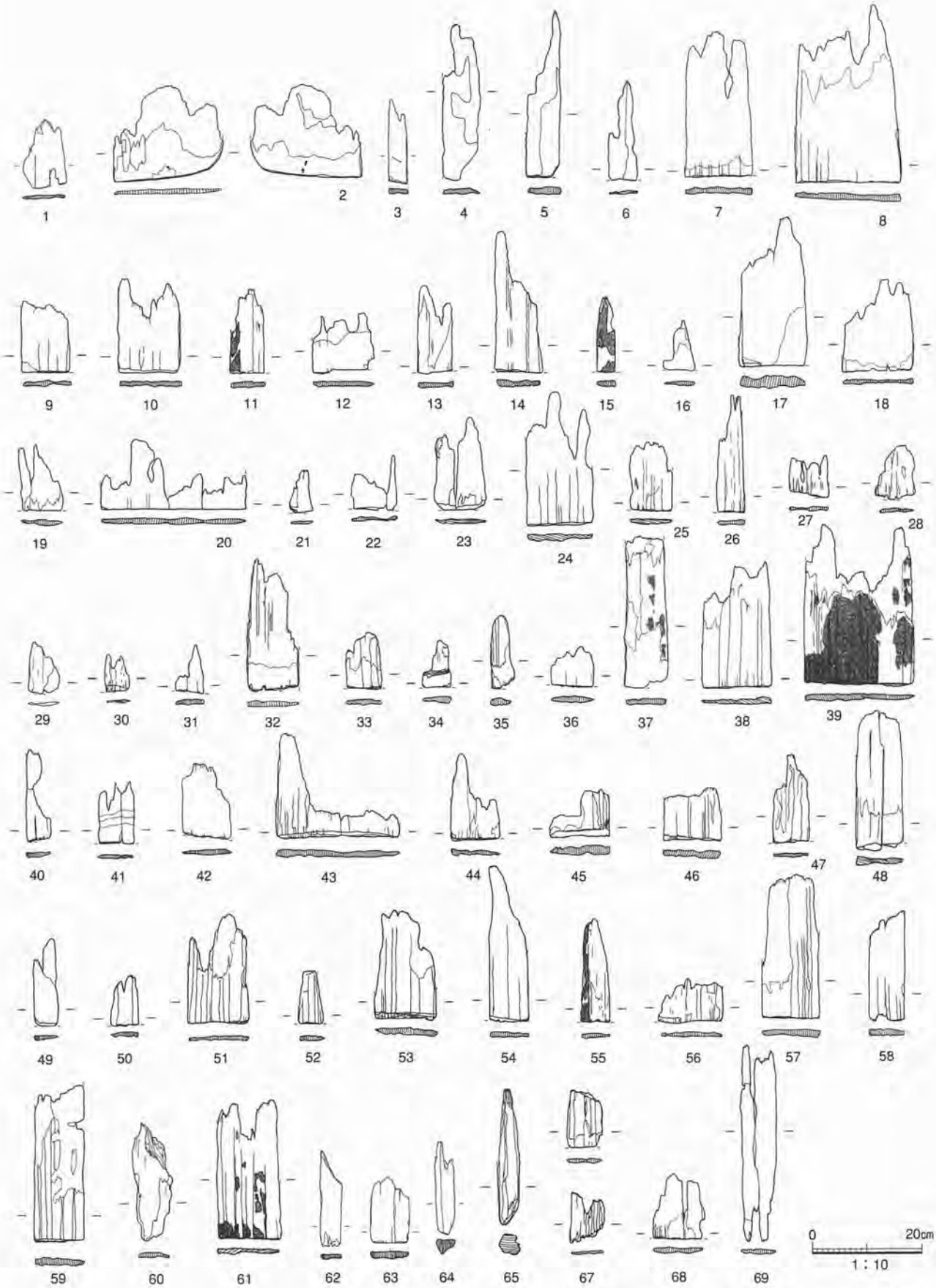
第342図　遺物実測図(192)―木製品―



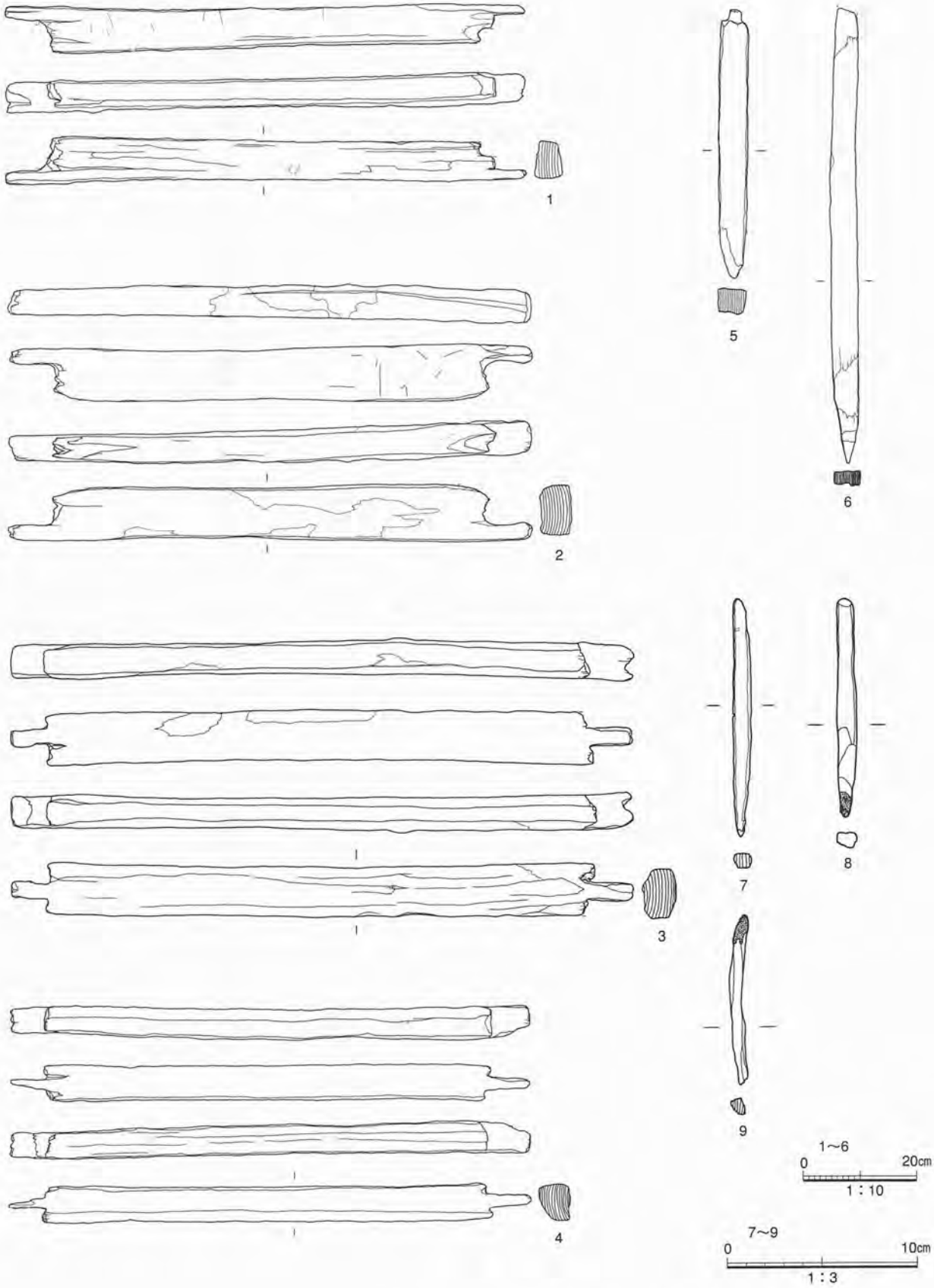
第343図　遺物実測図(193)―木製品―



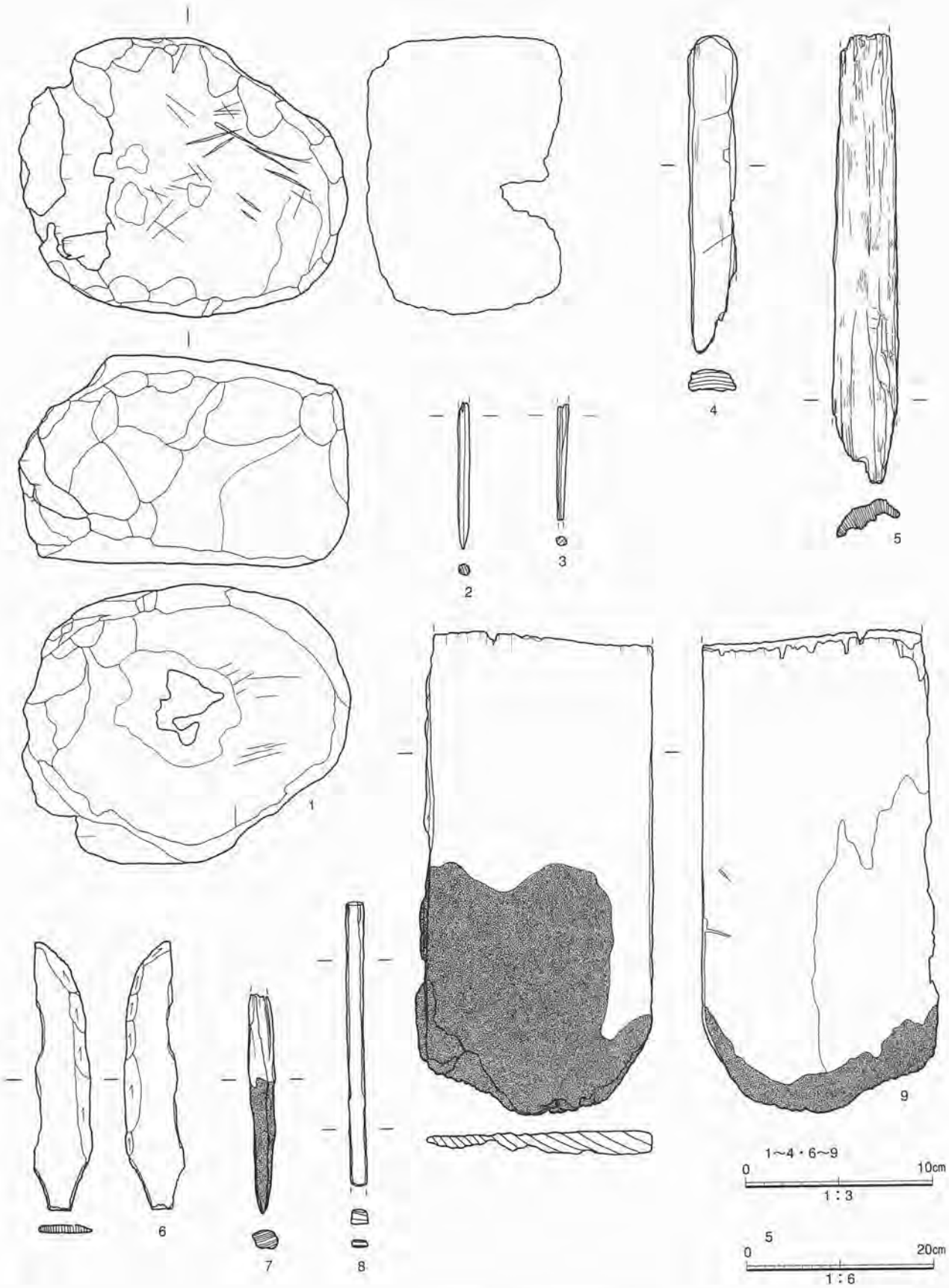
第344図　遺物実測図(194)―木製品―



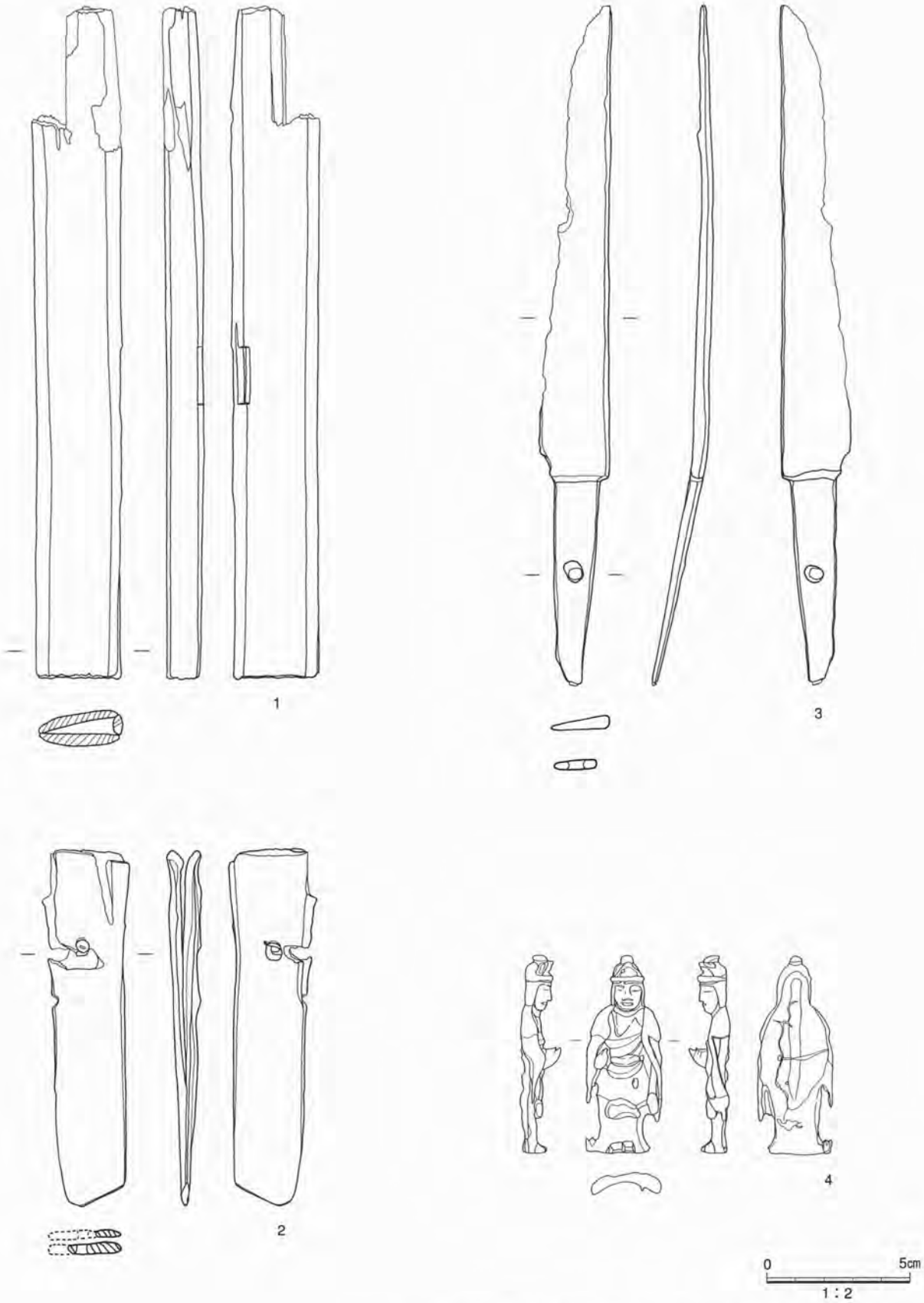
第345図　遺物実測図(195)―木製品―



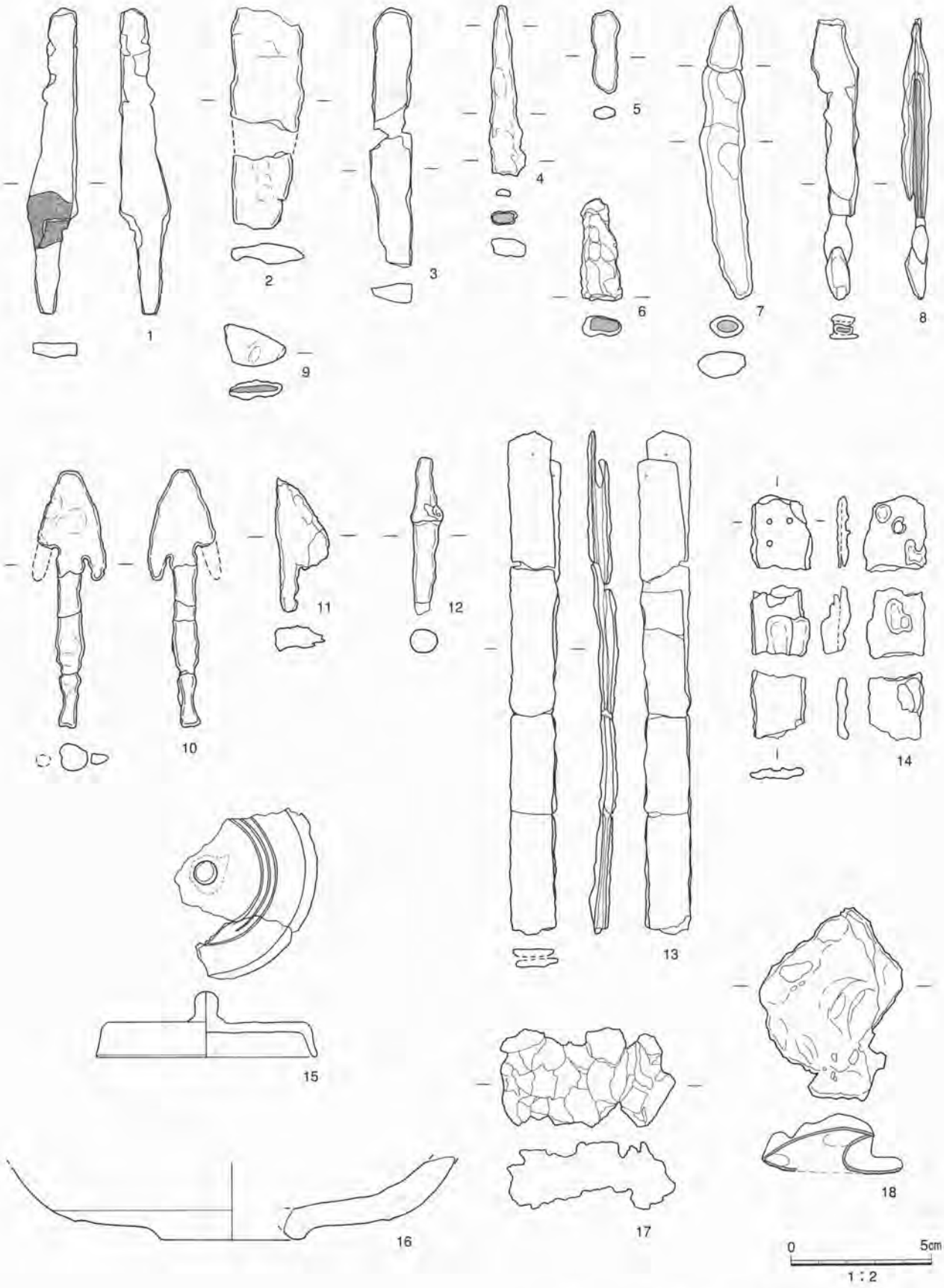
第346図　遺物実測図(196)―木製品―



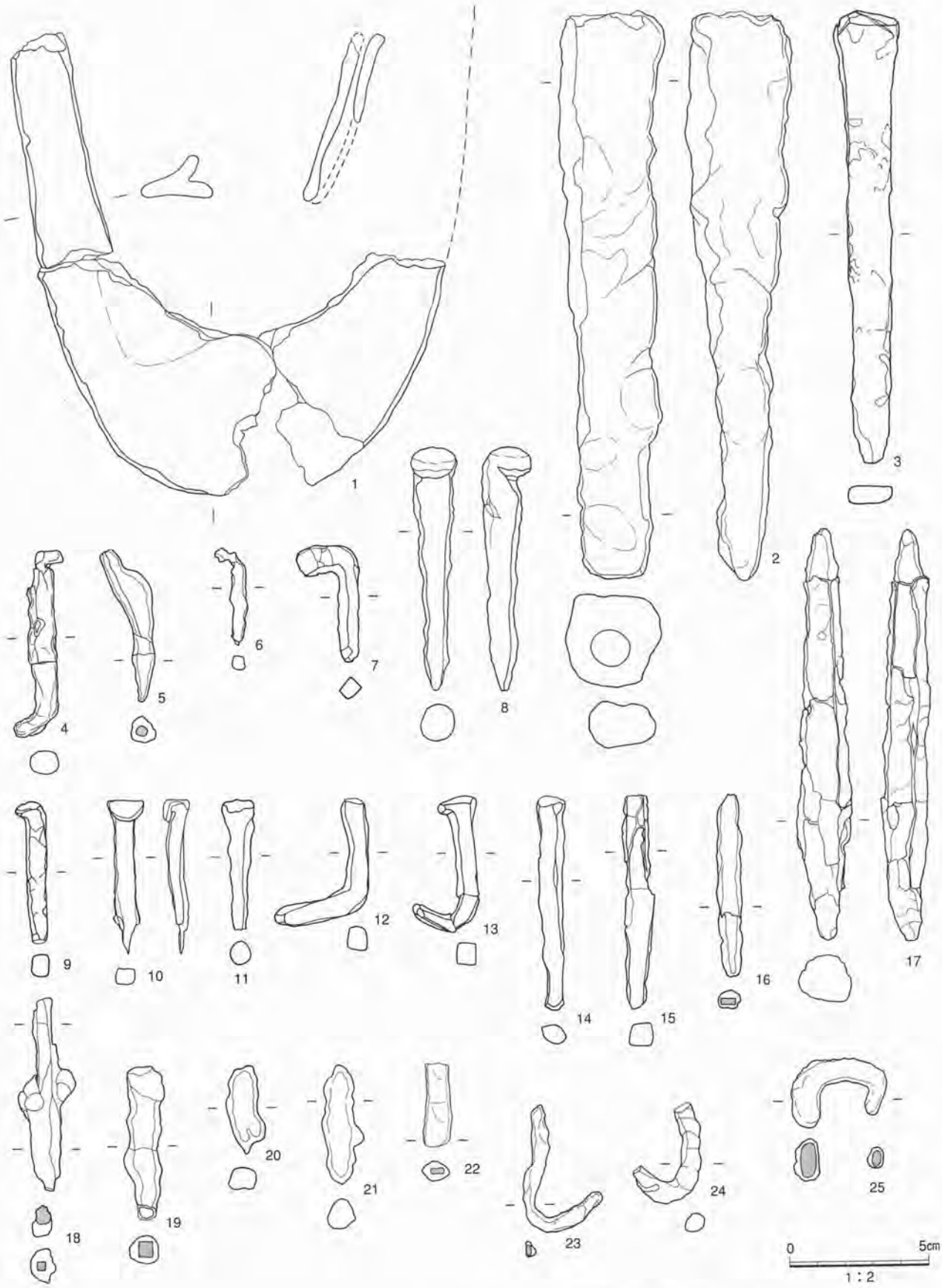
第347図　遺物実測図(197)―木製品　中世以降―



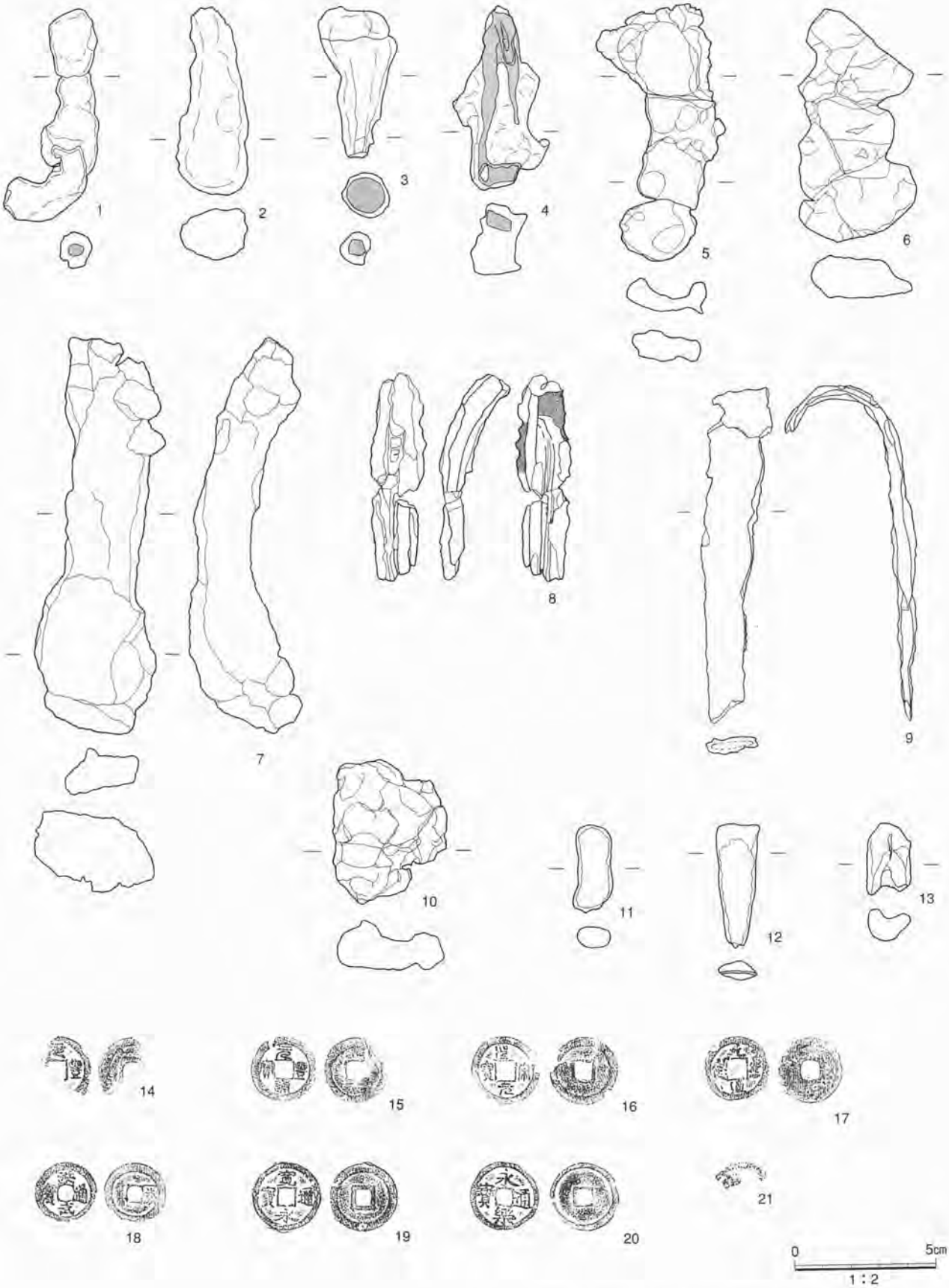
第348図　遺物実測図(198)―木製品・金属製品―



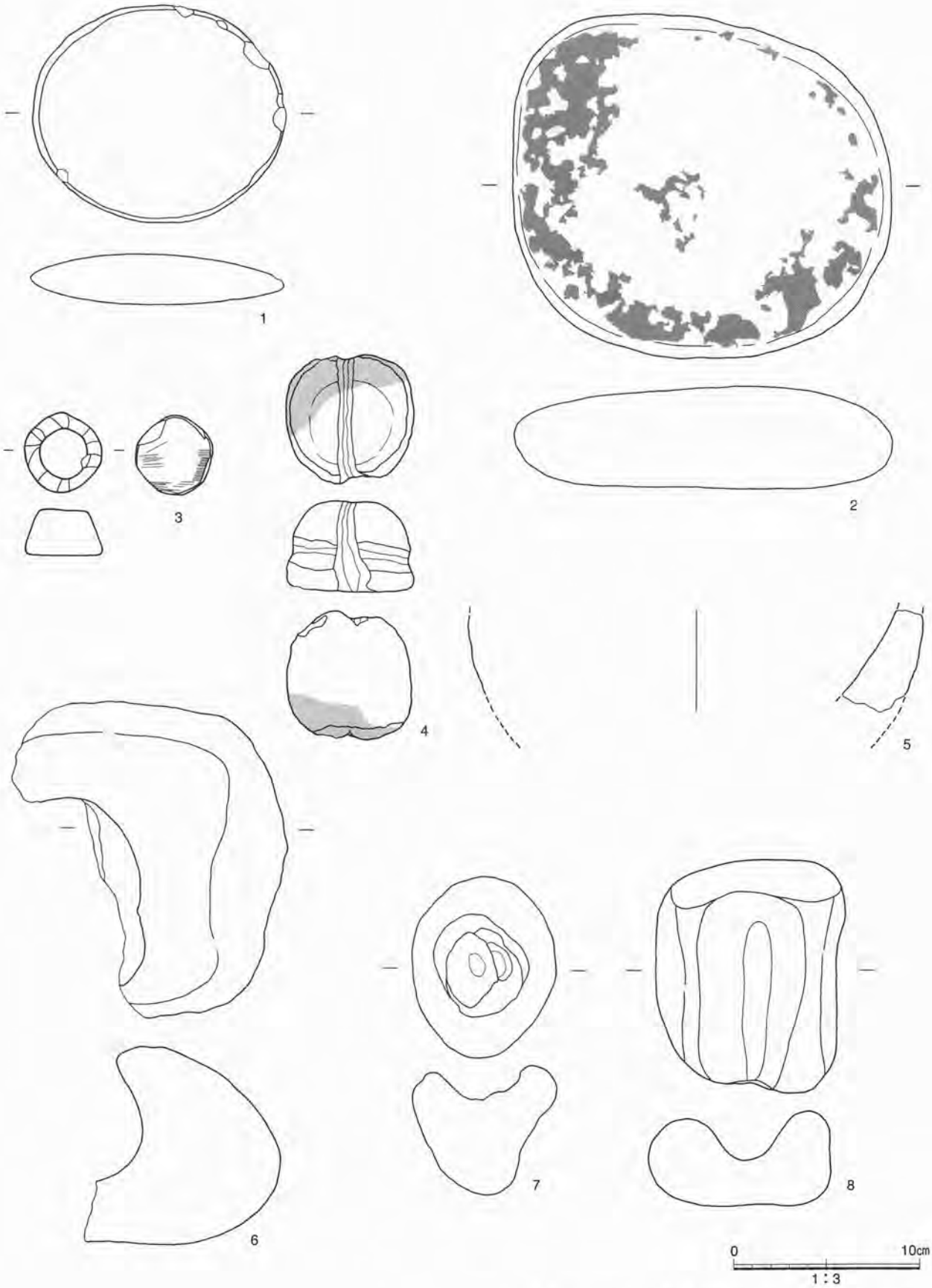
第349図　遺物実測図(199)―金属製品―



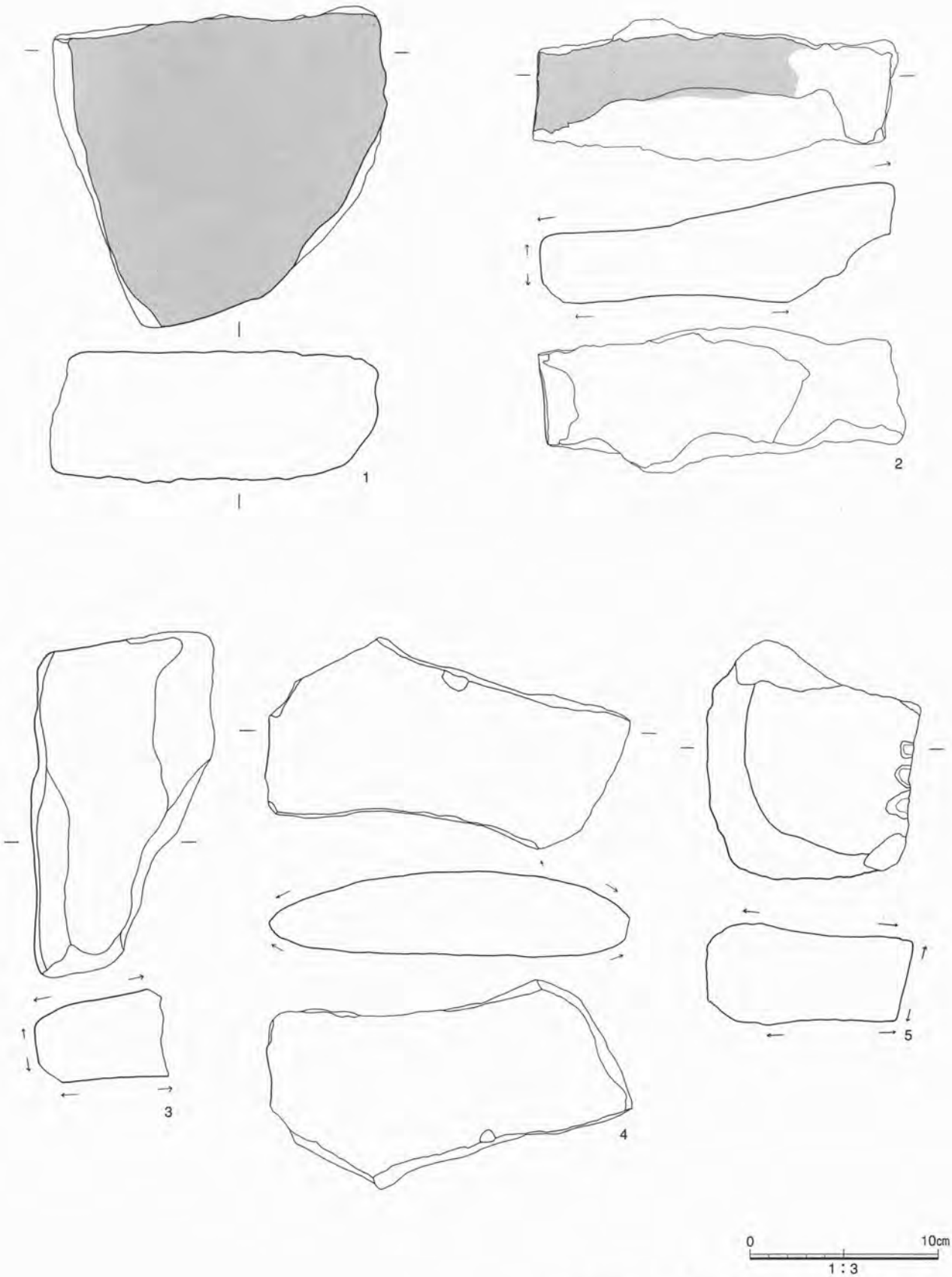
第350図　遺物実測図(200)―金属製品―



第351図　遺物実測図(201)―金属製品―

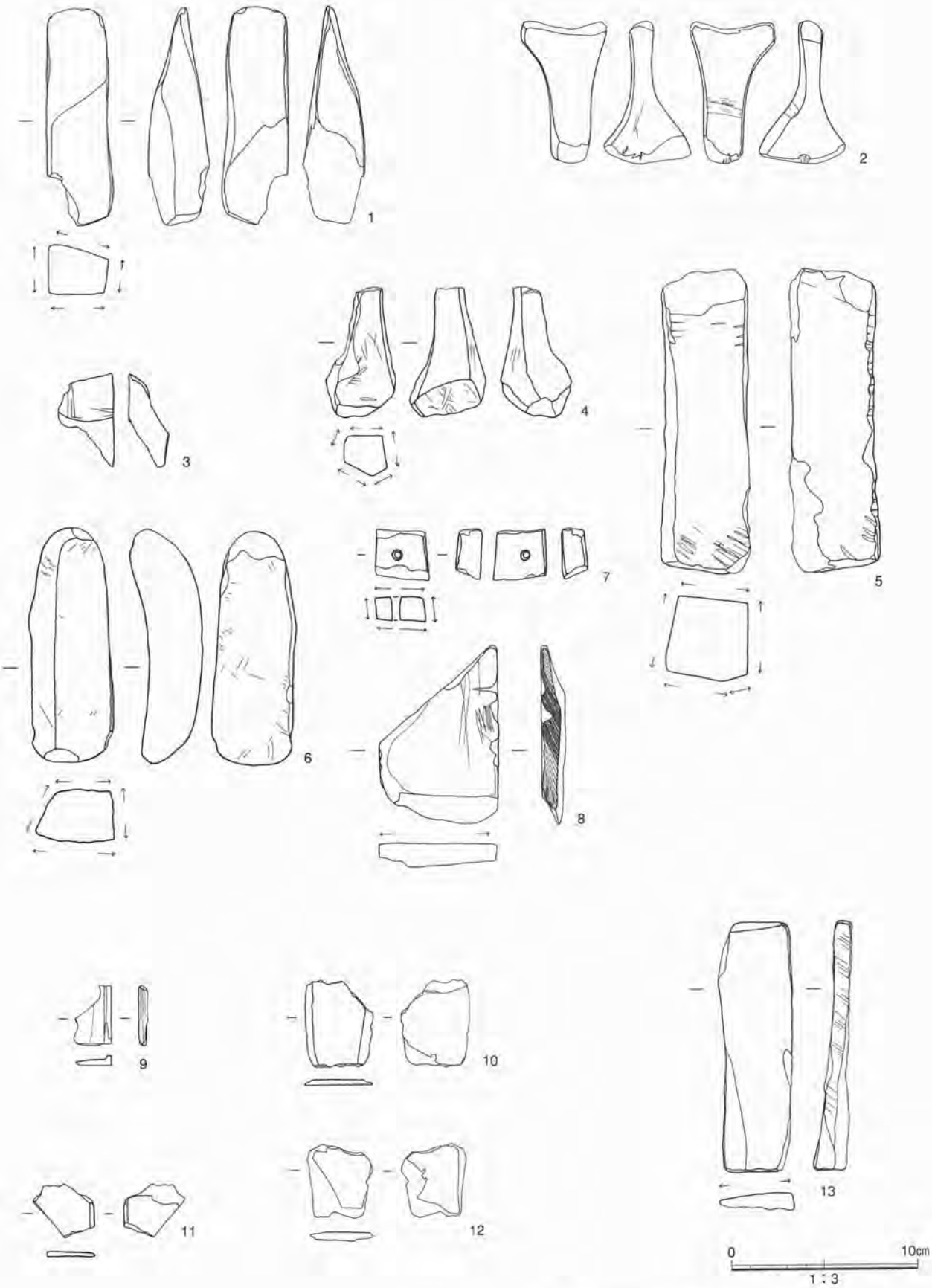


第352図　遺物実測図(202)―石製品―



第353図　遺物実測図(203)―石製品―

第354図　遺物実測図(204)―石製品―



第355図　遺物実測図(205)―石製品―

甕A　ハケメ調整が行われ、底部に木葉痕が残る。ⅠとⅢ（173－3)がある。Ⅰは頸部に沈線があるもの(169－1)、頸部が短く外反するもの(168－7)がある。

甕B　ロクロナデ・カキメ・タタキ・ケズリ調整がみられる。Ⅰ～Ⅲがある。Ⅲには底部切り離し糸切り痕がみられる(199－2)。

甕C　調整は甕Bと同じであるが、底部が丸みを持つタイプである。丸底風には、口縁が直立し、短頸壺ともいえる195－1がある。小型は確認できない。

甕D　須恵器甕Bに類似するものである。須恵器の焼成不良とみられるが、消費地に流通することから、分類している。

【壺】本来須恵器の器種とみられるが、少量出土する。須恵器の焼成不良とみられる壺A（170－2)とハケメ調整が施され頸部内面に煮炊の痕跡が残る壺B(206－11)がある。

【双耳壺】縦耳をもつ293－3は、堅い焼きで外面平行タタキ・カキメ、内面同心円アテがみられる。

【横瓶】293－4は須恵器の焼成不良とみられるが、消費地に流通することから、分類している。

【甑】破片のみの出土で全体の形態は不明である。293－1は孔を持つ。

黒色土器

【無台坏】形態から身の浅いものAと、身が深く碗型になるBに分類する。

無台坏A　技法と形態からⅠ～Ⅲに分類する。Ⅰは非ロクロで内面は黒色処理・ミガキ調整が行われるものである。体部下半に段を有するもの(282－8)、段が沈線となるもの(282－2)、段を有しないもの（282－12)がる。外面口縁部に横ナデがまわる。Ⅱは、ロクロ使用で内面または内外面黒色処理・ミガキがあるもの（281－9)である。Ⅲは体部に屈曲した段が付き、金属器模倣の可能性があるものである(282－2)。

無台坏B　非ロクロⅠとロクロⅡがある。底部には、Ⅰは木葉痕、Ⅱは回転糸切りの切り離し痕が残る。

【有台坏】形態からAとBに分類する。

有台坏A　口径が大きく体部が外反するもの（202－2)。黒色処理の行われない土師器有台坏にも同様の形態有台坏Bがある。

有台坏B　体部がほぼ直立するもの(163－10)。

【鉢】土師器鉢Aに類似した鉢Aと土師器鉢Dに類似する鉢Bに分類される。

鉢A　土師器鉢A同様寸法から大型・(287－5)・中型・(287－4)・小型・(287－1)に分類される。

鉢B　体部上半に括れを持たず、直立するもの(318－1)。

（2）胎土

全体的に、混入物のバリエーションはあるものの、胎土が他と明らかに異なるといえるものは確認されない。三条遺跡から、北西約4Kmにある平野山窯跡群で焼成された土器と肉眼観察でも非常に類似する。三条遺跡の土師器・須恵器は、天童市二子沢窯跡とともに、胎土分析を行った。これまでの分析データとの比較によれば、三条遺跡の土器は、平野山窯跡群に生産地を求めて良い結果が出されている（付編参照)。

須恵器・土師器の胎土は、次のような混入物の特徴がある。この内容は、平野山窯跡群の土器の胎土の特徴でもあると考えられる。

須恵器　細砂・海綿骨針・白色粒がセットで入るものが最も多く、それに黒色粒が混入するものがある。海綿骨針は、極端に多いものと少ないものがある。黒色粒が多量に入るものがあり、粒が大きなものについては、焼成時に、黒色吹き出しとなり、器としての印象に影響を与えるほどのものもある。赤色粒・雲母が混入するものはほとんど無い。

土師器　細砂・赤色粒・雲母がセットで入るものが多い。赤色粒・雲母の混入の割合いが高い。須恵器に比べ海綿骨針が入るものが少なくなり、粗砂が混入するものが増える。

（3）使用痕

供膳具は供膳による磨滅、煮炊具は、煮炊による煮こぼれや煤の付着等が上げられるが、ここでは、三条遺跡で多量に出土した、墨付着とタール・黒色汚れについてまとめる(表24・25)。

転用硯　土器に、墨付着が認められ、硯として使用されたことが推定されるものである。転用硯には、無台坏・有台坏・双耳坏の内面と外面を使用したもの、蓋Aと蓋Bの内面を使用したものがある（第370図)。使用痕は、墨付着のみと墨に磨滅が伴うものに分けられる。前者は、パレットとしてのみ使用、後者は、墨を擦る行為も行われたと理解される。須恵器壺Cは、墨壺の可能性が考えられたが、墨の付着は確認できない。

灯明具　タールの付着したものと、タール外縁につく黒色汚れがみられるものについて、灯明具の使用を推定できるものとした。黒色汚れについては、今後、検討を要す。264－2のように内面の体部上半が汚れるもの、251－1のように全面が汚れるもの、263－8のように灯芯の位置が理解できるもの等多様である。タールの分析を含め、使用方法の理解は、今後の課題である。

出土地点は、河川から最も多く80％前後である。次いで竪穴建物からの出土である。

（4）墨書土器・刻書土器

三条遺跡からは、墨書土器437点、刻書土器69点が出土した。墨書土器は、土器に墨や漆等で書いているものまたは描いているものとし、墨付着の土器とは別としている。刻書土器は、焼成前にヘラのようなもので土器に文字や記号が刻まれたものである。墨書土器・刻書土器および墨付着の土器については、全点実測し報告書に掲載した。以下、概観のみを記す。

文字種　墨書土器87種、刻書土器11種である。最も出土点数が多いのは、「子」の30点で、次いで「奉」23点、「山田」20点と続く。刻書土器は、「×」の21点が最も多い。

字形の変化　出土点数が多いため、字形の変化を追うことができる。「奉」・「荒」・「山田」等が良好な資料である。

「奉」は、SG323出土資料で「奉」(250－1)→「奉」(250－2・3)→「奉」(250－4)、SG134出土資料で「奉」→「奉」(210－3)・「奉」(212－4)の変化がある。「奉」は、冠の夫が省略され、「奉」は、脚の丰が省略されている。省略された冠と脚がさらに、「夲」(251－1・2他)、「夲」(271－6他)に変化したと考えられる。墨書された250－1は、達筆な「奉」が小さな文字で底部①(第370図)に文字が書かれている。字形が変化した250－2～4は、底部中央に大きく太く書かれている。250－1～5と「夲」が書

かれた251－1・2は、土器分類無台坏Allbに属し、土器の形態変化と必ずしも呼応していない。214－2・3等「仆」の冠が達筆なものがある点、字形の変化が時期差のある遺構SG134・323の両方でみられる点等問題が残る。

出土位置　墨書土器は、河川が最も多く全体の90％を超える。刻書土器も、河川出土が65％を超える。当地域の出土状況を良く示した資料と言える(水戸1998)。河川は、SG323→SG134の関係を示すが、出土する文字の内容にも特徴が良く示されている(第76～83図)。河川以外の出土地点も、ST2575・SD617・SE23等、特定の遺構にまとまりがあることが分かる(第369図)。

器種　墨書土器・刻書土器ともに、須恵器無台坏が最も多い。墨書は、須恵器有台坏、須恵器蓋の順となる。集落内で使われる土器の種類に規制されるとみられ、須恵器を主体とする三条遺跡の時代性による。土師器は「子」にまとまりがみられるが、時期が下ることにより書かれる文字との理解も可能である。

部位　第370図をもとに分類した。坏類底部が圧倒的である。底部での位置にはばらつきがあるものの、⑤の中央にまとまりがみられる。刻書土器についても同様である。

残存値　破片で出土したものについては、接合後の数値を集計したため、集計結果にばらつきが生じている。完形品に近いもの(完形・一部欠損)は、全体の10％程度である。残存値は、出土状況とともに、土器の最後の姿を読み取れる情報の一つである。集計の方法に検討を要す。

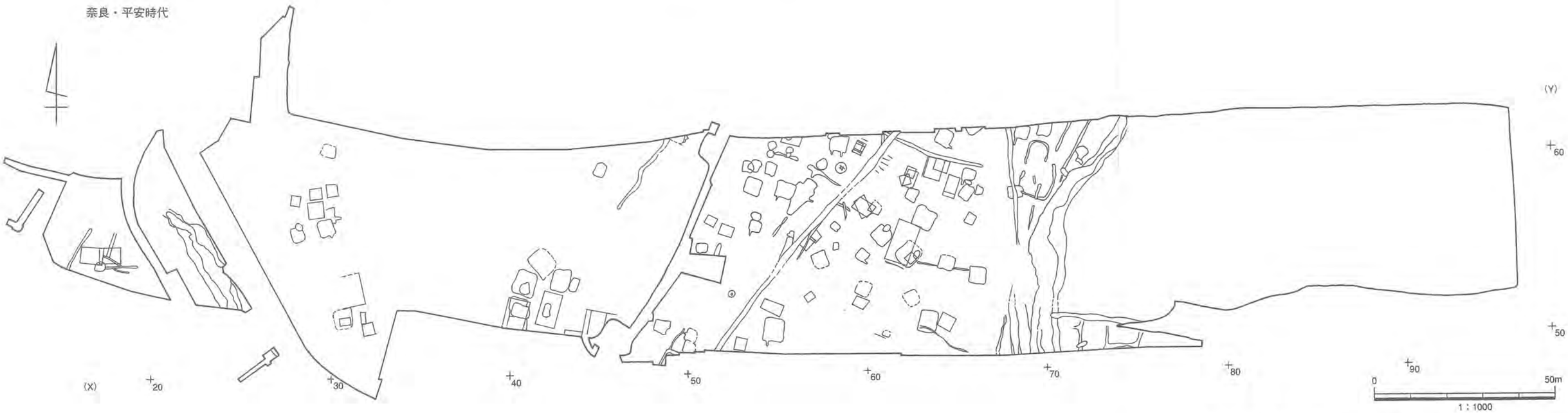
打ち欠き　復元された土器で、特徴的な割れ方を理解できるものがある。第370図に模式的に示す。①土器を片手に持ち、体部を反時計まわりに打ち欠いたもの (212－6・218－10)、②土器を片手に持ち、体部を時計まわりに打ち欠いたもの(237－2)、③体部を約1/2打ち欠いた後、底部を中央から２割にしているもの(225－2)、④中央から２割にしているもの(254－4・255－1)、⑤不規則に細かく壊れているもの (245－１)等が確認された。①・②については、接合資料を基に理解可能となり、213－5のような資料についても、①・②の体部打ち欠きが行われたと推定できる。集計では、確実に打ち欠きと理解できる資料についてのみ集計している。その結果、墨書土器の約３割が打ち欠きされている。しかし、墨書土器以外の土器にも同様の遺存状態を示すものがみられる (305－8)。打ち欠きが墨書・刻書土器にとどまらず、土器そのものの廃棄行為の可能性があり、他資料の検討が必要である。

使用痕　墨書土器・刻書土器は、約半数が磨滅している。容器としての使用痕に限定はできないものの、墨書・刻書土器は使用された土器が多量に含まれることが分かる。一方で、未使用と判断可能な、土器の見込みに磨滅等がみられないものも定量ある。また、墨書土器・刻書土器が転用硯・灯明具として利用されているものも認められる。

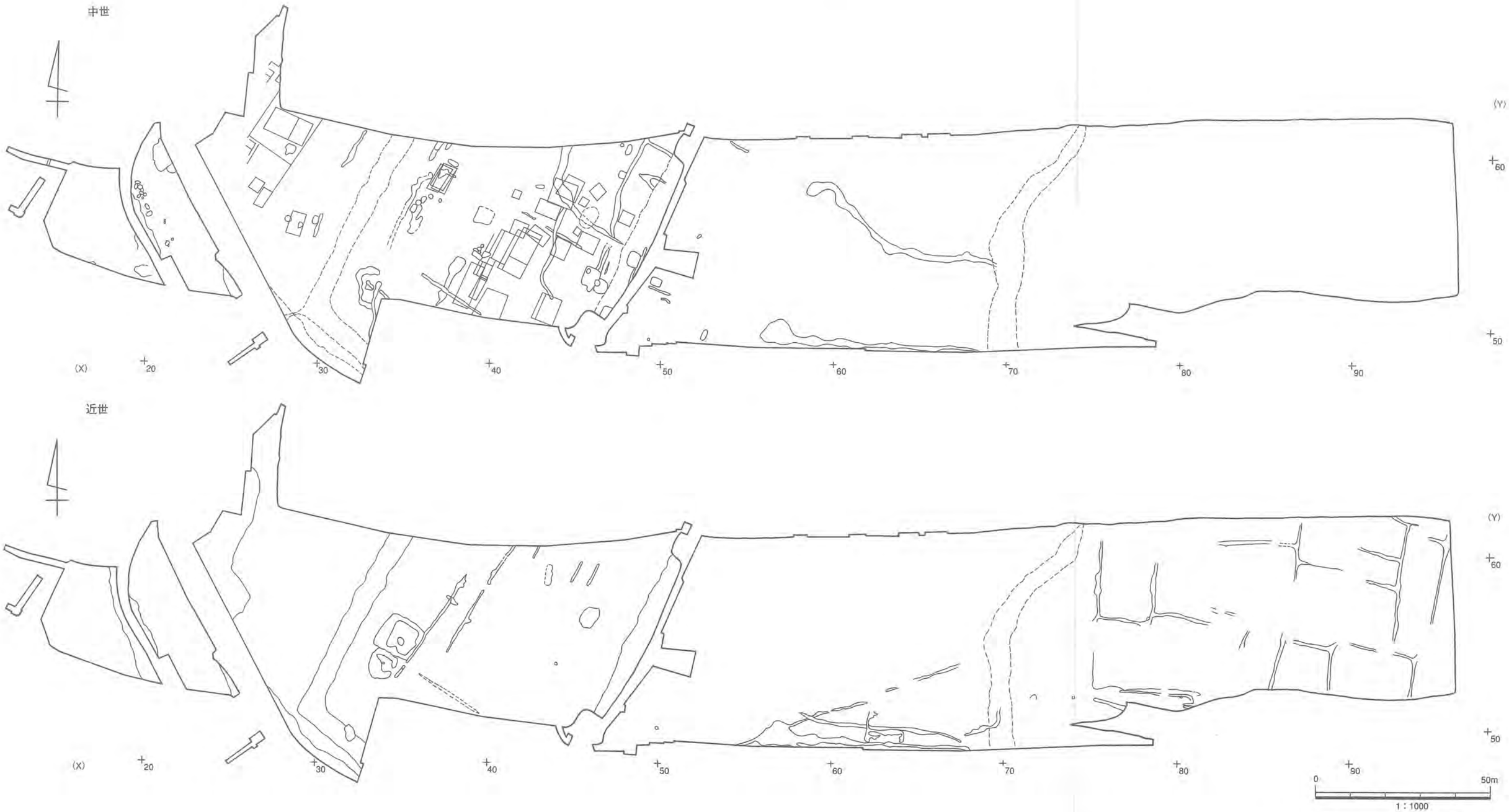
以上、墨書土器と刻書土器の各様相は、類似する。今後の課題としては、土器分類の中での動きや、文字種ごとの分析といったミクロな分析と、遺跡全体の出土資料の中での位置付けが必要である。時期的な変遷や遺物組成のなかでの評価である。河川からは、多量な墨書土器とともに、当遺跡に特徴的な鉢類をはじめ、墨書されていない土器が多量に出土しており(第65・66図)、その土器群の中での墨書土器の位置付が必要である。

縄文・弥生時代

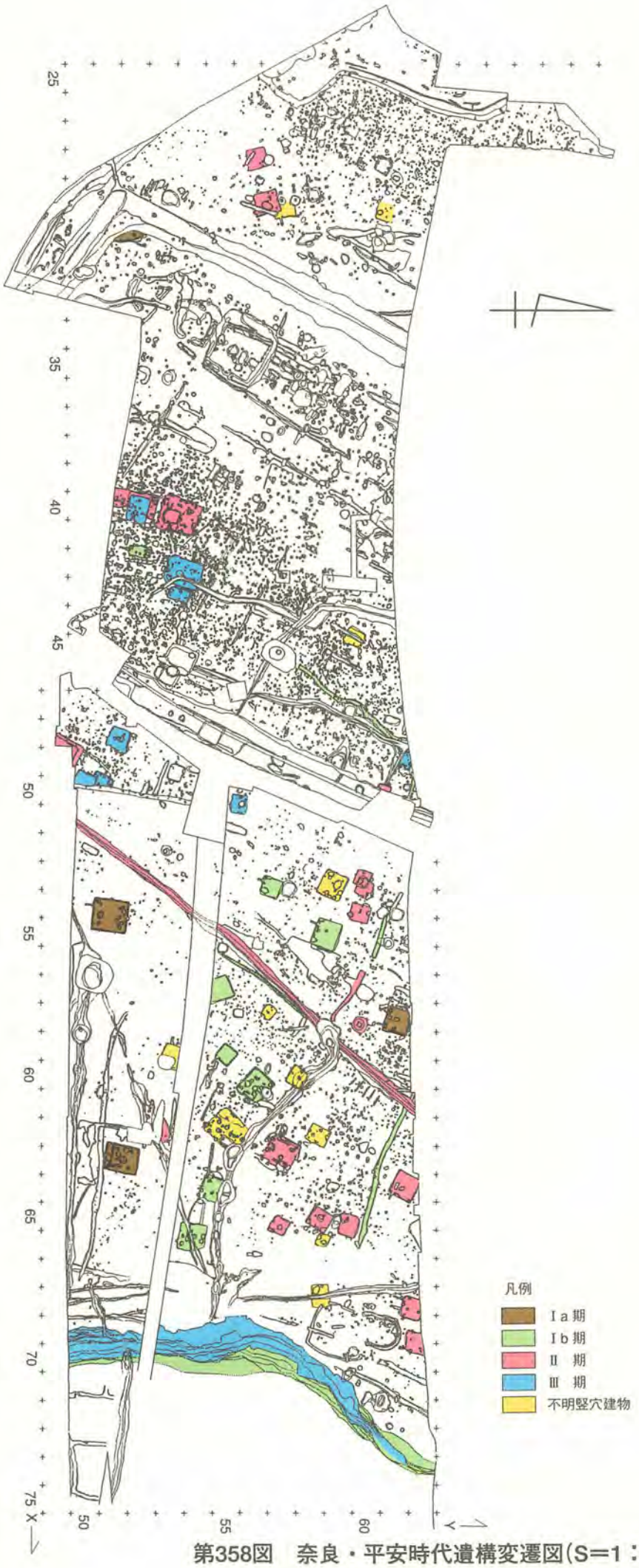
奈良・平安時代



第356図　遺構概要図―縄文・弥生・奈良・平安時代―



第357図　遺構概要図―中世・近世―



第358図　奈良・平安時代遺構変遷図(S=1：1,000)

(5)土製品(表13)

土製品には、土錘・フイゴ羽口・不明土製品等がある。土錘 (293－15～19)は、長さ40～58mm、重さ6～10.6gである。胎土が、土師器に類似することから、奈良・平安時代の遺物と推定される。羽口は、河川SG134・323およびH調査区の東側からの出土である (第387図)。破損した、小破片資料である。中世以降の可能性がある。293－4は、内外面ロクロナデ調整で、9個以上の孔と窓状のスリットが入る胎土は、ロクロ使用の土師器に類似する。

(6)木製品(表10)

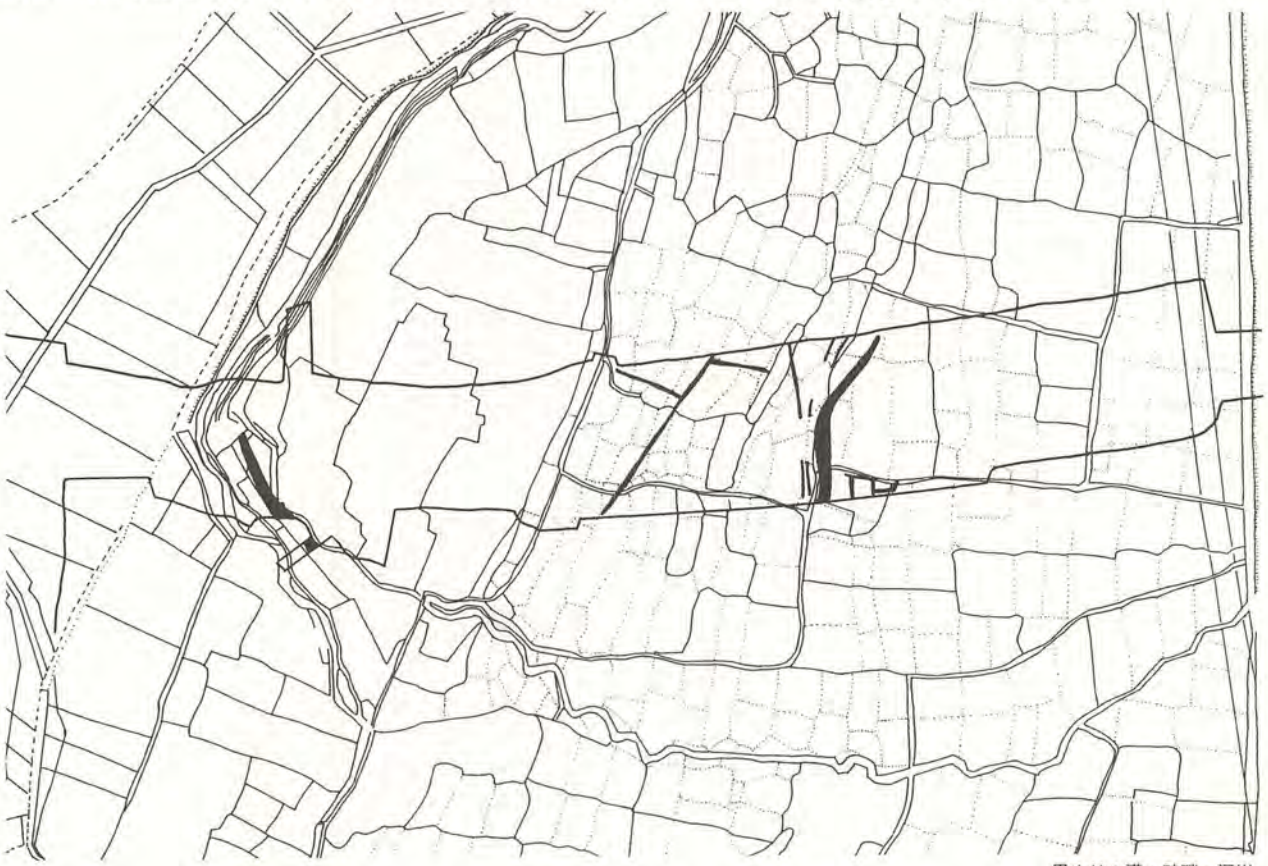
木製品には、木簡・櫛・容器(曲物)・形代・付け木・田下駄・杭・建築部材・井戸部材・不明木製品等である。不明木製品は、板状・棒状・加工材に分類している。ほとんどが、河川からの出土で、他に井戸・柱穴等がある。木簡332－1は、上下の端部が欠損している。「五月田主大伴部廣ヵ」の文字が解読されている。墨痕は確認できないが、332－2～4も木簡と考えられる。

(7)金属製品(表12)

金属製品には、刀子・不明金属製品等がある。奈良・平安時代遺構以外から出土したものは、中世以降として扱った。

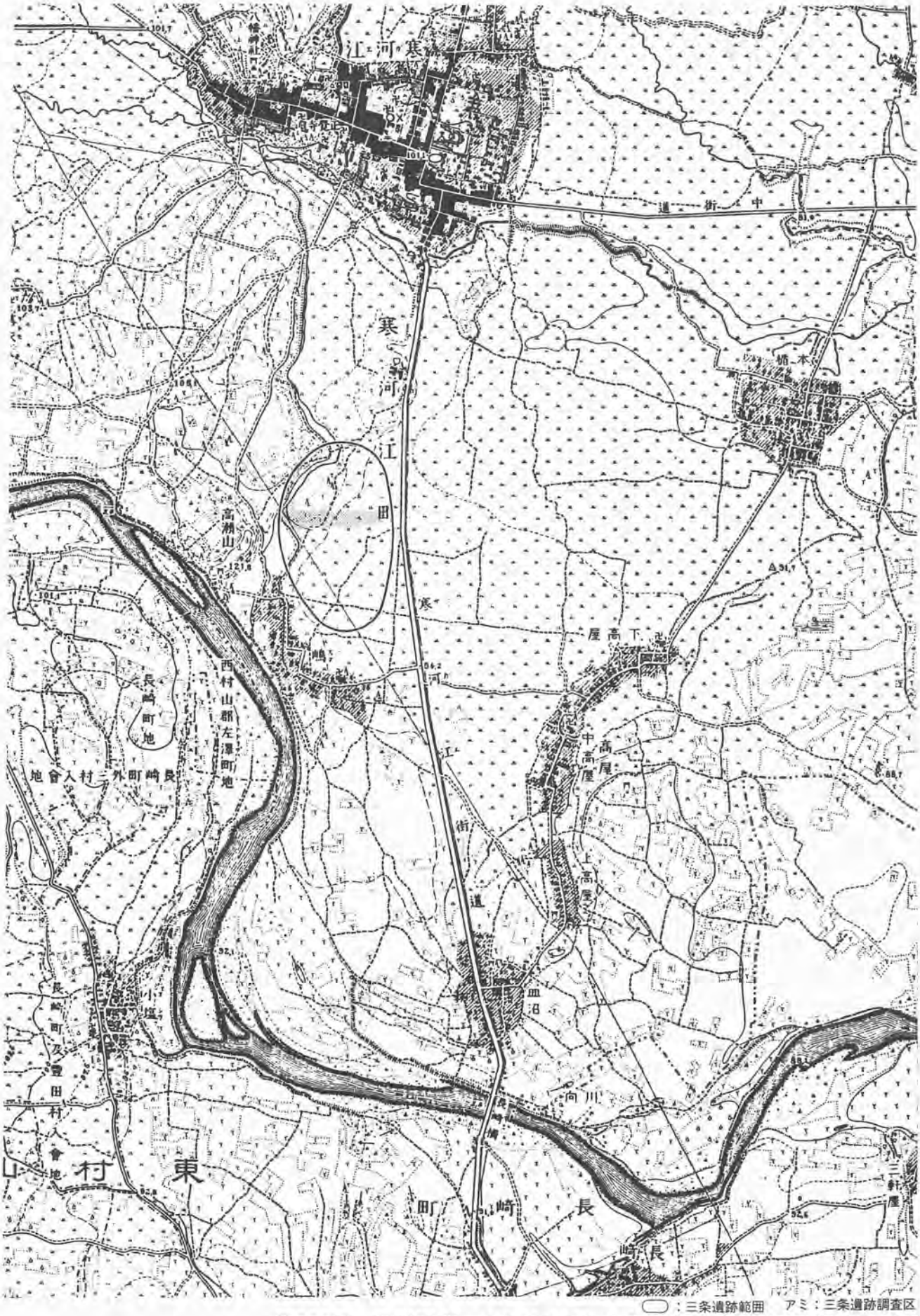
(8)石製品(表11)

石製品には、石錘・砥石・柱礎石 (付着物あり)がある。金属製品同様、奈良・平安時代遺構以外から出土したものは、中世以降として扱った。352－3は、側面が面取りされた丁寧なつくりである。352－4は、紐を巻き付ける溝がめぐる。352－3・4については、用途は不明である。



黒ぬり：溝・畦畔・河川

第359図　奈良・平安時代の区画(S=1：3,000) 地籍図(明治21年)



○：三条遺跡範囲　アミ：三条遺跡調査区

第360図　地形図（S＝1：20,000）大日本帝國陸地測量部（明治38年）

3 中世

中世の遺物は、かわらけ・輸入磁器・国産陶器・木製品・金属製品・石製品がある。

(1)遺物の分布

E・G・K・H調査区のほぼ全域、J調査区東半から出土する。特に、H調査区東側に集中が認められる。遺構では、SD1560・4078、ST1920にまとまりが認められる。

(2)かわらけ(表8)

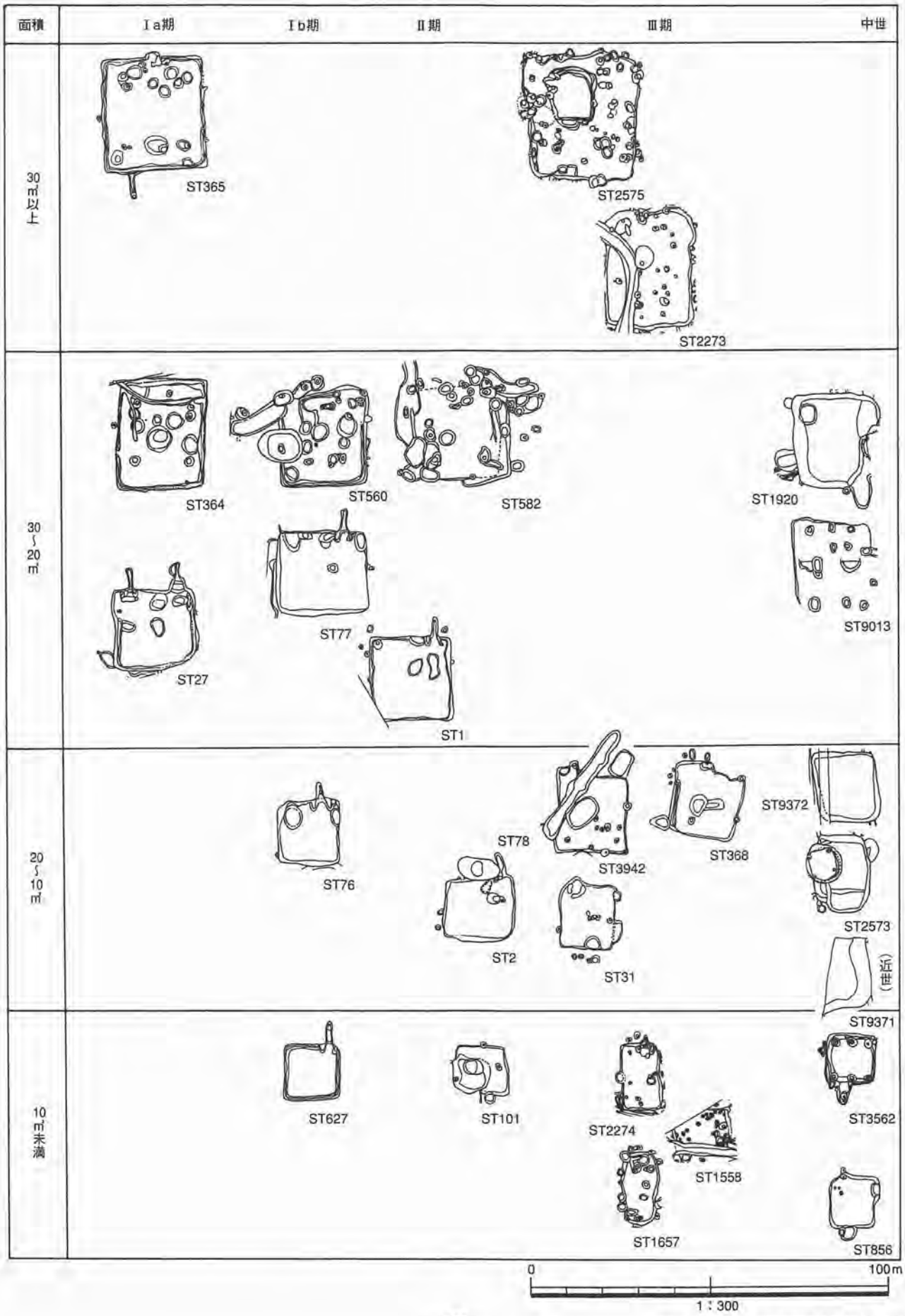
かわらけは、破片数276点の出土で、ロクロ成形と手づくね成形である。ロクロ成形は、320－23の1個体のみ確認されている。手づくねの320－6と共伴する。ロクロ成形の胎土は、細砂が多く混入し乾燥した手触りであるが、手づくねは、緻密で湿り気がある。寸法は、口径10cm前後、器高2.5cm未満の小型ものと、口径13cm前後で器高が2.5cm前後の大型のものがある。器厚は、5mm前後に収まる。手づくねは、体部内外面および見込みにナデが施される。320－29は、体部に右まわりの2段ナデが施され、口縁部が削って三角形につくり出したような形態である。色調は、外面白灰色であるが、内面が燻し状の黒色である。320－30は、体部に右まわりの1段ナデが施される、見込みには、粗いナデ痕が残る。体部のナデ境界部分の段差が大きい。320－29に比べ、胎土の砂質感が強く、器厚が厚いつくりである。小型の320－6と大型の320－28は、浅黄橙色で赤褐色粒が混入する胎土である。小さな段差のある体部1段ナデや、底部に指頭痕が認められる点等、成形技法にも共通点が多い。320－6と28は、大型・小型の典型的なセットと理解される。

(3)輸入磁器(表8)

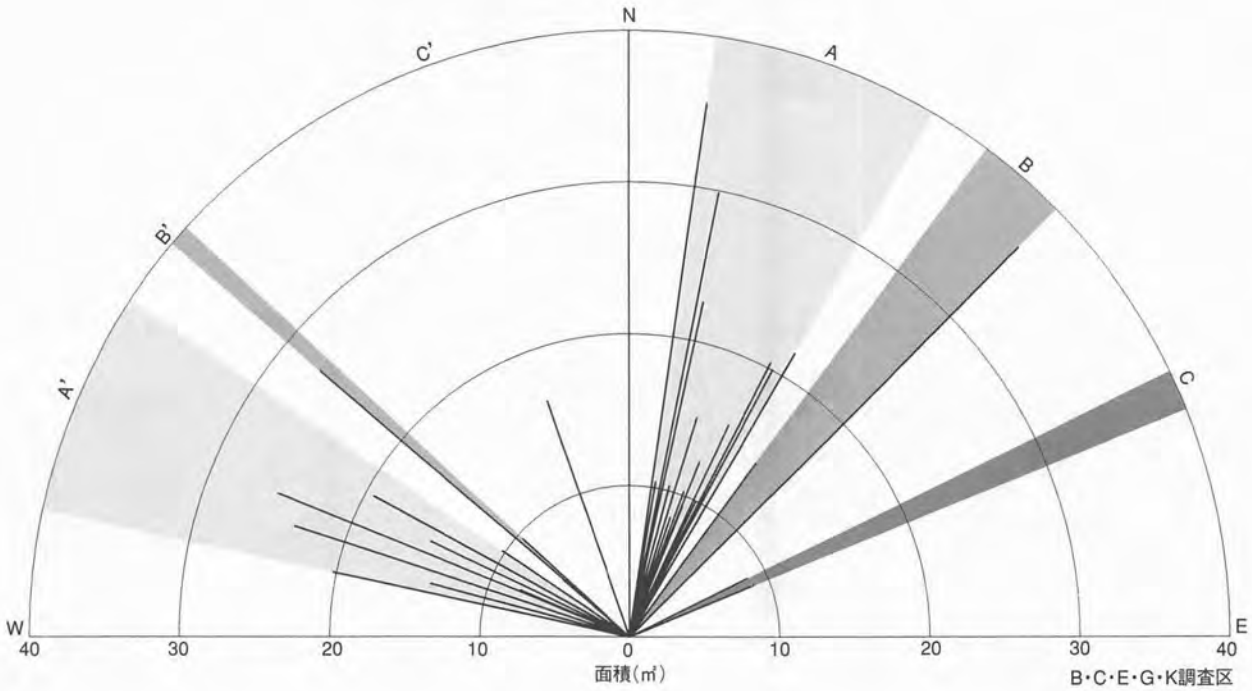
輸入磁器は、白磁・青白磁・青磁・青花がある。器種は、白磁が碗・皿・壺・小壺、青白磁が梅瓶・合子蓋、青磁が碗・盤・蓋、青花が碗・皿である。輸入磁器は、全体的に磨滅が著しい。329－2・329－28・329－30等、被熱しているものがある。輸入磁器は、時期的なまとまりとして、玉縁口縁の白磁碗(329－1・2)、鎬蓮弁文を持つ青磁碗(329－12・13他)・盤(329－28～329)、無文で体部から口縁部が外反する青磁碗(329－26・27)、コバルトで文様が描かれた青花碗・皿(330－1・2)に分けることができる。同安窯出土の青磁は確認できない。

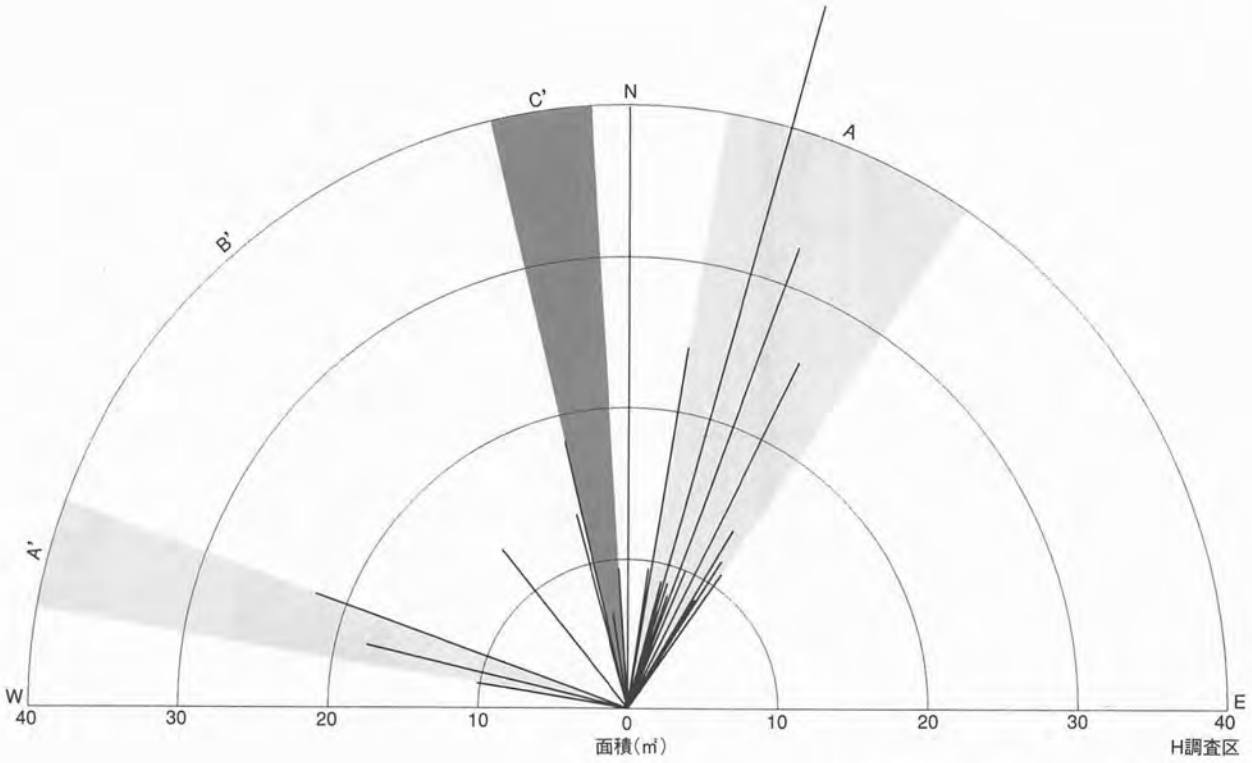
(4)陶器(表8)

陶器は、瀬戸美濃・珠洲・須恵器系陶器・瓷器系陶器がある。瀬戸美濃は、天目茶碗3個体のみで、他の器種は確認できない。珠洲・須恵器系陶器・瓷器系陶器には各々壺・甕・擂鉢の器種がある。珠洲壺・甕は、24個体、破片数66、擂鉢は、10個体、破片数13である。珠洲に類似した須恵器系陶器には、323－4・5がある。瓷器系陶器甕323－6・7は、新潟県笹神狼沢窯の製品と考えられる。323－7は、二重格子と菊花の押印を持つ。323－6は、色調灰色で細砂が多く混入する胎土が、323－7と一致する。擂鉢323－8～10も、胎土が類似するが、笹神狼沢窯とは特定できない。その他の瓷器系陶器は、壺・甕19個体、破片数95点、擂鉢19個体、破片数36である。擂鉢326－1は、卸目として刻画草花文があり磨滅している。瓷器系陶器個体数が壺・甕と擂鉢両方で、須恵器系陶器を凌ぐ。

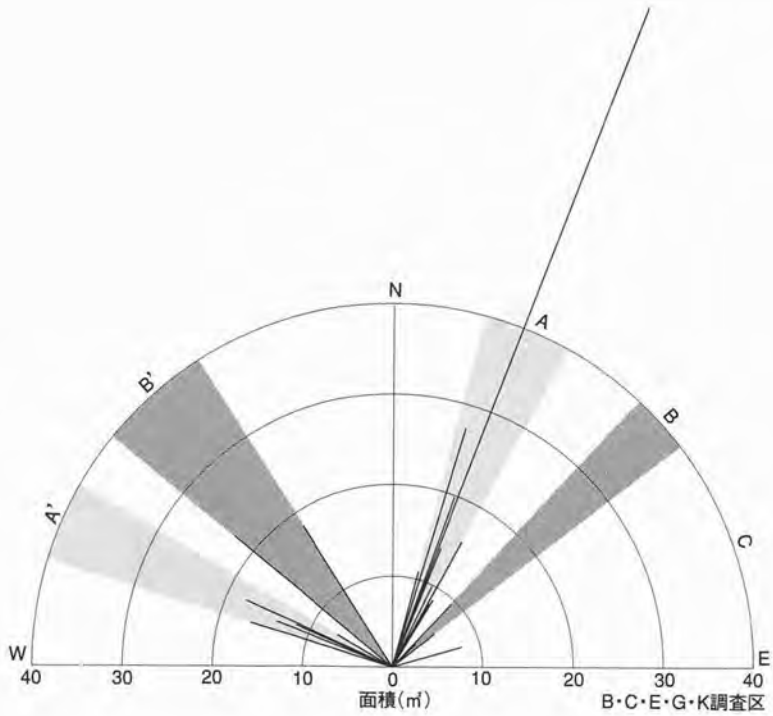


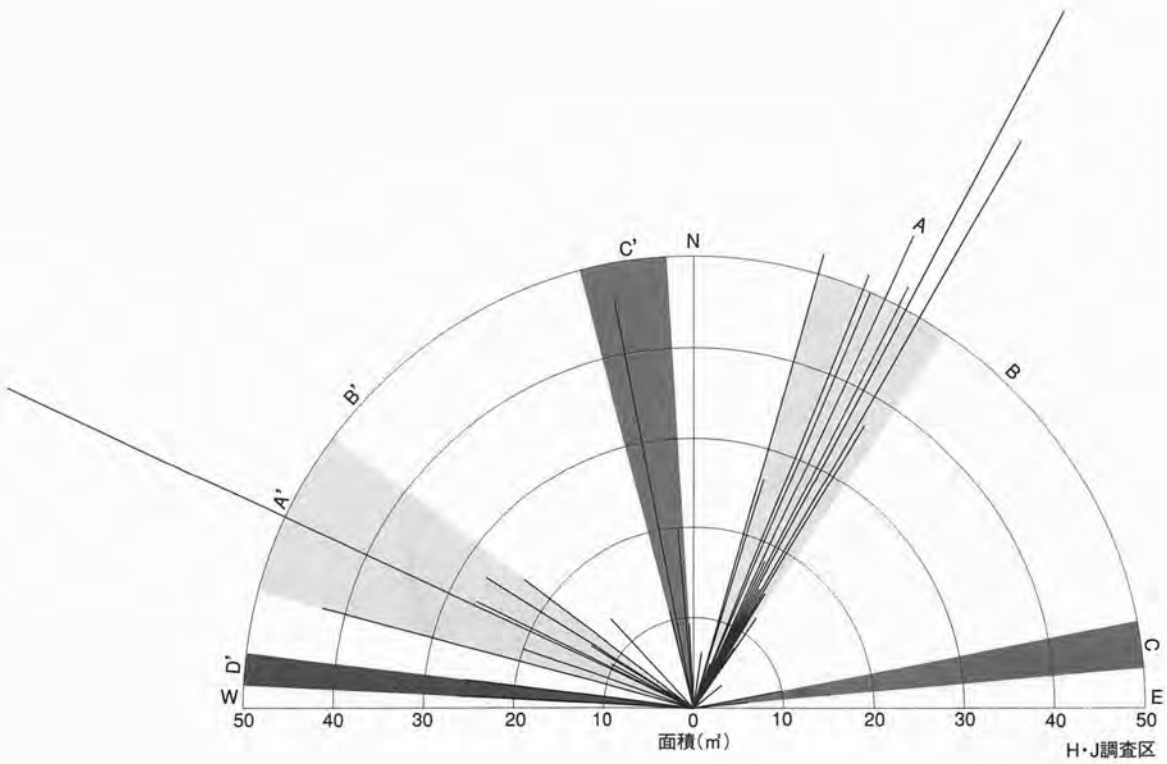
第361図　竪穴建物集成図



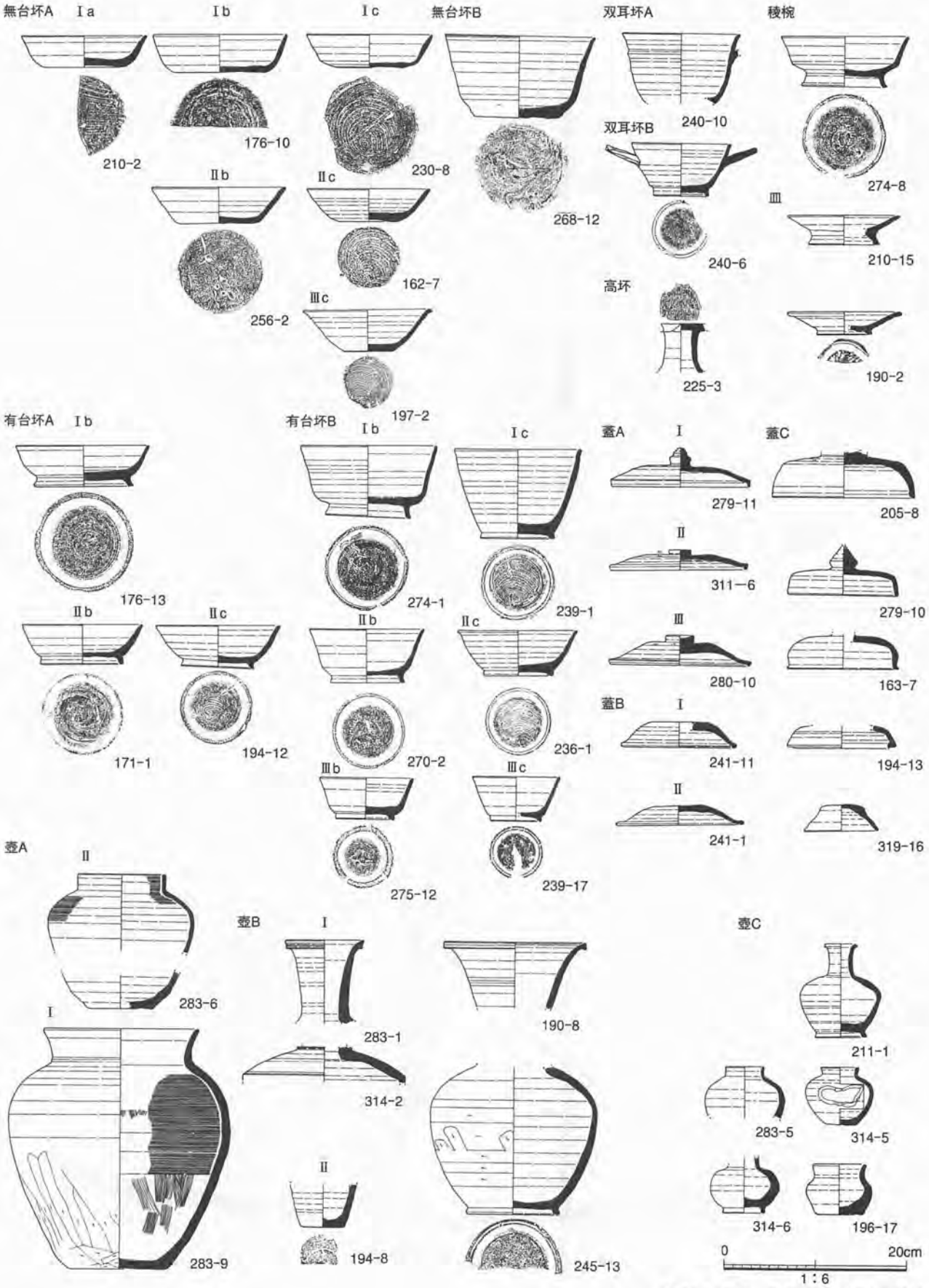


第362図　竪穴建物方位分布図

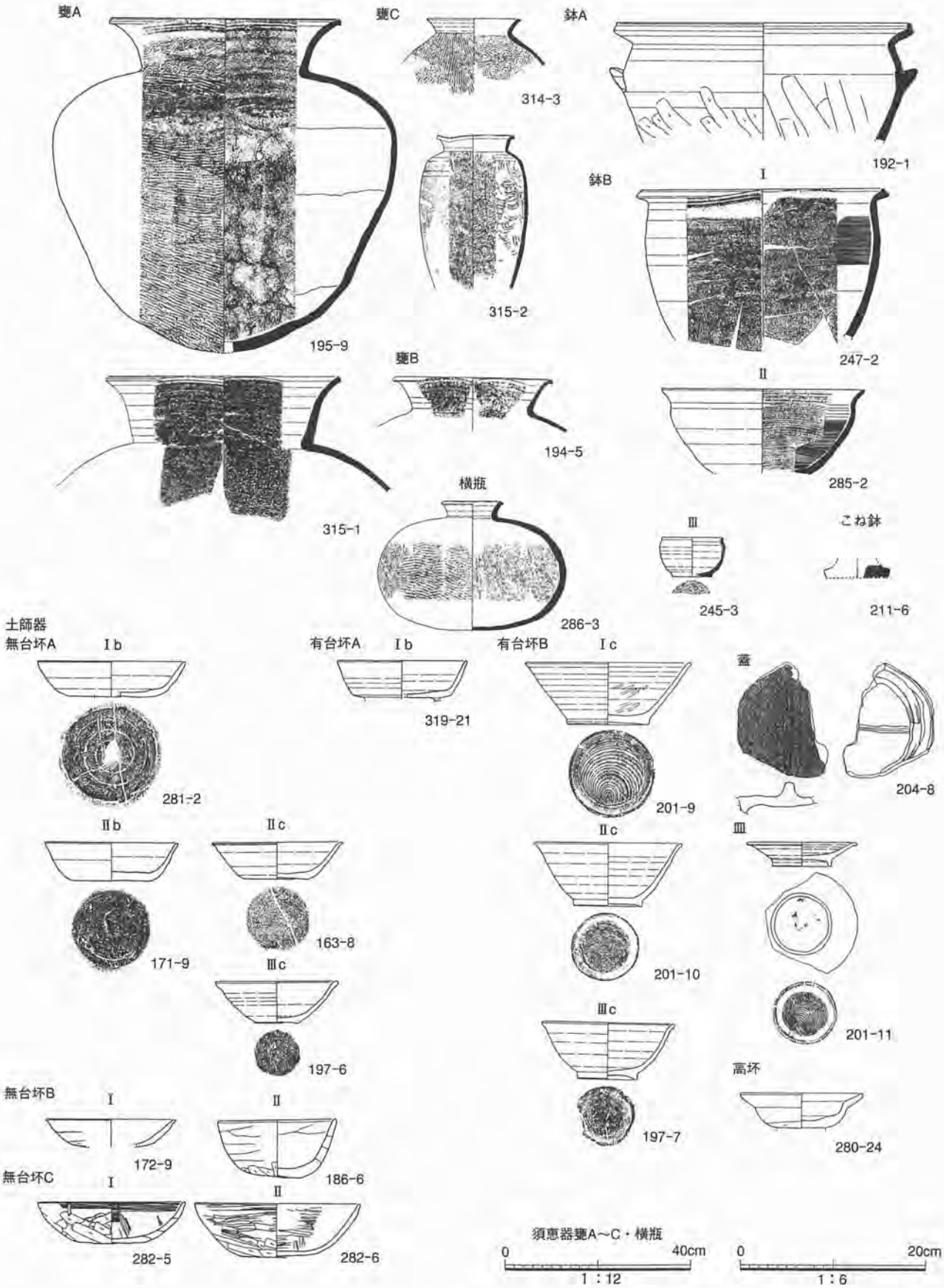




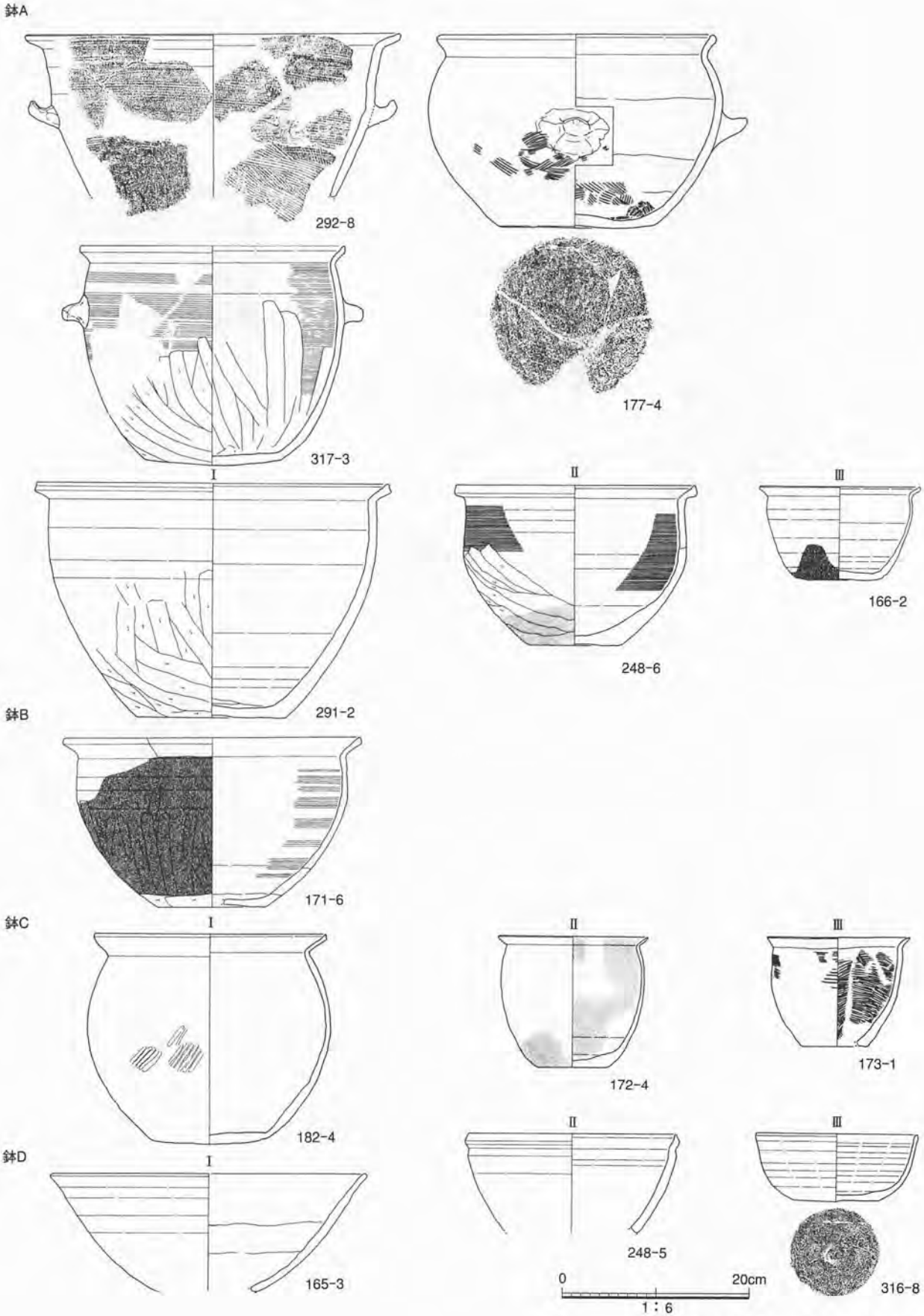
第363図　掘立柱建物方位分布図



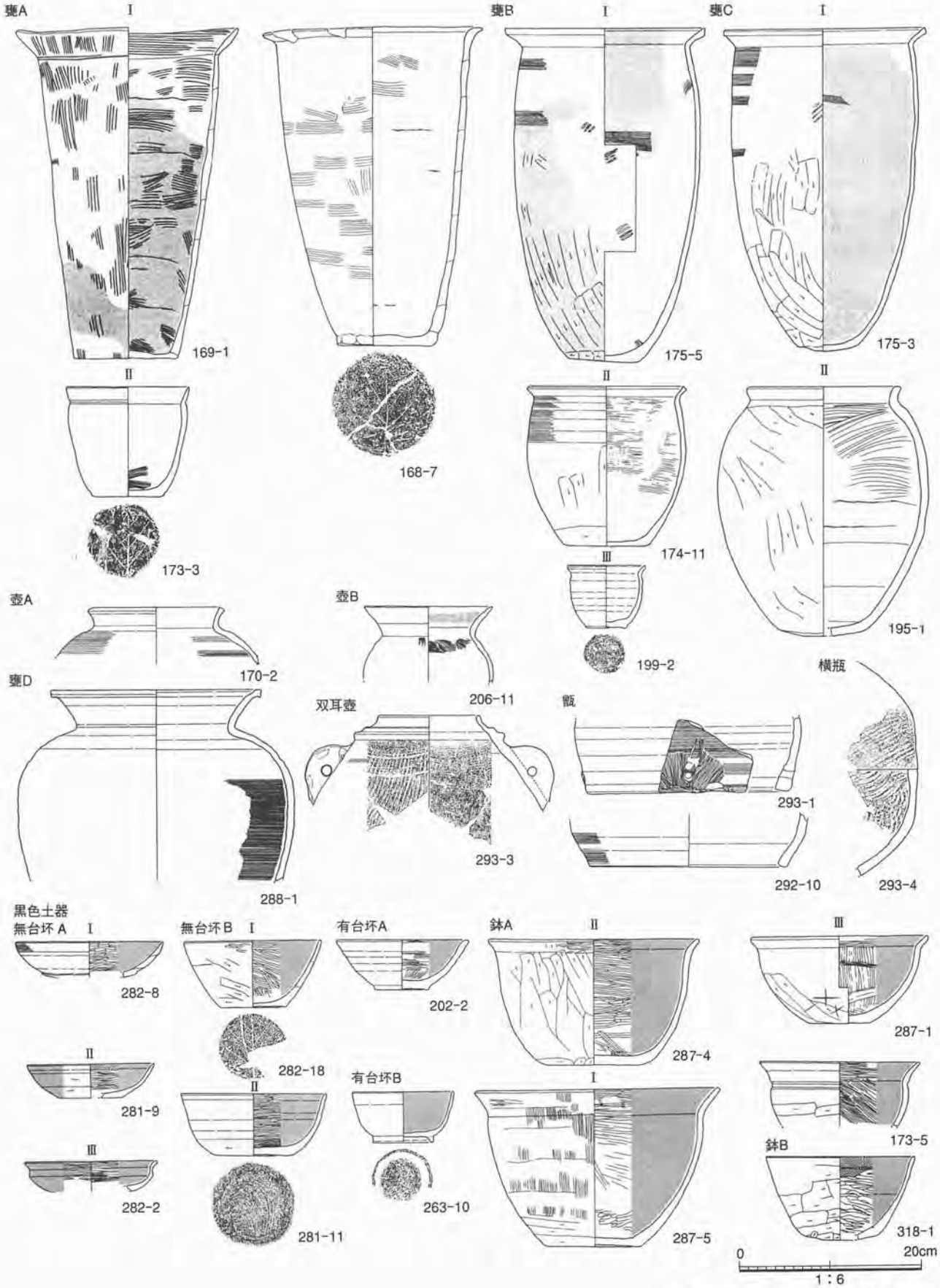
第364図　須恵器分類図(1)



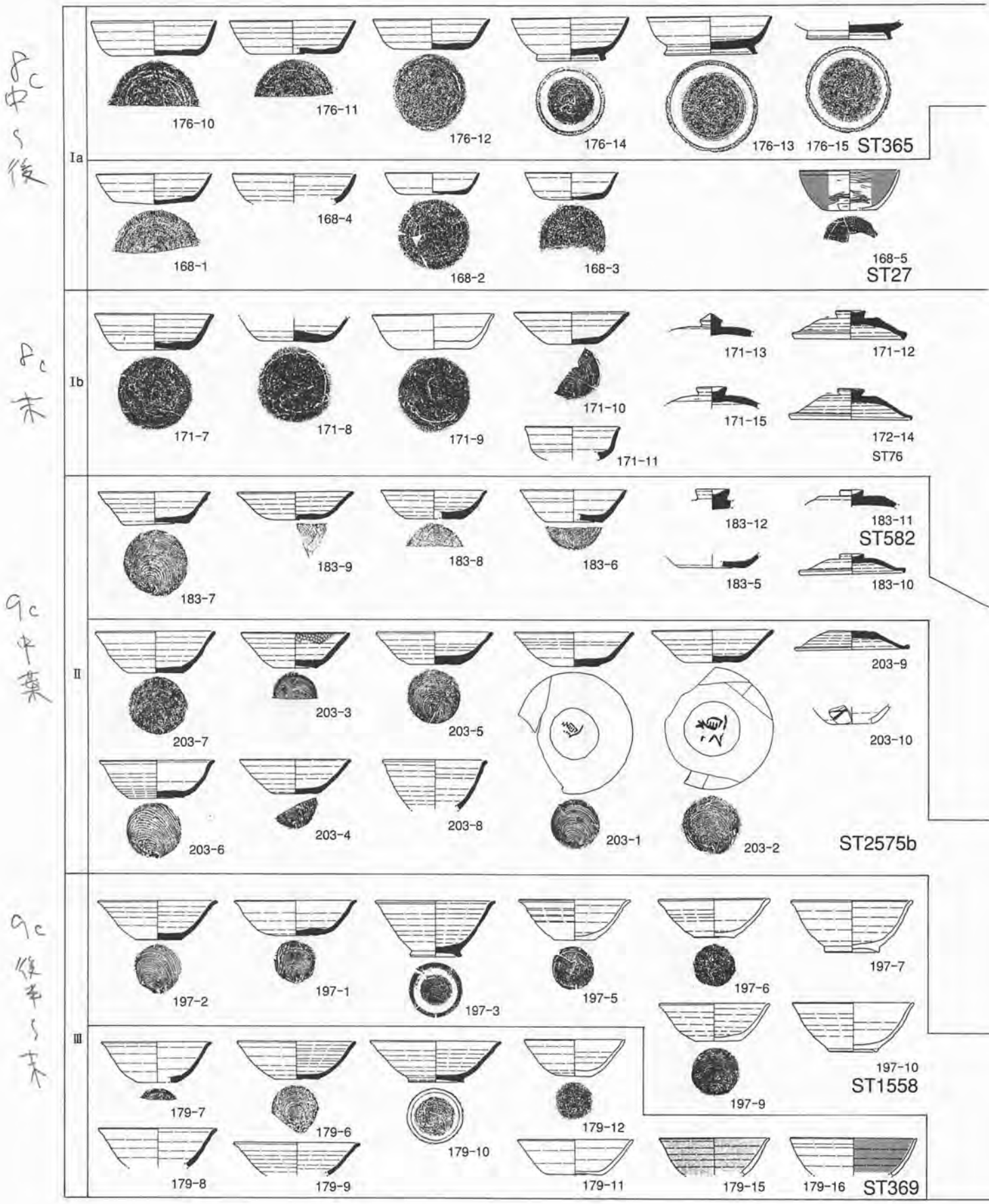
第365図　須恵器分類図(2)・土師器分類図(1)

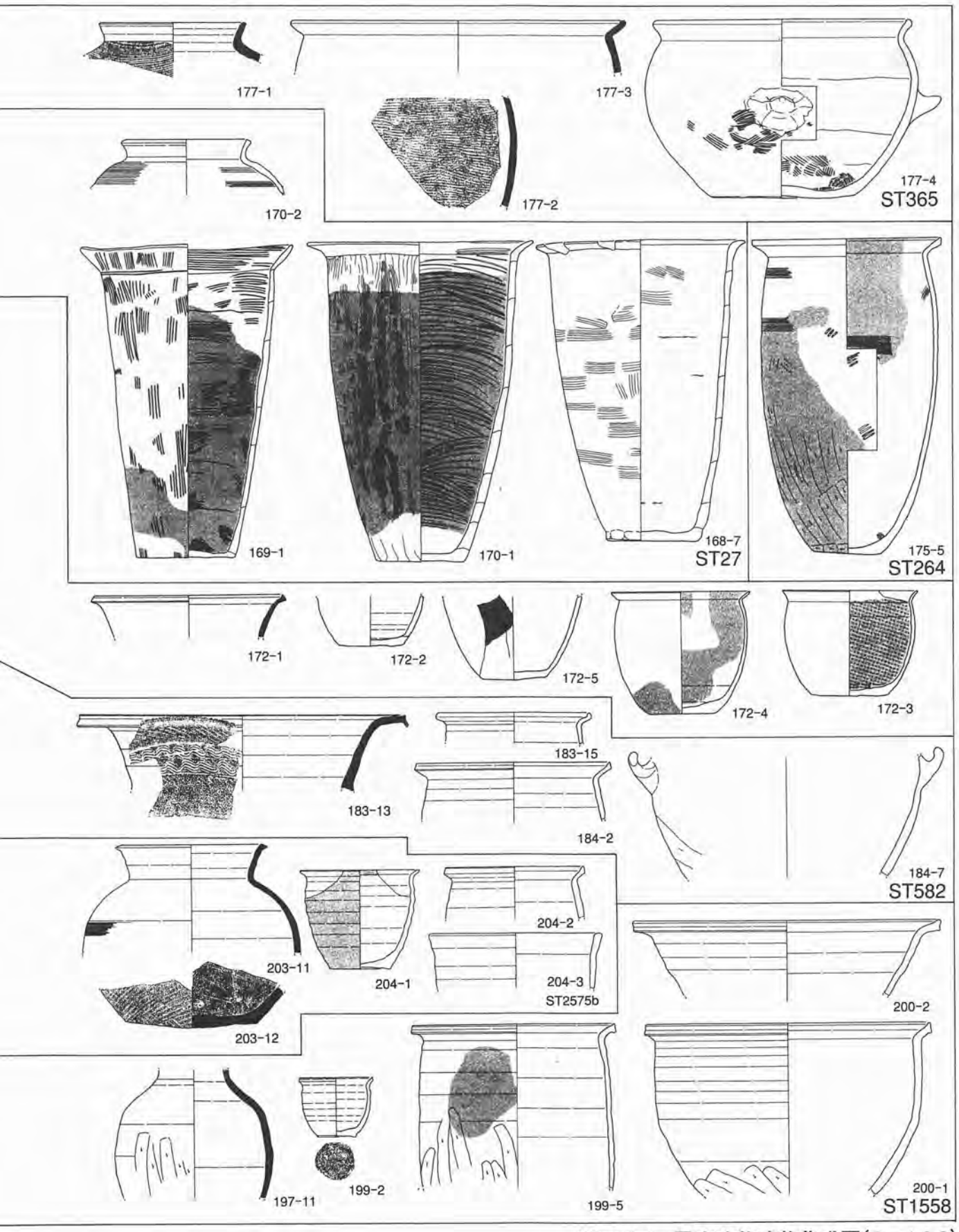


第366図　土師器分類図(2)

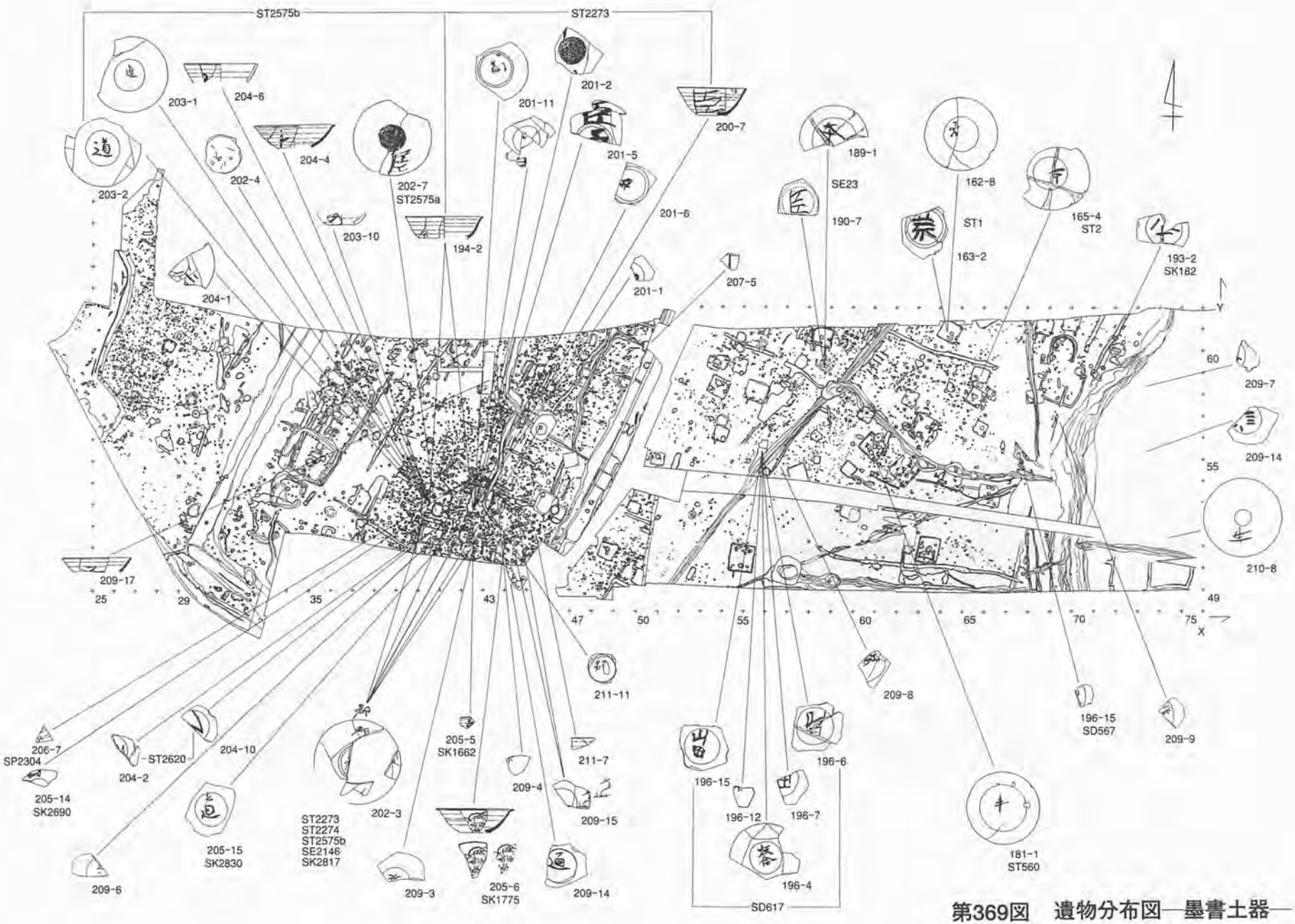


第367図　土師器分類図(3)


8c 中～後
Ia
176-10
176-11
176-12
176-14
176-13
176-15
ST365
168-1
168-4
168-2
168-3
168-5
ST27
8c 末
Ib
171-7
171-8
171-9
171-10
171-11
171-13
171-12
171-15
172-14
ST76
9c 中葉
II
183-7
183-9
183-8
183-6
183-12
183-11
ST582
183-5
183-10
203-7
203-3
203-5
203-9
203-10
203-6
203-4
203-8
203-1
203-2
ST2575b
9c 後半～末
III
197-2
197-1
197-3
197-5
197-6
197-7
197-9
197-10
ST1558
179-7
179-6
179-10
179-12
179-8
179-9
179-11
179-15
179-16
ST369



第368図　竪穴建物遺物集成図(S=1：6)



第369図　遺物分布図―墨書土器―

墨書部位

坏類底部

坏類体部

蓋外面

打ち欠き模式図

212-6
体部7回以上

212-5
体部7回以上

237-2
体部7回以上

218-10
体部6回以上

225-2
体部4回→中央2分割

254-4
中央2分割

255-1
中央2分割

245-1
不規則

転用硯分類図

228-2
無台坏内面(見込み)使用

238-2
有台坏内面(見込み)使用

240-6
双耳坏内面(見込み)使用

278-4
蓋内面使用

262-3
無台坏外面(底部)使用

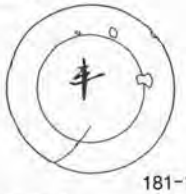
273-7
有台坏外面(底部高台内)使用

240-2
双耳坏外面(底部高台内)使用

241-1
蓋(つまみ無)内面使用

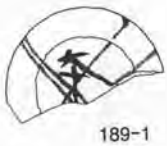
第370図　墨書土器模式図・転用硯分類図

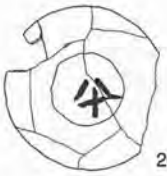
遺構出土


181-1

165-4

210-3


189-1


209-1

193-2

SG134

212-6

212-1

212-2

214-2

235-5

240-13

212-8

212-5

212-4

214-3

235-6

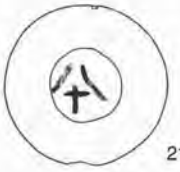
214-1

212-7

235-4

212-3

214-5


214-7

213-2

212-9

213-1

213-4

214-6

214-8

214-4

SG323

250-1

250-5

250-4

271-3

251-2

271-6

SG3001

250-6

250-2

250-3

251-1

298-1

0 20cm
1:6

第371図　墨書集成図(1)

遺構出土

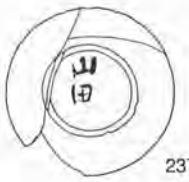
196-5

196-6

196-7

SG134

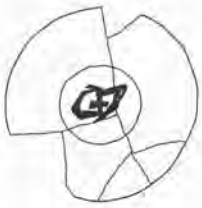
217-7


237-1

217-9

217-5

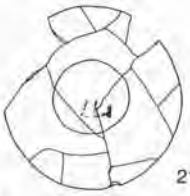
218-5


241-2

217-2

217-1

217-3


218-3

237-6

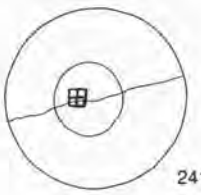
235-3

217-4

237-2

218-2

218-7


241-1

217-8

217-6

218-1

218-4

237-3

SG323

260-5

278-1

260-7

260-8

278-2

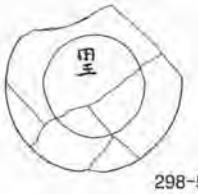
SG3001

311-1

298-2

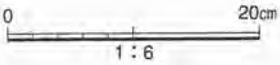
294-4

298-7


298-5

318-5

294-2



第372図　墨書集成図(2)

遺構出土

210-4　209-18　209-17　313-5　209-12

SG134

223-1　222-1　243-2　243-1　245-1　243-5

223-2　222-4　222-5　222-2　222-6　243-4

243-3　222-3　243-6　222-7　222-8　223-5

223-4　223-3　224-5

SG323

251-6　251-7

SG3001

296-11　296-10

遺構出土

SG134

200-7　190-7　202-7　205-14　201-5　223-6　223-7

SG3001

296-3　296-4　296-1　296-2　312-7

SG323

270-6　277-8　280-20

0　20cm
1：6

第373図　墨書集成図(3)

遺構出土

163-2

SG134

215-1 215-7 215-4 236-1 215-5 215-8

215-3 215-2 236-3 240-12 236-2

SG323

259-5 259-4 273-3 259-3

SG134

216-2 216-6 216-7 216-4

235-8 216-3 216-5 216-1

SG323

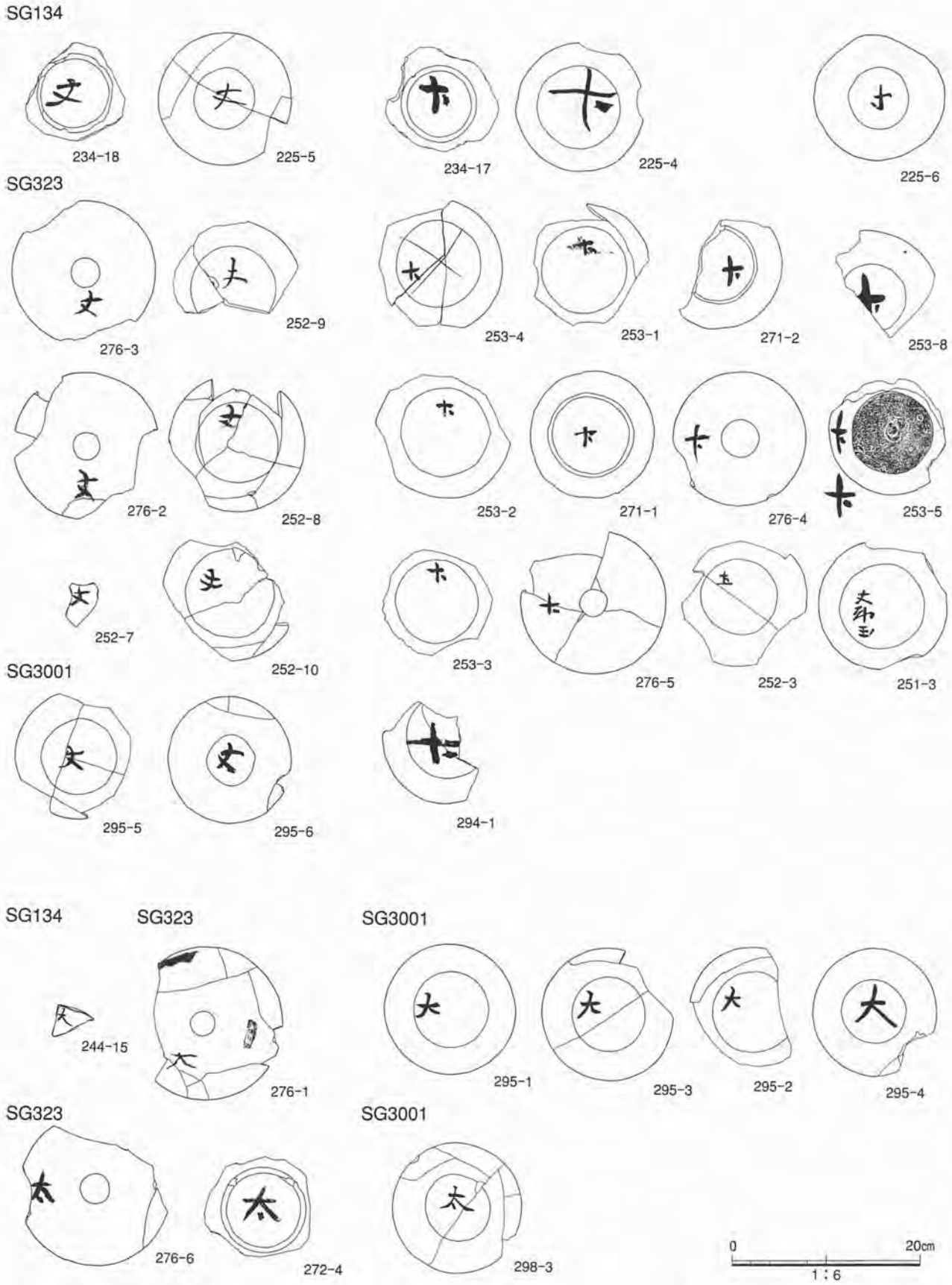
257-7

SG134

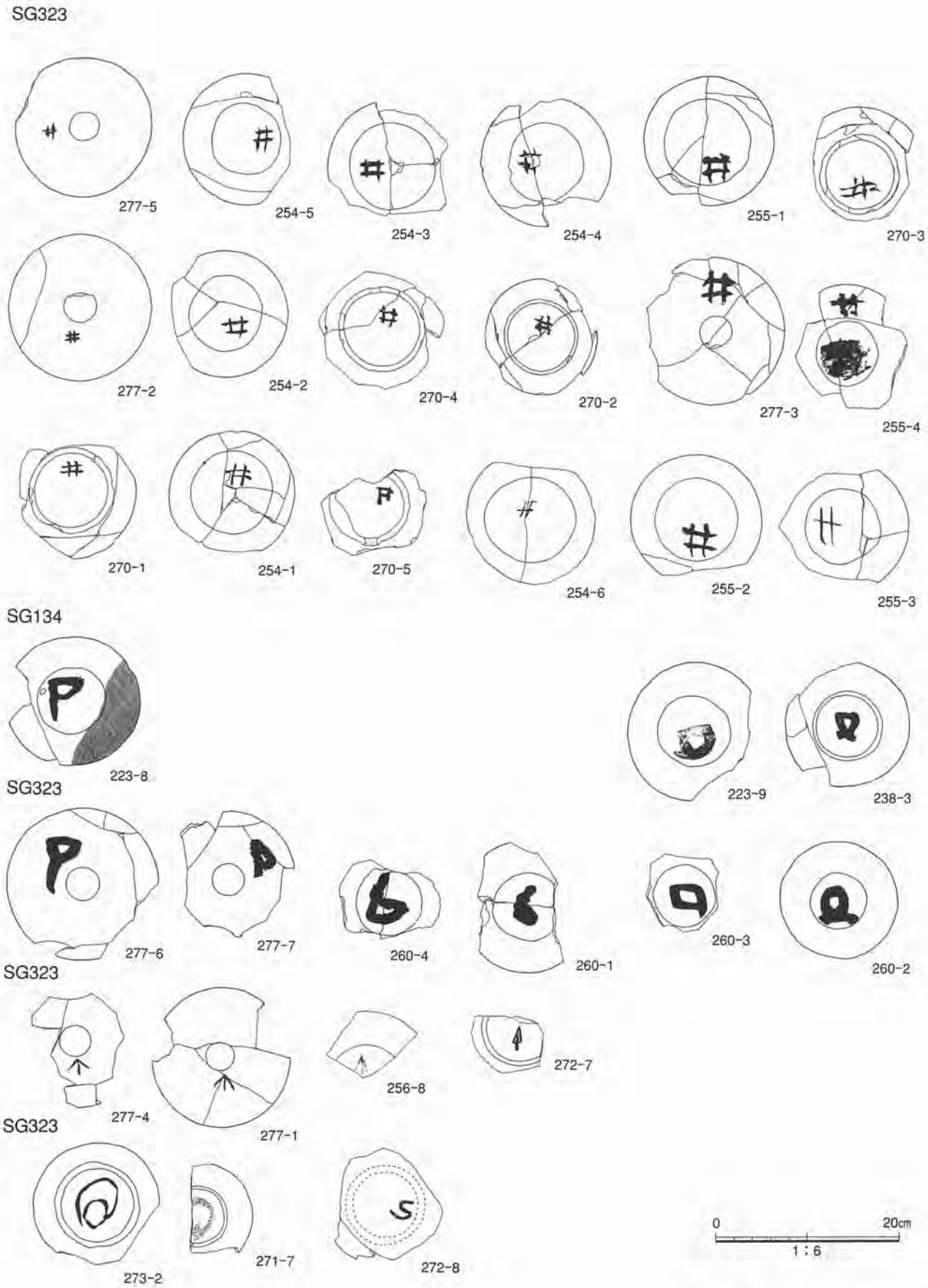
219-3 219-1 219-2

0 20cm
1:6

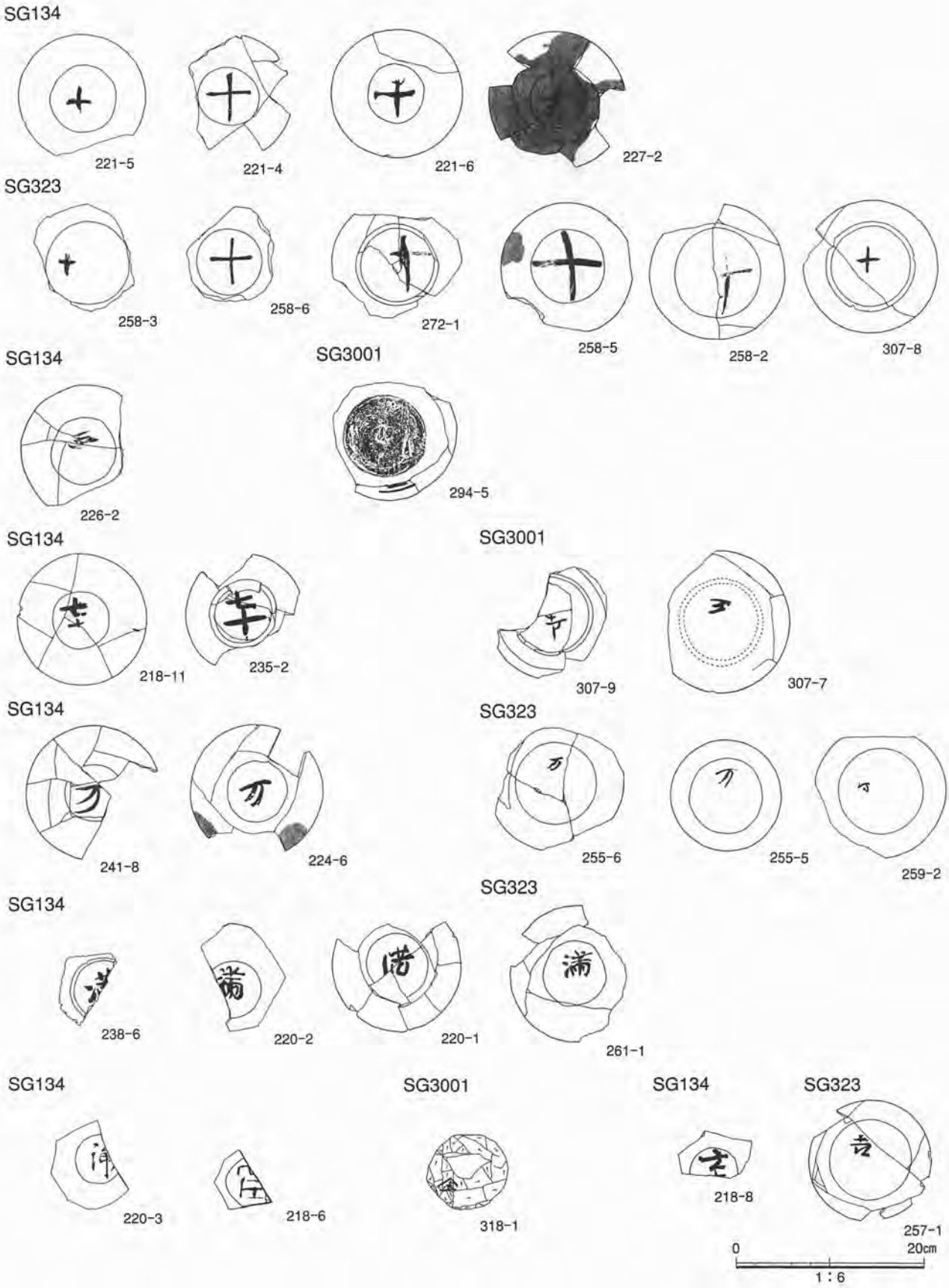
第374図　墨書集成図(4)



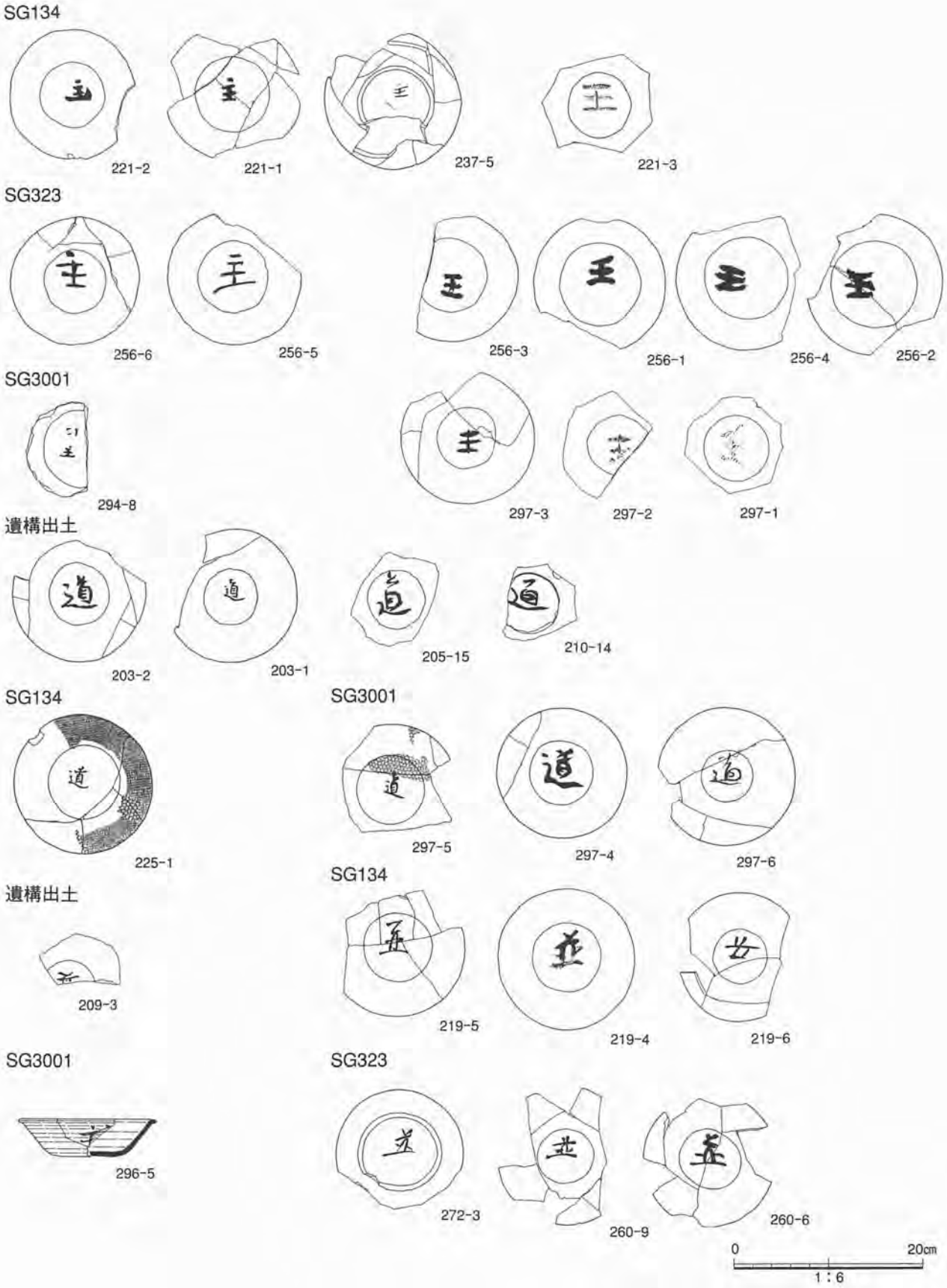
第375図　墨書集成図(5)



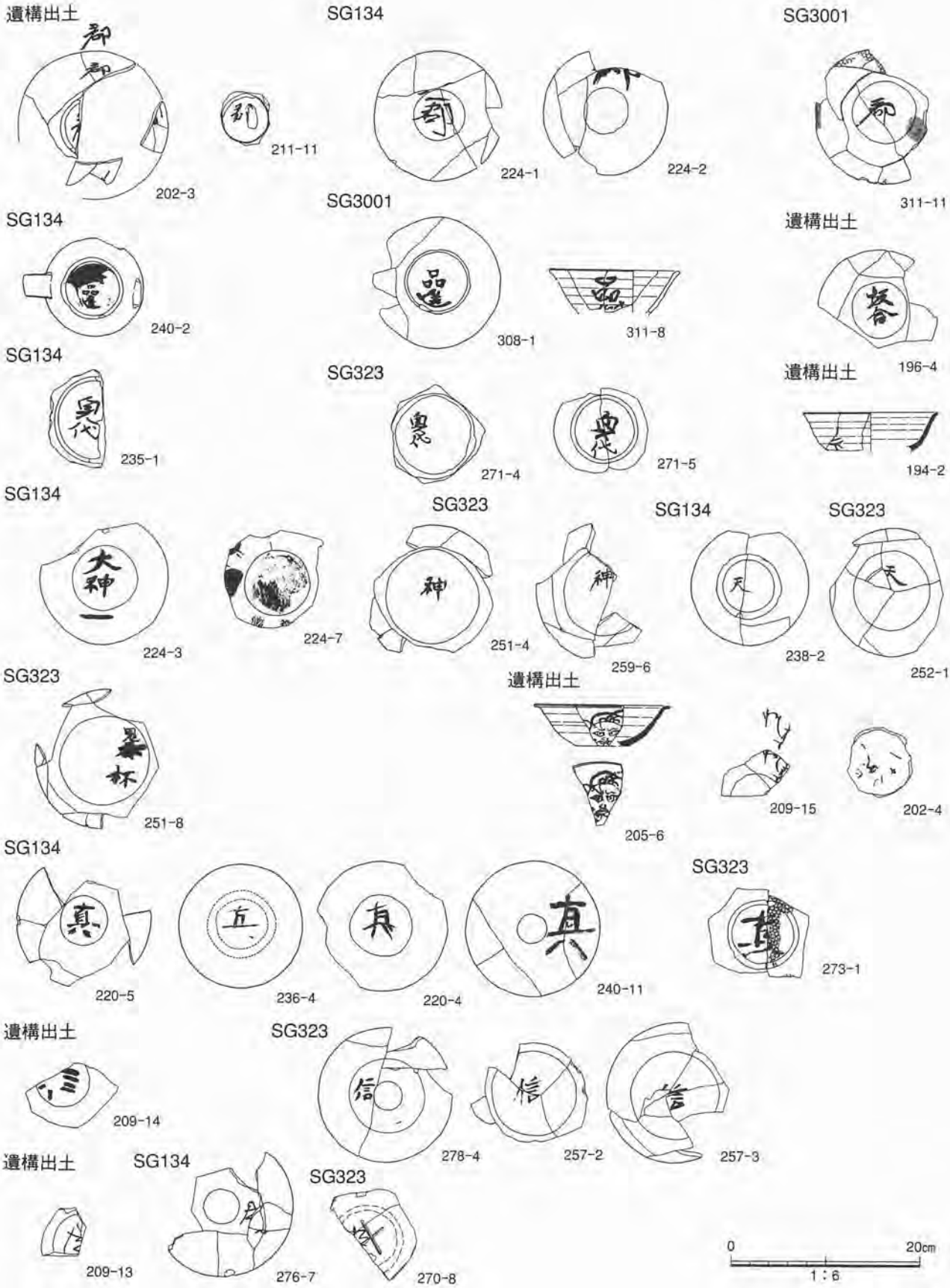
第376図　墨書集成図(6)



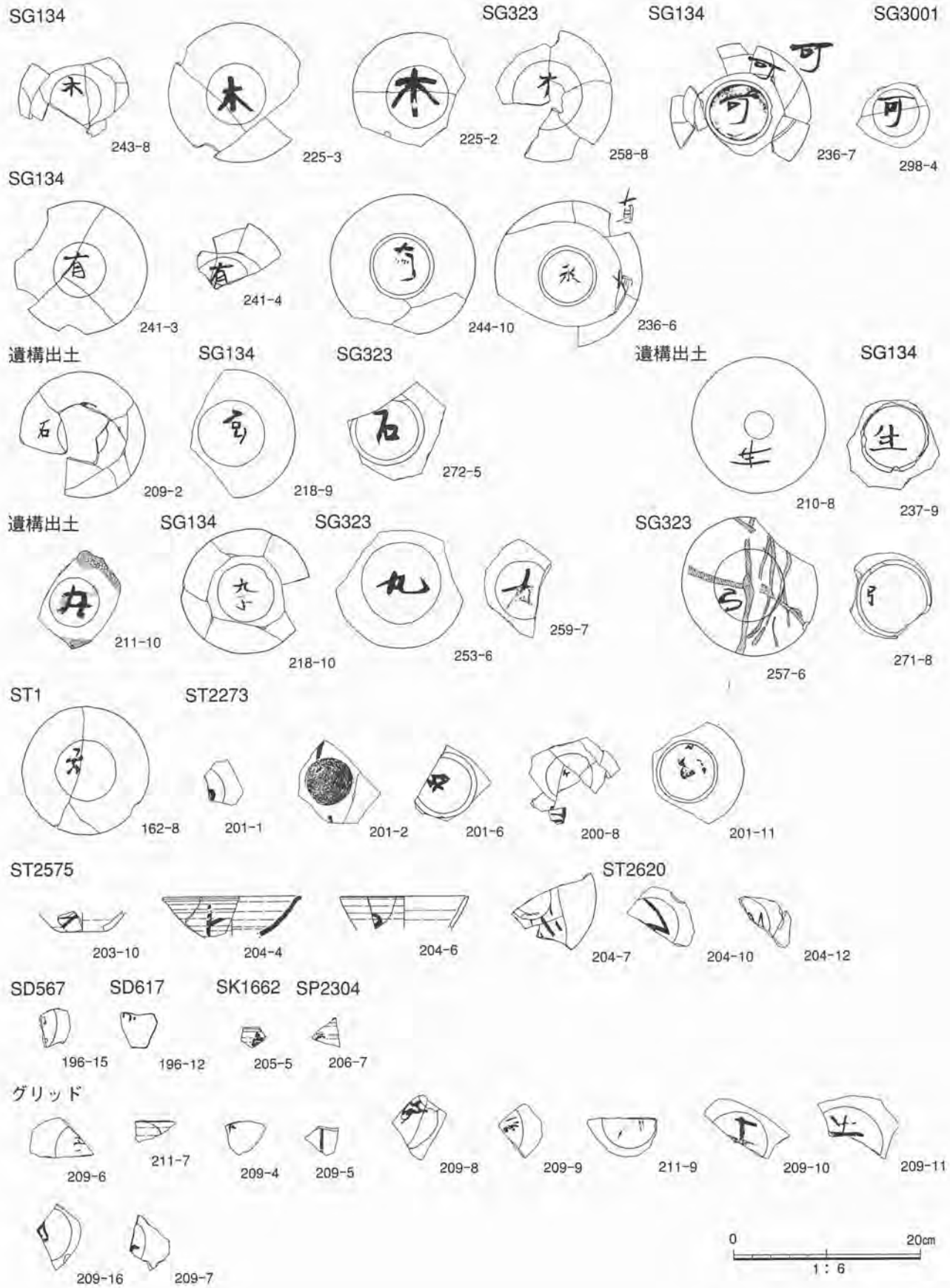
第377図　墨書集成図(7)



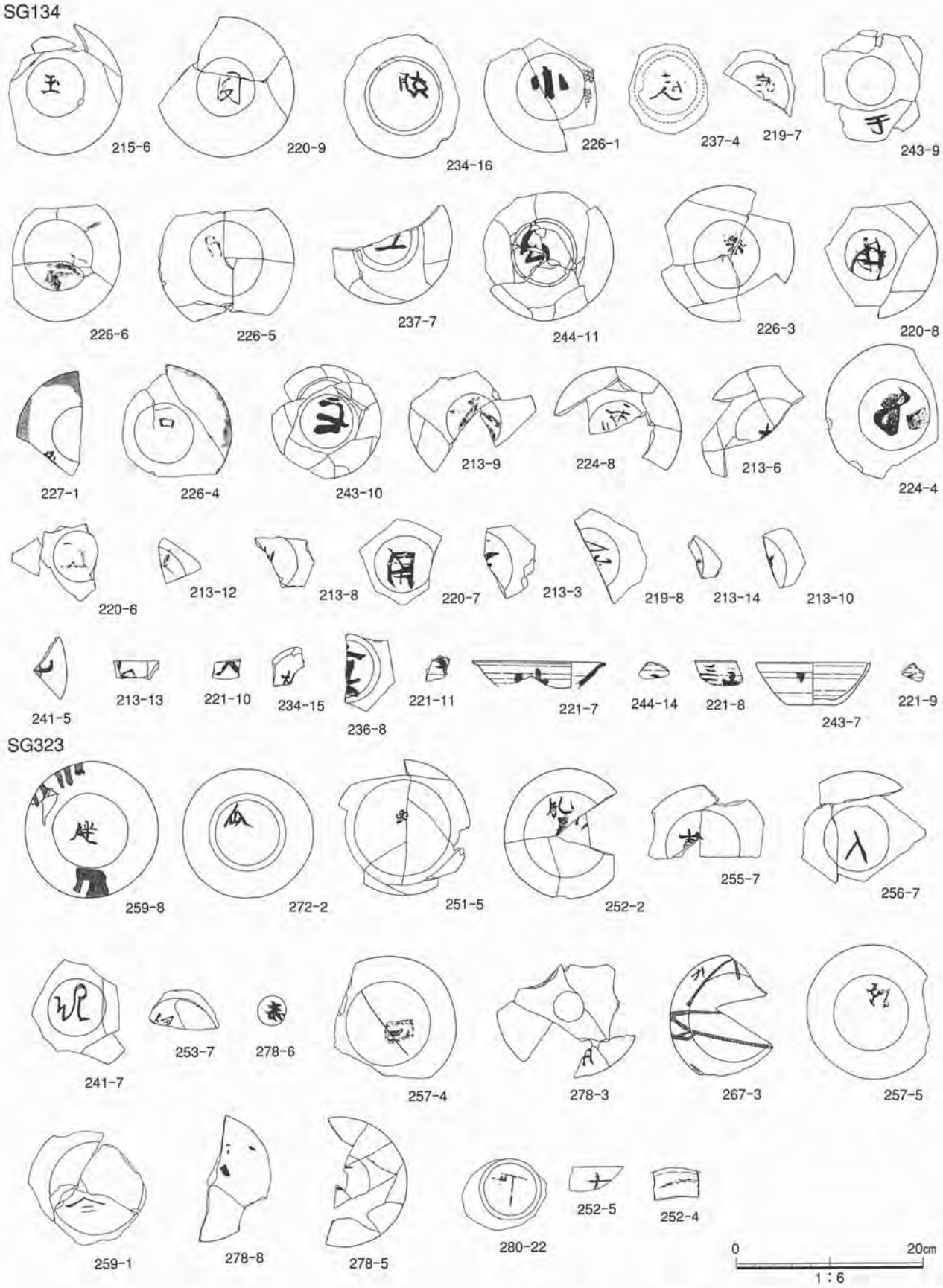
第378図　墨書集成図(8)



第379図　墨書集成図(9)

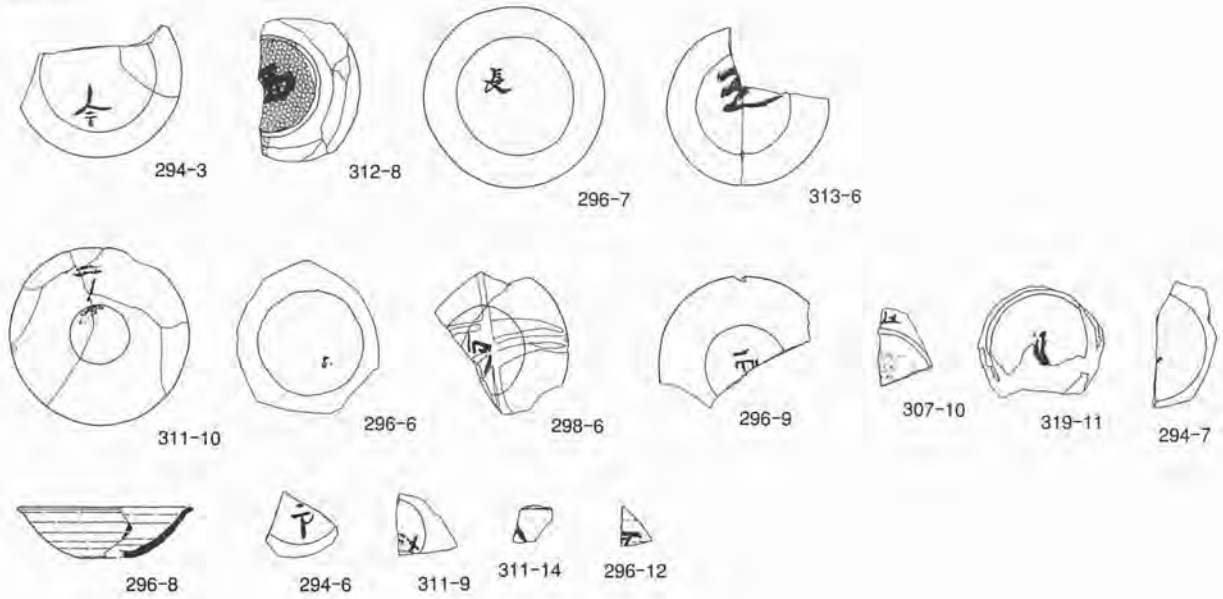


第380図　墨書集成図(10)

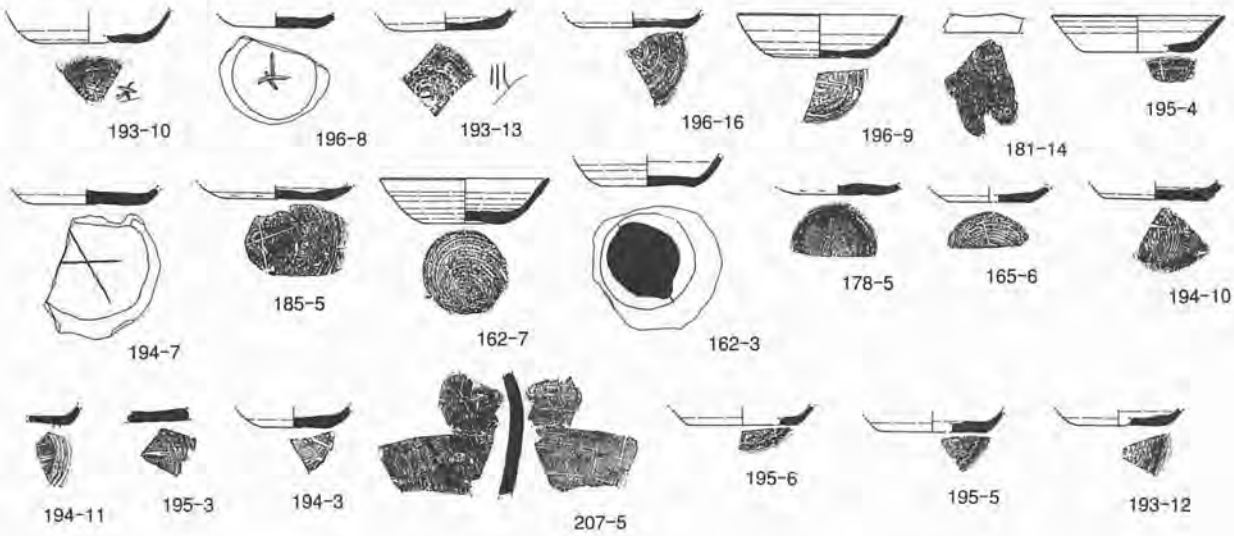


第381図　墨書集成図(11)

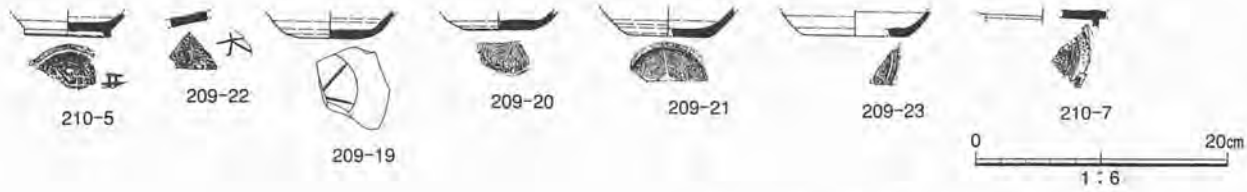
SG3001



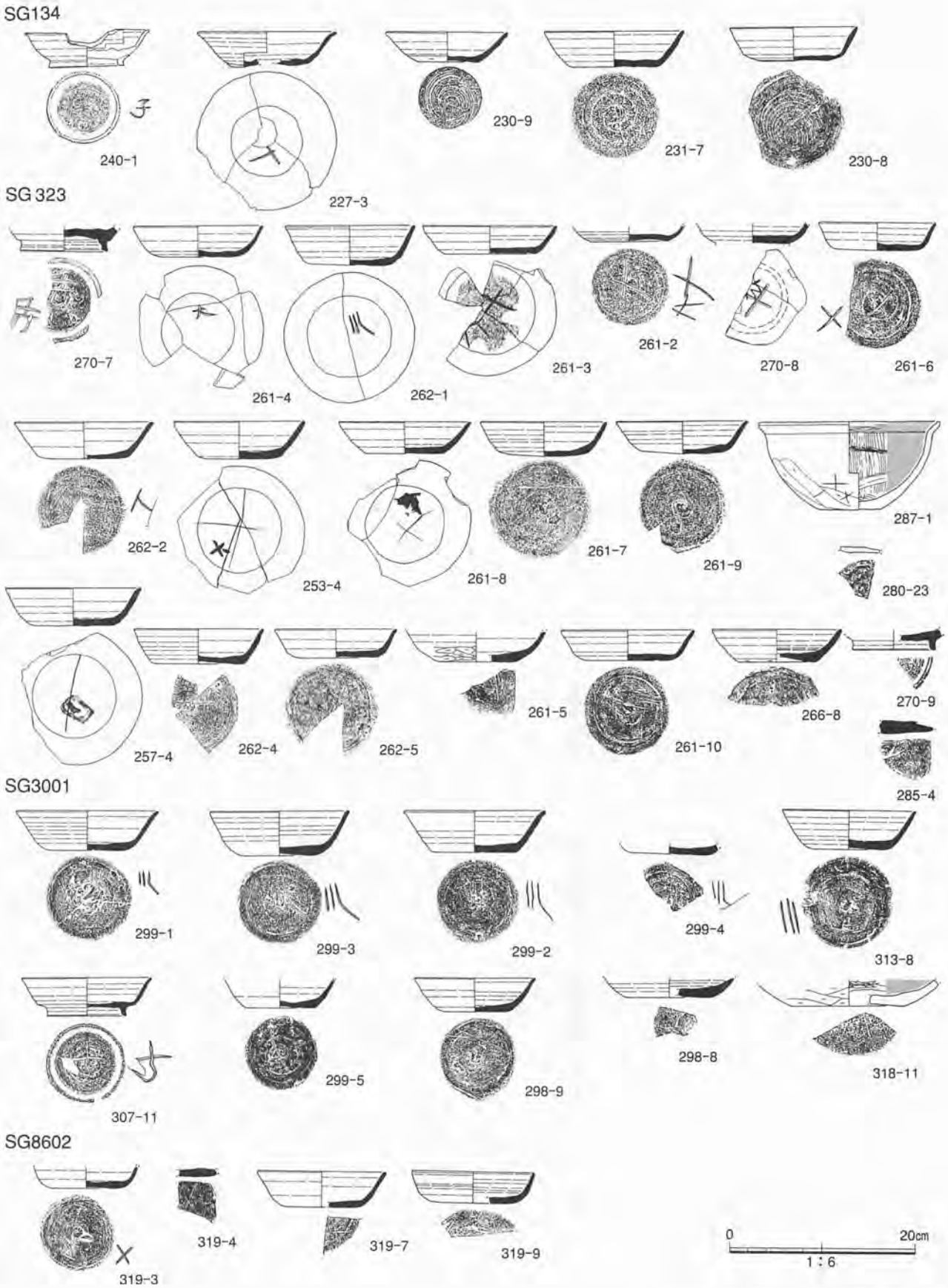
遺構出土



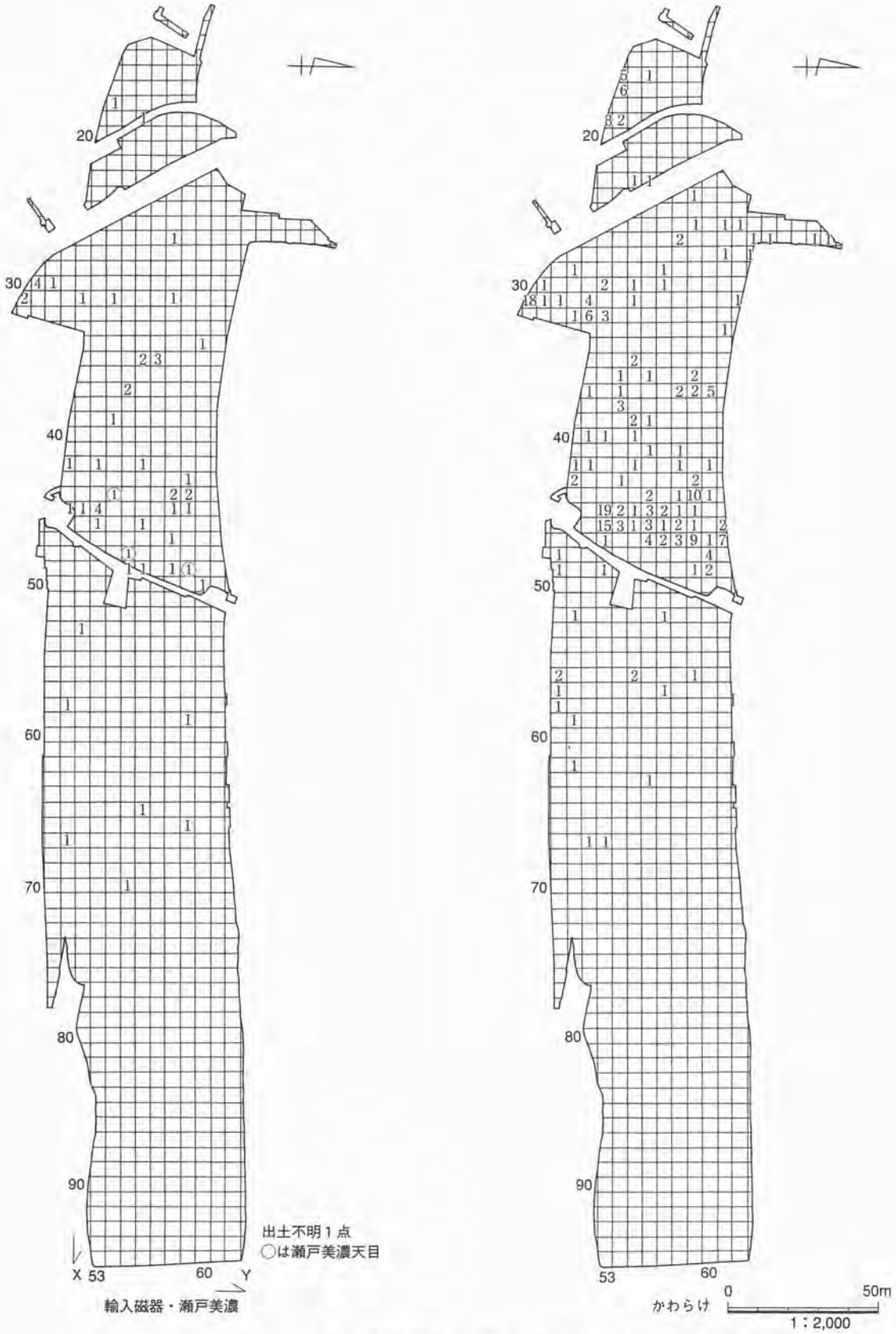
グリッド



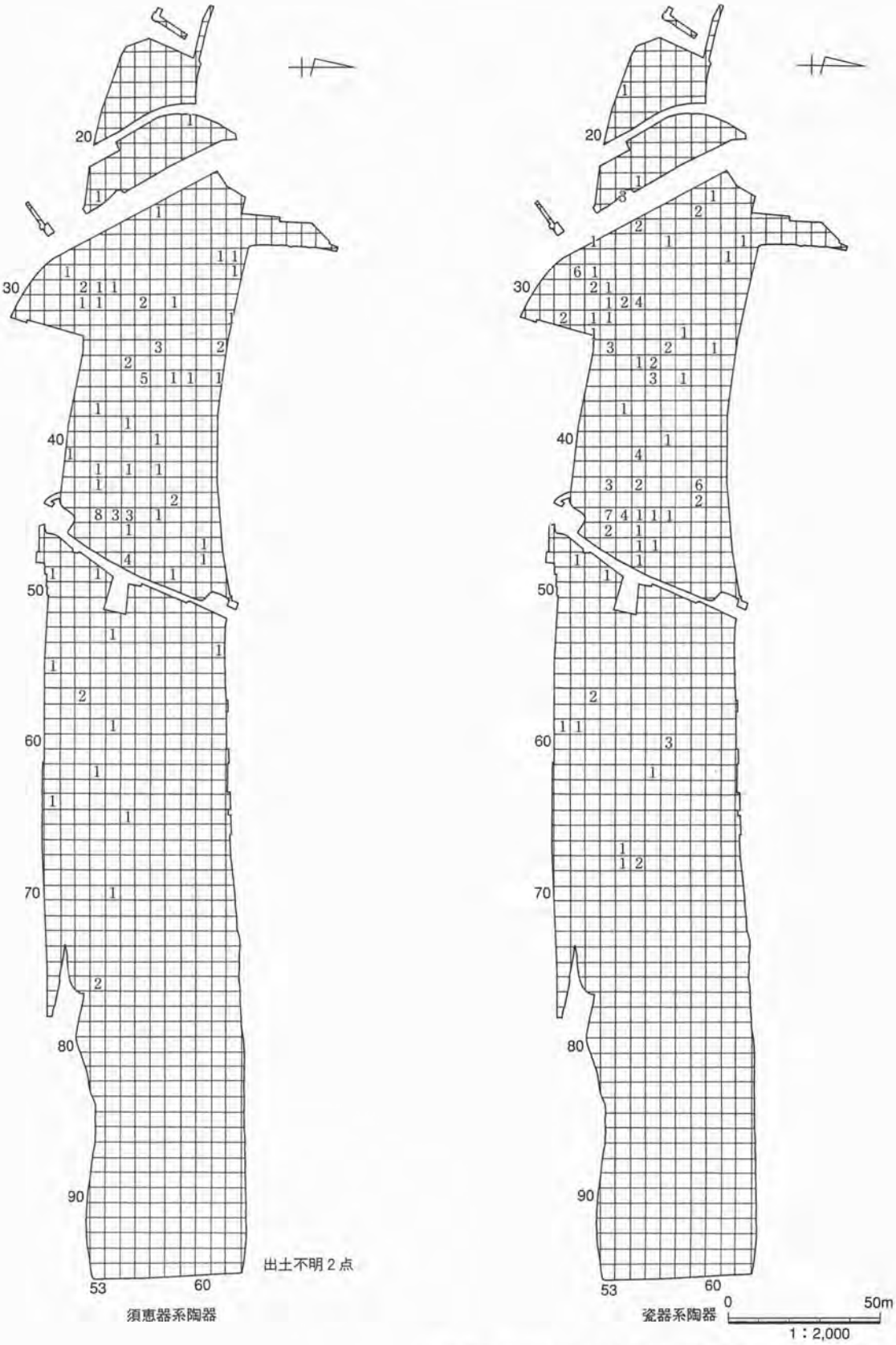
第382図　墨書集成図(12)・刻書集成図(1)



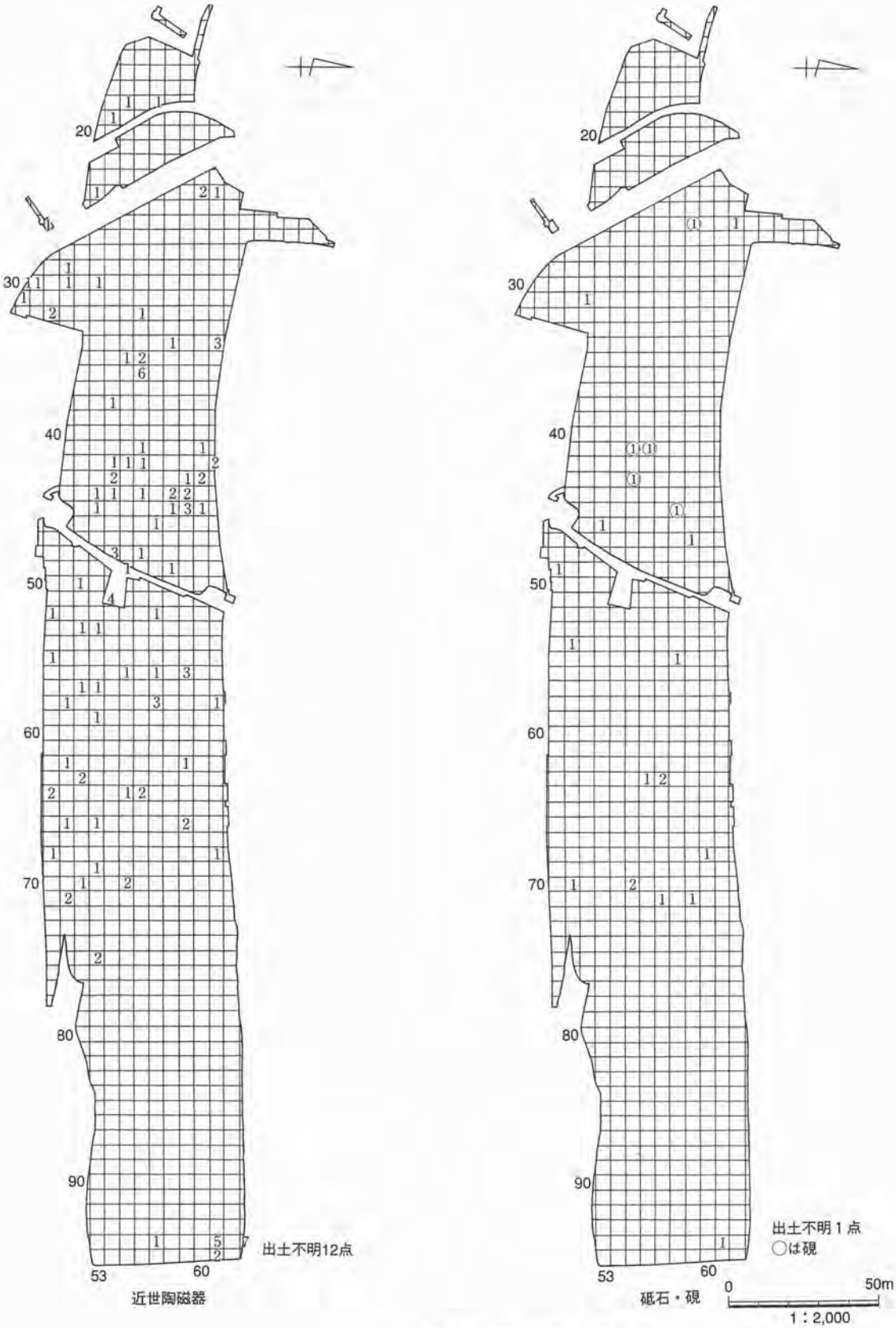
第383図　刻書集成図(2)



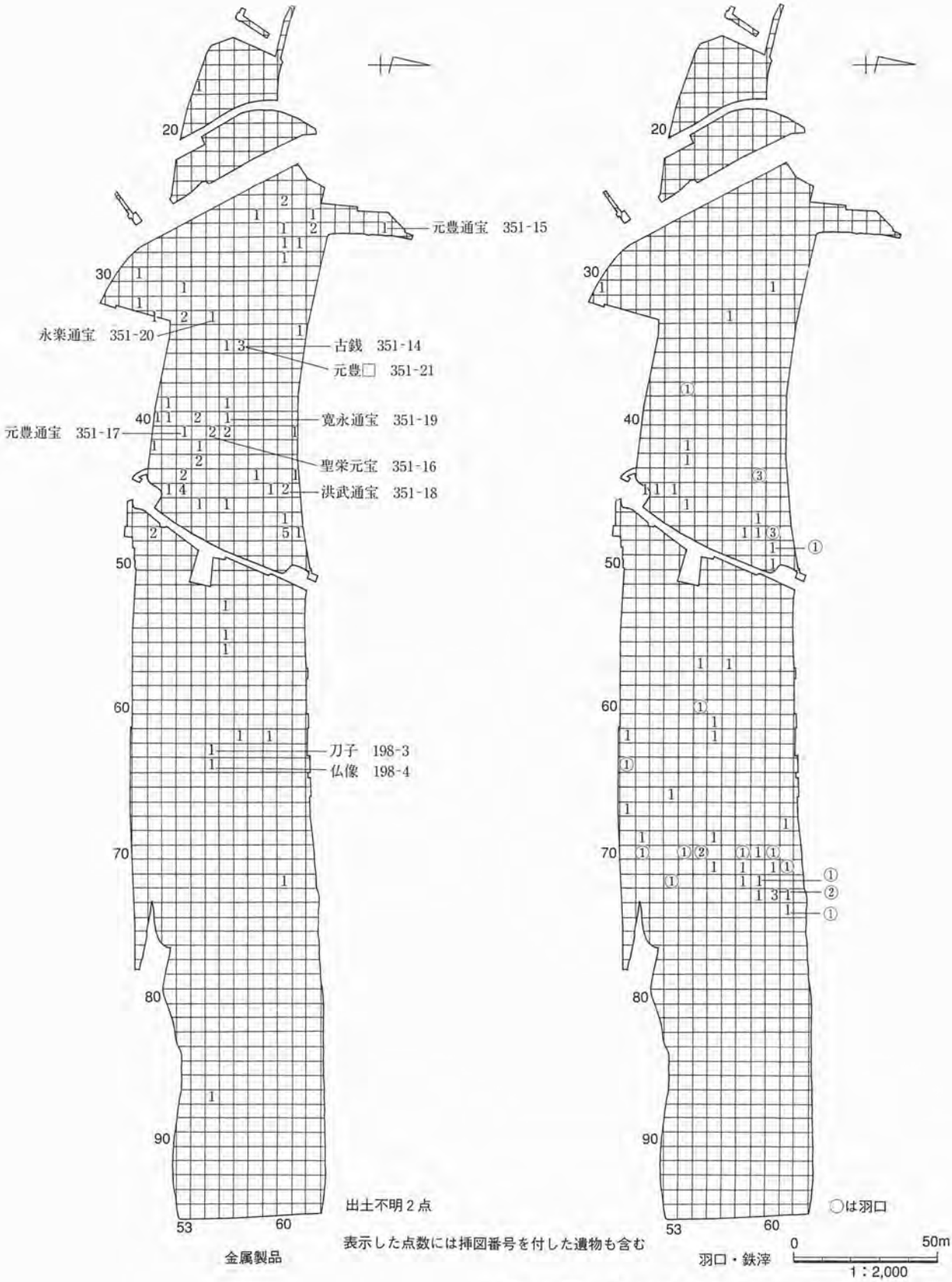
第384図　遺物分布図―かわらけ・輸入磁器・瀬戸美濃―



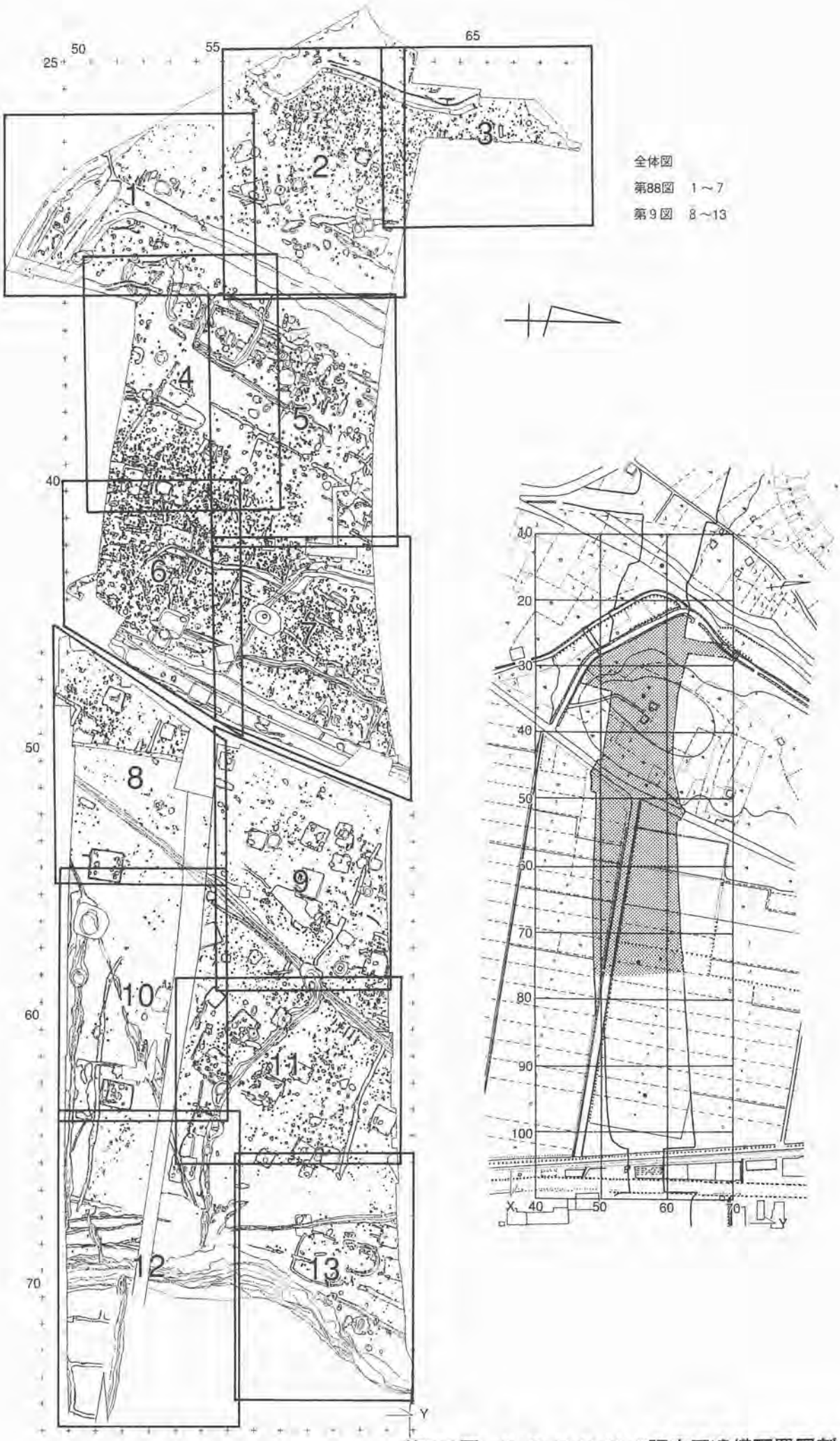
第385図　遺物分布図―須恵器系・磁器系陶器―



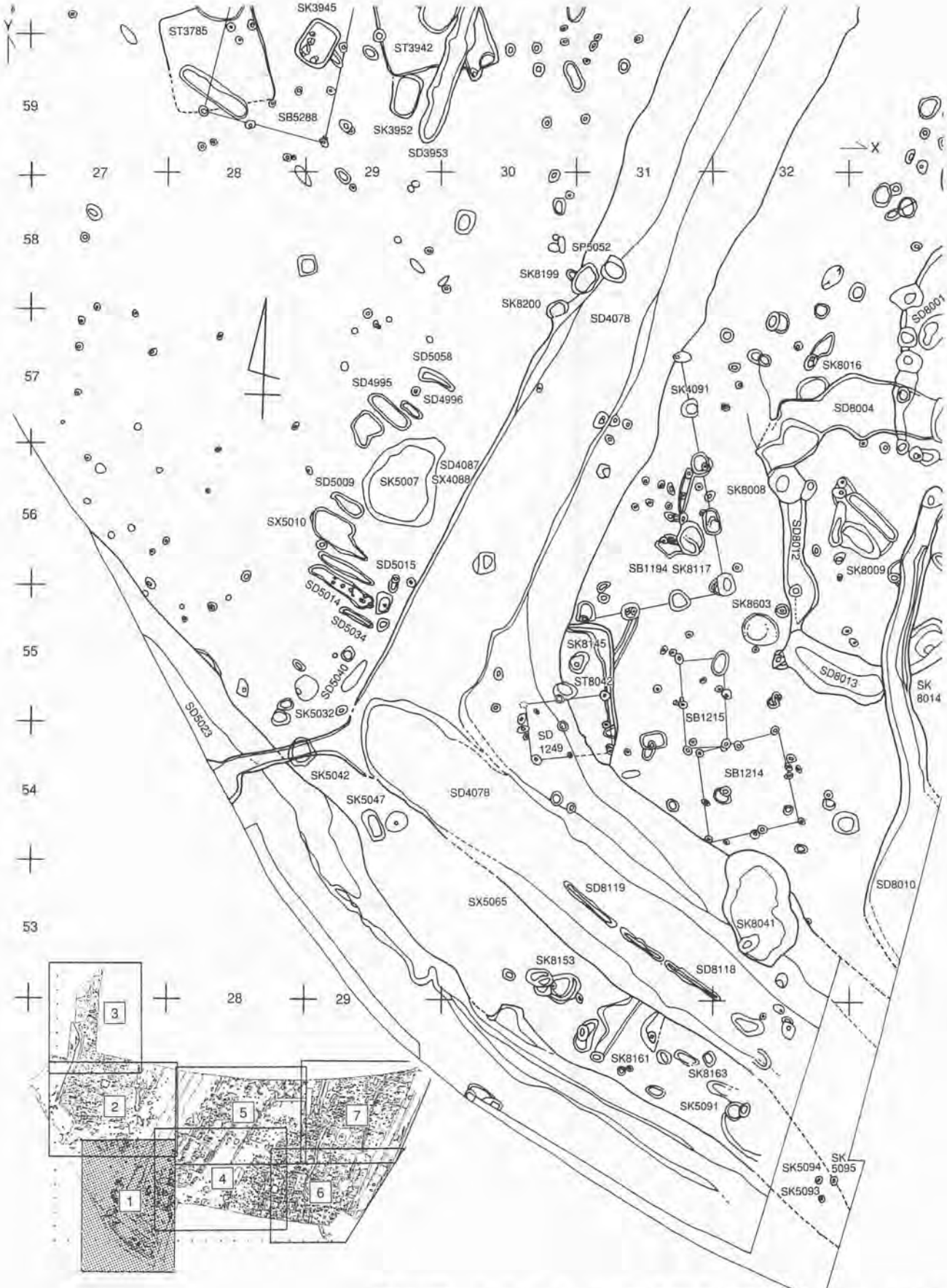
第386図　遺物分布図―近世陶磁器・砥石・硯―



第387図　遺物分布図―金属製品・鉄滓・羽口―

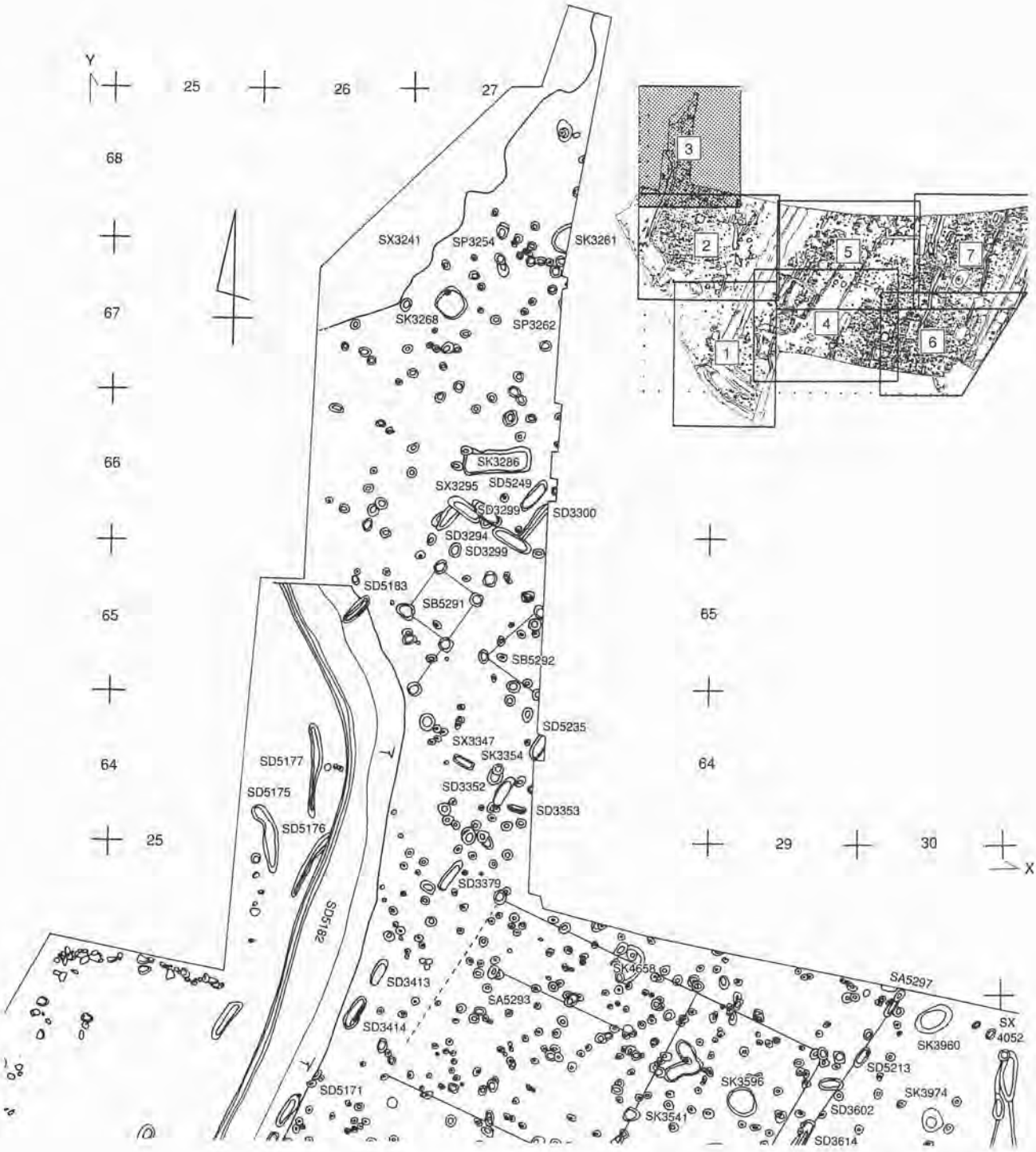


第388図　B・C・E・G・H・K調査区遺構配置図割付図



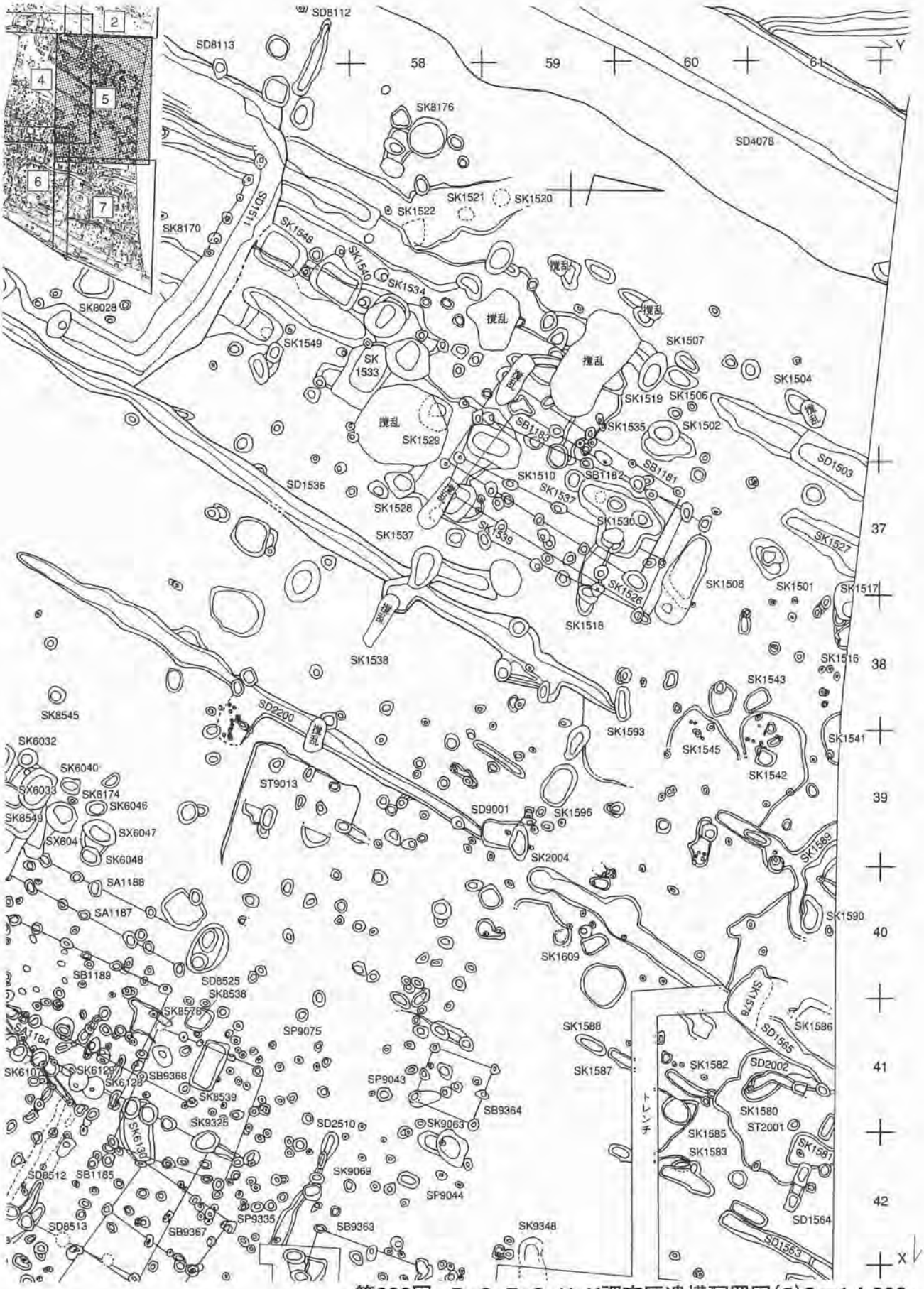
第389図　B・C・E・G・H・K調査区遺構配置図(1)S=1：300

第390図　B・C・E・G・H・K調査区遺構配置図(2)S=1：300



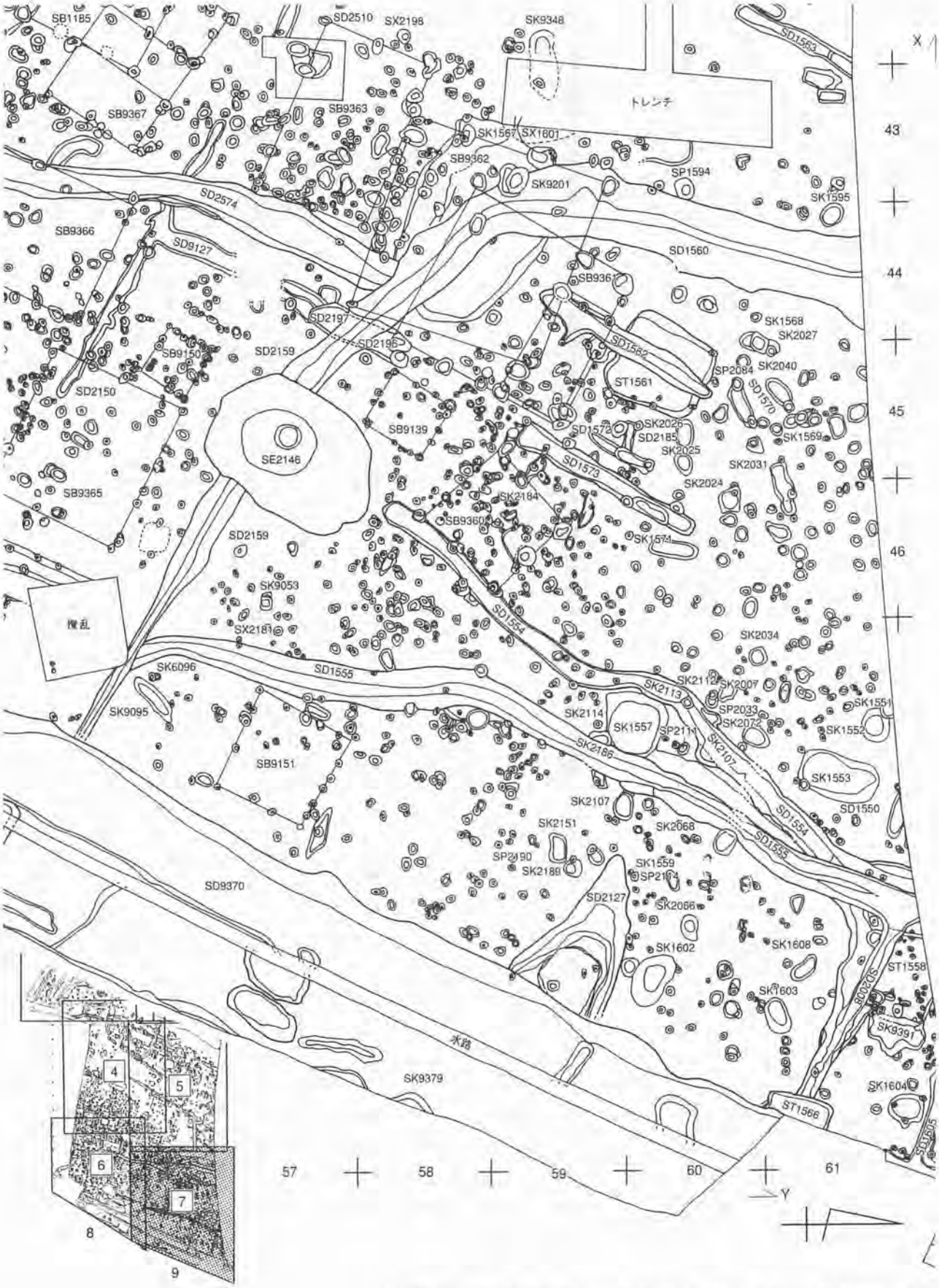
第391図　B・C・E・G・H・K調査区遺構配置図(3)S=1：300

第392図　B・C・E・G・H・K調査区遺構配置図(4)S=1：300



第393図　B・C・E・G・H・K調査区遺構配置図(5)S=1：300

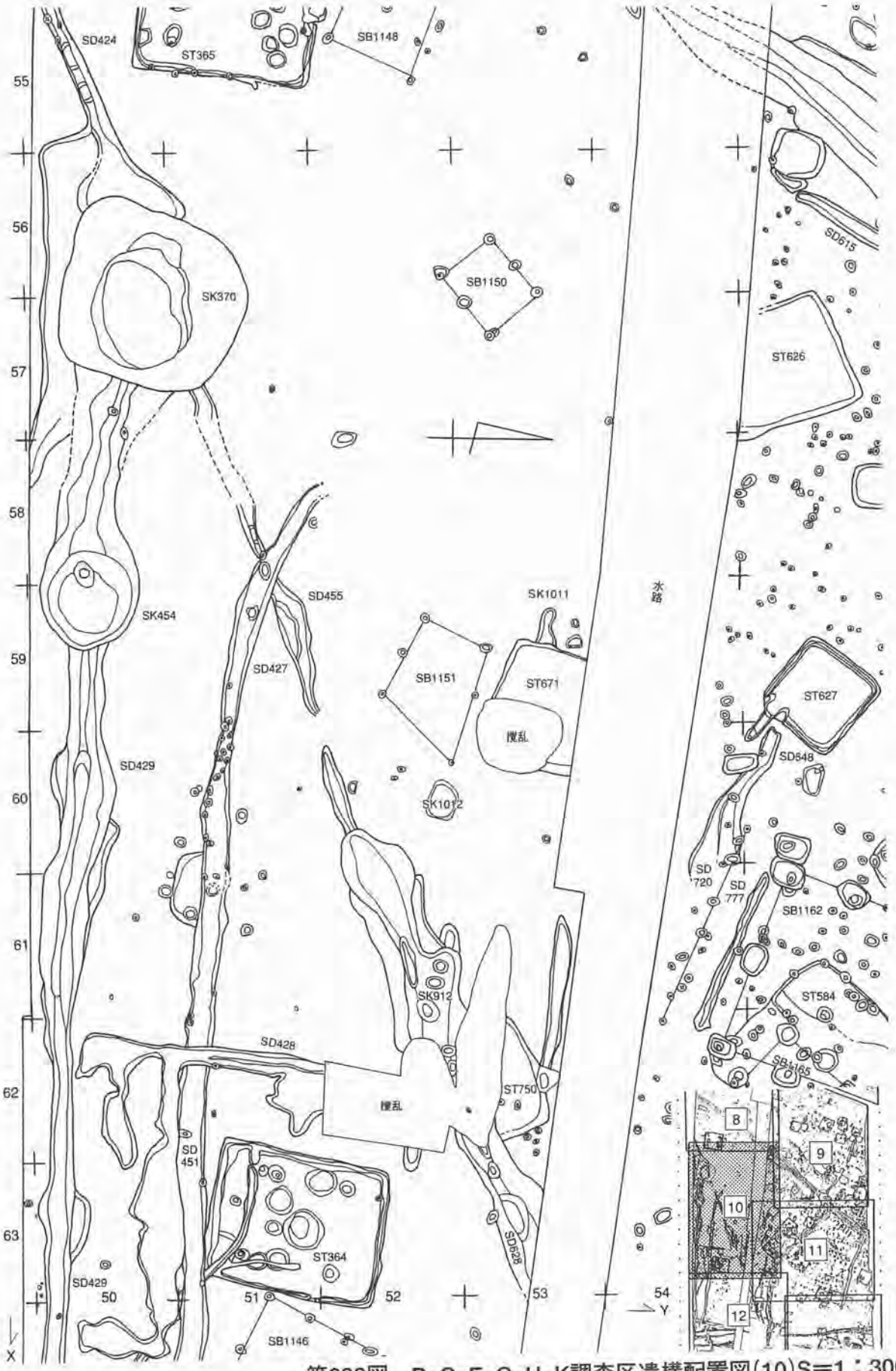
第394図　B・C・E・G・H・K調査区遺構配置図(6)S=1：300



第395図　B・C・E・G・H・K調査区遺構配置図(7)S=1：300

第396図　B・C・E・G・H・K調査区遺構配置図(8)S=1：300

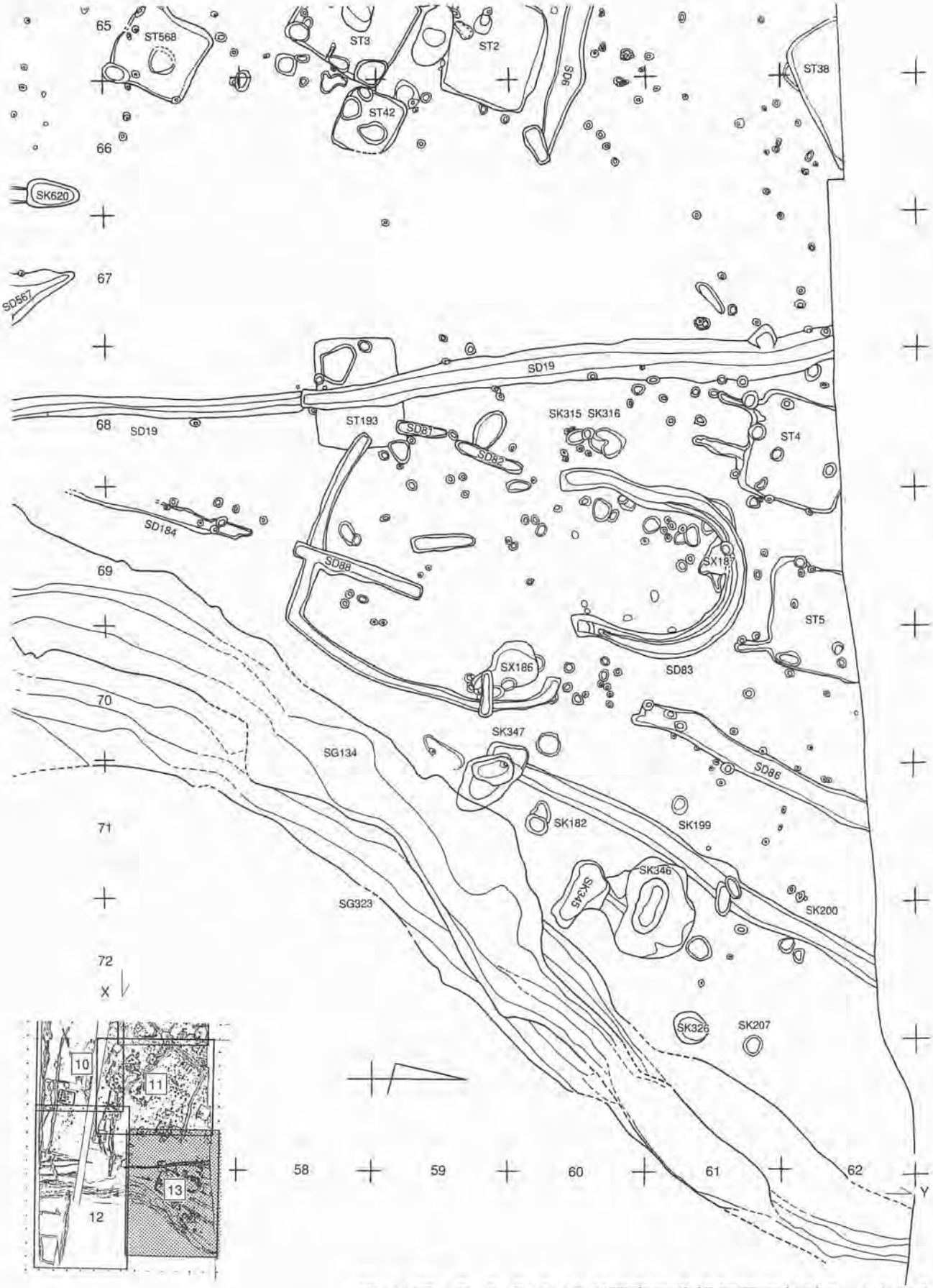
第397図　B・C・E・G・H・K調査区遺構配置図(9)S=1：300



第398図　B・C・E・G・H・K調査区遺構配置図(10)S=1：300

第399図　B・C・E・G・H・K調査区遺構配置図(11)S=1：300

第400図　B・C・E・G・H・K調査区遺構配置図(12)S=1：300



第401図　B・C・E・G・H・K調査区遺構配置図(13)S=1：300

(5)木製品(表10)

木製品は、鞘・箸・形代・板状木製品・棒状木製品・加工材がある。SD566からの出土が多い。347－6は、片側面を加工して刃状の形態を示すことから刀子の形代と考えられる。木製品容器は、出土していない。

(6)金属製品(表12)

金属製品には、仏像・刀子・釘・鉄鏃・小札・容器・古銭・鉄てい・不明金属製品等が出土している。不明金属製品は、形状で分類した。仏像348－4は、菩薩立像銅像である。磨滅しているが上半身裸形、髪を結い上げ髻、正面に三角形の宝冠を確認できる。右手を上げ左手は指を開いて下げ、足先には爪が認められない。靴装着の場合、天部像となる。目鼻だちがはっきりとして大きなつくりで、体の横幅がある。蛍光X線分析によると、材質は銅が非常に多く、他にPb・As・Fe・Si・Ca・K・Tiが少量含まれるが、亜鉛は検出されていない。刀子348－3は、鞘348－1に納められた状態で出土した。刀子柄には、止め具用の穴があり、木製柄348－2が装着されていた。仏像とともに、経塚埋納の可能性が考えられる。

(7)石製品(表11)

石製品には、石鉢・砥石・硯がある。石鉢352－5は、竪穴建物ST1920からの出土で、内面磨滅している。中世の砥石と確認できたものは、凝灰岩の中砥355－4・7、硯を転用した中砥355－13の2点のみである。硯は、グリッド出土のため時期の特定はできない資料である。355－9は、陸が細くつくり出されており良品である。

4 近世

近世の遺物は、陶器・磁器・金属製品・木製品がある。

(1)遺物の分布(第386図)

グリッドX軸75以西のほぼ全域、およびF調査区東端から出土する。特に、H調査区東側に集中が認められる。遺構では、SD1511・1166にまとまりが認められる。中世の分布状況に一部重なる。

(2)陶器(表9)

陶器には、肥前系・志野・瀬戸美濃・大堀相馬・不明がある。肥前系は、碗・皿・鉢・甕・擂鉢等、志野は鉢等、瀬戸美濃は擂鉢、大掘相馬は碗・仏飯器等、不明は擂鉢・鉢・土瓶・火鉢等の器種がある。

(3)磁器(表9)

陶器には、肥前系・瀬戸美濃・不明がある。肥前系は、碗・皿・水滴・仏飯器・香炉・徳利等、瀬戸美濃は碗、不明は碗・皿の器種がある。

(4)金属製品(表12)

金属製品は、容器・古銭等がある。蓋349－15は、外面に二重の沈線があり、つまみは細いつくりの良品である。形状から経筒の蓋の可能性が高い。SK8041出土で近世の遺物と共伴する。寛永通宝351－19が1枚出土した。

(5)木製品(表10)

木製品は、杭・板状木製品等がある。SD1166・SK1106等、近世の水田に伴う遺構からの出土で、水管理を目的とした施設の部材とみられる。

Vまとめ

1 各時代の様相

今回の調査では、縄文時代・奈良時代・平安時代・中世・近世の遺構と遺物、弥生時代・古墳時代の遺物が出土した。

縄文時代・弥生時代(第356図)

縄文時代の遺構は、調査区西端のI・J調査区と、東端F調査区で検出された。

断層崖下の低い段丘面に当たるJ調査区では、掘り方は確認できないが、焼土の広がりを持つ、竪穴建物ST4547が検出された。隣接する土坑から、沈線で区画した文様帯に山形および渦巻文を持つ深鉢が出土しており、縄文時代前期末の年代観が考えられる。ほぼ同時期に、高台の高瀬山遺跡では環状集落が営まれている。

J調査区から1段下がるI調査区は、寒河江方面からの細い旧河道の地形であるが、河川が縄文時代まで遡ることが確認された。SG3001F7では、砂層が落ち込み須恵器のもぐり込みが認められる部分を除き、粘土層がパックした状態にあり、奈良・平安時代のF1～5層とは異なる。自然木が多量に堆積し、杭が打ち込まれている。クルミ・トチ等の堅果類が多量に出土し、河川の流れが堰止められた状態にある。F7からは、文様等の確認できない縄文土器細片が出土している。SG3001F1・2層から、152－6、152－15・18等の深鉢が、破片であるがまとまった点数出土している。これらの遺物を下位層の巻き上げと判断すると、F7層は、縄文時代晩期～弥生時代と考えられる。

東側B～G・K調査区の縄文・弥生時代の遺構検出面は、奈良・平安時代の安定した検出面から約50cm下位にある。灰～褐色の粘土～粘土質シルトが基盤層で、遺構の掘り込みがある所は、基盤層が若干砂質となる。明瞭な掘り込みの認められる遺構は、SX156周辺78～82－58－62Gのみである。まとまった土器や焼土等、生活を示す痕跡は確認できない。SX163から綾絡文をもつ甕(152－5)、その周辺からは、結節縄文施文の壺(152－8)が出土しており、縄文時代晩期の所産と考えられる。また、奈良・平安時代の溝 (SD616等)から、弥生時代の所産とみられる口唇部に沈線を持つ甕(152－14)や広口の甕(152－16)が出土している。

縄文・弥生時代の三条遺跡では、高瀬山に隣接する断層崖下の低い段丘面で、縄文時代前期末の限られた期間に生活が営まれている。その後、縄文時代後期中葉になると、三条遺跡から北東に約300m離れた石田遺跡が急速に発展し、拠点的な集落となる。三条遺跡では、縄文時代晩期、弥生時代前期に、石田遺跡の南縁として、人々が行動していたことが推測される。落ち込み、ピットが多数残ることから、林のような環境が想定される。

古墳時代

遺構は、検出されていない。奈良・平安時代の遺構に流れ込んだ状態で、古墳時代の土師器が少数出土している。

高瀬山には、寒河江市指定史跡の高瀬山古墳がある。また、三条遺跡の今回の調査区に接する高瀬山遺跡１期6区では、円墳３期、方形周溝墓１基が検出された。時期は、古墳時代前期末から中期と考えられている。高瀬山遺跡１期6区に立つと、内陸盆地南半を一望することができる。三条遺跡は、その真下に位置することになるが、今回の調査では、古墳時代に関係する遺構は確認できなかった。流れ込みとみられる、古墳時代の遺物は、複合口縁を簡略化してつくり出していることから、古墳時代前期末の所産とみられる。高瀬山遺跡の古墳と時期が一致する。

奈良・平安時代(第356図)

奈良・平安時代の三条遺跡の空間は、居住域・生産域・居住域を取り囲む河川の３つに分けることができる。

居住域は、竪穴建物・掘立柱建物・溝・土坑・井戸等で構成される。奈良・平安時代の遺構は、砂礫堆の広い微高地にあたるH調査区の中央部分を除き、SG134・323の西側ほぼ全面に分布する。

溝は、SD616の45°傾くもの、SD617の30°東に傾くもの、SD19などのほぼ真北を向くものに大別でき、居住域の区画の在り方も３時期以上あったものと推定される。溝の切り合いから、30°の傾きから45°の傾きに変化したことが分かる。また、SG134・323が南半で真北に北半で30°～45°東に傾き流れていることから、河川の流路と集落の軸線や区画の在り方は、深く関わっていたと理解される。

遺物は、各遺構から出土しているが、河川からの出土量がもっとも多い。遺跡から出土した土器については先に器種分類を行ったが、無台坏の出土量が多く、器形の変化が読み取りやすいことが分かる。無台坏が一定量出土し、一括資料として扱うことができる竪穴建物の資料を集成したのが第368図である。須恵器無台坏Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの資料が各々まとまりをみせる。須恵器無台坏Ⅰbのまとまりを示すST365・27の資料は平野山窯跡群第12地点のA群・B群(財団法人山形県埋蔵文化センター1998)に類似する。須恵器無台坏Ⅱbのまとまりを示すST76の資料は、富山２遺跡の遠投窯水瓶出土竪穴建物ST38出土土器群（財団法人山形県埋蔵文化財センター1996)に類似する。無台坏Ⅱcのまとまりを示すST582・2575bは仁寿年間の木簡が出土した今塚遺跡SD355の出土資料（財団法人山形県埋蔵文化財センター1994)に類似する。無台坏Ⅲcのまとまりを示すST1558・369は大江町藤田窯跡出土資料(阿部2001)に類似する。ST365・27の資料が出土する時期をⅠa期、ST76の資料が出土する時期をⅠb期、T582・2575bの資料が出土する時期をⅡ期、ST1558・369の資料が出土する時期をⅢ期と呼称する。上記の類似例から、Ⅰa期は８世紀中葉～後半、Ⅰb期は８世紀末、Ⅱ期は９世紀中葉、Ⅲ期は９世紀後半～末と考えられる。富山2遺跡ST39出土遺物（財団法人山形県埋蔵文化財センター1996)と類似する資料も出土しており、9世紀前半の遺物の抽出は今後の課題である。

竪穴建物について出土遺物から、Ⅰa・Ⅰb・Ⅱ・Ⅲ期に分類したのが第358図である。各時期の

分布にまとまりがみられる。Ⅱ期に建物件数が増加することが分かる。各時期の建物を、面積ごとにまとめたのが第361図である。30㎡を超える大型の建物は、Ⅰa期とⅡ～Ⅲ期にみられる。建物が出現するⅠa期と建物が増加するⅡ期に画期があると理解される。また、Ⅰa期では、大型で周溝・柱穴が伴うが、柱穴・周溝のある建物は、Ⅱ期段階には消滅する。20㎡以下の小型の建物は、Ⅰb期以降に登場し、Ⅲ期に入ると竪穴建物の平面形が長方形となる。掘立柱建物との関係を理解して、変遷・画期については考察が必要であるが、重複の激しい掘立柱建物については、再考の余地を残すため、集落の具体的な変遷については今後の課題としたい。

河川は、SG134・323・516・3001・8062を登録したが、SG516は、SG323の南部分、SG8062は、SG3001の東部分と理解した。また、流路をほぼ同じとするSG134とSG323は、覆土の状況からSG323→SG134の関係が理解されるため、2条の河川とした。明治21年の地籍図(第5図)によると、高瀬山の北縁を巻いて流れてきた河川が、SG3001と重なり、その分流が、今回の調査区の南を東流し、SG134・323に到達していることが分かる。耕地整理前の段階まで、SG134・323・3001は存在しており、また、SG3001がSG134・323の上流に位置していたことが分かる。河川は、奈良・平安時代の居住域を取り囲むように流れていたことが推定される。SG3001F1・2から出土する遺物は、Ⅰa期～Ⅲ期まで混在する。一方、SG323は、Ⅰa～Ⅰb期が主体を占め、Ⅱ期の遺物が若干混入する。また、SG134は、Ⅲ期が主体で、Ⅱ期が混入する状況にある。SG323から「大伴」の文字が記された本簡(332－1)が出土した。「大伴」は淳和天皇の諱大半を避けるため弘仁14年(823)に「伴」に改められる。遊佐町大坪遺跡から「伴」の本簡が出土し、年代の上限が823年とされている(財団法人山形県埋蔵文化センター1995)。本簡は、9世紀前葉は下らないと考えられる。

水田は、SG134の覆土砂が覆うような状態で検出された。水田の時期はSG323以降で、SG134とほぼ同時期と理解される。狭い面積の検出のため情報は限られているものの、居住域東側に生産域の水田が確認され、集落基盤の一つが解明されたことは大きな成果といえる。水田には、人間と動物（牛?)の足跡が残されていた。平安時代の三条の地名から、三条遺跡周辺の条里制の研究は、既に進められている（大宮1994・山口1999)。今回検出された水田の畦畔部分の軸は、明治21年の地籍図から読み取れる水田の軸線とほぼ一致している。また、奈良・平安時代の溝SD616やそれに直行する溝の軸線が、明治段階の水路・道路と重なる部分があることが分かった（第359図)。三条遺跡は、地形が多様であり、地形に規制された、区画が設置されている可能性がある。今回の調査では、道路や水路を基にして推定された条里制の研究成果を、裏付ける資料が得られたと言える。高瀬山遺跡では、広大な面積の調査が行われ、奈良・平安時代の区画溝が明らかにされている。これらの区画溝と条里制の関係の解明が待たれる。

高瀬山の東に広がる、奈良・平安時代の集落は、8世紀中葉に出現し、9世紀末～10世紀初まで営まれ姿を消す。河川に多量の墨書土器が捨てられる空間は、居住域前面で水田耕作が盛んに展開された土地でもある。

中世

H調査区に、竪穴建物・掘立柱建物・溝・土坑で構成された生活の場がある。奈良・平安時代、近世

との重複が激しく、各遺構の年代観および掘立柱建物の認識には再考の余地がある。

H調査区における溝の区画は、最低２時期の変遷が考えられる。まず、SD1558による区画である。SD1558区画内は、さらにSD1554によって区画されている。SD1558は、SD2553と重複しており、SD2553→1558の関係を示す。SD2553による区画が存在すれば、区画される空間は３時期の変遷となる。しかし、SD2553の北側を閉じる溝が検出されておらず、SD1558南面を共通の区画施設と考え、SD1558とSD2558による区画は、同時期のものと理解したい。この区画に伴う建物としてST1920・2573・9372を上げることができる。

さらに後出するものとしてSD4078に区画される空間である。SD4078は、覆土の観察から２時期以上が想定される。上位の覆土には、近世の遺物が伴うため、近世まで改修されながら機能したとみられる。下位の覆土には、13･14世紀の所産とみられるかわらけ･瓷器系陶器･珠洲･青磁が出土している。14世紀以降から近世の年代観が考えられる。SD4078は、検出された部分を明治21年の地籍図に重ねると、SD4078の北面には短冊形の地割があたる。短冊形部分の現況は、やや窪んでおり表面観察が可能な状態である。SD4078による区画は、南北120m、東西70mを測る。市道部分では、14世紀代の瀬戸天目が出土したST9372より新しいことから、SD4078下面の年代観は、やはり14世紀以降になる。この区画に伴う建物として38～45－51～55G周辺の大型の掘立柱建物が上げられる。

東側B～G･K調査区では、溝と井戸が検出された。H調査区とは様相が異なり、中世の遺構が希薄となる。今回の調査では検出できなかったが、水田等の生産域の可能性がある。SD566から金属製品仏像弥勒菩薩立像･鞘付刀子が出土した。仏像は、12世紀末～13世紀前半の所産で、関東の出土例から、刀子と合わせて、経塚埋納の可能性がある。

遺物は、①玉縁口縁の白磁碗、②鎬蓮弁文青磁碗、③口縁部外反の無文青磁碗、④青花碗･皿の時期に大きく分けることができる。鎬蓮弁文青磁碗に共伴するかわらけ、在地産と考えられる瓷器系陶器、珠洲は一定量あるものの、他の時期は少量の出土である。遺構の変遷との対応は、①経塚が造営された時期→②SD1558区画→③～④SD4078区画と考えられる。

近世

近世の遺物が出土した遺構を、中世の遺構から抽出している。建物の軸が中世と近世はほぼ同じとみられ、建物の軸線で分類することができない。そのため、近世の遺構が中世に分類されている可能性がある。

近世の遺構は、H調査区中央、広い微高地(砂礫堆)に集中する。また、調査区東半では、近世の水田が検出された。

H調査区中央に、溝が取り囲む遺構が検出された。３時期の重複がある。形態的には、SD8004→SD8001→SD1511を想定したが、遺構間の切り合いからSD8004→SD1511→SD8001を確認した。SD1511から17世紀の肥前瓶が出土しており、それを前後する年代観が考えられる。SD1511の中央にあるSK1505から骨（分析結果人骨?)が出土しており、埋納を目的とした遺構の可能性がある。当地には、現在寒河江市七日町の祐林寺跡地との伝承がある。伝承の根拠とな

る文献資料は現在のところない。三条遺跡周辺の土地所有権は、農地改革以前、祐林寺にあり、現住職の北條氏は、当初祐林寺は三条遺跡周辺にあったものと考えられている。また、北條氏は、天文三年に作図（天正四年写すの記あり）された寒河江城図に、最初の移転地とみられる沼川付近に「祐林寺坂」の地名があることを根拠に、16世紀には祐林寺が沼川付近に移転されたと考えている。今回の調査で検出されたSD1511が構築された17世紀には、祐林寺は三条遺跡には無いことになる。昭和56年撮影の高瀬山東斜面の写真からもわかるように、H調査区北西部分に墓地がある。祐林寺本堂は、今回の調査区北側に存在する可能性がある。文献での確認が待たれる。

近世の水田は、市道部分から東に広がる。今回の調査では、SG134以東、調査前の地目が水田の範囲でのみ平面検出を行った。B・E・G・K調査区部分は、畑地造成の際に削平を受けたとみられる。奈良・平安時代に始められた三条遺跡周辺の水田耕作は、近世を経て現代まで引き継がれている。

2　遺跡の変遷

三条遺跡は、縄文時代前期は高瀬山遺跡の、後・晩期は石田遺跡の縁辺部として位置付けられる。その後、古墳時代になると高瀬山には古墳が造営され、三条遺跡は、古墳から見下ろされることになる。この時期、三条遺跡では生活の様子は伺えない。

奈良時代8世紀中葉から急に集落が姿を現し、10世紀初まで継続され突然姿を消す。それは、北西に展開する高瀬山遺跡・平野山窯跡群の継続期間に等しく、地域が計画的に発展し、地域全体に関係する理由で衰退したことが考えられる。その中で三条遺跡は、稲作が盛んに行われた水田に面して位置し、墨書土器・刻書土器が多量に出土する特色を有する。墨書土器が多量に出土する状況は、周辺の遺跡にはみられず、現在のところ三条遺跡に限られている。墨書には、「田主」や「山田」等、田に関連する文字も含まれているが、稲作と墨書土器の関連については、課題である。

10世紀後半～12世紀中は空白となる。12世紀後半古墳の周辺に経塚が造営される。三条遺跡でも関連する遺物が出土しており、経塚造営と関係した空間であったことが考えられる。

13世紀に入り、溝に区画された屋敷が営まれる。その後、区画施設の溝は規模を拡大し、近世まで機能したと考えられる。祐林寺跡の伝承が残るが、それを裏付ける遺物は出土していない。区画内には、大規模な建物・溝が廻る土抗が検出されている。所属時期・性格については検討を要するが、中世以降、継続して使われた空間であったことがわかる。

明治21年地籍図（第5図）には、高瀬山と三条遺跡の間の堰西側に道路が確認できる。中近世の区画SD4078は、西面で深く、溝の東側に土塁の存在を想定できる。SD4078は、西の街道を意識して造られた可能性が考えられる。

三条遺跡の西には、縄文時代の環状集落、古墳、西から東に流れる河川、経塚、地籍図に残る街道、そして高瀬山がある。三条遺跡に住む人々は、古くから常に西を意識して生活していたことが伺える。これは、三条遺跡各時代の人々の動線を考える上で、重要な視点と言える。

以上、遺跡の変遷を簡単にまとめたが、三条遺跡の情報引き出しは、始まったばかりである。

引用・参考文献

阿子島功1994「山形盆地西縁の洪積世末?沖積世の地形発達史と遺跡立地」『西村山地域史の研究　第12号』西村山地域史研究会

阿子島功・佐藤庄一・水戸弘美・佐竹桂一・植松暁彦1994「山形盆地西縁の洪積世末?沖積世の地形発達史と遺跡立地」『西村山地域史の研究　第12号』西村山地域史研究会

阿部酉喜夫・宇井啓・大宮富善『寒河江大江氏の歩み』

阿部明彦・水戸弘美1995「寒河江市島出土の古式土師器」『西村山地域史の研究　第13号』西村山地域史研究会

阿部明彦・水戸弘美1999「山形県の古代土器編年」『第25回古代城柵官衙遺跡検討会資料』城柵官衙遺跡検討会

阿部明彦2001「古代最上群に於ける９世紀中葉の土器様相－大江町藤田窯跡出土須恵器を通して－」『山形考古　第７巻第１号(通巻31号)』山形考古学会

荒木志伸1999「墨書土器にみえる諸痕跡について」『お茶の水史学』

宇井啓・大宮富善1996「本楯館」『山形県中世城館遺跡調査報告書　第２集(村山地域)』山形県教育委員会

大宮富善1994「第3章第4節奈良・平安時代の集落」『寒河江市史 上巻』寒河江市

小野正敏1982「15～16の染付碗,皿の分類について」『貿易陶磁研究　NO.2』日本貿易陶磁研究会

北畠教爾1994「第1節　出羽国の建置と郡郷制」『寒河江市史　上巻』寒河江市

北村優季1999「最上川中流域における古代村落の様相」『落衣長者屋敷遺跡発掘調査報告書』山形県寒河江市埋蔵文化財調査報告書第19集　寒河江市埋蔵文化財調査委員会

小林圭一・野尻侃2000「寒河江市高瀬山遺跡の水場遺構」『考古学ジャーナル　第368号』

埼玉県立博物館1993『甦る光彩　関東出土金銅仏』

齊藤主税1999「高瀬山遺跡(Ⅰ期地区)について」『山形県地域史研究　24』山形県地域史研究協議会

寒河江市教育委員会1994『寒河江市内遺跡発掘調査報告書(３)』山形県寒河江市埋蔵文化財調査報告書第11集

寒河江市教育委員会1998『寒河江市内遺跡発掘調査報告書(５)』山形県寒河江市埋蔵文化財調査報告書第15集

佐藤庄一1997「考古学からみた古代最上郡の成立と展開」『西村山地域史の研究　第１５号』西村山地域史研究会

財団法人山形県埋蔵文化財センター1994『今塚遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第７集

財団法人山形県埋蔵文化財センター1995『平成６年度　東北横断自動車道酒田線(寒河江?西川間)予備調査報告書』

財団法人山形県埋蔵文化財センター1995『大坪遺跡第２次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第23集

財団法人山形県埋蔵文化財センター1996『富山２遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第41集

財団法人山形県埋蔵文化財センター1998『平野山古窯跡群第12地点遺跡　第２次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第52集

財団法人山形県埋蔵文化財センター2000『落衣長者屋敷遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第79集

財団法人山形県埋蔵文化財センター2000『高瀬山遺跡(２期)第２・３次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第80集

高桑登1998「山形県平田町新溜窯跡出土の須恵器系中世陶器」『山形考古　第６巻第２号(通巻28号)』山形考古学会

中世土器研究会1995『概説　中世の土器・陶磁器』真陽社

永井久美男1994『中世の出土銭-出土銭の調査と分類-』兵庫埋蔵銭調査会　ぎょうせい

平川南2000『墨書土器の研究』吉川弘文館

藤澤良祐1982「古瀬戸中期様式の成立過程」『東洋陶磁　第８号』東洋陶磁学会

藤澤良祐1991『瀬戸市史陶磁史篇　四』愛知県瀬戸市

誉田慶恩・森芳三・横山昭男編纂1981『角川日本地名大辞典６山形県』角川書店

三春町教育委員会1995『田村西部工業団地関連遺跡調査報告Ⅱ　深作A遺跡　深作B遺跡　背上A遺跡』三春町文化財調査報告書第21集

水戸弘美1998「土器に墨書する意味を探る－山形県における奈良・平安時代の墨書土器出土状況集成－」『さあべい　第15号』さあべい同人会

水戸弘美1998「山形・三条遺跡」『木簡研究　第20号』木簡学会

森田勉1982「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究　NO.2』日本貿易陶磁研究会

森本朝子1997「出土遺物の分類」『博多60』福岡市埋蔵文化財調査報告書第543集

山形県教育委員会1974『埋蔵文化財包蔵地調査カード　寒河江』

山形県教育委員会1982『分布調査報告書(９)』山形県埋蔵文化財調査報告書第61集

山形県教育委員会1995『分布調査報告書(22)』山形県埋蔵文化財調査報告書第195集

山口博之1997「寒河江城出土遺物の再検討」『西村山地域史の研究　第１５号』西村山地域史研究会

山口博之1999「山形県寒河江市周辺の条里遺構」『山形県地域史研究　24』山形県地域史研究協議会

吉岡康暢1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館

横田賢次郎・森田勉1978「太宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集　4』九州歴史資料館

報告書抄録

ふりがな	さんじょういせきはっくつちょうさほうこくしょ
書　名	三条遺跡第２・３次発掘調査報告書
副書名	
巻　次	
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第93集
編著者名	髙桑弘美　佐竹桂一　植松暁彦　川田嘉信　長瀬えみ子
編集機関	財団法人山形県埋蔵文化財センター
所在地	〒999-3161　山形県上山市二丁目15番１号　ＴＥＬ023-672-5301
発行年月日	2001年10月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
さんじょういせき 三条遺跡	やまがたけんさがえし 山形県寒河江市 おおあざさがえ 大字寒河江 あざさんじょう 字三条	6206	423	38度 21分 40秒	140度 16分 36秒	２次調査 19950508 ～ 19951130 ３次調査 19960424 ～ 19961129 19970116 ～ 19970205	34,200	東北横断自動車道酒田線(寒河江～西川間)建設工事

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
集落跡	縄文 (前期・晩期)	土坑	縄文土器 弥生土器 土師器 須恵器 かわらけ 中世陶磁器 近世陶磁器 木製品 石製品 金属製品	高瀬山の東に広がる緩やかな斜面に、奈良・平安時代の集落と水田が検出された。集落を取り囲むように流れる河川からは、多量の墨書土器が出土した。 祐林寺跡の伝承の残る当地は、鎌倉時代から江戸時代の間、館が営まれていたことが分かった。 9世紀～13世紀の間に起きた地震による噴砂を検出した。 (総出土箱数:346)
	奈良・平安 (8・9世紀)	竪穴建物 掘立柱建物 井戸 溝 土坑 水田 河川		
城館跡	中世 (13～16世紀)	竪穴建物 掘立柱建物 井戸 溝		
	近世 (17～19世紀)	掘立柱建物 井戸 溝 水田		

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第93集

三条遺跡第２・３次発掘調査報告書
本文・挿図　編

2001年10月31日発行

発行　財団法人　山形県埋蔵文化財センター
〒999-3161
山形県上山市弁天二丁目15番１号
☎　023－672－5301
印刷　田宮印刷株式会社

山形県埋蔵文化財センター調査報告書　第93集

三　条　遺　跡

第2・3次発掘調査報告書

付図　遺構配置図